

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY
EDUCATION AND RESEARCH REPORT

2010

東北学院大学教育・研究業績

2005 - 2009



2010

東北学院大学教育・研究業績
2005-2009

東北学院大学

東北学院大学
平成22(2010)年2月1日

東北学院大学教育・研究業績

2005 - 2009

東北学院大学

平成22(2010)年2月1日

目 次

「東北学院大学教育・研究業績 2005－2009」の刊行にあたって	1
凡 例	3
教員一覧	5
学 長	11
文学部	
英文学科	17
キリスト教学科	60
歴史学科	83
経済学部	
経済学科	153
共生社会経済学科	217
経営学部	
経営学科	241
法学部	
法律学科	297
工学部	
機械知能工学科	353
電気情報工学科	440
電子工学科	520
環境建設工学科	638
教養学部	
人間科学科	755
言語文化学科	849
情報科学科	940
地域構想学科	981
法務研究科	
法実務専攻	1053
あとがき	

『東北学院大学教育・研究業績 2005-2009』の刊行にあたって

点検・評価委員会委員長

学務担当副学長 齋藤 誠

ここに『東北学院大学教育・研究業績 2005-2009』を刊行することができました。本業績集は、『東北学院大学教育・研究業績 2002-2006』に続くものであり、平成 19 (2007) 年以降の本学教員による教育・研究業績を掲載しています。しかし同時に、本業績集には、平成 17～18 年の教育・研究業績も再掲されています。それは、本業績集には、本学が平成 22 (2010) 年度に大学基準協会による大学認証評価を受けるにあたって提出する点検・評価報告書別冊としての役割があるため、過去 5 年分の教育・研究業績をまとめる必要があったからです。また、そのことを念頭に、前回から、書式は大学基準協会指定のものに改めております。

いうまでもなく大学の本質的機能は教育と研究にあります。したがって、大学にとって、教育・研究活動に関する自己点検・評価は最も重要なものです。そして、本学教員の教育・研究活動の基本的データベースとなる本業績集は、本学の教育・研究に関する自己点検・評価活動にとって、いわば出発点となる最も重要な情報源といえます。

また、本業績集には、教育・研究活動ばかりではなく、社会貢献をはじめとして教員の多様な活動に関する情報も含まれています。その意味では、本業績集は、教育・研究活動の範囲をこえて、本学教員の活動全般にわたる業績集という面ももっています(ただし、大学の管理運営に関する項目はありません)。

教育・研究活動をはじめとする大学教員の諸活動に関する情報を広く公開することは、それ自体、大学の社会的責任の一つと考えられます。しかし、わたしたちにとってより重要な責務は、この業績集を有効活用して大学及び各教員が自己点検・評価活動をさらに進め、そして、具体的改善につなげることであることを確認しておかなければなりません。

最後に、この業績集のための情報提供にご協力いただいた教員各位、そしてそれを編集し、刊行までご苦労された教育・研究業績集編集委員会の皆様並びに関係者に心より感謝申し上げます。

2009年12月

凡 例

1. 業績の範囲

- ・平成17(2005)年1月から平成21(2009)年12月までの5年間とする。

2. 掲載対象

- ・平成21(2009)年4月1日現在で本学に在職するすべての専任の教育職員を対象とする。

3. 掲載順序

- ・学長、文学部(英文学科、キリスト教学科、歴史学科)、経済学部(経済学科、共生社会経済学科)、経営学部(経営学科)、法学部(法律学科)、工学部(機械知能工学科、電気情報工学科、電子工学科、環境建設工学科)、教養学部(人間科学科、言語文化学科、情報科学科、地域構想学科)、法務研究科(法実務専攻)の順とし、さらに教授、准教授、講師、助教別に五十音順とした。
- ・各教員から提出された区分別に、年代の古い順から掲載した。なお、教育活動、研究活動のいずれにおいても時期が複数年にわたる場合には、活動の開始時期を基準として年月日順に記載し、学会等及び社会活動については、就任年月日順に記載した。

4. 掲載内容

- ・掲載内容は、すべて本人からの報告によるものである。
- ・大学院の授業担当の有無は、平成17(2005)年度から平成21(2009)年度までのものである。
- ・教育活動の区分は、1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)、2. 作成した教科書、教材、参考書、3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等、4. その他教育活動上特記すべき事項とした。
- ・研究活動の区分は、A. 学術書、B a. 学術誌に掲載した学術論文(審査制度あり)、B b. 学術誌に掲載した学術論文(審査制度なし)、C. Bに順ずる発表機関誌に掲載した学術論文、D. 一般著書・論文・エッセー(専門分野)、E. 一般著書・論文・エッセー(専門分野に関連する領域)、F. 書評・論評(専門分野及び専門分野に隣接する分野の著書、論文等)、G. 学会における研究発表、H. 翻訳(学術書や原典等)、I. 特許とした。
- ・著書が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合はその氏名に◎印を付した。
- ・共著(論文)の場合、該当頁数の記入にあたって、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載した。
- ・芸術分野や体育実技等の分野の教員は、著書・論文等以外の競技会、展覧会又は演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについて記載した。

教 員 一 覧

平成 21 (2009) 年 4 月 1 日現在

学長 星 宮 望

文学部

英文学科

教授

植 松 靖 夫
 遠 藤 健 一
 遠 藤 裕 一
 大 石 正 幸
 小 竹 へ ざー
 柴 田 良 孝
 遠 竹 護
 那須川 訓 也
 畠 山 悦 郎
 村野井 仁
 箭 川 修

准教授

アダムズ, K.
 阿 部 潤
 テイト, N.
 バックレイ, P.
 森 山 盛 吉
 横 内 一 雄
 吉 村 富美子
 ロング, C.

キリスト教学科

教授

北 博
 佐々木 勝 彦
 佐 藤 司 郎
 原 口 尚 彰
 マーチー, D.

准教授

出 村 みや子

村 上 み か

歴史学科

教授

榎 森 進
 楠 義 彦
 熊 谷 公 男
 香 坂 昌 紀
 佐 川 正 敏
 佐 藤 義 則
 谷 口 満 人
 辻 秀 隆 一
 平 田 伸 洋
 政 岡 嘉 美
 守 屋 脇 龍
 森 脇 昭 一
 渡 辺 昭 一

准教授

河 西 晃 祐
 櫻 井 康 人
 下 倉 涉 人
 七 海 雅 人

講師

加 藤 幸 治

経済学部

経済学科

教授

岩 本 由 輝
 小 沼 宗 一
 菊 地 登志子
 小 柴 徹 修
 駒 場 彰 彰
 関 谷 登
 高 橋 克 己

高橋秀悦
千葉昭彦
仁昌寺正一
原田善教
半田正樹
前田修也
山崎和郎

准教授

ア, W.
レイ, 司
伊鹿倉正清
大槻裕
折原洋
倉田志
白鳥圭子
谷谷祐圭
細谷謙二
舛谷徹
若生

講師

泉正樹
篠崎剛

共生社会経済学科

教授

阿部重樹
遠藤和朗
小笠原裕
越智洋三
斎藤義博
野崎明
原征明
増田周二

准教授

郭基煥
熊沢由美
佐藤康仁

経営学部

経営学科

教授

上田良光

岡田耕一郎
斎藤晋一
斎藤善一
佐々木郁子
佐藤邦廣
鈴木好和
菅山真次
高橋志朗
根市志拳
富坂和男
保村山本貴展

准教授

井上普就
折橋伸哉
松村尚彦
目代武史
谷内正文
山岡隆夫
和田正春

講師

板橋慶明
荻原丈男
松岡孝介

法学部

法律学科

教授

伊藤一義
井上義比古
斎藤和博
澤野保
塩屋利彦
陶久龍一郎
高木田紀夫
武田中輝和
長岡龍弼

林 伸太郎
准教授

新井 誠
押木 由之
小原 将照
木下 淑惠
黒田 秀治
黒野 葉子
近藤 雄大
三條 秀夫
宮川 基
横田 尚昌

講師
荒木 修
井坂 正宏
岡田 康夫
佐々木 くみ
白井 培嗣
羽田 さゆり
松浦 陽子

工学部

機械知能工学科

教授
遠藤 春男
梶川 伸哉
鹿又 武
小池 和雄
斎藤 利夫
鈴木 秀文
伊達 勝夫
鶴本 勝洋一郎
樋渡 博之
矢口 博之

准教授
魚橋 慶子
小野 憲文
加藤 陽子
熊谷 正朗
庄司 幸嗣

長島 慎二
宮下 博理
山本 英毅
電気情報工学科

教授
越後 宏
大沼 孝一
郭海 蛟
加茂 邦
塩川 孝泰
芳賀 昭
嶺岸 茂樹
宮澤 正樹

准教授
石川 和己
岩本 正敏
大場 佳文
小野 孝博
神永 正義
金 国
呉 嶋
菜上 理
薮川 信
吉川 英機

電子工学科
教授

足利 正義
淡野 照栄
伊藤 忠淳
伊女 川光
木村 敏照
嶋 敏之
原 明人
星 善元
星 宮 務
山 田 顕

准教授
加藤 和夫
志賀野 洋
志子田 有光

菅 原 文 彦
 鈴 木 仁 志
 講師
 栗 野 聡 子
 環境建設工学科
 教授
 石 川 雅 美
 石 橋 良 信
 上 原 忠 保
 遠 藤 銀 朗
 遠 藤 孝 夫
 大 塚 浩 司
 河 野 幸 夫
 飛 田 善 雄
 中 沢 正 利
 中 村 寛 治
 吉 田 望
 准教授
 李 相 勲
 郷右近 勝 夫
 菅 井 幸 仁
 武 田 三 弘
 韓 連 熙
 宮 内 啓 介
 山 口 晶
 教養学部
 人間科学科
 教授
 氏 家 重 信
 大 江 篤 志
 片 瀬 一 男
 加 藤 健 二
 久 藤 慈 利 武
 小 林 裕 三
 櫻 井 研 彰 啓
 竹 内 彰 智 則
 千 葉 智 裕 子
 堀 毛 裕 子
 前 田 明 伸

水 谷 修
 吉 田 信 彌
 准教授
 稲 垣 忠
 大 竹 恵 子
 神 林 博 史
 黒 須 憲
 佐々木 桂 二
 鈴 木 宏 哉
 仙 田 幸 子
 永 井 義 之
 松 本 洋 之
 谷田部 武 男
 八 幡 恵
 吉 村 功 太郎
 渡 辺 通 子
 言語文化学科
 教授
 秋 葉 勉
 渥 美 孝 子
 石 川 文 康
 石 田 啓
 石 塚 秀 樹
 伊 藤 春 樹
 今 井 奈 緒 子
 岩 谷 信
 菊 地 弘
 佐 伯 啓
 佐々木 哲 夫
 下 館 和 巳
 ゾンダーマン, E.
 高 橋 新 士
 戸 田 征 男
 富 田 義 昇
 成 沢 義 雄
 平 間 孝 雄
 福 地 明 子
 村 山 眞 理 子
 森 美 智 子
 吉 田 信

吉 用 宣 二
ワトソン, S.
准教授
伊 藤 常 夫
尾 谷 昌 則
岸 浩 介
金 惠 鎮
高 橋 直 彦
津 上 誠 也
塚 本 信 博 之
山 崎 冬 太
楊 世 英
渡 部 友 子
講師
ア ッ シ ュ, R.
門 間 俊 明
情報科学科
教授
相 川 利 樹
乙 藤 岳 志
上之郷 高 志
木 戸 眞 美
小 林 善 司
佐 藤 篤 信
塩 田 安 健
関 口 光 一
高 橋 彌 穂
高 塚 本 龍 男
土 橋 宏 康
中 川 清 和
野 村 信
松 澤 茂
准教授
坂 本 泰 伸
菅 原 茂 研
杉 浦 茂 樹
松 尾 行 雄

地域構想学科

教授

石 川 勲
岩 動 志乃夫
菊 地 立
佐久間 政 広
佐々木 俊 三
高 野 岳 彦
平 吹 喜 彦
松 本 秀 明
宮 城 豊 彦
柳 井 雅 也

准教授

天 野 和 彦
梅 屋 潔
金 菱 清
菅 原 真 枝
高 橋 信 二
増 子 正
松 原 悟

法務研究科

法実務専攻

教授

石 垣 茂 光
伊 東 満 彦
梅 津 昭 彦
大 窪 誠
小 野 純一郎
角 山 正
菊 地 雄 介
齋 藤 英 哲
佐 藤 英 世
田 沼 征
中 村 英
中 村 雄 一
守 屋 克 彦

准教授

遠 藤 隆 幸
富 田 真

教育・研究業績

文経経法工教法

学学学学学
学学学学学
学学学学学
学学学学学
学学学学学
学学学学学
学学学学学

部部部部部
部部部部部
部部部部部
部部部部部
部部部部部
部部部部部

学 長

所属	職名	学長	氏名	星宮 望	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要			
1 教育活動（講義）		2007年	「生体電子計測」東北学院大学工学部電気情報工学科・電子工学科4年生 (選択, 2単位)			
		2007年	「学問のすすめ」東北学院大学教養学部1年生 (選択, 2単位)			
		2008年	「生体電子計測」東北学院大学工学部電気情報工学科・電子工学科4年生 (選択, 2単位)			
		2008年	「学問のすすめ」東北学院大学教養学部1年生 (選択, 2単位)			
		2009年	「生体電子計測」東北学院大学工学部電気情報工学科・電子工学科4年生 (選択, 2単位)			
		2009年	「学問のすすめ」東北学院大学教養学部1年生 (選択, 2単位)			
3 教育活動（発表・講演等）	教養学部・榴ヶ岡高校高大一貫教育	2008年7月11日	「大学アワー」東北学院榴ヶ岡高等学校1・2年生 「虚弱児から電子工学研究者へ」			
	東京神学大学第40回教職セミナー 特別講演 [招待講演]	2009年1月14日	「麻痺した手・足の電子的制御 —創造主の技に学ぶ—」			
II 研究活動						
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba						
Analog LSI Neuron Model Inspired by Biological Excitable Membrane	共著	2005年	Systems and Computers in Japan, Vol. 36, No. 6	S. Kanoh M. Imai N. Hoshimiya	84~91頁	
Joint Angle Control by FES using a Feedback Error Learning Controller	共著	2005年	IEEE Transactions on Neural Systems & Rehabilitation Engineering, Vol. 13, No. 3	K. Kurosawa R. Futami T. Watanabe N. Hoshimiya	359~371頁	
Computer Simulation Test of Fuzzy Controller for the Cycle-to-Control of Knee Joint Movements of Swing Phase of FES Gait	共著	2005年	IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E88-D, No. 7	A. Arifin T. Watanabe N. Hoshimiya	1763~1766頁	

異なる信号入力を有する人口神経回路群の出力に対する演算処理による特徴的動作の認識法の検討	共著	2005 年	生体医工学 Vol. 43, No. 4	渡邊高志 藤原大樹 村上 肇 古瀬則夫 吉澤 誠 星宮 望	544～550 頁
圧電式ジャイロスコープを用いた下肢関節角度の簡易計測法	共著	2005 年	生体医工学 Vol. 43, No. 4	古瀬則夫 渡邊高志 星宮 望	538～543 頁
Temporal Resolution of the Impedance Locus Measurement using Digitally Constructed Current Waveform	共著	2005 年	Abstracts of the International Conference on Mechatronics and Information Technology, Chongqing, China, Session 1-4, No. 6	T. Fukumoto G. M. Emo S. Ohba R. Futami N. Hoshimiya	41 頁
交流眼電図を用いた視点移動によるメニュー選択法	共著	2009 年	電気学会論文誌C 129, 10	加納慎一郎 二見亮弘 吉信達夫 星宮 望	1822～1827 頁
A development of vision-based control command input device for FES system	共著	2009 年 9 月	生体医工学シンポジウム 2009 特集論文	H. Higa K. Mihara H. Uehara N. Hoshimiya	To appear
長さの異なる複数音からなる系列の短期記憶特性について	共著	2009 年	生体医工学 Vol. 47, No. 6	加納慎一郎 二見亮弘 吉信達夫 星宮 望	To appear
Bb 手関節 2 自由度運動のフィードバック誤差学習を用いた FES 制御に関する検討	共著	2005 年	電子情報通信学会技術研究報告 MBE2005-88	帖佐征一 渡邊高志 吉澤 誠 星宮 望	13～17 頁
機能的電気刺激 (FES) による神経・筋系制御のための随意的生体情報センシングと利用に関する研究	共著	2007 年	電子情報通信学会技術研究報告 NC2007-42. [招待講演]	星宮 望 加納慎一郎 吉信達夫	51～56 頁
脳波を用いたオンライン BCI システム構築のための汎用プラットフォーム	共著	2007 年	電子情報通信学会技術研究報告 NC2007-51.	I Putu Susila 加納慎一郎 宮本浩一郎 吉信達夫 星宮 望	99～104 頁
Effects of long-term feedback training on oscillatory EEG components modulated by motor imagery	共著	2008 年	Proceedings of the 4th International Brain-Computer Interface Workshop and Training Course 2008	S. Kanoh R. Scherer T. Yoshinobu N. Hoshimiya G. Pfurtscheller	150～155 頁

Effect of feedback training on EEG based BCI system to detect motor imagery	共著	2008年	Book of Abstracts of the Third International Symposium on Bio-and Nano-Electronics	M. Takahashi S. Kanoh R. Scherer T. Yoshinobu N. Hoshimiya G. Pfurtscheller	163～164頁
E 若者への語りかけー東北学院大学礼拝説教などを通してー	単著	2008年8月	高橋プリント		1～119頁
F 東北学院大学のキャリア支援ー就職支援そして生涯的なキャリア教育ー	単著	2007年2月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 24		4頁
2つの大学との50年以上にわたる総合定期戦	単著	2007年5月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 25		4頁
スウェーデンの運転免許証ー国民番号などー	単著	2007年10月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 26		4頁
若年時からの脳の学習能力	単著	2008年1月	キリスト教学校教育 同盟機関紙 キリスト教学校教育		1頁
指で聞く、そして人口内耳ー感覚情報工学ー	単著	2008年2月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 27		4頁
ICT時代における大学のコンピュータ利用環境	単著	2008年7月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 28		1頁
新たな医工学分野の発展を期待するー日本の先進地ー仙台	単著	2008年7月	財団法人七十七ビジネス振興財団季刊誌 七十七ビジネス情報 No. 42		2～3頁
東北開発における学都コンソーシアムの役割	単著	2008年7月	財団法人東北開発センター季刊誌 08夏季号 No. 149		1頁
創造主の技に学ぶ	単著	2008年7月	社団法人日本私立大学連盟 大学時報 No. 321		10～13頁
「東北学院資料室」第8号発刊にあたって	単著	2008年12月	学校法人 東北学院 東北学院資料室		1頁
東北学院廃校の危機ー卒業生の献身的な活躍で危機を回避ー	単著	2009年1月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 29		1～2頁
東北学院同窓会の今後の在り方を考えるー母校を応援する最大組織となるためにー	単著	2009年1月	学校法人 東北学院 同窓会報 3L 通信 Lux Mundi		2～3頁
ドイツに関するいくつかの思い出	単著	2009年1月	仙台日独協会 仙台日独協会だより GUTENTAG		3頁
「艱難には忍耐を，忍耐は練達を，練達は希望を」	単著	2009年3月	幻冬舎 社長，曰く		35頁

日本は資源がない国。人間の脳みそで頑張るしかない	単著	2009年6月	宮城の新聞		HP掲載
常識のちがいをこえて	単著	2009年7月	東北学院大学広報誌 ウーラノス Vol. 30		1頁
G 機能的電気刺激（FES）に望まれる ヒューマンインターフェース	共著	2005年	生体医工学, 第43巻 特別号	村上 肇 渡邊高志 星宮 望	209頁
動作イメージ時の脳波を用いたBCIに おけるフィードバック訓練の効果	共著	2008年	第47回日本生体医工 学会大会プログラム・論文集	加納慎一郎 高橋昌史 R. Scherer 吉信達夫 星宮 望 G. Pfurtscheller	222～223頁
Biomedical Electronic Approach to the Welfare Engineering-Functional Electrical Stimulation System for Restoration of Motor Functions-	単著	2008年5月	The Academic Consortium of Sendai-HYVITE Consortium Joint Symposium Future Trends in Wellbeing Technology and Service Abstract [国際シンポジウム基 調講演]		11～13頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(B)	2005～2007年度	研究者代表：星宮 望	「神経・筋系制御のための多元生体情報センシングに関する研究」（課題番号：No. 17300158）

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1996年～	日本生体医工学会医用生体工学研究所設立準備委員会 委員
1997年3月～	日本工学アカデミー 会員
2000年～	IEEE EMBS Distinguished Lectures Program
2003年度～2007年度	日本生体医工学会 監事
2003年1月～2007年12月	日本FES研究会 会長
2004年1月～2005年12月（1986年から延べ4期 就任）	学術審議会専門委員（科学研究費分科会）
2004年4月～2007年5月	キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区協議会 常置委員
2004年4月～2010年10月	仙台商工会議所 顧問
2004年4月～	専門図書館協議会 副会長
2004年4月～	専門図書館協議会東北地区協議会 会長
2004年4月～	みやぎ工業会 顧問

2004年4月～	東北経済倶楽部会員
2004年4月～	東北ベンチャーランド推進センター 会員
2004年4月～	東北原子力懇談会 顧問
2004年5月～	日本私立大学連盟 理事
2004年5月～2010年3月	大学基準協会 評議員
2004年6月～	日本私立大学退職金財団 評議員
2004年7月～	IDE 協会東北支部 理事
2004年7月～2009年6月	IDE 大学セミナー実行委員会 委員
2004年8月～	東北開発研究センター 評議員
2005年4月～2007年3月	日本私立大学連盟 学長会議運営委員会 委員
2005年6月～2009年5月	みやぎ産業科学振興基金 評議員
2005年～	東北工業大学外部評価委員会 委員
2005年～	日本生体医工学会 ME 研究推進委員会アドバイザー
2005年6月～	日瑞基金 理事
2006年4月～2010年3月	日本私立大学団体連合会 高等教育改革委員会 委員
2006年4月～	東北経済連合会 参与
2006年5月～	IFMBE Fellow
2006年6月～2008年6月	宮城県総合計画審議会 会長
2007年1月～	岩井久雄記念宮城奨学育英基金 運営委員
2007年4月～2010年3月	七十七ビジネス振興財団 評議員
2007年4月～2010年3月	宮城県将来ビジョン推進アドバイザー
2007年4月～	日本生体医工学会 名誉会員
2007年4月～	富県宮城推進会議メンバー
2007年4月～	河北文化事業団 評議員
2007年4月～	日本ユニセフ協会宮城支部 評議員
2007年4月～	東北学院同窓会 会長
2007年6月～2009年5月	キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区協議会 地区代表理事
2007年6月～	キリスト教学校教育同盟 常任理事
2007年6月～	キリスト教学校教育同盟維持財団 常任理事
2007年10月～	日本私立大学連盟 経営倫理委員会 委員
2008年1月～	IEEE Life Fellow

2008年2月～2009年3月	宮城県行政評価委員会 委員長
2008年4月～2010年3月	学都仙台コンソーシアム 副会長
2008年6月～2010年6月	NECトーキン科学技術振興財団 理事
2008年11月	世界食糧デー仙台大会 顧問
2008年11月～	日本建築学会大会（東北）委員会 顧問
2008年12月～2011年12月15日	東北学院同窓会役員候補者選考委員会 委員
2009年1月～	大学監査協会 理事
2009年7月～	カメイ社会教育振興財団評議員選任委員会 委員

文学部

英文学科
キリスト教学科
歴史学

所属	英文学科	職名	教授	氏名	植松 靖夫	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教員独自の「学生による授業評価」を行なう。	2005年1月～2009年12月	年に2～4回、各授業で学生の「疑問・希望」を中心にアンケートを取り、その結果を授業内容に活かすようにしている。				
	各講義で詳細な「文献一覧表」を配付した。	2007年4月～2009年12月	内容についてのコメントもつけた4～8頁の文献表を毎年新たに作成し、学生の意識向上に努めている。				
	語学の試験を細かいコメントを附して返却した。	2008年4月～2009年12月	答案の書き方からそれぞれの学生に合った勉強の仕方まで細かいコメントとアドバイスを記入して毎回定期試験を返却している。				
4	宮城県角田高等学校にて出張講義	2005年10月5日	テーマは「英語文化圏の発想」				
	東北学院大学土樋キャンパスにて九里学園高等学校の生徒に講義	2006年6月8日	テーマは「英語の意味と訳語の違い」				
	宮城広瀬高等学校にて出張講義	2006年10月11日	テーマは「英語圏の発想」				
	高校生への模擬講義を行なった。	2007年6月7日	山形県の九里学園の2年生に「英語の発想」という題で講義を行なった。				
	高校生への模擬講義を行なった。	2007年7月31日	宮城県涌谷高校の2年生に「英語と日本語の文章構成」について講義を行なった。				
	高校生への模擬講義を行なった。	2008年6月4日	宮城県柴田高校の1年生から3年生を対象に「大学で何を学ぶのか」という題で講義を行なった。				
	宮城県松島高等学校にて出張講義	2009年3月18日	テーマは「英語と日本語の発想」				
	宮城県白石工業高等学校にて出張講義	2009年6月10日	テーマは「大学で何を学ぶのか」				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	An Encyclopedia of Domestic Economy 解題	単著	2005年9月	アティーナ・プレス		1～42頁	
	ニュースクール英和辞典 第2版	共著	2009年10月	研究社	伊部 哲 他16名	1～1683頁	
Bb	福音主義とヴィクトリア時代イギリスの思潮— 賛美歌黄金時代の背景—	単著	2007年3月	東北学院大学宗教音楽研究所紀要 第11号		1～5頁	
E	研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年1月	研究社		damwit, date ほか91項目	
	研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年2月	研究社		gargled, madman ほか232項目	

研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年3月	研究社	caledonia, taker ほか 333項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年4月	研究社	nark, parsley ほか355項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年5月	研究社	hambone, lawcar ほか377項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年6月	研究社	office, badscene ほか457項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年7月	研究社	schlembo, eldo ほか414項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年8月	研究社	arley, wetarts ほか473項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年9月	研究社	cady, makeahole ほか356項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年10月	研究社	kerb, feel ほか452項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年11月	研究社	harch, jar ほか336項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2007年12月	研究社	oldig ほか 84項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年1月	研究社	tchi, seek ほか304項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年2月	研究社	barmaid, diffy ほか321項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年3月	研究社	nick, Raleigh ほか267項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年4月	研究社	case, chasing ほか197項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年5月	研究社	qwash, eyewater ほか142項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年6月	研究社	whackout, whitebrick ほか101項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年7月	研究社	vwe, giggle ほか243項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年8月	研究社	knacked, mentalist ほか221項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年9月	研究社	fineass, tea ほか215項目

研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年10月	研究社		tiswas, pellet ほか205項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年11月	研究社		ivory, libber ほか165項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2008年12月	研究社		jerry, oonu ほか256項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年1月	研究社		thumber, belago ほか234項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年2月	研究社		dig, loony ほか152項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年3月	研究社		artical, shake ほか178項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年4月	研究社		nodbed, rib ほか164項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年5月	研究社		chat, chic ほか121項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年6月	研究社		chickadee ほか187項目
研究社オンライン・ディクショナリー	単著	2009年7月	研究社		knacker ほか111項目
ニュースクール英和辞典の使い方	単著	2009年11月	研究社		1～16頁
F					
翻訳ほりだし物	単著	2008年5月	東京新聞		
H					
マイケル・ファーバー 『文学シンボル事典』	単著	2005年8月	東洋書林		1～366頁
ウンベルト・エーコ 『美の歴史』	共著	2005年11月	東洋書林	川野美也子	1～438頁
人狩り	単著	2008年4月	悠書館		1～483頁
ロバート・ハクスリー 『西洋博物学者列伝』	単著	2009年1月	悠書館		1～303頁
アルジャナン・ブラックウッド 『心霊博士ジョン・サイレンスの事件簿』	単著	2009年1月	東京創元社		1～474頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1985年4月～		東北英文学会会員			
1997年4月～		日本英文学会北海道支部会員			

所属	英文学科	職名	教授	氏名	遠藤 健一	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	サブノートのハンドアウトの作成・配布	2005年1月～2009年12月	「英米文学概説 I」及び「文学批評 I・II」において、講義の概要・資料を作成・配布している。講義内容の詳細を記録できるような空白部を設け、充実したノート作成を促している。				
	「学生による授業評価」の実施	2005年1月～2009年12月	前後期末に「学生による授業評価(文学部)要項」に従って授業評価を行う一方、自由記述欄を設け学生の意見の徴集に努めている。				
	学習内容の理解度の確認と定着の工夫	2005年1月～2009年12月	毎回の授業の冒頭に、前回講義内容の概要を提示し、新しい学習内容への接続を図る工夫をしている。				
4	東北学院大学文学部英文学科公開講義『絵画と文学の交渉』の第7講を担当	2005年12月10日	エクフラシス／ブリューゲルーオーデンの「ミュゼ・デ・ボザール」を読む				
	学都仙台サテライト・キャンパス『絵画と文学の交渉』の第7講を担当	2006年9月23日	エクフラシス／ブリューゲルーオーデンの「ミュゼ・デ・ボザール」を読む				
	神戸大学文学研究科・文学部集中講義	2007年1月15日～18日	批評言説のパラダイム変換：批評史入門				
	青森県戸山高等学校出張講義	2007年10月30日	物語の普遍性ー構造主義再発見				
	山形県久里学園高等学校出張講義	2007年12月13日	『ガリヴァー旅行記』(1726年)と日本人				
	東北学院榴ヶ岡高等学校出張講義(大学アワー)	2008年10月21日	言語・グローバリゼーション・ローカリゼーション				
	宮城県石巻西高等学校出張講義	2009年2月5日	言語・グローバリゼーション・ローカリゼーション				
	東北学院榴ヶ岡高等学校出張講義(大学アワー)	2009年7月9日	『ガリヴァー旅行記』(1726年)と日本人				
	弘前大学人文学部集中講義	2009年8月5日～8日	批評言説のパラダイム変換：20世紀批評理論の生と死				
	東北学院大学文学部英文学科公開講義『英語で小説を読む』の第4講を担当	2009年10月24日	スカース・ナラティブの語り／騙り：Ernest Hemingwayの“My Old Man”を読む				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・略 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	「一人称の視点」という陥穽ー旅のナラティブと等質物語世界的小説の内的焦点化	単著	2005年12月	『東北学院大学英語英文学研究所紀要』(32号)		29～56頁	
G	「一人称の視点」という陥穽ー旅のナラティブと等質物語世界的小説の内的焦点化	単著	2005年10月	第60回東北英文学会シンポジウム『イギリス小説を読むー誕生から現代まで』			

等質物語世界的物語の内的焦点化の諸問題	単著	2009年11月	ナラティブ・メディア研究会（東北大学）		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1999年度～2006年度		日本英文学会評議員			
2009年度～		日本英文学会理事			
2009年度～		東北英文学会会長			

所属	英文学科	職名	教授	氏名	遠藤 裕一	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年1月～2009年12月	授業の冒頭で、前回の内容を確認している。				
	授業への積極的な取り組み	2005年1月～2009年12月	テキストの批判的な読み、問題点の指摘を促している。				
	「学生による授業評価」を実施している。	2005年1月～2009年12月	学部で実施する「学生による授業評価」を行っている。				
	文学部FD研修会に参加した。	2009年8月4日	本学学生の実態調査報告を聞いた。				
4	英文学科公開講義の講師を務めた。	2006年11月25日	宮城県と本学が共同で実施する高大連携授業(会場は本学)でもある。「英語のアクセント」と題する授業を行った。				
	学都仙台サテライトキャンパス公開講座の講師を務めた。	2007年7月28日	一般市民向けに、「英語のアクセント」と題する授業を行った。				
	高校への出張講義の講師を務めた。	2008年11月21日	泉松陵高校で、「英語発音の基礎」と題する授業を行った。				
	東北学院大学オーディオ・ヴィジュアルセンターマガジンに寄稿した。	2009年3月	「勇気を持って、小さな成功体験を重ねよう」『ko・to・ma・na』vol.3				
	オープンキャンパスで、模擬授業の講師を務めた。	2009年6月27日	土樋キャンパスで、「語の構造：接頭辞 un-」と題する模擬授業を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	The Stress Assignment to <i>Johnson died</i>	単著	2005年10月	<i>English Phonetics in Education and Related Studies.</i> EPSJ Chubu Branch Special 10th Anniversary Issue. English Phonetic Society of Japan.		1～10頁	
D	『英語音声学辞典(第二版)』	共著	2005年11月	成美堂	日本英語音声学会編	295～297頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	

IV 学会等及び社会における主な活動	
1988年11月～	日本語学会会員
1996年2月～	日本英語音声学会会員(2007年4月～ 同学会副会長・東北北海道支部長)
1997年6月～	日本音韻論学会会員

所属	英文学科	職名	教授	氏名	大石 正幸	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	論理的思考方法の会得	2007年4月～		問題設定と判断材料, 論理的帰結等を常時意識させるようにした。			
	自発的学習の促進	2007年4月～		問題設定と解を自分で行わせ, 学力低下の著しい学生に理解力の涵養のため, 細かな, 丁寧な指導を行った。			
	達成感を持たせる	2007年4月～		時間を限定しないレポートを課すことで, 自分で納得するまで取り組ませるようにした。			
2	Oishi, Masayuki & Kuniya Nasukawa. Introduction to English Linguistics. Llun Press.	2005年4月		「英語学概説」用の教科書			
	Oishi & Nasukawa, Introduction to English Linguistics.	2008年4月1日		本学英文学科学生のレベルに合わせた英語学概説。基礎項目から, 言語学の思考法の紹介, 最新の視点等を網羅。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	"As Time Goes By."	共著	2006年1月	Organizing Grammar. H. Broekhuis, et al. eds. Mouton de Gruyter, Berlin and New York.	H. Haider M. Oishi S. Tonoike	171～185頁	
G	"Deconstructing PEPS: Evaluation Measure Revisited"	単著	2005年12月	Workshop for Henk van Riemsdijk, Villa De Vier Jaargetijden, Tilburg, The Netherlands.			
	"Phase Constituency"	単著	2006年5月	InterPhases (Cyprus SyntaxFest), Casteliotissa Hall, Nicosia, Cyprus.			
H	長谷川松治訳『菊と刀』校訂		2005年5月	講談社			
	チョムスキー著『自然と言語』	共訳	2008年8月	研究社出版	大石正幸 豊島孝之		
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	

IV 学会等及び社会における主な活動

日本英語学会評議員

日本言語学会会員

東北英文学会会員

GLOW 会員

所属	英文学科	職名	教授	氏名	小竹ヘザー	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	Seminar studies	2007年4月～2009年1月		Presentation and discussion of problems in intercultural communication.			
	In-Service Teacher Training Seminar	2009年8月19日～21日		Lecturer			
2	<i>Food in Tradition and Culture</i> - pub. Seibido	2006年1月20日		英語文化論系の教科書			
	Lecture notes and handouts	2007年4月～2009年1月		Intercultural Communication Theory.			
4	Interdisciplinary Communication	2006年9月30日		研究集会			
	The Individual's Contribution to Intercultural Understanding	2007年11月20日		Verano Symposium. Rome, Italy.			
	Special lecture : Intercultural Communication	2008年3月29日		Intercultural Communication. Koprivshitsa, Bulgaria.			
	東北学院大学公開講座	2008年11月15日		Intercultural Communicative Competence (Series, English and Strategies)			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1980年～		Member, Japan Association of College English Teachers					
1980年～2008年		Eiken STEP 1 st Grade Examiner					
2008年～2009年		Promotion of Friendship Relations between Koprivshitsa, Bulgaria, and Semboku, Japan					
2009年～		Promotion of ties between Tohoku Gakuin University and Sofia University, Bulgaria					

所属	英文学科	職名	教授	氏名	柴田 良孝	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習事項の定着と理解度確認	2005年4月～2008年12月	各授業の終了時に、当該授業を総括、また、授業開始時には、前回授業の総括をして、学習事項の定着を図る。各授業中、適宜質問を投げかけたり、受けたりしながら、授業を活性化するとともに、理解度を確認。試験後は、答案を返却し、正解を解説して理解度を確認。				
		2009年1月～12月	上記に加え、『初期英語』では、半期において4回の小テストを実施。定着と理解度の確認を行った。				
	「学生による授業評価」の実施	2005年4月～2009年12月	学部で実施する「学生による授業評価」を基に授業の反省をするとともに、同評価用紙に自由記述欄を設け、自由な意見を書かせ、授業に生かしている。				
	「大学要覧」に関して	2005年4月～2009年12月	大学要覧のみならず、開講時には、詳しい授業計画（出席、評価等も含め）を配布し説明している。				
	「演習」において	2005年4月～2009年12月	発表の機会を出来るだけ増やすようにするとともに、適宜質問等をして緊張感を維持する工夫をしている。2007年・2008年は冬季に合宿授業も行い、教室では得ることのできない成果をあげた。				
	大学院の授業における「集団指導」	2007年4月～2009年12月	順番により、大学院生が丁寧なレジュメを作り、発表する。それに対し複数の教員が、コメントしたり、質問したりしながら指導。このときの議論には他の大学院生も加わる。G学習の形式をとっている。				
	「中世イギリス文学」における試み	2008年前期	資料の氾濫をさけ、各自のノート作りを促すために、今回は全て板書によって授業をすすめた。単に書き写すだけでなく、自分で工夫したノート作りを試みさせたが、今後も続ける価値はありそうだ。				
	2009年前期	2008年前期と同じようにすべて板書による授業を行った。前回よりさらに、学生の授業への参加意識が高まった。試験問題も各自のノートにより解答を求めるようにした。					
4	セクシュアル・ハラスメント防止のための啓発活動を行った。	2004年4月～2009年12月	学生・教職員のための啓発講座、研修会の立案者、講師・司会などを務めた。				
		2009年4月～	セクシュアル・ハラスメント対策委員会の委員長に就いた。				
	課外活動剣道部	2005年4月～2009年12月	剣道部を指導し、東北大会優勝などをさせ、全国大会へ導き、上位進出させた。				
	第3回、第4回、第5回、第6回 東北学院大学FD研修会に参加した。	2007年11月15日 2008年7月5日 2009年7月2日・11月26日	第3回基礎学力向上など、第4回教員評価制度第5回到達目標の明確化による授業改善など第6回初年次教育の組み立てなど				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb Soteltie (subtlety) について—中世イギリス食文化の一側面—	単著	2005年9月	東北学院大学論集(英語英文学) No. 93		1～17頁
E 大学院「講義録」など	単著	2005年3月	東北学院大学英学史年報 No. 26		10～19頁
総合研究(卒業課題)を担当して	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集(2008, 第150号)		293～295頁
G 『公開講義2005 文学と絵画の交渉』の中の「チョーサーと絵画」を担当		2005年10月	東北学院大学英文学科公開講義		
『チョーサーと絵画』		2006年6月	学都仙台サテライトキャンパス(日専連ビーブ)		
『英詩とイングランドの歴史』の中の「チョーサーと歴史」を担当		2007年10月	東北学院大学英文学科公開講義		
『チョーサーと歴史』		2008年6月	学都仙台サテライトキャンパス(日専連ビーブ)		
『英語の歴史』		2009年8月	父母後援会講演(いわき市)		
『英語の歴史』		2009年8月	父母後援会講演(南相馬市)		
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
2005年1月～2005年7月	宮城県中央警察署協議会委員				
2005年1月～2005年3月 2007年3月～2008年3月	日本中世英語英文学会東支部代表幹事 同 監査				
2005年1月～2009年10月	全日本学生剣道連盟常任理事				
2006年4月～	日本英文学会東北支部(東北英文学会)評議員				

所属	英文学科	職名	教授	氏名	遠竹 護	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 講義ものでは、当日の講義内容の概略やキーワードを記した講義資料を配布して、学生の講義理解が容易になるよう心がけた。 「演習（ゼミナール）」では評価の定まった古典的作品を教材として選ぶよう心がけた。 FD 委員会主催の講演会に参加した。			2006 年 4 月～ 2006 年 4 月～	小さい活字がびっしりと並んだ講義資料は、学生にとっては利用しにくいと考え、比較的大きなポイントの活字を用い（14 ポイント）、原則として、大判（A3）の講義資料にした。 学生にとって「演習」は大学生活の中でも重要な科目であるので、教材には知名度の高い古典的名作を選んだ。 さまざまな大学における FD の取組みを学んだ。			
2 『アメリカ小説講義資料』			2000 年 4 月～	専門科目の講義の理解の補助のために数年間用いたが、最近では、講義のたびに印刷物を配布する方法に切りかえた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
G 「科学者の罪と罰：ホーソーンの『ラパチーニの娘』を読む」			単独	2009 年 10 月	東北学院大学英文学 科公開講義（於 東北 学院大学）		
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1982 年～			日本英文学会会員				
1982 年～			日本アメリカ文学会会員				

所属	英文学科	職名	教授	氏名	那須川訓也	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業内容全体の組み立てに関する工夫	2005年1月～2009年12月	学生のレベルや興味を把握し、それらを授業に反映させる目的で、独自の事前調査を初回の授業でおこなっている。				
	授業内容の理解を促進するための工夫	2005年1月～2009年12月	毎回の授業の冒頭で、復習という意味で、前回の授業の概略を必ず述べ、授業終了時にはその回のまとめをおこなっている。				
	授業の進め方、および、授業内容をよく理解させるための工夫	2005年1月～2009年12月	授業の要点をまとめたプリントや関連資料を配り、それに沿って授業をおこなっている。				
	授業内容に興味を持たせると同時に、学生の自発的な学習を促すための工夫	2005年1月～2009年12月	授業内容に興味を持たせるために、マルチメディア機器を利用している。また、それらの機器の使用方法を具体的に指導している。				
	授業内容の理解を定着させるための授業以外の時間を利用した工夫	2006年11月～2009年12月	授業時間とは別に時間を設け、音声・音響解析装置を使いながら、学生個人にきめ細かな指導をしている。				
2	Oishi, Masayuki & Kuniya Nasukawa. <i>Introduction to English Linguistics</i> . Llan Press.	2005年	「英語学概説」用の教科書。				
4	「大学院英文学専攻課程協議会 第39回研究発表会」におけるコメンテーター	2005年11月26日	立教大学で開催された「大学院英文学専攻課程協議会 第39回大会」に、研究発表に対するコメンテーターとして参加した。				
	大学集中出張講義	2006年4月28日	宮城県泉館山高等学校の2年生を対象に「音声の仕組み」と題する講義をおこなった。				
	平成18(2006)年度東北学院大学文学部・教職課程センター共催「現職教員研修セミナー」	2006年12月2日	「現職教員研修セミナー」の英語講座において講師を務め、「英語音声の仕組み」と題する講演をおこなった。				
	大学集中出張講義	2007年4月26日	仙台市仙台高等学校の2年生を対象に「英語の音声に潜む規則性」と題する講義をおこなった。				
	大学集中出張講義	2007年9月13日	福島県立双葉高等学校の2年生を対象に「英語の音声に潜む規則性」と題する講義をおこなった。				
	大学集中出張講義	2007年11月13日	福島県立白河旭高等学校の2年生を対象に「英語の音声に潜む規則性」と題する講義をおこなった。				
	九州大学集中講義	2008年7月8日～11日	九州大学文学部・人文科学府において「言語学・応用言語学演習VI」および「言語基礎論特論I」の講義をおこなった。				
	東北学院大学「全学オープンキャンパス2008」模擬授業	2008年8月2日	「全学オープンキャンパス2008」において講師を務め、「英語の音声と規則」と題する講義をおこなった。				

「平成20年度 東北学院大学 文学部 英文学科 公開講座：英語とストラテジー」における講師	2008年11月20日	東北学院大学 文学部 英文学科公開講座において講師を務め、「英語音声の特徴」と題する講演をおこなった。
「平成21年度 教員免許状更新講習」における講師	2009年8月19日～21日	教員免許状更新講習における「A-4 選択領域 英語教師に求められる専門的知識および技能においてワークショップ（英語音声の分析と指導）」の講師を務めた。
「平成21年度 第62回宮城県高等学校英語弁論大会」における審査員	2009年9月16日	「平成21年度 第62回宮城県高等学校英語弁論大会」において審査員を務めた。
集中出張講義	2009年12月5日	宮城県宮城野高等学校で1,2年生を対象に年に二回開講している「土曜ゼミナール」において講師を務め、「英語らしい発音」と題する講演をおこなった。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 認可・統率音韻論	単著	2005年1月	『音韻理論ハンドブック』, 英宝社		199～213頁
日本語の動詞語幹の語彙表示と動詞屈折におけるあり継ぎ結合	単著	2005年2月	『現代形態論の潮流』, くろしお出版		239～258頁
<i>A unified approach to nasality and voicing</i>	単著	2005年5月	Mouton de Gruyter, Berlin and New York		189頁
The representation of laryngeal-source contrasts in Japanese	単著	2005年12月	Jeroen van de Weijer, Tetsuo Nishihara & Kensuke Nanjo (eds), <i>Voicing in Japanese</i> . Mouton de Gruyter, Berlin and New York		79～99頁
<i>Strength Relations in Phonology</i>	共編	2009年6月	Mouton de Gruyter, Berlin and New York	◎K. Nasukawa P. Backley	400頁
Headship as melodic strength	共著	2009年6月	Kuniya Nasukawa & Phillip Backley (eds), <i>Strength Relations in Phonology</i> . Mouton de Gruyter, Berlin and New York	P. Backley ◎K. Nasukawa	47～77頁
Ba Melodic complexity in infant language development	単著	2005年6月	In Maria Tzakosta, Claartje Levelt & Jeroen van de Weijer (eds). <i>Developmental paths in phonological acquisition. Special issue of Leiden Papers in Linguistics</i> 2.1, ULCL, Leiden University		53～70頁

Dependency relations in Element Theory: markedness and complexity	共著	2005年6月	In Nancy Chongo Kula & Jeroen van de Weijer (eds). <i>Proceedings of the Government Phonology Workshop. Special issue of Leiden Papers in Linguistics 2.4</i> , ULCL, Leiden University	©K. Nasukawa P. Backley	77~93頁
Affrication as a performance device	共著	2008年3月	Phonological Studies 11	©K. Nasukawa P. Backley	35~46頁
Representing labials and velars: a single 'dark' element	共著	2009年3月	Phonological Studies 12	P. Backley ©K. Nasukawa	3~10頁
Bb Consonantal representations in Element Theory : markedness and complexity	共著	2005年2月	<i>A minimalist view of components in generative grammar</i> , Vol. 1, Tohoku Gakuin University. 平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告 課題番号 16520254	©K. Nasukawa P. Backley	117~136頁
Laryngeal-source categories in English : a typological view	共著	2006年2月	<i>A minimalist view of components in generative grammar</i> , Vol. 2, Tohoku Gakuin University. 平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告 課題番号 16520254	P. Backley ©K. Nasukawa	51~74頁
Phonological strength: melody-prosody interaction	共著	2007年2月	<i>A minimalist view of components in generative grammar</i> , vol. 3, Tohoku Gakuin University. 平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告 課題番号 16520254	P. Backley ©K. Nasukawa	1~22頁
Place-dependent VOT in L2 acquisition	単著	2009年3月	Phonetically-based instruction for improving language comprehension and production, Tohoku Gakuin University. 平成18-20年度教育・学習方法等改善支援経費研究実績報告書		11~20頁

G	Laryngeal-source categories in English: a typological view	共著	2005年6月	The First International Conference on the Linguistics of Contemporary English. The University of Edinburgh, Scotland, UK	P. Backley ©K. Nasukawa
	The phonological representation of nasality	単著	2005年6月	Conference on Manner Alternations in Phonology, the Zentrum für Allgemeine Sprachwissenschaft, Berlin, Germany	
	The phonology of voicing categories: a comparative study	共著	2005年11月	第131回日本語学会大会ワークショップ Voicing categories, 広島大学	©那須川訓也 P. Backley
	Prosody-melody interaction determines directionality of assimilation	単著	2006年5月	The Fourth North American Phonology Conference, Concordia University, Montreal, Canada	
	Headship as melodic strength	共著	2006年9月	Workshop : Strength Relations in Phonology, Restrictive Phonology Research Group, Tohoku Gakuin University, Sendai, Japan	P. Backley ©K. Nasukawa
	Nasal demorification and proper licensing in Cilungu	単著	2006年11月	第133回日本語学会大会, 札幌学院大学	
	Relational properties in phonology: precedence and dependency	単著	2007年1月	CUNY Phonology Forum 2007: Conference on Precedence Relations, CUNY Graduate Center, New York, USA	
	Contour segments as discordant stops	共著	2007年5月	15th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK	©K. Nasukawa P. Backley
	English affricates as discordant stops	共著	2007年7月	Second International Conference on the Linguistics of Contemporary English, Toulouse, France	©K. Nasukawa P. Backley

Affrication as a performance device	共著	2007年8月	Phonology Forum 2007, Sapporo Gakuin University	©K. Nasukawa P. Backley
Pre-NC vowels and proper government in Cilungu	単著	2007年10月	International Conference, Bantu Languages: Analysis, Description and Theory, Göteborg, Sweden	
The syllabification of syllabic nasals	単著	2008年1月	CUNY Phonology Forum 2008: Conference on the Syllable, CUNY Graduate Center, New York, USA	
Features as speech signal patterns	共著	2008年5月	16th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK	P. Backley ©K. Nasukawa
Representing labials and velars : a single dark element	共著	2008年8月	Phonology Forum 2008, Kanazawa	P. Backley ©K. Nasukawa
The phonological representation of syllabic nasals	単著	2008年9月	LAGB Meeting 2008, Essex University, Colchester, UK	
Place-dependent VOT in L2 acquisition	単著	2008年10月	SLRF 2008, University of Hawai'i at Mānoa, USA	
Effects of L2 English input on Japanese VOT production in children	共著	2008年12月	Conference on Bilingual Acquisition in Early Childhood, The Chinese University of Hong Kong, China	K. Nasukawa et al.
The foot: a unified entity for both metrical and segmental phenomena	共著	2009年1月	CUNY Phonology Forum 2009: Conference on the Foot, CUNY Graduate Center, New York, USA	©K. Nasukawa P. Backley
Changes in VOT values in classroom-based L2 instruction	共著	2009年3月	Georgetown University Round Table(GURT) 2009, Georgetown University, Washington DC, USA	K. Nasukawa et al.
Phonological primes as speech signal patterns	共著	2009年6月	Congreso Internacional Phonetics and Phonology in Iberia (PaPI) 2009, Las Palmas de Gran Canaria, Spain	©K. Nasukawa P. Backley

Consonant-vowel unity in Element Theory	共著	2009年8月	Phonology Forum 2009, Kobe	P. Backley ©K. Nasukawa
A disparity between lexical and non-lexical representations in Japanese	単著	2009年9月	LAGB Meeting 2009: The Fiftieth Anniversary Golden Jubilee Meeting, University of Edinburgh, UK	
Effects of L2 input quantity on L2 pronunciation	共著	2009年10月	The 1st International Conference on Foreign Language Learning and Teaching (FLLT 2009), Bangkok, Thailand	K. Nasukawa et al.
Counting Wugs in L2 English: comprehension and production of the plural morpheme in early immersion English language education	共著	2009年10月	The 1st International Conference on Foreign Language Learning and Teaching (FLLT 2009), Bangkok, Thailand	K. Nasukawa et al.

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手研究(B)	2004～2006年度	個別	極小論に基づく新たな音韻表示を構築する研究
科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	2004～2006年度	共同・研究分担者	音韻部門における極小化に関する統合的研究
教育・学習方法等改善支援経費	2006～2008年度	共同・研究代表者	文理解と文産出の向上を図るための音声分析の導入
独立法人科学技術振興機構・脳科学と教育 タイプII	2006～2009年度	共同・研究協力者	言語の発達・脳の成長・言語教育に関する統合的研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007～2010年度	共同・研究代表者	最小論に基づく音韻部門での表示と普遍的原理の研究
科学研究費補助金基盤研究(B)	2009～2011年度	共同・研究分担者	敏感期以降における日本人英語学習者の、冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1993年～	Linguistic Association of Great Britain (英国言語学会) 会員
1993年～	日本言語学会会員
1993年～	東北英文学会 (日本英文学会東北支部) 会員
1997年～	日本音韻論学会会員

1998 年～	Generative Linguistics in the Old World (GLOW) 会員
2006 年 9 月 5～6 日	Restrictive Phonology Research Group, Workshop: Strength Relations in Phonology (東北学院大学) 企画・準備・開催
2008 年 10 月～	Congreso Internacional Phonetics and Phonology in Iberia (PaPI) 科学評議委員
2009 年 4 月～	日本音韻論学会理事

所属	英文学科	職名	教授	氏名	島山 悦郎	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	補助資料作成と補助文献の活用		2005年4月～	やや難解と思われる議論や概念の導入に際し、学生自身の力で考えてもらうため、議論の前提となる補助的文献を紹介・解説した資料を作成し、それをういて間接的に理解を促す。			
	授業の要約プリント作成と参考資料（含 視覚教材）の活用		2005年4月～	とりわけ難解と思われる問題については要約プリントを作成する。また、隣接学問分野の成果なども含めた参考資料をプリント配付する。必要に応じ、OHCを利用した授業も行っている。			
	演習・講読科目におけるレポート（内容要約またはオリジナルな見解）提出とそれに基づく議論の徹底		2005年4月～	学生の理解を促すため、なるべく多くのレポートを提出させ、またそれを基に議論をさせる。			
4	英文学科公開講義講師		2005年11月19日				
	サテライトキャンパス講師		2006年6月24日				
	学部オープンキャンパス模擬授業		2009年6月27日				
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
G	「絵」の絵／「詩」の詩—ルネサンス期抒情詩における作者の痕跡			2005年11月	東北学院大学英文学科公開講義2005（「文学と絵画の交渉」）		
	同上			2006年6月	学都仙台サテライトキャンパス市民公開講座（文学と絵画の交渉）		
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1976年4月～			東北英文学会会員				
1976年4月～			十七世紀英文学会会員				
1979年4月～			日本英文学会会員，同学会大学代表（2007年4月～）				

所属	英文学科	職名	教授	氏名	村野井 仁	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	英語科教育法における授業分析と模擬授業の実施	2000年4月～2009年12月	英語教員養成のための科目である「教科教育研究（英語）Ⅰ・Ⅱ」においてVTRによる授業分析および学生同士の模擬授業と相互評価を実施。2008年からは教科教育研究Ⅱにおいて返却された提出課題をポートフォリオとしてまとめるよう指導し、評価に利用している。				
	オフィス・アワーの活用	2005年4月～2009年12月	週2回オフィス・アワーを設け、学生の質問に答えている。				
2	配布資料の作成	2007年4月～2009年12月	すべての科目において、補助資料を作成し、配布している。				
3	仙台市教育委員会・東北学院大学連携小学校 外国語ボランティア活動サポート委員会 コーディネータを務めた。	2002年4月～2009年12月	派遣学生の研修、活動の運営を行っている。				
	小学校外国語活動についての講演	2006年11月11日	福島工業高等専門学校英語科公開講座にて「生きる力を育てるための英語教育—小学校における外国語活動—」と題した講演を行った。				
		2008年5月14日	仙台市立南光台小学校において「小学校英語活動の効果と進め方」と題する講演を行った。				
4	中高英語教員研修会の講師を務めた。	2005年～2009年12月	2005.7.11 宮城県教育研修センター, 2005.10.7 福島県高教研英語部会, 2005.11.11 山梨県中学校英語研究会, 2006.7.31 山形県教育研修センター, 2006.7.27 岩手県中学校英語指導者講習会, 2006.7.28 福島県双葉郡中教研研修会, 2006.11.17 いわき市中教研研修会, 2007.7.30 山形県教委教育センター英語教員研修, 2008.3.30 英語授業研究会関東支部大会, 2006.12.8・2007.12.1・2008.12.6 東北学院大学現職教員研修セミナー, 2008.8.27 鹿児島市教育委員会英語教育講座, 2008.9.4・2009.9.10 山形県教育センター英語ステップアップセミナー, 2009.2.23 岩手県不來方高校英語科研修会, 2009.6.9 福島県高教研県北部会, 2009.6.14 英語授業研究会関西支部大会, 2009.7.18 聖学院大学小学校英語教師養成講座, 2009.8.6 語学教育研究所夏季講習会, 2009.10.23 宮城県中・高等学校英語教育研究会, 2009.11.6 福島県高教研会津方部研究会などで英語教育に関する講演を行った。				
	サテライト・キャンパス公開講座の講師を務めた。	2005年8月27日	学都仙台サテライトキャンパス公開講座において「小学校外国語活動の意義」と題した講演を行った。				

高校での出張講義	2006年2月～2008年12月	2006年2月14日福島県只見高等学校, 2007年2月14日仙台東高校(SELHi事業), 2007年10月16日佐沼高校, 2008年1月15日仙台高校(SELHi事業), 2008年10月10日仙台高校(SELHi事業), 2009年11月19日山形県高島高校で出張講義を行った。
学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座	2007年7月28日	「英語コミュニケーション能力の育て方」と題する講演を行った。
日本第二言語習得学会第8回夏季セミナーワークショップ講師	2008年9月1日～3日	「第二言語習得におけるインプットとアウトプットの役割」という題で3日間のワークショップを行った。
教員免許更新講習の講師を務めた	2009年7月30日	岩手県教育委員会主催教員免許更新講習の講師を務めた。
	2009年8月19日	東北学院大学教員免許更新講習講師を務めた。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・略名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』	単著	2006年4月	大修館書店		1～214頁
<i>Practice in a second language: Perspectives from applied linguistics and cognitive psychology</i>	共著(第2章 Output Practice in the L2 classroom 担当)	2007年	Cambridge University Press	DeKeyser, R. (Ed.) H. Muranoi	51～84頁
『英語教育用語辞典改訂版』	共著	2009年5月	大修館書店	白畑知彦 富田祐一 村野井仁 若林茂則	約200項目
Ba アウトプット活動としての自律要約法が日本人英語学習者の英語運用能力に与える影響	単著	2006年2月	東北学院大学オーディオ・ヴィジュアルセンター紀要第10号		1～16頁
Focus on Form through Guided Summarizing and EFL Learners' Interlanguage Development	単著	2007年3月	『東北学院大学英语英文学研究所紀要』第33号		15～59頁
Bb 第二言語習得の認知プロセスに働きかける外国語指導技術—フォーカス・オン・フォーム研究の視点から	単著	2006年1月	上智大学言語学会会報第20号		107～126頁
第二言語習得研究の現在とこれからの英語教育に与える示唆	単著	2007年3月	『英語展望』114号		62～67頁

C	日本人英語学習者の文法発達－テンス・アスペクトー	単著	2008年3月	平成16-19年度科学研究費補助金基盤研究A(第二言語習得研究を基盤とする小,中,高,大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究) 成果報告書		156~165頁
	異文化間交流を基盤としたフォーカス・オン・フォームが英語運用能力に及ぼす影響	単著	2008年3月	平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究C(異文化間交流を基盤としたフォーカス・オン・フォームが英語運用能力に及ぼす影響) 成果報告書		1~96頁
	SELHi 実態調査	共著	2008年3月	平成16-19年度科学研究費補助金基盤研究A(第二言語習得研究を基盤とする小,中,高,大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究) 成果報告書	小池生夫 椎名紀久子 緑川日出子 若林茂則 村野井仁	484~495頁
D	フォーカス・オン・フォームが英語運用能力伸長に与える効果についての実証的研究	単著	2005年3月	平成15・16年度日本学術振興会科学研究費補助金研究(基盤研究C2 15520367) 成果報告書		1~104頁
	英語教師をめざす人のための辞書活用ガイド	単著	2006年3月	大修館書店『英語教育』2006年3月号		18~20頁
	SELHi 実態調査の中間報告・中高一貫教育に関する実態調査	共著	2006年6月	平成16~19年度日本学術振興会科学研究費補助金研究(基盤研究A162020 10) 中間報告書	小池生夫 椎名紀久子 緑川日出子 村野井仁 若林茂則	5~129頁
	SELHi の実態調査	共著	2006年8月	大修館書店『英語教育』2006年8月別冊	小池生夫 椎名紀久子 緑川日出子 村野井仁 若林茂則	64~68頁
	インプットとアウトプットをつなぐ教科書中心の授業－教室 SLA 研究からの示唆	単著	2009年2月	大修館書店『英語教育』2009年2月号		31~33頁
F	海外新刊書紹介 70 文法力を育てる指導 <i>Teaching Language: From Grammar to Gramaring</i> (D.Larsen-Freeman)	単著	2005年1月	大修館書店『英語教育』2005年1月号(53巻11号)		85頁
	海外新刊書紹介 74 言語の使用場面と働きを重視した授業に役立つ英語表現集 <i>English for Social Interaction: Social Expressions</i> (B.Kirkpatrick)	単著	2005年5月	大修館書店『英語教育』2005年5月号(54巻2号)		93頁

海外新刊書紹介 80 第二言語教育・学習研究の集大成 <i>Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning</i> (E. Hinkel)	単著	2005年11月	大修館書店『英語教育』2005年11月号(54巻9号)	88頁
海外新刊書紹介 85 英語教師の専門知識とは何か <i>The TKT Course</i> (M. Spratt, et al.)	単著	2006年4月	大修館書店『英語教育』2006年4月号(55巻1号)	98頁
海外新刊書紹介 91 話しことばを重視した新しい英文法書 <i>Cambridge Grammar of English</i> (R. Carter & M. McCarthy)	単著	2006年10月	大修館書店『英語教育』2006年10月号(55巻8号)	94頁
海外新刊書紹介 97 スピーキングのメカニズムはどこまで解明されているか <i>Speech production and second language acquisition</i> (J. Kormos, 2006)	単著	2007年4月	『英語教育』56巻1号	89頁
海外新刊書紹介 103 改訂された外国語教育の必読書 <i>Principles of language learning & teaching(5th ed.)</i> . (H. D. Brown, 2007)	単著	2007年10月	『英語教育』56巻7号	89頁
海外新刊書紹介 109 読むこと、書くことの力 <i>Teach with your heart: Lessons I learned from the Freedom Writers</i> (E. Gruwell, 2008)	単著	2008年4月	『英語教育』57巻1号	97頁
海外新刊書紹介 115 世界が直面する問題と英語教育 <i>50 facts that should change the world 2.0</i> (J. Williams, 2007)	単著	2008年10月	『英語教育』57巻7号	90頁
海外新刊書紹介 121 対話はどのようにに第二言語習得を促すのか <i>Conversational Interaction in SLA</i> (A. Mackey, 2007)	単著	2009年4月	『英語教育』58巻1号	89頁
海外新刊書紹介 127 英語を書くための総合的参考書 <i>The Longman Writer's Companion (4th ed.)</i> (C. Anson 他)	単著	2009年10月	『英語教育』58巻7号	89頁
G				
第二言語習得の認知プロセスに働きかける外国語指導技術—フォーカス・オン・フォーム研究の視点から	個別	2005年8月	上智大学言語学会第20回記念大会	
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの実践と成果に関する実態調査	共同研究	2005年9月	第44回大学英語教育学会(JACET)全国大会	緑川日出子 椎名紀久子 村野井仁 若林茂則
英語習得の熟達度測定指標開発についての考察—文法力を測るテスト—	共同研究	2006年9月	第45回大学英語教育学会(JACET)全国大会	白畑知彦 村野井仁 若林茂則
第二言語習得の認知プロセスを促す英語指導	個別	2007年10月	LET 関東支部 2007年度研究大会	

インプットからアウトプットへつながる英語指導と第二言語習得の認知プロセス	個別	2008年6月	東北英語教育学会第27回岩手研究大会		
グローバル時代の英語教育システムの改革に向けてー小池科研の基盤研究からーSELHi 研究班の調査報告	共同研究	2008年9月	第47回大学英語教育学会全国大会	小池生夫 椎名紀久子 緑川日出子 若林茂則 村野井仁	
インプットからアウトプットにつながる英語授業の有効性ー第二言語習得の認知プロセスの観点からー	個別	2009年8月	第35回全国英語教育学会鳥取研究大会(課題研究フォーラム)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(A)	2004年～2007年度	共同・研究分担者	第二言語習得研究を基盤とする小, 中, 高, 大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2005年～2007年度	個別・研究代表者	異文化間交流を基盤としたフォーカス・オン・フォーラムが英語運用能力に及ぼす影響
科学研究費補助金基盤研究(B)	2008～2011年度	共同・研究代表者	日本人英語学習者の文法能力発達段階の解明および文法指導に関する第二言語習得研究
科学研究費補助金基盤研究(A)	2008～2011年度	共同・研究分担者	小中高大の一貫する英語コミュニケーション能力の到達基準策定とその検証

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1987年～	大学英語教育学会会員(1996～2003年度東北支部幹事)
1988年～	財団法人語学教育研究所会員
1992年～	米国応用言語学会会員
2001年～	文部科学省検定教科書中学英語 <i>New Horizon English Course</i> (東京書籍) 編集委員
2002年～	日本第二言語習得学会(J-SLA)・運営委員
2003年～	アジア英語教育学会(Asia TEFL) 会員・紀要編集委員(2003-2007)
2003年4月から2006年3月まで	宮城県教育委員会学力向上プロジェクト委員
2003年4月から2006年3月まで	宮城県仙台東高等学校 Super English Language High School (SELHi) 運営指導委員
2006年6月～2008年3月	文部科学省 SELHi 企画評価会議協力者
2006年7月～2009年3月	宮城県泉高等学校 SELHi 運営指導委員
2007年4月～2009年3月	岩手県立不来方高等学校 SELHi 運営指導委員

2007年4月～2009年3月

仙台市立仙台高等学校 SELHi 運営指導委員

所属	英文学科	職名	教授	氏名	筋川 修	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業に学生を引きつけるための工夫	2002年4月～2009年12月		〈演習・講読〉担当者に詳細な、場合によっては、身近な問題に関わる質問を行うことで自ら考える時間を与えている。			
	授業全体の構想における工夫	2005年4月～2009年12月		大学院の演習において複数の教員が担当し、様々な視点からのアドバイスをを行っている。			
	授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫	2005年4月～2009年12月		〈演習・講読〉翻訳の授業においてコンピュータ演習室を活用し、課題の提示からレポート提出までを行っている。			
	授業全体の構想における工夫	2008年9月～2009年12月		〈講義〉講義内容に沿った詳細なプリントを作成している。			
3	平成17年度東北学院大学地区後援会釜石地区公開講座「英詩研究とは？－Pattern Poemsを手掛かりとして」	2005年9月2日		文学部英文学科における研究対象のひとつとその実践方法の一例を講じた。			
	平成18年度東北学院大学地区後援会弘前地区公開講座「芸術の社会的意義：イギリス詩を手掛かりに」	2006年9月1日		文学部英文学科における研究対象のひとつとその実践方法の一例を講じた。			
	平成19年度東北学院大学地区後援会青森地区における公開講座「芸術の社会的意義：イギリス詩を手掛かりに」	2007年9月1日		本学文学部英文学科における研究対象のひとつとその実践方法の一例を講じた。			
	平成20年度東北学院大学地区後援会函館地区における公開講座「英語力って何だろう？」	2008年8月29日		本学文学部英文学科学生を含め、英語学習に関わる全般的な誤解について報告した。			
4	オープン・キャンパスにおける模擬授業の講師を務めた。	2007年7月19日		秋田市での出前オープン・キャンパスにおいて、高校生に対して「視覚的想像力を喚起してイギリス詩を鑑賞する」と題する授業を行った。			
	オープン・キャンパスにおける模擬授業の講師を務めた。	2007年8月4日		全学オープン・キャンパスにおいて、高校生に対して「言葉で描く4コマ漫画～イギリス詩の一側面～」と題する授業を行った。			
	開放講座の講師を務めた。	2007年10月19日		本学のキリスト教文化研究所が主催する開放講座（会場は本学）において、主に社会人受講者に対して、「John Miltonの生涯と作品」と題する講義を行った。			
	高大連携授業の講師を務めた。	2007年11月10日		宮城県と本学が共同で実施する高大連携授業（会場は本学）において、英文学科が担当する公開講義「イングランド詩と英国の歴史」（全5回）の一環として、「自文化中心主義が生んだ奇妙な果実－マイケル・ドレイTONの場合」と題する講義を行った。			

大学院英文学専攻課程協議会研究発表会におけるアドバイザー	2007年11月13日	大学院英文学専攻課程協議会第41回研究発表会(会場は明治大学)においてイギリス演劇分野のアドバイザーを務めた。
サテライト・キャンパスの講師を務めた。	2008年6月21日	学都仙台コンソーシアムのサテライト・キャンパス(仙台市内会場)において、英文学科が担当する公開講座「イングランド詩と英国の歴史」(全4回)の一環として、主に社会人受講者に対して、「自文化中心主義が生んだ奇妙な果実ーマイケル・ドレイトンの場合」と題する講義を行った。
高校への出前授業の講師を務めた。	2008年7月2日	宮城県利府高等学校の2年生に対して、「文学と歴史の交渉ーイギリス詩と芸術史ー詩(ソネット)／建築(バンケット・ハウス)／細密画(ミニアチュア)」と題する授業を行った。
科研費研究課題に関する意見交換および資料収集の機会に講師を務めた。	2008年8月22日	吉原ゆかり氏(筑波大学准教授)の科研費研究課題「16～18世紀英国における蒐集文化」に関わる研究会において、大学院生を対象に講演を行った。
大学院英文学専攻課程協議会研究発表会におけるアドバイザー	2008年11月29日	大学院英文学専攻課程協議会第42回研究発表会(会場は青山学院大学)においてイギリス詩分野のアドバイザーを務めた。
高校への出前授業の講師を務めた。	2009年2月12日	東北学院高校の文学部系大学への進学を決めた3年生に対して、「文学部は〈読む〉のが仕事」と題する講義を行い、生徒の大学入学前準備を構想する高校側に協力した。
高校生を対象とする大学模擬授業の講師を務めた。	2009年4月24日	仙台市立仙台高等学校から来学した3年生に対して、「英詩の愉しみーついでに英語力向上のヒントもー」と題する講義を行い、進路指導の一端を担った。
オープン・キャンパスにおける模擬授業の講師を務めた。	2009年8月1日	全学オープン・キャンパスにおいて、高校生に対して「視覚イメージを強化しようー詩歌研究からのアドバイスー」と題する授業を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 〈偶像崇拜〉ーミルトンにおける〈根源的な悪〉	単著	2006年1月	『東北学院大学英語英文学研究所紀要』第32号		57～97頁
G 小さきもの〈の／という〉美学ーソネットと細密画		2005年11月	東北学院大学英文学科『公開講座2005』		
『ミルトン伝』を読むー「公平な批評の役目」とは?		2008年5月	日本ジョンソン協会第41回大会シンポジウム「サミュエル・ジョンソンの『詩人伝』を読む」		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1983年4月～		東北英文学会（日本英文学会東北支部）	
1984年4月～		日本英文学会	
1990年4月～		十七世紀英文学会	
1990年4月～		日本ミルトン・センター（2008年4月「日本ミルトン協会」に改称）	
1998年4月～2008年3月		日本ミルトン・センター委員	
2002年4月～2004年3月		東北英文学会大会準備委員	
2003年4月～		日本ジョンソン協会	
2003年5月～2005年4月		十七世紀英文学会本部事務局長	
2004年4月～		シェイクスピア協会	
2006年4月～		東北英文学会評議員	
2008年4月～		日本ミルトン協会企画委員	
2008年5月～		日本英文学会大会準備委員	
2009年5月～（2010年5月）		日本英文学会大会準備副委員長	

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	アダムズ, K.	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 CRITICAL THINKING TRAINING ‘Strategies to Help You Learn English’ ‘Inner Speech and L2 Development’			2006年6月～ 2007年12月11日 2008年10月25日	DISCUSSION HAND-OUTS Super English High School Lecture. Sponsored by the Ministry of Education and Science. Sendai High School. Tohoku Gakuin University Community Lecture Series. Tohoku Gakuin University			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
G ‘Speak and Write: Assessing Spoken English’ ‘An Investigation of Manner Adverbs’ ‘MINISTRY OF EDUCATION AND SCIENCE CERTIFICATION TRAINING COURSE INSTRUCTOR FOR JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL ENGLISH TEACHER’ ‘HOW DO YOU LIKE TO LEARN’			2009年8月 2009年8月 2009年8月 2009年11月	ASIA TEFL CONFERENCE, BANGKOK, THAILAND ASIA TEFL CONFERENCE, BANGKOK, THAILAND TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY SEIRYO CHU TO KYOIKU HIGH SCHOOL, SENDAI SPECIAL LECTURE			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	阿部 潤	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	授業理解の促進		2007年4月～2009年12月	授業の要点をまとめたプリントを配り、それに沿って授業を進める。また、理解の助けのために、授業中練習問題を解かしている。			
2	『問題を通して学ぶ生成文法』（ひつじ書房）		2008年3月	本書では、データの説明というよりは理論の説明に重点が置かれ、多くの既存の解説書のように、単に生成文法理論で使われているデータや概念を網羅的に解説するのではなく、すべての項目が密接に関係し合い、全体で1つの有機的な理論体系を成している。			
4	高校への出前授業の講師を務めた。		2007年5月26日	宮城野高校の2年生に対して、「ことばの構造」と題する授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。		2007年11月30日	泉松陵高校の2年生に対して、「ことばの構造」と題する授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。		2009年10月3日	尚志高校の2年生に対して、「ことばの構造」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
D	An Economy Condition on Scrambling	単著	2005年2月	平成16年度科研費報告書		1～65頁	
	Licensing Conditions in Ellipsis	単著	2006年2月	平成17年度科研費報告書		1～49頁	
	ミニマリズムにおけるパラメターの位置づけ	単著	2007年	平成18年度科学研究費報告書		23～48頁	
	Optionality in Word Order : A Case Study of a Japanese Sign Language	単著	2007年	平成18年度科学研究費報告書		49～78頁	
	問題を通して学ぶ生成文法	単著	2008年	ひつじ書房			
	Embedded Sluicing in Japanese	単著	2008年	平成20年度科学研究費報告書『文の語用的機能と統語論：日本語の主文現象からの提言』（研究代表者：長谷川信子，神田外語大学大学院）		121～174頁	
	Identification of Null Arguments in Japanese	単著	2009年	<i>The Dynamics of the Language Faculty</i> (くろしお出版)		135～162頁	

On ATB-Movement and Parasitic Gaps in Japanese	共著	2009 年	<i>Proceedings of the 11th Seoul International Conference of Generative Grammar</i> (Hunkuk Publishing Co.)	中尾千鶴 阿部 潤	1~15 頁
E 深層構造はどうなったのか	単著	2008 年	月刊言語 11 月号		28~33 頁
G The EPP and Subject Extraction	単著	2009 年 11 月	日本英語学会第 27 大会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C) (2)	2004~2006 年度	共同・研究代表者	生成文法の極小理論に基づいた文法の形式部門の統合的研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007~2008 年度	共同	極小論に基づく音韻部門での表示と普遍原理の研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1986 年~	日本英語学会会員
1986 年~	日本英文学会会員
2004 年 10 月~2007 年 9 月	日本英語学会学術誌 <i>English Linguistics</i> 編集委員

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	テイト, N.	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	Lecture Format			1989年9月～2008年12月	Blackboard Information Hand-outs, Textbooks		
	Student-Centered Activities English Language Classes			1989年9月～2008年12月	Pair-Work, Individual Work, Audio Cassette Tapes		
2	Lecture Notes			1989年9月～2008年12月	Textbook, Video Monitor Film, Documentary		
4	TGU International Center American Studies Group			1992年～	Lecture Series Spring/Fall American Studies Group		
	Eiken STEP Examiner			2002年～	First Grade Examiner		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba	Wasted Lives and Lives Lost in F. Scott Fitzgerald's <i>The Great Gatsby</i>	単著		2007年3月	東北学院大学英語英文学研究所 紀要 第33号		
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1996年1月					Thailand TESOL International Conference Lecture: "Basic Classroom Techniques for Teaching /l/&r/Pronunciation to Asian Students"		
2009年7月7日					Introduction to Western Drama Lecture Theater Arts: Live Theater, Film, Television; Rifu High School, Miyagi-ken		

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	バックレイ, P.	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 英語で進められる授業内容の理解を促進させるための工夫			2006年4月～12月 2008年4月～12月		授業内容の要点をまとめたプリント及び関連資料を配布		
3 平成20年度 現職教員 研修セミナー (東北学院大学)			2008年12月6日		英語の発音教育		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)		発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A <i>Strength Relations in Phonology</i>		共著	2009年6月		Mouton de Gruyter, Berlin and New York	K. Nasukawa ◎P. Backley	400頁
Headship as melodic strength		共著	2009年6月		In K. Nasukawa & P. Backley (eds.), <i>Strength Relations in Phonology</i> , Mouton de Gruyter, Berlin and New York	◎P. Backley K. Nasukawa	47～77頁
Ba Dependency relations in Element Theory : markedness and complexity		共著	2005年6月		In N. Kula & J. van de Weijer (eds.), <i>Proceedings of the Government Phonology Workshop. Special issue of Leiden Papers in Linguistics 2.4</i> , ULCL, Leiden University	◎P. Backley K. Nasukawa	77～93頁
Negative input for grammatical errors: effects after a lag of twelve weeks.		共著	2005年12月		In <i>Journal of Child Language</i> , 32.3.	◎P. Backley M. Saxton C. Gallaway	643～672頁
Affrication as a performance device		共著	2008年3月		<i>Phonological Studies</i> 11	K. Nasukawa ◎P. Backley	35～46頁
Element theory: the structure of English vowels		単著	2009年2月		平成20年度科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)研究成果報告。課題番号18520390		83頁
Representing labials and velars: a single dark element		共著	2009年3月		<i>Phonological Studies</i> 12	◎P. Backley K. Nasukawa	3～10頁

Bb Consonantal representations in Element Theory : markedness and complexity	共著	2005年2月	A minimalist view of components in generative grammar, vol. 1, Tohoku Gakuin University. 平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告. 課題番号 16520254	©P. Backley K. Nasukawa	117~136頁
Laryngeal-source categories in English: a typological view	共著	2006年2月	A minimalist view of components in generative grammar, vol. 2, Tohoku Gakuin University. 平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告. 課題番号 16520254	©P. Backley K. Nasukawa	51~74頁
Phonological strength: melody-prosody interaction	共著	2007年2月	A minimalist view of components in generative grammar, vol. 3, Tohoku Gakuin University. 平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告. 課題番号 16520254	©P. Backley K. Nasukawa	1~22頁
G Laryngeal-source categories in English: a typological view	共著	2005年6月	The First International Conference on the Linguistics of Contemporary English. University of Edinburgh, UK.	©P. Backley K. Nasukawa	
The phonology of voicing categories: a comparative study	共著	2005年11月	第131回日本言語学会大会ワークショップ Voicing categories 広島大学	©那須川訓也 P. Backley	
Headship as melodic strength	共著	2006年9月	Workshop: Strength Relations in Phonology. Restrictive Phonology Research Group, Tohoku Gakuin University, Sendai, Japan	©K. Nasukawa P. Backley	
Contour segments as discordant stops	共著	2007年5月	15th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK.	K. Nasukawa ©P. Backley	

English affricates as discordant stops	共著	2007年7月	Second International Conference on the Linguistics of Contemporary English, Toulouse, France	K. Nasukawa ©P. Backley
Affrication as a performance device	共著	2007年8月	Phonology Forum 2007, Sapporo Gakuin University	K. Nasukawa ©P. Backley
Features as speech signal patterns	共著	2008年5月	16th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK.	©P. Backley K. Nasukawa
Representing labials and velars: a single dark element	共著	2008年8月	Phonology Forum 2008, Kanazawa	©P. Backley K. Nasukawa
The foot: a unified entity for both metrical and segmental phenomena	共著	2009年1月	CUNY Phonology Forum 2009: conference on the Foot, CUNY Graduate Center, New York, USA	K. Nasukawa ©P. Backley
Phonological primes as speech signal patterns	共著	2009年6月	Congreso International Phonetics and Phonology in Iberia (PaPI) 2009, Las Palmas de Gran Canaria, Spain	K. Nasukawa ©P. Backley
Consonant-vowel unity in Element Theory	共著	2009年8月	Phonology Forum 2007, Kobe	©P. Backley K. Nasukawa

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C) (2)	2004～2006年度	共同・研究分担者	音韻部門における極小化に関する統合的研究
科学研究費補助金基盤研究(C) (一般)	2006～2008年度	個別	生成能力に厳しい制限を課す音韻表示の開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年9月5～6日	Restrictive Phonology Research Group, Workshop: Strength Relations in Phonology (東北学院大学) 企画・準備・開催
-------------	---

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	森山 盛吉	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	合宿を通して、19世紀の作家, N. Hawthorne の劇場空間創造の構築を見る。		2008年8月28～30日	短編小説を脚本化し、エクラシスの延長上に19 世紀小説の持つ劇的空間創造の容易さを学生の 演技を手がかりに確認しつつ、作家の作品創造 の構造を試論する。			
3	「夏季留学訪問地と周辺地域の歴史」講演		2008年5月1日	アメリカ研究講座			
4	アメリカ研究夏期講座担当		2008年7月28日～8月27日				
	アメリカ研究夏期講座報告書		2008年10月15日	東北学院時報			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
				日本アメリカ文学会 会員 日本児童文学会 会員 日本ナサニエル・ホーソン学会 会員			

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	横内 一雄	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義科目におけるプレゼンテーション指導	2006年4月～2009年12月		授業前半で英文記事の発表を一人ずつさせ、プレゼンテーションの仕方を指導している。			
	演習科目における議論の活用	2006年4月～2009年12月		指定テキストに関する学生一人一人の意見を土台に議論を展開するように工夫している。			
	語学科目における授業を飽きさせないための工夫	2006年4月～12月 2008年4月～2008年12月		テキスト読解だけでは途中で疲れがくるので、童謡の朗唱など、身体を使った実践を活用している。			
3	「それぞれの印象主義ーウルフ, ジョイス, マンスフィールドの場合ー」	2005年11月26日		平成17年度東北学院大学文学部英文学科公開講義「文学と絵画の交渉」第5回			
	「それぞれの印象主義ーウルフ, ジョイス, マンスフィールドの場合ー」	2006年6月24日		平成18年度学都仙台サテライトキャンパス「文学と絵画の交渉」第5回			
	現代への黙示録 — アーノルドからハーディへ	2007年11月24日		平成19年度東北学院大学文学部英文学科公開講義「英詩とイングランドの歴史」第5回			
	18世紀イングランドの「戦後」文学 — スペイン継承戦争の余波を読む	2008年7月5日		平成20年度学都仙台サテライトキャンパス「英詩とイングランドの歴史」第4回			
	ファミリー・ロマンスとしてのミステリーー Doyle「青いガーネット」を読む	2009年10月3日		平成21年度東北学院大学文学部英文学科公開講義「英語で短編小説を読むー英米文学への招待」第1回			
4	大学院英文学専攻課程協議会第40回研究発表会アドバイザー	2006年11月25日		研究発表のアドバイザーをした。			
	大学院英文学専攻課程協議会第42回研究発表会アドバイザー	2008年11月23日		研究発表のアドバイザーをした。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	父殺しの儀式の祝祭的反復ー『フィネガンズ・ウェイク』の「フェスティー・キング」のセクションー	単著	2005年3月	東北学院大学英語英文学研究所紀要 第31号		27～55頁	
	「自我の上へ亡命して」ー『フィネガンズ・ウェイク』第1部第7章におけるシエムのメランコリックな幼年期ー	単著	2005年12月	英文学研究 第82巻		31～44頁	
	“The Sorrows of Sexton” :The Seduction Story in <i>Finnegans Wake</i> II1	単著	2006年11月	<i>Albion</i> 第52巻		1～20頁	
	ぼっちゃり『ユリシーズ』ー肉体の詩学ー	単著	2009年3月	東北学院大学英語英文学研究所紀要 第34号		1～25頁	

マリガンのヘレニズム考—『ユリシーズ』第1挿話における文化の政治学	単著	2009年10月	<i>Albion</i> 55	43～58頁
Bb Lotus-Letter-Latin Eaters — 『ユリシーズ』第5挿話を読み返す—	単著	2005年9月	東北学院大学論集第93巻	19～38頁
E 食いちぎられたペニス — 「ライストリュゴネス族」の神話論理	単著	2008年6月	<i>Joycean Japan</i> 19	32～34頁
F Patrick O'Neill, <i>Polyglot Joyce:Fiction of Translation</i>	単著	2006年6月	<i>Joycean Japan</i> 17	88～89頁
G 「悪魔／セックスの哀しみ」— 『フィネガンズ・ウェイク』第2部第1章の誘惑物語	単独	2006年5月	日本英文学会第78回大会	
食いちぎられたペニス — 「ライストリュゴネス族」の神話論理	単独	2007年6月	仙台英文学談話会第99回例会	
食いちぎられたペニス — 「ライストリュゴネス族」の神話論理	単独	2007年6月	日本ジェイムズ・ジョイス協会第19回大会	
「キャンディー家の衝突牡牛」とは何か	単独	2009年6月	日本ジェイムズ・ジョイス協会第21回大会	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2009年4月～	日本英文学会東北支部事務局長
----------	----------------

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	吉村富美子	大学院の授業担当の有無	無		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要						
1	講義内容を応用するための学生によるプロジェクト実施<英文学科演習Ⅰ～Ⅳ, 基礎演習, 視聴覚メディア論>	2005年～2008年度	学生たちにプロジェクトを実施させ、講義内容を応用に移させる工夫をしている。						
	講義内容をまとめたものや練習問題のハンドアウトの配布<原典講読Ⅲ・Ⅳ>	2005年～2008年度	講義内容をまとめたものや練習問題のハンドアウトを配り、要点理解の確認をしている。また授業中はできるだけ学生が活動するようなアクティビティーを取り入れている。						
	個別指導の実施<エッセイ・ライティングⅢ・Ⅳ>	2005年～2008年度	全体指導に加えて、学生一人一人に書いた英文にコメントを書いたり間違いを指摘したりという個別指導をしている。						
	教員独自の「学生による授業評価」を実施している。<エッセイ・ライティングⅢ・Ⅳ, 英文学科演習Ⅰ～Ⅳ>	2008年～2009年度	学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業の効果を測定するために教員自身が考案したアンケートを最後の授業で行なっている。						
	2	情報リテラシー演習	2002年3月～2005年3月	前任校の「情報リテラシー演習」という授業で使うテキストを14名で作成し、私は「第3章レポートの書き方」を担当した。					
		3	東北学院大学英語英文学研究所定例公開講演会における講演「英語の読む力を書く力につなげるにはどうすればいいのか。」	2006年6月14日	私が行った言語習得における実験研究の結果を「読み書きの関係についての研究」の中に位置づけ、英語の読解力を書く力につなげる方法について講演を行った。				
			平成19年度現職教員（英語）研修セミナーにおける英語講座「英文ライティングの認知的社会的研究と教育」	2007年12月1日	英文ライティングの認知的社会的研究について紹介し、それをどのように教育に応用するかについて提案を行なった。				
	平成20年度東北学院大学文学部英文学科公開講義「英文リーディングのストラテジー」	2008年11月8日	英文リーディング・プロセスを紹介し、それぞれのプロセスで使える効果的なリーディング・ストラテジーを提案した。						
	4	資格取得のための指導。教員採用試験対策講座Bコース（専門教養）の講師	2005年9月～12月, 2006年9月～10月, 2007年1月28, 29日, 2008年1月28, 29日, 2009年1月28, 29日	教職課程センター主催の教員採用試験対策講座（英語）における講師を2005年は6回, 2006年～2009年は2回ずつ務めた。					
		小学校外国語ボランティアのサポート委員	2005～2009年	小学校ボランティアのサポート委員として学生の指導にあたった。					
せんだい・みやぎオータムセミナー2008における講義「デザイン・アンド・ドリフト」		2008年10月13日	キャリアについて考えるための講義を担当した。						

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A <i>Freedom of Information in a Post 9-11 World</i>	共著	2005年	Baywood Publishing Company, Inc.	C. H. Sides (Ed.)	91～114頁
Ba Does manipulating foreknowledge of output tasks lead to differences in reading behaviour, text comprehension, and noticing of language form?	単著	2006年	<i>Language Teaching Research</i> 10, 4		419～434頁
Searching for reading instruction methods to promote the development of EFL writing ability.	単著	2009年	<i>Journal of Institute for Research in English Language and Literature</i> 34		43～65頁
Effects of connecting reading and writing and a checklist to guide the reading process on EFL learners' learning about English writing.	単著	2009年	<i>Social and Behavioral Sciences</i> 1(1)		1871～1883頁
G Effects of manipulating foreknowledge of output tasks on language processing	単著	2005年7月	The 14th World Congress of Applied Linguistics		
Effects of connecting reading and writing and a checklist to guide the reading process on EFL learners' learning about English writing.	単著	2009年2月	World Conference on Educational Sciences		
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007年～2009年	個別	書く力に転移する英文の読み方の研究		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1995年～	大学英語教育学会(JACET)会員, 2006年度は東北支部副幹事, 2007年度は東北支部財務係				
1997～2009年	The Society for Text and Discourse 会員				
2009年～	National Council of Teaching of English 会員				

所属	英文学科	職名	准教授	氏名	ロング, C.	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	学生との交流		2005年～現在	秋の野球大会, 夏と春のゼミ合宿, などの行事を通して学生との交流及び相互理解を深めるように努めた。			
	留学生に対する講義		2006年～現在	留学生に毎年10回の「日本文化」という講座を担当し, 留学生の日本に対する理解を深めることに努めた。			
	留学生と日本人学生との間での合同研究プロジェクト		2006年～現在	英語による異文化間コミュニケーションを調べるためのアメリカ及びドイツからの留学生と日本人学生との間での談話分析を行い, 両者との間での交流及び相互理解に努めた。			
	幼稚園英語活動サークル		2008年～現在	多賀城にある東北学院幼稚園との連携で, サークル長として「幼稚園英語活動サークル」を設立し, 年間10回程度学生と幼稚園を訪問し, 英語を通して, 学生及び児童たちの相互理解に努めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
E	学生のグローバル化への適応	単著	2009年	『Ko・to・ma・na』(東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンターマガジン), 3		39項	
G	日本人の外国人に対するステレオタイプの地域差	単著	2009年10月	国際行動学会6回年次大会			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金基礎研究(C)			2007年～2009年まで	個別	日本人の日本語非母語話者に対する受容態度を検証する基礎研究		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1998年～現在			社会言語科学会 (JASS) 会員				
2003年～現在			環太平洋応用言語学会 (PAAL) 会員				
2003年～現在			日本心理学会 (JPA) 会員				
2007年8月～2008年9月			社会言語科学会研究発表大会委員会 企画担当				
2008年9月～現在			社会言語科学会研究発表大会委員会 副委員長				

所属	キリスト教学科	職名	教授	氏名	北 博	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	自分の作成したビデオの活用			2007年4月～2009年12月	実験農場, アジア学院, 海外各地で取材したビデオを見せ, 感想を書かせる。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	新訂総説旧約聖書		共著	2007年3月	日本基督教団出版局	池田 裕 大島 力 樋口 進 山我哲雄 (監修)	372～382頁
	聖書学用語辞典		共著	2008年2月	日本基督教団出版局	樋口 進 中野 実 (監修)	
	新カトリック大事典第4巻		共著	2009年4月	研究社	高柳俊一 (編者代表)	991～992頁
Ba	「エゼキエル書 28章 1-19節の場所的表象」		単著	2007年10月	『旧約学研究』第4号 (日本旧約学会)		57～72頁
Bb	祭司支配と終末論—〈回復〉概念をめぐる捕囚後のユダヤ共同体の葛藤—		単著	2006年3月	『教会と神学』第42号		15～25頁
	「預言宗教としての古代イスラエル—初期イスラームとの類比的方法の試み」			2007年3月	『教会と神学』44号		27～48頁
	「神の民—旧約聖書の現代化の試み」			2008年11月	『教会と神学』47号		37～56頁
	「共に歩む神—フィリピンの闘争神学への旧約聖書学からの応答」		単著	2009年3月	『教会と神学』48号		1～25頁
	「神の支配と預言者」		単著	2009年11月	『教会と神学』49号		39～65頁
F	阿蘇敏文著『現場からの道』			2006年2月	『本のひろば』		
G	発題「黙示書と黙示思想」			2006年6月	東北学院大学キリスト教文化研究所研究フォーラム		
	「エゼキエル書 28章 1-19節の場所的表象」			2006年10月	日本旧約学会総会		
	発題「西南アジア的預言宗教としてのイスラーム—古代イスラエル宗教思想からの視点—」			2006年11月	東北学院大学キリスト教文化研究所研究例会		

「日本における黙示研究の現状と課題」		2007年6月	日本基督教学会東北支部会		
「ダニエル書の〈終末論〉?」		2008年6月	日本基督教学会東北支部会		
「聖書解釈と考古学」		2009年6月	日本基督教学会東北支部会		
発題「預言者行動と預言者意識」		2009年10月	日本旧約学会総会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年11月10日	日本聖書学研究所公開講座講演「黙示文学研究の諸問題と今後の方向」
2009年より1年間	日本旧約学会委員
2009年12月12日	東北学院大学オープンリサーチ講演「古代イスラエルにおけるYHWHの表象の形成とその変容」

所属	キリスト教学科	職名	教授	氏名	佐々木勝彦	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した内容を記憶し理解させるための工夫 小テストを行っている 学生の意識を確認するための工夫	2007年4月～2008年1月 2009年1月～12月	2007年4月～2008年1月 2009年1月～12月	授業の最初に前回のまとめをし、そして授業の終わりにも必ず当日のまとめを行っている。			
4	東北学院工学部サマーカレッジ 東北学院幼稚園教師会の講師 キリスト教文化研究所主催「キリスト教文化講座」 東北学院幼稚園父母会の講師	2008年8月4日 2009年8月7日	2008年8月8日 2008年10月14日 2009年5月23日 2008年12月8日	大学生を対象に、「学ぶ意味」について、ライフサイクルとの関連で語った。 建学の精神と幼稚園教育の関連について、具体的な事例を取り上げつつ語った。 「詩篇143を読む」と題して、旧約聖書の中の「詩篇の現代的意義」について語った。 現代の家庭教育と幼稚園教育の関係について、具体的な事例を紹介しつつ語った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	総・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	「基督教教育同盟会編『聖書教科書』の内容とその特質」	単著	2005年3月	東北学院大学論集『教会と神学』第40号		175～209頁	
	「基督教教育同盟会編『宗教教科書』(1949-50)の内容とその特質」	単著	2008年11月	『教会と神学』第47号		173～234頁	
	「基督教教育同盟会編『基督教主義中学校及び高等学校宗教教科書』(1951年)と基督教学校教育同盟編『基督教主義中学校及び高等学校宗教教科書』(1956-58年)の内容とその特質」	単著	2009年3月	『教会と神学』第48号		71～124頁	
	「基督教学校教育同盟編『キリスト教主義中学校及び高等学校聖書教科書』(1959)の内容とその特質」	単著	2009年11月	『教会と神学』第49号		155～203頁	
D	『どうして私が一エレミヤへの旅路―』(下)	単著	2008年9月	青踏社		311頁	
	『まだひと言も語らぬ先に ―詩編の世界―』	単著	2009年1月	教文館		207頁	

E	『わたしはある ―モーセと現代―』	単著	2005年4月	青踏社	223頁
	『どうして、私が ―エレミヤへの旅路― (上)』	単著	2006年10月	青踏社	259頁
H	W. パネンベルク 『人間学(4)』	単著	2005年12月	『教会と神学』第41号	82～140頁
	W. パネンベルク 『人間学(5)』	単著	2006年3月	『教会と神学』第42号	150～226頁
	W. パネンベルク 『人間学(6の1)』	単著	2006年12月	『教会と神学』第43号	132～190頁
	W. パネンベルク 『人間学』	単著	2008年12月	教文館	700頁
	ステファン・G・ポスト 『アガペーとは何か(1)』	単著	2009年5月	『キリスト教文化研究所紀要』第27号	95～116頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年4月～2009年12月	インド学宗教学会理事
2007年4月～2009年12月	日本キリスト教学会会員
2007年4月～2009年12月	キリスト教教育学会会員
2007年4月～2009年12月	キリスト教礼拝音楽学会会員

所属	キリスト教学科	職名	教授	氏名	佐藤 司郎	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	要覧記載のシラバスのほかに授業用のシラバスを用意した。	2007年1月～2009年12月		中間時に受講生の専攻に関連する新聞等のコラムを利用した。 ホームページ名「告白教会の神学の研究——キリストの和解の前進のために」。 校内2キャンパス、および東北学院榴ヶ岡高校。 左記期間中、総計10回以上指導。指導した全員（正教師に1名、補教師に3名）合格。			
	授業を前半と後半に分け、中間に休憩を入れる。	2007年1月～2009年12月					
	個人ホームページを開設し、それを補助教材として用いた。	2008年10月開設。					
	4	学内の礼拝説教者、付属校の礼拝説教者として活動した。	2007～2009年、年間20回以上担当。				
	日本基督教団教師試験のための準備教育を課外活動として行なった。	2008年1月～2月、7～8月					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A							
『キリスト教の歴史2』		共著	2009年8月	山川出版社	高柳俊一 松本宣郎編	123～138頁 153～161頁 186～194頁	
『日本におけるカール・バルト——敗戦までの受容史の諸断面』		共著	2009年9月	新教出版社	バルト神学 受容史研究会編	113～161頁 449～479頁	
『キリスト教平和学事典』		共著	2009年9月	教文館	関西学院大学キリスト教と文化研究センター編	305～307頁	
Bb							
「カール・バルトにおける『教会と世』を巡って—覚え書—」		単著	2005年3月	東北学院大学学術研究会論集「教会と神学」40号		145～173頁	
「バルメン宣言と今日の神学的実存」		単著	2005年5月	「福音と世界」新教出版社		12～17頁	
「井上良雄におけるバルトとブルームハルト」		単著	2005年6月	『井上良雄研究』新教コイノーニアVol. 23, 新教出版社		82～94頁	
『ローマ書講解』におけるカール・バルトの教会理解		単著	2005年12月	大木英夫教授喜寿記念論文集『歴史と神学』上巻, 聖学院大学出版会		276～303頁	
「神の言葉はつながっていない—バルメン宣言第六項の意味と射程」		単著	2006年11月	東北学院大学学術研究会論集「教会と神学」43号		93～113頁	

「二十年代から三十年代にかけてのバルトの教会理解」	単著	2007年3月	東北学院大学学術研究会論集「教会と神学」44号	69～113頁
「R・ボーレン以後の説教学の動向——とくに聞き手の問題を中心に」	単著	2007年11月	「説教」9号, 教文館	52～69頁
「前進命令としての和解——バルト没40年を迎えて」	単著	2008年9月	「福音と世界」第63巻9号, 新教出版社	39～43頁
「戦争と平和——カール・バルトの神学的・政治的軌跡」	単著	2008年12月	東北学院大学学術研究会論集「教会と神学」47号	113～138頁
「なぜバルトは説教黙想を書かなかったのか」	単著	2009年3月	東北学院大学学術研究会論集「教会と神学」48号	147～169頁
「教養教育としての『キリスト教学』の意味と課題」	単著	2009年3月	東北学院大学教育研究所報告集 第9集	37～48頁
D				
説教黙想マタイ 4, 18-25	単著	2005年1月	「説教黙想アレティア」47号, 日本基督教団出版局	21～26頁
説教黙想使徒言行録 2, 1-11	単著	2005年4月	「説教黙想アレティア」48号, 日本基督教団出版局	21～26頁
説教黙想コリント I, 12, 14-26	単著	2006年7月	「説教黙想アレティア」53号, 日本基督教団出版局	39～43頁
説教黙想創世記 9, 8-17	単著	2006年10月	「説教黙想アレティア」54号, 日本基督教団出版局	39～43頁
説教黙想ルカ 21, 1-9	単著	2007年1月	「説教黙想アレティア」55号, 日本基督教団出版局	39～43頁
説教黙想ヨハネ 15, 12-17	単著	2007年4月	「説教黙想アレティア」56号, 日本基督教団出版局	39～43頁
説教黙想ローマ 12, 9-21	単著	2007年7月	「説教黙想アレティア」57号, 日本基督教団出版局	83～88頁
説教黙想マルコ 1, 35-39	単著	2007年10月	「説教黙想アレティア」58号, 日本基督教団出版局	83～88頁
宗教学文献事典項目 (宮田光雄著『十字架とハーケンクロイツ』)	単著	2007年11月	弘文堂	338頁
説教黙想マルコ 3, 13-19	単著	2008年1月	「説教黙想アレティア」59号, 日本基督教団出版局	83～88頁

「罪責告白と戦後ドイツ・プロテスタント教会の歩み」	単著	2008年3月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター, ヨーロピアン・グローバリゼーションと諸文化圏の変容「研究プロジェクト報告書」Ⅰ	222～264頁
「1934年7月8日のボンヘッファーの説教——コメントに代えて」	単著	2008年3月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター, ヨーロピアン・グローバリゼーションと諸文化圏の変容「研究プロジェクト報告書」Ⅰ	286～288頁
調査報告「テゼ共同体とウィルバーフォース記念館を訪ねて」	単著	2008年3月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター, ヨーロピアン・グローバリゼーションと諸文化圏の変容「研究プロジェクト報告書」Ⅰ	293～294頁
説教黙想マルコ 5, 1-20	単著	2008年4月	「説教黙想アレティア」60号, 日本基督教団出版局	81～86頁
説教黙想マルコ 7, 1-23	単著	2008年7月	「説教黙想アレティア」61号, 日本基督教団出版局	77～82頁
説教黙想マルコ 8, 31-9, 1	単著	2008年10月	「説教黙想アレティア」62号, 日本基督教団出版局	45～50頁
説教黙想マルコ 10, 46-52	単著	2009年1月	「説教黙想アレティア」63号, 日本基督教団出版局	45～50頁
説教黙想マルコ 13, 24-27	単著	2009年4月	「説教黙想アレティア」64号, 日本基督教団出版局	51～56頁
説教黙想マルコ 15, 21-32	単著	2009年7月	「説教黙想アレティア」65号, 日本基督教団出版局	51～56頁
説教黙想コリントⅡ, 2, 12-17	単著	2009年10月		
F 海外新刊情報 A・グレッツィンガー『寛容と情熱』ギューターズローア社	単著	2005年12月	「説教黙想アレティア」51号, 日本基督教団出版局	93頁
宮田光雄著『ベツレヘムの星』	単著	2006年1月	「信徒の友」711号, 日本基督教団出版局	84～85頁
今, この時代にバルトを読む意義について『カール・バルト一日一章』	単著	2008年3月	「本のひろば」キリスト教文化センター	2～9頁

宮田光雄著『ボンヘッファーとその時代』	単著	2008年3月	「ボンヘッファー研究」No. 24 日本ボンヘッファー研究会	44～45頁
大崎節郎著『光あれ!』	単著	2008年6月	「本のひろば」キリスト教文化センター	22～23頁
ペールマン『現代教義学総説』	単著	2008年8月	「本のひろば」キリスト教文化センター	2～3頁
G				
「和解の神学」		2006年5月	キリスト教学科修養会	
「日本の教会の進路—W・フーバーの教会論と対話しつつ」		2006年8月	日本カール・バルト協会・日本ボンヘッファー研究会共同夏期研修会	
「ドイツの教会, 日本の教会—課題としての伝道」		2006年9月	日本基督教団吉祥寺教会創立記念日	
「罪責告白とバルト」		2007年9月	日本カール・バルト協会夏期研修会(箱根)	
「受肉論と教会論 — プロレゴメナのバルトの教会論の核心」		2008年6月	日本基督教学会東北支部会(尚綱学院)	
「バルトはなぜ説教黙想を書かなかったのか— 説教黙想の課題」		2008年8月	キリスト教学科教職セミナー(本学)	
「日本のバルト受容の問題」		2008年9月	日本カール・バルト協会夏期研修会(箱根)	
「告白教会とユダヤ人問題 — アウシュヴィッツ以後の神学への萌芽, または1933年のバルトとボンヘッファーの神学的方向定位」		2008年10月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター(東北大学)	
「今日の霊性 — 伝道を考えるための神学的考察」		2009年8月	キリスト教学科教職セミナー	
「世のための教会と伝道 — カルヴァン, バルト, ボンヘッファー」		2009年9月	日本カール・バルト協会・日本ボンヘッファー研究会共同夏期研修会(箱根)	
「カルヴァンとバルト — 『魂の眠り』のバルトの解釈を中心として」		2009年11月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開講演	
H				
カール・バルト『十九世紀のプロテスタント神学(中)』	共訳	2006年8月	カール・バルト著作集12, 新教出版社	5～76頁 117～172頁
エーバハルト・ブッシュ『バルト神学入門』	単独	2009年12月	新教出版社	191頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
私立大学学術研究高度化推進事業オープンリサーチ	2007 年度	共同（オープン・リサーチ・センター副所長）	名称「ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容」
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
<p>日本カール・バルト協会会員</p> <p>日本ボンヘッファー研究会会員</p> <p>日本基督教学会会員</p>			

所属	キリスト教学科	職名	教授	氏名	原口 尚彰	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 学習事項の確認		2005年1月～2009年12月		毎回授業の冒頭で、前回授業内容のまとめと確認を行っている。			
対話的授業		2005年1月～2009年12月		毎回の授業で質問用紙を記入させて回収し、次の授業で回答している。			
定期試験の解説		2005年1月～2009年12月		毎学期末の試験を学生に返却し、解説と講評を行っている。			
2 『信じることと知ること』(東北大学出版会)		2005年3月		キリスト教について、参加型の学習法と講義型の学習法を紹介し、教理の基本を解説。			
『聖書の世界への招待 改訂新版』(キリスト新聞社)		2006年3月		旧新約聖書の風土、歴史の紹介と、旧新約聖書の内容の概説。			
『地球市民とキリスト教 改訂新版』(キリスト新聞社)		2006年3月		現代の社会倫理の問題を地球市民とキリスト教の視点から考察する。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『ロゴス・エートス・パトス』		単著	2005年12月	新教出版社		253頁	
『新約聖書積義』		単著	2006年3月	教文館		195頁	
Neutestamentliche Exegese im Dialog		共著	2008年6月	Neukirchener Verlag	P. Lampe M. Mayordomo M. Sato T. Haraguchi	297～306頁	
『新約聖書神学概説』		単著	2009年3月	教文館		190頁	
Christian Mission and Education in Modern China, Japan, and Korea: Historical Studies		共著	2009年6月	Peter Lang	Jan A. B. Jongeneel et al. (eds.)	89～98頁	
Ba 「パウロにおける十字架論と贖罪論」		単著	2005年3月	青山学院大学基督教学会「基督教論集」第48号		17～36頁	
Effective Use of Duality: An Epistemological Study of Rev 1:4-3:22		単著	2005年6月	Asia Journal of Theology 19		270～283頁	
「悲劇的訣別の辞？」		単著	2006年3月	青山学院大学基督教学会「基督教論集」第49号		123～142頁	
「日本新約学史における波多野精一」		単著	2006年7月	キリスト教史学会「キリスト教史学」第60集		87～102頁	

「矢内原忠雄の国家間の史的検証」	単著	2007年3月	青山学院大学基督教学会「基督教論集」第50号	49～60頁
A Tragic Farewell Discourse? In Search of a New Understanding of Paul's Miletus Speech	単著	2007年6月	Annual of the Japan Biblical Institute 33/34	137～154頁
「黙示録における幸いの宣言」	単著	2007年7月	日本新約学会「新約学研究」第35号	87～102頁
Reflections on H. Richard Niebuhr's Theoretical Model concerning the Relationship between Christianity and Culture	単著	2007年11月	Asia Journal of Theology 21	228～241頁
「Q資料におけるマカリズム (幸いの宣言)」	単著	2008年8月	日本新約学会「新約学研究」第36号	5～16頁
Bb				
「パウロのミレトス演説の修辞学的分析」	単著	2005年3月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第40号	123～144頁
「使徒言行録中の演説の修辞学的研究」	単著	2005年3月	ルーテル学院大学「テオロギア・ディアコニア」第37号	1～30頁
「第一コリント書における神の問題」	単著	2005年11月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第41号	63～81頁
「死海写本 4Q185 と 4Q525 における幸いの宣言」	単著	2006年3月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第42号	41～68頁
「第二コリント書における神の問題」	単著	2006年3月	ルーテル学院大学「テオロギア・ディアコニア」第38号	17～26頁
「死海写本における天使論と唯一神論の危機」	単著	2006年11月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第43号	42～65頁
「新約聖書と黙示文学・黙示思想」	単著	2007年5月	「東北学院大学キリスト教文化研究所紀要」第25号	61～76頁
「使徒教父における幸いの宣言」	単著	2007年5月	「東北学院大学キリスト教文化研究所紀要」第25号	33～48頁
「アレクサンドリアのフィロンの幸福理解」	単著	2007年12月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第45号	123～144頁
「ルカ文書における幸いの宣言」	単著	2008年3月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第46号	1～35頁

「教皇ベネディクト 16 世のイスラーム発言」	単著	2008 年 6 月	「東北学院大学キリスト教文化研究所紀要」第 26 号		31～40 頁
「新約聖書とグノーシス」	単著	2008 年 6 月	「東北学院大学キリスト教文化研究所紀要」第 26 号		41～55 頁
「マタイによる福音書におけるマカリズム (幸いの宣言)」	単著	2008 年 12 月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第 47 号		1～25 頁
「新約聖書と説教：ケリュグマとディダケー」	単著	2009 年 3 月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第 48 号		127～146 頁
「パウロにおけるマカリズム (幸いの宣言／幸福論)」	単著	2009 年 6 月	「東北学院大学キリスト教文化研究所紀要」第 27 号		29～44 頁
「知って行う者の幸い：ヨハネ 13:1-20 の積義的研究」	単著	2009 年 11 月	東北学院大学学術研究会「教会と神学」第 49 号		67～101 頁
C					
「福音を恥としない 使徒パウロの生涯と宣教」	単著	2005 年 4 月～2006 年 3 月	日本基督教団出版局「信徒の友」2005 年 4 月～2006 年 3 月号		合計 96 頁 (24 回連載)
「山田耕太氏に答える」	単著	2006 年 9 月	日本基督教学会「日本の神学」第 45 号		223～226 頁
D					
「国際新約学会第 60 回大会報告」	単著	2006 年 9 月	日本新約学会「新約学研究」第 34 号	大貫 隆 佐藤 研 川村輝典	81～84 頁
「国際新約学会第 61 回大会報告」	単著	2007 年 6 月	日本新約学会「新約学研究」第 35 号	佐藤 研 原口尚彰	84～88 頁
F					
「M・ヘンゲル著『キリスト教聖書としての七十人訳』」	単著	2005 年 5 月	キリスト教文書センター「本のひろば」5 月号		10～11 頁
「川村輝典著『ヘブライ人の手紙』」	単著	2005 年 9 月	日本基督教学会「日本の神学」第 44 号		145～150 頁
F. ハーン著「新約聖書神学 I 上」	単著	2007 年 3 月	「キリスト新聞」2007 年 3 月 18 日号		4 頁
大貫隆著「イエスの時」	単著	2007 年 9 月	日本基督教学会「日本の神学」第 46 号		145～150 頁
佐竹明「ヨハネの黙示録 上巻 序説」	単著	2008 年 8 月	日本新約学会「新約学研究」第 36 号		72～76 頁
津村春英「ヨハネの手紙一の研究」	単著	2008 年 9 月	日本基督教学会「日本の神学」第 47 号		145～150 頁

G					
"A Tragic Farewell Discourse?"	単著	2005年3月		The 19th World Conference of the International Association for the History of Religion	
「第一コリント書における神の問題」	単著	2005年6月		日本基督教学会東北支部会	
「教会一致の潮流の中で：『義認に関する共同宣言』の意義」	単著	2005年6月		東北学院大学キリスト教文化研究所主催第5回研究フォーラム	
「日本新約学史における波多野精一」	単著	2005年9月		キリスト教史学会第56回大会	
「ロマ書1章18-32節における神の問題」	単著	2005年9月		日本基督教学会第53回学術大会	
「死海写本における天使論と唯一神論の危機」	単著	2006年6月		日本基督教学会東北支部会	
「新約聖書と黙示文学・黙示思想」	単著	2006年6月		東北学院大学キリスト教文化研究所主催第6回研究フォーラム	
"A Historical Assessment of Tadao Yanaihara's View of the Nation"	単著	2006年8月		5th North East Asia Council of Studies of Christianity	
Hebrew 1-2 in the Light of Sabbath Songs	単著	2006年8月		2006 Studiorum Novi Testamenti Societas	
「黙示録における幸いの宣言」	単著	2006年9月		日本新約学会第46回大会	
"The Beatitudes in the Apostolic Fathers"	単著	2006年9月		3rd Pacific Rim Association of Patristic Studies	
「新約聖書とグノーシス」	単著	2007年6月		東北学院大学キリスト教文化研究所主催第7回研究フォーラム	
「Q資料における幸いの宣言」	単著	2007年9月		日本新約学会第47回大会	
「マタイ16章17におけるマカリズム(幸いの宣言)」	単著	2008年6月		日本基督教学会東北支部会第42回学術大会	
「パウロにおけるマカリズム(幸いの宣言)」	単著	2008年9月		日本基督教学会第56回学術大会	
「I ペトロ書におけるマカリズム(幸いの宣言)」	単著	2009年6月		日本基督教学会東北支部会第43回学術大会	

「ヨハネにおけるマカリズム（幸いの宣言）」	単著	2009年8月	日本基督教学会第57回学術大会		
「日本新約学史における山谷省吾」		2009年11月	キリスト教史学会第60回大会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)	2003～2005年度	個別	使徒言行録中の演説の修辞学的研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007～2010年度	個別	マカリズム（幸いの宣言）の演説の聖書学的・修辞学的研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年1月～2009年12月	Society of Biblical Literature 会員
2005年1月～2009年12月	日本新約学会理事
2005年1月～2009年12月	日本基督教学会理事
2005年1月～2009年12月	日本宗教学会会員
2005年1月～2009年12月	キリスト教史学会会員
2005年1月～2009年12月	Studiorum Novi Testamenti Societas 会員

所属	キリスト教学科	職名	教授	氏名	マーチー, D.	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
Ba 「Wisdom's Silence as the Ultimate Critique: An Exegetical and Ethical Evaluation of Amos 5:13」		2005年11月	東北学院大学論集「教会と神学」第41号		21～42頁		
Bb 「Report on the Annual Meeting of the American Historical Association(AHA) and the American Society of Church History(ASCH), 2006年1月5～8日, Philadelphia, Pennsylvania」 「Charles Hodge (1797-1878, Scottish Common Sense Philosophy, and the Human Capacity for Moral Activity)」		2006年11月 2008年11月	東北学院大学論集「教会と神学」第43号 東北学院大学論集「教会と神学」第47号		115～131頁 139～171頁		
「Religious Roots of American Chauvinism : Charles Hodge(1797-1878) and the <i>Christian America</i> 」ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容II		2009年3月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター		347～381頁		
「Christian Fundamentalism」		2009年5月	東北学院大学キリスト教文化研究所紀要第27号		119～125頁		
「Report on the Annual Meeting of the American Historical Association(AHA) and the American Society of Church History(ASCH), 2009年1月2～5日, New York, New York」		2009年11月	東北学院大学論集「教会と神学」第49号		141～153頁		
D 「Presbyterian Church of Taiwan Hosts Dynamic Youth Exchange」, Kyodan Newsletter (Nihon Kirisuto Kyodan)		2005年12月	No. 335		6～7頁		
F 「The Deterioration of Political Dialogue in America—A Book Review and Discussion Concerning Power, Politics, and Culture—Interviews with Edward W. Said, by Gauri Viswanathan[ed.], Islam and the Myth of Confrontation—Religion and Politics in the Middle East, by Fred Halliday, and Middle East Illusions, by Noam Chomsky」		2005年3月	東北学院大学論集「教会と神学」第40号		247～264頁		

<p>「Religion's Dark Side—A Book Review Essay concerning The Destructive Power of Religion — Violence in Judaism, Christianity, and Islam, Volume1 — Sacred Scriptures, Ideology, and Violence, edited by J. Harold Ellens (Part1)」</p>	<p>2006年3月</p>	<p>東北学院大学論集「教会と神学」第42号</p>	<p>113～114頁</p>
<p>「The Life and Music of Johann Sebastian Bach—A Review of Johann Sebastian Bach—His Life in Pictures and Documents, by Hans Conrad Fischer, English translation by Silvia Lutz」</p>	<p>2006年3月</p>	<p>東北学院大学宗教音楽研究所紀要 第10号</p>	<p>10～14頁</p>
<p>「Religion's Dark Side—A Book Review Essay concerning The Destructive Power of Religion — Violence in Judaism, Christianity, and Islam, Volume2 — Religion, Psychology, and Violence, edited by J. Harold Ellens (Part2)」</p>	<p>2006年11月</p>	<p>東北学院大学論集「教会と神学」第43号</p>	<p>65～91頁</p>
<p>「Religion's Dark Side—A Book Review Essay (Part 3)」</p>	<p>2007年3月</p>	<p>東北学院大学論集「教会と神学」44号</p>	<p>133～148頁</p>
<p>「Religion's Dark Side—A Book Review Essay (Part 4)」</p>	<p>2007年11月</p>	<p>東北学院大学論集「教会と神学」45号</p>	<p>67～88頁</p>
<p>「The Ethical Dilemma of Religion-based Violence—A Book Review Essay」</p>	<p>2008年3月</p>	<p>東北学院大学論集「教会と神学」46号</p>	
<p>書評:「Jenna Weissman Joselit『Parade of Faiths—Immigration and American Religion』」</p>		<p>『History: Reviews of New Books』Spring 2008, Vol. 36, No. 3</p>	
<p>「Music and Neurological Disorders: A Review of Oliver Sacks' <i>Musicophilia</i>」</p>	<p>2009年</p>	<p>東北学院大学宗教音楽研究所紀要第13号</p>	<p>73～80頁</p>
<p>「Current Thinking on the Nature of God and Christianity」</p>	<p>2009年3月</p>	<p>東北学院大学論集「教会と神学」48号</p>	<p>47～69頁</p>
<p>G 講義Ⅰ「礼拝における音楽の役割」；講義Ⅱ「賛美歌の特別な勉強：『さかえにみちたる』」</p>	<p>2007年11月</p>	<p>日本基督教団奥羽教区第6回教師継続教育講座</p>	
<p>「礼拝と音楽」</p>	<p>2008年5月</p>	<p>一関教会の特別な研究会</p>	
<p>「キリスト教の原理主義（ファンダメンタリズム）」</p>	<p>2008年6月</p>	<p>東北学院大学キリスト教文化研究所 Faculty Forum</p>	
<p>「アメリカ愛国主義とキリスト教」</p>	<p>2008年12月</p>	<p>東北学院大学 ヨーロッパ文化研究所公開講演会</p>	
<p>「エステル記を読む—その倫理性の問題」</p>	<p>2009年5月</p>	<p>第28回東北学院大学キリスト教文化研究所の講座</p>	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2005年1月		Annual meetings of the American Historical Association (Seattle, Washington)	
2005年1月		Annual meetings of the American Society of Church History (Seattle, Washington)	
2006年1月		Annual meetings of the American Historical Association (Philadelphia, Pennsylvania)	
2006年1月		Annual meetings of the American Society of Church History (Philadelphia, Pennsylvania)	
2006年8月		World Council of Religions for Peace (京都)	
2009年1月		American Historical Association Annual Meetings (New York, New York)	
2009年1月		American Society of Church History Annual Meetings (New York, New York)	
2009年11月		Japan Association of Theological Educators (JATE) 学会 (京都)	

所属	キリスト教学科	職名	准教授	氏名	出村みや子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 ギリシア語、ラテン語の授業では、最初に聴覚教材を用いて、初心者が発音や音読に早く慣れるように心がけている。 キリスト教学1の講義では、座席指定をして毎回きちんと出席をとり、講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、授業の要点を示しながら、それにそって授業をすすめている。		2007年4月～ 2007年4月～		CDエクスプレスシリーズの古典ギリシア語とラテン語を、教科書に入る前に使用。 ほとんどの学生が本学に入学後、初めてキリスト教を学問として学ぶことになるのであるから、授業の分かりやすさと評価の公平性を心がけるとともに、キリスト教の文化的影響に興味を抱いてもらえるように視覚教材なども用いている。			
2 (共著)『総説 キリスト教史 I 原始・古代・中世篇』(日本キリスト教団出版局)		2007年2月1日		古代教会の成立から中世にいたるまでの歴史的展開を、最新の研究資料を用いてわかりやすく叙述した。			
(共著)『聖書の世界・総解説』(自由国民社)		2001年5月(全訂新版第一刷)		旧約・新約聖書の各文書を概説した他、聖書と諸宗教との関係や考古学、美術、音楽、翻訳史の項目を加えた入門書。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	緒・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『総説 キリスト教史 I 原始・古代・中世篇』		共著	2007年2月	日本キリスト教団出版局	荒井 献 出村みや子 出村 彰	85～190 頁	
Ba Origen as Biblical Scholar in his Commentary on the Gospel according to Matthew XVII, 29		単著	2008年12月	Scrinium, vol. 4: Patrologia Pacifica St Petersburg:Axioma		23～31 頁	
「アレクサンドリアの聖書解釈の伝統における貧困と富の理解」		単著	2009年3月	『聖書学論集41 経験としての聖書 大貫隆教授献呈論文集』		531～550 頁	
Poverty and Asceticism in Clement and Origen of Alexandria		単著	2009年9月	Prayer and Spirituality in the Early Church vol. 4 St Paul		119～131 頁	
Bb 「オリゲネスの聖書解釈とアレクサンドリアの文献学的伝統」		単著	2006年1月	『福音と社会(農村伝道神学校紀要)』第25号		27～44 頁	
「初期キリスト教とグノーシス主義諸派の関係をめぐって-オリゲネスの聖書解釈を中心として-」		単著	2008年6月	『東北学院大学キリスト教文化研究所紀要』(第26号)		56～75 頁	
「エピファニオスのオリゲネス批判-『パナリオン』64の伝記的記述の検討を中心として-」		単著	2009年3月	『東北学院大学論集教会と神学』(第48号)		27～45 頁	

G	Religious struggle and dialogue in Origen of Alexandria	2005年3月	XIX th World Congress of the International Association for the History of Religion in Tokyo	
	Origen's allegorical interpretation and the Philological Tradition of Alexandria	2005年9月	Colloquium Origenianum Nonum at Pecs University (Hungary)	
	Origen as Biblical Scholar in his Commentary on the Gospel according to Matthew XVII, 29	2006年10月	Western Pacific Rim Patristic Society at Nanzan University	
	「初期キリスト教の復活信仰におけるパウロ神学の影響」	2006年11月	日本聖書学研究所公開講座, シンポジウム	
	Poverty and Asceticism in Clement and Origen of Alexandria	2008年1月	Prayer and Spirituality in the early Church Conference in Melbourne	
	Why the poor became invisible in Clement and Origen of Alexandria	2008年5月	Canadian Society of Patristic Studies Conference in Vancouver	
	Reception of Pauline letters and the formation of the Canonical principle in Origen of Alexandria	2009年9月	Asia-Pacific Early Christian Studies Society at Tohoku Gakuin University	
H	ジェフリー・ダン「不正な富（ルカによる福音書16章9節）についてのアウグスティヌスの説教」	2007年11月	『東北学院大学論集教会と神学』（第45号）	1～20頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業による東北学院大学オープン・リサーチ・センター・プロジェクト	2007年4月～2011年3月	共同（古代アレクサンドリアにおける初期キリスト教の発展）	ヨーロッパ文化圏の形成を様々な時代と地域から明らかにすると共に、諸文化圏の衝突と変容を共通テーマとするプロジェクトであり、私は2-3世紀のアレクサンドリアのキリスト教の発展について分担

<p>独立行政法人日本学術振興会「二国間交流事業・オーストラリアとの共同研究」</p>	<p>2007年4月～2009年3月</p>	<p>共同(古代アレクサンドリアの聖書解釈の伝統における貧困と富・禁欲主義の理解)</p>	<p>オーストラリア学術会議の創発研究プロジェクト(ARC Discovery Project 2006-2008)との相互交流を通じて、「転換期における「貧困」への取り組みー初期キリスト教をモデルとして」の共同研究</p>
<p>独立行政法人日本学術振興協会 科学研究費補助金(基盤研究(C))</p>	<p>2009年4月～2012年3月</p>	<p>個別(古代アレクサンドリアの聖書解釈の系譜における貧困と富, 禁欲の理解)</p>	<p>古代アレクサンドリアの聖書解釈の伝統が, 後世の禁欲主義やキリスト教倫理, とりわけ富の有効な使用に関する社会倫理の確立にどのような影響を与えたかについての研究</p>

IV 学会等及び社会における主な活動

<p>2008年4月～</p>	<p>日本宗教学会評議員</p>
-----------------	------------------

所属	キリスト教学科	職名	准教授	氏名	村上 みか	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学生の関心や評価の授業への反映	2004年4月～2009年12月	学生が関心をもって授業に臨めるよう、学期初めにアンケートをとり、授業内容に関連して学生の関心あるテーマを把握し、また学期末には授業の感想を提出させて、それらを授業に反映させるよう努めている。また授業の前後に学生と会話をし、彼らの関心や意識を知ることにも努めている。				
	学習内容の理解力と応用力の促進	2004年4月～2009年12月	学習内容の理解を深めるために、授業のはじめに前回の授業の復習を行い、その上で新しい段階の学習へ入れるよう努めている。また授業中に数回、また授業後に質問を受け付ける機会を設け、理解の徹底化を図っている。さらに美術や音楽など視聴覚的学習も取り入れ、事象を多層的に理解できるよう工夫を行っている。				
	演習等における基礎力の養成と個別指導	2004年4月～2009年12月	演習や少人数の授業においては、学生の思考力と表現力を養うために、授業内容に関する質問、意見等、積極的な発言を行うよう促し、また自分の考えを自分の言葉で表現できるよう指導を行っている。その際、怖じずに自分の意見を言うことの出来る環境づくりに努めている。さらにレポートや試験の際、ノートや参考書を写すのではなく、拙くても自分の言葉でまとめ、表現することを重視し、普段の授業でもそれを意識してノートを取るよう指導している。				
2	教材の作成	2006年9月～2009年12月	語学の授業において教科書以外に、毎回の教材を作成した。				
4	宗教部の活動	2004年4月～2009年12月	宗教主任として、建学の精神であるキリスト教教育を授業外の活動において担い、学生と共に聖書研究や礼拝また修養会等の活動を行った。				
	市民講座の講師	2004年12月, 2005年12月	大学主催の市民講座（シティカレッジ）の講師を務め、「宗教改革者カルヴァンに学ぶキリスト教的生」、「宗教改革期のクリスマス理解」という題で講演を行った。				
	インターンシップの指導	2005年4月～2006年3月	インターンシップに参加する学生の事前、事後指導を行った。				
	公開講演会, 公開講座の講師	2005年10月, 2007年10月, 2008年12月	大学主催の公開講演会, 公開講座の講師を務め、「キリスト教の労働観」「宗教改革成立の歴史」「カルヴァンの倫理とジュネーヴの経済」という題で講演を行った。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』	共著	2009年5月	教文館	森田安一 村上みか	307～323頁
Ba 「歴史的」ルター研究の提唱：ゲルハルト・エーベリンク	単著	2009年6月	『基督教研究』, 第71巻第1号		101～112頁
1960年代から1980年代にかけてのルター研究－歴史研究の展開とその問題－	単著	2009年12月	『基督教研究』, 第71巻第2号		19～36頁
Bb スイス改革派教会の制度的展開(1)－宗教改革期における国教会制度の成立－	単著	2004年1月	名古屋学院大学論集・人文・自然科学篇(第40巻2号)		27～35頁
宗教改革期の労働観－その歴史的, 神学的意義の再考察－	単著	2006年3月	名古屋学院大学論集・社会科学篇(第42巻4号)		103～112頁
スイス改革派教会の制度的展開(2)－近代における国教会制度の修正－	単著	2006年11月	東北学院大学論集『教会と神学』(第43号)		49～64頁
スイス改革派教会の制度的展開(3) 教会論をめぐるバルトとの対立	単著	2007年3月	東北学院大学論集『教会と神学』(第44号)		49～67頁
宗教改革期における二元論の展開(1) トーマス・ミュンツァー	単著	2007年11月	東北学院大学論集『教会と神学』(第45号)		37～56頁
宗教改革期における説教－ルターの理解を中心に－	単著	2008年3月	東北学院大学論集『教会と神学』(第46号)		113～138頁
宗教改革期における二元論の展開(2) 再洗礼派	単著	2008年11月	東北学院大学論集『教会と神学』(第47号)		97～112頁
宗教改革研究における歴史的視点の導入－バルント・メラ－	単著	2009年11月	東北学院大学論集『教会と神学』(第49号)		103～140頁
C スイス改革派教会の過去・現在・将来1：国教会の伝統と現実	単著	2003年1月	『福音と世界』(新教出版社) 2003年2月号		33～39頁
スイス改革派教会の過去・現在・将来3：現在の社会にある教会の課題	単著	2003年3月	『福音と世界』(新教出版社) 2003年4月号		30～36頁
D 宗教改革期におけるグノーシス的諸相	単著	2008年6月	東北学院大学キリスト教文化研究所紀要第26号		83～90頁
G 1990年以後のルター研究－歴史研究の展開とその課題－		2009年6月	日本基督教学会東北支部学術大会(於：仙台白百合女子大学)		

F	踊共二『改宗と亡命の社会史』	単著	2005年9月	『日本の神学』44号	173～177頁
	C.エルウッド著・出村彰訳『はじめてのカルヴァン』	単著	2008年7月	『キリスト教史学』第62集	235～236頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
名古屋学院大学研究奨励金・2003年度	2003年度	個別	研究課題：「キリスト教精神に基づいた経済・企業倫理の展開可能性」 研究経費：30万円
名古屋学院大学研究奨励金・2004年度	2004年度	個別	研究課題：「カール・バルトの教会論と現実におけるその挫折」 研究経費：30万円

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1990年3月～	日本基督教学会会員
2007年3月～	キリスト教史学会会員
2007年12月～	宗教改革史研究会会員
2008年9月～	日本基督教学会 学会誌編集委員

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	榎森 進	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 「講義」 (1) 学習した内容の記憶への定着と授業理解の促進のための工夫。 (2) 受講生の知的好奇心を刺激するための工夫。 (3) 教員独自の「学生による授業評価」を実施している。 (4) 授業に学生を引きつける（飽きさせない）ための工夫。 「演習」 (1) 学習した内容の記憶への定着と授業理解の促進のための工夫。				2002年1月～	「講義」 (1) 毎回の授業の冒頭で、前回の講義内容の概要を必ず説明すると共に、授業の理解を促進するために、授業の内容に関わる図表・地図・絵図・統計数字等を記したプリントを必ず配布し、授業内容のポイントに関わる部分は大きな字で板書し、授業終了時には、その回のまとめを行うと同時に質問の時間を設けている。また、質問に答える時間的余裕が無くなった場合には、相談の日時と場所を設定して説明すると共に、授業の内容と直接関係の無い問題についても相談に応じることにしている。 (2) 授業に関連する新聞記事・テレビ番組や日常生活での身近な出来事などを取り上げながら授業を行っている。 (3) 学部で実施している「学生の授業評価」に加え、授業の効果を適切に把握するために「当該授業を受講して一番関心を持った事柄について具体的に記し、かつ、その理由を記すこと」・「当該授業の内容を理解することが出来なかった場合、理解出来なかった事柄とその理由を記すこと」等について授業の最終時期に受講生に書いてもらうことにしている。 (4) 歴史の授業は、過去を対象とするので、多くの身近な事柄（例えば、盛岡の「わんこそば」が有名なのは何故か。東日本の人々は納豆を食べるのに、西日本の人々が納豆が嫌いなのは何故か。大坂の土産品に東北・北海道産の昆布やニシンを材料にしたものが多いのは何故か。東北地方の人々が正月にサケを食べるのは何故か。都道府県の中で沖縄県の昆布消費量が最も多いのは何故か。等々）を引き合いに出す。またテレビの大河ドラマや時代劇を引き合いに出す。毎回の授業で必ず少なくとも1～2回はジョークをはさむ。その結果、受講生からは「わかりやすい授業」との評価を得ている。		
				1992年8月～	「演習」 (1) 各自が設定した課題を解明するために、各自の課題に関する参考文献・史料名を紹介する。また、担当している「演習」（ゼミ）が、「北方史」であるが、ゼミ生の殆どが北海道に行ったことが無く、アイヌ民族と接したことが無いので、毎年8月、アイヌ民族が最も多く居住している北海道平取町二風谷に研修旅行に行き、アイヌの方が経営している民宿に宿泊し、アイヌ民族の伝統的行事である「チブサンケ」（舟卸しの儀式）に参加し、同地域に有る3カ所のアイヌ民族博物館を見学すると共に、アイヌの人々との親しい交流を行うことによって、アイヌ民族とその文化の理解をより深めるよう工夫している。このゼミ研修旅行がゼミ生が新たな問題を発見し、各自の問題意識を明確にする上で大きな刺激になっている。		

2	『アイヌ民族の歴史』(草風館, 2007年3月, 総頁673頁)	2007年4月以降使用	歴史学科3年・4年(演習)「北方世界と日本列島」の参考文献。
	『これならわかる東北の歴史 Q&A』(共著, 大月書店, 2008年6月, 総頁148頁)	2008年9月以降使用	歴史学科3年・4年(演習)及び『北方世界と日本列島』の参考文献。
4	「アイヌの人々と人権」(講演)	2005年10月13日	法務省・人権教育啓発推進センター主催「平成17年度人権啓発指導者養成研修会」。会場:京都市・ぱるるプラザ京都。
	「アイヌ民族と北と南の世界」(講演)	2005年10月22日	高等教育ネットワーク仙台ネットワーク講座「異文化を知るー交流の世界史ー」, 会場:東北学院大学土樋キャンパス8号館・押川記念ホール。
	「近代日本とアイヌ民族」(講演)	2006年6月21日	宮城県民大学大学開放講座「世界の近代を考える」, 会場:東北学院大学土樋キャンパス8号館・押川記念ホール。
	「アイヌ民族史をめぐる歴史科学の成果を活かす」(講演)	2007年3月3日	北海道沙流郡平取町立二風谷アイヌ文化博物館主催「シンポジウム: IWOR=伝統的生活空間の創造的再生をめざして」, 会場:北海道平取町立アイヌ文化博物館。
	「盛岡藩が鹿の皮を移出したのを知っていますか?」(高校での出前講義)	2007年4月13日	岩手女子高等学校での出前講義。
	「東北人とサケ文化」(模擬講義)	2007年8月4日	東北学院大学オープンキャンパスでの模擬講義
	「アイヌの人々と人権」(講演)	2007年9月21日	法務省・人権教育啓発推進センター主催「平成19年度・人権啓発指導者養成研修会(東日本会場)」での講演。会場:東京都港区, メルパルク東京
	「松前藩と梁川」(講演)	2007年11月10日	福島県伊達市主催「松前藩梁川移封200年記念姉妹都市交流会」での講演。会場:伊達市梁川農村環境改善センター
	「道南の歴史とアイヌー私たちの先住民族を知るー」(講演)	2007年11月17日	函館高等学校教職員OB会主催「文化講演会」での講演。会場:函館市・サン・リフレ函館
	「日本の『先住民族』としてのアイヌ民族ーその歴史と現状を正しく理解するためにー」(講義)	2007年12月1日	平成19年度・東北学院大学現職教員研修セミナーでの講義。会場:東北学院大学土樋キャンパス
	「盛岡藩が鹿の皮を移出したのを知っていますか?」(高校での出前講義)	2008年5月8日	岩手県花巻高等学校での出前講義。会場:同高校体育館
	「ニヴフ民族の調査目的と日本におけるアイヌ民族の教育制度について」(講演)	2008年9月18日	科学研究費補助金によるニヴフ民族の調査のためロシア連邦ニコライエフスク・ナ・アムーレを訪れた際、「ニコライエフスク・ナ・アムーレ北方少数民族師範学校」で行った講演。同校校長の依頼による。対象:同校の教職員と学生達。同校校長によれば、日本の研究者が同校で講演を行ったのは、これが最初とのこと。
	「江戸時代の東北を考える」(講演)	2008年10月13日	「せんだい・みやぎオータムセミナー」での講演。会場:東北学院大学土樋キャンパス631教室。

「教科書における『鎖国』の記述と大学生の『鎖国』理解」・「歴史学界における『鎖国』に関する研究動向」(講義)	2009年8月20日	平成21年度教員免許状更新講習「歴史講座」, 会場: 東北学院大学土樋キャンパス 622 教室。
「江戸時代の奥羽地方が頻繁に飢饉に襲われたのは、なぜか」(高校での出前講義)	2009年10月9日	岩手県立釜石高等学校での出前講義。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・略(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
『函館市史・年表編』	編集責任者	2007年2月	函館市		総頁 757 頁
『アイヌ民族の歴史』	単著	2007年3月	草風館		総頁 673 頁
「明朝のアムール政策とアイヌ民族ーアムール川下流域の諸民族とアイヌ民族の交流を中心にー」	単著	2008年3月	菊池俊彦・中村和之編『中世の北東アジアとアイヌー奴兒干永寧寺碑文とアイヌの北方世界』高志書院		65~104 頁
『これならわかる東北の歴史 Q&A』	共著	2008年6月	大月書店	一戸富士雄 榎森 進 著	総計 148 頁 中15~83 頁
『エミシ・エゾ・アイヌ: アイヌ文化の成立と変容ー交易と交流を中心としてー (上)』	共編著	2008年11月	岩田書院	榎森 進 小口雅史 澤登寛聡編	総頁 463 頁 中「課題と梗概」13~25 頁
『北東アジアのなかのアイヌ世界: アイヌ文化の成立と変容ー交易と交流を中心としてー (下)』	共編著	2008年11月	岩田書院	榎森 進 小口雅史 澤登寛聡編	総頁 555 頁 中「課題と梗概」15~30 頁
「アイヌ民族の前近代史学習の要点」	単著	2009年3月	『歴史地理教育』742号		16~23 頁
「北東アジア史の中のアイヌ民族」	単著	2009年5月	『歴史地理教育』744号		84~89 頁
Bb					
「ロシア科学アカデミー人類学・民族学博物館所蔵品についてー主にピョートル大帝治世のコレクションと北方民族関係資料を中心にー」	単著	2007年3月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター刊『アジア流域文化論研究Ⅲ』		63~74 頁
『仙台市史・通史編6・近代1』	共著	2008年3月	仙台市	仙台市史編さん室	総頁 513 頁 中56~69 頁
C					
「ユーカラの歴史性を考える」	単著	2005年10月	『アイヌの歴史と物語世界』	札幌大学ペリフェリア・文化研究所	29~39 頁 155~159 頁

「13～19 世紀における列島北方地域史とアムール川流域文化の相互関連に関する研究」	共著	2006 年 3 月	13～19 世紀における列島北方地域史とアムール川流域文化の相互関連に関する研究 (科学研究費補助金・基盤研究 (B) (2) 研究成果報告書)。	東北学院大学文学部教授・榎森進 (研究代表者)	総頁 233 頁
「アイヌ民族史をめぐる歴史科学の成果を活かす」	単著	2008 年 3 月	『2006 年度・北海道平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報』	北海道平取町立アイヌ文化博物館	57～62 頁
D 『仙台市史, 資料編 8・近代現代 4, 政治・行政・財政』	共著	2006 年 9 月	仙台市	仙台市史編さん委員会	4～55 頁
「歴史からみたアイヌ民族—小林よしのり氏の『アイヌ民族』否定論を批判する」	単著	2009 年 10 月	『部落解放』 620 号		20～24 頁
F (推薦文) 「どこから読んでも刺激が与えられる歴史書」	単著	2005 年 6 月	清文堂出版 『日本海域歴史大系』 全 5 巻。宣伝パンフ。	推薦文執筆者: 京都府立大学名誉教授 門脇禎二 立命館大学教授 大山喬平 東北学院大学名誉教授 榎森 進	1 頁
G 「アイヌ民族における狩猟—歴史学の視点から—」	発表	2005 年 6 月	民俗学研究会 仙台市・三井アーバンホテル		
「奴児干都司とアイヌ民族」	発表	2005 年 11 月	国際シンポジウム「ヌルカン永寧寺碑文と中世の東北アジア」 会場: 北海道大学		
「13 世紀におけるモンゴル軍とアイヌ民族の戦い—その歴史的意味について—」	発表	2006 年 8 月	ムンフテンゲル研究 国際学術大会, 会場: モンゴル国立大学		
「これからのアイヌ史研究にむけて」	発表	2008 年 6 月	北海道大学アイヌ・先住民研究センター主催 「夏季シンポジウム: アイヌ研究の現在と未来; 第 1 部」。会場: 北海道大学学術交流会館		
「中世以降の北方世界—アイヌの歴史と文化—」	講演	2008 年 7 月	東北歴史博物館主催 「平成 20 年度特別展: 古代北方世界に生きた人々—交流と交易—」での講演。会場: 東北歴史博物館講堂。		

『等質な日本文化』という虚構—先住民・アイヌ民族の視点から—	発表	2009年10月	国際歴史学会日本委員会・同韓国委員会主催「日韓歴史家会議」, 会場：韓国済州島, SHINE VILLE RESORT。		
--------------------------------	----	----------	--	--	--

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(B)(2)	2002～2005年度	共同・研究代表者	13～19世紀における列島北方地域史とアムール川流域文化の相互関連に関する研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007～2009年度	共同・研究代表者	15～19世紀, 列島北方地域とアムール川最下流域の諸民族との交流に関する研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1963年4月～	歴史学研究会会員
1980年4月～	北海道上ノ国町史跡整備検討委員会委員
1985年4月～	北海道函館市特別史跡五稜郭跡保存整備委員会委員
1990年12月～	北海道・東北史研究会副会長
1992年9月～	東北史学会評議員
1993年10月～	地方史研究協議会委員
1994年4月～	仙台市史編さん調査分析委員
1996年4月～	青森県史編さん特別専門委員

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	楠 義彦	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	ティーチング・アシスタントの指導	2002年4月～2009年12月		学部の演習と講読において院生をティーチング・アシスタントとして指導した。			
	個別の研究指導	2002年4月～2009年12月		オフィスアワーを設けて、学生に個別の研究指導を行なった。			
	授業に学生をひきつける工夫	2005年2月, 2006年2月 2007年2月, 2008年2月 2009年2月		学生制作のレポートをCD-ROMにまとめる指導を行なった。			
	マルチメディア機器の使用	2006年4月～2009年12月		パワーポイントを用い、ヴィジュアルな資料を提示した。			
	工夫して「学生による授業評価」を行う	2007年4月～2009年12月		既定の質問項目につけ加えて、さらに質問の意図を詳細に説明して行なっている。			
	パワーポイントを利用	2007年4月～2009年12月		授業のまとめをスライドで提供することにより学生のイメージを明確にした。			
	授業の要点をまとめたプリントを配布する	2008年4月～2009年7月		詳細なプリントを資料とともに配布している。			
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2009年4月～12月		毎回授業の冒頭で、前回までの復習とその回の概略を説明している。			
2	ワークシートの作成	2005年1月～2009年12月		コンピューターを用いて作業するワークシート(エクセルファイル)を作成し、学生に配布した。			
	補助教材の作成	2006年4月～2009年12月		外国語の資料を日本語に翻訳したものを中心に教材を配布した。			
3	「キャリア正課教育の目標と課題」	2008年7月		『大学時報』(日本私立大学連盟) No. 321, 44～49頁			
4	教育実習校での訪問指導	2002年5月～2009年6月		実習生の状況を把握し、改善点についてアドバイスした。			
	博士後期課程の院生の海外資料収集を指導	2004年8月		院生に同行し、イギリスの図書館や文書館で実際に資料収集させた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	『歴史の誕生とアイデンティティ』	共著	2005年3月	日本経済評論社	高田 実 鶴島博和	177～207頁	
	「近世イングランドにおける政治的弱者の研究」	単著	2006年3月	科学研究費補助金基盤研究一般(C)(2)研究成果報告書(課題番号15520456)		1～51頁	

『ソシアビリテの歴史的諸相ー古典古代と前近代ヨーロッパー』	共著	2008年3月	南窓社	高橋秀樹 清宮 敏 安井 萌 新保良明 阪本 浩 松本宣朗 鶴島博和 有光秀行 鈴木道也 畑奈保美 小川知幸 小野善彦 ◎楠義彦 山本文彦	214~228頁
Bb 「文学部歴史学科におけるキャリア支援教育ー「就職の基礎」の〈解説〉を中心にー」	単著	2006年3月	『教育研究所報告集』第6集		13~22頁
「Visitation Articles における魔術ー魔女狩りと国教強制ー」	単著	2007年3月	『ヨーロッパ文化史研究』第8号		1~36頁
G 「交流する力」		2005年10月	東北学院大学文学部歴史学科公開講座(東北学院大学)		
「近世ヨーロッパの国家と社会」趣旨説明		2006年12月	東北学院大学ヨーロッパ文化研究所公開講演会		
「魔女から見る近世ヨーロッパ」		2006年12月	東北学院大学ヨーロッパ文化研究所公開講演会		
「新しい時代の始まりと宗教改革」趣旨説明		2008年12月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開講演会		
「エリザベス時代の国教強制と地震」		2008年12月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開講演会		
「1536-37年イングランド北部諸州の乱とその歴史化」		2009年6月	日本西洋史学会第59回大会(専修大学)ミニシンポジウム		
「16・17世紀における戦争・反乱と民衆」趣旨説明		2009年11月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開講演会		
「恩寵の巡礼(1536-37年)と民衆」		2009年11月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開講演会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究一般(C) (2)	2003～2005 年度	個別（研究代表者）	近世イングランドにおける政治的弱者の研究 (課題番号 15520456)
文部科学省オープンリサーチセンター整備事業	2007～2011 年度	分担	「ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容」（代表：渡辺昭一）を事業名とする研究プロジェクトにおいて、研究を行っている。
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1986 年 8 月～	東北史学会会員		
1986 年 8 月～	西洋史研究会会員		
1988 年 5 月～	日本西洋史学会会員		
2008 年 10 月～	東北史学会理事		

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	熊谷 公男	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	飛鳥・奈良でのゼミ合宿 (研修旅行) の実施	1983 年度～	ゼミの学生の日本古代史についての勉学意欲をかきたてるため、毎年、5日から1週間程度の関西方面への研修旅行を実施している。				
	講義でのプリントの配布	2000 年 4 月～	授業の要点をまとめたプリントと関係資料のプリントをそのつど配布して授業を行っている。				
2	『蝦夷の地と古代国家』〈日本史リブレット〉(山川出版社), 全 110 頁	2004 年 3 月	古代蝦夷と古代国家の交流を概観し、用語解説を付す。高校の副読本や大学のテキスト向き。				
4	カルチャーセンター講師	2005 年 3 月 5 日	朝日カルチャーセンター・横浜で「古代天皇制の成立」と題する講義を行った。				
	多賀城市文化財講演会講師	2005 年 7 月 2 日	多賀城市埋蔵文化財調査センターで「多賀城創建の意義」と題する講演を行った。				
	東アジアの古代文化を考える会講演会講師	2005 年 7 月 9 日	豊島区生活産業プラザで「5～6 世紀の倭と栄山江流域との交流」と題する市民向けの講演を行った。				
	高等学校での出張講義講師	2006 年 5 月 27 日	宮城県宮城野高等学校で「歴史学の世界」と題する講義を行った。				
	高等学校での出張講義講師	2006 年 7 月 5 日	山形県立鶴岡中央高等学校「聖徳太子と歴史研究」と題する講義を行った。				
	高大連携特別授業講師	2006 年 9 月～2007 年 1 月	宮城県と東北学院大学が共同で実施する高大連携特別授業 (会場は本学) で、「日本国の誕生」と題する授業を担当している。				
	歴史学科公開講座講師	2006 年 10 月 14 日	東北学院大学で「古代日本と中国王朝—遣唐使をめぐるヒトとモノ—」と題する講義を行った。				
	東アジアの古代文化を考える会講演会講師	2007 年 1 月 27 日	豊島区生活産業プラザで『日本書紀』と即位儀礼」と題する市民向けの講演を行った。				
	高等学校での出張講義講師	2007 年 6 月 23 日	青森県立八戸南高校で「聖徳太子と歴史研究」と題する講義を行った。				
	福岡市史講演会講師	2007 年 8 月 25 日	福岡市博物館で「5～6 世紀の日韓交流と筑紫」と題する講演を行った。				
	歴史学科公開講座講師	2007 年 9 月 15 日	東北学院大学で「古代の皇位継承と女帝」と題する講義を行った。				
	仙台市地底の森ミュージアム・ボランティア養成講座講師	2007 年 12 月 9 日	仙台市地底の森ミュージアムで「蝦夷の朝貢と服属儀礼」と題する講義を行った。				
	高等学校での出張講義講師	2007 年 12 月 12 日	山形城北高校で「聖徳太子と歴史研究」と題する講義を行った				

東アジアの古代文化を考える会講演会講師	2008年6月22日	豊島区生活産業プラザで「古代蝦夷総論－蝦夷(エミシ)とは何か－」と題する講演を行った。
歴史学科公開講座講師	2008年9月4日	東北学院大学で「『壬申の乱』を読む」と題する講義を行った。
高等学校での出張講義講師	2008年9月7日	青森県立青森戸山高校で「聖徳太子と歴史研究」と題する講義を行った。
現職教員研修セミナー講師	2008年12月6日	東北学院大学で「古代東北史研究の新しい動向」と題する講義を行った。
高等学校での出張講義講師	2009年2月17日	東北学院高校で「聖徳太子と歴史研究」と題する講義を行った。
高等学校向けの模擬授業講師	2009年4月24日	東北学院大学で仙台高校の生徒向けに「聖徳太子と歴史研究」と題する講義を行った。
せんだい豊齢学園講座講師	2009年6月12日	せんだい豊齢学園で「多賀城成立前後の古代宮城」と題する講義を行った。
高等学校での出張講義講師	2009年11月5日	多賀城高校で「多賀城とその時代」と題する講義を行った。
歴史学科公開講座講師	2009年11月7日	東北学院大学で「日本の古代官僚の服飾と儀礼」と題する講義を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『列島の古代史1 古代史の舞台』	共著	2006年7月	岩波書店	上原真人 白石太一郎 吉川真司 吉村武彦編 白石太一郎 熊谷公男著	252～304頁
Ba 5世紀 倭・百済関係と 羅済同盟	単著	2006年8月	『百済研究』第44輯		171～188頁
Bb いわゆる「任那四県割讓」の再検討	単著	2005年3月	『東北学院大学論集』 歴史学・地理学第39号		19～73頁
日本百済大寺の造営と東アジア	単著	2006年3月	『東北学院大学論集 歴史と文化』第40号		233～255頁
蝦夷移配策の変質とその意義	単著	2007年1月	『九世紀の蝦夷社会』 高志書院		7～47頁
五世紀の倭・百済関係と羅済同盟	単著	2007年3月	『アジア文化史研究』 第7号		1～15頁

多賀城創建再考	単著	2007年5月	平成15～18年度科学研究費補助金基盤(B)(研究代表者辻秀人)研究成果報告書『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』	418～442頁
城柵と城司—最近の「玉造等五柵」に関する研究を手がかりとして—	単著	2007年12月	『東北学院大学東北文化研究所紀要』第39号	1～34頁
五・六世紀の日韓交流と筑紫	単著	2008年2月	『市史研究 ふくおか』第3号	2～15頁
金官国の滅亡をめぐる国際関係	単著	2008年10月	『百済と倭国』高志書院	201～233頁
城柵論の復権	単著	2009年5月	『宮城考古学』第11号	51～66頁
律令国家形成期における柵戸と関東系土師器	単著	2009年6月	『古代社会と地域間交流』六一書房	163～191頁
古代蝦夷と仏教	単著	2009年6月	『歴史と地理』第625号, 山川出版社	1～15頁
古代奥羽の蝦夷支配	単著	2009年10月	『半沢史学』第25号	1～7頁
D 『日本の歴史03 卷大王から天皇へ』(講談社学術文庫)	単著	2008年12月	講談社	全394頁
G 日本百済大寺の造営と東アジア		2005年3月	国際研究集会「東アジア6～7世紀仏教寺院塔基壇の考古学的研究討論会」於:中国北京市中国社会科学院考古研究所	
古代蝦夷文化の形成と特質		2005年11月	史学会考古学部会シンポジウム「蝦夷地と琉球」於:東京大学本郷キャンパス	
5世紀の倭・百済関係と羅済同盟		2006年5月	韓国大田広域市国立忠南大学校百済研究所公開シンポジウム	
金官国の滅亡をめぐる国際関係		2007年10月	オープンリサーチセンター国際シンポジウム「百済と倭国を考える—地域社会と交流—」於:東北学院大学	
元慶の乱と北方社会		2007年12月	東北学院大学東北文化研究所公開学術シンポジウム「古代・中世の北奥と北方世界」	

東北からみる地域間交流の諸問題－柵戸をめぐる問題を中心として－	2008年4月	国士舘大学考古学研究室40周年記念シンポジウム「古代社会と地域間交流－土師器からみた関東と東北の様相」於：国士舘大学
古代東北城柵の諸類型	2008年5月	宮城県考古学会10周年記念大会シンポジウム「城柵とは何か」於：東北歴史博物館
古代の奥羽と蝦夷（エミシ）	2008年11月	米沢史学会公開講演会，於：山形県立米沢女子短期大学
近年の古代史研究の論点	2009年6月	国立歴史民俗博物館共同研究「古墳時代史像の再検討」第1回研究会，国立歴史民俗博物館

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究C	2003～2006年度	共同・研究分担者	古代東北，北海道におけるモノ，人，文化交流の研究
私立大学学術研究高度化推進事業・オープンリサーチセンター整備事業	2003～2006年度	共同・研究分担者	アジア流域文化論
科学研究費補助金基盤研究(B)	2007～2009年度	共同・研究代表者	新発見資料と中心とした日韓の文化交流史の研究
科学研究費補助金基盤研究(B)	2008～2010年度	共同・研究分担者	交易と交流の深化と断絶過程からみた，津軽海峡を挟む古代北方世界の实態的研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1996年4月～2008年3月	青森県史編さん古代部会専門委員
2001年8月～2008年3月	横手市史編さん古代部会専門委員
2001年10月～2005年9月	東北史学会理事
2005年9月～	福岡市史編さん古代専門部会専門委員
2008年3月～	東松島市発掘調査指導委員

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	香坂 昌紀	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	演習実施にあたっての配慮			2009年4月～12月	<p>現行カリキュラムが4年目を迎え、その問題点が明らかになってきた。いずれカリキュラム改正によってカバーされるにせよ、今年度は問題点をカバーするために、多少の工夫や変更を行った。即ち、従来通年で行ってきた「史料」読解力養成のための「講読1(二年対象)」に代わって、半期2単位で「基礎演習」がおかれたが、史料講読には用いず、論文などの「緻密な論理展開＝固い日本語」を理解する言語能力を涵養することを目的としていた。従って、これまで宮崎市定氏の「雍正帝」をテキストとし、学生諸君がそれまで学んだことがない中国の皇帝の種々の面に触れることによって、歴史に対する興味や関心を刺激することを考えた。しかし、この現行カリキュラムをうけた学部生が卒業論文を書くにしても、漢文史料読解力が相当に不十分であり、論文演習を選択する学生も大きく減ってきた。このため、今年は「雍正帝」をテキストとして用いるにしても、帝の即位から13年間、帝が行った諸改革について、その背景や意義等に関して、出来るだけ漢文史料をプリントで配布して読解と解釈の例を示し、漢文史料の面白さの一端を知ってもらえるように努力した。</p>		

<p>4 宮城県民大学大学開放講座 「戦いの歴史2」『明清交替と清朝の中国支配 について』</p>	<p>2007年6月6日</p>	<p>1644年、明王朝は李自成農民軍の北京入城と、最後の皇帝崇禎帝の自殺によって滅びた。一方、ヌルハチの旗挙げ以降、満州地方の明の拠点を相継いで攻略し勢力を増大してきた満清勢力は、当時山海関にまで迫って呉三桂率いる明軍と対峙していたが、清軍は呉三桂を味方につけ、彼を先導として北京に入り、清朝が明に代わって全中国を支配することを宣言した（入関定鼎）。この明清交替に先立ち、日本にあっても織豊政権に代わって徳川幕府の支配が成立するなど、17世紀前半の東アジア世界では大きなうねりが進行していた。</p> <p>北京に入った清朝は、ただちに全国平定にとりかかり、各地に猖獗を極めていた「土匪」（＝没落農民や盗賊などからなる略奪集団＝農民軍）を潰しながら南下した。中国南部には明の皇族が王として各地に配置されていたが、彼ら諸王が相継いで明朝の再興のため起兵した（南明諸王）。しかし、統一戦線をくめず、内部での権力争いも絶えなかったため、南下する清軍に対抗することはできなかった。その中で、明朝の復興のために最後まで台湾に拠って抵抗したのが、鄭成功とその一族からなる勢力である。南明勢力を壊滅する清軍の主力をなしたのは、清朝側についた呉三桂らの漢人軍閥であり、彼らは南明平定の先兵として活躍し、到着した地域にあつて藩王の地位が与えられ、半独立的軍閥として地域支配を実現していた。</p> <p>台湾鄭氏勢力と呉三桂らの三藩勢力を潰すことによって、清朝は全中国に対する直接支配を実現したが、入関以後、およそ40年ほどかかったことになる。</p> <p>今回は明清交替と清朝支配の確立課程を中心に、少数異民族による征服王朝としての清朝政権について、重要な役割を果たした人物のあり方を通して考察した。</p>
<p>オープンキャンパス歴史学科東洋史分野「清代の大運河と江南市鎮——清代光緒作成『清代京杭運河全図』を中心として」</p>	<p>2008年</p>	<p>私はオープンリサーチ研究メンバーの一人として、江南市鎮と大運河関係の史跡を数年間調査した。その調査報告は「アジア流域文化論研究Ⅰ・Ⅱ」に掲載した。この現地調査を踏まえて、江南の商品生産や商業の拠点となった水郷の古い市鎮と、その富を北京へ運ぶ大運河について調査をし、それを踏まえて話しをした。なお、上記「報告」も配布プリントに入れておいた。</p>

<p>歴史学科第 11 回秋期公開講座「第一次史・資料からみた“歴史像”」『清代中期，嘉慶白蓮教乱について』</p> <p>歴史学科第 12 回春期公開講座「お金と経済・流通をめぐる歴史と習俗」『乾隆五十四年，湖広漕船土宜を中心に』</p> <p>清代の漕船土宜 — 乾隆五十四年湖北漕船土宜案を中心に —</p>	<p>2008 年</p> <p>2009 年 6 月</p> <p>2009 年 6 月 10 日</p>	<p>「清代中期，嘉慶白蓮教乱について」この秋期講座の総合タイトルからいえば，清代の文献資料の多くは，二次，三次といった編纂ものを中心となって研究がなされてきた。しかし，近年，第一次資料である各種檔案類が，あるいは書物として刊行されたり，実地で調査することが可能となった。よって，この講演でも，編纂資料である「実録」とその基になった檔案類とを資料として紹介したが，一般のお客さんに，原史料を丹念に精読して解説することは，時間的にも無理であり，取り上げた一部檔案を除いた史料は，配布資料に「おみやげ」として添付した。なお，内容は嘉慶元年の一斉蜂起に先立つ乾隆五十九年の陝西・四川・湖北の教団弾圧に，元年の一斉蜂起をもたらす重要な鍵があったこと，及び，嘉慶二年段階で，教団は清朝支配を否定し，漢民族の国家を形成するという，政治的構想を明示していたなど，従来の研究を一步でも進める話も出来たと考えている。</p> <p>文学部歴史学科平成 21 年度開放講座「お金と経済・流通をめぐる歴史と習慣」，東北学院大学</p>
---	--	--

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所，発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
<p>Bb</p> <p>「明清時代の江南市鎮における商品の生産と流通」(第一次水郷古鎮調査報告 2003 年度)</p> <p>「同上(その 2) 第二次水郷江南古鎮調査報告(2005 年度実施) 付関連資料簡介」</p> <p>清代の漕船土宜に関する一考察 — 乾隆五十四年，湖広漕船土宜案を中心に —</p>		<p>2005 年 3 月</p> <p>2006 年 3 月</p> <p>2009 年</p>	<p>『アジア流域文化論研究 I』東北学院大学オープン・リサーチセンター刊</p> <p>『アジア流域文化論研究 II』東北学院大学オープン・リサーチセンター刊</p> <p>東北学院大学論集「歴史と文化」44 号</p>		<p>188~199 頁</p> <p>83~102 頁</p> <p>1~25 頁</p>

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

<p>2006 年</p> <p>2006 年 4 月~6 月</p>	<p>東北学院創設 120 周年記念事業 本学図書館貴重書展示会「ヨーロッパ人の見た東アジア世界」企画・選書・解説パンフレット作成等。(5 月 中央図書館，8 月 泉キャンパス分館)</p> <p>東北歴史博物館 特別展示「中国・美の十字路展」 実行委員会委員</p>
-------------------------------------	---

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	佐川 正敏	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	アジア的視点に立った思考・訓練・習熟のための教育実践	1999年8月～2007年9月	毎年3月や9月にゼミの院生と学生が中国での野外調査やその報告書作成などに参加。				
	学際的学習・研究のための基礎的教育実践	2000年8月～2007年8月	発掘で奈良教育大学長友研究室などと連携して年代測定学などの他分野の科学を学習				
	地域と連携した教育実践	2000年8月～2009年8月	考古学実習Ⅰとタイアップしてゼミ生が地域に合宿して、発掘や資料調査を行う。				
	教員自身が撮影した映像により講義理解を促進	2007年4月～2009年12月	power・point やヴィジュアル映像を積極的に活用				
	演習におけるプレゼンテーションの仕方の指導	2007年4月～2009年12月	power・point による発表やレジュメ作成の方法についての指導				
	文科省組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院GP）「遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓協同推進」による大学院生の国内外での学外実習	2007年10月～2009年12月	大崎市教委と連携し、伏見廃寺跡で学外実習として先端機器による遺跡探査技術を習得（2008年3月・12月、2009年12月）。韓国（2008年3月）と中国（2008年10月、2009年9月）において古代都城・寺院・陵墓遺跡の調査技能を中心とする学外実習を展開し、大学院生と現地研究者との学術交流を促進させる。				
4	地域社会に対する教育上の貢献「本学歴史学科公開講座」で講演	2006年10月21日、2008年10月25日	「東アジアの都と寺院」および「法隆寺再建論の現在」と題する講演を行う。				
	本学文学部主催「現職教員研修セミナー」の講師	2006年12月2日	「東北アジアの旧石器・古人類研究の最前線」と題する講演を本学で行う。				
	学部実習科目（考古学実習Ⅰ）と大学院GPによる学外実習のフィールドワーク・講演会の成果が、新聞などで取り上げられた	2007年8月、2008年3月・12月、2009年2月・8月					
	大学院GPによる日中韓研究者による公開講演会の主催	2008年3月、2009年2月	2007年度は「東アジアの古代文明・都市」、2008年度は「東アジアの古代寺院」について				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・略 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A							
『東アジア 6～7 世紀仏教寺院塔基壇の考古学的研究』		共著	2005年3月	東北学院大学オープン・リサーチ・センターほか2機関	◎佐川・安家瑤・朱岩石共編	総365頁	
「1 山田寺の創建瓦」『古代瓦研究Ⅱ』		共著	2005年3月	独国立文化財機構 奈良文化財研究所	◎佐川・西川雄大共著	3～18頁	
「4-b 最初の土器」『日本の考古学（上巻）』		単著	2005年12月	学生社		187～195頁	
『日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究Ⅰ』		共著	2006年11月	六一書房	◎佐川・鈴木雅共編	総136頁	

古代日本と百済の木塔基壇の構築技術および舍利容器・荘嚴具安置形式の比較検討	単著	2008年1月	『扶餘王興寺址出土舍利容器の意味』韓国・国立扶餘文化財研究所		61～113頁
東アジアの大型重量石器を考える	単著	2008年3月	『考古古代史民族学論叢(芹沢長介先生追悼論文集)』六一書房		167～187頁
「4 中国における造瓦技術の変遷」『古代東アジアにおける造瓦技術の変遷と伝播』	単著	2009年3月	奈良文化財研究所		261～286頁
『アークス(文部科学省・大学院教育改革支援プログラム「遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓協同推進」成果報告書)Ⅰ:2007-2008年度リサーチ・プロジェクト&オープン・リサーチ編』	共著	2009年3月	東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻大学院GP委員会	◎佐川・辻秀人・政岡伸洋・七海雅人共編	総47頁
『アークス(文部科学省・大学院教育改革支援プログラム「遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓協同推進」成果報告書)Ⅱ:2007-2008年度学外実習編』	共著	2009年3月	東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻大学院GP委員会	◎佐川・辻秀人・政岡伸洋・七海雅人共編	総99頁
Ba					
「日本古代木塔基壇の構築技術復原と心礎設置形式の変遷に関する研究」(韓国語)	単著	2006年8月	『百済研究』44, 韓国・国立忠南大学校百済研究所		261～286頁
「泥河湾盆地幾処旧石器時代文化遺跡光積光測年」(英語・中国語)	共著	2009年8月	『人類学学報』28巻3号, 中国科学院古脊椎動物与古人類研究所	◎長友恒人 下岡順直 波岡久恵 佐川正敏 衛奇	276～284頁
Bb					
「唐代から明代までの造瓦技術の変遷と変革点描」	単著	2005年3月	『アジア流域文化論研究』Ⅰ, 東北学院大学オープン・リサーチ・センター		181～187頁
「第4の動物を探せー中国内モンゴル新石器時代趙宝溝文化期の尊形土器動物文再考ー」	単著	2005年3月	『アジア文化史研究』5, 東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻,		1～10頁
「宮城県栗原市高清水仰ヶ返り地藏前遺跡の調査研究Ⅰ」	共著	2005年11月	『東北学院大学東北文化研究所紀要』37, 東北学院大学東北文化研究所	◎佐川・藤原二郎ほか5名が共著	121～143頁
「宋・金時代における「粘土円筒上方范型押圧施文による軒平瓦」の発見」	単著	2006年3月	『アジア文化史研究』6, 東北学院大学文学研究科アジア文化史専攻		55～68頁

「日本古代木塔基壇の構築技法と地下式心礎、および東アジア的考察」	単著	2006年3月	『東北学院大学論集・歴史と文化・特集：東アジア6～7世紀における勅願寺高層木塔の考古学的比較研究』40, 東北学院大学学術研究会	本誌特集は◎佐川正敏・安家瑤・朱岩石が共編	126～143頁
「賀籠沢遺跡」	共著	2006年5月	『宮城考古学』8, 宮城県考古学会	◎佐川・鈴木雅・安倍奈々子が共著	251頁
「宮城県栗原市高清水「仰ヶ返り地蔵前遺跡」の調査研究Ⅱ」	共著	2006年11月	『東北学院大学東北文化研究所紀要』38, 東北学院大学東北文化研究所	◎佐川・藤原二郎が共著	55～68頁
「中国河北省張家口陽原県棗園遺跡試掘調査報告」	共著	2007年3月	『アジア文化史研究』第7号, 東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻	◎佐川・衛奇・大場正善・安倍奈々子・高橋潤が共著	1～20頁
「中国造瓦技術の一大変革・「粘土紐巻き作り」から「粘土板巻き作り」への転換についての研究」	単著	2007年3月	『アジア流域文化論研究』Ⅲ, 東北学院大学オープンリサーチセンター		57～62頁
「賀籠沢遺跡」	共著	2007年5月	『宮城考古学』9, 宮城県考古学会	◎佐川・大場正善・安倍奈々子が共著	198頁
東北地域の寺院造営―多賀城創建以前の寺院―	単著	2008年3月	『天武・持統朝の寺院造営―東日本―』帝塚山大学考古学研究所		1～35頁
「仰ヶ返り地蔵前遺跡」	共著	2008年5月	『宮城考古学』10, 宮城県考古学会		208頁
「宮城県栗原市高清水「仰ヶ返り地蔵前遺跡」の調査研究Ⅲ」	共著	2008年12月	『東北文化研究所紀要』第40号, 東北学院大学東北文化研究所	◎佐川・藤原二郎が共著	47～70頁
「東アジアにおける仙台市与兵衛沼窠跡の位置づけ」	単著	2009年3月	『アジア文化史研究』第9号, 東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻		1～18頁
「重慶調査記Ⅰ」	単著	2009年3月	『アジア流域文化研究』Ⅴ, 東北学院大学アジア流域文化研究所		7～20頁
「宮城県栗原市高清水「仰ヶ返り地蔵前遺跡」の調査研究Ⅳ」	共著	2009年12月	『東北文化研究所紀要』第41号, 東北学院大学東北文化研究所	◎佐川・藤原二郎・瀬戸秀一が共著	1～22頁

<p>C 「第Ⅲ章 大きく変わる石器文化, 公開講演要旨, 解説: 土器と弓矢の出現と普及」</p>	<p>共著</p>	<p>2006年10月</p>	<p>『旧石器から日向へ』(第14回企画展図録)山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館</p>	<p>◎佐川・鈴木雅が共著</p>	<p>43～51・55・56・79～82頁</p>
<p>G (シンポジウム)「北魏代から明代までの造瓦技術の変遷と変革点描」</p>	<p>単著</p>	<p>2005年5月</p>	<p>『国際シンポジウム: 中世北東アジアの動態—ひと・もの・わざ—』菊池俊彦・白杵勲主催(科研), ウラジオストック市ロシア科学アカデミー極東分院</p>		
<p>(学会発表)「宮城県賀籠沢遺跡2005年度発掘調査の成果」</p>	<p>共著</p>	<p>2005年11月</p>	<p>『第19回東北日本の旧石器を語る会』江別市・北海道埋蔵文化財センター</p>	<p>◎佐川・鈴木雅・安倍奈々子が共同発表</p>	
<p>(学会発表)「中国の旧石器考古学の動向」</p>	<p>共著</p>	<p>2005年11月</p>	<p>『第19回東北日本の旧石器を語る会』江別市・北海道埋蔵文化財センター</p>	<p>◎佐川・大場正善が共同発表</p>	
<p>(シンポジウム)「東北アジアの視座から奴児干永寧寺出土瓦を考える」</p>	<p>単著</p>	<p>2005年11月</p>	<p>『シンポジウム: スルカン永寧寺碑文と中世の東北アジア』菊池俊彦・白杵勲主催(科研), 札幌市・北海道大学</p>		
<p>(学会発表)「宮城県賀籠沢遺跡2005年度発掘調査の成果」</p>	<p>共著</p>	<p>2005年12月</p>	<p>『平成17年度宮城県遺跡調査成果発表会』宮城県考古学会主催, 多賀城市・東北歴史博物館</p>	<p>◎佐川・鈴木雅・安倍奈々子が共同発表</p>	
<p>(学術講演会)「日本古代木塔基壇の構築技法と地下式心礎, および東アジア的考察」</p>	<p>単著</p>	<p>2006年5月</p>	<p>『韓国忠南大学校百済研究所公開講座』, 韓国大田市忠南大学校百済研究所</p>		
<p>(学会発表)「日本古代木塔基壇の構築技法と地下式心礎, および東アジア的考察」</p>	<p>単著</p>	<p>2006年5月</p>	<p>『2006年度宮城県考古学会総会・研究発表会』塩竈市エスプホール</p>		
<p>(シンポジウム)「日本北部旧石器晩期中葉文化」</p>	<p>共著</p>	<p>2006年7月</p>	<p>『2006年吉林大学考古学国際学術シンポジウム: 東亜旧石器考古』中国吉林省長春市・吉林大学</p>	<p>◎佐川・大場正善・安倍奈々子が共同発表</p>	
<p>(シンポジウム)「唐代から明代までの造瓦技術の変遷と変革」</p>	<p>単著</p>	<p>2006年7月</p>	<p>『国際シンポジウム: 東北アジア遼金蒙元代の都市』吉林大学と中央大学前川要主催(科研), 中国吉林省長春市・吉林大学</p>		

(講演)「東アジアの都と寺院」	単著	2006年10月	『東北学院大学歴史学 科公開講座』東北学院 大学	
(学会発表)「日本東北地区旧石器／縄 文時代過渡階段的石器組合と技術之演 変」,『中国古人類－旧石器專業委員会 成立大会』	単著	2006年11月	『第1回中国古人類－ 旧石器專業委員会』中 国福建省三明市	
(講演)「周口店と北京原人遺跡」	単著	2006年11月	仙台市地底の森 ミュージアム	
(シンポジウム)「文化財を保存する 様々な技術－縄文人の技に挑む－」	共著	2006年11月	文化庁主催, 仙台メ ディアテーク	◎佐川・白 鳥良一・太 田昭夫と共 同
(学会発表)「宮城県賀籠沢遺跡第4次 発掘調査の成果」	共著	2006年12月	『平成18年度宮城県遺 跡調査成果発表会』宮 城県考古学会主催, 多 賀城市・東北歴史博物 館	◎佐川・大 場正善・安 倍奈々子が 共同発表
(学会発表)「宮城県仰ヶ返り地蔵前遺 跡第二次調査の成果」	共著	2006年12月	『平成18年度宮城県遺 跡調査成果発表会』宮 城県考古学会主催, 多 賀城市・東北歴史博物 館	◎佐川・藤 原二郎が共 同発表
(シンポジウム)「東北地域の寺院造営」	単著	2007年10月	『シンポジウム・天 武・持統朝の寺院造営 －東日本－』帝塚山大 学考古学研究所	
(講演)「東アジアから見た与兵衛沼窯 跡」	単著	2007年12月	『仙台市教育委員会文 化財課主催公開講演 会』仙台市博物館	
(学会発表)「仰ヶ返り地蔵前遺跡」	共著	2007年12月	『平成19年度宮城県遺 跡調査成果発表会』宮 城県考古学会主催 仙 台市博物館	
(シンポジウム)「中国における造瓦技 術の変遷」	単著	2008年3月	『奈良文化財研究所・ 中国社会科学院考古 研究所主催国際学術 検討会・四至十世紀東 亜制瓦技術研究』北京 市・中国社会科学院考 古研究所(科研)	
(学会発表)「Comparative Study on Hunting Tools in the Paleolithic Asia」	(単著)	2008年6月	『第1回アジア旧石器 協会』ロシアアルタ イ・ロシア科学アカデ ミーシベリア分院考 古学研究所調査基地	
(学会発表)「仰ヶ返り地蔵前遺跡」	共著	2008年10月	『東北史学会』秋田大 学	◎佐川・瀬 戸秀一が共 同発表

(講演)「法隆寺再建論の現在」	単著	2008年10月	『東北学院大学歴史学科公開講座』東北学院大学	
(シンポジウム)「王興寺と飛鳥寺の伽藍配置・木塔心礎設置・舍利奉安形式の系譜」	単著	2008年11月	國學院大學文化講演会『古代文化の源流を探る—百濟王興寺から飛鳥寺へ—』	
(学会発表)「中国内蒙古赤峰市興隆溝遺跡の日中共同調査」	共著	2008年11月	『日本中国考古学会・研究発表』金沢大学	◎佐川・王巍・劉国祥・岡田康博ほか10名共同発表
(学会発表)「仰ヶ返り地蔵前遺跡」	共著	2008年12月	『平成20年度宮城県遺跡調査成果発表会』宮城県考古学会主催 仙台市博物館	◎佐川・藤原二郎がと共同発表
(シンポジウム)「中国における造瓦技術の変遷」	単著	2009年3月	『奈良文化財研究所・中国社会科学院考古研究所主催国際シンポジウム・古代東アジアにおける造瓦技術の変遷と伝播』奈良市・奈良文化財研究所(科研)	
(学会発表)「Preliminary Report on the Age of the Disappearance of the Datong Lake, and the Appearance of the Sanggan River, and Human Activities Based on OSL Dating and ¹⁴ C Dating at Hougou, Xigou and Youfang Sites in the Nihewan Basin, China」	共著	2009年10月	『北京原人第一頭蓋骨発見 80周年記念国際シンポジウム兼第2回アジア旧石器協会』北京・中国科学院古脊椎動物与古人類研究所	◎佐川・長友恒人・下岡順直・曹明明・衛奇が共同発表
(学会発表)「仰ヶ返り地蔵前遺跡」	共著	2009年12月	『平成21年度宮城県遺跡調査成果発表会』宮城県考古学会主催、多賀城市東北歴史博物館	◎佐川・藤原二郎・瀬戸秀一が共同発表
(シンポジウム)「8000年前の内モンゴルの生業を探る」	単著	2009年12月	『国際シンポジウム・草原の古代文化—モンゴル高原の考古学—』札幌学院大学	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
(財)高梨財団学術奨励金	2005年度	共同・研究代表者	仰ヶ返り地蔵前遺跡で東北最北の鎌倉時代の瓦窯跡2基を発見

文科省・組織的な大学院教育改革推進プログラム	2007～2009 年度	共同/ 佐川正敏：代表者 復原分野担当, 辻秀人：測量分野担当, 政岡伸洋：撮影分野担当, 七海雅人：データベース担当	プログラム名「遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓協同推進」, 東アジアの遺跡・遺物・資(史)料を対象に, 国内外で学外実習を展開し, また先端機器を使用する情報処理技能を大学院生に習得させ, 人材養成の強化を図る。
------------------------	--------------	---	--

IV 学会等及び社会における主な活動

1991 年 5 月～	日本考古学協会会員
1999 年～	日本中国考古学会会員
2000 年 10 月～	中国社会科学院考古研究所古代文明研究センター客員研究員
2002 年 4 月～	福島県南相馬(原町)市泉廃寺跡発掘調査指導委員会委員
2004 年 5 月～	宮城県考古学会総務幹事会代表
2004 年 5 月～	仙台市博物館協議会委員
2006 年 3 月～	中国内モンゴル赤峰学院紅山文化国際研究センター客員教授
2006 年 4 月～	福島県須賀川市上人壇廃寺跡確認調査指導部会委員
2007 年 4 月～	岩手県金ヶ崎町鳥海柵遺跡調査指導委員会委員
2008 年 6 月～	日本旧石器学会渉外委員・資格審査委員長
2009 年 10 月～	韓国瓦学会会員

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	佐藤 義則	大学院の授業 担当の有無	無	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要				
1 新聞記事のクリッピングを活用した参加型 授業の促進 毎回の授業における小テストの実施	2004年4月～2008年7月		「図書館学概論」の毎回の授業において、「図書館」または「情報」に関連する新聞記事の切り抜きと記事に対するコメントの提出を求め、学生による発表および教員による解説を行う時間を設けた。学生の社会や情報システムに対する関心を喚起する面で効果が得られた					
	2004年4月～2008年7月		授業時間の最後の10分～15分を、その回で取り上げたトピックに関する小テストにあて、学生の集中力の持続と重要事項の理解の促進につとめた					
	3 東海地区CSI事業報告会. II:次世代学術コンテンツ基盤の共同構築「大学における学術機関リポジトリの構築に向けて」における講演『研究・教育と学術機関リポジトリ:研究者の役割』 東北地区大学図書館協議会合同研修会における講演『学習支援と大学図書館』	2006年11月8日		教育, 研究プロセスにおけるデジタル化の進行に合わせた学術機関リポジトリの意義とその活用, および研究者に期待される役割について論じた				
		2008年7月18日		大学生の学習支援に関して, 米国や欧州で普及しつつあるラーニング・コモンズ等の動向およびその背景にある教育理論について解説し, これからの大学における教育と図書館のあり方について論じた				
4 三重大学学術機関リポジトリ (Miuse) における学習・教育, 研究のための統合的情報システム環境の形成 学校図書館のボランティア, 学校図書館巡回指導員及び司書教諭を対象とする学部授業の公開	2006年4月～2007年3月		eラーニングシステム Moodle, 電子シラバス等との連携システムを構築し, それぞれのシステムにおいて統合的検索を行えるようにシステムを整備した					
	2006年10月～2007年1月		三重大学の学校図書館支援事業の一環として, 講義『情報メディアの活用』を学校図書館ボランティア等に開放し, 学生とともに授業に参加していただき, 学校図書館の活性化と学生の意識向上を図った					
II 研究活動								
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
A 変わりゆく大学図書館	共著	2005年7月	勁草書房	逸村 宏 竹内比呂也 佐藤義則編	191～208頁			
	Ba 大学図書館の“サービス品質評価”を構成する局面 The dimensions that construct the evaluation of service quality in academic libraries	共著	2004年1月	情報メディア学会誌, No. 2	永田治樹 佐藤義則	1～15頁		
		共著	2004年7月	Performance Measurement and Metrics, Vol. 5, No. 2	H. Nagata Y. Sato S. Gerrard P. Kytoemaeki	53～65頁		

Evaluation of the university library service quality : analysis through focus group interviews	共著	2005 年 10 月	Performance Measurement and Metrics. Vol. 6, No. 3	Y. Sato H. Nagata P. Kytoemaeki S. Gerrard	183~193 頁
e カルチャー：歴史と文化のデジタル化	共著	2006 年 4 月	環境情報科学, Vol. 35, No. 1	亀岡孝治 佐藤義則	36~40 頁
ILL/DD in Japan across the turn of the century : Basic findings about NACSIS-ILL from 1994 to 2005	共著	2007 年 3 月	Progress in Informatics, No. 4	S. Tutiya H. Takeuchi Y. Sato H. Itsumura	1~21 頁
近年の NACSIS-ILL における看護文献の需要と供給：ログ分析の結果から	単著	2007 年 3 月	看護と情報, Vol. 14		69~76 頁
Bb 大学図書館の学校図書館支援事業	共著	2006 年 12 月	大学図書館研究, No. 78	中井えり子 伊東直人 佐藤義則	105~113 頁
図書館サービスにおける利用者調査の意義と方法	単著	2008 年 6 月	情報の科学と技術, Vol. 58, No. 6		273~277 頁
デジタル化環境下の書誌コントロール	単著	2008 年 10 月	現代の図書館, Vol. 46, No. 3		151~158 頁
図書館と GIS	単著	2009 年 11 月	情報の科学と技術, Vol. 59, No. 11		526~531 頁
C LibQUAL+の展開と図書館サービスの品質評価	単著	2004 年 6 月	カレントアウェアネス, No. 280		9~12 頁
公共図書館に対する市民の意識調査：英国, 米国における 2 つの調査の視点と方法	単著	2007 年 6 月	カレントアウェアネス, No. 292		14~19 頁
機関リポジトリの利用統計のゆくえ	単著	2008 年 6 月	カレントアウェアネス, No. 296		12~16 頁
Web の時代における書誌ユーティリティの現状と今後	単著	2009 年 6 月	図書館雑誌 Vol. 103, No. 6		380~383 頁
D 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究 (図書館) 中間報告：大学図書館の課題と新たな試み (文部科学省平成 17 年度「先導的大学改革推進委託事業」)	共著	2006 年 3 月	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科	佐藤義則 永田治樹 ほか	111 頁
今後の「大学像」の在り方に関する調査研究 (図書館) 報告：教育と情報の基盤としての図書館 (文部科学省「先導的大学改革推進委託事業」)	共著	2007 年 3 月	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科	佐藤義則 永田治樹 ほか	157 頁
電子情報環境下における大学図書館機能の再検討』(平成 16 年度~平成 18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 課題番号 16300075 研究成果報告書)	共著	2007 年 3 月	千葉大学文学部	佐藤義則 土屋 俊 ほか	210 頁

次世代目録所在情報サービスの在り方について (中間報告)	共著	2008年3月	国立情報学研究所	佐藤義則 竹内比呂也 加藤信哉 ほか	25頁
学術情報の取得動向と電子ジャーナルの利用度に関する SCREAL 調査報告 (電子ジャーナル等の利用動向調査 2007)	共著	2008年11月	学術図書館研究委員会	佐藤義則 竹内比呂也 倉田敬子 土屋 俊 ほか	251頁
SCREAL Report: Results of a Survey on Information Access and E-journal Usage of Researchers and Graduate Students, 2007.	共著	2008年11月	学術図書館研究委員会	佐藤義則 竹内比呂也 倉田敬子 土屋 俊 ほか	66頁
次世代目録所在情報サービスの在り方について (最終報告)	共著	2009年3月	国立情報学研究所	佐藤義則 竹内比呂也 加藤信哉 ほか	46頁
E 山形大学附属図書館サービス品質調査の報告	共著	2004年3月	山形大学附属図書館 報やまびこ, No. 52	佐藤義則 永田治樹	2~8頁
大学図書館の利用者教育とアウトカム評価	単著	2005年3月	館燈, No. 43		6~10頁
G Digital libraries in Japan	共著	2005年8月	The International Advanced Digital Library Conference in Nagoya	S. Tutiya H. Takeuchi Y. Sato H. Itsumura M. Kuriyama	
Technologies for digital content that enliven local community	共著	2005年8月	20th APAN Meeting in Taipei	H. Ono Y. Sato	
わが国の大学図書館政策に関する研究: 1990年代の動向を中心に	共著	2005年10月	2005年度日本図書館 情報学会/三田図書 館・情報学会研究大会	栗山正光 竹内比呂也 佐藤義則 逸村 裕 加藤信哉 松村多美子 土屋 俊	
ILL ログによる図書館関係構造の分析: 大規模データに対する対応分析とクラスター分析	共著	2005年10月	2005年度日本図書館 情報学会/三田図書 館・情報学会研究大会	佐藤義則 宮埜寿夫 竹内比呂也 土屋 俊	
Toward a successful relationship between PNC and APAN-eCulture	共著	2005年11月	PNC 2005 Annual Conference in Conjunction with PRDLA, ECAI at University of Hawaii at Manoa	Y. Sato T. Kameoka	

Data-Sharing and open access to Cultural Information: Trends, Issues and Future	単著	2006年8月	PNC 2006 Annual Conference in Conjunction with PRDLA, ECAI at Seoul University	
ILLの需給状況の変化: NACSIS-ILLログデータ(1994-2005)の分析	共著	2006年10月	第54回日本図書館情報学会研究大会	佐藤義則 竹内比呂也 土屋 俊 逸村 裕
Open Access to cultural Information: a perspective from APAN eCulture	単著	2006年10月	Asian DHX Forum 2006 in Seoul	
大学図書館における情報探索環境提供の今日的課題: 事例研究と考察	単著	2006年12月	平成18年度国公立大学図書館協力委員会シンポジウム『デジタルコンテンツの創造と発見』	
LibQUAL+TMの過去・現在・未来	単著	2007年2月	日本図書館情報学会第3回EBAワークショップ	
How to create, How to store, How to send, and How to access: Lessons Learned from the Past	単著	2007年8月	Digital Archive 2007 in Xian	
日本の大学図書館におけるILL需給状況の変化とその要因: NACSIS-ILLログデータ(1994-2006)の分析	共著	2007年10月	第55回日本図書館情報学会研究大会	小山憲司 佐藤義則 土屋 俊 竹内比呂也 逸村 裕
共同目録データベース構築状況と大学図書館のコレクション基盤: NACSIS-CAT図書目録レコードの分析	共著	2007年10月	第55回日本図書館情報学会研究大会	佐藤義則 土屋 俊 竹内比呂也 逸村 裕 加藤信哉
Historic Roads GIS with 3D technology	共著	2007年10月	Electronic Cultural Atlas Initiative 10th Anniversary Conference, at UC Berkeley	Y. Sato T. Kameoka
IR usage analysis for the next step	共著	2008年1月	DRF International Symposium, Osaka	M. Saito Y. Sato et. al.
図書館サービス評価と利用者および利用の調査	単著	2008年3月	図書館利用者を知る: LibQUAL+®によるサービス評価国際ワークショップ&シンポジウム(東京及び大阪)	
基調講演: 学術情報の発信とさらなる活用を目指して	単著	2008年9月	第94回全国図書館大会・第2分科会(大学・短大・高専図書館)	

日本の大学図書館における ILL 需給状況の変化とその諸要因：NACSIS-ILL ログデータ(2007)の分析を中心に	共著	2008 年 11 月	第 56 回日本図書館情報学会研究大会	小山憲司 佐藤義則 土屋 俊 竹内比呂也 逸村 裕	
IR 利用統計の意義と課題	単著	2009 年 2 月	機関リポジリアウト プット評価システム・ワークショップ		
次世代目録所在情報サービスの方向性	単著	2009 年 2 月	NACSIS-CAT 登録 1 億 件突破記念講演会		
Asian Requirements and Challenges: Digital Community Activities in Japan	単著	2009 年 2 月	GRL (Global Research Libraries) 2020: A Vision for a Global Research Library		
LibQUAL+と大学図書館のサービス評価	単著	2009 年 6 月	私立大学図書館協会 東地区部会研究講演 会		
機関リポジリのコスト分析	単著	2009 年 7 月	国立情報学研究所平 成 20 年度 CSI 報告交 流会 (コンテンツ系)		
学術情報流通の変化と図書館サービス	単著	2009 年 8 月	第 11 回(平成 21 年度) 高等専門学校及び技 術科学大学図書館シ ンポジウム (基調講 演)		
アウトプット指標からみた機関リポジリ構築に関するガイドライン: ガイドライン構築に向けた考察	共著	2009 年 10 月	機関リポジリアウト プット評価プロ ジェクト合同ワーク ショップ	竹内比呂也 佐藤義則	
ALFAE and its engagement in eCulture	単著	2009 年 10 月	PNC (Pacific Neighborhood Consortium) 2009		
Transformation of the ILL Services among the Japanese University Libraries in Digital era: the results of the comprehensive analysis of NACSIS-ILL transaction records from 1994 to 2007.	共著	2009 年 10 月	11th Interlending and Document Supply Conference	K. Koyama Y. Sato S. Tutiya H. Takeuchi	
H 図書館の価値を高める: 成果評価への行動計画	共著	2005 年 2 月	丸善	P. Hernon R. E. Dugan 著 永田治樹 佐藤義則 戸田あきら 訳	268 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(B) (一般) (H19～H21)	2004 年度～2006 年度	共同・研究分担者	電子情報環境下における大学図書館機能の再検討
文部科学省「先導的大学改革推進委託事業」	2005 年度～2006 年度	共同・研究分担者	今後の「大学像」の在り方に関する調査研究：教育と情報の基盤としての図書館
科学研究費補助金基盤研究(B) (一般) (H19～H21)	2007 年度～2009 年度	共同・連携研究者	電子情報環境下において大学の教育研究を革新する大学図書館機能の研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1999 年 4 月～	東北大学附属図書館協力研究員		
2004 年 12 月～	国立国会図書館カレントアウェアネス編集委員会委員		
2005 年 4 月～2007 年 3 月	三重県立図書館協議会委員（2006 年度：委員長）		
2006 年 4 月～	国立情報学研究所学術コンテンツ運営・連携本部機関リポジトリ作業部会委員（2007 年 4 月～ 次世代目録 WG チーフ）		
2006 年 4 月～2007 年 3 月	津市図書館協議会委員		
2006 年 6 月～	情報メディア学会理事		
2006 年 10 月～	国立情報学研究所客員教授（連携）		
2007 年 4 月～2009 年 3 月	三重大学客員教授		
2008 年 8 月～	一般社団法人 ALFAE（アジア・太平洋 食・農・環境 情報拠点）相談役		
2008 年 8 月～	The Chair of APAN（Asia-Pacific Advanced Network） eCulture Working Group		
2008 年 8 月～	日本図書館協会大学図書館部会委員		
2008 年 12 月～	仙台市図書館協議会委員		

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	谷口 満	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	大学院演習において国外実習を実施した。	2006年8月11～17日	博士後期課程院生を帯同し、中国において古代青銅器の調査を実習させた。				
	大学院博士後期課程の院生を帯同して、中国湖北省西部で学外実習を実施した。	2008年12月5～11日	文学研究科アジア文化史専攻大学院教育改革支援プログラムによる、民族文物の調査と撮影。				
	大学院博士前期課程の院生を帯同して、中国湖南省西部で学外実習を実施した。	2009年9月17～23日	文学研究科アジア文化史専攻大学院教育改革支援プログラムによる、民族遺跡の調査と撮影。				
3	現職教員研修セミナーにおいて、東洋史の教材についての講演を実施した。	2000年12月1日	東北学院大学（英語・歴史）セミナーで「よみがえる中国古代文書」と題して講演。				
4	学生による授業評価委員会委員	2005年度～2007年度	左記委員として、全学的観点に立って授業評価とそのフィードバックの方法を検討した。				
	山形県鶴岡中央高等学校一日大学	2005年7月6日	「楊貴妃のころの化粧」				
	宮城県富谷高等学校模擬授業	2005年11月9日	「夏王朝は実在したかー中国古代史最大のなぞー」				
	宮城県仙台南高校模擬授業	2007年6月22日	「中国の古代青銅器を楽しむ」と題して模擬授業				
	東北学院大学文学部オープンキャンパス模擬授業	2007年6月30日	「漢字はいつごろはじまったか」と題して模擬授業				
	宮城県泉松陵高校模擬授業	2008年10月21日	「黄河文明と長江文明」と題して模擬授業				
	青森県青森戸山高校模擬授業	2009年10月6日	「黄河と長江」と題して模擬授業				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	総・巻 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	再論郢都的地望問題－紀南城是否春秋時期的郢都？	単著	2005年7月	楚文化研究会編『楚文化研究論集』第6集		463～475頁	
	鼈霊伝説の背景－長江上中流域における巴系民族の動向－	単著	2006年1月	『東北大学東洋史論集』10輯		1～36頁	
	包山楚簡“受期”類積地三則	単著	2006年10月	武漢大学簡帛研究中心『簡帛』1輯		33～38頁	
	『史記』読法二例－「項羽本紀」「春申君列伝」	単著	2008年11月	『集刊東洋学』100号記念号		23～45頁	
Bb	続・楚族の故郷を探し訪ねて	単著	2007年3月	東北学院大学『アジア流域文化論研究』Ⅲ		42～55頁	
	西水流域に擺手堂を訪ねて	単著	2008年3月	東北学院大学『アジア流域文化論研究』Ⅳ		7～21頁	

戦国楚文化の淵源－楚文化・巴文化同 源説？－	単著	2008年11月	早大長江文化研『長江 流域と巴蜀, 楚の地域 文化』	73～105頁
楚都丹陽探索問題の行方－丹江口大ダ ムといったの考古新知見によせて－	単著	2009年3月	『東北学院大学論集・ 歴史と文化』44号	13～32頁
C 楚族の故郷を探し訪ねて－縮酒之郷・ 南漳	単著	2005年3月	東北学院大学オーブ ン・リサーチ・セン ター『アジア流域文化 論研究』I	159～168頁
西水上流に擺手堂を訪ねて	単著	2006年3月	東北学院大学オーブ ン・リサーチ・セン ター『アジア流域文化 論研究』II	68～82頁
恩施自治州文物古跡訪査記	単著	2009年3月	東北学院大学アジア 流域文化研究所『アジ ア流域文化研究』V	21～42頁
春秋時代の都市をめぐるいくつかの問 題	単著	2009年3月	『春秋戦国秦漢時代の 都市とその周辺』(名 古屋大学江村治樹教 授科学研究費報告書)	32～43頁
D 「シンポジウム謎の夏王朝」を開催して	単著	2006年3月	『東北学院大学論集・ 歴史と文化』41号	107～111頁
調査報告・長江流域の調査から	単著	2007年3月	東北学院大学『アジア 流域文化論研究』III	114～122頁
G 張正明報告のコメント		2005年6月	早稲田大学COE関連シ ンポジウム『楚文化研 究の現在II』, 早稲田 大学	
長江流域の古代青銅器を楽しむ		2005年7月	東北学院大学オーブ ン・リサーチ・セン ター公開集中講座, 東 北学院大学	
中国古代史からみた楚文化		2006年9月	早稲田大学COE関連シ ンポジウム『楚墓の発 掘と楚文化の地域 性』, 総括コメント, 早稲田大学	
長江流域の調査から		2006年9月	東北学院大学オーブ ン・リサーチ・セン ター公開講演会『ア ムール川と長江』, 主 題報告, 東北学院大学	
中国文明の起源をめぐるいくつかの問 題		2006年9月	仙台市高等教育ネッ トワーク東北学院大 学歴史学科第9回公開 講座, 東北学院大学	

屈原伝説の背景—戦国楚国概観—	2007年9月	東北史学会大会・公開講演・仙台市博物館
春秋時代の都市をめぐるいくつかの問題	2008年10月	科学研究費による研究集会(代表江村治樹名古屋大学教授)・名古屋大学
我們怎樣地探索楚族的故郷和楚文化的淵源?	2008年10月	2008中国歴史地理国際學術研討会・武漢大学
我們怎樣地復原巴国的結構?	2009年11月	三峡考古發現与巴文化學術研討会・重慶師範大学
中国西南少数民族の服飾	2009年11月	東北学院大学文学部歴史学科第12回公開講座

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
私立大学・オープンリサーチセンター整備事業	2003～2007年度	共同・分担	「アジア流域文化論」研究プロジェクト・「長江流域の民族と文化」リーダー
東北学院教育研究基金	2005年度	共同・研究代表者	「都城遺跡・祭祀遺跡からみた日本・中国における古代国家の形成と構造」
大学院教育改革支援プログラム	2007～2009年度	共同・分担	「遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓協同推進」中国現地実習担当

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1999年～	中国出土資料学会理事
2007年度前期	東北大学文学研究科博士論文学外審査委員(東洋史学)
2008年～	重慶師範大学三峡文化与社会發展研究院兼職教授

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	辻 秀人	大学院の授業 担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要			
1 画像を活用した講義の展開			2007年4月～2009年12月		パワーポイントを用い、画像と文字、記号を組み合わせることによって講義内容の理解を深めた。			
講義レジュメ配布			2007年4月～2009年12月		講義の骨子と必要な図を配したプリントを作製し、講義に先立って配布。講義の理解を促進した。			
II 研究活動								
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称		縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 古墳時代前期における北端の古墳文化の研究—大塚森古墳の発掘調査—		単著	2005年3月		平成9年度～平成10年度科学研究費補助金(基盤B)研究結果報告書			総頁数73
東北古墳研究の原点 会津大塚山古墳		単著	2006年9月		新泉社			総頁数92
東北地方土師器成形技法考—丸底の作り方, 段の作り方—		共著	2007年3月		考古学論究(小笠原好彦先生退任記念会)		小笠原好彦先生退任記念会	1083～1100頁
古代東北, 北海道におけるモノ, ヒト, 文化交流の研究平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤B)		単編, 著	2007年5月					編集461頁, 著作担当分1～21頁, 412～419頁, 445～461頁
百済と倭国		単編, 著	2008年9月		高志書院			編集253頁, 著作担当分85～106頁
Ba 栄山江流域の前方後円墳と倭国周縁域の前方後円墳		単著	2006年8月		『百済研究』第44輯			211～243頁
Bb 土器研究の方法		単著	2005年3月		『東北学院大学論集考古学・地理学』第39号大石直正教授難波信雄教授退官記念			1～32頁
日本古墳時代の副葬品と飛鳥寺の舍利荘厳		単著	2005年3月		東アジア6～7世紀仏教寺院等基壇の考古学的研究			299～307頁
日本古墳時代の副葬品と飛鳥寺の舍利荘厳		単著	2005年6月		『歴史と文化』東北学院大学論集第40号			181～190頁
栄山江流域の前方後円墳と倭国周縁域の前方後円墳		単著	2007年3月		『歴史と文化』東北学院大学論集第42号			69～98頁

博物館法改正を考える	単著	2007年6月	全日本博物館学会第33回研究大会資料		4~6頁
倭国周縁域と大和王権	単著	2007年10月	国際シンポジウム百済と倭国を考える資料集		52~61頁
南相馬市小高区歓請内古墳第一次調査の概要	共著	2008年3月	『福島考古』第49号	伊東静香 長田雄一郎 小関修太郎 佐藤勇太 中山知香 畑中 光 廣長 俊 幕田奈々 辻 秀人	111~122頁
南相馬市小高区歓請内古墳第一次調査の概要	共著	2008年3月	平成19年度福島県考古学会第50回大会資料	伊東静香 辻 秀人	6~8頁
大塚森古墳の研究	単著	2008年3月	『歴史と文化』東北学院大学論集第43号		1~208頁
博物館法改正について	単著	2008年6月	日本考古学協会第74回総会研究発表要旨		122~123頁
南相馬市小高区歓請内古墳第2,3次調査の概要	共著	2009年3月	『歴史と文化』東北学院大学論集第44号	伊東静香 畑中 光 大山真実 小野寺千晶 菊池友紀 佐伯奈弓 高橋直樹 山田真莉 辻 秀人	33~66頁
埋蔵文化財の資格を考える	単著	2009年3月	『考古学研究』第55巻4号		9~14頁
C 博物館の行方	単著	2005年3月	東北学院大学博物館学芸員課程報 No27		3~4頁
博物館の危機	単著	2006年3月	東北学院大学博物館学芸員課程報 No28		3~4頁
博物館法の改正への動き	単著	2007年3月	東北学院大学博物館学芸員課程報 No29		1~2頁
博物館法の改正の現状と問題点	単著	2008年3月	東北学院大学博物館学芸員課程報 No30		1~4頁
東北学院大学博物館の建設計画	単著	2009年3月	東北学院大学博物館学芸員課程報 No31		1~2頁
G 日本古墳時代の副葬品と飛鳥寺塔の舍利荘嚴	単著	2005年3月	東アジア6~7世紀仏教塔基壇の考古学的研究討論会		

土師器の成形技術－丸底の作り方，段の作り方－	単著	2005年5月	宮城県考古学会研究発表会	
戦いの歴史	単著	2005年5月	みやぎ県民大学開放講座	
日本列島における古墳時代の変動とアジア世界	単著	2005年5月	東北文化研究所研究会	
ふくしまの古墳のおはなし	単著	2005年6月	富岡町ふるさと特別講話	
土器からみる古墳出現器の地域間交流	単著	2005年11月	山形県立うきたむ風土記の丘資料館企画展記念講演	
北上川流域の古代社会	単著	2006年2月	東北学院大学オープンリサーチセンター公開集中講座	
ふくしまの古墳時代	単著	2006年2月	福島県考古学会	
栄山江流域の前方後円墳と倭国周縁域の前方後円墳	単著	2006年5月	韓国忠南大学講公開講座	
福島県南部の古代遺跡	単著	2006年7月	けんなん学第3回講座福島県県南教育事務所	
前方後円墳の時代	単著	2006年10月	歴史学科公開講座	
学都仙台の古代	単著	2006年11月	学都仙台サテライトキャンパス公開講座	
続縄文文化と弥生・古墳文化の関係を考える	単著	2007年4月	2007年北海道考古学会研究大会	
博物館法改正を考える	単著	2007年6月	全日本博物館学会第33回研究大会	
倭国周縁域と大和王権	単著	2007年10月	国際シンポジウム百済と倭国を考える	
南相馬市小高区歓請内古墳第一次調査の概要	共著	2008年3月	平成19年度福島県考古学会第50回大会	伊東静香と共同発表
博物館法改正の現状とその問題点	単著	2008年5月	南山大学公開セミナー	
大和王権と倭国周縁域の諸問題	単著	2008年5月	南山大学公開講演会	
博物館法改正について	単著	2008年5月	日本考古学協会第74回総会	
埋蔵文化財の資格制度を考える－シンポジウム趣旨説明をかねて－	単著	2009年5月	日本考古学協会第75回総会	
埋蔵文化財の資格制度を考える	単著	2009年7月	日本考古学協会埋蔵文化財の資格制度を考える関西シンポジウム	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(B)	2003～2006 年度	共同。研究代表者	東方北部社会の分析と韓半島の文化，中でも前方後円墳の出現に関する調査
私立大学学術研究高度化推進事業・オープンリサーチセンター整備事業，研究課題「アジア流域文化論」	2003～2007 年度	共同	
学校法人東北学院共同研究助成金	2005 年度	共同。研究分担者	
科学研究費補助金基盤研究(B)「新発見資料を中心とした日韓の文化交流史の研究」	2007～2009 年度	共同	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1982 年 5 月～現在	日本考古学協会員（2005 年～2008 年理事）		
1998 年 5 月～現在	宮城県考古学会員（2008 年～会長）		
1996 年～	東北・関東前方後円墳研究会代表幹事		

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	平田 隆一	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項を記憶させ授業内容をよりよく理解させる。	2007年4月～2008年1月 2009年1月～12月		毎回授業の冒頭で前回の授業と今回の授業の概略を説明し、板書を多用して学生の興味を集中させる。 過去の歴史と現在の出来事を比較して、その相違点や継承点を明らかにする。			
	「学生による授業評価」を実施し、学生に質問する。	2007年4月～2008年1月 2009年1月～12月		「学生による授業評価」を実施し、講義の際の問題点を改良する。ただし演習や講読では少人数のため「学生による授業評価」は実施困難である。代わりに、演習では学生に質問を連発し、理解を深めさせ、分からないところを説明し、また講読では文脈から適切な意味を把握させ、内容を正確に把握させるとともに、論理的思考能力を増大させる。			
	専門分野だけでなく他の分野の話も取り入れる。	2007年4月～2008年1月 2009年1月～12月		専門の狭い領域に閉じ込められず広い視野に立って判断できるように、専門外の話や常識的な話も取り入れて、学生の活発な思考を促す。 時には冗談も言い、真剣な中にも和やかな雰囲気で行う。			
	授業以外で学生と接する。	2009年1月～12月		教室や研究室で学生と研究内容や方法、文献等について話し合い、学生の希望する研究テーマを深化させる。 また時折開かれるゼミ学生の懇親会に出席して、お互いの理解を深める。			
2	教科書 伊藤貞夫『古典古代の歴史』2002年 放送大学教育振興会（共著；9, 10, 11章を担当）	2007年4月～2008年1月 2009年1月～12月		2, 3, 4年次の演習で使用。ギリシア史、ローマ史に関し内容が圧縮されているため、綿密に読み解くことが求められ、学生の幅広い知識と行間を読み解く思考力を育成するのに適している。			
4	東北学院大学オープン・リサーチ・センター（ヨーロッパ）主催の公開講演会「古代ローマ世界における宗教的多元性」の講師	2008年3月1日		テーマ「エトルスキの宗教とローマ帝国」、東北文化歴史博物館			
	東北学院大学文学部歴史学科第11回公開講座「一次史・資料からみた“歴史”像」の講師	2008年11月8日		テーマ「古代ローマ都市国家の形成過程」、東北学院大学土樋キャンパス			
	仙台日伊協会主催の公開講演会「日伊文化のタビ」の講師	2008年11月8日		テーマ「エトルリア文化の諸相」、江陽会館			
	東北学院大学主催第3回現職教員研修セミナーの講師	2008年12月6日		テーマ「ギリシア・ローマの戦争—その理念と実態—」、東北学院大学土樋キャンパス			
	東北学院大学ヨーロッパ文化研究所主催の公開講演会「光は東方より—オリエントのギリシア・ローマへの影響—」の講師	2009年12月12日		テーマ「トロイア戦争は史実だったのか—最近の研究動向から—」、東北学院大学土樋キャンパス			

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 「ピルジ出土「金の薄板」エトルスキ語銘文の解明と歴史的背景」	単著	2005年3月	『東北学院大学論集歴史学・地理学』第39号		79～118頁
「“It’s Greek to me”と“C’est de l’he’breu pour moi”ーヨーロッパ諸語における「チンプンカンプンな言語」とその歴史的由来ー」	単著	2007年3月	『東北学院大学論集歴史と文化』第42号		1～67頁
C 「エトルスキの宗教とローマ帝国」	単著	2008年3月	『ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容研究プロジェクト報告書・I』		203～209頁
D 「解説」, ドミニク・ブリケル著『エトルリア人ーローマ先住民族 起源・文明・言語』(文庫クセジュ) 所収	単著	2009年1月	白水社		142～157頁
G 「ヨーロッパ文化の中に生きるギリシア語・ラテン語」	公開講演	2006年10月	於:東北学院大学(宮城県民公開講座)		
H ドミニク・ブリケル著『エトルリア人ーローマ先住民族 起源・文明・言語』(文庫クセジュ)	監訳	2009年1月	白水社	訳者 斉藤かぐみ	1～141頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
2007年～	日本西洋史学会会員				
2007年～	日本西洋古典学会会員				
2007年～	日本西洋史研究会会員				
2007年～	日本イタリア学会会員				
2007年～	東北史学会会員				
2007年～	仙台日伊協会理事				

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	政岡 伸洋	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1	<p>前回の授業内容の確認の実施と授業理解の促進</p> <p>学生からの質問, 感想に対するコメントの実施</p> <p>フィールドワーク実施する科目において, 地域との連携を深めている</p>	<p>1994年4月～</p> <p>1994年4月～</p> <p>2005年4月～</p>	<p>毎回新たな講義内容に入る前に, 前回の授業内容を簡単に解説し, 学生の理解に配慮している。</p> <p>授業に対する学生のニーズは多様化しており, これには配慮しつつも限界がある。そこで, 講義課目では, 授業終了後に質問や感想を出席カードの裏に任意に書かせ, 次の授業の冒頭でコメントしているが, 教員とのコミュニケーションや講義課目に対する関心を深められるようで, 学生には好評である。</p> <p>歴史学科3年生配当科目の民俗学実習は, 直接現地へ赴き, 民俗調査を経験してもらうことになっているが, 2005年度より県立博物館および地元の市町村教育委員会や私設博物館等と提携し, 調査を実施している。その際学芸員や技師の方々がボランティアで参加してくれているが, 学生たちもさまざまな専門分野からのアドバイスが受けられ, 学問的関心を深められるようである。また, その成果は調査報告書として刊行し, 地元への還元も行っている。</p>				
2	<p>文部省認可通信教育 『民俗学の視座—関西のフィールドワークより—』(佛教大学通信教育部)</p> <p>『波伝谷の民俗—宮城県南三陸沿岸の村落における暮らしの諸相—』(東北歴史博物館)</p>	<p>2000年4月1日</p> <p>2008年3月</p>	<p>本書は, 佛教大学通信教育部における「民俗学概論」のテキストとして刊行されたものである。この中で, 「墓のかたちと民俗—近江湖東の両墓制と墓地共有の背景—」を担当している。</p> <p>本書は, 歴史学科3年生配当科目『民俗学実習』において, 2005～2007年度に実施した宮城県本吉郡南三陸町戸倉波伝谷地区の総合民俗調査報告書で, 学部生および大学院生によって執筆されたものである。2008年度より, 『民俗学実習』では大崎市三本木新沼地区にフィールドを移し, 民俗調査を実施しているが, その準備のテキストとしても活用している。</p>				
3	<p>平成19年度大学教育改革プログラム合同フォーラム 「日中韓比較を視野に入れた民俗資料の記録化をめぐる教育実践」(ポスターセッション)</p> <p>「2006年度「韓国学実習」の概要と今後の課題」 (『アジア文化史研究』第8号, 東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻)</p>	<p>2008年2月10日</p> <p>2008年3月14日</p>	<p>本報告では, 文部科学省大学院教育支援改革プログラム「遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓共同推進」の教育実践内容を紹介した。</p> <p>近年, 教育の場で学生とともに現地調査を行う現場学習型の科目が多く見られるようになってきているが, 本稿では本学大学院文学研究科アジア文化史専攻で実施した「韓国学実習」の内容を紹介するとともに, このような科目実施における教員側の姿勢と今後の課題についても指摘した。</p>				

<p>4 希望者を対象とした調査旅行の実施</p>	<p>2004年8月～</p>	<p>幅広い視野から東北地方の民俗を考えさせるため、ゼミ合宿以外に希望者を募り、日本各地を対象にテーマを設定した調査旅行を実施している。これまで訪ねた場所・行事は、北海道二風谷を中心としたアイヌの暮らしと文化（本学榎森教授ゼミに随行）、韓国済州島の自然と文化、青森県新郷村のキリスト祭り、徳島県三好市における平家落人伝説と観光、岩手県宮古市鉾ヶ崎熊野神社の祭礼調査、羽黒山出羽三山神社および宿坊集落、近江湖東平野の神社祭祀と水利慣行、宮崎県椎葉村にみる中山間地域の現在などがある。</p>
<p>東北学院大学オープンキャンパスにおいて、文学部歴史学科の模擬授業を担当した</p>	<p>2004年8月～2008年8月</p>	<p>泉キャンパスにおいて実施されたオープンキャンパスにおいて、民俗学の模擬授業を担当している。</p>
<p>ゼミ HP の充実</p>	<p>2004年10月～</p>	<p>民俗学ゼミでは、ゼミ生の協力のもと、HPにて卒業論文の題目一覧や実習での参加記など、活動内容を紹介している。また、1,2年生や本学で民俗学を学びたい受験生のために、読書案内や民俗学の考え方をやさしく解説している。</p>
<p>卒業論文・修士論文発表会の実施</p>	<p>2005年2月～</p>	<p>民俗学ゼミでは、毎年卒業論文・修士論文発表会を実施している。これは、次年度以降論文を執筆する在校生たちの学びの場であるとともに、卒業生をはじめ、仙台を中心とする民俗学関係者にも開放し、日頃の研究教育活動の成果を広く公開する場ともなっている。</p>
<p>韓国への調査旅行の実施</p>	<p>2006年2月</p>	<p>2005年度卒業生のうち、費用面の問題を考慮し希望者を対象に韓国調査旅行を実施した。教員が以前2年間滞在していたこともあり、ソウルおよび済州島において、都市や農村の暮らしを実際に現地へ訪ねて資料を収集するとともに、現地の大学の学生たちとの交流も行った。</p>
<p>民俗学実習の成果発表</p>	<p>2006年10月～2008年6月</p>	<p>文学部オープンキャンパスの際に、歴史学科では民俗学実習室の開放を行っているが、それを機会に日ごろの民俗学関連科目の紹介を兼ねて「民俗学実習」の調査成果中間報告として、東北歴史博物館の学芸員の協力のもと、学生たちが中心となって展示発表を行っている。</p>
<p>仙台市生出市民センター「『太白山』地域伝承」講座の講師を務めた</p>	<p>2007年4月22日</p>	<p>仙台市生出市民センター主催の「『太白山』地域伝承」講座において、「太白山の文化と民俗」と題して講演を行った。</p>
<p>東北学院大学民俗学研究会公開講演会の講師を務めた</p>	<p>2007年7月25日</p>	<p>東北学院大学民俗学研究会主催の公開講演会において、「民俗文化の現在」と題する講演を行った。</p>
<p>国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』講座の講師を務めた</p>	<p>2007年8月24日</p>	<p>大崎八幡宮主催の『仙台・江戸学』講座において、「仙台の祭りを考えるための視点と方法～民俗学の立場から～」と題する講演を行った。</p>
<p>仙台市文化財課研修会の講師を務めた</p>	<p>2007年10月19日</p>	<p>仙台市文化財課研究会において、「民俗の活用をめぐる問題」と題して講演を行った。</p>

顧問を務める民俗学研究会の活動の一環として、民俗調査報告書を刊行した	2008年3月 2008年9月	民俗学研究会では、3年間にわたり仙台市若林区南鍛冶町において民俗調査を実施してきたが、その成果を2008年3月に『南鍛冶町三宝荒神社民俗調査報告書』、同年9月には『城下町における商家の暮らしと民俗』と題して刊行した。
東北学院大学文学部オープンキャンパスの模擬授業を担当した	2008年6月28日	文学部オープンキャンパスにおいて、「民俗の観光利用から見えるもの」と題した模擬授業を行った。
東北学院大学文学部歴史学科2008年度前期公開講座「宗教と社会」の企画および講師を務めた	2008年7月2日	東北学院大学文学部歴史学科主催の講座「宗教と社会」において、その企画および「都市祭礼の展開とその民俗的背景—京都祇園祭の場合」と題して講演を行った。
高校への出前授業の講師を務めた	2008年10月1日	秋田県立西目高等学校総合学科の1年生を対象に、「チャグチャグ馬コ」の民俗的展開」と題する授業を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・略(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A ふるさと資源化と民俗学	共著	2007年3月	吉川弘文館	岩本通弥編著 中村 淳 青木隆浩 菊地 暁 才津祐美子 森田真也 蘇理剛志 政岡伸洋 中西裕二 岡田浩樹 川森博司	192～228頁
Ba 部落解放運動の現在と被差別部落の民俗—大阪府和泉市の事例を通して—	単著	2006年3月	国立歴史民俗博物館 研究報告(第132集)		243～269頁
差別と人権の民俗学	単著	2007年11月	『日本民俗学』第252号		5～34頁
D 稲地区・安水地区民俗調査報告書	単著	2005年3月	彦根市教育委員会		総頁数49頁
在日コリアンの生活の場としての被差別部落の現在と民俗—大阪府和泉市旧南王子村の事例から—	単著	2006年3月	科学研究費補助金基盤研究C(1)「在日朝鮮半島系住民の地方地域社会との相互関係、ネットワークと流動性に関する研究」研究成果報告書		61～84頁
部落解放運動と民団の関係構築と個人的ネットワーク—大阪府和泉市の事例から—	単著	2006年3月	科学研究費補助金基盤研究C(1)「在日朝鮮半島系住民の地方地域社会との相互関係、ネットワークと流動性に関する研究」研究成果報告書		264～270頁

和泉における在日朝鮮半島系住民	単著	2006年3月	科学研究費補助金基盤研究 C(1)「在日朝鮮半島系住民の地方地域社会との相互関係, ネットワークと流動性に関する研究」研究成果報告書		337~339頁
仙台を中心とする宮城県における在日朝鮮半島系住民	単著	2006年3月	科学研究費補助金基盤研究 C(1)「在日朝鮮半島系住民の地方地域社会との相互関係, ネットワークと流動性に関する研究」研究成果報告書		340~341頁
被差別部落の民俗	単著	2006年3月	新修泉佐野市史 民俗編		125~131頁
波伝谷の民俗～中間報告	共著	2007年3月	東北学院大学文学部 政岡研究室・東北歴史博物館	政岡伸洋 小谷竜介 鈴木卓也 他 35名	総頁数 113頁
波伝谷の民俗－宮城県南三陸沿岸の村落における暮らしの諸相－	共著	2008年3月	東北歴史博物館	政岡伸洋 鈴木卓也 小谷竜介 他 24名	総頁数 195頁
E					
小さな博物館の大きな試み－和泉市人権文化センター人権資料室－	単著	2005年3月	東北学院大学博物館学芸員課程報 (No27)		1~2頁
菩提寺	単著	2005年12月	民俗小事典 死と葬送		297頁
教育と研究の世界民俗を問い直す	単著	2006年4月	東北学院大学後援会通信 GROWTH (第8号)		7頁
2006年度「韓国学外実習」の概要と今後の課題	単著	2008年3月	『アジア文化史研究』第8号		36~38頁
G					
被差別部落の民俗から見えてくるもの	単著	2005年1月	四国学院大学大学院社会学研究科社会学専攻社会学研究会		
部落解放運動と被差別部落の民俗	単著	2005年7月	第111回東北人類学談話会		
民俗宗教儀礼のモデルが意味するもの－滋賀県建部祭の場合－	単著	2005年10月	日本民俗学会第55回年会		
比較民俗学の視点から「文化交流」を考える－韓国済州島と沖縄の村落祭祀の事例から－	単著	2005年10月	東北学院大学文学部歴史学科 2005年度公開講座「交流の世界史」		

アジア家族の変容と「伝統の創造」	共著	2005年11月	平成17年度「アジア家族の変容と「伝統の創造」に関する比較研究—日本・韓国・中国・タイ—」公開シンポジウム	橋本(関)泰子 岡田浩樹 首藤明和 落合恵美子 竹本達也 北原 淳 政岡伸洋
日本社会の近代と民俗	単著	2006年6月	平成18年みやぎ県民大学・大学開放講座「世界の近代を考える」	
民俗の変化からみえるもの	単独	2007年9月	東北学院大学民俗学OB会第21回研究発表会	
大学側からみた博学連携事業	単独	2007年12月	東日本民俗担当学芸員研究会平成19年度第2回研究会	
現代民俗学会設立記念シンポジウム「現代民俗学のポジション」	共同	2008年5月	現代民俗学会設立総会	島村恭則 中野紀和 政岡伸洋 徳丸亜木 渡部圭一

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究B(1) (海外学術調査)	2003～2005年度	共同・研究分担者	アジア家族の変容と「伝統の創造」に関する比較研究—日本・韓国・中国・タイ—
科学研究費補助金基盤研究C(1)	2003～2005年度	共同・研究分担者	在日朝鮮半島系住民の地方地域社会との相互関係、ネットワークと流動性に関する研究
科学研究費補助金基盤研究A(1)	2003～2005年度	共同・研究分担者	現代の宮座の総合的調査研究および宮座情報データベースの構築
科学研究費補助金萌芽研究	2004～2006年度	研究代表者	「民俗文化」を活用したまちづくりと住民アイデンティティの再構築に関する研究
文部科学省オープンリサーチセンター整備事業 『アジア流域文化論』プロジェクト	2004～2007年度	共同・研究分担者	北日本・北海道民俗研究
東北学院教育研究基金・共同研究助成金	2005年度	共同・研究分担者	都城遺跡・宗教遺跡からみた日本・中国における古代国家の形成と構造
科学研究費補助金基盤研究B(1)	2007～2009年度	共同・研究分担者	新発見資料を中心とした日韓の文化交流史の研究

科学研究費補助金基盤研究B(1)	2007～2009年度	共同・研究分担者	地方をフィールドとした朝鮮半島系住民のネットワークと生活世界の多声性に関する研究
文部科学省大学院教育改革支援プログラム	2007～2009年度	共同・取組実施担当者	遺跡遺物資料処理技能開発の日中韓共同推進(東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻)
東北学院大学教育研究基金・個人研究助成金	2008年度	個別・研究代表者	地域社会の活性化と文化資源の活用をめぐる民俗学的調査研究

IV 学会等及び社会における主な活動

1988年1月～	近畿民俗学会会員
1988年3月～	日本民俗学会会員
1988年4月～	京都民俗学談話会(現京都民俗学会)会員
1991年11月～	比較家族史学会会員
1994年4月～	部落解放研究所(現部落解放・人権研究所)会員(伝承文化部会)
1994年6月～	日本民族学会(現日本文化人類学会)会員
1995年2月～	沖縄民俗学会会員
1998年5月～	近畿民俗学会理事
1998年10月～	比較日本文化研究会会員
2000年1月～	比較思想学会会員
2000年8月～	韓国・朝鮮文化研究会会員
2001年5月～	現代韓国朝鮮学会会員
2002年3月～	部落解放・人権研究所伝承文化部会幹事(事務局担当)
2002年4月～	日本社会学会会員
2002年12月～	文化経済学会<日本>会員
2003年4月～2006年3月	国立歴史民俗博物館共同研究「宮座と社会:その歴史と構造」共同研究員
2003年4月～	日本村落研究学会会員
2003年4月～	徳島地域文化研究会会員
2004年6月～	東日本部落解放研究所会員
2004年6月～	東北民俗の会会員
2004年7月～	仙市民俗調査調査員(仙市民俗文化研究会会員・幹事として参加)
2004年9月～	東北学院大学民俗学OB会会員
2005年1月～	環境社会学会会員

2005年3月～2008年6月	比較家族史学会理事（事務局長）
2005年9月～	東北学院大学民俗学OB会委員
2006年4月～	日本宗教学会会員
2006年5月～2006年9月	日本宗教学会第65回学術大会実行委員
2006年6月～	東北民俗の会常任委員
2007年4月～	東北歴史博物館協議会資料収集専門部会委員
2007年6月～2008年6月	比較家族史学会第50回記念大会運営委員
2007年9月	現代民俗学会準備委員会発起人
2007年10月～	日本民俗学会評議員
2007年10月～	日本民俗学会研究奨励賞推薦委員
2008年5月～2009年10月	日本民俗学会倫理綱領検討・策定委員会委員
2008年6月～	比較家族史学会理事
2008年12月～	仙台市文化財保護審議会委員
2009年7月～	日本民俗学会第62回年会実行委員
2009年10月～	岩手民俗の会会員

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	守屋 嘉美	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 主要な論文を理解させる		1990年4月～2006年1月	学生に論文の内容とその問題点を作成させ、それについて各自必ず1回質問をさせる。				
古文書の読解力をつけさせる		2001年4月～2006年1月	古文書を講読の資料として配布し、前近代の文書の解読と合わせて、古文書の読解力をつけさせる工夫をしている。				
講義 1 古文書学 2 講読 3 演習 4 演習 5 論文作成		2008年4月	江戸時代についての文章や論文を書く場合、まず基本的な史料として古文書を用いる必要があり、その読解が必要である。そこでまず、読みやすい古文書の読み方を教授する。講読ではやはり古文書を資料とし、難解な文書の理解が出来るよう指導する。演習では江戸時代に関する諸論文の理解と問題点の指摘を行わせる。このような形で先行論文を出来るだけ読み、問題点を探り、先行論文を批判しつつ、自分の論理の展開を可能にすることが出来るだけの能力を身につけさせる。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb 女髪結と幕府の統制		単著	2005年3月	東北学院大学論集『歴史学・地理学』第39号		75～103頁	
将軍継嗣問題の一視点		単著	2006年3月	東北学院大学論集『歴史と文化』第40号		1～16頁	
C 盛岡藩の舟運政策と黒沢尻		単著	2006年3月	『アジア流域文化論研究』II (東北学院大学オープン・リサーチ・センター)		30～42頁	
パネルディスカッション (東北学院大学東北産業経済研究所 オープン・リサーチ・センター第27回シンポジウム 北上川舟運を通してみる鉄道開通以前の物流体系)		共著	2008年2月	東北学院大学東北産業経済研究所紀要27号	仁昌寺正一 守屋嘉美 内城弘隆 他	57～70頁	
盛岡藩の舟運政策と黒沢尻 (東北学院大学東北産業経済研究所 オープン・リサーチ・センター第27回シンポジウム 北上川舟運を通してみる鉄道開通以前の物流体系)		単著	2008年2月	東北学院大学東北産業経済研究所紀要27号		7～12頁	
D 仙台市史 通史編6 近代1		共著	2008年	仙台市		50頁	
仙台市史 通史編7 近代2		共著	2009年	仙台市			

G 盛岡藩の舟運政策と黒沢尻	単著	2007年9月	東北学院大学オープン・リサーチ・センター・東北産業経済研究所公開シンポジウム 「北上川舟運を通してみる鉄道開通以前の物流体系」		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
		日本史研究会 東北史学会			

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	森脇 龍	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業全体の構想の工夫	2000年4月～2009年10月	全体をいくつかの部分に分け区分をはっきりさせる重点を明示し、構成全体を示しながら講義する。				
	毎回の授業の進め方の工夫	2000年4月～2009年10月	いくつかの部分に分け区切りをつける。要点を板書し、項目を体系的に書く。				
	授業内容をよく理解させるための工夫	2000年4月～2009年10月	演習における発表の機会を増す。課題・レポートを提出させる。レポートの書き方について具体的に指導する。				
	学生の知的好奇心を刺激するための工夫	2000年4月～2009年10月	最新の研究を紹介する。関連する新聞記事テレビ番組を紹介する。学生同士でディスカッションをさせる。				
	学生との接し方における工夫	2000年4月～2009年10月	個別指導の重視。 なんでも相談してよいことを学生に伝える。演習における自分のテーマ報告の機会を増す。演習終了後に談話を行う。				
	学生の学習意欲を刺激する工夫	2000年4月～2009年10月	単位認定の基準を公表する。 演習の評価ポイントを明示する。 過去の卒業研究(卒論)を公開する。 授業で使用する資料集を作成し配布する。 演習における発表者に対する質問・討論者をあらかじめ指定しておき、ディスカッションの活発化を目指す。				
	その他	2000年4月～2009年10月	演習の卒業研究(卒論)を毎年論文集の形で公表し、保存し、いつでも学生が閲覧できるようにしている。				
	さらに勉強するためのテーマや参考文献を紹介する。 学生同士でディスカッションをさせる。	2007年～2009年					
	演習・総合研究の成果であるレポートを製本する。	2007年～2009年					
	課題レポートや宿題を提出させる。	2007年～2009年					
2	教科書以外の教材を作成した。	2007年～2009年					
3	現職教員研修セミナー(英語・歴史)アメリカ史像の探求	2007年12月1日					
4	みやぎ県民大学開放講座「世界の近代を考える」アメリカ社会の成立	2007年5月31日					
	みやぎ県民大学開放講座「戦の歴史2」南北戦争とアメリカ社会の変革	2008年5月13日					

オープンリサーチセンター・ヨーロッパ文化 研究所公開講演「アメリカ社会の多元性」 ダーウィン進化論とアメリカ		2008年12月13日			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					

所属	歴史学科	職名	教授	氏名	渡辺 昭一	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	<p>ティーチング・アシスタントの指導</p> <p>卒論の個別指導</p> <p>演習における発表指導</p> <p>学生による授業評価の実施</p> <p>演習生の研究合宿の実施</p> <p>夏休みの課題実施</p>	<p>2002年4月～2006年12月 2007年4月～2009年12月</p> <p>2002年4月～2006年12月 2007年4月～2009年12月</p> <p>2002年4月～2006年12月 2007年4月～2009年12月</p> <p>2002年4月～2006年12月 2008年4月～2009年7月</p> <p>2002年8月～2005年12月 2008年10月26～27日</p> <p>2002年8月～2006年8月 2007年7月～2009年12月</p>	<p>学部の演習と購読において院生をTAとして指導した。</p> <p>演習の時間以外にも登録者全員に対して個別に指導した。</p> <p>演習登録者に対して、思考方法、企画力、さらにはプレゼンテーション方法について毎回指導を行った。</p> <p>西洋近代社会の構図の講義について、毎時間学生に対して講義に対する質問、疑問点を書いた用紙を提出させ、授業理解に反映させた。</p> <p>学部学生に対して、卒業論文・研究論文を書くということの意味、方法論などについて、RAとPDの協力を得ながら指導を行った。</p> <p>演習登録学生に対して、研究成果の中間報告として、12000字程度の概要を提出させ、それに基づいて個別に内容理解をさらに深めるように指導した。</p>				
2	講義で使用する教材の作成	2002年4月～2006年12月 2008年4月～7月 2009年4月～7月	「西洋近代社会の構図」講義内容の理解を深めるために、毎回詳細なレジュメを作成して、学生の授業理解を深めた。				
3	現職教員向けのセミナー講師を務めた	2006年12月2日	宮城県高校教員を対象として、「グローバル・ヒストリーの理解に向けてー20世紀的世界像の構築」と題する講演を行った				
4	<p>教育実習校への訪問激励</p> <p>大学院生の学会発表指導</p> <p>高校への出前授業の講師を務めた</p> <p>大学院生に対する合同構想発表会の開催</p>	<p>2002年6月～2009年6月</p> <p>2002年10月～2005年10月</p> <p>2006年7月27日～28日</p> <p>2007年4月～2009年9月</p>	<p>教育実習校へ訪問して、学生の実習状況を確認して指導した</p> <p>日本西洋史学会や東北史学会における院生の研究発表を指導・支援した</p> <p>八戸南高校の1・2年生に対して「ジェントルマンが支配した大英帝国ーインドはいかにして支配されたか？」という公開授業を行った</p> <p>毎年2回程度、大学院修士課程の学生に対して、指導教員全員による修士論文作成発表会を行った。</p>				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『帝国の終焉とアメリカーアジア国際秩序の再編ー』		共著	2006年5月	山川出版社	渡辺昭一編	1～77頁	

<i>The Transformation of the International Order of Asia in 1950s and 1960s</i>	共著	2008年12月	(the Proceeding of 1950-1960 亞州國際秩序學術研討会),	S.Watanabe ed.	188頁
<i>The Formation of the New International Order in Asia and the International-Aid Plan</i>	共著	2009年3月	(the interim Report by Grand in Aid for Scientific Research (A) No, 19202018, in 2007-2008,	S.Watanabe ed.	319頁
『世界史史料』第8巻第1章	共著	2009年11月	岩波書店	内藤雅雄編	14~15頁
D 「開かれた大学をめざして」	単著	2005年9月	同窓会誌(東北大学)第35号		32~36頁
「ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容」研究プロジェクト報告書Ⅰ	共著	2008年3月	東北学院大学オープンリサーチセンター	東北学院大学オープンリサーチセンター	i~xv, 298~329頁
「ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容」研究プロジェクト報告書Ⅱ	共著	2009年3月	東北学院大学オープンリサーチセンター	東北学院大学オープンリサーチセンター	i~v, 116~132, 260-271頁
1950-60年亞州國際秩序 (The Transformation of the International Order of Asia in 1950s and 1960s)	共著	2009年7月	『國土館館訊』第二期	渡辺昭一 秋田茂合撰 吳李晏訳	194~207頁
F ヘドリック『進歩の触手』	単著	2006年3月	社会経済史学第71巻4号		119~121頁
D.アーミテイジ『帝国の誕生』	単著	2007年7月	『社会経済史学』73-2		102~104頁
G シンポジウム「ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容の解明に向けて」問題提起	単著	2007年11月	東北学院大学オープンリサーチセンター主催公開講演会		
インド鉄道導入計画をめぐる様々な思惑と展開	単著	2008年7月	東北学院大学オープンリサーチセンター主催公開講演会		
イギリス帝国支配の解体とインド国民経済プランの策定について	単著	2008年11月	東北学院大学オープンリサーチセンター主催公開講演会		
The Transformation of the International Order of Asia in 1950s and 1960s, organized by Shoichi Watanabe and Academia Historia	共著	2008年12月	國土館, Taipei, Taiwan, R. O. C.,		
イギリス・コモンウェルス体制とロンボ・プラン	単著	2009年6月	東北学院大学歴史学科公開講座		
The Transformation of the International Order of Asia in the 1950s and 1960s, organized by Shoichi Watanabe and Shigeru Akita	共著	2009年8月	The XV World Economic History Congress, Utrecht, the Netherlands,		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
日本学術振興会・科学研究費補助金（基盤B）	2002年～2005年	共同・研究代表者	帝国統治システムの移転とアジア・欧米関係の変化に関する研究
教育・学習方法等改善支援経費	2005年～2006年	共同・研究代表者	ヨーロッパ文化史関連のデジタル化システムの推進
日本学術振興会・科学研究費補助金(基盤A)	2007年度～	共同・研究代表者	アジアにおける新国際秩序の形成と国際援助計画の総合的研究
文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業	2007年度～	共同・研究代表者	ヨーロッパ・グローバルリサーチと諸文化圏の変容
東北学院大学共同研究	2007年度	共同・研究代表者	帝国の類型に関する研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2005年1月～	東北史学会会員，評議員，理事（2003年10月～2008年10月）		
2005年1月～	西洋史研究会会員，理事 [2006年11月～]		
2005年1月～	日本西洋史学会会員		
2005年1月～	歴史と経済（旧土地制度史学会）会員		
2005年1月～	社会経済史学会会員，評議員（2009年10月～）		
2005年1月～	歴史学研究会会員		
2005年1月～	南アジア学会会員		
2005年1月～	史学会会員		
2005年1月～	鉄道史学会会員		
2009年11月～	日本国際政治学会会員		

所属	歴史学科	職名	准教授	氏名	河西 晃祐	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習内容の復習	2005年4月～2009年12月 現在	各回講義の冒頭に、前回講義内容をまとめ、歴史の流れを解説するように心がけている。				
	毎回の講義において一次史料分析を行うための作業時間を設けている	2005年4月～2009年12月 現在	各回の講義中において、内容に関わる歴史史料を配布し、課題を与えて史料の分析作業を行わせ、解説を加えることで大教室講義であっても学生が参加できる様に心掛けている。				
	映像資料の使用	2005年4月～2009年12月 現在	一次史料読解にあわせて、当時撮影されたフィルムを中心とした映像を視聴することの出来る機会を作っている。				
2	レジュメの作成・配布	2005年4月～2009年12月 現在	各回毎に講義内容に関するレジュメを作成した。				
4	平成19年度 みやぎ県民講座における講師担当	2007年6月20日	第6回「太平洋戦争の日本の戦略」を担当した。				
	東北学院大学夏季・秋季交換留学生向けの講義実施と課題指導	2007～2009年度	2007～2009年度において東北学院大学夏季・秋季交換留学生への講義と、アーサイナス大学からの秋季交換留学生の課題指導を行った。				
	平成20年度 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座の実施	2008年10月18日	「防空都市論と戦時仙台」を担当した。				
	東北学院大学文学歴史学科第11回公開講座「一次史・資料からみた“歴史”像」講師担当	2008年11月1日	第4回「一次史料から見る満州・上海事変」を担当した。				
	2008～2009年度 集中日本語講座（トリア大学からの留学生）の指導教官担当	2008～2009年度	2008年度 ドイツ・トリア大学からの留学生の指導を行った。				
	福島西高等学校模擬講義実施	2009年6月17日	「一次史料からみる日本近現代史」と題した模擬講義を実施した。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	緒・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
Ba	「外務省『大東亜共栄圏』構想の形成過程」	単著	2005年2月	『歴史学研究』798号		1～21頁	
	「南洋スマラン植民地博覧会と大正期南方進出の展開」	単著	2006年6月	『日本植民地研究』18号		18～34頁	
Bb	『帝国』と『独立』－『大東亜共栄圏』における『自主独立』問題の共振	単著	2005年5月	『年報 日本現代史』第10号		47～84頁	

「1910-30年代の「帝国秩序」変容と「大東亜共栄圏」構想」	単著	2007年3月	『ヨーロッパ文化史研究』第8号(東北学院大学ヨーロッパ文化研究所)	233~67頁
「日米交渉と「大東亜共栄圏」問題-「井川交渉」を中心に-」	単著	2008年3月	東北学院大学論集『歴史と文化』第43号	209~24頁
D 「押川方義そのひと(一)」	単著	2008年12月	『東北学院資料室』Vol.8	2~4頁
F 書評・研究動向『日本植民地研究の現状と課題』と『イギリス帝国と20世紀』	単著	2009年6月	『日本植民地研究』21号	43~55頁
G 東北文化研究所第39回研究会報告「満州」-東北史論争と政策決定過程		2007年1月	東北文化研究所第39回研究会	
仙台近現代史サマーセミナー報告「日米交渉と「大東亜共栄圏」問題(1)-「井川工作」を中心に		2007年9月	仙台近現代史研究会, 東北学院大学オープンリサーチセンター第三回研究会	
『イギリス帝国と20世紀』総合書評会報告「日本植民地研究の現状と今後の課題」		2008年11月	イギリス帝国史研究会・日本植民地研究会・日本アメリカ史学会共催	
「「亜細亜民族運動」と外務省-その認識と対応-」		2009年11月	仙台近現代史研究会	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
「アジアにおける新国際秩序の形成と国際援助計画の総合的研究」	2007年度	共同・日本の援助計画とコロボプラン	平成19年度 基盤研究(A) 研究代表者 渡辺昭一
「杉山元次郎・鈴木義男の事蹟を通して見る本学の建学の精神」	2008年度	共同・押川家文書の整理研究	「平成20年度 教育・学習方法等改善支援経費」代表 岩本由輝
科学研究費補助金(若手研究(B))	2009年度	個別	1930年代における帝国秩序とアジア主義者ネットワークの研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年4月~現在	日本植民地研究会編集委員
2007年4月~現在	NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事
2007年4月~現在	東北史学会理事
2007年9月~現在	宮城歴史科学研究会事務局

所属	歴史学科	職名	准教授	氏名	櫻井 康人	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習内容の定着・理解の促進	2005年1月～2009年12月		毎回の講義開始時に、前回の内容を簡単に説明し、終了時には次回の内容の予告を行うことで、学習内容のさらなる理解を促すよう努めている。			
	書く能力の向上	2005年1月～2009年12月		オーソドックスではあるが、あえて板書を多くすることで、学生の「文字離れ」を防ぐよう努めている。その際、板書と口頭での説明を同時に行わないように注意している。			
	考える力の向上	2005年1月～2009年12月		演習において、学生が自発的に自分の考えを発言し、そして他の学生がそれに対する自分の考えを述べられるような雰囲気を作ることに努めている。			
2	『西洋中世史研究入門 増補改訂版』(名古屋大学出版会)における「十字軍運動」の項目	2005年7月		十字軍研究に関して、近年の研究動向およびその問題点を示した。			
4	平成17年度みやぎ県民大学「大学開放講座」における講師	2005年6月		「十字軍と西アジア世界」と題した公演を行った。			
	2005年度東北学院大学公開講座「キリスト教文化講座」第24回における講師	2005年10月		「十字軍と結婚」と題した公演を行った。			
	公開講座の講師	2007年9月29日		本学歴史学科第10回公開講座(「歴史の中の女性像」)において、「マージェリー・ケンプの旅」と題する講演を行った。			
	高校への出前授業の講師	2007年11月30日		泉松稜高校において、「古代～中世初期におけるキリスト教の拡大」と題する授業を行った。			
	公開講演会の講師	2007年12月15日		本学ヨーロッパ文化研究所主催・オープンリサーチセンター共催の公開講演会(「「他者」との対話—中世のカトリック・ビザンツ・イスラーム世界—」)において、「4～15世紀の聖地巡礼記に見る「サラセン人」」と題する講演を行った。			
	開放講座の講師	2008年6月18日		本学歴史学科開放講座(「宗教と社会」)において、「「キリスト教」社会の形成と変質—民衆的「キリスト教」信仰とその統制—」と題する講演を行った。			
	フォーラムでのコメンテーター	2008年6月20日		本学キリスト教文化研究所主催の研究フォーラム「宗教原理主義とキリスト教」において、「イスラーム原理主義 Fundamentalism とは何か?—その歴史的起源—」と題したコメントを行った。			
	オープン・キャンパスでの模擬授業	2008年8月2日		本学オープン・キャンパスにおいて、「「十字軍」という用語の問題」と題した模擬授業を行った。			

公開講演会の講師	2009年3月7日	本学オープンリサーチセンター主催・ヨーロッパ文化研究所共催公開講演会（「17～19世紀における東西世界のクロスゾーン－パレスチナ・シリア・南コーカサス」）において、「厄介者の聖地巡礼者」と題した講演を行った。
カルチャーセンターにおける講師	2009年7月18日	朝日カルチャーセンター・横浜において「十字軍国家の展開－エルサレム王国の構造－」（朝日カルチャーセンター・横浜講座（地中海世界の興亡－帝国・皇帝・民族－）と題した講義を行った。
公開講演会の講師	2009年7月25日	本学オープンリサーチセンター主催・ヨーロッパ文化研究所共催公開講演会（「中世の地中海世界におけるキリスト教徒とムスリム－宗教的相違と共生－」）において、「十字軍国家史の立場から－ナーブルス逃亡事件に見るフランク人支配下のムスリム－」と題した講演を行った。
教員免許更新講習の講師	2009年8月20日	「平成21年度 東北学院大学教員免許更新講習」において、歴史講座（西洋史）を担当し、「「十字軍」をめぐる諸問題」と題した講義を行った。
高校への出前授業の講師	2009年9月10日	福島県立双葉高校において、「「十字軍」という用語について」と題する授業を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『西洋中世史研究入門 増補改訂版』	共著	2005年7月	名古屋大学出版会	佐藤彰一 池上俊一 高山博編	118～122, 343～345頁
『空間と移動の社会史』	共著	2009年2月	ミネルヴァ書房	前川和也編	91～114頁
Ba 「後期十字軍再考(2)－14世紀の聖地巡礼記に見るイスラーム世界－」	単著	2007年3月	『ヨーロッパ文化史研究』(第8号)		37～75頁
「4～13世紀の聖地巡礼記に見るイスラーム・ムスリム観の変遷」	単著	2008年3月	『ヨーロッパ文化史研究』(第9号)		47～88頁
「15世紀前半の聖地巡礼記に見る十字軍・イスラーム・ムスリム観－後期十字軍再考(3)－」	単著	2009年3月	『ヨーロッパ文化史研究』(第10号)		53～100頁
Bb 「13世紀聖地周辺域における托鉢修道会士の活動－ムスリムの改宗作業とキリスト教徒の回心作業を中心に－」	単著	2005年3月	『東北学院大学論集』(歴史学・地理学)39号		33～78頁
「後期十字軍再考(1)－14世紀の聖地巡礼記に見る十字軍観－」	単著	2006年3月	『ヨーロッパ文化史研究』7号		1～50頁
D 「4～15世紀前半の聖地巡礼記に見る「サラセン人」」	単著	2008年3月	『ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容研究プロジェクト報告書1』		135～173頁

「厄介者の聖地巡礼者」	単著	2008年9月	『地中海学会月報』(312号)	3頁
「厄介者の聖地巡礼者」	単著	2009年3月	『ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容研究プロジェクト報告書2』	395～410頁
「日本における十字軍研究(6)―八塚春児―」	単著	2009年	『史遊』(15号)	134～138頁
E				
「イスラーム原理主義とは何か?―その歴史的起源―」	単著	2009年3月	『東北学院大学キリスト教文化研究所紀要』(27号)	
F				
「回顧と展望(西欧・南欧)」	単著	2007年5月	『史学雑誌』(116編5号)	320～325頁
「2007年度歴史学研究会大会報告批判(合同部会)」	単著	2007年12月	『歴史学研究』(No. 835)	53～54頁
「「十字軍」と「少年十字軍」―十字軍研究の立場から見た『ヨーロッパ中世の宗教運動』―」	単著	2008年5月	『クリオ』(22号別冊)	87～94頁
G				
「14世紀の聖地巡礼記に見るイスラーム世界―後期十字軍再考の手がかりとして―」	単独	2005年11月	2005年度西洋史研究会大会(於青山学院大学)	
「中世キリスト教世界におけるイスラーム認識」	単独	2006年5月	キリスト教文化研究所研究例会(於東北学院大学)	
「14世紀の聖地巡礼記に見るイスラーム世界―後期十字軍再考(2)―」	単独	2006年7月	関西中世史研究会(於白雲荘(京都))	
「14世紀の聖地巡礼記に見るイスラーム世界(後期十字軍再考)」	単独	2007年3月	「教会と社会」研究会(第12回研究会:於東京大学駒場キャンパス)	
八塚春児『十字軍という聖戦』への論評	単独	2008年12月	関西中世史研究会(於京都大学)	
「厄介者の聖地巡礼者」	単独	2009年4月	第5回拡大地中海研究会(於学習院大学)	
「厄介者の聖地巡礼者―受入側史料から見た聖地巡礼史―」	単独	2009年5月	科学研究費補助金基盤研究(B)	代表:早稲田大学・甚田尚志
シンポジウム「若手研究者の模索する中世像」(司会)	共同	2009年10月	西洋中世学会若手交流セミナー(於京都女子大学)	
「フランク人支配下のムスリム―『聖地のシャイフたちの奇跡的な行い』を中心に―」	単独	2009年11月	第77回西洋史読書会大会(於京都大学)	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
東北学院共同研究助成金	2007 年度	共同・分担	「帝国の類型に関する研究」（代表：渡辺昭一）において、中世ヨーロッパ世界における帝国としての「キリスト教共和国」Christianitas に関する研究を行った。
科学研究費補助金基盤研究(B)	2007 年度～2009 年度	共同・分担	「中近世のキリスト教会と民衆宗教」（代表：早稲田大学・甚野尚志）を研究課題名とする研究において、主に聖地巡礼者に関する社会史的研究を行っている。
科学研究費補助金若手研究(B)	2007 年度～2010 年度	個別	「15 世紀の聖地巡礼木に見る十字軍観・イスラーム観—記憶と経験」を研究課題名とする研究を行っている。
文部科学省オープンリサーチセンター整備事業	2007 年度～2011 年度	共同・分担	「ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容」（代表：渡辺昭一）を事業名とする研究プロジェクトにおいて、研究を行っている。
科学研究費補助金基盤研究(A)	2009 年度～2013 年度	共同・分担	「中・近世ヨーロッパにおけるコミュニケーションと紛争・秩序」（代表：京都大学・服部良久）を研究課題名とする研究において、主にフランク人支配下のムスリムについての研究を行っている。
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2007 年 4 月～	東北史学会評議員		
2007 年 4 月～	「教会と社会」研究会運営協力者		
2008 年 4 月～	西洋中世学会事務局員		

所属	歴史学科	職名	准教授	氏名	下倉 涉	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1	講義の内容を明示する。		2000年4月～2008年3月 2009年4月～12月		講義において、授業内容を詳細に記したプリントを毎回配布している。		
	成果を競わせる。		2005年4月～2008年3月 2009年4月～12月		演習において、同一の課題を2グループに担当させ、その成果を競わせている。また、担当者以外の受講者には両グループの報告を採点させている。		
	学外調査への学生の帯同		2007年3月		神戸・長崎で関帝廟調査		
4	高校への出前授業の講師を務めた。		2006年11月17日		宮城県立第二女子高等学校の2年生に対して、「名付けの歴史——中国の場合——」と題する授業を行った。		
	公開講座講師（文学部歴史学科）		2007年9月22日		「皇帝の女たち」と題して講演		
	東北学院大学在外研究員		2008年4月～2009年3月		中国人民大学		
	公開講座講師（文学部歴史学科）		2009年11月21日		「ワンピースからツーピースへー漢唐間の中国服飾史ー」と題して講演		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba	秦漢關陝罪雜考	単著	2006年11月		日本秦漢史学会報7		162～195頁
Bb	秦漢姦淫罪雜考	単著	2005年3月		東北学院大学論集(歴史学・地理学)39		105～174頁
	南北朝の帝都と寺院	単著	2006年3月		歴史と文化(東北学院大学論集)40		197～212頁
	出土資料よりみた南京の歴史-建康都城復元の現状	単著	2008年3月		『資料学の方法を探る』7号		30～38頁
G	三国志に見る戦い		2005年6月		みやぎ県民大学開放講座(東北学院大学)		
	南朝建康の都城と寺院		2005年10月		東北史学会(福島大学)		
	中国南北朝時代の歴史的役割		2006年3月		東北学院大学東北文化研究所第37回研究会(東北学院大学)		
	魏晋南朝の輩行字について		2006年5月		東北中国学会(福島大学)		

出土資料からみた南京の歴史		2007年10月	愛媛大学公開シンポジウム「古代東アジアの出土資料と社会」		
漢代の親族関係をめぐって		2009年10月	日本秦漢史学会(静岡大学)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
オープンリサーチセンター整備事業「アジア流域文化論」研究プロジェクト	2003年度～2007年度	研究分担者	「長江流域の民族と文化」分担
大学院教育改革支援プログラム	2006年度～2008年度	研究分担者	中国民間信仰調査担当

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2002年～	中国文史哲研究会編集顧問
2005年～	日本秦漢史学会会員

所属	歴史学科	職名	准教授	氏名	七海 雅人	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習事項の理解促進のために授業内容を整理する。	2005年4月～2009年12月	授業のはじめに前回の内容をふりかえり、おわりに今回の内容をまとめ、各回授業内容の整理をおこなっている。あわせて、授業テーマ全体の中における各回の位置づけを明確にしている。	2005年4月～2009年12月	授業の内容を整理したプリントを作成・配布し、教材として利用している。	2005年4月～2009年12月	仙台市博物館・東北歴史博物館における展覧会の見学。宮城県内の中世遺跡・景観の見学。神奈川県鎌倉市を中心とする2泊3日の研究旅行。
	授業内容をまとめたプリントを配布している。	2005年4月～2009年12月	授業の内容を整理したプリントを作成・配布し、教材として利用している。	2005年4月～2009年12月	仙台市博物館・東北歴史博物館における展覧会の見学。宮城県内の中世遺跡・景観の見学。神奈川県鎌倉市を中心とする2泊3日の研究旅行。	2007年3月～2008年3月	4年生が作成した卒業論文について、あらためてその概要を整理させ、書式を統一した上で版下を作成し、印刷・製本して学生へ配付している。
	ゼミにおいて博物館や遺跡の見学会、研究旅行をおこなっている。	2005年4月～2009年12月	仙台市博物館・東北歴史博物館における展覧会の見学。宮城県内の中世遺跡・景観の見学。神奈川県鎌倉市を中心とする2泊3日の研究旅行。	2007年3月～2008年3月	4年生が作成した卒業論文について、あらためてその概要を整理させ、書式を統一した上で版下を作成し、印刷・製本して学生へ配付している。		
	ゼミにおいて卒業論文の概要をまとめた冊子を作成している。	2007年3月～2008年3月	4年生が作成した卒業論文について、あらためてその概要を整理させ、書式を統一した上で版下を作成し、印刷・製本して学生へ配付している。				
4	宮城県民大学大学開放講座「戦いの歴史」第3回の講師	2005年6月8日	東北学院大学文学部歴史学科と宮城県との共催。東北学院大学土樋キャンパスが会場。「源平の戦い」を担当した。	2005年11月5日	東北学院大学経済学部と宮城県との共催。東北学院大学土樋キャンパスが会場。第1回「中世・岩切の冠屋市場と河原宿五日市場」と、第6回「対談・中世から近代の市の系譜を語る」を担当した。	2006年8月5日	泉キャンパスでおこなわれたオープンキャンパスにおいて、模擬授業「中世の松島」を担当した。
	宮城県民大学大学開放講座「歴史に見る仙台地域の市と流通」の講師	2005年11月5日	東北学院大学経済学部と宮城県との共催。東北学院大学土樋キャンパスが会場。第1回「中世・岩切の冠屋市場と河原宿五日市場」と、第6回「対談・中世から近代の市の系譜を語る」を担当した。	2006年12月2日	NPOしほがまが主催。塩竈市亀井邸が会場。「中世の鹽竈神社と塩竈津」を担当した。	2006年12月2日	東北学院大学文学部・教職課程センター共催による高等学校・中学校教員を対象とした研修セミナー。東北学院大学土樋キャンパスが会場。「奥州平泉研究の今」を担当した。
	東北学院大学オープンキャンパス2006文学部歴史学科模擬授業講師	2006年8月5日	泉キャンパスでおこなわれたオープンキャンパスにおいて、模擬授業「中世の松島」を担当した。	2007年3月24日	宮城県塩竈市教育委員会が主催。ふれあいエスプ塩竈が会場。「塩竈と多賀国府」を担当した。	2007年3月31日	宮城県亶理町教育委員会が主催。亶理町悠里館が会場。「鎌倉幕府と亶理郡・陸奥国」を担当した。
	しほがま町歩きボランティアガイド養成講座第3回の講師	2006年12月2日	NPOしほがまが主催。塩竈市亀井邸が会場。「中世の鹽竈神社と塩竈津」を担当した。	2007年5月30日	東北学院大学文学部歴史学科と宮城県との共催。東北学院大学土樋キャンパスが会場。「頼朝と平泉」を担当した。	2007年11月3日・10日・11日	宮城県塩竈市教育委員会が主催。第1回・第2回は塩竈市公民館が会場。第3回は鹽竈神社博物館が会場。「中世の『鹽竈神社文書』を読む」を担当した。
	現職教員研修セミナー講師	2006年12月2日	東北学院大学文学部・教職課程センター共催による高等学校・中学校教員を対象とした研修セミナー。東北学院大学土樋キャンパスが会場。「奥州平泉研究の今」を担当した。				
	第5回塩竈シンポジウム「多賀の国府・平泉・鹽竈神社」の講師	2007年3月24日	宮城県塩竈市教育委員会が主催。ふれあいエスプ塩竈が会場。「塩竈と多賀国府」を担当した。				
	亶理町郷土資料館町民講座・平成18年度ものしり大学院の講師	2007年3月31日	宮城県亶理町教育委員会が主催。亶理町悠里館が会場。「鎌倉幕府と亶理郡・陸奥国」を担当した。				
	みやぎ県民大学「大学開放講座」戦いの歴史2・第3回の講師	2007年5月30日	東北学院大学文学部歴史学科と宮城県との共催。東北学院大学土樋キャンパスが会場。「頼朝と平泉」を担当した。				
	塩竈学まちづくり学習事業 塩竈学問所講座・歴史編(全3回)の講師	2007年11月3日・10日・11日	宮城県塩竈市教育委員会が主催。第1回・第2回は塩竈市公民館が会場。第3回は鹽竈神社博物館が会場。「中世の『鹽竈神社文書』を読む」を担当した。				

学都仙台サテライト講座「講座仙台学2007」第4回の講師	2007年11月10日	学都仙台コンソーシアムが主催。仙台市市民活動サポートセンターが会場。「仙台の中世を考えるー留守氏の動向を中心にー」を担当した。
東北学院大学文学部歴史学科開放講座・第1回の講師	2008年6月4日	東北学院大学土樋キャンパスが会場。「中世多賀国府における信仰と板碑の世界」を担当した。
東北学院大学四学部合同オープンキャンパス・文学部歴史学科模擬授業の講師	2008年6月28日	東北学院大学土樋キャンパスが会場。「海からひきあげられた鎌倉時代の文化」を担当した。
東北学院大学アジア流域文化研究所公開シンポジウム「阿武隈川の流域世界・海と川をつなぐ荒浜湊」の講師	2008年7月26日	東北学院大学アジア流域文化研究所と宮城県亶理町立郷土資料館との共催。亶理町悠里館が会場。「阿武隈川と中世の亶理郡」を担当した。
四館連携事業「七北田川下流域の歴史～中世編～」第1回の講師	2008年8月23日	仙台市福室・高砂・田子・岩切市民センターの共催。高砂市民センターが会場。「七北田川下流域の中世・再考」を担当した。
仙台明治青年大学の講師	2009年3月11日	仙台市太白区文化センター楽楽ホールが会場。「仙台市の中世を考えるー留守氏の動向を中心にー」を担当した。
東北学院大学アジア流域文化研究所公開シンポジウム「相馬・原釜の歴史と海の道」の講師	2009年3月21日	東北学院大学アジア流域文化研究所と相馬郷土研究会との共催。福島県相馬市総合福祉センター「はまなす館」が会場。「14世紀の相馬一族と海道の武士団」を担当した。
東北学院大学文学部歴史学科開放講座・第2回の講師	2009年6月3日	東北学院大学土樋キャンパスが会場。「鎌倉御家人の台所事情」を担当した。
せんだい豊齢学園・ふるさと文化コースの講師	2009年6月26日	仙台シルバーセンターが会場。「中世のみやぎー鎌倉時代の多賀国府と松島ー」を担当した。
東北学院大学アジア流域文化研究所公開シンポジウム「東廻り航路における請戸港の位置づけ」の講師	2009年9月12日	東北学院大学アジア流域文化研究所と福島県浪江町教育委員会との共催。福島県浪江町ふれあいセンターなみえが会場。「鎌倉・南北朝時代の双葉地方ー基礎的事項の確認」を担当した。
せんだい・みやぎオータムセミナー2009の講師	2009年10月12日	NPO法人ハーベストが主催。東北学院大学土樋キャンパスが会場。「もうひとつの松島ー鎌倉時代への招待ー」を担当した。
高校への出前授業の講師	2009年12月10日	山形県立上山明新館高等学校へ出講。「日本史の中の平泉藤原氏」を担当した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 南北朝遺文・東北編・第1巻	共著	2008年9月	東京堂出版	大石直正 七海雅人編	全337頁
Bb 鎌倉幕府の東国掌握過程	単著	2005年2月	『中世の社会と史料』 吉川弘文館	羽下徳彦編	63～97頁
鎌倉・南北朝時代の松島ー基礎的事項の確認	単著	2005年6月	『東北中世史の研究下巻』高志書院	入間田宣夫編	29～50頁
霊場・松島の様相ー基礎的事項の確認	単著	2006年10月	『中世の聖地・霊場』高志書院	東北中世考古学会編	49～78頁

留守氏と「奥州余目記録」	単著	2007年10月	『中世武家系図の史料論』下巻, 高志書院	峰岸純夫 入間田宣夫 白根靖大編	73~110頁
鎌倉・南北朝時代の塩竈—鹽竈神社上級神職層の動向—	単著	2008年3月	東北学院大学論集『歴史と文化』第43号		226~240頁
C 平泉藤原氏と中世武家政権論	単著	2008年7月	『季刊東北学』第16号, 柏書房	東北芸術工科大学東北文化研究センター編	134~144頁
D 青森県史 資料編中世2・安藤氏・津軽氏関係資料	共著	2005年3月	青森県	青森県史編さん中世部会編	2~11・54~103・129・132~136・144~155頁 (七海単独執筆部分)
石川町史 第3巻資料編I 考古・古代・中世 [古代・中世]	共著	2006年3月	福島県石川町	石川町町史編纂委員会編	533~551頁 (七海単独執筆部分)
鹽竈神社と中世塩竈津	単著	2006年3月	『平成17年度・港湾整備基礎調査報告書』	国土交通省東北地方整備局・塩釜港湾事務所編	32~43頁
アーカイブズへの招待—宮城県公文書館—	単著	2006年3月	『東北学院大学博物館学芸員課程報』第28号	東北学院大学文学部史学科・博物館学芸員課程編	1~2頁
阿波局, 伊賀氏, 池禅尼, 板碑と女性, 三幡, 渋谷重員の妻, 竹御所, 牧の方, 松下禅尼, 若狭局	単著	2008年1月	『日本女性史大辞典』吉川弘文館	金子幸子 黒田弘子 菅野則子 義江明子編	29・37・40・50・307・320~321・459・673・678・791頁
兵の道, 東国武士と西国武士, 一人当千, 兵士役, 駆武者, 猪武者, 言葉戦い, 矢合, 大矢, 精兵, 騎馬武者, 歩立の兵, 鬨の声, 先陣争い, 見継ぐ, 瀬ぶみ, 馬筏, 鎌倉時代の馬, 後矢, 兵糧米, 軍忠状, 御家人, 非御家人, 家札, 開発領主, 見参, 名簿捧呈, 本領安堵, 名字の地, 一所懸命の地, 御恩と奉公, 烏帽子親・烏帽子子, 猶子, 家子郎党, 主従道徳, 初参の礼	単著	2008年11月	『日本中世史事典』朝倉書店	阿部 猛 佐藤和彦編	56~62・82~88頁
2008年の歴史学界—回顧と展望—日本(中世)六 室町期の政治・法制・外交	単著	2009年5月	『史学雑誌』第118編第5号	史学会編	85~87頁
E 仙台城跡国史跡指定時の石垣保存と良櫓復元の問題	単著	2009年9月	『市史せんたい』第19号	仙台市博物館編	16~17頁

<p>F 〈書評と紹介〉大石直正・難波信雄編『仙台・松島と陸前諸街道』</p>	<p>単著</p>	<p>2005年12月</p>	<p>『六軒丁中世史研究』第11号</p>	<p>東北学院大学中世史研究会編</p>	<p>55～59頁</p>
<p>平泉藤原氏・源義経研究の新しい動向</p>	<p>単著</p>	<p>2007年7月</p>	<p>『平泉・衣川と京・福原』高志書院</p>	<p>入間田宣夫編</p>	<p>40～48頁</p>
<p>〈書評〉峰岸純夫『中世東国の荘園公領と宗教』</p>	<p>単著</p>	<p>2008年2月</p>	<p>歴史学研究会『歴史学研究』第837号</p>		<p>47～50頁</p>
<p>〈書評〉清水亮著『鎌倉幕府御家人制の政治史的研究』</p>	<p>単著</p>	<p>2008年10月</p>	<p>三田中世史研究会『年報三田中世史研究』第15号</p>		<p>138～152頁</p>
<p>G</p>					
<p>松島</p>	<p>単独報告</p>	<p>2005年9月</p>	<p>第11回東北中世考古学会宮城大会「霊地・霊場・聖地」(於・東北歴史博物館)</p>		
<p>中世塩竈神社文書ノート</p>	<p>単独報告</p>	<p>2006年3月</p>	<p>塩竈みなと文化第3回調査研究会(於・塩竈市役所宮町合同庁舎)</p>		
<p>鎌倉・南北朝時代の松島</p>	<p>単独報告</p>	<p>2006年7月</p>	<p>東北学院大学東北文化研究所第38回研究会(於・東北学院大学土樋キャンパス)</p>		
<p>鎌倉・南北朝時代の塩竈</p>	<p>単独報告</p>	<p>2006年12月</p>	<p>東北学院大学中世史研究会第30回大会(於・仙台市博物館)</p>		
<p>板碑からみる中世の陸奥国府</p>	<p>単独報告</p>	<p>2007年10月</p>	<p>愛媛大学「資料学」研究会2007年《公開シンポジウム》古代東アジアの出土資料と社会(於・愛媛大学法文学部)</p>		
<p>松島雄島海底採集板碑の研究〈概要報告〉</p>	<p>単独報告</p>	<p>2008年2月</p>	<p>※報告資料は、『古代東アジアの出土資料と情報伝達』(愛媛大学法文学部, 2008年3月, 『資料学の方法を探る(7)』(愛媛大学「資料学研究会」, 2008年3月)に掲載。</p>	<p>東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻・文部科学省大学院教育改革支援プログラム「石の文化史～宮城の人々と石とのかかわり～」(於・仙台市博物館)</p>	

鎌倉幕府と南奥州	単独報告	2009年8月	第47回中世史サマーセミナー・シンポジウム「鎌倉幕府と地域社会」(於・高野山大学)		
奥州(平泉)藤原氏・奥羽の武士団と中世武家政権論	単独報告	2009年12月	研究会「平泉とは何か」第4回(於・岩手県平泉町役場)		
奥州(平泉)藤原氏・奥羽の武士団と中世武家政権論	単独報告	2009年12月	在地領主研究会12月例会(於・東京都江東区古石場文化センター)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金(基盤研究(C))	2005～2007年度	共同・研究分担者	日本金石文の編年史料化と史料学的分析方法に関する研究
科学研究費補助金(基盤研究(B))	2006～2009年度	共同・研究分担者	中近世移行期における鉱山開発と地域社会の変容に関する研究
科学研究費補助金(基盤研究(B))	2007～2009年度	共同・研究分担者	南部光徹氏所蔵「遠野南部家文書」の調査・研究
科学研究費補助金(基盤研究(C))	2007～2009年度	共同・研究分担者	15～19世紀,列島北方地域とアムール川最下流域の諸民族との交流に関する研究
東北学院大学研究奨励金	2008年度	個別	中世奥羽史料データベースの構築と南奥地域社会史の研究
東北学院大学個別研究助成金	2009年度	個別	中世奥羽史料データベースの構築と室町幕府の陸奥国掌握過程に関する研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1995年9月～	宮城歴史科学研究会委員。
2004年4月～	青森県史編さん中世部会専門委員。
2005年4月～2006年3月	福島県石川町史編纂専門委員。
2005年6月～2006年6月	東北学院大学中世史研究会役員(庶務)。
2005年10月～	東北史学会評議員。
2006年6月～	東北学院大学中世史研究会副会長。
2006年6月～	国史談話会(東北大学大学院文学研究科日本史研究室)監事。
2006年6月24・25日	衣川シンポジウム「日本史のなかの衣川遺跡群」実行委員会委員。岩手県奥州市サンホテル衣川荘が会場。
2007年4月～	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事。

2007年12月8日	東北学院大学東北文化研究所学術シンポジウム「古代・中世の北奥と北方世界」(会場・東北学院大学土樋キャンパス)において司会を担当した。
2008年1月～	青森県八戸市史編纂室調査研究員。
2008年1月26日	アジア社会研究会第2回シンポジウム「生成する地域・あらわれる境界」(会場・東北大学東北アジア研究センター)においてコメンテーターを担当した。
2008年4月～	仙台市史編さん調査分析委員。
2008年6月29日	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークの一員として、宮城県栗原市栗駒文字地区において岩手・宮城内陸地震の被災資料調査に参加した。
2008年12月14日	茨城大学人文学部・地域史シンポジウム「北関東の武士(もののふ)たちⅡーみえてきた中世武士団の実像ー」(於・茨城大学人文学部)においてコメンテーター(鎌倉期北関東の武士団と陸奥国)を担当した。
2009年3月15日	松島雄島板碑シンポジウム実行委員。宮城県松島町瑞巖寺が会場。
2009年4月～	宮城県東松島市文化財保護審議会委員。
2009年4月～	宮城県亘理町史編纂委員会委員。
2009年10月3日	東北史学会大会日本古代中世部会(於・東北大学川内キャンパス)において司会を担当した。

所属	歴史学科	職名	講師	氏名	加藤 幸治	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義の進め方における工夫	2009年4月～12月		授業を話題提供・キーワードトーク・テーマトークに分けた構成で行っている。話題提供では最新の学問状況や論争をとりあげ、キーワードトークでは教科書の要点をまとめて講義し、テーマトークではその日のキーワードに関する教員自身の研究から事例を紹介する内容である。			
	学生の知的好奇心高める工夫	2009年4月～12月		文献講読において、学生本人の研究したいテーマとの関連性を意識させ、それを踏まえて行う調査研究の発表時にも学史上の位置づけに目配りさせるように意識的に指導している。そのことが学問に対する知的好奇心を高めている。			
	フィールドワークの技術と取材能力を高める工夫	2009年4月～12月		演習と実習を連動させ、学生の研究テーマに応じた調査方法を助言して実践させるとともに、データベースソフトなどを活用したデータ整理の技術も教えている。調査能力と整理能力の双方を向上させることで取材能力を高める工夫をしている。			
2	学芸員ハンドブック (web版2009年12月公開予定)	2005年4月～2009年12月		NPO 法人フィールドミュージアム文化研究所の企画による学芸員ハンドブック作成委員として民俗分野の執筆を行った。			
3	講演「和歌山の民俗文化 ―モノと技の伝承―」	2006年8月10日		和歌山市小学校社会科研究会より依頼を受け、平成18年度夏季研修会において社会科教育の教材づくりに関する講演を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・略 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba							
「地域博物館における既存資料の再編成と新規資料群の形成」		単著	2005年	日本民具学会、『民具研究』第132号		9～18頁	
「熊野古道の現在 ―“熊野イメージ”を対象化する―」		単著	2007年7月	歴史科学協議会、『歴史評論』第687号		69～82頁	
「郷土玩具愛好運動の地域的实践 ―紀州郷土玩具研究会の活動を中心に―」		単著	2008年3月	日本民具学会、『民具研究』137号		1～14頁	
「郷土玩具概念再考」		単著	2008年11月	日本民俗学会、『日本民俗学』第256号		1～26頁	
「河川におけるオープンアクセスでの資源利用 ―紀伊半島南部古座川の漁撈と近代林業から―」		単著	2009年3月	総合研究大学院大学文化科学研究科、『総研大文化科学研究』第5号		81～99頁	

Bb	「民具を活用した体験学習と博物館教育活動 —紀伊風土記の丘子ども学芸員の試みから—」	単著	2005年1月	神奈川県立常民文化研究所, 『民具マンスリー』第37巻10号	18~24頁
	「近代における山地の諸生業の地域的展開 —貴志川中流域における聞き書きを中心に—」	単著	2005年3月	近畿民具学会, 『近畿民具』第28輯	5~21頁
	「熊野式林業の技術的特色について —古座川流域における聞き書きから—」	単著	2006年3月	近畿民具学会, 『近畿民具』第29輯	25~45頁
	「熊野地域における養蜂技術とその歴史的展開 (一)」	単著	2007年1月	神奈川県立常民文化研究所, 『民具マンスリー』第39巻10号	1~12頁
	「熊野地域における養蜂技術とその歴史的展開 (二)」	単著	2007年2月	神奈川県立常民文化研究所, 『民具マンスリー』第39巻11号	10~17頁
	「環境の攪乱と山林資源利用の諸相 —熊野地域における伝統的なシイタケ栽培から—」	単著	2007年6月	和歌山地方史研究会, 『和歌山地方史研究』第53号	44~54頁
	「民具と有形民俗文化財 —文化財指定にむけた基礎作業から—」	単著	2009年2月	和歌山地方史研究会, 『和歌山地方史研究』第56号	14~25頁
C	「日高地域における鍛冶屋の出職と定着」	単著	2005年2月	和歌山県立紀伊風土記の丘, 『年報』第31号	25~31頁
	「富田川中流域における農具の地域的特色」	単著	2005年3月	上富田文化の会, 『上富田文化財』第24集	27~35頁
	「上富田の民具について」	単著	2006年3月	上富田町教育委員会	1~12頁
	「旧敷屋小学校保管の民俗資料について」	単著	2006年7月	新宮市熊野川町史編纂室, 『熊野川町史研究』第3号	43~52頁
	「地域博物館における民俗誌展示の可能性」	単著	2007年1月	帝塚山大学附属博物館, 『館報』II	28~39頁
	「歴史系博物館におけるワークショップの可能性」	共著	2007年2月	和歌山県立紀伊風土記の丘, 『年報』第33号	加藤幸治 松山千穂 22~32頁
	「“おとこ船頭, おんな紙漉き” —近代における山村の生計維持戦略—」	単著	2007年9月	和歌山県立紀伊風土記の丘, 『年報』第34号	16~27頁
	「民俗誌のコレクション形成とその課題 —有田川町上湯川の民具調査から—」	単著	2009年1月	和歌山県立紀伊風土記の丘, 『和歌山県立紀伊風土記の丘年報』第35号	36~45頁

D						
「民俗資料の再整理方針」	単著	2005年1月	和歌山県立紀伊風土記の丘, 『年報』第32号			23～31頁
「和歌山県」・「戦争体験記関係文献リスト3<和歌山県>」	単著	2005年3月	国立歴史民俗博物館, 『戦争体験の記録と語りに関する資料調査3博物館資料調査報告書14』			1817～1830頁
「実験民具学 3 竈(かまど)で飯を炊く」	単著	2005年7月	近畿民具学会, 近畿民具学会通信第51号			5～8頁
「緊急提言 市町村合併と民具」	単著	2005年7月	近畿民具学会, 『新・てくてく野路地井近畿民具学会通信』第51号			4頁
「河口から源流を見る視点」	単著	2006年	森と水の源流館, 『民俗調査だより』第2号			1頁
「鍛冶職人の“人材派遣制度” 一紀州からの出職と定着一」	単著	2006年4月	(社)日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学部会, 『鉄一ひとと道具とその技術一(2)』			34～41頁
「実験民具学」への志向	単著	2006年9月	日本民具学会, 『民具研究』134			72～75頁
民具と現代人をつなぐ実践と公共空間	単著	2006年9月	日本民具学会, 『民具研究』134			71頁
「文献目録: 民俗(和歌山関係の地方紙研究文献目録1991年1月～2004年12月)」	共著	2007年2月	和歌山地方史研究会, 『和歌山地方史研究』52	藤井弘章 加藤幸治		110～138頁
「熊野式林業について」	単著	2007年9月	奈良県立民俗博物館, 『特別展 木を育て山に生きる 一吉野山林利用の民俗誌一』			22～23頁
「アチックミュージアムの民具コレクション22 和歌山の姉様」	単著	2008年3月	神奈川大学日本常民文化研究所, 『民具マンスリー』40巻12号			20頁
「熊野川流域の民具」	単著	2008年3月	新宮市熊野川町史編纂委員会, 『熊野川町史 通史編』			753～764頁
「大迫の民俗」	共著	2008年3月	森と水の源流館, 『川上村民俗調査報告書上巻』	蘇理剛志 浅見恵理 加藤幸治		259～285頁
「北塩谷の民俗」	共著	2008年3月	森と水の源流館, 『川上村民俗調査報告書上巻』	往西美沙 加藤幸治		77～95頁

「北和田の民俗」	共著	2008年3月	森と水の源流館、『川上村民俗調査報告書上巻』	蘇理剛志 浅見恵理 今中崇文 上田喜江 松岡元気 加藤幸治	356～353頁
「座談会録」	共著	2008年3月	森と水の源流館、『川上村民俗調査報告書上巻』	池田 淳 浦西 勉 小島 卓 加藤幸治	15～18頁
「特集有形民俗資料の最新事情 問題提起」	単著	2009年2月	和歌山地方史研究会, 『和歌山地方史研究』第56号		1～2頁
F 「宮本常一のフィールドワークと写真をめぐって」	単著	2005年3月	近畿大学民俗学研究所, 『民俗文化』第17号		281～296頁
G 「熊野の山林利用と山村生産用具の調査」	単独	2005年3月	近畿民俗学会第33回 年次研究大会		
「実験民具学の志向」	単独	2006年2月	関西民俗学研究学生 連絡会第1回実験民 具学講座		
「熊野地域における山林利用と民俗調査」	単独	2006年3月	環境／文化研究会 関 東・関西合同例会 in 清水		
「民具だけが知っている吉野川・紀ノ川の近代農業史」	単独	2006年3月	森と水の源流館第11 回民俗いろいろばた教 室		
「鍛冶職人の“人材派遣制度”－紀州の鍛冶屋の出職と定着－」	単独	2006年4月	日本鉄鋼協会社会鉄 鋼工学部会「鉄の歴史 －その技術と文化－」 フォーラム 第15回 フォーラム講演会		
「熊野におけるニホンミツバチの養蜂技術について」	単独	2006年7月	帝塚山大学大学院人 文科学研究科日本伝 統文化専攻開設10周 年記念研究大会		
「熊野地域における山林利用の地域的展開について」	単独	2006年7月	和歌山地方史研究会 2006年第2回例会		
「コレクション形成と展示における協働の試み－参画型博物館への志向－」	単独	2006年10月	日本民俗学会第58回 大会グループ発表『公 共へ向けて民俗学実 践の課題－野の学 問とアカデミズム(3) －』		
「漁撈民俗研究の最新事情」	単独	2006年12月	紀伊考古学研究会第1 回例会		

「最後の清流」の実像 ―古座川の内水面漁撈をめぐって―	単独	2007年7月	環境／文化研究会第3回関西例会 シンポジウム		
「“遊び”の世界 ―郷土玩具に託された想い―	単独	2007年10月	和歌山県立紀伊風土記の丘風土記講座		
「熊野の生活誌 ～山の恵みを活かす知恵～」	単独	2008年2月	高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座 県民カレッジ中核講座講演会		
「紀州の海に生きる人びと」	単独	2008年2月	和歌山県立紀伊風土記の丘風土記講座		
「天神人形によせる人々の願い」	単独	2008年5月	和歌山県立紀伊風土記の丘風土記講座		
「流通民具概念再考」	単独	2009年1月	京都民俗学会第219回例会		
「漆器と職人 ―美里の椀木地と黒江塗―	単独	2009年2月	葛城市歴史博物館2009年第11回葛城学へのいざない		
「工芸意匠と出版文化」	単独	2009年10月	日本民俗学会第61回大会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
全国大学博物館学講座協議会東日本部会 平成21年度研究助成	2009年度	個別 研究代表者	「戦後日本の民具収集運動と小規模地域博物館に関する博物館史研究」和歌山県西牟婁郡内を事例に、全国各地域に多数存在する小規模地域博物館におけるコレクション形成の過程を明らかにする

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2001年4月～2009年3月	和歌山地方史研究会 幹事(学会誌編集担当)
2003年4月～2007年3月	近畿民具学会 常任幹事(学会通信編集担当・公式ホームページ運営担当)
2004年10月～2007年9月	日本民具学会 評議員(第5回評議員選挙)

経済学部

経済学科
共生社会経済学科

所属	経済学科	職名	教授	氏名	岩本 由輝	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 総合演習Ⅰの授業において新聞の経済記事に関心を持たせるため、関心のある記事のスクラップの作成をさせる。各自の身近にある新聞を教材とする。				2005年4月～2009年12月	スクラップ記事を中心に毎回5人ずつをあて、月に1回ずつそれぞれにレポートをさせ、ディスカッションを行わせる。こういう指導でもしななければ、新聞すら読まない学生が多いというのが実情である。		
総合演習Ⅱにおいて 拓銀を潰した戦犯（講談社文庫）、ドキュメント金融破綻（朝日新聞社）頭取の影法師—小説「徳陽シティ」破綻の真相—（徳間書店）をとりあげ輪読により経済書の読み方を指導する。				2005年4月～7月 2006年4月～7月 2007年4月～7月 2008年4月～7月 2009年4月～7月	輪読方式でバブル崩壊期に破綻した銀行の破綻にいたる足跡をみる。 BOOK OFFの105円のコーナーにある経済書を購入させ、書評を書かせることもやってみた。本の選び方によって学生のセンスがうかがえて興味深い。		
3 東北地方における「海の道・川の道」に関する研究					本学におけるオープン・リサーチ・センターの「アジア流域文化研究プロジェクト」に平成15年度から19年度まで参加して、とくに北上川流域における鉄道開通以前の物流体系について研究。さらに平成20年度からは、上記プロジェクトの終了後に設立された本学のアジア流域文化研究所において阿武隈川における鉄道開通以前の物流体系の研究を進めている。		
「大正デモクラシーと東北学院」に関する研究					平成15年度から19年度にかけて、本学創立120周年記念事業の一環として設置された「大正デモクラシーと東北学院」調査委員会委員長を務め、記念図録『大正デモクラシーと東北学院—杉山元治郎と鈴木義男—』を刊行する。		
「杉山元治郎・鈴木義男の事蹟を通してみる東北学院の建学の精神」の研究					本学の創立期の解明をするため、平成20年度から3ヶ年の予定で私学事業団経常費補助金特別補助・教育学習方法等改善支援経費「杉山元治郎・鈴木義男の事蹟を通してみる東北学院の建学の精神」の研究についての研究代表者を務めている。なお、平成21年度からは仁昌寺正一を研究代表者としている。		
4 日タイセミナーの開催					日タイ交流史と日タイ農村社会研究のためタイの研究者との共同研究プロジェクトとして結成された「日タイセミナー」の日本側代表を務めている。平成19年におけるタイのクーデターで2年間ほど、交流が停滞している。		
東北地方における「海の道・川の道」に関するシンポジウムの開催と資料収集					オープン・リサーチ・センターおよびアジア流域文化研究所で調査を行うに際し、河川流域の各市町村の教育委員会に資料所蔵者の紹介、地元研究者の参画を依頼し、シンポジウム開催などの成果を挙げている。平成20年度は宮城県亶理郡亶理町荒浜、福島県相馬市原釜、平成21年度は福島県双葉郡浪江町請戸でシンポジウムを開催している。		

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
家存続戦略としての養子・婿養子 近畿大学日本文化研究所編 日本文化の諸相―その継承と創造―	単著	2006年3月	風媒社		44～62頁
税と沽券 長谷川善計・江守五夫・肥前栄一編 家・屋敷地と霊・呪術〔新装版〕	単著	2006年5月	早稲田大学出版部		118～123頁
地域のなかの家族 諏訪春雄編 非婚・崩壊・少子化―どこへ行く日本の家族―	単著	2006年8月	勉誠出版		71～89頁
中村吉治	単著	2006年12月	今谷明・大濱徹也・尾形勇・樺山紘一・木畑洋一編 20世紀の歴史家たち 第5巻 日本編(続), 刀水書房		217～233頁
漁村における共同体	単著	2007年3月	日本村落研究学会編・池上甲一責任編集, むらの資源を研究する―フィールドからの発想―, 農山漁村文化協会		133頁
矢後嘉蔵の土着の思想と「永小作権」	単著	2008年7月	北山郁子編・岩本由輝解題, 不敗の農民運動家矢後嘉蔵―生涯と事績―, 刀水書房		427～488頁
東北開発 120年(増補版)	単著	2009年3月	刀水書房		1～220頁
近世大名における家存続戦略―出羽久保田藩佐竹氏と陸奥中村藩相馬氏との重縁関係にみる―	単著	2009年10月	國方敬司・長谷部弘・永野由紀子編, 家の存続戦略と婚姻, 刀水書房		16～35頁
本石米と仙台藩の経済	単著	2009年10月	大崎八幡宮		1～70頁
Ba					
仙台に設立された移民会社の顛末―沖縄県における営業活動を中心に―	単著	2005年4月	学術文献刊行会編 日本史学年次別論文集 近代2 2002(平成14)年 明文出版		257～292頁
史学・経済史学の研究動向	単著	2005年11月	村落社会研究 第41集 農山漁村文化協会		223～236頁
飛脚情報と地方商人―陸奥中村藩の一商家番頭の日記による―	単著	2006年12月	市場史研究 第26号 そしえて		6～22頁

YAMADA NAGAMASA AND HIS RELATIONS WITH SIAM	単著	2007年6月	The Journal of the Siam Society Vol. 95, Amarin Printing and Publishing Public Company Limited, Bangkok, Thailand		73～84頁
仙台藩領における北上川筋の河川舟運に関する一考察―迫川・江合川・鳴瀬川筋および阿武隈川筋を含む―	単著	2008年5月	学術文献刊行会編, 「日本史学年次別論文集・近世1<2005(平成17)年>」, 朋文出版		586～608頁
沖縄県公設市場成立前史	単著	2009年3月	マチグワー楽会編, 市場の歴史・未来・魅力・問題点を考える, マチグワー楽会設立準備会		62～77頁
Bb					
仙台藩領における北上川筋の河川舟運に関する一考察―迫川・江合川・鳴瀬川筋および阿武隈川を含む―	単著	2005年3月	東北学院大学オープンリサーチセンターアジア流域文化論研究 1		82～125頁
1980年代の山形県における全通労働運動(5)	単著	2005年3月	東北学院大学経済学論集 第158号 東北学院大学学術研究会		163～220頁
府県制度確立以前における県政の一端―角田県を事例として―	単著	2005年3月	相馬郷土 20 相馬郷土研究会		34～43頁
総論 科学研究費補助金・基盤研究 B 一般(1) 研究成果報告書 我が国における卸売市場の形成と展開に関する研究〔課題番号 14330024〕(研究代表者岩本由輝)	単著	2005年3月			1～10頁
沖縄県中央卸売場の開設と展開 科学研究費補助金・基盤研究 B 一般(1) 研究成果報告書 我が国における卸売市場の形成と展開に関する研究〔課題番号 14330024〕(研究代表者岩本由輝)	共著	2005年3月		岩本由輝 長谷部弘	95～134頁
己百丸・己千丸の原釜初入津と積立始め	単著	2005年7月	磐城民俗 第34号 磐城民俗研究会		12～23頁
1980年代の山形県における全通労働運動(6)	単著	2005年9月	東北学院大学経済学論集 第159号 東北学院大学学術研究会		1～14頁
幕末期陸奥中村藩における御趣意船の建造―吉田屋源兵衛覚日記を中心に―	単著	2005年11月	東北学院大学東北文化研究所紀要 37 東北学院大学東北文化研究所		39～108頁
1980年代の山形県における全通労働運動(7・完)	単著	2005年12月	東北学院大学経済学論集 第160号 東北学院大学学術研究会		37～69頁

1990年代の山形県における全通労働運動(1)	単著	2006年3月	東北学院大学経済学論集 第161号 東北学院大学学術研究会	1~39頁
角田県における北海道移民(一) 一封建家臣団解体の一過程として	単著	2006年3月	相馬郷土 21 相馬郷土研究会	31~40頁
1990年代の山形県における全通労働運動(2)	単著	2006年9月	東北学院大学経済学論集 第162号 東北学院大学学術研究会	61~97頁
旭紡織株式会社の設立と顛末	単著	2006年9月	市史せんだい Vol.16 仙台市博物館	57~71頁
出羽久保田藩佐竹氏と陸奥中村藩相馬氏との重縁関係(上)	単著	2006年11月	東北学院大学東北文化研究所紀要 38 東北学院大学東北文化研究所	1~15頁
1990年代の山形県における全通労働運動(3)	単著	2006年12月	東北学院大学経済学論集 第163号 東北学院大学学術研究会	1~47頁
1990年代の山形県における全通労働運動(4)	単著	2007年3月	東北学院大学経済学論集 第164号, 東北学院大学学術研究会	79~123頁
日英同盟の金融的背景の推移	単著	2007年3月	ヨーロッパ文化史 8, 東北学院大学ヨーロッパ文化研究所, 東北学院大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化史専攻	269~305頁
1990年代の山形県における全通労働運動(5)	単著	2007年9月	東北学院大学経済学論集 第165号, 東北学院大学学術研究会	1~36頁
「墓地及埋葬取締規則」の施行と墓地慣行との軋轢—現仙台市域を中心に—	単著	2007年10月	研究通信 No.220, 日本村落研究学会	7~8頁
1990年代の山形県における全通労働運動(6)	単著	2007年12月	東北学院大学経済学論集 第166号, 東北学院大学学術研究会	1~47頁
出羽久保田藩佐竹氏と陸奥中村藩相馬氏との重縁関係(下)	単著	2007年12月	東北学院大学東北文化研究所紀要 39, 東北学院大学東北文化研究所	35~68頁
仙台藩領における北上川の河岸	単著	2008年2月	東北学院大学東北産業経済研究所紀要 27, 東北学院大学東北産業経済研究所	37~56頁
1990年代の山形県における全通労働運動(7)	単著	2008年3月	東北学院大学経済学論集 第167号, 東北学院大学学術研究会	41~80頁

1990年代の山形県における全通労働運動(8・完)	単著	2008年9月	東北学院大学経済学論集 第168号, 東北学院大学学術研究会	1~30頁
近代墓地法制の形成・展開と墓地慣行との軋轢(一)ー旧城下仙台を中心にー	単著	2008年12月	東北学院大学東北文化研究所紀要40, 東北学院大学東北文化研究所	1~28頁
2000年代の山形県における全通労働運動(1)	単著	2008年12月	東北学院大学経済学論集 第169号, 東北学院大学学術研究会	1~51頁
2000年代の山形県における全通労働運動(2)	単著	2009年3月	東北学院大学経済学論集 第170号, 東北学院大学学術研究会	1~40頁
総論(杉山元治郎・鈴木義男の事績を通して見る東北学院の建学の精神)	単著	2009年3月	平成20年度教育・学習方法等改善支援事業報告書	1~4頁
2000年代の山形県における全通労働運動(3)	単著	2009年9月	東北学院大学経済学論集 第171号, 東北学院大学学術研究会	1~34頁
D				
大地と風土に電源を求めてー東北の地熱・風力発電所	単著	2005年2月	白い国の詩 582 東北電力株式会社広報広域・地域交流部	16~17頁
はがき通信「仁橋御手形」	単著	2005年2月	日本歴史 第681号 吉川弘文館	143頁
電気事業の新たな発展ー電力の自由化ー	単著	2005年3月	白い国の詩 583 東北電力株式会社広報広域・地域交流部	16~17頁
岩崎敏夫先生を偲ぶ	単著	2005年6月	東北民俗 第39輯 東北民俗の会	65~66頁
営林署 えいりんしょ 歴史学会編 郷土史大辞典 上	単著	2005年6月	朝倉書店	168頁
雁木 がんぎ 歴史学会編 郷土史大辞典 上	単著	2005年6月	朝倉書店	399~400頁
区画整理事業 くかくせいりじぎょう 歴史学会編 郷土史大辞典 上	単著	2005年6月	朝倉書店	505頁
国勢調査 こくせいちょうさ 歴史学会編 郷土史大辞典 上	単著	2005年6月	朝倉書店	636~637頁
鮭 さけ 歴史学会編 郷土史大辞典 上	単著	2005年6月	朝倉書店	725頁
三業地 さんぎょうち 歴史学会編 郷土史大辞典 上	単著	2005年6月	朝倉書店	748~749頁
農業基本法 のうぎょうきほんほう 歴史学会編 郷土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1349頁

〔近代〕農業経営のうぎょうけいえい 歴史学会編 郷土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1351～1352 頁
納税組合のうぜいくみあい 歴史学 会編 郷土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1356頁
農談会 のうだんかい 歴史学会編郷 土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1359頁
農地委員会 のうちいいんかい 歴史 学会編 郷土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1359～1360 頁
農地改革 のうちかいかく 歴史学会 編 郷土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1360頁
圃場整備 ほじょうせいび 歴史学会 編 郷土史大辞典 下	単著	2005年6月	朝倉書店	1569頁
大正デモクラシーと東北学院	単著	2006年1月	3L 通信・Lux Mundi Vol.2 東北学院庶務 部校務課	13頁
社会運動家 杉山元治郎 南相馬市教育 委員会小高区地域教育課編 おだかの人 物 おだかの歴史 特別編1人物編	単著	2006年3月	南相馬市	16～21頁
持館泰校訂『吉田屋源兵衛覚日記』第 八冊の一 解題	単著	2006年5月	相馬郷土研究会	前付 1～2頁
持館泰校訂『吉田屋源兵衛覚日記』第 八冊の二 解題	単著	2006年5月	相馬郷土研究会	前付 1～2頁
持館泰校訂『吉田屋源兵衛覚日記』第 八冊の三 解題	単著	2006年5月	相馬郷土研究会	前付 1～2頁
杉山元治郎の故郷 (1)	単著	2006年5月	ウーラノス 22, 東北 学院大学	3頁
戦前の労働運動・農民運動・社会運動 仙台市史編さん会編 仙台市史資料編 8 近代現代4 政治・経済・財政	単著	2006年9月	仙台市	161～200頁
杉山元治郎 東北学院資料室運営委員 会 「大正デモクラシーと東北学院」 調査委員会編 大正デモクラシーと東 北学院—杉山元治郎と鈴木義男—	単著	2006年10月	学校法人東北学院	9～141頁
杉山元治郎の故郷 (2)	単著	2006年10月	ウーラノス 23, 東北 学院大学	3頁
杉山元治郎と社会主義	単著	2006年12月	東北学院資料室 No.6 学校法人東北 学院	2～12頁
レオン・ゾルブラッドと真壁仁	単著	2007年1月	真壁仁研究 第7号, 東北芸術工科大学東 北文化研究センター	182～193頁
杉山元治郎の受洗	単著	2007年2月	ウーラノス 24, 東北 学院大学	3頁

角田県における北海道移民（二）一封 建家臣団解体の一過程としてー	単著	2007年3月	相馬郷土 22, 相馬郷 土研究会	9～18頁
追悼号の刊行にあたって	単著	2007年3月	比較家族史研究 21, 弘文堂	76頁
現仙台市域における産業組合	単著	2007年5月	農林金融 60-5, 農林 中央金庫	28～29頁
「子供は知らなくていい」話	単著	2007年5月	えおひっふす 230, 相馬郷土研究会	1～3頁
杉山元治郎と『真紅』事件	単著	2007年5月	ウーラノス 25, 東北 学院大学	3頁
閏五月中の申の日の野馬追	単著	2007年7月	えおひっふす 232, 相馬郷土研究会	1～2頁
杉山元治郎と一冊の聖書	単著	2007年11月	ウーラノス 26, 東北 学院大学	3頁
日本農民組合設立に向けて	単著	2007年12月	東北学院資料室 7, 学校法人東北学院	2～5頁
閏五月に執行された野馬追本祭	単著	2008年1月	えおひっふす 238, 相馬郷土研究会	1～2頁
服忌中の藩主と野馬追	単著	2008年2月	えおひっふす 239, 相馬郷土研究会	1～2頁
杉山元治郎 東北学院へ入学	単著	2008年2月	ウーラノス 27, 東北 学院大学	3頁
角田県における神仏分離そのほか	単著	2008年3月	相馬郷土 23, 相馬郷 土研究会	8～19頁
市民と経済	単著	2008年3月	仙台市史 通史編6 近代1, 仙台市史編さ ん委員会編, 仙台市	191～214頁
市営事業の展開	単著	2008年3月	仙台市史 通史編6 近代1, 仙台市史編さ ん委員会編, 仙台市	173～190頁
双鶴丸は原釜・請戸に回航したか	単著	2008年5月	えおひっふす 242, 相馬郷土研究会	1～2頁
幕末期中村藩の後期高齢者への処置	単著	2008年6月	えおひっふす 243, 相馬郷土研究会	1～2頁
唐土の鳥と蒙古の碑	単著	2008年6月	磐城民俗 35, 磐城民 俗研究会	1～12頁
杉山元治郎とディヴィッド・ポー マン・シュネーダー	単著	2008年7月	ウーラノス 28, 東北 学院大学	9頁
杉山元治郎とクロス協会の結成	単著	2008年12月	ウーラノス 29, 東北 学院大学	9頁
杉山元次郎と日本農民福音学校（一）	単著	2008年12月	東北学院資料室8, 学 校法人東北学院	5～12頁

もう一つの相馬氏—相馬治胤と相馬義胤— (一)	単著	2009年3月	相馬郷土24, 相馬郷土研究会		1~9頁
杉山元治郎の受講ノート (翻刻)	単著	2009年3月	平成20年度教育・学習方法等改善支援事業報告書 (研究代表者岩本由輝)		75~273頁
『杉山元治郎・鈴木義男の事績を通してみる東北学院の建学の精神』を刊行	単著	2009年6月	東北学院時報第683号, 学校法人東北学院		5頁
持舘泰校訂『吉田屋源兵衛覚日記』第九冊の一 解題	単著	2009年6月	相馬郷土研究会		前付 1~2頁
『大正デモクラシーと東北学院—杉山元治郎と鈴木義男—』~刊行から2年~	共著	2009年7月	東北学院大学教職員修養会・キリスト者教員研究会報告書10, 東北学院大学	仁昌寺正一 岩本由輝	45~47頁
商工業の展開	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7近代2, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市		110~117頁
軽工業の展開	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7近代2, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市		118~130頁
国民健康保険	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7近代2, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市		179~180頁
東北振興運動	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7近代2, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市		339~345頁
恐慌と銀行再編	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7近代2, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市		348~363頁
民衆運動	共著	2009年7月	仙台市史 通史編7近代2, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市	難波信雄 岩本由輝	433~456頁
文人画家? 杉山元治郎	単著	2009年9月	ウーラノス30, 東北学院大学		9頁
持舘泰校訂『吉田屋源兵衛覚日記』第九冊の二 解題	単著	2009年10月	相馬郷土研究会		前付 1~2頁
E 〔座談会〕 パースック・ポンパイチット / クリス・ベーカー / 岩本由輝 / 野崎明 / サイモン・ジェームス・バイスウェイ タイは今?—『タイ国』の著者を囲んで		2007年5月	刀水 NO.10, 刀水書房		1~31頁
仁昌寺正一 (司会)・守屋嘉美・内城弘隆・邊見清二・岩本由輝 シンポジウム 北上川舟運を通してみる鉄道開通以前の物流体系		2008年2月	東北学院大学東北産業経済研究所紀要27, 東北学院大学東北産業経済研究所		(岩本発言分)3~6頁, 58~60頁, 62~63頁, 65~69頁

F	書評・秀村選三著『幕末期薩摩藩の農業と社会』—大隅国高山郷土守屋家をめぐって—	単著	2005年5月	創文 475号 創文社		19～22頁
	書評・鳥越皓之著『柳田国男のフィロソフィー』	単著	2006年3月	村落社会研究 第24輯 農山漁村文化協会		48～49頁
	書評・伊藤幹治著『日本人の人類学的自画像—柳田国男と日本文化論再考—』	単著	2006年10月	図書新聞		
	米山俊直・加藤秀俊『北上の文化』	単著	2009年6月	遠野物語と21世紀—近代日本への挑戦—, 三弥井書店	石井正巳・遠野物語研究所	211～212頁
	谷川健一『原風土の相貌』	単著	2009年6月	遠野物語と21世紀—近代日本への挑戦—, 三弥井書店	石井正巳・遠野物語研究所	216～217頁
G	家存続戦略としての婿養子—大名家臣団を事例に—		2005年5月	比較家族史学会第27回研究大会 主催:山形大学 会場:山形大学		
	幕末期造船市場と陸奥中村藩における御趣意船の建造		2005年6月	市場史研究会第43回大会 主催:東北学院大学 会場:マリンゲート塩釜		
	飛脚情報と地方商人		2005年11月	市場史研究会第44回大会 主催:関西学院大学 会場:関西学院大学 梅田サテライトキャンパス		
	コメンテーター・日本近現代史の立場からシンポジウム:アジア世界における大英帝国と大日本帝国		2005年12月	主催:東北学院大学 ヨーロッパ文化研究所 共催:社会経済史学会 東北部会 会場:東北学院大学押川記念ホール		
	近代墓地法制の施行と墓地慣行との軋轢—現仙台市域を中心に—		2007年11月～12月	日本村落研究学会第55回大会 主催:鹿児島大学, 会場:鹿児島県肝属郡南大隅町中央公民館		
	Thai-Japanese Diplomacy in the Documents of the Tokugawa Period		2008年12月	The 10th Japan-Thai Seminar at Hotel Grand Tower Inn Bangkok, Thailand		タイ国情不安のため中止, 発表原稿のみ提出
	三越仙台支店進出反対運動と全日本専門店会聯盟(日専聯)の成立		2009年6月	市場史研究会第51回大会 主催:東北学院大学, 会場:石巻商工会議所会議室		

H 第13章 結論 パースック・ボンパイ チット クリス・ベーカー共 著 北原淳・野崎明監訳 日 タイセミナー訳 タイ国— 近現代の経済と政治—	共著	2006年11月	刀水書房	岩本由輝 野崎 明	594～614頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
私学事業団経常費補助金特別補助・教育学習方法 等改善支援経費		2008年度	代表, 杉山元治郎研究		
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2005年6月～2008年6月		比較家族史学会 会長			

所属	経済学科	職名	教授	氏名	小沼 宗一	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学生による授業評価	2005年7月1日 2007年12月20日	学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業の効果を測定するために、教員自身が考案したアンケートを実施した。				
	授業内容への定着と授業理解の促進	2007年4月～2009年10月	毎回の授業で、前回の授業の復習とその回の概略を説明し、授業終了時にはその回のまとめを行っている。				
4	学科長として、オープンキャンパスの学科ガイダンスの講師を務めた。	2008年6月28日	本学土樋オープンキャンパスにて、学科ガイダンスの講師を務めた。				
	学科長として、オープンキャンパスの学科ガイダンスの講師を務めた。	2008年8月2日	本学泉オープンキャンパスにて、学科ガイダンスの講師を務めた。				
	TG 推薦入学希望者に対する模擬授業の講師を務めた。	2009年6月11日	TG 推薦入学希望者に対し「経済学とは何かー経済学を学ぶ意味ー」と題する模擬授業を行った。				
	学科長として、オープンキャンパスの学科ガイダンスの講師を務めた。	2009年6月27日	本学土樋オープンキャンパスにて、学科ガイダンスの講師を務めた。				
	学科長として、オープンキャンパスの学科ガイダンスの講師を務めた。	2009年8月1日	本学泉オープンキャンパスにて、学科ガイダンスの講師を務めた。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	イギリス経済思想史 (増補版)	単著	2007年6月	創成社		234頁	
Ba	リカードウのマルサス地代論批判	単著	2007年3月	マルサス学会年報 (第16号)		51～74頁	
Bb	スミス, リカードウ, マーシャル, ケインズー経済思想の現代的意義ー	単著	2005年3月	東北学院大学論集 経済学 第158号		221～242頁	
	マーシャル経済思想と教育	単著	2007年3月	東北学院大学経済学論集 (第164号)		143～158頁	
G	リカードウのマルサス地代論批判		2006年7月	マルサス学会第16回大会(同志社大学)			
	マーシャル経済思想と教育		2007年6月	経済学史学会東北部会第28回例会			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
文部科学省研究設備		2007年度		共同・研究代表者	1870年代の限界革命とマーシャル経済学の形成過程		

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	経済学科	職名	教授	氏名	菊地登志子	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	「演習」では、他大学との合同ゼミ、卒業論文集の作成と発表会を行っている	1997年4月～2009年12月		冊子体からCD-ROMに替ったが、毎年卒業論文集を作成している。年2回他大学のゼミ生も交えた合同ゼミに参加し、2月には2年生のゼミ登録者も含めた3学年を集めて、4年の卒業研究発表、3年の中間報告を行い、議論と交流を深めている。			
	「情報リテラシー」において、統一した講義内容の実施と学生評価方法の改善を行う	2000年4月～2009年12月		ホームページを開設し、講義の年間予定や補足事項を掲載している。さらに教員間で教材を共有したり、メーリングリストによる情報交換を行うことで、複数教員による講義内容に大きな差異が生じないように配慮している。レポートはすべて学生のホームページに提出させ、他の学生のレポートを読んだり、教員のコメントを参考にして随時書き換えを認めている。これによって、一時的な評価ではなく、努力したかどうかを評価することが可能になった。			
	「経済モデル・シミュレーション」では、講義とともに実習を多くとり入れている	2002年4月～2009年12月		年間の講義予定をホームページに示し、講義で使用するPowerPointファイルをすべて学生に公開している。毎回、さらに深く学びたい学生のために参考文献を提示したり、関連する新聞記事や最新のトピックスも紹介している。講義で説明した内容を、実際にコンピュータ・シミュレーションにより確かめ、さらにその結果をレポートにまとめることで、知識の定着をはかっている。			
2	『情報リテラシーの扉をひらく!』（共立出版）	2005年4月		アプリケーションの使い方を学ぶ類書とは異なり、家計調査、財政白書、日銀金融データなどを用いて、分析力、効果的なプレゼンテーション力を身につけることを目指している。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)		発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称		該当頁数
Ba							
利他的エージェントが生み出す持続可能社会		単著	2005年7月		電気学会論文誌C, 125巻7号		1063～1069頁
Sustainable society formed by unselfish agents. (Translated from Denki Gakkai Ronbunshi, Vol. 125-C, No. 7, July 2005.)		単著	2006年10月		Electrical Engineering in Japan, Volume 157, Issue 1, pp. 38-46, Oct. 2006, Published Online in Wiley InterScience		38～45頁
人工社会における資産格差と経済活力		単著	2007年7月		電気学会論文誌C, 127巻7号		1068～1074頁
持続可能社会の透視 — エージェント・シミュレーションを用いて		単著	2008年4月		季刊経済理論, 第45巻第1号		53～64頁

Asset inequality and economic activity in artificial societies. (Translated from Denki Gakkai Ronbunshi, Vol.127-C, No. 7, July 2007.)	単著	2008年9月	Electronics and Communications in Japan, Vol.91, Issue 2, Published Online in Wiley InterScience		14～22頁
利他的行動が築く社会—普遍主義と選別主義—	単著	2008年11月	横浜国立大学, エコノミア第59巻第2号		61～77頁
ネットワーク型の「協働体」がもたらす持続可能社会	単著	2009年7月	電気学会論文誌C, 129巻7号		1311～1318頁
E 情報リテラシーの扉をひらく！	共著	2005年4月	共立出版	菊地登志子 根市一志 半田正樹	66～175頁
G 3つの編成原理に基づく社会の持続可能性	単著	2005年9月	電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集GS20-1		1142～1147頁
利他的行動のない sustainable society は成り立つのか？	共著	2005年10月	経済理論学会第53回大会報告要旨	井手英策 菊地登志子	1～4頁
異なる社会編成原理に基づく人工社会の資産格差	単著	2006年9月	電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集GS12-2		1013～1018頁
エージェント・シミュレーションにみる格差社会	単著	2007年10月	経済理論学会第55回大会報告要旨		93～96頁
人工社会における「協働体」と「共同体」の比較	単著	2008年8月	電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集GS4-6		711～716頁
持続可能社会における「紐帯」	単著	2008年10月	経済理論学会第56回大会報告要旨		751～765頁
人工社会における福祉と負担	単著	2009年9月	電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集TC10-4		284～290頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1992年4月～	日本神経回路学会会員
1992年8月～	電子情報通信学会会員
1998年8月～	日本社会情報学会会員
2003年5月～	進化経済学会会員
2004年9月～	電気学会会員
2005年7月～	経済理論学会会員

<p>2007年4月～2009年3月</p> <p>2009年5月～</p>	<p>電気学会 医療福祉における計測治療技術調査専門委員会 委員</p> <p>電気学会 医療福祉における計測・診断技術調査専門委員会 幹事</p>
--	--

所属	経済学科	職名	教授	氏名	小柴 徹修	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	4年次ゼミの卒業論文集を作成	2005年1月～2009年3月	毎年、4年次ゼミ生が卒業論文を作成し、論文集としたものを中央図書館（土樋キャンパス）へ寄贈する。この論文集は後輩が卒業論文を作成するうえでの重要な参考資料となっている。				
	3年次ゼミを始めるにあたり、毎年、新年度のゼミ授業開始に先立ち、学外の宿泊施設において2泊3日程の春の合宿をおこなう。	2005年1月～2009年4月	ゼミ授業の内容を豊かなものとするために、毎年4月初めに2泊3日程度で、3年次ゼミ生を対象に春の合宿授業をおこなう。				
	毎年、新年度初めに3年ゼミ生を対象に合宿したさい、学生が合宿ゼミ授業の評価をおこなう。	2005年1月～2009年4月	ゼミ授業に先立ち、毎年4月初めに2泊3日程度でおこなう合宿授業の授業評価をおこなう。				
	学生が既に学習した内容を定着させ、新たな知見の理解の促進	2005年1月～2009年7月	毎回、授業の冒頭で前回までの大切な授業内容を復習整理し、その回の授業へ導入する。授業終了前の10分でまとめをおこなう。				
4	毎年、日本学生インターゼミナール協議会主催のインゼミ全国大会の講師となる。	2005年1月～2008年12月	毎年、日本学生インターゼミナール協議会主催のインゼミ全国大会の講師となり、全国から集う学生の指導教育を勤める。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	An Industry Trade Box Analysis of Intra-industry Trade in Motor Vehicles between Japan and NAFTA	単著	2005年3月	研究年報『経済学』東北大学, Vol. 66, No. 4.		1～32頁	
	Globalization and Localization of Japanese Firms : Global and Local Business Operations of Japanese Automakers in NAFTA	単著	2005年3月	学位論文 博士(経済学) 東北大学		118+X頁	
Bb	日本と北米自由貿易協定 (NAFTA) 地域との自動車製品の産業内貿易と産業調整	単著	2006年3月	『経済学論纂』, 中央大学経済学研究会, 第46巻第1・2合併号		51～80頁	
	産業内貿易論：サーベイと新たな展開	単著	2008年9月	東北学院大学学術研究会 経済学論集 第168号		31～103頁	
G	Intra-industry Trade in the Motor Vehicles of Japan with NAFTA	単著	2005年5月	日本経済政策学会第62回全国大会, 法政大学			
	An Industry Trade Box Analysis of Marginal Intra-industry Trade in the Motor Vehicle Sector of NAFTA and Japan	共著	2005年8月	The 18th Annual Conference of the Association of Japanese Studies (AJBS), Quebec Congress Centre, Canada			

An industry trade box analysis of marginal intra-industry trade in motor vehicles among the NAFTA members and Japan	単著	2005年12月	COE/JEPA Joint International Conference, sponsored by The Japan Economic Policy Association (日本経済政策学会) and COE (神戸大学), 淡路夢舞台		
Discussant: "Degree of Capital Account Openness and Macroeconomic Volatility in India: An Empirical Analysis," presented by Lekshmi T. Nair	単著	2006年12月	The Fifth International Conference of The Japan Economic Policy Association		
予定討論者: 三木敏夫氏 (札幌学院大学) の報告「中小企業 (SMEs) の多国籍企業化—マレーシア, 中国の事例研究をもとに—」への予定討論。	単著	2007年10月	日本国際経済学会第66回全国大会 (早稲田大学)		
Discussant: "International trade, regional income convergence and health: the ASEAN-5 evidence," presented by K. Jayanthakumaran (Univ. of Wollongon, Australia)	単著	2007年12月	The Japan Economic Policy Association (JEPA) : The 6th Annual Meeting at Hosei University.		
Chairperson : (The 9th Session) International Economic Policy	単著	2008年12月	The Japan Economic Policy Association (JEPA) : The 7th Annual Meeting at Doshisha University.		
Discussant: "International Financial Reporting Standards (IFRS) As a Final Solution of Informal Economy (Turkey Case)," presented by Prof., Dr. Seval Kardes SELIMOGLU (Anadolu Univ.)	単著	2009年11月	The Japan Economic Policy Association (JEPA) : 8th International Conference, Center for National University Finance Management, Tokyo.		
H グリーンナウェイ=ミルナー著『産業内貿易の経済学』	共訳	2008年12月	文真堂	小柴徹修 栗山規矩 佐竹正夫訳	1~325頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
東北学院大学個別研究助成金	2007年度	個別	「アジア進出の日系電気・電子機器企業の産業内貿易に関する実証研究」
科学研究費補助金: 基盤研究 (C)	2008年度及び2009年度	個別	「産業内貿易に基づく持続的発展可能な日本の産業構造構築と産業調整コストの研究」

IV 学会等及び社会における主な活動	
1972年～	日本国際経済学会会員
1974年～	東北経済学会会員，および会長（2007年度および2008年度）
1985年～ 2009年5月30日(土)・31日(日)	日本経済政策学会会員，および全国理事（2007年度～） 日本経済政策学会第66回全国大会を東北学院大学で開催：準備運営委員長代行
1990年～	日本計画行政学会全国理事および日本計画行政学会東北支部副支部長
1990年～	東北アメリカ学会副会長
1990年～	宮城県岩沼市産業活性化審議委員
1995年～	日米協会監事
1995年～	宮城県岩沼市情報公開審議委員
1995年～	社会福祉法人岩沼保育園理事

所属	経済学科	職名	教授	氏名	駒場 彰	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	ゼミナール合宿	2006年2月, 2007年2月 2008年2月	ゼミナール活動の準備指導と学習				
	サークル合宿	2007年8月, 2008年8月 2009年8月	活動計画と指導				
2	授業で使用している補助教材（配布コピー）の作成・配布	毎年担当講義	講義展開補助				
4	インゼミへの参加	2005年12月, 2006年12月 2007年12月, 2008年12月	参加報告への準備・指導				
	定期戦参加	2009年6月	青山学院大学, 北海学園大学（男・女バレーボール部・部長）				
	教育実習指導	2009年7月	白石高校				
	仙台6大学野球連盟ハワイ大会参加	2009年8月	選手団・団長として参加				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	著・者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
D	古川市史（第9巻）	共著	2005年6月	古川市史編さん委員会 古川市	斉藤鋭雄 佐藤憲一 千葉景一 駒場 彰 他	292～418頁, 572～658頁	
	仙台市史（資料編8）	共著	2006年9月	仙台市史編さん委員会 仙台市	守屋嘉美 難波信雄 斉藤鋭雄 岩本由輝 駒場 彰 他	385～424頁	
	古川市史（第四巻）	共著	2007年3月	古川市史編さん委員会 大崎市	斉藤鋭雄 佐藤憲一 千葉景一 駒場 彰 他	364～399頁, 470～520頁, 585～627頁	
	仙台市史（資料編7）	共著	2009年7月	仙台市史編さん委員会 仙台市	守屋嘉美 難波信雄 斉藤鋭雄 岩本由輝 駒場 彰 他	364～382頁	

D 東北経済研究会	発表	2009年8月	企業の農業参入と農 商工連携事業 仙台ガーデンパレス		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1974年4月～ 1975年4月～ 1977年4月～ 1977年4月～ 1977年4月～ 1977年4月～ 1977年4月～ 1977年4月～ 1984年4月～ 1994年4月～ 1997年4月～ 2003年4月～		政治経済学・経済史学会員 日本農業経済学会員 東北農業経済学会監事・学会員 農業法学会員 農業問題研究学会員 東北経済学会員 東北経済研究会専務理事兼事務局長・会員 日本協同組合学会員 仙台市史編さん委員会・委員 仙台6大学野球連盟副理事長・理事 大崎（古川）市史編さん委員会・委員			

所属	経済学科	職名	教授	氏名	関谷 登	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 授業方法についての工夫			2005年4月～	毎回の授業の初めに前回の講義の内容について簡単な確認をする。講義の方法については、可能な限り教科書やノートに頼らず、学生に話しかける仕方で授業を展開している。板書時以外、学生に向かって話をしているので、私語を抑制しこちらに注意を向けるよう促す効果がある。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
D 公共選択／立憲的政治経済学と公共政策学は相互補完的か		単著	2007年1月	「公共選択の研究」(勁草書房)第47号		82～87頁	
公共政策学に潜む危うさ		単著	2007年12月	「公共選択の研究」(勁草書房)第49号		58～63頁	
E 保守派とはだれのことか		単著	2007年7月	「公共選択の研究」(勁草書房)第48号		1～3頁	
改めて『公共選択の研究』に求められていること		単著	2008年7月	「公共選択の研究」(勁草書房)第50号		4～6頁	
G 公共選択と公共政策学の対話			2005年7月	公共選択学会シンポジウム			
公共政策学と公共選択の基本的対立点			2008年7月	公共選択学会シンポジウム			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2003年4月～			公共選択学会理事				
2005年4月～			みやぎ文化・PFI協会理事				
2005年4月～			仙台国際交流協会理事				

所属	経済学科	職名	教授	氏名	高橋 克己	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義内容の周知のための工夫	2005年1月～2009年12月	要覧(シラバス)以外に、「年間講義計画」を配付し、説明している。				
	講義への関心を高め、講義内容の定着を図る工夫	2005年1月～2009年12月	① 短い休憩を入れている。 ② 適切な大きさの文字で要点を板書している。 ③ 要点及び資料をまとめたプリントを配付している。 ④ 講義の中で数回学生が自ら考えるよう問いかけをしている。				
	演習等少人数講義における工夫	2005年1月～2009年12月	① 発表を重視している。 ② 文献・資料を調査し、体系的整理の必要性を体得するようにしている。 ③ 総合演習(1年生)では、発表のほか、小テスト(ほぼ毎週)の実施と作文等もあわせて大学教育への導入をはかり、基礎学力の必要性を喚起している。				
	評価基準の説明等	2005年1月～2009年12月	① 評価基準の概要をシラバスに記載するとともに最初の講義においても説明している。 ② 定期試験を年2回実施し、結果について全体的な講評をしている。				
3	私立大学連盟理事者会議	2005年10月、2006年10月 2007年10月12日・13日	部会において教育方法・教育実践等を含む事項について報告し、他大学の実情をも対象として参加者と討論した。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要			
IV 学会等及び社会における主な活動							
1973年4月～2009年10月現在		日本金融学会会員					
1973年4月～2009年10月現在		東北経済学会					
1985年4月～2009年10月現在		東北日米協会会員					
2004年4月～2005年3月		「学都仙台サテライトキャンパス」運営委員会(委員長)					

所属	経済学科	職名	教授	氏名	高橋 秀悦	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫	1998年4月～		教室の後に着席している学生の理解度を確認するために、ワイヤレスマイクを用いて、学生に質問し、そのやり取りが教室全体でも分かるようにしている。			
	毎回の講義の進め方の工夫	2006年9月～		講義の要点をまとめたプリントを、毎回、配布し、それに沿って講義を進めている。			
	「理論経済学」における教育方法の工夫	2006年9月～2007年1月		1. 毎回、数学に関する小テスト・宿題を実施し学生の勉強意欲を高めた。 2. 少人数の講義だったので、講義中、学生を指名し、学生の理解度に応じた質問をし学生の(経済学および数学の)理解度を高める工夫をした。			
	講義内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫	2008年4月～		パワーポイントを用いた講義を実施している。			
	学生の知的好奇心を刺激するための工夫	2008年4月～		パワーポイントに「英語バージョン」を利用している。			
4	FD研修会の講師	2009年3月12日		東北学院大学 FD 推進委員会, 経済学研究科 FD 委員会, 経済学部 FD 委員会主催の FD 研修会「FD の義務化と本学の対応」の講師を務めた。			
	教員免許状更新講習の講師	2009年8月21日		東北学院大学主催の教員免許状更新講習「A-5 選択領域 経済と政治の基本問題を考える」の講師を務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	総・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	クルーグマンの不均等発展と政府の役割	単著	2007年3月	東北学院大学 経済学論集, 第164号		159～174頁	
	最適人口成長率と CES 生産関数	単著	2008年3月	東北学院大学 経済学論集, 第167号		81～100頁	
D	江戸期 尾去沢の銅の道 —平成19年度東北産業経済研究所公開シンポジウムに触発されて—	単著	2009年3月	東北学院大学 東北産業経済研究所紀要第28号		73～103頁	
F	原勲『地域経済学の新展開』	単著	2003年3月	地域学研究 第31巻第1号		351～352頁	
G	学会討論：平井秀明(中央大学)「第2譲渡市場における著作権保護」		2007年10月	日本地域学会第44回年次大会(九州大学)			

学会討論：原勲（北星学園大学）「北海道の道州制」		2008年10月	日本地域学会第45回 年次大会（はこだて未 来大学）		
学会討論：池野秀弘（駿河台大学）「日本における物価水準の地域差」		2008年10月	日本地域学会第45回 年次大会（はこだて未 来大学）		
学会討論：曾根秀一（滋賀大学）「地域経済と老舗企業の相互依存関係について」		2008年10月	日本地域学会第45回 年次大会（はこだて未 来大学）		
学会討論：福本潤也・後藤雄太（東北大学）「規制改革提案の審査ルールと事後評価ルールの制度設計」		2008年10月	日本地域学会第45回 年次大会（はこだて未 来大学）		
学会討論：小平慎一郎・氷鉤揚四郎（筑波大学）「環境ビジネスにおける，地球にやさしく持続可能な新エネルギーの導入のための研究」		2008年10月	日本地域学会第45回 年次大会（はこだて未 来大学）		
学会討論：藤岡明房（立正大学）「レバレッジ型金融によってもたらされた世界金融危機」		2009年10月	日本地域学会第46回 年次大会（広島大学）		
H エーベル／バーナンキ『マクロ経済学（下）マクロ経済政策編』	共訳	2007年4月	シーエーピ出版	伊多波良雄 大野幸一 高橋秀悦 谷口洋志 徳永澄憲 成相 修	531～650頁， 707～788頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1974年9月～	日本経済学会会員
1985年9月～	日本計画行政学会会員
1986年9月～	日本地域学会会員
1986年9月～	Regional Science International Association 会員
1986年9月～	財団法人統計研究会会員
1997年1月～	日本地域学会理事
1998年8月～	応用地域学会会員
1998年10月～2003年9月，2004年10月～	日本地域学会機関誌『地域学研究』編集委員
1999年4月～	International Regional Science Review の Editorial Board Member
2002年8月～	宮城県大和町入札監視委員会委員長
2003年10月～	日本地域学会論文賞受賞

2008年5月～

日本経済政策会会員

所属	経済学科	職名	教授	氏名	千葉 昭彦	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	講義内容の理解確認と評価方法の工夫	2005年4月～	年間10回程度の小テストを実施し、解答確認を行うことを通じて講義内容の復習を行うとともに、その採点結果を年間評価に反映させる。				
	3年生の演習において1年間で9冊の書籍のレポートを提出させ、添削のうえ返却	2005年4月～	主に文献要約を行わせ、添削返却するが、それが一定水準に達するまで再提出を繰り返し、文献の理解が確実になるように指導する。				
	3年生演習生のインゼミ参加	2005年4月～	3年のゼミ生にインゼミ参加を義務付け、夏期休暇中に調査およびそのまとめ・討論を行い、12月の大会に向けてのレポートを作成させる。				
	3・4年生演習合宿	2005年4月～	年間2回の合宿（春季および夏季に3泊4日）を3年生・4年生が合同で行い、3年生は夏にインゼミレポートの中間報告、3年生春は各自の卒論テーマの検討、4年生夏は卒論中間報告、4年生春は卒論報告を行う。また、合宿地周辺地域でのフィールドワーク・エクスカージョン（2007年春福島県白河市・2007年夏山形県金山町および新庄市・2008年春岩手県平泉町および北上市・2008年夏福島県会津若松市）を実施。				
	4年生演習卒業論文	2005年4月～	4年生には調査を踏まえた卒業論文の作成を義務付けている。				
	1年生総合演習IでVTRの活用	2005年4月～	経済学科に入学した新生が必ずしも経済問題に強い関心を持っているわけではない。そこで、関心喚起を目的としてVTRを利用。				
	1年生総合演習Iでのディベート	2005年4月～	1年生後期に次年度以降の演習に備えて、ディベートを実施。「フリーターの是非」や「レジ袋有料化の賛否」などの身近なテーマを取り上げ、主張の論理性にウエートを置いて話をすることを指導。				
	1年生総合演習Iでの就職課のレクチャー	2007年4月～	就職課の協力を得て、特にフリーターなどのディベートの後に、現在の就職状況や就職までの今後の道筋などについてレクチャー。				
	3年演習生の大学祭での研究報告参加	2007年4月～	3年生のインゼミ準備の一環として、途中経過であっても大学祭で発表参加。				
2	講義における新聞記事等の活用	2007年4月～	地域経済をめぐる諸理論を紹介し、新聞記事等を利用して現実のうごきを紹介し、それを理論によって説明し、説明の可能性とそれを超える問題を示す。				
4	高大連携授業講師（白石高校）	2005年8月2日	「商店街の衰退とまちづくり」と題する授業を実施。				
	出張講義（角田高校）	2005年10月5日	「商店街の停滞を経済学の目でみると・・・」と題する授業を実施。				

出張講義 (岩出山高校)		2006年9月13日	「たべものからまちづくりをかんがえる」と題する授業を実施。		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
地理学概論	共著	2007年4月	朝倉書店	上野和彦 椿真智子 中村康子 千葉昭彦	137～140頁
日本の地誌4 東北	共著	2008年4月	朝倉書店	田村俊和 石井英也 日野正輝 千葉昭彦	113～123頁 および 331 ～347頁
日本の地域変貌	共著	2008年11月	海青社	平岡昭利 千葉昭彦	56～57頁
Ba					
バブル経済期後の仙台都市圏における 大規模宅地開発の展開とその課題	単著	2006年3月	都市地理学創刊号		19～30頁
地域的不平等の再検討と地域問題へのア プローチー東北地方を対象事例としてー	単著	2007年12月	経済地理学年報 Vol. 53 No. 4		21～41頁
Bb					
エコツーリズム考	単著	2005年3月	季刊地理学第57巻1 号		24～27頁
大規模小売店舗立地法の限界と存在意 義ー仙台市郡山地区の事例の検討を通 じてー	単著	2005年5月	日本都市学会年報 Vol. 38		86～90頁
釧路湿原自然再生事業の意義と課題ー 『釧路湿原再生事業全体構想』の検討を 中心としてー	単著	2006年3月	東北学院大学オープン リサーチセンター「アジ ア流域文化論研究」II		43～58頁
郊外大規模宅地開発の今日的課題ー宮 城県名取市を検討対象としてー	単著	2006年4月	日本都市学会年報 Vol. 39		168～172頁
農産物直売所が周辺地域社会に及ぼす 影響とその後の可能性ー宮城県旧岩出 山町「あ・ら・伊達な道の駅」の検討	単著	2007年3月	東北産業経済研究所 紀要第26号		59～80頁
釧路湿原自然再生事業の展開過程ー特 にその合意形成過程に注目してー	単著	2007年3月	東北学院大学オープン リサーチセンターアジ ア流域文化論研究III		16～41頁
大型店進出に伴う消費者行動の変化ー 山形県庄内地方の事例検討ー	単著	2007年5月	日本都市学会年報 Vol. 40		196～201頁
大型店進出に伴う消費者行動の変化ー 宮城県仙南地域を事例としてー	単著	2009年1月	東北学院大学論集 経 済学 Vol. 169		53～82頁

D 青森市におけるコンパクトシティ政策の検討	単著	2007年3月	平成16～18年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書 社会経済構造の転換と21世紀の都市圏ビジョンー欧米のコンパクト・シティと日本の都市構造	代表 藤井 正	126～135頁
E 経済学科原級留の実態とその原因の調査報告	単著	2007年3月	東北学院大学教育研究所報告集第7集		49～57頁
G 商業集積とまちづくりの必然性と方向性	単著	2005年3月	日本地理学会春季学術大会(青山学院大学)		
中心市街地再生の可能性	単著	2005年7月	経済地理学会北東支部例会(福島県白河市・マイタウン白河)		
釧路湿原再生事業の意義と課題	単著	2005年10月	東北地理学会秋季学術大会(東北公益文科大学)		
郊外宅地開発の今日的課題ー宮城県名取市を検討対象として	単著	2005年10月	日本都市学会第52回大会(岩手教育会館)		
釧路湿原自然再生事業の展開過程ー特にその合意形成過程に注目してー	単著	2006年10月	東北地理学会秋季学術大会(新潟国際情報大学)		
まちづくり三法改正後の中心市街地再生の可能性	単著	2006年10月	経済地理学会北東支部例会(盛岡市プラザおでって)		
大型店進出に伴う消費者行動の変化ー山形県庄内地方の事例検討ー	単著	2006年10月	日本都市学会題53回大会(西日本工業大学)		
青森市におけるコンパクトシティ政策の検討	単著	2006年12月	人文地理学会都市圏研究部会(放送大学鳥取学習センター)		
東北地方における不均等発展	単著	2007年5月	経済地理学会第54回大会(岐阜大学)		
都市郊外地域の変容過程の中での生活困難	単著	2007年5月	日本社会福祉学会東北部会第7回研究大会(東北福祉大学)		
青森コンパクトシティ政策の意義と限界	単著	2007年10月	日本地理学会秋季学術大会(熊本大学)		
大型店進出に伴う消費者行動の変化ー宮城県南部地域(仙南地域)の調査結果	単著	2008年4月	経済地理学会北東支部例会(東北学院大学)		

大型SCをめぐる消費者の買物行動に関する仮説の検討	単著	2009年8月	経済地理学会北東支部例会（北海学園大学）		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1999年4月～2009年3月		財団法人宮城県地域振興センター評議委員			
2000年4月～2006年5月		経済地理学会北東支部幹事			
2003年5月～		仙台市建築審査会委員（2007年5月より会長）			
2003年6月～2005年5月		東北地理学会幹事			
2004年5月～2006年5月		経済地理学会編集委員			
2004年10月～2006年3月		東北経済学会評議委員			
2004年11月～		仙台商工会議所大規模小売店舗立地検討委員会委員			
2005年7月～		宮城県生活衛生適正化審議会委員			
2005年11月～2006年3月		岩沼市中心市街地活性化基本計画策定委員会委員長			
2006年5月～		経済地理学会北東支部代表幹事			
2006年5月～		経済地理学会評議委員			
2006年5月～		経済地理学会常任幹事			
2006年11月～		東北都市学会理事			
2008年3月～		日本地理学会代議員			
2008年3月～		日本地理学会広報専門委員			
2009年5月～		東北地理学会評議委員			
2009年6月～		宮城県特定集客施設立地誘導審議会委員会会長代理			
2009年7月～		地域商店街活性化事業東北経済産業局審査委員長			

所属	経済学科	職名	教授	氏名	仁昌寺正一	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	レジュメ・資料を毎回配布	2005年4月～2006年12月 2007年4月～2008年12月 2009年4月～2009年12月	東北経済論Ⅱでは、受講生が極めて多数であるため、少しでも教育効果をあげるべくこのような方法を採用した。レジュメには、毎回必ず覚えてほしいポイントを明記している。また、時折小テストを行い全員で答えあわせをしながら、講義の理解度を確認している。なお、レジュメ・資料の配布は、授業開始時に配布したのでは時間が取られてしまうため、前の授業終了した直後に入口付近2ヶ所に置いている。レジュメ・資料は両面印刷で6頁(B4で3枚)。				
3	東北地方における「海の道・川の道」に関する研究 「大正デモクラシーと東北学院」に関する研究 「杉山元治郎・鈴木義男の事績を通してみる東北学院の建学の精神」の研究	<p>本学におけるオープン・リサーチ・センターの「アジア流域文化研究プロジェクト」に平成15年度から19年度まで参加して、とくに北上川流域の舟運について研究。さらに平成20年度からは、上記プロジェクトの終了後に設立された本学のアジア流域文化研究所において阿武隈川の舟運の研究を進めている。</p> <p>平成15年度から19年度にかけて、東北学院創立120周年記念事業の一環として設置された「大正デモクラシーと東北学院」調査委員会委員を務め、記念図録『大正デモクラシーと東北学院—杉山元治郎と鈴木義男—』を刊行した。</p> <p>東北学院創立期の解明をするため、平成20年度において、東北学院大学教育学習方法等改善支援経費「杉山元治郎・鈴木義男の事績を通してみる東北学院の建学の精神」の研究についての研究を進めた。</p>					
4	東北地方における「海の道・川の道」に関するシンポジウムの開催と資料収集	オープン・リサーチ・センターおよびアジア流域文化研究所で調査を行うに際し、河川流域の各市町村の教育委員会に資料所蔵者の紹介、地元研究者の参画を依頼し、シンポジウム開催などの成果を挙げている。					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	昭和初期仙台市中央卸売市場開設計画の始動—資料的考察—	単著	2005年3月	わが国における卸売市場の形成と展開に関する研究 平成14～16年度科学研究費補助金研究・基盤研究(B)一般・研究成果報告書	研究代表者 岩本由輝	73～94頁	
	仙台市と宮城郡七北田村荒巻・北根の合併	単著	2005年9月	市史せんだい Vol.15 仙台市		39～54頁	

明治20年代の仙台における青物市場の再編	単著	2006年12月	市場史研究第26号, 市場史研究会		60~79頁
明治20年代の仙台の魚市場再編過程	単著	2008年12月	東北学院大学経済学論集第169号, 東北学院大学学術研究会		1~22頁
明治20年代の仙台の魚市場再編課程—「小西家文書」による検討を中心に—	単著	2009年1月	東北学院大学経済学論集第169号, 東北学院大学学術研究会		105~126頁
D 近代港湾整備と「みなと文化」	単著	2006年3月	平成17年度港湾整備基礎調査報告書(「みなと文化」振興基礎調査編) 国土交通省東北地方整備局塩竈・空港整備事務所(財)港湾空間高度化環境研究センター		64~73頁
大正時代の財政	単著	2006年9月	仙台市史 資料編8 近代現代4 政治・行政・財政 仙台市史編さん委員会		345~384頁
鈴木義男	単著	2006年10月	大正デモクラシーと東北学院 —杉山元治郎と鈴木義男— 学校法人東北学院		141~280頁
弁護士時代の鈴木義男—河上肇の弁護—	単著	2007年12月	東北学院資料室 Vol.7, 学校法人東北学院		6~11頁
レポート「むつ製鉄解散事件」	単著	2008年2月	東北産業経済研究所紀要 第27号, 東北学院大学東北産業経済研究所		99~111頁
第七章 日清・日露戦争期の政治と民衆 第二節 地域社会の変化 三 明治二八年の大凶作 四 地方改良運動と民衆	単著	2008年3月	仙台市史 通史編6 近代1, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市		154~172頁
第四章 仙台市の誕生 第一節 都市化の進展と市政の推移 一 近代都市としての仙台 二 市制施行と市政組織の誕生 三 市政組織の発展 四 明治期の市政	共著	2008年3月	仙台市史 通史編6 近代1, 仙台市史編さん委員会編, 仙台市	斎藤 誠 仁昌寺正一	154~172頁
弁護士時代の鈴木義男—河上肇の弁護—	単著	2008年7月	河上肇記念会会報 No.91, 河上肇記念会		29~42頁
鈴木義男と吉野作造—一つの覚書—	単著	2008年8月	吉野作造研究 第4号, 吉野作造記念館		1~11頁

那覇市の公設市場—占領下から現在まで—	単著	2009年3月	マチグワー楽会—市場の歴史・未来・魅力・問題点を考える, マチグワー楽会設立準備会		78～85頁
研究ノート 弁護士時代の鈴木義男—平凡社『大百科事典』への執筆—	単著	2009年3月	平成20年度教育・学習方法等改善支援事業報告書 杉山元治郎・鈴木義男の事績を通して見る東北学院の建学の精神 (研究代表者: 岩本由輝), 東北学院史研究会		25～52頁
第七章 昭和前期の市政と財政 第一節 一 昭和前期における仙台市の発展 二 昭和前期における市政組織と市政 三 合併による市域の拡大 四 都市計画事業の展開	共著	2009年7月	仙台市史 通史編7 近代2, 仙台市史編さん委員会	斎藤 誠 仁昌寺正一	278～798頁
第四章 社会の動向 第二節 二 経済保護事業 公設市場 公益質屋	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7 近代2, 仙台市史編さん委員会		170～172頁
第一章 大正期の市政と財政 第二節 大正期の財政 一 大正期財政の概観 二 義務教育と財政 三 都市計画と財政 四 地方税制改革の展開	単著	2009年7月	仙台市史 通史編7 近代2, 仙台市史編さん委員会		29～48頁
第一章 大正期の市政と財政 第一節 仙台の発展と市政 一 仙台の都市的発展 二 大正期の市政組織 三 大正期の仙台市政	共著	2009年7月	仙台市史 通史編7 近代2, 仙台市史編さん委員会	斎藤 誠 仁昌寺正一	16～28頁
E					
東北学院労働会	単著	2005年2月	ウーラノス Vol.18 東北学院大学		14頁
大正デモクラットとしての木村久一	単著	2005年5月	ウーラノス Vol.19 東北学院大学		6頁
喜寿を過ぎても現役 一耐震工事が終わった土樋キャンパス—	単著	2005年10月	ウーラノス Vol.20 東北学院大学		4頁
東北大学教授時代の鈴木義男	単著	2005年12月	東北学院資料室 Vol.5. 学校法人東北学院		1～7頁
古希を迎えた野間記念道場	単著	2006年2月	ウーラノス Vol.21 東北学院大学		4頁
鈴木義男に関する新資料	単著	2008年12月	東北学院資料室Vol.8 学校法人東北学院		22～27頁

鈴木義男作品リスト	単著	2009年3月	平成20年度教育・学習方法等改善支援事業報告書 杉山元治郎・鈴木義男の事績を通して見る東北学院の建学の精神 (研究代表者：岩本由輝)，東北学院史研究会		53～73頁
『大正デモクラシーと東北学院—杉山元治郎と鈴木義男—』～刊行から2年～	共著	2009年3月	2008年度東北学院大学教職員研修養会報告書第10号，東北学院大学	岩本由輝 仁昌寺正一	45～47頁
G 明治20年代の仙台における青物市場の再編		2005年6月	市場史研究会第43回大会 於：マリーングート塩釜 主催：東北学院大学経済学部		
那覇市の公設市場—占領下から現在まで—		2009年3月	マチグワー楽会，於：第一那覇市公設市場		
「幻の野蒜港」について		2009年6月	市場史研究会第51回研究大会，於：石巻市商工会議所		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金・基盤研究B-般(1)	2002年～2005年度	共同・研究分担者	仙台市における中央卸売市場の形成過程
東北学院大学教育学習方法等改善支援経費	2008年度	共同研究，鈴木義男研究	平成20年度教育・学習方法等改善支援事業報告書 杉山元治郎・鈴木義男の事績を通して見る東北学院の建学の精神 (研究代表者：岩本由輝)，東北学院史研究会

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--

所属	経済学科	職名	教授	氏名	原田 善教	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義における新聞記事等の活用	1987年～		講義と関連する時事問題を新聞記事を使いながら学生に興味・関心を持たせるように工夫している。			
	3年演習	1987年～		3年演習は週2回各3時間以上の時間を行い、集中的に本を読ませ文章を書かせ討論させることで、学生の成長を促している。			
	3年・4年演習合宿	1987年～		夏合宿はインゼミに向けた論文作成準備、春合宿は4年卒論報告・討論を行っている。			
	3年・4年演習インゼミ参加	1990年～		3年生にインゼミ参加を義務付け、11月までに大会参加論文の作成を指導する。			
	授業内容の理解の確認と評価方法の工夫	1995年～		単元ごとに小テスト(年間6回以上)を実施し、解答と解説を行うことによって理解度を高めるようにするとともに、それを出席の代用として一定の成績評価に反映することになっている。			
	毎回の授業の進め方の工夫	1995年～		講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、理解を進めるようにしている。また、授業の最初に前回の要点を復習し、今日のポイントを予めまとめて話すことにしている。授業の要点は黒板にまとめながら進めることにしている。			
3	全学シンポジウム「21世紀の教養教育」	2002年5月9日		シンポジウムのパネリストとして『教養』教育を考える」と題して講演した。			
	「経済学科学生の入試類型別成績・調査報告」東北学院大学教育研究所報告集第5集	2005年3月		本学経済学科学生の実績と入試類型との関連性について論じた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	ナロウバンク論について	単著	2007年3月	東北学院大学経済学 経済学論集第164号		227～236頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1984年～		日本金融学会会員					
1984年～		信用理論研究学会会員					
1984年～		証券経済学会会員					
1985年～		経済学史学会会員					
1985年～		経済理論学会会員					

1987年～

東北経済学会会員

所属	経済学科	職名	教授	氏名	半田 正樹	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義内容への興味・問題意識の喚起	2007年1月～2009年12月		毎回、その日の講義内容に対応する現実の動き（トピックス）を紹介したうえで、本題に入る。			
	定期試験における出題の工夫	2007年1月～2009年12月		講義内容についての学習到達度をチェックしつつ、不正行為ができない形式で出題する。			
	情報リテラシーを前面に打ち出す講義	2007年1月～2009年12月		講義では、プレゼンテーション・ソフトを使用するとともに、説明に随時リアルタイムの Web 情報を取り入れている。講義内容を講義日前日までに Web 上に公開。			
	他大学との交流	2007年6月, 11月 2008年6月, 11月 2009年7月, 11月		演習では、年に2回、複数の他大学のゼミとジョイントゼミを実施し、普段の演習での成果を客観的に自覚できるように努めている。			
2	『情報リテラシーの扉をひらく!』（共立出版、共著）の出版	2005年4月		コンピュータの操作やアプリケーションの使い方を学ぶ類書とは異なり、考える力、自分の意見を組み立てる力、それを提示する力が身につくような内容をめざした。担当の演習における参考書として紹介。			
	演習の教材（基本的に学生がみずから作成し、相互批判によって常に進化するものをめざす）	2007年1月～2009年12月		演習では、テキストは、既存のものを使わず、学生と一緒に議論しながら、テキストそのものを作成し、それを素材に調べること、分析すること、議論することを実践する。			
3	地域市民のための大学公開講座（多賀城市）	2008年6月		メインテーマ「情報を正しくとらえる」に関連して『行列のできる店』の読み方』について講演。			
	学都仙台コンソーシアム【講座仙台学】	2008年11月		「伝統と IT に焦点をあてて」と題する講演。			
4	現職教員研修セミナー（高校公民担当教員向け）	2008年12月		「高校生の〈社会〉への関心を喚起する」をテーマとする講演。			
	東北学院大学 東北産業経済研究所 公開シンポジウム	2009年10月		テーマ「東北地方と自動車産業—昨今の経済危機を踏まえ、さらに議論を深める」のパネリストおよび司会を担当			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A	「情報化社会における〈消費〉の『歴史的・道徳的要素』」（『模索する社会の諸相』所収）	単著	2005年11月		御茶の水書房	SGCIME 編	185～208頁
	「資本主義社会に『情報化』は何をもたらしたか」（『市場経済と共同体』所収）	単著	2006年6月		社会評論社	降旗節雄編	49～78頁

現代流通事典	共著	2006年11月	白桃書房	日本流通学会編	296～297頁
情報技術革命の射程	共著	2007年8月	御茶の水書房	SGCIME 編 (半田正樹・石井徹・石橋貞男他)	全381頁
同上書, 所収論文 「序章: 情報技術革命の射程」	単著				3～14頁
『経営手法の革新』という情報化	単著				69～89頁
降旗「現代資本主義論」の射程	単著	2009年4月		『情況』2009年4月号, 情況出版	188～197頁
現代流通事典 (第2版)	共著	2009年10月	白桃書房	日本流通学会編	296～297頁
Ba 〈情報化〉を視軸に現代資本主義をみる	単著	2007年7月		経済理論学会編, 『季刊 経済理論』 Vol144, No. 2 桜井書店	5～17頁
D ITの発達による「個」の膨張	単著	2006年3月		学士会, 学士会会報 2006-II No. 857	46～51頁
『個人の原子化』と情報化	単著	2007年10月		『アソシエ 21 ニューズレター』アソシエ 21	8～11頁
E 情報リテラシーの扉をひらく!	共著	2005年4月	共立出版	菊地登志子 根市一志	175頁
「ライブドア VS. フジ問題」から見えてくる〈時代相〉	単著	2005年5月		批評社, Niche [ニッチ] No. 18	11～14頁
IT企業楽天と「東北」のプロ野球球団	単著	2005年6月		『アソシエ 21, アソシエ21 ニュースレター』第77号	8～11頁
楽天とTBSの攻防戦に潜む問題	単著	2005年12月		批評社, Niche [ニッチ] No. 19	4～5頁
IT大国インドにて(1)～(3)	単著	2006年11月		「ちきゅう座」 http://chikyuzo.net/ の「コメント」コーナー	Webジャーナル「ちきゅう座」編 頁なし。全12,098字
経済学「2007年回顧」	単著	2007年12月		『週刊読書人』第2719号	
「当世大学生の自己紹介」	単著	2008年5月		『東北学院時報』第671号	
経済学「2008年回顧」	単著	2008年12月		『週刊読書人』第2769号	

文学とともにあった「経済学者降旗節雄」	単著	2009年5月	『追想 降旗節雄』社会評論社	40頁
経済学「2009年回顧」	単著	2009年12月	『週刊読書人』第2819号	
F 【書評】高橋洋児著『マルクスを「活用」する!』彩流社	単著	2008年4月	『週刊読書人』第2732号	
【書評】青木孝平著『コミュニタリアン・マルクス』社会評論社	単著	2008年5月	『図書新聞』第2871号	
【書評】M.アグリエッタ/B.ジェソップほか著 若森章孝/斉藤日出治訳『金融資本主義を超えて—金融優位から貸金生活者社会の再建へ—』晃洋書房	単著	2009年7月	『週刊読書人』第2795号	
G 日本流通学会 第23回全国大会		2009年10月	統一議論「流通と情報—流通システムのグローバル化と市場取引のゆくえ」のコメントータ	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
武蔵大学総合研究所オープン・リサーチセンタープロジェクト（「グローバル化による各国・各地域の経済、社会、文化変容の実態と影響に関する国際比較研究」，文部科学省，私立大学学術研究特別推進事業）	2003年～2007年度	研究分担者	IT・情報化側面の研究と統括
法政大学科研費会学術調査研究プロジェクト（文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）海外学術調査「金融危機の衝撃による経済グローバル化の変容と転換の研究—米国・新興経済を中心に」）	2009年～2012年	研究分担者	各国の情報化に関する調査と分析

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1982年～	経済理論学会会員
1992年～	日本流通学会会員
1995年～	日本社会情報学会会員
1997年～	日本流通学会 学会賞受賞
1999年～	日本世間学会会員
2001年～	経済理論学会幹事
2002年10月～2004年12月	経済理論学会機関誌『季刊・経済理論』編集委員
2003年～	進化経済学会会員
2006年3月～	社会福祉法人 仙台福祉サービス協会理事・評議員
2006年4月～2008年3月	大学入試センター第一委員会委員・客員研究員

所属	経済学科	職名	教授	氏名	前田 修也	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
2	『経済統計学講義ノート』(生協プリント版)	2005年4月	資料論・統計制度・経済統計分類論・指数論・推測統計理論・相関分析・回帰分析などの内容を含む。				
	『経済統計学講義ノート増補改訂版』(生協プリント版)	2007年3月	統計資料論・統計制度・経済統計分類論・指数論・推測統計理論・相関分析・回帰分析などの内容を含む。				
	『経済統計入門講座』 弓箭書院	2008年3月	統計資料論・統計制度・経済統計分類論・指数論・推測統計理論・相関分析・回帰分析・時系列分析などの内容を含む。				
4	インターゼミナール大会, 北部ブロック大会への参加支援	2005年~2008年	サブゼミ, 合宿等で大会発表用の指導を行う。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	Measuring Poverty Today in Japan-Is It on the Rise?-	単著	2007年3月	東北学院大学経済学論集 164号			
	Understanding the Income Redistribution Effect through using Relative Measurements (1)	単著	2008年3月	東北学院大学経済学論集 167号			
G	「日本の所得分配と格差」		2006年8月	中日セミナー ーアジアにおける社会福祉政策の展開ー	(主催) 中国国務院 経済発展センター 中国社会科学院 経済政治研究所		
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
東北学院共同研究 (代表・野崎明経済学部教授)			2006年度	共同 日本における経済格差を担当	現代アジアにおける社会・経済変動に関する理論的・実証的研究		
東北学院個別研究			2006年度	個別	社会コンセンサス理論に基づく貧困線設定の予備的研究		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1978年~			日本統計学会会員				
1979年~			経済統計学会・理事・編集委員				

所属	経済学科	職名	教授	氏名	山崎 和郎	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義内容と密接に関連する新聞記事の紹介(講義)	毎年適宜			講義と密接に関連する新聞記事の紹介・解説を行い、講義内容の理解を深める。		
	板書を丁寧にいき、ノートをとる作業をさせる。(講義)	毎年			ノートをとることで、講義内容を確認し、記憶に残るようにさせること。		
	仙台圏における起業と産業集積に関する研究および起業の企画書の作成など(演習)	2008年度			仙台圏の起業の状況、産業集積の実態などを調べ、また起業の企画書の作成等を試みる。		
	ブログを用いて課題レポートの関連文献など各種情報のアナウンスを実験的に実施(講義)	2009年度4月～7月			課題レポートの要項等の徹底と追加情報を学生が各自ブログで確認する。		
	テーマの関連する他大学のゼミとの交流(演習)	2009年度			地域活性化をテーマとする他大学のゼミとの交流で体験を広げる(一部学生)		
4	2005年度・放送大学・面接授業(宮城学習センター)の講師	2005年11月26～27日			「市場経済のエッセンス」と題する講義		
	放送大学・面接授業(宮城学習センター)の講師	2007年12月1～2日			「市場経済を考える」と題する講義		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
D	産業集積と新しいシリコンバレー・モデル	単著	2008年3月	日本計画行政学会・東北支部だより No. 34		2頁	
G	学会討論：小川敏明(新潟経営大学)「インテルの独占と競争政策」		2005年5月	日本経済政策学会第62回全国大会			
	学会討論：Jacques POOT (University of Waikato) “Demographic Change and Regional Competitiveness: The Effects of Migration and Ageing”		2006年10月	日本地域学会第43回年次大会・PRESCO Session			
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2005年1月～		日本経済学会会員					
2005年1月～		日本経済政策学会会員					
2005年1月～		日本計画行政学会会員					
2005年1月～		日本地域学会会員					
2005年1月～2008年5月		日本経済政策学会・理事					

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	アレイ, W.	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 講義内容をよく理解させ, 理解を定着させるための工夫					①パワーポイントを利用した講義を行うことで, 学生がノートを取りやすくなる。 ②毎年, 授業ノートを見直している。 ③毎回, 講義に関する練習問題を出すこと, また, 最近の経済の出来事を取り上げて説明することで理解度を高めるようにしている。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb Quality Choice under Stackelberg Competition		単著	2007年3月		東北学院大学経済学論集 第164号		263~272頁
Partial Ownership Arrangements, Technological Spillovers and Product Differentiation		単著	2007年9月		東北学院大学経済学論集 第165号		37~50頁
Partial Cross-Ownership and Product Quality		単著	2008年9月		東北学院大学経済学論集 第168号		105~116頁
G Are Partial Ownership Arrangements Advantageous?		単著	2007年10月		日本地域学会 2007年次大会		
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要
IV 学会等及び社会における主な活動							
1992年~			日本経済学会会員				
1995年~			日本統計学会会員				
1997年~			日本地域学会会員				

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	伊鹿倉正司	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 講義内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫			2005年4月～2008年12月	講義内容を精選し、基本をよく理解させることに力点をおいた講義を行っている。また、図表や新聞記事を数多く講義に取り入れることで、学生の講義内容の理解をより高める努力を行っている。以上の内容は、赴任当時（2005年4月）より継続して行なっている。			
毎回の講義の進め方における工夫			2005年4月～2008年12月	講義ではパワーポイントを使用することで、学生がノートを取りやすい配慮を行っている。また、90分間の講義中に5分間の休憩時間を設けることで、学生が集中して講義を受けられるようにしている。以上の内容は、赴任当時（2005年4月）より継続して行なっている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A ユーロ市場と国際銀行業		共著	2006年2月	『金融グローバリゼーションの理論』大月書店	信用理論研究会	146～155頁	
Bb 途上国銀行セクターの発展と外国銀行		単著	2005年12月	『経済学論集』第160号、東北学院大学学術研究会		71～106頁	
金融機関のグローバル化		単著	2006年12月	『経済学論集』第163号、東北学院大学学術研究会		49～76頁	
欧州金融統合の最後の難関		単著	2008年12月	『経済学論集』第169号、東北学院大学学術研究会		83～103頁 全21頁	
G 中南米・中東欧における欧米銀行のリアル金融業の展開			2005年9月	日本金融学会 2005年度秋季大会			
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金若手研究(B)			2006～2007年度	研究代表者	中東欧銀行市場における外国銀行のチェリー・ピッキング行動の検証		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	大槻 清	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業態度向上の実践	2000年4月～2006年12月	私語の禁止, ペットボトル持込自粛 etc				
		2009年4月～	私語の禁止, ペットボトル持ち込み禁止, 講義中無断外出禁止				
	授業理解と学習促進	2005年4月～2009年11月	授業冒頭で前回までの復習をかねた小テスト(2, 3週毎; 15分程度)をしている。 毎年, 夏休み課題: 近代資本主義社会に関する文献講読・レポートを課している。				
	独自「学生による授業評価」を実施	2008年7月	無記名で授業の面白いところ, 面白くないところ, やって欲しいこと, 欲しくないこと等々を「授業評価」として行った。				
		2009年9月	無記名で授業評価, 教師評価, 教材評価, その他何でも書きたいことを書かせ, 今後の参考とした。				
	フィールドワーク(原子力の町・女川の調査)	2008年10月～11月	演習生(4年)と共に合併なしでの町づくりを進める女川町の振興発展政策について調査・継続。11月9日(日)には「うみねこマラソン大会」に参加, スポーツ振興の一端を見学した。				
		2009年4月～	女川町の調査継続				
	フィールドワーク(栗原市・震災調査)	2009年10月	宮城県危機対策課, 防災砂防課, 災害ボランティアセンターを訪問学習, 10月17日(土):ゼミ生有志と共に栗原市総務課を通じ現地調査見学				
	フィールドワーク(仙台市・夢メッセ)	2009年10月	ヒューマンフェアせんたい・みやぎ:ゼミ生有志と共に参加				
	2	教材の作成	2002年4月～2006年12月	必要な教材をコミック, 事典, その他から人数分をコピーして配布(毎回100～500枚)			
「経済発展と人間関係を考えるための方法的視座」(東北堂印刷)		2007年3月	演習生向けの参考書として, 日本人の集団主義的傾向を多面的に分析し, 教材として製本				
4	ボランティア(ゼミ生全員と共に)	2005年10月	特別養護老人ホーム和風園でボランティア活動(大和町)				
	ボランティア活動(ゼミ生有志と共に)	2007年8月17日～21日	2007年夏・新潟地震(柏崎・刈谷)災害復興支援のために学生有志3人と共に参加, 活動をした。				
		2009年8月	特別養護老人ホーム和風園ボランティア(有志学生3人と)				
	ボランティア活動(単独)	2009年10月	北朝鮮拉致被害者救出のための募金・署名収集活動(仙台市・大国神社にて)				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 変貌する日本人について	単著	2006年12月	東北学院大学経済学論集(163号)		77～88頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1979年4月～		社会経済史学会会員			
1979年4月～		東北経済学会会員			

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	折原 裕	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	a) 講義・毎回の授業の進め方における工夫 (1)	1992年4月～2006年7月	授業の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を進める。				
	・毎回の授業の進め方における工夫 (2)	1992年4月～2009年12月	板書をする際に、項目の体系性に配慮し、後部の学生にも見えるよう20cm角以上の文字を書くよう努める。				
	・毎回の授業の進め方における工夫 (3)	1992年4月～2009年12月	授業終了後、質問時間を設ける。				
	・授業に学生を引きつけるための工夫 (1)	1992年4月～2009年12月	説明の際、多くの事例や逸話を引き合いに出す。				
	・授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫 (1)	1992年4月～2009年12月	図や表を多用して説明する。区切りごとに要点を指摘する。				
	・学生の知的好奇心を刺激するための工夫 (1)	1992年4月～2009年12月	新聞記事を利用して授業内容の現実的な意義を伝える。				
	b) 演習・学生との接し方における工夫 (1)	1992年4月～2009年12月	就職活動を支援するため、演習OBを紹介する。				
	・学生との接し方における工夫 (2)	1992年4月～2009年12月	レポートを添削返却し、改善点を指摘する。				
	・学生との接し方における工夫 (3)	1992年4月～2009年12月	研究合宿を実行する。				
	・学生の学ぶ意欲を高めるための工夫 (1)	1992年4月～2009年12月	卒業研究レポートを製本する。				
	演習における卒業論文集の作成	2007年度, 2008年度	冊子体の形で毎年卒業論文集を作成している。関連して、各自の論文作成作業経過を中間報告として2回、演習の中でプレゼンテーションをさせている。プレゼンテーションを通じて、学生たちにお互いの作業の進み具合を確認させ、質問やコメントを経験させることができ、競争意識を高め、卒論への取り組みを強く持たせる効果が期待される。これ以外に随時作成についての指導を行っている。				
	演習学生の就職支援	2007年度, 2008年度	演習OBを紹介し訪問させている。				
	総合演習Iにおける教育効果の向上を図る工夫	2007年度	「レポートの作り方」、「テキストの読み方」、「文章表現のポイント」に関する教材や問題集を作成している。これらを使用した授業を通じて大学での勉学に必要な技術が習得できることが期待される。教材・問題は毎年度バージョンアップしている。また、わが国の戦後経済の歩みに関して数回の講義を行い、経済の基礎的知識の理解を促している。				
	「学生による授業評価」アンケートの実施	2008年度	経済学部の評価方法に沿った評価アンケート				

<p>2 授業で使用する冊子（金融政策論講義メモ）を作成した。</p>	<p>2006年9月 2007年度 2008年度 2009年度</p>	<p>講義内容のレジュメおよび関連する資料を冊子にしたもの。経済・金融データが頻繁に更新されることに伴い、特に資料の部分は毎年度更新している。</p>
<p>4 教職希望者への指導（教育実習）</p>	<p>2005年5月23日～6月10日</p>	<p>実習生への事前指導と実習校（仙台市立上杉山中学校）訪問。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2005年12月9日</p>	<p>山形県：私立城北高等学校で「金融入門ーわが国の金融の仕組みと金融政策」と題して授業を行った。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2006年4月28日</p>	<p>宮城県泉館山高等学校で「経済を見る道具：GDP, 景気動向指数, マネーサプライ」と題して授業を行った。</p>
<p>教職希望者への指導（教育実習）</p>	<p>2006年5月23日～6月10日</p>	<p>実習生への事前指導と実習校（仙台市立岩切中学校）訪問。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2007年6月20日</p>	<p>福島県立福島西高等学校「一日大学」で「金融・経済入門」と題して授業を行った。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2007年11月30日</p>	<p>宮城県泉松陵高等学校「模擬授業」で「金融・経済入門」と題して授業を行った。</p>
<p>インゼミの助言講師を務めた。</p>	<p>2007年12月23日</p>	<p>日本経済ゼミナール東北学院大学大会「メガバンクのありかた」分科会で。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2008年4月25日</p>	<p>宮城県泉館山高等学校「大学集中出張講義」で「金融・経済入門」と題して授業を行った。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2008年5月24日</p>	<p>宮城野高等学校特別講座「経済学の世界」で「金融・経済入門」と題して授業を行った。</p>
<p>2008年度オープンキャンパス模擬授業の講師を務めた。</p>	<p>2008年6月28日（土樋キャンパス）, 2008年8月2日（泉キャンパス）</p>	<p>「私たちの暮らしと金融——サブ・プライム問題から考える」と題して模擬講義を行った。</p>
<p>東北学院大学FD研修会に出席した。</p>	<p>2008年7月3日</p>	
<p>2009年度の入学説明のため高等学校を訪問した。</p>	<p>2008年7月14日～15日</p>	<p>岩手県立久慈高等学校, 岩手県立宮古北高等学校, 岩手県立宮古高等学校, 岩手県立釜石高等学校</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた。</p>	<p>2009年10月20日</p>	<p>宮城県築館高等学校「One Day College」で「金融・経済入門」と題して授業を行った。</p>

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数
<p>G 「日本の金融経済の現状と課題ー量的緩和政策をめぐってー」</p>		<p>2006年5月</p>	<p>韓日学術セミナー（会場：全南大学校経営大学）</p>		

III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	倉田 洋	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の定着と授業理解の促進	2008年4月～		授業では、学生にパワーポイントスライドをノートに書いてもらう方法をとっている。これにより、学生は一度内容を確認してから（あるいは確認しながら）説明を聞くことができる。また、スライド用リモコンの使用により、学生がノートを書き写している間、多くの学生に話しかけ、習熟度を確認したうえで説明を行っている。			
	プレゼンテーション・レポートの書き方についての指導	2008年4月～		1年生、3・4年生対象の演習において、プレゼンテーションを効果的に行う方法、レジュメの作り方、レポートの書き方についての説明と実践を行っている。			
	教員独自の「学生による授業評価」の実施	2008年4月～		学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業の改善のため、教員自身で考案したアンケートを実施している。			
2	理論経済学講義ノート	2008年4月～		経済学部3・4年生向けのパワーポイント教材。教科書である多和田眞（著）『コアテキストミクロ経済学』に対応した教材である。			
	経済原論講義ノート	2009年4月～		経営学部1年生向けのパワーポイント教材。教科書である伊藤元重（著）『入門 経済学（第3版）』に対応した教材である。			
4	高大連携授業の講師を務めた	2006年8月、2007年8月		立命館大学と立命館宇治高等学校が共同で実施した高大連携授業（会場は立命館大学）において、「株式投資のリスクとリスクのコントロール」と題する授業の講師を務めた。			
	高校生への特別授業の講師を務めた	2007年12月		立命館大学と立命館慶祥高等学校が共同で実施した特別講義（会場は立命館大学）において、「ファイナンス入門特別講義～大学で学ぶファイナンスとは」と題する授業を行った。			
		2009年6月		福島県立福島西高等学校で行われた「一日大学」において、「経済学を学んでみよう～？を！に変える経済学」と題する授業の講師を務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A “Multinational Firms and Host Country Policies”		単著	2005年3月	北海道大学(博士学位論文)			

『不完全競争下での経済援助と貿易自由化』	共著	2007年9月	「現代国際貿易の諸問題—環境, 対外援助, 国際間要素移動と不完全競争—」勁草書房	編者： 近藤健児 藪内繁巳 著者： 大川昌幸 倉田 洋	52～63頁
“Tied Aid and Trade Liberalization under imperfect competition”	共著	2008年12月	‘International Trade and Economics Dynamics - Essays in Memory of Koji Shimomura’ Springer-Verlag	編者： T. Kamihigashi L. Zhao 著者： H. Kurata M. Okawa	133～143頁
Ba “Foreign Equity Caps for International Joint Ventures”	共著	2004年10月	Economics Bulletin Vol. 6, No. 20	Y. Tomoda H. Kurata	1～9頁
“National Ownership Requirements Reconsidered”	共著	2006年9月	社会システム研究 第13号	Y. Tomoda H. Kurata	1～16頁
“Foreign Equity Caps under Two Types of Competition; Bertrand and Cournot”	単著	2007年7月	Economics Bulletin Vol. 6, No. 21		1～11頁
“Location Choice and Welfare in Non-tradable Service Industry”	共著	2009年1月	International Review of Economics and Finance Vol. 18, No. 1	H. Kurata T. Ohkawa M. Okamura	20～25頁
“Non Expected Utility Maximizers Behave as if Expected Utility Maximizers : An Experimental Test”	共著	2009年	Journal of Socio-Economics Vol. 38, No. 4	H. Kurata H. Izawa M. Okamura	622～629頁
Bb “Export Subsidies and Market Structure in Imperfectly Competitive Markets”	単著	2004年7月	Economic Journal of Hokkaido University Vol. 33		177～190頁
“Endogenous Trade Pattern in Vertical Production”	共著	2006年5月	立命館経済学 第55巻 第1号	H. Kurata H. Ono	46～61頁
“Trade Patterns and Policies-Intra-Industry Trade and Foreign Direct Investment”	共著	2006年10月	Economic Journal of Hokkaido University Vol. 35	H. Ono H. Kurata	1～17頁
『自由参入, 企業立地と厚生』	単著	2007年1月	経済学研究(北海道大学) 第56巻3号		33～42頁
C “Interest Rate Ceiling as a Trade Policy”	共著	2004年5月	Discussion Paper A2003-128 (北海道大学)	Y. Tomoda H. Kurata	
“Interest Rate Ceiling Revisited”	共著	2007年4月	立命館大学ファイナンス研究センターリサーチペーパー 07-002	H. Kurata Y. Tomoda	

<p>E 『実験で分かった！感じる株式投資』</p>	共著	2008年3月	ランダムハウス講談社	井澤裕司 実験経済プロジェクト：倉田洋城山昌樹 立石隆英 橋本剛委
<p>G “Non Expected Utility Maximizers Behave as if Expected Utility Maximizers : An Experimental Test”</p>	国外	2005年11月	上海财经大学	“Chinese Financial Market Reform and Risk Prevention, 2005” International Symposium
<p>“Non Expected Utility Maximizers Behave as if Expected Utility Maximizers: An Experimental Test”</p>	国外	2006年1月	香港科技大学	Asia-Pacific Regional Meeting of the Economic Science Association, 2006
<p>“Is Location Choice Optimal?”</p>	国内	2006年6月	福島大学	日本経済学会2006年春季大会
<p>“Market Size, Strategic Location Decision, and Social Welfare”</p>	国内	2006年11月	広島修道大学	日本応用経済学会2006年秋季大会
<p>“Interest Rate Ceiling Revisited”</p>	国内	2007年9月	日本大学	日本経済学会2007年秋季大会
<p>“Market Size and Location Choice in a Non-tradable Service Industry”</p>	国外	2008年7月	シドニー大学	Asia Pacific Trade Seminar 2008
<p>“Vertical Trade and Free Trade Agreements”</p>	国内	2009年6月	京都大学	日本経済学会2009年春季大会

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金 若手研究(B)	2006～2007年度	個別	海外直接投資と直接投資政策
日本経済研究奨励財団奨励金	2008年度	共同・研究分担者	垂直的な産業・貿易構造の下での自由貿易協定に関する理論的研究

科学研究費補助金 若手研究(B)	2008～2009 年度	個別	企業の異質性に基づく 国際貿易と海外直接投資
科学研究費補助金 基盤研究(C)	2009～2011 年度	共同・研究分担者	垂直的な貿易構造の下 での自由貿易協定 (FTA) に関する理論的研究

IV 学会等及び社会における主な活動

2003 年 4 月～	日本経済学会会員
2004 年 4 月～	日本国際経済学会会員
2006 年 2 月～	Canadian Economic Association 会員
2006 年 11 月～	日本応用経済学会会員
2008 年 4 月～	日本地域学会会員

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	白鳥 圭志	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	日本経済史の授業		2008～2009 年度	結論を先に示した上で、根拠を示すという方式にした。このほか、随時、数量データ、文書史料を提示した。 詳細なハンド・アウトを配布した。その上で、DVD, 写真などの映像史料を使用した。			
2	原朗『概説 日本経済史』放送大学教材, 2000 年。		2006 年度	章立てに沿って内容を説明した。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A							
『日本企業研究のフロンティア 2』		共著	2006 年 3 月	有斐閣	一橋大学日本企業研究センター編	157～179 頁を分担執筆	
『両大戦間期における銀行合同政策の展開』		単著	2006 年 10 月	八潮社		全 480 頁	
『MBA のための日本経営史』		共著	2007 年 5 月	有斐閣	鈴木良隆 橋野知子 白鳥圭志	75～86 頁, 108 ～ 113 頁, 199 ～ 225 頁	
Ba							
「戦後復興期における金融規制の再編成」		単著	2006 年 3 月	『地方金融史研究』第 37 号		17～38 頁	
「戦時体制下における日本銀行の金融調整と地方銀行」		単著	2007 年 3 月	『社会経済史学』第 72 巻 5 号		17～38 頁	
「復興金融から成長促進型資金供給制度へー戦後復興期における長期資金供給制度の成立過程ー」		単著	2008 年 5 月	『地方金融史研究』第 39 号		3～24 頁	
「戦時体制下における地方銀行経営の変容ー両羽銀行の事例ー」		単著	2008 年 6 月	『社会経済史学』第 74 巻 1 号		63～86 頁	
「1950 年代における大蔵省の金融機関行政と金融検査ー経常収支率規制と組織的管理体制構築問題を巡ってー」		単著	2009 年 3 月	『経営史学』第 43 巻 4 号		55～80 頁	
Local Banks and Local Magnates in modern Japan		単著	2009 年 6 月 (未刊)	<i>Japanese Research in Business History</i> Vol. 25		未定	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
一橋大学大学院商学研究科 21 世紀 COE プログラム	2003～2007 年度	共同（ただし、参加は 2004 年度から）。	知識・企業・イノベーションのダイナミズム
文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)	2005～2007 年度	個別	両大戦間期における対 外金融の内国金融再編 成に対するインパクト の再検討
文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)	2005～2007 年度	共同	金融ビジネス・モデルの 史的変遷
文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)	2009～2011 年度	個別	近代日本における経済 発展の地域間比較史
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	谷 祐可子	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	毎回の講義の進め方における工夫(1)	2005年度～2007年度		講義の要点を、項目の体系的に配慮しながら板書し、図表をプリントにして配布した。			
	毎回の講義の進め方における工夫(2)	2008年度～2009年度		パソコン（パワーポイント）を使いながら講義を進め、スライドを出力したプリントを配布した。			
	講義の理解を深めるための工夫(1)	2005年度～2009年度		図や表を多用し、具体例などを引用した。			
	講義の理解を深めるための工夫(2)	2005年度～2009年度		講義と関連するビデオなどの視聴覚教材を必要に応じて使用した。			
	講義の理解度の把握	2009年12月11日		授業評価アンケート（自作）を実施した。			
	演習の進め方における工夫(1)	2005年度～2009年度		レポートを添削して返却した。			
	演習の進め方における工夫(2)	2005年度～2009年度		新聞記事・雑誌記事・論文等を教材として配布した。			
	演習の理解を深めるための工夫	2005年10月22～23日 2006年8月21～22日 2008年8月24～25日 2009年8月25～26日 2009年8月28～29日		3・4年生のゼミ合宿を実施した（山形県蔵王） 3・4年生のゼミ合宿を実施した（山形県蔵王） 3・4年生のゼミ合宿を実施した（宮城県秋保） 3年生のゼミ合宿を実施した（宮城県秋保） 4年生のゼミ合宿を実施した（福島県裏磐梯）			
	演習での学習成果の取り纏め	2005年度～2009年度		卒業論文を作成した。			
2	講義・演習で使用する補助教材を作成した	2005年度～2009年度		講義用および演習用の配付資料を作成した。			
4	留学生に対する英語による講義を担当した	2005年度～2009年度		日本における環境問題を紹介した。			
	留学生の学外研修に付添指導を行なった	2005年10月29～30日		山形県白石蔵王での研修に同行した。			
	教育実習生に対する訪問指導を行なった	2006年6月5日		仙台市立七北田中学校において実施した。			
	高等学校へ出張講義を行なった	2006年7月3日		宮城県利府高校において、経済と環境問題の関係や環境政策の効果と問題点などについて紹介した。			
	第53回インゼミの助言講師を行なった	2006年12月23日		廃棄物政策をめぐる討論を担当した。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著録（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
D	The Economic Situation of the Forests in British India: From the Late 19th Century Forestry Statistics	単著	2006年5月	平成16～17年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書		33頁	

F	書評 水野祥子著『イギリス帝国からみる環境史：インド支配と森林保護』	単著	2007年7月	林業経済研究所, 『林業経済』60(4)		4頁
	書評 Barton, Gregory Allen 著『Empire Forestry and the Origins of Environmentalism』	単著	2009年7月	林業経済研究所, 『林業経済』62(4)		6頁
G	ミャンマーにおけるウルシ樹液採取活動の経済的側面：サガイン管区の事例	単著	2005年6月	第15回日本熱帯生態学会年次大会(京都大学)		
	ミャンマーにおけるウルシ樹液採取活動の経済的側面：サガイン管区の事例	単著	2005年6月	第15回日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集		1頁
	林野制度体系化の社会経済的背景に関する考察：1870年代英領ビルマを中心として	単著	2005年11月	林業経済学会2005年秋季大会(愛媛大学)		
	Demographic Dynamics and the Forests in North-East India	共著	2008年6月	日本熱帯生態学会, 『第18回日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集』	M. Ota M. Masuda	1頁
	森林・住民・政策：インドおよびミャンマーの事例より	単著	2009年10月	第14回東北大学環境フロンティア研究会(東北大学)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金(基盤研究C2)	2004~2005年度	共同・共同研究者	植民地期の森林管理をめぐる比較制度論：インド, ガーナおよびサラワク(研究代表者：筑波大学助教授 増田美砂)
科学研究費補助金(基盤研究C)	2007~2008年度	共同・分担者	森林経営のオルタナティブと政府セクターの役割：インドから学ぶこと(研究代表者：筑波大学教授 増田美砂)
科学研究費補助金(基盤研究B)	2009年度~	共同・分担者	参加型森林管理の普及条件と資源動態：森林インフラストラクチャーを手がかりに(研究代表者：筑波大学教授 増田美砂)

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	林業経済学会 編集委員
--	-------------

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	細谷 圭	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	「経済政策論」において、パワーポイントを使用	2005年4月～		パワーポイントを使用した講義を行い、授業効率の向上をはかっている。			
	「経済政策論」において、講義ノートをすべてWeb上で公開	2005年4月～		講義ノートをすべてWeb上で公開し学生の便宜をはかるとともに、円滑な予習・復習をサポートするという点で教育効率の向上にもつながっている。			
2	「医療経済学A・B」講義ノート	2004年4月		非常勤先である東洋大学経済学部3・4年生用のパワーポイント教材。全11章で、総スライド枚数は約170枚。教科書である漆博雄〔編〕『医療経済学』（1998年、東京大学出版会）に対応した教材である。本学の講義でも使用している。			
	「経済政策論」講義ノート	2005年4月		パワーポイント教材。全10章で、総スライド枚数は約300枚。教科書である井堀利宏〔著〕『経済政策』（2003年、新世社）に対応した教材である。			
4	高校への出前講義の講師	2006年10月11日		宮城県宮城広瀬高校の2年生を対象に、「医療経済学と日本の医療問題」と題する講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	自己負担率の変化と患者の受診行動	共著	2005年9月	田近栄治・佐藤主光〔編〕『医療と介護の世代間格差』第1章所収、東洋経済新報社	増原宏明 熊本尚雄 細谷 圭	11～31頁	
Ba	Resource Augmenting Technological Progress and Sustainable Development	共著	2006年3月	『商學論集』Vol. 74, No. 3	熊本尚雄 細谷 圭	1～18頁	
	Trends in Demographics and Survival for Patients (pts) with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)	共著	2006年6月	Journal of Clinical Oncology, 2006 ASCO Annual Meeting Proceedings, Vol. 24, No. 18S	K. Kubota H. Masuhara K. Hosoya K. Yoh S. Niho K. Goto H. Ohmatsu Y. Nishiwaki N. Saijo	7114	
Bb	The Speed of Convergence in a Two-Sector Growth Model with Health Capital	単著	2005年9月	『東北学院大学経済学論集』No. 159		27～44頁	
	Growth, Welfare and Healthcare Financing Policy	単著	2005年12月	『東北学院大学経済学論集』No. 160		121～127頁	

<p>高齢化は不可避免的に医療支出の増加を引き起こすかーOECD Health Dataからの知見ー</p>	<p>単著</p>	<p>2007年3月</p>	<p>『東北学院大学経済学論集』 No. 164</p>		<p>285～307頁</p>
<p>F 安岡・後藤 (2009) “Pension and Child Care Policies with Endogenous Fertility in a Closed Economy” の討論者を担当</p>		<p>2009年2月</p>	<p>公共経済学若手研究者セミナー (於: 学術総合センター, 東京)</p>		
<p>G Trends in Demographics and Survival for Patients (pts) with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)</p>	<p>共著</p>	<p>2006年6月</p>	<p>42nd ASCO Annual Meeting (於: Georgia World Congress Center, Atlanta)</p>	<p>K. Kubota H. Masuhara K. Hosoya K. Yoh S. Niho K. Goto H. Ohmatsu Y. Nishiwaki N. Saijo</p>	
<p>進行非小細胞肺癌の病態, 予後の変遷</p>	<p>共著</p>	<p>2006年12月</p>	<p>第13回ヘルスリサーチフォーラム (於: 千代田放送会館, 東京)</p>	<p>久保田馨 増原宏明 細谷 圭 南部鶴彦</p>	
<p>Trends in Demographics and Survival for Patients (pts) with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)</p>	<p>共著</p>	<p>2006年12月</p>	<p>The Joint Meeting of the 3rd ISC International Conference on Cancer Therapeutics and the 11th International Symposium on Cancer Chemotherapy (於: ホテル日航東京, 東京)</p>	<p>K. Kubota H. Masuhara K. Hosoya K. Yoh S. Niho K. Goto H. Ohmatsu Y. Nishiwaki N. Saijo</p>	
<p>H MBAのためのミクロ経済学入門 I 価格と市場</p>	<p>共訳</p>	<p>2008年4月</p>	<p>東洋経済新報社</p>	<p>デビッド・M・クレプス [著] 中泉真樹 尾近裕幸 熊本尚雄 林 行成 細谷 圭 増原宏明 [訳]</p>	<p>主な執筆箇所: 第8・9・14章</p>
<p>MBAのためのミクロ経済学入門 II ゲーム・情報と経営戦略</p>	<p>共訳</p>	<p>2009年3月</p>	<p>東洋経済新報社</p>	<p>デビッド・M・クレプス [著] 中泉真樹 尾近裕幸 熊本尚雄 林 行成 細谷 圭 増原宏明 [訳]</p>	<p>主な執筆箇所: 第2・11章</p>

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手研究(B)	2008年度・2009年度～	個別	医療支出に関する Red Herring 仮説のマクロ経済的検証
東北学院教育研究助成金個別研究(B)	2008年度	個別	マクロ経済動学モデルにおける均衡成長経路の不決定性問題－効用関数の形状がもたらす影響－
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2007年	2007年度日本経済学会秋季大会プログラム委員		

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	舩谷 謙二	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	授業理解の促進方法の導入		1989年4月～2006年度 2007年1月～2009年12月	授業の最初に前回の内容と今回の内容との関係を認識させ、今回の授業の概略を口述して全体を把握させてから各細部について詳述。			
	教員独自の「学生による授業アンケート」実施		1990年1月～2006年1月 2007年1月～2009年12月	授業改善を目的として、授業の進め方や板書の方法について、学生に対してアンケートを実施。			
	インターネット利用による少人数科目の履修者フォロー		2003年～2005年（各年度の4月から6月） 2007年1月～2009年12月	演習科目履修者に対してネット上にページを開設し、レポートの書き方を例示したり課題を提示。また、受講者とのコミュニケーションを図る目的で掲示板を設置。			
2	演習（3年生）用教材として経済学講義要綱を作成・配付		2005年1月～2009年12月	演習登録者間には経済学理解の程度のばらつきが大きく、それが演習内容の理解度の差の原因ともなっているとの認識から、A4版10ページのレジюмеを作成・配付して数時間の講義を行っている。			
4	教育実習生への訪問指導		2005年7月～2006年6月	教育実習生への訪問指導を次の3校で行った。古川高校（2005.7.6）、大河原商業高校（2006.6.23）、柴田高校（2006.6.30）			
	東北学院大学オープンキャンパスにおける模擬授業		2007年7月15日、8月4日 2008年6月28日、8月2日 2009年6月27日、8月1日	2007年度秋田オープンキャンパス、2007年度泉オープンキャンパス、2008年度土樋オープンキャンパス、2008年度泉オープンキャンパス、2009年度土樋オープンキャンパス、2009年度泉オープンキャンパスにて実施。			
	教育実習生への訪問指導		2007年7月15日	宮城県大河原商業高等学校にて実施。			
	高校への出前授業		2009年10月30日	岩手県立金ヶ崎高等学校にて実施。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著録（共著の場合のみ記入）	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2005年1月～2009年12月			経済学史学会会員				
2005年1月～2009年12月			進化経済学会会員				
2005年1月～2009年12月			東北経済学会会員				
2005年1月～2009年12月			日本18世紀学会会員				
2005年1月～2009年12月			マルサス学会会員				

所属	経済学科	職名	准教授	氏名	若生 徹	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Who Benefits from Corroding Keiretsu?		共著	2005年12月	Pacific Economic Review, 10:4	T. Wako H. Ohta	539～556頁	
D 流通と立地の経済分析		単著	2008年3月	東北大学		1～109頁	
G 系列店レポートと販売促進レポート		単著	2007年4月	第95回地域科学ワー クショップ		1～15頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	経済学科	職名	講師	氏名	泉 正樹	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	学習内容の定着			2008年4月～2009年12月	毎回の授業の冒頭で、前回の復習を行なうとともに、授業終了時にはその回のまとめを行なっている。		
	授業理解の促進			2009年4月～12月	板書のみでは授業内容を伝えきれないと判断される場合に、補助プリントを配布して授業理解の促進に努めている。		
	授業理解の確認			2009年4月～12月	各単元において、特に重要と考える項目については論述形式の確認プリントを配布・回収し、授業内容が理解されているかどうかの確認を行なっている。		
	質問への対応			2009年4月～12月	授業時に学生から質問を受けた場合には、多くの学生が同様の疑問を持っているものと判断して、内容進行をひとまず中断し、可能な限りその質問に回答するよう努めている。また、授業終了後に質問を受けた場合には、次回の授業時に質問内容を紹介して、授業理解の促進に役立っている。		
	板書の工夫			2009年4月～12月	板書をする際には、授業内容の体系性を反映したものとなるように十分注意するとともに、後ろの席の学生にも見えるよう10cm角以上の文字を書くことに努めている。		
	学生の自発的発言の促進			2009年4月～12月	演習や外国書講読といった比較的少人数で開講している科目については特に、私自身も共に学ぶという姿勢を徹底することで、学生が自発的に発言できるよう雰囲気作りに努めている。		
4	高校への出前授業の講師を務めた			2008年11月4日 2009年11月5日	宮城県第三女子高等学校の1年生に対して、「経済学の意義を考える」と題する授業を行なった。 宮城県多賀城高等学校の2年生に対して、「経済と経済学」と題する授業を行なった。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A	「アダム・スミスにおける価値と富裕」		共著	2007年3月	『マルクス理論研究』 (御茶の水書房)	小幡道昭 青才高志 清水 敦 編, 他16名	37～48頁
Ba	「商品の交換比率と価値」		単著	2005年10月	経済理論学会編『季刊 経済理論』第42巻第 3号		42～52頁

「原理論の方法に関する一省察」	単著	2007年10月	経済理論学会編『季刊経済理論』第44巻第3号		65～77頁
Bb 「純粋資本主義論における一般的価値形態の成立」	単著	2009年9月	『経済学論集』第171号(東北学院大学学術研究会)		45～72頁
「計算貨幣論におけるマルクスのステュアート評」	単著	2009年12月	『経済学論集』第172号(東北学院大学学術研究会)		39～60頁
H コスタス・ラバヴィツァス「権力と信頼」	共訳	2006年8月	『現代マルクス経済学のフロンティア』(御茶の水書房)	マルクス経済学の現代的課題研究会(SGCIME)編 (共訳者:吉村信之)	67～97頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2003年10月～	経済理論学会会員
2008年3月～	経済学史学会会員

所属	経済学科	職名	講師	氏名	篠崎 剛	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 パワーポイントによる講義				2007年4月～2009年12月	講義の内容の正しい理解のため、論理の順番にしたがって、アニメーションを使用したり、重要な点は強調するなど工夫している。		
授業評価				2009年4月～12月	5回目の講義後に学生の理解度を確認するため、授業アンケートを行った。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba 貿易による援助：動学的視点による再考		単著	2006年8月	日本地域学会, 地域学研究, 第36巻第1号		101～112頁	
Transfer Paradox in a Two-Sector Overlapping Generations Model: Duality Approach		単著	2007年3月	Economics Bulletin, Vol 6 (10)		1～9頁	
二国二部門世代重複モデルにおける紐付きトランスファーの経済厚生効果		単著	2008年6月	神戸大学, 国民経済雑誌		1～17頁	
Bb 国際的消費・資本課税ルールと税制改革 —二国世代重複モデルによる厚生分析—		共著	2004年11月	愛知大学経済学会, 愛知大学経済論集, 第166号	篠崎 剛 國崎 稔	391～422頁	
三国二部門世代重複モデルにおける永続的トランスファーの経済厚生効果		単著	2006年12月	名古屋大学大学院経済学研究科, 経済科学		113～123頁	
日本における政府支出・公的年金改革のマクロ経済への影響 —公債維持政策下での数量分析—		共著	2007年9月	名古屋大学大学院経済学研究科, 経済科学	柳原光芳 篠崎 剛	25～37頁	
世代重複モデルにおける資本税改革の厚生分析 —居住地主義下の租税調和化政策—		単著	2007年12月	愛知大学経済論集, 愛知大学経済学会		33～47頁	
G 関税による援助：動学的視点による再考		単著	2005年6月	国際経済学会中部部会, テイジン研修センター			
二部門世代重複モデルにおけるトランスファー・パラドックスの可能性		共著	2005年9月	日本経済学会, 中央大学	篠崎 剛 柳原光芳		
関税による援助：動学的視点による再考		単著	2005年10月	日本地域学会, 鳥取大学			
Optimal Tariff In a Two-Sector Overlapping Generations Model		単著	2005年12月	日本経済政策学会, 静岡産業大学			
リンダール・メカニズムと二部門世代重複モデル		共著	2006年6月	応用経済学会, 福岡大学	柳原光芳 篠崎 剛		

リンダール・メカニズムと二部門世代重複モデル	共著	2006年6月	生活経済学会, 小樽商科大学	柳原光芳 篠崎 剛
二国二部門世代重複モデルにおける紐付きトランスファーの経済厚生効果	単著	2006年10月	日本国際経済学会, 名古屋大学	
リンダール・メカニズムと二部門世代重複モデル	共著	2006年10月	日本地域学会, 千葉商科大学	篠崎 剛 柳原光芳
Is Emission Standard Superior to Emission Tax? -The Case of International Oligopoly-	共著	2007年8月	Society for Global Business & Economic Development, International Conference, 龍谷大学	篠崎 剛 國崎 稔
習慣形成が国際間資本移動に与える影響	単著	2007年10月	生活経済学会, 名古屋市立大学	
Is Emission Standard Superior to Emission Tax? -The Case of International Oligopoly-	共著	2008年8月	International Tax and Public Finance, マーストリヒト大学	篠崎 剛 國崎 稔
The Closed-loop Effects of Trade Liberalization on Losses from Trade	共著	2008年9月	日本経済学会, 近畿大学	藤原憲二 篠崎 剛
Is Emission Standard Superior to Emission Tax? -The Case of International Oligopoly-	共著	2009年3月	Asia Pacific Conference on Information Management, 北京大学	篠崎 剛 國崎 稔
International Trade and a Public Intermediate Good in an Overlapping Generations Model	共著	2009年3月	IEFS JAPAN Conference, 京都大学	篠崎 剛 多和田眞 柳原光芳
Dynamic interactions in trade policy and losses from trade warfare	共著	2009年6月	日本経済学会, 京都大学	藤原憲二 篠崎 剛 柳瀬明彦
International Trade and a Public Intermediate Good in an Overlapping Generations Model	共著	2009年8月	Pacific Regional Science Conference, ゴールドコースト	篠崎 剛 多和田眞 柳原光芳
International Trade and a Public Intermediate Good in an Overlapping Generations Model	共著	2009年8月	Far East and South Asia Meeting of the Econometric Society, 東京大学	篠崎 剛 多和田眞 柳原光芳

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
日本学術振興会科学研究費補助金若手(B)	2008年	個別	習慣形成と国際間の所得不平等との関係

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--	--	--	--

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	阿部 重樹	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
2	阿部裕二編『社会保障—社会保障制度 社会保障サービス (社会福祉シリーズ第12巻)』弘文堂	2008年11月15日		分担執筆箇所は、「わが国の介護保険制度の現状と課題」(第5章, 105~126頁)と「公的扶助と社会福祉制度」(第7章, 149~167頁)である。2006年4月より施行されている改正介護保険制度や障害者自立支援制度等, 近年に実施された制度改革の最新の動向を踏まえて, 改正された各制度の特徴を歴史的視点を踏まえて整理し, その上で課題についても論じている。			
4	教職課程科目の一つである「介護等体験実習」における全学部全学科所属の学生を対象とした実習前ガイダンスの担当	2009年5月7日		非福祉系大学の本学学生を対象に, 実際に養護学校および各種福祉施設での実習を行う前に, 短時間のなかでいかに効果的に実習に必要な知識や理解を提供し, また実習への意欲を高められるかについて, ガイダンスのあり方を工夫・実践している。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	介護の社会化と家族介護への評価—介護保険制度の中核的理念としての検討をめぐって— (第7章)	共著	2005年3月	高齢者の生活保障 青鞥社	岡本多喜子編 岡本多喜子 阿部裕二 十束支朗 高橋佳代 副土貴子 竹田貴美子 阿部重樹 下垣 光	159~181頁	
	わが国の介護保険制度の現状と課題 (第5章)	共著	2006年12月	臨床に必要な社会保障 (社会保障論 福祉臨床シリーズ8)	阿部裕二編 阿部裕二 阿部重樹 熊沢 透 熊沢由美 鈴木寿則	105~127頁	
	公的扶助と社会福祉制度 (第7章)	共著	2006年12月	臨床に必要な社会保障 (社会保障論 福祉臨床シリーズ8)	阿部裕二編 阿部裕二 阿部重樹 熊沢 透 熊沢由美 鈴木寿則	151~170頁	
D	少子・高齢社会 (人口減少・超高齢社会) と社会福祉	単著	2005年3月	福祉社会論—援助・支援することとの多様な容貌とその意味を考える (第25回東北学院大学オープン・カレッジ講義報告集)		10頁	

少子・高齢社会とどう向き合うのかー赤川学『子どもが減って何が悪か』(ちくま新書)を読む	単著	2006年3月	福祉社会論ー地域社会で誰もがひとにやさしく, 健やかに生きるー	17~21頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)				
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動				
1981年8月～	日本社会福祉学会会員			
1987年4月～	生活経済学会会員			
1995年4月～	日本地域福祉学会会員			
2001年10月～	社会政策学会会員			
2006年2月～	仙台市市民公益活動促進委員会委員			
2006年4月～	宮城県社会福祉審議会委員			
2007年4月～	仙台市社会福祉審議会委員			

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	遠藤 和朗	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
4 (1) 仙南地区高大連携授業を担当。				2006年8月2日	宮城県白石高等学校において地域開催公開講座を担当した。テーマは、「現代経済学の源流—スコットランド人による二つの経済学の誕生—」である。		
(2) 高等学校での特別講座「学問の世界」の講師を担当				2009年5月23日	宮城県宮城野高等学校において各学問分野による特別講座「経済学の世界」の講師を担当した。テーマは、「経済学の誕生」である。		
(3) 平成21年度教員免許状更新講習の講師を担当				2009年8月20日	講習科目「経済と政治の基本問題を考える」のなかの「経済学の形成と発展」および「経済学の歴史と現代」について講義を担当した。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 「マルサス価値論の構造」			単著	2007年3月	東北学院大学経済学論集164号		125～141頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
東北学院個別研究助成金				2006年度	個別		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2003年4月～2009年3月				ヒューム学会(The Hume Society) 会員 日本18世紀学会会員 東北経済学会評議員 経済学史学会会員			
2006年4月～				マルサス学会監事			

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	小笠原 裕	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業理解の促進 「学生による授業評価」を実施している。	1996年4月～2006年1月 2007年4月～2008年12月		授業の内容に関する新聞記事をプリントして学生に配布している。			
		2006年1月 2007年1月 2008年1月 2009年1月		学部で実施する「学生による授業評価」を毎年実施している。			
4	高校への出前授業の講師を務めた	2005年6月22日		福島県立福島西高校の2・3年生に対して「経済学入門」と題する授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年10月1日		秋田県立西目高校の1年生に対して「貿易理論からみる秋田県の産業構造」と題する授業を行った。			
	せんだい・みやぎオータムセミナー2008の講師を務めた	2008年10月13日		せんだい・みやぎオータムセミナー2008において「自由化論争」と題する特別講義を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年10月15日		東北学院榴ヶ岡高校の1年生に対して「金融危機」と題する授業を行った。			
	せんだい・みやぎオータムセミナー2009の講師を務めた	2009年10月12日		せんだい・みやぎオータムセミナー2009において「不況克服への道」と題する特別講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要			
IV 学会等及び社会における主な活動							
2006年5月～			宮城地方最低賃金審議会委員				

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	越智 洋三	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
2	財政学 転換期の日本財政		2007年5月31日	<p>片桐正俊編『財政学 転換期の日本財政』東洋経済新報社 第7章 高齢社会と社会保障財政 185～205頁</p> <p>片桐正俊, 岡本英男, 池上岳彦, 持田信樹, 町田俊彦, 伊東弘文, 佐々木伯朗, 長沼進一, 江廣頭, 中村良広, 兪和, 井手英策</p> <p>超高齢化社会とも言われる日本では, 特に高齢者向けの社会保障を制度の持続可能性を確保しつつ, どのように運営するかが財政問題として大きな課題になっている。高齢者向けの社会保障は特に現役世代の負担問題と密接に関係しており, この点を視野に入れて制度設計しなければならない。この点を年金・医療・介護の社会保険財政を中心に明らかにするとともに, 戦後の日本の社会保障の歴史を概説した。</p>			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	占領と戦後復興期の財政 高度経済成長期とオイルショック期の財政 行政改革からバブル経済期の財政	共著	2006年9月	仙台市史編さん委員会『仙台市史 資料編 8 近代現代 4 政治・行政・財政』仙台市	相原陽三 榎森 進 加藤 宏 斎藤鋭雄 中川正人 守屋嘉美 後藤致人 増田周二 岩本由輝 難波信雄 斎藤 誠 安達宏昭 長谷部弘 仁昌寺正一 駒場 彰 越智洋三	425～532頁	
	恐慌と財政	共著	2009年7月	仙台市史編さん委員会『仙台市史 通史編 7 近代 2』仙台市	相原陽三 菅野正道 加藤 宏 斎藤鋭雄 中川正人 守屋嘉美 菊池慶子 増田周二 岩本由輝 難波信雄 斎藤 誠 安達宏昭 長谷部弘 仁昌寺正一 駒場 彰 佐藤雅也 佐藤和賀子 越智洋三	299～312頁	

戦時体制下の財政	共著	2009年7月	仙台市史編さん委員会『仙台市史 通史編 7 近代2』仙台市	相原陽三 菅野正道 加藤 宏 斎藤鋭雄 中川正人 守屋嘉美 菊池慶子 増田周二 岩本由輝 難波信雄 斎藤 誠 安達宏昭 長谷部弘 仁昌寺正一 駒場 彰 佐藤雅也 佐藤和賀子 越智洋三	495～505頁
Ba ニューレイバーの雇用政策	単著	2006年3月	武蔵大学総合研究所 紀要 No. 15		53～67頁
D イギリスの NHS ファンデーション・トラストをめぐる議論	単著	2007年6月	科学研究費研究成果 報告書『グローバル ゼーションの進展と 福祉国家財政の国際 比較』		149～158頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2000年～	仙台市史編さん調査分析委員
2002年～	日本地方財政学会理事
2002年4月～2008年3月	日本財政学会理事
2008年4月～	日本財政学会常任理事

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	齋藤 義博	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	授業理解の促進 講義 演習 I 演習 II 演習	2006年11月 2007年4月～2008年10月 2008年4月～2009年3月 2009年4月～10月		授業初回到年間講義のシラバスを説明する。さらに時々印刷物を自分で作成して学生に配布している。学生個人に報告をしてもらい、レポートを提出してもらい。なお演習4年については各人卒論の中間報告をもらい、コメントをつけ、最終的には年度末に完成品として提出してもらい。演習1については、前期は、大学の生活や授業に慣れてもらうために、大学の説明、授業の受け方、レポートの書き方、本の読み方など基礎的なオリエンテーションに費やした。後期はそれぞれのテーマを決めて報告質疑をしている。			
2	東北経済論 I	2005年4月～2006年3月 2007年4月～2008年3月 2008年4月～2009年3月		4人の担当者分担で、簡単に講義内容を紹介し、これによりながら授業を進めている。			
3	2008年度FD研修会において、第13回FDフォーラム(大学コンソーシアム京都主催)の参加報告	2008年7月3日 東北学院大学8号館押川ホールで開催		第13回FDフォーラムでの参加報告をした後、会場の質問に答えた。			
4	第13回FDフォーラム(大学コンソーシアム京都主催)に参加	2008年3月8日～9日 立命館大学衣笠校舎で開催		第一日目の全体会でのシンポジウム参加。第二日目の分科会では、第二ミニ・シンポジウムに参加。和歌山大、仏教大、立命館大のパネラー報告を聴講した。			
	総合演習 I	2009年度共生社会経済学科開設に伴い新設。		学科教員全員で協議のうえ図書館利用説明会、講演会、就職説明会を合同で開催、さらに授業進行については、協議の上就職部発行のキャリアサポート冊子を利用。			
	平成21年度高大連携事業の協力	2009年4月～2010年3月		現在夜間主コースに開講中の社会政策論に高校生2名が受講中。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	新版現代日本の家族と労働	共著	2006年6月	新青出版	齋藤 石神 小林	1～67頁, 143～197頁, 252～277頁	
D	私の研究関心—東北地方社会事業史研究		2006年9月	日本計画行政学会支部だより		1～4頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		

IV 学会等及び社会における主な活動	
1998年3月～2006年3月	宮城県勤労者福祉推進会議会長
2006年9月～2008年9月	東北経済学会評議委員
2008年10月～	社会政策学会秋季企画委員会委員
2008年10月13日	せんだい・みやぎオータムセミナー2008 東北学院大学 631 番教室において「若者の雇用」と題して報告をした。
2009年7月1日	平成 21 年度「地域市民のための大学公開講座」東北学院大学工学部多賀城キャンパスにおいて「共生社会構築のための経済学」を講演した。
2009年10月12日	せんだい・みやぎオータムセミナー2009 東北学院大学土樋キャンパスにおいて昨年同様「若者の雇用」と題して報告をした。

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	野崎 明	大学院の授業担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要				
1	学習した事項の記憶への定着と講義全体の理解の促進	1年間（毎年）		毎回の授業の冒頭で前回の復習を行っている。各テーマ間の関連性についても説明する。				
	演習では海外のスタディツアーを行っている。	毎年1回		タイ、中国、台湾などのアジア地域への研修旅行を通してアジアの理解と交流を促進する。				
	演習のための自主ゼミ（サブゼミ）では、大学院生のティーチング・アシスタント（TA）によって研究発表の準備をさせている。	通年（2006年度～2009年度）		TAと連携を取りながらサブゼミを実施させている。TAに対する助言・指導。演習の授業内容を深めると同時にプレゼンテーションを訓練する。				
	演習（ゼミ）では毎年1回海外スタディツアーを実施	2007年8月23～30日		中国・長春市と瀋陽市を訪問。長春市の工業団地、農村を訪問・見学。吉林大学の学生との交流				
		2008年8月21～31日		台湾を訪問。新竹サイエンスパークと日系企業のホヤガラス訪問・見学。敬老院（老人ホーム）の訪問。現地の大学生との交流				
		2009年8月23～30日		台湾を訪問。日系企業の台湾ヤクルト工場訪問・見学。敬老院（老人ホーム）の再訪、醒吾技術学院で台湾に関する勉強会と学生との交流会				
	2	「アジア経済論」の講義では毎回資料を作成・配布	毎年		教科書・参考書の他に、毎年改訂した資料を配布			
		3	演習（ゼミ）の海外（タイ）研修旅行の成果をゼミ有志とタイの留学生に中学校で発表・交流（出前授業）させるためにコーディネートする。	2006年8月～10月（準備期間） 2006年10月10日（発表）		ゼミ生に海外旅行の成果をまとめさせ、学外でもそれを発表させることによって、ゼミ生のさらなる意識の高揚と同時に中学生のアジア理解とアジアの人々との交流を促進することを目的とした。		
	ゼミ合宿を行い、卒論の中間報告や学生自身の企画で催し物を行う。		年2回					
	演習の受講生がスタディツアーの成果の発表に対する助言・指導		2007年11月2～4日		大学祭でスタディツアーの報告・パネル展示			
2008年6月28日				大学のオープンキャンパスで模擬ゼミを開催				
2008年10月17～19日				大学祭でスタディツアーの報告・パネル展示				
2009年6月27日				大学のオープンキャンパスで模擬ゼミを開催				
2009年10月16～18日				大学祭でスタディツアーの報告・パネル展示				
4	平成17年度「東北地域・タイ産業交流促進ミッション」の参加者への講義		2005年11月22日		タイ経済の概要を講義する。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2006年7月3日		宮城県岩ヶ崎高校の3年生に対して「アジア経済論入門」の授業を行った。				

みやぎ県民大学開放講座の講義 (2006年10月21日～11月11日)	2006年11月11日	平成18年度みやぎ県民大学開放講座の講師			
本学社会福祉研究所主催オープンカレッジ での講義	2009年6月20日	講義演題「市民による海外協力について考える ー日本のNGOの事例からー」			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb タイにおける児童労働問題に関する理 論的・実証的研究ー製造業部門の児童 労働を中心にー	共著	2007年3月	東北学院大学 経済 学論集	野崎 明 阿部道子	175～226頁
スリランカにおける民族問題に関する 社会経済学的研究ーインド・タミル人 問題を中心にー	単著	2008年3月	東北学院大学 経済 学論集		101～134頁
D 東北地域・タイ産業交遊促進ミッシ ョン報告書	編著 (共同)	2006年3月	東北地域産業開発促 進協議会	野崎 明 東北地域産 業開発促進 協議会編	編(100頁) 著(49～66 頁)
F [座談会]「タイは今?ー『タイ国』の 著者を囲んでー」	共著	2007年5月	『刀水』刀水書房	パースック・ポーパット クリス・ベーカー 岩本由輝 野崎 明 S.J.バイスウェイ	1～31頁
G A Comparative study on the Buddhist Way of Development in Thailand and Sri Lanka	単独	2006年2月	Santhi Pracha Dhamma International Conference 2006, Chiang Mai, Thailand		
アジアにおける社会・経済変動とソー シャル・セーフティネットに関する研 究ータイの事例研究ー	単独	2006年8月	中日学術セミナー ーアジアにおける社 会福祉政策の展開ー	(主催)中国 国務院経済 発展セン ター及び 中国社会科 学院政治 研究所	
今日の経済危機と東アジア	単独	2009年8月	台湾日本研究会・台 北県部会	台湾・醒吾 技術学院	
日本の海外協力を考えるー日本のNGO のいくつかの事例をとおしてー	単独	2009年9月	日本公益学会	東北公益大 学	
H パースック・ベーカー著「タイ国ー近 現代の経済と政治」	共同 監訳 共同 翻訳	2006年11月	刀水書房		監訳 (691頁) 共訳 (161～202 頁, 594～ 614頁) 単訳 (3～5頁, 594～614頁)

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
東北学院教育基金共同研究費	2006年度	共同・研究代表者	アジアにおける社会・経済変動とソーシャル・セーフティネットに関する理論的・実証的研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2006年5月24日～26日	「韓国学術セミナー」共催（於 全南大学校全南経営大学）の日本側代表を務める。		
2006年8月23日～28日	「中日学術セミナー」中国国務院経済発展センター及び中国社会科学院経済政治研究所の日本側代表を務める。		

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	原 征明	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 総合演習 I (1年生対象) 経済史				<p>本来の教科書に加え、「キャリア・サポートブック」を全員で学習、またほとんど毎回新聞などの記事を印刷して配布し解説を行っている。そのため授業では毎回感想文を書かせ、翌週までに添削して返却している。</p> <p>大学要覧に加え、年度初めの授業においては隔週の授業テーマおよび注意事項を書いたシラバスを配布している。内容的には、“読みきり小説”のように、毎回完結型の講義を行っている。なお、大講義室ではあるが私語の件についても、その都度注意をしている。</p>			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb ヴァンキングとアングロ・サクソンイングランド再考ーデーニロウ(Danelaw)地帯をめぐって(1)ー		単著	2005年3月	東北学院大学論集ー経済学ー(第158号)		391~408頁	
船葬墳墓地サトン・フー(Sutton Hoo)をめぐる小論		単著	2006年3月	「ヨーロッパ文化史研究」(第7号)		147~159頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2003年8月~		仙台地方裁判所委員会・委員：平成15年8月から現在まで司法制度改革の刑事裁判(=裁判員制度の導入)および民事裁判の迅速化についての議論において発言。(任期は裁判員制度開始の2009年5月末まで)					
2006年6月10日		「ヴァイキング史から初期中世ヨーロッパを考える」東北学院大学ヨーロッパ文化研究所(学内フォーラム)					
2006年10月17日		「初期中世北欧におけるキリスト教受容の意味について」東北学院大学キリスト教文化研究所(第25回キリスト教文化講座)					
2007年4月~2009年3月		私立大学連盟・学生委員会(学生支援)					
2008年8月21日		日本学生支援機構主催の研修会で、就職部長として「キャリア支援」について講演。					

所属	共生社会経済学科	職名	教授	氏名	増田 周二	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
2	東北経済論 I の授業のための資料	2007 年～2008 年	東北人口の推移, 東北地域の産業集積, 交通インフラマップ, 全国との所得格差などを配布				
	社会病理学の授業のための資料	2007 年～2009 年	犯罪・自殺統計, 子ども虐待の写真, 犯罪の因果関係の線形モデルなどを配布				
	東北経済論 I の授業のための資料	2009 年	東北の地域格差の資料を配布				
4	高校での出前授業	2007 年	多賀城高校で模擬授業を行う				
	社会福祉研究所のオープンカレッジの講師	2008 年	ワーキングプアと社会的排除のタイトルで講義				
		2009 年	男と女の共生社会の実現をめざしてというタイトルで講義				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	「構成犯罪学の研究」－モダニストの理論からみた犯罪の因果関係－	単著	2007 年 12 月	東北学院大学経済学論集 166 号		49～81 頁	
	「構成犯罪学の研究」－犯罪発生の因果関係についてのポスト・モダニストのアプローチ	単著	2009 年 3 月	東北学院大学経済学論集 170 号		41～75 頁	
D	社会救済事業	単著	2006 年 9 月	仙台市史編さん委員会・仙台市史 資料編 8		115 頁, 152～160 頁	
	戦後の政治と市政	共著	2006 年 9 月	仙台市史編さん委員会・仙台市史 資料編 8	難波信雄 斉藤 誠 増田周二	207 頁～208 頁, 214～215 頁, 218～219 頁, 236～239 頁	
	社会事業	単著	2009 年 7 月	仙台市史編さん委員会・仙台市史 近代 2		166 ～ 170 頁, 172～178 頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1996 年 4 月～			仙台市史編さん調査分析委員				

所属	共生社会経済学科	職名	准教授	氏名	郭 基煥	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 学習内容への関心をもたせるための工夫		2009年4月～10月		授業内容（共生社会概論）に関心を持たせるために、歌謡曲などの歌詞を紹介し、それをその都度の授業のテーマと関連付けて、解釈をほどこす、ということが必要に応じて行っている。また内容がなるべく直感的に理解できるように写真や絵画などを適宜、見せている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 現象学的他者論と差別及び抵抗の生成 —— 在日朝鮮人における経験を中心に		単著	2005年3月	博士号取得論文 名古屋大学国際開発 研究科		141頁	
差別と抵抗の現象学 —— 在日朝鮮人の (経験)を基点に		単著	2006年6月	新泉社		280頁	
シリーズ物語り論 I 他者との出会い		共著	2007年1月	東京大学出版会	編者： 宮本久雄 金 泰昌 共著者： 宮本久雄 野家啓一 森岡正芳 村上陽一郎 名取四郎 藤井貞和 高良 勉 岩田靖夫 丘山万里子	329～350頁	
グローバル化時代の新しい社会学入門		共著	2007年3月	東京社会学インス ティテュート	編者： 西原和久 保坂 稔 著者： 西原和久 保坂 稔 秋吉美都 筒井淳哉 千川剛史 井腰圭介 矢田部圭介 芦川 晋 他 25名	98～101頁 164～7頁 168～9頁	

<p>3. 『東アジア歴史対話 ― 国境と世代を超えて』</p>	<p>共著</p>	<p>2007年4月</p>	<p>東京大学出版会</p>	<p>編者： 三谷 博 金 泰昌 著者： 三谷 博 渡邊昭夫 石塚昌家 趙 軍 劉 傑 有馬 学 林 志弦 李 成市 鹿錫 俊 長尾龍一</p>	<p>337～358頁</p>
<p>植民者へ ― ポストコロニアリズムという挑発</p>	<p>共著</p>	<p>2007年9月</p>	<p>松籟社</p>	<p>編者： 野村浩也 著者： 野村浩也 池田緑 ダグラス・ラミス 桃原一彦 島袋まりあ 金城正樹 富山一郎 知念ウシ</p>	<p>150～214頁</p>
<p>Ba 回帰する過去と回帰しない過去 ― 在日が在日に向かって語るとき</p>	<p>単著</p>	<p>2006年6月</p>	<p>コロキウム創刊号</p>		<p>80～89頁</p>
<p>在日の物語と異邦人同士の交流 ― 『断食芸人』から</p>	<p>単著</p>	<p>2007年3月</p>	<p>現代社会学理論研究1号</p>		<p>130～145頁</p>
<p>E 日本と他者と公共性 ― 他者の痛みと向き合う実践</p>	<p>単独</p>	<p>2005年10月</p>	<p>『公共的知識人』（京都フォーラム発刊）</p>		<p>5590字</p>
<p>F 歴史の天使が「非命の死者」の息づかいを聞きとるとき（『「いのち」と帝国日本』書評）</p>	<p>単独</p>	<p>2009年8月</p>	<p>『公共的知識人』（京都フォーラム発刊）</p>		<p>4336字</p>
<p>G 痛みと他者と公共性</p>	<p>単独</p>	<p>2005年11月</p>	<p>第64回公共哲学京都フォーラム（名古屋大学）</p>		
<p>痛みの周縁化とグローバリゼーション</p>	<p>単独</p>	<p>2005年12月</p>	<p>現象学・社会科学会第22回大会（名古屋大学）</p>		
<p>シュッツにおける差別問題</p>	<p>単独</p>	<p>2007年7月</p>	<p>第47回日本社会学史学会（盛岡大学）</p>		
<p>反差別の根拠</p>	<p>単独</p>	<p>2007年7月</p>	<p>社会科学基礎論研究会 2007年第二回シンポジウム（大正大学）</p>		

アイデンティティ概念の再検討 ― 在日本朝鮮留学生同盟の活動が物語るもの ―	単独	2009年9月	日本社会学理論学会 第4回大会(千葉大学)		
アイデンティティの「開示」と国境を超える主体としての「志民」	単独	2009年11月	第92回公共哲学 フォーラム(神戸ポ トピアホテル)		
H 社会学キーコンセプト―「批判的社 会理論」の基礎概念57	共訳	2008年9月	新泉社	西原和久 杉本 学 阿部純一郎	516頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2002年4月～現在	現象学社会科学会 会員
2005年4月～現在	日本社会学会 会員
2005年4月～現在	現代社会学理論学会 会員
2009年4月～現在	日本解放社会学会 理事

所属	共生社会経済学科	職名	准教授	氏名	熊沢 由美	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	岩手大学（社会保障論ゼミ）、福島大学（社会政策論ゼミ）、山形大学（社会政策論ゼミ）、埼玉大学（社会政策論ゼミ）との合同ゼミ合宿	2005年10月22～23日	「結婚しちゃうの?!本気?!」というテーマで報告と議論をおこなった。3年生の演習生に育児休業について報告させた。				
	東北福祉大学（社会保障論ゼミ）と東北学院大学（社会福祉論ゼミ）との合同ゼミ	2006年1月12日	社会保障について報告と議論をおこなった。3年生の演習生に障害者の自立について報告させた。				
	社会保障論（講義）で学生に関心をもたせるための取り組み（出席促進も兼ねる）	2006年4月～	社会保障制度に関連するクイズを出し、次の講義で正解を明らかにし解説する。				
	学習した事項の具体的なイメージ形成と理解の促進	2006年4月～	社会保障論の講義において、私たちの生活に社会保障がどのようにかかわるのか、より具体的なイメージをもってもらうために、事件や判例を用いたクイズを授業終了時に出題した。正解の発表と解説は、翌週の授業の冒頭で行い、前回の授業の復習も兼ねた。				
	岩手大学（社会保障論ゼミ）、福島大学（社会政策論ゼミ）、埼玉大学（社会政策論ゼミ）、日本女子大学（社会政策論ゼミ）との合同ゼミ合宿	2006年11月11～12日	「賃金」というテーマで報告と議論をおこなった。3年生の演習生に成果主義について報告させた。				
	卒業論文発表会の開催	2007年3月1日	3・4年生の演習合同で卒論発表会を開催した。3年生は卒業論文がどのようなものであるのかを知ることができた。4年生は卒業論文の内容の発表はもちろん、書き方について3年生に教えるという体験もした。				
	岩手大学（社会保障論ゼミ）、福島大学（社会政策論ゼミ）、埼玉大学（社会政策論ゼミ）、日本女子大学（社会政策論ゼミ）との合同ゼミ合宿	2007年11月17～18日	「健康・医療」というテーマで報告と議論をおこなった。3年生の演習生に医師不足について報告させた。				
	東北福祉大学（社会保障論ゼミ）と東北学院大学（社会福祉論ゼミ）との合同ゼミ	2007年12月15日	社会保障について報告と議論をおこなった。3年生の演習生に少子化について報告させた。				
	卒業論文発表会の開催	2008年2月15日	3・4年生の演習合同で卒論発表会を開催した。3年生は卒業論文がどのようなものであるのかを知ることができた。4年生は卒業論文の内容の発表はもちろん、書き方について3年生に教えるという体験もした。				
	岩手大学（社会保障論ゼミ）、福島大学（社会政策論ゼミ）、埼玉大学（社会政策論ゼミ）、日本女子大学（社会政策論ゼミ）との合同ゼミ合宿	2008年11月8～9日	「リスク」というテーマで報告と議論をおこなった。3年生の演習生に早死にのリスクについて報告させた。				
	東北福祉大学（社会保障論ゼミ）と東北学院大学（社会福祉論ゼミ）との合同ゼミ	2008年12月13日	社会保障について報告と議論をおこなった。3年生の演習生に公的年金について報告させた。				

卒業論文発表会の開催	2009年2月13日	3・4年生の演習合同で卒論発表会を開催した。3年生は卒業論文がどのようなものであるのかを知ることができた。4年生は卒業論文の内容の発表はもちろん、書き方について3年生に教えるという体験もした。
岩手大学(社会保障論ゼミ)、福島大学(社会政策論ゼミ)、埼玉大学(社会政策論ゼミ)、日本女子大学(社会政策論ゼミ)との合同ゼミ合宿	2009年11月14～15日	「仕事」というテーマで報告と議論をおこなった。3年生の演習生に女性労働について報告させた。
東北福祉大学(社会保障論ゼミ)と東北学院大学(社会福祉論ゼミ)との合同ゼミ	2009年12月12日	社会保障について報告と議論をおこなった。3年生の演習生に医師の労働環境について報告させた。
2		
社会保障論講義資料	2005年3月	講義内容をよりよく理解してもらうために、レジュメや資料を製本したもの。
社会保障論講義資料	2006年3月	講義内容をよりよく理解してもらうために、レジュメや資料を製本したもの。
社会保障論講義資料集 2007年度	2007年3月	社会保障論の講義で使用するレジュメや資料を簡易製本したもの。
社会保障論講義資料集 2008年度	2008年3月	社会保障論の講義で使用するレジュメや資料を簡易製本したもの。
社会保障論講義資料集 2009年度	2009年3月	社会保障論の講義で使用するレジュメや資料を簡易製本したもの。
4		
岩沼市部課長会研修会の講師を務めた。	2005年11月24日	「人口減少社会と社会保障制度」と題する講演をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた。	2006年1月19日	多賀城高校で、「日本の社会保障制度」と題する授業をおこなった。
塩竈市生涯学習センター第8回エスプカレッジの講師を務めた。	2006年3月11日	第5講「年金制度をめぐる諸問題と年金改革」と題する講演をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた。	2006年3月16日	宮城学院高校で、社会保障制度にかんする授業をおこなった。
塩竈市主催の学習会で講師を務めた	2007年2月15日	塩竈市高齢者大学千賀の浦大学2月学習会で、「高齢者と社会保障」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2007年7月30日	泉松陵高校の夏季合宿で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
岩沼市主催の地方自治法施行60周年記念行事でパネラーを務めた	2007年11月3日	岩沼市民会館で開催された「共に歩む地域づくり意見交換会」の「第2部パネルディスカッション～岩沼の“これから”を考える～」のパネラーを務めた。
台湾の大学の授業で講師を務めた	2008年3月27日	台湾の台南市にある南台科技大学で、本学を事例に「日本の大学」と題する授業を3回おこなった。

高校への出前授業の講師を務めた	2008年6月20日	福島西高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2008年6月27日	一関学院高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
仙台市主催のシニアスクールで講師を務めた	2008年7月23日	柳生シニアスクール7月講座で、「高齢者福祉とお金のお話～年金・後期高齢者医療制度～」と題する講演をおこなった。
多賀城市主催の市民会議で講演をおこなった	2008年9月24日	多賀城市男女共同参画市民会議連続講座において、「男女共同参画をとりまくもの～社会保障を中心に」と題する講演をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年2月5日	石巻西高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年2月17日	東北学院高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
シンポジウムのパネリストを務めた	2009年6月13日	共生社会経済学科新設記念シンポジウム「いま、なぜ共生社会か」でパネリストとして発言した。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年7月9日	白河実業高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年7月14日	東大和南高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年7月22日	鶴岡中央高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年10月9日	釜石高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年11月24日	第三女子高校で、「少子高齢化と私たち」と題する授業をおこなった。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 身体障害者福祉法の制定過程－身体障害者福祉法の制定をめぐって(2)－	単著	2005年3月	東北学院大学学術研究会『東北学院大学論集経済学』第158号		243～268頁
公的年金給付と貯蓄	単著	2006年6月	日本郵政公社東北支社貯金部『郵便貯金に関する研究論文集』		95～108頁
C 小児科医・産婦人科医・産科医をとりまく諸問題	単著	2008年3月	東北学院大学学術研究会(東北学院大学論集経済学第167号)		185～206頁
外国からの介護労働者の受け入れ	単著	2009年3月	東北学院大学社会福祉研究所叢書VII	東北学院大学社会福祉研究所編	59～109頁

D	年金制度をめぐる諸問題と年金制度改革	単著	2005年3月	東北学院大学社会福祉研究所『第25回オープン・カレッジ講義報告集』		3～5頁
	日本人の結婚	単著	2006年3月	東北学院大学社会福祉研究所『第26回オープン・カレッジ講義報告集』		24～25頁
	臨床に必要な社会保障	共著	2006年10月	弘文堂	阿部裕二編	9～28頁, 45～76頁
	働くひとの福祉一過労死と過労自殺をめぐって	単著	2007年3月	東北学院大学社会福祉研究所(第27回オープン・カレッジ講義報告集)		7～8頁
	社会福祉事業法の制定と社会福祉法人制度の創設	単著	2007年3月	大阪府社会福祉協議会社会福祉法人の在り方研究会(社会福祉法人の在り方研究会報告書)		5～15頁
	小児科医・産科医を取り巻く諸問題	単著	2008年3月	東北学院大学社会福祉研究所(第28回オープン・カレッジ講義報告集)		3～4頁
	社会保障	共著	2008年12月	弘文堂	阿部裕二編	9～28頁, 45～76頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1997年11月～	社会政策学会会員
2005年3月～	日本社会福祉学会会員
2005年6月～2006年11月	岩沼市行財政改革審議会委員
2005年10月～2007年10月	岩沼市行政評価委員会副委員長
2006年7月～2007年3月	大阪府社会福祉協議会社会福祉法人の在り方研究会委員
2007年1月～2009年12月	岩沼市高齢者保健福祉計画検討委員会副委員長
2007年3月～2008年9月	宮城地方社会保険医療協議会委員
2007年6月～	生活経済学会会員
2008年6月～	岩沼市行政評価委員会副委員長
2008年7月～	多賀城市男女共同参画市民会議アドバイザー
2009年9月～	仙台市男女共同参画推進審議会委員

所属	共生社会経済学科	職名	准教授	氏名	佐藤 康仁	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	マルチメディア機器 (Power Point, DVD 等) の活用	2004年4月～	Power Point やビデオ資料 (DVD) を利用した講義を行うことにより, 学生が講義内容に関して具体的なイメージをもつことができるよう工夫している				
	Web 上での授業内容の公開	2005年4月～	講義科目「日本経済論」の授業内容を Web 上に公開している				
2	「日本経済論」講義資料 Web ページ作成	2008年4月～	経済学部経済学科専門教育科目「日本経済論」講義資料 (PPT) を掲載				
4	インゼミ支援	2004年～	3 学年次の演習 (ゼミ) において論文の作成とその発表・討論を経験させる目的からインゼミ (日本学生経済ゼミナール大会) への学生の参加を支援している				
	第 28 回オープンカレッジ (主催: 東北学院大学社会福祉研究所) 講師	2007年11月10日	講義タイトル「人口高齢化と世代間格差」				
	第 29 回オープンカレッジ (主催: 東北学院大学社会福祉研究所) 講師	2008年7月19日	講義タイトル「国民『負担』について考える」				
	卒業論文発表合宿の実施	2009年1月	演習 (第 6 期生) の卒業論文発表合宿を実施した				
	「初夏さわやかオープンキャンパス 2009」で模擬授業	2009年6月27日	模擬授業タイトル「人口減少・少子超高齢社会となる日本-2050年, その姿と課題-」				
	出張講義「大学アワーⅡ～教えてください, 大学の先生～」(東北学院榴ヶ岡高等学校) 講師	2009年10月21日	授業タイトル「少子高齢社会って, どんな社会?」				
	出張講義「一日大学」(仙台青陵中等教育学校) 講師	2009年11月5日	授業タイトル「少子高齢化の経済学: 少子高齢化と経済の関係について考える」				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	世代会計による日本の世代間不均衡	単著	2008年5月	『経済政策ジャーナル』第5巻第2号		43～46 頁	
Bb	国民負担率に関する一考察—とくに政策目標としての国民負担率について—	単著	2005年9月	『東北学院大学経済学論集』第159号		15～26 頁	
	国民負担と世代会計論	単著	2005年12月	『東北学院大学経済学論集』第160号		107～120 頁	
	日本の世代会計: 2004 年基準世代会計の基本推計結果	単著	2007年3月	『東北学院大学経済学論集』第164号		273～283 頁	

C	世代間格差と均衡回復	単著	2008年3月	『公明』第27号	20～26頁
	人口高齢化と世代間格差	単著	2009年3月	『福祉社会論―「福祉」の多様なかたち』（東北学院大学社会福祉研究所研究叢書VII）	35～58頁
D	世代会計による世代別受益・負担額の計測	単著	2006年3月	厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）平成17年度総括・分担研究報告書『多様な主体による世代間相互支援プログラムの構築と効果の検証』	17～28頁
	人口高齢化と世代間格差	単著	2008年3月	『第28回オープンカレッジ講義報告集2007 知的冒険への旅立ち「福祉社会論―続・福祉のいまとこれからを学ぶ―』	12～13頁
G	世代会計による日本の世代間不均衡	単著	2007年5月	日本経済政策学会第64回全国大会	
	世代間均衡の回復と政策選択	単著	2008年10月	生活経済学会東北部会第14回研究大会	
	世代間均衡の回復と世代間利害対立：世代会計による分析	単著	2009年6月	生活経済学会第25回研究大会	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
厚生労働科学研究費補助金	2005年度	共同・分担研究者	「多様な主体による世代間相互支援プログラムの構築と効果の検証」

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1996年10月～	生活経済学会会員
1997年5月～	日本経済政策学会会員
1997年5月～	東北経済学会会員
1998年7月～2009年4月	公益事業学会会員
2000年7月～	公共選択学会会員
2003年1月～2008年2月	日本地域学会会員
2003年1月～2008年2月	Regional Science Association International (RSAI) 会員
2003年6月～	日本計画行政学会会員
2003年10月～	日本経済学会会員

2009年5月

日本経済政策学会第66回全国大会, 大会準備運営委員会・委員

2009年10月～

日本財政学会会員

経営学部

経営学科

所属	経営学科	職名	教授	氏名	上田 良光	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	ゼミにおける発表の際のプレゼンスの仕方の徹底 講義においては毎回、新聞、経済誌などから図・表をコピーし配布				外国人と比較すると、日本人のプレゼンス能力は残念ながら低いので、ゼミでは書いて来たレポートを見ずに発表出来る能力を極力身につけさせるための訓練を行っている。 授業中に時事問題について質問すると意外に疎いのに驚く。政治・経済に余り関心を持っていない。従って、就職のこともあり、現在起っている経済・金融事象を図・表を用い、分かり易く解説している。		
2	「改訂 現代銀行経営論」 「エッセンシャル銀行論」(改訂版)	2006年9月			銀行の実状、経営等を分かり易く解説したもの。 前回、出版されたものの図・表の訂正等をしたものである。		
4	「話し合いの輪を広げる会」	2006年10月22日 2006年11月19日 2006年12月24日			外国に比較して、日本では話し合いが少ないことから、いろいろな問題が発生していると考え、喜多方市松山町の集会所にて2006年10月より月1回、「話し合いの輪を広げる会」を催し、第1回は中学生による「外国体験記」第2回は歯科医師による「歯のはなし」をして貰い、「地域のきずな」を深められたら…と考えている。(喜多方市教育委員会後援)		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	エッセンシャル「銀行論」	共著	2006年12月	中央経済社	佐野勝次 上田良光 市川千秋 編者	55～74頁 93～120頁	
Bb	「農山村における郵便貯金に関するアンケート調査・研究」(研究ノート)	単著	2005年3月	東北学院大学論集 経済学論集第158号		269～369頁	
	「留学生の実態調査・研究—中国人留学生を中心として—」(研究ノート)	単著	2006年3月	東北学院大学論集 経済学論集第161号		89～104頁	
	「徳陽シティ銀行の破綻とその後」	単著	2006年8月	消費者金融サービス 研究会年報 No. 6		53～65頁	
	「民営化後のかんぽ生命の課題と地域住民の要望を探る調査研究」	単著	2009年7月	(財)かんぽ財団			
D	「中国はいま—都市と農村の格差拡大」		2005年11月	「福島民報」			
	中国消費者金融の現状		2006年5月	ACFS-NEWS			

四川大地震と世界金融危機		2009年2月	「福島民報」		
E					
「少子化問題を考える」		2006年2月	「神社新報」		
「日本に対する海外の評価」		2006年4月	「神社新報」		
「驕る平家は久しからず」(タイ・クーデターから)		2006年10月	「神社新報」		
「左傾反米化する南米と中国」	単著	2007年3月	「神社新報」		
「南米における日本語の状況」	単著	2007年5月	「福島民報」		
「ヒデヨ・ノグチ学園へ日本語教師派遣」	単著	2007年6月	「東北学院時報」		
「フジモリ元大統領の裁きを待つペルー」	単著	2007年10月	「河北新報」		
「オリンピック前夜の中国事情」	単著	2008年8月	「福島民友」		
「移住110周年を迎えたペルー」		2009年5月	「神社新報 “杜に思う”」		
「ペルーの学校制度と日本的教育」		2009年6月	「神社新報 “杜に思う”」		
「日本人ペルー移住110周年記念事業ー常陸宮・同妃殿下をお迎えして盛大にー」		2009年7月	「神社新報」		
「移住110周年を迎えたペルー」		2009年7月	「ペルー新報」		
「常夏の町ワヌコで受けた感動」		2009年7月	「神社新報 “杜に思う”」		
「南米パラグアイに神社をー「伊具阿須神社」の地鎮祭ー」		2009年8月	「神社新報」		
「移住者たちのアンデス越えを偲ぶ」		2009年9月	「神社新報 “杜に思う”」		
「ワヌコ学生経済ゼミナール地方大会に出席して」		2009年9月	「東北学院時報」		
G					
「徳陽シティ銀行の破綻とその後」	単著	2005年10月	消費者金融サービス研究学会		
“La Relacion de Economia entre Mercosur y China” Asociacion de Economia de Peru	単著	2008年4月	en Univ. San Marcos		
2009年4月～8月のペルー，サンマルコス大学客員教授として赴任中，講義以外，講演を列挙。					
“La Rrelacion de Japon y China Economica		2009年4月	en Univ. San Marcos		

「日本の現状と将来—政治および経済—」	2009年4月	「日本語を話す会」(日秘文化会館にて)		
「日本と中国の経済関係について」	2009年5月	「日本語を話す会」(日秘文化会館にて)		
“La Crisis Economica en Todo Mundo — Especialmente EEUU y China—”	2009年5月	en Univ. Ricardo Parma		
“La Crisis Economica en Japon”	2009年5月	en Univ. San Marcos		
“La Crisis Economica en Todo Mundo — Especialmente EEUU China y Japon—” en La sociedad de Investigadores Estudiantes	2009年6月	en Univ. San Uanuco		
“La Relacion de Japon y America Latino	2009年7月	en Univ. La Morina		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
ACFS「国際交流助成」	2005年度	個別	「中国経済学会」に出席し、中国の消費者金融の実情を調査・研究するためのもの。
「(財)かんぼ財団」研究助成	2008年度	個別	民営化後のかんぼ生命の課題と地域住民の要望を探る調査研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	金融学会 国際経済学会 ラテン・アメリカ学会 総合観光学会 移民学会 東北経済学会 Latin America Society Association 生活経済学会 理事
2007年1月21日	第4回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市 (於: 村松自治会会館にて) 「アメリカ人から見た日本」 喜多方第二中学校 英会話講師 ナイト氏
2007年2月22日	第5回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市 (於: 村松自治会会館にて) 「日本酒の種類・造り方」 喜多方商工会議所 会頭・ほまれ酒造 社長 唐橋幸一郎氏
2007年4月28日	第6回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市 (於: 村松自治会会館にて) 「ヒデヨ・ノグチ学園を語る」 上田良光

2007年5月26日	第7回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「草木の育て方，盆栽について」 福島造園 社長 福島修一氏
2007年6月23日	第8回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「マレーシアの教育制度と子供達」 喜多方第二中学校長 埜渡 洋氏
2007年7月27日	第9回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「パラグアイに住んで」 ニッケイジャーナル新聞社 社長 高倉道男氏
2007年8月20日	第10回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「日米考え方の違い」 喜多方第二中学校 3年 長島慶太君
2007年9月24日	第11回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「喜多方で教えて，そして住んで」 塩川町中学校 英会話講師 カドイチ・カイ氏
2007年10月25日	第12回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「病理から見た世相」 入沢病院 院長 入沢優公氏
2007年11月24日	第13回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「防災・防火・救急について」 喜多方市消防所 田中治弘氏
2007年12月20日	第14回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「躍進する中国の実像と虚像」 元JETRO 上海駐在員 福島県商工労働部 国分健児氏
2008年1月25日	第15回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「モンゴル相撲と日本」 東北大学 大学院生 バトマンライ氏
2008年2月23日	第16回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「南米・北米日系の人々との出会いを語る」 福島県議会議長 遠藤忠一氏
2008年4月28日	第17回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「フジモリ元ペルー大統領の近況」 上田良光
2008年5月26日	第18回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「農業の将来を考える」 元熱塩加納村農業指導員 小林芳正氏

<p>2008年6月20日</p>	<p>第19回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「郵政民営化後の郵便局」 喜多方市村松郵便局長 斉藤 誠氏</p>
<p>2008年6月21日</p>	<p>「ヒデオ・ノグチ学園歓迎会」（於：福島ビューホテル） 9年振りに来日した「ヒデオ・ノグチ学園」校長，教師，生徒，19名の歓迎会を昨年訪秘した福島県知事，県議会議長，出席のもと，「東北ペルー協会」（会長 上田良光）主催で行った。</p>
<p>2008年7月15日</p>	<p>第20回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「歯の健康を保つ」 宮城歯科医院 院長 宮城国泰氏</p>
<p>2008年8月10日</p>	<p>第21回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「夏バテしない健康法」喜多方市保健所</p>
<p>2008年9月27日</p>	<p>第22回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於 日中線旧熱塩駅舎） シンポジウム「熱塩加納の未来を考える」</p>
<p>2008年10月18日</p>	<p>「生活経済学会」第14回東北部会研究大会を本学，押川記念ホールにて開催（準備委員長）</p>
<p>2008年10月25日</p>	<p>第23回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：村松自治会会館にて） 「お金を無駄に使っていませんか」 ファイナンシャル・プランナー 福地義治氏</p>
<p>2009年4月24日</p>	<p>「ペルー・リマでの国際交流」 日本より来秘した「東北ペルー協会」のメンバー7名とともに</p>
<p>2009年4月26日</p>	<p>ペルー在住の「宮城県人会」「山形県人会」「福島県人会」のメンバー35名と約4時間にわたって，文化的交流も含め，第7回目の交流会を行った。終りに「東北ペルー協会」より「ヒデオ・ノグチ学園」「エンマヌエルホーム」へ700ドルずつの寄付を贈呈した。</p>
<p>2009年4月27日</p>	<p>午前10時より「ヒデオ・ノグチ学園」にて，生徒達はいくつかのグループのバンド演奏，さらには民族舞踊等披露。我々メンバーは，「太極拳」「手品」「ハーモニカ，ギター演奏」等の交流を行う。 午後1時より「エンマヌエルホーム」へ移動。孤児等約80名，さらに「老人ホーム」の40名ほどの人達と同様の交流を行う。</p>
<p>2009年11月27日</p>	<p>第24回「話し合いの輪を広げる会」を主催 喜多方市（於：熱塩加納町民会館にて） 「農業の未来を考える」 元農協組合長 高畑 勝氏</p>

所属	経営学科	職名	教授	氏名	岡田耕一郎	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 オフィスアワーの実施			1 週間のうち 2 日間	学生が講義の内容に関する質問をしたり、勉強方法の指導を受けるための時間を設定し、教育の質の向上に配慮した。			
ゼミレポートの添削			毎回	論文作成スキルを向上させるため、演習のレポートを添削して返却した。			
実践的な教育の提供			2007 年 1 月～2008 年 12 月	ゼミにおいて、学生と介護サービス組織の人事考課を研究したのち、実際に考課シートを開発し、介護現場で使用した。			
2 シルバー新報（環境新聞社）に、介護サービス組織のマネジメントの教材となる「だから職員が辞めていく」を 22 回にわたって連載した			2008 年 3 月～8 月	介護サービス組織に関する体系的な教科書は存在しないため、新聞連載を教材に使用して学生が理解しやすいように配慮した。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb 「スウェーデンの老人ホームにおける介護サービス組織の構造－介護職員の業務内容、配置状況、勤務態勢の視点からの考察－」		単著	2005 年 12 月	『東北学院大学経済学論集』, 第 160 号		1～19 頁	
「スウェーデンの老人ホームにおけるユニットケア－三大介護を中心とした介護サービスの視点からの考察－」		単著	2006 年 3 月	『東北学院大学経済学論集』, 第 161 号		41～65 頁	
「ユニットケア型老人ホームにおける個別ケアサービスシステムの国際比較～わが国とスウェーデンの事例分析～」		単著	2008 年 3 月	『東北学院大学経済学論集』, 第 167 号		135～169 頁	
D 「私たちの知らない老人ホーム (4) 特別養護老人ホームに関するさまざまなご質問にお答えします」		共著	2005 年 2 月	『暮らしの手帖』, 第 14 号	岡田耕一郎 岡田浩子	116～123 頁	
「私たちの知らない老人ホーム (5) 日本とスウェーデンの老人ホームを比較する」		共著	2005 年 4 月	『暮らしの手帖』, 第 15 号	岡田耕一郎 岡田浩子	116～123 頁	
「私たちの知らない老人ホーム (6) 老人ホームの見分け方」		共著	2005 年 6 月	『暮らしの手帖』, 第 16 号	岡田耕一郎 岡田浩子	126～133 頁	
老人ホームをテストする		共著	2007 年 5 月	暮らしの手帖社	岡田耕一郎 岡田浩子	67～286 頁	
だから職員が辞めていく		共著	2008 年 9 月	環境新聞社	岡田耕一郎 岡田浩子	58～113 頁	

「スウェーデン現地ルポ ～学ぶべきは介護のやり方でなく職員が普通に働ける労働環境～」	単著	2009年5月	『週刊ダイヤモンド』, 第97巻19号		48～50頁
--	----	---------	---------------------	--	--------

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金基盤研究（C）	2004～2005年度	個別	介護サービス組織（非営利組織）の構造とサービスシステムの国際比較
科学研究費補助金基盤研究（C）	2006～2007年度	個別	非営利介護サービス組織における組織変革の国際比較－日本とスウェーデンの事例分析－

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	経営学科	職名	教授	氏名	齋藤 晋一	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 商品学(品質論的商品学を情報機器の活用と参加型講義の実践)			2007・2008・2009年度	(1) パワーポイント、インターネット及びビデオの活用。(2) 商品イメージ等の講義の場合は受講生を対象に「アンケート調査」を実施し、その結果を講義の中で活用していく学生参加型の授業。(3) レポート等受講生の提出物はワード、エクセルの電子化にて実施。(4) 連絡や質問はHPの掲示板も活用。			
商品学実習(商品評価の体験的学習)			2007・2008・2009年度	(1) 実際に市販されている商品を用いて、せんとく洗剤の洗浄効率、緑茶の成分分析等物理・化学的視点、コーヒー、ミネラルウォーターの官能テスト等感覚的視点、及び「目かくしテスト」等による心理学的視点から総合的品質評価を実施。(2) 商品の購入基準、商品を使用している満足度、これからの商品に対する欲求等消費者調査も実施。			
2 電子ファイルによるテキスト利用 「商品学実習テキスト」は出版せずに、ワード形式、PDFのファイルが無償配布している。 平成14年度 商品学実習テキスト 平成15年度 商品学実習テキスト 平成16年度 商品学実習テキスト 平成17年度 商品学実習テキスト 平成18年度 商品学実習テキスト(A版41ページ)			2002年～2006年	繊維製品、食料品、家庭用品(洗剤等)等について理化学的、感覚的、心理学的視点から商品の「品質評価」について実践的に授業を行っている。 併せて市場調査では情報処理センターを活用し、学生各自が商品等に関連するアンケート項目を作成、調査実施、回収、データ入力、集計、解析、発表など一連の流れについて授業を行っている。			
商品学(プリント・PDFファイル)			2007・2008・2009年度	パワーポイントの補完資料として配布。(アンケート調査結果、統計資料、図表等)			
商品学実習(テキスト)			2007・2008・2009年度	ワードで作成した「商品学実習テキスト」ファイルを受講者に無償で配布。(平成21年度版は、書式A4版、45頁)			
総合演習・演習(CD)			2007・2008・2009年度	(1) 総合演習では、家計調査データをフリーソフト「Mandara」で図式化を行い、ホームページビルダーを活用しながら、地域間の消費動向を考察している。その1年間の成果をCDに記録して配布。(2) 演習では、2年間の研究成果(授業・ゼミ合宿での発表資料、卒業論文等)をCDに記録して卒業式当日に配布。			
消費者調査(テキスト)			2009年度	「商品・サービスの市場調査」(PDFファイル 78頁)を受講者に無償で配布。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 「ミネラルウォーターの商品学研究(再考)ー水道水との比較(大学生を対象として)ー」			共著	2005年3月	商品学の進歩のために 19・20合併号	齋藤晋一 谷内正文	13～23頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1979年～2009年6月		日本消費者教育学会 会員	
1979年～		日本商品学会会員（2006.6～2008.5 監事, 2008.6～ 理事）	
1985年～		日本経営学会会員	
1994年～		日本商業学会会員	
2006年11月～2007年3月		宮城蔵王「三十六景自然米」（仮称）の販売戦略（大河原地方事務所並びに大河原普及センター）プロジェクト委員	
2007年6月9日		2007年度日本商品学会東日本部会大会を東北学院大学で開催 準備委員長	

所属	経営学科	職名	教授	氏名	齋藤 善之	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 『2004年度・卒業研究調査報告書・塩竈の商いと暮らしの記憶Ⅱ』の刊行				2005年3月	ゼミの学生による卒論調査報告集の印刷刊行		
『2005年度・卒業研究調査報告書・古川の商いと暮らしの記憶』の刊行				2006年3月	ゼミの学生による卒論調査報告集の印刷刊行		
『2006年度・卒業研究調査報告書・荒浜・亘理の商いと暮らしの記憶』の刊行				2007年3月	ゼミの学生による卒論調査報告集の印刷刊行		
『2007年度・卒業研究調査報告書・相馬中村の商いと暮らしの記憶』の刊行				2007年3月	ゼミの学生による卒論調査報告集の印刷刊行		
4 放送大学「日本の近世」の講義担当(3回分)				2006年12月			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『日本史講座第7巻・近世の解体』		共著	2005年4月	東京大学出版会	久留島浩 藤田覚編	99～131頁 (32頁)	
『シリーズ港町の世界史2・港町のトポグラフィ』		共著	2006年1月	青木書店	深沢克己編	111～140頁 (39頁)	
『身分的周縁と近世社会2・海と川に生きる』		共著	2007年3月	吉川弘文館	齋藤善之編	1～17頁, 43～77頁 (52頁)	
D 齋藤善之編『陸奥国石巻湊・御穀船船主・武山六右衛門家文書』		単著	2006年2月	石巻千石船の会発行		全723頁	
「全国市場を支えた船・商人・港」		単著	2007年2月	ミツカン水の文化センター『水の文化』No.25		4～13頁 (10頁)	
「新興流通勢力の登場, 新興海運勢力と全国市場, 新興海運勢力をめぐる技術と文化」		単著	2007年4月	放送大学教育振興会『日本の近世('07)』		175～238頁 (64頁)	
F 青森県文化財保護協会『みちのく双書第四十八集・八戸藩の海運資料・上』		単著	2005年6月	東海新報			
G 江戸時代の五十集流通と塩竈—仙台への肴の道—		単著	2005年6月	市場史研究会(マリンゲート塩竈, 宮城県塩竈市)			
宇佐見報告コメント		単著	2005年10月	日本史研究会大会(京都女子大学, 京都市)			

「奥筋廻船の商圈と武山屋－武山家文書の世界－」		2007年2月	石巻千石船の会		
「荒浜からみた東廻り航路と阿武隈川舟運」		2008年7月	東北学院大学東アジア流域文化研究所主催「シンポジウム阿武隈川の流域世界」		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	<p>日本海事史学会理事</p> <p>相馬市史専門委員</p> <p>青森県史調査執筆員</p>
--	---

所属	経営学科	職名	教授	氏名	佐々木郁子	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	秋期日本講座における, 東北経済産業省および在仙企業訪問	2001年～2007年	秋期日本講座の外国人留学生に, 東北経済産業省および在仙企業を訪問させ, 東北の現状と海外で活動している在仙企業についての認識を深めさせる。				
	『パソコンを使用した管理会計技法の実践』	2003年～2007年	パソコンを利用して管理会計における意思決定問題の代替案比較を行った。また, インターネットを介して, 実際の企業の中期経営計画などを検討し, 戦略と管理会計の結びつきについて理解を深めた。さらに Excel を使って, 一連の予算作成を行い, 実務において予算がどのように作成されているかを体験させた。また, 予算と実績との差異分析, 業績の分析を行い, 問題の発見, 解決策について検討させた。受講生多数につき, 現在一時中断中。				
	『パソコンを使用した企業研究とプレゼンテーション技法の習得』	2007年度～	学部3・4年生の演習および2年生の総合演習で, 有価証券報告書の見方, 企業が公表している財務諸表の見方を学ぶ。またそれを利用して, 同業界における2つの企業間の業績・戦略の比較検討を行い, 企業研究としてグループワークする。年度の最終日には, 企業研究の結果について発表会を行っているが, パワーポイントの使い方などを通して, プレゼンテーション技法についても学習させている。				
2	浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子著『(新版) 管理会計・入門』	2005年5月	大学生および実務家向けの管理会計入門書。「第7章 事業戦略のための管理会計」と「第12章 事業部制とカンパニー制のための管理会計」を担当した。				
	『管理会計のエッセンス』	2008年5月	アメリカのビジネススクールで広く採用されているテキスト James Jiambalvo, Managerial Accounting, Third edition, の邦訳。「第4章 原価配賦と活動基準原価計算」付録(158～162頁), 「第8章 標準原価と差異分析」(269～303頁), 「第9章 分権化と業績評価」付録(345～353頁)を翻訳した。第4章では, 活動基準原価計算の応用である活動基準管理についての事例説明を行った。第8章では, 標準原価と差異分析について, 原価概念と事例を用いた差異分析の仕方について説明している。第9章付録では, 分権組織の評価で問題になる事業部間の振替価格設定の方法と問題についての説明をしている。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 「第11章 顧客関係性プロセスの評価モデルの考察」	共著	2005年5月	『企業価値向上の組織設計と管理会計』門田経営会計研究所	門田安弘 編著 鈴木研一 佐々木郁子	115～126頁
「第1章 固定収益マネジメントの背景」 「第2章 固定収益概念にもとづく評価枠組みについての考察」 「第3章 顧客関係性構築計画の設定のフレームワーク」	共著	2005年11月	『固定収益マネジメント』中央経済者	浅田孝幸 鈴木研一 川野克典 編著 鈴木研一 佐々木郁子	3～29頁 31～72頁 73～125頁
「第1章 固定収益概念と顧客関係性についての考察」 「第2章 固定収益概念にもとづく評価枠組みについての考察」 「第4章 固定収益概念にもとづく計画枠組みについての考察：プロジェクトマネジメントの適応を踏まえて」	共著	2006年3月	『プロジェクトマネジメントによる顧客価値基準の収益管理システムの理論的・実証的研究』平成16年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書	鈴木研一 編著 鈴木研一 佐々木郁子	1～17頁 18～43頁 54～83頁
Ba 「顧客関係性評価のための収益概念ー固定収益の提唱ー」	共著	2007年3月	『原価計算研究』Vo. 31, No. 2. (日本原価計算研究学会)	佐々木郁子 鈴木研一	1～10頁
「フリークエンシー・プログラムを利用した固定収益マネジメントの可能性」	単著	2008年3月	『原価計算研究』Vo. 32, No. 1. (日本原価計算研究学会)		1～10頁
Bb 「ロイヤルティ・マーケティングとは何かー三石(1999)資料ー」	単著	2007年3月	『東北学院大学 経営・会計研究』第14号 東北学院大学経理研究所		85～93頁
D 「[サロン・ド・クリティーク] 管理会計とマーケティングの学際的領域(1)」	単著	2009年12月	『企業会計』2010, Vol. 62, No. 1, 中央経済新聞社		140～141頁
E アメリカからの海外レポート「シアトルといえば…」	単著	2005年1月	『東北学院時報』634号, 学校法人東北学院大学		
G 「顧客関係性評価に基づく固定収益マネジメントー固定収益概念を中心にー」	単著	2006年7月	門田経営研究所第2回研究会		
「顧客関係性評価のための収益概念ー固定収益の提唱ー」	共著	2006年8月	日本原価計算研究学会全国大会自由論題	鈴木研一 佐々木郁子	

The Fixed Revenue as a New Concept for Evaluating the Customer Relationship (評価顧客関係の収益概念—固定収益的提出)	共著	2006年10月	第十二届中国財務学会年会暨財務理論与国際論壇 (第12回中国財務学会例會)	Sasaki Suzuki Matsuoka Matsumoto	
「フリークエンシー・プログラムを利用した固定収益マネジメントの可能性」	単著	2007年10月	日本原価計算研究学会第33回全国大会・統一論題		
「顧客関係性分析が与える管理会計の今日的課題—収益管理とその実行可能性」	単著	2008年6月	日本管理会計学会2008年度第1回フォーラム		
「小売業における顧客価値の構築過程に関する研究—質問票調査に基づく分析—」	共著	2009年8月	日本管理会計学会2009年度全国大会自由論題	佐々木郁子 青木章通	
「主要顧客比率が企業業績に及ぼす影響について」	共著	2009年9月	日本原価計算研究学会第35回全国大会・自由論題	佐々木郁子 椎葉 淳 高橋邦丸	
“Supplier-Customer Relationship and Financial Performance”	共著	2009年11月	21 st Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues Concurrent session	Sasaki Shiiba Takahashi	
H 『管理会計のエッセンス』	単著	2008年5月	同文館出版	浅田孝幸監 訳 杵浦維勝 朱膳寺尚貴 山下裕企 駒形賢一 小野澤学寿 高橋邦丸 佐藤考伸 佐々木郁子 太田倫雄	158 ~ 162 頁, 269 ~ 303 頁, 345 ~353 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2))	2004年~2005年	共 (理論的データ枠組みの構築, 実証分析)	「プロジェクトマネジメントによる顧客価値基準の収益管理システムの理論的・実証的研究」
科学研究費補助金若手研究 (B)	2006年~2008年	個別	「顧客関係性にもとづく収益の管理可能性及び収益管理システムの研究」
メルコ学術振興財団研究助成	2008年度	共 (調査・執筆)	「小売業・サービス業における日本型顧客価値の構築・評価のためのフレームワークの検討」

科学研究費補助金若手研究 (B)	2009年～2011年	個別	「フリークエンシー・プログラムの意思決定情報機能と戦略的管理会計への適用の研究」
------------------	-------------	----	--

IV 学会等及び社会における主な活動	
<p>2005年4月～</p> <p>2006年7月29日</p> <p>2006年10月～2008年3月</p> <p>2009年9月19日</p>	<p>日本会計研究学会東北部会事務局</p> <p>東北大学主催 2006年度日本管理会計研究学会第2回フォーラム準備委員</p> <p>独立法人大学入試センター教科科目第一委員会委員</p> <p>国際戦略経営研究学会第2回全国大会一般論題討論者</p>

所属	経営学科	職名	教授	氏名	佐藤 邦廣	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 参加的授業の工夫 理論的に作られた概念枠と現実との比較 経営者の書いた新聞の記事を要約し発表させ理論と比較検討した 哲学上の自由の理念（たとえば原因性）と、経営者の創造性、自律などの表現との関連性の検討				2002年～現在（年2～3回） 2008年7月～ 2008年9月 2008年10月	新聞記事の分析・要約を板書させ、発表と討論 経営理念の理論的概念枠を、現実の企業の経営理念と比較し検討させた。 社会の構造変化が企業の創業時の事業の定義の範囲内で製品コンセプトに反映されることを確認させた。 哲学上の理念や概念と経営学上の概念との関連及び現実の経営者の表現との関連を新聞記事で示す。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
2006～2007年				企業との製品開発共同プロジェクト ユニフォームのコンペのための製品コンセプト形成の共同研究を実施した。			
2008年				企業の戦略形成のための共同プロジェクト 数回の会社訪問を実施し、また、大学での講演の司会などを行い、企業の状況を把握し、ある程度の提案をした。			

所属	経営学科	職名	教授	氏名	鈴木 好和	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	企業の経営者を授業に呼んできて講義をしてもらい、実践面での教育を促進している。	1998年～2006年		卒業生の社長を中心として、さまざまなトップの方々に来ていただいている。			
	できるだけわかりやすい授業にするために、資料や映像を活用している。	2006年～		新しい科目の対象者が一年生であることを常に考慮している。			
	講義科目では、授業の要点をまとめたプリントを配布し、説明時間を長く取れるようにしている。	2007年1月～2009年12月		章ごとにプリントを配布している。			
	演習では、できるだけ多くの文献を読むように心がけている。	2007年1月～2009年12月		合宿を活用している。			
	文献購読では、理解度の把握のために毎週小テストを実施している。	2008年4月～		授業の最初の10分を使って、テスト、答えあわせ及び質問時間に当てている。			
3	せんだい・みやぎオータムセミナー2009で講師を務めた。	2009年10月12日		タイトルは、「オフィスデザインと仕事の能率」で講演した。			
4	高校生への授業講師を務めた。	2006年10月3日		宮城第三女子高等学校生に対して「企業の人材育成」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 第12章「総合的品質管理」		共著	2007年5月	『地方行政革命—財政/経営/会計の統合研究—(文化会計学会研究叢書 第2巻)』富嶽出版	木下照嶽 石津寿恵 小林麻理編 鈴木好和 他6名著	189～205頁	
第14章「人的資源管理」		共著	2007年5月	『地方行政革命—財政/経営/会計の統合研究—(文化会計学会研究叢書 第2巻)』富嶽出版	木下照嶽 石津寿恵 小林麻理編 鈴木好和 他6名著	225～241頁	
第8章「組織の効率性/集団主義・個人主義」		共著	2008年4月	『社会科学の新展開—支出に見合う価値の創造—(文化会計学会研究叢書 第3巻)』富嶽出版	木下照嶽 江川雅司 郡司 健 鈴木好和編 鈴木好和 他6名著	121～136頁	
第11章「女性と社会—変わる女性の役割—」		共著	2008年4月	『社会科学の新展開—支出に見合う価値の創造—(文化会計学会研究叢書 第3巻)』富嶽出版	木下照嶽 江川雅司 郡司 健 鈴木好和編 鈴木好和 他6名著	168～182頁	

第9章「人的資源管理とオフィスデザイン」	共著	2008年5月	『経営学の基本視座-河野昭三先生還暦記念論文集-』まほろば書房	藤本雅彦編 鈴木好和 他13名著	231~259頁
第6章「高齢化社会の医療組織：理想像」	共著	2009年2月	『俳句療法-生命の学際的研究(俳句療法学会研究叢書第1巻)』	日野原重明 木下照獄編 鈴木好和 他6名著	85~105頁
Bb 労働組合存続の新戦略	単著	2006年9月	東北学院大学経済学論集, 第162号		19~59頁
D 人的資源管理の労使関係に及ぼす影響に関する研究	単著	2005年11月	東北大学大学院, 博士学位請求論文		1~192頁
G SCANS と公共部門における戦略的人的資源管理について	単著	2006年5月	文化会計学会		
東北における人的資源管理	単著	2006年6月	東北経済研究会		
女性と社会-変わる女性の役割-	単著	2008年5月	文化会計学会		
オフィスデザインと高業績組織の探求	単著	2009年5月	文化会計学会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年5月	文化会計学会常任理事
---------	------------

所属	経営学科	職名	教授	氏名	菅山 真次	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 学習目標の明示, 授業理解の促進とより適正な評価の実施 中間休憩の実施				2004年4月～継続中 2005年4月	授業のはじめにポイントを設問の形で提示。そのまま終りに実施する小テストの問題とする。 授業を前半と後半の2部に分け, 間に5分の休憩を挟むことで, 学生の集中力を高める。授業の開始時間は厳守する。		
2 『経営史レジュメ』				2005年4月～継続中	授業に用いるレジュメ・資料を収録したもの。内容は毎年改定。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 日本における労働市場構造と企業の採用管理の歴史的発展に関する実証的研究 平成13-15年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書		単著	2005年3月			1~85頁	
高度成長前夜の大工場労働者と労働市場:「京浜工業地帯調査(従業員個人調査)」(1951年)の再分析, SSJ Data Archive Research Paper Series No.43		単著	2009年5月	東京大学社会科学研究所附属社会調査, データアーカイブ研究センター		1~87頁	
G 日本におけるホワイトカラーの形成:八幡製鉄所における職員のキャリアと学歴		単著	2006年11月	経営史学会第42回全国大会報告			
近代日本における新規学卒採用の制度化:官営八幡製鉄所のケース		単著	2007年7月	経営史学会西日本部会報告			
男子労働力の移動と初期キャリア形成:関柴村壮丁調査を手がかりに		単著	2009年9月	第78回社会経済史学会全国大会報告			
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2005年1月~2008年12月			経営史学会評議員, 同研究組織委員				
2007年1月~2008年12月			経営史学会学会賞選考委員				
2007年1月~			経営史学会『経営史学』編集委員				

所属	経営学科	職名	教授	氏名	高橋 志朗	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	講義	授業の活性化。		1993年9月～2006年7月	出来る限り多くの学生に話しかけ、質問をしながら講義を進めている。		
		同上。		1993年9月～2006年7月	毎回の講義で、少なくとも一回はジョークを言う。		
		オフィスアワーの活用。		1993年9月～2006年7月	週に2回程度のオフィスアワーを設け、学生の質問に答えている。		
		Power Point の活用。		2002年1月～2006年7月	税務会計論の講義で、適宜、Power Point を利用している。		
		学習した事項の記憶の定着。		2002年1月～2006年7月	講義の冒頭で、前回の復習とその回の概要を必ず説明する。		
		講義の難解な部分の調査・修正。		2002年1月～2006年7月	講義の難解な部分を学生から聞き、講義内容を修正している。		
	演習	演習のレポーを添削し、返却する。		1981年4月～2006年7月	年に数回、ゼミ生にレポートを提出させ、内容を添削のうえ、返却している。		
		研究合宿の実施。		1982年2月～2006年7月	少なくとも年2回、ゼミ合宿を開催している。		
		ゼミのHP を立ち上げる。		2001年4月～2006年7月	2001年1月にゼミのHP を作成、ゼミの活動内容をネット上に公開している。		
		授業全体の構想における工夫		2008年4月～	次年度の改善のために、授業の度に反省点を記録している。		
		授業に学生を引きつけるための工夫		2008年4月～	多くの学生に話しかけ、質問をしながら授業をすすめている。また、できるだけ身近な事例を用いて説明するように努めている。		
		授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫		2008年4月～	授業で教えることを精選し、基本をよく理解させることに力点を置いて説明している。特に重要な点は、繰り返し強調したり、教科書に下線を施させたりしている。		
2	公刊した教科書はないが、授業においてプロジェクトを積極的に活用している。						
4	インゼミ・北プロ支援			1981年7月～2005年12月	レジュメ作成の指導、模擬討論会の開催等を行った。		
	学部ならびに大学院のゼミナールの卒業生の中から、税理士や国税専門官等の会計・税務の専門職を多数、送り出している。						

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
D 「減税の時代から増税の時代へ」	単著	2005年3月	『仙台医師会報』, No. 489		3頁
Bb 「わが国法人税の発達—法人税の誕生から『シャウプ勧告発表前夜まで』—」	単著	2009年9月	東北学院大学学術研究会		9頁
Bb 「昭和後期・平成期における税務会計の発達—税務会計の展開とゆらぎ—」(投稿中)	単著	2009年12月			
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1980年6月～	日本会計研究学会員				
1982年8月～	日本会計史学会員				
1989年12月～	税務会計研究学会員				
1996年12月～2009年10月	税務会計研究学会理事				
1997年6月～	(社)東北ニュービジネス協議会理事				
1998年10月～	財務行政モニター(東北財務局)				
2003年5月～	仙台商工会議所「企業等OB人材マッチング宮城協議会」委員				

所属	経営学科	職名	教授	氏名	根市 一志	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	学習の必要性を理解させる (講義)			1998年4月1日～	専門体系における当該科目の位置づけ, 必要性を説明する。		
	基礎知識を理解させる (講義)			1998年4月1日～	基礎知識をその科目の体系性を考慮し, できるだけ平易に説明する。さらに, 説明後, 例を示し, より理解を深める。前回の講義で説明した内容を講義の初めにもう一度簡潔に説明する。講義の終わりに質問がないか学生に問いかける。		
	自発的に考えさせる (講義)			1998年4月1日～	学修した基礎知識がどのようなことに応用できるのか練習問題等を通じて自発的に考えさせる。		
	テーマ, 目的を理解させる (演習)			1998年4月1日～	テーマにしたがって, 何を証明, 実証したいのか, 目的をはっきりさせる。目的達成までの手順を論理的に考えさせ, それにしたがった目次を作成させる。		
	情報, データの収集 (演習)			1998年4月1日～	目的を達成させるために必要な情報, データは何かを考えさせる。また, それを指導する。道具として, インターネットを活用する。		
	効果的なプレゼンテーション (演習)			1998年4月1日～	人を理解させる効果的なプレゼンテーションを考えさせる。また, それを指導する。道具として, マルチメディア機器を活用させる。		
2	Web 教材の作成			1998年4月1日～	講義内容の詳細な説明, 講義の補足, 教材の入手, 学生への連絡手段などを目的に作成している。		
	教科書の作成			2005年4月10日	『情報リテラシーの扉をひらく!』(共立出版)という教科書を作成した。この教科書では, 情報を効率的に活用するということを目的に, I部では, 情報倫理, セキュリティ, 情報収集, 情報発信などについて説明し, II部では, データ分析, プレゼンテーションの方法などについて説明している。		
	講義用スライドの作成			2009年4月1日～	講義用のスライドを作成して板書の時間をなくし, 講義内容の説明に十分時間を費やすようにした。また, スライドは Web からダウンロード可能にし, 学生に提示している。		
4	高校への出前授業の講師			2007年7月18日	岩手県立宮古商業高等学校の2年生を対象に「コンピュータシミュレーションをビジネスに応用する」と題する講義を行った。		

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Performance of the endcap RPC in the Belle detector under high luminosity operation of the KEKB accelerator	共著	2006年8月	Nuclear Physics B (Proceedings Supplements) 158	Y. Hoshi N. Kikuchi T. Nagamine K. Neichi A. Yamaguchi	190～194頁
Performance of Glass RPC in Streamer Mode for Irradiation with Coherent Photons	共著	2007年12月	IEEE Transactions on Nuclear Science Vol. 57	S. Narita Y. Hoshi S. Saito K. Neichi A. Yamaguchi	2642～2645頁 (4頁)
Construction and performance of multigap RPC in streamer and avalanche modes	共著	2009年5月	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A 602	S. Narita, Y. Hoshi, K. Neichi, A. Yamaguchi	814～816頁
D 情報リテラシーの扉を開く！	共著	2005年4月	共立出版	菊地登志子 根市一志 半田正樹	8～45頁
G Performance of the endcap RPC in the Belle detector under high luminosity operation of the KEKB accelerator	共著	2005年10月	VIII International Workshop on Resistive Plate Chambers and Related Detectors	Y. Hoshi N. Kikuchi T. Nagamine K. Neichi A. Yamaguchi	
Performance of Glass RPC in Streamer Mode for Irradiating Coherent Photons	共著	2006年11月	2006 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference	S. Narita Y. Hoshi K. Neichi A. Yamaguchi	
Construction and Performance of Multigap RPC in Streamer and Avalanche mode	共著	2008年2月	IX International Workshop on Resistive Plate Chambers and Related Detectors	Y. Hoshi S. Narita K. Neichi A. Yamaguchi	
Measurement of Streamer and Avalanche Size by using RPC with Submilli-strips	共著	2008年10月	2008 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference	D. Miura Y. Hoshi Y. Kikuchi S. Narita K. Neichi A. Yamaguchi	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要		
科学研究費補助金(基盤研究C)	2006～2007年度	共同・研究分担者	レーザーによる高時間分解能RPCの開発とその医用への応用		

IV 学会等及び社会における主な活動	
1990年4月～	日本物理学会会員
1996年9月～	情報処理学会会員
1998年12月～	IEEE 会員
2007年8月～	日本計算機統計学会会員

所属	経営学科	職名	教授	氏名	富士 挙	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 講義の区切り区切りでテストをしている。 講義の進行に合わせてレジュメを配付している。			毎年3~4回 毎年5月, 7月, 10月, 12月	講義各項目の理解度と各人の考え方を確認している。 原理, 原則の基礎的なものと新しい問題を加味したものにしている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb 地域住民(市民)と消費者		単著	2009年3月	日本計画行政学会東北支部だよりNo.36		1~2頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1982年9月~1991年9月			日本リスクマネジメント学会理事				
1984年5月~1997年4月			宮城地方最低賃金審議会, 公益委員				
1991年10月~2004年9月			日本リスクマネジメント学会常務理事				
1994年11月~2008年10月			東北防衛施設地方審議会(旧仙台防衛施設地方審議会)委員				
1997年5月~2006年4月			宮城地方最低賃金審議会, 会長				
1998年10月~2002年10月			日本保険学会理事				
1999年5月~2003年5月			生活経済学会理事				

所属	経営学科	職名	教授	氏名	保坂 和男	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	講義形式の授業において、学習した事項の記憶への定着	1990年4月1日～2008年9月16日	毎回の授業の冒頭で、前回の復習とその回の概略を説明し、授業終了時にはその回のまとめを行っている。				
	講義形式授業での毎回のテーマについての理解の促進	1990年4月1日～2008年9月16日	講義形式の授業で、ほぼ数ページの資料を配付し、授業のテーマに関していろいろな観点から解説し、理解を容易にしている。				
	演習形式の授業での実践的学習への配慮	1990年4月1日～2008年9月16日	ゼミ大会での文献を通じて実務にも目を向けさせ、ディベート出来るようにしている。				
	講義形式授業での毎回、質問・感想表を配布し、理解の定着	2008年4月1日～9月16日	質問・感想表に基づいて出席をとり、全員に提出させ、次回にそれらのいくつかに答えている。				
2	『企業財務の基礎』同文館	2002年5月					
4	インゼミ・ブロックゼミでの支援	1990年4月1日～2008年9月16日	ほぼ毎年、北ブロ、インゼミ大会参加のための支援を行っている。				
	経理研究所の簿記講座・税理士受験講座での講師	1995年～1998年					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	『会計学中辞典』	共著	2005年6月	青木書店	会計学中辞典編集委員会編	9頁分	
Bb	「会計とファイナンス」	単著	2004年3月	東北学院大経理研究所第12号		13～32頁	
	「会計処理基準の変更－東北の会社の事例－」	単著	2005年3月	東北学院大論集経済学、第158号		11～71頁	
	「東北の会社における会計処理基準変更の事例－2005年期を中心として－」	単著	2006年3月	東北学院大経理研究所第13号		23～51頁	
	「退職給付会計の事例－東北の会社の事例を中心として－」	単著	2006年3月	東北学院大経理研究所第13号		93～166頁	
	「財務会計入門」	単著	2006年12月	東北学院大論集経済学、第163号		89～123頁	
	「会計上の変更と誤謬訂正－アメリカの会計基準を中心として－」	単著	2007年3月	東北学院大学・経営・会計研究14号		61～84頁	
	「継続性の原則の検討－企業会計基準委員会「過年度遡及修正に関する論点の整理」に関して－」	単著	2008年3月	東北学院大学・経営・会計研究15号		11～38頁	

G 東北大学大学院経済学研究科特別講話「会計とファイナンス」 東北学院大学公開講座第22回キリスト教文化講座講演「スチュワードシップ」 日本私立大学連盟平成19年度監事会議全体会議・全体討議「私立大学の社会的責任と監事の役割」総司会担当(京都) 第12回九州アカウンティング・フォーラムで発表「リスク分析と財務会計」(福岡) 日本私立大学連盟平成21年度監事会議全体会議・全体討議「私立大学の三様監査体制の充実に向けてー自己点検・評価(報告書)を手がかりとした監査のあり方ー」の発題(京都) 日本私立大学連盟平成21年度理事長会議「新たな経営戦略に向けた理事会機能の向上ーガバナンスと内部統制の確立を目指してー」司会・総括担当(東京)	2003年7月	東北大学大学院経済学研究科	
	2003年10月	東北学院大学	
	2007年9月	日本私立大学連盟	
	2009年2月	九州産業大学	
	2009年8月	日本私立大学連盟	
	2009年9月	日本私立大学連盟	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1967年5月	日本会計研究学会・会員……現在に至る
1969年4月	東北郵政研修所非常勤講師……1997年3月まで
1972年4月	東北経営会計研究会・会員……現在に至る
1984年6月	日本経営分析学会・会員……現在に至る
1987年4月	仙台白百合短期大学英語科非常勤講師……2002年3月まで
1994年4月	石巻専修大学経営学部非常勤講師……1996年3月まで
2000年10月	日本会計理論学会・会員……現在に至る
2001年4月	独立行政法人入試センター・専門教科委員(簿記部会・副会長)……2002年3月まで
2001年4月	東北文化学園大学総合政策学部非常勤講師……2005年3月まで
2001年11月	学校法人宮城学院理事会監事……現在に至る
2002年4月	独立行政法人入試センター・専門教科委員(簿記部会・会長)……2003年3月まで
2002年4月	仙台白百合女子大学人間学部非常勤講師……現在に至る
2002年6月	独立行政法人入試センター研究開発部非常勤講師……2003年3月まで

2002年10月	アジア会計学会・会員……現在に至る
2003年10月	九州大学大学院経済学府非常勤講師……2004年3月まで
2004年4月	沖縄国際大学産業情報学部非常勤講師……2004年9月まで
2005年4月	日本会計研究学会東北部会・会長……現在に至る
2005年4月	日本私立大学連盟監事会議運営委員……2008年3月まで
2005年10月	宮城大学食産業学部非常勤講師……現在に至る
2006年10月	メルコ学術振興財団評議委員……現在に至る
2008年4月	日本私立大学連盟監事会議幹事……現在に至る
2009年4月	日本私立大学連盟監事会議幹事会委員長……現在に至る
2009年4月	大学基準協会経営系専門職大学院認証評価分科会委員……現在に至る
2009年4月	日本私立大学連盟理事長会議幹事会幹事……現在に至る

所属	経営学科	職名	教授	氏名	村山 貴俊	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	①国際経営論におけるビジュアル教材の活用	1997年4月1日～現在に至る	企業を取り巻くグローバル経営環境の変容を概説のうえ、企業の国際化が地域経済へと及ぼす影響を具体的事例に基づき明らかにすることで、国際経営論を学習することの意義を明らかにする。次いで、多国籍企業論および国際経営論の学説史に触れつつ、国際経営戦略、国際経営組織、国際人事管理など個別的管理問題を講義する。すなわち、国際経営論のマクロ領域からミクロ領域へと段階的に説明を進めることになる。Power Point で要点を明示しながら、口頭で細部を解説する、という講義スタイルを実践する。また、これまで自らで収集してきた映像教材を活用することで、学生の理解度を高めるようにしている。				
	②演習Ⅰ・Ⅱにおけるケース・メソッドの活用	1997年4月1日～現在に至る	ケース・メソッドを取り入れ国際企業の経営戦略を分析する。そのために先ずアンゾフ、ミンツバーグ、ポーター等の著作により経営戦略論の理論的基礎を学生に学習させる。次いで、学生をグループに分割し、グループ毎にケース分析を通じて個別企業の経営戦略の有効性と問題点を析出させ、新戦略の立案や既存戦略の修正の可能性を検討させる。それら分析内容を、Power Point を使ってグループ毎に発表させ、分析の深さ、体系性、論理性、実現可能性、といった多面的尺度から評価をおこなう。最終的に、学生自らが選んだ企業や業界に関する体系的な事例研究を執筆させ卒業論文として提出させる。				
	③総合演習における企業情報の収集方法および分析方法の指導	2001年4月1日～現在に至る	2年生向け2単位ないし4単位の演習であり、3・4年次の演習への導入と位置づけられる。企業・ビジネス研究入門とし、企業やビジネスの分析方法、また関連図書の収集方法、解読方法などを指導する。経営学の有用性や社会調査の意義を理解させることを狙いとする。				
	④総合講座Ⅰ・Ⅱ（ビジネス・ケース研究）における実践教育ならびにグループ教育法の実施	2006年4月1日～現在に至る	ケース・メソッドを活用した経営学の講義である。教員がケースを執筆のうえ、学生に当該ケースを分析させ、Power Point を使って分析結果を発表させる。また、ケースのなかに登場する企業家を学内に招聘し、彼・彼女らの実務体験をお話し頂き、実際のビジネス状況を学生に理解させている。複数教員が同講義を担当し、グループ教育法の実践例でもある。				
	⑤総合講座Ⅱ（おもてなしの経営学）における産学官連携	2009年4月1日～現在に至る	観光業における旅館・ホテルの経営を理論的・実践的に講義する。サービスやマーケティングに関する理論的な講義を教員が担当し、宮城県内の旅館・ホテルの女将4名がおもてなしの実践を講義する。また、観光行政組織からも講師を派遣してもらい東北という地域の観光業の実情を講義してもらう。				

<p>2 『東北学院大学・経営学科 ビジネス・ケース集 Vol.1, Vol.2, Vol.3, Vol.4』</p> <p>3 東北学院大学・経営学科が実践するビジネス・ケース教育に関する報告（於、東北大学大学院・経済学研究科）</p>	<p>2006年3月 2007年3月 2008年3月 2009年3月</p> <p>2007年6月28日</p>	<p>総合講座Ⅰ・Ⅱ（ビジネス・ケース研究）で用いているテキストである。担当教員らが執筆した企業経営に関する事例集であり、各章末にケースを読解する際の留意点が記されている。研究活動と教育活動の同時的な深化の具体例としても注目されている。教材は、学生に無料で配付される。</p> <p>東北大学大学院・経済学研究科の講義にて、経営学のティーチング・メソッドの1つとして、東北学院大学のケース研究の実践と、その有効性および限界について報告。</p>
---	--	--

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<p>A 『ビジネス・ダイナミックスの研究—戦後わが国の清涼飲料事業』</p> <p>『経営学の基本視座』 第3章「品質事故に関する経営学的考察—PET ボトル入り飲料の事例を中心に—」</p>	<p>単著</p> <p>共著</p>	<p>2007年3月</p> <p>2008年6月</p>	<p>まほろば書房</p> <p>まほろば書房</p>	<p></p> <p>藤本雅彦 村山貴俊 等</p>	<p>1～514頁</p> <p>第3章 93～133頁 を執筆</p>
<p>Ba 「日立造船における杜仲茶ビジネス—新規事業の開発と限界」</p>	<p>単著</p>	<p>2007年3月</p>	<p>『研究年報 経済学』 (東北大学経済学会・発行), Vol. 68, No. 4</p>	<p></p>	<p>125～142頁</p>
<p>「コカ・コーラの日本市場参入—ローカリゼーションの事例研究」</p>	<p>共著</p>	<p>2007年3月</p>	<p><i>Journal of Japanese Studies National Sun Yat-Sen University</i> (台湾国立中山大学・発行) Vol. 1, No. 1</p>	<p>河野昭三 村山貴俊</p>	<p>1～68頁</p>
<p>Bb 「わが国飲料ビジネスの現状と課題」</p>	<p>共著</p>	<p>2007年7月</p>	<p>『都市問題研究』(都市問題研究会・発行), 第59巻・第7号(通巻679号)</p>	<p>河野昭三 村山貴俊</p>	<p>3～14頁</p>
<p>「Coke vs. Pepsi; 沖縄 1945～72年(その1)」</p>	<p>共著</p>	<p>2007年11月</p>	<p>『甲南経営研究』(甲南大学経営学会・発行), 第48巻, 第1・2号</p>	<p>河野昭三 村山貴俊</p>	<p>75～102頁</p>
<p>「北欧式輸入住宅事業の開発と展開—スウェーデンハウス社の事例」</p>	<p>単著</p>	<p>2008年2月</p>	<p>『東北学院大学 東北産業経済研究所紀要』第27号</p>	<p></p>	<p>71～97頁</p>

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
<p>科研費 基盤研究C「中小企業の経営革新と創業に対するフランチャイズの有効性の検証」</p>	<p>2006～2008年度</p>	<p>共同 分担項目「フランチャイズ企業戦略研究」</p>	<p>東洋大学・小嶋正稔(研究代表者), 甲南大学・河野昭三, 國學院大学・星野広和との共同研究。</p>

科研費 若手研究B「隙間市場創出戦略の有効性と限界に関する研究」	2009～2010 年度	個別	食品・清涼飲料業界におけるカテゴリーキラーないしニッチャーの競争優位の析出。
----------------------------------	--------------	----	--

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	経営学科	職名	教授	氏名	山本 展雅	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	2年間のゼミナール活動に基づく卒業論文の作成・報告指導			2007年2月	論文集「会計学研究」VOL. 25 としてまとめた。発表会 (2007年2月)		
	2年間のゼミナール活動に基づく卒業論文の作成・報告指導			2007年12月	論文集「会計学研究」VOL. 26 としてまとめた。発表会 (2008年2月)		
	2年間のゼミナール活動に基づく卒業論文の作成・報告指導			2008年12月	論文集「会計学研究」VOL. 27 としてまとめた。発表会 (2009年2月)		
	2年間のゼミナール活動に基づく卒業論文の作成・報告指導			2009年12月	論文集「会計学研究」VOL. 28 としてまとめた。発表会 (2010年2月)		
4	公認会計士制度説明会のコーディネーターを務めた			2007年7月	(経理研究所・日本公認会計士協会東北会共催)		
	東北・北海道経済学生ゼミナール北海学園大学大会発表指導(企業結合における日本基準の有用性)			2007年8月	3年生を中心としたゼミ生が大会テーマのもとに、レジュメ(12,000字程度)を作成し有意義なディベートをした。		
	最近の国際会計の動向についての講演(全6回)			2007年9月～12月	税務大学校仙台研修所		
	日本学生経済ゼミナール新潟大学大会発表指導(企業結合会計ー日本基準と国際基準の比較を中心としてー)			2007年12月	3年生を中心としたゼミ生が大会テーマのもとに、レジュメ(12,000字程度)を作成し有意義なディベートをした。		
	税理士制度説明会のコーディネーターを務めた			2008年6月	経理研究所・職業会計人TG会共催		
	東北・北海道経済学生ゼミナール東北学院大学大会発表指導(のれん会計)			2008年8月	3年生を中心としたゼミ生が大会テーマのもとにレジュメ(12,000字程度)を作成し有意義なディベートをした。		
	最近の国際会計の動向についての講演(全6回)			2008年9月～12月	税務大学校仙台研修所		
	高校への出前授業の講師を務めた			2008年10月	東北学院榴ヶ岡高校(大学アワーⅡ) テーマ「企業の業績評価とグローバルスタンダード」		
	日本学生経済ゼミナール福岡大学大会発表指導([Aグループ]国際会計基準へのコンバージェンス問題, [Bグループ]のれん会計の比較研究)			2008年12月	3年生を中心としたゼミ生が大会テーマのもとにレジュメ(12,000字程度)を作成し有意義なディベートをした。		
	公認会計士制度説明会のコーディネーターを務めた			2009年7月	(経営研究所・日本公認会計士協会東北会共催)		
	東北・北海道経済学生ゼミナールノースアジア大学大会発表指導([Aグループ]有証券評価基準について, [Aグループ]のれんの評価について)			2009年8月	3年生を中心としたゼミ生が大会テーマのもとに、レジュメ(12,000字程度)を作成し有意義なディベートをした。		

最近の国際会計の動向についての講演 (全6回)	2009年9月～12月	税務大学校仙台研修所
日本学生経済ゼミナール関西大学大会発表指導 ([Aグループ]時価評価とその他の評価基準, [Bグループ]のれんの資産性)	2009年12月	3年生を中心としたゼミ生が大会テーマのもとに、レジュメ (12,000字程度) を作成し有意義なディベートをした。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb セグメント別情報開示に関する比較研究	単著	2005年3月	東北学院大学論集 経済学 第158号		73～118頁
D 簿記講座 I (e-ラーニング)	単著	2006年10月	http://www.hiwatashi.biz		
簿記講座 II (e-ラーニング)	単著	2006年11月	http://www.hiwatashi.biz		
ワークブック 簿記精説 I (新訂第4版)	共著	2007年4月	創成社	野口和男 山本展雅	
簿記精説 I (新訂第4版)	共著	2007年6月	創成社	野口和男 山本展雅	
ワークブック 簿記精説 II (新訂第2版)	共著	2009年5月	創成社	野口和男 山本展雅	
簿記精説 II (新訂第2版)	共著	2009年12月	創成社	野口和男 山本展雅	
F 東北経済と共に生きる大学の教育使命とは	単著	2009年9月	「大学時報No.328」日本私立大学連盟		104～109頁

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

2005年4月～2007年3月	独立行政法人大学入試センター教科第一委員会委員 (簿記・会計) 同大学入試センター客員教授 (2006.5～2007.3)
2009年9月～	東北防衛局入札監視委員会委員
2009年10月～	仙台北法務局評価委員会委員

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	井上 普就	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年	月	日	概 要	
1	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進		2005年4月		2009年12月	毎回の講義の冒頭で、前回の復習を行っている。	
2	『監査論を学ぶ』（新訂版）		2006年6月		1日	監査論のテキスト	
	『明解簿記講義』（五訂版）		2008年4月		25日	商業簿記Ⅰのテキスト	
4	日商簿記検定合格のための指導		2007年4月		2009年12月	日商簿記検定の特徴を明確にして合格率を上げるための工夫をした。	
	日本経済学生経済ゼミナール北海道・東北ブロック大会および全国大会への参加のための指導		2008年4月		2009年12月	論文作成および討論が適切に行えるようになるための指導	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A	『新潮流 監査人の独立性』	共著	2005年5月		同文舘	川北 博 井上普就	169～178頁
	『事業継続能力監査と倒産予測モデル』	共著	2008年5月		同文舘	高田敏文 井上普就	253～278頁
Bb	「韓国と中国における GC への制度的対応」(日本会計研究学会スタディーグループ 最終報告書)	単著	2005年9月				
	「国際比較による日本の監査委員会制度の現状分析」	単著	2007年3月		『東北学院大学経営・会計研究』, Vol. 14		21～38頁
D	「日本監査研究学会 第29回東日本部会レポート」	単著	2007年11月		『会計・監査ジャーナル』, Vol. 19 No. 11		86～89頁
G	「GC への制度的対応」(日本会計研究学会スタディーグループ)		2005年9月				
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	折橋 伸哉	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 パワーポイントを利用した講義				期間中一貫して実施	パワーポイントを使用し、板書の場合に比べ、後方座席の学生も含めて学習効果を上げるように配慮している。		
3・4年演習での企業訪問				期間中一貫して実施	学生から希望があれば、工場現場を訪問し、その生産工程の実態を見学すると共に、企業の方のお話を伺う機会を設けた。現地現物で経営学の学習効果を高めるのが狙い。		
総合講座Ⅰ・Ⅱ				期間中一貫して実施	自らの実態調査の成果をケースにまとめて教材とし、理論ばかりではなく経営の実態の学習を図った。また、実務経験者をお招きして交流を深めながら経営現場の実態についての理解を促す取り組みも同時並行で進めた。村山貴俊経済学部教授、目代武史経済学部准教授と協働して実施。		
日本研究秋期講座				2007年11月	参加学生のうち希望者を、トヨタ自動車東北株式会社訪問に引率		
2 東北学院大学・経営学科 ビジネスケース集 Vol.1				2006年3月	村山貴俊・経済学部助教授と共同で編集。(肩書きは当時)		
東北学院大学・経営学科 ビジネスケース集 Vol.2				2007年3月	村山貴俊経済学部准教授と共同で執筆(肩書きは当時)		
東北学院大学・経営学科 ビジネスケース集 Vol.3				2008年3月	村山貴俊経済学部准教授、目代武史経済学部専任講師と共同で執筆(肩書きはいずれも当時)		
東北学院大学・経営学科 ビジネスケース集 Vol.4				2009年3月	村山貴俊経済学部教授、目代武史経済学部准教授と共同で執筆(肩書きはいずれも当時)		
3 経営学部における実践的教育の試み—2度のFD調査を踏まえて—				2009年7月2日	平成21年度東北学院大学FD研修会にて、経営学部のFDの取り組みを紹介。その後、FDニュース Vol.11 に報告の概要を寄稿。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 「北米日系企業の経営戦略—自動車組立産業を中心に」、『グローバル経済下のアメリカ日系工場』			共著	2005年4月	東洋経済新報社, 第I部第3章	河村哲二 折橋伸哉	15頁
「トヨタグループの中国展開」, 『巨大化する中国経済と日系ハイブリッド工場』			共著	2005年4月	実業之日本社, 第11章	上山邦雄 折橋伸哉 日本多国籍企業研究グループ	15頁

「自動車産業の国際的再編とアセアン自動車産業」, 『国際再編と新たな始動ー日本自動車産業の行方ー』	共著	2005年6月	日刊自動車新聞社, 第8章	上山邦雄 塩地 洋 折橋伸哉 産業学会自動車産業研究会	17頁
「일본 자동차산업의 고용관계」 『동북아 제조업의 분업구조와 고용관계(II)』	共著	2006年3月	연구보고서, 第4章	조성재 장영석 오재환 박준식 善本哲夫 折橋伸哉	23頁
「東南アジアにおける日本メーカーの経営, 生産システムタイにおける自動車産業を中心にー」, 『マルクス経済学の現代的課題(第1集第3巻); グローバル資本主義と企業システムの変容』	共著	2006年3月	御茶ノ水書房, 第9章	菅原陽心 植村高久 清水真志 安田 均 河村哲二 芳賀健一 河村 一 宮寄晃臣 折橋伸哉 苑志佳	27頁
「日本自動車メーカーの中東欧戦略ートヨタ自動車を中心にー」, 『中東欧の日系ハイブリッド工場ー拡大EUに向かう移行経済における日系企業』	共著	2006年10月	東洋経済新報社, 第2章第2節	苑志佳 折橋伸哉	13頁
ものづくり経営学, 製造業を超える生産思想	共著	2007年3月	光文社	折橋伸哉 藤本隆宏 東京大学ものづくり経営研究センター編	20頁
海外拠点の創発的事業展開	単著	2008年1月	白桃書房		238頁
「ラテンアメリカにおける日産自動車ーメキシコ日産自動車のケースを中心にー」 『ラテンアメリカにおける日本企業の経営』	共著	2009年3月	中央経済社	山崎克雄 銭佑錫 安保哲夫	8頁
ものづくりの国際経営戦略ーアジアの産業地理学ー	共著	2009年4月	有斐閣	新宅純二郎 天野倫文	5頁
Ba 海外生産拠点における組織能力の構築と環境変化	単著	2006年10月	国際ビジネス研究会年報		11頁
海外拠点における環境変化と能力構築	単著	2007年4月	日本経営学会誌		12頁
Bb 「EU 拡大の中でグローバル戦略の再構築をはかる欧州自動車メーカー及び日系メーカーの新動向と工場調査 (2004年3月)」(1)	共著	2005年1月	経営志林	下川浩一 折橋伸哉 ダニエル・ヘラー 東 秀忠	27頁

東南アジアにおける日本メーカーの経営・生産システムー自動車産業を中心にー	単著	2005年3月	東北産業経済研究所紀要, 第24号		16頁
日本的経営・生産システムの中国展開と台湾ー台湾日系メーカー2社のケースを中心にー	共著	2006年3月	東北学院大学経済学論集, 第161号	折橋伸哉 許経明	21頁
台湾自動車産業の能力構築	共著	2006年3月	赤門マネジメント・レビュー	李兆華 傳学保 折橋伸哉 藤本隆宏	38頁
Manufacturing and management systems of Japanese manufacturers in Southeast Asia –Especially on the automobile industry in Thailand	単著	2006年9月	東北学院大学経済学論集, 第162号		17頁
三菱自動車工業株式会社の最近の歩み	単著	2008年3月	経営・会計研究		11頁
北米における日系自動車メーカーの動向について	単著	2008年9月	東北学院大学経済学論集		19頁
C					
台湾自動車産業, その現状と将来展望ータイ, 豪州の先行事例を通じて考えるー	単著	2005年1月	MMRC (東京大学ものづくり経営研究センター) ディスカッションペーパー, MMRC-J-22	下川浩一 折橋伸哉 ダニエル・ヘラー 東 秀忠	14頁
グローバル再編の内実が問われる欧州自動車産業の中での日系自動車工場の現状と今後ーホンダ UK, 英国日産, トヨタトルコの三社の比較調査ー	共著	2007年3月	MMRC (東京大学ものづくり経営研究センター) ディスカッションペーパー	下川浩一 折橋伸哉 ダニエル・ヘラー 東 秀忠	43頁
D					
海外生産拠点における組織能力の構築と環境変化	単著	2007年5月	東京大学大学院経済学研究科博士学位論文		141頁
東北地方において自動車産業を育成する上での課題ー発展途上国の抱える問題との関連においてー	単著	2009年3月	東北産業経済研究所紀要		6頁
E					
Interview with two vice-presidents of Renault at their head office	共著	2006年11月	MMRC (東京大学ものづくり経営研究センター) ディスカッションペーパー, MMRC-F-104		24頁
G					
海外現地法人における能力構築プロセスと環境変化ー豪州, タイ, トルコにおけるトヨタ自動車の事例からー	単著	2005年10月	国際ビジネス研究学会第12回全国大会 (広島市立大学)	S. Orihashi H. Higashi	

Project Report: A View from Japan: 20 Years of Western Automaker's Catch-up in Vehicle Engineering and Assembly Plant Productivity	共著	2006年6月	International Motor Vehicle Program Researchers Meeting, Massachusetts Institute of Technology, Cambridge, Massachusetts, U.S.A.	
Manufacturing and management systems of Japanese manufacturers in Southeast Asia -with a focus on the automobile industry in Thailand	単著	2006年9月	Second Conference of INTERNATIONAL FORUM ON COMPARATIVE POLITICAL ECONOMY OF GLOBALIZATION (中国人民大学)	
日本における自動車産業後進地域の抱える課題についての一考察ー発展途上国の抱える問題との関連においてー	共著	2006年11月	国際ビジネス研究学会第13回全国大会(早稲田大学)	折橋伸哉 ダニエル・ヘラー
Mitsubishi Motor Corporation: Emerging from its deep crisis	単著	2007年6月	Fifteenth GERPISA International Colloquium, French Ministry of Research, Paris, FRANCE	
EUを超えて: トルコのトヨタ	単著	2007年9月	EUIJ 関西ワークショッププログラム「ヨーロッパ自動車産業の新発展」	
The Indian automobile industry and technology transfer by Japanese automaker and a perspective on environmental strategy	単著	2007年10月	The Korean Academy of Motor Industry 2007 Fall International Conference, Seoul National University, Seoul, South Korea	
インド自動車産業と日本自動車メーカーの技術移転と環境戦略	共著	2007年10月	アジアパシフィック自動車フォーラム 東京 2007	折橋伸哉 伊藤 洋
東北地方において自動車産業を育成する上での課題ー発展途上国の抱える問題との関連においてー	単著	2008年10月	東北学院大学東北産業経済研究所公開シンポジウム	
豪州自動車産業の現状と将来展望	単著	2008年12月	第97回アジア自動車産業研究会	
Crisis turn into leap forward - The case of Toyota in Australia, Thailand and Turkey	単著	2009年6月	Seventeenth GERPISA International Colloquium, Sorbonne University, Paris, FRANCE	

Japanese Perspective on the Detroit Auto Crisis	単著	2009年8月	Academy of Management Professional Workshop, Hyatt Regency Chicago, USA		
---	----	---------	---	--	--

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
東北学院学術振興基金	2007年度	個別	

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2008年夏, 2009年夏・冬	国際ビジネス研究学会年報にて論文査読を担当。
2008年度及び2009年度	本学東北産業経済研究所公開シンポジウムのコーディネーターを担当。
2009年11月から2010年3月	財団法人日本立地センター「東北地域における自動車関連産業集積の展開方向性と立地可能性検討調査」委員。
期間中通して	日本経営学会, 組織学会, 国際ビジネス研究学会, 産業学会に参加。

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	松村 尚彦	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	教員独自の授業計画を実施	2002年1月～2006年1月	授業内容の理解度を中心とした独自のアンケートを実施。				
	授業理解の促進のための工夫	2007年4月～2008年12月 2009年4月～2009年12月	毎回の授業の冒頭で、前回の復習とその回の概略を必ず説明し、授業終了時にはその回のまとめを行っている。				
	教員独自の「学生による授業評価」の実施	2007年4月～2008年1月 2009年4月～2009年12月	授業の効果を測定するために教員自身が考案したアンケートを、毎年度実施している。				
	投資クラブの実践	2008年4月～2008年12月 2009年4月～2009年12月	サブ・ゼミ活動の一環として、資金を出し合い株式投資を行う投資クラブを立ち上げた。				
	体験学習の実施	2008年4月～2008年12月 2009年4月～2009年12月	2年次の総合演習において、コミュニケーション力とチームワーク力養成のため、他者理解、合意形成に関する体験学習を行った。				
4	資格試験講師	2001年9月～2006年9月	証券アナリスト試験のための対策講座をFactSet社にて実施。				
	実務家向けレクチャー	2001年9月～2006年9月 2009年4月～2009年12月	証券投資に関する実務家向けの講義を担当（シグマインベストメントスクール）。				
	高校への出前授業	2009年3月18日	名取北高校にてキャリアセミナーの講師を担当（主催：NPO法人ハーベスト）。				
		2009年7月1日	向山高校にてキャリアセミナーの講師を担当（主催：NPO法人ハーベスト）。				
		2009年10月7日	大館国際情報学院の高校1・2年生に株価分析をテーマにした授業を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	投資家の期待形成と市場アノマリー	単著	2008年3月	青山学院大学大学院 国際政治経済学研究 課：博士論文		1～181頁	
Bb	投資家は会計発生高をどのように認識しているかー機能的固定化仮説とそのインプリケーション	単著	2009年3月	東北学院大学経営・会 計研究		9～34頁	
G	決済発表後の株価ドリフト	単著	2005年6月	日本ファイナンス学 会第13回大会			
		単著	2009年12月	日本会計研究学会東 北部会			

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2005年5月23日			講演（FactSet 社主催の講演講師（テーマ：決済発表後の株価ドリフト））
2007年4月～			日本ファイナンス学会会員

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	目代 武史	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業ごとの学生からのフィードバック	2007年4月～翌年1月 2008年4月～翌年1月 2009年4月～翌年1月	毎回の授業に関する疑問や質問、授業運営などに関するフィードバックを得るために「一言カード」を導入。A4サイズの1/4の用紙に、学部学科/学生番号/氏名の欄と自由記入欄を設けたものを、毎回授業前に配布、授業後に回収している。寄せられた疑問や要望に対し次回の授業で直接答えたり、授業運営に反映するなどしている。				
	少人数授業（演習、総合演習、文献購読Ⅰ）におけるプレゼンテーション教育の導入	2007年4月～翌年1月 2008年4月～翌年1月 2009年4月～翌年1月	毎回パソコン（パワーポイント）とプロジェクターを用いて、学生に課題のプレゼンテーションをさせている。課題の内容理解だけでなく、プレゼンテーションの方法（準備、PPTの使用法、発表態度、質疑の受け答え）を指導している。				
	各種ガイドラインの作成と配布	2007年9月～現在	定期試験やレポートなどに関する作成ガイドラインを予め作成し、教員が何をどの程度、どのような形式で求めているかを事前に学生に周知するようにしている。ガイドラインはWebページにて公開。				
	ケースメソッドによる経営学教育	2008年4月～翌年1月 2009年4月～翌年1月	実際の企業経営の事例を記述したケースと呼ばれる教材をもとに、経営課題の発見、原因の分析、対応策の提示を学生に実施させる講義を行っている。経営理論の知識を実際に応用できるスキルに発展させることが目的である。また、ケースに登場する実務家を招へいし、講演してもらうとともに、学生の経営分析・戦略提案に対して、実務家の立場から助言をいただいている。さらに、論理的・効果的なプレゼンテーションや質疑応答の技術についても指導を行っている。				
	Webページによる講義資料の配布	2008年5月～現在	講義資料をPDF形式でWebページ上に公開し、いつでも学生がダウンロード可能な状態にしている。また、講義で取り上げた参考文献や企業・産業情報などの情報源もWeb上で紹介し、学生が自ら調べられるように配慮している。				
2	ケースメソッドによる経営学教育のためのビジネスケースの執筆	2007年11月～12月 2009年2月	ケースメソッドのためのビジネスケースを作成した。対象企業の関係者に複数回に渡りインタビューを行うと共に、公開資料を収集した。ケースの執筆に当たっては、多様な視点から分析が可能ないように、経営者の判断や経営環境、組織構造等の定性的な情報に加え、財務データなどの定量的な情報を盛り込んだ。また、学生による問題発見を促すため、執筆者自らの分析や視点を極力排除し、客観的な記述を心がけた。				
	授業用Webページを作成	2008年4月～現在	授業に関する情報（シラバス、教室、休講通知、講義資料の配布など）を提供するため、Webページを作成し、公開している。講義期間中は、毎週更新。				

<p>4</p> <p>【社会人への教育活動】コベルコ建機(株)・(株)神鋼ヒューマンクリエイト「製品開発マネジメント研修」</p> <p>【社会人への教育活動】ひろしま産業振興機構「ものづくり革新経営講習会」講師</p> <p>【社会人への教育活動】日本政策投資銀行中国支社「次世代ビジネス研究会Ⅱ」講師</p> <p>【社会人への教育活動】神戸製鋼(株) 鋳鍛造部門高砂製作所「管理職研修」講師</p> <p>【社会人への教育活動】浜松商工会議所・日本政策投資銀行東海支店「やらまいか技術経営研究会 2008 年」講師</p> <p>【社会人への教育活動】浜松商工会議所・日本政策投資銀行東海支店「やらまいか技術経営研究会 2009 年」講師</p>	<p>2006 年 1 月～9 月</p> <p>2007 年 9 月 13 日</p> <p>2007 年 9 月 14 日</p> <p>2007 年 11 月～12 月</p> <p>2008 年 11 月 18 日</p> <p>2009 年 9 月 8 日, 29 日</p>	<p>建設機械メーカー(株)コベルコ建機と人材育成支援を事業とする(株)神鋼ヒューマンクリエイトが共同で実施しているマネジメント研修に講師として参加した。本研修は、製品開発の幹部候補に当たる中堅社員 10 数名を対象とし、製品開発に関する最新の理論と研究成果に基づいた講義、ケースメソッドによるグループディスカッションを行った。</p> <p>本講習会は、広島県の外郭団体であるひろしま産業振興機構が主催した企業研修である。広島県東部の製造業企業を対象とし、ものづくりに関する最新の理論とその応用に関する講義を行った。3 時間の講習のうち、最初の 2 時間余りで講義を行い、残りの時間で参加者と質疑応答を行った。「製品アーキテクチャ論」と呼ばれる最新の理論に基づき、近年におけるモジュール化の動向や擦り合わせ型もの造りの重要性について講義を行った。</p> <p>本研究会は、日本政策投資銀行が主催して、広島地域の自動車部品産業の次世代の経営幹部を対象として、いわゆる MOT (技術経営) 教育を行うものである。目代は、研究会の目玉の一つであるケースメソッドに基づいたグループディスカッションを担当した。ケースメソッドとは、実際に起こった企業の経営事例をとりあげ、受講者がケースの当事者になったつもりでどのように問題を発見し、解決するかを集団で討論するものである。目代は、ファシリテータとして討論テーマを設定すると共に、ディスカッションの進行を行った。</p> <p>神戸製鋼(株) 鋳鍛造部門の中間管理職向けの社内研修「管理職スクール」の講師として参加した。本研修では、技術開発および製造現場の課長、部長クラスの管理者を対象とし、技術経営 (MOT) の最新理論に基づいた講義、およびケースメソッドによるグループディスカッションを行った。研修期間は、全 4 回、一回 4 時間であった。</p> <p>本研究会は、浜松商工会議所および日本政策投資銀行東海支店が主催して、浜松地域の製造業を担う中小企業の中堅・幹部社員のための技術経営教育を行うものである。目代は、本研修の理論的ベースとなる経営戦略の理論について講義を行った。なお、参加者は、30 代から 40 代の技術者および管理者である。</p> <p>本研究会は、昨年の研究会の第二期に当たる。対象企業・受講者も昨年と同様である。目代は、経営戦略理論の講義と併せて、実際の企業 (オリンピック) の事例を用いたケース分析のファシリテーションを行った。</p>
---	---	--

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba					
広島地域における自動車部品モジュール化の動向と地場部品メーカーの対応	単著	2005年3月	『地域経済研究』第16号		3～19頁
製品開発マネジメントの分析ツールとしての設計構造マトリックスに関する考察	単著	2006年3月	『地域経済研究』第17号		25～42頁
製品アーキテクチャの変革と開発組織の動的適応に関する研究：自動車産業におけるセンターパネル・モジュールの事例分析から	単著	2006年11月	『日本経営学会誌』第17号		49～60頁
自動車産業におけるモジュール戦略の成果と課題：欧米を中心とした比較研究	共著	2007年12月	『赤門マネジメント・レビュー』6巻12号	岩城富士大 目代武史	1～41頁
Bb					
欧州自動車産業におけるモジュール生産方式の発展	単著	2007年9月	東北学院大学『経済学論集』165号		51～75頁
ボルボ社におけるモジュール生産の取り組み	単著	2009年3月	『経営・会計研究』16号		35～44頁
東北学院大学東北産業経済研究所公開シンポジウム 東北地方と自動車産業：自動車産業とその裾野産業の振興のための課題を探る	共著	2009年	『東北学院大学東北産業経済研究所紀要』第28号	岩城富士大 居城克治 村山貴俊 折橋伸哉 目代武史	53～71頁
C					
設計構造マトリックスによる製品開発プロセス合理化の論理と限界点	単著	2007年9月	『経営学論集 77 集』千倉書房	日本経営学会編	152～153頁
G					
日本自動車メーカーのモジュール化戦略と欧米メーカーとの国際比較：日本メーカーのアジア戦略と環境戦略への課題提起	共著	2007年10月	アジアパシフィック自動車フォーラム 2007 Tokyo	岩城富士大 目代武史	
モジュール生産方式の成果と課題：欧州自動車メーカーの工場展開分析	共著	2007年10月	国際ビジネス研究会 第14回全国大会	岩城富士大 目代武史	
東北地方の自動車産業の実情	単著	2009年10月	東北産業経済研究所シンポジウム		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金（若手B）	2005～2007年度	個別	設計構造マトリックス（DSM）の理論的研究。DSMは製品開発における設計マネジメントや組織マネジメントに応用可能な分析ツールであり、製品アーキテクチャ論の観点からDSMの理論的研究および応用化のためのパイロット的研究を行った。
科学研究費補助金（基盤B）	2006～2008年度	共同（研究協力者）	企業活動と環境との両立に関する実証分析。環境パフォーマンスを満足させながら、企業の競争力を向上させるための環境イノベーションについて、定量的分析および定性的分析を実施。
科学研究費補助金（若手B）	2008年度～2010年度	個別	設計構造マトリックス（DSM）の応用研究。DSMを製品アーキテクチャ研究の実証分析ツールとして活用するとともに、製品開発マネジメントツールとして実用化するための研究。
東北学院大学研究奨励金	2008年度	個別	自動車産業における部品サプライヤーの役割や競争力強化の課題について近年の研究動向をまとめるとともに、実証分析を行う予定である。
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	谷内 正文	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 教育・学習のためのパソコン実習の導入			2005年4月～2006年12月 2008年4月～12月		OR・統計の考え方を理解し習得するうえで非本質的で煩雑な計算から解放するためパソコンを利用。パソコン処理手順を細かく記したプリントを作成し配布。		
授業内容の把握と定着の促進			2009年1月～12月		実際のデータの統計処理その他の計算で具体的な計算結果を出すためにExcelを利用。		
学習事項の定着と授業理解の促進			2005年4月～2006年12月 2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		授業内容はなるべく板書し、直感的に理解できるように図表で説明する。数学や確率統計の予備知識で必須事項は練習問題付きのプリントを作成し配布。授業の要点および理解の確認用の小テストを実施し、正解するまで返却訂正させる。2006年9、10月、授業に集中し理解を自ら確認することをねらって、授業内容(数学の基礎事項)の要点を穴埋め式にした「まとめ」と練習問題のプリントを作成し、授業前に配布(後に回収返却)。 ほぼ毎回、授業終了時に練習問題を、さらに授業時以外の自己学習を促すため宿題を出す。それを添削して返却、全問正解するまで再提出させる。学習内容の有用性を知らせるため、随所で応用例を紹介している。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	総・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要
IV 学会等及び社会における主な活動							
1979年9月～			日本オペレーションズ・リサーチ学会会員				
1984年5月～			日本統計学会会員				
1985年9月～			日本経済学会会員				
1992年4月～			経営情報学会会員				

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	山岡 隆夫	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	大教室での教員独自の「学生による授業評価」の実施	1991年～2008年3月 2009年4月～	学生の授業への理解度・関心度を知るために無記名での記述式の授業評価を年2回実施している。授業の改善に役立てるとともに、学生の理解度を把握することによって復習すべき箇所を次の講義において意識的に挿入している。				
	ゼミと文献講読の効果的な運用	1991年～2008年3月 2009年4月～	少人数のゼミと文献講読の関連性を学生に自覚させ、聞く力、読む力、書く力、話す力というコミュニケーション力を向上に努めた。				
	学習した事項の内容の確認と講義内容の理解促進	2005年4月～2008年3月 2009年4月～	前回の講義内容を事業の初めに復習し、理解を深めるとともに、今回の講義との関係を明確に意識させつつ講義を進めることにしている。				
	教員独自の「学生による授業評価」とその授業へのフィードバックを実施している。	2007年4月～2008年3月 2009年4月～	学部で実施する『学生による授業評価』に加えて、前期と後期に各一回、無記名自由記述方式による学生による授業評価を行い、次の講義の改善に役立てている。				
	文献講読(Ⅱ・Ⅲ)へのパソコン・インターネットを利用した双方向での講義	2009年4月～	文献講読受講者全員から講義以前に講義範囲において疑問点・質問点を事前に山岡宛にメールに送付させ、それに山岡がサジェスト・コメントし添付ファイルをメーリングリストにて事前に受講者に送付している。受講者は、山岡のコメントを参照しつつ該当箇所を再度読み込んで講義に臨むことになる。				
	総合演習へのパソコン・インターネットの利用	2009年4月～	ゼミ報告者(レジュメの作成者)はメーリングリストにてゼミ生より疑問点・質問点と事前に添付ファイルにて入手し、それを整理の上、山岡まで添付ファイルにて提出する。山岡は講義までにゼミ生が事前に山岡のコメントを熟読できる時間的配慮の元で、コメント・サジェストをメーリングリストでゼミ生全員に添付ファイルにて送付する。ゼミ生各自は、それを参照しつつテキストを読み込むことになる。				
2	経済統計等の利用と促進	2007年4月～2008年3月	主に総務省統計局公開の経済資料を編集・活用することによって様々な統計資料の活用を促すとともに、その利用を促進している。				
4	インゼミへの全国大会参加	2005年度	インゼミ全国大会へ向けて夏合宿等で論文作成を指導した。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	現代流通事典「外国貿易」	共著	2006年11月	白桃書房	日本流通学会編	28～29頁	

現代流通事典「世界市場」	共著	2006年11月	白桃書房	日本流通学会編	30～31頁
外国貿易『改訂版 現代流通事典』	共著	2009年10月	白桃書房	日本流通学会	28～29頁
世界市場『改訂版 現代流通事典』	共著	2009年10月	白桃書房	日本流通学会	30～31頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1982年4月～	国際経済学会会員
1987年4月～	日本流通学会会員
1991年4月～	消費経済学会会員

所属	経営学科	職名	准教授	氏名	和田 正春	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習課題の明確化と復習と事例を織り交ぜた講義の実践	1997年4月～現在		何を学ぶ講義かを明確に提示し、講義を進め、検討課題を提示。次回は1/4程度を課題解決と復習にあて、理解度を向上させながら新しい講義との連携を維持している。また最新のケースを常に紹介し、講義が古くならないように配慮している。			
	教員独自の授業評価の実施	1997年4月～現在		授業の効果をアンケート形式で測定すると共に、改善要望を電子メールなどで随時受け付けている。			
	学生主体の企画調査の実施	1997年4月～現在		演習において、学生に企画を立てさせ、企業や行政、地域などの調査を行っている。その成果は報告書にし、可能であればプレゼンテーションまで行わせ、マーケティングの総合力向上に取り組んでいる。			
	仙台を良くするプロジェクトの実施	2003年4月～現在		演習を中心に、仙台を良くすることをテーマに、問題解決型プロジェクトを構築し、それを実施している。七夕や光のページェントの活性化に貢献し、地域企業や商工会などから高い評価を得ている。またメディアからも注目される活動となっている。			
	学生アンケートの実施と講義への活用	2004年10月～現在		地域にプロ野球チームができたことを契機に、地域密着をテーマに学生にアンケートを実施。報告書にまとめ球団やメディアに情報を提供。大学と地域企業の連携向上に取り組んでいる。結果は講義資料としても活用。			
	演習において	2008年4月～現在		仙台七夕祭りやジャズフェスティバルに関連して、ホスピタリティ向上のための活動を推進。既に5年ほど経つが、地域から頼られる存在として活動している。			
	総合演習（2年次）における実践教育	2008年4月～現在		地域商店街と連携し、七夕飾りの制作を通じて、プロジェクトの管理、マーケティングの理解を進める。地域との連携の中で、実際に仕事を進めていくことで、マーケティングの理論を実際に学ぶことを目指している。			
	地域プロスポーツチームとの協働の実施	2008年4月～		地域プロスポーツチームであるベガルタ仙台や東北楽天ゴールデンイーグルスと協働して、ボランティア活動を通じてプロジェクト・マネジメントを学んだり、調査を実施してマーケティングの実務に触れるといった実践教育を行っている。			
2	理容師・美容師教科書「運営管理」	2009年4月		全国理容師・美容師養成施設で使用される「運営管理」教科書の改訂に伴い執筆。経営戦略、マーケティング、経営管理、労務管理に関わる章を担当。			

4	理容師・美容師教科書編集委員	1996年～現在	資格試験運営管理の教科書を執筆。現在運営管理教科書編集委員会委員長。
	宮城県看護協会ファーストレベル研修講師	2000年～現在	看護師のキャリアアップ研修の講師として、看護サービス論を担当。
	高校における模擬講義	2003年度～現在	東北地区の高等学校において、大学で学ぶこと、経営学について、など、多様なテーマで講義を担当。
	NECラーニング 研修講師	2004年度～現在	IT技術者を中心とした業務研修において、マーケティングや事業計画立案などを指導。
	学内組織「4-Leaves」の立ち上げ	2005年	地域支援活動を行う拠点として学生組織を立ち上げた。
	東北大学大学院経済学研究科非常勤講師	2006年度～現在	会計専門職向けのマーケティング講座の講師。
	宮城大学事業構想学部非常勤講師	2007年度～現在	マーケティング、流通事業を担当。
	一関の商店街振興	2008年度	ベガルタ仙台などとの協力の下、一関中心商店街の活性化に関与（教養学部共同）。
	多賀城市のまちづくり懇談会ファシリテーター	2008年度	多賀城市のまちづくり懇談会にファシリテーターとして参加し、第5次総合計画の策定に関与。
	日本理容美容教育協会 教科書編纂委員会委員および運営管理委員会委員長	2008年4月～現在	日本理容美容教育協会にて、検定試験用教科書のあり方などについて検討している。運営管理については大幅な変更を実施。実践教育の重要性を踏まえ、執筆方針を変更。
	宮城県看護協会「看護サービスについての講義」	2008年7月4日	看護サービスの向上に関わる講演。顧客の変化に伴う、看護サービスの変化に関わる留意点を解説。
	タナベ経営「顧客に選ばれる企業作り」	2008年10月9日	顧客に選ばれる企業になるために、企業価値の考え方、その実現方法について、地域企業の経営者に解説。
多賀城市行政改革委員会委員長	2009年11月～現在	多賀城市の行政改革推進の為、活動。	

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

2007年度～	日本構想学会 論文審査委員
2008年度～	日本商品学会全国大会 監査担当
2009年度～	多賀城市行政改革推進委員会会長

所属	経営学科	職名	講師	氏名	板橋 慶明	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 発表担当グループによる円滑な演習進行を促進するためのサポート 総合演習において、人間性の理解に資すると思われる幅広い視野からのアプローチをとった。		2003年4月～現在 2008年4月～現在		3, 4年向け演習（ゼミ）において発表担当のグループが円滑にゼミを進行させ、ディスカッションを活性化することができるよう、ゼミ時間外に担当グループとのミーティングの時間を設けることによって、アドバイスやサポートを提供している。 総合演習が教職に関連した科目であることに配慮し、カウンセリング的視点（カウンセリング・マインド）、思春期の子供のコーチング、多様性の理解（異文化理解）といった多彩な内容を取り入れ、現代において必要とされる人間性の理解と育成に関係した能力を高めることに資する内容とした。			
4 （一部の）夜間主学生に対する（学習に関する）個別相談		2009年9月～現在		大学における勉学（単位取得）に不安を感じていると思われる（一部の）夜間主学生を対象として、大学生生活と勉学に関する個別相談を行っている。自分が望んでいることと現状を確認し、目的達成の障害となっている事柄がある場合には、それについて共に考え、大学生生活について適切な意思決定ができるようサポートしている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	著・者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
H 『ハーバードのフランチャイズ組織論』		分担	2006年1月	文眞堂	河野昭三（監訳）	197～248頁，304～307頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	経営学科	職名	講師	氏名	荻原 丈男	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	毎回の授業の進め方における工夫	2005年1月～2009年12月	体系的に配慮した板書と説明				
	授業内容をよく理解させる工夫	2005年1月～2009年12月	具体的ケースの提示と分析				
	授業内容の理解を定着させる工夫	2005年1月～2009年12月	小テストや課題レポートを提出させる				
	教員独自の学生による授業アンケート実施	2009年1月～12月	出席カードに授業の感想を記入させる				
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
2009年4月～				日本経営学会会員			
2009年4月～				日本商業学会会員			
2009年4月～				日本商品学会会員			

所属	経営学科	職名	助教	氏名	松岡 孝介	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年	月	日	概 要	
1	学習した事項の記憶への定着		2007年	4月	～2009年	10月	担当しているすべての講義で、毎回冒頭に前回の復習とその回の概略を必ず説明している。
	具体的な回答プロセスの理解促進		2008年	4月	～2009年	10月	原価計算、工業簿記、および会計学入門の講義では、理論的な説明の後に必ず設問を設定し、実際に回答を導く手続きを確認させている。
	学生への個別アドバイス		2008年	4月	～2009年	10月	原価計算、工業簿記、および会計学入門の講義では、問題を解かせている間に教室内を巡回し、回答が導けない学生には個別にアドバイスするようにしている。
	理論と実践を関連づけた理解の促進		2008年	4月	～2009年	10月	文献購読の講義では、文献を輪読するだけでなく、文献で説明された分析技法を、実際の財務諸表により計算させるようにしている。これにより、教科書の内容を実践できるかどうかを確認させている。 なお、2009年4月よりは、演習および総合演習で同様のことを実施している。
	定期的な小テストとそのフィードバックを通じた着実な理解の促進		2009年	4月	～10月		原価計算の講義を3～4回行うごとに、小テストを実施している。この小テストは、採点したものを必ず学生に返却し、答え合わせをさせることによって、自分がどの部分で間違えたのかを確認させている。そうすることで、着実な理解を促進させている。
	毎回の小テストを通じた着実な理解の促進		2009年	4月	～10月		工業簿記は、多くの問題を解かなければ身につかないと考えられる。しかし、講義時間中に多くの問題を解かせることは困難である。そのため、工業簿記の講義では、前回の内容を毎回小テストしている。この小テストは、あらかじめ教科書として使用している問題集の中から出題しているので、学生が教室の外で多くの問題を解いてくるよう促している。
	プレゼンテーション能力の育成		2009年	4月	～10月		演習および総合演習の講義では、毎回パワーポイントをスクリーンに映して、学生にプレゼンテーションさせ、改善点を指摘している。これにより、プレゼンテーション能力を育成している。
	批判的な読解力の育成		2009年	4月	～10月		総合演習および基礎演習の講義では、毎週文献を輪読しているが、質問担当者を毎回割り当て、事前に質問を提出するようにさせている。これにより、どの部分を質問しようか考えながら読むようにさせ、批判的な読書力を育成している。
	講義時間の3分割による、メリハリづけ		2009年	4月	～10月		基礎演習の時間では、30分ごとに時間を区切り、最初は大学での学習スキル、次の30分は文献の輪読のうち前半部分の報告・質疑、最後の30分は後半部分の報告・質疑をさせている。これにより講義にメリハリをつけ、集中力を保てるように促している。

関連科目との関係の理解促進	2009年4月～10月	原価計算, 工業簿記, 会計学入門の講義では, 必要に応じて現在説明している内容が他の会計関連科目とどのように関係しているのか, 説明するようにしている。
2 見やすいパワーポイント資料	2008年4月～2009年10月	原価計算の講義資料には, できるだけ工場の写真を盛り込むようにし, 現実のイメージを理解できるように配慮している。 また, 実務における計算は電卓ではなくエクセルのような表計算ソフトを使うことが多いと考えられるため, 表計算ソフトの計算画面を盛り込んでいる。 図解にも力を入れている。計算が複雑になる場合には, 本質だけを取り出した分かりやすい図で理解させるようにしている。
穴埋め, 記述式のパワーポイント資料	2008年4月～2009年10月	パワーポイント資料はすべて印刷して配布している。この資料は, 画面上で赤字の部分をチェックさせたり, 穴埋めをさせたり, 重要な論点については説明文を記述させたりしている。これらの作業を通して, 重要な個所がどこであるのかがはっきりと分かるようにし, 効率よく学習できるように配慮している。
4 他教員の授業見学	2008年4月～6月	学科内の他教員の授業を見学させていただき, 自分の授業の改善に役立てた。現在も, 情報交換は行っている。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A プロジェクト・バランス・スコアカード	共著	2004年4月	生産性出版	小原重信 浅田孝幸 鈴木研一 編著	3～32頁
固定収益マネジメント	共著	2005年11月	中央経済社	浅田孝幸 鈴木研一 川野克典 編著	305～327頁
Ba バランス・スコアカード～業績測定システムから戦略マネジメントシステムへ～	共著	2002年3月	学生経営論集(明治大学経営学部)(第28号)	土屋孝博 大森康宏 小林陽子 篠崎悠介 島村幸子 谷 綾子 松岡孝介	25～47頁
ABCによる長期的意思決定と長期的収益の獲得	単著	2003年3月	学生経営論集(明治大学経営学部)(第29号)		1～28頁
顧客満足および顧客ロイヤルティと財務業績の関係に関する実証研究	単著	2006年3月	大阪大学経済学(第55巻第4号)		106～126頁

固定収益化の及ぼす財務的効果についての考察	共著	2006年9月	会計プロGRESS (第7号)	鈴木研一 松本有二 松岡孝介	46～58頁
固定収益会計における差異分析—顧客関係性差異分析のフレームワークと事例研究	共著	2008年3月	原価計算研究 (第32巻第1号)	松岡孝介 鈴木研一	85～97頁
固定収益会計における差異展開の研究—Bathtub Model の適応—	共著	2009年3月	原価計算研究 (第32巻第2号)	松岡孝介 鈴木研一	45～58頁
Bb BSCにおける共通指標バイアスにかかわる先行研究レビュー	単著	2008年3月	東北学院大学経営・会計研究		51～62頁
D 第2章 バランス・スコアカードとは何か	共同	2003年3月	平成14年度プロジェクトマネジメント品質管理の国際規格化と知識データベース構築事業研究報告書, 第1部報告書1「価値指標マネジメント研究」に所収	鈴木研一 松岡孝介	37～90頁
第8章 プロジェクト&プログラムのコントロール	共同	2004年3月	平成14年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究C(2))研究成果報告書(代表者 鈴木研一)に所収	鈴木研一 松岡孝介	117～139頁
第5章 固定収益作用因についての事例研究	共同	2006年3月	平成16年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究C(2))研究成果報告書(代表者 鈴木研一)に所収	鈴木研一 松岡孝介	84～99頁
G 従業員満足, 顧客満足, 財務業績の因果連鎖に関する研究—A社におけるアクション・リサーチ—	共同	2004年9月	日本管理会計学会第14回全国大会(立教大学)	鈴木研一 松岡孝介 竹内倫和 佐々木郁子 伏見有貴	
収益の固定化が及ぼす財務的効果に関する一考察	共同	2005年9月	日本会計研究学会第64回全国大会(関西大学)	鈴木研一 松本有二 松岡孝介	
顧客満足および顧客ロイヤリティと財務業績に関する実証研究	単独	2006年3月	日本管理会計学会第2回関西・中部部会(大阪大学)		
The Fixed Revenue as a New Concept for Evaluating the Customer Relationship	共同	2006年10月	第十二届中国財務学年会暨財務理論与国际論壇(第12回中国財務学例会)	佐々木郁子 鈴木研一 松岡孝介 松本有二	
固定収益会計における差異分析—顧客関係性差異分析のフレームワークと事例研究—	共同	2007年10月	日本原価計算研究学会第33回全国大会(慶應大学)	松岡孝介 鈴木研一	

固定収益会計における収益動態の分析 モデルーBathtub Model と事例研究ー	共同	2008年9月	日本原価計算研究会第34回全国大会(大阪学院大学)	松岡孝介 鈴木研一	
固定収益会計における差異の展開方法 に関わる考察	単独	2009年5月	日本会計研究学会東 北部会		
満足度指標の差異分析にかかわる研究	共同	2009年9月	日本原価計算学会第 35回全国大会	松岡孝介 鈴木研一	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--	--

法 学 部

法 律 学 科

所属	法律学科	職名	教授	氏名	伊藤 一義	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	展示会等の見学		2003年4月～2005年3月	3, 4年生向け演習において、演習内容にそった展示会等を見学させ、実物の観察をとおして理解力を促進させた。			
	学習ツールの利用促進		2004年4月～2006年12月	1, 2年生向け演習において、実際に図書館にある辞書・雑誌・書籍の所在見取図を作成させ、利用を容易にさせた。			
	学習ツールの利用促進		2007年1月～2008年12月	1, 2年生向け演習において、実際に図書館にある辞書・雑誌・書籍の所在見取図を作成させ、利用を容易にさせた。			
	学習ツールの利用促進		2009年4月～2009年12月	1, 2年生向け演習において、実際に図書館にある辞書・雑誌・書籍の所在見取図を作成させ、利用を容易にさせた。			
4	高等学校の出前授業の講師を務めた		2007年11月15日	青森県立青森東高等学校で「日本の裁判のしくみ」と題する授業を行った。			
	高等学校の出前授業の講師を務めた		2008年6月20日	福島県立福島西高等学校で「裁判のしくみ」と題する授業を行った。			
	高等学校の出前授業の講師を務めた		2009年11月13日	宮城県仙台南高等学校で「裁判のしくみ」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
F	亀田俊和著「室町幕府執事施行状の形成と展開—下文施行システムを中心として—」(『史林』86巻3号)	単著	2005年3月	法制史研究 54		158～161頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	法律学科	職名	教授	氏名	井上義比古	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	講義形態の授業における双方向性の確保	2007年4月～	講義形態の授業実施に際して、A4判の「質問用紙」を配布し、実名、匿名、筆名を選択させ、質問に答える、という方法を取っている。				
	講義形態の授業における板書の工夫等	2007年4月～	体系的な板書を行い、1つの文字が10cm角以上になるよう努めるとともに、授業の冒頭で前回の復習を行う。				
	少人数の講義におけるソクラティック・メソッド類似の方法	2007年4月～	夜間の授業、法科大学院の授業、サテライトキャンパスでの単位互換授業など、受講者が少ない講義科目の場合、分析すべきテーマについて受講者に考えさせ、その発言概要を黒板・ホワイトボードに整理しながら議論を進め、最終的には受講者の発言を生かして体系的な結論を導く、という方法をとっている。				
	演習における学生への心理的支援Ⅰ	2007年4月～	演習で報告を担当した学生に対して、演習時間終了時に参加者全員で拍手を送っている。				
	演習における学生への心理的支援Ⅱ	2007年4月～	演習での学生の発言が仮に間違っている場合、必ず良い面を強調する。				
	基礎演習を通じての発表・意思表明能力向上支援Ⅰ	2007年4月～	演習開始冒頭に1～2人ずつ、5分間程度のスピーチをさせている。				
	基礎演習を通じての発表・意思表明能力向上支援Ⅱ	2007年4月～	演習において、「自分の思い」を他者に伝えるための文章を、場面別に書かせ、時間中に全員の作成状況を確認しアドバイスを行うほか、添削して返却している。また、会議能力向上のため、自分たちで決めたテーマにそくして実際に会議運営を経験させている。				
3	仙台圏17大学 e-ラーニングによる授業連携	2009年11月	外国語教育メディア学会（LET）関東支部第123回研究大会での講演及びパネリスト				
4	学務部長	2005年4月～	全学レベルの教務委員会議長として、教授会に提案するカリキュラム改正案、一般教育科目運営等の審議を指揮するほか、各学部・学科、各研究科・専攻のカリキュラム改正に関する助言および事務作業の取りまとめを行い、教育活動の企画・運営・改革に関する委員会の委員としての活動を行っている。				
	点検・評価委員会委員	2005年4月～	委員としての活動のほか、点検・評価関係の諸規程の原案作成に携わった。大学基準協会による認証評価報告書のとりまとめに携わった。				
	公務員試験対策勉強会の講師	2007年4月～	公務員試験の中の「数的推理」「判断推理」分野に関するボランティアの勉強会を開いている。				

FD 推進委員会委員	2007 年 4 月～	委員としての活動のほか、FD 研修会、FD 講演会等の司会、及びFD ニュースに掲載する質疑応答内容のとりまとめ役を務めている。
「学生による授業評価」実施委員会委員	2007 年 4 月～	学部選出委員としての活動のほか、委員会書記として委員会の運営に携わっている。
FD 研修会講師	2008 年 7 月	FD 推進委員会主催 FD 研修会で、大学コンソーシアム京都FD フォーラムに関する報告を行い、司会も務めた。
FD 研修会講師	2009 年 7 月	FD 推進委員会主催 FD 研修会で、大学コンソーシアム京都FD フォーラムに関する報告を行い、司会も務めた。
東北学院大学法学政治学研究所公開講座「市民生活と法」講師	2009 年 11 月	「選挙制度改革の政治的効果－日本の衆議院の場合－」と題する市民向けの講演を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
E 「分かりやすい」授業と「良い」授業の間	単著	2005 年 3 月	東北学院大学 FD ニュース第 2 号		
「学都仙台」のルネサンスー大学と市民の新たな共生を目指してー	単著	2009 年 3 月	大学と学生 平成 21 年 3 月号		33～38 頁
大学と地域の相互発展	単著	2009 年 7 月	大学時報 2009 年 7 月号		32～37 頁
G 大学による地域連携：仙台圏の場合を中心として	単独	2005 年 9 月	私立大学フォーラムでの報告及びパネリスト		
大学経営の組織的側面	単独	2007 年 11 月	大学行政管理学会平成 19 年度第 2 回東北地区研究会での報告		
仙台圏における高等教育機関の連携について	単独	2008 年 10 月	大学行政管理学会平成 20 年度第 2 回東北地区研究会での報告		

III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
戦略的学連携支援事業	2008 年度	共同 代表校取組担当者（申請書作成・事業実施責任者）	

IV 学会等及び社会における主な活動

1999 年 4 月～	日本選挙学会会員
2004 年 4 月～	宮城県議会情報公開審査会委員
2006 年 9 月～	仙台市明るい選挙推進協議会委員
2009 年 6 月～	学都仙台コンソーシアム運営委員会副委員長・企画部長 仙台市明るい選挙推進協議会会長

所属	法律学科	職名	教授	氏名	齋藤 誠	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	「法的思考入門」における新しい授業内容・方法の開発と改善	1993年4月～2009年12月		専門導入科目の授業科目「法的思考入門」の担当分において、独自の授業内容を考案し、教材を作り、授業方法を工夫し、それらを毎年改善している。			
	「大学生活入門」における新しい授業内容・方法の開発と改善	2006年4月～2009年7月		初年次教育のための授業科目「大学生活入門」において、独自の授業内容を考案し、教材を作り、授業方法を工夫し、それらを毎年改善している。			
2	「大学生活入門」のテキストとして『大学生生活入門授業ノート』を作成	2009年4月		大学生活を主体的な「学び」の場とするための、意識づけ、学びのための制度・設備・道具についての知識、技能の習得をめざした授業としての「大学生活入門」のテキスト。			
	「法的思考入門」におけるプリント教材（最新版）	2009年9月～12月		「議論」をテーマとして、議論の構造、議論の読み方・書き方、議論の前提、議論の説得力などについて解説した内容となっている。			
3	東北学院大学第1回FD研修会における報告『『法的思考入門』の授業におけるいくつかの工夫について』	2005年6月		専門導入科目の授業科目「法的思考入門」の担当分における独自の教材・授業方法について報告している。（要旨は『TGU FD news』Vol. 3）			
	東北学院大学第2回FD講演会における報告「FDへの助走路—大学におけるガイダンス教育—」	2005年11月		「ガイダンス教育」とFDとの関係をどう考えるべきか、および法学部の「大学生活入門」の構想について報告している。（要旨は『TGU FD news』Vol. 4）			
	東北学院大学第3回FD研修会における報告『『大学生活入門』をやってみて』	2006年6月		新授業科目「法的思考入門」の授業内容・方法とその意義・課題について報告している。（要旨は『TGU FD news』Vol. 5）			
	名古屋女子大学総合研究所講演会における講演「初年次教育としての『大学生活入門』」	2008年9月		初年次教育のための授業科目「大学生活入門」の考え方、授業内容・方法について紹介した。			
	東北学院大学第6回FD研修会における報告『『到達目標』の明確化による授業改善』	2009年6月		授業の到達目標を明確化することによる授業改善の可能性と到達目標の立て方（書き方）について紹介した。（要旨は『TGU FD news』Vol. 11）			
4	公務員試験受験希望者のための「数的推理」の問題解答指導	1993年4月～2008年12月		公務員試験の受験準備をしている学生むけに「数的推理」の問題解答練習のための課外授業（週1回・年間30回・無料）を行った。			
	高校への出前授業・出張講義（講義内容は「法学部では何が学べるのか」「犯罪と不法行為」など）	2002年4月～2009年11月		県内外の高校で授業をのべ30回以上行う。			
	本学主催「サテライトキャンパス公開講座」で講師を担当（「法科大学院の意義と課題」「ニート増加の背景にあるもの」）	2005年9月、2006年10月		サテライトキャンパスを利用した市民向け公開講座において、2年にわたり授業（それぞれ90分・1回）を担当した。			

高大連携特別授業「文章力格段アップ講座」を担当	2006年8月	宮城県教育委員会と東北学院大学との高大連携特別授業「文章力格段アップ講座」(90分×6回)を担当した。
現職教員研修セミナーでの講義	2008年12月	本学主催の現職中学(社会)・高校(公民)教員対象の研修セミナーにおいて「裁判員制度と民主主義思想」のテーマで講義を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
E 2004年度法学部新入生意識調査の結果	単著	2005年3月	東北学院大学法学政治学研究所紀要(13号)		159～192頁
仙台市史 資料編8 近代現代4 政治・行政・財政	共著	2006年9月	仙台市	仙台市史編さん委員会(分担箇所共同分担者は難波信雄・増田周二)	201～256頁
仙台市史 通史編6 近代1	共著	2008年3月	仙台市	仙台市史編さん委員会	154～172頁
2007年度法学部新入生意識調査の結果	単著	2008年3月	東北学院大学法学政治学研究所紀要(第16号)		109～139頁
初年次教育としての「大学生生活入門」	単著	2008年3月	東北学院大学教育研究所報告集(第8集)		5～22頁
資料紹介 仙台市区及び区長制度関係資料	単著	2008年9月	市史せんだい(Vol.18)		109～120頁
仙台市史 通史編7 近代2	共著	2009年7月	仙台市	仙台市史編さん委員会	16～28頁, 278～298頁

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

1989年4月～	日本政治思想史学会会員
1994年4月～2008年3月	仙台市史編さん調査分析委員
2008年4月～	仙台市史編さん専門委員

所属	法律学科	職名	教授	氏名	澤野 和博	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	毎回の講義において、理解の促進を図った。	2005年1月～2009年12月		毎回、レジュメを配布するとともに、できるだけ多くの図を板書した。			
	毎回の講義において、理解の定着を図った。	2005年1月～2009年12月		毎回配布するレジュメの最後に10問程度の練習問題を用意し、授業の最後に必ずそれを解答させ、答え合わせを行った。			
	毎回の講義において、受講生の集中力を高めるため工夫を行った。	2005年1月～2009年12月		大教室であえてマイクを使わずに講義を行い、感情的な側面から受講生の聞く気持ちを高めるとともに、私語を行う受講者に対しては必ず私語を停止させるか、退出させるかした。また、教室中を歩き、各受講者の反応を見ながら、解説した。			
	演習において、フィールドワークを取り入れた。	2005年1月～2009年12月		法曹実務のあり方についての理解を高めるために、演習において、年1回、裁判傍聴、刑務所見学、法務局見学等を行った。			
	演習において、研究合宿を行った。	2005年1月～2009年12月		毎年、3泊4日にわたる複数学年合同の研究合宿を行い研究活動の促進を図るとともに、学年を超えた交流による一層の教育目的の達成を図った。			
	演習における報告準備のために研究室を開放した。	2005年1月～2009年12月		演習における報告のための準備の場として研究室を開放するとともに、資料の提供及び事前指導を継続的に行い、内容の高い報告のための助力をした。			
	実習において、択一式問題・論文問題を作成して解答練習をさせた。	2007年1月～2009年12月		法曹を目標としている学生のための演習において、知識を確認するために、毎週、憲法・民法・刑法のオリジナルの択一式問題・論文問題を作成し、解答練習させた。			
	実習において、論文の添削指導を行った。	2007年1月～2009年12月		法曹を目標としている学生のための演習において、受講生に論文を作成させた上で、添削指導を行った。			
	法科大学院の授業において、パワーポイントで具体的な事例問題を数多く提示した。	2008年4月～9月		法科大学院の授業において、受講生の実務的な判断力を高めるために、パワーポイントで事例を提供し、即座に対応を考えさせた。			
2	講義レジュメの作成	2005年1月～2009年12月		講義の際には、毎回レジュメを作成し、配布している。			
	『法学講義 民法6 事務管理・不当利得・不法行為』（共著・悠々社）	2006年3月		不法行為等における一般的な理論状況を紹介し、学部学生レベルの理解をもたらすことを目的とした教科書である。			
	『マルシェ債権各論』（共著・嵯峨野書院）	2007年3月		民法の債権各論における一般的な理論状況を紹介し、学部学生レベルの理解をもたらすことを目的とした教科書である。			

4 公務員講座の講師	2002年1月～2008年12月	名古屋経済大学主宰の公務員講座および東北学院大学法学部主宰の公務員講座において「民法」を担当し講座を行った。
司法試験対策講座・法科大学院対策講座の運営	2003年4月～2009年12月	司法試験対策講座・法科大学院対策講座における運営を担当するとともに、講座および合宿の際における受講生の個別的指導を行ってきた。
ラグビー部での部員指導	2004年3月～2009年12月	2006年までラグビー部副部長として、2007年からはラグビー部部長として、ラグビー部員の教育指導を継続してきた。就任してから6年連続して東北代表チームとなっている。
演習受講学生の就職活動指導	2005年1月～2009年12月	演習受講学生に対して、就職活動開始前における個人面接指導および就職活動中における履歴書・エントリーシート記入指導・面接対策指導を継続的に行っている。
法律サークルのサポート	2007年1月～2009年12月	法律サークルにおいて、自主ゼミや合宿で指導を行い、勉学および運営のサポートを行った。
高校への出前授業	2008年10月24日	岩手県大船渡高校で、出張講義を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『法学講義 民法6 事務管理・不当利得・不法行為』	共著	2006年3月	悠々社	奥田昌道／潮見佳男編	111～133頁
『マルシェ債権各論』	共著	2007年3月	嵯峨野書院	澤野和博 宮本健蔵 編著	324～409頁
『子どもの医療と法』	共著	2008年6月	尚学社	澤野和博 小山 剛 玉井真理子 編	239～278頁
『医療事故対応の実践 判例と実例に学ぶ』	共著	2009年9月	三協法規出版	和田仁孝 手嶋 豊 中西淑美 編著	34～39頁 60～65頁 75～81頁 109～114頁
『論点体系 判例民法8 不法行為II』	共著	2009年11月	第一法規株式会社	能見善久 加藤新太郎 編	245～284頁 361～400頁
Ba 「機会の喪失に基づく損害賠償」	単著	2006年4月	私法第68号		188～195頁
L'indemnisation pour la perte d'une chance	単著	2006年4月	私法第68号		280～279頁
C 「フランスの医療制度および医療責任の現状」	単著	2005年6月	医療における人格権侵害委員会報告書(平成17年6月)	代表 藤岡康宏	64～82頁

D	判例紹介「死亡または後遺障害を回避する可能性を喪失させたことに基づく損害賠償」	単著	2005年8月	年報医事法学 20号		139～145頁
F	「法務省へのパブリックコメント(2004年度)」	共著	2005年3月	東北学院大学法学政治学研究所紀要第13号	澤野和博 渡邊泰彦	209～218頁 うち担当部分209～212頁
G	報告「医療における同意と未成年者の地位(フランス)」		2005年3月	第3回「小児医療と法律問題」研究会での報告		
	報告「医療における同意と未成年者の地位(フランス)」		2005年7月	第4回「小児医療と法律問題」研究会での報告		
	「機会の喪失と損害賠償」		2005年9月	第35回 最新判例研究会での報告		
	報告「機会の喪失に基づく損害賠償」		2005年10月	中央大学比較法研究所共同研究グループ:損害賠償制度に関する比較法的研究における報告		
	個別報告「機会の喪失に基づく損害賠償」		2005年10月	2005年度日本私法学会大会での個別報告		
	報告「フランス法における損害賠償請求および差止めのシステムと間接侵害への適用可能性」		2006年5月	文化審議会著作権分科会法制問題小委員会司法救済ワーキングチームにおける報告		
	報告「同一不動産について順次相続が生じ、第2相続で持分を取得した相続人が単独名義の移転登記を備えた場合における第1相続の共同相続人からの抹消登記請求」		2006年7月	第43回最新判例研究会での報告		
	研究会・判例報告「業務上の過重負荷と従業員の基礎疾患とが共に原因となって従業員が急性心筋虚血により死亡した場合において、使用者の不法行為を理由とする損害賠償の額を定めるに当たり過失相殺に関する民法722条2項の規定を類推適用しなかった原審の判断に違法があるとされた事例」		2008年4月	最新判例研究会における報告		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動	
2002年1月～	日本私法学会会員
2003年12月～	交通法学会会員
2004年12月～	日本医事法学会会員
2005年6月～	塩竈市立病院倫理委員会委員

所属	法律学科	職名	教授	氏名	塩屋 保	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	発表の機会を増やし、課題レポートを提出させた。	1998年4月～2009年12月	「基礎演習」、「演習二部」では、毎回、課題レポートを提出させ、それをもとに、履修者を2グループに分けディベート形式で授業を行った。				
	テキスト・参考資料の作成・配布	2005年1月～2009年12月	「国際政治論」と「平和学」では、毎回、講義内容を詳しく記した配布コピーを作成、要点を明確にしなが授業を行った。				
	私語の効果的注意方法	2005年1月～2009年12月	私語のないよう履修者が互いに注意し合うことを奨励し、適切な授業環境の確保に努めた。				
	課題レポート提出と発表方法の工夫	2007年1月～2009年12月	「基礎演習」、「専門演習」では、毎回、課題レポートを提出させ、それをもとに、履修者を2グループに分けディベート形式で授業を行った。				
2	授業のテキスト・参考資料の作成・配布	2005年1月～2009年12月	「国際政治論」と「平和学」では、毎回、講義内容を詳しく記したコピーを作成・配布した。				
4	外国人留学生のための英語授業	1998年～2006年(6月と11月) 2007年, 2009年5月と11月	外国人留学生のための「日本研究夏期講座」と「日本研究秋期講座」の講師として、英語で「日本政治」と「日本の外交政策」の講義を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
H	グローバル・トランスフォーメーション	共著	2006年6月	中央大学出版部	滝田賢治 古城利明 白井久和 星野智他	76頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1992年4月～		日本国際政治学会会員					
1992年4月～		日本平和学会会員					
1999年4月～		多賀城市情報公開・個人情報保護審査委員会委員					
2004年4月～		北ヨーロッパ学会会員					

所属	法律学科	職名	教授	氏名	陶久 利彦	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	ほぼ毎回の授業で課題を出す。	2001年度から毎年		ほぼ毎回、課題を出し次回に宿題として回収し、その次の回には模範答案を配布する（「法的思考入門」）。			
	インターネットを利用した英語教育	2001年度から毎年		多人数での英語教育に対応するため、パソコンを使い、ネット上の英語情報を獲得することを目指している（英語I）。			
	カードを利用した思考整序法	2001年度から2009年度まで 随時		演習の運営を活性化させるため、グループごとにカードを使って考えをまとめていくを試みた。アナログ思考の再評価でもある（基礎演習、演習一部、同二部）。			
2	「法的思考入門講義案」	2001年度から2003年度まで		「法的思考入門」の授業で使用する講義案を冊子体にまとめた。			
	『法的思考のすすめ』	2003年1月		上記講義案を発展させ、教科書として公刊した。			
3	「カード利用による思考整序法とルール形成の試み」と題する講演	2003年9月		「東北北海道一般教育研究会」での報告。担当している演習科目でそれまでの数年間試みてきたカード利用に基づく思考整序法を検討してみた。			
4	東北学院榴ヶ岡高校での模擬授業	2008年10月15日		「裁判員制度について」と題して、同校の生徒約400名を相手に制度の概要と問題点を指摘した。			
	法学部に関心を持つ仙台高校生を相手にした模擬授業	2009年4月24日		仙台高校生約15名を対象に「男女間の三角関係の法的解決」と題して、「法的思考入門」で扱っている判決文を素材に法的思考の概要を話した。			
	多賀城キャンパス市民講座「豊かで希望のある社会を目指して」での講演	2009年6月10日		「自己決定権」と「人間の尊厳」と題する講演を行った。参加者は約50名。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	ドイツ法理論との対話	共編著	2008年12月	東北大学出版会	青井秀夫 陶久利彦		
	仮説推論についての一考察—アルトゥール・カウフマンの議論を手がかりに—	単著	2008年12月	東北大学出版会・青井秀夫・陶久利彦『ドイツ法理論との対話』		333～364頁	
	「人間の尊厳」の根拠を求めて	単著	2009年2月	青林書院・河上正二他編『要件事実・事実認定と基礎法学の新たな展開』		710～735頁	

C 「原則／例外」図式と信頼関係論－民法 612条2項を題材に－	単著	2008年3月	『法学セミナー』2008 年3月号	30～34頁
Human Dignity in the Legal and Bioethical Discourse	単著	2008年11月	『東北学院法学』67号	116～124頁
G Human Dignity in the Legal and Bioethical Discourse	単独	2007年8月	IVR 23nd World Congress	
H 人権とポストモダン時代の理性	単独訳	2008年12月	東北大学出版会・青井 秀夫・陶久利彦『ドイ ツ法理論との対話』	91～112頁
尊厳の専制	共訳	2008年12月	東北大学出版会・青井 秀夫・陶久利彦『ドイ ツ法理論との対話』	ウルフリット・ ノイマン/ 陶久利彦・ 早川のぞみ 共訳 113～138頁
自由法運動から具体的秩序・形態化思 考への歩み	共訳	2008年12月	東北大学出版会・青井 秀夫・陶久利彦『ドイ ツ法理論との対話』	オッコー・ バーレンツ/ 陶久利彦・ 伊藤 剛 共訳 193～244頁
ハンス・ケルゼン法学における二つの 根元的客観化プログラム	共訳	2008年12月	東北大学出版会・青井 秀夫・陶久利彦『ドイ ツ法理論との対話』	スタンリー・ ポールソン/ 陶久利彦・ 西山千絵 共訳 245～288頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	日本法哲学会理事 東北法学会会員 世界法哲学・社会哲学連合会員
--	---------------------------------------

所属	法律学科	職名	教授	氏名	高木龍一郎	大学院の授業担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要					
1	労働法演習において、『アルバイトのトラブルQ&A』の作成を指導		労働法演習において、主な執筆者をゼミ学生とした著作『アルバイトのトラブル Q&A』の作成を指導し、当該著作を教材の一部としても使用している。					
	「学生アルバイトにおける法的問題点」に関するアンケート調査を実施。	2000年～	労働法演習において、工学部を除く全学部生を対象とする左記のアンケートを実施させ、まとまった成果を、東北地方の各大学（弘前大学、岩手大学、山形大学、東北大学、東北学院大学、福島大学）の社会法ゼミナールが開催している「東北社会法ジョイントゼミナール」において発表させている。					
		2009年4月～12月	4年生のゼミ生を中心に、土樋／泉の全学部・全学年を対象に左記のアンケート調査を行ない、労働法上の問題点を実際に即して理解させている。					
	毎週、講義対象箇所について独自の詳細レジュメを配布している。	2005年4月～						
	授業理解の促進のために、毎回の授業ごとに独自のレジュメを作成・配布	2009年4月～12月	本学学生の理解度に応じて、分かりやすい内容のレジュメを作成し、講義ではそれを敷衍するやり方で授業を進めている。					
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2009年4月～12月	授業の冒頭で、前回の授業の振り返りを行ない、重要ポイントを指摘している。					
	2	『アルバイトのトラブルQ&A』2007年版	2007年					
		授業ごとの講義レジュメ	2009年4月～12月	各単元毎の講義レジュメを作成し、シラバスの内容の詳細な解説を行っている。				
		『ニューレクチャー労働法』（共著）	2009年12月	労働法の基本的論点について、分かりやすく解説した教科書である。「懲戒」「企業組織変動と労働契約」の章を担当執筆。				
	3	私立大学連盟・教育研究委員会FD分科会委員として、新任教員向けのセミナーで授業改善について指導・助言	2006年10月	浜名湖グランドホテルにおけるセミナーでの活動				
男女共同参画社会の実現を目指す全国シンポジウムにおける講演「仕事と家庭の調和のための法的仕組みとその理念」			仕事と家庭の調和（ワーク・ライフバランス）実現を可能にする法律の理念と、その実効性について講演した。					
労働審判員対象の講義		2009年6月11日	個別労働紛争解決研修において、労働契約に関する講義を行なった。					
青山学院大学大学院ビジネス法務コースに学ぶ社会保険労務士を対象とする講義		2009年9月12日～13日	「職場におけるハラスメント」と題して、講義を行なった。					

高校への出前授業の講師	2009年11月6日	山形県酒田北高校の1,2年生を対象に、「就職をめぐる法律問題」と題して授業を行なった。
4 東北社会法ジョイントゼミナールへの参加	2009年11月21日～22日	本学が主催校となり、弘前大学、山形大学、成蹊大学の労働法／社会保障法のゼミと合宿形式で報告会を開催した。このジョイントゼミナールは2000年から継続して開催しているものであり、いわゆる他流試合形式で、学生の報告力、ディベート力を高めるのに寄与している。
東北学院大学FD研修会における報告	2009年11月26日	2009年3月に京都で行われたFDフォーラムでの研修成果（「キャリア教育の実践と今後のあり方」）を報告した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
G 「S. Deakin and F. Wilkinson, における労働法, 競争力, そして社会権」について		2007年9月	東北労働法研究会 (外尾健一教授<東北大学名誉教授>主宰) における報告		
「イギリスにおける整理解雇の現状と課題」		2008年11月	東北労働法研究会 (外尾健一教授<東北大学名誉教授>主宰) における報告		
「懲戒をめぐる法律問題」		2009年8月	イギリス社会法研究会における報告		
H 『H. コリンズ・雇用法』	共著	2008年3月	成文堂	高木龍一郎 石橋 洋 他	

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

1983年～	日本労働法学会会員
1984年～	日本社会保障法学会会員
2004年～	私立大学情報教育協会理事
2005年～	日本労働法学会企画委員
2006年～	国際労働法社会保障法学会会員
2006年3月～	宮城地方社会医療協議会委員。同会長 (2007年3月から)
2006年10月～	日本労働法学会企画委員
2007年～	宮城県男女共同参画審議会委員
2008年～	私立大学連盟教育研究委員会FD分科会委員

<p>2008年～</p> <p>2008年～</p> <p>2009年11月～</p>	<p>東北地方社会保険医療協議会会長</p> <p>宮城県社会保険診療報酬支払基金幹事</p> <p>ジェンダー法学会会員</p>
--	---

所属	法律学科	職名	教授	氏名	武田 紀夫	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<p>1</p> <p><講義> 学習した事項の確認と質問</p> <p>授業の要点をまとめたプリントを配り、それに沿って授業を進める。</p> <p>毎回の授業の中で少なくとも5回ジョークを入れる。</p> <p><演習・講読> 演習の出席者全員に毎回小レポートを提出させる。研究合宿を行い、集中的に授業を進める。</p>		2005年1月～2009年12月		<p>授業終了後、質問の時間を確保する。</p> <p>講義のはじめに、要点をまとめたプリントを配布する。</p> <p>スライドやOHPを使用し講義に興味を持たせる。</p> <p>学生がまちがえ易い所や誤解し易い所を特に詳しく説明する。</p> <p>説明の際、身の回りの事例・逸話を引き合いに出しながら、ジョークを入れる。</p> <p>1, 2, 3, 4年生向けの各演習において毎回授業終了時に、確認事項や質問を、カードに書かせて提出させる。次回に回答をする。</p>			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb 刑事控訴事件における棄却された控訴趣意書三例		単著	2009年7月	東北学院法学(第68号)		112～122頁	
G 東アジア法哲学会で部会の司会を行う			2008年9月	長春市吉林大学			
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1965年10月～		日本刑法学会 会員					
1970年1月～		日本刑事政策学会 会員					
1972年10月～		日本法哲学会 会員					
1987年10月～		日本犯罪社会学会 会員					
1991年10月～		比較法史学会 会員					
1998年1月～		東アジア法哲学会 会員(2008年9月、長春で開催に参加)					
2000年1月～		国際法哲学法社会学会 会員(IVR 2009年9月15～19日、北京で開催に参加)					
2003年12月～		日弁連登録。仙台弁護士会所属。本務である講義に支障のない範囲で刑事国選弁護事件を受任。					

2007年4月～

仙台市精神医療審査会（法律委員）。

2007年5月～

アジア法学会 会員

所属	法律学科	職名	教授	氏名	田中 輝和	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	原則として前後期各1回、刑事手続関係者をゲストスピーカーとして招く特別授業枠を設ける。	1990年度より毎年度		検察審査会事務局長、弁護士、検察官など			
	開講日に1年間の授業スケジュールを配付	2003年度より毎年度		テキストの予習範囲も明示			
	授業へのパワー・ポイントの活用	2003年度より毎年度					
	レジュメの作成方法の工夫	2007年度より毎年度		レジュメをA(この項の目的)、B(重要語句)、C(見方や考え方)、D(練習問題)の順序に作成した。			
2	『刑事訴訟法基本判例13選』	2002年度より2005年度まで		年度ごとに多少の改善を加えている。2005年度には、一部判例を差し替えた。			
	パワーポイント用配布資料(関連資料等付)	2003年度より毎年度		授業ごとに配付している。			
	『刑事訴訟法基本判例17選』	2006年度		新たに4つの判例を加え、教科全体をカバーできるようにした。			
	教材『刑事訴訟法基本判例17選』(平成19[2007]年度版)	2007年4月		収録基本判例のうち、10件について解説を付した。			
	教材『刑事訴訟法基本判例17選』(平成20[2008]年度版)	2008年5月		一部の判例を差し替えると共に、すべての判例に解説を付した。			
	『ゼミ卒業レポート集』	2009年3月		2008年度演習二部のレポート集(1984~92年度レポートのリスト付)			
	教材『刑事訴訟法基本判例17選』(平成21[2009]年度版[前期用])	2009年4月		一部の判例を差し替えると共に、解説を充実させた。			
4	「行政書士のための特設講座」運営委員長	2004年度~2006年度		大学院法学研究科・日本行政書士会連合会共催			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	裁判員制度に対する「一般社会人」、「学生」、検察審査員経験者の意識の比較—ミニ・アンケート調査から(研究ノート)	単著	2008年	東北学院大学法学政治学研究所『東北学院大学法学政治学研究所紀要』16号		87~105頁	
	裁判員制度に対する「一般社会人」、「学生」、検察審査員経験者の意識の比較(その2)	単著	2009年	東北学院法学68号		逆頁206~192頁	
C	わが国における自由心証主義の成立—前近代的刑事司法の基層と現在	単著	2005年12月	小田中聰樹先生古稀記念論文集・民主主義法学・刑事法学の展望(上)		318~340頁	

D	古い検審PR映画を観て	単著	2005年1月	研の環(仙台検察審査協会機関誌)第2号		25~26頁
	検察審査会制度に対する法学部学生の意識—むしろ検察審査会制度のPRこそ	単著	2006年1月	研の環(仙台検察審査協会機関誌)第3号		30頁
	刑事司法改革に対する意見	単著	2006年3月	東北学院大学法学政治学研究所紀要14号		53~82頁
	検察審査会法2004年改正の内容と意義	単著	2008年	研の環(仙台検察審査協会会報)5号		24~27頁
	刑訴法435条6号の「証拠の明白性」を否定した原決定が是認された事例—いわゆる袴田再審請求事件特別抗告審決定—	単著	2008年	刑事法ジャーナル Vol.13		103~108頁
	裁判員制度の目的を考える	単独	2009年	研の環(仙台検察審査協会会報)6号		18~21頁
G	新しい証拠開示ルールでえん罪を防止できるか—松山事件の血痕鑑定を素材として	単独	2007年	刑事弁護研究会(仙台弁護士会)		
	裁判員制度に対する「一般社会人」「学生」、検察審査員経験者の意識の比較—ミニ・アンケート調査を基にして—	単独	2008年	日本刑法学会仙台支部大会	田中輝和 高倉新喜	逆頁246~ 197頁
H	死刑に関するイリノイ州・州知事委員会報告書 第2章 警察及び公判前の捜査	共著	2006年3月	東北学院法学64号		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年3月まで	仙台弁護士会懲戒委員
2007年7月17日	宮城県検察審査協会連合会総会(気仙沼市)記念講演「検察審査法2004年改正の内容と意義について」
2009年7月4日	宮城県検察審査協会連合会総会(仙台市)記念講演「最近の検察審査法の改正について」

所属	法律学科	職名	教授	氏名	長岡 龍弐	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 演習では、全員に質問をし、活発な時間になるよう努力。		2007年4月～2009年12月					
刑事政策の関連から、既存の研究成果のほか、最新の統計資料、刑事立法の動向について、印刷物配布、インターネットでの検索情報の提供、会員のみ入手できる日弁連からの情報なども必要な範囲内で、講義に利用。		2007年4月～2009年12月					
耳学問のみでは、学生の興味も半減するとの思いから、ビデオ活用も実施。		2008年4月、2009年4月					
試験結果について、出題の目的、採点基準、講評を詳しく説明。		2009年9月11日					
論文試験の論点などを、印刷物にして配布。		2009年9月11日					
論文試験から、特に、気がついた点として、論文作成上の注意点と説明。		2009年9月11日					
4 公務員講座		2002年～2006年					
教育実習生への指導		2005年5月					
法学政治学研究所公開講座		2006年11月					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
E 交通犯罪に対する厳罰化に思う			2009年1月	学校法人東北学院 3L 通信 Vol.8		12頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1972年4月～		日本刑法学会					
1978年4月～		東北法学会					
1990年4月～		日本被害者学会					

所属	法律学科	職名	教授	氏名	林 伸太郎	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 講義科目における, 学生の理解を促進し, 深いものとするための工夫をしている。講義の初回に, 今後通年あるいは半年の, 毎回の講義内容目次を予め配布するの, その一つである。			2008 年通年	講義科目においては, 毎回の授業内容につきシラバスを配布するとともに, 積極的に板書して学生の理解をサポートしている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba 抹消登記請求と意思表示の執行		単著	2005 年	有斐閣, 別冊ジュリスト 177 号 (民事執行・保全百選)		204 頁	
給与所得者等再生における可処分所得要件		単著	2006 年	有斐閣, 別冊ジュリスト 184 号 (倒産法判例百選第 4 版)		168 頁	
上訴の利益と附帯控訴		単著	2009 年	有斐閣, ジュリスト増刊 (新・法律学の争点シリーズ 4 民事訴訟法の争点)		246 頁	
F 2008 年学界回顧・民事訴訟法		共著	2008 年	日本評論社, 法律時報 80 巻 13 号	共同執筆 齋藤 哲 小原将照 林伸太郎	204 頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
			仙台弁護士会懲戒委員会委員 東北大学法学部同窓会基金運営委員				

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	新井 誠	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義用のプリントの作成	2005年～2009年		講義における学生の便を考慮して、授業内容を項目化したレジュメを作成			
	演習におけるディベートの実施	2005年～2009年		演習において学生が発言できるチャンスを確保するためのディベートの実施			
2	はじめての行政法	2005年2月		行政法初学者向けテキスト			
	憲法学の基礎理論	2006年5月		憲法を若干専門的に学ぶためのテキスト			
	憲法のレシピ	2007年4月		憲法演習などで使うための事例設定テキスト			
	判例から学ぶ憲法・行政法 (2009年5月「第2版」発行)	2007年4月		憲法と行政法を複合的に学ぶためのテキスト			
3	釧路公立大学公開講座	2005年10月・11月		「現代における議会と国民―憲法規範から読み解く」と題した市民向け講座			
	北海道用地対策協議会釧路地区部会定例総 会講演会	2005年11月		「個人情報保護法について」と題した講演会			
	東北学院大学法学政治学研究所公開講座	2007年11月1日		「国民と議員―その関係を法的視点から考える―」と題した市民向け講座			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	はじめての行政法	共著	2005年2月	成文堂	藤井俊夫 編著	49～59, 61 ～72頁	
	憲法学の基礎理論	共著	2006年5月	不磨書房	新井 誠 高作正博 玉蟲由樹 真鶴俊喜 著	55～71, 106 ～121, 122 ～131, 184 ～196, 287 ～299頁	
	憲法のレシピ	共著	2007年4月	尚学社	小山 剛 山本龍彦 新井 誠 編著	189～196, 255～262, 297～305, 317～325頁	
	判例から学ぶ憲法・行政法 (2009年5月「第2版」発行)	共著	2007年4月	法学書院	川崎政司 小山 剛 編	26～49, 122 ～137頁	
	判例ライン憲法	共著	2007年10月	成文堂	大沢秀介 編著	172～187頁	
	憲法確認用語 300	共著	2008年1月	成文堂	大沢秀介 編著	70～74頁	

議員特権と議会制	単著	2008年2月	成文堂		1~259頁
基本憲法	共著	2009年4月	悠々社	辻村みよ子 編著	261~274頁
判例憲法	共著	2009年4月	有斐閣	大石 眞 大沢秀介 編著	45~52, 191 ~ 207, 241 ~ 248, 272 ~ 278, 285 ~306頁
Ba 国会議員の免責特権と国家補償をめぐる憲法的考察—最高裁一九九七年九月九日判決を素材として	単著	2006年3月	『現代法律学の課題—日本法政学会五十周年記念』(成文堂)	日本法政学会編	85~99頁
Bb 日本法における外貌醜状痕の傷害補償算定基準の男女間格差をめぐる憲法問題	単著	2005年12月	釧路公立大学地域研究14号		109~126頁
フランスにおけるテロ対策法制	単著	2006年3月	『市民生活の自由と安全—各国のテロ対策法制—』(成文堂)	大沢秀介 小山 剛 編著	123~155頁
(研究ノート) 地方議会における議会の名誉毀損的発言と損害賠償責任—熊本県菊池市議会での事例をめぐる判例を素材として	単著	2006年12月	釧路公立大学地域研究15号		121~132頁
フランス憲法における両院制	単著	2007年10月	比較憲法学研究18・19合併号(比較憲法学会)		29~54頁
フランス憲法—国家による子どもの権利保護	単著	2008年6月	『子どもの医療と法』(尚学社)	玉井真理子 小山 剛 編	151~179頁
フランス共和国の議会制度	単著	2008年9月	別冊 RESEARCH BUREAU 論究10号(衆議院調査局)		10~18頁
アメリカにおける議員免責特権について—合衆国憲法の発言・討議条項をめぐる歴史と解釈	単著	2008年9月	千葉大学法学論集 23巻1号		103~153頁
フランス法における「安全」と「基本権」をめぐる憲法論	単著	2008年12月	『慶應の法律学—慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集:公法I』(慶應義塾大学出版会)		155~176頁
上院の選挙法原則・選挙方法と憲法	単著	2009年2月	選挙研究24巻2号(日本選挙学会)		62~73頁
フランス—治安法制と権力分立・私生活の尊重をめぐる憲法院判決の検討	単著	2009年7月	『自由と安全—各国の理論と実務—』(尚学社)	大沢秀介 小山 剛 編	288~308頁

C	有事法制とシビリアンコントロール	単著	2005年1月	法学セミナー601号		40～42頁
	(報告書) 国会議員政策担当秘書の立法補佐としての役割について	単著	2005年3月	平成16年度科研費・研究課題名「変革期の立法過程における立法補佐体制の実証的・総合的研究」研究報告書		全6頁
	在外国民の選挙権をめぐる最高裁大法院判決	単著	2005年12月	法学セミナー612号		74～77頁
	住基ネットによるプライバシー侵害	単著	2006年3月	法学教室・判例セレクト2006年3月号		3頁
	行政調査権と住居の不可侵	単著	2007年3月	憲法判例百選II(第5版)(有斐閣)	高橋和之 長谷部恭男 石川健治 編	262～263頁
現代選挙法の公理	単著	2008年12月	憲法の争点(有斐閣)	大石 眞 石川健治 編	186～187頁	
D	フランスにおける議員免責特権の研究(博士論文)	単著	2005年1月(授与日)	学位取得論文(博士(法学)(慶應義塾大学))		1～267頁
	憲法問題と『地域・地方』の視点	単著	2008年3月	法学セミナー639号		50～53頁
	地域が提案する新たな地方自治のあり方	単著	2008年10月	法学セミナー646号		48～52頁
	世襲議員の「人権」?	単著	2009年10月	法学セミナー658号		扉
F	(著書紹介) 議会と憲法	単著	2008年3月	アメリカ法2007年2号(日米法学会)		238～243頁
	(判例回顧) 憲法	共著	2008年6月, 2009年6月	法律時報別冊『判例回顧と展望2007』・『判例回顧と展望2008』		両年とも, 3～21頁
G	フランス憲法における両院制	単独	2006年10月	比較憲法学会第16回総会及び研究会(国士舘大学)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金・若手研究(B) (課題番号16730017)・研究課題名「国会議員の身分の憲法的保障のあり方と現代議会制一日の議員特権の比較憲法的考察」	(2004)～2005年度	個別(研究代表者)	

科学研究費補助金・基盤研究 (A) (課題番号 17203004)・研究課題名「変革期における新たな立法動向と多元的立法過程に関する比較的・総合的研究」	2005～2008 年度	共同 (研究分担者)	
科学研究費補助金・基盤研究 (A) (課題番号 21243003)・研究課題名「二院制の比較立法過程論的研究」	2009 年度	共同 (研究分担者)	
科学研究費補助金・若手研究 (B) (課題番号 21730032)・研究課題名「議会と立法者の憲法解釈－『行為規範としての憲法』研究」	2009 年度	個別 (研究代表者)	

IV 学会等及び社会における主な活動

2001 年 4 月～2007 年 3 月	白糠町情報公開審査会・委員
2001 年 4 月～2007 年 3 月	厚岸町情報公開審査会・個人情報保護審査会・各委員
2002 年 4 月～2007 年 3 月	釧路東部消防組合情報公開審査会・個人情報保護審査会・各委員
2005 年 4 月～2007 年 3 月	弟子屈町情報公開審査会・個人情報保護審査会・各委員
2006 年 4 月～2007 年 3 月	釧路地域協議会・委員
2006 年 4 月～2007 年 3 月	釧路市情報公開・個人情報保護運営審議会・各委員
現在に至る	日本公法学会会員
現在に至る	日本法政学会会員
現在に至る	全国憲法研究会会員
現在に至る	慶應法学会会員
現在に至る	比較憲法学会会員 2008 年 10 月, 田上穰治賞 (比較憲法学会) 受賞 (著書『議員特権と議会制』)
現在に至る	日米法学会会員
現在に至る	憲法理論研究会会員
現在に至る	日本選挙学会会員
現在に至る	日仏法学会

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	押木 由之	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習した事項の総括と理解の助けとして	2007年4月～2008年1月	毎回前回の復習として概括的な説明をし、授業終了時にまとめをする。				
	学習内容の理解の補助的事項のために	2007年4月～2008年1月	現在起きている企業に関する事件をトピックとして紹介解説する時間を設ける。				
	学生の理解度を確認する	2007年4月～2008年1月	必ず、学生に講義中個別に質問し理解の度合いを確認する。				
	基本的部分を重点的に教え、理解力を確かめながら、その応用となる発展部分を説明する	2008年1月～2009年12月					
	自発的な勉強のため、その部分の学会レベルの状況や最近の参考文献を紹介する	2008年1月～2009年12月					
2	教科書以外に毎回講義に関連する詳細なプリントを作成し配布した	2005年4月～2006年3月	法科大学院における「消費者と法」の講義資料プリント				
	教科書や講義の理解の助けとして、実務で用いられている書式や統計資料を作成し配布した	2008年1月～2009年12月					
3	講演「医療サービスと消費者」－医療事政をめぐる問題点－	2005年7月	宮城県柔道整復師会における講演				
	講演「医療過誤とインフォームドコンセント」	2005年7月	宮城県柔道整復師会における講演				
	講演「医療と個人情報保護法」	2005年8月	宮城県柔道整復師会における講演				
	講演「医療をめぐる法的諸問題」	2005年9月	宮城県柔道整復師会における講演				
4	本学設置のカウンセリングセンター代表所員として学生の面談活動とその運営に従事した	1999年～2006年					
	入試部副部長及び入試センター所員として入試業務に従事した	2001年～2005年					
	就職部副部長として就職活動インターンシップの指導を行った	2005年～2006年					
	本学設置のカウンセリングセンター所員として学生の面談活動に従事した	2007年～2009年					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
E 医療過誤とインフォームドコンセント			2006年3月	会報赤門1号			

「会社法」大改正と企業社会		2006年7月	東北学院同窓会会報 3L通信3号		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
<p>2000年4月～2007年3月</p> <p>2000年4月～2007年3月</p> <p>2001年4月～</p> <p>2002年4月～2005年3月</p> <p>2003年～2007年</p>	<p>日本私法学会会員</p> <p>日本経済法学会会員</p> <p>金融法学会会員</p> <p>日米法学会会員</p> <p>日独法学会会員</p> <p>塩釜市情報公開審査会委員</p> <p>塩釜市個人情報審査会委員</p> <p>東北経済法研究会会員として活動</p> <p>宮城県福祉サービス適正化委員</p> <p>仙台市精神医療審査会委員</p>				

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	小原 将照	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義科目におけるレジュメの作成と配布	2005年1月～2009年12月		講義科目では、毎回レジュメを作成し、配布することとしている。その理由は、人数が少ない講義であれば、テキストの利用と板書によって本人たちの理解度を測りながら進行することも可能であるが、大人数の場合そのような丁寧な方法は無理である。また、時間的制約と講義内容の充実を考えるのであれば、有る程度、統一的手法を用いながら、受講者にできる限り、理解しやすい講義を提供することが必要となる。そこで、毎回、分量はB4サイズで3枚のレジュメを配布することとした。			
	映画等のソフトと法律問題をリンクさせた講義の実践	2005年9月～2009年12月		映画やTVドラマなどの映像ソフトの中で法律問題をテーマにしたもの取り上げ、各ソフトの内容に関する法律問題について学生に考えさせる。講義の進行は、①当該テーマに関する基本法律知識の解説、②ソフトの鑑賞、③シーンの解説と検討ポイントの説明、④資料収集とレポート作成、⑤レポートの添削と返却、という順番である。また、④、⑤の内容をディベート、プレゼンテーションの準備・実施として行うこともある。取り上げるテーマは、現在議論されている問題がほとんどであり、答えが一樣に決まるものではない。具体的には、「成年年齢」「病气と労働差別」「原爆投下の意味」「教育を受ける権利」「国際社会の中の日本」などのテーマを取り上げた。			
2	民事訴訟法に関するレジュメ	2005年1月～2007年3月		岡山商科大学在職中に担当していた民事訴訟法において、毎回レジュメを作成していた。			
	破産法に関するレジュメ	2007年4月～2009年12月		現在担当している破産法の講義において、毎回レジュメを作成している。			
3	岡山商科大学在職中に、法学部における学生の満足度1位の講義担当者として、専任教員の授業研究の対象例として報告を行った。	2006年6月		2005年度に実施された学生による授業評価アンケートの中で、講義に関する満足度を測る項目で、演習科目および履修者20名未満の科目を除き、担当する民事訴訟法が法学部第1位の評価を受けた。この評価により、大学から専任教員に対して講義の実践例を講演する法学部代表として選ばれ、これを行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	総・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb 倒産専門家制度について－イギリスにおける倒産実務家制度を参考にして－		単著	2005年2月	岡山商科大学法学論叢13号		67～94頁	
当事者適格の喪失と訴訟手続の中断・受継－株主代表訴訟・住民訴訟について－		単著	2006年2月	岡山商科大学法学論叢14号		27～48頁	

破産管財人の法的地位に関する一考察 —法定訴訟担当論の前提として—	単著	2007年2月	岡山商科大学論叢 15号		1~26頁
相殺期待の詐害的創出に関する一考察 —旧法下裁判例による検討—	単著	2008年11月	東北学院法学 67号		1~56頁
主たる債務者による一部弁済と開始時 現存額主義	単著	2009年12月	青山法学論集 51巻 1・2合併号		413~434頁
F 破産債権者が破産宣告の時に於いて期 限付又は停止条件付であり破産宣告後 に期限が到来し又は停止条件が成就し た債務に対応する債権を受働債権とし 破産債権を自働債権として相殺をする ことの可否	単著	2005年11月	法学研究 78巻11号		42~52頁
破産者が破産手続中に自由財産の中か ら破産債権に対して任意弁済をするこ との可否	単著	2007年3月	法学研究 80巻3号		185~194頁
原告として確定されるべき者が訴訟提 起当時その国名を「中華民国」として いたが昭和四七年九月二九日の日中 共同声明に伴って「中華人民共和国」に 国名が変更された国家としての中国で あるとされた事例（ほか）	単著	2008年1月	法学研究 81巻1号		118~135頁
2008年学会回顧（民事訴訟法）	共著	2008年12月	法律時報 80巻13号	林伸太郎 齋藤 哲	204~219頁
文書提出命令却下申立てに対する口頭 弁論終結後の即時抗告の適否	単著	2009年3月	金融・商事判例 1311 号		162~163頁
免責許可決定の確定と債権者代位訴訟 の帰趨	単著	2009年3月	東北学院大学法学政 治学研究所紀要 17号		77~93頁
前訴において一個の債権の一部につい てのみ判決を求める旨が明示されてい たとして、前訴の確定判決の既判力が 当該債権の他の部分を請求する後訴に 及ばないとされた事例	単著	2009年3月	法学研究 82巻3号		119~133頁
開始時現存額主義の再検討のための覚 書（研究ノート）	単著	2009年7月	東北学院法学 68号		154~124頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
東北学院大学研究奨励金	2008年度	個別	イギリスにおける個人 債務者の倒産処理シ ステムについて

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1996年5月～	日本民事訴訟法学会会員
2002年10月～	日本私法学会会員
2004年10月～	金融法学会会員
2004年11月～	仲裁 ADR 法学会会員

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	木下 淑恵	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 疑問解消のための時間設定			2008年4月～		各科目の最終講義時に、全体のまとめを行うとともに、あらかじめ学生から集めた疑問について答える。		
基礎的内容の復習による理解促進			2009年9月～		他学部で科目で新しいテーマに入るとき、導入として最初に、高等学校で学習する内容を簡単に振り返る。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
D 自律社会における保健、医療、療養		単著	2006年		「スウェーデン—自律 社会を生きる人びと」 早稲田大学出版部	岡沢憲芙 中間真一編	119～140頁
女性の生き方		単著	2006年		「スウェーデン—自律 社会を生きる人びと」 早稲田大学出版部	岡沢憲芙 中間真一編	201～220頁
E 海外法律情報：スウェーデン・アルコール法改正		単著	2005年		ジュリスト (1285号)		117頁
海外法律情報：フィンランド・民間保健医療サービスに関する提案		単著	2005年		ジュリスト (1292号)		7頁
海外法律情報：スウェーデン・機会均等法等の改正		単著	2005年		ジュリスト (1297号)		109頁
海外法律情報：ノルウェー・差別対策オンブズマン法		単著	2005年		ジュリスト (1301号)		115頁
海外法律情報：フィンランド・タバコ法改正案		単著	2006年		ジュリスト (1307号)		139頁
海外法律情報：スウェーデン・親休暇法改正案		単著	2006年		ジュリスト (1312号)		53頁
海外法律情報：フィンランド・選挙法改正案		単著	2006年		ジュリスト (1318号)		149頁
海外法律情報：ノルウェー・労働・福祉行政法		単著	2006年		ジュリスト (1323号)		7頁
海外法律情報：スウェーデン—性差別的広告対策法案		単著	2008年		ジュリスト第1355号		84頁
海外法律情報：フィンランド—コミュニティ区域法改正		単著	2008年		ジュリスト第1360号		36頁
海外法律情報：スウェーデン—差別対策法		単著	2008年		ジュリスト第1365号		123頁

海外法律情報：ノルウェー休暇法改正	単著	2009年	ジュリスト第1370号		222頁
海外法律情報：スウェーデンー結婚をめぐる法改正	単著	2009年	ジュリスト第1375号		101頁
海外法律情報：フィンランドー機会均等法改正	単著	2009年	ジュリスト第1381号		92頁
海外法律情報：スウェーデンー裁判所に関する法改正	単著	2009年	ジュリスト第1386号		67頁
G 1920年代スウェーデンにおける「国民の家」の登場と「平等」概念ー2つの意味とコンテクションの変容ー		2006年10月	日本比較政治学会		
H スウェーデン議会史	共訳	2008年	早稲田大学出版部	岡澤憲英 監訳	1～215頁, 225～246頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究（A）	2009年度	共同・研究分担者	主要国の政治意思決定構造の比較研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年11月～	北ヨーロッパ学会理事（監事） 北ヨーロッパ学会 監事, 学会誌編集委員長 中央労働委員会地方調整委員 会長代理 宮城地方労働審議会委員
-----------	--

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	黒田 秀治	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習内容の記憶への定着と授業理解の促進	2005年1月～2009年7月		授業の冒頭で前回の復習と概略を説明し、年間を通じた講義の文脈の中で本日の授業の位置付けを理解させるように努めた。			
	詳細なプリント作成と論点整理	2005年1月～2009年7月		論点およびその実例として国際先例を提示したプリントを作成・配布して、授業の進捗と学生の理解の促進という二律背反的問題の可能な限りの調整を図った。			
	学生の関心を惹起させ継続させるテーマの選択と学内施設の利用	2005年1月～2009年7月		1年生対象演習と2年生対象演習では、法学部学生として今後勉強するためのリテラシーの習得を重視して、テーマの選択やAV機器の利用に特段の配慮を払った。			
	英米文献を読むための基礎的作法・文献渉猟法の学習	2005年1月～2009年7月		外国書購読の演習では、英語文献を輪読する過程で、わが国と異なる独特の引用方法や文献渉猟法を教授し、英語・法律学のみならず、英米文献学習のリテラシーの教育にも心がけた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	テロリズム等重大な人権侵害に対する米国主権免除法(FSIA)の対応の変遷	単著	2009年2月	『国際法の新展開と課題—林司宣先生古稀祝賀』(信山社)	島田征夫 古谷修一 編	93～125頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1982年4月～		国際法学会会員					
1982年5月～		American Society of International Law(米国国際法学会)会員					
1991年11月～		日本国際経済法学会会員					
1995年5月～		世界法学会会員					

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	黒野 葉子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年1月～2009年12月	毎回講義の冒頭で前回の復習とその回の概略を説明した。				
	学習事項の体系的理解の促進	2005年1月～2009年12月	現在学習している事項が、すでに学習した事項とどのように関わってくるかについても言及することによって、学習事項の体系的理解を促進させるとともに、既出事項の復習を促した。				
	予習項目の指示	2005年1月～2009年12月	講義の終わりには次回の講義で扱うテーマを示し、予習の便を図った。				
	他ゼミとの合同演習	2005年9月	他大学における同分野のゼミと合同法律討論会を行った。				
2	「会社法」講義におけるレジュメ	2005年1月～2009年12月	重要事項を空欄にして学生に穴埋めさせる方式の講義用レジュメを作成した。				
	演習用の設例教材	2005年1月～2009年12月	毎回のゼミにおいて受講生が検討し、議論する素材として、設例教材を作成した。				
	『レクチャー現代会社法』（法律文化社）	2009年5月	学部学生向けの会社法の教科書の分担執筆を行った。				
3	現職教員研修セミナー	2008年12月6日	現職の中学・高校社会科担当教員の「商業法規」領域の研修として、「商法改正」をテーマとしたセミナーを行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	『新版基本問題セミナー1 会社法』	共著	2005年4月	成文堂	酒巻俊雄 尾崎安央	366～379頁	
	『現代会社法用語辞典』	共著	2008年8月	税務経理協会	宮島 司 編著	31頁, 32頁, 51頁, 171頁, 177頁, 198頁	
	『ロースクール演習会社法』	共著	2009年3月	法学書院	中村信男 受川環大 編著	9～14頁, 173～179頁	
	『レクチャー現代会社法』	共著	2009年5月	法律文化社	黒田清彦 ほか	98～109頁	
C	「組織再編法制における規制緩和」	単著	2007年8月	ビジネス法務 Vol.7 No.9 (中央経済社)		107～115頁	

「組織再編法制における規制緩和と公正性の確保」	単著	2008年11月	『改正史から読み解く 会社法の論点』 (中央経済社)	稲葉威雄 尾崎安央	305～345頁
D 『会社法務質疑応答集1』 『会社法務質疑応答集2』	共著	2006年5月 2006年6月	第一法規		3915～3996 頁 4121～4174 頁 4751～4815 頁
「誌上答練解説(A) 商法」	単著	2006年10月	受験新法 668号		115～117頁
「会計限定監査役の監査と『監査報告』」	単著	2006年11月	新会社法A2Z Vol. 20		22～26頁
「誌上答練解説(A) 商法」	単著	2007年5月	受験新法 674号		98～100頁
『会社法務質疑応答集2 (追録 114号)』	共著	2009年1月	第一法規		4821～4825 頁
『会社法務質疑応答集2 (追録 117号)』	共著	2009年1月	第一法規		
F 「譲渡制限株式につき会社に対して譲渡の承認および相手方指定請求した株主がその請求を撤回することのできる時期」	単著	2005年1月	判例タイムズ 1164号		82～88頁
「法人格否認の法理と親子会社」	単著	2006年4月	『会社法重要判例解説』(第三版, 成文堂)	酒巻俊雄 尾崎安央 編	10～11頁
「社員は他の社員の過半数の決議により退社する旨の合資会社定款規定の有効性」	単著	2006年4月	『会社法重要判例解説』(新版, 成文堂) (第三版, 成文堂)	酒巻俊雄 尾崎安央 編	330～331頁 324～325頁
「持分(株式)の相続と訴訟の承継」	単著	2006年4月	『会社法重要判例解説』(第三版, 成文堂)	酒巻俊雄 尾崎安央 編	36～37頁
法律上の原因なく代替性ある物を利得した受益者が利得した物を第三者に売却した場合に負う不当利得返還義務の内容(最判平成19年3月8日)	単著	2008年9月	成文堂 『会社法重要判例解説(第3版・補正版)』	酒巻俊雄 尾崎安央 編	380～381頁
「会社の行為が商行為に該当することの主張立証責任」(最判平成20年2月22日判決)	単著	2009年3月	金融商事判例 1310号		20～24頁
G 「譲渡制限株式につき会社に対して譲渡の承認および相手方指定請求した株主がその請求を撤回することのできる時期」	個別報告	2005年1月	東北学院大学企業法務研究会における報告		
「清算結了株式会社の利害関係人が商法429条に基づき会社の帳簿および重要資料の閲覧・謄写を求めることの可否」	個別報告	2005年9月	東北学院大学企業法務研究会における報告		

「『新しい会社法』を考えるセミナー～ 商法から会社法へ～」	個別 報告	2005年10月	登米地区商工労働問題講習会における講演		
「会社法下における払込の仮装について」	個別 報告	2006年6月	東北学院大学企業法務研究会における報告		
「会社法下における組織再編」	個別 報告	2006年11月	東北学院大学企業法務研究会における報告		
「会社の行為が商行為に該当することの主張立証責任」(最判平成20年2月22日判決)	個別 報告	2008年10月	早稲田大学商法研究会・グローバルCOE企業法制と法創造総合研究所商法研究会における研究発表		
「日刊新聞法の適用ある会社における株式譲渡に関する合意の有効性」(最三小判平成21年2月17日判決(日経新聞社事件))	個別 報告	2009年8月	早稲田大学商法研究会・グローバルCOE企業法制と法創造総合研究所商法研究会における研究発表		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	日本私法学会
--	--------

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	近藤 雄大	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した内容の定着を図る	2009年4月～12月		毎回の授業の初めに、前回の重要点の復習を行っている。			
	ゼミ合宿の実施	2009年8月		ゼミ生の基本的学力向上を目的として合宿を実施した。それに関連したテーマで、レポートを作成し、提出させた。			
	試験答案の講評とフォローアップ	2009年9月		前期試験の問題の解説と講評を行い、疑問をもった学生や評価に納得がいかない学生に対して答案を開示して説明をした。			
2	授業の補助教材としてのレジュメの作成	2009年4月～12月		授業の内容を理解しやすくするため、毎回補助教材としてレジュメを作成し、配布している。			
4	公開講座「市民社会と法」の講師	2009年11月19日		「成年後見制度と財産管理」というテーマで公開講座の講師を務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	複数の契約における一体性の判断基準とその要素について	単著	2006年1月	行政社会論集 18 巻 3号		37～92 頁	
	買戻特約付売買の法的性質と譲渡担保	単著	2007年3月	行政社会論集 19 巻 4号		84～113 頁	
	単一契約における一部無効の判断方法	単著	2009年2月	同志社法学 60 巻 7号		574～593 頁	
Bb	コンビニエンス・ストアのフランチャイズ契約に、加盟店は運営者に対して売上高から売上商品原価を控除した金額に一定の率を乗じた額を支払う旨の条項がある場合において、消費期限間近などの理由により廃棄された商品の原価等は売上高から控除されないとされた事例	単著	2008年2月	行政社会論集 20 巻 3号		88～119 頁	
F	学界回顧 (ドイツ法・私法)	単著	2008年12月	法律時報 80 巻 13号		278～282 頁	
G	契約構造の分析と一部無効の判断基準	単著	2009年4月	私法 71号		220～226 頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		

IV 学会等及び社会における主な活動	
2004年4月～	日本私法学会会員
2004年4月～	比較法学会会員
2008年11月～	日本消費者法学会会員

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	三條 秀夫	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習内容の定着と体系的理解の促進	2005年1月～2009年12月		講義の始めに前回の復習と今回の内容の要点を提示する他、講義の終わりにも内容要点を再確認する。			
	学習内容への興味関心の喚起	2005年1月～2009年12月		新聞記事、VTR、音楽CDを利用する他、紹介したい書籍の一部を読み聞かせて、学生の関心を喚起するよう工夫している。			
	学習への積極的参加の促進	2005年1月～2009年12月		重要な論点に関しては意見を求めるなどにより、学生が講義に参加するよう促している。			
	学習環境の保持	2005年1月～2009年12月		講義室の暗幕を閉めて、学生が講義に集中できるように工夫している。			
	授業評価・改善	2005年1月～2009年12月		学部独自の授業評価を実施するほか、講義感想・改善点・要望を調査し、改善に努めている。			
	学習態度指導	2005年1月～2009年12月		講義マナー（遅刻者は速やかに着席すること。おしゃべりをしないことなど）を徹底して教え、静粛な学習環境を保持している。			
4	宮城県人権教育企画推進委員（宮城県教育庁）	1997年4月～2009年12月		宮城県人権教育総合推進事業として設置された「人権教育企画推進委員会」委員に就任し、人権教育指導者研修会の企画・運営に従事した（委員長・2007年度、2008年度、2009年度）			
	仙台市教育委員会主催・「人権教育研修会」講師	2005年9月 2006年9月 2009年6月		仙台市教育委員会管内の教職員に対する人権研修会の講師を務めた。			
	サテライト・キャンパスでの講義担当	2006年10月～2007年1月		ジェンダー論担当			
	東北学院大学法学部オープンキャンパスにおいて講義を担当	2008年6月		法学部オープンキャンパスにおいて、「高校では教わっていますか裁判制度」と題して模擬講義を行った。			
	高等学校への出前講座（一日大学）の講師	2008年7月、9月 2009年4月、7月		福島県白河旭高校、秋田県横手高校、宮城県泉館山高校、仙台南高校において、「大学において『法』を学ぶとは」と題して講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著録（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
E	「男女平等推進条例のことなど」	単著（寄稿）	2006年3月	『郷に学ぶ—伊達な小京都・5つの未来力』（笹気出版）	佐藤仁一	85～86頁	
	「仙台市の男女共同参画行政について」	単著	2007年1月	河北新報（持論） 平成20年1月10日			

「人間の尊厳と平等にかかわるもの」 (寄稿)	単著	2009年2月	『「リプロネットみやぎ」の10年』	『「リプロネットみやぎ」の10年』 編集委員会
G 「新刑事司法の構造－権力作動機構における市民の立ち位置について－」	単独	2008年7月	第4回東北学院大学検察審査会制度研究会	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）				
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動				
1997年5月～2009年12月 2001年5月～2009年12月 2001年11月～2006年3月 2002年4月～2006年3月 2005年2月 2005年3月 2005年9月 2005年10月 2005年11月 2005年11月 2005年12月 2006年5月～2009年12月 2006年5月～2009年12月 2006年5月～2009年12月 2006年9月 2006年10月 2006年11月 2006年11月 2006年12月 2007年3月 2007年6月 2007年11月 2007年11月		宮城県教育庁・人権教育企画推進委員会委員（～2000年・副委員長、～2008年・委員長） せんだい男女共同参画財団評議員 玉造郡岩出山町・いわでやま男女平等推進審議会委員（委員長） 玉造郡岩出山町情報公開・個人情報保護審査委員 岩出山町「平成16年度職員研修会」講師 多賀城市中央公民館「平成16年度主催講座」講師 仙台市教育センター「平成17年度男女平等教育研修会」講師 宮城県教育庁「人権教育指導者研修会」講師 遠田郡南郷町「男女共同参画事業研修会」講師 宮城県教育庁「人権教育指導者研修会」講師 宮城県教育庁「人権教育指導者研修会」講師 大崎市個人情報保護審査会委員（委員長） 気仙沼市情報公開・個人情報保護審査会委員（委員長） 大崎市男女共同参画推進審議会委員（委員長） 仙台市教育センター「平成18年度男女平等教育研修会」講師 石巻市「平成18年度男女共同参画社会づくり啓発研修会」講師 宮城県教育庁「人権教育指導者研修会（仙台会場）」講師 宮城県教育庁「人権教育指導者研修会（塩釜会場）」講師 大崎市「男女共同参画担当職員学習会」講師 大崎市「男女共同参画職員研修会」講師 仙台市男女共同参画財団「男女共同参画週間関連企画講演」講師 「大崎市男女共同参画推進条例案」を取りまとめ、大崎市長に答申 宮城県市議会議長会「第34回議会事務局職員研修会」講師		

2007年12月	仙台人権擁護委員協議会／仙台法務局人権擁護部「男女共同参画社会研修会」講師
2008年1月	宮城県教育庁／人権啓発ネットワーク協議会／県 PTA 連合会「人権学習会」講師
2008年7月	仙台市男女共同参画財団「財団職員研修会」講師
2008年11月	「大崎市男女共同参画推進基本計画案」を取りまとめ、大崎市長に答申
2009年2月	石巻市 「市民団体交流事業・講演会」講師
2009年6月	仙台市教育センター 「平成21年度人権研修会」講師
2009年7月	大崎市 「部課長庁議研修会」講師
2009年8月	第57回日本PTA全国研究大会宮城大会第6分科会「人権教育・基調講演」講師

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	宮川 基	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	レジメの配布	2004年4月～現在		毎回の講義の冒頭に、詳細なレジメを配布し、学生が教員の話に集中できるようにしている。			
	講義の途中で休憩を入れる。	2006年4月～現在		大学1・2年生の講義では、学生の集中力を考え、40分～50分間講義をした後に、5分間の休憩を入れる。なお、その休憩中に、学部内の事務手続の確認を行う。			
	詳細なレジメを作成	2007年4月～現在		詳細なレジメを作成し（1回の講義につきA4で8頁～10頁）、講義で話すことができなかつた内容に関して、学生が自学自習できるようにしている。また、参考文献も指摘し、学生の自学自習の便を図っている。			
	復習問題の配付	2007年4月～現在		学生の知識の定着を図るために、復習問題を配付している。			
3	高校への出前授業の講師	2005年9月15日		山形県立長井高校において法学入門に関する授業を行った。			
		2008年8月23日		酒田南高校において裁判員制度に関する授業を行った。			
4	公務員試験対策講座の講師	2004年9月～2009年6月		本学法学部主催の公務員講座の講師を週1回務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	過剰避難と補充性の原則	単著	2006年3月	東北学院法学64号		105～127頁	
	盗犯等防止法の成立史	単著	2006年3月	東北学院法学64号		129～194頁	
	業務上過失致死傷罪における業務の意義	単著	2008年2月	「刑法判例百選I 総論〔第6版〕」別冊ジュリスト189号		122～123頁	
	教唆の概念	単著	2008年3月	判例セレクト 2007・法学教室330号別冊		28頁	
C	防衛行為と退避義務	単著	2006年10月	東北学院法学65号		19～79頁	
	満洲国刑法の研究	単著	2007年11月	東北学院法学66号		81～138頁	
	喧嘩闘争への関与罪	単著	2008年11月	東北学院法学67号		57～115頁	
	罪刑法定主義の憲法上の根拠規定	単著	2009年7月	東北学院法学68号		49～83頁	

E 鈴木義男の治安維持法解釈	単著	2009年3月	杉山元治郎・鈴木義男の事蹟を通して見る東北学院の建学の精神		5～24頁
G 盗犯等防止法の成立史	個別	2005年10月	日本刑法学会仙台部会		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1995年5月～現在		日本刑法学会会員			

所属	法律学科	職名	准教授	氏名	横田 尚昌	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業全体の構想（内容，組み立て，教科書・参考書指定など）における工夫	毎回		次年度の改善のために，授業のたびに反省点を記録している。			
	毎回の授業の進め方（時間構成，内容構成，板書・教材利用など）における工夫	毎回		授業の要点を黒板に書き出しながら進めている。			
	学生との接し方（質問対応，個別指導，人間的交流など）における工夫	毎回		折に触れて，気軽に相談してくるようにと伝えている。			
2	黒田清彦，菊地雄介ほか5名＝著『レクチャー現代会社法』（法律文化社）		2009年5月	第2編第2章「株式」を分担執筆（60～97頁）			
4	地域社会に対する教育上の貢献		2008年11月18日	法学政治学研究所第19回公開講座・市民生活と法「生命保険をめぐるトラブルの基本問題」担当。			
	教員免許更新講習の講師		2009年8月	商業講座を担当する。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所，発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
A	『レクチャー現代会社法』（第二編第3章「株式」＝分担執筆）	共著	2009年5月	法律文化社	黒田清彦 菊地雄介 ほか5名＝著	60～97頁	
Bb	（判例批評）「商法四三条所定の商業使用人の代理権」	単著	1997年2月	法学雑誌 第43巻第3号（大阪市立大学法学会）		527～544頁	
	「生命保険相互会社の株式会社化についての法的考察」	単著	2000年9月	文研論集 第132号（生命保険文化研究所）		91～167頁	
	「既存の保険契約に対する契約条件変更」	単著	2002年6月	保険学雑誌 第577号（日本保険学会）		81～103頁	
	「相互会社の株式会社化と社員の権利」	単著	2002年9月	生命保険論集 第140号（生命保険文化センター）		213～245頁	
	「相互会社の法的構造と社員の地位」	単著	2004年12月	生命保険論集 第149号（生命保険文化センター）		187～231頁	
	「保険金受取人指定の法的性質—公序良俗に反する指定をめぐって」	単著	2005年9月	生命保険論集 第152号（生命保険文化センター）		261～296頁	

「傷害保険金請求における事故の偶然性の証明について」	単著	2006年9月	生命保険論集 第156号 (生命保険文化センター)	159～193頁
保険金受取人の指定変更の効力について—公序良俗に反する指定変更をめぐって	単著	2007年9月	生命保険論集 第160号 (生命保険文化センター)	89～122頁
「会社法14条1項所定の使用人の代理権」	単著	2008年11月	東北学院法学 第67号	158～125頁 (頁数逆順)
「傷害保険における事故の外来性の証明について」	単著	2008年12月	生命保険論集 第165号 (生命保険文化センター)	135～169頁
(判例批評)「がんの支払事由と重大事由の『他の保険契約との重複』(名古屋地判平成19年11月30日)」	単著	2009年6月	保険事例研究会レポート (生命保険文化センター)	1～8頁
「賠償責任保険における直接請求権」	単著	2009年12月 (予定)	保険学雑誌 第607号 (日本保険学会)	校正完了・ 発行準備中
D 修士論文「相互会社の株式会社化について」	単著	2000年3月	大阪市立大学修士 (法学)	
G 「既存の保険契約に対する契約条件変更」	個人	2001年11月	日本保険学会 関西部会 報告	
「公序良俗に反する保険金受取人の指定・変更」	個人	2005年6月	日本保険学会 関西部会 報告	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金 若手研究 (スタートアップ)	2008年度	個別	(課題番号: 20830075)

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	日本保険学会 普通会員 日本私法学会 普通会員
--	----------------------------

所属	法律学科	職名	講師	氏名	荒木 修	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	小テスト等の実施	2006年4月～11月		講義に際して、複数の出題形式による小テストを実施し、詳細な解答も配布した。また、レジюмеに練習問題を掲載した。			
	レポートに対する添削	2006年4月～		演習で課題としているレポートについて、文章の書き方（形式面）からレポートの内容（議論の組み立て方、資料収集等）に関し、繰り返し、添削をした。			
	授業内容の定着	2007年4月～		講義に用いるレジюмеに練習問題を載せ、その解説を時折行うことで、講義内容の確認を行っている。			
	授業内容の定着	2008年4月～		毎回の講義開始に先立ち、前回の講義のなかの重要箇所を絞って確認的に説明を加えている。			
	自発的な学習の促進	2008年9月～11月		講義内容に関連する新聞記事について講義内容を踏まえた解説を提出することを課題として求めた。			
2	講義レジюмеの作成およびインターネット上で公表	2006年4月～		判例や法令などの資料的な要素を含めたレジюмеを作成している。また、レジюмеおよび講義概要のポイント・補足を含めてインターネット上で公表している。			
4	公務員試験対策講座を務めた	2007年9月～		本学法学部主催の公務員試験対策講座の「行政法」を全10回（週1回）を担当した。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	総・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
Bb	「廃棄物運搬車両搬入停止処分等取消等請求事件」	単著	2006年3月	判例地方自治 274号		47～49頁	
	「ドイツにおけるNSM改革と行政法」	単著	2006年8月	法律時報 78巻9号		63～68頁	
	「韓国における公私協働」	単著	2008年6月	法律時報 80巻6号		70～73頁	
	「公共調達法制の動向」	単著	2009年7月	法律時報 81巻8号		108～111頁	
G	研究報告「公私協働を巡る作用法の課題」		2007年8月	PPP研究会			
	判例研究・公共工事の民事差止訴訟の可否・名古屋地判平成18年10月13日		2007年11月	東北大学公法判例研究会			
	判例研究・二項道路該当性の判定・東京地判平成19年10月3日		2008年9月	東北大学公法判例研究会			

研究報告「行政契約法理および行政契約法制の可能性とその限界」		2009年3月	民科法律部会 2009年 春期研究会・行政法分 科会		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
科研費・特別研究員奨励費		2003～2005年度	単独	建築許可制度の日独比較法研究	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					

所属	法律学科	職名	講師	氏名	井坂 正宏	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	講義における理解度定着のための試み	2008年4月～2009年1月	講義冒頭でできるだけ前回の後半部分の概要要約を行うよう努めた。				
	毎回小テストの実施	2008年4月～2009年1月	「資格試験入門」の講義において、講義最後にノート閲覧許可の形式で小テストを行い、毎回の講義内容の理解増進とノート筆記の励行の一助とした。				
	六法の使用促進	2008年4月～2009年1月	法律科目においては、できる限り具体的条文の参照を求めて講義することとし、法律の条文が基本であることを理解させようとした。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
判例評釈 住民監査請求の制限期間の徒過と「正当な理由」 最高裁平成20年3月17日第一小法廷判決(判時2004号59頁,判タ1267号152頁)		単著	2009年4月	有斐閣,ジュリスト1376号(臨時増刊・平成20年度重要判例解説)		62～63頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1996年～			日本公法学会会員				
1999年7月～2009年7月			仙台市個人情報保護審議会委員(2007年10月より会長)				
2001年～			日本自治学会会員				
2002年10月～			宮城県個人情報保護審査会委員				
2006年10月～			仙台市情報公開審査会委員				

所属	法律学科	職名	講師	氏名	岡田 康夫	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	〈講義〉プリントを使用した講義	2005年9月～		専門講義（民法）では、毎回の内容をB4見開き1枚にまとめたプリントを配付し、授業内容を概観し重要な点を頭に入れやすくするような工夫を行なっている。			
	〈講義〉設例を多用した講義	2005年9月～		抽象的・難解になりがちな法律学の講義を、具体的な設例を多用しそこへあてはめながら進めることで理解しやすくなるような工夫を行なっている。			
	〈講義〉専門導入的な工夫を行った講義	2007年4月～2008年1月		1年次配当の民法講義では、初めての専門科目であることを意識し、前期に範囲全体の基本事項を概観した後、後期に個別のテーマを深く論じながらも一度全体を学ぶという二部構成で講義を行った。			
	〈演習〉実社会との結びつきを意識させる演習テーマ	2005年9月～		演習では、最新の裁判例（もちろん毎年異なる判決を選ぶ）の原文を教材として配付し、その内容や関連事項を調査して報告させている。実社会で生じた実際の事件を教材として使うことで、生きた法律学の修得ができるように工夫している。			
	〈演習〉実践的演習	2006年4月～2009年1月		法科大学院進学志望者に対しては、講義内容を再確認しさらに深い学習へと導くような課題を提示して演習を行っている。			
	〈演習〉共同演習の開催	2006年4月～2008年3月		上級学年の法科大学院進学志望者に対し、他の民法教員と共同で演習を開催。互いの特徴や技術を活かし、不得手な部分を補いながら演習を行うことで、学生に対する教育効果を高めた。			
	〈演習〉合宿の開催	2006年8月, 2007年8月, 2008年8月, 2009年8月		2泊3日で集中して演習を行い、学習効果を上げるとともに学生同士の活発な交流を促進した。			
	〈演習〉ゼミ論文の作成	2006年4月～		長編文章の作成提出を義務づけることで、大学で学んだ事柄の集大成を図るとともに実社会での生活へ向けた総合的な訓練を図っている。			
	〈講義〉穴埋めを活用した講義	2008年4月～		基本用語・基本概念の修得は手で書くことで記憶に収める作業が有益である。他学部民法講義では、積極的に穴埋めをさせることで基本知識の定着を図っている。			
	〈講義〉関連講義とのクロスリファレンス	2008年4月～		専門講義（民法）は1つの法律を五分割しているため、他の講義の内容とのクロスリファレンスを意識して講義を行い、前年度の講義との関連性を高めている。			
	〈演習〉課外演習の開催	2009年3～4月, 8～9月		法科大学院進学志望の2年生に対し、事例問題と判例を素材にした特別演習を自主開催。意欲ある学生に課外演習を行うことで、学生の学力向上を図った。			

2 講義プリントの作成・配付		専門講義（民法）では、毎回の内容をB4見開き1枚にまとめたプリントを配付し、授業内容を概観し重要な点を頭に入れやすくするような工夫を行なっている。
4 高校出前授業の講師	2005年12月	福島県私立学法石川高校で「キャッシングの法律学」と題する講義をおこなった。
国家試験・公務員試験対策講座の講師を担当	2007年9月～12月／2008年9月～12月	本学法学部主催の国家試験・公務員試験対策講座で2007年に「解答練習民法（債権法）」、2008年に「要点解説民法（債権法）」を担当した。
市民向け公開講座の講師を担当	2007年11月30日	本学法学政治学研究所主催・第18回公開講座にて「時効とは何か」というテーマで講演。年金問題と戦後補償問題を取り上げ、時効制度の解説を行った。
高校出前講義を実施	2008年10月1日	秋田県西目高校で、「ヒトと動物のあいだ」と題する講義を開催。同校の1年生に対し、人と動物の違いを取り上げて法学の入門講義を行った。
高校出前講義を実施	2009年10月28日	宮城県向山高校で、「時効とは何か」と題する講義を開催。同校の1・2年生に対し、最近の話題を素材にした法学入門講義を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
D 判例評釈「登記済権利証の偽造を看過した、登記官と司法書士の責任」(大阪地判平成17・12・5)	単著	2008年6月	登記情報559号		38～44頁
判例評釈「跨り建物を対象とした、借地権設定者による借地借家法20条2項、19条3項に基づく借地上建物及び借地権の優先譲受申立て(最決平成19・12・4)」	単著	2009年12月	登記情報577号		18～24頁
E 平成16/17年度第7回活動報告	単著	2005年8月	ケム川散歩道 第八帖		4～5頁
G 「土地所有権 Land Ownership」	単著	2005年7月	ケンブリッジ十色会 平成16/17年度第7回 セミナーで報告		

III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

1994年4月～	日本私法学会
2004年10月～2005年9月	ケンブリッジ十色会会員

2009年9月27日

第38回全青司みやぎ全国研修会第12分科会にて、「不動産登記の進むべき「みち」というテーマで基調講演を行い、パネリストを務めた。

所属	法律学科	職名	講師	氏名	佐々木くみ	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 〈講義〉 ・教員独自の「学生による授業評価」を実施している。 ・練習問題をとかせている。 ・講義中に学生に質問し答えさせている。 〈講読・演習〉 レポートの添削をしている。		2006年4月～2009年12月	・学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業効果測定のためのアンケート実施。				
		2008年9月～2009年12月	・適宜、練習問題を解かせてその解説をした。				
		2006年4月～2009年12月	・講義の理解度を測るために学生に質問し、答えさせた。				
		2006年4月～2009年12月	毎回レポートを提出させ、その添削を行った。				
	2 レジュメの作成	2006年4月～2009年12月	講義で使用している補助教材（レジュメ・資料）を作成した。				
	4 東北学院大学公開講座の講師を務めた	2006年11月	法学政治学研究所主催第17回公開講座「市民生活と法」の講師を務めた。				
	高校への出前授業の講師を務めた	2006年11月	仙台南高校の1年生に対して「国政調査権について」と題する授業を行った。				
地域市民のための大学公開講座の講師を務めた	2008年7月2日	「東北学院大学と多賀城市との連携協力協定」に基づく「地域市民のための大学公開講座」の講師を務めた。					
高校での出張講義の講師を務めた	2008年10月9日等	角田高校などで大学の模擬授業を行った。					
FDのための情報技術講習会に参加した	2009年3月11～13日	社団法人私立大学情報教育協会主催の講習会に参加し、授業のシナリオ設計について学んだ。					
高校での出張講義の講師を務めた	2009年11月4日	橘高校（福島）で憲法9条について授業を行った。					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
A 家族－ジェンダーと自由と法－ 高校から大学への法学 基本憲法	共著	2006年11月	東北大学出版会	水野紀子編	97～113頁		
	共著	2009年4月	法律文化社	君塚正臣編	71～84頁		
	共著	2009年4月	悠々社	辻村みよ子編	66～80頁		
Ba 憲法学におけるプリコミットメントの意義	単著	2007年2月・6月	『法学』71巻1・2号				
C J・ルーベンフェルドの憲法解釈方法論に関する覚書	単著	2008年10月	『憲法変動と改憲論の諸相』敬文堂	憲法理論研究会編	47～59頁		

D 確認憲法用語 300	共著	2008年1月	成文堂	大沢秀介編	
G 親の教育をめぐる一考察		2005年11月	東北大学 21世紀 COE プログラム『男女共同 参画社会の法と政策』 公開研究室		
J・ルーベンフェルドの憲法解釈方法論 に関する覚書		2007年8月	憲法理論研究会		
判例評釈		2008年1月	公法判例研究会		
H ニコラ・マティ「社会生活の契約化」	共著	2006年11月	東北大学出版会	『学族－ ジェンダー と自由と法 －』所収	115～139頁
第5共和制における憲法学の諸変化(ド ミニク・ルソー)	共著	2007年2月	『公共空間における裁 判権－フランスのま なざし』有新堂	日仏公法セ ミナー編	
裁判と公共空間：収斂，緊張，矛盾？ (オリヴィエ・ジュアンジャン)		2007年2月	『公共空間における裁 判権－フランスのま なざし』有新堂	日仏公法セ ミナー編	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2009年7月1日	仙台弁護士会で講師を務め，仙台弁護士会の研究会で『「立川ビラ配布事件最高裁判決」における最高裁の表現の自由論』と題する講演を行った。
-----------	--

所属	法律学科	職名	講師	氏名	白井 培嗣	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 レジュメの配付				2005年1月～2008年12月	初回の講義において、講義の全体像を把握してもらうために、シラバスより詳細なレジュメを配付する。		
プリントの配付				2005年1月～2008年12月	講義の理解をサポートするために、適宜プリント（参考文献からのコピーや統計・図表など）を使用する。		
参考文献リストの配付				2005年1月～2008年12月	講義に関連する参考文献を、受講生の自らの興味・関心に従った勉学に資することを目的として、かなり広い視野から100冊ほど選定し紹介する。		
書評レポート（提出は任意）				2005年1月～2008年12月	受講生の自発的な勉学とレポート作成の基本的なルールの習得を目的として、参考文献リストを参照しつつ、受講生自らの興味・関心に従って文献を選定し、その書評レポートを作成してもらう。		
ゼミの司会の委任				2005年1月～2008年12月	ゼミに積極的に参加してもらうために、報告とともに司会も受講生に任せる。		
感想レポート（提出は義務）				2005年1月～2008年12月	毎週、前回のゼミについての感想などを記したレポートを提出してもらい、コメントをつけて返却する。		
ゼミレポート（提出は義務）				2005年1月～2008年12月	受講生の自発的な勉学とレポート作成の基本的なルールの習得を目的として、実質半年くらいの時間をかけたゼミレポート（12,000字程度）を作成してもらう。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	総・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1991年10月～				日本政治学会会員			

所属	法律学科	職名	講師	氏名	羽田さゆり	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	レジュメの配布	2005年1月～2009年12月		講義のさい毎回、レジュメ（穴埋め式）等を配布、それに沿って講義している。			
	板書の工夫	2005年1月～2009年12月		板書のさい、後ろの席の学生に見えるように、20cm角以上の文字を書くよう努める。			
	試験・レポート等の返却	2005年1月～2009年12月		試験答案を配布・解説し復習を提出させている。ゼミでは課題を毎回添削し返却。			
2	授業で使用しているレジュメ等	2005年1月～2009年12月		講義で使用するレジュメ、まとめ・復習用教材を随時作成している。			
4	国家試験・公務員試験講座講師	2006年9月～2009年12月		国家試験・公務員試験講座（法学部主催）の講師を週1回務めた。			
	高校への出張講義の講師を務めた	2006年11月1日		県立向山高校にて、「法律学の考え方・学び方」と題する授業を行った。			
	高校への出張講義の講師を務めた	2006年11月8日		県立富谷高校にて、「法律学の考え方・学び方」と題する授業を行った。			
	高校への出張講義の講師を務めた	2009年11月5日		仙台市立仙台青陵中等教育学校にて、「保証のしくみ」と題する授業を行った。			
	民法勉強会の講師を務めている	2007年4月～2009年12月		消費生活相談員を中心としたグループによる民法勉強会の講師を務めている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	緒・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1997年1月、2007年1月			私法学会会員				

所属	法律学科	職名	講師	氏名	松浦 陽子	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進 (講義)	2005年1月～2005年8月 2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		授業の冒頭で前回の学習とのつながりを確認し、新たな項目へと進むことにより、学習事項の学問的位置付けを明らかにする。その上で学習事項を時事問題や身近な例に例えて説明することで、記憶への定着と理解の促進を図っている。			
	学習した事項の確認 (講義)	2005年1月～8月		定期試験の他、講義の時間を割いて小テストを実施することにより、学生の理解度を確認し、講義に活かしている。			
	レジュメ配布による学習事項の確認 (講義)	2005年1月～8月 2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		毎回の講義内容をレジュメにして学生に配布することにより、学生の学ぶ意欲を促進し、計画的に学べるよう配慮している。			
	司会者の設置 (演習)	2005年1月～8月 2007年1月～2008年12月 2009年1月～12月		演習では、報告者のほかに司会者を置き、議論の活性化を促すよう配慮している。			
	問題意識に沿った報告内容の決定 (演習)	2005年1月～8月 2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		報告者は、前回のゼミの報告内容と関連した事項の中から、本人の関心で研究を深めたい事項を報告することにより、学生の問題意識を高めることを目指している。			
	講義ノートの作成 (講義, 演習)	2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		毎回講義ノートを作成し、授業の都度反省点や学生の理解度などを記録することにより、講義の改善を図っている。			
	学術書の講読 (演習)	2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		講読を行うことにより、様々な視点で書かれた著作を批判的に読むことで学習の視野を広げ、かつ、学術書の読み方を身に付けることができる。これらを通して、学生の興味関心を広げるよう配慮している。			
	グループ討論 (演習)	2009年4月～12月		グループ討論を行うことにより、演習参加者が国際法に基づいた主張をすることができるようになり、参加者同士の学問的交流を深めることができるよう配慮している。			
2	授業で使用するレジュメ等	2007年4月～2008年12月 2009年1月～12月		レジュメには授業で説明する事項の概略のほか、図や表などを積極的に利用することによって、学生の理解の促進を図っている。また、参考文献を載せることにより、学生が自発的に学習しやすいよう配慮している。			
4	公開講座講師を務めた	2007年11月		本学法学政治学研究所が主催している第18回公開講座「市民生活と法」において、「国際法から見た核兵器の規制」と題する講演を行った。			
	高校への出張講義の講師を務めた	2008年9月		宮城県多賀城高校において、「国際法から見た『戦争』の捉え方」と題する授業を行った。			

研究生（外国人留学生）の指導	2009年4月～12月	外国人留学生を研究生として受け入れ，指導している。			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所，発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編・著名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1999年～	国際法学会会員				
2000年～	世界法学会会員				
2000年～	民主主義科学者協会法律部会員				

工学部

機械知能工学科
電気情報工学科
電子工学科
環境建設工学科

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	遠藤 春男	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
4	高校への出前授業の講師を務めた	2005年2月16日		宮城県東高校の2年生に対して「普段の生活で使っている機械工学(工学的にものをみる)」と題して授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2005年6月15日		宮城県白石工業高校の3年生に対して「普段の生活で使っている機械工学」と題して授業を行った。			
	リメディアル教育の実践	2005年12月～		入学前教育の添削指導			
	学部学生の学会発表指導	2007年3月1日		平成19年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」に引率して研究発表指導を行った。			
	学部学生の学会発表指導	2007年8月23日～24日		平成19年度電気関係学会東北支部連合大会に引率して研究発表指導を行った。			
	学部学生の学会発表指導	2007年12月6日～7日		応用物理学会東北支部第62回学術講演会に引率して研究発表指導を行った。			
	学部学生の学会発表指導	2008年2月29日		平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」に引率して研究発表指導を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年3月13日		仙台工業高校の1,2年(約160名)生に対して「普段の生活で使っている機械工学」と題して授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年6月18日		八戸南高校の1,2年生(22名)に対して「普段の生活で使っている機械工学」と題して授業を行った。			
	大学院博士(前期)課程学生の国外学会発表指導	2008年7月7日～10日		International Commission for Optics IOC21-2008 Congress Optics for the 21st Century (Sydney) に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。			
	大学院博士(前期)課程学生の国内学会発表指導	2008年8月3日～7日		日本機械学会 2008年度 年次大会に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。			
	学部学生の学会発表指導	2008年8月21日～23日		平成20年度電気関係学会東北支部連合大会に引率して研究発表指導を行った。			
	学部学生の学会発表指導	2008年9月12日		日本機械学会関東支部 茨城講演会に引率して研究発表指導を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年9月30日		築館高校の1,2年生(約30名)に対して「普段の生活で使っている機械工学」と題して授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年10月9日		石巻工業高校の1,2年生(約50名)に対して「普段の生活で使っている機械工学」と題して授業を行った。			

大学院博士（前期）課程学生の学会発表指導	2008年11月6日	日本非破壊検査協会平成20年度秋季大会に大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士（前期）課程学生の学会発表指導	2008年11月11日	第29回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウムに大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
学部学生の学会発表指導	2008年12月5日	応用物理学会東北支部第63回学術講演会に引率して研究発表の指導を行った。
リメディアル教育の実践	2008年12月～	入学前教育の添削指導
学部学生の学会発表指導	2009年2月26日	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」に引率して研究発表指導を行った。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年3月13日	宮城県工業高校の1年生（約80名）に対して「普段の生活で使っている機械工学」と題して授業を行った。
大学院博士（前期）課程学生の国外学会発表指導	2009年7月	ICPPP-15(Leuven)に大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
学部学生の学会発表指導	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会に引率して研究発表指導を行った。
大学院博士（前期）課程学生の国内学会発表指導	2009年9月	日本機械学会 2009年度 年次大会に大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士（前期）課程学生の国内学会発表指導	2009年11月	第30回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウムに大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Nondestructive Detection of Tiled Surface Defect with Wedge Shape by Photoacoustic Microscopy	共著	2006年5月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 45, No. 5B	H. Endoh N. Ohtaki T. Hoshimiya	4609～4611 頁
Evaluation of Weldmet by Photothermal Electrochemical (PE) Detection	共著	2006年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 27 (USE2006)	Y. Hiwatashi R. Kamata H. Endoh T. Hoshimiya	445～446頁
Nondestructive Evaluation of Wedge-Shaped Surface Defects by Photoacoustic Microscopy	共著	2006年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 27 (USE2006)	H. Endoh N. Ohtaki Y. Hiwatashi T. Hoshimiya	447～448頁

Nondestructive Image Evaluation of Welded Zone of Steel Plate by Photoacoustic Microscope	共著	2007年7月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 46, No. 7B	N. Ohtaki M. Hatakeyama M. Suzuki H. Endoh T. Hoshimiya M. Kawakami Y. Muraki T. Nakajima A. Tominaga M. Takeshi	4613~4615 頁
Imaging of Undersurface Defect by Photoacoustic Tomography with a Line-Focus Laser Beam	共著	2007年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 28 (USE2007)	M. Hatakeyama H. Endoh T. Hoshimiya	37~38 頁
Nondestructive Evaluation of Internal defect in Weld Metal by Photoacoustic Microscopy	共著	2007年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 28 (USE2007)	M. Hatakeyama T. Takatsu H. Endoh T. Hoshimiya	43~44 頁
光熱電気化学映像法によるステンレス鋼板溶接部の評価	共著	2007年12月	光学 36, 12	樋渡洋一郎 鎌田諒大 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	712~716 頁
Nondestructive Evaluation of Internal defect in Weld Metal by Photoacoustic Microscopy	共著	2008年5月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 47, No. 5B	M. Hatakeyama T. Takatsu H. Endoh T. Hoshimiya	3994~3996 頁
Nondestructive Evaluation of Compound Weld Defect by Photoacoustic Microscopy	共著	2008年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 28 (USE2008)	D. Shiraiishi H. Endoh T. Hoshimiya	77~78 頁
Nondestructive Evaluation of Compound Weld Defect by Photoacoustic Microscopy	共著	2009年7月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 48, No. 7	D. Shiraiishi H. Endoh T. Hoshimiya	07GE03-01 ~03
Destructive inspection of weld defect and its nondestructive Evaluation by Photoacoustic Microscopy	共著	2009年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 30 (USE2009)	D. Shiraiishi R. Kato H. Endoh T. Hoshimiya	207~208 頁
Evaluation of RGB-LD generated Photoacoustic images	共著	2009年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 30 (USE2009)	T. Takatsu H. Endoh T. Hoshimiya	215~216 頁
Active thermographic imaging with a moving line-focus laser beam	共著	2009年11月	Proc. of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 30 (USE2009)	T. Takatsu N. Doi M. Suzuki H. Endoh T. Hoshimiya	217~218 頁
Bb 傾斜表面欠陥の超音響顕微鏡による観察と非破壊評価	共著	2005年3月	超音波テクノ, vol. 17, No. 2	遠藤春男 宮本克彦 星宮 務	23~27 頁

表面下傾斜欠陥の超音響顕微鏡による観察と非破壊評価	共著	2005年11月	超音波テクノ, Vol. 17, No. 6	遠藤春男 星宮 務	84~88 頁
楔形状を有する傾斜表面欠陥の超音響顕微鏡による非破壊検出	共著	2006年9月	超音波テクノ, Vol. 18, No. 5	遠藤春男 星宮 務	27~30 頁
G 超音響顕微鏡による表面下傾斜欠陥の非破壊検出	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会予稿集 YS-3-16	大瀧直樹 鎌田諒大 大川上史徳 猪股恵太 遠藤春男 星宮 務	31~32 頁
光熱・電気化学法によるステンレス鋼の人工孔食映像化の試み	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会予稿集 YS-3-20	鎌田諒大 石川健哉 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	39~40 頁
超音響顕微映像法による傾斜表面欠陥の欠陥検出	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 2B-07	大瀧直樹 内藤俊介 鹿野博徳 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	54 頁
光熱電気化学法によるステンレス鋼に生じさせた人工孔食の映像化	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 2B-08	鎌田諒大 三浦裕樹 遠藤友浩 大瀧直樹 石川健哉 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	55 頁
超音響法による傾斜凹型表面下欠陥の非破壊検出	共著	2005年8月	日本機械学会 2005年度年次大会 論文集 No. 05-1	遠藤春男 大瀧直樹 樋渡洋一郎 星宮 務	443~444 頁
ステンレス鋼の人工孔食の光熱電気化学検出法による映像化	共著	2005年9月	日本機械学会 2005年度年次大会 論文集 No. 05-1	樋渡洋一郎 鎌田諒大 石川健哉 遠藤春男 星宮 務	441~442 頁
On the Photoacoustic Nondestructive Instrumentation with a Line-focus Laser beam and a Planar Specimen Combination	共著	2005年11月	第26回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム予稿集 H-3	星宮 務 畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男	321~322 頁
楔形状を有する傾斜表面欠陥の超音響顕微鏡による非破壊検出	共著	2005年11月	第26回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム予稿集 P3-57	遠藤春男 大瀧直樹 星宮 務	453~454 頁

光音響トモグラフィーによる疑似表面構造体の映像化の試み	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部第60回学術講演会予稿集	畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	134～135頁
光音響顕微鏡による楔状欠陥の非破壊検出	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部第60回学術講演会予稿集	大瀧直樹 鹿野博徳 内藤俊介 遠藤春男 星宮 務	132～133頁
光熱電気化学検出法によるステンレス鋼の溶接部の映像化	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部第60回学術講演会予稿集	鎌田諒大 遠藤友浩 三浦祐樹 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	130～131頁
線状レーザービームを用いた非破壊検査と光音響トモグラフィーの基礎的研究	共著	2005年12月	東北大学電気通信研究所第46回超音波エレクトロニクス研究会資料No. 342-6	畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	
光熱電気化学法によるステンレス鋼の熱影響部の映像化	共著	2006年2月	平成18年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-4-14	宍戸敬太 遠藤友浩 三浦祐樹 鎌田諒大 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	27～28頁
異なる勾配を有する楔形状欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検査	共著	2006年2月	平成18年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-4-15	鹿野博徳 内藤俊介 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	29～30頁
サーモグラフィーを用いた非破壊検査に関する基礎的検討	共著	2006年2月	平成18年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-4-16	斉藤繭子 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	31～32頁
光音響トモグラフィー手法を用いた議事表面／表面下欠陥の映像化	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集1C-07	畠山美香 鈴木 守 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	81頁
光音響顕微鏡映像法による傾斜内部欠陥の検出	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集1C-08	大瀧直樹 木村暁人 小林洋裕 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	82頁

光熱・電気化学法による溶接欠陥部の検出	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集1C-09	鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	83頁
光熱・電気化学法による溶接を施したステンレス鋼の熱影響部の映像化	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集1C-10	鎌田諒大 尾形誠一 佐藤桂輔 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	84頁
光音響法による楔状傾斜表面欠陥の非破壊検出	共著	2006年9月	日本機械学会 2006年度年次大会 講演論文集 No. 06-1	遠藤春男 大瀧直樹 樋渡洋一郎 星宮 務	655～656頁
光熱電気化学法によるステンレス鋼の溶接熱影響部の映像化	共著	2006年9月	日本機械学会 2006年度年次大会 講演論文集 No. 06-1	樋渡洋一郎 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	877～878頁
Evaluation of Weldment by Photothermal Electrochemical (PE) Detection	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 3P-36	Y. Hiwatashi R. Kamata H. Endoh T. Hoshimiya	45～446頁
Nondestructive Evaluation of Wedge-Shaped Surface Defects by Photoacoustic Microscopy	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 3P-37	H. Endoh N. Ohtaki Y. Hiwatashi T. Hoshimiya	447～448頁
Nondestructive Image Evaluation of Welded Zone of Steel Plate by Photoacoustic Microscope	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 3P-40	N. Ohtaki M. Hatakeyama M. Suzuki H. Endoh T. Hoshimiya M. Kawakami Y. Muraki T. Nakajima A. Tominaga M. Takeshi	453～454頁
光音響顕微鏡による溶接鋼板の非破壊評価	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部第61回学術講演会予稿集	大瀧直樹 鈴木 守 畠山美香 遠藤春男 星宮 務 川上 勝 村木 豊 中島 毅 富永晃英 武士正美	108～109頁

光音響顕微鏡による楔状表面欠陥の定量的非破壊検出	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部第61回学術講演会予稿集	大瀧直樹 木村暁人 小林洋裕 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	4110～4111頁
光熱電気化学検出法による溶接欠陥部の検出	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部第61回学術講演会予稿集	鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	104～105頁
光音響トモグラフィー手法による疑似表面・表面下構造体の映像化	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部第61回学術講演会予稿集	畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	102～103頁
光熱電気化学検出法の温度特性評価	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部第61回学術講演会予稿集	鎌田諒大 谷藤清朗 遠藤春男 星宮 務	106～107頁
光熱電気化学法を用いた溶接欠陥部の評価	共著	2007年3月	平成19年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	5～6頁
光熱電気化学修復法による疑似腐食の修復の検討	共著	2007年3月	平成19年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	高津朋章 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	7～8頁
赤外線サーモグラフィー法による非破壊検査の検討	共著	2007年3月	平成19年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	山内慎吾 畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	9～10頁
光音響顕微鏡による楔状表面欠陥の非破壊評価	共著	2007年3月	平成19年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	大瀧直樹 小林洋裕 木村暁人 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	21～22頁
光音響顕微映像法による楔状表面欠陥の検出	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	白石大二郎 工藤洋介 遠藤春男 星宮 務	290頁
光熱電気化学修復法による疑似孔食の修復	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	291頁

光熱電気化学信号の温度特性	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	谷藤清朗 高津朋章 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	292頁
光熱電気化学検出法による溶接欠陥の検出	共著	2007年9月	日本機械学会 2007年度 年次大会講演論文集, Vol. 1, No. 07-1	樋渡洋一郎 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	63~64頁
光音響法による楔状表面欠陥の定量的非破壊検出	共著	2007年9月	日本機械学会 2007年度 年次大会講演論文集, Vol. 1, No. 07-1	遠藤春男 大瀧直樹 星宮 務	65~66頁
直線レーザービームを用いた光音響トモグラフィによる表面下欠陥の映像化	共著	2007年11月	第28回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文集	畠山美香 遠藤春男 星宮 務	37~38頁
光音響顕微鏡による溶接金属中の内部欠陥の非破壊評価	共著	2007年11月	第28回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文集	畠山美香 高津朋章 遠藤春男 星宮 務	43~44頁
直線収束レーザービーム光音響トモグラフィック・イメージング	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 講演予稿集 K121	畠山美香 遠藤春男 星宮 務	
光熱電気化学検出法とその温度特性	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 講演予稿集 K123	谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	
光熱電気化学修復法を用いた疑似孔食の修復	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 講演予稿集 K125	高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	
LFB型光音響CTによる欠陥検査	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集	畠山美香 菅野貴幸 遠藤春男 星宮 務	162~163頁
PE法を用いた腐食部修復の基礎実験	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集	高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	168~169頁
光音響顕微鏡による溶接内部欠陥の非破壊評価	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集	畠山美香 高津朋章 工藤洋介 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	170~171頁

固形試料を用いたPEM測定を試み	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集	谷藤清朗 南條 充 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	172～173頁
光音響トモグラフィーによる表面／表面下欠陥の非破壊検査	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	菅野貴幸 畠山美香 遠藤春男 星宮 務	11～12頁
溶接内部欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検査	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	白石大二郎 畠山美香 高津朋章 工藤洋介 遠藤春男 星宮 務	73～74頁
光熱電気化学法による固形試料の映像化の検討	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料	南條 充 谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	75～76頁
Minutalization of Photothermal Electrochemical Detector with Gelation of Electrolyte	共著	2008年7月	International Commission for Optics IOC21-2008 Congress Optics for the 21st Century, Book of Proceedings	K. Tanifuji T. Takatsu D. Shiraishi H. Endoh T. Hoshimiya	47頁
Quantitative Nondestructive Evaluation of Wedge-Shaped Surface Defects by Photoacoustic Imaging	共著	2008年7月	International Commission for Optics IOC21-2008 Congress Optics for the 21st Century, Book of Proceedings	D. Shiraishi T. Takatsu K. Tanifuji H. Endoh T. Hoshimiya	71頁
Photothermal Electrochemical Repair of Simulated Corrosion	共著	2008年7月	International Commission for Optics IOC21-2008 Congress Optics for the 21st Century, Book of Proceedings	T. Takatsu K. Tanifuji D. Shiraishi H. Endoh T. Hoshimiya	72頁
光音響トモグラフィを用いた表面及び表面下欠陥の検出	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	高津朋章 小野寺華織 畠山美香 鈴木 守 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	179頁
光熱電気化学測定における装置の小型化と画像比較	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	谷藤清朗 高津朋章 車塚靖寛 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	180頁

楔状表面欠陥の超音響顕微鏡による非破壊評価	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	白石大二郎 山本 覚 井上貴之 加藤量介 高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 星宮 務	181頁
超音響法による溶接内部欠陥の非破壊検出	共著	2008年8月	日本機械学会 2008年度 年次大会講演論文集, Vol. 1, No. 08-1	白石大二郎 高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 星宮 務	87~88頁
超音響法による溶接欠陥の映像化	共著	2008年9月	日本機械学会関東支部 茨城講演会 講演論文集, No. 080-2	白石大二郎 井上貴之 山本 覚 加藤量介 遠藤春男 星宮 務	165~166頁
溶接欠陥の超音響顕微鏡による非破壊検出	共著	2008年11月	日本非破壊検査協会平成20年度秋季大会講演概要集	白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	135~136頁
超音響顕微鏡による複合溶接欠陥の非破壊評価	共著	2008年11月	第29回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文集	白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	77~78頁
塗料色の違いを考慮したレーザー超音響像の評価	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部第63回学術講演会予稿集	高津朋章 小野寺華織 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	131~132頁
超音響顕微鏡による複合溶接欠陥の非破壊評価	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部第63回学術講演会予稿集	白石大二郎 加藤量介 山本 覚 井上貴之 遠藤春男 星宮 務	133~134頁
可視域半導体レーザーを用いた超音響映像装置	共著	2009年2月	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演予稿集	小野寺華織 高津朋章 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	3~4頁
固化電解液ゲルを用いた光熱電気化学映像実験	共著	2009年2月	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演予稿集	車塚靖寛 谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	5~6頁

フォトリソグラフィで作製した疑似腐食の光熱電気化学修復	共著	2009年2月	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演予稿集	山中薫人 谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	7~8頁
移動する線状レーザー熱源によるアクティブ・サーモグラフィ画像化手法	共著	2009年2月	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演予稿集	遠藤航輝 鈴木 守 遠藤春男 星宮 務	9~10頁
複合溶接欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検査	共著	2009年2月	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演予稿集	山本 覚 井上貴之 加藤量介 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	11~12頁
赤外線サーモグラフィによるスポット溶接の非破壊検出の試み	共著	2009年2月	平成21年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演予稿集	小野真理子 伊東大祐 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	13~14頁
PHOTOTHERMAL RADIOMETRIC TIME-DOMAIN INSPECTION OF SOLID SPECIMEN BY MOVING LINE HEAT SOURCE	共著	2009年7月	Abstract of ICPPP-15	T.Hoshimiya M. Suzuki H. Endoh	P0-T1-7
NONDESTRUCTIVE EVALUATION OF TILTED SUBSURFACE DEFECTS BY PHOTOACOUSTIC MICROSCOPIC IMAGING	共著	2009年7月	Abstract of ICPPP-15	K. Ryouyusuke D. Shiraisi H. Endoh T. Hoshimiya	P0-T4-1
赤外線サーモグラフィを用いたスポット溶接欠陥の非破壊検出	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	橘 昇吾 原田雄一 白石大二郎 加藤量介 遠藤春男 星宮 務	2D01
線状レーザー・アクティブサーモグラフィによる非破壊検査の試み	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	土井奈々 高津朋章 遠藤春男 星宮 務	2D02
光音響顕微鏡映像法による溶接欠陥の非破壊検出	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	西村勇紀 津島冬彦 横山貴之 渡辺圭祐 白石大二郎 加藤量介 遠藤春男 星宮 務	2D03
フォトリソグラフィ法で作製した腐食の光熱電気化学的修復	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	高津朋章 村主幸太 遠藤春男 星宮 務	2D04

光音響法による複合溶接欠陥の非破壊検出	共著	2009年9月	日本機械学会 2009年度 年次大会講演論文集	加藤量介 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	9～10頁
溶接欠陥の破壊検査および光音響顕微鏡による非破壊評価	共著	2009年11月	第30回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文集	加藤量介 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務	207～208頁
移動する線状レーザーを用いたアクティブ・サーモグラフィ映像法	共著	2009年11月	第30回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文集	高津朋章 土井奈々 遠藤春男 星宮 務	215～216頁
RGB 半導体レーザーを用いた光音響像の評価	共著	2009年11月	第30回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム論文集	高津朋章 遠藤春男 星宮 務	217～218頁
移動熱源・アクティブサーモグラフィを用いた非破壊検査の試み	共著	2009年11月	OPJ2009 講演予稿集	高津朋章 鈴木 守 土井奈々 遠藤春男 星宮 務	
光音響顕微鏡による溶接欠陥の非破壊評価および破壊検査	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部第64回学術講演会予稿集	白石大二郎 加藤量介 横山貴之 西村勇紀 遠藤春男 星宮 務	105～106頁
サウンド入力方式を用いた分光測定装置の試作	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部第64回学術講演会予稿集	高津朋章 角田直樹 遠藤春男 星宮 務	107～108頁
電解液ゲルを用いて小型化した装置による光熱電気化学測定	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部第64回学術講演会予稿集	高津朋章 草岡昌平 遠藤春男 星宮 務	109～110頁
RGB 半導体レーザーを用いた分光用光音響顕微鏡	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部第64回学術講演会予稿集	高津朋章 森下雅大 遠藤春男 星宮 務	111～112頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1980年4月～	日本材料学科 正会員
1981年4月～	日本機械学会 正会員
1985年4月～	日本鋳造工学会 正会員
2003年4月～2005年3月	日本機械学会 東北支部 商議委員

2004年4月～2006年3月

仙台工業高等学校・学校評議委員

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	梶川 伸哉	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学生による相互評価の実施	2005年4月～現在	1年次に開講されるフレッシュマンセミナーにおける各自の取り組み姿勢を学生間相互によって評価する試みを導入した。				
	授業内容理解の促進	2005年4月～現在	3年次に開講される制御工学Ⅰの内容理解促進のため、演習レポートの添削指導をおこなっている。				
	卒業研究ゼミの開催	2007年～現在	卒業研究の各学生担当テーマとその進行状況の相互理解、および問題解決策を議論する目的で週一回開催している。				
2	実験手順書の作成	2005年	学生実験における「パワー増幅回路製作実験」において使用素子特性図の読み方、使用機材の取り扱いマニュアル等の実験サポート書を作成した。				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2007年7～9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。形状記憶合金を用いたロボット製作部分を担当した。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2008年5月～7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。形状記憶合金を用いたロボット製作部分を担当した。				
	実験手引き書の作成	2008年	学生実験において「人間上肢運動の特性解析」実験をとりあげ、上肢構造および制御モデルについての解説と解析方法についてまとめた。				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2009年5月～8月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。形状記憶合金の熱処理方法とそれを用いたロボット製作部分を担当した。				
4	高校への出前授業の講師を務めた	2005年4月～現在	2005年 佐沼高校, 泉館山高校, 利府高校 2006年 八戸南高校 (2日間) 以上 講演テーマ「ヒューマンケアロボット」 2007年 仙台東高校, 角館高校など 2008年 岩ヶ崎高校, 白石高校など 2009年 富谷高校, 泉松陵高校など 以上 講演テーマ「人に優しいロボットの開発」				
	リメディアル教育の実践	2007年～現在	入学前教育の添削指導				
	オープンキャンパス・工学部祭での研究室公開	2007年～現在	オープンキャンパスおよび工学部祭において、研究室公開を行い、研究内容の紹介を行った。				

平成 19 年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2007 年 7 月～2008 年 3 月	小, 中学校及び高等学校の理科担当教員 22 名に対しナノテクノロジー, バイオテクノロジーの講義及び実習を 90 分 30 回行なった。そのうち実習 1 回を担当。
平成 20 年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008 年 4 月～2009 年 3 月	小, 中学校及び高等学校の理科担当教員 21 名に対しナノテクノロジー, バイオテクノロジーの講義及び実習を 90 分 30 回行なった。そのうち実習 1 回を担当。
他大学における非常勤講師	2008 年	宮城教育大学において「機械基礎」の講義を担当
平成 21 年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2009 年 4 月～2010 年 3 月	小, 中学校及び高等学校の理科担当教員 21 名に対しナノテクノロジー, バイオテクノロジーの講義及び実習を 90 分 30 回行なった。そのうち実習 1 回を担当。
宮城県中学校教育研究会理科部会における特別講座	2009 年 10 月 2 日	宮城県中学校教員による理科研究集会の特別講義として行った 9 つの実習テーマのうち, 形状記憶合金を用いたロボット製作実習を担当。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 柔軟接触部を有する 4 軸接触力計測センサの開発	共著	2005 年 1 月	電気学会論文誌 E, vol. 125, no. 1.	齋藤直樹 佐藤俊之 梶川伸哉 岡野秀晴	4～7 頁
Development of a Soft Finger-Joint Mechanism for Human-care Robot	共著	2005 年 7 月	Proc. of IEEE Int. Conf. on Mechatronics and Automation (ICMA2005). (CD-ROM)	S. Kajikawa H. Kon K. Kikuchi S. Satoh	49～54 頁
Fundamental Characteristics of a Soft Finger-Joint Mechanism for Human-care Robot	単著	2005 年 12 月	Proc. of IEEE Int. Conf. on Industrial Technology (ICIT2005). (CD-ROM)		1170～1175 頁
指先への触圧刺激に対する心理的評価	単著	2006 年 2 月	人間工学, vol. 42, no. 2.		126～131 頁
Development of a Robot Finger Module with Multi-directional Passive Compliance	単著	2006 年 10 月	Proc. of IEEE/RSJ Int. Conf. on Intelligent Robots and Systems (IROS2006). (CD-ROM)		4024～4029 頁
Development of Multi-directional Compliant Joint Module for Human-care Robot	単著	2007 年 4 月	Journal of Robotics and Automation, vol. 26, No. 1.		10～18 頁
Robot Hand with Soft Compliant Mechanism for Human Body Care	単著	2007 年 8 月	Proc. of IASTED Int. Conf. on Robotics and Applications.		376～381 頁

Variable Compliant Mechanism for Human-care Robot	単著	2007年11月	Proc. of 33rd Annual Conf. of IEEE Industrial Electronics.		2376~2741 頁
Involvement of Carotid Baroreceptor Function in Blood Pressure Control in the Chronic Phase : Effect on 24-Hour Ambulatory Blood Pressure	共著	2008年4月	Clinical and Experimental Hypertension, vol. 30, no. 1.	E. Ino-oka H. Sekino S. Kajikawa 他3名	69~78頁
身体接触作業用ロボットハンドの開発	単著	2008年12月	計測自動制御学会論文 文集, vol. 44, no. 12.		1~8頁
Development of a Robot Hand with an Adjuster Mechanism for Joint Compliance	単著	2009年2月	Proc. of IEEE Int. Conf. on Robotics and Biomimetics. (DVD)		1683~1688 頁
Development of robot hand aiming at nursing care services to humans	単著	2009年5月	Proc. of IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation. (DVD)		3663~3669 頁
Evaluation of Carotid Atherosclerosis from the Perspective of Blood Flow Reflection	共著	2009年6月	Clinical and Experimental Hypertension, vol. 31, no. 3	E. Ino-oka H. Sekino S. Kajikawa 他2名	188~200頁
G ヒューマンケアロボット用指関節の開 発	単著	2005年12月	日本機械学会福祉工 学シンポジウム講演 論文集		185~188頁
ヒューマンケア用ロボットフィンガの 開発	単著	2006年5月	日本機械学会ロボ ティクス・メカトロニ クス講演会論文集 (CD-ROM)		
超音波ドップラ画像を用いた血流反射 現象に関する一考察	共著	2006年9月	日本機械学会東北支 部秋季地方講演会予 稿集	佐藤 梶川	73~74頁
弾性梁を用いた可変コンプライアンス ロボットアームの開発	単著	2007年5月	日本機械学会ロボ ティクス・メカトロニ クス講演会講演論文 集, 2A1-A08.		
身体接触作業用ロボットハンドの製作	単著	2007年12月	計測自動制御学会シ ステムインテグレー ション部門学術講演 会講演論文集, 3K4-7.		
コンプライアンス可変機構を有するロ ボットハンドの開発	単著	2008年6月	日本機械学会ロボ ティクス・メカトロニ クス講演会講演論文 集, 2A1-G09.		
ロボットフィンガ用剛性支持機構の開 発	共著	2009年5月	日本機械学会ロボ ティクス・メカトロニ クス講演会講演論文 集, 2A2-F17.	阿部 梶川	

トス運動時の手指関節運動の解析	共著	2009年5月	日本機械学会ロボティクスメカトロニクス講演会講演論文集, 1A1-L14.	門間 梶川	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金若手研究(B)	2005年～2006年	個別	「人体への接触を目的としたロボットハンドの開発とマッサージ動作への適用」		
立石科学技術振興財団研究助成金	2007年	個別	「人の剛性調節機能の解析に基づく器用なロボットハンドの開発」		
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007年～2008年	個別	「剛性可変マッサージロボットアーム・ハンドの開発と剛性調節アルゴリズムの構築」		
メカトロニクス技術高度化財団研究助成金	2009年	個別	「剛性可変関節機構を搭載した介護作業用ロボットハンドの開発」		
科学研究費補助金基盤研究(C)	2009年～	個別	「ロボット関節剛性を高速に調節する機構の開発とその制御に基づく動的器用さの実現」		
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2004年4月～2006年3月	日本ロボット学会評議員				
2005年7月25日	仙台産業振興財団主催の産学連携セミナー「寺子屋せんだい」において講演 講演題目「ヒューマンケアロボット開発の取り組み」				
2005年～2006年	みやぎ県民大学の講師を務めた。(各年度 1回担当) 内容「2005年 気の利くロボットの実現に向けて」 内容「2006年 ヒューマンケアロボット」				
2007年4月～2008年3月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門運営委員				
2007年10月～2009年3月	みやぎ高度電子機械関連産業人材育成プログラム作成ワーキンググループ委員				
2009年4月～	みやぎ高度電子機械関連産業人材育成プログラム運営委員				

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	鹿又 武	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1	学生を授業に引き付けるための工夫			2005年1月～2009年12月		科学史を勉強し、授業に出てくる偉人の伝記、逸話を授業に入れるように工夫した。	
2	物理データ辞典(社)日本物理学会編(朝倉書店)			2006年7月		物理学各分野の主要項目に関する代表的なデータを集めた辞典として編纂されている。非専門家や学生にとっては、データの図表を通して各分野及び物理学の全体像を自分の頭にイメージすることは楽しく、且つ有効な学習法であり、理工系分野の欲しいデータを得るのに役立つと考えている。共同執筆：346～354頁, 467～469頁	
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料講義編			2007年7月～2007年9月		平成19年度に行った左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料	
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料講義編			2008年5月～2008年7月		平成20年度に行った左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料	
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料講義編			2009年5月～2009年7月		平成21年度に行った左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料	
3	工学研究科FD研修会に参加し、講演を行った。			2008年2月28日		大学院生の学力向上のための教育法について講演した。	
4	信州大学にて集中講義の講師を務めた。			2005年10月18日～21日		担当課目は“量子物性II”である。	
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」			2007年10月13日		小, 中学校及び高等学校の理科担当教員22名に対しナノテクノロジーの講義を行った。	
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」			2008年7月28日		小, 中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対しナノテクノロジーの講義を行った。	
	平成20年度キャリア実践教育プロジェクト(コラボ授業)			2008年12月16日		多賀城市教育委員会が採択された文部科学省の委託事業である左記のプロジェクト中のコラボ授業計画を担当した。	
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」			2009年7月27日		小, 中学校及び高等学校の理科担当教員16名に対しナノテクノロジーの講義を行った。	

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Magnetism and Structure in Functional Materials	共著	2005 年	Springer	◎P. J. Brown T. Kanomata (2 番目) 他 3 名 (Eds.) A. Planes L. Manosa A. Saxena	113~140 頁
Ba Crystal structures and phase transitions in ferromagnetic shape memory alloys based on Co-Ni-Al and Co-Ni-Ga	共著	2005 年	J. Phys. :Condens. Matter, Vol. 17	◎P. J. Brown T. Kanomata (4 番目) 他 6 名	1301~1310 頁
High Field X-Ray Diffraction Studies on $MnFeP_{0.5}As_{0.5}$	共著	2005 年	Jpn. J. Appl. Phys. Vol. 44	◎K. Koyama T. Kanomata (2 番目) 他 1 名	L549~L551 頁
Magnetic Field Effect on Structural Property of $MnFeP_{0.5}As_{0.5}$	共著	2005 年	Mater. Trans. Vol. 46	◎K. Koyama T. Kanomata (2 番目) 他 2 名	1753~1756 頁
Influence of Co Addition on Martensitic and Magnetic Transitions in Ni-Fe-Ga β Based Shape Memory Alloys.	共著	2005 年	Mater. Trans. Vol. 46	◎K. Oikawa T. Kanomata (8 番目) 他 7 名	734~737 頁
Ferromagnetic shape memory compounds with a Heusler structure	共著	2005 年	Int. J. Electromag. Mech. Vol. 21	◎S. Becker T. Kanomata (5 番目) 他 11 名	145~150 頁
Magnetic properties of ferromagnetic shape memory alloys $Ni_{2-x}Cu_xMnGa$	共著	2005 年	Int. J. Electromag. Mech. Vol. 21	◎T. Kanomata 他 5 名	151~157 頁
Determination of the magnetic and nuclear structure of $Ni_{2.17}Mn_{0.83}Ga$	共著	2005 年	Int. J. Electromag. Mech. Vol. 21	◎K. Frohlich T. Kanomata (3 番目) 他 4 名	159~162 頁
Magnetic properties of ferromagnetic Heusler alloy Co_2ZrAl	共著	2005 年	J. Alloys Compd. Vol. 393	◎T. Kanomata 他 8 名	26~33 頁
Magnetic Properties of Co_2TiSn under Pressure	共著	2005 年	Proceeding of 2nd Asian Conference on High Pressure Research, Nara, Japan	◎T. Kanomata 他 9 名	electronic form
Atomic and magnetic order in the weak ferromagnet $CoVsb$: is it a half-metallic ferromagnet?	共著	2005 年	J. Phys. :Condens. Matter Vol. 17	◎L. Heyne T. Kanomata (3 番目) 他 3 名	4991~4999 頁

The magnetic and structural properties of the magnetic shape memory compound $Ni_2Mn_{1.44}Sn_{0.56}$	共著	2006年	J. Phys. :Condens. Matter Vol. 18	©P. J. Brown T. Kanomata (5番目) 他7名	2249~2259 頁
Gruneisen's Approach to Magnetovolume Effect of Itinerant Electron Ferromagnets	共著	2006年	Mater. Trans. Vol. 47	©Y. Takahashi T. Kanomata (2番目)	460~463頁
X-ray Powder Diffraction Studies of $Mn_3Ga_{0.97}Al_{0.03}C$ in Magnetic Fields	共著	2006年	Mater. Trans. Vol. 47	©K. Koyama T. Kanomata (2番目) 他4名	492~495頁
Magnetic Properties of Weak Itinerant Electron Ferromagnet CoVSb	共著	2006年	Mater. Trans. Vol. 47	©T. Kanomata 他5名	496~500頁
Martensitic Transformation in Ni-Mn-Ga Alloy Under High Magnetic Fields	共著	2006年	Mater. Trans. Vol. 47	©V. A. Chernenko T. Kanomata (3番目) 他4名	635~638頁
Magnetic-field-induced shape recovery by reverse phase transformatio	共著	2006年	Nature, Vol. 439	©R. Kainuma T. Kanomata (10番目) 他9名	957~960頁
Effect of magnetic field on martensitic transition of $Ni_{46}Mn_{41}In_{13}$ Heusler alloy	共著	2006年	Appl. Phys. Lett. Vol. 88	©K. Oikawa T. Kanomata (9番目) 他7名	122507/1~ 122507/3頁
Observation of field-induced reverse transformation in ferromagnetic shape memory alloy $Ni_{50}Mn_{36}Sn_{14}$	共著	2006年	Appl. Phys. Lett. Vol. 88	©K. Koyama T. Kanomata (3番目) 他4名	132505/1~ 132505/3頁
Magnetic properties of Heusler alloys Ru_2MnZ (Z=Si, Ge, Sn and Sb)	共著	2006年	J. Alloys Compod. Vol. 414	©T. Kanomata 他2名	1~7頁
Magnetic properties of weak itinerant electron ferromagnets $Fe_xCo_{1-x}Si$ under high pressure	共著	2006年	J. Magn. Magn. Mater. Vol. 305	©K. Miura T. Kanomata (3番目) 他4名	202~206頁
Observation of large magneto-resistance of magnetic Heusler alloy $Ni_{50}Mn_{36}Sn_{14}$ in high magnetic fields	共著	2006年	Appl. Phys. Lett. Vol. 89	©K. Koyama T. Kanomata (4番目) 他6名	182510/1~ 182510/3頁
NMR properties of half-Heusler CoVSb	共著	2006年	Phys. Stat. Sol. (c) Vol. 3	©H. Nishihara T. Kanomata (2番目) 他4名	2779~2782 頁
Metamagnetic shape memory effect in a Heusler-type $Ni_{43}Co_7Mn_{39}Sn_{11}$ polycrystalline alloy	共著	2006年	Appl. Phys. Lett. Vol. 88	©R. Kainuma T. Kanomata (11番目) 他9名	192513/1~ 192513/3頁

Neutron study of the martensitic transformation in Ni-Fe-Ga alloys	共著	2006年	Int. J. Electromag. Mech. Vol. 23	◎J. Gutierrez T. Kanomata (7番目) 他5名	71~74頁
Magnetic properties of Heusler alloy Rh ₂ NiGe	共著	2006年	J. Alloys Compd. Vol. 417	◎T. Kanomata 他6名	18~22頁
Pressure effects of the ferromagnetic Heusler alloy Rh ₂ NiGe	共著	2006年	J. Alloys Compd. Vol. 419	◎Y. Adachi T. Kanomata (3番目) 他8名	7~10頁
Effect of high hydrostatic pressure on premartensitic transition in Ni ₂ MnGa	共著	2006年	Scripta Mater. Vol. 55	◎V. A. Chernenko T. Kanomata (3番目) 他3名	303~306頁
Unusual complex high temperature structure of Fe ₂ VSi	共著	2006年	J. Alloys Compd. Vol. 417	◎O. Nashima T. Kanomata (11番目) 他9名	150~154頁
High-field X-ray diffraction measurements of novel ferromagnetic shape-memory alloy Ni ₅₀ Mn ₃₆ Sn ₁₄	共著	2006年	Physica B Vol. 383	◎K. Koyama T. Kanomata (2番目) 他4名	24~25頁
Magnetic properties of ferromagnetic shape memory alloys Ni _{50-x} Mn _{12.5} Fe _{12.5} Ga _{25-x}	共著	2006年	J. Alloys Compd., Vol. 426	◎D. Kikuchi T. Kanomata (2番目) 他2名	223~227頁
Electronic structure of Fe _{3-x} V _x Si probed by photoemission spectroscopy	共著	2006年	Phys. Stat. Sol. (a) Vol. 3	◎Y. Cui T. Kanomata (13番目) 他12名	2765~2768頁
Electronic Structure of Ternary Ferromagnetic Compounds MnAlGe and MnGaGe	共著	2006年	Phys. Stat. Sol. (a) Vol. 3	◎A. Kimura T. Kanomata (3番目) 他2名	2791~2795頁
Mossbauer study of the martensitic transformation in a Ni-Fe-Ga shape memory alloy	共著	2006年	Hyperfine Interact.	◎J. Gutierrez T. Kanomata (8番目) 他6名	DOI 10.1007/ s10751-006 -9425-z (electronic form)
Interplay between hydrogenation and pressure effect in magnetism of Lu ₂ Fe ₁₇ single crystal	共著	2006年	High Pressure Research	◎E. A. Tereshina T. Kanomata (6番目) 他4名	485~488頁
Vacancy induced structural and magnetic transition in MnCo _{1-x} Ge	共著	2006年	Appl. Phys. Lett. Vol. 89	◎J. T. Wang T. Kanomata (5番目) 他5名	262504/1~ 262504/3頁

Magnetization processes near the Curie temperatures of the itinerant ferromagnets, Ni_2MnGa and pure nickel	共著	2007年	J. Alloys & Compd. Vol. 442	◎H. Nishihara T. Kanomata (4番目) 他3名	191~193頁
Magnetization curves around the Curie temperature in LaMnSi_2	共著	2007年	J. Alloys & Compd. Vol. 442	◎H. Inoue T. Kanomata (4番目) 他4名	162~164頁
Neutron diffraction studies on pseudobinary compounds $\text{Cr}_{1-x}\text{Ru}_x\text{Sb}_2$ ($x=0.05$ and 0.2)	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎T. Harada T. Kanomata (4番目) 他5名	1569~1571 頁
Magnetic shape memory alloys	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎P. J. Brown T. Kanomata (5番目) 他9名	2755~2760 頁
Magnetic and thermoelectric properties of $\text{Ni}_{50}\text{Mn}_{36}\text{Sn}_{14}$ in high-magnetic fields	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎K. Koyama T. Kanomata (5番目) 他7名	e994~e995 頁
Pressure effect on transformation temperatures of ferromagnetic shape memory alloy $\text{Ni}_{50}\text{Mn}_{36}\text{Sn}_{14}$	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎T. Yasuda T. Kanomata (2番目) 他8名	2770~2772 頁
Magnetic properties of Heusler alloys $\text{Ru}_{2-x}\text{Fe}_x\text{CrGe}$	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎Y. Kusakari T. Kanomata (2番目) 他2名	e607~e609 頁
Heat capacity of $\text{La}_{1-x}\text{Y}_x\text{Mn}_2\text{Si}_2$ compounds	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎E. G. Gerasimov T. Kanomata (3番目) 他1名	e563~e565 頁
Composition dependence of Ni magnetic moment in Ni-Mn-based Heusler-type intermetallic compounds	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎S. Imada T. Kanomata (3番目) 他4名	1857~1858 頁
NMR properties of ^{51}V in a complex high-temperature phase of Fe_2VSi	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater, Vol. 310	◎H. Nishihara T. Kanomata (4番目) 他3名	1818~1819 頁
Crystal structures and magnetization distributions in the field dependent ferromagnetic shape memory alloy $\text{Ni}_{54}\text{Fe}_{19}\text{Ga}_{27}$	共著	2007年	J. Phys. :Condens. Matter, Vol. 19	◎P. J. Brown T. Kanomata (5番目) 他7名	016201/1~ 016201/9頁
Magnetic Field-Induced Strain of Ni-Co-Mn-In Alloy in Pulsed Magnetic Field	共著	2007年	Jpn. J. Appl. Phys. Vol. 46	◎T. Sakon T. Kanomata (5番目) 他6名	995~998頁

Interrelation between electronic structure and interatomic distances for $R\text{Mn}_2\text{X}_2$ compounds	共著	2007年	Physica B, Vol. 390	©E. G. Gerasimov T. Kanomata (2番目) 他1名	118~123頁
Magnetic anisotropy of $\text{La}_{0.75}\text{Sm}_{0.25}\text{Mn}_2\text{Si}_2$ compound	共著	2007年	J. Phys. :Condens. Matter, Vol. 19	©E. G. Gerasimov T. Kanomata (5番目) 他3名	496202/1~ 496202/9頁
Stability of Mn moments and exchange interactions in cobalt substituted Mn_2Sb	共著	2007年	J. Phys. :Condens. Matter, Vol. 20	©P. J. Brown T. Kanomata (3番目) 他2名	015220/1~ 015220/7頁
Ultraviolet photoemission of Ni_2MnZ (Z=Ga, In and Sn)	共著	2007年	J. Electron Spectrosc. Relat. Phenom., 156-158	©S. Imada T. Kanomata (7番目) 他6名	433~435頁
Advances in Shape Memory Materials : Magnetic and Crystallographic Properties of Shape Memory Alloys $\text{Ni}_2\text{Mn}_{1-x}\text{Sn}_{1-x}$	共著	2008年	Mater. Sci. Forum. Vol. 583	©T. Kanomata 他8名	119~129頁
Advances in Shape Memory Materials: The Crystal Structures and Transformation Mechanisms in Stoichiometric Ni_2MnGa	共著	2008年	Mater. Sci. Forum. Vol. 583	©P. J. Brown T. Kanomata (3番目) 他6名	285~301頁
In-gap Electronic States Responsible for the Excellent Thermoelectric Properties of Ni-based Half-Heusler Alloys	共著	2008年	Applied Physics Express, Vol. 1	©K. Miyamoto T. Kanomata (14番目) 他12名	081901/1~ 081901/3頁
Magnetic properties and ^{61}Ni Mossbauer spectroscopy of the ternary phosphide CrNiP	共著	2008年	J. Phys. : Condens. Matter, Vol. 20	©Z. M. Stadnik T. Kanomata (6番目) 他4名	285228/1~ 285228/7頁
Magnetization and ^{61}Ni Mossbauer effect study of the ternary arsenide CrNiAs	共著	2008年	J. Phys. : Condens. Matter, Vol. 20	©Z. M. Stadnik T. Kanomata (6番目) 他4名	325230/1~ 325230/7頁
Angle-resolved photoemission study of the strongly correlated semiconductor FeSi	共著	2008年	Phys. Rev. B, Vol. 77	©M. Arita T. Kanomata (11番目) 他9名	205117/1~ 205117/5頁
Mossbauer study on martensite phase in $\text{Ni}_{50}\text{Mn}_{36.5}^{57}\text{Fe}_{0.5}\text{Sn}_{13}$ metamagnetic shape memory alloy	共著	2008年	Appl. Phys. Lett. Vol. 93	©R. Y. Umetu T. Kanomata (5番目) 他7名	042509/1~ 042509/3頁
Metamagnetic shape memory effect in NiMn -based Heusler-type alloys	共著	2008年	J. Mater. Chem. Vol. 18	©R. Kainuma T. Kanomata (5番目) 他4名	1837~1842 頁

Magnetoresistance effect of pseudobinary compounds $\text{Cr}_{1-x}\text{Ru}_x\text{Sb}_2$	共著	2008年	J. Alloys & Compd. Vol. 459	©Y. Takahashi T. Kanomata (3番目) 他6名	78~82頁
Specific heat of Zr-based metallic glasses	共著	2008年	J. Alloys & Compd. Vol. 461	©T. Kanomata 他5名	39~41頁
Martensitic transformation in Ni-Fe-Ga alloys	共著	2008年	Mater. Sci. Eng. A, Vol. 478	©J.M. Barandiaran T. Kanomata (9番目) 他7名	125~129頁
Kinetic arrest of martensitic transformation in the NiCoMnIn metamagnetic shape memory alloy	共著	2008年	Appl. Phys. Lett. Vol. 92	©W. Ito T. Kanomata (10番目) 他8名	021908/1~ 021908/3頁
Magnetic properties of Heusler compounds Ru_2CrGe and Ru_2CrSn	共著	2008年	Appl. Phys. Lett. Vol. 92	©H. Okada T. Kanomata (5番目) 他4名	062502/1~ 062502/3頁
Stability of Mn moments and exchange interactions in cobalt substituted Mn_2Sb	共著	2008年	J. Phys. : Condens. Matter., Vol. 20	©P. J. Brown T. Kanomata (3番目) 他2名	015220/1~ 015220/7頁
Magnetic properties of Ni-Mn-Fe-Ga ferromagnetic shape memory alloys	共著	2008年	Int. J. Appl. Electromagnetics and Mechanics, Vol. 27	©T. Kanomata 他4名	215~224頁
Positive magnetoresistance and large magnetostriction at first-order antiferro-ferromagnetic phase transitions in RMn_2Si_2 compounds	共著	2008年	J. Phys. : Condens. Matter, Vol. 20	©E. G. Gerasimov T. Kanomata (4番目) 他3名	445219/1~ 445219/6頁
Magnetic and atomic order in the potential half metallic ferromagnets $\text{Ru}_{2-x}\text{Fe}_x\text{CrGe}$	共著	2008年	J. Phys. : Condens. Matter, Vol. 20	©P. J. Brown T. Kanomata (3番目) 他6名	455201/1~ 455201/6頁
Atomic ordering and magnetic properties in the $\text{Ni}_{45}\text{Co}_9\text{Mn}_{36.7}\text{In}_{13.3}$ metamagnetic shape memory alloys	共著	2008年	Appl. Phys. Lett. Vol. 93	©W. Ito T. Kanomata (5番目) 他4名	232503/1~ 232503/3頁
Chemical potential shift of $\text{Fe}_{3-x}\text{V}_x\text{Si}$ studied by hard x-ray photoemission	共著	2008年	Phys. Rev. B, Vol. 78	©Y. T. Cui T. Kanomata (15番目) 他13名	205113/1~ 205113/7頁
Magnetic anisotropy in Ni-Fe-Ga-Co ferromagnetic shape memory alloys in the single-variant state	共著	2009年	J. Phys. :Condens. Matter, Vol. 21	©H. Morito T. Kanomata (6番目) 他5名	076001/1~ 076001/7頁

Metamagnetic behaviour under high magnetic fields in $Ni_{50}Mn_{50-x}In_x$ ($x=14.0$ and 15.6) shape memory alloys	共著	2009年	J. Phys. D: Appl. Phys. Vol. 42	©R. Y. Umetzu T. Kanomata (3番目) 他7名	075003/1~ 075003/5頁
Anomaly in entropy change between parent and martensite phases in the $Ni_{50}Mn_{34}In_{16}$ Heusler alloys	共著	2009年	Scripta Mater. Vol. 60	©R. Y. Umetzu T. Kanomata (7番目) 他7名	25~28頁
Magnetic properties on shape memory alloys $Ni_2Mn_{1+x}In_{1-x}$	共著	2009年	J. Magn. Magn. Mater. Vol. 321	©T. Kanomata 他9名	773~776頁
Absence of temperature dependence of the valence-band spectrum of Co_2MnSi	共著	2009年	Phys. Rev. B Vol. 79	©K. Miyamoto T. Kanomata (15番目) 他13名	100405R/1~ 100405R/4頁
Transport properties of Heusler compounds Ru_2CrGe and Ru_2CrSn under high magnetic field	共著	2009年	J. Phys. :Conference Series, Vol. 150	©H. Okada T. Kanomata (7番目) 他5名	042153/1~ 042153/4頁
Field-induced-moment nuclear coupling for ^{59}Co in a Heusler alloy Co_2TiGa	共著	2009年	J. Phys. : Conference Series, Vol. 150	©Y. Furutani T. Kanomata (3番目) 他7名	042037/1~ 042037/4頁
Phase diagram of Fe-substituted Ni-Mn-Sn shape memory alloys	共著	2009年	Scripta. Mater. Vol. 61	©K. Fukushima T. Kanomata (3番目) 他9名	813~816頁
Magnetic properties of Mn-rich Ni_2MnSn Heusler alloys under pressure	共著	2009年	J. Alloys Compd. Vol. 486	©Y. Chieda T. Kanomata (2番目) 他8名	51~54頁
Mössbauer study on ferromagnetic shape memory alloys $Ni_2Mn_{1-x}Fe_xGa$	共著	2009年	J. Alloys Compd. Vol. 488	©Y. Amako T. Kanomata (6番目) 他4名	243~245頁
Magnetic properties of $Ni_{50}Mn_{34.8}In_{15.2}$ proved by Mössbauer spectroscopy	共著	2009年	Phys. Rev. B Vol. 80	©V. V. Khovaylo T. Kanomata (2番目) 他7名	144409/1~ 144409/7
Magnetic properties of quaternary Heusler alloys $Ni_{2-x}Co_xMnGa$	共著	2009年	Phys. Rev. B Vol. 80	©T. Kanomata 他8名	214402/1~ 214402/6
C ホイスラー合金の磁性 (解説)	単著	2006年	まてりあ(日本金属学会会報), 第45巻		165~171頁
Ni-Mn-In 系合金のメタ磁性形状記憶効果	共著	2006年	金属, 76巻	貝沼亮介 鹿又 武 (5番目) 他3名	33~39頁

高圧力下で誘起される新磁気相 I - 強磁性体の磁気体積効果はどこまで明らかになったか- (解説)	共著	2007 年	まてりあ(日本金属学会会報), 第 46 巻	◎高橋慶紀 鹿又 武 (2 番目) 他 1 名	645~651 頁
高圧力下で誘起される新磁気相 II - 鉄の磁気発現と磁気体積効果- (解説)	共著	2007 年	まてりあ(日本金属学会会報), 第 46 巻	◎高橋慶紀 鹿又 武 (2 番目) 他 1 名	723~730 頁
NiMn 基ホイスラー合金におけるメタ磁性形状記憶効果(解説)	共著	2007 年	まぐね(日本磁気学会会報), Vol. 2	◎貝沼亮介 鹿又 武 (6 番目) 他 4 名	241~247 頁
金属磁性の進展 (磁気体積効果を中心にして) (解説)	共著	2008 年	まぐね(日本磁気学会会報), Vol. 3	◎高橋慶紀 鹿又 武 (2 番目) 他 1 名	377~383 頁
D 私の研究歴 (論説)	単著	2008 年	まぐね(日本磁気学会会報), Vol. 3		171~172 頁
G Ni ₂ Mn _{1-x} Fe _x Ga の磁気特性	共著	2005 年 3 月	日本物理学会 第 60 回年次大会 (東京理科大学野田キャンパス)	◎鹿又 武 他 9 名	日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 431 頁
遍歴電子強磁性体 Ni ₂ MnGa のキュリー点近傍での磁化過程	共著	2005 年 3 月	日本物理学会 第 60 回年次大会 (東京理科大学野田キャンパス)	◎西原弘訓 鹿又 武 (4 番目) 他 3 名	日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 432 頁
高圧力下で見た遷移金属合金, 化合物の磁性	単著	2005 年 3 月	日本物理学会 第 60 回年次大会 (東京理科大学野田キャンパス)		日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 465 頁
遍歴電子メタ磁性体 MnFeP _{0.9} As _{0.5} の強磁場 X 線回折	共著	2005 年 3 月	日本物理学会 第 60 回年次大会 (東京理科大学野田キャンパス)	◎小山佳一 鹿又 武 (2 番目) 他 1 名	日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 470 頁
強磁性形状記憶合金 Ni ₂ Mn _{0.5} Fe _{0.5} Ga の軟 X 線磁気円二色性	共著	2005 年 3 月	日本物理学会 第 60 回年次大会 (東京理科大学野田キャンパス)	◎八窪裕人 鹿又 武 (5 番目) 他 6 名	日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 709 頁
磁気冷凍用材料 FeMnP _{1-x} As _x の磁気特性	共著	2005 年 3 月	日本金属学会 2005 年春季大会 (横浜国立大学常盤台キャンパス)	◎小山佳一 鹿又 武 (4 番目) 他 4 名	日本金属学会講演概要, 189 頁
ハーフホイスラー合金 CoVSb の磁気特性	単著	2005 年 6 月~7 月	東北大学金属材料研究所 ワークショップ「遍歴電子系における特異磁性の解明・制御と応用への展望」		

ハーフホイスラー合金 CoVSb の NMR	共著	2005 年 9 月	日本物理学会 2005 年秋季大会 (同志社大学田辺キャンパス)	◎西原弘訓 鹿又 武 (2 番目) 他 1 名	日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 321 頁
コバルト系ホイスラー合金の NMR II	共著	2005 年 9 月	日本物理学会 2005 年秋季大会 (同志社大学田辺キャンパス)	◎地主弘幸 鹿又 武 (3 番目) 他 2 名	日本物理学会講演概要集, 第 3 分冊, 327 頁
遍歴電子型強磁性体 CoVSb の磁性	共著	2005 年 9 月	日本金属学会 2005 年秋季大会 (広島大学東広島キャンパス)	◎鹿又 武 他 4 名	日本金属学会講演概要, 493 頁
ホイスラー化合物の磁性	単著	2005 年 10 月	日本金属学会, 「エキゾチック金属間化合物」の構造・相安定性と物性」研究会 (広島大学理学部)		
Electronic Structure of Ternary Ferromagnetic Compounds MnAlGe and MnGaGe	共著	2006 年 3 月	15th International Conference on Ternary and Multinary Compounds (Kyoto, Japan)	◎A. Kimura T. Kanomata (3 番目) 他 2 名	Tue-P-34A
NMR Properties of Half-Heusler CoVSb	共著	2006 年 3 月	15th International Conference on Ternary and Multinary Compounds (Kyoto, Japan)	◎H. Nishihara T. Kanomata (2 番目) 他 4 名	Tue-P-37A
Electronic Structure of $Fe_{3-x}V_xSi$ Probed by Photoemission Spectroscopy	共著	2006 年 3 月	15th International Conference on Ternary and Multinary Compounds (Kyoto, Japan)	◎Y. Cui T. Kanomata (11 番目) 他 9 名	Tue-O-38A
The electronic structure of the Heusler-type $XNiSn$ (X=Zr, Hf)	共著	2006 年 3 月	15th International Conference on Ternary and Multinary Compounds (Kyoto, Japan)	◎K. Miyamoto T. Kanomata (11 番目) 他 9 名	Tue-P-43A
Ni-Mn-In-Co 合金におけるメタ磁性形状記憶効果	共著	2006 年 3 月	日本金属学会 2006 年春季大会 (早稲田大学大久保キャンパス)	◎貝沼亮介 鹿又 武 (10 番目) 他 9 名	日本金属学会講演概要, 239 頁
$Ni_{46}Mn_{41}In_{13}$ 合金のマルテンサイト変態に及ぼす磁場の効果	共著	2006 年 3 月	日本金属学会 2006 年春季大会 (早稲田大学大久保キャンパス)	◎及川勝成 鹿又 武 (10 番目) 他 9 名	日本金属学会講演概要, 239 頁
ハーフホイスラー強磁性合金 $XMnSb$ (X=Ni, Pt) の電子構造の検証	共著	2006 年 3 月	日本金属学会 2006 年春季大会 (早稲田大学大久保キャンパス)	◎木村昭夫 鹿又 武 (14 番目) 他 12 名	日本金属学会講演概要, 148 頁

強磁場X線回折測定によるホイスラー合金 $\text{Ni}_{50}\text{Mn}_{36}\text{Sn}_{14}$ の磁場誘起逆マルテンサイト変態の観測	共著	2006年3月	日本金属学会 2006年春期大会 (早稲田大学大久保キャンパス)	◎小山佳一 鹿又 武 (3番目) 他4名	日本金属学会講演概要, 157頁
α -Mn型 Fe_2VSi のNMR	共著	2006年3月	日本物理学会 第61回年次大会 (松山大学)	◎西原弘訓 鹿又 武 (3番目) 他2名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 441頁
Electronic Structures of $\text{Fe}_{3-x}\text{V}_x\text{Si}$ Probed by Photoemission Spectroscopy	共著	2006年3月	日本物理学会 第61回年次大会 (松山大学)	◎崔芸寿 鹿又 武 (13番目) 他11名	日本物理学会講演概要集, 447頁
ハーフホイスラー型強磁性合金 XMnSb (X=Ni, Pt) の電子構造	共著	2006年3月	日本物理学会 第61回年次大会 (松山大学)	◎坂本和昭 鹿又 武 (15番目) 他13名	日本物理学会講演概要集, 748頁
Magneization processes near the Curie temperature of itinerant ferromagnets, Ni_2MnGa and Nickel	共著	2006年7月	15th International Conference on Solid Compounds of Transition Elements (Krakow, Poland)	◎H. Nishihara T. Kanomata (4番目) 他3名	Abstract, 94頁
Magnetization curves around the Curie temperature in LaMnSi_2	共著	2006年7月	15th International Conference on Solid Compounds of Transition Elements (Krakow, Poland)	◎H. Inoue T. Kanomata (4番目) 他4名	Abstract, 104頁
High field x-ray diffraction studies of novel ferromagnetic shape memory alloys Ni-Mn-X (X=Sn, In)	共著	2006年7月	15th International Conference on Solid Compounds of Transition Elements (Krakow, Poland)	◎K. Koyama T. Kanomata (2番目) 他4名	Abstract, 133頁
Metamagnetic and martensitic transitions of NiMnIn Heusler alloy	共著	2006年8月	Yamada Conference LX on Research in High Magnetic Fields (Sendai, Japan)	◎K. Oikawa T. Kanomata (6番目) 他5名	Abstract, 80頁
Magnetoresistance Effect on Pseudobinary Compounds $\text{Cr}_{1-x}\text{Ru}_x\text{Sb}_2$	共著	2006年8月	Yamada Conference LX on Research in High Magnetic Fields (Sendai, Japan)	◎T. Takahashi T. Kanomata (3番目) 他4名	Abstract, 85頁
Magnetic Shape Memory Alloys	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎P. J. Brown T. Kanomata (4番目) 他8名	Abstract, 16頁
Magnetic, Structural, and Thermal Properties of Metamagnetic Shape Memory Alloy $\text{Ni}_{50}\text{Mn}_{36}\text{Sn}_{14}$ in High Magnetic Field	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎K. Koyama T. Kanomata (5番目) 他8名	Abstract, 17頁

Heat Capacity of $\text{La}_{1-x}\text{Y}_x\text{Mn}_2\text{Si}_2$ Compounds	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎G. Gerasimov T. Kanomata (3番目) 他1名	Abstract, 187頁
Pressure Effect on Transformation Temperatures of Ferromagnetic Shape Memory Alloy $\text{Ni}_{50}\text{Mn}_{36}\text{Sn}_{14}$	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎T. Yasuda T. Kanomata (2番目) 他8名	Abstract, 239頁
Electronic Structure of NiMnSb Evaluated by Photoelectron Spectroscopy	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎K. Miyamoto T. Kanomata (12番目) 他10名	Abstract, 50頁
Neutron Diffraction Studies on Pseudobinary Compounds $\text{Cr}_{1-x}\text{Ru}_x\text{Sb}_2$ ($x=0.05$ and 0.2)	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎T. Kaneko T. Kanomata (5番目) 他5名	Abstract, 293頁
Magnetic Properties of Heusler Alloys $\text{Ru}_{2-x}\text{Fe}_x\text{CrGe}$	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎T. Kanomata 他3名	Abstract, 560頁
NMR Properties of ^{51}V in a Complex High Temperature Phase of Fe_2VSi	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎H. Nishihara T. Kanomata (4番目) 他3名	Abstract, 563頁
Evolution of Ni Magnetic Moment in Ni-Mn Based Heusler-type Intermetallic Compounds	共著	2006年8月	International Conference on Magnetism (Kyoto, Japan)	◎S. Imada T. Kanomata (3番目) 他4名	Abstract, 570頁
Magnetism of a $\text{Lu}_2\text{Fe}_{17}\text{H}$ single crystal under pressure	共著	2006年8月	ICM Satellite Workshop in Fukuoka, Novel Pressure-induced Phenomena in Condensed Matter Systems	◎A. V. Andreev T. Kanomata (6番目) 他4名	Abstract, 66頁
Magnetic Properties of Ni-Mn-Fe-Ga Ferromagnetic Shape Memory Alloys	共著	2006年8月	仙台CRESTワークショップ (東北大学工学研究科)	◎T. Kanomata 他7名	Abstract, 11頁
Magnetic, electrical and structural properties of novel ferromagnetic shape memory alloys Ni-Mn-XX (Sn, In)	共著	2006年8月	仙台CRESTワークショップ (東北大学工学研究科)	◎K. Koyama T. Kanomata (2番目) 他5名	Abstract, 17頁
$\text{Ni}_{43}\text{Co}_7\text{Mn}_{39}\text{Sn}_{11}$ ホイスラー合金のメタ磁性形状記憶効果	共著	2006年9月	日本金属学会 2006年秋期大会 (新潟大学五十嵐キャンパス)	◎及川勝成 鹿又 武 (10番目) 他9名	日本金属学会講演概要, 295頁

Magnetic Properties of Ni-Mn-Fe-Ga Ferromagnetic Shape Memory Alloys	共著	2006年9月	The 3rd International Symposium on Intelligent Artifacts & BIO-Systems (Daejeon, Korea)	◎T. Kanomata 他4名	
Electronic Structures of $Fe_{3-x}V_xSi$ Probed by Photoemission Spectroscopy	共著	2006年9月	日本物理学会秋季大会 (千葉大学西千葉キャンパス)	◎Y. T. Cui T. Kanomata (14番目) 他12名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 309頁
ホイスラー合金 $Ni_{50}Mn_{36}Sn_{14}$ の強磁場物性	共著	2006年9月	日本物理学会秋季大会 (千葉大学西千葉キャンパス)	◎小山佳一 鹿又 武 (4番目) 他6名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 321頁
α -Mn型 $Fe_5V_3Si_2$ の NMR	共著	2006年9月	日本物理学会秋季大会 (千葉大学西千葉キャンパス)	◎西原弘訓 鹿又 武 (3番目) 他4名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 322頁
遍歴電子型化合物, 合金の磁気体積効果	単著	2006年12月	兵庫県立大学ワークショップ (兵庫県, 兵庫県立大学)		
鉄族ホイスラー合金の磁性	単著	2006年12月	平成18年度 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究「高次スピン機能材料の理論設計と創成」研究会 (東北大学電気通信研究所)		
Ni-Mn-In 基メタ磁性 形状記憶合金の磁性	共著	2007年3月	日本物理学会 2007年春季大会 (鹿児島大学郡元キャンパス)	◎伊東 航 鹿又 武 (7番目) 他6名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 411頁
強磁場 X 線回折実験による強磁性形状記憶合金 $Ni_{50}Mn_{41}In_{13}$ の磁場誘起マルテンサイト変態の観測	共著	2007年3月	日本物理学会 2007年春季大会 (鹿児島大学郡元キャンパス)	◎小山佳一 鹿又 武 (4番目) 他7名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 413頁
弱い遍歴電子強磁性体 Ni_3Al のキュリー一点近傍での磁化過程	共著	2007年3月	日本物理学会 2007年春季大会 (鹿児島大学郡元キャンパス)	◎西原弘訓 鹿又 武 (3番目) 他1名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 413頁
ホイスラー型合金 $Ru_{2-x}Fe_xCrGe$ の電子状態	共著	2007年3月	日本物理学会 2007年春季大会 (鹿児島大学郡元キャンパス)	◎門野利治 鹿又 武 (15番目) 他13名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 461頁
Ni-Mn-In ホイスラー合金の高圧力下磁気特性	共著	2007年3月	日本金属学会 2007年春期大会 (千葉工業大学津田沼キャンパス)	◎鹿又 武 他6名	日本金属学会講演概要, 138頁

高効率熱電変換材料 XNiSn (X=Ti, Zr, Hf) の光電子分光	共著	2007年3月	日本金属学会 2007年春期大会 (千葉工業大学津田沼キャンパス)	◎木村昭夫 鹿又 武 (18番目) 他16名	日本金属学会 講演概要, 142頁
ホイスラー合金 Ni-Mn-X (X=Sn, In) の強磁場物性	共著	2007年3月	日本金属学会 2007年春期大会 (千葉工業大学津田沼キャンパス)	◎小山佳一 鹿又 武 (5番目) 他7名	日本金属学会 講演概要, 147頁
Ni ₄₅ Co ₅ Mn _{36.7} In _{13.3} メタ磁性形状記憶合金の巨大磁気抵抗効果	共著	2007年3月	日本金属学会 2007年春期大会 (千葉工業大学津田沼キャンパス)	◎伊東 航 鹿又 武 (9番目) 他8名	日本金属学会 講演概要, 147頁
Fe 添加 Ni-Mn-Sn ホイスラー合金の磁気特性	共著	2007年9月	第31回日本応用磁気学会学術講演会 (学習院大学)	◎福島康司 鹿又 武 (2番目) 他5名	第31回日本応用磁気学会講演概要集 140頁
ホイスラー合金 (Ru _{1-x} Fe _x) ₂ CrGe の磁性と伝導現象	共著	2007年9月	第31回日本応用磁気学会学術講演会 (学習院大学)	◎鹿又 武 他4名	第31回日本応用磁気学会講演概要集 141頁
Ni-Mn-In ホイスラー合金の高圧力下磁気特性	共著	2007年9月	第31回日本応用磁気学会学術講演会 (学習院大学)	◎安田泰士 鹿又 武 (2番目) 他5名	第31回日本応用磁気学会講演概要集 139頁
Fe ₂ YZ (Y=Cr, Co, Z=Al, Ga) ホイスラー合金の相状態と磁氣的性質	共著	2007年9月	日本金属学会 2007年秋期大会 (岐阜大学)	◎梅津理恵 鹿又 武 (5番目) 他3名	日本金属学会 講演概要, 230頁
Ni-Fe-Ga-Co 合金における結晶磁気異方性の圧力効果	共著	2007年9月	日本金属学会 2007年秋期大会 (岐阜大学)	◎森戸晴彦 鹿又 武 (7番目) 他5名	日本金属学会 講演概要, 400頁
ハーフメタル特性を示すホイスラー化合物 Co ₂ CrGa の軟X線光電子分光	共著	2007年9月	日本物理学会 第62回年次大会 (北海道大学札幌キャンパス)	◎恒川雅典 鹿又 武 (7番目) 他5名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 462頁
強磁性ホイスラー合金 Co ₂ VGa のキュリー一点近傍での磁化過程	共著	2007年9月	日本物理学会 第62回年次大会 (北海道大学札幌キャンパス)	◎西原弘訓 鹿又 武 (7番目) 他6名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 463頁
Photoemission Spectroscopy of XPtSn (X=Ti, Zr, Hf, Mn)	共著	2007年9月	日本物理学会 第62回年次大会 (北海道大学札幌キャンパス)	◎M. Ye 鹿又 武 (10番目) 他8名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 467頁
強磁場下におけるNiCoMnIn メタ磁性形状記憶合金のマルテンサイト変態挙動	共著	2008年3月	日本物理学会 第63回年次大会 (近畿大学本部キャンパス)	◎伊東 航 鹿又 武 (9番目) 他8名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 437頁

新ホイスラー化合物 Ru_2CrGe , Ru_2CrSn の磁性と伝導現象	共著	2008年3月	日本物理学会 第63回年次大会(近畿大学本部キャンパス)	◎岡田宏成 鹿又 武 (7番目) 他5名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 438頁
Electronic structures of half-Heusler alloys $XPtSn$ ($X=Ti, Zr, Hf$) studied by X-ray photoemission spectroscopy	共著	2008年3月	日本物理学会 第63回年次大会(近畿大学本部キャンパス)	◎M. Ye 鹿又 武 (12番目) 他10名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 493頁
Electronic structures of Heusler-type alloys $Ru_{2-x}Fe_xCrZ$ ($Z=Ge, Sn$) studied by Soft X-ray Photoemission Spectroscopy	共著	2008年3月	日本物理学会 第63回年次大会(近畿大学本部キャンパス)	◎Y. T. Cui 鹿又 武 (11番目) 他9名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 493頁
フルホイスラー合金 $Ru_{2-x}Fe_xCrGe$ の電子構造	共著	2008年3月	日本金属学会 2008年春期大会(武蔵工業大学世田谷キャンパス)	◎木村昭夫 鹿又 武 (14番目) 他12名	日本金属学会講演概要, 267頁
$Ni_{50}Mn_{(50-x)}Sn_x$ 磁性形状記憶合金の結晶構造と相安定性	共著	2008年3月	日本金属学会 2008年春期大会(武蔵工業大学世田谷キャンパス)	◎伊東 航 鹿又 武 (8番目) 他7名	日本金属学会講演概要, 140頁
MAGNETIC PROPERTIES ON SHAPE MEMORY ALLOYS $Ni_2Mn_{1+x}In_{1-x}$	共著	2008年6月	Moscow International Symposium on Magnetism (Moscow)	◎T. Kanomata 他9名	MISM Book of Abstract Moscow 2008, 571頁
POSITIVE MAGNETORESISTANCE AND LARGE MAGNETOSTRICTION AT ANTIFERRO-FERROMAGNETIC PHASE TRANSITION IN RMn_2Si_2 COMPOUNDS	共著	2008年6月	Moscow International Symposium on Magnetism (Moscow)	◎E. G. Gerasimov T. Kanomata (4番目) 他3名	MISM Book of Abstract Moscow 2008, 792頁
Magnetic Properties on Shape Memory Alloys $Ni_2Mn_{1+x}In_{1-x}$	単著	2008年9月	広島大学理学研究科物性セミナー(広島大学)		
強磁性形状記憶合金 $Ni_{50}Mn_{50-x}In_x$ のレーザー光電子分光	共著	2008年9月	日本物理学会 2008年秋季大会(岩手大学上田キャンパス)	◎吉田力也 鹿又 武 (5番目) 他8名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 355頁
Electronic structures of $Ni_{2-x}Co_xMnGa$ studied by X-ray photoemission spectroscopy	共著	2008年9月	日本物理学会 2008年秋季大会(岩手大学上田キャンパス)	◎M. Ye T. Kanomata (14番目) 他12名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 365頁
強磁性ホイスラー合金 Co_2VGa 中の ^{59}Co の正の超微細磁場の起源	共著	2008年9月	日本物理学会 2008年秋季大会(岩手大学上田キャンパス)	◎西原弘訓 鹿又 武 (3番目) 他6名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 394頁
Laser Photoemission Study on Ferromagnetic Shape Memory Alloy $Ni_{50}Mn_{50-x}In_x$	共著	2008年9月	日本物理学会 2008年秋季大会(岩手大学上田キャンパス)	◎R. Yoshida T. Kanomata (5番目) 他8名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 640頁

Ni ₅₀ Mn ₃₄ In ₁₆ 合金の強磁場中磁化測定	共著	2008年9月	日本金属学会 2008年秋期大会(熊本大学黒髪キャンパス)	◎梅津理恵 鹿又 武 (7番目) 他7名	日本金属学会講演概要, 400頁
強磁性ホイスラー合金のお話	単著	2008年11月	龍谷大学理工学部機械システムセミナー(龍谷大学瀬田キャンパス)		
MAGNETIC PROPERTIES ON SHAPE MEMORY ALLOYS Ni-Mn-Z(Z=In, Sn)	単著	2008年11月	第8回 琉球物性研究会(琉球大学)		アブストラクト68頁
Co 基強磁性ホイスラー合金中の ⁵⁹ Coの正の強磁性NMRシフトの起源	共著	2009年3月	日本物理学会 第64回年次大会(立教大学, 立教池袋中学・高校)	◎西原弘訓 鹿又 武 (3番目) 他6名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 437頁
ハーフメタル強磁性体 Co ₂ MnSi の電子状態における温度依存性	共著	2009年3月	日本物理学会 第64回年次大会(立教大学, 立教池袋中学・高校)	◎宮本孝治 鹿又 武 (15番目) 他13名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 437頁
The electronic structures correlated with the martensite transition in Ni ₂ Mn _{1-x} Sn _{1-x}	共著	2009年3月	日本物理学会 第64回年次大会(立教大学, 立教池袋中学・高校)	◎M. Ye T. Kanomata (10番目) 他8名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 459頁
バルク 敏感光電子分光法による Ni ₅₀ Mn _{50-x} In _x の組成依存性	共著	2009年3月	日本物理学会 第64回年次大会(立教大学, 立教池袋中学・高校)	◎岡崎宏之 鹿又 武 (6番目) 他8名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 500頁
Pd-Mn-Sn 合金の磁性	共著	2009年3月	日本金属学会 2009年春期大会(東京工業大学 大岡山キャンパス)	◎鹿又 武 他8名	日本金属学会講演概要, 287頁
NiCoMnIn 合金のマルテンサイト変態挙動と磁気特性に及ぼす母相規則度の影響	共著	2009年3月	日本金属学会 2009年春期大会(東京工業大学 大岡山キャンパス)	◎伊東 航 鹿又 武 (5番目) 他4名	日本金属学会講演概要, 322頁
Phase diagram of Cu-substituted Ni-Mn-Ga ferromagnetic shape memory alloys	共著	2009年7月	東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究「高次スピン機能材料の理論設計と創製」研究会(東北学院大学多賀城キャンパス)	◎K. Endo T. Kanomata (2番目)	
Phase diagram of Cu-substituted Ni-Mn-Ga ferromagnetic shape memory alloys	共著	2009年7月	平成21年度第1回東北学院大学環境防災工学研究所, 研究発表会	◎遠藤慶太 鹿又 武 (2番目)	
Effect of Substitution of Co on kinetic arrest behaviour in NiCoMnIn metamagnetic shape memory alloys	共著	2009年7月	International Conference on Magnetism (Karlsruhe, Germany)	◎W. Ito T. Kanomata (5番目) 他4名	Abstract 80頁

Magnetization Process near the Curie temperature of a Ferromagnetic Heusler Alloy Co_2CrGa	共著	2009年7月	International Conference on Magnetism (Karlsruhe, Germany)	◎H. Nishihara T. Kanomata (4番目) 他6名	Abstract 348頁
Hyperfine coupling constant for ^{59}Co estimated from a high-field susceptibility and high-field NMR shift in ferromagnetic Co_2TiGa and Co_2VGa	共著	2009年7月	International Conference on Magnetism (Karlsruhe, Germany)	◎H. Nishihara T. Kanomata (4番目) 他7名	Abstract 267頁
Metamagnetic behavior and magnetic properties of Ni-based ferromagnetic shape memory alloys	共著	2009年9月	第33回日本磁気学会学術講演会(長崎大学文教キャンパス)	◎R. Umetsu T. Kanomata (3番目) 他6名	第33回日本磁気学会講演概要集, 206頁
Electronic structures of Ni_2MnGa upon the martensitic phase transition studied by X-ray magnetic circular dichroism (XMCD)	共著	2009年9月	日本物理学会 2009年度秋季大会(熊本大学黒髪キャンパス)	◎M. Ye T. Kanomata (13番目) 他11名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 320頁
Electronic and magnetic structures of Heusler-type alloys $\text{Ru}_{2-x}\text{Fe}_x\text{CrGe}$	共著	2009年9月	日本物理学会 2009年度秋季大会(熊本大学黒髪キャンパス)	◎Y. T. Cui T. Kanomata (9番目) 他7名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 320頁
Electronic structures of $\text{Ni}_2\text{Mn}_{1-x}\text{Sn}_{1-x}$ upon the martensitic phase transition studied by X-ray magnetic circular dichroism (XMCD)	共著	2009年9月	日本物理学会 2009年度秋季大会(熊本大学黒髪キャンパス)	◎M. Ye T. Kanomata (11番目) 他9名	日本物理学会講演概要集, 第3分冊, 349頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)	2003~2005年	共同・研究代表者	磁場制御可能な形状記憶合金の系統的探索
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007~2008年	共同・研究代表者	Ni-Mn-In合金のメタ磁性相転移
二国間(日英)交流事業共同研究(日本学術振興会)	2008~2009年	共同・分担者	Ni-Mn系メタ磁性形状記憶合金に関する研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2009~2011年	共同・研究代表者	磁性形状記憶合金の巨大磁気抵抗効果
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	2009~2011年	共同・研究代表者	高圧力誘起新磁気相ファクトデータベース

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年5月~2008年3月	東北大学金属材料研究所金属ガラス総合研究センター共同利用委員会委員
2006年9月	The 3rd International Symposium on Intelligent Artifacts and Biosystems (Daejeon, Korea)のInternational Scientific Committee
2007年10月~2008年3月	東北大学電気通信研究所共同研究員
2008年3月18日	平成19年度(2007年度)ハイテクリサーチセンター公開シンポジウム開催

2008年9月12日～2008年9月15日	日本磁気学会第32回学術講演会実行副委員長
2008年10月1日～2010年3月31日	東北大学金属材料研究所金属ガラス総合研究センター共同利用委員会委員
2009年3月10日	平成20年度(2008年度) ハイテクリサーチセンター公開シンポジウム開催

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	小池 和雄	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	PC (Power Point を使用) を用いた授業改善 および補足資料としてのプリントの配布	2005年4月～		画像等の視覚的な情報をより多く提供することにより講義理解度の改善をはかるため、担当科目である航空宇宙工学、機械知能工学基礎および基礎流体工学ではPC (Power Point を使用) を用いた講義を行っている。また、受講学生のノート作成を促し、筆記を補完するために重要項目や式のプリントを年度毎に改善をはかりながら配布している。			
	小テストの実施	2005年4月～		専門基礎科目である基礎流体工学では、講義の理解度調査およびその効果を確認するための簡単な演習を導入した(現在は8回実施)。それらの結果を参考にして、適宜配布するプリント資料の見直しを行い、ノート作成を補完するなどの改善をはかっている。			
	授業に関連したトピックス等の情報をインターネットのトップページ等から取得して紹介する	2005年9月～		航空宇宙工学では、各分野での研究や開発等の進展も速いことから、インターネット上の授業に関連した最新のニュースや最新情報が記述されたホームページ等を紹介し、できるだけ新しい情報の伝達に努めている。			
4	高校への出前授業の講師を務めた	2007年11月20日		宮城県立築館高等学校の2年生に、「流体工学って何？」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba							
Control of Plasma Jet Using Strong Magnetic Field		共著	2005年8月	JSME International Journal, Series B, Vol. 48, No. 3	◎N. Ono K. Musha K. Koike	411～416頁	
A Simple Diagnosis for Thermal Characteristics of Plasma Jet under Strong Magnetic Field		共著	2005年9月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE, Vol. 5	◎N. Ono K. Musha K. Koike	73～78頁	
プラズマ噴流の半径方向温度分布算定に関する考察		共著	2005年12月	プラズマ応用科学, Vol. 13	◎小野憲文 小池和雄	3～8頁	
A Simple Diagnostic Method for Plasma Jet in Strong Magnetic Field		共著	2006年9月	Vacuum, Vol 80, No. 11-12	◎N. Ono K. Musha K. Koike	1179～1184頁	
EFFECT OF STRONG MAGNETIC FIELD ON FLOW BEHAVIOR OF UNDEREXPANDED PLASMA JET		共著	2006年9月	PROC. 12TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON FLOW VISUALIZATION, German Aerospace Center (DLR), Goettingen, Germany, (CD-ROM)	◎N. Ono Y. Otomo K. Koike	総頁数8頁	

分光法による強磁場中のアルゴン励起温度算定に関する検討	共著	2006年12月	プラズマ応用科学 Vol. 14	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	17～22頁
Behavior of Underexpanded Plasma Jet in Strong Magnetic Field	共著	2007年4月	Journal of Visualization Vol. 10, No. 2	◎N. Ono Y. Otomo K. Koike	237～244頁
Light Intensity Analysis of Plasma Jet Behavior under Strong Magnetic Field	共著	2007年9月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE, Vol. 6	◎K. Koike N. Ono	33～36頁
Study of Spatial Resolution of Optical Probe for Plasma Spectroscopic Measurement	共著	2008年7月	社団法人高温学会, Frontier of Applied Plasma Technology, Vol. 1	◎K. Koike N. Ono	13～16頁
Light intensity analysis of plasma jet constriction with applied magnetic field	共著	2008年9月	Vacuum, Vol. 83, No. 1	◎K. Koike N. Ono	25～28頁
Image Analysis of Shock Structure in Plasma Jet under Strong Magnetic Field	共著	2009年9月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE, Vol. 7	◎N. Ono H. Tamiya K. Koike	27～30頁
Study of Accurate Determination of Excitation Temperature Distribution in Plasma Jet under Strong Magnetic Field	共著	2009年9月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE, Vol. 7	◎H. Tamiya N. Ono K. Koike	55～58頁
D					
電磁制御スマートプラズマシステムに関する研究	単著	2006年3月	大阪大学接合科学研究 所共同研究報告 2004年度		200～201頁
強磁場によるプラズマ噴流制御（実験的なアプローチ）	共著	2006年6月	日本機械学会流体工 学部門 P-SCD345 機能 性流体工学の先端融 合化に関する研究分 科会成果報告書	小池和雄 小野憲文	20～25頁
電磁制御スマートプラズマシステムに関する研究	単著	2007年7月	大阪大学接合科学研究 所共同研究報告 2006年度		127～128頁
スマートプラズマシステムに関する研究（プラズマ温度計測についての検討）	単著	2008年7月	大阪大学接合科学研究 所共同研究報告 2007年度		158～159頁
スマートプラズマシステムに関する研究	単著	2009年7月	大阪大学接合科学研究 所共同研究報告 2008年度		148～149頁
E					
私立大学における研究推進・支援体制のあり方	共著	2008年3月	社団法人 日本私立 大学連盟	教育研究分 科会（分担 執筆）	
私立大学における研究活動への期待—アンケート調査結果に基づく活性化のための提言—	共著	2009年3月	社団法人 日本私立 大学連盟	教育研究分 科会（分担 執筆）	

<p>G</p> <p>強磁場下でのプラズマプルーム構造の簡易診断（色強度と放射強度の比較）</p>	共著	2005年3月	プラズマ応用科学会第12回年会2004年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 14	◎小野憲文 武者和博 小池和雄	23～26頁
<p>強磁場によるプラズマ噴流の収縮（画像解析に基づく一考察）</p>	共著	2005年3月	日本機械学会東北支部第40期総会講演会講演論文集, NO. 051-1	◎武者和博 小野憲文 小池和雄	108～109頁
<p>強磁場によるプラズマ噴流制御（実験的なアプローチ）</p>	単著	2005年7月	日本機械学会流体工学部門第8回「機能性流体工学の先端融合化に関する研究分科会」		
<p>A Simple Diagnosis for Thermal Characteristics of Plasma Jet under Strong Magnetic Field</p>	共著	2005年9月	The 5th International Symposium on Applied Plasma Science	◎N. Ono K. Musha K. Koike	
<p>画像処理によるプラズマ噴流特性の一考察</p>	共著	2005年10月	可視化情報工学会全国講演会（新潟2005）講演論文集, Vol. 25, Suppl. No. 2	◎小野憲文 小池和雄	59～62頁
<p>アルゴンの励起温度算定に関する考察</p>	共著	2006年3月	プラズマ応用科学会第13回年会2005年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 15	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	35～38頁
<p>強磁場下でのプラズマ噴流の放射分光計測</p>	共著	2006年3月	プラズマ応用科学会第13回年会2005年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 15	◎大友康史 小野憲文 小池和雄	123頁
<p>磁場によるプラズマ噴流の線スペクトル強度の変化</p>	共著	2006年8月	日本混相流学会年会講演会2006講演論文集	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	372～373頁
<p>ボルツマンプロットによるプラズマ噴流の温度分布算定（測定波長域選択に関する検討）</p>	共著	2007年3月	プラズマ応用科学会第14回年会2006年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 16	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	15～18頁
<p>強磁場によるプラズマ噴流の光強度の変化</p>	共著	2007年3月	プラズマ応用科学会第14回年会2006年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 16	◎大友康史 小野憲文 小池和雄	115頁

励起アルゴンの放射計測における空間分解能の改善	共著	2007年3月	プラズマ応用科学会第14回年会2006年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 16	◎小池和雄 小野憲文 大友康史	19~22 頁
Light Intensity Analysis of Plasma Jet Behavior under Strong Magnetic Field	共著	2007年9月	The 6th International Symposium on Applied Plasma Science	◎K. Koike N. Ono	
プラズマ分光計測用光学測定端子の空間分解能に関する検討	共著	2008年3月	プラズマ応用科学会第15回年会2007年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 17	◎小池和雄 小野憲文	19~20 頁
強磁場によるマッハディスクの変形	共著	2009年3月	プラズマ応用科学会第16回年会2008年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 18	◎小野憲文 田宮 一 小池和雄	7~8 頁
光学測定端子の空間分解能に関する検討	共著	2009年3月	プラズマ応用科学会第16回年会2008年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 18	◎田宮 一 小野憲文 小池和雄	77 頁
Image Analysis of Shock Structure in Plasma Jet under Strong Magnetic Field	共著	2009年9月	The 7th International Symposium on Applied Plasma Science	◎N. Ono H. Tamiya K. Koike	
Study of Accurate Determination of Excitation Temperature Distribution in Plasma Jet under Strong Magnetic Field	共著	2009年9月	The 7th International Symposium on Applied Plasma Science	◎H. Tamiya N. Ono K. Koike	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)	2006~2008年度	個別	

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2003年4月~2006年3月	日本機械学会「P-SCD345 機能性流体工学の先端融合化に関する研究分科会」委員
2004年8月~2005年12月	ISAPS' 05(The 5th International Symposium on Applied Plasma Science, Hawaii, USA), Executive Committee member
2004年9月~2005年3月	プラズマ応用科学会第12回年会実行委員会委員
2005年4月~2006年3月	日本機械学会第83期校閲委員

2005年9月～2006年3月	プラズマ応用科学会第13回年会実行委員会委員
2006年4月～2007年3月	日本機械学会第84期校閲委員
2006年8月～2008年3月	ISAPS' 07(The 6th International Symposium on Applied Plasma Science, Nikko, Japan), Executive Committee member
2006年9月～2007年3月	プラズマ応用科学会第14回年会実行委員会委員長
2007年4月1日～2009年3月31日	日本私立大学連盟教育研究委員会教育研究分科会委員
2007年4月1日～2010年3月31日	日本機械学会環境工学部門大気圧プラズマ流による人間環境保全技術に関する研究分科会 (P-SCD 360) 委員
2007年8月～2008年3月	プラズマ応用科学会第15回年会実行委員会副委員長
2007年9月9日～2008年8月9日	日本混相流学会 2007年度研究企画委員会研究分科会委員 (R&P committee 6 機能性流体のマルチスケール流動とシステム化)
2008年6月～2009年12月	ISAPS' 09(The 7th International Symposium on Applied Plasma Science, Hamburg, Germany), Executive Committee member
2009年8月9日～2010年7月18日	日本混相流学会 2009年度研究企画委員会研究分科会委員 (R&P committee 6 機能性流体のマルチスケール流動とシステム化)

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	齋藤 修	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業理解促進のためのプリント作成と配布	2005年1月～2009年12月		授業で使用するテキストの不足部分の説明をプリントにて作成し、配布することにより補った。			
	学生による授業評価の実施	2005年1月～2009年12月		授業の効果を測定するため学生による授業評価のアンケートを行った。			
	学生によるプレゼンテーションの実施指導	2005年1月～2009年12月		身の回りの機械に興味・関心を持たせるための資料を集めさせディベートを行った。その際、外部機関との交渉を学生がスムーズに行えるように仲介し、種々のアドバイスをした。			
	学生同士のディベートによる機械の評価	2005年1月～2009年12月		社会の中の機械工学に焦点をあて、身の回りにある工業製品をエンジニアの立場から詳細に分解して解説し、プレゼンテーションできるように指導した。			
2	授業で使用する映像 DVD の編集および作成による学生の視的理解度を高めた教材の作成。また教科書以外の補助教材としてパワーポイントによるスライドの作成	2006年4月～2008年12月		切削理論や工具の解説等を映像により補った。同時に授業で使用するテキストの不足部分の説明をパワーポイントによるスライドで補った。			
	機械工学実験の機材操作マニュアルおよび補助教材の作成	2006年4月～2008年12月		実験テキストの執筆およびプリントの作成を行った。			
	学生によるプレゼンテーションの実施指導内容の概要集の発行	2006年4月～2008年12月		工学に興味・関心を持たせるため様々な機械の資料を集めさせ分析させた。その内容について書式、体裁等に係わる添削指導を行い概要集を印刷した。			
3	高等学校への出前授業	2005年10月5日		宮城県角田高等学校の大学進学希望3年生および1,2年生全員に対して「すてきなものを作る技術」と題する授業を行った。			
	高等学校への出前授業	2006年11月10日		秋田県立角館高等学校の1,2年生に対して「すてきなものを作る技術」と題する授業を行った。			
	高等学校への出前授業	2007年10月12日		宮城県塩釜高等学校の大学進学希望2年生に対して「センスを磨いてすてきなものを造ろう」と題する授業を行い機械工学の興味・関心を喚起した。			
	高等学校への出前授業	2008年3月21日		宮城県工業高等学校の大学進学希望2年生に対して「センスを磨いてすてきなものを造ろう」と題する授業を行い機械工学の興味・関心を喚起した。			
	高等学校への出前授業	2008年7月2日		宮城県利府高等学校の大学進学希望2年生に対して「センスを磨いてすてきなものを造ろう」と題する授業を行い機械工学の興味・関心を喚起した。			

高等学校への出前授業	2009年10月23日	岩手県大船渡高等学校の生徒に対して「すてきなものづくり」と題する授業を行い機械工学の興味・関心を喚起した。
4 2009 東北学院大学工学部のパンフレット作成	2007年4月～2008年3月	東北学院大学工学部広報・HP 委員長として2009東北学院大学工学部のパンフレットを編集した。
大学施設見学者に対する説明案内	2007年7月4日	石巻西高等学校の2学年生徒45名に対する機械知能工学科のカリキュラムと研究内容および研究施設の説明を行った。
大学院博士（前期）課程学生の国内学会発表指導	2007年9月5～7日	2007年度砥粒加工学会学術講演会に大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
平成20年度FD研修会への参加	2007年12月6日	「現代学生気質について」議論し、教育改善の具体的方法や優れた授業の実施方法等を検討した。
関西国際大学学習支援センターへの視察	2008年2月26,27日	数理基礎教育に関する教育指導の実践状況を把握するため、文科省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された「大学のユニバーサル化と学習支援の取組」について議論した。
工学基礎教育センター所長	2008年4月～	工学基礎教育センターが実施する学習支援および学習相談の管理運営を行う。
平成20年度FD研修会への参加	2008年6月1日	教育改善の具体的方法や優れた授業の実施方法等について議論した。
工学基礎教育センターの施設見学者への説明	2008年11月5日	宮城県石巻工業高等学校 PTA（30名）に対して工学基礎教育センターの目的、学習支援および学習相談内容について詳細に説明し、質疑応答を行った。
工学基礎教育センターの施設見学者への説明	2008年11月8日	山形県山本学園高等学校の1学年生徒に対する機械知能工学科のカリキュラムと研究内容および研究施設の説明を行った。
工学基礎教育センターおよびFD委員会共催での平成20年度講演会の開催	2008年11月21日	基礎教育センターの円滑な運営を行うことを目的として題目「教員と学生が双方向的に活用できる学習支援システムの開発と展望」で講演を行った。講師は岩手大学大学教育総合センター所員。
平成20年度FD研修会への参加	2008年11月27日	「学士課程教育の質の保証について」に参加し、教育改善の具体的方法や優れた授業の実施方法等について議論した。
大学教育機能開発総合研究センターと基礎教育センターおよびものづくり創造融合工学教育センターの視察	2009年2月26日	文科省の「特別教育研究事業の採択による「21世紀ものづくりをリードする技術者やデザイナーを育てる」に関する教育指導の実践状況を把握するため熊本大学を視察し報告した。
工学基礎教育センターの広報活動	2009年3月1日	「工学基礎教育センターの取り組み」として日本私立大学連盟の大学時報, No. 325, pp92-97, 2009に紹介記事を記載した。

平成 20 年度 FD 技術講習会への参加	2009 年 3 月 1 日	大阪経済大学で行われた FD 技術講習会へ参加し、効率よい学習コンテンツの作成方法や教授法について分科会形式でサンプル資料を作成し討議した。
工学基礎教育センターの広報活動	2009 年 4 月 1 日	「入学前教育と工学基礎教育センターのコラボレーション」として日本リメディアル教育学会, リメディアル教育研究, Vol. 4, No. 1, pp19-24, 2009 に入学前教育の解説記事を記載した。
工学基礎教育センターの広報活動	2009 年 5 月 14 日	宮城県工業系大学, 高等学校懇談会参加者に対する工学基礎教育センターの運営方針と運営状況および施設内容の説明を行った。
文科省大学教育・学生支援事業への申請	2009 年 5 月 26 日	工学基礎教育センター所長として, 「初年次教育プログラムによる包括的改善活動」として文科省大学教育・学生支援事業への申請を行った。
工学基礎教育センターの広報活動	2009 年 6 月 10 日	福島成蹊高等学校 1 学年生徒に対する機械知能工学科のカリキュラムと研究内容および研究施設の説明を行った。
私立大学キャンパスシステム研究会での講演	2009 年 6 月 25 日	私立大学キャンパスシステム研究会において工学基礎教育センター所長として「入学前教育と工学基礎教育センターの取り組み」についての講演を行った。
教員免許更新制度による工学部開講講座の実施	2009 年 8 月 20, 21 日	教員免許更新, 工学部開講講座の機械工作に関する講義および実験を行った。
平成 21 年度 FD 研修会での講演	2009 年 9 月 24 日	工学基礎教育センター所長として教職員のための「工学基礎教育センターの取り組みと活動状況について」の講演を行った
宮城県高等学校長協会研修会の講演	2009 年 11 月 6 日	宮城県高等学校長協会研修会講師として講演を行う。題目は「東北学院大学工学基礎教育センターの取り組みについて」講演内容は現状での学習支援および学習相談でのさまざまな活動状況や現代学生の学生気質についてである。
工学基礎教育センターおよび FD 委員会共催での平成 21 年度講演会の開催	2009 年 11 月 13 日	基礎教育センターの円滑な運営を行うことを目的として題目「科学・技術と市民の出会いを演出する」で講演を行った。講師は北海道大学大学教育総合センター所員。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 実用理工学入門講座「基礎からの材料加工法」	共著	2009 年 4 月	日新出版	横田 理 青山正治 清水誠二 井上孝司 春日幸生 斎藤 修 齋藤明德 川森重弘	62~70 頁

Ba	Effect of Tool Segmentation in Ultrasonic Machining	共著	2005年8月	Key Engineering Materials, Vols. 291-292	O. Saito T. Kuriyagawa	585~590頁
	超音波加工における分割工具の加工特性	共著	2005年9月	砥粒加工学会誌 Vol. 49, No. 9	斎藤 修 厨川常元	502~505頁
G	Effect of Tool Segmentation in Ultrasonic Machining-Studies of Ultrasonic Die Sinking	共著	2005年6月	ISAAT2005. INTERNATIONAL SYMPOSIUM "Advances in Abrasive Technology-VIII"	O. Saito T. Kuriyagawa	585~590頁
	超音波加工における矩形工具の加工特性	共著	2005年9月	2005年度砥粒加工学会学術講演会	斎藤 修 厨川常元	195~196頁
	マイクロ気体軸受の回転特性	共著	2006年12月	2006年度精密工学会東北支部学術講演会	渡部寛志 斎藤 修 十合晋一 他	103~104頁
	加工速度に影響を及ぼす工具周長と圧力領域	共著	2007年9月	2007年度砥粒加工学会学術講演会	井場 渉 斎藤 修 厨川常元	135~136頁
	レーザーアシストによる SiC の超音波加工	共著	2008年7月	2008年度東北学院大学環境防災研究所学術講演会	井場 渉 斎藤 修	CD-ROM
	レーザーアシストによる SiC の超音波加工の効果について	共著	2009年3月	2009年度砥粒加工学会春季学術講演会	井場 渉 斎藤 修	ポスター発表
	レーザーアシストによる SiC の超音波加工への効果	共著	2009年9月	2009年度砥粒加工学会秋季学術講演会	斎藤 修 厨川常元	361~364頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年4月~2009年3月	社団法人 精密工学会ナノ精度機械加工専門委員
2007年4月~2009年3月	社団法人 精密工学会東北支部商議員
2007年4月~2009年3月	社団法人 砥粒加工学会論文校閲委員
2009年3月	日本政策金融公庫, 成長新事業育成審査会審査委員
2009年4月~2010年3月	社団法人 日本機会学会東北支部商議員

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	鈴木 利夫	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習成果の演習・応用として、現地測定を合宿を通して実施	2007年9月4日～5日		温泉廃熱の有効利用に関する基礎実験として、具体的廃熱の回収に関する実験を合宿しながら指導した。			
2	物理学実験 改訂版第1刷(東北学院大学生活協同組合)	2007年4月1日		物理学実験編纂の会のメンバーとして左記実験指導書の改訂に携わった。			
	物理学実験 改訂版第2刷(東北学院大学生生活協同組合)	2008年4月1日		物理学実験編纂の会のメンバーとして左記実験指導書の改訂に携わった。			
	物理学実験 改訂版第3刷(東北学院大学生生活協同組合)	2009年4月1日		物理学実験編纂の会のメンバーとして左記実験指導書の改訂に携わった。			
4	オープンキャンパス・工学部祭で研究室の公開	1994年～		ソーラーカーや省エネルギー車両等の展示および公開実験を行っている。			
	みやぎ県民大学「大学開放講座」工学部コースの講師	2005年9月28日		東北学院大学工学部開放講座にて「自動車のある生活」と題して講義を行った。			
	「環境日本一エコエネルギーコンテスト」に参加 銀賞	2005年11月20日		山梨県主催の「環境日本一エコエネルギーコンテスト」アイデア部門に鈴木研究室として学生が応募し「銀賞」を獲得。その指導を行った。			
	研究指導を行った4年生が学会にて発表	2006年3月4日		日本機械学会東北学生会の学生員卒業研究発表講演会(いわき明星大学)にて研究室所属学生が研究発表。その指導を行った。			
	高校への出前講義の講師	2006年10月5日 および11月21日		宮城県角田高校の1,2年生および宮城県築館高校の2年生に「自動車の話—その定義からエンジン・動力など」と題する授業を行った。			
	現職教員セミナーの講師	2007年7月28日		東北学院大学工学部・教職課程センター主催の研修セミナーにおいて「エンジンおよび動力について」と題して講義を行った。			
	(社)自動車技術会東北支部が開催した「手作り自動車省燃費競技大会」で大学・高専の部1位	2007年9月8日		宮城県運転免許センターで開催された左記の競技会に参加した本学学生チームを指導し、大学・高専の部で1位を得ることができた。			
	高校への出前講義の講師	2007年11月30日		宮城県泉松稜高校の1年生に「自動車の話—動力(馬力)とは—」と題する授業を行った。			
	大学院工学研究科FD研修会の講師	2008年2月28日		東北学院大学大学院工学研究科の実施したFD研修会において「新たな大学院教育に向けてのカリキュラム改正」と題した講演を行った。			
	研究指導を行った4年生が学会にて発表	2008年3月7日		日本機械学会東北学生会の学生員卒業研究発表講演会(八戸工業大学)にて研究室所属学生が研究発表。その指導を行った。			
	高校への出前講義の講師	2008年3月21日		宮城県工業高校の1年生に「ソーラーカーの設計」と題する授業を行った。			

大学FD研修会へ参加	2008年7月3日	東北学院大学の開催したFD研修会に参加し研修を行った。
平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の実習における講師	2008年8月5日	小、中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対し「熱から電気を生み出す物質」の実習指導を行なった。
平成20年度経済産業省委託事業として(社)みやぎ工業会が実施した「工業高校実践教育導入事業クラフトマン21」の大学体験講座の講師	2008年8月6日～8日	大学体験講座の講師として仙台工業の3年生2名に対し講義および実習・実験指導を行った。
平成20年度キャリア実践教育プロジェクト(コラボ授業)の講師	2008年12月16日	多賀城市教育委員会が採択された文部科学省の委託事業である左記のプロジェクト中のコラボ授業を担当した。
大学FD研修会へ参加	2009年7月2日	東北学院大学の開催したFD研修会に参加し研修を行った。
産学連携セミナー「第48回寺子屋せんだい」の講師	2009年8月4日	財団法人仙台市産業振興事業団が主催する産学連携セミナーにて「赤外線放射温度計の応用」と題して講演を行った。
平成21年度経済産業省委託事業として(社)みやぎ工業会が実施した「工業高校実践教育導入事業クラフトマン21」の大学体験講座の講師	2009年8月10日～12日	大学体験講座の講師として仙台工業の3年生6名に対し講義および実習・実験指導を行った。
平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の実習における講師	2009年8月18日	小、中学校及び高等学校の理科担当教員11名に対し「熱から電気を生み出す物質」の実習指導を行なった。
平成21年度教員免許状更新講習(工業)の講師	2009年8月21日	工業高校教員の教員免許状更新講習において「工業の授業活性化のための機械系技術の解説」の一部として原動機に関する講義および実験指導等を行った。
平成21年度宮連中教研理科大会の特別講座(実験)の講師	2009年10月2日	中学校の理科担当教員5名に対し「自動車の燃料消費測定」の実験指導を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba					
エンジン表面温度測定による冷却特性の検討	単著	2005年1月	日本陸用内燃機関協会誌(LEMA)No.478		19～24頁
表面温度測定によるエンジン冷却特性の検討—温度制御手法による影響—	単著	2007年1月	日本陸用内燃機関協会誌(LEMA)No.486		35～40頁
液—液噴射法による噴霧の模擬—噴霧到達距離無次元表示の応用—	単著	2008年1月	日本陸用内燃機関協会誌(LEMA)No.490		33～38頁
液—液噴射法による噴霧の模擬—噴射初期特性の検討—	単著	2009年1月	日本陸用内燃機関協会誌(LEMA)No.494		27～32頁
Bb					
振動流による熱輸送特性に関する基礎的研究	共著	2007年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要No18	大田陽平 鈴木芳輝 庄司幸嗣 鈴木利夫	41～47頁

G	エンジン表面温度測定による冷却特性の検討	単著	2005年10月	日本機械学会九州支部大分地方講演会講演論文集 No. 058-2		65～66 頁
	液-液噴射法による噴霧特性の研究-噴流の分裂特性-	単著	2005年11月	第14回微粒化シンポジウム講演論文集		87～88 頁
	エンジン廃熱の有効利用に関する検討	単著	2006年10月	日本機械学会関東支部山梨講演会講演論文集 No. 060-4		83～84 頁
	表面温度測定によるエンジン冷却特性の検討	共著	2006年11月	第75回(平成18年秋季)マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集	鈴木利夫 大田陽平	63～64 頁
	エンジン冷却における温度制御方法の影響	単著	2007年5月	第76回(平成19年春季)マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集		37～38 項
	液-液噴射法による噴霧特性の研究-分裂長さの検討-	単著	2007年10月	日本機械学会関東支部山梨講演会講演論文集 No. 070-4		112～113 頁
	液-液噴射法による噴霧特性の研究-ノズル寸法比の影響-	共著	2008年10月	日本機械学会関東支部山梨講演会講演論文集 No. 080-4	須藤 翔 鈴木利夫	91～92 頁
	液-液噴射法による噴霧特性の研究-噴射終了特性についての観察-	共著	2009年9月	第79回(平成21年)マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集	須藤 翔 鈴木利夫	9～10 頁
	PDAによる単噴孔気中霧の解析	共著	2009年10月	日本機械学会関東支部山梨講演会講演論文集 No. 090-4	三浦雄祐 鈴木利夫	86～87 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
東北学院個別・共同研究助成金	2008年度	共同研究 研究代表	高齢者の自立と社会性の確保を目的とする「対話型自立走行小型電動コミューターカー」の開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2002年5月～	自動車技術会東北支部幹事
2005年3月～2007年2月	日本機械学会東北支部商議員
2008年3月～	みやぎカーインテリジェント人材育成センター運営委員
2009年9月～	仙台市産学連携推進業務「地域連携フェロー」

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	伊達 秀文	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	講義内容の視覚化	2005年～	材料工学Ⅱにおいて、学生が視覚的に理解できるように、グラフ、図、組織図など全てをOHP化及びPC上のパワーポイント化している。				
	演習の導入	2005年～	数値材料工学では、既存のアプリケーションソフトをブラックボックス的に使用できるようにするため、理論は基礎的事項に止め、実習、演習を主体として行なっている。				
	演習の重視	2007年～	材料力学Ⅱは講義科目であるが、機械設計のための基本科目であることから問題が解けることを重視するためレポートを出し、その評価を重視している。				
2	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名：21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 講義編	2007年7月～2007年9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名：21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2007年7月～2007年9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名：21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 講義編	2008年5月～2008年7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名：21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2008年5月～2008年7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名：21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 講義編	2009年7月～9月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、 テーマ名：21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2009年7月～9月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料。				
4	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2007年7月～2008年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員22名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008年4月～2009年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。				

平成 20 年度キャリア実践教育プロジェクト (コラボ授業)	2008 年 12 月 16 日	多賀城市教育委員会が採択された文部科学省の委託事業である左記のプロジェクト中のコラボ授業を担当した。
平成 21 年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の企画実施	2009 年 7 月～2010 年 3 月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員 22 名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を 90 分 30 回行なった。
平成 21 年度環境防災工学研究所公開講座の開催	2009 年 9 月～10 月	身の回りの環境と防災と題した統一テーマで平成 21 年度は「土に関わる環境と防災」を行い、近隣の住民約 35 名の出席があった。
平成 21 年度宮城県中学校理科教育研究大会特別講義の企画実施	2009 年 10 月 2 日	宮城県連合中学校教育研究会理科研究部会が行なう研究大会の特別講義(テーマ 12)を設定し、120 分の実習を行なった。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 機械工学便覧 基礎編 a3 材料力学	共著	2005 年	丸善株式会社	伊達秀文 (社)日本機械学会	29～30 頁
Ba Estimation of Deformation Mechanism of Aluminum by Temperature Measurement	単著	2005 年	Proc. of The Sixth International Congress on Thermal Stresses, 2		561～564 頁
Estimation of Mechanical Properties of Al/Cu Compound layer Formed by Impact Welding	共著	2005 年	Materials Science Forum 502	H. Date M. Futakawa M. Naka	455～460 頁
Simple Estimation of Deformation induced Martensite in Stainless Steel,	単著	2005 年	Key Engineering Materials 297		500～506 頁
Effect of Hydrogen Absorption on the Mechanical Properties of Palladium,	共著	2005 年	Key Engineering Materials, 300	M. Yamaya M. Futakawa H. Date	2713～2719 頁
Pitting Damage by Pressure Waves in a Mercury Target	共著	2005 年	J. of Nuclear Materials 343	M. Futakawa T. Naoe C. C. Tsai H. Kogawa S. Ishikura Y. Ikeda H. Soyama H. Date	70～80 頁
衝撃圧接により生成された Al/Cu 化合物層の機械的特性の評価	共著	2005 年	高温学会誌, 31	伊達秀文 二川正敏 奈賀正明	364 頁～
Micro-Impact Damage Caused by Mercury Bubble Collapse,	共著	2005 年	JSME International Journal, Ser. A, 48	M. Futakawa T. Naoe H. Kogawa H. Date Y. Ikeda	234～239 頁

Effect of Tensile Waves on Impact Erosion at a Solid/liquid Interface,	共著	2005 年	Int. J. Impact Engineering, 32	H. Date M. Futakawa	118~129 頁
Effect of the Diameter of a Thermocouple on the Transient Temperature of a Deforming Specimen at a High Strain Rate	単著	2006 年	Proc. of International Symposium on Plasticity and Current Application, CD-ROM		
Evaluation of Compound layer Formed by Impact Welding Using Phase Transformation Technique	共著	2007 年	Solid State Phenomena, Vol. 127	H. Date M. Naka	282~288 頁
Effect of Strain Rate on the Transformation behavior of Ni-Ti Alloy	単著	2007 年	Materials Science Forum, Vol. 543		3231~3236 頁
Temperature Estimation of a Contact Surface Between a specimen and Tool using a Thermocouple Method During Elastic-Plastic Deformation	単著	2007 年	Proc. of The Seventh International Congress on Thermal Stresses, Vol. 1		193~196 頁
Effect of Specimen Diameter on Weldability of Impact Welding	単著	2008 年	International Journal of Modern Physics B, Vol. 22		1659~1665 頁
衝撃圧接の接合性に及ぼすプロジェクトアル径の影響	単著	2008 年	高温学会誌, Vol. 34		178~185 頁
Effects of Deformation-Induced Martensite on Resistivity of Deforming Stainless Steel	単著	2008 年	Proc. of International Conference on Material and Processing 2008, CD-ROM.		CD-ROM
G					
Estimation of Deformation Mechanism of Aluminum by Temperature Measurement	単著	2005 年	Proc. of The Sixth International Congress on Thermal Stresses, 2		561~564 頁
Ni-Ti 合金の形状回復挙動に及ぼすひずみとひずみ速度の影響	単著	2005 年	第 49 回日本学術会議材料研究連合講演会講演論文集 (2005)		34~35 頁
Effect of the Diameter of a Thermocouple on the Transient Temperature of a Deforming Specimen at a High Strain Rate	単著	2006 年	Proc. of International Symposium on Plasticity and Current Application, CD-ROM		

Evaluation of Compound layer Formed by Impact Welding Using Phase Transformation Technique	共著	2006年	Book of Abstract of International Worksgop on Designing of Interfacial Structures in Advanced Materials and their Joints	H.Date M.Naka	23頁
Effect of Strain Rates on the Transformation Behavior of Ni-Ti Alloy	単著	2006年	Book of Abstract of International Conference on Processing and Manufacturing of Advanced Materials		168頁
Temperature Estimation of a Contact Surface Between a specimen and Tool using a Thermocouple Method During Elastic-Plastic Deformation	単著	2007年	Proc. of The Seventh International Congress on ThermalStresses, Vol. 1		193~196頁
Effect of Specimen Diameter on Weldability of Impact Welding	単著	2007年	Abstracts Book on Sixth International Symposium on Impact Engineering		50頁
孟宗竹の力学特性とひずみ速度依存性	単著	2008年	日本実験力学学会 2008年度年次講演会講演論文集, No. 8		291~292頁
Effects of Deformation-Induced Martensite on Resistivity of Deforming Stainless Steel	単著	2008年	Proc. of International Conference on Material and Processing 2008, CD-ROM.		CD-ROM
衝撃圧接の接合性に及ぼすプロジェクトアル径の影響	単著	2008年	第9回材料の衝撃シンポジウム		
オーステナイト系ステンレス鋼に変形誘起されるマルテンサイトの比抵抗による評価	共著	2009年	日本材料学会第58期学術講演会講演論文集	工藤利之 伊達秀文	293~294頁
Effects of Deformation Mode on Resistivity CurveUsing For Estimating MartensiteInduced In Stainless Steel	単著	2009年	Abstracts Book on Internationnal Conference on Processing & Manufacturing of Advanced Materials		246頁
アルミニウム小球の衝撃接合	単著	2009年	日本機械学会 2009年度年次大会講演論文集, Vol. 1		291~292頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動	
2005～2006 年度, 2007～2008 年度	日本材料学会校閲委員
2005～2006 年度, 2007～2008 年度	日本塑性加工学会校閲委員
2006 年度	みやぎもの作り大賞選考委員
2006 年 6 月～	みやぎ工業会理事
2007 年 9 月 1 日	Sixth International Symposium on Impact Engineering, Co-chair
2008 年 7 月 1 日	日本実験力学学会 2008 年度年次講演会, 座長
2008 年 10 月 10 日	International Conference on Material and Processing 2008, Session - chair
2009 年度～2010 年度	日本材料学会校閲委員
2009 年度～2010 年度	日本塑性加工学会校閲委員
2009 年 9 月	日本機械学会 2009 年度年次大会, 筆頭オーガナイザー
2009 年 11 月	日本材料学会主催 第 8 回衝撃工学フォーラム講師

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	鶴本 勝夫	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	最重要点を予告 板書し、式の誘導を理解させる 身近な乗り物や製品を例に取り上げる	2007年4月～2008年12月 2007年4月～2008年12月 2007年4月～2008年12月	慢然とならなように要点を絞る。 式のなり立ちを理解させるため、式を誘導し、式の展開をすべて板書する。 出来るだけ身近かなものを取り上げ興味をもたせる。				
2	機構モデルを作成	2007年4月～2008年12月	四節リンクを作成し、節の交替を視覚的にとらえ理解しやすくする。				
3	ユニバーサルデザインでは、車イスを使用	2007年4月～9月	障害者と同じ目線で考えさせるために、車イスや目かくしなどの実践を取り入れた。				
4	高大連携を実施	2008年8月	工業高の機械・電気・電子科の生徒に磁気歯車の動作原理と開発の歩みを講義した。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	試作した増速用磁気式遊星・差動歯車装置の性能試験	共著	2005年	日本応用磁気学会誌, Vol. 29, No. 3	鶴本勝夫 小松純也 操谷欽吾 後藤大地	316～319頁	
	外輪歯車の歯たけ修正時における増速用磁気式遊星・差動歯車装置の特性	共著	2006年	日本応用磁気学会誌, Vol. 30, No. 2	鶴本勝夫 羽田正人 山中恵介 及川 豊 千葉 賢	264～267頁	
	ツイン型太陽歯車を有する磁気式遊星・差動歯車装置の性能試験	共著	2006年	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 41, No. 1	山中恵介 鶴本勝夫	12～17頁	
	NdFeB 磁石を使用した磁気式遊星・差動歯車装置の性能試験	共著	2006年	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 41, No. 1	羽田正人 鶴本勝夫	18～21頁	
	NaFeB 磁石を使用した磁気式遊星・差動歯車装置の試作研究	共著	2007年3月	日本応用磁気学会誌 (第31巻第2号)	羽田正人 鶴本勝夫	135～138頁	
	ツイン型太陽歯車を有する磁気式遊星・差動歯車装置の性能改善		2008年3月	日本応用磁気学会誌 (第31巻第2号)	山中恵介 鶴本勝夫	139～142頁	
Bb	増速型磁気式遊星・差動歯車装置の試作研究	共著	2005年	東北学院大学環境防 災研究所紀要, No. 16	小松純也 鶴本勝夫	30～32頁	

永久磁石を利用した各種磁気歯車の試作研究	単著	2006年	東北学院大学工学部 研究報告書, Vol. 41, No. 1		54~59頁
D 完全非接触型磁気歯車装置の開発	単著	2009年3月	検査技術 (第14巻, 第3号)		1~5頁
E 東北学院航空工業専門学校の誕生と萱場資郎	単著	2007年12月	東北学院資料室 (第7 巻)		12~15頁
「独創開発」にかけた萱場資郎の生涯	単著	2008年12月	東北学院資料室 (第8 巻)		14~19頁
G WIRELESS-TYPE MAGNETIC MICRO - ACTUATOR CAPABLE OF MOVEMENT IN PIPE	共著	2005年	INTERMAG ASIA 2005 : Digests of the IEEE International Magnetics Conference, April4-8	H. Yaguchi K. Tsurumoto	722頁
増速用磁気式遊星・差動歯車装置の歯 たけ修正と負荷性能について	共著	2005年	第29回日本応用磁気 学会学術講演概要集, 19aE-5	鶴本勝夫 羽田正人 山中恵介 及川 豊 千葉 賢	86頁
高増速比を有する磁気式遊星・差動歯 車装置の特性	共著	2006年	日本機械学会東北学 生会, 第36回卒業研 究発表講演会講演論 文集, March-4, 910	七浦 誠 高橋和樹 西村壮太 山中恵介 鶴本勝夫	239~240頁
二重連携駆動による磁気式遊星・差動 歯車装置の試作研究	共著	2006年	第30回日本応用磁気 学会学術講演概要集, 12aE-6	山中恵介 鶴本勝夫	159頁
NdFeB 磁石の一体成形歯を有する磁気 式遊星・差動歯車装置の試作研究	共著	2006年	第30回日本応用磁気 学会学術講演概要集 12aE-7	羽田正人 鶴本勝夫	160頁
マグネトロイダル発電機の試作とその 特性	共著	2008年9月	第32回日本磁気学会 学術講演会概要集 12aE-6	宮沢正樹 鶴本勝夫	95頁
磁気式遊星歯車装置に内蔵した三相交 流発電機の試作と基礎特性	共著	2009年3月	平成21年電気学会全 国大会	宮沢正樹 相沢拓哉 藤原正範 鶴本勝夫	153頁
2ロータ差動駆動三相発電機の試作と その特性		2009年9月	第33回日本磁気学会 学術講演会概要集 12pF-9	宮沢正樹 相沢拓哉 鶴本勝夫	127頁
I 「磁気歯車」		2007年4月		鶴本勝夫 操谷欽吾 後藤大地	特許 第3942101号

「磁気歯車式遊星歯車装置」		2007年4月		鶴本勝夫 操谷欽吾 後藤大地	特許 第3942102号
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2006年9月12日	平成18年度（2006）日本応用磁気学会より「技術功労賞」受賞				
2009年3月12日	平成21年度（2009）精密工学会創立75周年にあたり，社団法人精密工学会より「功労賞」受賞				
2009年9月15日	社団法人日本機械学会 永年会員資格取得				

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	樋渡洋一郎	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	研究合宿 4年生を研究指導して学会にて発表。	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会。				
	研究合宿 4年生を研究指導して学会にて発表。	2005年12月	平成17年応用物理学会東北支部講演会。				
	研究合宿 4年生を研究指導して学会にて発表。	2006年2月	平成18年東北地区若手研究者研究発表会。				
	研究合宿 4年生を研究指導して学会にて発表。	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会。				
	研究合宿 4年生を研究指導して学会にて発表。	2006年12月	平成18年応用物理学会東北支部講演会。				
4	オープンキャンパス, 工学部祭にて研究室公開。東北学院大学学生部・副部長(工学部)	2005年~2006年	指導				
	大学院生の学会発表指導。	2005年~2006年	12回発表。個々の学会でよい評価を得た。				
	①リメディアル教育(機械知能工学科)	2007年1月~2008年3月	入学前教育の添削指導を行った。				
	②東北学院大学就職部・副部長(工学部)	2007年4月1日~2009年3月	就職活動・インターンシップの指導を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	塩を含むアルコール水溶液中の孔食の電気化学法並びに超音響法による研究	単著	2004年11月	博士(工学)東北学院大学乙 第42号(2004)		1~151頁	
Ba	光熱電気化学映像法によるステンレス鋼板溶接部の評価	共著	2007年12月	光学, vol. 36, No. 12	©樋渡洋一郎 鎌田諒大 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	712~716頁	
G	光熱・電気化学法によるステンレス鋼の人工孔食映像化の試み	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会 予稿集 YS-3-20	鎌田諒大 石川健哉 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務		
	超音響顕微映像法による傾斜表面欠陥の欠陥検出	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 2B-07	大瀧直樹 内藤俊介 鹿野博徳 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務		

光熱・電気化学法によるステンレス鋼に生じさせた人工孔食の映像化	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 2B-08	鎌田諒大 三浦裕樹 遠藤友浩 大瀧直樹 石川健哉 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務
ステンレス鋼の人工孔食の光熱電気化学検出法による映像化	共著	2005年9月	日本機械学会 2005年度年次大会 予稿集	樋渡洋一郎 鎌田諒大 石川健哉 遠藤春男 星宮 務
光音響法による傾斜凹型表面下欠陥の非破壊検出	共著	2005年9月	日本機械学会 2005年度年次大会 予稿集	遠藤春男 大瀧直樹 樋渡洋一郎 星宮 務
光熱電気化学検出法によるステンレス鋼の溶接部の映像化	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部講演会予稿集	鎌田諒大 遠藤友浩 三浦祐樹 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光熱電気化学法によるステンレス鋼の熱影響部の映像化	共著	2006年2月	平成18年東北地区若手研究者研究発表会予稿集	宍戸敬太 遠藤友浩 三浦祐樹 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光熱・電気化学法による溶接欠陥部の検出	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務
光熱・電気化学法による溶接を施したステンレス鋼の熱影響部の映像化	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集	鎌田諒大 尾形誠一 佐藤桂輔 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務
光熱電気化学検出法によるステンレス鋼の溶接熱影響部の映像化	共著	2006年9月	日本機械学 2006年度年次大会予稿集	樋渡洋一郎 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務
光音響法による楔状傾斜表面欠陥の非破壊検出	共著	2006年9月	日本機械学 2006年度年次大会予稿集	遠藤春男 大瀧直樹 樋渡洋一郎 星宮 務

Evaluation of Weldment by Photothermal Electrochemical (PE) Detection	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集	Y. Hiwatashi R. Kamata H. Endoh T. Hoshimiya	
Nondestructive Evaluation of Wedge-Shaped Surface Defects by Photoacoustic Microscopy	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集	H. Endoh N. Ohtaki Y. Hiwatashi T. Hoshimiya	
光熱電気化学検出法による溶接欠陥部の検出	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部講演会予稿集	鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	
光熱電気化学法を用いた溶接欠陥部の評価	共著	2007年3月	平成19年東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」予稿集 YS-5-03 (東北工大)	◎鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	
光熱電気化学修復法による擬似孔食の修復	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1H13 (弘前大)	◎高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	
光熱電気化学信号の温度特性	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1H14 (弘前大)	◎高津朋章 谷藤清朗 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	
光熱電気化学検出法による溶接欠陥の検出	共著	2007年9月	日本機械学会2007年度年次大会講演論文集, Vol.1, No.07-1 (関西大)	◎樋渡洋一郎 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	63~64頁
光音響法による楔状表面欠陥の定量的非破壊検出	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 2007 予稿集 26aC8 (大阪大)	◎高津朋章 谷藤清朗 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	
PE法を用いた腐食部修復の基礎実験	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集 (八戸工大)	◎高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	168~169頁

固形試料を用いたPEM測定を試み	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集, (八戸工大)	◎谷藤清朗 南條 充 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	172~173頁
光熱電気化学法による固形試料の映像化の検討	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料, YS-6-38 (東北工大)	◎南條 充 谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	
光熱電気化学測定における装置の小型化と画像比較	共著		電気関係学会東北支部予稿集 2E11 (日大郡山)	◎谷藤清朗 高津朋章 車塚靖寛 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	180頁
楔状表面欠陥の光音響顕微鏡法による非破壊評価	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部予稿集 2E12 (日大郡山)	◎白石大二郎 山本 寛 井上貴之 加藤量介 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務	181頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年4月～2009年3月	日本機械学会東北支部・商議員
2009年4月～2011年3月	腐食防食協会・評議員
	日本化学会正会員
	日本機械学会正会員
	日本材料学会正会員
	応用物理学会正会員
	日本金属学会正会員
	表面技術協会正会員
	日本鋳造工学会正会員
	腐食防食協会正会員
	IEEE 会員

所属	機械知能工学科	職名	教授	氏名	矢口 博之	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教員独自の「学生による授業評価」を実施している。				2009年4月～12月	学部で実施する「学生による授業評価」にて授業の効果を確認している。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Globular Magnetic Actuator Capable of Movement inside Complex Pipe		共著	2009年5月	Power Conversion Intelligent Motion Europe 2009	H. Yaguchi N. Sato T. Izumikawa	総頁数 4	
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Movement in a Pipe		共著	2009年7月	Sensor Letters, Vol. 7, No. 3, (2009).	H. Yaguchi K. Ishikawa	343～347頁	
A Novel Globular Magnetic Actuator for Movement inside Complex Pipe		単著	2009年7月	The 8th International Symposium on Advanced Electromechanical Motion Systems	H. Yaguchi N. Sato	総頁数 5	
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Reversible Motion in a Thin Pipe		共著	2009年10月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 45, No. 10, (2009).	H. Yaguchi K. Ishikawa T. Zanma	4530～4533頁	
Bb 管内走行用ケーブルレス型磁気アクチュエータの高推進化		共著	2009年12月	電気学会マグネティックス研究会資料, MAG-05-72	泉川友宏 矢口博之	総頁数 5	
C 管内を走行可能な球状型磁気アクチュエータ		共著	2009年3月	東海支部第58期総会・講演会(岐阜), 2頁, 2009年3月	佐藤徳明 加藤公男 矢口博之	総頁数 2	
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Movement in a Pipe		共著	2009年5月	The 2009 IEEE International Magnetics Conference, BV-02 (2009), USA.	H. Yaguchi K. Ishikawa T. Zanma	総頁数 2	
A Novel Globular Magnetic Actuator for Movement inside Complex Pipe		共著	2009年5月	Power Conversion Intelligent Motion Europe 2009, PP50 (2009), Germany.	H. Yaguchi N. Sato T. Izumikawa	総頁数 4	
Globular Magnetic Actuator Capable of Movement inside Complex Pipe		共著	2009年7月	The 8th International Symposium on Advanced Electromechanical Motion Systems, (2009), France.	H. Yaguchi N. Sato	総頁数 5	

複雑な管内を走行可能な球状型磁気アクチュエータの試作	共著	2009年9月	第33回日本応用磁気学会学術講演会	矢口博之 佐藤徳明 加藤公男	総頁数2
管内走行用ケーブルレス型磁気アクチュエータの効率化の検討		2009年9月	第33回日本応用磁気学会学術講演会	泉川友宏 矢口博之	総頁数2

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年10月1日～2009年9月30日	電気学会マイクロ磁気ドライブ技術とその応用調査専門委員
2007年6月1日～	日本磁気学会論文委員（パワーマグネティックス分野）
2009年3月18日	日本機械学会東海支部第58期総会・講演会にて座長
2009年4月1日～2010年3月31日	日本応用磁気学会論文賞・学術奨励賞選考委員

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	魚橋 慶子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	大阪府立高専第1学年工学応用実習の教材開発ならびに関連する第5学年卒業研究指導	2001年4月～2004年3月		工学応用実習とは、平成15～16年度大阪府立高専電子情報工学科第1学年に開講された科目である。いくつかの実習項目のうちレゴマインドストームを用いた実習の準備を行った。プログラミング（アイコン使用による初心者向けのもの・NQC言語によるもの）によりモノが動く喜びを、実感できるような教材を準備した。第5学年卒業研究のテーマにもしばしばレゴマインドストームの制御を取り入れた。NQC (Not Quite C) 言語・Visual Basic 言語により、迷路走行ロボット・掃除ロボット・カメラ使用による物体追従ロボット・自動車庫入れ車などの制御を研究させた。卒業研究生数名に、第1学年工学応用実習の教材案を作成させた。			
	大阪府立高専第1学年工学基礎実習の教材開発ならびに授業実施	2003年4月～2005年3月		大阪府立高専では平成15年度より、各学科に関する実習を個々の学生の所属学科に関わらず実習させることとなった。そのための第1学年工学基礎実習の開講準備ならびに授業を担当した。当時の私の所属である電子情報工学科に関する実習テーマとして、ポケコン制御（Basicによる電子回路制御）を取り上げた。そして、必ずしも電子情報工学を専攻しない学生、例えばプログラミングに苦手意識を持つ学生にも理解が容易な教材を工夫した。			
	禁煙教育	2003年4月～2005年3月		大阪府立高専学生副主事として学生の禁煙教育にかかわった。大学禁煙化プロジェクト講習会（プロジェクト責任者 奈良女子大学教授高橋裕子）受講などにより医学的知識を収集し、「医学的禁煙法」について校内広報誌へ初めて掲載した。			
	性の多様性を考慮した人権教育	2003年4月～2007年3月		「性の多様性」とは、生物の性別が単純に男女の2通りに分けられないことを指す。単純な男女差別と限らない、性の多様性に関する差別についての考察を大阪府立高専紀要に掲載した。また、誤った統計処理で人権を侵害しないよう、統計学の授業時に性の多様性を例にとり学生に注意を呼びかけた。			
	適語補充問題の作成指導による応用数学教育	2007年4月～2009年3月		工学部機械知能工学科応用数学Ⅰ・Ⅲの授業において、常微分方程式・フーリエ解析・偏微分方程式に関する「適語補充問題」を受講学生に作成させた。作成させた問題の幾つかを受講者全体へ印刷・配布した。問題作成者自身の数学能力が向上する点と、適語補充問題を解き数学に苦手意識を持つ学生の実力が付く点の、2点に効果があった。			

<p>誤解答の提示による応用数学教育</p>	<p>2009年4月～</p>	<p>工学部機械知能工学科応用数学Ⅰ・Ⅲの授業において、常微分方程式・フーリエ解析・偏微分方程式に関する実際の学生の誤解答へ授業担当者が修正例を書き添えた後、受講者全体へ印刷・配布した。正解のみを提示しない点が工夫事柄である。</p>
<p>2 高等専門学校電気系数学に関するカリキュラム開発（事業出資者：独立行政法人国立高等専門学校機構，事業名：平成18年度特別教育経費事業「高専だからできる一般科目カリキュラム」，主管校：和歌山工業高等専門学校）</p>	<p>2006年4月～2007年3月</p>	<p>本事業の目的は、近畿地区7高専の電気系（および情報系）数学担当者が共同でカリキュラムを開発することである。そこへ大阪府立高専電気系（および情報系）数学担当者として参画した。電気・情報のどの場面でどの数学が用いられるかを自然に習得できるカリキュラムの提案および教科書原稿を作成した。数学と専門科目との接点の他に、一般科目数学と応用数学との接点においても学生の理解が容易なカリキュラム・教科書となるよう留意した。（回路網関数・二端子対回路・状態変数解析の箇所を担当）</p>
<p>3 「大阪府立高専第1学年工学基礎実習の2年間のまとめ」平成17年度工学・工業教育研究講演会講演論文集（主催 日本工学教育協会），502～503頁（共同研究者：金田忠裕（発表者），土井智晴，石川寿敏，魚橋慶子，水越克彰，武市康裕）</p>	<p>2005年9月</p>	<p>「大阪府立高専第1学年工学基礎実習の教材開発ならびに授業実施」に相当する箇所を担当した。</p>
<p>名古屋工業大学平成21年度第3回FD研究会（主催 同大学工学教育総合センター創造教育開発オフィス）の講師を務めた</p>	<p>2009年12月3日</p>	<p>「大学初年次教育に関して一東北学院大学・工学基礎教育センターでの活動を踏まえて」と題して講演を行った。</p>
<p>4 工学基礎教育センター相談員</p>	<p>2007年4月～</p>	<p>工学基礎教育センター相談員を務めた。数学の質問に応じ、学生の学力を高めた。</p>
<p>平成20年度現職教員研修セミナー（主催 東北学院大学教職課程センター）の講師を務めた</p>	<p>2008年12月6日</p>	<p>高等学校の現職教員（数学）に対し「直線とは～測地線の幾何学とその応用～」と題して講義を行った。</p>
<p>平成20年度キャリア実践教育プロジェクト（担当 東北学院大学大学院工学研究科）の講師を務めた</p>	<p>2008年12月16日</p>	<p>多賀城市立東豊中学校2年生に対し「PICマイコンでミニカーを走らせよう」と題して実習指導を行った。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた</p>	<p>2009年3月17日</p>	<p>宮城県仙台西高等学校1・2年生に対し「理学・工学にあらわれる幾何学」と題して授業を行った。</p>
<p>平成21年度 第31回宮城県中学校理科教育研究大会 多賀城大会 特別講座の講師を務めた</p>	<p>2009年10月2日</p>	<p>宮城県内の中学校理科教員に対し「倒立振子の力学」と題して実習指導を行った。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた</p>	<p>2009年11月11日</p>	<p>東北学院榴ヶ岡高等学校1年生に対しIT・制御工学に関する授業「数値計算入門」を行った。</p>
<p>高校への出前授業の講師を務めた</p>	<p>2009年12月19日</p>	<p>聖和学園高等学校第1・2・3学年に対し「工学にあらわれる幾何学」と題して授業を行った。</p>

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 確率統計入門－わかりやすい応用例で学ぶ	共著	2008年4月	培風館	編著 服部雄一 共著 片山登揚 魚橋慶子 笠松貴宏 川上公仁	89～152頁
Ba Jordan algebras and dual affine connections on symmetric cones	共著	2004年	Positivity, Vol. 8	K. Uohashi A. Ohara	369～378頁
性の多様性に対応する人権教育についての考察	単著	2009年3月	東北学院大学教育研究所報告集, 第9集		49～62頁
Bb 対称錐上の主双対内点法と双対幾何構造	単著	2008年2月	京都大学, 数理解析研究所講究録, vol. 1584 「数値最適化の理論と実際」		1～7頁
制御工学に現れる幾何	単著	2008年3月	東北学院大学工学部研究報告, 第42巻 第1・2号		1～4頁
C 部位別の性別存在を意識した人権教育	単著	2004年7月	大阪府立工業高等専門学校研究紀要, 第38巻		43～52頁
G 対称錐上の最適化と統計多様体	単著	2005年9月	日本数学会 2005年度秋季総合分科会幾何学分科会講演		84頁
Primal-Dual Interior Point Methods on Symmetric Cones and Dualistic Structure of them	単著	2006年6月	大阪市立大学数学研究所ミニスクール「情報幾何への入門と応用」		135～140頁
マハラノビス距離と統計多様体	単著	2007年12月	大阪市立大学数学研究所ミニスクール「情報幾何への入門と応用, II」		117～121頁
Power class of search directions and dualistic structure on symmetric cones	単著	2008年5月	理化学研究所脳科学総合研究センター, BSI Forum Mini-Symposium on Information Geometry		
最適化問題と情報幾何 対称錐線形計画法と群作用	単著	2009年1月	大阪市立大学数学研究所「情報幾何学研究集会 2009」		

循環式マルチカーエレベータの運行について	共著	2009年3月	計測自動制御学会東北支部 第249回研究集会	伊藤由香 大宮佑介 魚橋慶子	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
科学研究費補助金若手研究(B)		2004～2005年度	個別	対称錐上の最適化法と統計多様体	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1996年12月～		計測自動制御学会会員			
1997年4月～		日本応用数理学会会員			
1998年6月～		日本数学会会員			
2007年4月～		システム制御情報学会会員			

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	小野 憲文	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 「卒業研究」による成果を担当学科目に反映させる教育研究の実施		2000年4月～		学科科目「卒業研究」において「流体工学分野における学習環境の開発」に関する指導を行ってきた。これは、学部4年生が開発することによって自分が学びたい部分・未修得な部分をその開発教材に反映できるという特色を持っている。卒研究生が主体となって作成した教材を担当科目の授業中に使用し、受講学生への学習効果や学生をフィードバックすることによって更なる教育環境・教材の改良をはかる教育研究を実施している。			
2 「コンピュータ基礎」および「コンピュータ応用」に関するWeb（電子）教材		2000年4月～		担当している「コンピュータ基礎」および「コンピュータ応用」は全てこのWeb（電子）教材を使用して授業を進めている。主な内容はコンピュータリテラシーとC言語の入門に関するものである。教材はレポートや試験問題も掲載されるため、学内からのみ閲覧可能である。この制限を緩和するためにほぼ同内容の教材を研究室のホームページに掲載している。この研究室掲載の教材はどこからでも閲覧可能であり、学生の自宅からの復習にも役立っている。			
3 「数値熱流体工学」に関するWeb（電子）教材		2006年4月～		本講義の内容はすべてホームページ上に掲載（現在は学内のみ閲覧可）されている。この電子教材には、流れに関する静止画および動画が含まれており、学生は視覚的に流れの計算方法や計算結果を確認することができる。これは、式の誘導・展開を中心とする数値流体工学の講義とは一線を画するものである。また、流れの計算を行うプログラムも本ページに掲載されており、学生は授業中にそれをダウンロードし、動かすことができる。			
4 みやぎ県民大学大学開放講座・講師		2007年7月4日		「大切な水と空気、そしてそれらの流れ（流体工学の視点から）」という演題の講義を行った。			
平成21年度 第31回宮城県中学校理科教育研究大会 多賀城大会・講師		2009年10月2日		中学校理科担当教員（5名）に対し、「環境計測データの収集実験」という題の実験講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Control of Plasma Jet Using Strong Magnetic Field		共著	2005年8月	JSME International Journal, Series B, Vol. 48, No. 3	©N. Ono K. Mushi K. Koike	411～416頁	
A Simple Diagnosis for Thermal Characteristics of Plasma Jet under Strong Magnetic Field		共著	2005年9月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE, Vol. 5	©N. Ono K. Mushi K. Koike	73～78頁	

プラズマ噴流の半径方向温度分布算定に関する考察	共著	2005年12月	プラズマ応用科学, Vol. 13	◎小野憲文 小池和雄	3~8頁
A Simple Diagnostic Method for Plasma Jet in Strong Magnetic Field	共著	2006年9月	Vacuum, Vol 80, No. 11&12	◎N. Ono K. Musha K. Koike	1179~1184頁
EFFECT OF STRONG MAGNETIC FIELD ON FLOW BEHAVIOR OF UNDEREXPANDED PLASMA JET	共著	2006年9月	12TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON FLOW VISUALIZATION University of Notre Dame, Notre Dame, Indiana, USA, (CD-ROM)	◎N. Ono Y. Otomo K. Koike	全9頁
分光法による強磁場中のアルゴン励起温度算定に関する検討	共著	2006年12月	プラズマ応用科学, Vol. 14	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	17~22頁
Behavior of Underexpanded Plasma Jet in Strong Magnetic Field	共著	2007年4月	Journal of Visualization, Vol. 10, No. 2	◎N. Ono Y. Otomo K. Koike	237~244頁
Light Intensity Analysis of Plasma Jet Behavior under Strong Magnetic Field	共著	2007年9月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE Vol. 6	◎K. Koike N. Ono	33~36頁
Analysis of Argon Plasma Jet around Blunt and Cone Probe Body	共著	2008年6月	プラズマ応用科学, Vol. 16 No. 1	◎N. Ono A. Knapp D. Haag M. Fertig G. Herdrich	3~8頁
Study of Spatial Resolution of Optical Probe for Plasma Spectroscopic Measurement	共著	2008年7月	Frontier of Applied Plasma Technology Vol. 1	◎K. Koike N. Ono	13~16頁
Light intensity analysis of plasma jet constriction with applied magnetic field	共著	2008年9月	Vacuum Vol. 83	◎K. Koike N. Ono	25~28頁
INVESTIGATION OF MAGNETOHYDRODYNAMIC EFFECT ON STEADY STATE ARGON PLASMA FLOW	共著	2008年11月	6th European Symposium on Aerothermodynamics for Space Vehicles (CD-ROM)	◎A. Knapp N. Ono D. Haag M. Fertig G. Herdrich M. A. Kurtz	全7頁
Experimental and Numerical Analysis of the Impact of a strong Permanent Magnet on Argon Plasma Flow	共著	2009年6月	39th AIAA Fluid Dynamics Conference, 19th AIAA Computational Fluid Dynamics (CD-ROM)	◎A. Knapp D. Haag M. Fertig G. Herdrich N. Ono M. A. Kurtz	全10頁
Image Analysis of Shock Structure in Plasma Jet under Strong Magnetic Field	共著	2009年8月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE Vol. 7	◎N. Ono H. Tamiya K. Koike	27~30頁

Study of Accurate Determination of Excitation Temperature Distribution in Plasma Jet under Strong Magnetic Field	共著	2009年8月	ADVANCES IN APPLIED PLASMA SCIENCE Vol. 7	©H. Tamiya N. Ono K. Koike	55～58頁
D 強磁場によるプラズマ噴流制御（実験的なアプローチ）	共著	2006年6月	日本機械学会流体工学部門 P-SCD345 機能性流体工学の先端融合化に関する研究分科会成果報告書	◎小池和雄 小野憲文	20～25頁
G 強磁場下でのプラズマプルーム構造の簡易診断（色強度と放射強度の比較）	共著	2005年3月	プラズマ応用科学会第12回年会2004年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 14	◎小野憲文 武者和博 小池和雄	23～26頁
強磁場によるプラズマ噴流の収縮（画像解析に基づく一考察）	共著	2005年3月	日本機械学会東北支部第40期総会講演会講演論文集, NO. 051-1	◎武者和博 小野憲文 小池和雄	108～109頁
画像処理によるプラズマ噴流特性の一考察	共著	2005年10月	可視化情報工学会全国講演会（新潟2005）講演論文集, Vol. 25, Suppl. No. 2	◎小野憲文 小池和雄	59～62頁
アルゴンの励起温度算定に関する考察	共著	2006年3月	プラズマ応用科学会第13回年会2005年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 15	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	35～38頁
強磁場下でのプラズマ噴流の放射分光計測	共著	2006年3月	プラズマ応用科学会第13回年会2005年度研究講演会プロシーディング「プラズマ応用と複合機能材料」, Vol. 15	◎大友康史 小野憲文 小池和雄	123頁
磁場によるプラズマ噴流の線スペクトル強度の変化	共著	2006年8月	日本混相流学会年会講演会 2006 講演論文集	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	372～373頁
電子機器管内流れに関する一考察	共著	2007年3月	日本機械学会東北学生会 第37回卒業研究発表講演会論文集	◎和地 学 奥野勇輔 八巻博人 吉田雅典 小野憲文	55～56頁
ボルツマンプロットによるプラズマ噴流の温度分布算定（測定波長域選択に関する検討）	共著	2007年3月	プラズマ応用科学会第14回年会 2006年度研究講演会プロシーディング	◎小池和雄 小野憲文 大友康史	15～18頁
励起アルゴンの放射計測における空間分解能の改善	共著	2007年3月	プラズマ応用科学会第14回年会 2006年度研究講演会プロシーディング	◎小野憲文 大友康史 小池和雄	19～22頁

強磁場によるプラズマ噴流の光強度の変化	共著	2007年3月	プラズマ応用科学会 第14回年会 2006年 度研究講演会プロ シーディング	◎大友康史 小野憲文 小池和雄	115頁
プラズマ分光計測用光学測定端子の空間分解能に関する検討	共著	2008年3月	プラズマ応用科学会 第15回年会 2007年 度国際ワークショップ プロシーディングス	◎小池和雄 小野憲文	19～20頁
強磁場によるマッハディスクの変形	共著	2009年3月	プラズマ応用科学会 第16回年会 2008年 度国際ワークショップ プロシーディングス	◎小野憲文 田宮 一 小池和雄	7～8頁
光学測定端子の空間分解能に関する検討	共著	2009年3月	プラズマ応用科学会 第16回年会 2008年 度国際ワークショップ プロシーディングス	◎田宮 一 小野憲文 小池和雄	77頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
教育・学習方法等改善支援経費	2005年度	個別	総合的画像撮影・処理・ 解析に関する教育研究
東北学院個別研究助成金	2006年度	個別	プラズマ噴流内半径方 向温度分布の高精度算 出に関する研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年10月～2007年3月	プラズマ応用科学会 第14回年会実行委員会 委員
2007年9月～2008年8月	シュツットガルト大学・宇宙システム研究所（ドイツ連邦共和国）客員 研究員（平成19年度東北学院大学・在外研修）
2009年3月6日	プラズマ応用科学会 2008年度 論文賞受賞

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	加藤 陽子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	基礎事項の理解と応用力の構築	2007年1月～2009年12月	毎週もしくは隔週にて、基礎事項に関する応用問題を提示し、解答・解説を行った。				
	プレゼンテーション能力の改善	2007年1月～2009年12月	提示された問題の自分の解答を黒板に書き、発表をすることとした。				
	対話型授業による授業活性化	2007年1月～2009年12月	学生に対して出来る限り質問をし、積極的な授業参加を促した。				
4	みやぎ県民大学（講義タイトル：生物の中に見る力学）	2006年5月24日	バイオメカニクスを、具体的な例（循環器系）を用いて解説した。				
	地域市民のための大学公開講座（講義タイトル：画像の中のメッセージを受け取ろう）	2008年5月21日	『情報を正しくとらえる』をメインテーマとする講座において、画像に関する講義を行った（1回）。				
	日本研究夏季講座の講師（講義タイトル：The History of Biosciences in Japan ～ Profiles of Japanese Researchers and their Contribution～）	2008年6月9日, 2009年6月4日	留学生に対して、生命科学に関する講義を行った（各1回）。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
Ba	Phase Distribution Dependent on Phase-Encode Direction in Phase Contrast Method	共著	2005年	IFMBE Proceedings (11) (CD)	Y. Kato R. Himeno		
	高効率数値血流解析システムの開発	共著	2006年	生体医工学 (44(3))	岩瀬英仁 姫野龍太郎 加藤陽子	428～434頁	
	MRI 画像における位相・輝度空間分布特性を用いた領域抽出法	共著	2007年10月	電気学会, 電気学会誌 C, Vol. 127, No. 10	加藤陽子 姫野龍太郎	1719～1725頁	
	Evaluation of Phase Characteristics in a Stationary Region in Phase - contrast Method Using Divided Ranges.	共著	2007年10月	日本画像学会, 日本画像学会誌, Vol. 46, No. 5	Y. Kato R. Himeno	363～370頁	
	Influences of Meat Organization on Intensity Distribution in Magnetic Resonance Images	共著	2007年11月	IEEE, ITAB 2007 Proceedings	Y. Kato M. Ichinoseki T. Kamada A. Kumagai K. Onuma R. Himeno	251～254頁	
Bb	疾病による血管壁力学特性の変化および血管疾病診断支援システム構築について	単著	2005年	東北学院大学環境防災工学研究所紀要 (17)		1～9頁	

G	Phase Distribution Dependent on Phase-Encode Direction in Phase Contrast Method	共著	2005 年	The 3rd European Medical and Biological Engineering Conference	Y. Kato R. Himeno	
	Collagen Deposit Pattern Changes in the Muscle Layer of the Ascidian <i>Halocynthia roretzi</i>	単著	2006 年	American Fisheries Society 136th Annual Meeting		
	マボヤの被囊構造とその力学的機能	単著	2007 年 1 月	第 19 回バイオエンジニアリング講演会		326~327 頁
	Influences of Meat Organization on Intensity Distribution in Magnetic Resonance Images	共著	2007 年 11 月	ITAB 2007	Y. Kato M. Ichinoseki T. Kamada A. Kumagai K. Onuma R. Himeno	251~254 頁
	マボヤの組織構造に基づくアメーバ細胞移動形態	共著	2008 年 1 月	第 20 回バイオエンジニアリング講演会	加藤陽子 小山真平	65~66 頁
	Influence of Tissue Structure on Cell Movement Patterns in <i>Halocynthia Roretzi</i>	単著	2008 年 12 月	The American Society for Cell Biology 48th Annual Meeting		
	マボヤにおける線維分布が運動機能へ及ぼす影響	単著	2009 年 1 月	第 21 回バイオエンジニアリング講演会		267~268 頁
Characteristics of the three-dimensionally behaving cell of the <i>Halocynthia roretzi</i> tunic	単著	2009 年 12 月	The American Society for Cell Biology 49th Annual Meeting			

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2008 年 4 月～2009 年 3 月	日本機械学会	バイオエンジニアリング部門	第 86 期広報委員
2009 年 4 月～	日本機械学会	バイオエンジニアリング部門	第 87 期広報委員

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	熊谷 正朗	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義ノートのオンライン化と WEB での一般公開	2003年9月1日～現在		その直前の授業評価アンケートにて「字が読めない」「図が書き写せない」との指摘があり、その対応策として講義ノートを WEB 上で作成し、公開することとした。復習などの他、病欠などの際の補填にも活用できる。現在、学外からも膨大なアクセスがあり、他大学の教員からも活用されている形跡がある。電子情報化したことで修正も容易となった。また、教科書化の依頼が舞い込むようにもなった。			
	出席確認の停止とプチテストの実施	2003年9月1日～現在		本来“出席点”という点数は存在しないこと、また出欠をとると“出席するためだけ”に講義に出て騒ぐだけの不良学生が増えるため、出席確認をやめた。その一方で、平常時の努力を評価するべく、小テストよりも簡素な“プチテスト”を半期に数度実施するようにした。ヒントを出しつつ回答させ、翌週には解説することで実践性を多少高めた。			
	テスト・レポート電子処理システムの開発	2003年9月1日～現在		膨大な量のプチテスト、レポート、試験の答案での集計業務の省力化、ミスの低減、データ保存を目的として、処理システムを開発した。独自のマークシートを開発し、それをスキャン、解析することで集計を行う。これにより、プレゼン系科目の学生同士の相互評価なども実現した。			
2	オンライン講義ノート	2003年9月1日～現在		担当する6講義(旧担当を含む)の講義ノートを WEB 上で作成し、公開している。これにより受講学生の自習、病欠に於ける欠損などを穴埋めすることが可能となったほか、外部からの参照も多く、社会貢献ともなっている。本業績執筆時点で総計140万回の参照があったほか、“ロボット工学”“マニピュレータ”“座標変換”“アナログ回路”などの主要キーワードをネット検索した際にトップクラスの上位に表示される(一般にネットにおける評価が高いことを示す)。2007年度担当科目「コンピュータ応用」では、実習用の課題データの自動生成システムおよびレポート提出システムを開発した。			
	3	技工分担型共同研究によるものづくり卒業研究の実施とその成果	2005年6月10日		卒業研究として「私はこれを作った」と記念になりうるような規模の開発を行って欲しいが、実際には技術面が到底追いつかない。そこで教員と学生の1対1の共同研究という体制を敷き(人数分のプロジェクトができる)、主に技術面は教員が積極的に担保するスタイルをとった。この方式について学会発表を行った。		
	知能ロボットコンテスト～自律型移動ロボットによるロボットコンテストとその運営～	2007年5月10日		下記特記事項にある知能ロボットコンテストの内容とその運営手法について、日本機械学会ロボティクスメカトロニクス講演会2007にて発表した。			

4	知能ロボットコンテストの運営	2002年1月以前～現在	毎年仙台市で6月に開催されている知能ロボットコンテストの運営に深く関与している。2006年には2度目、2009年には3度目の実行委員長となった。本コンテストは中学～大学生の参加が多く、ロボット技術教育の効果もある大会であり、現に、本大会の参加者の中から優れたエンジニアも育てている。上記ロボット研究会も主たる目標は本大会への参加である。
	出前授業の実施	2003年4月～現在	高校からの依頼に応じて、出前授業を行った。テーマは「ロボットをつくる」であり、ロボットの基礎の講義とともに、高校における科目が如何に意義のあるものかを説いた。
	ロボット教育特別コースの設置(ロボット研究会)	2005年1月～現在	機械知能工学科ではロボットに関する講義はいくつかあるが、ロボット関連技術は座学では到底学べず、実践が必要である。一方で、卒業研究の時点で学ぼうとしても時間は足りない。そこで、積極的意欲をもった、配属前の3年生以下の学生を募集し、研究室への出入り、工具等の使用を許可し、消耗品も一部提供することで、自らロボットを学ぶ機会を提供することとした。ロボットコンテストに参加して上位入賞したほか、希望者が研究室に正式に配属となり、技術習得の段階をすぐに越えて本題に入るなど、大きな効果が得られている。
	幼稚園におけるロボット教室(幼大連携)	2006年11月7日～現在	東北学院幼稚園からの依頼に応じ、園児を対象にロボット体験教室を試行した。園児ともなるとどのような反応があるかが不明であったが、結果的には盛況であった。「ロボットやさんになるには夢を持ち続けること」と、説いてみた。
	寺子屋せんだい(仙台市産業振興事業団, 地域連携フェロー)	2007年12月10日 2008年4月1日～ 2009年8月31日	仙台市の産学連携事業の一環である「寺子屋せんだい」にてロボットの基礎に関する講義を一般向け(主に企業経営者, エンジニア)に行った。その後、2008年4月より、仙台市の「地域連携フェロー」に就任し、寺子屋せんだいにも主催者側として出席している。
	高校・中学生の特別授業受け入れ	2008年8月6日～7日 2008年12月16日	学外からの要請に応じて、実験室において特別実習を提供した(予定を含む)。高校生向けには、3日の短期コースでロボットの一般的な仕組み、2脚歩行ロボットの脚の動かし方を講義し、その上で歩行実験を行った。中学生向けにはバランス制御するロボットによる制御の実習を提供した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Development of a 3D Vision Range Sensor Using Equiphase Light Section Method	単著	2005年4月	Fuji Technology Press, Journal of Robotics and Mechatronics Vol.17 No.2 Apr. 2005		110～115頁

Wheel Locomotion of a Biped Robot Using Passive Rollers - Biped Robot RollerWalking Using a Variable - Curvature Truck -	共著	2008年4月	Fuji Technology Press, Journal of Robotics and Mechatronics Vol.20 No.2 Apr. 2008 pp.206-212	M. Kumagai K. Tamada	分離不可
Development of a Robot Balancing on a Ball	共著	2008年10月	International Conference on Control, Automation and Systems 2008, pp.433-438 (IEEE Xplore)	M. Kumagai T. Ochiai	分離不可
Development of a robot balanced on a ball - Application of passive motion to transport -	共著	2009年5月	International Conference on Robotics and Automation 2009. (ICRA '09), pp.4106-4111 (IEEE Xplore)	M. Kumagai T. Ochiai	分離不可
Bb 磁気式モーショキャプチャに関する研究	共著	2006年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要第17号	赤松和禎 熊谷正朗	10~23頁
D 事例でマスタする加速度/角速度センサの使い方 車輪移動型倒立振子の開発にみるセンサの使い方 (加速度センサ, 角速度センサの活用事例)	単著	2007年8月	Design Wave Magazine No.117 (2007/8月号) pp.94-105		
周辺機器と接続のための通信-あえてシリアルポートをつかう-	単著	2008年3月	日本ロボット学会誌, Vol.26 No.02, pp.6-9		
E メカトロ系技術屋の育ち方	単著	2006年12月	日本機械学会誌 Vol.109 No.1057		270~271頁
G 光等位相面切断法によるレンジファイндаの開発 (全文査読有り)	単著	2005年3月	第10回 ロボティクスシンポジア 講演番号3C1 (CDROM)		
技工分担型共同研究によるものづくり卒業研究の実施とその成果	共著	2005年5月	日本機械学会 ロボティクス メカトロニクス講演会05 講演番号 1P1-S-027 (CDROM)	熊谷正朗 赤松和禎 伊藤 賢 伊東 良 今津拓馬 小形知正 玉田 薫	
Development of Motion Capture System Using Alternating Magnetic Field (abst 査読有り)		2005年9月	The 2005 International Conference on Mechatronics and Information Technology	M. Kumagai K. Akamatsu	

磁気式モーションキャプチャに関する研究	2005年12月	第226回 計測自動制御学会東北支部研究集会	熊谷正朗 赤松和禎	
Development of a Vision Based 3D Range Sensor using Modulated Light (abst 査読有り)	2006年9月	SICE-ICCAS 2006	M. Kumagai M. Yoshida	
磁気式モーションキャプチャに関する研究 (第2報)	2006年12月	第233回 計測自動制御学会東北支部研究集会	熊谷正朗 赤松和禎	
傾きにより旋回曲率を操作する台車の提案と歩行ロボットへの応用	2006年12月	第233回 計測自動制御学会東北支部研究集会	熊谷正朗 玉田 薫	
旋回曲率を操作可能な台車による2脚ロボットのローラーウォーク	2007年5月	日本機械学会 ロボティクス メカトロニクス講演会07 講演番号 2A1-H02 (CDROM)	熊谷正朗 玉田 薫	分離不可
知能ロボットコンテストー自律型移動ロボットによるロボットコンテストとその運営ー	2007年5月	日本機械学会 ロボティクス メカトロニクス講演会07 講演番号 2P1-E03 (CDROM)		
セミトレーラ型実験用ロボットの開発	2007年9月	第25回日本ロボット学会学術講演会 講演番号 3K24	熊谷正朗 安部慶彦	分離不可
トレーラロボットの自律運転に関する研究	2007年12月	計測自動制御学会 東北支部 第240回研究集会 講演番号 240-5	熊谷正朗 菅原 真	分離不可
平面上を移動可能な倒立振子の開発	2008年6月	日本機械学会 ロボティクス メカトロニクス講演会08 講演番号 2P1-C11 (CDROM)	熊谷正朗 落合恭也 今野範明	分離不可
Development of a robot balancing on a ball	2008年7月	CARS & FOF 2008 (24th ISPE International Conference on CAD/CAM, Robotics & Factories of the Future) 講演番号 do-116	M. Kumagai O. Takaya	分離不可
玉乗りロボットによる搬送に関する研究	2008年12月	計測自動制御学会 東北支部 第247回研究集会 講演番号 247-3	熊谷正朗 落合恭也	分離不可
玉乗りロボットによる物体運搬に関する研究	2009年5月	日本機械学会 ロボティクス メカトロニクス講演会09 講演番号 2P1-D18 (DVDROM)	熊谷正朗 落合恭也	分離不可

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
シーズ育成試験	2005 年	個別	特殊光源とカメラを併用した3次元計測システムの開発
科学研究費補助金 若手研究B	2005～2007 年度	個別	特殊光源とカメラを併用した3次元計測システムの開発
科学研究費補助金 若手研究B	2008 年度～	個別	ローラースケートによる2脚歩行ロボットの高速度移動に関する研究
学内共同研究	2008 年度	共同（自動車制御システムの設計開発）	小型電気自動車の自動運転化およびユーザ支援に関する研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2004 年 1 月～現在	計測自動制御学会東北支部広報幹事……学会支部におけるオンライン広報業務担当		
2006 年 3 月～2008 年 2 月	日本ロボット学会評議員		
2006 年 6 月	第 18 回知能ロボットコンテスト 2006 大会実行委員長		
2007, 2008 年	第 19, 20 回知能ロボットコンテスト 2007, 2008 大会実行委員会役員……2007, 2008 年 6 月開催のロボットコンテストの実施において大会運営（主にオンライン/物品管理）担当		
2008 年 4 月～2009 年 8 月	仙台市地域連携フェロー……仙台市の非常勤職員「地域連携フェロー」として、産学連携の補助事業に参加、30 社以上の中小企業への御用聞き訪問など。		
2009 年 6 月	第 21 回知能ロボットコンテスト 2009 大会実行委員長		

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	庄司 幸嗣	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業理解の促進と工夫	2005年4月～2008年11月		毎回授業冒頭で前回の復習をしていること、あるいは、テキストなどで示されている実物（熱電対、圧力計など）を持参し学生に示しながら講義をしている。また、時々、授業の20分程度を割いて小テストを行い理解度の把握に努め、解答において誤まり易いところを中心に解説している。演習の場合には、質問者を指名し、解答に対する1～2の質問を必ずさせ、授業に引き付け、あるいは、理解度を増す工夫をしている。			
2	『機械工学実験Ⅰ・Ⅱ』（東北学院大学工学部機械創成工学科編）	2006年3月		3, 4年生に対する担当する実験内容について目的、原理、実験方法、まとめなどを詳細に示したもので、学生の実験の手引きとなっている。			
	『機械知能工学実験Ⅰ・Ⅱ』（東北学院大学工学部機械知能工学科編）	2008年3月		3年生に対する担当分（円管内の乱流熱伝達）の実験内容について目的、原理、実験方法、まとめなどを詳細に記述したもので、学生の実験の手引きとなっている。			
	『機械工学実験Ⅱ』（東北学院大学工学部機械創成工学科編）	2008年3月		4年生に対する担当分（ボイラー実験）の実験内容について目的、原理、実験方法、まとめなどを詳細に記述したもので、学生の実験の手引きとなっている。			
4	みやぎ県民大学「大学開放講座」の講師を務めた	2007年6月13日		聴講生に対して「熱エネルギー環境の中で」と題して、環境問題、身の周りのエネルギー、そして、省エネルギーを含めた講演をした。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	振動流による熱輸送特性に関する基礎的研究	共著	2007年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要(第18号)	大田陽平 鈴木芳輝 鈴木利夫	41～47頁	
G	振動流による熱輸送特性に関する実験的研究	共著	2006年9月	日本機械学会東北支部第42期秋季講演会講演論文集No. 2006-2	大田陽平 庄司幸嗣	59～60頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1969年7月～			日本伝熱学会正員				
1971年4月～			日本機械学会正員				

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	長島 慎二	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
2	SVG, XML 関連サンプルプログラム WEB サイト		2008年1月	SVG, XML 関連の基本的技術を学ぶ WEB サイトの構築			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
G	10 分間隔で離陸する大型航空機背後の 小型航空機が受けるダウンウォッシュ	単著	2006年10月	日本機械学会関東支部 山梨講演会講演論文集 No-060-4, (2006), 67		2 頁	
	様々な強さの横風中で離陸を行う大型 航空機背後の小型航空機が受ける空力 特性	単著	2008年10月	岡山講演会講演論文集 No. 085-2		195~196 頁	
	SVG を用いた地震データ検索・3D 表示 アプリケーションの開発	共著	2009年3月	東北学生会第39回学生 員卒業研究発表講演会 講演論文集 (2009), 81	野村剛生 長島慎二	81~82 頁	
	定常ラセン飛行を行う大型航空機背後 の小型航空機が受ける空力特性	単著	2009年10月	長崎講演会講演論文集 No. 098-3, 75		75~76 頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
				WindWill 開発に関する共同研究 産学連携による企業との共同研究			

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	宮下 博理	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	伝熱工学の講義において熱伝導方程式の数値解析手法を単なる概念として理解するだけでなく実践的なものにすることができるよう教育するための工夫。 使用する教科書はすべて電子ファイルにすることによってスクリーンに映写できるので、授業進行における教師と学生の一体感を常時保てるようにでき、また教科書の行間を埋める式の変化や展開もすべて数式ソフトで電子ファイル化して学生にとって見やすくした。	2006年度	従来はプログラム言語を用いて計算することが主であったが、プログラム言語の習熟にはそれだけでかなりの時間を要し、本来の数値解析の理解とは別の問題である。そこで身近なツールとなった EXCEL を用いて階差式における変化の様子が直観的に理解させるようにした。				
	熱拡散方程式の EXCEL 用いた数値解析	2008年4月	伝熱工学などの専門教科の削減により、熱拡散方程式そのものを学ぶ機会のなかった学生に対して、さらにプログラム言語を用いた解析を行うことは時間的にも制約をうけ、無理である。そこで身近なツールとなった EXCEL を用いて階差式を用いた数値シミュレーションをだれでも簡単におこなえるよう工夫した。				
2	EXCEL を用いた自習用教材の作成	2008年4月	循環参照の仕組みや精度設定法などの理解をさせるための教材。				
	EXCEL を用いた自習用教材の作成	2008年5月	陽解法を用いた非定常一次元熱伝導の解析手順をシートごとに visible に理解できるようにした。				
	EXCEL を用いた自習用教材の作成	2009年4月	陰的差分法を用いた非定常一次元熱伝導の解析手順をシートごとに visible に理解できるようにした。				
	EXCEL を用いた自習用教材の作成	2009年5月	Crank-Nicolson 差分法を用いた非定常一次元熱伝導の解析手順をシートごとに visible に理解できるようにした。				
4	他大学大学院受験の指導	2006年2月～7月	他大学の熱関係研究室を受験する学生の個別受験指導を行なった。結果として合格させることができた。				
	初年次教育学会の設立総会出席	2008年3月	初年次教育学会の設立総会出席し議論に参加した。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要				

IV 学会等及び社会における主な活動	
2008年4月～	日本機械学会 技術と社会部門 運営委員 代議員
2009年4月～	日本機械学会 技術と社会部門 運営委員 代議員

所属	機械知能工学科	職名	准教授	氏名	山本 英毅	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	医用機械工学分野における臨床工学士の国家試験対策の実施	2002年4月～2006年3月	医用機械工学は国家試験対策用開設のため、毎回講義内容に合わせた演習課題を与え翌週回答することで逐次受験対策とした。				
	機械の設計・製作における学生提案型教育の実施	2002年4月～2006年3月	学生数名毎に選択させた課題に合わせて主要部品用材料と予算を与え、設計図面、製作品、報告書提出を指導した。				
	機械工学分野における対話型情報処理教育の実施	2002年4月～2006年3月	大型計算機と接続した端末を各学生に提供し、Windows環境でFortran-90言語の対話型講義、演習、試験を実施した。				
	機械の製図基礎における個別添削教育徹底の実施	2002年4月～2006年3月	日本工業規格に基づく機械製図の基本的項目の演習課題を毎週時間内に提出させ、完全添削、翌週返却を実施した。				
	生体関連分野における講義の招待講演導入の実施	2006年4月～	教科書主体の講義、演習に加えて、専門分野の権威による招待講演を取り入れ、学生の多様化するニーズの掌握を実施した。				
	教養教育科目における対話型教育(学生による講義評価)の実施	2006年4月～	教科書講読、スライド講演の講義方式に対して数回報告書提出させ講義内容の理解度と関心度チェックを実施した。				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名“21世紀のキーテクノロジーを学ぶ”に関する実習内容の提案	2007年7月～9月	平成19年度文部科学省委託事業に関わる先端材料(知能材料)の「力学特性を計る」課題として、簡単面白実験を提案				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名“21世紀のキーテクノロジーを学ぶ”に関する実習内容の提案	2008年5月～7月	平成20年度文部科学省委託事業に関わる先端材料(知能材料)の「強さを計る」の課題として、簡単面白実験を提案				
	平成20年度文部科学省委託事業「キャリア教育実践プロジェクト」，“多賀城市キャリアスタート・ウィーク”として、多賀城市教育委員会との連携活動参加	2008年12月16日	東北学院大学と多賀城市の連携体制の一環として、市内中学校生徒を工学部構内に招き、簡単な面白実験や卒業研究の紹介を実施				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名“21世紀のキーテクノロジーを学ぶ”に関する実習内容の提案	2009年7月～9月	平成21年度文部科学省委託事業に関わる先端材料(知能材料)の「強さを計る」の課題として、簡単面白実験を提案				
2	医用機械工学の演習課題	2002年4月～2006年3月	臨床工学士の国家試験問題を考慮して、医用機械工学の学問的基礎の理解を助けるための演習課題を作成した。				
	機械設計製作のテキスト	2002年4月～2006年3月	歯車ポンプ、無段変速機、形状記憶合金素子、及びマイコン制御型ロボットの設計製作課題を作成した。				

コンピュータプログラミングの演習課題	2002年4月～2006年3月	コンピュータプログラミングの基本項目を修得するための Fortran-90 言語を用いた演習課題を作成した。
製図学の演習課題	2002年4月～2006年3月	日本工業規格に基づく機械製図の基本的項目を修得するための演習課題を作成した。
人と機械工学の教材及び演習課題	2006年4月～	人体各部の仕組みとそれらを理論化する機械工学的な考え方の基本を表すスライド教材と演習課題を作成した。
生命の科学の教材	2006年4月～	一般科学的な「生物」から工学的な「生体」の概念の理解を助けるために人体の不思議展資料や自己の研究データ等をスライド編集した。
平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」, テーマ名“21世紀のキーテクノロジーを学ぶ”, 資料の実習編	2007年7月～9月	平成19年度文部科学省委託事業の実習用教材であり, ナノ及びバイオテクノロジーに関する実験解説資料。79頁中21～30頁を執筆担当。
平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」, テーマ名“21世紀のキーテクノロジーを学ぶ”, 資料の実習編	2008年5月～7月	平成20年度文部科学省委託事業の実習用教材であり, ナノ及びバイオテクノロジーに関する実験解説資料。74頁中39～48頁を執筆担当。
平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」, テーマ名“21世紀のキーテクノロジーを学ぶ”, 資料の実習編	2009年7月～9月	平成21年度文部科学省委託事業の実習用教材であり, ナノ及びバイオテクノロジーに関する実験解説資料。74頁中36～45頁を執筆担当。
3 工学基礎教育センター及びFD委員会共催で, とくに入り口教育改善のためのIT教育導入に関する学外者講演会の開催。	2008年11月21日	講演テーマ:「教員と学生が双方向的に活用できる学習支援システムの開発と展望」 講師: 岩手大学大学教育総合センター所員
4 大学院博士(前期)課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2005年3月21日～22日	日本機械学会情報・知能・精密機器部門講演会(東京都)に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士(前期)課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2005年5月21日～22日	日本材料学会第54期学術講演会(仙台市)に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士(前期)課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2005年9月19日～21日	日本機械学会2005年度年次大会(東京都)に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士(前期)課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2005年11月10日～11日	日本機械学会第16回バイオフロンティア講演会(草津市)に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士(前期)課程学生が行う国外学会発表の引率指導	2005年12月12日～14日	Int. Soc. for Optical Engineering(Australia)に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。
大学院博士(前期)課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2006年1月13日～14日	日本機械学会第18回バイオエンジニアリング講演会(新潟市)に大学院博士(前期)課程学生を引率して研究発表指導を行った。

大学院博士（前期）課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2006年3月16日～17日	日本機械学会関西支部第81期総会講演会（京都市）に大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
キリスト教学校教育同盟第76回夏期研究集会への参加	2006年7月27日～29日	「キリスト教学校だからこそできること」と題した基調講演に基づき、討論を行った。
大学院博士（前期）課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2006年9月18日～20日	日本機械学会2006年度年次大会（熊本市）に大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
高校への出前講義の実施	2006年10月3日	第三女子高等学校の1,2年生を対象に、「生物に学ぶ機械の設計」と題して講義を行った。
高校への出前講義の実施	2006年11月1日	向山高等学校の1,2年生を対象に、「生物に学ぶ機械の設計」と題して講義を行った。
高校への出前講義の実施	2006年11月21日	築館高等学校の1,2年生を対象に、「生物に学ぶ機械の設計」と題して講義を行った。
高校への出前講義の実施	2006年12月9日	宮城野高等学校の1,2年生を対象に、「生物に学ぶ機械の設計」と題して講義を行った。
大学院博士（前期）課程学生が行う国内学会発表の引率指導	2007年3月8～9日	第36回材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウムに大学院博士（前期）課程学生を引率して研究発表指導を行った。
工学部第4学年学生が行う国内学会発表の引率指導	2008年3月7日	日本機械学会東北学生会第38回卒業研究発表講演会に工学部第4学年学生を引率して研究発表指導を行った。
工学基礎教育センター副センター長	2008年4月～	工学基礎教育センターが実施する学習支援、学習相談、および当該センターの管理運営に関する補佐。
高校への出前講義の実施	2009年5月21日	福島県小高工業高等学校の3年生を対象に、「生物に学ぶ機械の設計」と題して講義を行った。
学部第4学年学生が行う国内学会発表の引率指導	2009年9月14日	日本機械学会2009年度年次大会（盛岡市）に工学部第4学年学生を引率して研究発表指導を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Ba Development of Wearable Medical Device for Bio-MEMS	共著	2005年12月	Progress in Biomedical Optics and Imaging, Vol. 6, No. 40	H. Yamamoto N. Nakanishi K. tsuchiya E. Nakamachi	60361～ 60369 頁
真空吸引型採血による血糖値計測用HMSの開発	共著	2006年1月	日本機械学会論文集（C編）, Vol. 72, No. 713	山本英毅 仲町英治 岩本直之	197～202 頁
Bio-MEM 用チタン合金マイクロ針のスパッタ創製と評価	共著	2006年4月	日本機械学会論文集（A編）, Vol. 72, No. 716	山本英毅 仲町英治 神人 智	471～477 頁

電解マイクロポンプ内蔵携帯型血糖値制御デバイスの開発	共著	2006年8月	日本機械学会論文集(C編), Vol. 72, No. 720	山本英毅 仲町英治 中西直之	2527~2533 頁
Proposal of a New Bimorph Piezoelectric Actuator for Blood Extraction Pump in Health Monitoring System	共著	2007年5月	Journal of the Society of Materials Science Japan, 56巻, 5号	H. Yamamoto 他7名	477~482頁
Kinetic Load Dispersion Properties Based on Internal Nonviscous Flow for Solid-Fluid Composites by Biomimetic Design	共著	2008年5月	Journal of the Society of Materials Science Japan, 57巻, 5号	H. Yamamoto 他3名	430~435頁
Biological and Micromechanical Approaches to Single Osteon of Equine Tibia	共著	2009年9月	World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering, 25巻, Springer	H. Yamamoto 他2名	241~244頁
On the relationship between mechanical and biological properties of equine tibial bone	共著	2009年10月	Japanese Journal of Clinical Biomechanics, 30巻	H. Yamamoto 他2名	47~55頁
Bb 骨折治癒過程に対する応力波伝ば解析	単著	2006年12月	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 41, No. 1		60~65頁
Bio-MEM 用チタン合金マイクロ針のスパッタ創製と評価	単著	2006年12月	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 41, No. 1		66~71頁
Processing and Evaluating Titanium Microneedle for Minimally Invasive Medical care	共著	2007年3月	Paper of JCOM-36 Symposium	H. Yamamoto 他4名	131~135頁
Development of Solid-Air Composites for Load Dispersion by Biomimetic Design	共著	2007年3月	Paper of JCOM-36 Symposium	H. Yamamoto 他4名	174~178頁
血糖値自己計測用無痛採血ユニットの開発について	単著	2008年3月	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 42, No. 1		5~10頁
G 圧電ポンプ駆動携帯型医療デバイスの開発	共著	2005年3月	日本機械学会情報・知能・精密機器部門講演会(東京都)	中西直之 山本英毅 仲町英治	66~71頁
生体適合マイクロ針の創製	共著	2005年5月	日本材料学会第54期 学術講演会(仙台市)	神人 智 山本英毅 仲町英治	319~320頁
生体適合圧電薄膜の創製	共著	2005年5月	日本材料学会第54期 学術講演会(仙台市)	前田健次郎 山本英毅 槌谷和義 仲町英治	321~322頁
圧電ポンプ駆動 HMS/DDS 用医療デバイスの開発	共著	2005年9月	日本機械学会 2005年 度年次大会(東京都), Vol. 5	中西直之 山本英毅 仲町英治	259~260頁

真空採血型血糖値計測用 HMS の開発	共著	2005 年 9 月	日本機械学会 2005 年度年次大会 (東京都), Vol. 5	岩本直之 山本英毅 仲町英治	257~258 頁
HMS 用自動血管探索デバイスの開発	共著	2005 年 11 月	日本機械学会第 16 回 バイオフロンティア 講演会 (草津市)	黒田達朗 山本英毅 仲町英治	83~84 頁
Development of Wearable Medical Device for Bio-MEMS	共著	2005 年 12 月	Int. Soc. For Optical Engineering (Australia)	N. Nakanishi H. Yamamoto K. Tsuchiya E. Nakamachi	6036 頁
生体適合圧電材料 MgSiO ₃ のナノ薄膜創製技術の開発	共著	2006 年 1 月	日本機械学会第 18 回 バイオエンジニアリング講演会 (新潟市)	前田健次郎 山本英毅 槌谷和義 仲町英治	185~186 頁
携帯型 HMS 用自動採血のための Ti 合金マイクロ針の開発	共著	2006 年 3 月	日本機械学会関西支部第 81 期総会講演会 (京都市)	神人 智 山本英毅 仲町英治	1508 頁
自動採血用チタン合金マイクロ針創製と機能評価	共著	2006 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会 (熊本市), Vol. 1	神人 智 山本英毅 仲町英治	437~438 頁
HMS 用自動血管探索デバイスの開発	共著	2006 年 9 月	日本機械学会 2006 年度年次大会 (熊本市), Vol. 6	黒田達朗 山本英毅 仲町英治	9~10 頁
低侵襲医療用チタンマイクロ針の創製と評価	共著	2007 年 3 月	第 36 回材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウム (京都市)	山本英毅 他 4 名	131~135 頁
バイオミメティックデザインによる荷重分散能に優れた固-気体複合材料の開発	共著	2007 年 3 月	第 36 回材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウム (京都市)	山本英毅 他 4 名	174~178 頁
馬砲骨中のマイクロ構造による力学特性の特徴付けに関する研究	共著	2008 年 3 月	日本機械学会東北学生会第 38 回卒業研究発表講演会 (八戸市)	山本英毅 青柳 巧 我妻達也	197~198 頁
馬砲骨中の複合構造と力学特性の関係に関する一考察	共著	2008 年 5 月	日本材料学会第 57 期 学術講演会 (鹿児島市)	山本英毅 青柳 巧 我妻達也	177~178 頁
馬砲骨の力学特性と組織特性の関係について	共著	2008 年 11 月	第 35 回日本臨床バイオメカニクス学会 (大阪市)	山本英毅 荒木 佑 高橋雄太	229 頁
Biological and Micromechanical Approaches to Single Osteon of Equine Tibia	共著	2009 年 9 月	World Congress 2009 on Medical Physics and Biomedical Engineering (Germany)	H. Yamamoto Y. Araki Y. Takahashi	Theme10 Track08 No. 13

A Study on Development on Minimal Invasive Medical Device for Blood Analysis and Drug Delivery	共著	2009年9月	日本機械学会 2009年度年次大会(盛岡市), Vol. 7	山本英毅 大友崇広 小濱一徳 郷古英喜 後藤正也	267~268頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学技術振興機構地域イノベーション創出総合支援事業重点地域研究開発推進プログラム「シーズ発掘試験」A(発掘型)	2008年度	個別	研究課題:次世代医療用自動無痛採血ユニットの開発と応用 研究期間:平成20年度(1年間) 研究経費:直接経費として190万円		
みやぎ産業振興機構「プロジェクト創出研究会助成金事業」	2008年度	共同, インテリジェント材料創製評価研究会代表者	研究課題:形状記憶合金箔の創製技術の開発 研究期間:平成20年度(1年間) 研究経費:直接経費として40万円		
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2004年4月~	日本材料学会生体・医療材料部門 運営委員				
2005年3月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第4回講演会(高槻市)を開催				
2005年5月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第5回講演会兼第1回見学会(京都市)を開催				
2005年5月	日本材料学会第54期学術講演会において生体・医療材料部門オーガナイズドセッション及びフォーラム(仙台市)を開催				
2005年10月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第6回講演会(大阪市)を開催				
2006年3月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第7回講演会(東京都)を開催				
2006年5月	日本材料学会第55期学術講演会において生体・医療材料部門オーガナイズドセッション(長岡市)を開催				
2006年7月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第8回講演会(仙台市)を開催				
2006年9月	東北学院大学工学会講演会(多賀城市)を開催				
2006年11月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第9回講演会兼第1回セミナー(京都市)を開催				
2006年12月	日本材料学会生体・医療材料部門委員会第10回講演会兼第2回見学会(つくば市)を開催				
2007年1月8日 15:00~16:30(仙台市)	自動車技術会東北支部主催講演会にて招待講演				
2007年4月~2009年3月	日本機械学会メカライフ編集委員及び東北学生会顧問				
2007年10月5日 10:30~17:00(仙台市)	みやぎ産業振興機構主催, 産学官連携フェア2007みやぎにポスター出展				
2008年3月18日 13:00~17:00(多賀城市)	平成19年度ハイテクリサーチセンター公開シンポジウムにポスター出展				
2008年4月~	自動車技術会会員, 日本生体医工学会会員				

2008年6月18日 10:00~17:30 (仙台市)	KCみやぎ推進ネットワーク・第44回産学官交流会WGにポスター出展
2008年7月7日 13:00~17:30 (福島市)	福島県電子機械工業会主催, 第24回産学官交流のつどいにポスター出展
2008年9月30日 10:30~17:00 (仙台市)	みやぎ産業振興機構主催, 産学官連携フェア2008みやぎにポスター出展
2008年12月6日 16:00~17:30 (仙台市)	平成20年度現職教員研修セミナーにて講演
2009年3月10日 13:00~17:00 (多賀城市)	平成20年度ハイテクリサーチセンター公開シンポジウムにポスター出展
2009年3月13日 13:00~17:30 (多賀城市)	平成20年度みやぎ工業会主催産学連携推進懇話会にて講演
2009年5月20日 18:00~19:30 (多賀城市)	平成21年度地域市民のための大学公開講座にて講演
2009年6月17日 14:30~17:30 (仙台市)	KCみやぎ推進ネットワーク・第45回産学官交流会 with KCみやぎにポスター出展
2009年7月7日 13:00~17:30 (福島市)	福島県電子機械工業会主催, 第25回産学官交流のつどいにポスター出展
2009年10月14日 10:30~17:00 (仙台市)	みやぎ産業振興機構主催, 産学官連携フェア2009みやぎにポスター出展
2009年10月14日 10:30~12:00 (仙台市)	JSTイノベーションプラザ宮城主催, シーズ発掘試験報告会にて成果発表

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	越後 宏	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教材の工夫, 提示方法の工夫	2003年4月～2009年12月		教科書に即した内容をパワーポイントで作成し, プロジェクターで表示して, 見易さを改善している。また, 数理応用ソフト Mathematica を活用し, グラフ, 数値例など多数表示し内容理解の促進を工夫している。			
2	講義内容の要点をホームページ資料として作成	2005年9月～2008年12月		講義で表示した教材は, ホームページからダウンロードできるように配慮した。			
4	高校への出前授業の講師を務めた。	2005年11月		宮城県立泉松陵高校にて, 2年生, 3年生の生徒に対し「電波はみえるか」と題し, 電磁波の視覚化について解説授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	電磁環境学ハンドブック	共著	2009年9月	三松株式会社出版部	佐藤利三郎 編	194～200頁	
Ba	Amplitude and Phase Measurements of Electromagnetic Fields to Indicate Wave Propagation and Radiation	共著	2005年5月	Proc. of IMTC2005 Instrumentation and Measurement Technology Conference, Ottawa, Canada, Vol. I, TC4	H. Echigo K. Sato	348～353頁	
	Emprical Studies on Electyromagnetic Fields around Two Thin Wires.	共著	2006年8月	Progress in Electromagnetics Research Symposium 2006-TOKYO, 3P3-7	H. Echigo K. Sato		
	Experimental Evaluation of EM Wave Suppressions by Lattice Array of Conductive Wires.	共著	2006年9月	Progress in Electromagnetics Research Symposium 2006-TOKYO, 1A1-3	A. Saito T. Saito K. Aizawa H. Echigo		
	EM Fields between Two Parallel Plates Supported by Conductive Multi-Poles	共著	2007年7月	2007 IEEE International Symposium on Electromagnetic Compatibility, Honolulu, Hawaii	H. Echigo K. Aizawa	TU-PM-I-4	
G	金属多線状アレーを用いた電磁波抑圧の実験的検討 - 電磁衝立の性能評価 -	共著	2005年3月	2005年電子情報通信学会総合大会, B-4-35, 豊中	菅原 健 相澤和夫 越後 宏		

金属細線からの散乱に関する一検討	共著	2005年4月	電子情報通信学会技術報告, Vol.105, EMCJ2005-3, 平塚	相澤和夫 越後 宏	13~18頁
パネル接栓中心導体からの不要放射に関する一検討	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会, 盛岡	伊藤義幸 浅野考亮 越後 宏	
金属パイプ格子アレーを用いた電磁波抑圧の実験的検討 - 電磁波衝立の実験による性能評価 -	共著	2005年10月	電子情報通信学会技術報告, Vol.105, No.367, EMCJ2005-93, 秋田	斎藤 公 斎藤 健 相澤和夫 越後 宏	1~6頁
導体細線格子アレーを用いた電磁波抑圧の実験的検討 - 電磁波衝立の実験による性能評価 その2 -	共著	2006年3月	電子情報通信学会技術報告, Vol.105, EMCJ2005-148, 東京	斎藤 公 斎藤 健 相澤和夫 越後 宏	61~66頁
不完全終端伝送線路における定在波の位相に関する一考察	単著	2006年3月	2006年電子情報通信学会総合大会, B-4-23, 東京		
画像データの残差ベクトルを用いた特徴抽出に関する一検討	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2E16, 秋田	内海宏建 越後 宏	
配電線における高周波伝搬制御に関する一検討	共著	2006年9月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2F23, 秋田	越後 宏 狩野崇宣	
電磁波散乱問題に対する細線近似法の計算精度に関する一検討	共著	2006年9月	2006年電子情報通信学会・通信ソサイエティ大会, B-4-6, 金沢	相澤和夫 越後 宏	
細線導体で構成された電磁遮蔽壁の特性評価に関する一考察	共著	2006年10月	電子情報通信学会技術報告 EMCJ2006-56, 秋田	相澤和夫 越後 宏	31~36頁
多線状導体で囲まれた領域内部の電磁界分布の一検討	共著	2008年10月	電子情報通信学会技術報告 EMCJ2008-64, 米沢	相澤和夫 越後 宏	29~34頁
導体管中にある屋内配電用平行2線のステップ波応答	共著	2009年3月	2009年電子情報通信学会総合大会, B-4-80, 松山	橋本一彦 相澤和夫 越後 宏	
極短スタブ終端の伝送波形への影響観測	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会, 1H01, 仙台	高木道修 越後 宏	
10周年特別講演「伝送線路近傍の電磁界測定」	単著	2009年11月	電気学会電磁環境研究会報告, EMC-09-24, 多賀城		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

2001年5月～2003年5月	電子情報通信学会環境電磁工学研究専門委員会委員長
2003年6月～	電子情報通信学会環境電磁工学研究専門委員会顧問
2004年1月～2005年12月	IEEE EMC Society/Sendai Chapter Secretary
2005年1月～2006年12月	IEEE EMC Society/Sendai Chapter Vice Chairman
2007年1月～2009年12月	IEEE EMC Society/Sendai Chapter Chairman

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	大沼 孝一	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
4 東北学院大学FD推進委員会主催「第4回FD 研修会」に出席			2008年7月3日	「大学コンソーシアム京都FDフォーラム参加報 告」他			
東北学院大学FD推進委員会主催「第5回FD 研修会」に出席			2009年7月2日	「大学コンソーシアム京都第14回FDフォーラム 参加報告」他			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba 自己バイアスチャネルダイオードの逆 方向リーク電流シミュレーション		共著	2005年2月	東北学院大学工学部 研究報告, 第39巻, 第1号	菅原文彦 米谷正治 引地 孝 大沼孝一	71~76 頁	
正孔注入による DMOSFET の基板バイア ス効果		共著	2005年2月	東北学院大学工学部 研究報告, 第39巻, 第1号	引地 孝 飯山雄介 永沢隆之 菅原文彦 大沼孝一	77~81 頁	
G 同次 M 系列狭み込み拡散符号		共著	2005年8月	電気関係学会東北支 部連合大会	菅原 工 大沼孝一	IH-15	
正孔注入形自己バイアスチャネルダイ オードの温度依存性		共著	2005年8月	電気関係学会東北支 部連合大会	安藤寛人 工藤公朗 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	II-8	
正孔注入形自己バイアスチャネルダイ オードの電力損失の温度依存性		共著	2005年9月	応用物理学会学術講 演会	工藤公朗 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	741 頁	
スペクトラム拡散符号構成要素に関す る一検討		共著	2006年3月	電子情報通信学会総 合大会	菅原 工 大沼孝一	A-5-37	
正孔注入型自己バイアスチャネルダイ オードの電力損失の温度依存性		共著	2006年8月	電気学会産業応用部 門大会	安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1 頁	
スペクトラム拡散符号構成に関する一 検討		共著	2006年9月	電気関係学会東北支 部連合大会	菅原 工 大沼孝一	2B-12	
擬似ランダム系列の自己相関特性制御 法に関する一検討		共著	2006年9月	電気関係学会東北支 部連合大会	雨川拓也 大沼孝一	2G-19	

正孔注入型自己バイアスチャネルダイオード特性のボディ表面密度依存性	共著	2006年9月	電気関係学会東北支部連合大会	安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	2I-6
スペクトル拡散符号の一構成法	共著	2007年3月	電子情報学会技術報告 WBS2006-85	菅原 工 大沼孝一	17~22 頁
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードの電力損失シミュレーション	共著	2007年8月	平成19年度電気学会産業応用部門大会	中岡隆伸 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードのゲート酸化膜薄膜化限界に関する一考察	共著	2007年8月	平成19年度電気学会産業応用部門大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	
2重マルコフ過程に基づく帰還型擬似ランダム2進発生器の基本特性	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会	雨川拓也 大沼孝一	2E-05
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードのゲート酸化膜薄膜化限界に関する一考察	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	
1つの符号間隔のみに相関を持つ擬似ランダム2進系列の1生成法	共著	2007年9月	2008年電子情報通信学会ソサイエティ大会	雨川拓也 大沼孝一	A-1-16
1つの符号間隔のみに相関を持つ擬似ランダム2進系列の1生成法	共著	2007年11月	電子情報学会技術報告 CAS2007-82, Vol. 107, No. 362	雨川拓也 大沼孝一	49~54 頁
くし型周波数スペクトルを持つ擬似ランダム2進系列	共著	2008年3月	2008年電子情報通信学会総合大会	雨川拓也 大沼孝一	A-1-25
自己バイアスチャネルダイオードの自己バイアス低下の解析	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	
電子のトンネル注入による水の電気分解促進に関する一考察	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会	湊 善春 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	

自己バイアスチャネルダイオードの自己バイアス低下の防止	共著	2008年8月	平成20年度電気学会産業応用部門大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一
電子のトンネル注入による水の電気分解促進に関する検討	共著	2008年8月	平成20年度電気学会産業応用部門大会	湊 善春 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一
自己バイアスチャネルダイオードの自己バイアス低下防止の検討	共著	2008年9月	第69回応用物理学会学術講演会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2004年～	映像情報メディア学会 東北支部評議員 (電子情報通信学会, IEEE, 映像情報メディア学会, 各学会会員)
--------	---

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	郭 海蛟	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教育内容の難易度を授業の中で分ける工夫。	2006年4月1日～		レベルが高くない学生とレベルが高い学生の両方に配慮。必要不可欠の内容とその他を区別する。			
	演習を活用。学生同士を活用	2006年4月1日～		演習時、学生達をブロック分けの形で、一つのブロックに一人が分れば、その学生から他の学生に教えるよう進める。			
	大学での勉強と高校での勉強の違いを伝授する	2006年4月1日～		授業の内容を活用し、大学では勉強の方法を身に付けることの重要性を口説く。			
4	サマーサイエンススクールの講師（東北大学）	2005年8月～2009年8月 (5回)		中学生に「振って発電」の実験を担当			
	1年生への勉学アドバイス	2007年7月, 2008年7月					
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年11月14日		富谷高校 風力発電の仕組み			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	A multipolar SR motor and its application in EV	共著	2005年	Journal of Magnetism and Magnetic Materials, Vol. 290-291	H. Goto Y. Suzuki K. Nakamura T. Watanabe H. J. Guo O. Ichinokura	1338～1342 頁	
	Direct Torque Control による SRM のトルクリプル低減	共著	2005年	日本応用磁気学会誌, Vol. 29, No. 5	佐々木恵輔 後藤博樹 渡辺忠昭 郭 海蛟 一ノ倉理	577～581 頁	
	Integral controller design based on disturbance cancellation: Partial LTR approach for non-minimum phase plants	共著	2005年	Automatica, 41	T. Ishihara H. J. Guo H. Takeda	2083～2089 頁	
	LTR design of integral controllers for time-delay plants using disturbance cancellation	共著	2005年	44th IEEE Conference on Decision and Control, Seville, Spain	T. Ishihara H. J. Guo	1683～1688 頁	
	A new electric vehicle equipped with In-Wheel SRM and a simple driving method	共著	2005年	IPEC, Nigata, Japan	H. J. Guo H. Goto T. Watanabe O. Ichinokura		

A design of disturbance cancellation controllers via singular partial LTR	共著	2005 年	ICMIT, Taiwan	T. Ishihara H. J. Guo	1~6 頁
Asymptotic sensitivity properties of Davison type integral controllers for non-minimum phase plants	共著	2006 年	17th International Symposium on Mathematical Theory of Networks and Systems, Kyoto, Japan	T. Ishihara L. A. Zheng H. J. Guo	2596~2601 頁
Considerations of direct torque control for switched reluctance motors	共著	2006 年 7 月	International Symposium on Industrial Electronics, Montreal, Canada	H. J. Guo	2321~2325 頁
Sensorless direct torque control of switched reluctance motor using artificial neural networks	共著	2006 年	XVIIth International Conference on Electrical Machines, Chania, Crete Island, Greece	F. Kucuk H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
A novel position sensorless drive of SR motors based on direct torque control	共著	2006 年	XVIIth International Conference on Electrical Machines, Chania, Crete Island, Greece	M. Mitani H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
A drive circuit of switched reluctance motors using three-phase power modules	共著	2006 年	XVIIth International Conference on Electrical Machines, Chania, Crete Island, Greece	H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
Effects on reducing torque ripple of SR motors using freewheeling mode	共著	2006 年	XVIIth International Conference on Electrical Machines, Chania, Crete Island, Greece	M. Sato H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
A novel torque control method using direct neighboring phase torque distribution technique for switched reluctance motors	共著	2006 年	The 9th International Conference on Electrical Machines and Systems, Nagasaki, Japan	H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
Artificial Neural Networks and Inductance Vector Based Sensorless Torque Estimation in Switched Reluctance Motor Drive	共著	2007 年	The 10th International Conference on Electrical Machines and Systems, Seoul, Korea	F. Kucuk H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	

Maximum Power Point Tracking Control and Voltage Regulation of a DC Grid-Tied Wind Energy Conversion System Based on a Novel Permanent Magnet Reluctance Generator	共著	2007 年	The 10th International Conference on Electrical Machines and Systems, Seoul, Korea	Kazmi Syed Muhammad Raza H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
Efficient Control Method of Switched Reluctance Motor Using Direct Neighboring Phase Torque Distribution Technique	共著	2007 年 9 月	12th European Conference on Power Electronics and Applications, Aalborg, Denmark Panel C15	H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
Inductance Vector Angle Based Sensorless Speed Estimation in Switched Reluctance Motor Drive	共著	2007 年 10 月	The 7th International Conference on Power Electronics 2007, Daegu, Korea	F. Kucuk H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
Design of generalized disturbance cancellation controllers via singular LTR	共著	2007 年 12 月	The 2007 International Conference on Mechatronics and Information Technologys Gifu, Japan	T. Ishihara H. J. Guo	
LTR design of disturbance cancellation integral controllers for time-delay plants	共著	2008 年	International Journal of Control, Vol. 81, No. 7	T. Ishihara H. J. Guo	1027~1034 頁
磁束に基づく励磁相切換を利用した瞬時トルク制御法の電気自動車用 SR モータへの適用	共著	2008 年	日本磁気学会誌, Vol. 32, No. 4	西宮 歩 後藤博樹 郭 海蛟 一ノ倉理	487~490 頁
Position Sensorless Speed Estimation in Switched Reluctance Motor Drive with Direct Torque Control -Inductance Vector Angle based Approach	共著	2008 年	IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials, Vol. 128, No. 8	F. Kucuk H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	533~538 頁
Drive Circuit of Switched Reluctance Motors using Three-phase Power Modules	共著	2008 年	IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials, Vol. 128, No. 8	H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	539~544 頁
Control of SR Motor EV by Instantaneous Torque Control Using Flux Based Commutation and Phase Torque Distribution Technique	共著	2008 年	13th International Power Electronics and Motion Control Conference (EPE-PEMC 2008)	A. Nishimiya H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	496 頁
Simulation of IPM Motor by Nonlinear Magnetic Circuit Model for Comparing Direct Torque Control with Current Vector Control	共著	2008 年	13th International Power Electronics and Motion Control Conference (EPE-PEMC 2008)	H. Goto K. Kimura H. J. Guo O. Ichinokura	505 頁

Optimal Switching Control for Inverters: A Dynamic Combinatorial Optimization Approach	共著	2008年4月	IEEE International Conference On Industrial Technology, Chengdu, China	K. Z. Liu H. J. Guo	21~24頁
Asymptotic Sensitivity Properties of Davison Type Integral Controllers for Time-Delay Plants	共著	2008年7月	17 th IFAC World Congress, Seoul, Korea	T. Ishihara L. A. Zheng H. J. Guo	6~11頁
A Novel Algorithm for Fast and Efficient Maximum Power Point Tracking of Wind Energy Conversion Systems	共著	2008年9月	XVIII th International Conference on Electrical Machines, Villamoura, Portugal, Paper ID 1419	Kazmi Syed Muhammad Raza H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	6~9頁
Novel Torque Control for a SR motor EV	共著	2008年9月	XVIII th International Conference on Electrical Machines, Villamoura, Portugal, Paper ID 1179	A. Nishimiya H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	6~9頁
ANN based Torque Calculation of SR Motors without Locking the Rotor	共著	2008年11月	The 53rd Magnetism and Magnetic Materials (MMM) Conference, in Austin, TX, USA	F. Kucuk H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	10~14頁
A Novel Speed-Sensorless Adaptive Hill Climbing Algorithm for Fast and Efficient Maximum Power Point Tracking of Wind Energy Conversion Systems	共著	2008年11月	2008 International Conference on Power Electronics and Drive Systems, Singapore	Kazmi Syed Muhammad Raza H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	17~20頁
Artificial neural network based torque calculation of switched reluctance motor without locking the rotor	共著	2009年7月	Journal of Applied Physics	F. Kucuk H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	07F103
A Micro Wind Power Generation System Using Permanent Magnet Reluctance Generator	共著	2009年9月	13th European Conference on Power Electronics and Applications	H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	895
An Improved and Very Efficient MPPT Controller for PV Systems subjected to Rapidly Varying Atmospheric Conditions and partial Shading	共著	2009年9月	2009 Australasian Universities Power Engineering Conference	Kazmi Syed Muhammad Raza H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura	
A Study of Sampled-data Integrator Controller and Its Application in Speed Control of DC Motors	共著	2009年12月	The 7th IEEE International Conference on Control & Automation	H. J. Guo T. Ishihara	2149~2153頁

Design of Optimal Output Disturbance Cancellation Controllers via Loop Transfer Recovery	共著	2009年12月	The 2009 International Conference on Mechatronics and Information Technologys	T. Ishihara H. J. Guo
Bb 3相モジュールによるSRモータの一駆動法	共著	2005年	電気学会回転機研究会資料, RM-05-134	後藤博樹 郭海蛟 一ノ倉理
DTCを利用したSRモータのセンサレス駆動	共著	2005年	電気学会回転機研究会資料, RM-05-132	三谷学 後藤博樹 郭海蛟 一ノ倉理
SPICE simulation of a switched reluctance motor with novel driving circuit	共著	2005年	IEEE International Magnetic Conference (INTERMAG2005), CW-05	H. Goto H. J. Guo O. Ichinokura
DTCによるIPMモータのセンサレスドライブ	共著	2006年	電気学会マグネティックス研究会資料, MAG-06-113	木村謙介 後藤博樹 郭海蛟 一ノ倉理
A simple method to reduce torque ripple of SR motors using freewheeling mode for electric vehicles	共著	2006年	IEEE International Magnetic Conference (INTERMAG2006), HU-02	H. Goto M. Sato H. J. Guo O. Ichinokura
G SRMのDTC適用時におけるセンサレス駆動の検討	共著	2005年	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 1B-12	三谷学 後藤博樹 渡辺忠昭 一ノ倉理 郭海蛟
SRモータのDTC適用時におけるセンサレス駆動	共著	2006年	電気学会全国大会講演論文集	三谷学 後藤博樹 一ノ倉理 郭海蛟
SRMの磁場一回路過渡連成解析の試み	共著	2007年	電気学会全国大会講演論文集	郭海蛟 鈴木宏吉
回路一磁場過渡連成解析モデルによるSRMの特性考察	共著	2007年	電気学会産業応用部門大会論文集, Y-110	鈴木宏吉 郭海蛟
DTCによるIPMモータのセンサレスドライブ	共著	2007年	電気学会全国大会講演論文集	木村謙介 後藤博樹 一ノ倉理 郭海蛟
SRモータを搭載した電気自動車のトルク制御に関する一考察	共著	2007年	電気学会マグネティックス研究会資料MAG-07-18	西宮歩 後藤博樹 渡辺忠昭 郭海蛟 一ノ倉理

Sensorless Torque Estimation in Switched Reluctance Drive Using Artificial Neural Networks and Inductance Vector Angle	共著	2007 年	電気学会回転機研究会資料, RM-07-62	F. Kucuk 後藤博樹 一ノ倉理 郭 海蛟	
相トルク分配と磁束に基づく励磁相切換による瞬時トルク制御法の電気自動車用 SR モータへの適用	共著	2007 年	電気学会回転機研究会資料, RM-07-63	西宮 歩 後藤博樹 一ノ倉理 郭 海蛟	
相トルク分配と磁束に基づく励磁相切換による SR モータの瞬時トルク制御法の電気自動車への応用	共著	2007 年	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 1110	西宮 歩 後藤博樹 郭 海蛟 一ノ倉理	
IPMSM の DTC によるセンサレスドライブ	共著	2007 年	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 1115	木村謙介 後藤博樹 一ノ倉理 郭 海蛟	
磁束に基づく励磁相切換を利用した瞬時トルク制御法の電気自動車用 SR モータへの適用	共著	2007 年	日本応用磁気学会学術講演概要集, 14pB-9	西宮 歩 後藤博樹 郭 海蛟 一ノ倉理	
非線形磁気回路モデルにおける IPM モータの制御シミュレーション	共著	2007 年	電気学会回転機研究会資料, RM-07-113	木村謙介 後藤博樹 郭 海蛟 一ノ倉理	
相トルク分配と磁束に基づく励磁相切換を利用した瞬時トルク制御法の電気自動車用 SR モータへの適用	共著	2007 年	スピニクス特別研究会, 07-6-15	西宮 歩 後藤博樹 郭 海蛟 一ノ倉理	
相トルク分配と磁束に基づく励磁相切換による瞬時トルク制御法の SR モータ EV への応用	共著	2008 年	電気学会全国大会講演論文集, 4-193	西宮 歩 後藤博樹 郭 海蛟 一ノ倉理	
Optimal Switching Control for Three Phase Inverters	共著	2008 年	電気学会全国大会講演論文集, 4-S16-2	K. Z. Liu K. Kondo H. J. Guo	
非最小位相系に対する非標準最適制御問題	共著	2008 年	第 51 回自動制御連合講演会	石原 正 郭 海蛟	
電気自動車のヨーレート制御に関する一考察	共著	2009 年	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集	河野智紀 京極淳郎 郭 海蛟	
モデルベース開発手法による自動車モデリングの構築	共著	2009 年	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集	笹川博司 平山貴洋 郭 海蛟	
風力発電におけるマトリックスコンバータの適用に関する基礎検討	共著	2009 年	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集	佐々木宏貴 郭 海蛟	

最適サンプル値積分コントローラによるDCモータの速度制御	共著	2009年	計測自動制御学会東北支部45周年記念講演会	郭海蛟 新井健太 石原正	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2000年4月～			計測自動制御学会仙台支部運営委員		
2002年4月～2009年3月			電子情報通信学会次世代電源研究委員会委員		
2006年4月～			電気設備学会仙台支部役員		
2008年1月～2009年12月			IEEE Sendai Section Executive Member		
2008年5月～2010年4月			計測自動制御学会会誌編集委員		
2008年9月			IEEE Section Congress に仙台支部代表として出席		

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	加茂 芳邦	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 現代技術は過去の技術と違って、自動的に進歩してきていることの理解		2005年1月～2009年12月		毎回の授業の前に、前回までの簡単な質問をしてから授業を始める			
		2005年1月～2009年12月		学部で実施している「学生による授業評価」を参考にし、授業効果を高めるため、次年度に応用している。			
授業と学生実験の関係を重視し、授業に取り入れている		2005年1月～2009年12月		2年及び3年生の実験テーマと授業との拘わりの大切さを勉強させるため、授業は授業かつ実験は実験と分けて指向するのではなく2つを意識して考えられよう試みた。また、power pointで授業すると眺めている学生が多い。この理由から授業の内容は板書して行っている。書くことによって記憶するよう心がけた。前半は基本的な内容、後半は応用の分野を取り入れて授業を進めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba アモルファス磁性体を用いた分布結合線路の結合度改善に関する実験的検討		共著	2006年5月	電子情報通信学会論文誌B Vol. J89-B No. 5	川又 憲 加茂芳邦 芳賀 昭 嶺岸茂樹	801～804頁	
A Measurement of Magnetocar diogram (MCG) Using a High-Frequency Carrier-Type Thin Film Field Sensor		共著	2008年	Journal of the Magnetism Society of Japan, Vol. 32, No. 4	S. Yabukami K. Kato Y. Kamo T. Ozawa K. Arai	483～486頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	塩川 孝泰	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	黒板の使用法の工夫 (基礎情報通信工学, 情報通信工学, 通信システム工学, 光通信工学)	2007, 2008, 2009 年度	板書をしながら説明すると学生は書くことに精一杯で内容の理解まで処理できない。先にポイントを黒板に書き, 間を空けて説明し, さらに, パワーポイントを使って説明を補強する。				
	パワーポイントの使用上の工夫 (基礎情報通信工学, 情報通信工学, 通信システム工学)	2007, 2008, 2009 年度	図はパワーポイントを使うが, 全ての図はコピーして渡す。				
	回路演習の工夫	2007, 2008, 2009 年度	毎回, 説明補助資料, 演習問題を配布し, 1/3 は解法の説明用, 1/3 は時間内での演習用, 1/3 は宿題用。				
	回路演習に関する時間外補講の実施	2009 年度	補講を希望する学生に時間外に補講を実施している。				
2	関連資料, 演習問題, パワーポイント原稿のコピーを作成配布	2007, 2008, 2009 年度	授業時間の有効活用のため。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	アンテナ工学ハンドブック 第2版	共著	2008年10月	電子情報通信学会	分担執筆	7頁	
	Mobile Antenna Systems Handbook 3rd Edition	共著	2008年12月	Artech House	K. Fujimoto T. Shiokawa	105頁	
Ba	コモンモードマイクロストリップ線路間のクロストーク低減法の検討	共著	2005年2月	電子情報通信学会論文誌B, Vol. J88-B, No. 2	庄子穂高 遠藤洋樹 塩川孝泰	頁数4枚 481~484頁	
	Vertical Polarization Single-Frequency Microstrip Antenna with an Arc-Shaped Slot	共著	2005年2月	IEICE Electronics Express (ELEX) Vol. 2, No. 2	Y. Kazama S. Kumagai T. Shiokawa	頁数4枚 60~63頁	
	Single-Layer Single-Frequency Multi-Band Antennas for Its Applications	共著	2005年11月	EuCAP2006, Nice, France. No. 339910	S. Kumagai Y. Kazama T. Shiokawa	頁数4枚	
	単層構造・単一給電マルチバンドアンテナ	共著	2006年9月	電子情報通信学会論文誌B, Vol. J89-B, No. 9	熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数10枚 1603~1612頁	
	スリット装荷反射板つき2周波対応円偏波スロットアンテナ	共著	2006年9月	電子情報通信学会論文誌B, Vol. J89-B, No. 9	三浦由克 熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数11枚 1613~1623頁	
	Dual-Band GPS Antennas with Single Feed and Low-Profile Configurations	共著	2008年7月	Proc. IEEE AP-S, USA, 507. 4	Z. Peng Y. Miura T. Shiokawa	4枚	

Bb	2周波マルチバンド円偏波アンテナに関する検討	共著	2005年7月	信学技報, A・P2005-36~64 (2005.7)	三浦由克 熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数6枚 37~42頁
	有限マイクロストリップ基板端からの放射に関する検討	共著	2006年10月	信学技報, A・P2006-76~95	相澤裕介 菅野 淳 塩川孝泰	頁数6枚 85~90頁
	単一給電マルチバンドアンテナの結合部に関する一検討	共著	2008年1月	信学技報, A・P2007-143, pp.123-128,	張 塩川	頁数6頁
	小型・薄型アンテナの特性改善	共著	2008年10月	信学技報, A・P2008-97, p17-23	川岸 岡崎 塩川	頁数6枚
G	2周波マルチバンド円偏波アンテナに関する検討	共著	2005年8月	2005年電子情報通信学会ソサイエティ大会, B-1-61, p73	三浦由克 熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数1枚
	2周波共用パッチアンテナ	共著	2005年8月	2005年電子情報通信学会ソサイエティ大会, B-1-79, p79	熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数1枚
	屈曲部を有するコモンモード線路におけるクロストーク・放射成分の抑圧	共著	2005年8月	平成17年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会, 電磁波・アンテナ, 140	相澤裕介 塩川孝泰	頁数1枚
	マルチバンドリングパッチアンテナの反射損失特性に関する一検討	共著	2005年8月	平成17年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会, 電磁波アンテナ, 141	沼田康平 塩川孝泰	頁数1枚
	単層構造・単一給電マルチバンドアンテナ	共著	2006年3月	2006年電子情報通信学会総合大会, B-1-99, p51	熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数1枚
	有限プリント基板からの放射に関する一検討	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2B9, p64	菅野 淳 相澤裕介 塩川孝泰	頁数1枚
	リング型MSAの広帯域化に関する検討	共著	2006年9月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2B8, p65	沼田康平 塩川孝泰	頁数1枚
	3周波マルチバンドアンテナに関する一検討	共著	2006年9月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2B9, 80	張 鵬 塩川孝泰	頁数1枚
	4周波対応マルチバンドアンテナに関する検討	共著	2006年9月	2006年電子情報通信学会ソサイエティ大会, B-1-80	張 鵬 熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	頁数1枚
	コンフォーマルパッチアンテナに関する研究	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部大会, 2H12, p308	中川 張 塩川	頁数1枚

GPS／モバイル衛星放送用パッチアンテナに関する一検討	共著	2007年8月	平成19電気関係学会東北支部大会, 2H11, p307	川岸 滝井 張 塩川	頁数1枚
分割比スパイラルアンテナの特性	共著	2007年8月	平成19電気関係学会東北支部大会, 2H05, p301	渡邊 福永 塩川	頁数1枚
周波数が近接するマルチバンドアンテナの諸特性	共著	2008年3月	2008年電気情報通信学会総合大会, B-1-	張鵬 塩川	頁数1枚
平面構造UWBアンテナに関する検討	共著	2008年8月	平成20電気関係学会東北支部大会, 2H05,	漆山 鈴木 塩川	頁数1枚
GPS／モバイル衛星放送用パッチアンテナに関する研究	共著	2008年8月	平成20電気関係学会東北支部大会, 2H09,	川岸 滝井 塩川	頁数1枚
国内移動体通信用アレーの素子アンテナの検討	共著	2008年8月	平成20電気関係学会東北支部大会, 2H10,	渡邊 岡崎 塩川	頁数1枚
ダブルスロットアンテナに関する検討	共著	2008年8月	平成20電気関係学会東北支部大会, 2H13,	大野 松坂 塩川	頁数1枚
走査角が限定されたフェーズドアレーアンテナに関する検討	共著	2009年3月	平成21年電気学会全国大会, 1-024, p30	岡崎 塩川	頁数1枚
基板の比誘電率の制御によるUWB/WiMAXアンテナの検討	共著	2009年3月	平成21年電気学会全国大会, 1-025, p31	川岸 伊藤 塩川	頁数1枚
偏波制御が可能なリングパッチアンテナに関する検討	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会, 2C14, p95	佐々木 佐々木 塩川	頁数1枚
走査角が限定されたフェーズドアレーアンテナに関する検討	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会, 2C15, p96	岡崎 塩川	頁数1枚
スロットリングアンテナの広帯域化に関する検討	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会, 2C17, p98	松坂 塩川	頁数1枚
平面構造広帯域円偏波アンテナに関する検討	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会, 2C18, p99	佐藤 小倉 塩川	頁数1枚
I 多周波共用アンテナ	共同 出願	2006年2月	特願 2006-0333180	熊谷祥一 風間保裕 塩川孝泰	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
平成 17 年度「シーズ育成試験」	2005 年度	個別, 研究代表者	次世代 ITS 用高性能マルチバンドアンテナの開発
科学技術振興機構「シーズ発掘試験」	2007 年度	個別, 研究代表者	次世代 ITS 用高性能マルチバンドアンテナの開発
	2009 年度		
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
学会活動	電子情報通信学会アンテナ伝播専門委員会 顧問		
産官学連携による地域育成事業への参画	電子情報通信学会歴史委員会 委員長 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携推進センター長として、宮城県、仙台市等の各種の地域産業推進 G メンバーとしての参加。 ・各種の展示会に出展。 		

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	芳賀 昭	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	わかりやすい授業の工夫	2006年4月～2009年12月		Power Point を活用し、カラフルな図面や映像を使い、学生の講義内容の理解に役立てている。			
4	県民大学	2005年10月19日		県民大学において「電磁波の生体影響」の講義を行った。			
	高校への出前授業	2005年11月1日		1年生を対象に「電磁波の生体影響」の講義を行った。			
	高校への出前授業	2006年4月28日		2年生を対象に「電気の人体への影響」の講義を行った。			
	みやぎ県民大学「大学開放講座」の講師を務めた。	2007年7月		電気の生体影響の最新情報			
	高校への出前授業	2009年8月27日		1年生を対象に「電気と生体」の講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	Exposure metrics of magnetic fields related to power lines and electric appliances	共著	2006年1月	Springer, Physics and Biophysics BIOELECTRO-MAGNETICS Current Concepts	T. Saito M. Kabuto A. Haga	307～322頁	
Ba	自動車の移動に起因する磁界変動の検討	共著	2005年2月	電気学会論文誌, Vol. 125 No. 2	鎌田清孝 湯ノ口万友 山崎慶太 加藤和夫 上田智章 芳賀 昭	92～98頁	
	パネル型アクティブ磁気シールドの遮蔽性能の検討	共著	2005年2月	電気学会論文誌, Vol. 125 No. 2	加藤和夫 山崎慶太 佐藤智也 芳賀 昭 沖津隆志 村松和弘 上田智章 吉澤正人	99～106頁	
	Evaluation of damage in DNA molecules caused by Very-Low-Frequency magnetic fields using bacterial cells	共著	2005年2月	IEICE Transactions on Communications, Vol. E88-B, No. 8	A. Haga Y. Kumagai H. Matsuki G. Endo A. Igarashi K. Kobayashi	3249～3256頁	

Investigation on demagnetization of a residual magnetization in architectural components using 3-D magnetic field analysis	共著	2005年5月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 41	K. Yamazaki K. Kato S. Hiroساتo K. Muramatsu T. Shimizu T. Sato A. Haga K. Fujiwara	1976~1979 頁
Practical method for evaluating magnetic disturbance due to buildings for the design of a magnetic testing site	共著	2005年5月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 41	K. Yamazaki K. Kato K. Muramatsu M. Uchida A. Haga K. Fujiwara	1856~1859 頁
Experimental examination of frequency spectra distribution due to micro gap discharge using the 6GHz experimental System	共著	2005年9月	Proc. of XV Int'l. Confe. on Electromagnetic Disturbances	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga	1.9-1~ 1.9-6 頁
Evaluation of damage in DNA molecules resulting from Very-Low-Frequency magnetic fields by using bacterial mutation repairing genetic system	共著	2005年11月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 41, No. 11	A. Igarashi K. Kobayashi H. matsuki G. Endo A. Haga	4368~4370 頁
Incremental permeability of Mu-metal in low magnetic field for design of Multi-Layer-Type of magnetically-shielded rooms	共著	2005年11月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 41, No. 10	K. Yamazaki K. Kato K. Muramatsu A. Haga K. Kobayashi K. Fujiwara K. Kamata T. Yamaguchi	4087~4089 頁
オフィス空間の磁界環境に関する検討 —受変電室の磁界測定—	共著	2006年3月	Journal of the Magnetics Society of Japan, Vol. 30	及川昌平 芳賀 昭 山崎慶太	316~320 頁
アモルファス磁性体を用いた分布結合線路の結合度改善に関する実験的検討	共著	2006年5月	電子情報通信学会論文誌, B, Vol. J89-B No. 5	川又 憲 加茂芳邦 芳賀 昭 嶺岸茂樹	801~804 頁
12GHz real time measurement of voltage rise time and current rise time due to micro gap discharge in voltage below 1kV	共著	2006年9月	Proceedings of International Symposium on Electromagnetic Compatibility, EMC Europe 2006, Vol. 1	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga	88~91 頁
Evaluate damage in DNA molecules caused by intermediate frequency magnetic fields using bacterial gene expression system for mutation repairing	共著	2006年9月	Proceedings of International Symposium on Electromagnetic Compatibility, EMC Europe 2006, Vol. 1	KA. Haga G. Endo K. Kobayashi	93~98 頁

Open type of magnetically shielded room combined with canceling coil for magnetic resonance imaging	共著	2006年11月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 42, No. 11	S. Hiroساتo K. Yamazaki K. Muramatsu M. Hirayama A. Haga K. Katada	3542~3544 頁
Optimal structure of magnetic and conductive layers of a magnetically shielded room	共著	2006年11月	IEEE Transactions on Magnetics, Vol. 42, No. 11	K. Yamazaki K. Muramatsu M. Hirayama A. Haga F. Torita	3524~3526 頁
Open-type Magnetically Shielded Room Using Only Canceling Coil Without a Ferromagnetic Wall for Magnetic Resonance Imaging	共著	2007年9月	IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS, VOL. 43, No. 6	E. Yamazaki S. Hiroساتo K. Muramatsu M. Hirayama K. Kamata T. Onoki K. Kobayashi A. Haga	2480~2482 頁
EB装置用アクティブ磁気シールドの遮蔽効果の評価	共著	2008年3月	Journal of the Magnetics Society of Japan, Vol. 32, No. 3	山崎 慶 小野木和了 小林宏一郎 村松和弘 芳賀 昭	386~391 頁
A newly designed and constructed 20kHz magnetic field exposure facility for in vivo study	共著	2008年7月	Journal of Bioelectromagnetics Society VOL. 30	T. Shigemitsu T. Negishi K. Yamazaki A. Haga K. Kobayashi K. Muramatsu	36~44 頁
Shield Duct to Prevent Magnetic Field Leakage Through Openings in Double-layered Magnetically Shielded Rooms	共著	2008年11月	IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS, VOL. 44, NO. 11	K. Yamazaki H. Fujita Y. Hatsukade S. Tanaka A. Haga	4183~4186 頁
Open-Type Magnetically Shielded Room Combined with Square Cylinders Made of Magnetic and Conductive Materials for MRIs	共著	2008年11月	IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS, VOL. 44, NO. 11	K. Yamazaki S. Hiroساتo K. Kamata K. Muramatsu K. Kobayashi A. Haga	4187~4190 頁
1kV以下のマイクロギャップ放電に伴う放射電磁波強度の測定	共著	2009年2月	電子情報通信学会論文誌, VOL. J92-B, No. 2	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	506~508 頁
デスクトップCLPSにおける位相励磁に関する検討	共著	2009年2月	Journal of the Magnetics Society of Japan, Vol. 33, No. 2	宮森 潤 芳賀 昭 角張泰之 佐藤文博 松本英敏 佐藤忠邦	110~113 頁

Measurement of Underground Electromagnetic Wave and Japan Historical Tsunami	共著	2009年10月	Proceedings of 15 th International Conference on Asian and Pacific Coasts	Y. Kono K. Ishikawa Y. Shimoasa A. Haga K. Kato	92~99 頁
Bb 磁界曝露による生体影響に関する研究 ーサルモネラ菌を用いた 20kHz 磁界曝露による DNA 損傷の評価ー	共著	2005年3月	東北学院大学 環境防災工学研究所紀要, Vol. 16	熊谷嘉晃 芳賀 昭 遠藤銀朗	12~15 頁
建物構造物が及ぼす影響を含めた一様磁場発生装置に関する検討	共著	2006年5月	電気学会マグネティックス研究会, MAG-06-48	山崎慶太 村松和弘 芳賀 昭 小林宏一郎 西村 泉 中園 聡 重光 司 根岸 正	25~30 頁
コンクリートに含まれる塩分濃度のインピーダンスに対する影響	共著	2006年12月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 41		22~25 頁
高精度な自動車の磁場変動の予測手法の検討ー零磁場空間での擾乱磁場分布測定ー	共著	2007年3月	東北学院大学 環境防災工学研究所紀要 Vol. 18	鳥田文彦 芳賀 昭	
Design of coil systems and buildings for generating wide intensive uniform magnetic field at intermediate frequencies	共著	2007年6月	Bioelectromagnetics Society 29th Annual Meeting	K. Yamazaki A. Haga K. Kobayashi K. Muramatsu I. Nishimura S. Nakasono T. Shigemitsu T. Negishi	
Distributions of leakage magnetic fields produced from induction cooking appliances	共著	2007年6月	Bioelectromagnetics Society 29th Annual Meeting	K. Kamata A. Haga K. Muramatsu	
シームレス非接触電力伝送システムを想定した移動磁界による平面コイル構成に関する検討	共著	2008年3月	東北学院大学 環境防災工学研究所紀要 Vol. 19	宮森 潤 佐藤文博 松木英敏 佐藤忠邦 芳賀 昭	
コア抜き取りによる円柱コンクリートの含有水量および塩分濃度の測定法	共著	2008年3月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 42, No. 1・2	二階堂佳世 芳賀 昭 川又 憲 山崎慶太 嶺岸茂樹	13~16 頁
DYNAMIC PIPE FRACTURE IN WATER PIPELINE	共著	2008年10月	16th IAHR-APD Congress & IAHR-ISHS Symposium	K. Ishikawa Y. Kono A. Haga K. Kato	

水撃負圧部の気泡発生と計測方法について	共著	2009年3月	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 43, No. 1・2	下浅雄大 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	41~46 頁
磁性体角等筒を併用した MRI 用オープンタイプ磁気シールドルームの検討	共著	2009年11月	電気学会マグネ ティックス研究会, MAG-09-148	山崎 慶 広里成隆 鎌田清孝 村松和弘 芳賀 昭 小林宏一郎	6 頁
C 磁気応用技術の調和的利用法の現状と展望	共著	2008年9月	電気学会調和型磁気 応用技術調査専門委 員会編	芳賀 昭 他分担	
G コンクリート含有成分の非侵襲測定方法の提案	共著	2005年3月	電気学会全国大会 4-195	上田智章 山崎慶太 竹中 誠 藤井英美 芳賀 昭 嶺岸茂樹 三井健郎 加藤和夫	2 頁
多層構造磁気シールドルーム設計のための増分透磁率評価(その1. 実験的検討)	共著	2005年3月	電気学会全国大会 2-158	鳥田文彦 及川昌平 芳賀 昭 山崎慶太 鎌田清孝 小林宏一郎 村松和弘 藤原耕二	
多層構造磁気シールドルーム設計のための増分透磁率評価(その2. 解析的検討)	共著	2005年3月	電気学会全国大会 2-159	鎌田清孝 山崎慶太 及川昌平 鳥田文彦 芳賀 昭 小林宏一郎 村松和弘 藤原耕二	
Exposure metrics of magnetic fields in personal exposure related to power-lines and electric appliances, Dosimetry of EMF in personal exposure related to electric appliances	共著	2005年5月	UNESCO/WHO SEMINAR, “MOLECULAR AND CELLULAR MECHANISMS OF THE BIOLOGICAL EFFECTS OF EMF”	T. Saito M. Kabuto A. Haga	5 頁
Considerations in frequency spectra of transition duration due to micro gap discharge using a 6GHz experimental system	共著	2005年7月	Proc. of 2005 Int’l. Confe. on EMC, Phuket Thailand, 4A-2,	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga	6 頁

微振動に起因する磁気シールドルームの磁気ノイズーその 1 実験による微振動と磁気ノイズの相関解析ー	共著	2005 年 9 月	第 29 回日本応用磁気学会学術講演会, 19aB-2	鳥田文彦 芳賀 昭 山崎慶太 阿部隆之 加藤和夫 村松和弘 藤巻則夫 野界武史
微振動に起因する磁気シールドルームの磁気ノイズーその 2 磁界解析を用いたノイズ発生理由の検討ー	共著	2005 年 9 月	第 29 回日本応用磁気学会学術講演会, 19aB-3	阿部隆之 山崎慶太 村松和弘 鳥田文彦 芳賀 昭
変動磁界に対する多層磁気シールドルームの最適設計手法	共著	2005 年 9 月	第 29 回日本応用磁気学会学術講演会, 19aB-4	鎌田清孝 山崎慶太 村松和弘 芳賀 昭 小林宏一郎
磁気干渉を考慮したアクティブ磁気シールドシステムの試作	共著	2005 年 9 月	第 29 回日本応用磁気学会学術講演会, 19aB-5	上田智章 加藤和夫 山崎慶太 芳賀 昭
受変電室の磁場環境の測定	共著	2005 年 9 月	第 29 回日本応用磁気学会学術講演会, 19aB-9	及川昌平 芳賀 昭 山崎慶太
高精度な自動車の磁場変動の予測手法の検討 (その 1 零磁場空間での擾乱磁場分布測定)	共著	2006 年 3 月	電気学会全国大会 1-143	鳥田文彦 芳賀 昭 山崎慶太 広里成隆 鎌田清孝 久慈敦司 小林宏一郎 小山大介 小野木和了 百束泰俊
高精度な自動車の磁場変動の予測手法の検討 (その 2 零磁場空間での測定結果による磁気双極子の推定)	共著	2006 年 3 月	電気学会全国大会 1-144	鎌田清孝 山崎慶太 広里成隆 鳥田文彦 芳賀 昭 百束泰俊
ワイヤーループ電極を用いたで遺伝容量計測によるコンクリート含有塩化物の推定	共著	2006 年 8 月	電気関係学会東北支部連合大会, 2F-17	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹
コンクリートのインピーダンスの含有塩化物濃度依存性	共著	2006 年 8 月	電気学会基礎・材料・共通部門大会, V-3	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹

CLPSの民生機器適用を想定した送電パッドの基礎的検討	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2D-14	宮森 潤 石川和己 芳賀 昭 佐藤文博 松木英敏 佐藤忠邦	
磁性層と導電層を有する多層磁気シールドルームの最適構造	共著	2006年9月	日本応用磁気学会学術講演会, 13pB-1	平山雅之 村松和弘 山崎慶太 鳥田文彦 芳賀 昭	
コンクリートの含有塩分濃度がインピーダンスに及ぼす影響	共著	2006年9月	日本応用磁気学会学術講演会, 11aB-1	二階堂佳世 嶺岸茂樹 芳賀 昭 山崎慶太 田中 大 村松和弘	
デスクトップCLPSにおける送電側励磁構成の検討	共著	2006年9月	第30回日本応用磁気学会学術講演会, 11pE-2	宮森 潤 芳賀 昭 佐藤文博 松木英敏 佐藤忠邦	
磁性体角筒を併用したMRI用オープンタイプ磁気シールドルームの検討	共著	2007年3月	電気学会全国大会	鎌田清孝 山崎慶太 広里成隆 芳賀 昭 平山雅之 村松和弘	
キャンセリングコイルのみを用いたMRI用オープンタイプ磁気シールドルームの検討	共著	2007年3月	電気学会全国大会	広里成隆 山崎慶太 村松和弘 鎌田清孝 芳賀 昭 小野木和了 小林宏一郎	
TDRを用いた円柱コンクリート供試体の含有塩分濃度推定	共著	2007年3月	電気学会全国大会	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹	
水道管の音波伝播速度の測定	共著	2007年3月	電気学会全国大会	石川和己 芳賀 昭 河野幸夫 加藤和夫 海老名修平	
オールメタル対応型電磁調理器から発生する磁界測定(その2)	共著	2007年4月	電子情報通信学会技術報告, EMCJ2007-04-27	芳賀 昭 小林宏一郎 小野木和了 村松和弘 鎌田清孝	31~36頁

帯域制限下で観測される放電過渡波形の立ち上がり時間推定	共著	2007年4月	電子情報通信学会技術報告, EMCJ2007-04-27	高 義礼 川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	31~36 頁
マイクロギャップ放電に伴う過渡電圧・電流立ち上がり時間の 12GHz 帯域測定	共著	2007年8月	電気関係学会東北支部連合大会	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	
インピーダンス計測によるコンクリート含有塩化物濃度の非侵襲測定に関する研究	共著	2007年8月	2007 年度日本建築学会	山崎慶太 三井健郎 村松和弘 芳賀 昭 嶺岸茂樹	
パッシブコイルを用いた MRI 用開口型磁気シールドルーム	共著	2007年8月	日本生体磁気学会	鎌田清孝 山崎慶太 広里成隆 鳥田文彦 芳賀 昭 平山雅之	
民生機器適用を目指した非接触送電パッドの基礎的検討	共著	2007年8月	平成 19 年度電気関係学会東北支部連合大会	宮森 潤 芳賀 昭 佐藤文博 松木英敏 佐藤忠邦	
デスクトップ CLPS における位相励磁における検討	共著	2007年9月	日本応用磁気学会	宮森 潤 芳賀 昭 佐藤文博 松木英敏 佐藤忠邦	
最新のオールメタル対応 IH 調理器から発生する磁界測定	共著	2007年9月	日本応用磁気学会	芳賀 昭 小林宏一郎 小野木和了 村松和弘 鎌田清孝	
コンクリート中の塩化物のインピーダンス計測による非侵襲測定に関する研究	共著	2007年9月	土木学会第 62 回年次学術講演会	三井健郎 山崎慶太 村松和弘 芳賀 昭 嶺岸茂樹	
EB 装置を対象としたアクティブ磁気シールドの補償コイルの形状に関する検討	共著	2007年10月	電気学会マグネティクス研究会, MAG-07-97	山崎慶太 小野木和了 小林宏一郎 村松和弘 芳賀 昭	43~48 頁
磁性体角筒を併用した MRI 用オープンタイプ磁気シールドルームの検討	共著	2008年1月	電気学会マグネティクス研究会, MAG-08-30	山崎 慶 広里成隆 鎌田清孝 村松和弘 芳賀 昭 小林宏一郎	27~32 頁

TDR を用いた円柱コンクリート含有塩分濃度の反射減推量に対する影響	共著	2008 年 3 月	電気学会全国大会	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹
磁性体角筒を併用した MRI オープンタイプ磁気シールドルームの実験的検討	共著	2008 年 3 月	電気学会全国大会	鎌田清孝 山崎慶太 広里成隆 村松和弘 芳賀 昭 小林宏一郎 松浦淳朗
コンクリート中の鉄筋位置検出法 — 正確な深さ検出 —	共著	2008 年 9 月	平成 20 年度建築学会 秋季講演大会講演	松浦淳朗 荒 克之 小林宏一郎 山崎慶太 芳賀 昭
磁気を用いた簡易なコンクリート内鉄筋位置の検出手法の検	共著	2008 年 9 月	日本磁気学会	小林宏一郎 佐々木仁望 山崎慶太 芳賀 昭 内川義則
磁性体角筒を用いた MRI 用開口型磁気シールドの角筒寸法が遮蔽性能に及ぼす影響	共著	2008 年 9 月	日本磁気学会	鎌田清孝 広里成隆 山崎慶太 原口 優 村松和弘 芳賀 昭
コンクリート中の鉄筋位置検出法 — 正確な深さ検出 —	共著	2008 年 11 月	平成 20 年度非破壊検査協会 秋季講演大会	松浦淳朗 荒 克之 小林宏一郎 山崎慶太 芳賀 昭
磁性体角筒を併用した MRI 用オープンタイプ磁気シールドルームの検討 (その 2)	共著	2008 年 12 月	電気学会マグネティクス研究会, MAG-08-183	広里成隆 山崎 慶 村松和弘 原口 優 芳賀 昭
磁性体角筒を用いた MRI 用オープンタイプ磁気シールドルームの実用化設計と性能評価	共著	2009 年 9 月	第 33 回日本磁気学会 学術講演会, 長崎市, 長崎大学	広里成隆 山崎慶太 原口 優 村松和弘 芳賀 昭 鎌田清孝 佐々木仁望 小林宏一郎
融雪発熱パネルの効率的制御システム	共著	2009 年 9 月	平成 21 年度電気関係 学会北陸支部連合大会, 北陸先端技術大学院, 石川県能美市	奈須野裕 瀬戸克典 芳賀 昭

その他 細菌細胞を DNA 損傷センサーとした VLF 磁界曝露による生体影響に関する 研究	単著	2006 年 3 月	学術振興会科学研究 費補助金（基盤研究 B （2））研究成果報告書		1～76 頁
企業と学術研究機関との出会い －MEET2006 秋－ 研究成果出展	単著	2006 年 11 月	(財)みやぎ産業振興 機構		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究 (B)	2003 年 4 月～2006 年 3 月	共同・研究代表者	細菌細胞を DNA 損傷センサーとした VLF 磁界曝露による生体影響に関する研究
科学研究費補助金基盤研究 C	2006～2007 年度	共同・研究分担者	コンクリート含有塩化物の分極特性を利用した非侵襲測定法に関する研究
科学研究費補助金萌芽研究	2008～2010 年度	共同・研究分担者	磁界を利用した新しい計測原理による埋設金属物体の非破壊検査技術の開発
科学技術振興機構 シーズ発掘試験研究	2009 年度	個別	コンクリートに埋め込めるマイクロ磁気センサを用いた配線フリー振動診断ユニットの開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1976 年～	電気学会会員
1976 年～	日本磁気学会会員
1988 年～	IEEE 会員
2002 年 4 月～2006 年 3 月	電気学会調和型磁気応用技術調査専門委員会委員
2004 年 4 月～2006 年 3 月	国立環境研究所「生活環境中電磁波と健康リスク評価に係る調査業務検討会」委員
2006 年 7 月	財団法人エンジニアリング振興協会から「均一磁場空間形成技術研究開発チーム」として、エンジニアリング功勞の表彰を受ける
2009 年 5 月～	電気学会 東北支部代表評議員

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	嶺岸 茂樹	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年1月～2008年12月		時々、授業中に小テストを行い、これまでの講義内容の理解度の確認を行っている。			
		2009年1月～12月		講義内容の理解度確認および計算力をつけるため、数回の小テストおよび1回の中間テストを行っている。			
2	教材の作成	2007年1月～2008年12月		「電気電子基礎計測」の講義では、実物の呈示やパワーポイントを使用している。			
		2009年1月～12月		「基礎情報通信工学」および「電気電子基礎計測」の講義では、原理の理解のため、パワーポイントを使用したり、実物の呈示を行なっている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	緒・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba							
Consideration on frequency spectra of transition duration due to micro gap discharge using a 6GHz experimental system		共著	2005年7月	International Conference on Electromagnetic Compatibility (ICEMC' 2005), 4A-2	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga	4頁	
Experimental examination of frequency spectra distribution due to micro gap discharge using the 6GHz experimental system		共著	2005年9月	XV International Conference on Electromagnetic Disturbances (EMD2005), 1.9	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga	6頁	
12GHz real time measurement of voltage rise time and current rise time due to micro gap discharge in voltage below 1kV		共著	2005年9月	International Symposium of Electromagnetic Compatibility (emc Europe 2006)	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga O. Fujiwara	4頁	
アモルファス磁性体を用いた分布結合線路の結合度改善に関する実験的検討		共著	2006年5月	電子情報通信学会論文誌 B, Vol. J89-B, No. 5	川又 憲 加茂芳邦 芳賀 昭 嶺岸茂樹	4頁	
6GHz measurement of voltage rise time and frequency spectra distribution due to micro gap discharge in voltage below 1500V		共著	2006年6月	The 23rd International Conference on Electrical Contacts	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga	6頁	
Wideband measurement of voltage and current rise time due to micro gap discharge as low voltage ESD using the 12GHz experimental system		共著	2006年8月	Progress in Electromagnetics Research Symposium, 4A8	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga O. Fujiwara	4頁	

MEASUREMENT OF TRANSITION DURATION AND BREAKDOWN FIELD DUE TO LOW VOLTAGE ESD USING 12GHz EXPERIMENTAL SYSTEM	共著	2007年9月	XVII International Conference on Electromagnetic Disturbances EMD2007	K. Kawamata S. Minegishi A. Haga O. Fujiwara	4頁
12GHz Measurement of Transition Duration and Breakdown due to Low VoltageESD	共著	2007年9月	Proceedings of 18th International Zurich Symposium on Electromagnetic Compatibility	K. Kawamata S. Minegishi A. HAGA O. Fujiwara	4頁
マイクロギャップ放電に伴う過渡電圧・電流立ち上り波形の12GHz帯域測定と電極間電界強度特性	共著	2007年11月	電子情報通信学会論文誌 (Vol. J90-B, No. 11)	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	6頁
MEASUREMENT OF RADIATED ELECTROMAGNETIC FIELD STRENGTH DUE TO MICRO GAP DISCHARGE AS LOW VOLTGE ESD	共著	2008年9月	Proc. of the 18th International Symposium on Electromagnetic Disturbance	K. Kawamata S. Minegishi A. HAGA O. Fujiwara	4頁
1kV以下のマイクロギャップ放電に伴う放射電磁波強度の一測定	共著	2009年2月	電子情報通信学会論文誌 (VOL. J92-B, NO. 2)	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	3頁
Topics in EMC Issues Related to Safety and Secure Social Life	共著	2009年2月	IEEJ	T. Funaki 他7名	6頁
MEASUREMENT OF RADIATED ELECTROMAGNETIC FIELD INTENSITY FROM THE MICRO GAP DISCHARGE AS LOW VOLTAGE ESD	共著	2009年5月	Korea-Japan Conference on AP/EMC/EMT	K. Kawamata S. Minegishi O. Fujiwara	4頁
A Method for Estimating Wideband Transients Using Transmission Loss of High Performance Semi-Rigid Coaxial Cable	共著	2009年6月	IEICE Tans. Comm.	K. Kawamata S. Minegishi Y. Taka O. Fujiwara	4頁
An Analysis of Information Leakage from a Cryptographic Hardware via Common-Mode Current	共著	2009年7月	Proceeding of the 2009 Int'l Symp. On EMC	Y. Hayashi 他9名	4頁
Estimate Method of Wideband Transition Duration due to Micro Gap Discharge Using a Transmission Loss of High Performance Semi-Rigid Coaxial Cable	共著	2009年7月	Proceeding of the 2009 Int'l Symp. On EMC	K. Kawamata S. Minegishi Y. Taka O. Fujiwara	4頁
Measurement of Radiated EM Field Intensity and Effect of Electrode Condition due to Low Voltage ESD	共著	2009年7月	Proceeding of the 2009 Int'l Symp. On EMC	K. Kawamata S. Minegishi O. Fujiwara	4頁
Bb 気中マイクロギャップ放電に伴う過渡電圧・電流立ち上がり時間の12GHz帯域測定	共著	2006年10月	電子情報通信学会環境電磁工学研究会技術報告, vol. 106, no. 322 (EMCJ2006-51)	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	4頁

1000V 以下におけるマイクロギャップ放電発生時の放電ギャップ長特性に関する一考察	共著	2006 年 12 月	電子情報通信学会環境電磁工学研究会技術報告, vol.106, no. 433 (EMCJ2006)	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	5 頁
帯域制限下で観測される放電過渡波形の立ち上がり時間の推定	共著	2007 年 10 月	電子情報通信学会技術研究報告 (Vol. 107, No. 278)	高 義礼 川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	5 頁
C 二本の傾斜型不均一線路間の不均一分布電磁結合の検討	共著	2005 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告, 第 39 巻, 第 1 号	木村旨方 大場佳文 嶺岸茂樹	4 頁
テーパ線路の開放端からの漏洩磁界の測定	共著	2005 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告, 第 39 巻, 第 1 号	小池英幸 大場佳文 嶺岸茂樹	4 頁
コンクリートに含まれる塩分濃度のインピーダンスに対する影響	共著	2006 年 12 月	東北学院大学工学部研究報告, 第 41 巻, 第 1 号	二階堂佳世 芳賀 昭 川又 憲 山崎慶太 嶺岸茂樹	4 頁
コア抜き取りによる円柱コンクリートの含有水量および塩分濃度の測定法	共著	2008 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告 (第 42 巻, 第 1~2 号)	二階堂佳世 芳賀 昭 川又 憲 山崎慶太 嶺岸茂樹	4 頁
平行型マイクロストリップ結合線路の低周波結合度に対するアモルファス金属の影響	共著	2009 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告 (第 43 巻, 第 1~2 号)	残間主大 林 宏至 川又 憲 嶺岸茂樹	4 頁
Hill 関数型テーパ部を有する高周波面電流発生装置のリターンロスおよび磁界分布	単著	2009 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告 (第 43 巻, 第 1~2 号)	林 宏至 残間主大 川又 憲 嶺岸茂樹	4 頁
D コネクタの接触不良と EMC	共著	2008 年 10 月	ミマツコーポレーション第 21 巻, 第 6 号	林 優一 嶺岸茂樹	7 頁
E 研究グループ紹介 (東北学院大学工学部電気情報工学科情報伝送工学研究室)	単著	2008 年 10 月	電気学会論文誌 B 128 巻, 10 号	嶺岸茂樹	1 頁
G コンクリート含有成分の非浸襲測定法の提案	共著	2005 年 3 月	平成 17 年度電気学会全国大会講演論文集, 4-195	上田智章 他 9 名	1 頁
シグモイド状不均一分布定数線路の特性インピーダンス	共著	2005 年 9 月	電子情報通信学会通信ソサイエティ大会講演論文集, B-4-32	木村旨方 川又 憲 大場佳文 嶺岸茂樹	1 頁

不均一分布電磁結合による高周波信号の測定	単著	2006年3月	総務省東北総合通信局・東北受信環境クリーン協議会技術部会講演会		1頁
バンドストップフィルタ構造の二周波整合回路	共著	2006年3月	電子情報通信学会2006総合大会講演論文集, C-2-64	大場佳文 嶺岸茂樹	1頁
コンクリートのインピーダンスの含有塩化物濃度依存性	共著	2006年8月	電気学会基礎・境界・材料・共通部門大会講演論文集, V-3	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹	1頁
ワイヤループ電極を用いた静電容量計測によるコンクリート含有塩化物濃度の推定	共著	2006年8月	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 2F17	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹	1頁
角形チップ抵抗を用いた同軸伝送路のコネクタ接触不良モデルの構成検討	共著	2006年8月	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集, 2F22	林 優一 嶺岸茂樹 曾根秀昭	1頁
コンクリート含有塩化物濃度がインピーダンスに及ぼす影響	共著	2006年9月	第30回日本応用磁気学会学術講演会論文集, 11aB-1	二階堂佳世 嶺岸茂樹 他4名	1頁
TDRを用いた円柱コンクリート供試体の含有塩分濃度推定	共著	2007年3月	電気学会全国大会講演論文集 (1-165)	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹	2頁
インピーダンス計測によるコンクリート含有塩化物濃度の非侵襲測定に関する研究	共著	2007年8月	日本建築学会2007年度大会(九州)学術講演梗概集 (1109)	山崎慶太 三井健郎 村松和弘 芳賀 昭 嶺岸茂樹	1頁
マイクロギャップ放電に伴う過渡電圧・電流立上り時間の12GHz帯域測定	共著	2007年8月	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集 (2D15)	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	1頁
コンクリート含有塩分濃度の反射減衰量に対する影響	共著	2008年3月	電気学会全国大会講演論文集 (1-147)	二階堂佳世 川又 憲 山崎慶太 芳賀 昭 嶺岸茂樹	1頁
Hi11 関数線路で給電されたマイクロストリップ線路のリターンロス	共著	2008年8月	電気学会全国大会講演論文集 (VI-6)	林 宏至 残間主大 川又 憲 嶺岸茂樹	1頁
マイクロストリップ結合線路の結合度に対するアモルファス金属の影響	共著	2008年8月	電気学会全国大会講演論文集 (VI-7)	残間主大 林 宏至 川又 憲 嶺岸茂樹	1頁

RLCはしご型負荷に対応できる集中2周波整合回路	共著	2008年9月	電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集 (B-4-6)	大場佳文 嶺岸茂樹 越後 宏	1頁
気中マイクロギャップ放電に伴う放射電磁波強度の一測定	共著	2008年9月	電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集 (B-4-12)	川又 憲 嶺岸茂樹 芳賀 昭 藤原 修	1頁
非平行型分布結合線路における電磁結合の実験的検討	共著	2009年3月	電気学会全国大会講演論文集 (第1分冊, 1-156)	残間主大 林 宏至 川又 憲 嶺岸茂樹	2頁
不均一分布電磁結合による高周波電磁界検出	共著	2009年3月	電気学会全国大会講演論文集 (第1分冊, 1-159)	林 宏至 残間主大 川又 憲 嶺岸茂樹	2頁
I コンクリート含有成分測定装置および測定方法	共著	2005年2月出願	特願 2005-029588	嶺岸茂樹 芳賀 昭 他6名	41頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)	2006～2007年度	共同・研究代表者	コンクリート含有塩化物の分極特性を利用した非侵襲測定法に関する研究
科学研究費補助金基盤研究(B)	2009～2011年度	共同・分担者	人体ESDの放電物性に基づく回路論的モデル化とEMC問題への応用

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1998年11月～	電子情報通信学会和文論文査読委員
2001年5月～2005年5月	電子情報通信学会和文論文誌編集委員
2005年度～	電気学会1号技術委員
2005年10月～	IEEE (アメリカ電気電子学会) Reviewer
2006年度～	電子情報通信学会英文論文査読委員
2007年度～	電気学会2号技術委員
2008年度～	電気学会技術調査専門委員長
2008年度～	IEEE (アメリカ電気電子学会) Sendai Chapter Treasurer
2008年3月～	電気学会論文査読委員
2009年3月	電子情報通信学会総合大会座長
2009年3月	電気学会全国大会座長
2009年7月	EMC'09/Kyoto Organized Session Organizer

2009年7月

EMC'09/Kyoto 論文小委員会委員

所属	電気情報工学科	職名	教授	氏名	宮澤 正樹	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業全体の構想	2005年4月～2009年12月		次年度の改善のため、授業のたびに反省点を記録する。			
	毎回の授業の進め方	2005年4月～2009年12月		授業の重点は、カラーのチョークを使用し黒板に書きながら進める。特に電気情報工学 세미나、卒業研究の授業では、ある程度纏まれば、発表原稿の纏め方、プレゼンテーションの仕方を何度も指導を行う。			
	授業理解の促進	2005年4月～2009年12月		授業の効果を把握するため、中間試験の実施や毎回問題を出し添削し学生一人一人に指導しながら返すことをしている。			
	授業内容を理解させ、理解を定着させるための工夫	2005年4月～2009年12月		授業で教えることを精選し、基本をよく理解させることに力点をおいて説明する。演習問題を解かせたり、小テストを行ったりする。特に重要な点は繰り返し強調し、板書したものに色を付けたりする。学生がよく間違えるところは特に取り上げて説明をしている。セミナーの授業では理解度をさらに深めるためインターネットから情報収集させるように指導している。			
	学生との接し方	2005年4月～2009年12月		セミナー、卒業研究の授業では、個別指導を徹底し、勉強したことや、実験内容、実験結果、得られた知見を報告させ指導している。			
	授業の秩序の維持	2005年4月～2009年12月		私語の注意や、単位認定の基準の説明、試験答案の講評などを行っている。演習のレポートは添削し返却するときに指導するようにしている。			
2	学生実験の教材	2005年2月～12月 2007年1月～2009年12月		学生実験の実験指針の作成のため、実験テーマを分担し執筆している。			
	授業で使用している補助教材の作成	2005年4月～2009年12月		演習問題を配布し、授業で学生に解いてもらい、解答している。また、学生実験で大事な点を紙や黒板を使用して説明している。			
4	資格取得のため指導	2005年4月～2009年12月		卒研生に対して、電気主任技術者の3種の資格取得のためのゼミを週1回行っている。			
	就職活動の指導	2005年4月～2009年12月		卒研生に対して、就職対策の一環として一人一人模擬面接を1～2回行っている。			
	高大連携ないし接続教育	2005年4月～2009年12月		リメデアル教育の実践として、入学前教育の添削指導を行っている。オープンキャンパス・大学祭では研究室を公開した。			
	地域社会に対する教育上の貢献						

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
G					
三相同期機の電機子巻線の内部故障に対する故障点の電氣的標定	共著	2005年8月	電気学会産業応用部門大会	小林康幸 宮澤正樹	2頁
三相同期機の内部故障の図式解法	共著	2006年8月	電気学会産業応用部門大会	小林康幸 宮澤正樹	2頁
円線図理論による三相同期発電機の電機子巻線の1相地絡故障現象の図式解法	共著	2007年8月	電気学会産業応用部門大会	小林康幸 宮澤正樹	2頁
三相同期機の電機子巻線の層間短絡故障の解析	共著	2008年8月	電気学会産業応用部門大会	小林康幸 宮澤正樹	2頁
マグネトロイダル発電装置の試作とその特性	共著	2008年9月	日本磁気学会	鶴本勝夫 相澤拓哉 宮澤正樹	1頁
磁気式遊星歯車装置に内蔵した三相交流発電機の試作と基礎特性	共著	2009年3月	電気学会全国大会	鶴本勝夫 相澤拓哉 藤原正範 宮澤正樹	1頁
三相同期機の電機子巻線の相間短絡故障の解析	共著	2009年9月	電気学会産業応用部門大会	小林康幸 宮澤正樹	2頁
2ロータ差動駆動三相発電機の試作とその特性	共著	2009年9月	日本磁気学会	鶴本勝夫 相澤拓哉 宮澤正樹	1頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動					
2007年5月～2009年4月		電気学会 評議員会 東北支部代表評議員			

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	石川 和己	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	シラバスと教科書に合わせた演習問題を作成して配布した。学生に板書させて解説を行った。課題レポートを提出させた。	2000年4月～	電磁気学演習Ⅰ及びⅡは、できるだけ多くの問題を解かせ、解答及び解説により計算力をつけさせるようにした。講義の終わりに課題レポート(宿題)を配布し、採点して次回の講義で解説した。課題レポートに「要望・感想」欄を設け、授業への意見を聞いた。毎回の授業で出席を取り、「長期欠席調査」に報告し、「学生による授業評価アンケート」を実施した。				
	少人数のセミナーで、モータの英文和訳、電気回路、電磁気学の問題を配付して解かせた。回路製作又はテーマを決めて調査研究をした内容をまとめて、プレゼンテーションをさせた。	2004年9月～	電気情報工学セミナーで直流電動機の英文を配布して和訳させた。電気回路及び電磁気学の演習問題を配付して解かせた。さらに回路製作又は興味あるテーマの調査研究を行い、内容をまとめてパワーポイント使って発表させた。				
	1年生を3クラスに分けて少人数教育を行った。1名のTAと共に質問のある学生の個別対応を行った。	2006年4月～	ブリッジ教育の数学基礎演習(必修科目)は、約50名の少人数教育を行った。シラバスに従って約30分の講義、その後、演習問題を20～30問解かせて板書させた。毎回の授業で出席を取り、「長期欠席調査」に報告し、「学生による授業評価アンケート」を実施した。				
	資料提示装置を用いて講義した。	2006年4月～	電力応用工学は、資料提示装置を用いて多くのカラー写真、図面、表など見せて講義を行った。演習問題を配付して問題を解かせた。「学生による授業評価アンケート」を実施した。				
	シラバスと教科書に合わせたパワーポイントを作成して講義を実施し、時折、器具を用いて実験を行った。	2007年4月～	パワーポイントを用いて講義を行い、大事なところを板書し、章末の演習問題を解かせた。毎回の授業で出席を取り、「長期欠席調査」に報告し、「学生による授業評価アンケート」を実施した。				
2	電磁気学演習Ⅰ及びⅡは、演習問題(10問程度)と課題レポート(5問程度)を作成して配布した。	2000年4月～	電磁気学Ⅰ及びⅡの講義内容に合わせた演習問題(10問程度)解かせた。課題レポート(5問程度)を提出させ、次回の講義に返却して解説した。				
4	平成19年度 みやぎ県民大学「大学開放講座」	2007年6月27日	「回らないモータのはなし」と題して「リニアモータ」及び「リニアモーターカー」に関する講義及び装置を用いて簡単な実演を行った。				
	エネルギー管理研修の講師	2008年12月16日	財団法人省エネルギーセンター「第31回エネルギー管理研修」で電力応用(電気加熱と照明)の講義を行った。				
	宮城県仙台向山高等学校「向陵セミナー」	2009年10月28日	高校から出前講義の依頼があり、「回らないモータのはなし」をした。1～2年生対象でしたので、リニアモータの特徴、応用(リニアモーターカー等)について講義し、簡単な実演を行った。				

エネルギー管理研修の講師	2009年12月15日	財団法人省エネルギーセンター「第32回エネルギー管理研修」で電力応用（電気加熱と照明）の講義を行った。			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba					
Stress-temperature phase diagram of a ferromagnetic Ni-Mn-Ga shape memory alloy	共著	2005年11月	Acta Materialia, Vol. 53, Issue19	V. A. Chernenko J. Pons E. Cesari K. Ishikawa	5071~5077 頁
Design of outer-rotor-type multipolar switched reluctance motor for electric vehicle	共著	2006年4月	Journal of Applied Physics, Vol. 99, No. 8, 08R324	S. Fijishiro K. Ishikawa S. Kikuchi K. Nakamura O. Ichinokura	1~3 頁
Considerations of the Performance Characteristics of the Cableless Micro-actuator by Using Mechanical DC-AC Inverter	共著	2007年9月	EPE 2007, Paper No. 646 (CD-ROM)	H. Yaguchi Y. Nanjo K. Ishikawa	1~5 頁
慣性力を利用した管内走行用ケーブルレス型磁気アクチュエータの動作特性	共著	2008年3月	日本応用磁気学会誌, Vol. 32, No. 2-1	矢口博之 南條勇太 石川和己	86~91 頁
Improvement of Moving Characteristics of Cableless Micro-actuator and Consideration of Reversible Motion	共著	2008年9月	EPE-PEMC 2008, Paper No. 130	H. Yaguchi K. Ishikawa T. Zamma K. Funayama	1035~1038 頁
Dynamic Pipe Fracture in Water Pipeline	共著	2008年10月	Proceeding of 16th IAHR-APD Congress & 3rd Symposium of IAHR-ISHS, Vol. VI	K. Ishikawa Y. Kono A. Haga K. Kato	2134~2139 頁
水撃負圧部の気泡発生と計測方法について	共著	2009年3月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 43, No. 1・2	下浅雄大 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	41~46 頁
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Movement in a Pipe	共著	2009年7月	Sensor Letter, Vol. 7, No. 3	H. Yaguchi K. Ishikawa	1~7 頁
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Reversible Motion in a Thin Pipe	共著	2009年10月	IEEE Trans., on Magnetic, Vol. 45, No. 10	H. Yaguchi K. Ishikawa T. Zamma	4530~4533 頁
Measurement of Underground Electromagnetic Wave and Japan Historical Tsunami	共著	2009年10月	Proceedings of the 5th International Conference on APAC2009, Vol. 1,	Y. Kono K. Ishikawa Y. Shimoasa A. Haga K. Kato	92~99 頁
G					
パラメトリックフローセンサに関する基礎的検討	共著	2005年3月	平成17年電気学会全国大会, 2-161	石川和己 菊地新喜	1 頁

Design of Outer Rotor Type Multipolar SR Motor for Electric Vehicle	共著	2005年11月	50th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials, HR-04, San Jose, CA, USA	S. Fijishiro K. Ishikawa S. Kikuchi K. Nakamura O. Ichinokura	1頁
漏水による音源の探査に関する基礎的検討	共著	2006年9月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2F-25	石川和己 河野幸夫 菊地新喜 海老名修平	1頁
CLPSの民生機器適用を想定した送電パッドの基礎的検討	共著	2006年9月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会, 2D-14	宮森 潤 石川和己 芳賀 昭 佐藤文博 松木英敏 佐藤忠邦	1頁
U型コアを用いたリニアパラメトリックモータに関する検討	共著	2006年9月	第30回日本応用磁気学会学術講演会, 13pE-7	石川和己 菊地新喜	1頁
水道管の音波伝播速度の測定	共著	2007年3月	平成19年電気学会全国大会, 1-139	石川和己 芳賀 昭 河野幸夫 加藤和夫 海老名修平	1頁
Considerations of the Performance Characteristics of the Cableless Micro-actuator by Using Mechanical DC-AC Inverter	共著	2007年9月	EPE2007-Aalborg, Denmark, No. 0646	H. Yaguchi Y. Nanjo K. Ishikawa	5頁
慣性力を利用した管内走行用ケーブルレス型磁気アクチュエータ	共著	2007年9月	第31回日本応用磁気学会学術講演会, 13pG-1	矢口博之 南條勇太 石川和己	1頁
雄勝湾における水中温度調査と海底環境修復	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, II-89	畑中裕平 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 鈴木講平 加藤和夫	2頁
漏水探査における鋼管の伝播速度の基礎的検討	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, II-105	上野嶺太 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 阿部 桂 加藤和夫	2頁
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Movement in a Pipe	共著	2008年7月	EMSA2008, Tu-1.2, Caen, France	H. Yaguchi K. Ishikawa	7頁
Improvement of Moving Characteristics of Cableless Micro-actuator and Consideration of Reversible Motion	共著	2008年9月	EPE-PEMC 2008, D5a-130, Poznan, Poland	H. Yaguchi K. Ishikawa T. Zamma K. Funayama	4頁

慣性力型管内走行用磁気アクチュエータの特性改善に関する考察	共著	2008年9月	第32回日本磁気学会 学術講演会, 12aE-2	矢口博之 石川和己 残間寿浩	1頁
Dynamic Pipe Fracture in Water Pipeline	共著	2008年10月	16th IAHR-APD Congress & 3rd IAHR-ISHS Symposium, B2b105, Nanjin, China	K. Ishikawa Y. Kono A. Haga K. Kato	6頁
管内走行用球状型磁気アクチュエータの走行特性	共著	2008年12月	電気学会マグネティッ クス研究会, MAG-08-162	矢口博之 佐藤徳明 石川和己 泉川反宏	4頁
地電流の長期的計測と地震との関連について	共著	2009年3月	土木学会東北支部技術 研究発表会, II-51	牧野祐介 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	2頁
継手部分の接続変化による鋼管の伝播速度への影響	共著	2009年3月	土木学会東北支部技術 研究発表会, II-60	大橋雅樹 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 加藤和夫	2頁
鋼管と水の伝播速度の相互作用について	共著	2009年3月	土木学会東北支部技術 研究発表会, II-69	上路崇大 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 阿部 桂 加藤和夫	2頁
海水温の温度測定とホタテの成長への影響	共著	2009年3月	土木学会東北支部技術 研究発表会, II-90	山下大輔 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	2頁
A Novel Cableless Magnetic Actuator Capable of Reversible Motion inside a Pipe	共著	2009年5月	Intermag 2009, BV-02, Sacramento, USA	H. Yaguchi K. Ishikawa	1頁
Measurement of Underground Electromagnetic Wave and Japan Historical Tsunami	共著	2009年10月	The 5th International Conference on APAC2009, Session1-1, Singapore	Y. Kono K. Ishikawa Y. Shimoasa A. Haga K. Kato	8頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
財団法人みやぎ産業振興機構プロジェクト創出研究会助成金	2006年度	共同・研究代表者	水道管の漏水探査に関する基礎研究
平成21年度東北学院大学個別研究助成金	2009年度	個別	海中養殖においてマイクロバブル放出による海水温度低減に関する研究

平成 21 年度東北学院大学共同研究助成金	2009 年度	共同研究者	埋設された水道管探査と漏水点の特定に関する研究
-----------------------	---------	-------	-------------------------

IV 学会等及び社会における主な活動

2001 年 4 月～2005 年 3 月	日本応用磁気学会論文委員会委員
2002 年 6 月～	照明学会東北支部評議員
2003 年 4 月～2006 年 3 月	電気学会電力変換・制御システムにおける磁気応用調査専門委員会委員
2005 年 1 月～2005 年 12 月	科学研究費委員会専門委員
2007 年 6 月～2009 年 5 月	日本応用磁気学会（現日本磁気学会）論文委員
2008 年 4 月～	電気学会東北支部協議員
2008 年 5 月～2008 年 9 月	日本磁気学会第 32 回学術講演会（9 月 12 日～15 日）実行委員

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	岩本 正敏	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教材開発 ひかりのデュエット	2006年6月		電子工作キット製作コンテスト・審査委員特別賞			
2	教員・公務員研修会 東北自治研修所中堅公務員研修	2005～2009年		講師（高度情報化社会と情報システム）			
	宮城県教育センター高等学校新任教員研修会	2006～2009年		講師（教材の構成と授業設計）			
	東北管区警察学校情報セキュリティ講習	2006年10月2日		講師（情報セキュリティ）			
	宮城県情報教育研究部会	2006年11月10日		講師（情報教育）			
	国土交通省東北地方整備局港湾空港部情報管理研修	2006年		講師（高度情報化社会と情報システム）			
3	科学・工作教室 たのしい科学サイエンスセミナー（東北大学）	2005～2009年		講師（年1回）			
	東北電力グリーンプラザ科学教室	2005～2009年		講師（年2回）			
	仙台市科学館ロボット工作教室	2005～2009年		講師（年4回）			
	仙台市科学館友の会研修	2005～2009年		主催, 講師（年12回）			
	ロボコン・ジュニア	2005～2009年		実行委員長（年1回）			
	仙台市青葉少年少女発明クラブ教室	2006～2009年		講師（年12回）			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Bead-like passage of chloride ions through ClC chloride channels		共著	2006年	Biophysical Chemistry Volume 120, Issue 1	A. Suenaga J. Yeh Z. Taiji M. Toyama A. Tekeuchi M. Son K. Takayama M. Iwamoto I. Sato T. Narahashi A. Konagaya K. Goto	36～43 頁	
子どものためのロボットキット「梵天丸」の開発と教育実践		共著	2006年	ロボット学会誌 vol. 24, No. 01	岩本正敏 水谷好成 鈴木南枝 中村 昇	2～6 頁	

小中学校における制御教育—図画工作から始める科学技術教育—	共著	2007年9月	計測自動制御学会, 計測と制御, vol. 46, no. 9	岩本正敏 水谷好成	683~686頁
The architecture of device that manipulates image in which each set of activities is ignited through transference of impulses	共著	2007年	Technical report of IEICE. PRMU, vol.107, no. 281	S. Karasawa M. Iwamoto	201~206頁
The Signal Processing in a Brain and a Programmable Voice Recognition System	共著	2008年8月	IEICE Technical Committee on Thought and Language (TL) (国際会議) Technical report of IEICE. Thought and language vol.108, no. 184	S. Karasawa M. Iwamoto	67~72頁
Bb					
農業高等学校におけるコンテンツ共有化の有用性~ 感動体験への準備 ~	共著	2005年	信学技報, vol. 105, no. 205	岩本正敏 渡部信一	25~30頁
梵天丸を利用したお茶運びロボットの製作と教育への適用	共著	2005年	信学技報, vol. 105, no. 205	水谷好成 岩本正敏	41~44頁
高度情報化時代における学びの質を向上させる遊びの場	共著	2005年	東北大学大学院教育情報学研究部紀要, 第3号	岩本正敏 渡部信一	49~56頁
教育用ロボットキット梵天丸を用いた小・中学生のためのプログラミング教育	共著	2006年	信学技報, vol. 106, no. 166	水谷好成 岩本正敏	43~48頁
ロボットを用いた小学校におけるプログラミング教育の研究	共著	2006年	信学技報, vol. 106, no. 166	田代久美 岩本正敏 水谷好成	49~52頁
造形遊びと創造的ロボット教育の融合	共著	2006年	信学技報, vol. 106, no. 166	岩本正敏 水谷好成 田代久美	53~57頁
ネットワークでの学び合いを形成する文法ドリルソフトの開発	共著	2007年	信学技報, vol. 107, no. 155	尾形 大 岩本正敏	7~12頁
小学校におけるメカトロニクスと関連した教育の可能性	共著	2007年	信学技報, vol. 107, no. 155	水谷好成 岩本正敏	35~38頁
ロボット教育と造形遊びによる4つの素質の育成	共著	2007年	信学技報, vol. 107, no. 155	岩本正敏 尾形 大 鈴木登志彦	39~43頁
C					
造形遊びとロボット	単著	2007年	仙台市図画工作研究会, ぞうけい, vol. 26		80~81頁
科学・技術教育の特質とそのあり方	単著	2008年	オーム社技術総合誌 OHM, vol. 95, no. 8		10~11頁
ロボットが改革する生活とビジネス	共著	2008年	三菱総合研究所, 三菱総研倶楽部, vol. 5, no. 5	岩本正敏 野口和彦	34~36頁

D 自宅で出来るプリント基板の楽しい制作方法	単著	2006年2月	仙台電子工作同好会 会報		
G 21世紀テクノロジー社会の子どもたち	単著	2005年3月	東北大学大学院教育 情報学研究部シンポ ジウム		
小学校におけるロボットを使ったグループによる表現活動	共著	2005年6月	Robomec2005	岩本正敏 水谷好成	1P2-N-067
LED 制御装置いろは姫を活用した小学校におけるメカトロニクス教育	共著	2005年6月	Robomec2005	水谷好成 岩本正敏	1P2-N-069
The creation of a human-robot symbiosis society	単著	2005年8月	RoboFesta 2005, International Forum (国際会議)		
梵天丸を利用したお茶運びロボットの製作	共著	2005年8月	日本産業技術教育学 会第48回全国大会,	水谷好成 岩本正敏	2P01
メカトロニクスを活用した小学校における新しい創作遊びの検討	共著	2006年5月	Robomec2006	岩本正敏 水谷好成	2A1-C22
小・中学生の発達過程に応じたメカトロニクス関連学習メニューの検討	共著	2006年5月	Robomec2006	水谷好成 岩本正敏	2A1-C24
普及型LED制御装置いろは姫の開発	共著	2006年8月	日本産業技術教育学 会第49回全国大会,	岩本正敏 水谷好成	2I02
ロボット教育と造形遊び	共著	2007年	Robomec2007	尾形 大 岩本正敏 鈴木登志彦	1A1-I11
梵天丸用ラインとレース拡張ユニット開発とロボット教育	共著	2007年	Robomec2007	鈴木登志彦 岩本正敏 尾形 大	1A1-I12
野外での使用を考慮した PSD を用いた広範囲計測法	共著	2007年	第50回自動制御連合 講演会	鈴木登志彦 岩本正敏 和泉 克	0S7-139
制御システムの導入教育におけるロボット創造教育	共著	2007年	第50回自動制御連合 講演会	尾形 大 鈴木登志彦 岩本正敏	GS12-402
PC サウンド入力機器を用いた多色 LED 分光方式	共著	2008年3月	第55回応用物理学関 係連合講演会予稿集	星宮 務 岩本正敏 大庭茂男	5pD1
高等学校での科学技術の意識度に基づく普通教科「情報A」でのロボット創造教育の実践と検証	共著	2008年	Rbomec2008	尾形 大 岩本正敏	2AI-I10
ロボット教育と造形遊びにおける実証主義・構成主義の学び場	共著	2008年	Robomec2008	尾形 大 岩本正敏	2A1-I11

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費基盤（C）	2006～2007年	個別	創造性を重視した教育用ロボットの開発
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
	<p>多賀城市情報公開・個人情報保護審査会 会長(2009年9月まで)</p> <p>多賀城市行政改革委員会 委員長(2009年9月まで)</p> <p>仙台市教育センター情報教育推進研究委員会 委員長</p> <p>仙台市学校 web ページコンテスト（仙台市教育委員会） 審査委員長</p> <p>宮城県児童生徒コンピュータ・ソフトウェア作品展 審査委員長</p> <p>宮城県教育研修センター 高等学校初任者研修会 講師</p> <p>宮城県特別支援教育センター開放講座 講師</p> <p>宮城県教育委員会理科支援員等配置事業 特別講師</p> <p>仙台市科学館友の会 会長</p> <p>仙台市科学館科学工作教室 講師</p> <p>仙台市青葉少年少女発明クラブ 顧問・専任指導員</p> <p>仙台市科学館友の会 会長</p> <p>ロボコン Jr. 大会実行委員長</p> <p>日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 オーガナイザー</p> <p>情報処理学会東北支部 評議委員</p> <p>NPO 国際ロボフェスタ協会 理事</p> <p>社会福祉法人 あおぞら（精神障害者生活支援センター てれんこ, 精神障害者通所授産施設 もぐもぐ） 理事・評議委員</p> <p>メカトロで遊ぶ会 会長</p>		

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	大場 佳文	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業への関心度の促進の試み (一般講義)	2006年4月～	講義内容に準ずる範囲で最新の科学技術をできるだけ話題に取り入れ、受講している講義の有効性を知ってもらうように心がけた。				
	定常的な勉強の保持の試み (演習)	2006年4月～	抜きうちでテストを実施することにより、日頃から勉強をしておく癖をつけさせる努力をした。				
	双方向的授業への取り組み(一般講義・演習)	2007年度～	講義中、できるだけ学生の座席に行き、できるだけ学生本人の力で答えにたどり着けるように、その問題の解決手順を学生本人に導出させるよう心がけた。				
3	第4回FD講演会に参加	2007年11月15日					
	第4回FD研修会に参加	2008年7月3日					
	第5回FD講演会に参加	2008年11月27日					
	第5回FD研修会に参加	2009年7月2日					
4	高校への出前授業の講師を務めた	2005年3月	宮城県立利府高校の生徒に対して、「さまざまな電磁現象」と題する授業を行った。				
	高校への出前授業の講師を務めた	2005年7月	青森県にある私立東奥義塾高校の生徒に対して、「さまざまな電磁現象」と題する授業を行った。				
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年3月21日	宮城県工業高等学校の生徒に対して、「いろいろな電磁現象」と題する授業を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	集中ブリッジT型回路で構成される2周波電力分配器	単著	2009年11月	電子情報通信学会論文誌 A, Vol. J92-A, No. 11		932～934頁	
C	テーパ線路の開放端からの漏洩磁界の測定	共著	2005年3月	東北学院大学工学部研究報告(第39巻, 第1号)	小池英幸 大場佳文 嶺岸茂樹	49～52頁	
	二本の傾斜型不均一伝送線路の不均一分布電磁結合の検討	共著	2005年3月	東北学院大学工学部研究報告(第39号, 第1号)	木村旨方 大場佳文 嶺岸茂樹	53～56頁	
	複素インピーダンス負荷に適した不均一線路電力2分配器	共著	2005年3月	東北学院大学工学部研究報告(第39号, 第1号)	三浦由克 大場佳文	57～60頁	

G	シングモイド状不均一分布定数線路の特性インピーダンス	共著	2005年9月	電子情報通信学会通信ソサイエティ大会講演論文集, B-4-32	木村旨方 川又 憲 大場佳文 嶺岸茂樹	356 頁
	バンドストップフィルタ構造 2 周波整合回路	共著	2006年3月	電子情報通信学会総合大会講演論文集, C-2-64	大場佳文 嶺岸茂樹	95 頁
	複素インピーダンス負荷に対する 2 周波整合回路の一形態	共著	2007年3月	電子情報通信学会総合大会講演論文集, C-2-87	大場佳文 嶺岸茂樹	120 頁
	RLC はしご型負荷に対応できる集中 2 周波整合回路	共著	2008年9月	電子情報通信学会通信ソサイエティ大会講演論文集, B-4-6	大場佳文 嶺岸茂樹 越後 宏	247 頁
	集中分布混在型 2 周波整合回路	共著	2009年3月	電子情報通信学会総合大会講演論文集, B-4-53	大場佳文 嶺岸茂樹 越後 宏	396 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2003年5月～2005年5月	電子情報通信学会東北支部評議員
2003年5月～2005年5月	電子情報通信学会学生会連絡会委員

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	小野 孝	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	他大学大学院を受験する学生に対する語学ならびに専門科目内容の指導手法の開拓	2005年1月～2008年12月	他大学の大学院受験希望学生に対する学習指針の策定とその実施（合格実績校：東北大学、東京工業大学、千葉大学、岩手大学、北海道大学）				
	電気情報工学科講義において使用するオープンソースOSシステム（Knoppix-Edu）の作成ならびに学生個人PCシステムの導入	2005年1月～2008年12月	電気情報工学での講義使用目的に特化したKnoppix-Eduシステムの作成と講義受講時に学生が使用するPC仕様の作成ならびに導入計画の立案ならびに実施				
	電気情報工学実験受講学生に対するKnoppix-Eduによる学習支援の試み	2005年1月～2008年12月	科内科目の重要な位置を占める電気情報工学実験を受講する学生が、実験内容の詳細な手順やその理論などを現場で容易に参照可能なKnoppix-Eduシステムの構築				
	外国人に対する日本語教育支援手法の開拓	2005年1月～2008年12月	外国人留学生や研修生に対する日本語教育使用に特化したKnoppix-Edu応用システムの構築と作成（現在東北大学文学研究科院生が試験使用中）				
	全国配布版KNOPPIX-Edu-7～8の企画ならびにその構成	2005年1月～2008年12月	全国の教育機関で使用するためのKNOPPIX-Eduシリーズの開発とその配布				
	本学電気情報工学科学生のためのKNOPPIX-Eduシリーズによる学習支援の試み	2005年1月～2008年12月	専門教科の学習に特化したEduシリーズの開発とそれを使用した教育の実践（学生達からは非常に好評を得ている）				
	オープンソースによる外国人に対する日本語教育支援システムの開拓	2005年1月～2008年12月	留学生や企業研修生に対する日本語教育を支援するオープンソースシステムの構築と教育の実践（現在松島日本語教室にて実証研究中）				
2	他大学大学院入学試験内容に関するデータベース	2005年1月～2008年12月	受験希望学生に対する学習指針策定のベースとなる受験データの集積と内容解析（対象校：東北大、東京工業大、千葉大、岩手大、北海道大、山形大、秋田大）				
	電気情報工学科での教科全般に特化したKnoppix_Edu（CD/DVD USB/SD メディア）	2005年1月～2008年12月	電気情報工学での開講科目に特化したKnoppix-Eduシステムの構築とメディア作成				
	電気情報工学科における電気情報工学学生実験に特化した受講学生支援のためのKnoppix_Edu（CD/USB/SD メディア）	2005年1月～2008年12月	電気情報工学実験受講時の学生による自律学習の支援目的に特化したKnoppix-Eduシステムの構築とメディア作成				
	外国人に対する日本語教育のためのKnoppix-Edu（CD/USB/SD メディア）	2005年1月～2008年12月	外国人留学生や研修生に対する日本語および日本の習慣等の教育使用に特化したKnoppix-Edu応用システムの構築とメディア作成（現在東北大学文学研究科院生が試験使用中）				
	USB/SD フラッシュメモリ起動型Knoppix-Edu作成方法マニュアル群	2005年1月～2008年12月	高速で利便性の高いフラッシュメモリからKnoppix-Eduを起動可能なシステム作成方法の技術マニュアル群（学外からの要望も多く、学内サーバーから現在一般公開中）				

全国配布版 KNOPPIX-Edu-7, Edu-8	2005年1月～2008年12月	全国配布版 KNOPPIX-Edu-7, Edu-8 (CD版) ならびにウェブ上での配布体制の確立
オープンソースによる外国人に対する日本語教育支援システム	2005年1月～2008年12月	日本の生活習慣あるいは最低限のサバイバル日本語を習得するためのオープンソースシステム DVD/CD を実現し、現在松島日本語教室を基点とする多くの関係機関（宮城県、松島町、東北大学、宮城教育大学など）の助力を得て教育効果の実証中である。
本学電気情報工学科学生のための KNOPPIX-Edu シリーズ	2005年1月～2008年12月	情報工学関連科目や電気・電子回路ならびに電気情報工学実験で使用する学習支援 CD
電気・電子回路シミュレータ Qucs マニュアル	2005年1月～2008年12月	全国の教育機関で使用することを前提とした電気・電子回路ならびに電気情報工学実験用回路シミュレータマニュアルの翻訳と応用回路モデルの作成 (Edu シリーズに収録)
AVR 開発システム (KNOPPIX-Edu シリーズ)	2005年1月～2008年12月	全国の教育機関で使用することを前提とした AVR マイコン基板の設計製作ならびにプログラム開発システムプログラムの作成 (Edu シリーズに収録)
他大学大学院入学試験内容に関するデータベース	2005年1月～2008年12月	受験希望学生に対する学習指針策定のベースとなるデータの集積と内容の解析 (対象大学：東北大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、筑波大学、東京工業大学、千葉大学、東京農工大学その他)
3		
Knoppix-Edu の発表展示 (Linux World 2005 東京ビックサイトで開催)	2005年6月	オープンソースソフトウェアに関する世界的に著名な国際展示会において本学開発の Knoppix-Edu による教育内容を報告ならびにメディア配信
CD 起動型オープンソースソフトウェアによる教育教材共有広域ネットワーク構築の試み (私立大学情報教育協会 全国大学 IT 活用教育方法発表会)	2005年7月	教育 GP をめざし、オープンソースソフトウェアによる教育教材を共有する広域ネットワーク構築の試みの詳細を政府機関に対し発表 (発表：志子田有光助教授)
Knoppix-Edu の発表展示 (宮城いいものテクノロジー 夢メッセ宮城で開催)	2005年10月	企業を含む一般に対する地元展示会において本学開発の Knoppix-Edu 内容を広報ならびにメディア配信
Knoppix-Edu の発表展示 (Linux World 2006 東京ビックサイトで開催)	2006年6月	オープンソースソフトウェアに関する世界的に著名な国際展示会において本学開発の最新 Knoppix-Edu による教育内容を報告ならびにメディア配信
「オープンソースによる外国人に対する日本語教育支援システム」作成のための留学生と企業研修生に対する調査	2007年1月～2008年12月	外国人留学生や企業で働く外国人研修生に対し、どのような教育システムが彼らにとって最も望ましいのかに関する調査を実施した。
Knoppix-Edu の発表展示 (Linux World 2007 東京ビックサイトで開催)	2007年6月	オープンソースソフトウェアに関する世界的に著名な国際展示会において本学開発になる Edu シリーズの発表とメディアの配布を行った。
松島日本語教室における公開研究発表会において本学開発の日本語教育ソフトを発表	2008年3月	外国人に対するサバイバル日本語学習のためのソフトウェアならびに基本的習慣の解説ソフトウェアの発表 (外国人から特に好評を得ている)

<p>4</p> <p>宮城県の外国人支援機構や松島日本語教室などの外部機関と共同でオープンソース日本語教育システムを構築している。</p> <p>「外国人に対する日本語教育ソフトウェア」の外国人留学生と研修生に対する発表会とその内容に関する意見交換会実施</p> <p>宮城組込みソフトウェア人材育成研究会ミーティング実施</p> <p>「外国人に対する日本語教育ソフトウェア」作成のための外国人留学生と研修生に対する調査実施</p> <p>組込みソフトウェア開発セミナー開催(本学本館会議室にて開催)</p>	2005年1月～2008年12月	これは特定のOSに依存せずどのような国あるいは地域からでも本学で制作する日本語教育システムを利用できることを目的とした活動である。
	2005年2月	本学工学部学生独自開発〔卒業研究テーマ〕のソフトウェアを外国人留学生と研修生に公開すると同時に内容改善のための意見をもとめた(公開結果は大変好評)
	2005年4月	宮城県と本学ならびに地元企業とが産学官連携し、今後成長が望める組込み系の上流ソフトウェア技術者養成教育に関する試みの立ち上げ(主管：志子田有光助教授)
	2005年6月	企業での外国人研修生ならびに外国人大学留学生に対する最適な日本語教育ソフトウェア作成のため、工学部学生が県内企業研修生ならびに留学生に対する詳細なヒアリングを実施
	2005年10月	産学官連携ミーティングから具体化した講習会、この分野の第一人者を講師として招き、産学官すべてを受講対象とし多くの参加を得た(主管：志子田有光助教授)

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数
<p>Ba</p> <p>A practicable educational contents sharing system utilizing Knoppix Edu series the 1 Cdbootable Linux teaching tools</p>	共著	2005年7月	IEEE ITHET 6th Annual International Conference	A. Shikoda T. Ono M. Kumagai M. Ishikawa D. Chiba K. Suzuki K. Kato T. Hamada	T3C14-19
<p>E</p> <p>学生にとって長持ちのする工学教育をめざして</p>	単著	2006年10月	後援会誌 Growth Vol.9		13頁

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

2005年	県民大学講師(多賀城工学部にて実施)
2007年	出前授業(山形県寒河江工業高等学校)
2008年	出前授業(宮城県気仙沼向洋高等学校)
2008年	WRO(ロボットコンテスト世界選手権東北大会)運営役員(会場:東北学院中高校舎)

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	神永 正博	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	工学部向け数学教育の実践	2004年4月～	工学を学ぶ上で必要となる数学, 数学的な考え方は, 標準的な数学のカリキュラムとは異なっている. 講義では, 理論的には興味深い, 応用上不要と思われる部分をカットし, 必要な部分に説明を集中している。				
2	「情報セキュリティの理論と技術—暗号理論から IC カードの耐タンパー技術まで—」(森北出版) 渡邊高志氏との共著	2005年10月	暗号学に必要な数学, 標準的な暗号の理論, 実装アルゴリズムから, IC カードのセキュリティ技術までを平易に解説している。				
	「カードセキュリティのすべて—進化する“手口”と最新防御策」(日本実業出版)	2006年8月	クレジットカードなどの磁気カードの危険性, 生体認証, IC カードセキュリティ技術までを一般向けに解説している。				
	『計算力をつける微分積分』(内田老鶴圃)	2008年3月	工学部で必要な微分積分学を体系的に解説した。入学者の学力水準の多様化に対応して, 数Ⅲを履修していなくても対応できるように工夫し, 計算力がつく内容となっている。				
	『Java で作って学ぶ暗号技術—RSA, AES, SHA の基礎から SSL まで—』(森北出版)	2008年5月	Java を利用して代表的な暗号アルゴリズムを学び, 本格的な SSL (電子商取引用のクライアント=サーバシステム) の一部を作成する。				
	『計算力をつける線形代数』(内田老鶴圃)	2009年10月	工学部向けの線形代数のテキスト。数学 B, 数学 C を履修していない学生でも無理なく学習できるように配慮した。				
4	みやぎ県民大学講師を務めた	2005年7月6日	みやぎ県民大学にて, 「IC カードと情報セキュリティ技術」と題する講演を行った。				
	工学基礎教育センター相談員兼運営委員を務めた	2006年4月～	2006年4月より運営が開始された工学基礎教育センターの副所長を2年間務め, その後も週3時間の相談員, 運営委員を行い, 学生の学力増進に務めた。				
	高校への出前講義を務めた	2007年11月20日	築館高等学校にて「IC カードと情報セキュリティ技術」と題する出前講義を行った。				
	高校への出前講義を務めた	2008年6月11日	栗駒高等学校にて「IC カードと情報セキュリティ技術」と題する出前講義を行った。				
	大学公開講座講師を務めた	2008年6月25日	大学公開講座にて, 「IC カードと情報セキュリティ技術」と題する講演を行った。				
	埼玉大学理学系大学院 FD 研究会で講演した	2008年12月1日	拙著「学力低下は錯覚である」(森北出版) の内容についてレクチャーした。中位レベル以上の大学における問題点などについても詳細に説明した。				

北海道大学 CoSTEP(科学技術コミュニケーター養成講座)にて講演した	2009年10月10日	拙著「不透明な時代を見抜く「統計思考力」(ディスカヴァー・トゥエンティワン)に関連して統計の見かた, 考え方, ライターにとって必要なことなどをレクチャーした。			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
情報セキュリティの理論と技術	共著	2005年10月	森北出版	神永正博 渡邊高志	140頁
『Java で作って学ぶ暗号技術—RSA, AES, SHA の基礎から SSL まで—』	共著	2008年5月	森北出版	神永正博 山田 聖 渡邊高志	150頁
『学力低下は錯覚である』	単著	2008年6月	森北出版		144頁
Ba					
RSA 暗号の電力解析法による攻撃とその対策	共著	2005年5月	電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J88-A, No. 5	神永正博 渡邊高志 遠藤 隆 大河内俊夫	606~615頁
The spectrum of Schrödinger operators with Poisson type random potential	共著	2006年3月	Annals Henri Poincaré7, No. 1	K. Ando A. Iwatsuka M. Kaminaga F. Nakano	145~160頁
Logic-level Analysis of Fault Attacks and A Cost-effective Countermeasure Design	共著	2008年6月	IEICE Transactions Vol. E91-A, No. 7	神永正博 渡邊高志 遠藤 隆 大河内俊夫	1816~1819頁
理工系離れの原因は何か	単著	2008年11月	大学の物理教育, No. 14		126~130頁
D					
カードセキュリティのすべて	単著	2006年8月	日本実業出版		238頁
不透明な時代を見抜く「統計思考力」	単著	2009年4月	ディスカヴァー・トゥエンティワン		240頁
G					
Design Principle for Truly Random Number Generator of Dual Oscillator Architecture	単著	2005年9月	夏の作用素論セミナー		
Randomness for Random Number Generator of Dual Oscillator Architecture	単著	2005年12月	ワークショップ「ランダム作用素のスペクトルとその周辺」		
デルタ型 bump を持つ非線形シュレーディンガー方程式について	単著	2006年7月	夏の作用素論セミナー		
Design Principle for truly RNG of Dual Oscillator Architecture	単著	2006年9月	東京電機大学工学部自然科学系列セミナー		

The spectrum of Schrödinger operators with Poisson type random potential	単著	2006年12月	International Workshop “Spectral Theory of Random Operators and Related Fields in Probability Theory”		
異なる非線形性を持つ媒質を接合した非線形シュレーディンガー方程式の定常解の安定性について		2007年9月	夏の作用素論セミナー		
Predictable Fault Analysis		2008年9月	夏の作用素論セミナー		
デルタポテンシャルを持つ非線形シュレーディンガー方程式の孤立波の安定性について		2009年9月	夏の作用素論セミナー		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手研究 (B)	2005～2006年度	個別	ポアソン・ランダムシュレーディンガー作用素のスペクトルの研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年4月～2006年3月	電子情報通信学会東北支部評議員
2006年8月～	Mathematical Review Reviewer (American Mathematical Society)

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	金 義 鎮	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	プログラミングと計算機との関連動作原理を理解させるための工夫	2007年4月～2008年11月	プログラムを計算機上でコーディングする前に、学生に紙で動作したい原理を手書きさせる。その後、変数や値の役割をやじるして指す練習を行った。この学習法により、プログラミングと計算機との関連動作処理について学生の理解度が高まった。				
	連想法を用いて復習	2007年4月～2008年11月	講義が始まる前、前回の講義の内容を簡単に学生にまとめさせることにより復習させる。				
	講義中ノートパソコンの利用	2007年4月～2008年11月	座学の講義でも、ノートパソコンを持参させ、原理と演習を同時を行うことより、学生の理解度を高めた。				
4	県立宮城工業高校での出前講義	2008年3月	県立宮城工業高校で2年生に対して、「デジタル画像処理とは？」のテーマで授業を行った。				
	大学院工学研究科大学院生のための講演	2008年5月	本学工学研究科の大学院生に対して、「デジタル画像処理」について分かりやすい内容で講演を行った。				
	模擬講義	2008年6月	オープンキャンパスに参加した高校3年生に対して、「デジタル画像処理がわかる」のテーマで模擬授業を行った。				
	高校生の大学見学	2008年6月	大学体験に本学を訪問した高等学校の2年生に対して、研究室の設備と研究内容の説明を行った。				
	全国大学電気関連教員協議会へ参加	2008年8月	全国大学電気関連教員協議会へ参加し、「工学におけるわかる授業は作られるか」をテーマとした分科会に参加した。				
	東北地方大学電気関連教員協議会へ参加	2008年8月	東北地方大学電気関連教員協議会へ参加し、東北地方での理工学系の状況と問題点を議論し、各大学での基礎学力（数学・物理）向上のための様々な取り組みについて意見を交換した。				
	高校生の大学見学（米沢工業高校）	2008年9月	大学体験に本学を訪問した米沢工業高校の2年生に対して、研究室の設備と研究内容の説明を行った。				
	塩釜高校での出前講義	2008年10月	塩釜男子高校で進学希望の2年生に対して、「デジタル画像処理とは？」のテーマで出前授業を行った。				
	高校生の大学見学（仙台高等学校）	2008年11月	大学体験に本学を訪問した仙台高等学校の2年生に対して、研究室の設備と研究内容の説明を行った。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba					
The Extraction of Circles from Arcs Represented by Extended Digital Lines	共著	2005年2月	IEICE Transactions on Information and Systems	M. Haseyama H. Kitajima E. Kim	252～267頁
野球試合経過速報システム「すこるぼ」	共著	2006年12月	北海道情報大学紀要	谷川 健 井野 智 金 義鎮	出版中
A new circle extraction method with a growth concept	単著	2007年1月	International Conference on Information Technology and Applications, Vol. I		267～272項
Development of self-study software for Korean learners	共著	2007年5月	3rd Korean Language, Korean Studies and Korean Culture: Seeking a New Paradigm for Understanding 'Korea' Programs though Interdisciplinary Works	H. Kim E. Kim	395～408項
Proposal of Educational Software for Supporting the Hangul Writing Study of Second Language Learners	共著	2007年5月	Journal of the International Network for Korean Language and Culture, Vol. 4, No. 1	H. Kim E. Kim	51～74項
韓国語学習者のための手書き型自習ソフトウェアの開発	共著	2008年4月	教育システム情報学会, Vol. 25 No. 2	金 義鎮 金 恵鎮	238～244項
Proposal of an input/output function of Korean Characters for Korean Learners in Japanese Mobile Phone Environments	共著	2008年6月	Journal of the International Network for Korean Language and Culture, Vol. 5, No. 1	E. Kim H. Kim	177～193項
Development of self-study software for intermediate Korean learners	共著	2008年11月	5th International Conference Multi-cultural education and Korean language education	S. Hiratsuka E. Kim H. Kim	320～336項
G					
自然画像内の円の抽出ーデジタル画像の特性を利用してー	共著	2006年5月	日本図学会大会	井野 智 金 義鎮	
韓国語学習者のための自習ソフトウェアの開発	共著	2006年9月	情報科学技術フォーラム	嶋倉和基 金 恵鎮 金 義鎮	

韓国語初心者のための手書き指導および自習ソフトウェアの活用	共著	2008年7月	私立大学情報教育協会, 全国大学 IT 活用教育方法研究発表会	金 義鎮 金 恵鎮	12~13 項
手書き韓国語から初声, 中声, 終声の分割法について	共著	2008年8月	電気関連東北支部大会	平塚翔太 金 義鎮 金 恵鎮	87 項
韓国語の字素分割法による手書き指導学習ソフトウェアへの試み	共著	2008年9月	教育システム情報学会全国大会	平塚翔太 金 義鎮 金 恵鎮	422~423 項

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手(B)	2004~2005 年度	研究代表者	デジタル画像中の人工物および自然物に含まれる円成分抽出に関する研究
北海道情報大学研究基金研究費	2005 年度	共同	野球試合の得点速報システム“すこるぼ”の開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年4月~	電子情報通信学会東北支部評議員
----------	-----------------

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	呉 国紅	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習する内容の明確化と学生を授業に集中させる工夫	2005年4月～2009年12月	毎回の授業では、その回の内容のプリントを用意して学生に配っている。プリントにその回の内容の概略と流れを明記してあるので、その授業で何を勉強するのかまたはどこまで勉強するのかを明らかにしてある。更に、プリントに空白をおいてあり、学生が授業の内容を聞きながらメモをとらなければいけないので授業に集中できる。				
	学習した内容の記憶への定着と授業理解の促進	2005年4月～2009年12月	毎回の授業の冒頭で、前回の内容の復習とその回の内容を紹介し、授業終了時にはまとめを行っている。				
	分かりやすい授業のやり方の工夫	2005年4月～2009年12月	PowerPoint で授業を行っており、画像や図などを用いて説明しているので、学生の授業内容の理解に役に立つ。また、内容の構成を授業準備の際十分に検討しており、字も大きくしてあるので、学生が学習しやすい雰囲気を作っている。				
	学生の授業参加の意欲の促進と独自の授業評価の実施	2005年4月～2009年12月	学習成績は最終試験だけで評価することではなく、授業の途中で数回小テストを行い、その結果を合わせて総合的に評価しているため、学生は積極的に授業に参加する意欲が強まる。更に、毎回の小テストでは、この間の授業に対する感想と今後の要望を書かせて、学生にフィードバックし授業の改善に繋がる。				
	学生との接し方（質問対応、個別指導、人間的交流など）における工夫	2005年4月～2009年12月	勉強、研究だけでなく、学生生活に関しても学生からの質問や相談を随時に対応する；ゼミ、発表の管理、スポーツ活動の実施、研究室のPC管理、オープンキャンパス実施などの項目を細かく分けてそれぞれ学生を担当させ、学生が自主的に研究室の運営に参加させることを工夫している；研究室のスポーツ大会、研究合宿、研修旅行などを毎年開催する。				
	授業の秩序を維持し学生の学習意欲を刺激するインセンティブ	2005年4月～2009年12月	私語への効果的な注意の仕方を工夫する。また、小テストなどを行なう際に、授業中で学生をメモさせた重点な内容をテスト問題へ組み込んで解答させ、真面目に勉強した学生が良い成績を取れるように工夫し、学生の授業への努力と成績に繋がるようにテスト問題を考案している。それにより、学生の学習意欲を刺激することに繋がる。				
	授業方法における工夫	2005年4月～2009年12月	Knoppix の講義・実験への活用により、学生がパソコンの使い方やWindows以外のUnixに対する理解を深まる。				
2	東北学院大学「電気工学実験 II 指針」	2007年8月	「電力系統の基礎特性」と「DC-AC インバータ回路」を執筆。				

<p>3</p> <p>先端電力研究交流会における報告</p> <p>「東北地域における電気工学分野の若手研究者交流会」における講演</p> <p>東北学院大学工学部機械 TG 会における講演</p> <p>平成 20 年度電力総合解析ソフトウェア (MidFielder) セミナーにおける講演</p> <p>平成 21 年度工学教員免許の更新講習の講義</p>	<p>2006 年 10 月 31 日 2008 年 10 月 28 日 2009 年 11 月 6 日</p> <p>2007 年 11 月 5 日</p> <p>2008 年 5 月 15 日</p> <p>2008 年 9 月 3 日</p> <p>2009 年 8 月 20 日～21 日</p>	<p>東北大学が主催した電力研究に関するコンソーシアム活動で、東北地域の各大学がこの交流会を通して大学における電気教育の現状や教育方法、研究活動などの情報を紹介して、今後の地域の大学教育を向上することについて意見を交換できた。</p> <p>東北大学が主催した電力研究に関する研究会で、東北地域の各大学で電気電力の研究に従事している若手研究者がこの交流会を通して各自の研究活動などを報告し、今後東北地域の大学教育・研究活動の向上について意見を交換した。</p> <p>「中国の電力事情について」というテーマで中国の経済発展に伴う電力の供給、消費の実態を紹介した。地球環境保護の立場から、日本を始め発展国と途上国の電力分野に関する協力すべき課題などについて説明した。</p> <p>電気学会電力・エネルギー部門会議の学術活動の一環として、電力系統総合解析ソフトウェア (MidFielder) の大学学生実験への活用に関する経験とノウハウについて、他大学の関係者に紹介した。</p> <p>現在の主な発電方式及び新しい発電方式の基本原則、方法、構成、特徴及び電力系統の送電方式、変電所の構成及び運用の基礎的な内容を説明し、「電力系統の基礎実験」を行なって受講者の理解を深めた。</p>
<p>4</p> <p>学生の科学知識の修得, 良好な人格の育成と研究能力の向上の重視</p> <p>就職活動の指導</p> <p>学生の国際会議, 国内会議の発表活動への指導</p> <p>オープンキャンパスで研究室の公開</p>	<p>2005 年 4 月～2009 年 12 月</p> <p>2005 年 4 月～2009 年 12 月</p> <p>2005 年 4 月～2009 年 12 月</p> <p>2005 年～2009 年 (毎年 8 月頃)</p>	<p>学生が科学知識を修得させるだけでなく、健全な社会常識、豊かな人間性を持った人物に育つように心掛けている。更に、新知識の獲得力、新事物への創造力を育成させることに力を注いでいる。</p> <p>研究室に所属する 3 年生, 4 年生の進路 (就職または進学) に関して、面接対応や履歴書の書き方などについて指導しながら、定期的に学生の活動状況を把握し、助言を与える。特に、2008 年 10 月から、グループ主任として全学科の学生の就職活動をサポートしている。</p> <p>研究成果を挙げた学部 4 年生でも、電気学会全国大会のような全国的な大会で発表させ、経験させている。大学院生の場合は、国内だけではなく、国際会議でも英語口頭発表に参加させている。そのために、論文の作成、添削または口頭発表のための PowerPoint 作成に関する指導を行なった。</p> <p>研究室の研究内容に関するパネルまたは PowerPoint 資料を作成し、オープンキャンパスにて公開した。</p>

地域社会に対するエネルギー関連の教育	2007年10月～2009年7月	宮城県環境生活部環境政策課の出頭で、宮城県の企業、学校、PTA組織などの代表で構成した環境保護を目的とする「ダメだちゃ温暖化」委員会の委員を務め、大学の立場から地球温暖化対策の考案を検討した。
資格取得のための指導	2008年4月～2009年11月	「電気主任技術者」資格取得のため、学部4年生1人（第三種受験）と大学院生1人（第二種受験）に学術指導を行なった。
教育活動の向上を目的とする学内の活動	2008年4月～2009年12月	大学院就学委員会委員を担当し、大学院教育の充実に関する改善方策を他の委員と協力して検討を行なっている。
「学都仙台コンソーシアム」における講演	2008年12月5日	「クリーンエネルギー発電と将来の電力系統」というテーマで、クリーンエネルギー導入の必要性、現状と今後の課題について講演を行なった。
平成21年度「地域市民のための大学公開講座」における講演	2009年6月3日	「クリーンエネルギー発電の導入と電力系統運用」というテーマで、現在のエネルギー事情、風力・太陽光発電の現状とクリーンエネルギーの導入に伴う電力系統の運用上の課題について説明した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Technological Assessment for Developing New Wind Power Generation Systems	共著	2005年8月	Proc. of IEEE Power Tech 2005. ISBN 5-93208-034-0, No. 252	G. Wu M. Goto T. Minakawa Y. Tada	1～6頁
INVESTIGATING THE INFLUENCE OF CONTROL SYSTEMS OF MULTI-INFEED HVDC SYSTEM ON AC/DC POWER SYSTEM VOLTAGE STABILITY BY MODEL ANALYSIS METHOD	共著	2005年10月	Proceeding of Power System Computation Conference (PSCC) 2005. Vol. 1, No. 153	G. Wu T. Minakawa T. Hayashi	1～7頁
Enhancement on Available Transfer Capability of Multi-machine Power System by Introduction of Superconducting Generator	共著	2005年12月	電気学会論文誌B Vol. 123, No. 10	呉 国紅 仁田旦三 横山明彦	973～978頁
自立分散型電圧無効電力制御システムの高度化を目指したNN法による地域需要予測方法の開発	共著	2006年6月	電気学会論文誌B Vol. 123, No. 12	鈴木 修 呉 国紅 皆川 保	1261～1268頁
Technological Innovation for Voltage Control of Power Systems under Deregulation of Power Supply Industries	共著	2006年8月	Proceeding of International Conference on Electrical Engineering (ICEE), 2006. No. P02-8	G. Wu T. Minakawa K. Takahashi M. Osano Y. Sekine	1～6頁
Modal Voltage Stability Analysis of Multi-infeed HVDC System Considering Its Control Systems	共著	2006年10月	電気学会論文誌B Vol. 126, No. 8	G. Wu T. Minakawa T. Hayashi	776～782頁

Study of coordinate Control method to Improve Stability on Multi-Infeed HVDC system	共著	2006年12月	Proceeding of 2006 International Conference on Power System Technology (PowerCon), No. F0951	S. Su K. Ueda K. Tanaka K. Takenaka G. Wu	1~6頁
可変速風力発電システムモデル及び可変速制御効果の検討	共著	2006年12月	東北学院大学工学部報告, 41巻1号	分嶋 毅 呉 国紅	26~32頁
Design of Auxiliary Generation System by Wind Power for Improving Vehicular Efficiency	共著	2007年4月	Proceeding of IEEE International Conference on Vehicular Electronics and Safety, 2006. No. 16	C. Huang G. Wu L. Kang	1~6頁
A Regional Demand Forecast by NN Method for Distributed Autonomous Voltage and Reactive Power Control System	共著	2007年5月	Journals of Electrical & Electronics Engineering vol. 159, No. 4, 2007	M. Suzuki G. Wu T. Minakawa	27~37頁
風力発電と電力貯蔵装置併用時における電力システムへの導入効果に関する基礎検討	共著	2007年5月	電気学会論文誌B Vol. 127, No. 5	後藤 信 呉 国紅 皆川 保 多田泰之	637~644頁
Study on Advanced Wind Power Systems by Application of EDLC Energy Storage System	共著	2007年7月	Proceeding of International Conference on Electrical Engineering, 2007 No. 064	G. Wu N. Fukushi Y. Tohbai etc.	1~6頁
Offshore Wind Farm Power Generation System with Self-Commuted HVDC Transmission Circuit	共著	2008年8月	Proceeding of International Conference on Electrical Engineering, 2008. No. 056 ISBN978-4-88686-003-3	Y. Tohbai G. Wu T. Minakawa	1~6頁
Concept and Requirements of Asset Management System for Competitive Electric Utility Under Deregulation	共著	2008年10月	Proceeding of IEEE Joint International Conference on Power System Technology, No. 0137	T. Minakawa Y. Tada G. Wu	1~7頁
Wind-Power Estimating Model Based on the Experimental Data in Laboratory	共著	2009年7月	Proceeding of International Conference on Electrical Engineering, 2009, No. 0576	C. Huang G. Wu Y. Kang	1~6頁

ADRC Applied In System of Wind Turbine With Flywheel	共著	2009年7月	Proceeding of International Conference on Electrical Engineering, 2009, I9CP0482	Y. Zhang L. Kang B. Cao C. N. Huang G. Wu	1~6 頁
NN 法を用いた短時間における風力発電の発電量予測の精度向上に関する研究	共著	2009年9月	電気学会論文誌B, Vol. 129, No. 9	角田 翔 呉 国紅	1091~1097 頁
A Basic Study on Construction and Control of Offshore Wind Power Generation System	共著	2009年10月	Proceeding of IEEE PES Transmission and Distribution Conference and Exposition 2009 Asia Pacific. No. OR3-9	Y. Tohbai G. Wu	1~6 頁
Renewable Energy Distributed Power System With Wind Power and Biogas Generator	共著	2009年10月	Proceeding of IEEE PES Transmission and Distribution Conference and Exposition 2009 Asia Pacific. No. OR3-5	Y. Zhang L. Kang B. Cao C. N. Huang G. Wu	1~6 頁
Simulation of Biogas Generation	共著	2009年11月	Proceeding of IEEE PES Transmission and Distribution Conference and Exposition 2009 Asia Pacific. No. P017-3	Y. Zhang L. Kang B. Cao C. N. Huang G. Wu	1~4 頁
A study of Isolated Operation Properties and Stability Control of a Microgrid System Supplying Different Power Quality Loads	共著	2009年11月	Proceeding of IEEJ-EIT Joint Symposium on Advanced Technology in Power and Energy System. No. PE-09-203	S. Kakuda G. Wu C. N. Huang L. Kang	1~6 頁
A Basic Study of Micro Hydraulic Power Generation System with a Regulating Pondage and Energy Storage	共著	2009年11月	Proceeding of IEEJ-EIT Joint Symposium on Advanced Technology in Power and Energy System. No. PSE-09-214	A. Izumida G. Wu	1~6 頁
洋上風速の推定法の提案及び洋上風力発電電力に関するシミュレーション検討	共著	2010年2月	日本風力エネルギー学会誌, Vol. 90 (掲載の予定)	東梅祐也 呉 国紅 郭 海蛟	
C ニューラルネットワークによる地域需要予測手法の開発	共著	2007年9月	東北学院大学環境防災研究所紀要 第17号	鈴木 修 呉 国紅 皆川 保	80~88 頁
D 中国の電力事情について	単著	2005年3月	東北学院大学機械 TG 会会報「さんえる」		

G 系統制御特性を考慮した平衡点追跡連続潮流計算法	共著	2005年3月	電気学会全国大会論文集, 平成17年 Vol. 6-108	呉 国紅 林 敏之	191~192頁
Modal Voltage Stability Analysis of Multi-infeed HVDC System Considering Its Control Systems	共著	2005年8月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成17年 No. 17	呉 国紅 皆川 保 林 敏之	10-33~ 10-38頁
風力発電システムの検討方法の提案	共著	2005年8月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成17年 No. 48	後藤 信 呉 国紅 多田泰之 皆川 保	27-1~27-7 頁
多点供給HVDC電力システムの過度現象に関する研究	共著	2005年8月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成17年 No. 206	蘇 栗 呉 国紅 林 敏之 千田卓二	20-1~20-2 頁
風力発電システム近傍の安定化用発電機による風力発電電圧と出力変動抑制の評価	共著	2006年3月	電気学会全国大会論文集, 平成18年 No. 6-016	後藤 信 呉 国紅 多田泰之 皆川 保	28~29頁
電力自由化進展に伴う電量系統運用問題の解決策に関する基礎検討	共著	2006年3月	電気学会全国大会論文集, 平成18年 No. 6-146	鈴木 修 呉 国紅 皆川 保	249~250頁
風力発電と電力貯蔵装置併用時における電力システムへの導入効果に関する基礎検討	共著	2006年9月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成18年 No. 50	後藤 信 呉 国紅 多田泰之 皆川 保	1~6頁
風力発電用電力変換回路機能に関する検討	共著	2007年3月	電気学会全国大会講演論文集, 平成19年 Vol. 6, No. 065	東梅祐也 呉 国紅 川嶋 寛	108~109頁
電気二重層キャパシタ (EDLC) による風力発電の出力変動抑制効果に関する検討	共著	2007年8月	平成19年電気学会東北支部連合大会講演論文集, N. 2B11	東梅祐也 福士 翔 呉 国紅	71頁
風力発電システム安定化のための EDLC の動作解析に関する検討	共著	2007年9月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成19年, No. 384	呉 国紅 福士 翔 皆川 保 多田泰之	46-1~46-2 頁
風力発電用電力変換回路の制御特性に関するシミュレーション検討	共著	2007年9月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成19年, No. 396	東梅祐也 呉 国紅 川嶋 寛	49-27~ 49-28頁
風力発電用新型電力変換の回路設計に関する基礎検討	共著	2007年9月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成19年, Y-55	東梅祐也 呉 国紅 川嶋 寛	Y55-1
NN法を用いた短時間における風力発電の発電量予測に関する研究	共著	2008年3月	電気学会全国大会講演論文集, 平成20年 Vol. 6, No. 078	角田 翔 呉 国紅 皆川 保 多田泰之	136~137頁

電力系統計画, 運用, 管理用 Asset Management システムの開発概念と要件	共著	2008年3月	電気学会全国大会講演論文集, 平成20年 Vol. 6, No. 060	皆川 保 呉 国紅 多田泰之	102~103頁
ニューラルネットワーク法による短時間先風速予測の精度向上に関する研究	共著	2008年8月	電気学会東北支部連合大会講演論文集, 平成20年, No. 2G06	角田 翔 呉 国紅	240頁
自励式HVDCを用いた洋上風力発電システムに関する基礎検討	共著	2008年9月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成20年, Vol. 6, No. 245	東梅祐也 呉 国紅	27-16~ 27-17頁
ニューラルネットワーク法による分散型電源の短時間先発電量予測の精度向上に関する検討	共著	2008年9月	電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, 平成20年, Vol. 6, No. 243	角田 翔 呉 国紅	27-9~ 27-10頁
電気二重層キャパシタ EDLC による風力発電出力の変動抑制効果の検討	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会論文集, No. YS-7-D3	佐藤文昭 呉 国紅	99~100頁
自励式HVDCを用いた洋上風力発電機の電気特性に関する基礎研究	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会論文集, No. YS-7-D7	東梅祐也 呉 国紅	107~108頁
静止型無効電力補助装置 STATCOM による電力系統の瞬時電圧低下の改善効果に関する検討	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会論文集, No. YS-7-D8	齋藤明德 呉 国紅	109~110頁
日負荷曲線を考慮したマイクロ水力発電システムの運転特性に関する基礎検討	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会論文集, No. YS-7-D14	泉田誠範 呉 国紅	121~122頁
ニューラルネットワーク法による風力発電量の予測精度の向上に関する研究	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会論文集, No. YS-7-D16	角田 翔 呉 国紅	125~126頁
日負荷曲線を考慮したマイクロ水力発電システムに関するシミュレーション検討	共著	2009年3月	平成21年電気学会全国大会講演論文集, Vol. 6, No. 133	泉田誠範 呉 国紅	236~237頁
品質別電力供給マイクログリッドの自立運転に関する基礎研究	共著	2009年3月	平成21年電気学会全国大会講演論文集, Vol. 6, No. 312	角田 翔 呉 国紅	510~511頁
調整池による水流量の調整特性を考慮したマイクロ水力発電システムに関する基礎検討	共著	2009年8月	平成21年電気学会東北支部連合大会講演論文集, No. 2G01	泉田誠範 呉 国紅	216頁
マイクログリッド自立運転における電力品質別安定供給に関する研究	共著	2009年8月	平成21年電気学会東北支部連合大会講演論文集, No. 2G02	角田 翔 呉 国紅	217頁
マイクログリッド自立運転移行時の電力品質別安定供給に関する基礎研究	共著	2009年8月	平成21年電気学会電力・エネルギー部門大会講演論文集, Vol. 6, No. 163	角田 翔 呉 国紅	13-1~13-2頁

H 「電力自由化と技術開発」	共著	2010年5月(予定)	清華大学出版社	監修： 横山隆一 訳者： 周 意誠 呉 国紅 他(2名)	273～327頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
石田(實)財団研究奨励助成		2005年	個別	超電導技術による電力 系統の高性能化	
日本私立学校振興・共催事業団「教育・学習方法等 改善支援補助金」		2008年度～2010年度	個別	クリーンエネルギー実 習装置によるエネル ギー・環境・電力制御に 関する大学教育	
平成20年度新エネルギーベンチャー技術革新事業		2008年度	共同(回路設計のシ ミュレーション検討 を分担)	風力等の変動未利用エ ネルギーを有効獲得す る電力変換回路技術	
IV 学会等及び社会における主な活動					
2005年8月～ 2006年4月～2008年3月 2006年8月～2009年8月 2006年10月～2007年9月 2007年10月～2009年7月		電気学会B部門論文審査委員 電気学会東北支部評議員 電気学会B部門YPC審査委員会委員(4回) 平成19年電気学会B部門大会実行委員会委員 宮城県「ダムだちや温暖化」委員会委員			

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	菜 嶋 理	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	物理学実験へのKnoppixの導入	2006年4月～2009年12月	2006年度より一新された物理学実験にKnoppixを導入し、他の科目との連携を高めた。				
	基礎演習科目における対話的指導	2007年4月～2009年12月	1年生向けの基礎演習科目において、特に学習進度に遅れのある学生に対して、本人との対話を通じて理解の妨げとなっている箇所を指摘することで、理解促進を図っている。				
	学習事項の理解定着促進	2007年4月～2009年12月	毎回、講義の冒頭で前回までの講義内容の概略を説明し、理解の定着を図っている。				
	実験内容の理解促進	2007年4月～2009年12月	学生実験において、実験の進行と平行して理論説明を行うことで、実験内容の理解促進を図っている。				
2	物理学実験テキスト	2006年	2006年度より一新された物理学実験のテキスト執筆を共著者として担当した。				
	物理学基礎演習・演習問題プリント	2006年4月～2009年12月	2006年度より新規に担当した物理学基礎演習の演習用プリントを作成した。				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 実習編	2007年7月～9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	自然科学総合実験テキスト	2008年4月	2008年度より新設された学生実験のテキストであり、物理学に関する実験項目の執筆を担当した。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 実習編	2008年5月～7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 実習編	2009年8月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
3	東北学院大学 FD 推進委員会主催第3回 FD 研修会 FD 調査報告「基礎学力向上にむけた各大学の取り組み～法政大学FDシンポジウムに参加して」	2007年7月5日	2006年に法政大学で行われたFDシンポジウムの話題を中心に、基礎学力向上に向けて各大学が行っている取り組みについて報告した。				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2007年7月～2008年9月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員22名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008年5月～2009年7月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。				

4 工学基礎教育センター指導員	平成 21 年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008 年 8 月	小, 中学校及び高等学校の理科担当教員 21 名に対しナノテクノロジー, バイオテクノロジーの講義及び実習を 90 分 30 回行なった。
	平成 20 年度キャリア実践教育プロジェクト (コラボ授業)	2008 年 12 月 16 日	多賀城市教育委員会が採択された文部科学省の委託事業である左記のプロジェクト中のコラボ授業を担当した。
	2006 年 4 月～2009 年 12 月	物理学を苦手とする学生に対して, 基礎項目の理解を目的とする個別指導を行った。また, 本学や他大学の大学院への進学を希望する学生の希望に応じて, 試験対策を中心とする個別指導を行った。	

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Unusual complex high temperature structure of Fe ₂ VSi	共著	2006 年	Elsevier B. V. J. Alloys Compd. 417	O. Nashima Y. Yamaguchi H. Higashi T. Goto T. Kaneko S. Sasamori H. Kimura K. Kobayashi R. Kainuma K. Ishida T. Kanomata	150～154 頁
Magnetic properties of Heusler alloy Rh ₂ NiGe	共著	2006 年	Elsevier B. V. J. Alloys Compd. 417	T. Kanomata Y. Adachi H. Nishihara H. Fukumoto H. Yanagihashi O. Nashima H. Morita	18～22 頁
Electronic structures of Fe _{3-x} V _x Si probed by photoemission spectroscopy	共著	2006 年	WILEY-VCH Phys. Stat. Sol. (a)203	Y. T. Cui A. Kimura K. Miyamoto K. Sakamoto T. Xie S. Qiao M. Nakatake K. Shimada M. Taniguchi S.-I. Fujimori Y. Saitoh K. Kobayashi T. Kanomata O. Nashima	2765～2768 頁
NMR properties of 51V in a complex high-temperature phase of Fe ₂ VSi	共著	2007 年	J. Magn. Magn. Matter. 310 (2007)	H. Nishihara O. Nashima Y. Furutani T. Kanomata Y. Yamaguchi	1818～1819 頁

Magnetic properties of Ni-Mn-Fe-Ga ferromagnetic shape memory alloys	共著	2008 年	J. Appl. Electromag. Mech. 27 (2008), IOP Press	T. Kanomata S. Murakami D. Kikuchi O. Nashima H. Nishihara	215~224 頁
Chemical potential shift of $\text{Fe}_{3-x}\text{V}_x\text{Si}$ studied by hard x-ray photoemission	共著	2008 年	Physical Review B 78 (2008)	Y. T. Cui A. Kimura K. Miyamoto M. Taniguchi T. Xie S. Qiao K. Shimada H. Namatame E. Ikenaga K. Kobayashi Hsin Lin S. Kaprzyk A. Bansil O. Nashima T. Kanomata	205113-1-7
G Fe ₂ VSi の特異な結晶構造相転移	共著	2005 年	日本金属学会 2005 年春期大会	菜嶋 理 山口泰男 東 英生 鹿又 武 笹森賢一郎 木村久道	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手研究(B)	2007~2008 年度	個別	磁場誘起相変態を利用したマンガン系次世代超磁歪材料の創製
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007~2008 年度	共同・研究分担者	Ni-Mn-In 合金のメタ磁性相転移

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005 年 4 月～	日本物理学会会員
2005 年 4 月～	日本金属学会会員

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	藪上 信	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 学生による授業評価は必ず受け、次年度の最初の同一講義では、自由記述欄について学生に公開し、改善点を述べるようにしている。		2007～2009 年度					
すべての講義で毎回レポート問題（通常3～4問、講義の復習および応用）を学生に課し、数日以内に提出させ、次週の講義までに教員が採点、添削して学生へ返している。（学生へは友人のものを写した場合には0点とアナウンスしている）テスト結果とレポート得点はほぼ1次相関があり、レポートの効果を実感している。学生からの反応でも負担が重いとの苦情はなし。		2007～2009 年度					
毎回の講義では、参考資料として、日常生活や社会での関連技術を紹介し、学生の興味をそそるような教材作りをしている。		2007～2009 年度					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	著者・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
Ba A design of highly sensitive GMI sensor		共著	2005 年	Journal of Magnetism and Magnetic Materials, vol. 290-291	S. Yabukami H. Mawatari N. Horikoshi Y. Murayama T. Ozawa K. Ishiyama K. I. Arai	1318～1321 頁	
Wireless motion capture system using magnetically-coupled LC resonant Marker		共著	2005 年	Journal of Magnetism and Magnetic Materials, Elsevier vol. 290-291	S. Hashi Y. Tokunaga S. Yabukami T. Kohno T. Ozawa Y. Okazaki K. Ishiyama K. I. Arai	1330～1333 頁	
Impedance property of thin film GMI sensor with controlled inclined angle of stripe magnetic domain		共著	2005 年	Journal of Magnetism and Magnetic Materials, vol. 290-291	T. Nakai H. Abe S. Yabukami K. I. Arai	1355～1358 頁	
高周波キャリアを用いた位相検出型薄膜磁界センサの開発		共著	2005 年	日本応用磁気学会誌, vol. 29	小澤哲也 横田周子 堀越 直 藪上 信 石山和志 荒井賢一	663～666 頁	

高周波キャリア型薄膜磁界センサの位相差計測による交流磁界測定装置の開発	共著	2005 年	日本応用磁気学会誌, vol. 29	小澤哲也 馬渡 宏 藪上 信 石山和志 荒井賢一	831~837 頁
差動検出コイルを用いた LC 共振型ワイヤレス磁気マーカの位置・方向検出システム	共著	2005 年	日本応用磁気学会誌, vol. 29	藪上 信 栢 修一郎 小澤哲也 阿部 剛 河野丈志 荒井賢一 岡崎靖雄	146~152 頁
LC 共振型磁気マーカを用いた高精度位置検出システム	共著	2005 年	日本応用磁気学会誌, vol. 29	徳永祐樹 栢 修一郎 藪上 信 河野丈志 豊田征治 小澤哲也 岡崎靖雄 荒井賢一	153~156 頁
位相計測による微細な LC 共振型磁気マーカの位置・方向検出システム	共著	2006 年	日本応用磁気学会誌 Vol. 30	藪上 信 加藤智紀 栢 修一郎 荒井賢一 岡崎靖雄	218~224 頁
熱処理温度制御による高周波キャリア型薄膜磁界センサの高感度化	共著	2006 年	日本応用磁気学会誌, vol. 30	村山芳隆 小澤哲也 堀越 直 藪上 信 石山和志 荒井賢一	237~242 頁
端部磁性体を配置した高周波キャリア型磁界センサの感度向上に関する研究	共著	2006 年	日本応用磁気学会誌, vol. 30	仙道雅彦 中居倫夫 橘 奈緒子 星 則光 鈴木秀夫 堀越 直 藪上 信 石山和志 荒井賢一	224 頁~
複数 LC 共振型磁気マーカを用いた多点位置検出システム	共著	2006 年	日本応用磁気学会誌, vol. 30, 2	豊田征治 栢 修一郎 藪上 信 大矢雅志 石山和志 岡崎靖雄 荒井賢一	391~395 頁
反射信号を用いた高周波キャリア型磁界センサによる微小交流磁界計測に関する研究	共著	2006 年	日本応用磁気学会誌, vol. 30, 6-1	中居倫夫 仙道雅彦 藪上 信 石山和志 荒井賢一	550~554 頁

Wireless Magnetic Motion Capture System for Multi-Marker Detection	共著	2006 年	IEEE Transactions on Magnetics, vol. 42	S. Hashi Y. Toyoda S. Yabukami K. Ishiyama Y. Okazaki K. I. Arai	3279~3281 頁
10 ⁻¹³ T 台の磁界検出分解能を有する高周波伝送線路型薄膜磁界センサ	共著	2006 年	日本応用磁気学会誌, vol. 31	村山芳隆 小澤哲也 藪上 信 石山和志 荒井賢一	17~22 頁
多点ワイヤレス磁気マーカによる指先のモーションキャプチャシステム	共著	2007 年	Journal of the Magnetics Society of Japan (vol. 31, No. 6)	藪上 信 小笠原浩太 齋藤秀樹 栢 修一郎 豊田征治 岡崎靖雄 荒井賢一	439~444 頁
Wireless Magnetic Motion Capture System -Compensatory Tracking of Position Error Caused by Mutual Inductance	共著	2007 年	IEEE Transactions on Magnetics (vol. 43)	S. Hashi M. Toyoda S. Yabukami K. Ishiyama Y. Okazaki K. I. Arai	2364~2366 頁
Development of magnetic motion capture system for multi-position detection	共著	2007 年	Sensor Letters (Vol. 5, no. 1)	S. Hashi M. Toyoda S. Yabukami M. Ohya K. Ishiyama Y. Okazaki K. I. Arai	300~303 頁
High-frequency magnetic properties of ferrite particulate films	共著	2007 年	Journal of Magnetism and Magnetic Materials (Vol. 316, No. 2)	S. Hashi S. Yabukami A. Maeda N. Takada S. Yanase Y. Okazaki	465~467 頁
10 ⁻¹³ T 台の磁界検出分解能を有する高周波伝送線路型薄膜磁界センサ	共著	2007 年	日本応用磁気学会誌 (vol. 31)	村山芳隆 小澤哲也 藪上 信 石山和志 荒井賢一	17~22 頁
高周波キャリア型薄膜磁界センサを用いた心磁界測定	共著	2008 年	Journal of the Magnetics Society of Japan (vol. 32, No. 4)	藪上 信 加藤和夫 加茂芳邦 小澤哲也 荒井賢一	483~486 頁
Numerical Study on the Improvement of Detection Accuracy for a Wireless Motion Capture System	共著	2009 年	IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS, vol. 45	S. Hashi S. Yabukami H. Kanetaka K. Ishiyama and K. I. Arai	2736~2739 頁

A thin film magnetic field sensor of sub-pT resolution and magnetocardiogram (MCG) measurement at room temperature	共著	2009年	Journal of Magnetism and Magnetic Materials, 321	S. Yabukami K. Kato Y. Ohtomo T. Ozawa K. I. Arai	675~678頁
Measurement of thin film permeability by direct contact and optimization	単著	2009年	JOURNAL OF APPLIED PHYSICS, vol. 105		07E719
CoNbZr 薄膜を用いた平面型磁界センサによる心磁界計測	共著	2009年	Journal of the Magnetics Society of Japan, vol. 33	大友祐一 藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	283~286頁
Jaw Tracking System Using Resonated Wireless Markers	共著	2009年	IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS, vol. 45	S. Yabukami H. Kanetaka S. Hashi K. I. Arai and T. Sato	4880~4883頁
G 端部磁性体を配置した高周波キャリア型磁界センサの感度向上に関する研究	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	仙道雅彦 中居倫夫 橋 奈緒子 星 則光 鈴木秀夫 堀越 直 藪上 信 石山和志 荒井賢一	20aB-1
反射信号を用いた高周波キャリア型磁界センサによる微小交流磁界検出に関する検討	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	中居倫夫 藪上 信 石山和志 荒井賢一	20aB-2
高周波キャリア型薄膜磁界センサのキャリア振幅依存性	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	藪上 信 村山芳隆 荒井賢一 中居倫夫 橋奈緒子 星 則光 鈴木秀夫	20aB-3
熱処理条件制御による高周波キャリア型磁界センサの高感度化	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	村山芳隆 小澤哲也 藪上 信 石山和志 荒井賢一	20aB-4
異方性制御による位相検出型磁界センサの特性改善	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	小澤哲也 横田周子 藪上 信 石山和志 荒井賢一	20aB-6

複数LC共振型磁気マーカを用いた多点位置検出システム	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	豊田征治 栢 修一郎 藪上 信 大矢雅志 石山和志 岡崎靖雄 荒井賢一	20pB-5
位相計測による複数のLC共振型磁気マーカの位置検出	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	藪上 信 加藤智紀 栢 修一郎 河野丈志 荒井賢一 岡崎靖雄	21aB-4
交流磁界による位置検出システムの試作	共著	2005年	第29回日本応用磁気学会学術講演会	河野丈志 藪上 信 金高弘恭 我妻成人 荒井賢一	21aB-5
Development of Wireless Magnetic Motion Capture System for Multi-Marker Detection	共著	2006年	International Magnetism conference	S. Hashi M. Toyoda S. Yabukami K. Ishiyama Y. Okazaki K. I. Arai	EV-08
Highly Accurate Position Sensing System for a slim LC Resonated Marker Using Phase Information	共著	2006年	International Magnetism conference	S. Yabukami T. Kato S. Hashi K. Ishiyama K. I. Arai Y. Okazaki	EV-11
Chaotic Noise Increase in High-frequency Carrier-type Thin-film Sensor	共著	2006年	International Magnetism conference	S. Yabukami Y. Murayama K. Ishiyama K. I. Arai H. Okuno	FV-09
多点ワイヤレス磁気マーカの位置検出システム	共著	2006年	第30回日本応用磁気学会学術講演会	藪上 信 齋藤秀樹 加藤智紀 栢 修一郎 豊田征治 岡崎靖雄 石山和志 荒井賢一	13pB-9
多点検出可能なワイヤレス磁気モーションキャプチャシステム	共著	2006年	第30回日本応用磁気学会学術講演会	豊田征治 栢 修一郎 大矢雅志 藪上 信 岡崎靖雄 石山和志 荒井賢一	13pB-10

位相変化型磁界センサの特性に関する検討	共著	2006年	第30回日本応用磁気学会学術講演会	小澤哲也 藪上 信 石山和志 荒井賢一	14pB-2
共振を利用した高周波キャリア型薄膜磁界センサの高感度化	共著	2006年	第30回日本応用磁気学会学術講演会	藪上 信 村山芳隆 小澤哲也 石山和志 荒井賢一	14pB-4
生体への応用における磁気利用センシング技術の高度化	共著	2007年3月	電気学会全国大会シンポジウム	藪上 信 金高弘恭 栢 修一郎 荒井賢一	
高周波キャリア型薄膜磁界センサの高感度化	共著	2007年7月	電気学会マグネティックス研究会	藪上 信 齋藤秀樹 渡邊 尚 荒井賢一	MAG-07-49
平面型ワイヤレス磁気マーカの検討	共著	2007年9月	第31回日本応用磁気学会学術講演会	藪上 信 金高弘恭 栢 修一郎 荒井賢一	13aB-5
室温で動作する薄膜磁界センサ, ワイヤレス磁気マーカによるモーションキャプチャ	単著	2007年12月	環境防災研究所・研究発表会		
高周波キャリア型薄膜磁界センサを用いた心磁界測定	共著	2007年12月	電気学会マグネティックス研究会	藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	MAG-07-162
High-frequency Carrier-type Thin-film Sensor with a sub-pT resolution at room temperature	共著	2007年	MMM/Intermag Joint Conference	S. Yabukami Y. Murayama T. Ozawa K. Ishiyama K. I. Arai	DH-06
Wireless magnetic motion capture system - compensatory tracking of positional error caused by mutual inductance	共著	2007年	MMM/Intermag Joint Conference	S. Hashi M. Toyoda S. Yabukami K. Ishiyama Y. Okazaki K. Arai	AR-06
Magnetic viscosity phenomena in exchange coupled CoFe/MnIr bilayers	共著	2007年	MMM/Intermag Joint Conference	D. Y. Kim C. G. Kim C. O. Kim M. Tsunoda S. Yabukami M. Takahashi	EQ-19
高感度磁気センサ, モーションキャプチャ	単著	2008年7月	寺子屋せんだい(招待講演)		

ワイヤレス磁気マーカの位置検出システムにおける位置精度向の検討	共著	2008年7月	電気学会マグネティックス研究会	藪上 信 栢 修一郎 金高弘恭 荒井賢一	MAG-08-89
高周波キャリア型薄膜磁界センサによる心磁界計測の試み	共著	2008年8月	電気学会マグネティックス研究会(招待講演)	藪上 信 大友祐一 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	MAG-08-98
アモルファス CoNbZr 薄膜を用いた磁界センサによる心磁界計測	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部連合大会	大友祐一 藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	2H26
高周波キャリア型薄膜磁界センサによる心磁界計測	共著	2008年9月	第32回日本磁気学会 学術講演会	大友祐一 藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	12aC-1
アモルファス CoFeSiB 軟磁性薄膜の高周波キャリア型磁界センサへの適用	共著	2008年9月	第32回日本磁気学会 学術講演会	小林伸聖 藪上 信 大友祐一 白川 究 荒井賢一	14a2PS-86 (E)
励磁コイル及び検出コイルアレイ一体型位置検出システムの検討	共著	2008年9月	第32回日本磁気学会 学術講演会	栢 修一郎 神坂文康 藪上 信 金高弘恭 石山和志 荒井賢一	14p1PS-83 (E)
ワイヤレス磁気マーカによる位置検出精度向上の検討	共著	2008年9月	第32回日本磁気学会 学術講演会	藪上 信 栢 修一郎 金高弘恭 荒井賢一	15aE-2
Rough measurement of thin film permeability by contacting probes.	単著	2008年11月	MMM2008 53rd Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials		DV-03
直接通電による磁性膜透磁率測定を試み	単著	2008年12月	電気学会マグネティックス研究会		MAG-08-202
Magnetocardiogram (MCG) measured by highly sensitive thin film sensor	共著	2008年	Moscow International Symposium on Magnetism (Invited)	S. Yabukami Y. Ohtomo K. Kato T. Ozawa K. I. Arai	23RP-A-6
Measurement of magnetocardiogram using by high-frequency carrier-type thin-film sensor at room temperature.	共著	2009年	IEEE International Magnetism Conference 2009	S. Yabukami Y. Ohtomo K. Kato T. Ozawa And K. Arai	GB-10

Jaw tracking system using resonated wireless marker.	共著	2009年	IEEE International Magnetism Conference 2009	S. Yabukami S. Hashi H. Kanetaka K. Arai and T. Sato	GB-09
Integration of excitation coil and pick-up coil array for wireless magnetic motion sensing system.	共著	2009年	IEEE International Magnetism Conference 2009	S. Hashi F. Kamisaka S. Yabukami H. Kanetaka K. Ishiyama and K. Arai	CR-10
ワイヤレス磁気マーカによる顎運動計測システム	共著	2009年	平成21年電気学会全国大会	藪上 信 金高弘恭 栢 修一郎 荒井賢一 佐藤忠邦	2-108
CoNbZr 薄膜を用いた薄型磁界センサによる心磁界計測	共著	2009年	平成21年電気学会全国大会	大友祐一 藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	2-110
プローブにより通電させた磁性薄膜の透磁率計測	単著	2009年	平成21年電気学会全国大会		2-125
位置検出システム用アモルファスリボン積層薄型磁気マーカに関する検討	共著	2009年	平成21年電気学会全国大会	神坂文康 栢 修一郎 金高弘恭 石山和志 藪上 信 荒井賢一	2-128
室温動作の高感度薄膜磁界センサ, 高電圧実験室の紹介 (招待講演)	単著	2009年	電力関係会社施設見学会		
高周波キャリア型薄膜磁界センサによる心磁界測定	共著	2009年	電気学会マグネティックス研究会	藪上 信 大友祐一 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	MAG-09-82
モーションキャプチャ用多層薄型マーカ	共著	2009年	電気学会東北支部大会	早坂幸浩 藪上 信 金高弘恭 栢 修一郎	2D16
直接通電による磁性薄膜の透磁率測定	共著	2009年	電気学会東北支部大会	高橋純也 藪上 信 小澤哲也 宮澤安範 柳 邦雄	2G10

細長ワイヤレスマーカを用いた位置検出の検討	共著	2009年	電気学会東北支部大会	佐藤龍介 藪上 信 小澤哲也 栢 修一郎 金高弘恭	2G11
厚膜化した磁性薄膜によるセンサの高感度化	共著	2009年	電気学会東北支部大会	小島 健 藪上 信	2G12
直接通電を用いた磁性薄膜の透磁率計測	共著	2009年	日本磁気学会第33回 学術講演会	高橋純也 藪上 信 小澤哲也 宮澤安範 柳 邦雄	13pE-5
モーシオンキャプチャ用多層薄型マーカの試作	共著	2009年	日本磁気学会第33回 学術講演会	早坂幸浩 藪上 信 金高弘恭 栢 修一郎	14aF-2
細長ワイヤレス磁気マーカによる位置検出の検討	共著	2009年	日本磁気学会第33回 学術講演会	佐藤龍介 藪上 信 小澤哲也 栢 修一郎 金高弘恭	14aF-3
厚膜化したCoNbZr 薄膜によるセンサの高感度化	共著	2009年	日本磁気学会第33回 学術講演会	小島 健 藪上 信	15aF-3
磁性薄膜とコプレーナ線路を組み合わせた構造における位相変化型磁界センサの高感度化に関する検討	共著	2009年	日本磁気学会第33回 学術講演会	中居倫夫 藪上 信 小澤哲也 荒井賢一	15aF-4
共振型磁気マーカを用いた顎運動計測システムの試作	共著	2009年	電気学会マグネ ティックス研究会	藪上 信 早坂幸浩 金高弘恭 栢 修一郎 荒井賢一	MAG-09-86
I INSTRUMENT AND METHOD FOR MEASURING THREE-DIMENSIONAL MOTION IN LIVING BODY		2005年3月	ドイツ特許出願番号 112005000700.6	H. Kanetaka K. I. Arai S. Yabukami	
高周波キャリア型磁界センサの位相雑音抑圧方法及びその装置		2006年6月	第3822058号	藪上 信 荒井賢一 山口正洋 鈴木 哲	
磁界センサ		2007年12月	特願2007-326108	藪上 信 加藤和夫 荒井賢一	
INSTRUMENT AND METHOD FOR MEASURING THREE-DIMENSIONAL MOTION		2008年7月	米国特許第7402996 号	藪上 信 金高弘恭 荒井賢一	
INSTRUMENT AND METHOD FOR MEASURING THREE-DIMENSIONAL MOTION		2008年7月	米国特許 第7402996号	藪上 信 金高弘恭 荒井賢一	

磁性膜の透磁率測定方法及び装置 DETECTING SYSTEM OF POSITION AND POSTURE OF CAPSULE MEDICAL DEVICE	2008年9月 2008年11月	特願 2008-224695 米国特許 IPC8 Class: AA61B505FI USPC Class: 600424	A. Uchiyama I. Aoki K. Arai K. Ishiyama S. Yabukami
---	---------------------	---	---

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
文部科学省 科学研究費基盤研究B	2006年4月～2009年3月	共同・代表者	放射線治療用ワイヤレス磁気マーカ追尾システムの開発
厚生労働省 科学研究費補助金	2006年4月～2009年3月	共同・分担者	低侵襲かつ簡便な摂食・嚥下機能評価システムの構築に関する研究
科学技術振興機構 シーズ発掘試験研究	2007年4月～2008年3月	共同・分担者	ワイヤレス磁気マーカを用いた生体内挿入用チューブの位置・方向検出システム
文部科学省 科学研究費萌芽研究	2007年4月～2009年3月	共同・代表者	高電気抵抗膜を用いた薄膜磁界センサのサブpT台への高分解能化
文部科学省 科学研究費基盤研究B	2007年4月～2010年3月	共同・分担者	運動機能サポートシステムの開発
科学技術振興機構 先端計測分析技術・機器開発事業	2007年10月～2010年3月	共同・代表者	室温で動作する生体磁気信号計測用薄膜磁界センサの開発
東北学院共同研究	2007年度	共同・代表者	室温動作の高感度磁界センサを用いた生体磁気信号計測
東北学院個別研究	2008年度	個別	対向ターゲットスパッタ装置を用いた高感度磁界センサ用磁性薄膜の開発
文部科学省 科学研究費挑戦的萌芽研究費	2009年4月～2012年3月	共同・代表者	室温で動作する薄膜磁界センサによる脳磁界計測の試み

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年4月～2009年3月	電気学会マイクロ磁気デバイスの情報通信機器への応用調査専門委員会幹事
2005年4月～現在	日本応用磁気学会編集委員
2006年4月～2007年3月	電気学会基礎・材料・共通部門論文委員会主査
2007年度	文部科学省平成19年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
2008年3月18日	平成19年度ハイテクリサーチセンター 公開シンポジウム

2008 年度	文部科学省平成 20 年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
2009 年度	文部科学省平成 20 年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

所属	電気情報工学科	職名	准教授	氏名	吉川 英機	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業資料の作成	2007年4月～		ほぼ毎回、教科書理解の助けとなるような内容のスライドを作成している。			
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2007年4月～		毎回の授業の冒頭に前回の復習の解説を行い、授業終了時にはその回のまとめを行っている。また、授業資料や演習問題の解説は本人のホームページに蓄積してあり、必要に応じて自由に閲覧できるようにしている。また、必要に応じて演習問題の正答率の集計を行って理解度の把握をしている。			
	教員独自の「学生による授業評価」を実施している。	2007年4月～		学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業中に行い演習問題にアンケート欄を設けたり、また、本人のホームページに掲示板を設けて無記名で授業に関する意見等が書き込みができるようにしている。			
4	E-learning (遠隔講義配信) の講師を務めた	2007年4月～2009年9月		高等専門学校間で行われている遠隔講義「実践工業数学」の通信工学編の授業を担当した。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2007年11月30日		宮城県立泉松陵高校の1年生に対して、「バーコードであそぼう」と題して身近な情報工学についての授業を行った。			
		2009年11月10日		榴ヶ岡高校			
	ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト参加	2007年～		コンテストへの学生参加の呼びかけと指導を行った。			
	オープンキャンパスでの研究室公開	2008年～					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	Theoretical analysis of bit error probability for max-log-MAP decoding	単著	2007年5月	IEEE Trans. Inform. Theory, vol. 53, no. 5		1935～1939 頁	
	Theoretical analysis of bit error probability for 4-state convolutional code with max-log-MAP decoding	単著	2008年10月	IEICE Trans. Fundamentals, vol. E91-A, no. 10		2877～2880 頁	
G	On the input-output weight distribution of serial concatenated convolutional codes	単著	2007年12月	Proc. 6th International Conference on Information, Communication and Signal Processing (ICICS2007)		P0800	

非線形差分方程式を用いた畳込み符号の重み分布の解析	単著	2008年3月	電子情報通信学会 技術研究報告 [非線形問題] NLP2007-164		61~63頁
On the weight distribution of recursive systematic convolutional codes	単著	2008年12月	Proc. 2008 International Symposium on Information Theory and its Applications (ISITA2008)		1384~1388頁
畳込み符号の重み分布に関する一検討	単著	2009年7月	電子情報通信学会 技術研究報告 [情報理論] IT2009-30		143~146頁
軟判定 Max-log-MAP 復号におけるビット誤り率の解析	共著	2009年9月	電子情報通信学会 ソサイエティ大会	川代吉勇 吉川英機	A-6-5
繰り返し復号を用いる通信システムの性能評価と最適設計に関する研究	単著	2009年10月	石田記念財団研究奨励賞受賞研究発表会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金 若手研究 (B)	2007~2008年度	研究代表者	ターボ符号の性能評価と最適設計法の研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年4月~	電子情報通信学会 論文誌査読委員
2007年5月~2009年5月	電子情報通信学会 基礎境界ソサイエティ 情報理論研究専門委員会幹事
2009年4月~7月	The 24th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2009), Technical Program Committee Member.
2009年4月~12月	第32回情報理論とその応用シンポジウム プログラム委員
2009年5月~	電子情報通信学会 基礎境界ソサイエティ 情報理論研究専門委員会 幹事補佐
2009年5月~	電子情報通信学会 東北支部 評議員

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	足利 正	大学院の授業 担当の有無	有		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要					
1	<p>数学の公式の意味の深さを学ばせるための教育的配慮</p> <p>講義レベルの適性化と演習の実施</p> <p>試験実施頻度の増加</p>				<p>重要な公式を教える際には、それが発見された動機や背景を示すために、発見した数学者の歴史のエピソードを交えつつ、その後その公式がどのように発展し、応用されたかを示しつつ。数学が生き生きと進展して行く様を伝えようとしている。</p> <p>講義レベルが高くなりすぎないように、学生の間レベルか、それよりも若干だけ高いレベルを念頭に講義を進めている。また、進度にあわせて、可能な範囲で講義時間内にも問題演習を行っている。</p> <p>学期試験だけでなく、中間試験を実施しているため、学生はより勉強しやすくなっており、また彼らの理解度もよりチェックしやすい。</p>				
3	<p>「東北学院大学工学部におけるリメディアル教育の効果について」</p> <p>現職教員研修セミナー（第一回）における講演</p> <p>現職教員研修セミナー（第二回）における講演</p>	2006年12月		<p>女川淳，星善元，内田寿一の三氏との共著で、東北学院大学工学部報告 41 巻 1 号 32～37 頁に論文発表。</p> <p>数学講座の中で「幾何学の広がり」と題して講演</p> <p>数学講座の中で「方程式と複素数」と題して講演</p>					
4	<p>高校に訪問し工学部の教育を生徒に対して紹介した。</p> <p>高校に訪問し工学部の教育を生徒に対して紹介した。</p> <p>高校に訪問し工学部の教育を生徒に対して紹介した。</p> <p>法政大学FDセミナーに出席して研修</p> <p>工学基礎センター相談員</p> <p>第1回本学工学研究科FD研修会の世話役</p> <p>第2回本学工学部・工学研究科FD研修会の世話役</p>	2006年6月26日	2006年7月11日	2006年7月20日	2006年10月	2007年4月より	2008年2月	2009年2月	<p>利府高校を木村光照先生と共に訪問し、同校の22名の生徒に対して、工学全般の教育内容について説明し、同時に本学工学部の紹介を行った。</p> <p>聖ウルスラ学院英知校を山田顕先生と共に訪問し、同校の43名の生徒に対して、工学全般の教育内容について説明し、同時に本学工学部の紹介を行った。</p> <p>石巻西高校を鈴木孝宣先生と共に訪問し、同校の16名の生徒に対して、工学全般の教育内容について説明し、同時に本学工学部の紹介を行った。</p> <p>菜嶋准教授と共に参加した。2007年10月における本学FD研修会にて内容を菜嶋先生が報告する手伝いをした。</p> <p>同センターの数学の相談員を勤めている。</p> <p>工学研究科教育推進委員会が研修会の母体となったのでその委員長としての役を果たした。</p> <p>工学部と工学研究科の共催でこの研修会が開かれ世話役の一人となった。</p>

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba					
Various aspects of degenerate families of Riemann surfaces	共著	2006 年	Sugaku Exp. 19 American. Math. Society	T. Ashikaga H. Endo	171~196 頁
衝撃波とその定義に対する平板衝撃実験に基づく考察	共著	2008 年	Journ. of JSPT vol. 49, no. 572	佐藤裕久 片山雅英 足利 正 高山和喜	63~67 頁
Bb					
Local signature and Horikawa index of pencils of curves	単著	2006 年	京大数理研講究録 No. 1490		146~178 頁
Dedekind 和の相互律の幾何と新公式	共著	2008 年	Hodge 理論・退化・特異点の代数幾何とトポロジー研究集会報告集	足利 正 石坂瑞穂	180~187 頁
C					
符号数・モノドロミー・Dedekind 和	単著	2006 年	分裂族・チャート・モノドロミー箱根セミナー報告集		86~105 頁
固体内衝撃波の“物理的”定義について	共著	2006 年	東北学院大学工学部報告 41 巻 1 号	佐藤裕久氏 (本学教授) と共著	7~11 頁
Localization of signature of fibered complex surfaces	単著	2007 年	Abstract for Symposium on real and complex Singularities, Poland		1 頁 (printed)
Local signature of fibered complex surfaces	単著	2008 年	Abstract for International Conf. on Complex Analysis, Korea		1 頁 (printed)
Local signature and Horikawa index of fibered surfaces	単著	2009 年	Abstract for Conference of Algebraic Surfaces and Related Topics, Korea		1 頁 (printed)
G					
奇数種数最大ゴーンナル曲線族の Harris-Mumford-Konno 型不変量	単独 発表	2005 年 1 月	代数幾何ミニワークショップ (兵庫県)		
Local signature and determinant of cohomology	共同 発表	2005 年 3 月	Symposium on Symplectic Geometry and Topology (東京大学)	吉川謙一氏 (東京大学 助教授) と 共同	
Horikawa index of maximal-gonal fibrations of odd genus	単独 発表	2005 年 10 月	Algebraic Geometry in East Asia II (Hanoi)		

Localization of signature	単独 発表	2005年10月	Workshop on Singularity theory (東京理科大学)		
Horikawa index of pencils of curves	単独 発表	2005年11月	Seminar on Algebraic Geometry (Sogang University, Seoul)		
Dedekind 和とモノドロミー	単独 発表	2006年1月	代数幾何ミニワーク ショップ (兵庫県)		
局所符号数と Dedekind 和	単独 発表	2006年3月	代数幾何と無限可積 分系に関するワーク ショップ (京都府)		
Local invariants of pencils of curves	単独 発表	2006年3月	代数幾何学と複素力 学系研究会(京阪奈プ ラザ)		
Local signatute of fibered complex surfaces via monodromy and stable reduction	単独 発表	2006年12月	特異点と代数幾何 ワークショップ(東京 理科大学)		
Dedekind 和の相互律とモノドロミー	単独 発表	2007年1月	代数幾何ミニワーク ショップ(兵庫県)		
射影直線束内のNon-Galois 被覆曲面の 標準解消	単独 発表	2007年6月	第1回分岐被覆に関 連する代数幾何とト ポロジー(東北学院大 学)		
Invariants of fiber germs and surface singularities	単独 発表	2008年1月	第2回分岐被覆に関 連する代数幾何とト ポロジー(首都大学東 京)		
Remarks on Horikawa index	単独 発表	2008年1月	代数幾何ミニワーク ショップ(兵庫県)		
Signature divisor on the moduli space of curves and its application	単独 発表	2009年2月	第4回代数解析幾何 セミナー(鹿児島大 学)		
Eta invariant and local signature of degeneration of Riemann surfaces	単独 発表	2009年3月	Branched Covering, Degeneration and Related Topics (広島 大学)		
Remarks on H-index and local signature	単独 発表	2009年6月	Hodge 理論と代数幾何 学(京大数理研)		
Signature divisor on moduli space of curves and fibered surfaces	単独 発表	2009年8月	Franco-Japanese Symposium on Singularity (Strasbourg Univ.)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費 基盤(B)	2003～2005 年	共同 研究分担者	大阪市立大学今吉洋一教授代表 課題名「関数体上のディオファントス問題とタイヒミュラー空間に関する研究」
科学研究費 基盤(C)	2004～2005 年	共同 研究代表者	課題名「代数曲線の退化族のモジュライ写像と保型形式から生ずる局所符号数の研究」計 330 万円
科学研究費 基盤(A)	2004～2006 年	共同 研究分担者	東京大学松本幸夫教授代表 課題名「4次元多様体の幾何とトポロジー」
科学研究費 基盤(B)	2004～2007 年	共同 研究分担者	大阪大学今野一宏教授代表 課題名「代数曲線束の諸相」
科学研究費 基盤(C)	2005～2007 年	共同 研究分担者	山形大学内田吉昭助教授代表 課題名「結び目理論の幾何的研究」
科学研究費 基盤(C)	2007, 2008 年度	研究代表者	課題名「退化代数曲線族のモジュライ写像及びモノドロミーを通じた局所不変量の研究」計 320 万円
科学研究費 基盤(B)	2008～2010 年度	研究分担者(研究代表者は松本幸夫学習院大学教授)	課題名「4次元多様体とリーマン面」分担金は50万円(2008年度)
科学研究費 基盤(C)	2009～2011 年度	研究代表者	課題名「モジュライ空間上の符号数因子及び符号不足数とその応用」計 340 万円
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2006 年 8 月	第 3 回トポロジー・代数幾何夏季セミナー主催……開催地は宮城県蔵王セミナーハウス。主催者は松本幸夫教授(東大, 現在は学習院大)と足利(東北学院大)の2名		
2008 年 3 月	第 4 回 Hodge 理論・退化・特異点の代数幾何とトポロジー研究集会主催……開催地は東北学院大学多賀城キャンパス, 主催者は臼井三平教授(阪大)今野一宏教授(阪大)と足利(東北学院大)の3名		
2008 年 8 月	Symposium “Singularity and Manifold” 主催……開催地は群馬県草津セミナーハウス, 主催者は都丸正教授(群馬大)臼井三平教授(阪大)今野一宏教授(阪大)と足利(東北学院大)の4名		
2009 年 3 月	Symposium “Branched Covering, Degeneration, and Related Topics” ……開催地は広島大学, 主催者は松本幸夫教授(学習院大)島田伊知朗教授(広島大)作間誠教授(広島大)徳永浩雄教授(首都大学東京)と足利(東北学院大学)の5名		

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	淡野 照義	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 電子工学実験Ⅲ全12テーマのテキスト・個人教材製作と実施準備		2008年3～7月		電子工学科3年生前期学生実験			
2 電子工学実験Ⅲ全12テーマのテキスト・インストラクションスライド・個人実験教材80名分		2008年3～7月		電子工学科3年生前期学生実験			
コンピュータ演習Ⅴのインストラクションスライド・個人実験教材30名分		2008年9～12月		電子工学科3年生後期			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Far-infrared and Millimeter Wave Spectroscopy of Superionic Copper Conductors		単著	2008年5月	Infrared Physics and Technology 51		458～462頁	
Coherent THz wave induced excitation in superionic conductors		共著	2009年3月	Journal of Physics: Conference Series 148	◎T. Awano T. Takahashi	012040 (4頁)	
C Far-infrared Spectroscopy of Iodides Doped Silver Phosphate Superionic Conducting Glasses		単著	2007年6月	UVSOR Activity Report 2006		81頁	
Coherent Excitation of Superionic Conduction		共著	2007年10月	KURRI Progress Report 2006	◎T. Awano T. Takahashi	182頁	
Far-Infrared and Millimeter Wave Spectroscopy of Superionic Copper Conductors		単著	2008年6月	UVSOR Activity Report 2007		90頁	
Coherent Excitation of Superionic Conduction		共著	2008年10月	KURRI Progress Report 2007	◎T. Awano T. Takahashi	195頁	
Terahertz Spectroscopy of Bromides-doped Silver Phosphate Superionic Conducting Glasses		単著	2009年6月	UVSOR Activity Report 2008		93頁	
Coherent Excitation of Superionic Conduction		共著	2009年10月	KURRI Progress Report 2009	◎T. Awano T. Takahashi	179頁	
G ヨウ化物ドーブリン酸銀ガラスの広帯域分光		単著	2005年3月	日本物理学会第60回 年次大会 25aYH-7			
ハロゲン化物ドーブリン酸銀ガラスの広帯域分光		単著	2006年3月	日本物理学会第61回 年次大会 28pRG-1			

Far-infrared and Millimeter Wave Spectroscopy of Superionic Conductors	単著	2007年9月	4th International Workshop on Infrared Microscopy and Spectroscopy with Accelerator Based Sources, 051	
Low Energy Excitation in Silver Halides-Silver Phosphate Glasses	共著	2007年12月	The 2nd International Conference on Physics of Solid State Ionics, P4	©T. Awano T. Takahashi
銀ハライドセシウムハライド超イオン導電ガラスの遠赤外・ミリ波分光	単著	2008年1月	第21回日本放射光学会年会 14P105	
超イオン導電ガラスのミリ波吸収	共著	2008年1月	第21回日本放射光学会年会 14P106	©淡野照義 高橋俊晴
Coherent Excitation in Superionic Conductors	共著	2008年9月	33rd International Conference on Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves IEEE 予稿集 CFPO8IM (ISBN:978-1-4244-2160-6) T5D3 (2008).	©T. Awano T. Takahashi
THz Spectroscopy of Superionic Conducting Glasses	単著	2008年9月	33rd International Conference on Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves IEEE 予稿集 CFPO8IM (ISBN:978-1-4244-2160-6) W5D3 (2008).	
銀ハライドセシウムハライドガラスの遠赤外・ミリ波分光	単著	2008年9月	日本物理学会 2008 秋季大会, 22aPS-38	
コヒーレント放射光によるリン酸銀系ガラスのミリ波分光	共著	2008年9月	日本物理学会 2008 年秋季大会, 20pYH-1	©淡野照義 高橋俊晴
Coherent THz wave-induced excitation in superionic conductors	共著	2008年11月	3rd International Conference on Photo-induced Phase Transitions	©T. Awano T. Takahashi
MX-AgPO ₃ 超イオン導電ガラスの遠赤外・ミリ波分光	共著	2009年1月	第22回日本放射光学会年会 11P105	
ハロゲン化物ドープリン酸銀ガラスのTHz/UV 分光	単著	2009年3月	日本物理学会第64回 年次大会, 29pVD-8	
伝導イオンドーブによる RbM ₄ X ₅ (M=Ag/Cu, X=halogen) 結晶のテラヘルツスペクトル変化	単著	2009年9月	日本物理学会 2009 年秋季大会, 28pXB-7	©淡野照義 高橋俊晴
Far-infrared and millimeter wave spectroscopy of halides-doped silver phosphate glasses	共著	2009年10月	The 3 rd International Conference on Physics of Solid State Ionics, P-6	©T. Awano T. Takahashi

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	伊藤 忠栄	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年4月～2009年12月	量子力学の水素原子の解法における複雑な特殊関数の取り扱いについて非常に詳しく解説したプリント(約20ページ)を配布し、講義の理解促進を行っている。				
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年4月～2009年12月	電磁気学演習において、公式の丸暗記にならないように毎回電磁気現象の物理的な意味や公式の導出法をまとめたプリントを配布し問題解決の促進を行っている。				
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年4月～2009年12月	電磁気学の講義において、発電機とモーターなどの実験を見せ、電磁気現象の具体的なイメージを持たせるように工夫している。				
	学生に接し方(平成20年度就職委員)	2007年4月～2009年12月	平成20年度、物理情報工学科および大学院応用物理学専攻の学生諸君の就職に関して、面談や相談にのり就職活動を活発に行っている。				
3	現職教員セミナーにおける講演	2008年12月6日	小学校、中学校、高校の現職の先生方に現代物理学、特に量子力学と最近の技術の関わりについて講演をする。				
4	みやぎ県民大学開放講座の講師を務めた。	2005年10月12日	「量子力学が拓く新技術」について解説した。				
	高校への出前授業の講師を務めた。	2005年11月25日	福島県立福島東高等学校の1・2年生に対して、「現代物理学への誘い」と題する授業を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	物理データ事典(日本物理学会編集)	共著	2006年7月	朝倉書店 (ISBN4-254-13088-0 C3542)	清水忠信 萩原 薫 手島政広 杉之原立史 鹿又 武 伊藤忠栄	338～358頁	
	金属間化合物の電子構造と磁性～ 3d-pnictidesを中心として～	共著	2007年6月	大学教育出版 (ISBN978-4-88730-76 9-8 C3042)	望月和子 井門秀秋 伊藤忠栄 森藤正人	87～170頁	
	Electronic Structures and Magnetism of 3d-Transition Metal Pnictides	共著	2009年12月	Springer Series in MATERIALS SCIENCE 131 (ISBN978-3-642-0 3491-0)	K. Motizuki H. Ido T. Itoh M. Morifuji	74～138頁	
Ba	Electronic structures and magnetic properties of LaCo ₅ , LaNi ₅ and LaCo ₃ Ni ₂	共著	2005年5月	J. Appl. Phys. 97	T. Ito H. Ido	10A313～ 10A315頁	

Electronic structures and magnetic properties of LaCo_4B and LaNi_4B	共著	2006年5月	J. Appl. Phys. 99	T. Ito H. Ido	08J304～ 08J306 頁
Electronic structures and magnetic properties in CrX (X=P, As and Sb)	共著	2007年3月	J. Magn. Magn. Mater. 310	T. Ito H. Ido K. Motizuki	e558～e559
Electronic structures and magnetic properties of the compounds $\text{Ce}_{n+1}\text{Co}_{3n+5}\text{B}_{2n}$ (n=0, 1, 2, and ∞)	共著	2009年4月	J. Appl. Phys. 105	T. Ito H. Ido	07E511(1-3)
G Electronic structures and magnetic properties of LaCo_4B and LaNi_4B	共著	2005年10月	50th Annual Conf. on Magnetism and Magnetic Materials (San Jose, CL.)	T. Ito H. Ido	
Electronic structures and magnetic properties in CrX (X=P, As and Sb)	共著	2006年8月	International Conf. on Magnetism (Kyoto, Japan)	T. Ito H. Ido K. Motizuki	
Electronic structures and magnetic properties of the compounds $\text{Ce}_{n+1}\text{Co}_{3n+5}\text{B}_{2n}$ (n=0, 1, 2, and ∞)	共著	2008年11月	53th Annual Conf. on Magnetism and Magnetic Materials (Austin, TX)	T. Ito H. Ido	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年5月	J. Appl. Phys. (50th Annual Conf. on Magnetism and Magnetic Materials) のレフリー
---------	--

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	女川 淳	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習内容の習得と理解の確認	2005年4月～2009年12月	「物理学基礎演習」では時間ごとに小テストを行い、終了後に教員が解説する。テスト結果は授業評価にも用い改善を図っている。				
	日本語表現能力の向上	2005年4月～2009年12月	「教科教育研究（理科）」において研究報告書を添削し、報告書作成能力の向上や表現力の開発などを行っている。				
	授業内容のレジュメ配布	2005年4月～2009年12月	全ての担当講義において講義の要点を記載したプリントを配布し、本時の学習目標を明確にして講義を進めている。				
	AV等の利用	2005年4月～2009年12月	講義内容に応じたビデオ教材を選択し、疑似体験により講義内容の理解を容易し、深化させる工夫を行なっている。				
	物理学実験課題の精選	2005年4月～2009年12月	入学直後に開講される物理学実験課題の構成を主体的に検討し、学生が十分に理解できるように常に見直しを行なっている。				
	演習内容の均質化と効率化	2007年1月～2009年12月	物理学基礎演習で紙片を配布し全員が教員の解説の下で同一問題の解答に取り組み、へだたりのない学習を可能とした。				
	教科学習の定着化	2007年1月～2009年12月	教科教育研究において、オフィスタイムを設けて希望者に習得すべき重点項目について個人学習に応じている。				
	自然科学実験ファンダメンタルズの開講	2007年6月～2009年12月	多様化した入試制度で入学した学生への新実験開講の課題検討に主体的に取り組み、開講後も常に検討を加えている。				
2	応用物理学実験Ⅱ・科学技術セミナー（東北学院大学生生活協同組合）	2005年4月	電気応用計測に関わる学生実験書、および実験マニュアルを編集した。				
	物理学基礎演習（東北学院大学生生活協同組合）	2005年4月／2006年4月 2007年4月／2008年4月 2009年4月	高校課程で物理を履修しなかった学生を、容易に大学課程に導入する学習書を編集した。				
	数学基礎演習（東北学院大学生生活協同組合）	2005年4月／2006年4月 2007年4月／2008年4月 2009年4月	高校課程で微積分を履修しなかった学生を、容易に大学課程に導入する学習書を編集した。				
	物理学実験（東北学院大学生生活協同組合）	2005年4月／2006年4月 2007年4月／2008年4月 2009年4月	高校課程で物理を履修しなかった学生でも、容易に実験を行なって楽しみながら大学課程に導入する実験指導書を編集した。				
	自然科学実験ファンダメンタルズ（東北学院大学生生活協同組合）	2008年4月／2009年4月	多様化した入学制度で入学した学生が、楽しみながら実験を行って、容易に専門実験へ導入する実験指導書を編集した。				

3		
「工学基礎センター」の果たす役割と期待	2006年3月	東北学院大学教育研究所報告集第6集において、4月より新設された工学基礎教育センターについて論説した。
東北学院大学工学部におけるリメディアル教育の効果について	2006年12月	東北学院大学工学部研究報告において、リメディアル教育の成果についてデータを示して論述した。
「工学基礎センター」の次の一步を考える	2007年3月	東北学院大学教育研究所報告書において、06年4月に新設された工学基礎教育センターの将来について提言した。
個人ブース方式を用いた学生実習の積み上げ教育に関する研究	2008年3月	東北学院大学工学部研究報告において、電子工学実験に導入した新実験方式の教育効果について検証した。
4		
オープンキャンパスでの研究室公開	2005年/2006年/2007年 2008年/2009年	オープンキャンパスの全日程で研究室を公開し、研究内容の発表と施設設備の紹介を積極的に行った。
工学部祭での研究室公開	2005年/2006年/2007年 2008年/2009年	工学部祭の全日程で研究室の公開と、イベントを開催し研究や施設設備の紹介を積極的に行った。
工学部見学者への研究室公開	2005年10月～2009年12月	中学生や高校生のキャンパス訪問では可能な限り研究室を公開し、研究内容の発表と施設設備の紹介を行った。
高校保護者会の講師を務めた	2007年6月15日	一関学院高の3年保護者会で高大連携の解説を行った。
高校出前講義の講師を務めた	2007年7月6日	一関学院高で「ひとと環境にやさしいエコマテリアル」の授業。
現職教員研修セミナーの開催	2007年7月28日	現職教員への「数学」「理科」「工業」3講座の開催実行委員として主体的な役割を務めた。
インターンシップの開講	2007年10月～2009年12月	学科課程へのインターンシップ導入にともなう受け入れ企業との折衝などを主体的に務めた。
総合的な学習の時間への対応	2008年4月～2009年12月	中学校や高等学校からの要請に積極的に対応して、生徒らに実験をとおして理科への興味を喚起した。
高校保護者会の講師を務めた	2008年6月10日	一関学院高の3年保護者会で理工系大学の現況と進学の要点について解説を行った。
現職教員研修セミナーの開催	2008年12月6日	現職教員研修講座の「理科」の開催実行委員として主体的な役割を務めた。
高校出前授業の講師を務めた	2009年6月19日	一関学院高校で「なんでえ、どおしてえ、大学にい、いくのお？」の題目で、大学で学ぶ意義についての授業を行った。
教員免許更新講習の開催	2009年8月17日～21日	教員免許更新講習の開催実行委員として主体的な役目を務め、教科「理科」で物理領域の講師も務めた。

中学生の体験実習の講師を務めた	2009年8月20日	東北学院中学校1年生の大学体験学習で「もしも大気圧がなくなったら」他の実験指導を行った。
高校教員に対する講演	2009年9月18日	宮城県仙台西高で「いまどきの『大学生』」の題目で工学部学生の現状と高校教育に期待について講演した。
中学生の進路行事の講師を務めた	2009年12月5日	東北学院中学校2年生の「TG 学問ガイダンス」で「大学の実験をやってみよう!」として実験指導を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Monochromatic flash x-ray generator utilizing a disk-cathode silver tube	共著	2005年9月	Society of Photo-Optical Instrumentation Engineers/OPTICAL ENGINEERING	E. Sato Y. Hayashi R. Germer E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato T. Ichimaru K. Takayama H. Ido J. Onagawa	096501-1～6頁
X-ray spectra from a cerium target and their application to cone beam K-edge angiography	共著	2005年12月	Society of Photo-Optical Instrumentation Engineers/OPTICAL ENGINEERING	E. Sato A. Yamadera E. Tanaka H. Mori T. Kawai F. Ito T. Inoue S. Sato A. Ogawa K. Takayama H. Ido J. Onagawa	096502-1～6頁
Intense clean characteristic flash x-ray irradiation from an evaporating molybdenum diode	共著	2007年2月	Society of Photo Optical Instrumentation Engineers/OPTICAL ENGINEERING	M. Sagae E. Sato E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato K. Takayama J. Onagawa H. Ido	026502-1～7頁

K-edge magnification digital angiography using a 100 μm -focus tungsten tube	共著	2007年2月	Society of photo optical Instrumentation Engineers/OPTICAL ENGINEERING	E. Sato E. Tanaka H. Mori H. Kawakami T. Kawai T. Inoue A. Ogawa M. Izumisawa K. Takahashi S. Sato K. Takayama J. Onagawa	026503-1～ 6頁
Ba Variations in Cerium X-ray Spectra and Enhanced K-Edge Angiography	共著	2005年11月	The Japan Society of Applied Physics/Japanese Journal of Applied Physics, 44-11	E. Sato E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa A. Yamadera S. Sato F. Ito K. Takayama H. Ido J. Onagawa	8204～6209 頁
Enhanced K-Edge Angiography Utilizing Tantalum Plasma X-ray Generator in Conjunction with Gadolinium-Based Contrast Media	共著	2005年12月	The Japan Society of Applied Physics/Japanese Journal of Applied Physics, 44-12	E. Sato Y. Hayashi K. Kimura E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato K. Takayama H. Ido J. Onagawa	8716～8721 頁
原子レベルの平坦化に向けたUV照射に関する研究	共著	2006年3月	東北学院大学工学会 ／東北学院大学工学 部研究報告 40-1	藤村元章 西岡将輝 石川育夫 南條 弘 女川 淳	57～59頁
加熱された歯科臨床用アマルガム組織の組織変化に関する研究	共著	2006年3月	東北学院大学工学会 ／東北学院大学工学 部研究報告 40-1	遠藤靖典 武山知裕 女川 淳	61～64頁
金属のステップーテラス構造のテラス拡張に向けたUV照射に関する研究	共著	2006年3月	東北学院大学環境防 災工学研究所／東北 学院大学環境防災工 学研究所紀要 17	藤村元章 西岡将輝 石川育夫 南條 弘 女川 淳	30～38頁

「工学基礎センター」の果たす役割と期待	共著	2006年3月	東北学院大学教育研究所／教育研究所報告書6	石橋良信 星 善元 女川 淳	5～12 頁
Characteristic X-ray Generator Utilizing Angle Dependence of Bremsstrahlung X-ray	共著	2006年4月	The Japan Society of Applied Physics/Japanese Journal of Applied Physics, 44-4A	E. Sato E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato K. Takayama J. Onagawa	2845～2849 頁
Nonoscale surface properties of iron treated by electrochemical and physico-chemical methods	共著	2006年6月	ELSEVIER/Current Applied Physics 6	H. Nanjo M. Fujimura N. J. Laycock Z. Xia M. Nishioka I. Ishikawa J. Onagawa	5448～5452 頁
X-ray Spectra from Weakly Ionized Linear Copper Plasma	共著	2006年6月	The Japan Society of Applied Physics/Japanese Journal of Applied Physics, 44-6A	E. Sato Y. Hayashi R. Germer E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato K. Takayama J. Onagawa	5301～5306 頁
東北学院大学工学部におけるリメディアル教育の効果について	共著	2006年12月	東北学院大学工学会／東北学院大学工学部研究報告 41-1	星 善元 内田壽一 足利 正 女川 淳	32～37 頁
原子レベルの平坦化に向けた不働態化とUV照射に関する研究	共著	2006年12月	東北学院大学工学会／東北学院大学工学部研究報告 41-1	藤村元章 西岡将輝 石川育夫 南條 弘 女川 淳	82～86 頁
放電プラズマ焼結法により作製したチタン合金の耐食性	共著	2006年12月	東北学院大学工学会／東北学院大学工学部研究報告 41-1	藤村元章 高橋裕子 阿部 寛 佐藤義行 伊勢 理 女川 淳	87～94 頁

Preliminary study for producing higher harmonic hard X-rays from weakly ionized nikel plasma	共著	2006年12月	ELSEVIER/Radiation Physics and Cemistry 75	E. Sato Y. Hayashi E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato K. Takayama H. Ido J. Onagawa	1812~1818 頁
K-edge angiography utilizing a tungsten plasma X-ray generator in conjunction with gadolinium-based contrast media	共著	2006年12月	ELSEVIER/Radiation Physics and Cemistry 75	E. Sato Y. Hayashi E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa S. Sato K. Takayama H. Ido J. Onagawa	1841~1849 頁
Tunable narrow-photon-energy X-ray generator utilizing a tungsten - target tubu	共著	2006年12月	ELSEVIER/Radiation Physics and Cemistry 75	E. Sato H. Sugiyama M. Ando E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Inoue A. Ogawa K. Takayama H. Ido J. Onagawa	2008~2013 頁
Crystallization of the anodic oxide on titanium in sulphuric acids solution at very low potential	共著	2007年1月	ELSEVIER/Electrochemistry Communications 9	Z. Xia H. Nanjo H. Tetsuka T. Ebina M. Izumisawa M. Fujimura J. Onagawa	850~856 頁
鉄酸化薄膜のナノスケール構造特性に及ぼす不働態化と熱処理の影響	共著	2007年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要 18	藤村元章 女川 淳 夏 正斌 石川育夫 南條 宏	19~32 頁
Extending metal life by flattening the oxide thin film surface on less noble metal by electrochemical surfase treatment	共著	2007年9月	Proc. 1st. Sym. Sustainable chemical Products and Process Engineering, Guangzhou, CHANA Chinese J. of Chem. Eng,	H. Nanjo M. Fujimura Y. Endo Z. Xia Y. Yao I. Ishikawa M. Kanekubo T. Aizawa J. Onagawa	Chinese J. of Chem. Eng, IF=0. 340

Growth process of atomically flat anodic films on titanium under potentiostatical electrochemical treatment in H ₂ SO ₄ solution	共著	2007年11月	ELSEVIER/Surface Science 601	Z. Xia H. Nanjo T. Aizawa M. Kanekubo M. Fujimura J. Onagawa	5133~5141 頁
The surface nanostructure of pure iron after combined electrochemical passivation and thermal annealing treatment	共著	2007年11月	ELSEVIER/Surface Science 601	H. Nanjo M. Fujimura N. J. Laycock Z. Xia I. Ishikawa J. Onagawa	5180~5186 頁
Atomic Scale Flattening of Metal Oxide Surface by Electrochemical and Physico chemical Methods	共著	2007年11月	Proc. The 26th Annual Conference Corrosion Challenges in Industry, Al-Ismailia	H. Nanjo M. Fujimura H. Deng Z. Xia Y. Yao T. Aida J. Onagawa	26~28 頁 CD.
Nanostructure of Pure Iron Anodically Oxidized in Borate Buffer Solution and Annealed by Infrared Radiation	共著	2008年2月	J. Nanosci. Nanotechnol. 8-2	H. Nanjo M. Fujimura Z. Xia I. Ishikawa Y. Endo M. Kanekubo T. Aizawa M. Izumikawa J. Onagawa	493~502 頁
個別ブース方式を用いた学生実習の積み上げ教育に関する研究	共著	2008年3月	東北学院大学工学会 ／東北学院大学工学 部研究報告 42-1・2	志子田有光 加藤和夫 山田 顕 女川 淳 星 善元 荒川雄介 竹川真人	17~22 頁
X-ray Spectra From a Brass-target Plasma Triode	共著	2008年4月	J. Med. Phys. 27-4	E. Sato H. Obata T. Enomoto E. Tanaka H. Mori T. Kawai T. Ichimaru A. Ogawa S. Sato K. Takayama J. Onagawa	163~171 頁

Magnification K-Edge Angiography Utilizing 100 μ m-Focus Tungsten Tube and Gadolinium-based Contrast Media	共著	2008年6月	Japanese Journal of Applied Physics 47-6	Y. Sato E. Sato S. Ehara T. Enomoto E. Tanaka H. Mori T. Kawai A. Ogawa S. Sato J. Onagawa	4772~4776 頁
Passivation and Ozone Gas Exposure to Pure Iron Surface	共著	2008年10月	Proceeding of the 214 th International Symposium of the Electrochemical Society, Honolulu, HAWAII USA	H. Nanjo Y. Suzuki J. Hayashi F. M. Bayoumi I. Ishikawa M. Kanekubo T. Aizawa T. Aida J. Onagawa	171~179頁
Development and Evaluation of a Web Based Teaching Support System for Practical Engineering Experiment Class	共著	2008年11月	Proceeding of the E-learn 2008 World Conference on E-learning in Government, Healthcare, & Higher Education, Las Vegas, Nevada USA	A. Shikoda K. Kato J. Onagawa H. Sasaki	4頁
オゾンガスを用いた純鉄不動態皮膜の表面構造改質	共著	2009年3月	東北学院大学工学会／東北学院大学工学部研究報告 43-1・2	鈴木康紀 南條 弘 早坂淳子 女川 淳	31~36頁
Nesting Behavior and Silk Secretion by Female Wasps from Unique Abdominal Spigots in <i>Psenulus carnifrons</i>	共著	2009年3月	(財)ホシザキグリーン／ホシザキグリーン財団研究報告 12	Batora S. W. T Y. Maeta K. Goukon J. Onagawa	123~146頁
X-ray fluorescence camera for imaging of iodine media in vivo	共著	2009年4月	Radiol Phys. Technol 2	H. Matukiyo M. Watanabe E. Sato A. Osawa T. Enomoto J. Nagano P. Abderyim K. Aizawa E. Tanaka H. Mori T. Kawai S. Ehara S. Sato J. Onagawa	46~63頁

Embossed radiography utilizing energy subtraction	共著	2009年4月	Radiol Phys. Technol 2	A. Osawa M. Watanabe E. Sato H. Matukiyo T. Enomoto J. Nagano P. Abderyim K. Aizawa E. Tanaka H. Mori T. Kawai S. Ehara S. Sato A. Ogawa J. Onagawa	77~86頁
Effect of Relaxation Time on Passive Film	共著	2009年10月	Trans. 216 th ECS Meeting	H. Nanjo N. Hoshi K. Sajiki Y. Suzuki Y. Shibata F. M. B. Hassan M. Kanekubo T. Aizawa J. Onagawa	4~9頁
G Nanoscale surface properties of metals treated by electrochemical and physico-chemical methods	共同	2005年2月	Second International Conference on Advanced Materials and Nanotechnology (Queens town/ New Zealand)	H. Nanjo M. Fujimura M. Nishioka N. J. Laycock J. Onagawa	237頁
Effect of UV Irradiation on the Structure of Passive Oxide Films	共同	2005年2月	Second International Conference on Advanced Materials and Nanotechnology (Queens town/ New Zealand)	H. Nanjo M. Fujimura M. Nishioka I. Ishikawa J. Onagawa	237頁
金属表面の不動態化処理とナノスケール構造観察	共同	2005年3月	第52回応用物理学関係連合後援会講演予講集2	南條 宏 遠藤靖典 藤村元章 夏 正斌 女川 淳	770頁
Metal oxide ultra-thin film structure controlled by passivation and ultraviolet light irradiation	共同	2005年6月	13th International Congress on Thin Films 8th International Congress on Atomically Controlled Surfaces, Interfaces and Nanostructures (Stockholm/Sweden)	H. Nanjo M. Fujimura Z. Xia Y. Endo J. Onagawa	24頁

Thin film structure treated at passive potentials and irradiated by ultraviolet light	共同	2005年6月	13th International Congress on Thin Films 8th International Congress on	H. Nanjo M. Fujimura Z. Xia Y. Endo J. Onagawa	
原子レベルの平坦化に向けたUV照射に関する研究	共同	2005年7月	平成17年度第1回東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会	藤村元章 南條 弘 西岡将輝 夏 正斌 女川 淳	
純鉄の原子レベル平坦化に向けた紫外線照射の影響	共同	2005年9月	第66回応用物理学関係連合後援会講演予講集2	藤村元章 南條 弘 夏 正斌 比江嶋祐介 女川 淳	556頁
不動態化処理電位と光学定数の関係	共同	2005年11月	平成17年度表面技術協会東北支部・腐食防食協会東北支部合同講演会	南條 弘 遠藤靖典 藤村元章 石川育夫 Yuhong Yao Zhengbin ZIA 南 公隆 女川 淳	
ポルフェリン陽極酸化アルミナ膜の構造と酸素応答性	共同	2006年3月	第53回応用物理学関係連合後援会講演予講集2	南條 弘 本多 悟 横山敏郎 西岡将輝 石井 亮 伊藤徹二 加藤隆二 佐々木八重子 中村正章 女川 淳	695頁
Nano-structure of Pure Iron Anodically Oxidized in Borate Buffer Solution and Annealed by Infrared Irradiation	共同	2006年6月	International workshop on NANOMAT2006 (Antalya/Turky)	H. Nanjo M. Fujimura Z. Xia I. Ishikawa J. Onagawa	183頁
Infrared Irradiation Treatment of Pure Iron Anodically Oxidized in Buffer Solution	共同	2006年6月	International workshop on NANOMAT2006 (Antalya/Turky)	H. Nanjo M. Fujimura M. Kanakubo T. Aizawa J. Hayasaka J. Onagawa	217頁
鉄酸化薄膜のナノスケール構造特性に及ぼす不動態化熱処理の影響	共同	2006年7月	平成18年度第1回東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会	藤村元章 南條 宏 夏 正斌 女川 淳	
Study on the anodizing behaviors of Ti at different potentials in a short time by subsequent treatment at a high voltage	共同	2006年8月	第68回応用物理学関係連合後援会講演予講集2	夏 正斌 南條 宏 石川育夫 藤村元章 女川 淳	605頁

不働態化と熱処理による純鉄表面のナノ構造観測	共同	2006年9月	第53回材料と環境討論会(秋季大会)	南條 宏 藤村元章 夏 正斌 石川育夫 女川 淳	
Growth process of atomically flat anodic films on titanium under potentiostatical treatment in H ₂ SO ₄ solution	共同	2006年10月	Nanoscience at surfaces 2006 (kashiwa/Japan)	Z. Xia H. Nanjo T. Aizawa M. Kanekubo M. Fujimura J. Onagawa	197頁
Surface nanostructure on pure iron treated by passivation and thermal annealing with an infrared lamp a furnace	共同	2006年10月	Nanoscience at surfaces 2006 (kashiwa/Japan)	H. Nanjo M. Fujimura Z. Xia I. Ishikawa J. Hayasaka J. Onagawa	198頁
Extending metal life by flattening the oxide thin film surface on less noble metal produced by electrochemical and physico-chemical surfase treatment	共同	2007年9月	1st. International Symposium on Sustainable Chemical Product and Process Engineering Guangzhou, CHINA	H. Nanjo M. Fujimura Y. Endo Z. Xia Y. Yao I. Ishikawa M. Kanekubo T. Aizawa J. Onagawa	130頁
Atomic Scale Flattening Metal Oxide Surface by Electrochemical and Physico-chemical Methods	共同	2007年11月	The 26th Annual Conference Corrosion Challenges In Industry AI-Ismailia, EGYPT Invited from the Egyptian Corrosion Society	H. Nanjo M. Fujimura H. Deng Z. Xia Y. Yao T. Aida J. Onagawa	
純鉄の不働態化とオゾンガス処理	共同	2008年3月	2008年春季第55回応用物理学関係連合講演会講演予講集2 日本大学理工学部 船橋	南條 宏 鈴木泰紀 早坂淳子 石川育夫 相田 努 女川 淳	663頁
Kinetics Study of Ozone Gas Enhanced Passivation of Pure Iron	共同	2008年10月	Pacific RIM Meeting on electrochemical and solid-state science (PRIME2008) Honolulu, HAWAII USA	H. Nanjo Y. Suzuki J. Hayasaka F.M. Bayoumi I. Ishikawa M. Kanekubo T. Aizawa T. Aida J. Onagawa	160頁

Passivation and Ozone Gas Exposure to Pure Iron Surface	共同	2008年10月	Pacific RIM Meeting on electrochemical and solid-state science (PRiME2008) Honolulu, HAWAII USA	H. Nanjo Y. Suzuki F. M. Bayoumi M. Nishioka J. Onagawa	85 頁
Development and Evaluation of a Web Based Teaching Support System for Practical Engineering Experiment Class	共同	2008年11月	Proceeding of the E-lean 2008 World Conference on E-learning in Gvernment, Herlthcare, & Higher Education, Las Vegas, Nevada USA	A. Shikoda K. Kato J. Onagawa H. Sasaki	
混合非晶質膜からのCoナノ結晶作製実験	共同	2009年5月	日本地球惑星連合2009年大会予稿集/幕張メッセ国際会議場 千葉	三浦芳郎 女川 淳 鈴木仁志	J246-014頁
断続不動態化による鉄酸化膜の作製と評価	共同	2009年9月	第70回応用物理学会 学術講演会/富山	南條 弘 鈴木康紀 女川 淳	
Effect of Relaxation Time on Passive Film	共同	2009年10月	Trans. 216 th ECS Meeting, Vienna, Austria	H. Nanjo N. Hoshi K. Sajiki Y. Suzuki Y. Shibata F. M. B. Hassan M. Kanekubo T. Aizawa J. Onagawa	
Discontinuous fabrication on Passive Film	共同	2009年10月	Trans. 216 th ECS Meeting, Vienna, Austria	H. Nanjo N. Hoshi K. Sajiki Y. Suzuki Y. Shibata F. M. B. Hassan M. Kanekubo T. Aizawa J. Onagawa	
金属の電気化学処理による原子レベル平坦化と多孔質, 耐熱・透明・フレキシブル電極の作製	共同	2009年12月	東北/関東「環境とものづくり」技術交流フェア2009, 秋葉原, 東京	南條 弘 F. M. B. Hassan S. Veukatachalaw 鈴木康紀 女川 淳 蛭名武雄	
E 『工学基礎センター』の次の一歩を考える	単著	2007年3月	東北学院大学工学基礎教育センター/工学基礎教育センター 平成18年度 報告書		18 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金 萌芽研究	2007年度	共同／分析電子顕微鏡を用いたナノ組織の観察と極微組織の元素分析	金属表面を原子スケールで平坦化し、耐食性能の向上を図る
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2007年1月～2009年12月	日本金属学会 会員		
2007年1月～2009年12月	応用物理学会 会員		
2007年1月～2009年12月	日本歯科理工学会 会員		
2007年1月～2009年12月	歯科医学会 会員		
2007年4月～2011年3月	日本金属学会 評議員		

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	木村 光照	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
4	本学産学連携推進センター長を委嘱されている。			2007年4月1日～2009年3月31日			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	緒・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	熱型マイクロ温度センサ	単著	2008年7月	日本工業調査会・電子材料(7月号)		97～103頁	
	温度センサ	単著	2009年4月	株式会社テクノシステム		613～620頁	
	熱型マイクロ温度センサ	単著	2009年6月	日本工業調査会(韓国版)		131～137頁	
Ba	マイクロエブリッジヒータを用いた熱式風速計の試作	共著	2005年3月	電気学会論文誌 E, Vol. 125-E, No. 3	八坂慎一 大屋誠志郎 三橋雅彦 金子 智 伊藤 健 菅野洋一 相京幸保 小室眞一 大林一也 木村光照	124～128頁	
	Novel Micro - Cantilever Temperature - Difference Sensor Based on Current Detection of a Single Thermocouple, International Conference on MEMS and Nanotechnology	共著	2005年3月	Proc. of International Conference on MEMS and Nanotechnology	M. Kimura S. S. Lee	198～204頁	
	New Type Magneto-Transistor	共著	2005年5月	Proc. of Sensor 2005	M. Kimura S. Takahashi	219～223頁	
	Thermal Anemometer Using Micro - Air - Bridge Heaterwith Chip Scale Wind Tunnel	共著	2005年10月	Proc. of the 22nd Sensor Symposium	S. Kaneko T. Ito S. Ohya Y. Kanno Y. Aikyo S. Komuro K. Ohbayashi M. Kimura	143～146頁	
	Proposal of a New Structure Thermal Vacuum Sensor with Diode-Thermistors Combined with a Micro Air-Bridge Heater	共著	2005年10月	Proc. of Thermnic 2005	M. Kimura F. Sakurai H. Ohta T. Terada	117～121頁	
	Novel Micro - Cantilever Temperature - Difference Sensor Based on Current Detection of a Single Thermocouple	共著	2006年3月	Proc. of ICMN'06	S. S. Lee M. Kimura	1～5頁	

New Temperature - Difference Measurement Method by Microthermo - couple Cantilever Sensor Based on Current Detection	共著	2006年8月	Proc. of APCOT 2006	S. S. Lee M. Kimura	1~4頁
Ambient Temperature Compensation of Film Pirani Vacuum Sensor	共著	2006年10月	Proc. of the 23rd Sensor Symposium 2006	H. Yonekura M. Kimura	262~265頁
Proposal of Novel Measurement Method using Current Detection by A Single Thermocouple	共著	2006年10月	Proc. of the 23rd Sensor Symposium 2006	S. S. Lee M. Kimura	291~294頁
Pn Junction Temperature-Sensor by of Superimposed AC Signal	共著	2006年10月	Proc. of the 23rd Sensor Symposium 2006	N. Takashima M. Kimura	253~256頁
Proposal of a Temperature-Difference Sensor based on Short-circuit Current Measurement of a Single Thermocouple	共著	2007年1月	Proc. ThETA1 (IEEE:07EX1655)	M. Kimura S. S. Lee	267~272頁
Pn Junction Temperature-Sensor by Use of Superimposed AC Signal	共著	2007年3月	電気学会論文誌E (Vol. 127, No. 3)	N. Takashima M. Kimura	140~143頁
Ambient Temperature Compensation of Thin Film Pirani Vacuum Sensor	共著	2007年3月	電気学会論文誌E (Vol. 127, No. 3)	H. Yonekura M. Kimura	136~139頁
Short-circuit measurement by Seebeck current detection of a single thermocouple and its application	共著	2007年4月	Sensors and Actuators A (Vol. 139)	M. Kimura S. S. Lee	104~110頁
Proposal of A New Structural Thermal Vacuum Sensor with Diode-thermistors Combined with a Micro-Air-Bridge Heater	共著	2007年5月	Microelectronics J. (Vol. 38)	M. Kimura F. Sakurai H. Ohta T. Terada	171~176頁
絶対温度に比例する出力をもつダイオード温度センサの検討	共著	2007年6月	電気学会論文誌E (Vol. 127, No. 6)	高嶋徳明 木村光照	328~332頁
Proposal of Porous Chromium Film Fabrication Method for an IR Absorber	共著	2008年6月	NSTI-Nanotech 2008 (Vol. 1)	M. Kimura M. Hobara	642~645頁
Investigation on the Thin Film Pirani Vacuum Sensor Using A Constant Voltage Drive-Mode Diode-Heater	共著	2008年6月	IEEJ Trans. SM. (Vol. 128)	N. Takashima M. Kimura	209~213頁
Proporsal of a New Type Thin Film Vacuum Sensor Using the Short Circuit Current-Detection Type Thermo couple	共著	2008年6月	PROC. OF THE 25TH SENSOR SYMPOSIUM, 2008	N. Takashima M. Kimura	85~88頁
Proposal of the Thin Film Pirani Vacuum Sensor Still Sensitive above 1 Atmosphere	共著	2009年6月	Proc. of SENSOR +Test Conf. Vol. 2	N. Takashima M. Kimura	277~281頁
Novel Extension Methods of the Sensing Pressure Range of the Pirani Vacuum Sensor	共著	2009年7月	Proc. of Transducers 2009 (IEEE)	N. Takashima M. Kimura	1734~1737頁

Simple and flexible display unit with an exchangeable image-sheet using a thin film light waveguide	共著	2009年10月	Proc. of IMID 2009	C. Sato M. Kimura	221~224頁
Proporsal of a New Type Thin Film Vacuum Sensor Using the Short Circuit Current-Detection Type Thermo couple	共著	2009年11月	IEEJ Trans. SM. Vol. 129, No. 11	N. Takashima M. Kimura	417~420頁
Bb 新型磁気トランジスタの検討	共著	2005年5月	電気学会フィジカル センサ研究会資料 PHS-05-3	木村光照 高橋 伸	11~14頁
半導体磁気センサにおけるキャリア偏向の検討	共著	2005年12月	電気学会フィジカル センサ研究会資料 PHS-05-3 1	木村光照 高嶋徳明	1~5頁
ダイオードサーミスタ搭載薄膜ピラニ真空センサの検討	共著	2006年5月	電気学会フィジカル センサ研究会資料 PHS-06-14	米倉 洋 木村光照	71~74頁
電流検出型の熱電対温度差の提案	共著	2006年5月	電気学会フィジカル センサ研究会資料 PHS-06-11	李 承 燮 木村光照	53~57頁
絶対温度比例出力型温度センサとその薄膜ピラニ真空センサへの応用	共著	2007年7月	電気学会E部門総合 研究会 PHS-07-26	高嶋徳明 木村光照	63~68頁
多孔質金属薄膜の形成法とこれを用いた赤外線吸収膜	共著	2008年6月	電気学会E部門総合 研究会 PHS-08-21	木村光照 保原優智	67~72頁
超小型熱分析センサの研究	共著	2008年6月	電気学会 E 部門総合 研究会 PHS-08-11	木村大介 木村光照	19~24頁
薄膜ピラニ真空センサの温度差検出による改良	共著	2008年6月	電気学会 E 部門総合 研究会 PHS-08-7	高嶋徳明 木村光照	1~4頁
強磁性体薄膜を利用したカンチレバ共振型磁気センサの検討	共著	2009年7月	電気学会 E 部門総合 研究会 PHS-09-32	千葉久統 木村光照	81~84頁
熱伝導型圧力センサにおけるカンチレバ強制振動の効果の検討	共著	2009年7月	電気学会 E 部門総合 研究会 PHS-09-33	高嶋徳明 木村光照	85~89頁
カンチレバ共振型磁気センサの提案	共著	2009年7月	センサ・マイクロマシン と応用シンポジウム	千葉久統 木村光照	340~343頁
強制振動による熱伝導型圧力センサの高感度化	共著	2009年7月	センサ・マイクロマシン と応用シンポジウム	高嶋徳明 木村光照	293~297頁
MEMS 熱伝導型センサとその応用	単著	2009年12月	電気学会フィジカル センサ研究会 PHS-09-50		37~42頁
G ベースに再結合領域を有する新構造磁気トランジスタのベース電極分割による検討	共著	2005年8月	電気関係学会東北支 部大会	高嶋徳明 木村光照	

再結合領域を持つ新型磁気トランジスタのベース電極分割による検討	共著	2005年9月	応用物理学会全国大会(秋季)	高嶋徳明 木村光照
光導波路型ディスプレイの基礎実験	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部大会	伊藤大志 木村光照
酵素反応を利用する熱型バイオセンサの検討	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部大会	山木廉雄 木村光照
ローレンツ力を利用した半導体磁気センサの検討	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部大会	高嶋徳明 木村光照
電流検出型熱電対の提案, 応用物理学会東北支部大会	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部大会	李承燮 木村光照
電流検出型サーモカップルの提案	共著	2006年3月	電気学会全国大会	李承燮 菅原利彦 木村光照
導波光散乱型ディスプレイの基礎実験	共著	2006年3月	電気学会全国大会	伊藤大志 木村光照
酵素反応熱を利用したグルコースセンサの検討	共著	2006年3月	電気学会全国大会	山木廉雄* 木村光照
短絡電流検出型熱電対の提案	共著	2006年3月	応用物理学会全国大会(春季)	李承燮 菅原利彦 木村光照
ダイオードサーミスタ搭載薄膜ピラニ真空センサの提案	共著	2006年3月	応用物理学会全国大会(春季)	米倉 洋 木村光照
マイクロセンサの開発と現状(基調講演)	単著	2006年7月	日本大気電気学会	
微小交流信号重畳型pn接合ダイオード温度センサの検討	共著	2006年8月	応用物理学会全国大会(秋季)	高嶋徳明 木村光照
光照電流検出方式による高感度熱電対センサの提案	共著	2006年8月	応用物理学会全国大会(秋季)	李承燮 木村光照
薄膜ピラニ真空センサの温度特性	共著	2006年8月	応用物理学会全国大会(秋季)	米倉 洋 木村光照
カンチレバ型MABセンサによる薄膜ピラニ真空センサの周囲温度補正	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部大会	米倉 洋 木村光照
電流検出型サーモカップルの提案	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部大会	李承燮 菅原利彦 木村光照
電流検出型熱電対の提案と赤外線センサへの応用	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部大会	小山克人 木村光照
ダイオード加熱によるMAB構造の温度特性評価	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部大会	佐藤万寿治 小山克人 米倉 洋 木村光照
交流信号重畳型ダイオード温度センサの提案とその特性の検討	共著	2006年12月	応用物理学会東北支部大会	高嶋徳明 木村光照

ダイオードヒータによる MAB 構造の温度特性	共著	2007 年 3 月	電気学会全国大会予稿集	佐藤万寿治* 小山克人 米倉 洋 木村光照	215 頁
交流信号重畳を用いたダイオード温度センサにおける温度比例出のダイオード依存性の検討	共著	2007 年 3 月	電気学会全国大会予稿集	高嶋徳明* 佐藤万寿治 木村光照	217 頁
電流検出型熱電対を用いた MAB 構造赤外線センサと新赤外線吸収膜の提案	共著	2007 年 3 月	電気学会全国大会予稿集	小山克人 木村光照	214 頁
温度比例出力をもつダイオード温度センサのダイオード依存性の検討	共著	2007 年 3 月	応用物理学会全国大会 (春季)	高嶋徳明 木村光照	480 頁
絶対湿度センサ用 MAB 構造のダイオード加熱の評価	共著	2007 年 3 月	応用物理学会全国大会 (春季)	佐藤万寿治 木村光照	481 頁
ダイオードヒータを用いたカンチレバ型薄膜ピラニ真空センサ	共著	2007 年 3 月	応用物理学会全国大会 (春季)	米倉 洋 木村光照	481 頁
MEMS 適用赤外線吸収膜の作成法の提案と MAB 構造赤外線センサ	共著	2007 年 3 月	応用物理学会全国大会 (春季)	小山克人 木村光照	481 頁
ダイオードヒータを用いた薄膜ピラニ真空センサの検討	共著	2007 年 8 月	電気関係学会東北支部大会予稿集	高嶋徳明 木村光照	
光導波路型薄膜ディスプレイの検討	共著	2007 年 8 月	電気関係学会東北支部大会予稿集	舟山幸秀 木村光照	
マイクロ熱分析センサの検討	共著	2007 年 8 月	電気関係学会東北支部大会予稿集	木村大介 木村光照	
薄膜ピラニ真空センサの高感度化の検討	共著	2007 年 9 月	応用物理学会全国大会 (秋季)	高嶋徳明 木村光照	455 頁
DSM 液晶散乱を用いた光導波路型薄膜ディスプレイの検討	共著	2007 年 9 月	応用物理学会全国大会 (秋季)	舟山幸秀 木村光照	1012 頁
Diode temperature sensor with the output voltage proportional to the absolute temperature and its application to the thin film Pirani Vacuum Sensor	共著	2007 年 11 月	The 33rd Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society, Taiwan	N. Takashima M. Kimura	2197~2202 頁
比例型絶対温度センサの高感度化と薄膜真空センサへの応用	共著	2007 年 12 月	応用物理学会東北支部大会	高嶋徳明 木村光照	196~197 頁
DSM 液晶散乱を用いた薄膜光導波路液晶ディスプレイ	共著	2007 年 12 月	応用物理学会東北支部大会	舟山幸秀 木村光照	192~193 頁
光導波路型フレキシブルディスプレイ	共著	2007 年 12 月	応用物理学会東北支部大会	佐藤千尋 木村光照	190~191 頁
多孔質クロム薄膜赤外線吸収膜の検討	共著	2007 年 12 月	応用物理学会東北支部大会	保原優智 木村光照	194~195 頁
差動型電流検出型熱電対の試作とその応用	共著	2007 年 12 月	応用物理学会東北支部大会	木村大介 木村光照	198~199 頁

比例型絶対温度センサの真空センサへの応用とその高感度化	共著	2008年3月	応用物理学会全国大会(春季)	高嶋徳明 木村光照	473頁
電流検出型熱電対と熱分析への応用	共著	2008年3月	応用物理学会全国大会(春季)	木村大介 木村光照	473頁
三層コアを持つ光導波路型液晶ディスプレイ	共著	2008年3月	応用物理学会全国大会(春季)	舟山幸秀 木村光照	
DSM 液晶散乱を用いた新構造薄膜光導波路液晶ディスプレイ	共著	2008年3月	電気学会全国大会予稿集	舟山幸秀 木村光照	269頁
多孔質クロム薄膜とその赤外線吸収膜への応用	共著	2008年3月	電気学会全国大会予稿集	保原優智 木村光照	206頁
差動型電流検出型熱電対の試作とその熱分析への応用	共著	2008年3月	電気学会全国大会予稿集	木村大介 木村光照	207頁
比例型絶対温度センサを用いた真空センサの検討	共著	2008年3月	電気学会全国大会予稿集	高嶋徳明 木村光照	208頁
電流検出型熱電対の熱分析用マイクロセンサへの応用	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	木村大介 木村光照	366頁
温度差検出法による薄膜ピラニ真空センサの検討	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	高嶋徳明 木村光照	365頁
薄膜光導波路静止画像ディスプレイの検討	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	佐藤千尋 木村光照	173頁
フルカラー光導波路型薄膜ディスプレイの検討	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	舟山幸秀 木村光照	172頁
カンチレバ共振を利用した磁気センサの提案	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	千葉久統 木村光照	367頁
電流検出型熱電対を用いた薄膜ピラニ真空センサ	共著	2008年9月	応用物理学会全国大会(秋季)	高嶋徳明 木村光照	382頁
電流検出型熱電対を用いた熱分析用マイクロセンサ	共著	2008年9月	応用物理学会全国大会(秋季)	木村大介 木村光照	382頁
カンチレバ共振型磁気センサの提案	共著	2008年9月	応用物理学会全国大会(秋季)	木村光照 千葉久統	382頁
DSM 液晶散乱を用いたフルカラー光導波路薄膜ディスプレイ	共著	2008年9月	応用物理学会全国大会(秋季)	舟山幸秀 木村光照	865頁
静止画像用フルカラーフレキシブルディスプレイの検討	共著	2008年9月	応用物理学会全国大会(秋季)	木村光照 佐藤千尋	865頁
薄膜ピラニ真空センサにおける測定範囲の拡大	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部大会	高嶋徳明 木村光照	203~204頁
電流検出型熱電対のマイクロカロリメータへの応用	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部大会	木村大介 木村光照	205~206頁
薄膜光導波路ディスプレイの動的特性	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部大会	舟山幸秀 木村光照	203~204頁

フレキシブル静止画光導波路型ディスプレイの構造の改良	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部大会	佐藤千尋 木村光照	203～204頁
共振型磁気センサの提案原理の確認	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部大会	千葉久統 木村光照	207～208頁
真空チャック用マイクロフローセンサの提案	共著	2008年12月	応用物理学会東北支部大会	澤口 航 木村光照	209～210頁
DSM 液晶を用いた光導波路ディスプレイ	共著	2009年3月	電気学会全国大会予稿集	舟山幸秀 木村光照	284頁
薄膜ピラニ真空センサの1気圧付近の高感度化	共著	2009年3月	電気学会全国大会予稿集	高嶋徳明 木村光照	529頁
ダイオードサーミスタを用いた真空パッドの提案	共著	2009年3月	電気学会全国大会予稿集	澤口 航 木村光照	258頁
共振型磁気センサの提案と基本動作の確認	共著	2009年3月	電気学会全国大会予稿集	木村大介 木村光照	260頁
電流検出型熱電対を用いたマイクロ熱分析装置の検討	共著	2009年3月	電気学会全国大会予稿集	千葉久統 木村光照	255頁
導光シート静止画ディスプレイの検討	共著	2009年3月	電気学会全国大会予稿集	佐藤千尋 木村光照	283頁
薄膜ピラニ真空センサのカンチレバの強制振動に依る高感度化	共著	2009年3月	応用物理学会全国大会(春季)	高嶋徳明 木村光照	483頁
フレキシブル導光画像表示シート	共著	2009年3月	応用物理学会全国大会(春季)	佐藤千尋 木村光照	1024頁
共振型磁気センサの基本動作の確認	共著	2009年3月	応用物理学会全国大会(春季)	千葉久統 木村光照	483頁
Si と Ge からの室温 THz フォトルミネセンスの観測	共著	2009年4月	応用物理学会全国大会(春季)	木村光照 西澤潤一 柴田治郎 S. Balasekaran 田邊匡生	1018頁
光導波路シートを用いたディスプレイ装置	共著	2009年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	佐藤千尋 木村光照	125頁
カンチレバ強制振動を用いた熱伝導型圧力センサの測定域拡大	共著	2009年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	高嶋徳明 木村光照	130頁
共振周波数を利用したマイクロカンチレバ型磁気センサ	共著	2009年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	千葉久統 木村光照	131頁
真空パッド用フローセンサの提案	共著	2009年8月	電気関係学会東北支部大会予稿集	澤口 航 木村光照	132頁
カンチレバ強制振動を用いた熱伝導型圧力センサ	共著	2009年10月	応用物理学会全国大会(秋季)	高嶋徳明 木村光照	423頁
フレキシブル導光画像表示シートの改良	共著	2009年10月	応用物理学会全国大会(秋季)	佐藤千尋 木村光照	903頁

マイクロカンチレバの共振周波数シフトを利用した磁気センサ	共著	2009年10月	応用物理学会全国大会(秋季)	千葉久統 木村光照	423頁
MEMS 対応赤外線吸収膜の開発と応用	単著	2009年11月	JST 地域発技術シーズ発表会 in お台場		
水素吸蔵時の発熱反応を利用した水素ガスセンサの提案	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部大会	高嶋徳明 木村光照	78~79頁
強磁性薄膜カンチレバを利用した磁気センサ	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部大会	千葉久統 木村光照	77~78頁
加熱ダイオードを利用した高速応答真空パッド	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部大会	澤口 航 木村光照	81~82頁
張替え可能なフレキシブル導光画像フルカラー表示シート	共著	2009年12月	応用物理学会東北支部大会	佐藤千尋 木村光照	127~128頁
I					
ディスプレイ装置	単著	2005年7月	特願 2005-204400		
熱型気圧センサとこれを用いた気圧計測装置	単著	2005年8月	特願 2005-238240		
深い準位を持つテラヘルツ波発生ダイオードおよびこれを用いたテラヘルツ波放射装置	単著	2005年11月	特願 2005-319902		
電流検出型熱電対の校正方法と校正用熱電対を備えた電流検出型熱電対	単著	2005年11月	特願 2005-332341		
薄膜ピラニー真空センサとこれを用いた真空計測装置	単著	2005年11月	特願 2005-339681		
ディスプレイ装置(優先権主張)	単著	2005年12月	特願 2005-358334		
電流検出型熱電対の校正方法と校正用熱電対を備えた電流検出型熱電対(優先権主張1)	単著	2006年3月	特願 2006-058260		
ダイオード温度測定装置	単著	2006年4月	特願 2006-120220		
カラーディスプレイ装置	単著	2006年6月	特願 2006-160563		
熱伝導型センサとこれを用いた熱伝導型測定値	単著	2006年8月	特願 2006-224180		
電流検出型熱電対の校正方法, 電流検出型熱電対, およびこれを用いた熱型赤外線センサと赤外線検出装置(優先権主張2)	単著	2006年9月	特願 2006-262343		
ガスセンサ素子およびこれを用いたガス濃度測定装置	単著	2006年10月	特願 2006-272548		
電流検出型熱電対等の校正方法, 電流検出型熱電対, 赤外線センサおよび赤外線検出装置(優先権主張3)	単著	2006年11月	特願 2006-300301		

電流検出型熱電対等の校正方法, 電流検出型熱電対, 赤外線センサおよび赤外線検出装置 (PCT 国際出願)	単著	2006 年 11 月	PCT/JP2006/322842		
電流検出型熱電対の校正方法, 電流検出型熱電対, およびこれを用いた熱型赤外線センサと赤外線検出装置 (優先権主張)	単著	2006 年 11 月	特願 2006-300301		
太陽光発電を用いた水素吸蔵装置と水素吸蔵合金電極の形成方法及びその水素吸蔵合金電極	単著	2007 年 1 月	特願 2007-7415		
熱伝導型センサとこれを用いた熱伝導型計測装置 (優先権主張)	単著	2007 年 1 月	特願 2007-17296		
ダイオード温度測定装置 (優先権主張)	単著	2007 年 1 月	特願 2007-18464		
熱伝導型センサとこれを用い熱伝導型計測装置 (優先権主張 2)	単著	2007 年 2 月	特願 2007-44800		
熱型赤外線センサ・放射温度計及び赤外線吸収膜の形成方法 (Cr)	単著	2007 年 3 月	特許第 3928856 号		
熱伝導型センサとこれを用いた熱伝導型計測装置 (優先権主張 3)	単著	2007 年 4 月	特願 2007-103611		
ガスセンサ素子およびこれを用いたガス濃度測定装置 (優先権主張)	単著	2007 年 7 月	特願 2007-195251		
熱電対ヒータとこれを用いた温度計測装置	単著	2007 年 9 月	特願 2007-248520		
不純物濃度センサ, フローセンサおよびこれらを用いた計測・制御システム	単著	2007 年 11 月	特願 2007-305099		
画像表示シートとその製造方法およびコンピュータ支援プロッタ並びにカラー画像表示装置	単著	2007 年 12 月	特願 2007-314187		
ヒータ兼温度センサ素子と, これを用いた気流センサ及び真空パッド, 及び導電膜付チューブ並びに気流検知装置	単著	2008 年 1 月	特願 2008-205		
テラヘルツ波放射素子及びこれを用いたテラヘルツ波放射装置	単著	2008 年 4 月	特願 2008-102962		
加熱励振を利用した熱伝導型気圧センサ	単著	2008 年 8 月	特願 2008-214713		
気体センシングシステムとこれに用いる温度センサ	単著	2008 年 8 月	特許第 4172697 号		
傾斜バンドギャップを用いた電磁波放射素子	単著	2008 年 11 月	特願 2008-288314		
画像表示シートとその製造方法およびカラー画像表示装置並びにコンピュータ支援プロッタ (優先権主張)	単著	2008 年 11 月	特願 2008-299184		

MOS ゲートショットキトンネルトランジスタおよびこれを用いた集積回路	単著	2008 年 11 月	特許第 4213776 号 特許登録		
水素吸蔵装置及びその水素吸蔵電極を利用した電池	単著	2009 年 1 月	特願 2009-17841		
テラヘルツ波集積回路およびこれを用いたテラヘルツ吸収特性計測装置	単著	2009 年 3 月	特願 2009-73053		
センシングユニットとこれを搭載した熱型フローセンサ	単著	2009 年 3 月	特願 2009-80729		
熱分析センサとこれを用いた熱分析装置	単著	2009 年 7 月	特許第 4352012 号 特許登録		
ゼーバック電流積分による温度差検出装置	単著	2009 年 8 月	特願 2009-188088		
温度差の検出方法, 温度センサおよびこれを用いた赤外線センサ	単著	2009 年 9 月	特許第 4374597 号 特許登録		
昇圧装置	単著	2009 年 11 月	特願 2009-270062		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
仙台地域知的クラスター創成事業（文部科学省）	2005 年度及び 2006 年度	共同, サブテーマの分担者	「熱分析マイクロセンサとパッケージングの開発」をテーマに MEMS 熱型センサを開発, H17 年度は, 1727.4 万円, H18 年度は, 1633 万円
シーズ発掘試験研究（科学技術振興機構（JST））	2006 年度	個別	「ダイオード温度センサの研究」をテーマに, 研究費 200 万円
シーズ発掘試験（科学技術振興機構（JST））	2007 年度	個別	赤外線センサの吸収膜を多孔質クロム膜で形成。10 ミクロンメートル波長領域で 96%以上の吸収率を達成した。
つなぐしくみ（科学技術振興機構（JST））	2008 年度	個別	水素キャリアガス中の不純物添加量及びガス流量を計測する MEMS センサの開発研究。
シーズ発掘試験（科学技術振興機構（JST））	2008 年度	個別	「電流検出型熱電対と振動を利用した薄膜ピラニ真空センサの測定域拡大の研究開発」をテーマに研究費 200 万円

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1974 年～	応用物理学会 会員
1980 年～	IEEE 会員
1995 年～	電気学会 会員

1996年～	応用磁気学会 会員
2004～2005年度	電気学会 E 部門 マルチセンシング物理センサ調査専門委員会 委員長
2006年度	電気学会 E 部門 マイクロセンサシステム調査専門委員会 幹事
2006年～2007年	電気学会 E 部門 集積化センシングシステム調査専門委員会 幹事
2008年～2010年	電気学会 E 部門 集積化センサ製作調査専門委員会 幹事

V 芸術分野や体育実技等における主な活動

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
みやぎ産学官研究成果発表交流会出展	仙台国際センター	2005年10月	研究室研究成果展示
みやぎ産学官研究成果発表交流会出展	仙台国際センター	2006年10月	研究室研究成果展示
みやぎ産学官研究成果発表交流会出展	仙台国際センター	2007年10月	研究室研究成果展示
産学官交流大会	仙台国際センター	2008年6月18日	研究室研究成果展示
産学官交流のつどい	福島市ウェディング エルティ	2008年7月7日	研究室研究成果展示
産学官連携フェア	仙台国際センター	2008年9月30日	研究室研究成果展示
みやぎ産学官研究成果発表交流会出展	仙台国際センター	2008年10月	研究室研究成果展示
元気なものづくりサロン in 相双	福島県原ノ町ロイヤルホテル丸屋	2009年2月20日	本学の各種成果とくに産学連携の発表
みやぎ産学官研究成果発表交流会出展	仙台国際センター	2009年10月14日	研究室研究成果展示

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	嶋 敏之	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義をする際に板書およびPowerPoint プレゼンテーションの併用。	2006年		PowerPoint を用いた講義では、集中力が散漫になるせいか現状の学生では急に私語が多くなる。講義をスムーズに進行させるために、前半は板書、中盤にパワーポイント、後半に板書の内容にし、授業に集中できるよう工夫を行った。			
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2007年4月～7月 2008年4月～7月 2009年4月～7月		毎回の授業の冒頭で、前回の復習とその回の概略を必ず説明し、授業終了時にはその回のまとめを行っている。			
	習熟度に合わせた効率的な講義の進捗	2007年4月～7月 2008年4月～7月 2009年4月～7月		情報演習室の講義において学生のデスクトップに気を配りながら学生の理解度に合わせた授業を行っている			
	講義に装置見学を取り入れ、複合的にナノテクの習得を図る	2009年4月～12月		大学院生の専門の講義において、実際に用いている実験装置を見学しながら、先端研究について興味を持たせる様に配慮している。			
3	平成19年度東北学院大学大学院工学研究科FD 研修会における報告「ハイテクリサーチセンターと大学院教育」	2008年2月28日		先端研究と大学院教育について工学研究科FD研究会で報告した。			
4	みやぎ県民大学「大学開放講座」	2006年7月		「最先端技術と私たちの生活」と題して大学開放講座を行った。これからの大学はさらに地域に根ざす必要がある。そのために、講義に参加した中高年の方々にわかりやすく、最先端のナノテクノロジーについて解説を行った。			
	ハイテクリサーチセンターの説明	2007年1月～2008年12月 2009年1月～12月		ハイテクリサーチセンターに訪問した中高生・保護者に対して、センターの設備紹介並びにナノテクについてわかりやすいように説明した。			
	文部科学省 社会人学び直しニーズ対応プログラムにおいて講師を務めた	2007年9月～2008年9月 2009年8月～9月		文部科学省「社会人学び直しニーズ対応プログラム」において小中高の教員にナノテクについてわかりやすく、実験を交えた講義を行った。			
	学会において指導している学生が賞を受賞した	2008年9月		平成20年度の日本磁気学会・学生講演賞(桜井講演賞)を大学院生(加藤 元)「エピタキシャル成長したNd ₂ Fe ₁₄ B 薄膜の構造と磁気特性」の題目で受賞し、大学より学生表彰を受けた。			
	学会において指導している学生が賞を受賞した	2009年9月		平成21年度の日本磁気学会・学生講演賞(桜井講演賞)受賞を大学院生(岩佐拓郎)「Nd-Fe-B 薄膜の磁場中磁区構造観察」の題目で受賞した。			
	東北学院中高大一貫教育関連会議において出前授業の講師を務めた	2009年11月		東北学院榴ヶ岡高校の1年生に対して、「高性能磁石とハードディスク」と題する授業を簡単な実験を交えて行った。			

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Handbook of Magnetism and Advanced Magnetic Materials – Hard Magnetic Films	共著	2007 年	Edited by Helmut Kronmüller and Stuart Parkin, Vol. 4, Novel Materials. John Wiley & Sons Ltd, 2007	T. Shima K. Takanashi	2306～2324 頁
Ba Mechanism of magnetization process of island-like L10 FePt films	共著	2005 年	J. Magn. Magn. Mat. 287	G. -Q. Li H. Takahoshi H. Ito T. Washiya S. Ishio T. Shima K. Takanashi	219～223 頁
Fabrication and Characterization of L10-Ordered FePt/AlO/FeCo Magnetic Tunnel Junctions	共著	2005 年	IEEE Trans. Magn. , 41 (10)	S. Mitani K. Tsukamoto T. Seki T. Shima K. Takanashi	2606～2608 頁
Control of the Size for Octahedral FePt Nanoparticles and Their Magnetic Properties	共著	2005 年	IEEE Trans. Magn. , 41 (10)	H. Ito T. Shima K. Takanashi Y. K. Takahashi K. Hono	3373～3375 頁
Improvement of Hard Magnetic Properties in Microfabricated L1-FePt Dot Arrays Upon Post-Annealing	共著	2005 年	IEEE Trans. Magn. , 41 (10)	T. Seki T. Shima K. Yakushi ji K. Takanashi G. -Q. Li S. Ishio	3604～3606 頁
Reconstruction of atomic images from multiple-energy x-ray holograms of FePt films by the scattering pattern matrix method	共著	2005 年	Appl. Phys. Lett. , 87 (23)	Y. Takahashi E. Matsubara Y. Kawazoe K. Takanashi T. Shima	234104 頁
Anomalous magnetization processes and non - symmetrical domain wall displacements in L10 FePt particulate films	共著	2006 年	J. Magn. Magn. Mat. 303	G. -Q. Li H. Saito S. Ishio T. Shima K. Takanashi	14～19 頁
Magnetic properties of L10 ordered FePt films prepared on a Fe - Si - B - Nb - Cu soft magnetic underlayer	共著	2006 年	Mater. Trans. , 47(1)	I. Fujii T. Shima K. Takanashi	47～51 頁
Formation of octahedral FePt nanoparticles by alternate deposition of FePt and MgO	共著	2006 年	Appl. Phys. Lett. , 88 (6) (2006)	T. Shima K. Takanashi Y. K. Takahashi K. Hono	063117 頁

Nucleation-type magnetization behavior in FePt (001) particulate films	共著	2006年	J. Appl. Phys., 99(3)	T. Shima K. Takanashi Y. K. Takahashi K. Hono G. -Q. Li S. Ishio	033516頁
Domain wall resistance in FePt wire with perpendicular magnetic anisotropy	共著	2006年	J. Appl. Phys., Vol. 99, No. 8	H. Tanigawa A. Yamaguchi S. Kasai T. Ono T. Seki T. Shima K. Takanashi	08G520-1-3 頁
Dot size dependence of magnetic properties in microfabricated L10 - FePt (001) and L10-FePt (110) dot arrays	共著	2006年	J. Appl. Phys., Vol. 100, No. 4	T. Seki T. Shima K. Yakushi ji K. Takanashi G. -Q. Li S. Ishio	043915-1-8 頁
Asymmetric initial magnetization process of elongated particles in nucleation-type L10 FePt films	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater. 315(2)	G. -Q. Li H. Saito S. Ishio T. Shima K. Takanashi Z. H. Xiong	126~131頁
Perpendicular magnetization of L10 - ordered FePt films in the thinnest limit	共著	2007年	Appl. Phys. Lett. 90 (13)	S. Imada A. Yamasaki S. Suga T. Shima K. Takanashi	132507
Structure and magnetic properties for L10-ordered FeNi films prepared by alternate monatomic layer deposition	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater. 310	T. Shima M. Okamura S. Mitani K. Takanashi	2213~2214 頁
Epitaxial growth of L10-FePt/MgO/ L10-FePt (001) trilayer structures	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater. 310	M. Hagiuda S. Mitani T. Seki K. Yakushi ji T. Shima K. Takanashi	1905~1907 頁
Magnetic bubbles in FePt nanodots with perpendicular anisotropy	共著	2007年	Phys. Rev. B, 76	C. Moutafis S. Komineas C. A. F. Vaz J. A. C. Bland T. Shima T. Seki K. Takanashi	104426
Morphology and domain pattern of epitaxially grown L10 FePt elongated particles	共著	2007年	J. Magn. Magn. Mater. Vol. 319	G. -Q. Li H. Saito S. Ishio T. Shima K. Takanashi Z. Xiong	73~79頁

Magnetization reversal process in micro-fabricated L10-FePt dots	共著	2008 年	J. Phys. D:Appl. Phys. 41	D. Wang T. Seki K. Takanashi T. Shima	195008
Phenomenological analysis of magnetization reversal process for L10-FePt (001) particulate films	共著	2008 年	J. Appl. Phys.	D. Wang T. Seki K. Takanashi T. Shima G. -Q. Li H. Saito S. Ishio	to be published
Phenomenological analysis of magnetization reversal process for L10-FePt (001)particulate films	共著	2009 年	J. Appl. Phys. Vol. 105, No. 7 (2009) pp.	D. Wang T. Seki K. Takanashi T. Shima G. -Q. Li H. Saito S. Ishio	07A702-1-3
C ハード・ソフト磁性材料における高性能化とナノ組織制御技術「薄膜化技術による Nd-Fe-B 系磁石の高保磁力化と保磁力機構」	共著	2008 年 12 月	日本応用磁気学会第 163 回研究会資料	嶋 敏之 加藤 元 岩佐拓郎 石岡 創 岡なつみ 佐藤 岳	17~24 頁
D 微細加工 FePt 規則合金ドット配列の作製と磁化過程	共著	2005 年	電気学会研究会資料, マグネティックス研究会 MAG-05-74	関 剛斎 嶋 敏之 薬師寺啓 李 国慶 高梨弘毅 石尾俊二	5~10 頁
L10FePt ナノ構造エピタキシャル薄膜の磁化過程	共著	2006 年	日本応用磁気学会第 146 回研究会資料「L10 型磁性規則合金の基礎とその進展」	高梨弘毅 嶋 敏之 関 剛斎	33~40 頁
G FePt/Au 層状構造における CPP-GMR とスピン拡散長の評価	共著	2005 年 3 月	日本物理学会第 60 回 年次大会	関 剛斎 三谷誠司 薬師寺啓 嶋 敏之 高梨弘毅	
スパッタ法による FePt ナノ粒子集合体の作製と磁化過程	共著	2005 年 3 月	日本金属学会 2005 年 春期大会	嶋 敏之 伊藤弘高 高梨弘毅 高橋有紀子 宝野和博	
A10 障壁層の分割成長による FePt トンネル接合の作製と磁気抵抗効果	共著	2005 年 3 月	日本金属学会 2005 年 春期大会	三谷誠司 塚本和彦 関 剛斎 嶋 敏之 高梨弘毅	

微細加工FePt ドット配列の作製とその磁気特性	共著	2005年3月	日本金属学会 2005年 春期大会	関 剛斎 定方 徹 嶋 敏之 薬師寺啓 高梨弘毅 李 国慶 石尾俊二
FePt 規則合金を用いた CPP 素子の作製とその GMR 特性	共著	2005年3月	日本金属学会 2005年 春期大会	関 剛斎 三谷誠司 薬師寺啓 嶋 敏之 高梨弘毅
障壁層の分割成長による L10-FePt トンネル接合の作製	共著	2005年3月	第 52 回応用物理学関 連連合講演会	三谷誠司 塚本和彦 関 剛斎 嶋 敏之 高梨弘毅
パルス電流による FePt 細線中の磁壁移動	共著	2005年9月	第 29 回日本応用磁気 学会	谷川博信 山口明啓 葛西伸哉 小野輝男 関 剛斎 嶋 敏之 高梨弘毅
FeAl 地層上に作製した FePt エピタキシャル薄膜の磁気特性	共著	2005年9月	第 29 回日本応用磁気 学会	林 健一 嶋 敏之 李 国慶 高梨弘毅 常包将史 吉見享祐
L10-FePt (001) 垂直磁化膜を用いたトンネル接合の作製	共著	2005年9月	第 29 回日本応用磁気 学会	萩生田学 三谷誠司 関 剛斎 薬師寺啓 嶋 敏之 高梨弘毅
ナノ結晶軟磁性層上に作製した FePt 規則合金薄膜の構造及び磁気特性	共著	2005年9月	日本金属学会 2005年 秋期大会	藤井一郎 嶋 敏之 高梨弘毅
FeAl ナノ構造化表面に作製した FePt 薄膜の微細構造と磁気特性	共著	2005年9月	日本金属学会 2005年 秋期大会	林 健一 嶋 敏之 李 国慶 高梨弘毅 常包将史 吉見享祐
交換結合 FePt/Fe 微小ドットの作製と磁気特性	共著	2005年9月	日本金属学会 2005年 秋期大会	定方 徹 関 剛斎 嶋 敏之 薬師寺啓 高梨弘毅

Nanostructure and magnetization process in FePt thin films (Invited)	共著	2005年9月	International Symposium on Physics of Magnetic Materials (ISPMM) 2005, Singapore	K. Takanashi T. Shima Y. K. Takahashi K. Hono G. -Q. Li S. Ishio
Fabrication of FePt nano particles with octahedral structure by thermal cycling procedure	共著	2005年9月	International Symposium on Physics of Magnetic Materials (ISPMM) 2005, Singapore	T. Shima H. Ito K. Takanashi Y. K. Takahashi K. Hono
Current induced magnetization reversal in current-perpendicular-to-plane pillars with FePt layers	共著	2005年9月	International Symposium on Physics of Magnetic Materials (ISPMM) 2005, Singapore	T. Seki S. Mitani K. Yakushiji T. Shima K. Takanashi
Fabrication of L10 ordered Fe-Ni films by alternate monatomic layer deposition	共著	2005年10月~11月	50th annual conference on Magnetism and Magnetic Materials 2005, San Jose	T. Shima M. Okamura K. Takanashi
Control of magnetic domain structure in perpendicular magnetized FePt wire	共著	2005年10月~11月	50th annual conference on Magnetism and Magnetic Materials 2005, San Jose	H. Tanigawa A. Yamaguchi S. Kasai T. Ono T. Seki T. Shima K. Takanashi
Nucleation-type magnetization behavior in epitaxially grown FePt island-like films	共著	2005年12月	The second Asian conference on magnetics, 2005, YongPyong, Korea	T. Shima K. Takanashi Y. K. Takahashi K. Hono
Morphology and domain pattern of epitaxially grown L10 FePt particles	共著	2006年3月	The 8th KIM-JIM Symposium Electronics Device Materials-2006, Waseda University, Tokyo	T. Shima K. Takanashi Y. K. Takahashi K. Hono G. -Q. Li S. Ishio
FeAl/MgO 下地層上に作製した FePt 薄膜の形態及び磁気特性	共著	2006年3月	日本金属学会 2006 年春期大会	李 国慶 林 健一 嶋 敏之 高梨弘毅 常包将史 吉見享祐
エピタキシャル成長した Nd ₂ Fe ₁₄ B 薄膜の構造と磁気特性	共著	2007年9月	第 31 回日本応用磁気学会学術講演会, 学習院大学	加藤 元 佐藤 岳 岩佐拓郎 嶋 敏之
島状 Nd ₂ Fe ₁₄ B 薄膜の作製とその磁気特性	共著	2007年9月	第 31 回日本応用磁気学会学術講演会, 学習院大学	佐藤 岳 加藤 元 岩佐拓郎 嶋 敏之

エピタキシャル成長した Nd ₂ Fe ₁₄ B 薄膜の形態と磁化過程	共著	2007 年 9 月	日本金属学会 2007 年秋期大会, 岐阜大学	嶋 敏之 加藤 元 岩佐拓郎 佐藤 岳	
Crystalline Orientation and Magnetic Properties of Nd ₂ Fe ₁₄ B/Nd thin films	共著	2007 年 10 月	希土類若手研究発表会, 大阪大学	松浦昌志 佐藤 岳 加藤 元 嶋 敏之 手束展規 杉本 諭	
Fabrication of Nd ₂ Fe ₁₄ B thin films with island structure and their magnetic properties	共著	Oct. 2007	6th International Symposium on Magnetic Multilayers (IEEE-MML2007), Perth.	T. Sato H. Kato T. Shima	
Magnetic properties and structure of epitaxially grown Nd ₂ Fe ₁₄ B thin films	共著	Oct. 2007	6th International Symposium on Magnetic Multilayers (IEEE-MML2007), Perth.	H. Kato T. Sato T. Shima	
Magnetization behavior in epitaxially grown FePt films	共著	Nov. 2007	2007 MRS (Material Research Society) Fall Meeting, Boston, USA	T. Shima K. Takanashi	(Invited)
Magnetic properties and structure of Nd-Fe-B thin films prepared on MgO (100) substrate with Ta buffer layer	共著	May. 2008	International Magnetism Conference (INTERMAG2008), Madrid, Spain	H. Ishioka T. Sato H. Kato H. Fujino T. Shima	
In field magnetic domain observation of Nd-Fe-B thin film by magnetic force microscopy	共著	May. 2008	International Magnetism Conference (INTERMAG2008), Madrid, Spain	T. Iwasa H. Ishioka H. Kato T. Sato T. Shima	
Refinement of surface morphology of Nd-Fe-B thin film by low temperature deposition	共著	May. 2008	International Magnetism Conference (INTERMAG2008), Madrid, Spain	H. Kato I. Honda T. Sato T. Shima	
Effect of Nd and Nd ₂ O ₃ layers on the magnetic properties for Nd-Fe-B thin films	共著	May. 2008	International Magnetism Conference (INTERMAG2008), Madrid, Spain	N. Oka T. Sato H. Kato T. Shima	
Enhancement of coercivity of Nd-Fe-B thin films by Tb and Dy layer	共著	May. 2008	International Magnetism Conference (INTERMAG2008), Madrid, Spain	T. Sato N. Oka H. Kato T. Shima	

Fabrication of Nd ₂ Fe ₁₄ B thin films with island structure and its magnetic properties	共著	May. 2008	International Magnetism Conference (INTERMAG2008), Madrid, Spain	T. Shima H. Kato T. Sato	
Ta 下地上に作製した Nd-Fe-B 薄膜の構造と磁気特性	共著	2008 年 9 月	第 32 回日本磁気学会 学術講演会, 東北学院 大学	石岡 創 佐藤 岳 加藤 元 嶋 敏之	
Nd-Fe-B 薄膜の磁場中磁区構造観察	共著	2008 年 9 月	第 32 回日本磁気学会 学術講演会, 東北学院 大学	岩佐拓郎 石岡 創 加藤 元 佐藤 岳 嶋 敏之	
希土類キャップ層による Nd-Fe-B 薄膜の磁気特性の変化	共著	2008 年 9 月	第 32 回日本磁気学会 学術講演会, 東北学院 大学	佐藤 岳 岡なつみ 嶋 敏之	
微細加工により作製した FePt 円形ドットの磁区構造観察	共著	2008 年 9 月	日本金属学会 2008 年 秋期 (第 143 回) 大会, 熊本大学	桑野聡子 石岡 創 岩佐拓郎 嶋 敏之 高梨弘毅	
Nd-Fe-B 薄膜の表面形状と磁気特性	共著	2008 年 9 月	日本金属学会 2008 年 秋期 (第 143 回) 大会, 熊本大学	加藤 元 嶋 敏之 佐藤 岳	
Nd および Nd-O キャップ層による Nd-Fe-B 薄膜の磁気特性の変化	共著	2008 年 9 月	日本金属学会 2008 年 秋期 (第 143 回) 大会, 熊本大学	岡なつみ 佐藤 岳 嶋 敏之	
Magnetization process in hard magnetic materials	共著	Oct. 2008	The 5th Asia Forum on Magnetism, Beijing, China	T. Shima	(Invited)
Nd-Fe-B 薄膜の保磁力と磁区構造	共著	2009 年 3 月	日本金属学会 2009 年 春期 (第 144 回) 大会, シンポジウム, 東京工 業大学	嶋 敏之 加藤 元 岩佐拓郎 石岡 創 岡なつみ 佐藤 岳	
Enhancement of coercive force for Nd-Fe-B thin films by rare earth cap layers	共著	July. 2009	20th International Colloquium on Magnetic Films and Surfaces, Berlin, Germany	N. Oka T. Sato H. Kato T. Shima	
Effect of Cu intermediate layer on the magnetic properties of Fe/FePt thin films	共著	July. 2009	20th International Colloquium on Magnetic Films and Surfaces, Berlin, Germany	H. Ishioka M. Tahara T. Sato T. Shima	

Magnetization process of FePt and FePt/Fe thin films and their micro-fabricated dots	共著	July. 2009	20th International Colloquium on Magnetic Films and Surfaces, Berlin, Germany	S. Kuwano H. Ishioka T. Iwasa K. Sato C. Moutafis T. Shima K. Takanashi	
In field magnetic domain observation for Nd-Fe-B circular dot arrays with perpendicular anisotropy	共著	July. 2009	International Conference on Magnetism, Karlsruhe, Germany	H. Kato T. Iwasa K. Sato T. Sato T. Shima	
FePt/Fe 二層膜の構造と磁気特性	共著	2009年9月	第33回日本応用磁気学会学術講演会, 長崎大学	石岡 創 佐藤 岳 嶋 敏之	
Cu 被覆した Nd-Fe-B 薄膜の磁気特性	共著	2009年9月	第33回日本応用磁気学会学術講演会, 長崎大学	岡なつみ 佐藤 岳 三品由利子 嶋 敏之	
Nd-Fe-Cu 系薄膜の構造と磁気特性	共著	2009年9月	日本金属学会 2009年秋期(第145回)大会, 京都大学	三品由利子 岡なつみ 中田春香 嶋 敏之 佐藤 岳	
スパッタ法により作製した Nd-Fe-B 薄膜の磁気力顕微鏡による磁区構造観察	共著	2009年9月	日本金属学会 2009年秋期(第145回)大会, 京都大学	佐藤浩太郎 三品由利子 岩佐拓郎 佐藤 岳 嶋 敏之	
Fe 層付与による FePt 薄膜および FePt 円形ドットの磁化過程の変化	共著	2009年9月	日本金属学会 2009年秋期(第145回)大会, 京都大学	桑野聡子 石岡 創 佐藤浩太郎 嶋 敏之 高梨弘毅	
I 書き込みが容易な FePt 永久磁気記録媒体の製造法	共著		特開 2005-285207 2005年10月13日公開	嶋 敏之 高梨弘毅 高橋有紀子 宝野和博	日本
島状磁性薄膜及びその製造方法	発明者	2007年9月出願	特願 2007-234579	嶋 敏之 佐藤 岳 庄司哲也	
希土類高配向磁性薄膜とその製造方法, 磁器部材および希土類永久磁石	発明者	2009年1月出願	特願 2009-199092	嶋 敏之 佐藤 岳 庄司哲也	
希土類磁石とその製造方法および磁石複合部材	発明者	2009年9月出願	特願 2009-209672	佐藤 岳 嶋 敏之 庄司哲也 宮本典孝 杉本 諭	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
基盤研究(B) (一般) (文科省)	2005 年	共同 磁気特性の評価	スピントロニクス分野における単一電子トンネル効果に関する研究。
トヨタ先端技術共同研究・領域2 (ナノ構造・組織制御) (トヨタ自動車)	2006 年 2007～2008 年度 2009 年度	個別	ハイブリッドカーに搭載されているモーターの磁石は温度特性の改善のために希少希土類金属である Dy が用いられている。この Dy の役割を解明する。
私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費補助	2007 年度	個別	ナノ構造薄膜作製装置を用いた先端材料研究の教育への応用
東北学院個別・共同研究助成金	2008 年度	個別	ポリスチレンナノ粒子を用いたナノリソグラフィ技術の確立
私立大学・教育学習方法等改善支援	2009 年度	個別	ナノ構造薄膜作製装置を用いた先端材料研究の教育への応用
ナノコンポジット材料開発 (豊田中央研究所)	2009 年度	個別	高性能希土類磁石の高性能化を目指ための原理機構を解明する
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2007 年 1 月～	日本磁気学会会員		
2007 年 1 月～	日本金属学会会員		
2007 年 9 月～2008 年 1 月	文部科学省 社会人学び直しニーズ対応プログラムにおいて講師担当		
2008 年 3 月 18 日	平成 19 年度ハイテクリサーチセンター公開シンポジウム		
2008 年 7 月～8 月, 2009 年 8 月～9 月	文部科学省 社会人学び直しニーズ対応プログラムにおいて講師担当		
2008 年 9 月 12～15 日	第 312 回日本磁気学会学術講演会 実行委員		
2009 年 1 月～	IEEE Magnetics Society Technical Committee Member		
2009 年 1 月～	International Symposium on Advanced Magnetic Materials and Application (ISAMMA2010) 実行委員		
2009 年 11 月～	IEEE Member		
2009 年 11 月～	電気学会会員		

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	原 明人	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	勉学サポート			期末	期末に2週間ほど、講義に対する質問などの専用の学生対応の時間帯を設け、学生のサポートを行った。		
	パワーポイントの積極的活用				電子回路学など、複雑な回路を説明するためにパワーポイントを積極的に活用し、学生の理解の向上と講義の効率化を図った。		
4	みやぎ県民大学「大学開放講座」			2006年7月5日	「身近にある半導体デバイスあれこれ」		
	学びなおし教育			2007年, 2008年, 2009年	薄膜形技術に関する実験を担当		
	学都仙台コンソーシアム オープンキャンパス			2008年12月	薄型ディスプレイを可能にする薄膜トランジスタの世界		
	理科研究会			2009年	金属薄膜形成に関する実験を担当		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba							
Structural Element of Shallow Thermal Donors Formed in Nitrogen-gas-doped Silicon Crystals			単著	2007年2月	Jpn. J. Appl. Phys. 46		463~466頁
Diffusion Coefficient of Hydrogen in Silicon Crystals at an Intermediate Temperature			単著	2007年3月	Jpn. J. Appl. Phys. 46		962~964頁
Effect of Ion Implantation on Dislocation Motion in SiGe/Si Heterostructure			共著	2007年6月	Jpn. J. Appl. Phys. 46	A. Hara N. Tamura T. Nakamura	3524~3526頁
An experimental approach to form selective single-crystalline silicon on nonalkaline glass using self-aligned heat reservoirs and continuous-wave green-laser lateral crystallization			単著	2008年9月	Thin Solid Films 516		7350~7353頁
Effect of phosphorous implantation on threading dislocation motions in SiGe/Si heterostructures			単著	2008年10月	J. Appl. Phys. 104		76105
Observation of Dislocation Motion in Si _{1-x} Ge _x Thin Film on Si Substrate by Laser Scattering Method			共著	2009年1月	Jpn. J. Appl. Phys. 48	A. Hara N. Tamura T. Nakamura	020204
Fabrication of Large Lateral Polycrystalline Silicon Film by Laser Dehydrogenation and Lateral Crystallization of Hydrogenated Nanocrystalline Silicon Films			共著	2009年12月	Jpn. J. Appl. Phys. 48 (2009)	T. Sato K. Yamamoto J. Kambara K. Kitahara ©A. Hara	印刷中

Bb	イオン注入により導入された酸素・窒素不純物が SiGe/Si ヘテロ構造の転位の挙動に及ぼす影響について	共著	2006 年 12 月	電子情報通信学会技術研究報告 TECHNICAL REPORT OF IEICE SDM2006-202-216	◎原 明人 田村直義 中村友二	71~76 頁
	光散乱法を利用した薄膜 Si _{1-x} Ge _x /Si の転位運動の観測	共著	2007 年	電子情報通信学会技術研究報告. SDM, シリコン材料・デバイス 107 (388)	原 明人 田村直義 中村友二	31~34 頁
	ガラス上に形成された大粒径を有する多結晶シリコン薄膜におけるゲッターリング現象	共著	2009 年 12 月	電子情報通信学会技術研究報告 TECHNICAL REPORT OF IEICE SDM2009	◎原 明人 佐藤 功	63~65 頁
G	ガラス基板上にシステム・インテグレーションを可能にする高性能多結晶シリコン薄膜トランジスタの実現	単著	2006 年 7 月	東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会		
	水素ドーブおよび窒素ドーブ CZ-Si 結晶に形成されるナノ構造体ドナーの熱的挙動	単著	2006 年 8 月	応用物理学会講演会 2006 年 秋 29a-ZG-5		
	Effect of Implanted Oxygen and Nitrogen on Mobility and Generation of Dislocation in SiGe/Si Heterostructure	共著	2006 年 9 月	Extended Abstract of the 2006 International Conference of Solid State Devices and Materials (2006 SSDM)	◎A. Hara N. Tamura T. Nakamura	458~459 頁
	中温度領域におけるシリコン結晶中の水素の拡散係数	単著	2007 年 3 月	2007 春季応用物理学会講演会		27a-R-3
	SiGe/Si ヘテロ構造における転位の易動度に及ぼすイオン注入の影響	単著	2007 年 3 月	2007 春季応用物理学会講演会		27p-N-5
	Effect of Ion Implantation on Dislocation in SiGe/Si Heterostructure	単著	2007 年 9 月	Extended Abstract of the 2007 International Conference on SOLID STATE DEVICES AND MATREALS		364~365 頁
	光散乱法を利用した薄膜 SiGe/Si の転位運動の観測	共著	2008 年 3 月	2008 年春季第 55 回応用物理学関係連合講演会	原 明人 田村直義 中村友二	27p-F-19
	レーザ結晶化 SiGe 薄膜中の横成長に対するラマン分光による評価	共著	2008 年 3 月	2008 年春季第 55 回応用物理学関係連合講演会	小羽田光則 北原邦紀 原 明人	29a-G-13
	シリコン結晶中のナノ構造体ドナーの物性と制御	共著	2008 年 6 月	平成 19 年度東北大学金属材料研究所研究部共同研究報告	原 明人 大野 裕 米永一郎	

Top Gate Nanocrystalline Silicon Thin Film Transistors with Source/Drain Regions Activated by Continuous Wave Green Laser	共著	2008年7月	Technical Digest of 15th International Workshop on Active Matrix Flatpanel Displays and Devices - TFT Technologies and FPD Materials -	A. Hara S. Kurauchi W. Sato Y. Doi M. Kobata K. Kitaha	177~180頁
レーザ結晶化SiGe薄膜中の横成長に対するラマン分光による評価—その2	共著	2008年8月	2008年秋季応用物理学会	小羽田光則 佐藤 旦 北原邦紀 原 明人	2p-CH-2
固体CWグリーンレーザーを利用した微結晶シリコン薄膜の脱水素およびラテラル結晶化	共著	2008年8月	2008年秋季応用物理学会	原 明人 梅津 涉 佐藤 旦 山本健一 北原邦紀	2a-CH-1
Self-Aligned Top-Gate Nanocrystalline Silicon Thin-Film Transistors with Source/Drain Regions Activated by Diode-Pumped Continuous-Wave Green Laser	共著	2008年9月	Extended Abstract of the 2008 International Conference on SOLID STATE DEVICES AND MATREALS	W. Sato A. Hara S. Kurauchi Y. Doi M. Kobata K. Kitahara	176~177頁
シリコン薄膜トランジスタの高性能化	単著	2008年9月	2008 みやぎ産官学連携フェア		
Dehydrogenation and Lateral Crystallization of Nanocrystalline Silicon Film Using Solid-State Continuous-Wave Green Laser	共著	2008年12月	2008 International Display Woprkshop	T. Sato W. Umez K. Yamamoto A. Hara K. Kitahara	635~638頁
水素化微結晶シリコンを初期膜とするレーザー脱水素およびレーザー結晶化 poly-Si TFT	共著	2009年3月	春季応用物理学会講演会	佐藤 旦 梅津 涉 山本健一 神原潤二 ◎原 明人 北原邦紀	31p-T-17
連続発振レーザーにより横成長させたSiGe薄膜の組成分布と結晶粒界	共著	2009年4月	春季応用物理学会講演会	小羽田光則 広瀬研太 佐藤 旦 北原邦紀 ◎原 明人	1a-T-7
窒素ガス熱処理によって窒素をドーブしたCZ-Si結晶に形成されるSTDの熱的挙動	共著	2009年4月	春季応用物理学会講演会	◎原 明人 及川拓也 大野 裕 米永一郎	2a-E-2
シリコン結晶中のナノ構造体ドナーの物性と制御	共著	2009年6月	東北大学金属材料研究所研究部共同研究報告	原 明人 大野 裕 米永一郎	

Lateral Growth of Polycrystalline Silicon-Germanium Thin Films Enhanced by Continuous Wave Laser Crystallization	共著	2009年7月	Extended Abstract of THE 16 th INT. WORKSHOP ON ACTIVE-MATRIX FLATPANEL DISPLAYS AND DEVICES-TFT TECHNOLOGIES AND FPD MATERIALS,	K. Hirose M. Kobata T. Sato K. Kitahara ◎A. Hara	121~124頁
自己整合メタルダブルゲート p-ch 低温 poly-Si TFT	共著	2009年9月	秋季応用物理学会講演会	佐藤 旦 広瀬研太 北原邦紀 ◎原 明人	9p-TG-13
Self-aligned Metal Double-gate P-channel Low-temperature Poly-Si TFTs Fabricated by DPSS CW Green Laser Lateral Crystallization	共著	2009年10月	Extended Abstracts of the 2009 International Conference on Solid State Devices and Materials	T. Sato K. Hirose K. Kitahara ◎A. Hara	286~287頁
シリコン系薄膜トランジスタの高性能化	単著	2009年10月	宮城ファーム		
CLCによる多結晶 SiGe 薄膜のフロー状成長	共著	2009年11月	第6回薄膜材料デバイス研究会	広瀬研太 佐藤 旦 北原邦紀 ◎原 明人	59~62頁
水素化微結晶シリコンを初期膜とするレーザ脱水素およびレーザ結晶化多結晶シリコン薄膜トランジスタ	共著	2009年11月	第6回薄膜材料デバイス研究会	佐藤 旦 渋谷 潤 山本健一 北原邦紀 ◎原 明人	104~105頁
ガラス上の自己整合メタルダブルゲート低温 poly-Si TFT	共著	2009年12月	2009年応用物理学会東北地区学術講演会	佐藤 旦 佐藤康幸 奥田健一 広瀬研太 北原邦紀 ◎原 明人	155~156頁
Large-Grained Poly-Si Film Fabricated by Ni-SPC and Laser Recrystallization	共著	2009年12月	Extended Abstract of the 16 th International Display Workshops (Miyazaki, 2009)	◎A. Hara T. Sato T. Sato	899~900頁
I 半導体装置の製造方法	共著	2005年3月	特許第3658213号	◎原 明人 北原邦紀 村上 聡	
多結晶半導体膜の形成方法, 半導体デバイスの製造方法及び半導体デバイス製造装置	共著	2005年3月	特許公開 2005-79269	◎竹井美智子 千田 満 竹内文代 原 明人	

Semiconductor device, manufacturing method therefor, and semiconductor manufacturing apparatus	共著	2005年3月	United States Patent 6,861,328	©A. Hara F. Takeuchi K. Yoshino N. Sasaki	
Semiconductor device and method of fabricating the same	単著	2005年6月	United States Patent 6,909,118		
Semiconductor device	共著	2005年8月	United States Patent 6,927,419	©A. Hara N. Sasaki	
Semiconductor thin film forming method and semiconductor device	共著	2005年10月	United States Patent Application 20050236692	©A. Hara N. Sasaki	
半導体装置の製造方法及び半導体製造装置	共著	2005年12月	特許公開2005-354087	©原 明人 竹内文代 吉野健一 佐々木伸夫	
半導体装置及びその製造方法並びにシリコン薄膜の形成方法	単著	2005年12月	特許公開2005-347765		
薄膜トランジスタの製造方法	共著	2006年2月	特許公開2006-49346	©竹井美智子 原 明人	
半導体製造方法	共著	2006年6月	特許第3813288号	©原 明人 北原邦紀 村上 聡	
半導体装置の製造方法	単著	2006年6月	特許第3844640号		
半導体装置及び半導体薄膜	単著	2006年8月	特許公開2002-210828		
Semiconductor device and manufacturing method thereof	単著	2006年8月	United States Patent Application 20060170046		
Semiconductor device and manufacturing method thereof	単著	2006年9月	United States Patent Application 20060202233		
Semiconductor device and manufacturing method thereof	単著	2006年9月	United States Patent Application 20060202234		
半導体装置及び半導体薄膜	単著	2006年9月	特許公開2006-261691		
半導体装置およびその製造方法	単著	2006年10月	特許公開2006-270051		
半導体装置の製造方法	共著	2007年2月	特許第3921384号	竹井美智子 原 明人	
半導体装置	共著	2007年3月	特開2007-67431 (P2007-67431A)	原 明人 佐野泰之 佐々木伸夫 竹井美智子	
Semiconductor thin film forming method and semiconductor device	共著	2007年4月	United States Patent Application	A. Hara N. Sasaki	20070085169

多結晶半導体層の製造方法及び半導体装置の評価方法	共著	2007年8月	特許第3998765号	北原邦紀 村上 聡 原 明人	
Semiconductor thin film forming method and semiconductor device	共著	2007年8月	United States Patent	A. Hara N. Sasaki	7, 262, 431
半導体装置の製造方法	共著	2007年9月	特開2007-227960 (P2007-227960A)	原 明人 佐野泰之 佐々木伸夫 竹井美智子	
半導体装置の製造方法	共著	2007年11月	特許第4035019号	竹井美智子 吉野健一 原 明人	
多結晶シリコン膜の作製方法	共著	2008年1月	特許第4063986号	竹井美智子 原 明人 有本由弘 岸井貞浩	
半導体装置の製造方法	共著	2008年3月	特許第4101409号	三島康由 菅 勝行 竹井美智子 原 明人	
多結晶シリコン膜の成長方法	共著	2008年8月	特許第4162749号	竹井美智子 原 明人 三島康由	
Thin Film Semiconductor Device and Method for Manufacturing the Same	共著	2008年8月	United States Patent Application	K. Yoshino A. Hara M. Takei T. Hirano	20080185667
薄膜トランジスタの製造方法	共著	2009年1月	特許第4243228号	竹井美智子 ◎原 明人	
半導体結晶化方法および薄膜トランジスタの製造方法	共著	2009年3月	特許第4271453号 (P4271453)	竹内文代 ◎原 明人	
薄膜トランジスタ製造方法	共著	2009年5月	特許第4316149号 (P4316149)	竹井美智子 三島康由 ◎原 明人	
半導体装置	単著	2009年6月	特許公開2009-135383		
多結晶半導体膜の形成方法, 半導体デバイスの製造方法及び半導体デバイス製造装置公開番号:	共著	2009年7月	特許公開2009-164652	竹井美智子 千田 満 竹内文代 ◎原 明人	
半導体製造方法	単著	2009年8月	特許公開2009-194348		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金 基盤(B)	2007～2009年	研究代表	フレキシブル薄膜ガラス上の立体ゲートpoly-Si TFTの連続積層化技術 研究課題番号：19360165
科学技術振興機構（JST）平成19年シーズ発掘試験	2007年	研究代表	変形可能なガラス基板上へのダブルゲート微結晶Si TFTを利用したインバータの試作
材料科学技術振興財団（MST）平成19年研究助成金	2007年	研究代表	フレキシブルガラス上への微結晶シリコン薄膜の成長とダブルゲート薄膜トランジスタへの応用
東北大学金属材料研究所 平成19年度共同利用研究	2007年	研究代表	シリコン結晶中のナノ構造体ドナーの物性と制御
東北大学金属材料研究所 平成20年度共同利用研究	2008年	研究代表	シリコン結晶中のナノ構造体ドナーの物性と制御
科学研究費補助金 基盤(C)	2009年	連携研究者	非晶質基板上フロー状多結晶シリコンおよびシリコンゲルマニューム薄膜の開発 研究課題番号：21560329
東北大学金属材料研究所 平成21年度共同利用研究	2009年	研究代表	シリコン結晶中のナノ構造体ドナーの物性と制御
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
			日本物理学会 会員 日本応用物理学会 会員 表面科学会 会員 電子情報通信学会 会員 2008年7月 国際会議 座長 15th International Workshop on Active Matrix Flatpanel Displays and Devices -TFT Technologies and FPD Materials- 2008年12月 (受賞) The 15 th International Display Workshops Outstanding Poster Paper Award. 2009年12月 国内学会座長（第6回薄膜材料デバイス研究会） 2009年12月 (受賞) 第64回応用物理学会東北地区講演会講演奨励賞

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	星 善元	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 最近の研究成果を紹介した。		2002～2006 年		授業の最終日に現在行われている実験の最新成果を紹介した。			
単位認定の基準を公開した。		2006～2009 年		大学要覧記載のシラバスへ単位認定の基準を公開した。			
4 対外関係を伴う教育活動に貢献した。		2002～2006 年		大学院生の国際会議発表の指導を行った。			
第 13 回大学開放講座の講師を務めた。		2005 年 10 月 5 日		世界物理年「奇跡の年から 100 年」と題する講義を行った。			
高校への出前授業の講師を務めた。		2006 年 10 月 17 日		宮城県佐沼高校の 1・2 年生に対して、「反物質の謎」と題する講義を行った。			
リメディアル教育の実践		2006 年		工学部基礎教育センターの相談員を務めた。			
平成 19 年度現職教員研修セミナー（理科）の講師を務めた。		2007 年 7 月 28 日		「対称性とその破れ」についての講義を行った。			
リメディアル教育の実践		2007～2009 年		工学基礎教育センターの相談員を務めた。			
対外関係を伴う教育活動に貢献した。		2007～2009 年		大学院生の国際会議発表の指導を行った。			
平成 21 年度「地域市民のための大学公開講座」の講師を務めた。		2009 年 7 月 8 日		「2008 年ノーベル物理学賞」について講義を行った。			
平成 21 年度教員免許状更新講習会の講師を務めた。		2009 年 8 月 19 日		「物質構造の歴史」について講義を行った。			
平成 21 年度 角田高校大学出張講義の講師を務めた。		2009 年 10 月 15 日		「我々が存在する理由」について講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Improved Measurements of Partial Rate asymmetry in $B \rightarrow hh$ Decays		共著	2005 年	Physical Review D71	Y. Chao P. Chang Y. Hoshi et al.	0315021～ 0315025 頁	
Study of $B^0 \rightarrow \rho^\pm \pi^\pm$ Time-dependent CP Violation at Belle		共著	2005 年	Physical Review Letters 94	C. C. Wang K. Abe Y. Hoshi et al.	1218011～ 1218016 頁	
Observation of $B^0 \rightarrow D_s J^*(2317) + K^-$ decay		共著	2005 年	Physical Review Letters 94	A. Drutskoy K. Abe Y. Hoshi et al.	0618021～ 0618026 頁	

Observation of $B^+ \rightarrow K_1(1270)^+ \gamma$	共著	2005年	Physical Review Letters 94	H. Yang M. Nakao Y. Hoshi et al.	1118021~ 1118025 頁
Measurement of branching fraction and CP asymmetry in $B \rightarrow \eta h$ decay	共著	2005年	Physical Review D71	P. Chang K. Abe Y. Hoshi et al.	0911061~ 0911066 頁
Measurement of the $\gamma \gamma \rightarrow \pi^+ \pi^-$ and $\gamma \gamma \rightarrow K^+ K^-$ processes at energies of 2.4-4.1 GeV	共著	2005年	Physics Letters B615	H. Nakazawa S. Uehara Y. Hoshi et al.	39~49 頁
Observation of $B^0 \rightarrow \pi^0 \pi^0$	共著	2005年	Physical Review Letters 94	Y. Chao P. Chang Y. Hoshi et al.	1818031~ 1818036 頁
Dalitz analysis of the three-body charmless decays $B^+ \rightarrow K^+ \pi^+ \pi^-$ and $B^+ \rightarrow K^+ K^+ K^-$	共著	2005年	Physical Review D71	A. Garmash K. Abe Y. Hoshi et al.	0920031~ 09200324 頁
Evidence for $B^0 \rightarrow D^+ D^-$ and Observation of $B^- \rightarrow D^0 D^-$ and $B^- \rightarrow D^0 D^{*-}$ Decays	共著	2005年	Physical Review Letters 95	G. Majumder K. Abe Y. Hoshi et al.	0418031~ 0418035 頁
Measurement of the Time-Dependent CP-Violating Asymmetry in $B^0 \rightarrow K_S^0 \pi^0 \gamma$ Decay	共著	2005年	Physical Review Letters 94	Y. Ushiroda K. Sumisawa Y. Hoshi et al.	2316011~ 2316015 頁
Search for lepton and baryon number violating τ^- decays into $\bar{\Lambda} \pi^-$ and $\Lambda \pi^-$	共著	2006年	Physics Letters B615	Y. Miyazaki K. Abe Y. Hoshi et al.	51~57 頁
Improved Constraints on $D^0 - \bar{D}^0$ Mixing in $D^0 \rightarrow K^+ \pi^-$ Decays from the Belle detector	共著	2006年	Physical Review Letters 96	I. M. Zhang Z. P. Zhang Y. Hoshi et al.	1518011~ 1518016 頁
Study of $B^{\pm} \rightarrow D_{CP} K^{\pm}$ and $D_{CP}^* K^{\pm}$ decays	共著	2006年	Physical Review D73	K. Abe K. Abe Y. Hoshi et al.	0511061~ 0511066 頁
Search for neutrinoless decays $\tau \rightarrow \ell h h$ and $\tau \rightarrow \ell V^0$	共著	2006年	Physics Letters B640	Y. Yusa K. Abe Y. Hoshi et al.	138~144 頁
Measurement of ϕ_3 with Dalitz plot analysis of $B^+ \rightarrow D^* K^{*+}$ decay	共著	2006年	Physical Review D73	A. Poluektov K. Abe Y. Hoshi et al.	1120091~ 1120096 頁

Search for the h_c meson in $B^\pm \rightarrow h_c K^\pm$	共著	2006年	Physical Review D74	F. Fang T. E. Browder Y. Hoshi et al.	120071～ 120077 頁
Search for lepton flavor violating tau decays with a K_S^0 meson	共著	2006年	Physics Letters B639	Y. Miyazaki K. Abe Y. Hoshi et al	159～164頁
Observation of New States Decaying into $\Lambda_c^+ K^- \pi^+$ and $\Lambda_c^+ K_S^0 \pi^-$	共著	2006年	Physical Review Letters 97	R. Chistov K. Abe Y. Hoshi et al.	1620011～ 1620016 頁
Observation of near-threshold $D^0 \bar{D}^0 \pi^0$ enhancement in the $B \rightarrow D^0 \bar{D}^0 \pi^0 K$ Decay	共著	2006年	Physical Review Letters 97	G. Gokhoroov G. Majumber Y. Hoshi et al.	1620021～ 1620025 頁
Performance of the endcap RPC in the Belle detector under high luminosity operation of the KEKB accelerator	共著	2006年	Nuclear Physics B158	Y. Hoshi K. Neichi A. Yamaguchi	190～194頁
Measurement of branching fraction and q^2 distribution for $B \rightarrow \pi \ell \nu$ and $B \rightarrow \rho \ell \nu$ Decays with $B \rightarrow D^{(*)} \ell \nu$ Decay Tagging	共著	2007年	Physics Letter B 648	T. Hokuue Y. Hoshi et al.	139～148頁
Study of the charmed baryonic decays $\bar{B}^0 \rightarrow \Sigma_c^{++} \bar{P} \pi^-$ and $\bar{B}^0 \rightarrow \Sigma_c^0 \bar{P} \pi^+$	共著	2007年	Physical Review D 75	K. S. Park H. Kichimi Y. Hoshi et al.	0111011 ～ 0111017 頁
Observation of time-dependent CP violation in $B^0 \rightarrow \eta' K^0$ decays and improved measurements of CP asymmetries in $B^0 \rightarrow \phi K^0$, $K_S^0 K_S^0 K_S^0$ and $B^0 \rightarrow J/\psi K^0$ decays	共著	2007年	Physical Review Letters 98	Y. Ushiroda Y. Yusa Y. Hoshi et al.	0318021 ～ 0318026 頁
Moments of the electron energy spectrum and partial branching fraction of $B \rightarrow X_c e \nu$ decays at Belle	共著	2007年	Physical Review D 75	P. Urqui jo E. Barberio Y. Hoshi et al.	0320011 ～ 03200116 頁
Measurement of inclusive D_s , D^0 and J/ψ rates and determination of the $B_s^{(*)} \bar{B}_s^{(*)}$ production fraction in $b \bar{b}$ events at the $Y(5S)$ resonance	共著	2007年	Physical Review Letters 98	A. Drutskoy Y. Hoshi et al.	0520011 ～ 0520016 頁
Search for $B^+ \rightarrow J/\psi \eta' K^+$ and $B^0 \rightarrow J/\psi \eta' K_S^0$ Decay	共著	2007年	Physical Review D 75	Q. L. Xie Y. Hoshi et al.	0171011 ～ 0171016 頁
Dalitz Analysis of Three-body Charmless $B^0 \rightarrow K^0 \pi^+ \pi^-$ Decay	共著	2007年	Physical Review D 75	A. Garmash Y. Hoshi et al.	0120061 ～ 01200610 頁

Study of decay mechanisms in $B^- \rightarrow \Lambda_c^+ \bar{P} \pi^-$ -decay and observation of anomalous structure in the $(\Lambda_c^+ \bar{P})$ system	共著	2007年	Physical Review Letters 97	N. Gabyshev Y. Hoshi et al.	2420011 ~ 2420016 頁
Observation of Direct CP-Violation in $B^0 \rightarrow \pi^+ \pi^-$ Decays and Model - Independent Constraints on ϕ_2	共著	2007年	Physical Review Letters 98	H. Ishino Y. Hoshi et al.	2118011 ~ 2118016 頁
Time-Dependent CP Asymmetries in $B^0 \rightarrow K_S^0 \pi^0 \gamma$ Transition	共著	2007年	Physical Review D 74	Y. Ushiroda K. sumisawa Y. Hoshi et al.	1111041 ~ 1111046 頁
Observation of the decay $\Upsilon(4S) \rightarrow \Upsilon(1S) \pi^+ \pi^-$	共著	2007年	Physical Review D 75	A. Sokolov M. Shapkin Y. Hoshi et al.	0711031 ~ 0711036 頁
Search for Invisible Decay of the $\Upsilon(1S)$	共著	2007年	Physical Review Letters 98	O. Tajima H. Hayashii Y. Hoshi et al.	1320011 ~ 1320016 頁
Moments of the Hadronic Invariant Mass Spectrum in $B \rightarrow X_c \ell \nu$ Decays at Belle	共著	2007年	Physical Review D 75	C. Schwanda Y. Hoshi et al.	0320051 ~ 0320059 頁
A Search for the Rare Leptonic Decays $B^+ \rightarrow \mu^+ \nu_\mu$ and $B^+ \rightarrow e^+ \nu_e$	共著	2007年	Physics Letter B 647	N. Satoyama Y. Hoshi et al.	67~73 頁
Study of $\bar{B}^0 \rightarrow D^0 \pi^+ \pi^-$ decays	共著	2007年	Physical Review D 76	A. Kuzmin Y. Hoshi et al.	0120061 ~ 01200611 頁
Performance of Glass RPC in Streamer Mode for Irradiation with Coherent Photons	共著	2007年	IEEE TRANSACTIONS ON NUCLEAR SCIENCE VOL. 54, NO. 6	S. Narita Y. Hoshi et al.	2642~2645 頁
Production of new charmonium like states in $e^+e^- \rightarrow J/\psi D^{(*)} \bar{D}^{(*)}$ at $\sqrt{s} \sim 10.6\text{GeV}$	共著	2008年	Physical Review Letters 100	P. Pakhlov Y. Hoshi et al.	2020011 ~ 2020016 頁
Search for $\bar{B}^0 \rightarrow \Lambda_c^+ \bar{\Lambda}_c^-$ at Belle	共著	2008年	Physical Review D 77	Y. Uchida H. Ozaki Y. Hoshi et al.	0511011 ~ 0511016 頁
Measurement of the near-threshold $e^+e^- \rightarrow D \bar{D}$ cross section using initial-state radiation	共著	2008年	Physical Review D 77	G. Pakhlova Y. Hoshi et al.	0111031 ~ 0111035 頁
Observation of a resonance-like structure in the $\pi^{+-} \phi'$ mass distribution in exclusive $B \rightarrow K \pi^{+-} \phi'$ decays	共著	2008年	Physical Review Letters 100	S. -K. Choi S. L. Olsen Y. Hoshi et al.	1420011 ~ 1420016 頁
Search for Resonant $B^\pm \rightarrow K^\pm h \rightarrow K^\pm \gamma \gamma$ decays at Belle	共著	2008年	Physics Letter B 662	J. Wicht Y. Hoshi et al.	323~329 頁

Study of $B \rightarrow D^{**} \ell \nu$ with full reconstruction tagging	共著	2008年	Physical Review D 77	D. Liventsev Y. Hoshi et al.	0915031 ~ 0915039 頁
Measurement of Time-Dependent CP - Violation Parameters in $B^0 \rightarrow K_S^0 K_S^0$ decays	共著	2008年	Physical Review Letters 100	Y. Nakahama K. Sumisawa Y. Hoshi et al.	1216011 ~ 1216016 頁
Observation of $D_{S1}(2536) \rightarrow D^+ \pi^- K^+$ and angular decomposition of $D_{S1}(2536) \rightarrow D^{*+} K_S^0$	共著	2008年	Physical Review D 77	V. Balagura Y. Hoshi et al.	0320011 ~ 03200110 頁
New Search for $\tau \rightarrow \mu \gamma$ and $\tau \rightarrow e \gamma$ decays at Belle	共著	2008年	Physics Letter B 666	H. Hayasaka Y. Hoshi et al.	16~22 頁
Study of the decay mechanism for $B^+ \rightarrow p K^+$ and $B^+ \rightarrow p \bar{P} \pi^+$	共著	2008年	Physics Letter B 659	J. -T. Wei M. -Z. Wang Y. Hoshi et al.	80~86 頁
Observation of a new D_{SJ} meson in $B^+ \rightarrow \bar{D}^0 B^0 K^+$ decay	共著	2008年	Physical Review Letters 100	J. Brodzicka H. Palka Y. Hoshi et al.	0920011 ~ 0920016 頁
Improved measurement of time - dependent CP violation in $B^0 \rightarrow J/\psi \pi^0$ decays	共著	2008年	Physical Review D 77	S. E. Lee K. Miyabayashi Y. Hoshi et al.	0711011 ~ 0711016 頁
Observation of $\phi(4415) \rightarrow D \bar{D}_2^*(2460)$ decay using initial-state radiation	共著	2008年	Physical Review Letters 100	G. Pakhlova Y. Hoshi et al.	0620011 ~ 0620016 頁
Observation of $e^+ e^- \rightarrow K^+ K^- J/\psi$ via initial state radiation at Belle	共著	2008年	Physical Review D 77	C. Z. Yuan C. P. Shen Y. Hoshi et al.	0111051 ~ 0111056 頁
Time-Dependent CP Asymmetries in $B^0 \rightarrow \rho^0 \gamma$ Decays	共著	2008年	Physical Review Letters 100	Y. Ushiroda K. Sumisawa Y. Hoshi et al.	0216021 ~ 0216026 頁
Difference in direct charge-parity violation between charged and neutral B meson decays	共著	2008年	Nature 452	S. -W. Lin Y. Unno Y. Hoshi et al.	332~335 頁
Construction and performance of multigap RPC in streamer and avalanche modes	共著	2009年	Nuclear Instruments and Methodes in Physics Resaerch A602	S. Narita Y. Hoshi et al.	814~816 頁
Search for lepton-flavor-violating t decay into a lepton and an $f_0(980)$ meson	共著	2009年	Physics Letters B672	Y. Miyazaki I. Adachi Y. Hoshi et al.	317~322 頁

Precise measurement of hadronic τ -decays with an η meson	共著	2009年	Physics Letters B672	K. Inami T. Ohshima Y. Hoshi et al.	209~218頁
Time-dependence Dalitz plot measurement of CP parameters in $B^0 \rightarrow K_S^0 \pi^+ \pi^-$ decays	共著	2009年	Physical Review D 79	J. Dalseno L. Adachi Y. Hoshi et al.	0720041 ~ 07200417頁
Observation of $B^0 \rightarrow \Lambda \bar{\Lambda} K^0$ and $B^0 \rightarrow \Lambda \bar{\Lambda} K^{*0}$ at belle	共著	2009年	Physics1 Review D 79	Y. -W. chang M. -Z. Wang Y. Hoshi et al.	0520061 ~ 05200613頁
Measurement of the branching fraction for the decay $\Upsilon(4S) \rightarrow \Upsilon(1S) \pi^+ \pi^-$	共著	2009年	Physical Review D 79	A. Sokolov M. Shapkin Y. Hoshi et al.	0511031 ~ 0511035頁
Measurement of the $e^+e^- \rightarrow J/\psi cc^-$ cross section at root s=10.6GeV	共著	2009年	Physics1 review D 79	P. Pakhlov H. Aihara Y. Hoshi et al.	0711011 ~ 0711017頁
High-statistics study of neutral-pion production in two-photon collision	共著	2009年	Physical Review D 79	S. Uehara Y. Watanabe Y. Hoshi et al.	0520091 ~ 05200913頁
Search for the X(1812) in $B^\pm \rightarrow K^\pm \omega \phi$	共著	2009年	Physical Review D 79	C. Liu Z. P. Zhang Y. Hoshi et al.	0711021 ~ 0711026頁
Measurement of $B \rightarrow D_s^{(*)} K \pi$ branching fractions	共著	2009年	Physical Review D 80	J. Wiechczynshi T. lesiak Y. Hoshi et al.	0520051 ~ 0520057頁
Observation of the Doubly Cabibbo-Suppressed Decay $D_s^+ \rightarrow K^+ K^- \pi^-$	共著	2009年	Physical Review Letters 102	B. R. Ko E. Won Y. Hoshi et al	2218021 ~ 2218025頁
Measurements of charmless hadronic $b \rightarrow s$ penguin decays in the $\pi^+ \pi^- K^+ \pi^-$ final state and first obsevation of $B_0 \rightarrow \rho K^+ K^-$	共著	2009年	Physical Review D 80	S. -H. Kyeong Y. -J. Kwon Y. Hoshi et al.	0511031 ~ 0511036頁
Dalitz Analysis of $B \rightarrow K \pi^+ \phi'$ decays and the Z(4430)+	共著	2009年	Physical Review D 80	R. Mizuk I. Adachi Y. Hoshi et al.	0311041 ~ 0311047頁
Measurement of γ CP in D^0 meson decay to the $K_S^0 K^+ K^-$ final state	共著	2009年	Physical Review D 80	A. Zupanc I. Adachi Y. Hoshi et al.	0520061 ~ 05200611頁

Observation of the ϕ (1680) and $Y(2175)$ in $e^+e^- \rightarrow \phi \pi^+ \pi^-$	共著	2009年	Physical Review D 80	C. P. Shen C. Z. Yuan Y. Hoshi et al.	0311011 ~ 0311017 頁
High-statistics study of $\eta \pi^0$ production in two-photon collision	共著	2009年	Physical Review D 80	S. Uehara Y. Watanabe Y. Hoshi et al.	0320011 ~ 03200117 頁
G Performance of the endcap RPC in the Belle detector under high luminosity operation of the KEKB accelerator	共著	2005年10月	The 8th International Workshop on Resistive Plate Chamber and Related Detectors Korea University, Seoul, Korea	Y. Hoshi K. Neichi A. Yamaguchi	
Performance of Glass RPC in Streamer Mode for Irradiating Coherent Photons	共著	2006年10月	IEEE Nuclear Science Symposium San Diego CA, USA	S. Narita Y. Hoshi K. Neichi A. Yamaguchi	
Construction and Performance of Multigap RPC in Streamer and Avalanche mode	共著	2008年2月	The 9th International Workshop Resistive Plate Chamber and Related Detectors, Mumbai India	Y. Hoshi S. Narita et al.	
Measurement of Streamer and Avalanche Size by Using RPC with Submilli - Strips	共著	2008年10月	IEEE Nuclear Science Symposium, Dresden Germany	D. Miura Y. Hoshi et al.	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究補助金基盤研究(C) 継続	2007年	共同・研究代表者	高抵抗電極板型検出器の医用への応用
東北学院大学個別研究助成金	2007年	個別	高抵抗電極板型検出器RPCの高時間分解能に関する研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1975年～	日本物理学会会員
1990年～	IEEE（米国電気電子学会）会員
2004年～	日本加速器学会会員

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	星宮 務	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業理解促進のための講義ノート, ならびに プリント作成と配布	2007年1月～2008年12月	2009年1月～12月	大学院の講義において, プリントを配布して講義を行った。学部講義においては, テキストで不足する部分のプリントを配布した。			
	大学院生ならびに学部学生の学会原稿執筆 指導と添削ならびにプレゼンテーション指導	2007年1月～2008年12月	2009年1月～12月	大学院 (3科目) ならびに学部 (講義3科目, 演習2科目) 大学院生に関しては学会全国大会の日本語原稿ならびに国際会議の英文原稿の作成と添削, 学部学生に関しては出来るだけ学会支部大会への発表を勧め, 原稿の作成と添削指導を行っている。			
2	「電子工学実験Ⅳ」教材の作成と実験指導の 実践 (Ⅰ)	2008年10月21, 28日, ならびに11月11日, 18日		学生実験の課題名「光センサと分光測定」のテキスト (6頁) を執筆し, 電子工学科3年生AG, BGそれぞれに対して, 各2回2コマ連続の実験指導を行う。			
	「電子工学実験Ⅳ」教材の作成と実験指導の 実践 (Ⅱ)	2008年12月2, 9, 16日		学生実験の課題名「変位センサと同期検波」のテキスト (8頁) を執筆し, 電子工学科3年生AG, BGに対して, 合計3回各2コマ連続の実験指導を行う。			
3	第54回応用物理学関係連合講演会 (東京理 科大) においてパネリストを担当	2007年3月28日		応用物理学会「リフレッシュ理科教室」の担当委員として東北支部の活動を報告した。			
4	応用物理学会「リフレッシュ理科教室」委員 を担当	2007年1月～12月 (前年より 継続)		応用物理学会で開催する「リフレッシュ理科教室」の担当委員として全国の委員と活動状況の相互報告などの活動を行った。			
	「応用物理学会誌創刊75周年記念理科教室」 実行委員を担当	2007年8月3～4日		科学技術館 (東京都) で開催された上記理科教室で, 子供たちに「ヘルツの実験」などを指導した。			
	高校への出前講義の講師を務めた	2007年12月11日		宮城県第三女子高校で「光の性質 ～反射と屈折に焦点をあてて～」と題する講義を行った。			
	上級教育士 (工学・技術) の資格を取得	2008年4月～		日本工学教育協会より認定される。			
	高校への出前講義の講師を務めた	2008年9月4日		宮城県伊具高校で「レーザー～新しい光～」と題する講義を行った。			

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Evaluation of Quality of Rice Grains by Photoacoustic imaging	共著	2005年6月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 44, No. 6B	M. Suzuki K. Miyamoto T. Hoshimiya	4480～4481 頁
Measurement of Amount and Number of Pollen of <i>Cryptomeria japonica</i> (<i>Taxodiaceae</i>) by Imaging with Photoacoustic Microscope	共著	2006年3月	IEEE Trans. UFFC vol. 53	K. Miyamoto T. Hoshimiya	586～591頁
Nondestructive Detection of Tilted Surface Defect with Wedge Shape by Photoacoustic Microscopy	共著	2006年5月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 45, No. 5B	H. Endoh N. Ohtaki T. Hoshimiya	4609～4611 頁
Nondestructive Image Evaluation of Welded Zone of Steel Plate by Photoacoustic Microscope	共著	2007年7月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 46, 4613-4615	◎N. Ohtaki M. Hatake-yama M. Suzuki H. Endoh T. Hoshimiya M. Kawakami Y. Muraki T. Nakajima A. Tominaga M. Takeshi	
光熱電気化学映像法によるステンレス 鋼板溶接部の評価	共著	2007年12月	光学, vol. 36, No. 12, pp712-716	◎樋渡洋一郎 鎌田諒大 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	
Nondestructive Evaluation of Internal Defect in Weld Metal by Photoacoustic Microscopy	共著	2008年5月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 47, 3994-3996	◎M. Hatake-yama T. Takatsu H. Endoh T. Hoshimiya	
Nondestructive Evaluation of Compound Weld Defect by Photoacoustic Microscopy	共著	2009年7月	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 48, No. 7, pp. 07GE03-01-07GE03 -03	D. Shiraishi H. Endoh T. Hoshimiya	
Bb 超音響顕微鏡によるスギ花粉の個別粒 子計測	共著	2005年1月～2月	超音波テクノ vol. 17, No. 1	宮本克彦 星宮 務	98～102頁
総合報告 最近の超音響応用と今後の 展開	単著	2005年2月	光学 vol. 34, No. 2		62～68頁
傾斜表面欠陥の超音響顕微鏡による観 察と非破壊評価	共著	2005年3月～4月	超音波テクノ vol. 17, No. 2	遠藤春男 宮本克彦 星宮 務	23～27頁
Undersurface Photoacoustic Imaging of Plane Solid Specimens by the use of a Line Laser Beam	共著	2005年9月	Proceedings of the IEEE International Ultrasonics Symposium, P3F-9 (Rotterdam, 2005. 9)	T. Hoshimiya S. Manabu	

楔形状を有する傾斜表面欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検出	共著	2006年9月～10月	超音波テクノVol. 18, No. 5	遠藤春男 星宮 務	27～30 頁
光音響・熱映像法とその応用	単著	2006年12月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 41, No. 1		95～102 頁
Photoacoustic Tomographic Characterization of Surface and Undersurface Simulated Defects with a Line-focus Laser Beam	共著	2007年1月	Proceedings of 2006 IEEE International Ultrasonics Symposium (Vancouver)	©T.Hoshimiya M. Hatake-yama	780～783 頁
Low-price Optical Microscope for School Science Education	共著	2007年12月	Proceedings of ETOP (Education and Training in Optics and Photonics) 2007 (web edition), Paper No. 97-hok8-161 (Ottawa)	©T.Hoshimiya M. Kumagai	
直線収束ビーム光音響トモグラフィ＝表面・表面下欠陥の映像化＝	共著	2009年3月	超音波テクノ, vol. 21, No. 2	畠山美香 遠藤春男 星宮 務	94～97 頁
電解液ゲルを用いた光熱電気化学検出器の小型化	共著	2009年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要 vol. 20	谷藤清朗 遠藤春男 星宮 務	68～73 頁
G 共鳴型光音響効果を用いた開放型超音波計測法	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-3-15(東北文化学園大学)	石川健哉 星宮 務	
光音響顕微鏡による表面下傾斜欠陥の非破壊検出	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-3-16(東北文化学園大学)	大瀧直樹 鎌田諒大 川上史徳 猪股恵太 遠藤春男 星宮 務	
レーザー超音波法を用いた局部薄板非破壊検査の基礎的検討	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-3-17(東北文化学園大学)	鈴木 学 藁科栄美 三野宮利男 星宮 務 中鉢憲賢	
光熱・電気化学法によるステンレス鋼の人工孔食映像化の試み	共著	2005年3月	平成17年東北地区若手研究者研究発表会予稿集YS-3-20(東北文化学園大学)	鎌田諒大 石川健哉 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	
米粒の品質の光音響画像による評価の実験的検討	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2B-06(岩手大)	鈴木 学 寺沢 裕 星宮 務	

光音響顕微映像法による傾斜表面欠陥の欠陥検出	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2B-07(岩手大)	大瀧直樹 内藤俊介 鹿野博徳 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光熱電気化学法によるステンレス鋼に生じさせた人工孔食の映像化	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2B-08(岩手大)	鎌田諒大 三浦裕樹 遠藤友浩 大瀧直樹 石川健哉 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務
線状レーザービームによる平面固体試料の表面下の光音響映像化	共著	2005年8月	平成17年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2B-09(岩手大)	鈴木 学 畠山美香 星宮 務
線状レーザービームを用いた光音響映像法による非破壊検査	単著	2005年9月	第66回応用物理学会学術講演会予稿集9p-ZF-15(徳島大)	
Undersurface Photoacoustic Imaging of Plane Solid Specimens by the use of a Line Laser Beam	共著	2005年9月	Abstract of the IEEE International Ultrasonics Symposium, P3F-9 (Rotterdam, 2005. 9)	T.Hoshimiya S.Manabu
ステンレス鋼の人工孔食の光熱電気化学法による映像化	共著	2005年9月	日本機械学会 2005年度年次大会 予稿集 No. 1835 (電気通信大)	樋渡洋一郎 鎌田諒大 石川健哉 遠藤春男 星宮 務
光音響法による傾斜凹型表面下欠陥の非破壊検出	共著	2005年9月	日本機械学会 2005年度年次大会 予稿集 No. 1836 (電気通信大)	遠藤春男 大瀧直樹 樋渡洋一郎 星宮 務
On the Photoacoustic Nondestructive Instrumentation with a Line-focus Laser beam and a Planar Specimen Combination	共著	2005年10月	第26回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム予稿集, H-3 (東京工大)	星宮 務 畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男
楔形状を有する傾斜表面欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検出	共著	2005年10月	第26回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム予稿集, P3-57 (東京工大)	遠藤春男 大瀧直樹 星宮 務
光熱電気化学法によるステンレス鋼の溶接部の映像化	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部講演会予稿集 8aB9 (秋田大)	鎌田諒大 遠藤友浩 三浦祐樹 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務

光音響顕微鏡による楔状欠陥の非破壊検出	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部講演会予稿集 8aB9 (秋田大)	大瀧直樹 鹿野博徳 内藤俊介 遠藤春男 星宮 務	
光音響トモグラフィーによる疑似表面構造体の映像化の試み	共著	2005年12月	応用物理学会東北支部講演会予稿集 8aB9 (秋田大)	畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	
CT (計算機断面映像法) 手法を用いた光音響映像法の基礎的検討	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1C-07 (秋田大)	畠山美香 鈴木 守 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務	
光音響顕微映像法による傾斜内部欠陥の検出	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1C-08 (秋田大)	大瀧直樹 木村暁人 小林洋裕 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	
光熱・電気化学法による溶接欠陥部の検出	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1C-09 (秋田大)	鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	
光熱・電気化学法による溶接を施したステンレス鋼の熱影響部の映像化	共著	2006年8月	平成18年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1C-10 (秋田大)	鎌田諒大 尾形誠一 佐藤桂輔 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務	
光音響法による楔状傾斜表面欠陥の非破壊検出	共著	2006年9月	日本機械学会 2006年度年次大会 講演論文集 No. 06-1 (熊本大)	遠藤春男 大瀧直樹 樋渡洋一郎 星宮 務	655~656頁
光熱電気化学法によるステンレス鋼の溶接熱影響部の映像化	共著	2006年9月	日本機械学会 2006年度年次大会 講演論文集 No. 06-1 (No. 熊本大)	樋渡洋一郎 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務	877~878頁
Photoacoustic Tomographic Characterization of Surface and Undersurface Simulated Defects with a Line-focus Laser Beam	共著	2006年10月	Abstract of 2006 IEEE International Ultrasonics Symposium 3H-5 (Vancouver, 2006. 10)	T. Hoshimiya M. Hatakeyama	
Evaluation of Weldment by Photothermal Electrochemical (PE) Detection	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム 講演論文集 3P-36 (名古屋国際会議場)	Y. Hiwatashi R. Kamata H. Endoh T. Hoshimiya	

Nondestructive Evaluation of Wedge - Shaped Surface Defects by Photoacoustic Microscopy	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 3P-37 (名古屋国際会議場)	H. Endoh N. Ohtaki Y. Hiwatashi T. Hoshimiya
Nondestructive Image Evaluation of Welded Zone of Steel Plate by Photoacoustic Microscope	共著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 3P-40 (名古屋国際会議場)	N. Ohtaki M. Hatakeyama M. Suzuki H. Endoh T. Hoshimiya M. Kawakami Y. Muraki T. Nakajima A. Tominaga M. Takeshi
光熱電気化学法を用いた溶接欠陥部の評価	共著	2007年3月	平成19年東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」予稿集 YS-5-03 (東北工大)	◎鎌田諒大 伊妻智博 高橋健太 大瀧直樹 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務
光熱電気化学修復法による疑似腐食の修復の検討	共著	2007年3月	平成19年東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」予稿集 YS-5-04 (東北工大)	◎高津朋章 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務
赤外線サーモグラフィ法による非破壊検査法の検討	共著	2007年3月	平成19年東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」予稿集 YS-5-05 (東北工大)	◎山内慎吾 畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務
光音響顕微鏡による楔状表面欠陥の非破壊評価	共著	2007年3月	平成19年東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」予稿集 YS-5-11 (東北工大)	◎大瀧直樹 小林洋裕 木村暁人 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務
理科教育用低価格光学顕微鏡画像化装置の試作	共著	2007年3月	第54回応用物理学関係連合講演会予稿集 28a-P4-1 (東京理科大)	◎星宮 務 熊谷正朗
東北支部 (多賀城会場) 「リフレッシュ理科教室」 - 企業エンジニアの講師を迎えて	単著	2007年3月	第54回応用物理学関係連合講演会予稿集 28a-P4-1 (東京理科大)	
Inspection of internal status of welded steel plates by PAM/SAM dual-mode microscope	単著	2007年4月	Abstract of ICU (International Congress on Ultrasonics), No. 1119 (Wien)	

Low-price Optical Microscope for School Science Education	共著	2007年6月	Abstract of ETOP (Education and Training in Optics and Photonics) 2007, No. 97-hqk8-161 (Ottawa)	◎T.Hoshimiya M.Kumagai
光音響顕微映像法による楔状表面欠陥の検出	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1H12 (弘前大)	◎白石大二郎 工藤洋介 遠藤春男 星宮 務
光熱電気化学修復法による擬似孔食の修復	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1H13 (弘前大)	◎高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光熱電気化学信号の温度特性	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1H14 (弘前大)	◎高津朋章 谷藤清朗 鎌田諒大 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
サーモグラフィ法による固体試料映像化の試み	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集 1H15 (弘前大)	◎鈴木 守 畠山美香 羽田健太郎 山内慎吾 星宮 務
光熱電気化学検出法による溶接欠陥の検出	共著	2007年9月	日本機械学会 2007年度 年次大会講演論文集, Vol.1, No. 07-1, pp. 63-64 (関西大)	◎樋渡洋一郎 鎌田諒大 遠藤春男 星宮 務
光音響法による楔状表面欠陥の定量的非破壊検出	共著	2007年9月	日本機械学会 2007年度 年次大会講演論文集, Vol.1, No. 07-1, pp. 65-66 (関西大)	◎遠藤春男 大瀧直樹 星宮 務
Imaging of Undersurface Defect by Photoacoustic Tomography with a Line-focus Laser Beam	共著	2007年11月	第28回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 1-04-P11 (つくば国際会議場)	◎M.Hatake-yama H.Endoh T.Hoshimiya
Nondestructive Evaluation of Internal Defect in Weld Metal by Photoacoustic Microscopy	共著	2007年11月	第28回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 1-04-P14 (つくば国際会議場)	◎M.Hatake-yama T.Takatsu H.Endoh T.Hoshimiya
直線収束レーザービーム光音響トモグラフィック・イメージング	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 2007 予稿集 26aC6 (大阪大)	◎畠山美香 遠藤春男 星宮 務

光熱電気化学検出法とその温度特性	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 2007 予稿集 26aC7 (大阪大)	◎谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光音響法による楔状表面欠陥の定量的非破壊検出	共著	2007年11月	Optics & Photonics Japan 2007 予稿集 26aC8 (大阪大)	◎高津朋章 谷藤清朗 樋渡洋一郎 遠藤春男 星宮 務
LFB型光音響CTによる欠陥検査	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集, pp.162-163 (八戸工大)	◎畠山美香 菅野貴幸 遠藤春男 星宮 務
PE法を用いた腐食部修復の基礎実験	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集, pp.168-169 (八戸工大)	◎高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光音響顕微鏡による溶接内部欠陥の非破壊評価	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集, pp.170-171 (八戸工大)	◎畠山美香 高津朋章 工藤洋介 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
固形試料を用いたPEM測定の試み	共著	2007年12月	応用物理学会東北支部第62回学術講演会予稿集, pp.172-173 (八戸工大)	◎谷藤清朗 南條 充 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
線状レーザービームを用いた非破壊検査と光音響トモグラフィーの基礎的研究	共著	2007年12月	東北大学電気通信研究所第46回超音波エレクトロニクス研究会資料, No.342-6, pp.1-8 (東北大)	◎畠山美香 大瀧直樹 遠藤春男 星宮 務
光音響顕微鏡と光音響トモグラフィーによる固体平面試料の映像化	共著	2007年12月	平成19年度第2回東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会2-1 (東北学院大)	◎畠山美香 星宮 務
光音響トモグラフィーによる表面/表面下欠陥の非破壊検査	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料, YS-6-06 (東北工大)	◎菅野貴幸 畠山美香 遠藤春男 星宮 務
溶接内部欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検査	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料, YS-6-37 (東北工大)	◎白石大二郎 畠山美香 高津朋章 工藤洋介 遠藤春男 星宮 務

光熱電気化学法による固形試料の映像化の検討	共著	2008年2月	平成20年度東北地区若手研究者研究発表会「音・光・電波とその応用」講演資料, YS-6-38 (東北工大)	◎南條 充 谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光音響顕微鏡とその応用技術	共著	2008年6月	Intermeasure 2008 (東京ビッグサイト)	◎星宮 務 白石大二郎
Line-focus beam photoacoustic imaging of surface and undersurface defect simulated on a planar specimen	共著	2008年6月	Acoustics'08 Paper No. 2pPA-14 (Palace de Congress, Paris)	◎T. Hoshimiya M. Hatake-yama
光音響顕微鏡と応用技術	単著	2008年6月	宮城県産官学交流会パネル (仙台国際会議場)	
Minutalization of Photothermal Electrochemical Detector with Gelation of Electrolyte	共著	2008年7月	Abstract of the International Congress on Optics (Sydney), Poster No. 1-8, p47	◎K. Tanifuji T. Takatsu D. Shiraishi H. Endoh T. Hoshimiya
Quantitative Nondestructive Evaluation of Wedge - Shaped Surface Defects by Photoacoustic Imaging	共著	2008年7月	Abstract of the International Congress on Optics (Sydney), Poster No. 1-34, p71	◎D. Shiraishi T. Takatsu K. Tanifuji H. Endoh T. Hoshimiya
Photothermal Electrochemical Repair of Simulated Corrosion	共著	2008年7月	Abstract of the International Congress on Optics (Sydney), Poster No. 1-35, p72	◎T. Takatsu K. Tanifuji D. Shiraishi H. Endoh T. Hoshimiya
光熱電気化学測定における装置の小型化と画像比較	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部予稿集 2E11, p180 (日大郡山)	◎谷藤清朗 高津朋章 車塚靖寛 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
楔状表面欠陥の光音響顕微鏡法による非破壊評価	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部予稿集 2E12, p181 (日大郡山)	◎白石大二郎 山本 寛 井上貴之 加藤量介 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
光音響顕微鏡を用いた溶接鋼板内部の評価	共著	2008年8月	電気関係学会東北支部予稿集 2E13, p182 (日大郡山)	◎鈴木 守 高津朋章 星宮 務
光音響法による溶接内部欠陥の非破壊検出	共著	2008年8月	日本機械学会 2008年度 年次大会講演論文集, Vol. 1, No. 08-1, pp. 87-88 (横浜国大)	◎白石大二郎 高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 星宮 務

光音響法による溶接欠陥の映像化	共著	2008年9月	日本機械学会関東支部講演会講演論文集, No. 080-2, pp. 165-166 (茨城大)	◎白石大二郎 井上貴之 山本 寛 加藤量介 遠藤春男 星宮 務
光音響トモグラフィを用いた表面及び表面下欠陥の検出	共著	2008年11月	電気関係学会東北支部予稿集 2E10, p179 (日大郡山)	◎高津朋章 小野寺華織 畠山美香 鈴木 守 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
PC サウンド入力方式を用いた光学測定装置①光学顕微鏡画像化装置の試作	共著	2008年11月	Optics & Photonics Japan 2008 予稿集 G128 (つくば国際会議場)	◎高津朋章 菅原友貴 佐藤正和 熊谷正朗 星宮 務
固化電解液を用いた光熱電気化学検出器の小型化	共著	2008年11月	Optics & Photonics Japan 2008 予稿集 G130 (つくば国際会議場)	◎谷藤清朗 高津朋章 車塚靖寛 遠藤春男 星宮 務
移動熱源を用いた光熱放射法によるサーモグラフィ測定を試み	共著	2008年11月	Optics & Photonics Japan 2008 予稿集 G131 (つくば国際会議場)	◎鈴木 守 遠藤航輝 星宮 務
光音響顕微鏡による複合溶接欠陥の非破壊評価	共著	2008年11月	第 29 回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム講演論文集 1P3-1 (仙台シルバーセンター)	◎白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
レーザーを用いた移動熱源によるアクティブ・サーモグラフィ	共著	2008年12月	第 63 回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 5aB01	◎鈴木 守 遠藤航輝 星宮 務
塗料色の違いを考慮したレーザー光音響像の評価	共著	2008年12月	第 63 回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 5aB02	◎高津朋章 小野寺華織 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
光音響顕微鏡による複合溶接欠陥の非破壊評価	共著	2008年12月	第 63 回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 5aB03	◎白石大二郎 加藤量介 山本 寛 井上貴之 遠藤春男 星宮 務
電解液ゲルを用いた光熱電気化学検出器の小型化	共著	2008年12月	平成 20 年度第 2 回東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会 2-1	◎谷藤清朗 星宮 務 遠藤春男

光音響顕微鏡による溶接欠陥の非破壊検出	共著	2008年12月	平成20年度第2回東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会2-2	◎白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
PC サウンド入力方式を用いた分光測定装置の研究	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A1	佐藤正和 星宮 務 岩本正敏 大庭茂男
可視域半導体レーザーを用いた光音響映像装置	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A2	小野寺華織 高津朋章 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
固化電解液ゲルを用いた光熱電気化学映像実験	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A3	車塚靖寛 谷藤清朗 高津朋章 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
フォトリソグラフィーで作製した疑似腐食の光熱電気化学修復	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A4	山中薫人 高津朋章 谷藤清朗 遠藤春男 樋渡洋一郎 星宮 務
移動する線状レーザー熱源によるアクティブ・サーモグラフィ画像化手法	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A5	鈴木 守 遠藤航輝 星宮 務
複合溶接欠陥の光音響顕微鏡による非破壊検査	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A6	山本 覚 井上貴之 加藤量介 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
赤外線サーモグラフィによるスポット溶接の非破壊検出の試み	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会講演予稿集YS-7-A7	小野真理子 伊藤大祐 白石大二郎 遠藤春男 星宮 務
PHOTOTHERMAL RADIOMETRIC TIME-DOMAIN INSPECTION OF SOLID SPECIMEN BY MOVING LINE HEAT SOURCE	共著	2009年7月	Abstract of ICPPP-15, paper number PO-T1-7 (Leuven, 2009. 7)	T.Hoshimiya M. Suzuki H. Endoh
NONDESTRUCTIV EVALUATION OF TILTED SUBSURFACE DEFECTS BY PHOTOACOUSTIC MICROSCOPIC IMAGING	共著	2009年7月	Abstract of ICPPP-15, paper number PO-T4-1 (Leuven, 2009. 7)	K. Ryouyusuke D. Shiraiishi H. Endoh T.Hoshimiya

赤外線サーモグラフィーを用いたスポット溶接欠陥の非破壊検出	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2D01 (2009.8, 文化学園大)	橋 昇吾 原田雄一 白石大二郎 加藤量介 遠藤春男 星宮 務
線状レーザー・アクティブサーモグラフィーによる非破壊検査の試み	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2D02 (2009.8, 文化学園大)	土井奈々 高津朋章 遠藤春男 星宮 務
光音響顕微影像法による溶接欠陥の非破壊検出	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2D03 (2009.8, 文化学園大)	西村勇紀 津島冬彦 横山貴之 渡辺圭祐 白石大二郎 加藤量介 遠藤春男 星宮 務
フォトリソグラフィ法で作製した腐食の光熱電気化学的修復	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2D04 (2009.8, 文化学園大)	高津朋章 村主幸太 遠藤春男 星宮 務
PC サウンド入出力方式を用いた光学顕微鏡装置の試作	共著	2009年8月	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会予稿集2D010 (2009.8, 文化学園大)	角田直樹 高津朋章 熊谷正明 星宮 務
R/G/B 半導体レーザーを用いた光音響像の評価	共著	2009年11月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム (USE2009) 予稿集 2P1-7 (2009.11, 同志社大)	高津朋章 遠藤春男 星宮 務
移動する線状レーザーを用いたアクティブ・サーモグラフィ映像法	共著	2009年11月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム (USE2009) 予稿集 2P1-8 (2009.11, 同志社大)	高津朋章 土井奈々 遠藤春男 星宮 務
溶接欠陥の破壊検査および光音響顕微鏡による非破壊評価	共著	2009年11月	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム (USE2009) 予稿集 2P1-3 (2009.11, 同志社大)	遠藤春男 加藤量介 白石大二郎 星宮 務
移動熱源・アクティブサーモグラフィを用いた非破壊検査の試み	共著	2009年11月	OPJ2009 講演予稿集 24aD3 (2009.11, 新潟大)	高津朋章 鈴木 守 土井奈々 遠藤春男 星宮 務

光音響顕微鏡による溶接欠陥の非破壊評価および破壊検査	共著	2009年12月	第64回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 3aB08 (2009.12, 日大)	白石大二郎 加藤量介 ◎横山貴之 西村勇紀 遠藤春男 星宮 務
PC サウンド入力方式を用いた分光測定装置の試作	共著	2009年12月	第64回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 3aB09 (2009.12, 日大)	高津朋章 ◎角田直樹 遠藤春男 星宮 務
電解液ゲルを用いて小型化した装置による光熱電気化学測定	共著	2009年12月	第64回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 3aB10 (2009.12, 日大)	高津朋章 ◎草岡昌平 遠藤春男 星宮 務
RGB 半導体レーザーを用いた分光用光音響顕微鏡	共著	2009年12月	第64回応用物理学会東北支部学術講演会予稿集 3aB10 (2009.12, 日大)	◎高津朋章 森下雅大 遠藤春男 星宮 務
I 走査・駆動装置及び方法	単著	2005年6月	特許出願	
映像装置及び方法	単著	2005年7月	特許出願	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
JST シーズ発掘試験研究	2007年度	研究代表者	課題名は「PC サウンド入出力端子を用いた画像化装置の開発と応用」で、理科教育用光学顕微鏡画像化装置の開発を行う。

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年1月～2008年12月	応用物理学会評議員(2005年4月から就任)
2008年4月～2008年12月	音響学会東北支部評議員
2009年4月～	財団法人科学計測振興会理事

所属	電子工学科	職名	教授	氏名	山田 顕	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 授業の進めかたに対する工夫		2005年4月～現在		授業の要点を黒板に示しながら話を進めるとともに、身の回りの事例・逸話や最新のニュースなどに関連事項の例を織り交ぜ、学生の関心と理解を深めるよう努めている。			
授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫		2007年4月～現在		小テストを行い、理解を深めさせている。			
2 電子工学実験IV指針書		2008年		電子工学科3年生を対象とした実験IVの項目のうち「超音波計測」の企画・立案と指針書の作成を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Analysis of Thickness-Extensional Wave Propagating in the Lateral Direction of Solidly Mounted Piezoelectric Thin Film Resonators		共著	2005年4月	IEEE TRANSACTIONS ON ULTRASONICS, FERROELECTRICS, AND FREQUENCY CONTROL, Vol. 52	中村徳良 佐藤栄樹 大田 聡 山田 顕 土井 新	604～609頁	
LiNb ₃ Ultrasonic Transducers with an Inverted-Domain Layer for Radiation into a Solid Medium		共著	2005年6月	JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS, Vol. 44	中村徳良 小山博功 小田倉聡司 山田 顕 斎藤繁実	4482～4484頁	
An Ultrasonic Transducer for Second Harmonic Imaging Using a LiNb ₃ Plate with a Local Ferroelectric Inversion Layer		共著	2006年3月	IEEE TRANSACTIONS ON ULTRASONICS, FERROELECTRICS, AND FREQUENCY CONTROL, Vol. 53	中村徳良 深沢健太郎 山田 顕 斎藤繁実	651～655頁	
Equivalent Network Representation for Length - Extensional Vibration Modes in Side - Plated Piezoelectric Bar with Varying Parameter Operating through Transverse Piezoelectric Effect		単著	2007年7月	JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS, Vol. 46, No. 7B		4675～4678頁	
個別ブース方式を用いた学生実習の積み上げ教育に関する研究		共著	2008年3月	東北学院大学工学部研究報告第42巻1・2号	志子田有光 加藤和夫 山田 顕 女川 淳 星 善元 荒川雄介 竹内真人	17～22頁	
Basic Study on Proximity Sensors Utilizing Air-Film Damping Effect Caused by Longitudinal-Mode Piezoelectric Vibrator		共著	2008年5月	JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS, Vol. 47, No. 5	山田 顕 金子 翔 永沢達也	3929～3930頁	

Proximity Sensing through Air-Film damping Effect Caused by Length - Extensional - Mode Piezoelectric Vibrator	共著	2008年5月	Proceedings of 2008 IEEE International Frequency Control Symposium	山田 顕 金子 翔 永沢達也	523~525頁
Liquid-Level Sensing by Trapped-Energy-Mode Thickness Vibration	共著	2009年7月	JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS, Vol. 48	山田 顕 本田斐聡 堀内修平 木内哲也	07GB08-1~ 07GB08-2頁
A Novel Approach in Liquid-Level Sensing by Trapped-Energy-Mode Thickness Vibrators	共著	2009年9月	Proceedings of 2009 IEEE International Ultrasonics Symposium	山田 顕 堀内修平 本田斐聡 木内哲也	
Bb 圧電定数に分布を持つ圧電板の横効果振動モードに対する分布定数等価回路表示	単著	2008年11月~12月	超音波テクノ		70~73頁
エネルギー閉じ込めモード厚み振動を利用した微小液面レベル変化の検知	単著	2009年11月~12月	超音波テクノ		
G 端部への物体接近による圧電屈曲振動子特性の変化-近接センサのための基礎的検討-	共著	2005年9月	電子情報通信学会技術研究報告US2005-42	山田 顕 山崎大輔 中村傳良	19~23頁
超音波トランスデューサの高分解能化に関するいくつかの試み	単著	2006年7月	東北北海道地区技術懇談会「超音波技術の固体材料特性評価への応用」		
Equivalent Network Representation for Length - Extensional Vibration Modes in a Side - Plated Piezoelectric Bar with a Varying Parameter Operating through the Transverse Piezoelectric Effect	単著	2006年11月	第27回超音波エレクトロニクス・シンポジウム講演論文集 P1-20		83~84頁
圧電定数に面内分布を持つ圧電板における横効果伸び振動モードの等価回路表示について	単著	2007年1月	圧電材料・デバイスシンポジウム2007		27~30頁
圧電定数に分布を持つ圧電板における横効果伸び振動の等価回路表示	単著	2007年3月	日本音響学会講演論文集 2-P-4		1111~1112頁
Basic Study on Proximity Sensors Utilizing Air-Film damping Effect Caused by Longitudinal - Mode Piezoelectric Vibrator	共著	2007年11月	第28回超音波エレクトロニクス・シンポジウム講演論文集 3-02P-02	山田 顕 金子 翔 永沢達也	361~362頁
エアフィルム・ダンピング効果を用いた近接度センシングの基礎実験-圧電伸び振動モードの利用-	共著	2008年3月	日本音響学会講演論文集 2-Q-17	山田 顕 金子 翔 永沢達也	1331~1332頁
Proximity Sensing through Air-Film damping Effect Caused by Length - Extensional - Mode Piezoelectric Vibrator	共著	2008年5月	2008 IEEE International Frequency Control Symposium (アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市)	山田 顕 金子 翔 永沢達也	

近傍場超音波とそのセンサへの応用に関する2, 3の試み	単著	2008年7月	平成20年度第1回東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会		
エネルギー閉じ込めモード厚み縦振動を利用した液面レベルの計測	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会 1B06	山田 顕 木内哲也 本田斐聡 堀内修平	56頁
A Study on Liquid-Level Sensing by Using Trapped-Energy-Mode Thickness Vibration	共著	2008年11月	第29回超音波エレクトロニクス・シンポジウム講演論文集	山田 顕 本田斐聡 堀内修平 木内哲也	211~212頁
圧電厚み振動のエネルギー閉じ込め現象を利用した微小液面レベル変化の検知	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会 YS-7-B14	堀内修平 本田斐聡 木内哲也 山田 顕	57~58頁
周波数上昇型エネルギー閉じ込めモード厚み縦振動を用いた液面レベルの測定	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会 YS-7-B15	瀬戸秀一 堀内修平 山田 顕	59~60頁
近傍場超音波とその極近距離センシングへの応用	単著	2009年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要第20号		1~6頁
圧電厚み振動のエネルギー閉じ込めモードを用いた微小液面レベル変化の検知	共著	2009年3月	日本音響学会講演論文集 1-Q-20	山田 顕 堀内修平 本田斐聡 木内哲也	1311~1312頁
エネルギー閉じ込め振動子による液面レベル・センシング 一周波数上昇型閉じ込めの場合一	共著	2009年9月	日本音響学会講演論文集 1-Q-1	瀬戸秀一 堀内修平 山田 顕	1241~1242頁
A Novel Approach in Liquid-Level Sensing by Trapped-Energy-Mode Thickness Vibrators	共著	2009年9月	2009 IEEE International Ultrasonics Symposium (イタリア共和国ローマ市)	山田 顕 堀内修平 本田斐聡 木内哲也	
On the Use of Trapped-Energy Mode of Backward-Wave-Type Thickness Vibration for Liquid-Level Sensing	共著	2009年11月	第30回超音波エレクトロニクス・シンポジウム講演論文集	瀬戸秀一 堀内修平 山田 顕	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金（基盤研究（C））	2007年度	共同（研究の全般ととりまとめ）	エバネセント波を利用した新しい近傍場超音波センサの開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1974年～現在	日本音響学会会員
1974年～現在	電子情報通信学会会員
1977年～現在	IEEE（米国電気電子学会）会員

1992 年～現在	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム運営委員
1993 年～現在	電子情報通信学会論文誌編集委員会査読委員
1994 年～現在	中学生のための「楽しいサイエンス・サマースクール」企画委員
1999 年～2009 年	日本音響学会音響教育調査研究委員会委員
1999 年～現在	日本学術振興会弾性波素子技術第 150 委員会委員
1999 年～現在	日本音響学会編集委員会査読委員
2000 年～現在	Japanese Journal of Applied Physics 超音波特集号編集委員

所属	電子工学科	職名	准教授	氏名	加藤 和夫	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	小テストや課題の実施	2006年4月～2009年12月		担当の科目の中で、授業内容の理解を定着させるため、小テストや課題を解かせることを実施した。			
	マルチメディア機器を用いた授業改善	2006年9月～2007年1月 2007年9月～2008年1月 2008年9月～2009年1月 2009年9月～12月		「コンピュータ演習Ⅰ」の科目の中で、PowerPointを用いた授業を実施し、その資料をpdfファイルにして学生に配布した。			
	Knoppix の電子工学実験および演習科目への活用	2006年9月～2009年12月		「電子工学実験Ⅰ、Ⅱ」「コンピュータ演習Ⅰ」の科目の中で、Knoppixを用いた授業を行った。			
	実習用マイクロコンピュータボード (KNOPPIX Edu AVR) をコンピュータ演習の授業に導入	2007年12月 2008年12月 2009年12月		「コンピュータ演習Ⅰ」の授業に実践導入した。			
2	電子工学実験ⅠおよびⅡの全課題の実験書と電子的実験手順書の作成	2007年4月～2009年12月		独自の実験指導書の作成を行い、受講対象学生に配布した。また実験室における電子媒体による実験手順書をwebサーバ上に作成した。			
4	オープンキャンパス・工学部祭で研究室の公開	2006年8月5, 6日 2006年10月7, 8日 2007年8月4, 5日 2007年10月6, 7日 2008年6月28日 2008年8月2, 3日 2008年10月11, 12日 2009年6月27日 2009年8月1, 2日 2009年10月10, 11日		オープンキャンパス、および工学部祭で研究室の公開と研究紹介を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2006年10月3日		宮城県立第三女子高等学校の1年生に対して、「電子の技術でからだをみる」と題して授業を行った。			
	東北学院大学工学部大学開放講座 みやぎ県民大学「大学開放講座」の講師を務めた。	2007年7月11日		「電子の技術を使った先端応用計測について」と題して講座を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2007年12月11日		宮城県立第三女子高等学校にて、「電子の技術でからだをみる」と題して授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2008年3月11日		宮城県立石巻好文館高校にて、「電子の技術でからだをみる」と題して授業を行った。			
	「地域市民のための大学公開講座」の講師を務めた。	2008年6月18日		「電子の技術でからだをみる」と題して講座を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2008年10月31日		秋田県立羽後高校にて、「工学部模擬授業」と題して授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2008年12月10日		八戸工業大学第二高校にて、「電子の技術でからだをみる」と題して授業を行った。			

高校への出前授業の講師を務めた。	2009年3月10日	宮城県立石巻好文館高校にて、「電子の技術でからだをみる」と題して授業を行った。
セミナー講師を務めた。	2009年10月12日	せんだい・みやぎオータムフェアにて、「電子の技術でからだをみる」と題して講師を務めた。
高校への出前授業の講師を務めた。	2009年11月5日	仙台青陵中等教育学校にて、「電子の技術でからだをみる」と題して授業を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 自動車の移動に起因する変動磁界の検討	共著	2005年	電気学会論文誌 A, Vol. 125 No. 2	鎌田清孝 湯ノ口万友 山崎慶太 加藤和夫 上田智章 芳賀 昭	92~98 頁
パネル型アクティブ磁気シールドの遮蔽性能の検討	共著	2005年	電気学会論文誌 A, Vol. 125 No. 2	加藤和夫 山崎慶太 佐藤智也 芳賀 昭 沖津隆志 村松和弘 上田智章 吉澤正人	99~106 頁
建築部材の脱磁方法の検討—三次元磁界解析による理論的検討と実証実験—	共著	2005年	日本建築学会環境系論文集, No. 588	山崎慶太 加藤和夫 村松和弘 藤原耕二	57~61 頁
A Practical Method for Evaluating Magnetic Disturbance Due to Building for the Design of a Magnetic Testing Site	共著	2005年	IEEE Trans. on Magnetics Vol. 41 No. 5	K. Yamazaki K. Kato K. Muramatsu M. Uchida K. Fujiwara M. Miyamoto H. Kaneko H. Saegusa	1856~1859 頁
Investigation on Demagnetization of Residual Magnetization in Architectural Components Using 3-D Magnetic Field Analysis	共著	2005年	IEEE Trans. on Magnetics Vol. 41 No. 5	K. Yamazaki K. Kato S. Hirosato K. Muramatsu T. Shimizu T. Sato A. Haga K. Fujiwara	1976~1979 頁
Incremental Permeability of Mu - Metal in Low Magnetic Fields for the Design of Multilayer - Type Magnetically Shielded Rooms	共著	2005年	IEEE Trans. on Magnetics Vol. 41 No. 10	K. Yamazaki K. Kato K. Muramatsu A. Haga K. Kobayashi K. Kamata K. Fujiwara T. Yamaguchi	4087~4089 頁

Magnetic Characteristics of Architectural Materials for Non - magnetic Buildings	共著	2006 年	J. Magn. Soc. Jpn. Vol. 30 No. 5	K. Kato K. Yamazaki K. Kobayashi A. Chiba	488~491 頁
視覚情報の差異に伴う心的活動変化の自発脳波律動に基づく評価の試み	共著	2008 年	人間工学, Vol. 44, No. 2	加藤和夫 志子田有光 望月菜穂子 石川敦雄 小林宏一郎 小林哲生	67~75 頁
A Measurement of Magnetocardiogram (MCG) Using a High-Frequency Carrier Type Thin-Film Field Sensor	共著	2008 年	J. Magn. Soc. Jpn., Vol. 32, No. 4	S. Yabukami K. Kato Y. kamo T. Ozawa K. I. Arai	438~486 頁
高大連携による組み込み教材開発と高大生交流授業モデルの実践	共著	2008 年	日本教育工学会論文誌, Vol. 32, No. 2	志子田有光 加藤和夫 菅原 研 松澤 茂 河田拓朗 川田徳明 井口 巖 佐藤徳男 佐々木整	141~148 頁
個別ブース方式を用いた学生実習の積み上げ教育に関する研究	共著	2008 年	東北学院大学工学部 研究報告, 第 42 卷, 第 1-2 号	志子田有光 加藤和夫 山田 顕 女川 淳 星 善元 荒川雄介 竹川真人	17~22 頁
A thin film magnetic field sensor of sub - pT resolution and magnetocardiogram (MCG) measurement at room temperature	共著	2009 年	J. Magnetism and Magnetic Materials, 321	S. Yabukami K. Kato Y. Ohtomo T. Ozawa K. I. Arai	675~678 頁
A Measurement of Magnetocardiogram (MCG) by Planar Type Sensor using CoNbZr Film	共著	2009 年	J. Magn. Soc. Jpn., Vol. 33, No. 3	Y. Ohtomo S. Yabukami K. Kato T. Ozawa K. I. Arai	283~286 頁
水撃負圧部の気泡発生と計測方法について	共著	2009 年	東北学院大学工学部 研究報告, 第 43 卷, 第 1-2 号	下浅雄大 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤 和夫	41~46 頁
Bb Magnetic Characteristics of Architectural Materials for Non - Magnetic Buildings	共著	2005 年	Digests of the IEEE International Magnetics Conference No. EW12	K. Kato K. Yamazaki K. Kobayashi A. Chiba	584 頁

Incremental Permeability of Mu - Metal in Low Magnetic Fields for the Design of Multi - layer - Type Magnetically - Shielded Rooms	共著	2005 年	Digests of the IEEE International Magnetics Conference No. FX06	K. Yamazaki K. Kato K. Kobayashi A. Chiba	774 頁
C 高周波キャリア型薄膜磁界センサを用いた心磁界測定	共著	2007 年	電気学会マグネティクス研究会資料, MAG-07-162	藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	
個別実験を指向した学生実験支援システムの開発とその実践	共著	2007 年	電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 107, No. 391	荒川雄介 竹川真人 加藤和夫 佐々木整 志子田有光	75~80 頁
Development and Evaluation of a Web Based Teaching Support System for Practical Engineering Experiment Class	共著	2008 年	Proc. of AACE. E-Learn Conference 2008	A. Shikoda K. Kato J. Onagawa H. Sasaki	3192~3196 頁
ウェブアクセスログを利用した工学実験進捗管理システムの運用と評価	共著	2008 年	電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 108, No. 146	高山壽則 加藤和夫 佐々木整 志子田有光	63~66 頁
Dynamic Pipe Fracture in Water Pipeline	共著	2008 年	Proc. of 16th IAHR-APD Congress and 3rd Symposium of IAHR-ISHS, Vol. VI, pp. 2134-2139 (2008)	K. Ishikawa Y. Kono A. Haga K. Kato	2134~2139 頁
高周波キャリア型薄膜磁界センサによる心磁界計測の試み	共著	2008 年	電気学会マグネティクス研究会資料, MAG-08-98	藪上 信 大友祐一 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	
Effect of visual image features on neural activities: An fMRI study	共著	2009 年	WC2009, IFMBE Proceedings 25/ II (eds) O. Dössel and W. C. Schlegel	K. Kato O. Miura A. Shikoda K. Sugawara T. Kuroki A. Ishikawa T. Kobayashi	312~314 頁
Association of Event-related Potentials with Working Memory in the Presence of Ambient Noises	共著	2009 年	Proceedings of 18th International Congress on Brain Electromagnetic Topography (ISEBET2009)	K. Kato K. Suzuki A. Shikoda K. Sugawara A. Ishikawa T. Kobayashi	19~22 頁
Measurement of Underground Electromagnetic Wave and Japan Historical Tsunami	共著	2009 年	Proceedings of the 5th International Conference on APAC2009, Vol. 1	Y. Kono K. Ishikawa Y. Shimoasa A. Haga K. Kato	92~99 頁

学生実験におけるウェブベースの教材のためのログ分析技術に関する研究	共著	2009年	電子情報通信学会技術研究報告, ET2009-25	熊谷 薫 遠藤拓海 加藤和夫 志子田有光 佐々木整	19~22頁
多人数組み込みみプログラム開発におけるログ収集手法の提案	共著	2009年	電子情報通信学会技術研究報告, ET2009-26	遠藤拓海 熊谷 薫 加藤和夫 志子田有光 佐々木整	23~26頁
G コンクリート含有成分の非侵襲測定方法の提案	共著	2005年3月	平成17年電気学会全国大会講演論文集, No. 4-195	上田智章 山崎慶太 竹中 誠 藤井英美 芳賀 昭 嶺岸茂樹 三井健郎 加藤和夫	314~315頁
微震動に起因する磁気シールドルームのノイズ特性に関する研究	共著	2005年7月	第20回日本生体磁気学会大会論文集, Vol. 18, No. 1	山崎慶太 阿部隆之 加藤和夫 村松和弘 藤巻則夫 野界武史	138~139頁
建築空間内の火による心理・生理的な影響についての検討	共著	2005年9月	日本建築学会大会学術講演概要集	加藤和夫 望月菜穂子 山崎慶太 小林宏一郎	863~864頁
ハイパーソニックエフェクトの一般空間への適用に関する一考察	共著	2005年9月	日本建築学会大会学術講演概要集	鈴木和憲 加藤和夫 田中慶太 仁科エミ 大橋 力	849~850頁
ガス暖炉のある空間 その1. 調査概要とKJ法による印象分析	共著	2005年9月	日本建築学会大会学術講演概要集	林慎太郎 田村明弘 太田篤史 福多佳子 山崎慶太 加藤和夫 神田信一郎 山本哲也	865~866頁
ガス暖炉のある空間 その2. ガス暖炉の有無による比較検討	共著	2005年9月	日本建築学会大会学術講演概要集	神田信一郎 田村明弘 太田篤史 福多佳子 山崎慶太 加藤和夫 山本哲也 林慎太郎	867~868頁

ガス暖炉のある空間 その3. CG画像による適正空間の検討	共著	2005年9月	日本建築学会大会学術講演概要集	山本哲也 田村明弘 太田篤史 福多佳子 山崎慶太 加藤和夫 神田信一郎 林慎太郎	869~870頁
磁気試験設備 環境評価ーその1 磁気試験棟内外の磁場分布の測定ー	共著	2005年9月	第29回日本応用磁気学会学術講演概要集	加藤和夫 山崎慶太 小林宏一郎 百束泰俊 小野公嗣 森 幸男 斎藤幹雄 三枝 博	26頁
磁気試験設備 環境評価ーその2 三次元磁界解析による磁界擾乱源の推定ー	共著	2005年9月	第29回日本応用磁気学会学術講演概要集	山崎慶太 加藤和夫 北村英樹 村松和弘 百束泰俊 小野公嗣 森 幸男 斎藤幹雄 三枝 博	27頁
磁気試験設備 環境評価ーその3 現状の磁気試験設備の零磁場特性ー	共著	2005年9月	第29回日本応用磁気学会学術講演概要集	百束泰俊 小野公嗣 森 幸男 斎藤幹雄 三枝 博 山崎慶太 加藤和夫 北村英樹 村松和弘	28頁
磁気干渉を考慮したアクティブ磁気シールドシステムの試作	共著	2005年9月	第29回日本応用磁気学会学術講演概要集	上田智章 加藤和夫 山崎慶太 芳賀 昭	24頁
微振動に起因する磁気シールドルームの磁気ノイズーその1 実験による微振動と磁気ノイズの相関解析ー	共著	2005年9月	第29回日本応用磁気学会学術講演概要集	鳥田文彦 芳賀 昭 山崎慶太 阿部隆之 加藤和夫 村松和弘 藤巻則夫 野界武史	21頁
視覚情報の差異に伴う心的活動変化の自発脳波律動に基づく評価の試み	共著	2006年6月	日本人間工学会第47回大会講演集, 日本人間工学会誌 第42巻特別号	加藤和夫 望月菜穂子 山崎慶太 小林宏一郎 小林哲生	216~217頁

水道管の音波伝播速度の測定	共著	2007 年	平成 19 年度電気学会 全国大会講演論文集, 第 1 分冊	石川和己 芳賀 昭 河野幸夫 加藤和夫	172 頁
視覚情報の差異に起因する心的活動に伴う大脳神経活動の評価	共著	2007 年	日本建築学会大会学 術講演概要集 D-1 環 境工学 I	石川敦雄 西田 恵 黒木友裕 加藤和夫 糸井誠司 野界武史	111~112 頁
高周波音を用いた音環境構成方法に関する基礎的検討	共著	2007 年	日本建築学会大会学 術講演概要集 D-1 環 境工学 I	鈴木和憲 加藤和夫 田中慶太 仁科エミ 大橋 力	89~90 頁
ウェブアクセスログを利用した工学実験習熟度評価システムの開発	共著	2007 年	教育システム情報学 会 第 32 回全国大会 講演論文集	竹川真人 荒川雄介 加藤和夫 佐々木整 志子田有光	52~53 頁
漏水探査における鋼管の伝播速度の基礎的検討	共著	2007 年	土木学会東北支部大 会研究発表会, II-105	上野嶺太 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 阿部 桂 加藤和夫	
雄勝湾における水中温度調査と海底環境修復	共著	2007 年	土木学会東北支部大 会研究発表会, II-89	畑中裕平 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 鈴木講平 加藤和夫	
視覚刺激の時間・周波数特性の違いが大脳神経活動に与える影響の fMRI 計測に基づく評価	共著	2008 年	第 47 回生体医工学会 大会, 第 46 巻特別号	加藤和夫 佐久田陽介 志子田有光 石川敦雄 西田 恵 鈴木和憲 樋口祥明 糸井誠司 野界武史 小林哲生	778 頁
注視点情報に基づいた画像の特徴抽出法についての基礎的検討	共著	2008 年	2008 年電子情報通信 学会総合大会, 情報・ システム講演論文集 1	加藤和夫 坂本晃浩 志子田有光 西田 恵 鈴木和憲 石川敦雄 樋口祥明 小林哲生	8 頁

「人にやさしい空間」の研究 (その1) 研究構想	共著	2008年	日本建築学会大会学術講演概要集 D-1 環境工学 I	上原茂男 加藤信介 小林敏孝 吉井光信 加藤和夫 樋口祥明 石川敦雄	1~2頁
「人にやさしい空間」の研究 (その6) 背景音が知的活動に与える影響 (実験概要・パフォーマンス計測)	共著	2008年	日本建築学会大会学術講演概要集 D-1 環境工学 I	鈴木和憲 加藤和夫 石川敦雄 樋口祥明 上原茂男	11~12頁
「人にやさしい空間」の研究 (その7) 背景音が知的活動に与える影響 (脳活動計測)	共著	2008年	日本建築学会大会学術講演概要集 D-1 環境工学 I	加藤和夫 鈴木和憲 石川敦雄 樋口祥明 上原茂男	13~14頁
「人にやさしい空間」の研究 (その8) 視覚刺激が生理・心理反応に与える影響	共著	2008年	日本建築学会大会学術講演概要集 D-1 環境工学 I	石川敦雄 西田 恵 加藤和夫 樋口祥明	15~16頁
「人にやさしい空間」の研究 (その9) 視覚刺激が脳活動に与える影響	共著	2008年	日本建築学会大会学術講演概要集 D-1 環境工学 I	三浦 孟 石川敦雄 西田 恵 加藤和夫	17~18頁
高周波キャリア型薄膜磁界センサによる心磁界計測	共著	2009年	第32回日本磁気学会学術講演会 12aC-1	大友祐一 藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	
アモルファスCoNbZr 薄膜を用いた磁界センサによる心磁界計測	共著	2009年	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会 2H26	大友祐一 藪上 信 加藤和夫 小澤哲也 荒井賢一	
地電流の長期的計測と地震との関連について	共著	2009年	土木学会東北支部技術研究発表会, II-51	牧野祐介 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	
継手部分の接続変化による鋼管の伝播速度への影響	共著	2009年	土木学会東北支部技術研究発表会, II-60	大橋雅樹 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 加藤和夫	
鋼管と水の伝播速度の相互作用について	共著	2009年	土木学会東北支部技術研究発表会, II-69	上路崇大 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 阿部 桂 加藤和夫	

海水温の温度測定とホタテの成長への影響	共著	2009年	土木学会東北支部技術研究発表会, II-90	山下大輔 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	
「人にやさしい空間」の研究 (その11) 「人にやさしい空間」コンセプト	共著	2009年	日本建築学会大会学術講演概要集	上原茂男 加藤信介 小林敏孝 吉井光信 加藤和夫 樋口祥明 石川敦雄 高橋幹雄	71~72 頁
「人にやさしい空間」の研究 (その18) 背景音が知的活動に与える影響 (実験概要・パフォーマンス評価)	共著	2009年	日本建築学会大会学術講演概要集	鈴木和憲 加藤和夫 菅原 研 石川敦雄	85~86 頁
「人にやさしい空間」の研究 (その19) 背景音が知的活動に与える影響 (脳活動計測)	共著	2009年	日本建築学会大会学術講演概要集	佐藤優衣 加藤和夫 菅原 研 鈴木和憲 石川敦雄	87~88 頁
「人にやさしい空間」の研究 (その21) 視覚刺激が心理・生理に与える影響 (画像解析)	共著	2009年	日本建築学会大会学術講演概要集	加藤和夫 三浦 孟 菅原 研 黒木友裕 石川敦雄 西田 恵	91~92 頁
「人にやさしい空間」の研究 (その22) 視覚刺激が心理・生理に与える影響 (fMRI 測定)	共著	2009年	日本建築学会大会学術講演概要集	三浦 孟 加藤和夫 菅原 研 石川敦雄 黒木友裕 西田 恵	93~94 頁
I パネル状コイル, 一様磁界発生装置, 勾配磁界発生装置, および磁界キャン セリング装置	共著	2005年	特開 2005-294537	笹田一郎 山崎慶太 加藤和夫	
コンクリート含有成分測定装置および 測定方法	共著	2006年	特開 2006-214941	上田智章 竹中 誠 藤井英美 嶺岸茂樹 芳賀 昭 山崎慶太 三井健郎 加藤和夫	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
東北学院大学 共同研究		2007年度	共同・分担研究者	室温動作の高感度磁界センサを用いた生体磁気信号計測	

文部科学省 科学研究費補助金基盤研究C	2007～2008 年度	共同・分担研究者 (2008年度は研究代表者)	実技教育に特化したオープンソースLMSにおける時系列解析に関する研究
文部科学省 科学研究費萌芽研究	2007～2009 年度	共同・分担研究者	高電気抵抗膜を用いた薄膜磁界センサのサブpT 台への高分解能化
科学技術振興機構 先端計測分析技術・機器開発事業	2007～2009 年度	共同・分担研究者	室温で動作する生体磁気信号計測用薄膜磁界センサの開発
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成事業	2009～2013 年度	共同・分担研究者	環境保全と健全生活のための先端バイオテクノロジーの統合的研究

IV 学会等及び社会における主な活動

日本磁気学会	2009 年度論文委員		
--------	-------------	--	--

所属	電子工学科	職名	准教授	氏名	志賀野 洋	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	液晶プロジェクターを使ったプレゼンテーション	2002年4月より継続	表示内容をプリントとして必ず配布する。				
	数学教員志望者の自発的勉強の参考資料をWebで公開	2002年4月より継続	授業よりさらに進んだ内容を学ぶための教材を作成している。				
	単位認定の基準の公開, 及び過去の試験問題と解答例の公開	2002年4月より継続	過年度の試験問題を用いて, 単位認定の基準を説明。				
	学習した概念の定着と授業理解の促進	2008年4月より継続	毎回の授業の後半20分に小テストをおこない, 次の授業まで添削して返却している。				
2	以下の教材はURL (http://www.tjcc.tohoku-gakuin.ac.jp/~shigano/hiroba2004)でWeb公開						
	微分積分学, 線形代数学, ベクトル解析学	2002年4月より継続	講義録ち演習問題集を教科書としては配布し, さらに数式処理システム Mathematica を利用した補助教材を作成。毎年小改訂				
	ラプラス変換, フーリエ変換, 偏微分方程式	2002年4月より継続	Mathematica を利用した補助教材を作成し, 暫定公開				
	代数学 (群論, 環論), ガロア理論	2002年4月より継続	数学の教員免許取得には必修の科目「代数学」の教科書として作成。毎年小改訂				
	曲線と曲面の微分幾何学	2002年4月より継続	Mathematica を利用した教材				
	解析学	2002年4月より継続	デデキントの実数論とルベーグ積分論を解説した教材				
	Mathematica によるプログラミング	2002年4月より継続	Mathematica はプログラミング言語でもあり, それによるプログラミングの補助教材				
	prolog によるプログラミング	2002年4月より継続	prolog によるプログラミングの補助教材				
	常微分方程式, 複素関数論	2008年4月より継続	補助教材および Mathematica を利用した補助教材を作成した。				
	確率論, 暗号 (RSA 暗号) の数学的基礎, 教員採用試験問題	2008年4月より継続	Mathematica を利用した補助教材				
	楕円曲線論と楕円暗号の数学的基礎	2009年4月~12月	補助教材および Mathematica を利用した補助教材を作成した。				
	微分幾何学	2009年4月~12月	補助教材および Mathematica を利用した補助教材を作成した。				
	フーリエ級数論, フーリエ変換論	2009年9月~12月	補助教材および Mathematica を利用した補助教材を作成した。				

4 Web を利用した高大連携	2005 年 4 月より	工学部で学ぶ全数学の補助教材を Web 公開している。
オープンキャンパス・工学部祭での研究室の公開	2005 年より	数式処理システム Mathematica での数学教材の作成の公開
リメディアル教育の実践	2006 年 4 月より	入学前教育の添削指導。工学基礎教育センターの相談員

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	電子工学科	職名	准教授	氏名	志子田有光	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	KNOPPIX Edu シリーズ原版の開発と頒布活動	2003年4月～現在に至る	東北学院内外で普及しつつある統合型 IT 学習ソフトウェアパッケージ KNOPPIX Edu シリーズ原版の開発				
	電子工学科におけるブース型実験システムの立案および導入	2004年12月～現在に至る	一人1ブース型の学生実験方式の提案とKNOPPIXによるLMSの立案・導入				
	東北学院中学高等学校および榴ヶ岡高等学校と連携しKNOPPIX活用型組み込みIT教材の開発	2006年4月～現在に至る	東北学院高等学校および榴ヶ岡高等学校で導入する組み込み教材の開発を行い実践導入した。				
	電子工学実験における教育支援システムの開発	2007年4月～2008年3月	学生の実験進捗状態を監視するシステムを開発、多人数実習指導効率を改善				
2	学生のために(特別依頼原稿)万能工具箱くの一びくす(東北学院大学工学部研究報告第39巻第1号5～20頁)	2005年3月	大学で使用するオープンソースソフトウェア教材KNOPPIX EduTGシリーズの解説				
	電子工学実験 I, II 30 課題分の実験書および、全課題分電子的手順書約 600 ページ	2007年4月～2008年3月	実験指導書および、実験室における電子媒体による実験手順書をwebサーバ上に作成				
	実習用マイクロコンピュータボード KNOPPIX Edu AVR を開発 コンピュータ演習授業に導入	2007年4月～2008年3月	実習用マイクロコンピュータボードを企業と連携して開発し、コンピュータ演習 I～V の授業に実践導入				
	KNOPPIX Edu7 の開発・頒布	2008年3月	統合型教育教材KNOPPIX Edu7 の開発・導入				
3	CEC スクエア・エボリューション成果発表会(東京ファッションタウンビル)分科会 A 「Open School Platform」プロジェクト発表	2005年3月3日～4日	オープンスクールプラットフォームプロジェクトの解説・紹介				
	組込みシステムセミナー～“できる”組込みソフトウェア技術者を育成するには?～(141 エルパーク仙台)	2005年5月27日	パネリストとして参加				
	私立大学情報教育協会 全国大学 IT 活用教育方法発表会(東京, 私学会館)	2005年7月2日	C 理学系教育・工学系教育 CD 起動型オープンソースソフトウェアによる教育教材共有広域ネットワーク構築の試み				
	第5回情報科学技術フォーラム(福岡大学)パネル討論:どうやってOSS教育利用のエコサイクルをまわすか	2006年9月5日	どうやって OSS 教育利用のエコサイクルをまわすか: パネリスト				
	「情報化月間 2006」記念行事記念講演(京全日空ホテル) OSS で変わる教育現場～Open School Platform プロジェクトの可能性～	2006年10月2日	Open School Platform プロジェクトの紹介と教育現場への OSS 導入の重要性について解説				
4	日本経済新聞 東北経済 35 面 掲載	2005年2月16日	東北学院大が IT 講座開設 宮城県産業技術センターと提携				

日刊工業新聞 東日本 28 面 掲載	2005 年 2 月 16 日	IT 人材育成で連携 東北学院大と宮城県産技センター
河北新報 社会面 29 面 掲載	2005 年 2 月 16 日	IT 人材育成へ連携 企業ニーズに合わせ研修東北学院大と県産業技術センター
KNOPPIX Edu4 発表 (頒布開始)	2005 年 3 月	他教育機関向け KNOPPIX Edu4 の公開と学外への頒布開始
Linux Magazine 80 頁 掲載	2005 年 3 月	News Headline KNOPPIX Edu/KnoppixMATH を情報学会, 数学会で発表
宮城組込みソフトウェア人材育成研究会発足 第 1 回ミーティング (土樋キャンパス)	2005 年 4 月 22 日	宮城県産業技術総合センタと東北学院大学産学連携推進センタが連携し組み込み人材育成研究会を発足, 講習会の開催などを計画
Linux world 2005 (東京ビッグサイト)	2005 年 6 月 1 日～3 日	学生を引率, KNOPPIX Edu シリーズの紹介と頒布
朝日新聞 九州地方版 鹿児島 27 面 掲載	2005 年 6 月 22 日	「情報教育」研究最前線 ～KNOPPIX が変える, KNOPPIX で変わる～
大学情報マガジン 私大蛍雪 Vol.82 108 頁 掲載	2005 年 7 月 15 日	全国横断! 教授インタビュー「あの先生に学びたい!」東北学院大学工学部「物理情報工学科」志子田有光助教授
オープンソースカンファレンス 2005 Tokyo/Fall (日本電子専門学校 7 号館)	2005 年 9 月 17 日	KNOPPIX EduTG の紹介 頒布
出展 みやぎいいモノテクノフェア(夢メッセみやぎ)	2005 年 10 月 14 日～15 日	KNOPPIX EduTG の紹介 約 800 セット配布
組込みソフトウェア開発セミナー開催(土樋キャンパス)	2005 年 10 月 27 日～28 日	組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会 (SESSAME) から講師を招聘し, 宮城県内外企業技術者を対象に組み込み講習会を開催
出展 みやぎ産学官研究成果発表会 ポスターセッション出展 (仙台国際センター)	2005 年 11 月 4 日	KNOPPIX Edu シリーズの紹介と頒布
Linux world 30, 31 頁 掲載	2005 年 11 月号	KNOPPIX4.0 の概要にて東北学院発 KNOPPIX Edu が紹介
KNOPPIX Edu5 発表 (頒布開始)	2006 年 2 月	他教育機関向け KNOPPIX Edu5 の公開と学外への頒布開始
第 68 回全国大会情報処理学会 (工学院大学 新宿キャンパス)	2006 年 3 月 7 日～10 日	KNOPPIX Edu の解説と紹介と頒布
MEET2006 基盤技術高度化支援センター	2006 年 3 月 14 日	KNOPPIX Edu シリーズの紹介と頒布
Linux World 2006 (東京ビッグサイト)	2006 年 5 月 31 日～6 月 2 日	学生を引率, KNOPPIX Edu シリーズの紹介と頒布
応用物理学会「リフレッシュ理科教室」開催 (多賀城キャンパス)	2006 年 8 月 5 日～6 日	組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会 (SESSAME) から講師を招聘し, 県内小中高等学校生徒・児童および父母・教員を対象にロボットプログラミング教室を開催
河北新報 29 面 掲載	2006 年 8 月 5 日	教育現場で無償 OSS 普及 東北学院中学・高校 今月から実証実験

日刊電波新聞 13面 掲載	2006年8月17日	オープンスクールプラットフォームプロジェクト 富士通東北システムズと東北学院
人は言葉でものを考えるからよ(東北学院大学カウンセリング・センター便り Vol. 69)	2006年11月10日	学生への兼任カウンセラーからのショートレター
中高大一貫教育会議 IT 委員会活動として、大学生と高校生のロボットプログラムに関する交流授業を実施	2007年4月～2008年3月	教養学部大学生および工学部大学生が教員補助として法人内2校の情報授業に参加し、交流指導を行う取り組みを開始
WRO (World Robot Olympiad) 東北地区予選会を東北学院中学高等学校にて開催	2007年4月～2008年3月	WRO 東北実行委員会会長として世界規模で開催されているロボット大会を小鶴キャンパスで開催した。
高校への出前授業の講師を務めた	2007年7月	気仙沼向洋高等学校にて KNOPPIX を用いた授業を行った。
WRO (World Robot Olympiad) 東北地区予選会を東北学院中学高等学校にて開催	2009年4月～2009年8月	WRO 東北実行委員会会長として世界規模で開催されているロボット大会を小鶴キャンパスで開催した。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年7月	気仙沼向洋高等学校にて暗号とコンピュータによるセキュリティシステムに関する授業を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 学びとコンピュータ ハンドブック	共著	2008年8月	東京電機大学出版局	佐伯胖監修 /CIEC 編	「オープンソース」72～75頁
Ba 視覚情報の差異に伴う心的活動変化の自発脳波律動に基づく評価の試み	共著	2008年	人間工学, Vol. 44, No. 2	加藤和夫 志子田有光 望月菜穂子 石川敦雄 小林宏一郎 小林哲生	67～75頁
高大連携による組み込み教材開発と高大生交流授業モデルの実践	共著	2008年	日本教育工学会論文誌, Vol. 32, No. 2	志子田有光 加藤和夫 菅原 研 松澤 茂 河田拓朗 川田徳明 井口 巖 佐藤徳男 佐々木整	141～148頁
個別ブース方式を用いた学生実習の積み上げ教育に関する研究	共著	2008年	東北学院大学工学部研究報告, 第42巻, 第1-2号	志子田有光 加藤和夫 山田 顕 女川 淳 星 善元 荒川雄介 竹川真人	17～22頁

Bb A practicable educational contents sharing system utilizing Knoppix Edu series the 1 Cdbootable Linux teaching tools	共著	2005年7月	IEEE ITHET 6th Annual International Conference	A. Shikoda T. Ono M. Kumagai M. Ishikawa D. Chiba K. Suzuki K. Kato T. Hamada	T3C14-19
KNOPPIX/Math:Portable and distributable collection of mathematical software and free documents	共著	2006年9月	Mathematical Software - ICMS2006, Lecture Notes in Computer Science, Springer, 4151	T. Hamada K. Suzuki K. Iijima A. Shikoda	285~290頁
C Development and Evaluation of a Web Based Teaching Support System for Practical Engineering Experiment Class	共著	2008年	E-Learn Conference 2008, Las Vegas, Nevada, USA, November, 17-21	A. Shikoda K. Kato J. Onagawa H. Sasaki	To Be Published
ウェブアクセスログを利用した工学実験進捗管理システムの運用と評価	共著	2008年7月	電子情報通信学会技術研究報告	高山壽則 加藤和夫 佐々木整 志子田有光	Vol. 108, No. 146, 63~66頁
個別実験を指向した学生実験支援システムの開発とその実践	共著	2008年12月	電子情報通信学会技術研究報告	荒川雄介 竹川真人 加藤和夫 佐々木整 志子田有光	Vol. 107, No391, 75~80頁
Effect of visual image features on neural activities: An fMRI study	共著	2009年	WC2009, IFMBE Proceedings 25/ II (eds) O. Dössel and W. C. Schlegel	K. Kato O. Miura A. Shikoda K. Sugawara T. Kuroki A. Ishikawa T. Kobayashi	312~314頁
Association of Event-related Potentials with Working Memory in the Presence of Ambient Noises	共著	2009年	Proceedings of 18th International Congress on Brain Electromagnetic Topography (ISEBET2009)	K. Kato K. Suzuki A. Shikoda K. Sugawara A. Ishikawa T. Kobayashi	19~22頁
学生実験におけるウェブベースの教材のためのログ分析技術に関する研究	共著	2009年	電子情報通信学会技術研究報告, ET2009-25	熊谷 薫 遠藤拓海 加藤和夫 志子田有光 佐々木整	19~22頁
多人数組み込みプログラム開発におけるログ収集手法の提案	共著	2009年	電子情報通信学会技術研究報告, ET2009-26	遠藤拓海 熊谷 薫 加藤和夫 志子田有光 佐々木整	23~26頁

G	Knoppix による学内教育と企業連携—官学連携で模索する企業ニーズを踏まえた IT 教育—	共著	2005 年 9 月	(社) 日本工学教育協会 第 53 回年次大会及び工学・工業教育研究講演会 (広島大学工学部)	志子田有光 石川雅美 熊谷正朗 千葉大作 須崎有康	308 頁
	KNOPPIX/Math:Portable and distributable collection of mathematical software and free documents	共著	2005 年 12 月	Asian Symposium on Computer Mathematics (ASCM2005), KIAS, Proceedings of the Seventh Asian Symposium on Computer Mathematics (ASCM2005)	T. Hamada K. Suzuki K. Iijima A. Shikoda	255~258 頁
	オープンソースソフトウェアの教育活用 高等教育における OSS 教育利用とコミュニティ活動	単著	2006 年 9 月	第 5 回情報科学技術フォーラム (福岡大学)		
	ウェブアクセスログを利用した工学実験習熟度評価システムの開発	共著	2007 年 9 月	教育システム情報学会 第 32 回全国大会講演論文集	竹川真人 荒川雄介 加藤和夫 佐々木整 志子田有光	52~54 頁
	注視点情報に基づいた画像の特徴抽出法についての基礎的検討	共著	2008 年 3 月	電子情報通信学会総合大会, 情報・システム講演論文集	加藤和夫 坂本晃浩 志子田有光 西田 恵 鈴木和憲 石川敦雄 樋口祥明 小林哲生	講演論文集 1, 8 頁
	視覚刺激の時間・周波数特性の違いが脳神経活動に与える影響の fMRI 計測に基づく評価	共著	2008 年 5 月	第 47 回生体医工学会大会, 第 46 巻特別号	加藤和夫 佐久田陽介 志子田有光 石川敦雄 西田 恵 鈴木和憲 樋口祥明 糸井誠司 野界武史 小林哲生	778 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Open School Platform プロジェクト (経済産業省)	2006 年度		東北学院中高大一貫教育会議 IT 教育委員会活動の一環として, 経済産業省から 3000 万円, 東北学院高等学校, 東北学院榴ヶ岡高等学校に KNOPPIX コンピュータ各 45 台を導入, 実証実験を行う。

科学研究費補助金基盤研究(C)	2007～2008 年度	共同・研究代表者	実技教育に特化したオープンソースLMSにおける時系列解析に関する研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2009～2011 年度	研究代表者	多人数教育に特化した組込み装置開発教育支援システムの時系列解析に関する研究

IV 学会等及び社会における主な活動

2003 年～2005 年	出前授業 (仙台東高等学校, 宮城県泉高等学校, 宮城県利府高等学校, 宮城学院高等学校)
2005 年	県民大学講師
2005 年 4 月～2008 年 3 月	経済産業省プロジェクト (Open School Platform Project 選定・評価委員)
2006 年 7 月 21 日	日本Linux 会員 JLA 2006 年 7 月セミナー in 仙台講師 演題: Linux デスクトップ環境の学校への導入事例と課題
2006 年 8 月～現在に至る	2006 年 CICC 委員 (財団法人国際情報化協力センター) アジア OSS 人材育成小委員会委員
2006 年 11 月 2 日 (木)	先進 IT 活用教育シンポジウム in 和歌山 OSP ミニ討論 ～OSP について語ろう～司会進行
2006 年 12 月 2 日 (土)	先進 IT 活用教育シンポジウム in 高知 (高知工科大学) 分科会A OSP (Open School Platform) プロジェクト発表学校現場におけるオープンソースソフトウェア導入と活用 司会進行兼コメンテータ
2007 年 11 月 7 日	招待講演 Asia Open Source Software Conference and Showcase 2007 (Thailand) KNOPPIX Edu supports Open School Platform Project

所属	電子工学科	職名	准教授	氏名	菅原 文彦	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習内容の定着のため演習問題と模範解答を作成し講義に利用した。	2005年～2009年	電子工学基礎論の演習問題 (A4版6項15問) と模範解答 (A4版3項) を作成し配布した。				
	学習内容の定着のため演習問題と模範解答を作成し講義に利用した。	2005年～2009年	電子工学概論 (電気情報工学科) の演習問題 (A4版6項15問) と模範解答 (A4版3項) を作成し配布した。				
	学習内容の定着のため演習問題と模範解答を作成し講義に利用した。	2005年	固体電子工学 I (電気情報工学科代講) 演習問題 (A4版4項13問) 模範解答 (A4版4項) を作成し配布した。				
	フレッシュマンセミナーでアンケート調査を実施した。	2006年7月 2008年7月	入学後の基礎科目の履修状況, アルバイトの有無, 将来の進路等について調査した。				
	学習内容の定着のため演習問題と模範解答を作成し講義に利用した。	2007年	固体電子工学 II (電気情報工学科) 演習問題 (A4版8項14問), 模範解答 (A4版4項) を作成し配布した。				
	学習内容の定着のため演習問題プリントを作成し講義に利用した。	2007年～2009年	電気回路演習 I の演習問題を作成し課題とし, 授業中に模範解答を示した。				
	学習内容の定着のためテスト問題を作成し講義中に実施した。	2007年～2009年	電気回路演習 I のテスト問題 (B4版) を作成し試験を3回実施し, 授業中に模範解答を示した。				
	学習内容の定着のため演習問題と模範解答を作成し講義に利用した。	2008年～2009年	電子電気材料工学の演習問題 (A4版4項10問) と模範解答 (A4版4項) を作成し配布した。				
	学習内容の定着のため演習問題と模範解答を作成し講義に利用した。	2008年～2009年	電子物性工学の演習問題 (A4版4項10問) と模範解答 (A4版5項) を作成し配布した。				
	電子工学実験 I 及び II の追試を行い, 実験方法や教育内容の改善等を検討。	2008年～2009年	電子工学実験 I 及び II の追試を行い, 10テーマほどの実験内容の修正を提案した。				
2	大学院のセミナーにおいて教材プリントを作成し利用した。	2004年～2006年	MOSFET デバイスのモデリングと数値解析手法に関する解説書 (A4版52項) を作成した。				
	学生実験指針を作成した。	2005年2月～2006年11月	改組電子工学科の学生実験指針「コンデンサ・誘電体の実験」(B5版4項) を作成した。				
	学生実験指針を作成した。	2005年2月～2006年11月	改組電子工学科の学生実験指針「抵抗とダイオードの実験」(B5版4項) を作成した。				
	学生実験指針を作成した。	2005年2月～2006年11月	改組電子工学科の学生実験指針「コイルによる磁界とホール素子による直流磁気測定の実験」(B5版4項) を作成した。				
	「固体電子工学 I」のプリントを作成した。	2005年～2007年	固体デバイス I (代講) の動作原理の解説プリント (A4版配布資料6項入り24枚) を作成し配布。				
	「固体電子工学 II」のプリントを作成した。	2005年～2007年	固体デバイス II (電気情報工学科) の動作原理の解説プリント (B5版62項) を作成し配布。				

「基礎電子工学」のプリントを作成した。	2006年4月～2006年7月	基礎電子工学の内容に関して、パワーポイント配布資料（A4版6項入り25項）を作成した。
みやぎ県民大学「大学開放講座」の講師を務めた。	2006年6月28日	「身のまわりの先端デバイス」というテーマで講師を務めた。
学生実験指針を作成した。	2006年7月～11月	電気情報工学科の新学生実験指針「トランジスタに関する実験」（B5版4項）を作成した。
東北地区大学電気教員懇談会に出席した。	2006年9月1日	本学工学部電子工学科（物理情報工学科）の就職・進学状況、入試状況、学力低下への取り組み等について報告した。
「電子工学基礎論」のプリントを作成した。	2007年～2009年	電子工学基礎論の内容に関して、パワーポイント解説資料（A4版6項25枚）を作成し配布。
「電子工学概論」のプリントを作成した。	2007年～2009年	電子工学概論（電気情報工学科）の内容に関して、パワーポイント解説資料（A4版6項25枚）を作成し配布。
「電気回路演習Ⅰ」のプリントを作成した。	2007年～2009年	電気回路演習Ⅰの内容に関して、ポイントをプリントに纏め解説資料（A4版6項入り15項）を作成し配布。
「電子物性工学」のプリントを作成した。	2008年～2009年	電子物性工学に関する基本事項を解説したプリント（A4版6項入り25枚）を作成し配布。
「電子電気材料工学」のプリントを作成した。	2008年～2009年	電子電気材料工学に関する基本事項を解説したプリント（A4版6項入り25枚）を作成し配布。
電子工学セミナーで用いた文献の説明プリントを作成した。	2008年～2009年	文献「Silicon MOSFETs—Novel Materials and Alternative Concepts」の解説のためA4版2項入り7枚のプリントを作成し配布。
チュータ制のゼミにおいてプリントを作成した。	2008年7月	電子工学の基礎（電気回路）に関する資料（A4版6項入り4枚）を配布。
卒業研究のセミナーで用いた文献の解説を作成した。	2008年～2009年	文献「Molecular Electronics」の解説資料（A4版6項）を配布。
卒業研究のセミナーで用いる解説プリントを作成した。	2008～2009年	「ドリフト拡散モデルによる自己バイアスチャネルダイオードの解析」の解説資料（A4版18項）を配布。
卒業研究のセミナーで用いる解説プリントを作成した。	2008～2009年	「電気分解デバイスの原理」に関するパワーポイントの解説資料（A4版6項入り8枚）作成配布。
卒業研究で用いるプログラミングと数値解析の解説プリントを作成した。	2008～2009年	「プログラミングと数値解析」に関するパワーポイントの解説資料（A4版6項入り11枚）作成配布。
4 東北学院大学FD推進委員会主催「第4回FD講演会」に出席	2007年11月15日	「京都産業大学におけるFD活動と教員評価制度」
東北学院大学大学院工学研究科FD研修会に出席	2008年2月28日	「工学研究科における教育改革の取り組み」他
東北学院大学FD推進委員会主催「第4回FD研修会」に出席	2008年7月3日	「大学コンソーシアム京都FDフォーラム参加報告」他

東北学院榴ヶ岡高校の体験実験の講師担当		2008年10月4日	「光センサーの基礎実験」(2クラス各25名程)		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 自己バイアスチャネルダイオードの逆方向リーク電流シミュレーション	共著	2005年	東北学院大学工学部 研究報告, 39巻, 1号	菅原文彦 米谷正治 引地 孝 大沼孝一	A4 6項
正孔注入による DMOSFET の基板バイアス効果	共著	2005年	東北学院大学工学部 研究報告, 39巻, 1号	引地 孝 飯山雄介 永沢隆之 菅原文彦 大沼孝一	A4 5項
G 正孔注入形自己バイアスチャネルダイオードの温度依存性	共著	2005年8月	平成17年度電気関係 学会東北支部連合大 会 1I8	安藤寛人 工藤公朗 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
正孔注入形自己バイアスチャネルダイオードの電力損失の温度依存性	共著	2005年9月	第66回応用物理学会 学術講演会 10aZn2	工藤公朗 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
正孔注入形自己バイアスチャネルダイオードの電力損失の温度依存性	共著	2006年8月	電気学会産業応用部 門大会(YPC)Y-1	安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオード特性のボディ表面密度依存性	共著	2006年8月	平成18年度電気関係 学会東北支部連合大 会 2I6	安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードの電力損失シミュレーション	共著	2007年8月	平成19年度電気学会 産業応用部門大会	中岡隆伸 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードのゲート酸化膜薄膜化限界に関する一考察	共著	2007年8月	平成19年度電気学会 産業応用部門大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項

正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードのゲート酸化膜薄膜化限界に関する一考察	共著	2007年8月	平成19年度電気関係学会東北支部連合大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
自己バイアスチャネルダイオードの自己バイアス低下の解析	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
電子のトンネル注入による水の電気分解促進に関する一考察	共著	2008年8月	平成20年度電気関係学会東北支部連合大会	湊 善春 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
自己バイアスチャネルダイオードの自己バイアス低下の防止	共著	2008年8月	平成20年度電気学会産業応用部門大会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
電子のトンネル注入による水の電気分解促進に関する検討	共著	2008年8月	平成20年度電気学会産業応用部門大会	湊 善春 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
自己バイアスチャネルダイオードの自己バイアス低下の防止低下の検討	共著	2008年9月	第69回応用物理学会学術講演会	吉田竜也 安藤寛人 山口日出男 星 秀明 菅原文彦 大沼孝一	1項
正孔注入型自己バイアスチャネルダイオードの特性シミュレーション	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会	吉田竜也 菅原文彦 大沼孝一	2項
水の電気分解の促進化に関する検討	共著	2009年2月	平成21年東北地区若手研究者研究発表会	湊 善春 菅原文彦 大沼孝一	2項
I 半導体ダイオード	共著	2005年4月	特許登録 登録番号第3673334号	菅原文彦 山口日出男	A4 19項
電子放出素子	共著	2005年8月	特許出願2005-217425	菅原文彦 山口日出男	A4 17項
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	

IV 学会等及び社会における主な活動	
1984年4月～	応用物理学会会員
1992年4月～	電気学会会員

所属	電子工学科	職名	准教授	氏名	鈴木 仁志	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	FD ワークショップ（新任教員向け）で決定されたキーワードの試行	2006年9月～11月（継続中）	目標の明示，声かけ，言語を明瞭，情熱の4点を意識して授業を行っている。				
2	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」，テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2007年7月～9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」，テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2008年5月～7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」，テーマ名:22世紀のキーテクノロジーを学ぶ 資料 実習編	2009年7月～9月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する11テーマについて纏めた資料				
	平成21年度 第31回宮城県中学校理科教育研究大会 多賀城大会 実習資料	2009年10月2日	「物質の構造を調べるーレーザーを使った回折実験ー」とのタイトル左記教育研大会のために作成した実習資料				
4	工学基礎教育センター所員	2006年4月～（継続中）	講義の分からない学生に対する補助教育業務週2コマ				
	FD ワークショップ（新任教員向け）参加	2006年8月	私立大学連盟主催のワークショップに参加し，各私大の先生方とより良い授業実践について意見をまとめた。				
	平成19年度みやぎ県民大学「大学開放講座」講義	2007年6月6日	「ナノメートルの世界で見る燃料電池」との題目で地域住民への講義を行った。				
	出前授業（八戸南高校）	2007年6月23日	「煙とナノ粒子 ナノメートルの世界で見る宇宙から環境問題まで」との題目で八戸南高校で出前授業を行った。				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2007年7月～9月	「X線で構造を調べる」の実習担当として小，中，高校の教員に授業を行った。				
	FD 研修会参加	2007年11月15日	FD 研修会参加				
	出前授業（松島高校）	2008年3月13日	「電子を使って物質の構造を調べるー金属粒子から化粧品までー」との題目で松島高校で出前授業を行った。				
	中学生対象実験	2008年5月9日	富谷中学の中学生4名に対して，真空および低温の実験を行った。				
	出前授業（宮城野高校）	2008年5月24日	「電子を使って物質の構造を調べるー金属粒子から化粧品までー」との題目で宮城野高校で出前授業を行った。				

FD 研修会参加	2008年7月3日	第4回FD研修会に参加
平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008年7月29日, 30日, 8月4日, 8月30日	「X線で構造を調べる」の実習担当として小, 中, 高校の教員に授業を行った。
仙台西高見学会	2009年5月1日	仙台西高校生徒へ電子顕微鏡と電顕を用いた研究内容の説明を行った。
TG 推薦見学会	2009年6月11日	TG 推薦を希望する東北学院高校, 東北学院榴ヶ岡高校の生徒に電顕室で施設説明を行った。
出前講義 (第一高等学院郡山高)	2009年6月17日	「電子を使って物質の構造を調べるー金属粒子から化粧品までー」との題目で第一高等学院郡山高で出前授業を行った。
模擬授業 (宮城県工業高校)	2009年6月29日	「電子を使って物質の構造を調べるー金属粒子から化粧品までー」との題目で宮城県工業高校の生徒に模擬授業を行った。
FD 研修会参加	2009年7月2日	FD 研修会参加
平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2009年7月～9月	「X線で構造を調べる」の実習担当として小, 中, 高校の教員に授業を行った。
教職免許更新講習会(理科・物理分野)	2009年8月19日	教職免許更新講習会の物理実験を担当した。
東北学院中学体験実験	2009年8月20日	東北学院中学校の中学生に理科の体験実験を行った。光, 真空, 低温の実験をおこなった。
平成21年度 第31回宮城県中学校理科教育研究大会 多賀城大会	2009年10月2日	「物質の構造を調べるーレーザーを使った回折実験ー」とのタイトルで「平成21年度 第31回宮城県中学校理科教育研究大会 多賀城大会」の実習を担当した。
出前授業 (福島東高校)	2009年11月11日(予定)	福島東高校で出前講義の予定

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Spontaneous growth of singular morphology of a comet-like fine particle	共著	1999年	J. Crystal Growth 200	C. Kaito H. Suzuki T. Izuta N. Tsuda Y. Saito T. Nakada S. Kimura	271～275頁
A New Method on Size Control of Ultrafine Particles and Effect of Electric Field	共著	2000年	Jpn. J. Appl. Phys. 39	H. Suzuki T. Nakada Y. Saito C. Kaito	5252～5255頁
Singular diffusion as a function of nanoparticle size in antimony film-selenium particles and antimony film-tellurium particles	共著	2001年	J. Nanoparticle Res. 3	T. Nakai M. Shimizu H. Suzuki T. Nakada Y. Saito C. Kaito	279～287頁

Ordered alloy formation by the use of reaction between ultrafine particle and cluster	共著	2002 年	Physics Low-Dim. Struct. 7/8	T. Tsurusako T. Tanigaki H. Suzuki Y. Kimura T. Sato O. Kido Y. Saito C. Kaito	77~86 頁
Process of crystallization in thin amorphous tin oxide film	共著	2002 年	J. Crystal Growth 243	T. Kobayashi Y. Kimura H. Suzuki T. Sato T. Toshiaki Y. Saito C. Kaito	143~150 頁
A New Attempt on Reduction of Ultrafine Particles	共著	2002 年	Physics Low-Dim. Struct. 7/8	H. Suzuki T. Tanigaki T. Sato O. Kido Y. Atou Y. Kimura C. Kaito	99~106 頁
Fabrication of an amorphous carbon tube from copper oxide whisker	共著	2002 年	J. Crystal Growth 244	H. Suzuki N. Fukuzawa T. Tanigaki T. Sato O. Kido Y. Kimura C. Kaito	168~172 頁
The separation mechanism of the particles in a smoke by an electric field	共著	2002 年	J. Nanoparticle Res. 5	H. Suzuki Y. Saito T. Nakada C. Kaito	387~394 頁
Crystallization and selective growth process of amorphous Y-Ba-Cu-O film	共著	2002 年	Physics Low-Dim. Struct. 11/12	T. Tanigaki H. Ariumi H. Suzuki Y. Kimura Y. Saito C. Kaito	77~84 頁
Novel Method for the Preparation of Silicon Oxide Layer on TiO ₂ Particles and Dynamic Behavior of Silicon Oxide Layer on TiO ₂ Particle	共著	2003 年	Physica E 16	Y. Aatou H. Suzuki Y. Kimura T. Sato T. Tanigaki Y. Saito C. Kaito	179~189 頁
Dynamic process of crystallization of Sb ₂ Sb ₃ from Sb ₅₀ Se ₅₀ amorphous film	共著	2003 年	J. Crystal Growth 250	M. Kurumada H. Suzuki Y. Kimura Y. Saito C. Kaito	444~449 頁

Atomic observation of sublimation process of Pb (111) surface	共著	2003年	Surf. Rev. Lett. 10	T. Tanigaki H. Suzuki Y. Kimura Y. Saito C. Kaito	455~459頁
Demonstration of crystalline forsterite grain formation due to coalescence growth of Mg and SiO smoke particles	共著	2003年	Meteoritics & Planetary Science 38 Nr 1	C. Kaito Y. Ojima K. Kamitsuji O. Kido Y. Kimura H. Suzuki T. Sato T. Nakada Y. Saito C. Koike	49~57頁
In-situ observation of silicon carbide formation process using electron microscope	共著	2003年	J. Crystal Growth 254	M. Ishikawa Y. Kimura H. Suzuki O. Kido T. Tanigaki T. Sato Y. Saito C. Kaito	131~136頁
Structure and optical spectrum of ZnO nanoparticles produced in RF Plasma	共著	2003年	J. Crystal Growth 255	T. Sato T. Tanigaki H. Suzuki Y. Saito O. Kido Y. Kimura C. Kaito A. Takeda S. Kaneko	313~316頁
Dynamic behavior of SiO- and SiO ₂ -coated ZnO ultrafine particles and growth mechanism of Zn ₂ SiO ₄ crystal	共著	2003年	J. Crystal Growth 256	T. Tanigaki H. Suzuki Y. Kimura O. Kido Y. Saito C. Kaito	317~323頁
Dynamic behavior of silicon oxide layer on silicon ultrafine particle	共著	2003年	Surf. Rev. Lett. 10	Y. Kimura H. Ueno H. Suzuki T. Sato T. Tanigaki O. Kido Y. Saito C. Kaito	361~364頁
Structure and Growth of Rod-Shaped Mn Ultrafine Particle	共著	2003年	Jpn. J. Appl. Phys. 42	O. Kido H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	5705~5708頁

Structural Control of Silicon Oxide Particles by Oxygen Partial Pressure in RF Plasma	共著	2003年	Jpn. J. Appl. Phys. 42	T. Sato A. Takeda Y. Kimura H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	5896~5897 頁
Dynamic behavior of Au cluster on the surface of silicon nanoparticles	共著	2003年	Physica E 19	Y. Kimura H. Ueno H. Suzuki T. Tanigaki T. Sato Y. Saito C. Kaito	289~302頁
金薄膜と鉛微粒子の固相反応による合金化 金閣寺の金箔の黒色化に関して	共著	2003年	日本結晶成長学会誌 Vol. 30 No. 2	鶴迫貴司 鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	111~116頁
Growth process of TiC clusters from Ti nanoparticles with evaporated carbon layer	共著	2003年	Surface Science 540	A. Ikegami Y. Kimura H. Suzuki T. Sato T. Tanigaki O. Kido M. Kurumada Y. Saito C. Kaito	395~400頁
Direct Observation of Sublimation Process on CdTe(111) Surface Using Ultrafine Particle	共著	2003年	J. Crystal Growth 260	T. Tanigaki Y. Kimura H. Suzuki C. Kaito	289~303頁
Structure and Thickness of Natural Oxide Layer on Ultrafine Particle	共著	2003年	Jpn. J. Appl. Phys. 42	K. Tamura Y. Kimura H. Suzuki O. Kido T. Sato T. Tanigaki M. Kurumada Y. Saito C. Kaito	7489~7492 頁
Mechanism of copper selenide growth on copper-oxide-selenium system	共著	2004年	Surface Science 548	Y. Ishikawa O. Kido Y. Kimura M. Kurumada H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	276~280頁
TEM study of early Ni ₄ Ti ₃ precipitation and R-phase in Ni-rich NiTi nanoparticles	共著	2004年	Scripta Materialia 50	M. Kurumada Y. Kimura H. Suzuki O. Kido Y. Saito C. Kaito	1413~1416 頁

Effect of RF plasma field on the growth of C_{60} crystals	共著	2004年	Carbon 42	T. Sato O. Kido M. Kurumada Y. Kimura H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	1875~1877 頁
Novel method of doping tungsten into zinc oxide ultrafine particle using RF plasma system	共著	2004年	J. Crystal Growth 265	T. Sato H. Suzuki O. Kido M. Kurumada K. Kamitsuji Y. Kimura A. Takeda S. Kaneko Y. Saito C. Kaito	149~153頁
Growth and structure of Ge clusters produced by Ge-C co-evaporation	共著	2004年	Physica E 23	S. Tanaka O. Kido M. Kurumada K. Kamitsuji Y. Kimura H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	108~113頁
Pentagonal Configuration in GaP Ultrafine Particle	共著	2004年	J. Phys. Soc. Jpn. 73	T. Tanigaki Y. Kimura H. Suzuki M. Kurumada C. Kaito	1375~1376 頁
Phase Transition Temperature of γ - Fe_2O_3 Ultrafine particle	共著	2004年	J. Phys. Soc. Jpn. 73	O. Kido Y. Higashino K. Kamitsuji M. Kurumada T. Sato Y. Kimura H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	2014~2016 頁
Novel method for preparing carbon nanoparticles carrying Pt clusters	共著	2005年	J. Crystal Growth 268	H. Suzuki T. Sato K. Kamitsuji S. Kaneko H. Kawasaki C. Kaito	238~241頁
Structure of copper oxide particles produced in an electric field	共著	2005年	J. Crystal Growth 275	H. Suzuki O. Kido M. Kurumada Y. Saito C. Kaito	e1530~ e1543

Crystal structure and growth of carbon-silicon mixture film prepared by ion sputtering	共著	2005 年	J. Crystal Growth 275	Y. Kimura M. Ishikawa M. Kurumada T. Tanigaki H. Suzuki C. Kaito	e977~e981
Production of transition metal-doped ZnO nanoparticles by using RF plasma field	共著	2005 年	J. Crystal Growth 275	T. Sato H. Suzuki O. Kido M. Kurumada K. Kamitsuji Y. Kimura H. Kawasaki S. Kaneko Y. Saito C. Kaito	e983~e987
Morphological alteration upon phase transition and effects of oxygen impurities of chromium nanoparticles	共著	2005 年	J. Crystal Growth 275	O. Kido K. Kamitsuji M. Kurumada T. Tanigaki T. Sato Y. Kimura H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	e1745~ e1750
Structure of WO ₃ ultrafine particles and their characteristic solid states	共著	2005 年	J. Crystal Growth 275	M. Kurumada O. Kido T. Sato H. Suzuki Y. Kimura K. Kamitsuji Y. Saito C. Kaito	e1673~ e1678
Transition temperature to crystal phase of Al ₈₆ Mn ₁₄ quasicrystal ultrafine particles determined by direct observation and characterization of surface oxide layer	共著	2005 年	Physica E 25	O. Kido H. Suzuki Y. Kimura T. Sato Y. Saito C. Kaito	619~624 頁
Direct observation of the metamorphism of silicon oxide grains	共著	2005 年	Astronomy & Astrophysics 422	K. Kamitsuji H. Suzuki Y. Kimura T. Sato Y. Saito C. Kaito	975~979 頁
Crystalline Mg ₂ SiO ₄ and amorphous Mg-bearing silicate grains formation due to the coalescence and growth	共著	2005 年	Astronomy & Astrophysics 429	K. Kamitsuji H. Suzuki Y. Kimura T. Sato Y. Saito C. Kaito	205~208 頁

Direct observation of crystallization of amorphous Mg-bearing silicate grains to Mg_2SiO_4 (forsterite)	共著	2005 年	Astronomy & Astrophysics 436	K. Kamitsuji T. Sato H. Suzuki C. Kaito	165~169 頁
Direct observation of thermal alteration of mixed film of Ge and SiO	共著	2005 年	Thin Solid Films 483	C. Kaito K. Kamitsuji S. Tanaka O. Kido M. Kurumada T. Sato Y. Kimura H. Suzuki Y. Saito	396~399 頁
Size control and characteristic growth of CdS and CdTe ultrafine particles in electric field	共著	2005 年	J. Phys. Soc. Jpn. 74	Y. Kinuta H. Suzuki M. Kurumada Y. Saito C. Kaito	1323~1327 頁
Structural alteration of carbon nanoparticle and carbon nanoparticles carrying Pt clusters	共著	2005 年	J. Crystal Growth 280	M. Shintaku H. Suzuki T. Sato M. Tamano T. Matsuura M. Hori C. Kaito	87~92 頁
Characterization of nanoscale $BaTiO_3$ ultrafine particles prepared by gas evaporation method	共著	2005 年	J. Crystal Growth 282	S. Kodama O. Kido H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	60~65 頁
Au Alloy Formation with Sn-Pb or Sn-Zn Solder Nanoparticles	共著	2005 年	Jpn. J. Appl. Phys. 44	M. Shintaku H. Suzuki K. Kamitsuji C. Kaito	5295~5299 頁
Growth and the Phase Transition of Indium Sulfide Ultrafine Particle	共著	2005 年	J. Phys. Soc. Jpn. 74	M. Ueda H. Suzuki O. Kido M. Shintaku M. Kurumada T. Sato Y. Saito C. Kaito	1621~1624 頁
Direct observation of the formation of alumina phase by metallic Al solid-SiO ₂ solid reaction	共著	2005 年	Earth Planets Space 57	S. Sasaki H. Suzuki Y. Kimura T. Sato T. Tanigaki O. Kido K. Kamitsuji M. Kurumada C. Kaito	399~401 頁

Experimental Evidence of Stability of Pt Clusters on and in Carbon Particles	共著	2005 年	Jpn. J. Appl. Phys. 44	H. Suzuki M. Shintaku T. Sato M. Tamano T. Matsuura M. Hori C. Kaito	L610~L612
High Resolution Transmission Electron Microscopy of Structural Change in Carbon particle Carrying Pt Clusters	共著	2006 年	Jpn. J. Appl. Phys. 45	M. Shintaku H. Suzuki C. Kaito	9272~9275 頁
Growth of Pt Clusters from Mixture Film of Pt-C and Dynamics of Pt Clusters	共著	2007 年	Jpn. J. Appl. Phys. 46	M. Shintaku A. Kumamoto H. Suzuki C. Kaito	3687~3689 頁
Production of Metallic Particles Covered with Insulator Layer	共著	2007 年	Jpn. J. Appl. Phys. 46	T. Katsuyama A. Kumamoto H. Suzuki O. Kido Y. Saito C. Kaito	3690~3693 頁
Electric Field Effect for Pt Particle on Carbon Particle	共著	2007 年	ECS Transactions, 5	H. Suzuki H. Shingu S. Morikawa S. Obayagi Y. Kimura M. Shintaku A. Kumamoto C. Kaito	79~87 頁
Morphological Alteration and Structure of ZnO Particles Produced in Electric Field	共著	2008 年	J. Phys. Soc. Jpn. 77	C. Kaito Y. Kinuta H. Suzuki S. Adachi A. Kumamoto Y. Saito Y. Kimura	094708-1~4
Structural Alteration of Carbon Particles in Saturated Water Vapor	共著	2008 年	Jpn. J. Appl. Phys. 47	C. Kaito M. Shintaku R. Sakao A. Kumamoto M. Saito Y. Kimura S. Ohyagi S. Morikawa H. Suzuki	6588~6591 頁
EXPERIMENTAL DEMONSTRATION OF CONDENSATION OF Mg-BEARING SILICATE GRAINS AROUND EVOLVED STARS	共著	2008 年	The Astrophysical Journal 684	Y. Kimura S. Sasaki H. Suzuki A. Kumamoto M. Saito C. Kaito	1496~1501 頁

Bb Size control and separation mechanism of ultrafine particles in smoke by electric field	共著	2003年1月	Grain Formation Workshop 2004 (Vol. XXIII)	H. Suzuki Y. Saito T. Nakada C. Kaito	55~76 頁
Direct observation of pairing sublimation on the CdTe (111) surface	共著	2003年1月	Grain Formation Workshop 2004 (Vol. XXIII)	T. Tanigaki Y. Kimura H. Suzuki C. Kaito	77~82 頁
High-temperature behaviors of an amorphous layer on ultrafine particles	共著	2003年1月	Grain Formation Workshop 2004 (Vol. XXIII)	Y. Kimura H. Ueno T. Nakao Y. Atou H. Suzuki T. Sato T. Tanigaki O. Kido Y. Saito C. Kaito	95~118 頁
Alteration Process of Filmly Quenched Carbonaceous Composite (f-QCC) by Heat Treatment	共著	2004年11月	Grain Formation Workshop 2003 (Vol. XXII)	C. Kaito O. Kido S. Wada Y. Kimura H. Suzuki T. Sato K. Kamitsuji M. Kurumada	65~70 頁
Correlations between crystallite size, shape, surface and infrared spectra using Ti-C system	共著	2004年11月	Grain Formation Workshop 2003 (Vol. XXII)	Y. Kimura A. Ikegami K. Kamitsuji H. Suzuki T. Sato T. Tanigaki O. Kido C. Kaito	79~88 頁
Direct observation of metamorphism of silicon oxide grains	共著	2004年11月	Grain Formation Workshop 2003 (Vol. XXII)	K. Kamitsuji S. Ueno H. Suzuki Y. Kimura T. Sato T. Tanigaki O. Kido M. Kurumada C. Kaito	95~106 頁
Formation process of crystalline enstatite grains using RF plasma field	共著	2004年11月	Grain Formation Workshop 2003 (Vol. XXII)	T. Sato K. Kamitsuji T. Kimura M. Kurumada H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	107~112 頁

<p>C ナノ構造粒子のサイズ効果出現に関する実験的研究</p>	単著	2002年3月	学位論文		博士（理学・立命館大学）
<p>G ガス中蒸発法における粒子生成，煙の形，電界の相関</p>	共著	1999年7月	第19回日本結晶成長学会（九州大学）	鈴木仁志 木村誠二 齋藤嘉夫 中田俊隆 堀内千尋	34頁
<p>ガス中蒸発法における粒子生成，煙の形，電界の相関</p>	共著	1999年7月	結晶成長討論会（島原共同研究センター）	鈴木仁志 木村誠二 齋藤嘉夫 中田俊隆 堀内千尋	
<p>新たな粒子サイズコントロール法と微粒子の形態変化</p>	共著	2000年3月	日本物理学会2000年春の分科会（関西大学）	鈴木仁志 中田俊隆 阿藤陽一 齋藤嘉夫 堀内千尋	766頁
<p>電界中におけるガス中蒸発法酸化物粒子の成長</p>	共著	2000年9月	日本物理学会第55回年次大会（新潟大学）	鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	745頁
<p>酸化スズ粒子にみられる電界効果の特徴</p>	共著	2001年3月	日本物理学会2001年次大会（中央大学）	鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	782頁
<p>A Noble Structure Separation Method of Ultrafine Lead Oxide Particles by Electric Field</p>	共著	2001年8月	The Thirteen International Conference on Crystal Growth / The Eleventh International Conference on Vapor Growth and Epitaxy (Kyoto)	H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	159頁
<p>表面酸化物層で覆われたアルミ粒子の創製と電界効果</p>	共著	2001年9月	日本物理学会2001年秋季大会（徳島文理大学）	鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	719頁
<p>電界中で粒子が曲がる条件</p>	単著	2002年1月	Grain Formation Workshop 2002（立命館大学）		
<p>ELECTRIC FIELD DISPERSION MECHANISM OF NANOSTRUCTURE PARTICLES</p>	共著	2002年7月	The 7th International Conference on Structure of Surfaces (Newcastle, Australia)	H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	52頁

DYNAMIC BEHAVIOR OF SILICON OXIDE LAYER ON SILICON ULTRAFINE PARTICLE	共著	2002年7月	The 7th International Conference on Structure of Surfaces (Newcastle, Australia)	Y. Kimuta H. Ueno H. Suzuki T. Sato T. Tanigaki O. Kido Y. Saito1 C. Kaito	13 頁
ATOMIC OBSERVATION ON SUBLIMATION PROCESS OF Pb (111) SURFACE	共著	2002年7月	The 7th International Conference on Structure of Surfaces (Newcastle, Australia)	T. Tanigaki H. Suzuki Y. Kimura Y. Saito1 Y. Nakayama2 C. Kaito	57 頁
ガス中蒸発法によるFeシリケート化合物の創製	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	上辻勝也 齋藤嘉夫 鈴木仁志 木村勇氣 堀内千尋	107 頁
RFプラズマを用いたカーボングレインの創製	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	佐藤岳志 齋藤嘉夫 木村勇氣 鈴木仁志 堀内千尋	159 頁
Ge-C ガス中同時蒸発法による Ge クラスタの創製と構造	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	田中秀治 木村勇氣 鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	160 頁
ACCMによるSiC生成のin-situ観察, 第32回結晶成長国内会議	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	石河 学 木村勇氣 鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	161 頁
ナノサイズ非晶質カーボンチューブ作製の新手法	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	鈴木仁志 福澤直樹 堀内千尋	162 頁
Rod形Mn超微粒子の構造と成長	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	城戸 修 新宅正行 木村 純 木村勇氣 鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	164 頁
Cu粒子を用いた自発セレン化機構	共著	2002年8月	第32回結晶成長国内会議 (長野市)	石川陽介 木村勇氣 鈴木仁志 齋藤嘉夫 堀内千尋	165 頁

Sb ₂ Se ₃ アモルファス膜の電子線照射による結晶化のその場観察	共著	2002 年 9 月	日本物理学会 2002 年 秋季大会 (中部大学)	車田真美 鈴木仁志 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	757 頁
固相反応による TiC 生成過程の動的観察	共著	2002 年 9 月	日本物理学会 2002 年 秋季大会 (中部大学)	池上亜紀美 木村勇氣 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	768 頁
PbTe 微粒子の高温での挙動	共著	2002 年 9 月	日本物理学会 2002 年 秋季大会 (中部大学)	牆内千尋 谷垣俊明 木村勇氣 鈴木仁志	768 頁
準結晶超微粒子の電子顕微鏡中加熱によるその場観察	共著	2002 年 9 月	日本物理学会 2002 年 秋季大会 (中部大学)	城戸 修 鈴木仁志 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	769 頁
微粒子創製に及ぼすプラズマ効果	共著	2002 年 10 月	日本惑星科学会秋季 講演会(水戸市)	佐藤岳志 齋藤嘉夫 木村勇氣 鈴木仁志 牆内千尋	31 頁
Characteristic structure of ZnO particle produced by flash evaporation in RF plasma	共著	2002 年 10 月	ダストプラズマ研究 会 (核融合科学研究 所)	T. Sato T. Tanigaki H. Suzuki Y. Saito O. Kido Y. Kimura C. Kaito A. Takeda S. Kaneko	8 頁
針状 ZnO 粒子からのデンドライト状成長のその場観察	共著	2003 年 3 月	日本物理学会 2003 年 年次大会 (東北大学/ 東北学院大学)	鈴木仁志 谷垣俊明 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	834 頁
RF プラズマを用いたフラッシュ蒸発法による ZnO 微粒子の創製	共著	2003 年 3 月	日本物理学会 2003 年 年次大会 (東北大学/ 東北学院大学)	佐藤岳志 谷垣俊明 鈴木仁志 齋藤嘉夫 木村勇氣 牆内千尋	835 頁
GaP 超微粒子の高温における挙動のその場観察	共著	2003 年 3 月	日本物理学会 2003 年 年次大会 (東北大学/ 東北学院大学)	谷垣俊明 木村勇氣 鈴木仁志 城戸 修 牆内千尋	835 頁

Ni-Ti 系形状記憶合金の微粒子及び蒸着膜の形態と構造	共著	2003 年 3 月	日本物理学会 2003 年年次大会 (東北大学/東北学院大学)	車田真美 鈴木仁志 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	835 頁
Si-C 混合膜からの結晶化	共著	2003 年 3 月	日本物理学会 2003 年年次大会 (東北大学/東北学院大学)	木村勇氣 石河 学 谷垣俊明 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	835 頁
Crystalline forsterite grain formation due to the coalescence growth of MgO and SiO ₂ smoke particles	共著	2003 年 8 月	月・惑星シンポジウム (宇宙科学研究所)	上辻勝也 鈴木仁志 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	262 頁
The behavior of carbon grains produced in RF plasma field	共著	2003 年 8 月	月・惑星シンポジウム (宇宙科学研究所)	佐藤岳志 木村勇氣 城戸 修 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	266 頁
Sn-Zn 粒子の構造と金属粒子の固相反応	共著	2003 年 9 月	日本物理学会 2003 年秋季大会 (岡山大学)	新宅正行 鈴木仁志 木村勇氣 佐藤岳志 城戸 修 牆内千尋	767 頁
多重双晶アルミナ超微粒子の創製	共著	2003 年 9 月	日本物理学会 2003 年秋季大会 (岡山大学)	車田真美 上辻勝也 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	767 頁
δ -Cr ナノ微粒子の α -Cr への相転移温度	共著	2003 年 9 月	日本物理学会 2003 年秋季大会 (岡山大学)	城戸 修 鈴木仁志 中島康子 上辻勝也 池上亜紀美 車田真美 佐藤岳志 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	767 頁
チタン酸バリウム超微粒子の創製とその構造	共著	2003 年 9 月	日本物理学会 2003 年秋季大会 (岡山大学)	小玉 詳 鈴木仁志 城戸 修 上辻勝也 車田真美 谷垣俊明 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	768 頁

In 金属粒子煙のプラズマ場中での窒化物および酸化物粒子の創製	共著	2003 年 9 月	日本物理学会 2003 年 秋季大会 (岡山大学)	陸 亨 佐藤岳志 鈴木仁志 城戸 修 車田真美 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	768 頁
δ -Cr ナノ微粒子の α -相への転移温度とサイズ依存性	共著	2004 年 3 月	日本物理学会 2004 年 年次大会 (九州大学)	城戸 修 鈴木仁志 上辻勝也 木村勇氣 佐藤岳志 齋藤嘉夫 牆内千尋	920 頁
CdS 超微粒子のサイズコントロールと昇華プロセス	共著	2004 年 3 月	日本物理学会 2004 年 年次大会 (九州大学)	衣田康彦 鈴木仁志 小玉 詳 車田真実 城戸 修 谷垣俊明 木村勇氣 齋藤嘉夫 牆内千尋	920 頁
C-Si 同時蒸発によるプラズマ場中でのダイヤモンド微粒子の創製	共著	2004 年 3 月	日本物理学会 2004 年 年次大会 (九州大学)	木村勇氣 佐藤岳志 城戸 修 鈴木仁志 牆内千尋	920 頁
Sn-Pb 粒子の構造と金属との固相反応	共著	2004 年 3 月	日本物理学会 2004 年 年次大会 (九州大学)	新宅正行 鈴木仁志 木村勇氣 谷垣俊明 城戸 修 佐藤岳志 齋藤嘉夫 牆内千尋	921 頁
WO ₃ 超微粒子の形態・構造と昇華プロセス	共著	2004 年 3 月	日本物理学会 2004 年 年次大会 (九州大学)	車田真実 木村勇氣 城戸 修 上辻勝也 佐藤岳志 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	921 頁
フォルステライト (Mg ₂ SiO ₄) 微粒子の創製と結晶化	共著	2004 年 3 月	日本物理学会 2004 年 年次大会 (九州大学)	上辻勝也 佐藤岳志 木村勇氣 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	921 頁

Structure of copper oxide particles produced in an electric field	共著	2004年8月	The 14th International Conference on Crystal Growth in conjunction with The 12th International Conference on Vapor Growth and Epitaxy (Grenoble, France)	H. Suzuki O. Kido M. Kurumada Y. Saito C. Kaito	160 頁
Production of transition metal doped ZnO nanoparticles by using RF plasma field	共著	2004年8月	The 14th International Conference on Crystal Growth in conjunction with The 12th International Conference on Vapor Growth and Epitaxy (Grenoble, France)	T. Sato H. Suzuki O. Kido M. Kurumada K. Kamitsuji A. Takeda H. Kawasaki S. Kaneko Y. Saito C. Kaito	121 頁
Structure of WO ₃ ultrafine particles and in-situ observation on sublimation process.	共著	2004年8月	The 14th International Conference on Crystal Growth in conjunction with The 12th International Conference on Vapor Growth and Epitaxy (Grenoble, France)	M. Kurumada O. Kido K. Kamitsuji T. Sato H. Suzuki Y. Saito C. Kaito	350, 450 頁
Size effect on phase transition temperature of δ -Cr nanoparticle to α -phase.	共著	2004年8月	The 14th International Conference on Crystal Growth in conjunction with The 12th International Conference on Vapor Growth and Epitaxy (Grenoble, France)	O. Kido H. Suzuki K. Kamitsuji M. Kurumada T. Sato Y. Kimura Y. Saito C. Kaito	361 頁
電界を利用した CdS, CdTe 超微粒子のサイズコントロールと分散性の向上	共著	2004年8月	第34回結晶成長国内会議(東京農工大学)	衣田康彦 鈴木仁志 佐藤岳志 城戸修 上辻勝也 車田真実 齋藤嘉夫 牆内千尋	66 頁
In ₂ S ₃ 超微粒子の成長と相転移	共著	2004年8月	第34回結晶成長国内会議(東京農工大学)	上田将弘 鈴木仁志 牆内千尋	67 頁

プラズマ場中での In_2O_3 および Sn ドープ In_2O_3 微粒子の成長と形態	共著	2004 年 8 月	第 34 回結晶成長国内会議(東京農工大学)	陸 亨 佐藤岳志 鈴木仁志 城戸 修 車田真実 上辻勝也 齋藤嘉夫 牆内千尋	68 頁
ガス中蒸発法によるチタン酸バリウム超微粒子の創製	共著	2004 年 8 月	第 34 回結晶成長国内会議(東京農工大学)	小玉 詳 城戸 修 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	69 頁
カーボン包埋 Pt ナノ粒子の創製とその安定性	共著	2004 年 8 月	第 34 回結晶成長国内会議(東京農工大学)	鈴木仁志 佐藤岳志 上辻勝也 小玉 詳 城戸 修 牆内千尋	70 頁
Fe_2SiO_4 グレイン創製に及ぼすプラズマ場の影響	共著	2004 年 9 月	日本物理学会 2004 年秋季大会(青森大学)	佐藤岳志 上辻勝也 城戸 修 車田真実 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	792 頁
Si, SiO_2 微粒子上の Al クラスターの固相反応	共著	2004 年 9 月	日本物理学会 2004 年秋季大会(青森大学)	佐々木晋一 車田真実 上辻勝也 城戸 修 佐藤岳志 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	804 頁
プラズマ場中での ITO 微粒子の成長と形態	共著	2004 年 9 月	日本物理学会 2004 年秋季大会(青森大学)	陸 亨 佐藤岳志 上辻勝也 城戸 修 車田真実 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	804 頁
クロムドーパルミナ超微粒子の形成過程と赤外吸収スペクトル	共著	2004 年 9 月	日本物理学会 2004 年秋季大会(青森大学)	車田真実 上辻勝也 鈴木仁志 牆内千尋	805 頁
カーボン包埋 Pt ナノ粒子創製	共著	2004 年 9 月	日本物理学会 2004 年秋季大会(青森大学)	鈴木仁志 佐藤岳志 上辻勝也 金子郷夫 川崎裕通 牆内千尋	805 頁

金属ナノ粒子の安定相への転移機構	共著	2004年9月	日本物理学会 2004年 秋季大会(青森大学)	城戸修 鈴木仁志 佐藤岳志 上辻勝也 車田真実 齋藤嘉夫 牆内千尋	805頁
Fe シリケートグレイン創製におけるプラズマ場効果	共著	2004年9月	日本天文学会, 2004 年秋季年会(岩手大学)	佐藤岳志 上辻勝也 車田真実 鈴木仁志 牆内千尋	Q25a
プラズマ場を用いたナイトライド系ナノ構造粒子の創製	共著	2005年3月	日本物理学会 2005年 年次大会(東京理科大学)	下総晃人 陸 亨 佐藤岳志 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	27pXC-1
TiO ₂ 粒子及びビステアリン酸上のTiO ₂ 粒子の紫外線照射効果	共著	2005年3月	日本物理学会 2005年 年次大会(東京理科大学)	池上亜紀美 車田真実 上辻勝也 佐藤岳志 鈴木仁志 齋藤嘉夫 牆内千尋	27pXC-2
人工・天然カーボン粒子の構造と結晶化	共著	2005年3月	日本物理学会 2005年 年次大会(東京理科大学)	熊本明仁 城戸 修 佐藤岳志 鈴木仁志 車田真実 和田節子 牆内千尋	27pXC-3
カーボン及び白金包埋カーボンナノ粒子の加熱による形態変化	共著	2005年3月	日本物理学会 2005年 年次大会(東京理科大学)	新宅正行 鈴木仁志 車田真実 佐藤岳志 牆内千尋	27pXC-5
ULTRAVIOLET IRRADIATION EFFECT ON TiO ₂ NANOPARTICLE	共著	2005年7月	The 8th International Conference on Structure of Surfaces (Munich, Germany)	M. Kurumada A. Ikegami H. Suzuki T. Sato M. Shintaku O. Kido C. Kaito	183頁
FORMATION OF SILICON NANOPARTICLE AND SOLID-SOLID INTERACTION AMONG Al-SiO ₂ -Si NANOPARTICLE	共著	2005年7月	The 8th International Conference on Structure of Surfaces (Munich, Germany)	H. Suzuki S. Sasaki M. Shintaku T. Sato M. Kurumada K. Kamitsuji C. Kaito	211頁

カーボン粒子上のPtクラスターの成長起源	共著	2005年9月	日本物理学会 2005 年秋季大会 (同志社大学)	新宅正行 鈴木仁志 車田真実 齋藤嘉夫 堀内千尋	735 頁
A new attempt as the aggregation resistance catalysis	共著	2005年11月	2005 Fuel Cell Seminar (Palm Springs Convention Center)	H. Suzuki M. Shintaku M. Kurumada O. Kido M. Tamano T. Matsuura M. Hori C. Kaito	
Fundamental structure of graphitic carbon particles	共著	2005年12月	2006 Fuel Cell Seminar (Palm Springs Convention Center)	M. Shintaku H. Suzuki O. Kido M. Kurumada A. Kumamoto C. Kaito	
カーボンナノ粒子の 80°C加熱による構造変化	共著	2006年3月	日本物理学会 2006 年年次大会 (松山大学・松山大学)	新宅正行 森谷健司 鈴木仁志 城戸 修 車田真実 齋藤嘉夫 ^A 堀内千尋	28pXJ-1
カーボンナノ粒子の 80°C加熱による構造変化 II	共著	2006年9月	日本物理学会 2006 年秋季大会 (千葉大学)	新宅正行 鈴木仁志 ^A 木村勇氣 城戸 修 車田真実 齋藤嘉夫 ^B 堀内千尋	738 頁
Electric field effect for Pt particle on carbon particle	共著	2006年11月	2006 Fuel Cell Seminar (Hawaii Convention Center)	H. Suzuki H. Shingu S. Morikawa Y. Kimura M. Shintaku A. Kumamoto C. Kaito	
Dynamics on formation and coagulation of Pt nanoparticle on carbon substrate	共著	2006年11月	2007 Fuel Cell Seminar (Hawaii Convention Center)	C. Kaito H. Suzuki Y. Kimura M. Shintaku R. Sakao S. Morioka H. Shingu	
Mechanism of the coagulation of Pt catalyst on carbon particle	共著	2006年11月	2008 Fuel Cell Seminar (Hawaii Convention Center)	M. Shintaku H. Suzuki Y. Kimura R. Sakao S. Morioka H. Shingu C. Kaito	

Formation of Pt Clusters Covered with Carbon Layer and Origin of the Generation of the Electricity	共著	2008年11月	2008 Fuel Cell Seminar & Exposition	A. Kumamoto H. Shingu C. Kaito H. Suzuki	
混合非晶質膜からのCoナノ結晶作製実験	共著	2009年5月	日本地球惑星科学連合2009年大会(幕張メッセ)	三浦芳郎 女川 淳 鈴木仁志	
I 燃料電池触媒	共同 出願	2004年	特願 2004-328240	堀内千尋 鈴木仁志 新宅正行	出願中
複合触媒粒子	共同 出願	2005年	特願 2005-235820	堀内千尋 鈴木仁志 新宅正行 堀美知郎	出願中

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金 若手B	2004年度	個別 2年間	ナノ微粒子創製における電場の影響とその機構の解明。
NEDO 固体高分子形燃料電池実用化戦略技術開発事業	2005年	共同・研究分担（1年間） 5年計画	「水管理によるセル劣化対策の研究」 研究委託されたグループの一機関に属し、一部申請作業にも参加した。採択後1年間研究分担者を務めた。

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年12月18日	研究会 東北大学で開催された第二回「46億年昔の結晶成長」研究会にて「ガス中蒸発法による超微粒子作製」との題目で発表
2007年12月27日	研究会 学習院大学で開催された「結晶成長の数理」第2回研究会にて「気相でのナノ粒子作製とナノ粒子の高温での挙動」との題目で発表
2008年3月18日	平成19年度ハイテクリサーチセンター公開シンポジウム 東北学院大学工学部で開催された平成19年度ハイテクリサーチセンター公開シンポジウムにて「Growth of Pt Clusters from Mixture Film of Pt-C and Dynamics of Pt Clusters」との題目で発表
2009年3月9日～11日	国際学会 秋保の佐勘にて開催された「The 2nd INTERFACE MINERALOGY in conjunction with The 2nd CRYSTALLIZATION IN EARLY SOLAR NEBULA」に参加し、「Growth of Pt Clusters from Mixture Film of Pt-C and Dynamics of Pt Clusters」との題目で発表

所属	電子工学科	職名	講師	氏名	栗野 聡子	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
4 平成 21 年度文部科学省委託事業「社会人学 び直しニーズ対応教育推進プログラム」		2009 年 8 月 4, 17, 19 日		「プローブ顕微鏡を用いた磁気記録パターンの 観察」と「物質の構造を調べる」の二つの実習 講座での講義を担当			
宮城県理科大会		2009 年 10 月 2 日		ハードディスクに使用されているナノテクノロ ジーについて実習を担当			
オータムカレッジ講演		2009 年 10 月 12 日		女性で理系進学希望者対象の講演会			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Microstructural evolution of spinodally formed Fe ₃₅ Ni ₁₅ Mn ₂₅ Al ₂₅		共著	2009 年 3 月	Intermetallics 17	I. Baker R. K. Zheng D. W. Saxey M. W. Wittmann J. A. Loudis K. S. Prasad Z. Liu R. Marceau P. R. Munroe S. P. Ringer	886~893 頁	
G Magnetization process of FePt and FePt/Fe thin films and their micro-fabricated dots		共著	2009 年 7 月	20th International Colloquium on Magnetic Films and Surfaces	H. Ishioka T. Iwasa K. Sato C. Moutafis T. Shima K. Takanashi		
Fe 層付与による FePt 薄膜および FePt 円形ドットの磁化過程の変化		共著	2009 年 9 月	日本金属学会 2009 年 秋期(第 145 回) 大会	石岡 創 佐藤浩太郎 嶋 敏之 高梨弘毅		
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	石川 雅美	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教員独自の「学生による授業評価アンケート」を実施している。	2004年4月～現在まで		学部で実施する授業評価に加えて、「JABEE アンケート」というかたちで無記名記述方式のアンケートを行い、学生の要望を授業改善に取り入れている。			
	JABEE プログラムに即した授業の実施, 改善	2006年～現在まで		JABEE 認定学科として, JABEE の教育改善プログラムを实践			
4	工学部新任教員 FD 研修会報告	2005年9月		研修会にて発表するとともに, 同会の報告書を作成。			
	環境土木工学科 JABEE プログラム責任者として JABEE 受審	2006年10月		JABEE 取得に向けてのプログラム責任者を担当。			
	JABEE プログラム責任者	2006年度～2008年度		環境建設工学科の JABEE プログラム責任者として, H20年度の中間審査の受審において, 主導的な役割を果たす。			
	工学部 FD 研修会に参加	2009年7月2日		金沢大学における FD の取り組みについて, 他。			
	一級建築士受験資格認定のための e-learning システムの構築	2009年9月～		本学で始めてとなる本格的な e-learning システムの構築を主導した。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	横波の波動伝播を考慮した反無限連続高架橋におけるエネルギー伝達境界の定式化	共著	2005年7月	鉄道力学論文集, シンポジウム発表論文第9号 土木学会構造工学委員会	李 相勲 中村 光 中沢正利 石川雅美 遠藤孝夫	55～60 頁	
	半無限連続高架橋における粘性境界の設定	共著	2005年8月	応用力学論文集, Vol. 8	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫 石川雅美	189～198 頁	
	高炉セメントを用いたプレキャストコンクリートの初期応力に関する研究	共著	2007年7月	日本コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集, 2007, Vol. 29, No. 3	渡辺弘子 石川雅美 遠藤孝夫	511～516 頁	
	コンクリート構造物の深さ方向の凍結融解回数に関する解析的研究	共著	2007年12月	日本コンクリート工学会 コンクリート構造物の耐久性力学シンポジウム論文集	石川雅美 渡辺弘子 成田 健 遠藤孝夫	371～376 頁	
	東北地方における温度ひび割れ指数簡易判定式の提案	共著	2008年7月	日本コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集 2008, Vol. 30, No. 2	石川雅美 熊谷貴士 子田康弘 岩城一郎	169～174 頁	

Determination of the static elastic constant of concrete derived from the elastic constant of cement paste	共著	2008年9月	Proceedings of the eighth international conference on creep, shrinkage and durability of concrete and concrete structures, ISE-SHIMA, JAPAN, 30 Sep.-2 Oct. 2008	T. Endo M. Ishikawa M. Kawasumi	97~102 頁
Numerical simulations for numbers of freeze and thaw cycles with depth direction from surface of concrete structures	共著	2008年9月	Proceedings of the eighth international conference on creep, shrinkage and durability of concrete and concrete structures, ISE-SHIMA, JAPAN, 30 Sep.-2 Oct. 2008	M. Ishikawa T. Endo H. Watanabe T. Narita	1179~1185 頁
福島県におけるボックスカルバートの温度ひび割れハザードマップの構築	共著	2009年7月	日本コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集 2009, Vol. 31, No. 1	子田康弘 岩城一郎 石川雅美	1603~1608 頁
Numerical Experiments on Concrete Slabs of Various Strength to Detect Defects using the Impact-Echo Method	共著	2009年8月	4 th International Conference on Construction Materials: Performance, Innovation and Structural Implications	S. H. Lee M. Ishikawa T. Endo	1425~1430 頁
E コンクリート構造物の施工技術に起因するひび割れについて	単著	2006年10月	Formosus 通信, Vol. 38, 国土交通省東北地方整備局東北技術事務所発行		11 頁
マスコンクリートのひび割れ解析手法の現状	共著	2007年11月	建設機械, 513. Vol. 143, No. 11 日本工業出版	石川雅美 石川靖晃 溝渕利明	52~58 頁
コンクリート構造物のひび割れに関する技術マニュアル	共著	2008年8月	日本コンクリート工学会 東北支部	石川雅美 他 18 名	1~96 頁
東北地方におけるコンクリート構造物設計・施工ガイドライン	共著	2009年3月	東北コンクリート耐久性向上委員会(国土交通省東北地方整備局監修)	石川雅美 他 13 名	31~69 頁
プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会 報告書	共著	2009年8月	日本コンクリート工学会	石川雅美 他 31 名	211~222 頁

G 混合セメントの収縮特性を考慮したプレキャスト製品の耐荷力について	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	平 孝司 石川雅美 遠藤孝夫	736~737頁
コンクリート中の水分量と潜熱の関係に関する研究セメントペーストの細孔構造予測のための水和シミュレーションモデルの構築	共著	2005年9月	土木学会第60回年次学術講演会, V-370	佐々木健太 小林 亨 石川雅美	739~740頁
コンクリートの火害に関する研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	小山秀和 石川雅美	770~771頁
混合セメントの収縮特性を考慮したプレキャストコンクリートの2次元FEM初期応力解析	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	平 孝司 石川雅美 遠藤孝夫	696~697頁
Vibration Analysis and Evaluation of a Sign Frame on a Bridge	共著	2008年2月	韓国防災学会2008年学術発表大会論文集, II-C-4	S. H. Lee T. Endo M. Ishikawa Y. H. Han	317~320頁
衝撃弾性波法を用いたコンクリートの弾性係数の推測手法	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-31	佐々木一彰 石川雅美 李 相勲 遠藤孝夫	
衝撃弾性波法を用いたコンクリートの弾性係数に及ぼす鉄筋影響についての解析	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-32	吉田康彦 石川雅美 李 相勲 遠藤孝夫	
衝撃弾性波法を用いたコンクリート構造物の初期欠陥探査システムの構築	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, I-21	相良雄三 李 相勲 石川雅美	
LECOMの解析モジュールとmidasFEAのプレ・ポスト処理モジュールの結合	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, I-20	吉成達也 李 相勲 石川雅美	
船舶と港湾構造物の衝突時の挙動に関する質点系解析とFEMの比較	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, I-15	佐々木美紀 石川雅美 渡部真紀子 遠藤孝夫	
台形の応力解放領域を仮定したCPひび割れ幅法の開発	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-42	大川 徹 石川雅美 遠藤孝夫	
マスコンクリートの温度応力解析におけるCP法の適用に関する考察	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-43	遠藤貴之 石川雅美 遠藤孝夫	
東北地方において施工されるボックスカルバート対象としたひび割れ誘発目地間隔と温度ひび割れ指数の関係について	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-44	熊谷貴士 石川雅美 岩城一郎 遠藤孝夫	

施工後 15 年を経過した重力式コンクリートダム内部応力に関する研究	共著	2008 年 3 月	平成 19 年度土木学会 東北支部技術研究発表会, V-46	佐々木直也 石川雅美 遠藤孝夫
Timoshenko はり理論を用いたコンクリートの温度応力解析	共著	2008 年 3 月	平成 19 年度土木学会 東北支部技術研究発表会, V-41	渡部真紀子 石川雅美 田辺忠顕 遠藤孝夫
衝撃・衝突解析ソフトウェアを用いた衝撃弾性波法の欠陥探査制度の検討	共著	2009 年 3 月	平成 20 年度土木学会 東北支部技術研究発表会, I-10	高橋良宗 李 相勲 石川雅美
衝撃弾性波法を用いたコンクリート構造物の欠陥探査システムの検証	共著	2009 年 3 月	平成 20 年度土木学会 東北支部技術研究発表会, I-32	渡邊正典 李 相勲 石川雅美
マスコンクリートの温度ひび割れ幅予測	共著	2009 年 8 月	平成 21 年度農業農村 工学会大会講演要旨 CD-ROM	横内景子 万木正広 石川雅美

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金	2006 年度	共同 (宮城県等内陸部 の構造物調査および 資料作成)	アルカリ骨材反応による東北地区コンクリート構造物の劣化度調査
建設事業に関する技術開発支援制度支援金 (東北建設協会)	2008 年度	個別	コンクリート構造物の施工品質向上のための温度ひび割れ制御技術マニュアルの作成

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1981 年～現在まで	日本コンクリート工学協会会員
1981 年～現在まで	土木学会会員
2003 年 4 月～現在まで	日本コンクリート工学協会マスコンクリートソフト作成委員会委員
2005 年 1 月～現在まで	土木学会東北支部 緊急災害調査団候補者
2005 年 6 月～現在まで	日本コンクリート工学協会 コンクリート構造物の長期耐久性シミュレーションソフト作成委員会委員
2006 年 4 月～2009 年 3 月	日本コンクリート工学協会 東北支部 コンクリート構造物のひび割れ研究委員会 委員長
2006 年 6 月～2008 年 10 月	日本コンクリート工学協会 セメント系材料の時間依存性挙動に関する研究委員会委員
2007 年 4 月	日本コンクリート工学協会 コンクリート診断士講習会講師
2007 年 6 月～2009 年 5 月 28 日	日本コンクリート工学協会東北支部常任委員
2007 年 7 月～2009 年 3 月	国土交通省東北地方整備局 宮城ブロック総合評価委員
2007 年 7 月 13 日	コンクリート工学協会 コンクリート工学年次大会 マスコンクリートセッション座長

2007年9月～2009年3月	日本コンクリート工学協会 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会委員
2008年4月	日本コンクリート工学協会 コンクリート診断士講習会講師
2008年6月～現在まで	日本コンクリート工学協会 混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する研究委員会委員
2008年7月～現在まで	松島町 入札監視委員
2009年4月～2011年3月	国土交通省東北地方整備局 宮城ブロック総合評価委員会 委員長
2009年4月～現在まで	日本コンクリート工学協会 プレキャストコンクリート製品の性能設計と利用研究委員会 構造物評価WG 主査
2009年4月	日本コンクリート工学協会 コンクリート診断士講習会講師
2009年5月29日～	日本コンクリート工学協会東北支部幹事
2009年7月	コンクリート工学協会 コンクリート工学年次大会 マスコンクリートセッション座長
2009年10月～2011年9月	多賀城市情報公開・個人情報保護審査会委員長
2009年11月～2010年3月	国土交通省東北地方整備局 国営みちのく公園維持管理業務発注に係わる企画競争有識者委員会 委員長
2009年12月～2011年12月	国土交通省東北地方整備局 道路橋の維持・補修マニュアル検討委員会 委員長

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	石橋 良信	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	JABEE 受審に伴い、授業評価、カリキュラム等を工夫する。	2005年4月～2006年10月		JABEE 認定に寄与			
3	「工学基礎教育センター」の果たす役割と期待	2006年3月		東北学院大学教育研究所報告書, 第6集, 5～11頁			
	日本環境工学教授協会, News Letter	2007年2月		日本環境工学教授協会のNews Letter (No.17) に工学基礎教育センターの設立の件を報告			
	東北学院大学 工学基礎教育センター 平成18年度年報	2007年3月		センター所長として工学基礎教育センター平成18年度年報を発行			
	FD 研修会報告・出席	2007年7月 2009年2月20日, 9月24日		第3回FD研修会では「工学基礎教育センターの初年度業務を顧みて」を報告			
	FDU news (TGU Faculty Development News)	2007年9月		FDU news (Vol.7) でFD研修会での「工学基礎教育センターの初年度業務を顧みて」をまとめる			
	水道の将来を担う現代の学生気質	2007年11月		全国水道企業団連絡協議会東北地区協議会第22回連絡会議で学生の基質について講演する			
	東北学院大学 工学基礎教育センター 平成19年度年報	2008年7月		センター所長として工学基礎教育センター平成19年度年報を発行			
4	工学部教育改善委員長	2002年4月～2005年3月		シンポジウム開催など工学部の教育改善に寄与。工学基礎教育センター設立を準備する。			
	東北学院大学教育研究所所員を務める	2003年4月～現在		東北学院大学設置の教育研究所の所員を数年間仰せつかっている			
	工学基礎教育センター所長を務める	2006年4月～2008年3月		東北学院大学設置の工学基礎教育センターは2006年に設立され, 2年間センター所長を仰せつかった			
	大学院工学研究科土木工学専攻主任を務める	2007年4月～現在		専攻主任および修学支援委員長としての役割を果たす			
	大学院工学研究科 FD 委員会出席	2008年2月		第1回大学院工学研究科FD委員会出席			
	工学基礎教育センター運営委員を務める	2008年4月～現在		工学基礎教育センターの初代センター所長を終えた後, 運営委員を務めている			
	現代学生基質と退学に対する話題提供	2008年		工学部の退学を考える第3時限委員会のために工学基礎教育センター所長時の経験を話す			

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 紫外線水処理用語集	共著	2005年9月	日本水環境学会・紫外線を利用した水処理技術研究会	海賀信好編	
紫外線消毒の上下水道への適用	共著	2006年8月	技術教育出版社	大森豊明編	482～491頁
Ba 南バングラディッシュにおける地下水流動とヒ素の分布について	共著	2005年3月	水工学論文集	梅木知裕 真野 明 石橋良信	151～156頁
Isolation of Polystyrene and Styrene Decomposing Soil Microbes by Partial 16S ribosomal RNA Gene Sequencing and their Decomposition Capabilities	共著	2005年3月	Science and Engineering Reports of Tohoku Gakuin University	L. K. Thida T. Endo E. Oikawa Y. Ishibashi	89～93頁
Inhibitory action of musty odor substance by fosmidomycyne	共著	2005年10月	Seventh IWA Symposium on Off-Flavours in the Aquatic Environment	E. Oikawa Y. Ishibashi	24～28頁
Modification of Granular Activated Carbon Surface by Chitosan Coating for Geosmin Removal	共著	2005年10月	Seventh IWA Symposium on Off-Flavours in the Aquatic Environment	S. Vinitnantharat W. Pattanasirisophon Y. Ishibashi	57～60頁
南バングラディッシュにおける深層取水時のヒ素輸送解析	共著	2006年3月	東北地域災害科学研究	丸井堂嗣 真野 明 石橋良信	91～96頁
Groundwater flow and arsenic contamination analyses in Southern Bangladesh	共著	2006年5月	International Symposium on Contaminated Sediments	T. Umeki A. Mano Wahidzamen Y. Ishibashi	
Groundwater flow and arsenic contamination analyses in Southern Bangladesh	共著	2006年6月	Jorunal of American Society for Testing and Materials International, Vol. 3, No. 6	T. Umeki A. Mano Y. Ishibashi	44～51頁
Conditions of Arsenic Elution and Influence of Water Intake from Deep Aquifer in Southern Bangladesh	共著	2006年11月	International Symposium on Health and Hazard by Arsenic Contamination of Groundwater and its	A. Mano N. Takahashi T. Marui Y. Sato Y. Ishibashi	119～123頁
Modification of granular activated carbon surface by chitosan coating for geosmin removal : sorption performances	共著	2007年3月	Water Science & Technology, Vol. 55, No. 5	S. Vinitnantharat W. Pattanasirisophon Y. Ishibashi	145～152頁
Geochemical Factors in Mobilizing Arsenic Transport in the Deltaic Aquifer ; Southth-Western Bangladesh	共著	2007年7月	2 nd International Symposium on Environmental Management	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	197～205頁

Arsenic Mobilization in Deltaic Sediment; South-Western Bangladesh	共著	2007年10月	Geological Society of America, GSA Annual Meeting and Exposition, GSA Annual Meeting and Exposition, Vol. 39, No. 6	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	218頁～
Geochemistry of Arsenic Contamination at Deltaic Aquifer of Kolaroya, Bangladesh	共著	2007年10月	American Institute of Professional Geologists, 2007 AIPG National Meeting	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	http://www.mi.aipg.org/2007%20Ann%20Mtg/2007Conference-Abstracts.htm
異臭味産生藻類のファジィニューラルネットワークによる増殖要因解析	共著	2007年11月	環境工学研究論文集, Vol. 44	石橋良信 及川栄作 本多裕之 安達智広 中枋昌弘	255～263頁
Geochemistry of Arsenic in the Shallow Holocene Aquifer, South-Western Bangladesh	共著	2008年6月	5th AOGS Conference	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	
Analyses of Growth Factors of Taste and Odor Producing Algae by a Fuzzy Neural Network, Eight IWA Symposium on Off-Flavours in the Aquatic Environment	共著	2008年10月	Eight IWA Symposium on Off-Flavours in the Aquatic Environment	E. Oikawa Y. Ishibashi Y. H. Han	361～367頁
Subsurface Arsenic Transport in Groundwater of South-Western Bangladesh	共著	2008年10月	IAH International Hydrogeological association	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	受理
Desorption of Arsenic and Its Mobilization in the Subsurface Environment	共著	2008年10月	Joint Annual Meeting of Geological Society of America (GSA)	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	http://a-c-s.confex.com/crops/2008am/webprogram/Paper50271.html
Geochemical evidence of arsenic transport in shallow ground water, Bangladesh	共著	2008年10月	10th APD-IAHR	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	受理
A kinetic study of resorcinol-enhanced hydroxyl radical generation during ozonation with a power law type equation	共著		Journal of Water and Environment Technology, Vol. 6, No. 1	Y. H. Han Y. Ishibashi K. Ichikawa H. Utsumi	1～7頁
異臭味産生藻類の増殖要因解析	単著	2008年11月	日中水処理シンポジウム	石橋良信	19～25頁

バングラデシュ帯水層を想定したヒ素溶出作用因子の挙動解析	共著	2008年11月	環境工学研究論文集, Vol. 45	高橋直樹 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙 M. T. Rahman 真野 明	1~8頁
Statistical Evaluation of Highly Arsenic Contaminated Groundwater in South-Western Bangladesh	共著	2009年3月	J. Applied Quantitative Methods	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi Vol. 4(1)	112~121頁
水中オゾン酸化反応における硝酸鉄触媒の効果に関する研究, 東北学院大学工学部研究報告	共著	2009年3月	東北学院大学工学部研究報告, 第43巻, 第1, 2号	韓 連熙 後藤慎一 石橋良信	47~50頁
Statistical Evaluation of Highly Arsenic Contaminated Groundwater in South-Western Bangladesh	共著	2009年3月	Journal of Applied Quantitative Methods, Vol. 4, No. 1	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	112~121頁
Geochemistry of Arsenic in the Holocene Aquifer; South-Western Bangladesh	共著		<i>Proc. Advances in Geosciences, Hydrological Science</i>	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	in press
Geochemistry of Arsenic in the Sediment-water Interface of an Alluvial Aquifer, Bangladesh	共著		<i>Proc. 24th Int. Applied Geochemistry Symposium</i>	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	in press
Groundwater Arsenic Sorption by the Natural Aquifer Material; South-Western Bangladesh	共著		<i>Proc. 33rd IAHR Congress</i>	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	accepted
Bb 国内外における紫外線消毒の上下水道への導入動向	単著	2005年4月	水環境学会誌, 第28巻, 第4号		8~11頁
水道でのクリプトスポリジウム不活化を目的とした紫外線消毒装置導入のためのガイドライン (案)	共著	2005年5月	水道協会雑誌, 第74巻, 第5号	日本水道協会: 水道におけるクリプトスポリジウム等の対策に関する研究会	143~150頁
健全な水環境と水環境創造のための膜技術の展開・広がる紫外線技術ー紫外線導入ガイドラインー	単著	2005年9月	日本水環境学会, 水環境シンポジウム		3~4頁
紫外線消毒ガイドラインについて	単著	2006年7月	水道技術研究センターセミナー		
石橋良信東北学院大学・所長が主張する中小への対策と積極更新で安心な水道に	単著	2006年9月	水道公論, 第42巻, 第9号		22~31頁

ファジィニューラルネットワークを適用したかび臭産生藍藻 <i>Phormidium tenue</i> の増殖要因解析	共著	2007年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要	安達智広 石橋良信 及川栄作 本多裕之	CD
Mobilization of Arsenic in a Contamination Aquifer ; South-Western Bangladesh	共著	2007年7月	9 th International Summer Symposium, Japan Society of Civil Engineers	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	319~322頁
DESORPTION AND MOBILITY OF ARSENIC IN A SHALLOW SANDY AQUIFER	共著	2008年9月	10th International summer symposium, Japan Society of Civil Engineers	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	229~232頁
Seeing a "Pleasant" and "Unpleasant" Odor with Lights or Colors: a Biotechnological Approach (Keynote speech)	単著	2008年10月	Eight IWA Symposium on Off-Flavours in the Aquatic Environment		79~82頁
Leaching Kinetic Rate of Arsenic Bearing minerals in the Ganges Delta Basin Subsurface Sediments: An estimation approach, AGU Chapman Conf. Arsenic in Groundwater of Southern Asia	共著	2009年3月	Siem Reap, Cambodia	M. T. Rahman A. Mano K. Udo Y. Ishibashi	41頁
異臭味産生藻類の増殖要因解析	単著	2009年3月	日中水処理技術国際シンポジウム論文集		24~28頁
平成20年岩手・宮城内陸地震による水道被害と震災対策	単著	2009年8月	水道, 第54巻, 第8号		1~17頁
D					
浄化槽と下水処理場の適正配置による河川水中の病原性微生物起因リスク管理	共著	2005年3月	国土交通省 都市・地域整備局 下水道部	福士謙介 石橋良信	40~60頁
環境影響低減化浄水技術開発研究 (e-Water) 第1研究グループ報告書	共著	2005年3月	平成16年度厚生労働省科学研究費補助金による健康科学総合研究事業	石橋良信 湯浅 晶 他	
微生物および粘性物質等が膜ろ過のファウリングに与える影響評価	単著	2005年3月	水道技術研究センター基礎研究報告		1~8頁
環境影響低減化浄水技術開発研究 (e-Water) 第1研究グループ委員会・大規模膜ろ過	共著	2005年8月	水道技術センター	石橋良信 湯浅 晶 他	
紫外線消毒ガイドライン	共著	2005年8月	水道技術センター・紫外線消毒ガイドライン委員会	石橋良信 茂庭竹生 他	276~330頁
浄化槽と下水処理場の適正配置による河川水中の病原性微生物起因リスク管理	共著	2006年3月	国土交通省 都市・地域整備局 下水道部	福士謙介 石橋良信	104~111頁
釜房および大倉ダムにおける異臭味発生予測に係る調査	単著	2007年3月	水道局報告書		

紫外線照射装置 JWRC 技術審査基準 (低圧紫外線ランプ編)	共著	2008 年 1 月	水道技術研究センター, マニュアル	水道技術研究センター	
異臭味原因藻類の発生要因および遺伝子工学的分類	単著	2008 年 3 月	水道技術研究センター <i>e-Water II</i> 基礎研究	石橋良信他	1~19 頁
水道水源であるダム貯水池における異臭味発生予測に係る調査	単著	2008 年 3 月	水道局報告書		
紫外線照射装置 JWRC 技術審査基準 (中圧紫外線ランプ編)	共著	2008 年 8 月	水道技術研究センター, マニュアル	水道技術研究センター	
岩手・宮城内陸地震に思う	単著	2008 年 9 月	全国簡易水道上議会 “水道”		3 頁
バングラデシュ帯水層を想定したヒ素溶出作用因子の挙動解析	共著	2009 年 2 月	東北学院大学ハイテク・リサーチ・センター, 平成 20 年度研究成果報告書	高橋直樹 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙 M. T. Rahman 真野 明	
健康リスク低減のための新たな浄水プロセスの開発に関する研究, 平成 20 年度総括研究報告書	共著	2009 年 3 月	厚生労働科学研究費補助金	伊藤雅喜 石橋良信 松山秀人 木村克輝 他	
水道水源および水処理システムにおける異臭味等に係る調査業務委託報告書	単著	2009 年 3 月	仙台市水道局		
仙南・仙塩広水南長谷漏水事故調査検討業務委託報告書	単著	2009 年 4 月	宮城県企業局, (株)日水コン		
平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震災害調査報告書, 第 6 章 ライフラインの被害	共著	2009 年 8 月	平成 20 年岩手・宮城内陸地震 4 学協会東北合同調査委員会	石橋良信 中山正与 伊藤 裕 上島照幸 高瀬英治	325~358 頁
E インタビューシリーズ「水道のこれから」	単著	2007 年 8 月~9 月	第 4481 号, 第 4482 号, 第 4483 号, (4) 第 4485 号, (5) 第 4487 号, (6) 第 4489 号		
国連ミレニアム開発目標と水道	単著	2009 年 11 月	水を語る会リレーエッセイ		
F 水道の将来を担う現代の学生気質		2007 年 11 月	全国水道企業団連絡協議会東北地区協議会第 22 回連絡会議		
「東北のリーダーとしての技術力」仙台市水道局対談		2008 年 1 月	水道産業新聞社第 4378 号		
仙台市水道の現況・課題展望と官学連携のあり方	共著	2008 年 5 月	水道産業新聞	石橋良信	

おいしい水と釜房湖水質保全	単著	2009年7月	川崎町TG講演会		
G 土壌からのヒ素溶出に係る作用因子とその科学的解釈	共著	2005年3月	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発表会	高橋直樹 真野 明 石橋良信	854~855頁
レプトスピラ菌をモデルとした水位変動と水系感染症の関連性評価	共著	2005年3月	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発表会	佐々木悠也 及川栄作 石橋良信	834~835頁
微生物を用いたEPSのリサイクル法およびゼロエミッション処理法の開発	共著	2005年3月	第3回発泡スチロール 再資源化協会 (JEPSRA)技術発表会	及川栄作 石橋良信	
南部バングラディッシュにおける地下水のヒ素汚染解析	共著	2005年4月	第20回日本国際衣料 学会東日本大会・第4 回東北国際保健研究 会合同大会	梅木知裕 真野 明 石橋良信	28頁
下水処理場における原虫の存在調査	単著	2005年4月	第20回日本国際衣料 学会東日本大会・第4 回東北国際保健研究 会合同大会		29頁
クリプトスポリジウム不活化のための紫外線処理装置実証実験について	共著	2005年5月	第56回全国水道研究 発表会	石橋良信 伊藤 亨 他	332~333頁
水道水の安全性と対処技術	単著	2005年6月	みやぎ県民大学		
浄水処理における紫外線照射技術について	単著	2005年8月	水道協会東北地方支 部平成17年度技術講 習会		
安全でおいしい水をつくる技術の革新と紫外線	単著	2005年9月	日本水環境学会, 水環 境シンポジウム(パネ ルディスカッション)		
水道水質の安全性と対処技術	単著	2005年9月	サテライトキャンパ ス		
洪水を伴うレプトスピラ症の環境工学的発生要因の解析と予防対策	単著	2005年10月	東北大学大学院医学 系研究科国際保健分 野ゼミナール		
リモネンまたはシトラスオイルで減容した発泡スチロールの微生物分解の違い	共著	2005年10月	第16回廃棄物学会発 表研修会	及川栄作 石橋良信	555~556頁
バイオにおいセンサーとスチレンリサイクル	共著	2005年11月	(財)みやぎ産学官研 究成果発表交流会	及川栄作 石橋良信	
におい(香り・臭い)バイオセンサーを用いたにおい評価法の構築とにおい感受性表示ビジネスへの展開	共著	2006年2月	DREAM GATE GRANDPRIX 2006	及川栄作 石橋良信	
水系感染症予防のための <i>Leptospira biflexa</i> の流動特性解析	共著	2006年3月	平成17年度土木学会 東北支部技術研究発 表会	佐々木悠也 大沢圭一郎 石橋良信	840~841頁

バイオフィンフォマティクスを適用した <i>Phormidium tenue</i> の増殖要因解析	共著	2006年3月	平成17年度土木学会東北支部技術研究発表会	安達智広 及川栄作 石橋良信	882~883頁
かび臭産生藍藻類のバイオフィンフォマティクスによる増殖予測	共著	2006年3月	第40回日本水環境学会年会	安達智広 中枳昌弘 及川栄作 石橋良信	132頁
水系感染症予防のためのレプトスピラ菌の流動モデル実験	共著	2006年3月	第40回日本水環境学会年会	佐々木悠也 大沢圭一郎 石橋良信	304頁
かび臭産生藍藻類 <i>Phormidium tenue</i> の釜房湖底泥からの単離と分類	共著	2006年3月	第40回日本水環境学会年会	及川栄作 伊藤雅木 今野祥顕 石橋良信	131頁
上水道におけるクリプトスポリジウム等の紫外線消毒の動向	単著	2006年4月	第5回東北国際保健研究会		29頁
ファジィ・ニューラル・ネットワークを適用した <i>Phormidium tenue</i> の増殖要因解析	共著	2006年5月	第57回全国水道研究発表会	安達智広 及川栄作 中枳昌弘 本多裕之 石橋良信	672~673頁
環境水中におけるかび臭原因藍藻類 <i>Phormidium tenue</i> の迅速なグループ特異的PCR検出法の検討	共著	2006年5月	第57回全国水道研究発表会	今野祥顕 伊藤雅木 及川栄作 石橋良信	662~663頁
釜房におけるかび臭発生予測に係る調査業務委託報告会	単著	2006年6月	仙台市水道局		
紫外線消毒ガイドラインについて	単著	2006年7月	e-Water セミナー		
バングラディッシュにおける地下水のヒ素汚染解析	共著	2006年7月	日本公益学会第7回大会	梅木知裕 真野 明 石橋良信	38~39頁
高度浄水処理施設（紫外線消毒）	単著	2006年11月	日本水道協会研修会（中級）		
ファジィニューラルネットワークを適用したかび臭産生藍藻 <i>Phormidium tenue</i> の増殖要因解析	共著	2006年12月	東北学院大学環境防災工学研究所研究発表会	安達智広 本多裕之 石橋良信	
釜房湖のかび臭産生藍藻のファジィニューラルネットワークによる増殖要因解析	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会	安達智広 石橋良信 及川栄作	VII-33
レプトスピラ菌の増殖要因および水中での挙動解析	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会	大沢圭一郎 石橋良信	VII-66
EPS等のバイオリサイクル法開発に関する研究	共著	2007年3月	第5回JEPSRA技術発表会	及川栄作 石橋良信	35~38頁
<i>Leptospira biflexa</i> の増殖要因および物理化学的性状	単著	2007年3月	第44回レプトスピラシンポジウム		1~2頁

環境と水, さらに国際保健への架け橋	単著	2007年5月	東北国際保健研究会 第6回学術総会・市民 フォーラム 会長講 演		レジュメ
レプトスピラ菌の増殖要因および水理 学的挙動	共著	2007年5月	第6回東北国際保健 研究会研究発表会	橘 優衣 石橋良信	
かび臭物質産生藍藻 <i>Phormidium atenue</i> のファジィニューラルネット ワークを適用した増殖要因解析	共著	2007年5月	第58回全国水道研究 発表会	石橋良信 安達智広 及川栄作 本多裕之	528~529頁
異臭物質を産生する藍藻類の遺伝子 工学的分類とファジィニューラルネッ トワークによる発生要因の解析につい て	単著	2007年7月	第38回水道技術管理 者協議会(日本水道協 会東北地方支部)		
釜房湖および大倉ダムにおける異臭 発生予測に係わる調査	単著	2007年8月	水道局報告会		全36頁
異臭産生藻類のファジィニューラル ネットワークによる増殖要因解析	共著	2007年11月	環境工学研究フォー ラム Vol. 44	石橋良信 及川栄作 本多裕之 安達智広 中枳昌弘	255~263頁
水と衛生—微生物リスクとその評価—	単著	2007年11月	学都仙台コンソーシ アムサテライトキャ ンパス		
Prediction Analysis of Growth Facto of Musty Odor Producing <i>Phormidium tenue</i> in Lake Kamafusa by Fuzzy Neural Network	共著	2008年1月	The 8 th International Symposium, Global Renaissance by Green Energy Revolution	E. Oikawa Y. Ishibashi	22~23頁
かび臭物質産生 <i>Anabaena</i> 属の種同定方 法の試み	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発 表会	村上将也 石橋良信 及川栄作	VII-29
ヒ素溶出作用因子としての有機物の影 響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発 表会	加藤 直 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙	VII-3
ガンジスデルタ帯水層を想定したヒ素 溶出作用因子の検討	共著	2008年3月	42回日本水環境学会 年会	佐藤佳央 高橋直樹 韓 連熙 石橋良信	366頁
16S rRNA と 23S rRNA 遺伝子間のスペー サー部位を適用した <i>Anabaena</i> 属の分類	共著	2008年5月	第59回全国水道研究 発表会	村上将也 石橋良信 及川栄作	510~511頁
水道水源であるダム貯水池における異 臭発生予測に係る調査	単著	2008年7月	仙台市水道局報告		全31頁

バングラデシュ帯水層を想定したヒ素溶出作用因子の挙動解析	共著	2008年11月	環境工学研究フォーラム, Vol. 45	高橋直樹 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙 M. T. Rahman 真野 明	
かび臭産生藍藻 <i>Anabaena</i> 属の遺伝子工学を適用した分類方法の検討	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	村上将也 石橋良信	CD VII
電子スピン共鳴装置を用いた光合成微生物から生成されるラジカルに関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	佐々木智昭 小林寿宏 中田 祐 村上将也 石橋良信 韓 連熙	CD VII
バイオにより“におい”を光や色で見る手法について	単著	2009年3月	平成20年度 みやぎ工業会主催 東北学院大学工学部との産学連携推進談話会		
かび臭産生藍藻類 <i>Anabaena</i> 属の遺伝子工学的分類	共著	2009年3月	第43回日本水環境学会年会	村上将也 石橋良信 及川栄作 韓 連熙	542頁
ヒ素の吸脱着における物理・化学的因子に対する数量的解析	共著	2009年3月	第43回日本水環境学会年会	加藤 直 石橋良信 韓 連熙 真野 明	534頁
岩手・宮城内陸地震による水道被害と震災対策	単著	2009年3月	第40回水道実務指導者研究集会, 全国簡易水道協議会		162~179頁
岩手・宮城内陸地震と山間部水道被害	単著	2009年5月	第60回全国水道研究発表会		514~515頁
平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震災害調査結果に関する報告会, 6. ライフラインの被害状況	単著	2009年6月	岩手・宮城内陸地震災害調査結果に関する報告会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究 (B)	2003~2005年度	研究代表者	バングラディッシュのヒ素溶出機構と地下水塩素濃度の相互作用
文部科学省科学研究費補助金	2006年度	分担	「ガンジスデルタ帯水層のヒ素溶出・吸着平衡特性の解明に基づく持続的浄水資源の探索」における溶出要因と吸脱着実験を担当

厚生労働省科学研究費補助金	2008 年度	協力者	「健康リスク低減のための新たな浄水プロセスの開発に関する研究」での膜処理等の改善・普及を担当
IV 学会等及び社会における主な活動			
1972 年 4 月～	土木学会		
1972 年 4 月～	日本水道協会		
1977 年 4 月～	日本水環境学会		
1977 年 4 月～	International Water Association		
2002 年 4 月～	土木学会東北支部商議員		
2003 年 9 月～	日本水道協会国際委員会副委員長		
2006 年 7 月～～2009 年 6 月	日本環境工学教授協会 (JAEEP) 理事		
2007 年 9 月～	多賀城市水道事業運営委員		
2008 年 3 月～	ネパール医科大学 Visiting Faculty		
2008 年～	水道技術研究センター「健康リスク低減のための新たな浄水プロセスの開発に関する研究」委員		
2008 年～	仙台市水道局外部評価委員会副委員長		
2009 年	第 24 回国際保健医療学会準備委員		

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	上原 忠保	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	ビデオ教材, 新聞記事を利用し, 内容を具体的に理解できるようにしている。	2005年4月～2006年11月		過去10年間程度の資料を集め, 配布, レポートでまとめさせる。			
	基本的事項を確実に理解させるようにしている。	2005年4月～2006年11月		大切なところは, 例題で具体的に解法を示し, 類似の問題をレポートに出す。			
	講義: (1) 授業全体の構想上の工夫	2008年4月～		出題レポートのチェックをして返却レポートの解答を行う。チェック時に間違いの多いところを記録しておき, 次の年には, ていねいに講義する。			
	〃 (2) 授業のすすめ方の工夫	2008年4月～		板書を(中学レベルの事項を含めて)完全に行う。途中省略をしない。			
	〃 (3) 学生をひきつける工夫	2008年4月～		基礎科目は一般に学生にとって何に役立つかわからないので, 社会でどのような場面で役立つかを交えて話す。			
〃 (4) 理解を深めさせる工夫	2008年4月～		毎回, 内容を確認できるレポートを出す。チェックして返却。 定期試験以外にテストを行う。 公務員試験に出た問題をレポートに出す。				
演習・講読: (1) 学生をひきつける工夫		2002年4月～		新聞記事を利用して, 学んでいることと, 社会とのかかわり, 工学倫理などを考えさせる。			
2	簡易実験で水の流れやつり合いが理解できるようにしている。	2005年4月～2006年11月		水圧, エネルギー, 大気圧, 波動などの現象の実験。			
4	宮城県農業短期大学非常勤講師	2002年10月～2005年3月		環境土木工学概論(後期・90分)			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
G 蒲生ラグーン導流堤切り欠きの機能		共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発表 会講演概要	渡辺俊哉 中平慎一郎 上原忠保	260～261頁	
蒲生ラグーン奥部人工干潟の渡り鳥の 飛来の観測		共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発表 会講演概要	亀岡美保 遠藤陽子 上原忠保	262～263頁	
七北田河口閉塞時の蒲生ラグーンの水 理		共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発表 会講演概要	薄木康史 高橋裕幸 上原忠保	264～265頁	
蒲生ラグーン奥部の水位特性		共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発表 会講演概要	藤原真美 上原忠保	266～267頁	

蒲生ラグーンのクロロフィルの変化	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	石井 学 佐藤充浩 上原忠保	268～269 頁
蒲生ラグーン干潟の気温・水温・地温 の経年変化	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	高橋昌弘 佐藤雄亮 上原忠保	270～271 頁
蒲生ラグーン奥部水域の水位特性と干 潟の露出特性	共著	2005 年	平成 17 年度土木学会 年次学術講演会講演 概要Ⅱ	藤原真美 渡辺俊哉 上原忠保	Ⅱ-204
蒲生ラグーン奥部干潟に飛来する渡り 鳥の観測	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	藤原真美 上原忠保	354～355 頁
蒲生ラグーンにおけるクロロフィルお よび DO の変化	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	佐藤和也 熊谷昭範 上原忠保	356～357 頁
蒲生ラグーン干潟地中の水分変動	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	根本和幸 佐藤充志 上原忠保	358～359 頁
蒲生ラグーンにおける日射量の変化	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	郡山裕作 川俣康憲 上原忠保	360～361 頁
蒲生ラグーン導流堤天端に設けられた 切り欠きの効果	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要	渡辺俊哉 山中修平 上原忠保	362～363 頁
蒲生ラグーン天端に設けられた切り欠 きの生態系に与える効果	共著	2006 年	平成 18 年度土木学会 年次学術講演会講演 概要Ⅱ	渡辺俊哉 鈴木貴敬 上原忠保	279～280 頁
蒲生ラグーンの日射量およびクロロ フィルの変動特性	共著	2006 年	平成 18 年度土木学会 年次学術講演会講演 概要Ⅱ	郡山裕作 佐藤和也 上原忠保	281～282 頁
Lamong 湾 (スラバヤ, インドネシア) 干潟の現地調査	共著	2006 年	平成 18 年度土木学会 年次学術講演会講演 概要Ⅱ	萩原国宏 上原忠保	285～286 頁
Research on environmental and physical phenomena in lagoon comparing between Indonesia and Japan	共著	2006 年	Proceedings of the XVth Congress of APD-IAHR, India	K. Ogiwhara T. Uehara Anggrahini Nadjadji Anwar Edi janto T. Harianto U. Lasminto	451～459 頁
蒲生ラグーンの風波の特性と底泥の挙 動	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, Ⅱ-4	鈴木理恵 上原忠保	
蒲生ラグーン奥部の塩分特性	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, Ⅱ -13	鈴木貴敬 中澤洋平 上原忠保	

蒲生ラグーン周辺のアシ原の変遷と排水門周辺の水理	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-20	佐藤和也 菅原康介 高木道生 上原忠保
蒲生ラグーン堤生態系に与える導流堤の役割	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-21	渡邊俊哉 大澤晃平 佐藤雅亮 上原忠保
蒲生ラグーン水域の水温と日射量の変動特性	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-30	郡山裕作 佐藤武史 元岡裕一 上原忠保
蒲生ラグーン地形の変化とその要因	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-101	中野真純 松田枝理子 水谷英寿 渡邊俊哉 上原忠保
Research on water quality and physical phenomena in lagoon comparing between Indonesia and Japan	共著	2007年6月	XXXX II-IAHR Congress, Venice	K. Ogihara T. Uehara Anggrahini Nadjadji Anwar Edi jantno T. Harianto U. Lasminto
蒲生ラグーン奥部水域の塩分	共著	2007年9月	第62回土木学会年次学術講演会講演概要集, 2-239, 広島大学	鈴木貴敬 上原忠保
蒲生ラグーンにおける水温と日射量の変動特性	共著	2007年9月	第62回土木学会年次学術講演会講演概要集, 2-240, 広島大学	郡山裕作 上原忠保
蒲生ラグーン排水門周辺のアシ原の変遷と水理	共著	2007年9月	第62回土木学会年次学術講演会講演概要集, 2-252, 広島大学	佐藤和也 上原忠保
蒲生ラグーンにおける水温と日射量の相関	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-9	郡山裕作 上原忠保
蒲生ラグーンのアシ原の変遷と水理	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-10	佐藤和也 上原忠保
蒲生ラグーン奥部水域の水理特性	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-11	鈴木貴敬 北村文浩 佐々木孝行 上原忠保
蒲生ラグーン導流堤の開口部断面拡大による流出入量及び水位の変化	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-19	阿部理恵 佐々木麻衣子 上原忠保

蒲生ラグーンにおける地形および底質の長期的変化	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-20	佐藤広樹 佐々木喜法 高橋 徹 上原忠保
蒲生ラグーンにおけるセジメントの挙動	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-21	高橋修平 佐藤和也 上原忠保
蒲生ラグーンの流速特性	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-22	吉田あゆみ 上原忠保
インドネシア・スラバヤ市のラモング湾干潟の水環境特性	共著	2008年9月	第63回土木学会年次学術講演会講演概要集, 2-085, 東北大学	上原忠保 荻原国宏
蒲生ラグーン奥部水域の水理特性とそ の変化	共著	2008年9月	第63回土木学会年次学術講演会講演概要集, 2-088, 東北大学	佐々木孝行 鈴木貴敬 上原忠保
蒲生ラグーンにおけるSSとセジメント の挙動	共著	2008年9月	第63回土木学会年次学術講演会講演概要集, 2-089, 東北大学	高橋修平 佐藤和也 上原忠保
New index for lagoons by the change of water quality	共著	2008年10月	16th IAHR-APD, Nanjing	K. Ogihara Y. Ishibashi T. Uehara Anggrahini Nadjadji Anwar Edi jantno T. Harianto U. Lasminto
蒲生ラグーン水容積の経年変化	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-74, 東北学院大学	加賀健太郎 北浦浩二 高橋修平 上原忠保
蒲生ラグーンにおけるセジメントの挙 動の季節変化	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-75, 東北学院大学	高橋修平 上原忠保
七北田川河口付近の塩分特性	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-78, 東北学院大学	高橋祐樹 佐藤一樹 上原忠保
蒲生ラグーン奥部水域の水理変化	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-79, 東北学院大学	佐々木孝行 阿部康彦 前田忠夫 上原忠保
蒲生ラグーン内の塩分の経年変化	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, II-85, 東北学院大学	小笠原和隆 高木洋輔 上原忠保

蒲生ラグーンにおける DO の変動特性	共著	2009 年 3 月	平成 20 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, II -86, 東北学院大学	大村全人 佐々木孝之 上原忠保
蒲生ラグーン導流堤開口部断面積の 変化に伴う流量及び水位変化	共著	2009 年 3 月	平成 20 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, II -87, 東北学院大学	鈴木義宣 笹 祥丈 上原忠保
蒲生ラグーン奥部水域の塩分の経年 変化	共著	2009 年 9 月	第 64 回土木学会年次 学術講演会講演概要 集, 2-131, 福岡大学	高橋修平 上原忠保
蒲生ラグーンにおけるセジメントの挙 動の年変化	共著	2009 年 9 月	第 64 回土木学会年次 学術講演会講演概要 集, 2-135, 福岡大学	高橋修平 上原忠保

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(B)	2005～2008 年度	共同・研究分担者	熱帯と温帯での汽水域 河川の干潟が生じてい る水域環境保持につい ての比較研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2002 年 4 月～2005 年 3 月	蒲生干潟自然再生事業検討委員会委員
2005 年 4 月～	蒲生干潟自然再生事業協議会委員 宮城県

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	遠藤 銀朗	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1					授業を前半と後半に分け、中間に5分間の休憩を入れる 教科書に記載されている図や表についてその内容が十分理解できるように説明を詳細に行う 板書はできるだけ大きな字とし、項目の体系的性が明確であるように配慮する		
2	微生物ってなに, 日科技連, ISBN 4-8171-9194-5	2006年10月			環境生物工学のための参考書・副読書を作成した(共著)		
	環境バイオで何ができるか	2007年9月					
3	遠藤銀朗: わが街—大学のある風景—多賀城; 大和と蝦夷が織りなした悠久の歴史の学園都市, 大学時報, No. 310, 112~113頁	2006年9月					
	東北学院大学工学研究報告	2007年3月			論文タイトル「21世紀の工学・技術のパラダイムおよびモードと東北学院大学における工学教育」を発表		
	工学教育, Vol. 55, No. 4	2007年7月			論文タイトル「工学教育の社会貢献度評価に関する考察」を発表		
4	高校への出前授業の講師を務めた。	2006年9月15日			山形県立山形南高等学校の2年生に対して、「環境生態学—大切な地球を守るために」と題する授業を行った。		
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年6月11日			宮城県岩ヶ崎高等学校		
	高校での大学アワーで講師を務めた	2008年10月16日			東北学院榴ヶ岡高等学校		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・略 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	生物工学ハンドブック	共著	2005年6月	コロナ社, ISBN 4-339-06734-2	日本生物工 学会編	760~763頁	
	水環境ハンドブック	共著	2006年10月	朝倉書店, ISBN 4-254-26149-7	日本水環境 学会編	585~596頁	
	微生物の辞典	共著	2008年9月	朝倉書店, ISBN 978-4-254-17136-5	渡邊 信 遠藤銀朗 他	586~589頁	
	環境・資源保全のためのメタルバイオ テクノロジー	共著	2009年3月	シー・エム・シー出版, ISBN 978-4-7813-0117-4	植田充美 池 道彦 遠藤銀朗 他	223~228頁	

Ba	Participation of the <i>recA</i> determinant in the transposition of class II transposon mini-TnMER11	共著	2005 年	FEMS Microbiology Letters, No. 253	K. Matsui M. Narita H. Ishii G. Endo	309~314 頁
	Evaluation of damage in DNA molecules caused by very-low-frequency magnetic field using bacterial cells.	共著	2005 年	IEICE Transactions on Communications, Vol. E88-B, No. 8	A. Haga Y. Kumagai H. Matsuki G. Endo A. Igarashi K. Kobayashi	3249~3256 頁
	環境微生物に見られる遺伝子の水平伝播—微生物に共有された水銀耐性遺伝子から組み換え生物の開放系利用を考える—	共著	2006 年	環境バイオテクノロジー学会誌, Vol. 6, No. 1	遠藤銀朗 松井一彰 成田 勝	27~32 頁
	Evaluate damage in DNA molecules caused by intermediate frequency magnetic fields using bacterial gene expression system for mutation repairing	共著	2006 年	Proceedings of International Symposium on Electromagnetic Compatibility, EMC Europe 2006, Vol. 1	A. Haga G. Endo K. Kobayashi	88~93 頁
	有機水銀分解遺伝子と生物発光システムを用いた有機水銀化合物検出用微生物バイオセンサーの開発に関する研究	共著	2007 年 2 月	水環境学会誌, Vol. 30, No. 2	松井一彰 遊佐清孝 菅原宏幸 成田 勝 遠藤銀朗	77~81 頁
	Composting cattle dung wastes by using a hyperthermophilic pre-treatment process: characterization by physicochemical and molecular biological analysis	共著	2007 年 5 月	Journal of Bioscience and Bioengineering, Vol. 104, No. 5	T. Yamada K. Miyauchi H. Ueda Y. Ueda H. Sugawara Y. Nakai G. Endo	408~415 頁
	Over expression of a single membrane component from the <i>Bacillus mer</i> operon enhanced mercury resistance in an <i>Escherichia coli</i> host	共著	2007 年 6 月	Bioscience Biotechnology and Biochemistry, Vol. 71, No. 6	J-L. Hsieh C-Y. Chen J-S. Chang C-C. Huang G. Endo	1494~1499 頁
	大陸と海洋を渡り歩く細菌と遺伝子：水銀耐性細菌と耐性遺伝子のグローバルな分散	共著	2007 年 12 月	日本生態学会誌, Vol. 57, No. 3	松井一彰 成田 勝 遠藤銀朗	390~397 頁
	有機資源の循環利用に必要な環境保全型コンポスト製造技術の開発	共著	2007 年 12 月	環境バイオテクノロジー学会誌, Vol. 7, No. 2	山田剛史 宮内啓介 上田裕一 上田英代 遠藤銀朗	111~117 頁
	Facilities for transcription and mobility of an exon-less bacterial group II intron nested in transposon TnMER11	共著	2008 年 2 月	Gene, No. 408	M-F. Chein C-C. Huang T. Kusano G. Endo	167~171 頁

Successions of bacterial community in composting cow dung wastes with or without hyperthermophilic pre-treatment	共著	2008年11月	Applied Microbiology and Biotechnology, Vol. 81, No. 4	T. Yamada A. Suzuki Y. Ueda H. Ueda K. Miyauchi G. Endo	771~781頁
Splicing of a bacterial group II intron from <i>Bacillus megaterium</i> is independent of intron-encoded protein	共著	2009年1月	Microbes and Environments, Vol. 24, No. 1	M-F. Chein S. Tosa C-C. Huang G. Endo	28~32頁
Expressing a bacterial mercuric ion binding protein in plant for phytoremediation of Heavy Metals		2009年3月	J. Hazardous Materials, Vol. 161, No. 2/3	J-L. Hsieh C-Y. Chen M-H. Chiu M-F. Chien J-S. Chang G. Endo C-C. Huang	920~925頁
Bb 水俣湾底泥から分離された <i>Bacillus</i> 属細菌由来のヒ素耐性トランスポゾンおよびその <i>ars</i> オペロンの特徴に関する研究	共著	2005年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要, No. 16	佐藤充則 黄 介辰 成田 勝 松井一彰 遠藤銀朗	3~8頁
遠藤銀朗: 21世紀の工学・技術のパラダイムおよびモードと東北学院大学における工学教育	単著	2006年3月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 41, No. 1/2		1~6頁
微生物の環境浄化能力を活用するための新規原位置分子育種法の開発ー細菌性イントロンによる遺伝子の導入ー	共著	2008年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要, No. 19	簡 梅芳 土佐彩絵子 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗	39~45頁
PCB分解菌 <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1におけるPCB分解遺伝子群転写抑制機構の解析	共著	2009年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要, No. 20	伊藤 拓 宮内啓介 遠藤銀朗	87~94頁
G 微生物発酵センサーによる有機水銀化合物の検出に関する研究	共著	2005年3月	平成16年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北工業大学, 宮城県仙台市	菅原宏幸 伊藤幸司 遊佐清孝 遠藤銀朗	
可動性遺伝子(トランスポゾン)の転移頻度に及ぼすUV照射とヒートショックの影響に関する研究	共著	2005年3月	平成16年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北工業大学, 宮城県仙台市	小出繭子 熱海裕介 松井一彰 遠藤銀朗	
環境中からの芽胞形成水銀耐性細菌の分離と水銀耐性遺伝子の探索に関する研究	共著	2005年3月	平成16年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北工業大学, 宮城県仙台市	小野健児 成田 勝 遠藤銀朗	

<i>Bacillus</i> sp. が保有すると考えられる新規ヒ素耐性遺伝子の探索に関する研究, 平成 16 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 2005 年 3 月 11 日, 東北工業大学, 宮城県仙台市	共著	2005 年 3 月	平成 16 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北工業大学, 宮城県仙台市	小幡紘平 坂本智英 佐藤充則 遠藤銀朗
遠藤銀朗, 成田勝, 松井一彰: 環境浄化微生物と遺伝子の水平伝播; 水銀気化遺伝子の共有から考える。	共著	2005 年 3 月	2005 年度日本農芸化学会大会, 札幌コンベンションセンター, 北海道札幌市	遠藤銀朗 成田 勝 松井一彰
Characterization of mobile phenomena of a bacterial group II intron isolated from a mercury resistance transposon.	共著	2005 年 6 月	環境バイオテクノロジー学会 2005 年度大会, 東京大学弥生講堂, 東京都文京区	Mei-Fang. Chen C-C. Huang T. Kusano G. Endo
Development of mercurial compound-specific biosensors.	共著	2005 年 7 月	International Union of Microbiological Societies 2005, Moscone Center, San Francisco, USA	G. Endo M. Narita K. Yusa C-C. Huang
発光微生物センサーによる有機水銀化合物の検出に関する研究	共著	2005 年 9 月	土木学会平成 17 年度全国大会, 早稲田大学, 東京都	遊佐清孝 菅原宏幸 遠藤銀朗
<i>Bacillus</i> sp. の新規ヒ素耐性遺伝子の探索に関する研究	共著	2005 年 9 月	土木学会平成 17 年度全国大会, 早稲田大学, 東京都	小幡紘平 佐藤充則 遠藤銀朗
<i>Bacillus</i> 属細菌におけるトランスポゾンの転移および細菌間伝播現象の解析	共著	2005 年 10 月~11 月	2005 年度日本微生物生態学会大会, 福岡国際会議場, 福岡県福岡市	松井一彰 成田 勝 遠藤銀朗
異なる有機水銀分解遺伝子 (<i>merB</i>) をクローニングした大腸菌の有機水銀分解特性	共著	2005 年 11 月	平成 17 年度日本生物工学会大会, つくば国際会議場, 茨城県つくば市	遠藤銀朗 成田 勝 松井一彰
水俣湾底泥より分離された <i>Bacillus</i> sp. MB24 株がもつヒ素耐性遺伝子群解析に関する研究	共著	2006 年 3 月	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学, 青森県八戸市	小幡紘平 松井一彰 遠藤銀朗
T-RFLP 法および 16SrDNA クローン解析法による活性汚泥微生物群集の生態系解析に関する研究	共著	2006 年 3 月	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学, 青森県八戸市	齋藤史典 菅原宏幸 遠藤銀朗
<i>Bacillus megaterium</i> MB1 株に発見された細菌性 group II intron のスプライシングにおける IEP の必要性和イントロン RNA の転写に関する研究	共著	2006 年 6 月	環境バイオテクノロジー学会 2006 年度大会, 東京大学弥生講堂, 東京都文京区	簡 梅芳 土佐彩絵子 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
Substrate specificity of several organomerurylyases found from environmental bacteria.	共著	2006 年 8 月	11th International Symposium on Microbial Ecology, Austria Center, Vienna, Austria	G. Endo K. Yusa K. Matsui M. Narita

Evidendce for worldwide dissemination of mercury resistance transposon among <i>Bacillus</i> on the bases of directly repeated (DR) sequences.	共著	2006年8月	11th International Symposium on Microbial Ecology, Austria Center, Vienna, Austria	K. Matsui M. Narita Z. Kawabata G. Endo
<i>Bacillus megaterium</i> MB1 株に発見された細菌性 groupII intron のスプライシングに必須な因子に関する研究	共著	2006年9月	平成18年度日本生物工学会大会, 大阪大学豊中キャンパス, 大阪府豊中市	土佐彩絵子 簡 梅芳 遠藤銀朗
<i>Bacillus megaterium</i> MB1 株に発見された細菌性 groupII intron の転写および転移現象に関する研究	共著	2006年9月	平成18年度日本生物工学会大会, 大阪大学豊中キャンパス, 大阪府豊中市	簡 梅芳 土佐彩絵子 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
大腸菌および巨大菌を用いた <i>Bacillus</i> sp. MB24 株が保有するヒ素耐性遺伝子群の発現に関する研究	共著	2006年9月	土木学会平成18年度全国大会, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス, 滋賀県草津市	小幡紘平 松井一彰 遠藤銀朗
DR (Directly repeated) 配列を元にした <i>Bacillus</i> 属細菌における有機水銀耐性トランスポゾンの転移および細菌間転移の解析	共著	2006年10月	2006年度日本微生物生態学会大会, 東京大学農学部, 東京都文京区	松井一彰 成田 勝 川端善一郎 遠藤銀朗
N ₂ O抑止を目的として硝化脱窒反応槽内に添加する脱窒細菌のモニタリング技術の開発	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学小白川キャンパス, 山形県山形市	横山山織 山田剛史 宮内啓介 遠藤銀朗
超高温コンポスト製造過程における窒素循環に関わる微生物の分子生物学的動態解析	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学小白川キャンパス, 山形県山形市	中居行浩 菅原宏幸 山田剛史 宮内啓介 上田裕一 遠藤銀朗
ポリ塩化ビフェニル分解菌の分解遺伝子発現に関する研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学小白川キャンパス, 山形県山形市	伊藤 拓 石山洋介 羽州 晃 福田雅夫 宮内啓介 遠藤銀朗
組み換え微生物による有機水銀の分解除去に関する研究	共著	2007年3月	第41回水環境学会年会, 大阪産業大学, 大阪府大東市	矢萩紀雄 谷口貴興 宮内啓介 遠藤銀朗 成田 勝
超高温堆肥化技術を用いたコンポスト化—その1—コンポスト製造過程における物理化学的諸性質の変化と種々の方法によって製造されたコンポストとの比較—	共著	2007年3月	第41回水環境学会年会, 大阪産業大学, 大阪府大東市	山田剛史 菅原宏幸 中居行浩 宮内啓介 遠藤銀朗

超高温堆肥化技術を用いたコンポスト化—その2 各種分子生物学的手法を併用したコンポスト製造過程における主要微生物の同定とポピュレーションダイナミクス—	共著	2007年3月	第41回水環境学会年会, 大阪産業大学, 大阪府大東市	菅原宏幸 山田剛史 中居行浩 宮内啓介 中村寛治 遠藤銀朗 上田裕一
<i>Bacillus megaterium</i> MB1株に発見された細菌性グルーブIIイントロンがコードするタンパク質のスプライシングへの関与に関する研究	共著	2007年3月	2007年度日本農芸化学会大会, 東京農業大学世田谷キャンパス, 東京都世田谷区	簡 梅芳 土佐彩絵子 高橋秀輔 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
原位置分子育種を目的とする細菌性イントロンの自己スプライシングに関する研究	共著	2007年6月	環境バイオテクノロジー学会2007年度大会, 大阪大学吹田キャンパス, 大阪府吹田市	簡 梅芳 土佐彩絵子 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
超高温前処理を導入した無臭堆肥化法の畜産廃棄物を用いた物理化学的および生物学的評価	共著	2007年6月	環境バイオテクノロジー学会2007年度大会, 大阪大学吹田キャンパス, 大阪府吹田市	山田剛史 宮内啓介 上田英代 上田裕一 遠藤銀朗
Molecular biological analyses of diversity and population dynamics of thermophilic ammonium oxidizing bacteria existing in cattle dung composting process by using <i>amoA</i> gene as a molecular marker	共著	2007年9月	23 rd Annual Convention of the Japanese Society of Microbial Ecology, Ehime University, Matsuyutayama, Ehime	T. Yamada K. Miyauchi S. Araki H. Ueda Y. Ueda G. Endo
細菌性グルーブIIイントロン <i>B. me.</i> IIの転写及び転移に関する基礎的研究	共著	2007年9月	第59回日本生物工学会大会, 広島大学東広島キャンパス, 広島県東広島市	簡 梅芳 土佐彩絵子 浅野 諒 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
原位置分子育種を目的とした細菌性イントロンのスプライシングに関する研究	共著	2007年9月	第59回日本生物工学会大会, 広島大学東広島キャンパス, 広島県東広島市	土佐彩絵子 簡 梅芳 宮内啓介 遠藤銀朗
<i>amoA</i> 遺伝子を分子マーカーとする家畜廃棄物からのコンポスト製造過程における高温性アンモニア酸化細菌の多様性と動態の分子生物学的解析	共著	2007年9月	2007年度日本微生物生態学会大会, 愛媛大学, 愛媛県松山市	山田剛史 宮内啓介 荒木伸也 上田英代 上田裕一 遠藤銀朗
センサーバクテリアの固定化による水銀検出用バイオセンサーデバイスの開発に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, 岩手県盛岡市	大久保亮 矢萩紀雄 宮内啓介 遠藤銀朗

畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程におけるアンモニア細菌群の分子系統学的同定と動態解析	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, 岩手県盛岡市	荒木伸也 山田剛史 宮内啓介 遠藤銀朗
各種分子生物学的手法および統計学的手法を用いた真正細菌群の動態把握による超高温無臭堆肥化法の評価	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, 岩手県盛岡市	鈴木敦士 山田剛史 宮内啓介 遠藤銀朗
<i>Bacillus megaterium</i> MB1株に存在するイントロンの転写とそれによる水銀浄化遺伝子群の発現	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, 岩手県盛岡市	浅野 諒 簡 梅芳 宮内啓介 遠藤銀朗
固定化した組換え大腸菌による有機水銀の分解除去に関する研究	共著	2008年3月	第42回日本水環境学会年会, 名古屋大学, 愛知県名古屋市	矢萩紀雄 大塚達仁 成田 勝 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程におけるアンモニア酸化細菌群の微生物生態学的解析	共著	2008年3月	第42回日本水環境学会年会, 名古屋大学, 愛知県名古屋市	山田剛史 荒木伸也 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
<i>Bacillus megaterium</i> MB1株に発見されたトランスポゾン TnMER11 が保有する水銀耐性オペロンの発現に及ぼす細菌性イントロンの影響に関する研究	共著	2008年3月	2008年度日本農芸化学会大会, 名城大学天白キャンパス, 愛知県名古屋市	簡 梅芳 浅野 諒 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
N ₂ O発生抑制型バイオリアクターに導入する耐酸素性脱窒細菌の生理学的特徴の解明と特異的検出技術の開発	共著	2008年6月	2008年度環境バイオテクノロジー学会大会, 文部科学省研究交流センター, 茨城県つくば市	山田剛史 猪股 誠 宮原盛雄 祥雲弘文 宮内啓介 遠藤銀朗
Transcription of a bacterial group II intron and its contribution for the expression of the gene located downstream	共著	2008年8月	12 th International Symposium of International Union of Microbiological Societies, Istanbul Convention and Exhibition Center, Istanbul, Turkey	G. Endo M-F. Chien S. Tosa T. Kusano
Characterization of microbiological community succession in composting materials made from cow dung wastes after hyperthermophilic pre-treatment	共著	2008年8月	The 12th International symposium on microbial ecology (ISME-12), Cairns Convention Center, Cairns, Australia	T. Yamada A. Suzuki H. Ueda Y. Ueda K. Miyauchi G. Endo

原位置分子育種を目的とする細菌性イントロンのスプライシングに関する基礎的研究	共著	2008年8月	第60回日本生物工学会大会, 東北学院大学土樋キャンパス, 宮城県仙台市	簡 梅芳 土佐彩絵子 黄 介辰 草野友延 遠藤銀朗
転移性遺伝因子の細菌性イントロン <i>B. me. I1</i> に挿入された機能性遺伝子の発現と真核生物における <i>B. me. I1</i> のスプライシングに関する研究	共著	2008年8月	第60回日本生物工学会大会, 東北学院大学土樋キャンパス, 宮城県仙台市	土佐彩絵子 熊谷恵美 簡 梅芳 遠藤銀朗
<i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 におけるヒ素耐性遺伝子群のプロモーター領域の解析	共著	2008年8月	第60回日本生物工学会大会, 東北学院大学土樋キャンパス, 宮城県仙台市	佐藤元氣 塚野真司 遠藤銀朗 福田雅夫 宮内啓介
超高温前処理堆肥化法を適用した畜産廃棄物のコンポスト製造過程における各種微生物群集の遷移と特徴	共著	2008年8月	第60回日本生物工学会大会, 東北学院大学土樋キャンパス, 宮城県仙台市	山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程に関与するアンモニア酸化細菌群の分子系統学的同定と動態解析	共著	2008年9月	平成20年度土木学会全国大会, 東北大学川内キャンパス, 宮城県仙台市	荒木伸也 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程に関与するアンモニア酸化細菌群の遷移, 多様性および生態	共著	2008年11月	2008年度日本微生物生態学会大会, 北海道大学学術交流会館, 北海道札幌市	山田剛史 荒木伸也 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
Activity and specificity of <i>Escherichia coli</i> cloned with different <i>merB</i> genes in removal of organomercurial compounds	共著	2008年11月	2008年度日本微生物生態学会大会, 北海道大学学術交流会館, 北海道札幌市	M-F. Chein M. Narita K. Matsui C-C. Huang G. Endo
PCB分解菌 <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 における安息香酸存在下での PCB 分解遺伝子群転写抑制機構の解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会技術研究発表会	寒河江秀和 中澤皓次郎 伊藤 拓 福田雅雄 遠藤銀朗 宮内啓介
新規ヒ素体制オペロンの単離と解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会技術研究発表会, 東北学院大学多賀城キャンパス, 宮城県多賀城市	相馬和侑 佐藤元氣 宮内啓介 遠藤銀朗

畜産廃棄物のコンポスト製造過程に関与する細菌群の分子系統学的同定と動態解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会技術研究発表会, 東北学院大学多賀城キャンパス, 宮城県多賀城市	岡 大地 荒木伸也 山田剛史 大坪和香子 宮内啓介 遠藤銀朗
亜酸化窒素抑止型硝化脱窒処理に用いる好気脱窒細菌の生育条件および脱窒活性の最適化	共著	2009年3月	平成20年度土木学会技術研究発表会, 東北学院大学多賀城キャンパス, 宮城県多賀城市	柴 祐貴 佐藤優太 大坪和香子 宮内啓介 遠藤銀朗
台南市安順地区の水銀汚染の評価と浄化技術に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会技術研究発表会, 東北学院大学多賀城キャンパス, 宮城県多賀城市	大和恭平 杉木宏実 簡 梅芳 宮内啓介 遠藤銀朗
コンポスト製造過程における窒素化合物の代謝に関与するアンモニア酸化細菌の多様性と遷移に関する研究	共著	2009年3月	第43回日本水環境学会年会, 山口大学, 山口県山口市	荒木伸也 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
Succession and diversity of bacterial microbes in composting cow dung wastes with hyperthermophilic pre-treatment	共著	2009年3月	The 1st International Symposium on Green Technology for Global Carbon cycle in Asia, Nagaoka University of Technology, Nagaoka, Niigata	T. Yamada H. Ueda Y. Ueda K. Miyauchi G. Endo
水俣湾底泥から分離された <i>Bacillus</i> 属細菌における水銀耐性オペロンのトランスポゾンによる伝播に関する研究	共著	2009年3月	2009年度日本農芸化学会大会, マリンメッセ福岡, 福岡県福岡市	簡 梅芳 成田 勝 松井一彰 黄 介辰 遠藤銀朗
好気性脱窒菌 <i>Pseudomonas stutzeri</i> TR2 株の N_2O 発生抑止メカニズム	共著	2009年3月	2009年度日本農芸化学会大会, マリンメッセ福岡, 福岡県福岡市	宮原盛雄 金 尚完 山田剛史 伏信進矢 渡辺 昭 遠藤銀朗 若木高善 祥雲弘文
A Novel <i>TnMERT1</i> -like transposon identified by molecular characterization of mercury resistance determinants and arsenic resistance determinants	共著	2009年5月	109 th General Meeting of American Society for Microbiology, Pennsylvania Convention Center, Philadelphia, USA	M-F. Chien M. Narita F-F. Chen K. Matsui C-C. Huang G. Endo

芽胞形成細菌におけるヒ酸高度耐性遺伝子群の単離と解析	共著	2009年6月	環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京大学弥生会館, 東京都	佐藤元氣 相馬和侑 宮内啓介 遠藤銀朗
好気性脱窒細菌 <i>Pseudomonas stutzeri</i> TR2 株の亜酸化窒素抑制型脱窒反応層における生育条件の最適化	共著	2009年6月	環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京大学弥生会館, 東京都	大坪和香子 宮原盛雄 柴 祐貴 宮内啓介 遠藤銀朗
水銀汚染環境における水銀分解遺伝子の分布	共著	2009年6月	環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京大学弥生会館, 東京都	簡 梅芳 宮内啓介 林 高弘 鈴木 聡 張 祖恩 遠藤銀朗
PCB 分解菌 <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 における PCB 分解遺伝子群転写抑制に関与する物質の特定	共著	2009年9月	平成21年度土木学会全国大会, 福岡大学七隈キャンパス, 福岡県福岡市	伊藤 拓 遠藤銀朗 福田雅夫 宮内啓介
有機性廃棄物のコンポスト製造過程に関与する硝化細菌群の多様性と遷移に関する研究	共著	2009年9月	平成21年度土木学会全国大会, 福岡大学七隈キャンパス, 福岡県福岡市	荒木伸也 山田剛史 上田裕一 上田英代 遠藤銀朗
畜産廃棄物のコンポスト化過程における N ₂ O 発生に関与する微生物の解析	共著	2009年11月	2009年度日本微生物生態学会大会, 広島大学東広島キャンパス, 広島県東広島市	大坪和香子 荒木伸也 宮内啓介 遠藤銀朗
Mercury removal by immobilized bacteria that were genetically modified with <i>merA</i> and <i>merB</i> genes from Minamata Bay bacillus strain	共著	2009年11月	Asia Pacific Biochemical Engineering Conference 2009, Kobe, Japan	G. Endo K. Miyauchi M-F. Chein H. Somaki K. Yanato

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金・基盤研究（一般）(B)	2004～2006年度	共同, 研究代表者	研究課題名：重金属微量汚染の検出・浄化を同時に達成する複合工学技術の開発
科学研究費補助金・基盤研究（一般）(A)	2004～2006年度	共同, 研究分担者	アクアトロンを用いた水域生態系における異なる遺伝子伝播経路の解析
生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業	2005～2009年度	共同, 研究代表者	温室ガス抑制のための窒素バイオマス再生・浄化システムの構築
科学研究費補助金・萌芽研究	2006～2008年度	個別, 研究代表者	汚染環境を生物によって修復するための環境浄化微生物の現位置育種方法の開発

科学研究費補助金・戦略的萌芽研究	2009～2011 年度	共同, 研究代表者	世界において二度と水俣病を起こさないための水銀汚染の原位置生物浄化技術の開発
科学研究費補助金・基盤研究 (一般) (B)	2009～2012 年度	共同, 研究代表者	地球温暖化防止のための下水・排水処理における耐酸索性脱窒素微生物活用技術の研究

IV 学会等及び社会における主な活動

1993 年 1 月～現在	日本微生物生態学会：評議員
1998 年 5 月～現在	土木学会：フェロー
2002 年～現在	日本農芸化学会：東北支部評議員
2004 年 1 月～現在	日本生物工学会：評議員
2008 年 6 月～現在	環境バイオテクノロジー学会：副会長

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	遠藤 孝夫	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
A 鋼アーチ橋架設工法の歴史と発展 (in Korean)	共著	2009年8月	磐石技術図書出版 ISBN:978-89-92312- 17-2	李 沅哲 李 相勲 金 尚錫 遠藤孝夫			
Ba 混合セメントおよび再生骨材のプレ キャスト製品への利用に関する研究	共著	2005年6月	コンクリート工学年 次論文集 (Vol. 27, No. 2)	北辻政文 遠藤孝夫 彗田正明 万木正弘	589~594頁		
EFFECT OF ANCHORAGE IMPLEMENTS ATTACHED TO RECTANGULAR HOOKS OF TIE HOOPS IN RC COLUMNS UNDER CYCLIC LOADING	共著	2005年7月	Proceeding of the International Conference held at the University of Dundee, Scotland, UK on 5-7 July 2005	H. Ishida M. Suga T. Endo M. Kitatsuji	417~424頁		
横波の波動伝播を考慮した半無限連続 高架橋におけるエネルギー伝達境界の 定式化	共著	2005年7月	鉄道力学論文集 (Vol. 9)	李 相勲 中村 光 中沢正利 石川雅美 遠藤孝夫	55~60頁		
半無限連続高架橋における粘性境界の 設定	共著	2005年8月	土木学会応用力学論 文集 (Vol. 8)	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫 石川雅美	189~198頁		
マースバネ系モデルにおける粘性境界 設定の簡便法	共著	2007年8月	土木学会地震工学論 文集, Vol. 29	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫	426~431頁		
Determination of the static elastic constant of concrete derived from the elastic constant of cement paste	共著	2008年9月	Proceedings of the eighth international conference on creep, shrinkage and durability of concrete and concrete structures, ISE-SHIMA, JAPAN, 30 Sep. -2 Oct. 2008	T. Endo M. Ishikawa M. Kawasumi	97~102頁		

Numerical simulations for numbers of freeze and thaw cycles with depth direction from surface of concrete structures	共著	2008年9月	Proceedings of the eighth international conference on creep, shrinkage and durability of concrete and concrete structures, ISE-SHIMA, JAPAN, 30 Sep. -2 Oct. 2008	M. Ishikawa T. Endo H. Watanabe T. Narita	1179~1185 頁
Numerical Experiments on Concrete Slabs of Various Strengths to Detect Defects using the Impact-Echo Method	共著	2009年8月	4th International Conference on Construction Materials: Performance, Innovations and Structural Implications	S. H. Lee M. Ishikawa T. Endo	1425~1430 頁
G コンクリートのひびわれ進展に関する解析的研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要	目澤亘司 遠藤孝夫	698~699頁
半無限連続高架橋における粘性境界設定速度の簡便式	共著	2007年2月	韓国防災学会2007年学術発表大会論文集, I-E-3	李 相勲 遠藤孝夫 李 沅哲	140~143頁
Vibration Analysis and Evaluation of a Sign Frame on a Bridge	共著	2008年2月	韓国防災学会2008年学術発表大会論文集, II-C-4	S. H. Lee T. Endo M. Ishikawa Y. H. Han	317~320頁
衝撃弾性波法を用いたコンクリートの弾性係数の推測手法	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-31	佐々木一彰 石川雅美 李 相勲 遠藤孝夫	
衝撃弾性波法を用いたコンクリートの弾性係数に及ぼす鉄筋影響についての解析	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, V-32	吉田康彦 石川雅美 李 相勲 遠藤孝夫	
衝撃弾性波法による鋼管構造物根入れ深さ測定システムの構築	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会, I-446	熊谷崇之 李 相勲 遠藤孝夫 千葉寛二	891~892頁
Damage Prediction for RC and SRC Columns Based on the Buckling Analysis of Reinforced Bars	共著	2009年2月	韓国防災学会2009年学術発表大会論文集	H. Naito M. Suzuki T. Endo S. H. Lee	97~100頁
Determination of the Static Young's Modulus of Concrete from the Young's Modulus of Cement Paste	共著	2009年2月	韓国防災学会2009年学術発表大会論文集	T. Endo M. Kagaya M. Nakazawa S. H. Lee	101~104頁

衝撃弾性波法による鋼管構造物根入れ 深さ測定システムの検証	共著	2009年3月	平成20年度土木学会 東北支部技術研究発 表会, I-33,	熊谷崇之 伊佐見克則 李 相勲 遠藤孝夫	65～66 頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
科学研究補助金（基盤研究（C））		2007年度～2009年度	共同：データ収集, データ分析, コンク リート物性値の評価, 計算ソフト改良	既設ダムコンクリートの 長期物理特性を把握 し, コンクリートダムの 内部応力の変化を長期 にわたり評価する手法 を明らかにする。	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1995年4月～	土木学会コンクリート委員会委員				
1999年5月～	(財)道路保全技術センター 道路防災ドクター				
2001年4月～	仙台地方裁判所民事調停委員				
2001年6月～	日本コンクリート工学協会東北支部常任委員				
2002年6月～	多賀城市都市計画審議会委員				
2003年4月～	日本コンクリート工学協会マスコンクリートソフト作成委員会委員				
2004年4月～	仙台地方裁判所専門委員				
2004年4月～2009年3月	国土交通省東北地方整備局入札監視員				
2005年12月～	国土交通省東北地方整備局総合評価委員会委員				
2005年12月～	国土交通省東北地方整備局総合評価委員会道路部会委員				
2006年3月～2009年3月	国土交通省東北地方整備局発注者綱紀保持委員会委員				
2006年4月～2006年6月	国土交通省建設弘済会への業務委託のあり方検討委員会委員				
2006年6月～	国土交通省東北地方整備局新技術活用評価委員会委員				

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	大塚 浩司	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	FD 講演会, FD 研修会への参加と授業方法の改善	2005年1月～2009年12月	本学および他会場で開催された FD 講演会およびFD 研修会に参加し, 得られた情報を基に授業方法を改善した。				
	教員独自の「学生による授業評価」を実施している	2005年1月～2009年12月	学部で実施する「学生による授業評価」に加えて, 授業の初回と最終回に「授業方法に関する要望」および「授業の感想」を記述回答させ, 授業改善に役立たせている。				
	授業に実習を取り入れている	2007年4月～2009年12月	講義中に測定装置類を教室に持ち込み実習をさせることにより講義の理解を深めることに役立たせている。測定装置の操作指導の補助を研究室所属の4年生と大学院生にさせる事により, 実習の効果を上げた。				
	授業に現場調査を課題としている	2007年4月～2009年12月	講義で習得した方法により各自が選定した現場構造物の調査およびその報告書の提出を課題とすることにより, 講義の理解を深めることに役立たせている。				
2	授業教材の作成	2005年～2009年12月	「鉄筋コンクリート工学」の授業の要点をまとめたパワーポイントを作成し, プリンアウトしたものを教材として毎回の授業で配布した。				
	授業教材の作成	2005年～2009年12月	「コンクリートメンテナンス工学」の授業は新しい分野のため教科書は使わず, 独自に作成した教材をパワーポイントにまとめ, プリンアウトして配布した。文章の重要箇所の一部を空欄とし, 出席者に筆記によりその空欄箇所を埋めさせることにより, 学生の授業に対する集中度を高めた。				
	教科書の改訂	2006年10月～12月	共著の教科書「コンクリート工学」(朝倉書店)の改訂作業を行った。				
	コンクリート工学 [第2版] (朝倉書店) の出版	2007年2月	最新のコンクリート事情を盛り込んだ初めてコンクリートを勉強する人を対象とした本であり, 八戸工業大学, 東北工業大学の教員と連名で作成し, 共通で使用している本である。				
3	FD 活動の統括	2003年4月～2009年3月	本学 FD 推進委員会委員長として FD 推進委員会の設置, 規程の新設, FD 講演会や FD 研修会の実施等 FD の組織的活動の推進を統括した。				
	東北学院大学 FD 講演会実施	2004年4月～2009年3月	東北学院大学 FD 推進委員会委員長として第1回(2004年8月), 第2回(2005年11月), 第3回(2006年11月), 第4回(2007年11月) および第5回(2008年11月)開催のFD講演会の企画運営を行った。				

東北学院大学FD ニュースの発行	2004年4月～2009年3月	東北学院大学FD 推進委員会委員長として東北学院大学FD ニュース第1号(2004年8月), 第2号(2005年3月), 第3号(2005年10月), 第4号(2006年3月), 第5号(2006年10月), 第6号(2007年3月), 第7号(2007年9月), 第8号(2008年3月), 第9号(2008年10月) および第10号(2009年3月)発行の企画運営を行った。
東北学院大学FD ニュースへの記事の登載	2004年7月～2009年3月	本学FD 推進委員会委員長として, FD ニュース創刊号から第10号まで, 毎号に巻頭言, FD 活動報告, FD フォーラム報告等の記事を登載した。
東北学院大学FD 研修会実施	2005年4月～2009年3月	東北学院大学FD 推進委員会委員長として第1回(2005年6月), 第2回(2006年6月), 第3回(2007年7月) および第4回(2008年7月)開催のFD 研修会の企画運営を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A コンクリート工学 [第2版]	共著	2007年2月	朝倉書店	大塚浩司 外門正直 庄谷征美 小出英夫 武田三弘 阿波 稔	1～180頁
Ba ポーラスコンクリートの三次元的空隙性状と植物の生長	共著	2005年12月	セメント・コンクリート論文集, No. 59	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	577～584頁
X線造影法による鉄筋コンクリートのせん断伝達面における変形状に関する検討	共著	2006年3月	土木学会構造工学論文集, Vol. 52A	子田康弘 渡辺亮史 岩城一郎 大塚浩司	959～967頁
ポーラスコンクリートの三次元的空隙性状に関する研究	共著	2006年3月	東北学院大学工学部研究報告	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	65～71頁
X線造影撮影によるコンクリート強度の推定	共著	2006年5月	土木学会論文集 E, Vol. 62, No. 2	武田三弘 大塚浩司	376～384頁
X線造影撮影によるコンクリート劣化の数値化と凍結融解抵抗性の判定	共著	2006年11月	土木学会論文集 E, Vol. 62, No. 4	武田三弘 大塚浩司	728～738頁
塗布材によるコンクリートのスケールング抑止効果に関する研究	共著	2007年1月	コンクリート工学論文集, 第18巻, 第1号	武田三弘 大塚浩司	1～9頁
高温および低湿度環境下におけるコンクリート物性の変化と損傷の定量化に関する実験検討	共著	2007年5月	建築学会論文集 No. 615	閑田徹志 市川禎和 紺谷 修 武田三弘 大塚浩司	15～22頁

界面活性剤と塩分との複合作用がコンクリートの凍結融解による劣化に及ぼす影響	共著	2007年7月	コンクリート工学年次論文集, Vol. 29, No. 1	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	1155~1160 頁
シリカヒュームおよび微細繊維を混入したポーラスコンクリートの耐凍害性と植物の生長	共著	2007年9月	コンクリート工学論文集, 第18巻第3号	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文 阿波 稔	9~22 頁
アラミド繊維で補強したRC柱の変形と内部ひび割れ性状	共著	2008年7月	コンクリート工学年次論文集, Vol. 30, No. 3	ルクマン 武田三弘 大塚浩司 市之瀬敏勝	229~234 頁
補強ポーラスコンクリートの内部ひび割れに関する研究	共著	2008年	セメント・コンクリート論文集, NO. 62	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	225~232 頁
Presumption of deterioration concrete strength by small size core and X-ray technique	共著	2009年6月	Non-Destructive Testing in Civil Engineering, Nantes, France	M. Takeda K. Otsuka	205~210 頁
アラミド繊維で補強したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ	共著	2009年7月	コンクリート工学年次論文集 Vol. 31, NO. 2	ルクマン 市ノ瀬敏勝 武田三弘 大塚浩司	1741~1746 頁
ごみ溶融スラグを用いたポーラスコンクリートの緑化と空隙性状に関する研究	共著	2009年7月	コンクリート工学年次論文集 Vol. 31, NO. 1	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文 武田三弘	875~880 頁
Bb ポーラスコンクリートにおける空隙と植物の生長	共著	2005年3月	東北学院大学環境防災研究所紀要	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	63~70 頁
コンクリート内部マイクロクラックの検出による劣化度診断に関する研究	共著	2005年4月	財団法人建設工学研究振興会年報, NO. 40	武田三弘 大塚浩司	65~71 頁
ポーラスコンクリートの三次元的空隙性状に関する研究	共著	2006年3月	東北学院大学環境防災研究所紀要, 第16号	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	23~29 頁
ESTIMATION OF CONCRETE STRENGTH AND QUANTIFICATION OF CONCRETE DETERIORATION BY X-RAY TECHNIQUE WITH CONTRAST MEDIUM	共著	2008年8月	2008年韓国防災学会学術発表大会	M. Takeda K. Otsuka S. Lee	41~44 頁
C X線造影撮影によるコンクリート劣化の数値化と凍結融解抵抗性の判定	共著	2007年12月	検査技術, Vol. 12, No. 12	大塚浩司 武田三弘	35~43 頁
G ポーラスコンクリートの高耐久性化に関する研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集 (第V部門, V-34)	石川恒紀 大塚浩司 大友鉄平	682~683 頁

X線画像による連続繊維シート貼付 RC断面のせん断変形に関する検討	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-61)	國分浩史 子田康弘 大塚浩司	734~735頁
ポーラスコンクリートの空隙と植物の生長とに関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-35)	佐藤博和 大塚浩司 武田三弘 大友鉄平	684~685頁
高強度コンクリートと自然石のフラクチャープロセスゾーン性状に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-38)	斉藤広忠 大塚浩司 武田三弘 遠藤博一	690~691頁
エポキシ樹脂の接着強度に及ぼす温度履歴の影響に関する研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-50)	大平貴典 大塚浩司 武田三弘 小野正之	714~715頁
X線造影撮影法によるアルカリ骨材反応を生じたコンクリート構造物の劣化度評価に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-60)	遠藤芳宗 大塚浩司 武田三弘 高橋 真	732~733頁
吸水乾燥作用を受けるコンクリートの耐凍害性評価に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-12)	遊佐宏樹 武田三弘 大塚浩司	638~639頁
界面活性剤がコンクリート凍害に与える影響	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-14)	森 優一 武田三弘 大塚浩司	642~643頁
浸透型吸水防止材を塗布したコンクリート表面の耐凍害性に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-15)	宍戸尚貴 大塚浩司 武田三弘 高橋 真	644~645頁
緑化ポーラスコンクリートの空隙性状に関する基礎的研究	共著	2005年9月	土木学会第60回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-448)	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	895~896頁
界面活性剤がコンクリート凍害に与える影響に関する研究	共著	2005年9月	土木学会第60回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-242)	斉藤広忠 武田三弘 大塚浩司	483~484頁
ポーラスコンクリートの耐凍害性向上策に関する研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門)	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文	684~685頁
エポキシ樹脂の接着疲労特性に及ぼす温度履歴の影響に関する研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門)	小野正之 大塚浩司 武田三弘	700~701頁
界面活性剤と塩分の複合作用がコンクリート凍害へ及ぼす影響	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門)	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	782~783頁

X線造影撮影法によるコンクリート実 構造物の劣化度評価	共著	2006年3月	土木学会東北支部技 術研究発表会講演概 要集(第V部門)	斉藤広忠 大塚浩司 武田三弘	766~767頁
耐凍害性ポーラスコンクリートに関す る研究	共著	2006年9月	土木学会第61回年次 学術講演会講演概要 集(部門5, V-409)	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文	815~816頁
界面活性剤と塩分の複合作用がコンク リートの凍害へ及ぼす影響	共著	2006年9月	土木学会第61回年次 学術講演会講演概要 集(部門5, V-395)	菅井貴洋 武田三弘 大塚浩司	787~788頁
X線造影撮影法によるコンクリート実 構造物の強度評価に関する実験的研究	共著	2006年9月	土木学会第61回年次 学術講演会講演概要 集(部門5, V-565)	斉藤広忠 大塚浩司 武田三弘 菅井貴洋	1125~1126 頁
コンクリートと自然石のフラクチャー プロセスゾーン性状に関する研究	共著	2007年3月	土木学会東北支部技 術研究発表会講演概 要集(第V部門), V -11	吉田 徹 大塚浩司 武田三弘	2頁
X線造影撮影法を用いたコンクリート 実構造物の定量的劣化診断に関する実 験的研究	共著	2007年3月	土木学会東北支部技 術研究発表会講演概 要集(第V部門), V -12	石塚嗣人 武田三弘 大塚浩司 菅井貴洋	2頁
コンクリートの凍害に及ぼす界面活性 剤と塩分との複合作用の影響	共著	2007年3月	土木学会東北支部技 術研究発表会講演概 要集(第V部門), V -33	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	2頁
ポーラスコンクリートの空隙性状と植 生との関係	共著	2007年3月	土木学会東北支部技 術研究発表会講演概 要集(第V部門), V -18	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文 武田三弘	2頁
X線造影撮影法によるコンクリートの 性状評価に関する実験的研究	共著	2007年9月	土木学会第62回年次 学術講演会講演概要 集(部門5, V-025)	武田三弘 大塚浩司 大友鉄平	49~50頁
コンクリートの凍害に及ぼす界面活性 剤と塩分との複合作用に関する研究	共著	2007年9月	土木学会第62回年次 学術講演会講演概要 集(部門5, V-576)	菅井貴洋 武田三弘 大塚浩司	1151~1152 頁
Organo-modified reservoir sludge を 用いた撥水性コンクリートの凍結融解 抵抗性に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, V-4	上野 啓 武田三弘 大塚浩司 郭 文毅	2頁
界面活性剤と塩分との複合作用がコン クリートのスケールリングに及ぼす影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, V -11	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	2頁
短繊維補強ポーラスコンクリートの内 部ひび割れに関する実験的研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発 表会講演概要集, V -24	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘 小山貴弘	2頁

X線造影撮影法によって評価したコンクリートの強度に及ぼすブリーディングの影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-36	堤 佳亮 武田三弘 大塚浩司	2頁
X線造影撮影法による小径コアコンクリートの強度推定に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-39	佐々木真梨絵 武田三弘 大塚浩司 大友鉄平	2頁
Organo-modified reservoir sludgeを用いた撥水性コンクリートの凍結融解抵抗性に関する実験的研究	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-275)	上野 啓 武田三弘 大塚浩司 郭 文毅	549~550頁
短繊維補強ポーラスコンクリートの内部ひび割れ性状に関する実験的研究	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-514)	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	833~834頁
X線造影撮影法によって評価したコンクリートの密実性に及ぼすブリーディングの影響に関する研究	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-514)	堤 佳亮 武田三弘 大塚浩司	102 ~ 1028頁
ごみ溶融スラグを用いた緑化ポーラスコンクリートの植生と三次元的空隙性状に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-9)	一条康弘 大塚浩司 大友鉄平 武田三弘	505~506頁
圧縮応力状態におけるコンクリートの内部性状に関する実験的研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-20)	持留 大 武田三弘 大塚浩司	527~528頁
AE法によるコンクリー郭文毅トに発生したひび割れ深さ測定手法の開発研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-21)	松山朋子 大塚浩司 武田三弘 佐々木香織	529~530頁
X線造影撮影法によるコンクリート強度の推定に関する実験的研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-23)	杉本多門 武田三弘 大塚浩司	533~534頁
OMRSを用いた撥水性AEコンクリートの凍結融解抵抗性に関する実験的研究	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-271)	上野 啓 大塚浩司 武田三弘 郭 文毅	539~540頁
X線造影撮影法によるコンクリート強度の推定と凍結融解抵抗性の評価に関する実験的研究	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-276)	杉本多門 武田三弘 大塚浩司	549~550頁
圧縮応力状態におけるコンクリートの内部性状の変化に関する基礎実験	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-276)	堤 佳亮 武田三弘 大塚浩司	807~808頁

アラミド繊維補強を施したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ その1 実験概要と荷重-変形関係	共著	2009年9月	建築学会 2009年度大会(東北) 学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	吉田和也 ルクマン 松下央雅 市ノ瀬敏勝 武田三弘 大塚浩司	607~608頁
アラミド繊維補強を施したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ その2 二次元ひずみ	共著	2009年9月	建築学会 2009年度大会(東北) 学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	武田三弘 ルクマン 松下央雅 吉田和也 市ノ瀬敏勝 大塚浩司	611~612頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金萌芽研究	2004~2006年度	共同・代表研究者	コンクリートの劣化に及ぼす界面活性剤の影響
科学研究費補助金基盤研究(C)	2005~2006年度	共同・共同研究者	コンクリート劣化の定量化による耐久性評価手法の開発研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1966年4月~現在に至る	土木学会会員
1967年4月~現在に至る	日本コンクリート工学協会会員
1985年4月~現在に至る	fib (CEB-FIP) 会員
1995年4月~現在に至る	土学会コンクリート委員会委員
2004年10月~2005年3月	財団法人高速道路技術センター「橋梁ジョイント構造の設計・施工に関する技術検討委員会」委員長
2005年10月~2006年3月	財団法人高速道路技術センター「ダブル埋設ジョイント性能確認試験に関する技術検討委員会」委員長
2006年2月~2009年3月	国土交通省宮城ブロック総合評価委員会委員長
2006年5月~現在に至る	土木学会フェロー会員
2006年7月~現在に至る	日本建築学会会員
2007年4月~2009年3月	日本私立大学連盟教学担当理事者会議幹事会委員
2007年7月~2008年7月	コンクリート工学協会全国大会(仙台) 実行委員会委員長
2008年9月~2009年9月	日本建築学会 2009年度大会(東北) 実行委員会副委員長

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	河野 幸夫	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 授業理解への促進。 国際学会に学生の参加を促進している。 海底調査などの現地調査を授業に取り入れている。 学生による研究発表。 海外での津波調査などの現地調査を授業に取り入れている。 2 海底調査のビデオ作成。 3 後援会において、模擬授業を行った。 平成20年度現職教員研修セミナーでの授業を行った。 高校への出前授業の講師を務めた。 東北学院123周年記念講演会を東北学院中高等学校で行った。 4 オープンキャンパス・工学部祭で、研究室の公開。 リメディアル教育の実践。 高校への出前授業の講師を務めた。	1990年4月～	毎回の授業での学生発表の機会を設ける。また、宿題、レポートの提出を義務づけている。					
	1990年4月～	大学院生および学部学生の海外で行われる国際学会への積極的な参加を行っている。					
	1997年4月～	東北地方の海底調査での映像および海底写真などを授業に取り入れている。					
	1997年4月～	1年間の卒業研究の成果として、土木学会東北支部研究発表会で、学生による発表を行っている。					
	2004年4月～	インド洋津波調査などの資料を積極的に授業に取り入れている。					
	2005年4月～	環境水理学の授業で、海底潜水調査のビデオを使用して授業を行った。					
	2008年8月25日	大学で行っている一般的授業を父兄に分かりやすく実践し、説明を行った。					
	2008年12月6日	仙台平野を襲う巨大津波と仙台湾の海底潜水調査と題して授業を行った。					
	2009年2月5日	石巻西高の2年生に対して、「仙台湾海底遺跡発見と海底調査」と題する授業を行った。その評価が高校より提出された。					
	2009年5月15日	東北学院中高生約1700人に「仙台湾海底遺跡発見と津波・水の衝撃」と題して講演をおこなった。					
	1997年～	水撃圧実験装置の完成時より工学部祭での研究室公開と水撃圧実験を毎年行っている。					
	2003年～	入試前教育の添削指導。					
2006年10月3日	仙台第3女子高の1年生に対して、「仙台湾の海底遺跡発見」と題する授業を行った。その評価が高校より提出された。						
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	総・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Study on propagation of pressure surge in steel pipe network		共著	2005年1月	Environmental Hydraulics and Sustainable Water Management, Taylor & Francis Group, London	Y. Kono T. Moriya Y. Sugai M. Watanabe M. Shimada	1387～1393 頁	

鋼管パイプネットワークにおける流速測定について	共著	2005年3月	東北学院大学研究報告 第39巻 第1号	守谷知真 河野幸夫 渡辺雅二	107~112頁
高速遮断弁閉鎖時における出口付近の水の飛散速度と水撃圧との関係	共著	2005年3月	東北学院大学研究報告 第39巻 第1号	由利 忍 河野幸夫	113~118頁
Water Hammer Study in Pipe Network	共著	2005年6月	Proceedings of MTERM International Conference, MTERM, professional, Asian Institute of Technology Thailand	Y. Kono T. Moriya S. Yuri M. Watanabe	569~578頁
Numerical analysis of Japan historical tsunami and a field investigation of tsunami in India	共著	2006年8月	Proceedings of ISMH International Conference, Indian Institute of Technology Madras, Chennai, India	Y. Kono S. Yuri F. Imamura K. Minoura	1206~1211頁
Magnetization curves for tetragonal martensite	共著	2006年	Journal of Applied Physics, Volume 99, Issue 1	V. A. Chernenko S. P. Zagorodnyuk V. A. L'vov R. C. O'handley Y. Kono	99, 103906-1~7頁
歌枕「末の松山」と海底考古学	単著	2007年12月	国文学, 12月臨時増刊号「百人一首のなぞ」, 学燈社, 平成19年2007, 第52巻, 第16号		78~85頁
Dynamic pipe fracture in water pipeline	共著	2008年10月	16th IAHR-APD2008 and ISHS-IAHR, Vol. VI, Hydropower Hydraulics	K. Ishikawa Y. Kono A. Haga K. Kato	2134~2139頁
水撃負圧部の気泡発生と計測方法について	共著	2009年3月	東北学院大学工学部研究報告 Vol. 43 No. 1・2	下浅雄大 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	41~46頁
Measurement of underground electromagnetic wave and Japan historical tsunami	共著	2009年10月	APAC2009, IAHR	Y. Kono K. Ishikawa A. Haga K. Kato Y. Shimoasa	92~99頁
G Study on waterhammer and velocity in pipe network	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会, 東北工業大学	守谷知真 河野幸夫	2頁
水撃圧による塩化ビニル管破壊の圧力の減衰についての研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会, 東北工業大学	大友弘司 河野幸夫	2頁

水撃負圧部の気液混相流発生と気泡の挙動に関する研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	金須保憲 河野幸夫	2頁
急閉鎖弁遮断時の発生水撃圧と飛散速度についての研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	小泉桃子 河野幸夫	2頁
塩化ビニル管長変化による水圧載荷時の破壊点についての研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	千葉哲也 河野幸夫	2頁
各材質の伝播速度を考慮した漏水探知の基礎実験	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	千葉裕介 河野幸夫	2頁
雄勝湾における水質調査と海底環境修復について	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	中井大介 河野幸夫	2頁
High-Speed Camera による管破壊時における膨張速度とスピードの3次元映像解析	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	由利 忍 河野幸夫	2頁
9種類の通水経路を持つパイプネットワークにおける鋼管内の流速測定と発生水撃圧について	共著	2005年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 東北 工業大学	八馬 巧 河野幸夫	2頁
水撃圧による加速度を考慮した管破壊領域の検討について	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	由利 忍 河野幸夫	2頁
雄勝湾における海底環境修復とコンブの生態	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	大場康平 河野幸夫	2頁
水圧載荷時間の変化による塩化ビニル管の破壊状況に関する研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	奥 良之 河野幸夫	2頁
水撃圧によるボイドの常温沸騰についての研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	柏谷理香 河野幸夫	2頁
仙台湾内の潜水調査による貞観津波の研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	関口 晃 河野幸夫	2頁
水撃圧による管破壊時の圧力の減少について	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	竹鼻巨樹 河野幸夫	2頁
鋼管通水経路の遮断による発生水撃圧と流速測定について	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	但野和人 河野幸夫	2頁
High-Speed Camera による三次元映像解析を利用した管膨張速度と破片飛散速度の関係	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	千葉 聡 河野幸夫	2頁

管水路内の漏水振動音と漏水探知について	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	永澤秋至 河野幸夫	2頁
逆止弁による水撃圧発生と水撃圧抑止 についての研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部 技術研究発表会, 八戸 工業大学	松野 翔 河野幸夫	2頁
水撃圧破壊実験による High-Speed Camera を用いた破壊領域の検討につい て	共著	2006年9月	土木学会全国大会, 立 命館大学	河野幸夫 由利 忍	2頁
水撃圧による塩化ビニル管破壊時の圧 力変化	共著	2007年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 山形大 学, 平成19年	佐藤友哉 河野幸夫	2頁
High-Speed Camera による三次元映像 解析を利用した管膨張速度と破片飛散 速度の関係	共著	2007年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 山形大 学, 平成19年	高橋純一 河野幸夫	2頁
雄勝湾における海底環境修復とウニの 生態について	共著	2007年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 山形大 学, 平成19年	千葉哲朗 河野幸夫	2頁
地電流による地震予知と仙台湾海底潜 水調査	共著	2007年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 山形大 学, 平成19年	原田香織 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 加藤和夫	2頁
逆止弁による水撃圧発生と, その抑制 について	共著	2007年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 山形大 学, 平成19年	真坂 寛 河野幸夫	2頁
パイプネットワークにおける通水経路 変化時の流速測定と発生水撃圧につい て	共著	2007年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 山形大 学, 平成19年	太田孝宣 河野幸夫	2頁
水道管の音波伝播速度の測定	共著	2007年3月	平成19年電気学会全 国大会	石川和己 芳賀 昭 河野幸夫 加藤和夫 海老名修平	172頁
水圧载荷による塩化ビニル管破壊時の 破壊実験についての研究	共著	2008年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 岩手大 学	関本真也 河野幸夫	2頁
雄勝湾における水中温度調査と海底環 境修復	共著	2008年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 岩手大 学	畑中裕平 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 鈴木講平 加藤和夫	2頁
漏水探査における鋼管の伝播速度の基 礎的検討	共著	2008年3月	土木学会東北支部, 技 術研究発表会, 岩手大 学	畑中裕平 河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 鈴木講平 加藤和夫	2頁

逆止弁及び遮断弁による水撃圧発生と水撃圧抑制について	共著	2008年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 岩手大学	高橋和希 河野幸夫	2頁
水撃負圧部における常温沸騰の泡の発生について	共著	2008年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 岩手大学	安保 知 河野幸夫	2頁
水撃圧による塩化ビニル供試体破壊実験	共著	2008年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 岩手大学	相澤幸宏 河野幸夫	2頁
仙台湾海底遺跡発見と仙台平野を襲う巨大津波	単著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部		2頁
地電流の長期計測と地震との関連について	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	牧野祐介 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	2頁
鋼管と水の伝播速度の相互作用について	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	上路崇大 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	2頁
継手部分の接続変化による鋼管の伝播速度への影響	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	大橋雅樹 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	2頁
水撃圧による管の衝撃破壊とそのメカニズムについて	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	柴田直之 河野幸夫	2頁
雄勝湾における海底環境修復について	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	山下大輔 河野幸夫 芳賀 昭 石川和己 加藤和夫	2頁
三次元映像解析を利用した加速度による仕事量の影響と運動エネルギーについて	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	佐野貴史 河野幸夫	2頁
遮断弁および逆止弁による水撃圧抑止に於ける検討	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	遠藤 譲 河野幸夫	2頁
6000年前のビールの製造方法とその製造について	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	菅原寿基 河野幸夫	2頁
準静的, 動的破壊による塩化ビニル管の動的強度の変化について	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	菅原康太 河野幸夫 石川和己	2頁

水撃負圧部の気泡発生とボイド率について	共著	2009年3月	土木学会東北支部, 技術研究発表会, 東北学院大学工学部	下浅雄大 河野幸夫	2頁
宮城県雄勝湾の水温変化とホタテなどの生育について	共著	2009年6月	土木学会 環境水理研究部会, 沖縄県名護, 名護タニュー	河野幸夫 石川和己 芳賀 昭 加藤和夫	2頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
東北学院教育研究基金個別研究費		2009年度	共同・代表者	埋設された水道管探査と漏水点の特定に関する研究	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1980年4月～		土木学会会員			
1980年4月～		国際水理学会 IAHR 会員			
1980年4月～		農業土木学会会員			

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	飛田 善雄	大学院の授業 担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要				
1	研修旅行の実施	2001年4月～2008年9月		研究室の学生と研修旅行を行い、地震被災地等を見学し、現場の状況を理解できるようにしている。				
	小テストの実施	2005年4月～2008年3月		複数回小テストを行うことで、学生の理解を促している。				
	基礎学力向上のための様々な工夫	2006年4月～2008年9月		就職試験での理系の基礎的事項の確認のための問題集を作成し、ゼミ等に利用している。				
2	工業英語独自教材作成	2001年4月～2008年9月		環境建設に関わる英文教科書より英文を選択し、独自の教材を作成し、文法的事項、句読法、英語の特徴などを記して、独自の教材を作成し、「工業英語」の講義を行い、学生の意見により毎年改訂している。				
	工学系線形代数学教材作成	2007年4月～2008年3月		環境建設における線形代数学の利用を踏まえて、独自教材を作成し「工学系線形代数学」の講義を行っている。				
3	工学部 FD 講演会講師	2009年2月20日		工学部で開催されたFD講演会において、「学生のメンタルヘルス：教職員としての基礎知識」と題する講演の講師を務めた。				
	工学部 FD 講演会講師	2009年9月24日		工学部で開催されたFD講演会において、「自己点検・評価報告書が求めていること」と題する講演の講師を務めた。				
4	高校における模擬講義等の講師	2005年4月～2008年9月		東北各県の高校に対して、模擬講義の講師を務め、災害と科学技術の関係をわかりやすく説明している。				
	高校生に対する大学での学習および入試の説明	2005年4月～2008年9月		高校生に対して、大学で学ぶことの意味、入試に対する心構え、高校での学習の必要性などについて説明を行っている。				
	公開講座における講演	2009年9月9日		環境防災研究所が主催する市民向け公開講座において「土の不思議」と題する講演の講師を務めた。				
II 研究活動								
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称		縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 土の弾塑性構成モデル：地盤工学・基礎理論シリーズ 3		共著	2009年3月		地盤工学会		飛田善雄 (編集委員長)	62/288頁

Ba	軟弱粘性土層を有する地盤の最大加速度応答	共著	2005 年	第 50 回地盤工学シンポジウム H17 年度論文集, 441~448 頁	山口 晶 風間基樹 飛田善雄	2/8 頁
	液状化深さが噴砂現象に与える影響について	共著	2006 年	第 12 回日本地震工学シンポジウム論文集, CD-ROM, 710~713 頁	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	1/4 頁
	軟弱粘土地盤のせん断特性と地震時の地盤挙動の関係	共著	2007 年 1 月	日本地震工学会論文集 第 7 巻第 1 号	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	1~13 頁
	液状化に伴う噴砂と液状化層厚の関係	共著	2008 年 3 月	土木学会論文集 C, Vol. 64, No. 1	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	79~89 頁
	再液状化メカニズムに関する実験的研究	共著	2008 年 8 月	日本地震工学会論文集 第 8 巻 3 号	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	46~62 頁
	密度と拘束圧依存性を考慮した砂の構成モデルの検証	共著	2008 年 8 月	応用力学論文集 Vol. 11,	飛田善雄 三塚保法 山口 晶 吉田 望	411~422 頁
Bb	間隙水流入時の細粒分を含む砂のせん断変形挙動に関する研究	共著	2005 年	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 39, No. 1, 111~116 頁	安藤 匡 佐藤かおり 山口 晶 飛田善雄	3/6 頁
	液状化に伴う地盤の流動量に影響を与える要因に関する実験的研究	共著	2007 年 7 月	土構造物の地震時における性能設計と変形量予測に関するシンポジウム発表論文集	山口 晶 飛田善雄 吉田 望	277~282 頁
	液状化時の構造物の沈下と浮上がりが噴砂に与える影響	共著	2008 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 42, No. 1・2	山口 晶 松浦杏里 金戸友太 黒田直樹 吉田 望 飛田善雄	29~34 頁
	地震時の地盤の流動メカニズムと流動量の定量的評価	共著	2008 年 3 月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 42, No. 1・2	山口 晶 奥平喜広 佐藤由惟 吉田 望 飛田善雄	35~40 頁
	Sand boiling pattern during reliquefaction	共著	2008 年 10 月	The 14th World Conference on Earthquake Engineering	A. Yamaguchi N. Yoshida Y. Tobita	CD-ROM (8 頁)

G 地盤材料の引張試験方法の検討	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 390～ 391 頁	堀内 貢 内海雅史 畑中 淑 金原瑞男 飛田善雄 山口 晶	1/2 頁
地盤材料の脆性挙動に関する実験的研究	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 392～ 393 頁	金原瑞男 飛田善雄 山口 晶	1/2 頁
水加圧注入ポンプによるセメント溶液を用いた注入形態の研究	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 408～ 409 頁	菅原勇人 竹内陽輔 田中 佑 飛田善雄 山口 晶	1/2 頁
振動台を用いた液状化による噴砂の再現実験	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 434～ 435 頁	大沼浅未 日野友則 庄司大貴 齋藤孝一 山口 晶 飛田善雄	1/2 頁
液状化後の体積ひずみと低濃度薬液改良砂の液状化抵抗メカニズム	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 436～ 437 頁	星 哲也 小野寺紘子 菊池睦月 飛田善雄 山口 晶	1/2 頁
繰返し地震動を受ける地盤の地震時・地震後の変形挙動	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 438～ 439 頁	菊地聖和 成田 彩 山口 晶 飛田善雄	1/2 頁
ハイブリッドオンライン実験による地震動履歴を受けた地盤の圧密沈下挙動	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 440～ 441 頁	菊地聖和 成田 彩 田口 真 飛田善雄 山口 晶	1/2 頁
地震により破損した橋脚基礎の補修におけるレジン注入工法の基礎的考察	共著	2005 年	平成 16 年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学, 442～ 443 頁	川村大士 飛田善雄 山口 晶	1/2 頁
土の脆性挙動のモデル化に関する研究	共著	2005 年	第 40 回地盤工学研究 発表会, 函館, 379～ 380 頁	山根久和 飛田善雄 山口 晶 菅原光哉	1/2 頁
構造変化と初期異方性を考慮した砂の構成モデル	共著	2005 年	第 40 回地盤工学研究 発表会, 函館, 491～ 492 頁	西村 修 日下初博 藤井伸晃 山口 晶 飛田善雄	1/2 頁

オンライン試験による地震動を繰返し受けた粘性土地盤の地震時及び地震動後の挙動	共著	2005 年	第 40 回地盤工学研究発表会, 函館, 2207~2208 頁	山口 晶 飛田善雄 田口 真	1/2 頁
電動振動台を用いた液状化による噴砂の再現実験	共著	2005 年	第 40 回地盤工学研究発表会, 函館, 2221~2222 頁	菊地睦月 日野友則 大沼浅未 山口 晶 飛田善雄	1/2 頁
ハイブリッドオンライン実験の実用化にむけて	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学, 400~401 頁	菊地睦月 阿部友洋 高橋啓太 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	1/2 頁
注入固結体と練り混ぜ締固め固結体の強度比較実験	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学, 406~407 頁	川村慎也 大坪孝昭 山屋宜之 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	1/2 頁
レストム工法で改良した土の力学特性	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学, 408~409 頁	先崎裕訓 大友俊樹 飛田善雄 山口 晶 斎藤孝一	1/2 頁
振動台実験から求めた地盤状態と噴砂の関係	共著	2006 年	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学, 522~523 頁	菊地耕平 高橋文吾 寺島 愛 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	1/2 頁
地盤材料の脆性挙動を対象とした土の構成モデル	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島, 311~312 頁	菅原光哉 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	1/2 頁
構造変化を考慮した砂の繰返し構成モデル	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島, 399~400 頁	飛田善雄 吉田 望 山口 晶 日下初博 菅原光哉 西村 修	1/2 頁
振動台実験から求めた噴砂現象と液状化層厚の関係	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島, 2039~2040 頁	山口 晶 飛田善雄 吉田 望 菊地耕平 寺島 愛 高橋文吾	1/2 頁
密度変化を考慮した繰返し載荷時の弾塑性構成モデルに関する研究	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-2	日下初博 三塚保法 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	CD-ROM (2 頁)

レストム工法の重金属汚染に対する有効性	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-17	芦萱浩二 中目達也 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	CD-ROM (2頁)
液状化時及び再液状化時の構造物被害と噴砂状況の関係	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-39	松浦杏理 金戸友太 黒田直樹 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	CD-ROM (2頁)
液状化時に発生する流動量の定量的評価に関する実験的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-40	佐藤由惟 奥平喜広 山口 晶 飛田善雄 吉田 望 齋藤孝一	CD-ROM (2頁)
一軸割裂圧縮試験機を用いた土の引張り強度の載荷速度依存性に関する研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-45	吉田俊平 村上 亨 山田慎也 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	CD-ROM (2頁)
地盤材料の脆性挙動に関する実験的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-49	辻田竜一 秋保枝里 丹野陽介 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	CD-ROM (2頁)
非排水繰返し応力載荷実験から推定した地盤の流動量	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会, 名古屋	山口 晶 飛田善雄 吉田 望 佐藤由惟 奥平喜広	1855~1856 頁
密度依存性を考慮した構成モデルによる砂の安定・不安定挙動に関する研究	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会, 名古屋	飛田善雄 吉田 望 山口 晶 三塚保法	327~328頁
引張りせん断時の脆性挙動を対象とした土の構成モデル	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会, 名古屋	菅原光哉 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	257~258頁
水平二次元せん断が液状化地盤の体積ひずみに与える影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-15	伊東久雄 飯川聡美 山口 晶 飛田善雄	CD-ROM (2頁)
せん断応力履歴がせん断ひずみ発生量に与える影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-16	阿部有佳理 神名川雅俊 山口 晶 飛田善雄	CD-ROM (2頁)

引張り応力履歴が繰返しせん断剛性に与える影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-17	佐藤 周 千田亜斗里 飛田善雄 山口 晶	CD-ROM (2頁)
密度・拘束圧依存性と初期異方性を考慮した砂の変形挙動	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-18	久住雅敏 千葉智徳 三塚保法 飛田善雄 山口 晶	CD-ROM (2頁)
振動台実験とクイックサンド実験による再液状化メカニズムの検討	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-41	大熊浩輝 加藤慎一 菅 智子 山口 晶 飛田善雄	CD-ROM (2頁)
不飽和土の弾塑性モデルの数学的枠組みに対する一考察	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会, 広島市	飛田善雄 山口 晶	CD-ROM (2頁)
密度依存性・初期異方性を考慮した砂の弾塑性モデルの検証	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会, 広島市	三塚保法 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	CD-ROM (2頁)
粒状体の安息角と流動に関する基礎的実験	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	蜂谷菜緒子 飛田善雄 山口 晶他	CD-ROM (2頁)
状態変数を考慮した不飽和土の構成モデル	共著	2009年3月	同上, III-4	田中秀樹 飛田善雄 山口 晶	CD-ROM (2頁)
密度拘束圧依存性を考慮した二重硬化モデルの適用性	共著	2009年3月	同上, III-4	薄井良平 飛田善雄 山口 晶	CD-ROM (2頁)
内部構造を考慮した砂の体積圧縮特性の表現	共著	2009年8月	第44回地盤工学研究発表会, 横浜市	飛田善雄 吉田 望	CD-ROM (2頁)

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費基盤(C) 一般	2007年度から3ヵ年	共同(東北学院大学に限る)	砂の流動の開始・停止条件に関する理論的研究および実験的研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1994年9月～1997年8月	土木学会応用力学委員会「応用力学の教育に関する小委員会」委員長
2000年4月～現在	仙台市環境審議会委員(00年4月～07年3月), 副会長(07年4月～現在)
2000年5月～2002年4月	土木学会論文集編集委員(第3部門)
2001年5月～2004年3月	地盤工学会「構成モデルの特徴が数値解析に及ぼす影響に関する研究委員会」委員長
2002年4月～現在	仙台市斜面災害技術委員会委員(02年～07年3月), 副委員長(07年4月～現在)

2003年5月～現在	仙台市地下鉄東西線技術検討委員会委員
2004年5月～2006年4月	地盤工学会理事
2006年5月～2009年3月	地盤工学会「土の弾塑性構成モデル」編集委員会委員長
2008年5月～現在	土木学会東北支部「技術開発・研究奨励賞選考委員会」委員長
2009年5月～現在	国土交通省東北地方整備局発注者綱紀保持委員会委員

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	中沢 正利	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業での配布プリントの工夫	2002年4月～2006年12月	そのまま解答を記したプリントを配布するのではなく、大事な部分を空欄にしておいて、学生に計算させた後、自筆で記入させることによって、記憶の定着を図る。				
	レポート課題における計算条件の個別化	2005年～2009年	レポート課題における計算条件は学生番号を利用して個別化し、原則として全員が異なる条件で解く。このことによって、自分の力で問題を解くという姿勢を確立する。				
	「構造力学Ⅱおよび演習」における演習プリントの配布	2005年～2009年	要点と例題を網羅した穴埋め形式の演習プリントを配布して問題を解かせることで、学生の集中力を維持させるとともに、学生の自習の習慣と問題を解く基本能力を身につけさせる。				
	「構造力学Ⅲ」における演習プリントの作成および配布	2005年～2009年	要点と例題を網羅した穴埋め形式の演習プリントを配布して問題を解かせることで、学生の集中力を維持させるとともに、学生の自習の習慣と問題を解く基本能力を身につけさせる。				
	「環境建設工学実験」の鋼材の引張実験の自主作業	2005年～2009年	実験供試体の準備・実験の実施等すべての作業を学生自ら行うことで実験に対する理解度を高める。				
	「数値解析」における授業中の課題チェックとweb提出	2005年～2009年	計算機を用いた授業の演習課題が正しく動くことを授業中に個別に確認した後にwebで提出させる。学生を授業に集中させるとともに、学生個々の間違いを指摘することができる。課題はすべて提出が単位認定の条件である。				
2	「構造力学Ⅱおよび演習」における演習プリントの作成	2005年～2009年	要点と例題を網羅した穴埋め形式の演習プリントを作成した。				
	「構造力学Ⅲ」における演習プリントの作成	2005年～2009年	要点と例題を網羅した穴埋め形式の演習プリントを作成した。				
4	高校への出前講義の講師を務めた。	2006年7月3日	宮城県立利府高校の2年生に対して、「土木の未来プロジェクト」と題する講義(80分)を2回行った。				
		2009年2月5日	宮城県立石巻西高校の2年生に対して、「建設分野の未来プロジェクト」と題する講義(50分)を2回行った。				
		2009年11月11日	福島県立福島東高校の2年生に対して、「建設分野の未来プロジェクト」と題する講義(80分)を行った。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 座屈設計ガイドライン改訂第2版[2005年版]	共著	2005年10月	土木学会	土木学会鋼構造委員会座屈設計ガイドライン改訂小委員会	187～220頁
Ba 半無限連続高架橋における粘性境界の設定	共著	2005年8月	土木学会, 応用力学論文集 (Vol. 8)	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫 石川雅美	189～198頁
損傷の発展則を含む複合材料の平均化を用いた弾塑性有限要素	共著	2005年8月	土木学会, 応用力学論文集 (Vol. 8)	黒木誠一郎 中沢正利 岩熊哲夫	377～384頁
マースバネ系モデルにおける粘性境界設定の簡便法	共著	2007年8月	土木学会地震工学論文集, Vol. 29	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫	426～431頁
竹節の形態組織構造から学ぶ軽量最適化構造の創造設計	共著	2009年8月	第8回木橋技術に関する論文報告集	有尾一郎 中沢正利	37～47頁
Bb 最小二乗法と拡張カルマンフィルタによる構造物性逆解析の実用的精度に関する検証	共著	2006年3月	東北学院大学工学部研究報告(第40巻, 第1号)	村岡孝重 中沢正利	73～78頁
連続高架橋における粘性境界の伝播速度設定に関する一提案	共著	2006年12月	東北学院大学工学部研究報告(第41巻, 第1号)	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫	38～41頁
非線形振動における摩擦係数の逆解析に関する研究	共著	2006年12月	東北学院大学工学部研究報告(第41巻, 第1号)	今野雄喜 中沢正利	42～47頁
G 固体摩擦振動に関する研究	共著	2006年3月	平成17年度土木学会東北支部技術研究発表会	今野雄喜 中沢正利	16～17頁
Dynamic Post-buckling Analysis of the Fullerene Symmetric Structures Based on the Block-diagonalization Method	共著	2007年8月	Third International Conference on Steel and Composite Structures (ICSCS07)	I. Ario A. Watson M. Nakazawa	

Local/Global Structural Instability for the Folding Structures with Multi-Bifurcation	共著	2007年12月	Third Asian-Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM' 07) and the Eleventh International Conference on the Enhancement and Promotion of Computational Methods in Engineering and Science (EPMESC XI)	I. Ario A. Watson M. Nakazawa S. Wang	
Structural Analysis for the Multi-folding and Deployable Structures	共著	2008年5月	6th International Conference on Computation of Shell & Spatial Structures (IASS-IACM 2008-6th ICCSSS)	M. Nakazawa I. Ario A. Watson	
Bifurcation Analysis using Nonlinear Dynamics for the Multi-Folding Structures	共著	2008年6月	8th World Congress on Computational Mechanics (WCCM8), and 5th European Congress on Computational Methods in Applied Sciences and Engineering (ECCOMAS 2008)	I. Ario A. Watson M. Nakazawa S. Wang	
マースバネモデルを用いた衝撃弾性波法の検証解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	川口拓矢 李 相勲 中沢正利	I-9 頁
パンタグラフ型トラス構造の折りたたみ解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	中沢正利 有尾一郎	I-20 頁
構造最適化と折畳み構造に基づくモバイルブリッジの創造	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集 I-434	有尾一郎 谷倉 泉 中沢正利	CD-ROM
MFМ 概念とそれを応用したモバイルブリッジの研究開発	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集 I-435	中沢正利 有尾一郎 谷倉 泉 小野秀一	CD-ROM
Multi-Folding Behaviour of a Tree Structure	共著	2009年9月	7th EUROMECH Solid Mechanics Conference (ESMC2009)	I. Ario A. Watson M. Nakazawa	CD-ROM
Dynamic Post-buckling Analysis of the Micro-folding Augusti 3D Model with Local Symmetry-breakings	共著	2009年9月	Italian Association for Theoretical and Applied Mechanics (AIMETA2009)	I. Ario M. Nakazawa	CD-ROM

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
教育・学習方法等改善支援経費（日本私立学校振興・共済事業団）	2006年度	共同（研究内容の立案と監修）	動画像多点変位計測システムの工学基礎教育および構造振動学への応用
大和日英基金（The Daiwa Anglo-Japanese Foundation）	2009年度	共同（プロジェクトリーダー）	Efficient eigenvalue computation of large order symmetric tree structures by the combination of Wittrick-Williams algorithm with block-diagonalization method (Wittrick-Williams) アルゴリズムとブロック対角化手法の結合による大規模対称ツリー構造体の効率的固有値計算)
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1980年4月～現在に至る	土木学会会員		
1997年4月～現在に至る	日本鋼構造協会会員		
1998年4月～現在に至る	日本計算工学会会員		
2002年6月～現在に至る	日本技術士会会員		
2003年8月～2005年8月	土木学会鋼構造委員会 鋼・合成構造標準示方書小委員会委員		
2006年3月～2007年8月 2009年4月～現在に至る	国土交通省宮城ブロック総合評価委員会委員		
2009年4月～現在に至る	土木学会応用力学委員会委員		
2009年6月～現在に至る	土木学会鋼構造委員会委員		
2009年11月～現在に至る	国土交通省 東北地方橋梁保全検討委員会委員		
2009年12月～2010年3月	国土交通省東北地方整備局 道路橋の維持・補修マニュアル検討委員会委員		

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	中村 寛治	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	環境省の最新データ利用による講義内容の改訂	2005年4月～2009年10月	担当講義の「環境の化学」「環境地盤工学」では、環境省のHPをチェックし、統計データ等常に新しい情報に更新している。				
	授業評価の学生へのフィードバック	2005年4月～2009年10月	全学の「学生による授業評価」、学科内のJABEEアンケートで講義に寄せられた内容で改善できる点、出来ない点を利用を含めて、講義内で学生にフィードバックしている。				
	最新の環境問題のDVDを利用した説明	2007年4月～2009年10月	NHK等で放映される水問題、地球温暖化等、の内容を加え、知識と現実問題のリンクを重視した講義を行っている。				
2	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 講義編	2007年7月～9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 実習編	2007年7月～9月	平成19年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 講義編	2008年5月～7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 実習編	2008年5月～7月	平成20年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 講義編	2009年5月～7月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の講義に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
	平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料 実習編	2009年5月～7月	平成21年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料				
4	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2007年7月～2008年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員22名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。				
	平成20年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008年4月～2009年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。				

中学校への出前授業の講師を務めた	2008年10月14日	東北学院中高の中学生1年に対して、現在研究している研究内容を紹介すると共に、研究者となるためのキャリアパスを説明した。
平成20年度キャリア実践教育プロジェクト(コラボ授業)	2008年12月16日	多賀城市教育委員会が採択された文部科学省の委託事業である左記のプロジェクト中のコラボ授業を担当した。
高等学校への出前授業の講師を務めた	2009年2月19日	福島県立小野高等学校の高校2,3年生に対して、現在研究している研究内容を紹介した。
平成21年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2009年4月～2010年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの講義及び実習を90分30回行なった。
高等学校への出前授業の講師を務めた	2009年6月10日	宮城県立岩ヶ崎高等学校の高校2,3年生に対して、現在研究している研究内容を紹介した。
高等学校への出前授業の講師を務めた	2009年6月27日	青森県立八戸南高等学校の高校2,3年生に対して、現在研究している研究内容を紹介した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
環境バイオでなにができるのか	共著	2006年	環境バイオテクノロジー学会	著者多数	11～18頁
「遺伝子から見た応用生物学」(朝倉書店)	共著	2008年1月	朝倉書店	熊谷英彦 加藤暢夫 村田幸作 阪井康能 中村寛治 他多数	177～179頁
Ba					
TCE還元デハロゲナーゼ遺伝子の取得・解析および定量PCRによる浄化現場での検出	共著	2006年	環境工学研究論文集, Vol. 43	中村寛治 水本正浩 上野俊洋 石田浩昭	119～125頁
食品工場排水処理施設における活性汚泥の細菌群集構造と汚泥沈降性との関連性	共著	2007年7月	水環境学会誌, Vol. 30	加藤史子 飯泉太郎 中村寛治	377～385頁
広瀬川河川中に生息する細菌群集構造の季節変動	共著	2008年11月	環境工学研究論文集, Vol. 45	中村寛治 濱谷美希 相澤瑛美 阿部晋太郎 川口 猛	415～422頁
特定細菌放出に伴う土着細菌群集への影響: 評価手法の検討	共著	2008年11月	環境工学研究論文集, Vol. 45	榎 あや 奥山加代子 中村寛治	203～210頁
複合微生物系を利用したバイオオーグメンテーション浄化技術の開発	共著	2008年12月	土壌環境センター技術ニュース, No. 15	水本正浩 上野俊洋 石田浩昭 中村寛治	1～8頁

広瀬川河川中に生息する細菌群集の季節変動の周期性と夏期出現優占種	共著	2009年11月	環境工学研究論文集, Vol. 46	中村寛治 根本 工 高橋正訓 千葉彩輝 橋浦康範	521～528頁
<i>Bacillus</i> 属細菌を捕食する河川中の原生動物の解析	共著	2009年11月	環境工学研究論文集, Vol. 46	須藤真志 高野智博 中村寛治	511～519頁
Bb 塩素化エチレン類のバイオレメディエーションにおける微生物群集解析 (モニタリング) の応用	共著	2005年	水環境学会誌, Vol. 28	中村寛治 石田浩昭	470～473頁
嫌気性微生物を活用するクロロエチレン類汚染土壌の浄化	共著	2005年	用水と廃水, Vo. 47	中村寛治 上野俊洋 石田浩昭	76～81頁
バイオレメディエーションの生態系への影響	共著	2007年1月	資源環境対策, Vol. 43	中村寛治 水本正浩 石田浩昭	45～51頁
I 核酸及び塩化ビニル分解能を有する微生物の検出方法 (2007)	共著	2007年1月	特許公開 2007-049946	水本正浩 中村寛治	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
NEDO プロジェクト (生分解・処理メカニズムの解析と制御技術開発)	2001～2006年度	共同	塩素化エチレンの嫌気分解に関する研究開発
科学研究費補助金基盤研究 (A)	2005～2007年度	共同・研究代表者	高分解能細菌による土壌・地下水有機塩素化合物汚染の浄化技術に関する研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年4月～	環境バイオテクノロジー学会 庶務幹事
2005年4月～2007年3月	経済産業省 産業構造審議会微生物開放系利用委員会 委員
2005年4月～2009年3月	土木学会 環境工学委員会 委員兼幹事
2007年4月～	経済産業省 産業構造審議会臨時委員 (化学・バイオ部会微生物利用技術小委員会)
2007年4月～	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO 技術委員

所属	環境建設工学科	職名	教授	氏名	吉田 望	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	独自テキストの作成	2005年4月～2006年1月		必要と考えられる教科には、独自の資料を作成し、配付している。			
	学習した事項の記憶への定着	2005年4月～2006年1月 2007年4月～2009年12月		毎回の授業のはじめに、前回行った講義の内容の概略を説明し、キーポイントなどを協調している。			
2	地震工学（講義用の教科書）	2008年4月		講義の内容を示す本（約100ページ）を作成した。			
	地盤工学（講義用の教科書）	2008年4月		講義の内容を示す本（約100ページ）を作成した。			
	建築工学通論（講義用の教科書）	2009年9月		講義の内容を示す資料を作成した。			
4	高校への模擬講義の講師	2005年10月21日		角館高校で3年生を対象に「地震と地盤」と題する講義を行った。			
	高校への模擬講義の講師	2009年10月29日		榴ヶ岡高校で2年生を対象に「地震 メカニズム、設計、対策」と題する講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	地盤の動的解析－基礎理論から応用まで－	共著	2007年2月	地盤工学会	地盤工学会	68～88頁, 97～113頁, 127～130頁, 138～142頁	
	Design of foundations in seismic areas: principles and applications	共著	2007年3月	National Information Center of Earthquake Engineering, India	Bhattacharya, S. ed.	125～170頁	
	Earthquake Hazards and Mitigation	共著	2007年7月	I. K. International Publishing House	Hazarika, H. ed.	280～295頁	
	New development on engineering blasting	共著	2007年12月	Matellurgical Industry Press	Wang, Xuguang ed.	533～539頁	
	Earthquake geotechnical case histories for performance-based design	共著	2009年6月	CRC Press	TC4委員会	159～176頁 373～389頁	
Ba	軟弱粘性土地盤上の高架構造物・基礎・地盤系の地震時挙動予測へのWinkler型非線形相互作用バネの適用	共著	2005年3月	構造工学論文集, Vol. 51A	白戸真大 吉田 望 福井次郎 野々村佳哲	739～750頁	

Discussion on an alternative mechanism of pile failure in liquefiable deposits during earthquakes	共著	2005年3月	Geotechnique, Vol. 55, No. 3	N. Yoshida I. Towhata S. Yasuda M. Kanatani	259~263頁
非線形地盤振動解析における時間積分法の誤差	共著	2005年7月	土木学会論文集, No. 794/I-72	酒井久和 吉田 望 澤田純男	291~300頁
有限要素法地震応答解析: ケーススタディにみる長所と問題点	共著	2005年8月	土と基礎, Vol. 53, No. 8	吉田 望 船原英樹 小林義和 小林恒一	4~6頁
FEM ソフトウェアの内容と機能の表示	共著	2005年8月	土と基礎, Vol. 53, No. 8	石井武司 青柳隆之 吉田 望	7~9頁
設計用地震動の設定における工学的基礎の意義	共著	2005年8月	土木学会地震工学論文集, 第28巻	吉田 望 篠原秀明 澤田純男 中村 晋	Paper No. 170
すべり土塊および抗土圧構造物の固有振動数を考慮した地震時滑動量の推定法	共著	2005年8月	土木学会地震工学論文集, 第28巻	三浦均也 小濱英司 吉田 望 渡邊潤平	Paper No. 201
2004年新潟県中越地震による液状化現象と液状化発生地点の地形・地盤特性	共著	2006年4月	土木学会論文集 C, Vol. 62, No. 2	若松加寿江 吉田 望 規矩大義	263~276頁
軟弱粘土地盤のせん断特性と地震時の地盤挙動の関係	共著	2007年2月	日本地震工学会論文集, 第7巻第1号	山口 晶 飛田善雄 吉田 望	1~13頁
上下動が液状化地盤の応答に与える影響	共著	2007年8月	木学会地震工学論文集, Vol. 29	森 勇人 澤田純男 吉田 望	229~236頁
発破を用いた締固め工法の液状化対策への適用性に関する現場実験	共著	2007年9月	地盤工学ジャーナル, Vol. 2, No. 3	辻野修一 前田幸男 永尾浩一 規矩大義 吉田 望	125~137頁
多層構造を有する斜面の地震時永久変形の簡易評価手法とその適用性	共著	2007年9月	土木学会論文集 C, Vol. 63, No. 1	中村 晋 澤田純男 吉田 望	269~284頁
Causes of Showa bridge collapse in the 1964 Niigata earthquake based on eyewitness testimony	共著	2007年12月	Soils and Foundations, Vol. 47, No. 6	Tazoh T Wakamatsu S. Yasuda I. Towhata H. Nakazawa H. Kiku N. Yoshida	1075~1087頁
液状化に伴う噴砂と液状化層厚の関係	共著	2008年3月	土木学会論文集 C, Vol. 64	山口 晶 飛田善雄 吉田 望	79~89頁

ロッキングと砂時計不安定を避ける有効応力解析法の定式化	共著	2008年3月	構造工学論文集, Vol. 54B	大矢陽介 吉田 望	45~50 頁
液状化に伴う噴砂と液状化層厚の関係	共著	2008年3月	土木学会論文集 C, Vol. 64, No. 1	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	79~89 頁
再液状化メカニズムに関する実験的研究	共著	2008年7月	日本地震工学会論文集, 第8巻, 第3号	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	46~62 頁
密度と拘束圧依存性を考慮した砂の構成モデルの検証	共著	2008年8月	応用力学論文集 Vol. 11	飛田善雄 三塚保法 山口 晶 吉田 望	411~422 頁
堆積軟岩の動的変形特性	共著	2009年1月	日本地震工学会論文集, 第9巻, 第1号	福元俊一 吉田 望 佐原 守	46~64 頁
載荷履歴の影響を考慮した砂の体積変化特性モデル	共著	2009年4月	構造工学論文集, Vol. 55A	大矢陽介 吉田 望 菅野高弘	405~414 頁
海溝型長継続時間地震動に対する簡易液状化判定法の適用性	共著	2009年5月	日本地震工学会論文集, 第9巻, 第3号	吉田 望 大矢陽介 澤田純男 中村 晋	28~47 頁
Bb Mechanism of site amplification and its prediction	単著	2007年1月	International Workshop on Earthquake Geotechnical Engineering to commemorate the 150th Anniversary of the Civil Engineering Department of Bengal Engineering and Science University		1~46 頁
Effect of duration of earthquake on onset of liquefaction	単著	2007年4月	2nd Japan-Greece Workshop on Seismic Design, Observation, and Retrofit of Foundations		521~526 頁
Engineering seismic base layer for defining design earthquake motion	共著	2007年6月	4th International Conference on Earthquake Engineering	S. Sawada S. Nakamura N. Yoshida	Paper No. 1381
土構造物の地震時の性能設計の現状	共著	2007年7月	土構造物の地震時における性能設計と変形量予測に関するシンポジウム発表論文集	酒井久和 岡本敏郎 西村真二 渡辺健治 吉田 望	3~18 頁

Engineering seismic base layer for defining design earthquake motions	単著	2007年7月	International geotechnical symposium (GSS 2007) on Geotechnical Engineering for Disaster Prevention & Reduction		253~257頁
有關日本土壤液化之研究和實務之最近發展	単著	2007年10月	第27回中日工程技術検討会公路工程組論文集		129~149頁
液化時の構造物の沈下と浮上がりが噴砂に与える影響	共著	2008年3月	東北学院大学環境防災応学研究所紀要, 第17号	山口 晶 松浦杏理 金戸友太 黒田直樹 飛田善雄 吉田 望	29~34頁
地震時の地盤の流動メカニズムと流動量の定量的評価	共著	2008年3月	東北学院大学環境防災応学研究所紀要, 第17号	山口 晶 奥平喜広 佐藤由惟 飛田善雄 吉田 望	35~40頁
Engineering seismic base layer for defining design earthquake motion	単著	2008年7月	2008 Seismic Engineering Conference commemorating the 1908 Messina and Reggio Calabria Earthquake		346~353頁
Relationship between recurrent liquefaction-induced damage and subsurface conditions in Midorigaoka, Japan	共著	2008年7月	2008 Seismic Engineering Conference commemorating the 1908 Messina and Reggio Calabria Earthquake	K. Wakamatsu N. Yoshida	464~471頁
Simplified method in evaluating liquefaction occurrence against huge ocean trench earthquake	共著	2008年10月	14WCEE	S. Sawada S. Nakamura N. Yoshida	Paper No. 04-02-0011
Modeling of caisson quay wall in three dimensional analysis of liquefaction-induced flow	共著	2008年10月	14WCEE	Y. Ohya N. Yoshida	Paper No. S26-016
FEM model of Biot's equation free from volume locking and hourglass instability	共著	2008年10月	14WCEE	Y. Ohya N. Yoshida	Paper No. 04-01-0014
Evaluation of sliding displacement of retaining structure and soil slope regarding the natural frequency	共著	2008年10月	14WCEE	J. Watanabe K. Miura N. Yoshida E. Kohama H. Nishikawa	Paper No. 04-01-0072

Failure mechanism of unsaturated embankment based on centrifuge shaking table test	共著	2008年10月	3rd Japan-Taiwan Joint Workshop on Geotechnical Hazards from Large Earthquakes and Heavy Rainfall	S. Nakamura S. Sawada N. Yoshida	465~471頁
海溝型長継続時間地震動に対する簡易判定法の適用性	単著	2009年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要, 第20号		19~39頁
2008年岩手・宮城内陸地震で発生した液状化被害の報告	共著	2009年3月	東北学院大学工学部研究所報告	山口 晶 日野友則 吉田 望 飛田善雄	51~57頁
C					
首都直下地震における地盤被害予測	単著	2005年11月	基礎工, Vol. 33, No. 11		10~13頁
地中埋設物の浮き上がりのメカニズムと対策	単著	2006年4月	基礎工, Vol. 34, No. 4		27~30頁
表層地盤と地震動の性質	単著	2009年1月	日本地震工学会誌, No. 9		6~11頁
地盤の動的解析に用いる地盤物性値の評価	単著	2009年4月	基礎工, Vol. 37, No. 4		27~30頁
D					
Liquefaction during the Niigata-ken Chuetsu, Japan, earthquake of October 23, 2004	共著	2005年1月	Proceedings of the International Symposium on Earthquake Engineering Commemorating Tenth Anniversary of the 1995 Kobe Earthquake	K. Wakamatsu N. Yoshida H. Kiku	B133~B142頁
長大構造物は大丈夫か	共著	2005年1月	第5回比較防災学ワークショップ	澤田純男 川辺秀憲 釜江克宏 飛田 潤 吉田 望 岩田知孝	41~49頁
新潟県中越地震による液状化現象	共著	2005年2月	平成16年新潟県中越地震災害被害調査講演集	若松加寿江 吉田 望 規矩大義	51~59頁
液状化	共著	2005年2月	平成16年新潟県中越地震第一次調査団調査速報	若松加寿江 吉田 望 規矩大義	
表層地盤の非線形応答のモデル化(1)	共著	2005年3月	地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究 第3回シンポジウム論文集	吉田 望 澤田純男 中村 晋 規矩大義	93~99頁

表層地盤の非線形応答のモデル化(2)	共著	2005年3月	地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究 第3回シンポジウム論文集	中村 晋 澤田純男 吉田 望	101~104頁
数値計算手法と地震動指標の関係	共著	2005年5月	大都市大震災軽減化特別プロジェクトIII (平成16年度) 成果報告書		77~81頁
Two features of liquefaction-induced flow	共著	2005年6月	Proc., International Geotechnical Symposium on Geotechnical Aspects of Natural and Man Made Disasters	N. Yoshida S. Yasuda Y. Ohya	25~30頁
時刻歴応答解析における地震動の区間線形化の影響	共著	2005年8月	第28回土木学会地震工学研究発表会報告集	酒井久和 吉田 望 澤田純男	Paper No. 149
Two Criteria for Liquefaction-induced Flow	共著	2005年9月	Proc., Geotechnical Earthquake Engineering Satellite Conference	N. Yoshida S. Yasuda Y. Ohya	109~116頁
Liquefaction reconnaissance of the Niigata-ken Chuetsu, Japan, earthquake of October 23, 2004	共著	2005年9月	Proc., Geotechnical Earthquake Engineering Satellite Conference	K. Wakamatsu N. Yoshida H. Kiku	70~77頁
Damage to pile in liquefied ground and applicability of analysis	共著	2005年10月	Proc., 1st Greece-Japan Workshop on Seismic Design, Observation, Retrofit of Foundations	N. Yoshida Y. Ohya	107~117頁
Demolition of RC buildings by controlled explosion and its simulation	共著	2005年11月	Pro., International Symposium on Structures under Impulsive Loading, Transient Phenomena due to Impact and Blast Loading	N. Yoshida M. Itoh N. Utagawa N. Yoshida	35~40頁
南東北地方の水道事業の地震対策	単著	2005年12月	水道新聞2005年12月号		
液状化に伴う地盤の流動のメカニズムと予測	単著	2006年3月	東北学院大学環境防災応学研究所紀要, 第17号		45~55頁

土構造物の地震時の性能設計の現状	共著	2007年7月	土構造物の地震時における性能設計と変形量予測に関するシンポジウム発表論文集	酒井久和 岡本敏郎 西村真二 渡辺健治 吉田 望	3~18頁
最近の地震による地盤被害に学ぶ宮城県沖地震への教訓	単著	2007年11月	第2回「震災対策技術展／自然災害対策技術展」宮城シンポジウム		25~32頁
地盤の地震時非線形挙動の特徴と予測	単著	2008年1月	地震工学研究レポート, No. 105		35~47頁
過去の地震による災害の教訓に学ぶ一次の宮城県沖地震は大丈夫かー	単著	2008年7月	宮城県沖地震 30周年記念シンポジウム		17~28頁
摩擦杭の液状化時の挙動	共著	2008年10月	基礎工, Vol. 36, No. 10	小林恒一 吉田 望	48~50頁
Prediction of behavior of underground structures and quay wall during earthquake	単著	2009年6月	Inter. Conf. on Performance-based Design in Earthquake Geotechnical Engineering		235~236頁
New Biot's equation for finite element analysis, Performance-Based Design in Earthquake Geotechnical Engineering	共著	2009年6月	Inter. Conf. on Performance-based Design in Earthquake Geotechnical Engineering	N. Yoshida Y. Ohya T. Sugano	1207~1215頁
Effect of uncertainty of seismic action and failure mechanism of the fragility characteristics of embankment	共著	2009年6月	Inter. Conf. on Performance-based Design in Earthquake Geotechnical Engineering	S. Nakamura S. Sawada N. Yoshida	1645~1652頁
Effect of hysteretic damping and stiffness at unloading on response of ground during earthquake	単著	2009年9月	3rd Greece-Japan Workshop on seismic design, observation, retrofit of foundations		573~583頁
Dynamic deformation characteristics of soft rock, Proc., Earthquake Geotechnical Engineering Satellite Conference	共著	2009年9月	XVIIth International Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering	S. Fukumoto N. Yoshida	Paper No. 8
E					
リスク管理・災害対策部門	単著	2007年5月	水道産業新聞		10頁
地震による地盤災害と予防	単著	2007年7月	平成19年度みやぎ県民大学「大学開放講座」		22~33頁
対策は「生活水レベル」にランクアップを	単著	2007年8月	水道公論, Vol. 43, No. 8		124~149頁

新潟県中越沖地震・柏崎市における管路被害と地盤の関係	単著	2007年9月	水道産業新聞, 2007.9.10		
有關日本土壤液化之研究和實務之最近發展	単著	2007年11月	第27回中日工程技術 検討会公路工程組論 文集		220~221頁
液状化流動予測で成果	単著	2008年5月	水道産業新聞, 2008.5.22		
多発する地震とマスコミ対応	単著	2008年10月	東北学院大学工学部 TG 土木同窓会(しび る会)会報		23~25頁
リスク管理・災害対策部門	単著	2009年5月	水道産業新聞		
過去の地震から学ぶー地震災害と市民生活ー	単著	2009年8月	第13回水道技術事例 発表会		1~23頁
地震と地盤	単著	2009年9月	環境防災工学研究所 公開講座		1~8頁
G					
液状化による地盤の流動の解釈	単著	2005年1月	日本地震工学会大会 -2004梗概集		212~213頁
非線形地盤震動解析の誤差ー陰な時間積分法と解の周波数特性ー	共著	2005年1月	日本地震工学会大会 -2004梗概集	酒井久和 吉田 望 澤田純男	2039~2040 頁
模擬地震動入力による液状化地盤ー杭基礎構造物系の過渡共振現象に関する研究	共著	2005年7月	第40回地盤工学研究 発表会講演集	三好将史 八尾眞太郎 榊井 健 吉田 望 小林恒一	2215~2216 頁
2004年新潟県中越地震の液状化現象とその特徴	共著	2005年7月	第40回地盤工学研究 発表会講演集	若松加寿江 吉田 望 規矩大義	477~478頁
三次元マルチスプリングモデルにおけるダイレイタンスー特性の改良	共著	2005年7月	第40回地盤工学研究 発表会講演集	大矢陽介 吉田 望	2263~2264 頁
地盤の拘束圧依存性が液状化判定に及ぼす影響	共著	2005年7月	第40回地盤工学研究 発表会講演集	小林恒一 吉田 望 規矩大義	459~460頁
地盤の地震応答解析のための土の動的変形特性試験の提案	共著	2005年7月	第40回地盤工学研究 発表会講演集	吉田 望 三上武子 澤田純男 規矩大義	517~518頁
液状化地盤ー杭基礎構造物系の過渡共振現象に関する実験的研究 その3 液状化層厚の影響に関する検討	共著	2005年9月	日本建築学会学術講 演梗概集(近畿)	榊井 健 八尾眞太郎 三好将史 吉田 望 小林恒一	301~302頁

3次元残留変形解析による護岸背後地盤の流動対策杭の効果に関する検討	共著	2005年9月	第60回土木学会年次学術講演会講演概要集, III	田中智宏 安田 進 川口和広 大矢陽介 吉田 望	311~312頁
液状化に伴う傾斜地盤の流動の3次元残留変形解析	共著	2005年9月	第60回土木学会年次学術講演会講演概要集, III	安田 進 吉田 望 川口和広 大矢陽介 掛川智仁	120~121頁
液状化過程における杭基礎-地盤系の動的挙動について	共著	2005年11月	日本地震工学会年次大会 2005 梗概集	小林恒一 八尾眞太郎 榊井 健 三好将史 吉田 望	118~119頁
Winkler ばねを用いたモデルによる液状化地盤中の杭の被害の解析	共著	2005年11月	日本地震工学会年次大会 2005 梗概集	吉田 望 船原英樹 恒川和久	484~485頁
液状化に伴う地盤の流動の3次元挙動に関する研究	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	大場陽光 長岡卓也 吉田 望	410~411頁
待ち受け擁壁の変位予測に与えるメッシュサイズの影響	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	我妻祐樹 吉田 望	486~487頁
地震動指標による地震応答解析の精度評価	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	藤田雅史 吉田 望	No. III-2
密度変化を考慮した繰り返し載荷時の弾塑性構成モデルに関する研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	日下初博 三塚保法 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	No. III-10
不飽和盛土の遠心模型振動実験	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	泉山真人 吉田 望	No. III-17
レストム工法の重金属汚染に対する有効性	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	芦萱浩二 中目達也 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	No. III-36
地盤の地震応答解析に与える地盤定数設定の影響	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	伊藤陽子 菅井英樹 吉田 望	No. III-38
海溝型長継続時間地震動に対する簡易液状化判定法	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	遠藤祐二 植松瑞貴 吉田 望	No. III-39

液状化時及び再液状化時の構造物被害と噴砂状況の関係	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	松浦杏理 金戸友太 黒田直樹 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	No. III-40
液状化時に発生する流動量の定量的評価に関する実験的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	佐藤由惟 奥平喜広 山口 晶 飛田善雄 斎藤孝一 吉田 望	No. III-42
液状化に伴う流動の簡易な解析手法に関する研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	工藤恭介 佐藤基廣 吉田 望	No. III-43
液状化に伴う地盤の流動の三次元挙動に対する解析的検討	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	生出郁将 佐藤佳太 吉田 望	No. III-45
一軸割裂圧縮試験機を用いた土の引張り強度の載荷速度依存性に関する研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	吉田俊平 村上 亨 山田慎也 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	No. III-49
地盤材料の脆性挙動に関する実験的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	辻田竜一 秋保枝里 丹野陽介 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	257~258頁
引張りせん断時の脆性挙動を対象とした土の構成モデル	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	菅原光哉 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	327~328頁
密度依存性を考慮した構成モデルによる砂の安定・不安定挙動に関する研究	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	三塚保法 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	1463~1464頁
三次元流動解析におけるケーソンのモデル化に関する考察	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	大矢陽介 吉田 望	1709~1710頁
遠心力場での振動実験による不飽和盛土の崩壊機構	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	中村 晋 澤田純男 樋口俊一 吉田 望	1733~1734頁
振動台実験による振動-滑動モデルの振動および滑動挙動	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	渡邊潤平 三浦均也 西川洋人 小濱英司 吉田 望	1735~1736頁

振動台模型実験による振動-滑動モデルの滑動量の検証	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	三浦均也 渡邊潤平 西川洋人 小濱英司 吉田 望	1855~1856 頁
非排水繰返し応力載荷実験から推定した地盤の流動量	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	山口 晶 飛田善雄 佐藤由惟 奥平喜広 吉田 望	1871~1872 頁
二次液状化による変形係数の変化	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	三上武子 小林恒一 吉田 望	1903~1904 頁
海溝型長継続時間地震動に対する簡易液状化判定に関する検討	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会平成19年度発表講演集	澤田純男 中村 晋 吉田 望	525~526頁
二次液状化地盤の変形特性	共著	2007年8月	日本建築学会2007年度大会(九州)学術講演梗概集, Vol. B1	小林恒一 三上武子 吉田 望	657~658頁
基礎構造の降伏による上部構造の応答抑制効果に関する研究-応答スペクトル法の妥当性についての動的解析による検討-	共著	2007年8月	日本建築学会2007年度大会(九州)学術講演梗概集, Vol. B1	山口ひとみ 八尾眞太郎 榊井 健 吉田 望	83~84頁
平成19年能登半島地震における門前町道下地区の地盤変状および家屋被害	共著	2007年9月	土木学会第62回年次学術講演会, Vol. 3	規矩大義 村上実嘉子 山口恵美 山口和也 日比野七生 東畑郁生 山田 卓 川野健二 J. D. Montoya 中野義仁 斉藤慶一郎 吉田 望	123~124頁
液状化時に上下動が地盤応答に与える影響	共著	2007年9月	土木学会第62回年次学術講演会, Vol. 3	森 勇人 澤田純男 吉田 望	895~896頁
変形量を考慮した土構造物の地震リスクの評価手法	共著	2007年9月	土木学会第62回年次学術講演会, Vol. 3	中村 晋 澤田純男 吉田 望	185頁
2007年新潟県中越沖地震後のK-NET 柏崎(NIG018)の様子	共著	2007年10月	日本地震学会講演予稿集, 2007年度秋季大会	青井 真 中村洋光 若松加寿江 藤原広行 白坂光行 吉田 望	30~31頁
再液状化時の噴砂分布に関する振動実験	共著	2007年11月	日本地震工学会大会・2007梗概集	山口 晶 飛田善雄 吉田 望	40~41頁

層地盤の散乱減衰特性のモデル化に関する一考察	共著	2007年11月	日本地震工学会大会・2007梗概集	中村 晋 澤田純男 吉田 望	Ⅲ-19
新しい動的変形特性試験法による砂の変形特性	共著	2008年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	千田訓嗣 高橋龍太郎 吉田 望	Ⅲ-42
1964年新潟地震における川岸町の液化化に関する考察	共著	2008年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	茂泉 亨 福井洋樹 吉田 望	Ⅲ-43
液化化に伴う流動時に上部非液化化層が構造物に作用する外力と設計法	共著	2008年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	成田 光 阿部 康 吉田 望	Ⅲ-44
地盤の力学的特性の誤差が地震動予測に与える影響	共著	2008年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	横山和拓 後上藤三 吉田 望	Ⅲ-45
Google Earthを用いた1978年宮城県沖地震における地震被害情報	共著	2008年3月	土木学会東北支部技術研究発表会	勝又徳子 澤口秀之 藤原定博 飛田義雄 吉田 望	Ⅲ-45
密度依存性・初期異方性を考慮した砂の弾塑性モデルの検証	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会	飛田善雄 吉田 望 山口 晶 三塚保法	387～388頁
砂や薬注改良体の初期サイクリックモビリティ後のシミュレーション	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会	福武毅芳 社本康広 馬淵倉一 吉田 望	437～438頁
擁壁の振動および滑動挙動の振動台模型実験	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会	渡邊潤平 三浦均也 西川洋人 吉田 望 小濱英司	1669～1670頁
擁壁の振動挙動の振動—滑動モデルによる解析	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会	渡邊潤平 三浦均也 西川洋人 吉田 望 小濱英司	1671～1672頁
二次元繰返しせん断が液化化地盤の残留せん断ひずみに与える影響	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会	山口 晶 吉田 望 飛田善雄 伊東久雄 飯川 聡	1785～1786頁
2008年岩手・宮城内陸地震で発生した液化化地点	共著	2008年11月	日本地震工学会・大会—2008梗概集	山口 晶 日野友則 吉田 望	342～343頁

粒状体の安息角と流動に関する基礎的実験	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	蜂谷菜穂子 菊池剛志 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	289～290頁
低密度供試体の作製方法とその力学的挙動	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	小山内雅人 須藤恵利子 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	293～294頁
地震応答解析の精度に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	滝川靖基 赤井澤直哉 吉田 望	311～312頁
地震応答解析における減衰の影響に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	田中信道 小松ひとみ 吉田 望	313～314頁
初期応力の設定が液化化時の変位に与える影響に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	高橋 寿 椎谷 真 吉田 望	315～316頁
工学的基盤以深の地下構造が地震応答解析に与える影響	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	宇佐美亮介 佐々木毅史 吉田 望	317～318頁
中間軟弱層が不整形地盤の地震応答に与える影響に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	関場夕卯子 千葉祐樹 吉田 望	319～320頁
内部構造を考慮した砂の体積圧縮特性の表現	共著	2009年8月	第44回地盤工学研究発表会	飛田善雄 吉田 望	291～292頁
地盤の地震応答に与える減衰の影響	共著	2009年8月	第44回地盤工学研究発表会	吉田 望 田中信道 小松ひとみ	1523～1524頁
せん断波速度の不均質な空間分布のモデル化に関する一考察	共著	2009年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集	中村 晋 吉田 望	51～52頁
せん断波速度の不均質な空間分布のモデル化に関する一考察	共著	2009年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集	福武毅芳 馬淵倉一 吉田 望	127～128頁
広域を対象とした地盤の地震応答解析のための地盤の繰返しせん断特性の類型化	共著	2009年11月	日本地震工学会大会—2009梗概集	若松加寿江 吉田 望 三上武子 山本明夫	188～189頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
大都市大震災軽減化特別プロジェクト	2002～2006年度	共同	地震動伝播特性の高精度化に関する研究
科学研究費補助金基盤研究 (B)2	2004～2006年度	共同	土の引っ張り破壊を考慮した土構造物の地震時被害評価手法の開発

科学研究費補助金	2006 年	共同・研究代表者	液状化による流動の際の表層非液状化層の影響を求める
IV 学会等及び社会における主な活動			
1972 年 4 月～	日本建築学会会員		
1983 年 4 月～	地盤工学会会員		
1983 年 4 月～	土木学会会員		
1994 年 4 月～	地盤工学会, Geotechnology for Natural Hazards 国内委員会		
1994 年 10 月～	国際地盤工学会, Asian Technical Committee on Geotechnical Hazards (ATC3)		
1999 年 8 月～	日本地震工学会会員		
2002 年 4 月～2005 年 3 月	地盤工学会, 地盤工学における FEM の設計への適用に関する研究委員会, 副委員長		
2002 年 4 月～2009 年 10 月	国際地盤工学会, TC4 (Earthquake Geotechnical Committee), Secretary		
2004 年 5 月～2006 年 8 月	地盤の動的解析－基礎理論から応用まで－編集委員会		
2004 年 5 月～2007 年 4 月	地盤工学会・土構造物の地震時における許容変形と性能設計に関する研究委員会		
2004 年 8 月～2007 年 4 月	日本地震工学会・基礎構造設計委員会		
2005 年 3 月～2009 年 6 月	地盤工学ジャーナル編集委員会, 委員長		
2005 年 5 月～2007 年 4 月	地盤工学会関東支部・液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計に関する研究委員会		
2005 年 9 月～	仙台市・宅地保全審議会委員		
2006 年 4 月～2007 年 3 月	実務設計における地盤数値解析の適正な利用のための調査委員会		
2006 年 8 月～2008 年 3 月	衝撃・衝突問題検討 WG		
2006 年 10 月～	東北支部・東北地域地盤災害研究委員会 (2009～委員長)		
2007 年 2 月～	原子力安全基盤機構・耐震安全解析評価検討会		
2007 年 4 月～	地盤工学会東北支部評議員		
2007 年 4 月～	地盤工学会・X 年宮城県沖地震小委員会, 委員長 (～2009 年 6 月)		
2007 年 12 月～2009 年 12 月	International Symposium on Geo-Informatics and Zoning for Hazard Mapping 実行委員会		
2008 年 4 月～	災害記録普及小委員会, 委員長		
2008 年 4 月～	日本地震工学会・2008 年度大会実行委員会		
2008 年 5 月～	日本地震工学会・基礎構造設計委員会副委員長		
2008 年 5 月～	日本地震工学会副会長		
2008 年 6 月～	秋田県・建設工事紛争審査会		

2008年6月～	土木学会・地盤工学会・岩手・宮城内陸地震被害調査委員会副団長
2008年7月～	土木学会・地盤工学会・日本地すべり学会・東北建設協会・平成20年岩手・宮城内陸地震の被害に関する4学協会合同調査委員会副委員長
2008年8月～	土木学会・技術評価委員会
2009年6月～	地盤工学会・岩手・宮城内陸地震被害調査委員会副委員長

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	李 相勲	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	「土木工学実験」の鋼材の引張実験の自主作業	2005年～2006年	実験供試体の準備・実験の実施等すべての作業を学生自ら行うことで実験に対する理解度を高める。				
	「土木工学設計製図」における数量算出書を作成	2005年～2006年	構造計算による設計図面の作成だけでは図面に情報を十分に表現できない場合が多い。数量算出書を作成することで図面の完成度および理解度を高める。				
	「コンピュータ基礎」における授業中の課題提出	2005年～2006年	授業の終了と同時に授業で行った演習内容を提出することで学生を授業に集中させる。また、できる学生の評価にもつながる。				
	「構造力学Ⅰおよび演習」における講義中の質問・毎回のレポートまたは小テストの実施	2005年～2009年	講義中に簡単な質問を常に出すことで学生の集中力を維持させるとともに、毎回レポートまたは小テストを実施し、学生の自習の習慣と問題を解く基本能力を身につけさせる。				
	「卒業研究」における工学基礎教育	2005年～2009年	前期の毎週2回動的解析・スペクトル解析・構造力学についてゼミを行い、卒業研究に必要な基礎知識を修得させる。				
	「力学および演習」における講義内容の見直し	2006年	力学から構造力学へのつながりや各授業の特色を生かすため、講義内容を見直し本来の力学に充実させる。				
	「環境建設工学実験」の鋼材の引張実験の自主作業	2007年～2008年	実験供試体の準備・実験の実施等すべての作業を学生自ら行うことで実験に対する理解度を高める。				
	「環境建設工学設計製図」における数量算出書を作成	2007年～2009年	構造計算による設計図面の作成だけでは図面に情報を十分に表現できない場合が多い。数量算出書を作成することで図面の完成度および理解度を高める。				
	「プログラミング演習Ⅰ」における授業中の課題提出	2007年～2009年	授業の終了と同時に授業で行った演習内容を提出することで学生を授業に集中させる。また、できる学生の評価にもつながる。				
	「フレッシュマンセミナーⅡ」における建物の模型による振動実験	2009年	学生が製作した模型を振動台に乗せ地震動を与える実験を行う。模型の上には重りを載せるようになっており、地震動に耐えられるまでの重りの数を競い合わせる。耐震構造の原理や大切さが体験できる。				
2	「フレッシュマンセミナーⅡ」の教材として、強制振動実験装置を製作した。	2005年	強制振動実験装置：調和強制進藤を直接与えてその応答を観察・計測することで、理論では学べない体験的学習効果を得ることができる。				
	「フレッシュマンセミナーⅡ」の教材として、自動車模擬走行実験装置を製作した。	2006年～2007年	模型橋梁上にラジコンを走行させ橋梁の振動を測定する実験を行うことで、振動実験の仕組みや動的外力による構造物の応答のメカニズムを学ぶことができる。				

「構造力学Iおよび演習」の教材として、トラスの模型を製作した。	2008年	トラス構造に対する理解を高めるために、模型を制作し力の伝達経路や部材ごとに異なる力の分布を分かりやすく説明する。
4 高校への出前授業	2005年11月7日	登米高等学校の2年生を対象に、「新幹線を解析しよう；構造力学の魅力」について50分間の講義を行った。
	2006年7月27日	山形県寒河江工業高等学校にて、「新幹線を解析しよう；構造力学の魅力」について1時間の講義を行った。
	2007年12月5日	古川学園高等学校にて、「新幹線を解析しよう；構造力学の魅力」について1時間の講義を行った。
オープンキャンパス・工学部祭で研究室の公開	2007年8月, 10月	実験施設の公開：自動車走行時の橋梁振動測定システム, 振動台実験装置, 衝撃弾性波法を用いた測定システム
	2008年6月, 8月	実験施設の公開：自動車走行時の橋梁振動測定システム, 振動台実験装置, 衝撃弾性波法を用いた測定システム
	2009年8月, 10月	実験施設の公開：自動車走行時の橋梁振動測定システム, 地震動の体験コーナー, 衝撃弾性波法を用いた測定システム
高校生に対する実験室の公開（見学会）	2006年6月30日	石巻西高校の学生に対し、実験施設について説明を行った。万能試験機, 振動実験など。
	2007年7月4日	石巻西高校の学生に対し、実験施設について説明を行った。万能試験機, 振動実験など。
	2007年12月1日	高校生約50人に対し、教育用および研究用の実験施設について説明を行った。
	2008年6月11日	福島成蹊高校の学生に対し、実験施設について説明を行った。
	2008年6月27日	東松島高校の学生に対し、実験施設について説明を行った。
	2008年10月17日	岩ヶ崎高校2年生の学生に対し、実験施設について説明を行った。万能試験機, 振動台など。
	2009年5月1日	仙台西高校の学生に対し、実験施設についての説明を行った。地震体験も行った。
	2009年10月3日	榴ヶ岡高校の学生に対し、実験施設についての説明を行った。地震体験も行った。
地震講習会	2008年9月1日	富谷町成田東小学校にて、「地震と日本の未来」と「科学のおもしろいお話」との内容で1時間30分の講演を行った。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 鋼アーチ橋架設工法の歴史と発展 (in Korean)	共著	2009年8月	磐石技術図書出版	李 沅哲 李 相勲 金 尚錫 遠藤孝夫	
Ba 断面修復材の寸法安定性に関する解析的研究	共著	2005年6月	コンクリート工学年次論文集, Vol. 27, No. 1	藤村敏之 国枝 稔 中村 光 李 相勲	1597~1620頁
ポストピーク領域におけるコンクリート部材の破壊進展速度解析	共著	2005年6月	コンクリート工学年次論文集, Vol. 27, No. 2	上田尚史 中村 光 国枝 稔 李 相勲	91~96頁
格子等価連続体モデルによる高強度 RC はりのせん断破壊解析	共著	2005年6月	コンクリート工学年次論文集, Vol. 27, No. 2	K. Phamavanh 中村 光 国枝 稔 李 相勲	715~720頁
横波の波動伝播を考慮した半無限連続高架橋におけるエネルギー伝達境界の定式化	共著	2005年7月	鉄道力学論文集, No. 9	李 相勲 中村 光 中沢正利 石川雅美 遠藤孝夫	55~60頁
半無限連続高架橋における粘性境界の設定	共著	2005年8月	土木学会応用力学論文集, Vol. 8	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫 石川雅美	189~198頁
連続高架橋における粘性境界の伝播速度設定に関する一提案	共著	2006年12月	東北学院大学工学部報告 41 巻 1 号	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫	38~41頁
マースバネ系モデルにおける粘性境界設定の簡便法	共著	2007年8月	土木学会地震工学論文集, Vol. 29	李 相勲 中沢正利 遠藤孝夫	426~431頁
橋梁上の門型標識柱に対する振動解析と疲労耐久性評価手法	単著	2008年3月	東北学院大学工学部報告 42 巻 1・2 号		23~28頁
衝撃弾性波法を用いたコンクリート構造物の欠陥探査のための測定システムの構築	共著	2009年3月	東北学院大学工学部報告 43 巻 1・2 号	相良雄三 渡辺正典 李 相勲 石川雅美 中沢正利	37~40頁

Numerical Experiments on Concrete Slabs of Various Strengths to Detect Defects using the Impact-Echo Method	共著	2009年8月	4th International Conference on Construction Materials: Performance, Innovations and Structural Implications	S. H. Lee M. Ishikawa T. Endo	1425~1430 頁
マースバネ系モデルのエネルギー伝達境界における減衰項の影響の検討	共著	2009年10月登載決定	土木学会地震工学論文集, Vol. 31	李 相勲 遠藤孝夫	
Bb 連続高架橋構造物における等価粘性境界の設定	単著	2006年3月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要第17号		65~74 頁
半無限連続高架橋における粘性境界設定速度の簡便式(in Korean)	共著	2007年2月	韓国防災学会 2007年 学術発表大会論文集	李 相勲 遠藤孝夫 李 沅哲	140~143頁 I-E-3
Estimation of Concrete Strength and Quantification of Concrete Deterioration by X-ray Technique with Contrast Medium	共著	2008年2月	韓国防災学会 2008年 学術発表大会論文集	M. Takeda K. Otsuka S. H. Lee	41~44 頁 I-A-4
Vibration Analysis and Evaluation of a Sign Frame on a Bridge	共著	2008年2月	韓国防災学会 2008年 学術発表大会論文集	S. H. Lee T. Endo M. Ishikawa Y. H. Han	317~320頁 II-C-4
Damage Prediction for RC and SRC Columns Based on the Buckling Analysis of Reinforced Bars	共著	2009年2月	韓国防災学会 2009年 学術発表大会論文集	H. Naito M. Suzuki T. Endo S. H. Lee	97~100 頁
Determination of the Static Young's Modulus of Concrete from the Young's Modulus of Cement Paste	共著	2009年2月	韓国防災学会 2009年 学術発表大会論文集	T. Endo M. Kagaya M. Nakazawa S. H. Lee	101~104頁
Numerical Studies on Concrete Members to Detect the Defects by Impact-Echo Method	単著	2009年10月	The sixth International Conference on Materials Engineering for Resources		83~88 頁
G RC ボックス構造物の三次元効果の解析的検討	共著	2005年3月	土木学会中部支部平成16年度研究発表会講演概要集	中村 翔 李 相勲 国枝 稔 中村 光	V-20
積分型非局所構成則の2次元への適用に関する基礎的研究	共著	2005年3月	土木学会中部支部平成16年度研究発表会講演概要集	岩山一成 権 庸吉 李 相勲 中村 光	V-21

3次元FEM解析による地下鉄駅構造物のせん断耐力検討	共著	2006年3月	平成17年度土木学会 東北支部技術研究発表会	高橋剛貴 李 相勲	40~41 頁 I-14
橋梁上の門型標識柱に対する振動解析と疲労耐久性評価手法	共著	2006年3月	平成17年度土木学会 東北支部技術研究発表会	白山陽理 李 相勲	60~61 頁 I-24
無限遠方からのエネルギー入射を考慮したマスーバネ系モデルにおけるパラメトリック解析	共著	2006年3月	平成17年度土木学会 東北支部技術研究発表会	大河内光孝 李 相勲	99~91 頁 I-38
連続高架橋構造物における地震観測および分析	共著	2006年3月	平成17年度土木学会 東北支部技術研究発表会	佐藤裕樹 李 相勲	96~97 頁 I-41
高架橋構造物における粘性境界の伝播速度に関する一考察	共著	2006年3月	平成17年度土木学会 東北支部技術研究発表会	岡本健一 李 相勲	106~107 頁 I-46
マスーバネ系モデルにおける粘性境界設定の簡便法と減衰の影響	共著	2007年3月	平成18年度土木学会 東北支部技術研究発表会	小笠原敦樹 李 相勲	I-3
マスーバネ系モデルのエネルギー伝達境界における減衰項の影響に関する基礎的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会 東北支部技術研究発表会	大沼隆広 李 相勲	I-5
橋梁上の門型柱に対する動的解析手法の一考察	共著	2007年3月	平成18年度土木学会 東北支部技術研究発表会	大嶋一仁 李 相勲	I-12
自己振動による構造物の減衰効果に関する実験的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会 東北支部技術研究発表会	舟山史康 李 相勲	I-31
3次元FEM解析による地下鉄駅構造物の地震耐力検討	共著	2007年3月	平成18年度土木学会 東北支部技術研究発表会	奈良浩輝 李 相勲	I-38
高靱性コンクリートにより補強されたRC柱に対する振動実験	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発表会	今野宏育 渡辺辰紀 李 相勲 林 承燦	I-13
LECOMの解析モジュールとmidasFEAのプレ・ポスト処理モジュールの結合	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発表会	吉成達也 李 相勲 石川雅美	I-20
衝撃弾性波法を用いたコンクリート構造物の欠陥探査システムの構築	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発表会	相良雄三 李 相勲 石川雅美	I-21
衝撃弾性波法を用いたコンクリートの弾性係数の推測手法	共著	2008年3月	平成19年度土木学会 東北支部技術研究発表会	佐々木一彰 石川雅美 李 相勲 遠藤孝夫	V-31

衝撃弾性波法を用いたコンクリートの弾性係数に及ぼす鉄筋影響についての解析	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会	吉田康彦 石川雅美 李 相勲 遠藤孝夫	V-32
衝撃弾性波法による鋼管構造物根入れ深さ測定システムの構築	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会	熊谷崇之 李 相勲 遠藤孝夫 千葉寛二	891~892頁 I-446
多様な高靱性コンクリートにより製作された柱の動的特性	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	菅原夢美 熊谷圭介 李 相勲 林 承燦	1~2頁 I-1
マスーバネモデルを用いた衝撃弾性波法の検証解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	川口拓矢 李 相勲 中沢正利	17~18頁 I-9
衝撃・衝突解析ソフトウェアを用いた衝撃弾性波法の欠陥探査精度の検討	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	高橋良宗 李 相勲 石川雅美	19~20頁 I-10
衝撃弾性波法による鋼管構造物根入れ深さ測定システムの検証	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	熊谷崇之 伊佐見克則 李 相勲 遠藤孝夫	65~66頁 I-33
衝撃弾性波法を用いたコンクリート構造物の欠陥探査システムの検証	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	渡邊正典 李 相勲 石川雅美	67~68頁 I-34
衝撃弾性波法を用いたコンクリート構造物の欠陥探査システムの検証	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会	相良雄三 李 相勲 石川雅美 渡邊正典	363~364頁 V-183
I 棒部材の長さ測定システム		出願 ; 2009年12月	特許第4421655号	李 相勲 (株)千葉測機	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
社団法人東北建設協会，建設事業の技術開発に関する支援	2009年度	個別	衝撃弾性波法を用いた多目的高性能計測システムの開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2009年10月	平成21年度技術講習会，(社)全国土木コンクリートブロック協会 最近のコンクリート技術について
2009年11月	橋梁技術発表会（東北地区）特別講演会，(社)日本橋梁建設協会 韓国と日本，中国の橋梁建設動向比較

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	郷右近勝夫	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	毎回の授業の進め方における工夫	2005年4月～2008年12月	毎回レジメと資料集を配布し、その概要を説明している。また、授業終了時には、その回の授業のまとめを行っている。				
	授業内容をよく理解させるための工夫	2006年4月～2008年12月	OHPとパワーポイントを独自に作成し、それらを授業のなかで併用しながら、より理解を深めるための工夫を行っている。				
4	高校への出前授業	2005年10月26日	登米高校（理系進学クラス） 「ハチ類の生息状況から自然環境を診断する」				
	高校への出前授業	2008年5月24日	宮城野高等学校 平成20年度特別講座「生物学の世界」において、次の授業をパワーポイントを用いて行った。第1回目；9：15～10：50「砂浜海岸の生態学－ハナバチ類を主体とした海浜送粉生態系－」第2回目；10：30～11：30「クラカタウ諸島への狩りバチ類の再移住－島の生物地理学への招待－」。なお、授業の終わり簡単な質疑討論を行った。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
Ba	西表産リュウキュウスナハキバチの営巣生態	共著	2005年12月	中国昆虫No, 19	郷右近勝夫 前田泰生	73～83頁	
	Life history traits of <i>Pseudasphondylia rokuharensis</i> (Diptera:Cecidomyiidae) affecting emergence of adults and synchronization with host plant phenology.	共著	2007年6月	Entomological Society of America 36(3)	M. Tokuda J. Yukawa K. Goukon	518～523頁	
	Host Species of Japanese Anthracine Bee Flies, the Genus <i>Authrax</i> , Reared from Trap nests (Diptera, Bombyliidae)	共著	2007年6月	Jpn. J. Syst. Ent. 13 (1)	Y. Maeta K. Goukon T. Ohnuma Y. Sasaki Y. Konno	91～97頁	
	西南日本におけるホクダイコハナバチの生態	共著	2008年3月	ホシザキグリーン財団研究報告No. 11	前田泰生 吉田 亮 宮永龍一 郷右近勝夫	103～119頁	
	ミツクリヒゲナガハナバチの営巣生態	共著		中国昆虫22	郷右近勝夫 前田泰生	55～66頁	
	Nesting behavior and silk secretion by female wasps from unique abdominal spigots in <i>Psenulus carinifrons iwatai</i> Gussakovskij (Hymenoptera, Sphecidae)	共著	2009年3月	Bull. Hoshizaki Green Foundation No. 12	S. W. T. Batra Y. Maeta J. Onagawa	123～146頁	

島嶼における昆虫媒植物と訪花昆虫の相互関係	共著	2010年3月	ホシザキグリーン財団研究報告	前田泰生 ハンナンMd 宮永龍一 郷右近勝夫	投稿中
Bb モンゴルのハチ	単著	2007年5月	昆虫と自然 42(5)		15~19頁
G 仙台湾荒浜海岸砂浜における訪花昆虫相	共著	2005年9月	日本昆虫学会第65回大会講演要旨	郷右近 渡辺 庄司	46頁
アナバチ類の狩り	単著	2007年6月	『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画フェアブルにまなぶ		16~18頁
「宮城県内の数カ所の砂浜におけるハマボウフウの訪花昆虫相の比較」	単著	2007年7月	日本昆虫学会東北支部大会第54回大会講演要旨		13頁
海浜の訪花性昆虫の現状と保全	単著	2007年10月	公開シンポジウム3「海浜と海浜性昆虫の現状と保全」日本昆虫学会第67回大会講演要旨 神戸大学理学部		104頁
クラカタウ諸島におけるカリバチ相および移住動向に関する調査	単著	2008年3月	[クラカタウ諸島におけるハチ・アリ類の移住過程に関する研究, 科学研究補助金(基盤(B))課題番号17405009, 2005-2007年度報告書, 研究代表者 山根正気(鹿児島大学理学部教授), 126pp]		11~38頁
狩りバチのたどったみち	単著	2008年7月	[日仏友好150年記念国際シンポジウム「ジャン・アンリ＝フェアブル」, 22pp(日仏友好150年フェアブル昆虫記完成100年記念実行委員会)]		7頁
Les routes empruntees par les guêpes chasseuses	単著	2008年7月	[Symposium International “Jean-Henri Fabre” A l’Occasion du 150eme Anniversaire de L’etablissement des Relations D’Amotie Entre la France et Le Japon. 27pp]		7~8頁
蒲生干潟の砂浜における海浜性甲虫類の動態	単著	2009年7月	日本昆虫学会東北支部大会第56回大会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2005年10月～		蒲生干潟自然再生協議会委員	
2007年6月～		蒲生干潟自然再生協議会管理計画検討部会部会長	

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	菅井 幸仁	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 「測量実習製図」における工夫			2008 年度以降		<p>実社会に出た際には、新旧様々な測量器械を使用できるスキルが必要である。そこで、本授業におけるグループごとの実習において、測量器械をグループ間でローテーションし、それらの測量器械に対する操作スキルを身に付けさせている。</p> <p>また、実習時にはグループ間を巡回し、測量器械を正しく使用できるように指導を行なっている。</p>		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要
IV 学会等及び社会における主な活動							
1975 年 4 月～			土木学会会員				

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	武田 三弘	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学生の出席回数（欠席日）を把握させ、積極的に講義にでる工夫	2005年4月～2009年12月		最初の講義で出席表を配布し、各授業中に判子により出席をとる。JABEEの関係上、2/3以上を出席しなければ、試験を受けられないため、この方法により、学生個人が自己管理により積極的に講義に出るようにしている。また、判子がたまってくると、学生自身が「全部判子で埋めたい」という心境にかわってくることで、判子を付くとき用紙に記入されている学生自身の名前も覚えられる利点がある。			
	文章だけでは分かりづらい講義内容に関しては、実際に現場見学に行き、写真などを撮ってそれを講義に使う工夫	2005年4月～2009年12月		コンクリートの講義などでは、文章だけでは学生が理解しづらいため、実際に土佐工場や大船渡工場に見学に行き、写真や動画を撮ってきて、それを講義に活用している。			
	最新の話題や現場見学などのパワーポイントを紹介し、学生に最新の情報の提供を行う	2005年4月～2009年12月		本人が土木工場の現場見学に訪れた際に撮影した写真・動画・資料を、パワーポイントのアプリケーションを用いて整理してあり、授業中の関連するところにおいて紹介する事によって、授業の内容を理解し易くなると同時に、現場見学の疑似体験が出きる効果があると考えている。			
	教員独自の「アンケート」を実施し、学生にその内容の公開をしている	2005年9月～2009年12月		1回目の講義の後に、学生が要望する講義のありかたなどについてアンケートを行い、その内容に付いて公表し、その要求をなるべく満たしながら講義を行っている。			
	繰り返し学習による記憶への定着の実践	2005年9月～2009年12月		毎回の授業の冒頭で、前回までに学習したことについての問答を行うことによって、前回までの学習内容の整理と記憶への定着を行っている。			
2	資格試験に対応した問題集の作成と講義時間に配布・試験を行っている	2005年4月		教材としては、コンクリート技士・コンクリート主任技士の出題傾向を分析した問題集を作成し、コンクリート工学および演習の演習時間において配布し解答を行っている。			
	独自の演習用問題の作成	2005年4月～2009年12月		授業で行われる演習時に使用する問題を独自に作成している。			
	講義の前にこの講義が何故必要なかの理解させるための教材の作成	2005年9月～2009年12月		特に線形代数などは、「これを勉強してどんな役に立つのか？」と思う学生が多いため、これを極めることによって、このようなことに使えることや応用できることを理解してから、講義に入るようにしている。			
	配付資料の作成	2005年9月～2009年12月		授業の補足に必要な 86 枚の配付資料を作成した。			

コンクリート工学 [第2版] (朝倉書店)	2007年2月	最新のコンクリート事情を盛り込んだ初めてコンクリートを勉強する人を対象とした本であり、八戸工業大学、東北工業大学と連盟で作成し、共通で使用している本である。
2007年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料実習編	2007年7月～9月	2007年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料
2008年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、テーマ名:21世紀のキーテクノロジーを学ぶ資料実習編	2008年5月～7月	2007年度に行なった左記の文部科学省委託事業の実習に用いるナノテクノロジー及びバイオテクノロジーに関する10テーマについて纏めた資料
4 授業に関する資格取得	2005年3月	授業(コンクリート工学)に関する資格を取得することによって、学生が将来取得に向けてのアドバイスや勉強意欲を植え付ける努力を行った。
高校生の大学訪問における研究の説明	2005年4月～2008年9月	本学に高校生が訪問した際に、X線に関する研究の内容や研究棟の説明を行った。
2007年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2007年7月～2008年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員22名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの抗議及び実習を90分30回行なった。
学び直し教育の実験の講師	2007年8月～2008年9月	文部科学省の「学び直し教育」において、X線透過撮影を使用した実験の講師を担当し、X線を用いた工業技術や最新の技術を実際の実験により体験してもらう講師を担当した。
2008年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」	2008年4月～2009年3月	小、中学校及び高等学校の理科担当教員21名に対しナノテクノロジー、バイオテクノロジーの抗議及び実習を90分30回行なった。
資格試験対策のための講座の講師	2008年8月	コンクリート技士、コンクリート主任技士、コンクリート診断士受験のための講座(キャリアアップ講座)の講師を担当した。
コンクリート診断士の講習会の講師	2008年9月	私自身コンクリート診断士の資格を持っているが、資格を継続申請する際、講習会を受講しなければならないが、その際、講師として、これまでの診断内容に付いて講演を行った。
第4回コンクリートの材料-収縮とひび割れ(横浜国立大学)	2008年12月	横浜国立大学において、第4回コンクリートの材料-収縮とひび割れの研究討論会が行われ、「X線造影撮影法によるコンクリート内部に発生したひび割れの定量化手法」と題して発表した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A コンクリート工学 [第2版]	共著	2007年2月	朝倉書店	大塚浩司 外門正直 庄谷征美 小出英夫 武田三弘 阿波 稔	57～123頁

コンクリート構造物のひび割れ対策に関するテキスト	共著	2008年6月	社団法人日本コンクリート工学協会東北支部	コンクリート構造物のひび割れ研究委員会	55～64頁
コンクリート構造物の放射線透過試験方法	共著	2009年3月	社団法人日本非破壊検査協会	NDIS原案作成委員会	1～24頁 (全員で内容の確認)
コンクリート構造物の非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会(339委員会) 成果報告書	共著	2009年12月	社団法人土木学会	339委員会(全35名)	101～106頁
Ba					
ポーラスコンクリートの三次元的空隙性状と植物の生長	共著	2005年	セメント・コンクリート論文集	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	577～584頁
X線造影撮影によるコンクリート強度の推定	共著	2006年5月	土木学会論文集 E, Vol. 62, No. 2	武田三弘 大塚浩司	376～384頁
X線造影撮影によるコンクリート劣化の数値化と凍結融解抵抗性の判定	共著	2006年11月	土木学会論文集 E, Vol. 62, No. 4	武田三弘 大塚浩司	728～738頁
浸透性吸水防止材によるコンクリートのスケールング抑止効果に関する研究	共著	2007年1月	コンクリート工学論文報告集, Vol. 18, No. 1	武田三弘 大塚浩司	1～9頁
高温および低湿度環境下におけるコンクリート物性の変化と損傷の定量化に関する実験検討	共著	2007年5月	建築学会論文集, No. 615	閑田徹志 市川禎和 紺谷 修 武田三弘 大塚浩司	15～22頁
界面活性剤と塩分との複合作用がコンクリートの凍結融解による劣化に及ぼす影響	共著	2007年7月	コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 29, No. 1	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	1155～1160頁
アラミド繊維で補強したRC柱の変形と内部ひび割れ性状	共著	2008年7月	コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 30, No. 3	ルクマン 武田三弘 大塚浩司 市之瀬敏勝	229～234頁
補強ポーラスコンクリートの内部ひび割れ性状に関する研究	共著	2008年	セメント・コンクリート論文集	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	225～231頁
Presumption of deterioration concrete strength by small size core and X-ray technique with contrast medium	共著	2009年6月	NDTCE'09	M. Takeda K. Otsuka	875～880頁
アラミド繊維で補強したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ	共著	2009年7月	コンクリート工学年次論文報告集	ルクマン 市之瀬敏勝 武田三弘 大塚浩司	205～210頁
ごみ溶融スラグを用いたポーラスコンクリートの緑化と空隙性状に関する研究	共著	2009年7月	コンクリート工学年次論文報告集	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文 武田三弘	1741～1746頁

Bb	Detection of fine cracks in UHPC by X-ray technique with contrast medium	単著	2005 年	Darmstadt concrete, Vol. 20		39～40 頁
	ポーラスコンクリートにおける空隙と植物の生長	共著	2005 年 3 月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要, 第 16 号	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	23～29 頁
	ESTIMATION OF CONCRETE STRENGTH AND QUANTIFICATION OF CONCRETE DETERIORATION BY X-RAY TECHNIQUE WITH CONTRAST MEDIUM	共著	2008 年 8 月	2008 年韓国防災学会定期総会および学術発表大会	M. Takeda K. Otsuka S. Lee	41～44 頁
C	コンクリート内部マイクロクラックの検出による劣化度診断に関する研究	共著	2005 年 4 月	財団法人建設工学研究振興会年報 No. 40	武田三弘 大塚浩司	63～70 頁
	X 線造影撮影によるコンクリート劣化の数値化と凍結融解抵抗性の判定	共著	2007 年 12 月	検査技術, Vol. 12, No. 12	大塚浩司 武田三弘	35～43 頁
	X 線造影撮影法によるコンクリート性状調査, コンクリート診断士研修会調査報告書 '08	単著	2008 年 8 月	社団法人日本コンクリート工学協会		23～26 頁
	X 線造影撮影法によるコンクリート性状調査	単著	2009 年 7 月	コンクリート診断士のページ -2008 年度診断士研修会での調査報告書特集-		72～74 頁
D	コンクリートのお医者さんをめざして	単著	2005 年 3 月	ΟΤΡΑΝΟΣ		3～4 頁
	ドイツで思うこと	単著	2006 年 8 月	コンクリート工学, Vol. 44, No. 8		62～63 頁
	X 線造影撮影によるコンクリート劣化の数値化と凍結融解抵抗性の判定, 検査技術	共著	2007 年 12 月	検査技術	大塚浩司 武田三弘	35～43 頁
	X 線造影撮影法によるコンクリート性状調査	単著	2008 年 8 月	コンクリート診断士研修会調査報告書 '08, 社団法人日本コンクリート工学協会		23～26 頁
	X 線造影撮影法によるコンクリート性状調査	単著	2009 年 7 月	コンクリート診断士のページ -2008 年度診断士研修会での調査報告書特集-		72～74 頁
G	ポーラスコンクリートの空隙と植物の生長とに関する実験的研究	共著	2005 年 3 月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集 (第 V 部門, V-35)	佐藤博和 大塚浩司 武田三弘 大友鉄平	684～685 頁
	高強度コンクリートと自然石のフラクチャープロセスゾーン性状に関する実験的研究	共著	2005 年 3 月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集 (第 V 部門, V-38)	斉藤広忠 大塚浩司 武田三弘 遠藤博一	690～691 頁

エポキシ樹脂の接着強度に及ぼす温度履歴の影響に関する研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-50)	大平貴典 大塚浩司 武田三弘 小野正之	714~715頁
X線造影撮影法によるアルカリ骨材反応を生じたコンクリート構造物の劣化度評価に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-60)	遠藤芳宗 大塚浩司 武田三弘 高橋 真	732~733頁
吸水乾燥作用を受けるコンクリートの耐凍害性評価に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-12)	遊佐宏樹 武田三弘 大塚浩司	638~639頁
界面活性剤がコンクリート凍害に与える影響	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-14)	森 優一 武田三弘 大塚浩司	642~643頁
浸透型吸水防止材を塗布したコンクリート表面の耐凍害性に関する実験的研究	共著	2005年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-15)	宍戸尚貴 大塚浩司 武田三弘 高橋 真	644~645頁
緑化ポーラスコンクリートの空隙性状に関する基礎的研究	共著	2005年9月	土木学会第60回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-448)	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	895~896頁
界面活性剤がコンクリート凍害に与える影響に関する研究	共著	2005年9月	土木学会第60回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-242)	斉藤広忠 武田三弘 大塚浩司	483~484頁
エポキシ樹脂の接着疲労特性に及ぼす温度履歴の影響に関する研究	共著	2005年9月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門)	小野正之 大塚浩司 武田三弘	700~701頁
界面活性剤と塩分の複合作用がコンクリート凍害へ及ぼす影響	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門)	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	782~783頁
X線造影撮影法によるコンクリート実構造物の劣化度評価	共著	2006年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門)	斉藤広忠 大塚浩司 武田三弘	766~767頁
界面活性剤と塩分の複合作用がコンクリートの凍害へ及ぼす影響	共著	2006年9月	土木学会第61回年次学術講演会講演概要集(部門4, V-395)	菅井貴洋 武田三弘 大塚浩司	787~788頁
X線造影撮影法によるコンクリート実構造物の強度評価に関する実験的研究	共著	2006年9月	土木学会第61回年次学術講演会講演概要集(部門4, V-565)	斉藤広忠 大塚浩司 武田三弘 菅井貴洋	1125~1126頁
コンクリートと自然石のフラクチャープロセスゾーン性状に関する研究	共著	2007年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門, V-11)	吉田 徹 大塚浩司 武田三弘	V-11 (CD-ROM)

X線造影撮影法を用いたコンクリート実構造物の定量的劣化診断に関する実験的研究	共著	2007年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門), V-12	石塚嗣人 武田三弘 大塚浩司 菅井貴洋	V-12 (CD-ROM)
コンクリートの凍害に及ぼす界面活性剤と塩分との複合作用の影響	共著	2007年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門), V-33	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	V-33 (CD-ROM)
ポーラスコンクリートの空隙性状と植生との関係	共著	2007年3月	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集(第V部門), V-18	大友鉄平 大塚浩司 北辻政文 武田三弘	V-18 (CD-ROM)
X線造影撮影法によるコンクリートの性状評価に関する実験的研究	共著	2007年9月	土木学会第62回年次学術講演会講演概要集(部門5, V-025)	武田三弘 大塚浩司 大友鉄平	49~50頁
コンクリートの凍害に及ぼす界面活性剤と塩分との複合作用に関する研究	共著	2007年9月	土木学会第62回年次学術講演会講演概要集(部門5, V-576)	菅井貴洋 武田三弘 大塚浩司	1151~1152頁
Organo-modified reservoir sludgeを用いた撥水性コンクリートの凍結融解抵抗性に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-4	上野 啓 武田三弘 大塚浩司 郭 文毅	V-4 (CD-ROM)
界面活性剤と塩分との複合作用がコンクリートのスケールングに及ぼす影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-11	菅井貴洋 大塚浩司 武田三弘	V-11 (CD-ROM)
短繊維補強ポーラスコンクリートの内部ひび割れに関する実験的研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-24	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘 小山貴弘	V-24 (CD-ROM)
X線造影撮影法によって評価したコンクリートの強度に及ぼすブリーディングの影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-36	堤 佳亮 武田三弘 大塚浩司	V-36 (CD-ROM)
X線造影撮影法による小径コアコンクリートの強度推定に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, V-39	佐々木真梨絵 武田三弘 大塚浩司 大友鉄平	V-39 (CD-ROM)
ごみ溶融スラグを用いた緑化ポーラスコンクリートの植生と三次元的空隙性状とに関する研究	共著	2008年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	一条康弘 大塚浩司 大友鉄平 武田三弘	505~506頁
圧縮応力状態におけるコンクリートの内部性状に関する実験的研究	共著	2008年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	持留 大 武田三弘 大塚浩司	527~528頁
AE法によるコンクリートに発生したひび割れ深さ測定手法の開発研究	共著	2008年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	松山朋子 大塚浩司 武田三弘 佐々木香織	529~530頁

Organo-modified reservoir sludge を用いた撥水性コンクリートの凍結融解抵抗性に関する実験的研究	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-275)	上野 啓 武田三弘 大塚浩司 郭 文毅	549~550頁
短繊維補強ポーラスコンクリートの内部ひび割れ性状に関する実験的研究	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-514)	大友鉄平 大塚浩司 武田三弘	833~834頁
X線造影撮影法によって評価したコンクリートの密実性に及ぼすブリーディングの影響に関する研究	共著	2008年9月	土木学会第63回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-514)	堤 佳亮 武田三弘 大塚浩司	1027~1028頁
アラミド繊維で補強したRC柱の変形と内部ひび割れ性状	共著	2008年9月	日本建築学会2008年度大会(中国)学術講演梗概週集建築デザイン発表梗概集	ルクマン 市之瀬敏勝 武田三弘	537~538頁
アラミド繊維補強を施したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ その1 実験概要と荷重-変形関係	共著	2009年8月	2009年度大会(東北)学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	吉田和也 ルクマン 松下央雅 市之瀬敏勝 武田三弘 大塚浩司	607~608頁
アラミド繊維補強を施したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ その2 二次元ひずみ	共著	2009年8月	2009年度大会(東北)学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	松下央雅 ルクマン 吉田和也 市之瀬敏勝 武田三弘 大塚浩司	609~610頁
アラミド繊維補強を施したRC柱の三次元ひずみと内部ひび割れ その3 三次元ひずみと内部ひび割れ	共著	2009年8月	2009年度大会(東北)学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	武田三弘 ルクマン 松下央雅 吉田和也 市之瀬敏勝 大塚浩司	611~612頁
コンクリートの非破壊評価技術の「よくある質問 Q&A 作成」による信頼性向上の試み	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-177)	則竹義辰 稲熊唯史 秋山哲治 鈴木哲也 武田三弘 溝渕利明	351~352頁
OMRSを用いた撥水性AEコンクリートの凍結融解抵抗性に関する実験的研究	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-271)	上野 啓 大塚浩司 武田三弘 郭 文毅	539~540頁
X線造影撮影法によるコンクリート強度の推定と凍結融解抵抗性の評価に関する実験的研究	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-271)	杉本多聞 武田三弘 大塚浩司	549~550頁
圧縮応力状態におけるコンクリートの内部性状の変化に関する基礎実験	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-271)	堤 佳亮 武田三弘 大塚浩司	807~808頁

高弾性 CFRP ロッド埋設補強工法の疲労耐久性と曲げ補強効果	共著	2009年9月	土木学会第64回年次学術講演会講演概要集(第V部門, V-562)	久部修弘 大友鉄平 武田三弘	1121~1122 頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
東北学院大学共同研究	2005年	共同		コンクリート構造物の劣化度診断システムの開発研究	
科学研究費補助金基盤研究(C)	2005~2006年度	共同		コンクリート劣化の定量化による耐久性評価手法の開発研究	
平成19年度「シーズ発掘試験」	2007年度	個別		X線造影撮影によるコンクリート健全度評価手法の開発と応用	
社団法人東北建設協会平成20年度「共同研究」	2008年度~2009年度	共同		小径コアによるコンクリート構造物の定量的評価手法の開発研究	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1989年~	東北学院大学工学部 TG しびる会事務局長				
2006年10月~	社団法人日本コンクリート工学協会「コンクリート診断士小委員会」委員				
2007年4月~	社団法人日本コンクリート工学協会東北支部「コンクリート構造物のひび割れ研究委員会」幹事				
2007年6月~2009年3月	社団法人日本非破壊検査協会(NDI)「コンクリート構造物の放射線透過試験方法分科会」委員				
2007年11月~	土木学会コンクリート委員会「コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会」(339委員会)				
2008年1月~12月	マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会 協力委員				
2008年5月~	東北学院同窓会 非改選者代議員				
2008年5月15日~	社団法人土木学会東北支部 幹事				
2009年3月~	社団法人日本コンクリート工学協会「混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善研究委員会」委員				
2009年3月~	社団法人日本コンクリート工学協会「コンクリート診断士研修小委員会通信委員」				
2009年3月~	NEXCO 東日本 東北支社「構造物補修検討会」委員				
Ⅴ 芸術分野や体育実技等における主な活動					
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時		発表・展示等の内容等	
第2回見つけた! ドイツ!! フォトコンテスト	東北電力グリーンプラザ	2009年3月		日本で見つけたドイツに関する写真やドイツに関する写真展, 応募294点中, 入賞30点の一つに佳作として入賞した。	

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	韓 連熙	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 ヴィジュアルな授業		2006年4月～2009年12月		授業を円滑に実施するためパワーポイントを利用している。さらに、レポートを提出させ、これを評価することで修学状況を把握し、アドバイスを与える。			
「学生による授業評価」を実施		2006年4月～2009年12月		学部で実施する「学生による授業評価」を担当の科目で実施している。			
学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進		2006年4月～2009年12月		毎回の授業の冒頭で、前回の復習とその回の概略を説明し、授業中は説明した内容を含む問題を提示し、理解の確認を行う。授業終了時にはその回のまとめを行っている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Phospholipids modulate superoxide and nitric oxide production by lipopolysaccharide and phorbol 12-myristate-13-acetate-activated microglia		共著	2007年4月	Neurochemistry International, Vol. 50, No. 3	S. Hashioka Y. -H. Han S. Fujii T. Kato A. Monji H. Utsumi M. Sawada H. Nakanishi S. Kanba	499～506頁	
Phosphatidylserine and phosphatidylcholine-containing liposomes inhibit amyloid β and interferon- γ -induced microglial activation		共著	2007年4月	Free Radical Biology and Medicine, Vol. 42, No. 7	S. Hashioka Y. -H. Han S. Fujii T. Kato A. Monji H. Utsumi M. Sawada H. Nakanishi S. Kanba	945～954頁	
Antioxidant and Cytoprotective Activities of Methanolic Extract from Garcinia mangostana Hulls		共著	2007年9月	ScienceAsia Vol. 33	N. Kosem Y. -H. Han P. Moongkarnadi	283～292頁	
A kinetic study of resorcinol-enhanced hydroxyl radical generation during ozonation with a power law type equation		共著	2008年10月	Journal of Water and Environment Technology, Vol. 6, No. 1	Y. -H. Han Y. Ishibashi K. Ichikawa H. Utsumi	1～7頁	
Analyses of Growth Factors of Taste and Oder Producing Algae by a Fuzzy Neural Network		共著	2008年10月	Proceedings of 8th IWA Symposium on Off-Flavors in the Aquatic Environment	E. Oikawa Y. Ishibashi Y. -H. Han	361～367頁	

バングラデシュ帯水層を想定したヒ素溶出作用因子の挙動解析	共著	2008年10月	環境工学研究論文集, Vol. 45	高橋直樹 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙 M. T. Rahman 真野 明	1~7頁
水中オゾン酸化反応における硝酸鉄触媒の効果に関する研究	共著	2009年3月	東北学院大学工学部報告, 43巻第1-2号	韓 連熙 後藤真一 石橋良信	47~50頁
Bb 累乘法を用いたオゾン処理水中のヒドロキシルラジカル生成における3-クロロフェノールの影響の数量的解析	共著	2005年6月	水道協会雑誌, 第74巻, 第6号	韓 連熙 輿石一郎 内海英雄	56~57頁
促進酸化処理と活性酸素の産生-OHラジカルの定量法を中心として-	共著	2006年4月	月刊「水」	韓 連熙 内海英雄	31~35頁
G A kinetic study of resorcinol-enhanced hydroxyl radical generation during ozonation with a power law type equation	共著	2005年7月	IWA-ASPIRE 2005	Y. -H. Han K. Ichikawa H. Utsumi	
ESR/スピントラップ/ストップドフローシステムを用いたオゾン処理水中のヒドロキシルラジカル生成における3-クロロフェノールの促進効果の数量的解析	共著	2005年10月	第44回電子スピンスサイエンス学会年会講演集	韓 連熙 市川和洋 内海英雄	212~213頁
オゾン処理水中のヒドロキシルラジカル生成におけるレゾルシノールの促進効果の数量的解析	共著	2006年3月	第40回日本水環境学会年会講演集	韓 連熙 内海英雄	335頁
オゾン酸化反応における硝酸鉄触媒の効果に関する研究	共著	2008年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会	後藤真一 鈴木幸喜 韓 連熙	VII-6
ヒ素溶出作用因子としての有機物の影響, 平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会	共著	2008年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会	加藤 直 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙	VII-3
ガンジスデルタ帯水層を想定したヒ素溶出作用因子の検討	共著	2008年3月	第42回日本水環境学会年会講演集	佐藤佳央 高橋直樹 韓 連熙 石橋良信	366頁
Analyses of Growth Factors of Taste and Oder Producing Algae by a Fuzzy Neural Network	共著	2008年10月	8th IWA Symposium on Off-Flavours in the Aquatic Environment	E. Oikawa Y. Ishibashi Y. -H. Han	361~367頁
バングラデシュ帯水層を想定したヒ素溶出作用因子の挙動解析	共著	2008年10月	第45回環境工学研究フォーラム	高橋直樹 佐藤佳央 石橋良信 韓 連熙 M. T. Rahman 真野 明	1~7頁

オゾン/光触媒反応におけるヒドロキシルラジカル生成されるラジカルに関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	佐々木彰聡 阿部達哉 伊藤俊祐 韓 連熙	VII-31
電子スピン共鳴装置を用いた光合成微生物から生成されるラジカルに関する研	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	佐々木智昭 小林寿宏 中田 祐 村上将也 石橋良信 韓 連熙	VII-32
フェントン反応における土壌中のアントラセン分解に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	渡邊 憲 庄司雄大 鈴木幸喜 韓 連熙	VII-33
ヒ素の吸脱着における物理・化学的因子に対する数量的解析	共著	2009年3月	第43回日本水環境学会年会	加藤 直 石橋良信 韓 連熙	534頁
かび臭産生藍藻類Anabaena属の遺伝子工学的分類	共著	2009年3月	第43回日本水環境学会年会	村上将也 石橋良信 及川栄作 韓 連熙	524頁
非定型抗精神病薬がミクログリア由来 superoxide radical 産生へ与える影響	共著	2009年12月	第42回精神神経系薬物治療研究報告会	加藤隆弘 門司 晃 安川圭司 溝口義人 堀川英喜 関 善弘 与那覇めぐみ 橋岡禎征 韓 連熙 内海英雄 神庭重信	A-3

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
日本水環境学会九州支部学術研究補助金	2005年度	個別	累乘法を用いたオゾン処理水中のヒドロキシルラジカル生成の数量的解析

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年4月～	日本電気化学会会員
2006年5月～	土木学会会員
2007年4月～	日本水環境学会会員
2007年4月～	電子スピンサイエンス学会会員
2009年8月～	日本オゾン協会会員

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	宮内 啓介	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した内容の確認	2006年4月～2009年12月		授業の最初に前回の内容の復習を行って、知識の定着をはかるようにしている。			
	授業進度等に関するアンケートの実施	2006年4月～2009年12月		授業時に配布・回収している出席カードの裏に、授業に関する要望等を記入してもらい、授業にフィードバックするようにしている。			
	授業終了前に、毎回小テストを実施	2007年1月～2009年12月					
	複数の教員による同一授業の実施の際の話し合い	2007年4月～2009年12月		複数の教員で同じ授業をおこなうときは、授業前日に話し合いの場を持ち、授業内容を確認することで、内容に差が出ないようにした。			
	最終回において独自のアンケート及びそれに対する回答の提示	2008年7月～2009年12月		授業、教員に対する要望・コメントを得るためのアンケートを行った。各コメントに対する回答を作成し、定期試験実施時に配布した。			
2	教養科目「生命の科学」用スライド及びプリント	2006年4月～2009年12月		学生が見やすいようにパワーポイントを用いて提示する資料を作成し、それを元にプリントを作製した。プリントは資料をそのまま載せるのではなく、重要な項目は学生が埋めるようにした。			
	専門科目「水質保全工学」「環境生物工学」用スライド及びプリント	2006年9月～2009年12月		同上			
	パワーポイントファイル及び重要部分を白抜きにした配布用資料	2007年1月～		パワーポイントは毎年内容を更新している。プリントは授業ごとに配布した。			
4	オープンキャンパス模擬授業講師	2006年8月		多賀城キャンパスオープンキャンパスにおいて、模擬授業「微生物を用いた環境浄化」の講師を務めた。			
	オープンキャンパス研究室公開	2006年～2009年		多賀城キャンパスオープンキャンパス（年3回）において、研究室公開をおこなった。			
	みやぎ県民大学講師	2007年6月		「遺伝子工学と私たちの暮らし」			
	出前授業講師	2007年7月4日		利府高等学校2年生90分×2コマ			
	文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」講師	2007年12月、2008年8月、2009年7月		「DNAについて」講義と実験指導			
	仙台オータムセミナー講師	2008年10月		講師			
	文部科学省キャリア教育実践プロジェクト多賀城市キャリアスタート・ウィーク	2008年12月		「DNAを見てみよう」実験指導			
	平成21年度宮城県中学校教育研究会理科部会 特別講座	2009年10月		「身近な材料からのDNAの分離」講師			

出前授業講師	2009年11月	仙台市立青陵中等教育学校「微生物を用いた環境汚染浄化」			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Identification of Insertion Sequence from γ -hexachlorocyclohexane Degrading Bacterium, <i>Sphingomonas paucimobilis</i> UT26	共著	2005年	Biosci Biotechnol Biochem.	K. Miyauchi M. Fukuda M. Tsuda M. Takagi Y. Nagata	216~219頁
A tetrahydrofolate-dependent O-demethylase, LigM, is crucial for catabolism of vanillate and syringate in <i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6	共著	2005年	J Bacteriol	T. Abe E. Masai K. Miyauchi Y. Katayama M. Fukuda	2030~2037頁
Characterization of the gallate dioxygenase gene: three distinct ring cleavage dioxygenases are involved in syringate degradation by <i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6.	共著	2005年	J Bacteriol	D. Kasai E. Masai K. Miyauchi Y. Katayama M. Fukuda	5067~5074頁
A second 5-carboxyvanillate decarboxylase gene, <i>ligW2</i> , is important for lignin-related biphenyl catabolism in <i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6.	共著	2005年	Appl Environ Microbiol	X. Peng E. Masai D. Kasai K. Miyauchi Y. Katayama M. Fukuda	5014~5021頁
PCB degradation systems in <i>Rhodococcus</i> bacteria: multiplex enzyme system determined by multiple isozyme genes	共著	2005年	Tanpakushitsu Kakusan Koso	M. Fukuda K. Miyauchi E. Masai	1541~1547頁
Characterization of the terephthalate degradation genes of <i>Comamonas</i> sp. strain E6.	共著	2006年	Appl Environ Microbiol	M. Sasoh E. Masai S. Ishibashi H. Hara N. Kamimura K. Miyauchi M. Fukuda	1825~1832頁
Multiple-subunit genes of the aromatic-ring-hydroxylating dioxygenase play an active role in biphenyl and polychlorinated biphenyl degradation in <i>Rhodococcus</i> sp. strain RHA1.	共著	2006年	Appl Environ Microbiol	T. Iwasaki K. Miyauchi E. Masai M. Fukuda	5396~5402頁
The complete genome of <i>Rhodococcus</i> sp. RHA1 provides insights into a catabolic powerhouse	共著	2006年	Proc Natl Acad Sci USA	MP. McLeod RL. Warren K. Miyauchi M. Fukuda JE. Davies WW. Mohn LD. Eltis 他, 23名	15582~15587頁

Characterization of two biphenyl dioxygenases for biphenyl/PCB degradation in A PCB degrader, <i>Rhodococcus</i> sp. strain RHA1	共著	2007 年	Biosci Biotechnol Biochem vol. 71	T. Iwasaki H. Takeda K. Miyauchi T. Yamada E. Masai M. Fukuda	993 ~ 1002 頁
Composting cattle dung wastes by using a hyperthermophilic pre-treatment process: characterization by physicochemical and molecular biological analysis	共著	2007 年	J Biosci Bioeng vol. 104	T. Yamada K. Miyauchi H. Ueda Y. Ueda H. Sugawara Y. Nakai G. Endo	408~415 頁
有機資源の循環利用に必要な環境保全型コンポスト製造技術の開発	共著	2007 年 12 月	環境バイオテクノロジー学会誌, Vol. 7, No. 2	山田剛史 宮内啓介 上田裕一 上田英代 遠藤銀朗	111~117 頁
Isolation of dibenzofuran-degrading bacterium, <i>Nocardioides</i> sp. DF412, and characterization of its dibenzofuran degradation genes.	共著	2008 年	J Biosci Bioeng vol. 105	K. Miyauchi P. Sukda T. Nishida E. Ito Y. Matsumoto E. Masai M. Fukuda	628~635 頁
Successions of bacterial community in composting cow dung wastes with or without hyperthermophilic pre-treatment.	共著	2008 年	Appl. Microbiol. Biotechnol Vol. 81	T. Yamada A. Suzuki H. Ueda Y. Ueda K. Miyauchi G. Endo	771~781 頁
Characterization of a Transcriptional Regulatory Gene Involved in Dibenzofuran Degradation by <i>Nocardioides</i> sp. Strain DF412.	共著	2009 年	Biosci Biotechnol Biochem. Vol. 73	P. Sukda N. Gouda E. Ito K. Miyauchi T. Yamada E. Masai M. Fukuda	508~516 頁
Bb PCB 分解菌 <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 における PCB 分解遺伝子群転写抑制機構の解析	共著	2009 年 3 月	東北学院大学環境防災工学研究所紀要, No. 20	伊藤 拓 宮内啓介 遠藤銀朗	87~94 頁
D 責任者をあぶりだす!	単著	2006 年	生物工学会誌		241 頁
G <i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6 株由来ガリック酸ジオキソゲナーゼの機能解析	共著	2005 年 3 月	農芸化学会 2005 年度大会	笠井大輔 政井英司 宮内啓介 片山義博 福田雅夫	

リグニン由来化合物分解細菌のC1代謝酵素遺伝子の単離と解析	共著	2005年3月	農芸化学会2005年度大会	阿部友邦 山崎美和 政井英司 宮内啓介 片山義博 福田雅夫
<i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6株のバニリンデヒドロゲナーゼ遺伝子の単離と解析	共著	2005年3月	農芸化学会2005年度大会	山本裕子 井上智彦 高村一寛 原 啓文 笠井大輔 宮内啓介 片山義博 福田雅夫 政井英司
<i>Rhodococcus</i> sp. RHA1株におけるPCB分解系下流転写制御機構の解析	共著	2005年3月	農芸化学会2005年度大会	新倉祐司 坂井齊之 岡本 恵 宮内啓介 政井英司 福田雅夫
転写制御メカニズムを利用したPCB分解能の強化	共著	2005年3月	農芸化学会2005年度大会	尾島正隆 竹石欣司 武田 尚 宮内啓介 政井英司 福田雅夫
テトラヒドロ葉酸依存性バニリン酸脱メチル酵素遺伝子とC1代謝系酵素遺伝子群の転写制御	共著	2006年3月	農芸化学会2006年度大会	阿部友邦 政井英司 宮内啓介 片山義博 福田雅夫
<i>Comamonas</i> sp. E6株由来テレフタル酸1,2-ジオキシゲナーゼの精製と機能解析	共著	2006年3月	農芸化学会2006年度大会	福原優樹 政井英司 宮内啓介 福田雅夫
<i>Rhodococcus</i> sp. RHA1株の2種の芳香環水酸化dioxxygenaseの基質特異性	共著	2006年3月	農芸化学会2006年度大会	岩崎卓己 宮内啓介 政井英司 福田雅夫
テレフタル酸1,2-ジオキシゲナーゼの酵素学的性質	共著	2006年7月	環境バイオテクノロジー学会2006年度大会	福原優樹 政井英司 宮内啓介 福田雅夫
<i>Sphingomonas</i> sp. TFD44における2,4-D分解遺伝子の重複	共著	2006年7月	環境バイオテクノロジー学会2006年度大会	福田雅夫 原 裕一 宮内啓介 政井英司

<i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6 株のシリンガ酸代謝に関わる多様なジオキシゲナーゼシステム	共著	2006年7月	環境バイオテクノロジー学会 2006年度大会	笠井大輔 政井英司 宮内啓介 片山義博 福田雅夫
リグニン由来化合物分解菌 <i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6 株のプロトカテク酸メタ開裂系酵素遺伝子群の転写制御	共著	2006年7月	環境バイオテクノロジー学会 2006年度大会	上村直史 原 啓文 高村一寛 政井英司 宮内啓介 片山義博 福田雅夫
ビフェニル 1, 2-ジオキシゲナーゼの異種宿主での発現	共著	2006年7月	環境バイオテクノロジー学会 2006年度大会	大森恒男 宮内啓介 政井英司 福田雅夫
<i>Sphingomonas paucimobilis</i> SYK-6 株のプロトカテク酸 4, 5-ジオキシゲナーゼの 3-O-メチルガリック酸開裂経路の解明	共著	2006年7月	環境バイオテクノロジー学会 2006年度大会	笠井大輔 政井英司 宮内啓介 片山義博 福田雅夫
N ₂ O 抑止を目的として硝化脱窒反応槽内に添加する脱窒細菌のモニタリング技術の開発	共著	2007年3月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会	横山剛史 山田剛史 宮内啓介 遠藤銀朗
ポリ塩化ビフェニル分解菌の分解遺伝子発現に関する研究	共著	2007年3月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会	伊藤 拓 石山洋介 羽州 晃 福田雅夫 遠藤銀朗 宮内啓介
超高温コンポスト製造過程における窒素循環に関わる微生物の分子生物学的動態解析	共著	2007年3月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会	中居行浩 菅原宏幸 山田剛史 宮内啓介 上田裕一 遠藤銀朗
組み換え微生物による有機水銀の分解除去に関する研究	共著	2007年3月	第 41 回日本水環境学会年会	矢萩紀雄 谷口貴興 宮内啓介 遠藤銀朗
超高温堆肥化技術を用いたコンポスト化—その 1 コンポスト製造過程における物理化学的諸性質の変化と種々の方法によって製造されたコンポストとの比較—	共著	2007年3月	第 41 回日本水環境学会年会	山田剛史 菅原宏幸 宮内啓介 遠藤銀朗

超高温堆肥化技術を用いたコンポスト化—その2 各種分子生物学的手法を併用したコンポスト製造過程における主要微生物の同定とポピュレーションダイナミクス—	共著	2007年3月	第41回水環境学会年会, 大阪産業大学, 大阪府大東市	菅原宏幸 山田剛史 中居行浩 宮内啓介 中村寛治 遠藤銀朗 上田裕一
Sphingomonas paucimobilis におけるプロトカテック酸 4,5-開裂系酵素遺伝子群の転写制御機構	共著	2007年3月	日本農芸化学会2007年度大会	上村直史 高村一寛 原 啓文 宮内啓介 片山義博 政井英司 福田雅夫
Cloning and Characterization of Two 2,4-D Dioxygenase Gene Clusters in Sphingomonas sp. TFD44	共著	2007年5月	アメリカ微生物学会2007年度大会	K. Miyauchi E. Shimizu Y. Hara W. Kitagawa Y. Kamagata J. M. Tiedje E. Masai M. Fukuda
DfdR, a Transcriptional Regulatory Gene for Dibenzofuran Degradation in Nocardioides sp. Strain DF412	共著	2007年5月	アメリカ微生物学会2007年度大会	P. Sukda N. Gouda E. Ito K. Miyauchi E. Masai M. Fukuda
The Search of BphT Binding Region on Promoters of Biphenyl/PCB-Degradation Genes in Rhodococcus sp. RHA1	共著	2007年5月	アメリカ微生物学会2007年度大会	J. Shimodaira H. Takeda K. Miyauchi E. Masai M. Fukuda
The Transcriptional Repression of Biphenyl-Degrading Genes in Rhodococcus sp. RHA1 by Glucose	共著	2007年5月	アメリカ微生物学会2007年度大会	N. Araki Y. Niikura K. Miyauchi E. Masai M. Fukuda
PCB 分解菌 Rhodococcus sp. RHA1 株のビフェニル分解に対するグルコースの影響	共著	2007年6月	環境バイオテクノロジー学会2007年度大会	荒木直人 宮内啓介 政井英司 福田雅夫
超高温前処理を導入した無臭堆肥化法の畜産廃棄物を用いた物理化学的および生物学的評価	共著	2007年6月	環境バイオテクノロジー学会2007年度大会	山田剛史 宮内啓介 上田英代 上田裕一 遠藤銀朗

リグニン由来化合物分解菌 Sphingomonas paucimobilis SYK-6 株に おけるプロトカテック酸メタ開裂系酵素 遺伝子群の転写制御機構	共著	2007年6月	環境バイオテクノロジー学会2007年度大会	上村直史 高村一寛 原 啓文 宮内啓介 片山義博 政井英司 福田雅夫
<i>amoA</i> 遺伝子を分子マーカーとする家畜 廃棄物からのコンポスト製造過程にお ける高温性アンモニア酸化細菌の多様 性と動態の分子生物学的解析	共著	2007年9月	2007年度日本微生物 生態学会大会, 愛媛大 学, 愛媛県松山市	山田剛史 宮内啓介 荒木伸也 上田英代 上田裕一 遠藤銀朗
原位置分子育種を目的とした細菌性グ ループIIイントロンのスプライシング に関する研究	共著	2007年9月	日本生物工学会平成 19年度大会	土佐彩絵子 簡 梅芳 宮内啓介 遠藤銀朗
<i>Pseudomonas</i> sp. TYM322 株による 1,1 -dichloro-2,2-bis (4-chlorophenyl) ethylene (DDE) の分解	共著	2007年9月	日本生物工学会平成 19年度大会	佐藤洋佑 岩崎卓巳 宮内啓介 政井英司 福田雅夫
Development of new hyperthermophilic pre-treatment to solve malodorous odor problem from ammonia release in composting processes.	共著	2008年1月	COE 第8回国際シンポ ジウム	T. Yamada H. Ueda Y. Ueda K. Miyauchi G. Endo
Development of a hybrid strain for efficient degradation of chlorobiphenyls by patchwork assembly of degradation pathways	共著	2008年1月	COE 第9回国際シンポ ジウム	T. Ohmori M. Tomoi K. Miyauchi E. Masai M. Fukuda
DfdS, a transcriptional regulatory gene involved in the degradation of dibenzofuran in <i>Nocardioides</i> sp. Strain DF412	共著	2008年1月	COE 第10回国際シン ポジウム	P. Sukda N. Gouda E. Ito K. Miyauchi D. Kasai E. Masai M. Fukuda
Identification of sugar uptake system members involved in transcriptional repression of PCB degradation genes	共著	2008年1月	COE 第11回国際シン ポジウム	N. Araki K. Miyauchi D. Kasai E. Masai M. Fukuda
Gene expression of <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 in sterile soil	共著	2008年1月	COE 第12回国際シン ポジウム	T. Iino K. Miyauchi D. Kasai E. Masai W. Yong N. Ogawa T. Fujii M. Fukuda

Study of the regulatory system for biphenyl/PCB-degradation gene transcription in a PCB degrader, <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1	共著	2008年1月	COE 第13回国際シンポジウム	J. Shimodaira H. Takeda K. Miyauchi D. Kasai E. Masai M. Fukuda
Characterization of the genes for lower biphenyl pathway in a PCB degrader <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1	共著	2008年1月	COE 第14回国際シンポジウム	N. Kuroda T. Iino K. Miyauchi D. Kasai E. Masai M. Fukuda
Degradation of 1,1-dichloro-2,2-bis(4-chlorophenyl) ethylene (DDE) by <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 and <i>Pseudomonas</i> sp. TYM322	共著	2008年1月	COE 第15回国際シンポジウム	Y. Sato T. Iwasaki K. Miyauchi D. Kasai E. Masai M. Fukuda
Transcriptional repression of PCB degradation genes of <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 in the presence of its metabolites	共著	2008年1月	COE 第16回国際シンポジウム	K. Miyauchi T. Ito K. Sato M. Fukuda
畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程に関するアンモニア酸化細菌群の分子系統学的同定と動態解析	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会	荒木伸也 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
各種分子生物学的手法および統計学的手法を用いた真正細菌群の動態把握による超高温無臭堆肥化法の評価	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会	鈴木敦士 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
PCB分解菌の芳香族化合物分解・耐性能に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会	宮内啓介 菊池恵里 高橋理絵 福田雅夫
<i>Bacillus megaterium</i> MB1株に存在するイントロンの転写とそれによる水銀浄化遺伝子群の発現に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会	浅野 諒 簡 梅芳 宮内啓介 遠藤銀朗
センサーバクテリアの固定化による水銀検出用バイオセンサーデバイスの開発に関する研究	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会	大久保亮 矢萩紀雄 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程におけるアンモニア酸化細菌群の微生物生態学的解析	共著	2008年3月	第42回日本水環境学会年会, 名古屋大学, 愛知県名古屋市	山田剛史 荒木伸也 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗

PCB 分解遺伝子の転写抑制に関与する糖取り込み因子の探索と解析	共著	2008年3月	日本農芸化学会2008年度大会	荒木直人 宮内啓介 笠井大輔 政井英司 福田雅夫
Rhodococcus jostii RHA1 における安息香酸存在下での PCB 分解遺伝子群転写抑制機構の解析	共著	2008年3月	日本農芸化学会2008年度大会	伊藤 拓 佐藤謙太 北川 航 福田雅夫 宮内啓介
ポリ塩化ビフェニル (PCB) 分解菌 Rhodococcus jostii RHA1 におけるビフェニル (BP) /PCB 分解遺伝子群転写制御機構の解明	共著	2008年3月	日本農芸化学会2008年度大会	下平 潤 武田 尚 宮内啓介 笠井大輔 政井英司 福田雅夫
Transcriptional Repression of Biphenyl Degradation Genes by Biphenyl Metabolites in PCB Degradation, Rhodococcus jostii RHA1	共著	2008年6月	アメリカ微生物学会2008年度大会	K. Miyauchi T. Ito K. Sato M. Fukuda
Characterization of microbiological community succession in composting materials made from cow dung wastes after hyperthermophilic pre-treatment	共著	2008年8月	The 12th International symposium on microbial ecology (ISME-12), Cairns Convention Center, Cairns, Australia	T. Yamada A. Suzuki H. Ueda Y. Ueda K. Miyauchi G. Endo
Rhodococcus jostii RHA1 におけるヒ素耐性遺伝子群のプロモーター領域の解析	共著	2008年8月	日本生物工学会2008年度大会	佐藤元氣 塚野真司 遠藤銀朗 福田雅夫 宮内啓介
超高熱前処理堆肥化法を適用した畜産廃棄物のコンポスト製造過程における各種微生物群集の遷移と特徴	共著	2008年8月	日本生物工学会2008年度大会	山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物のコンポスト製造過程に関与するアンモニア酸化細菌群の分子系統学的同定と動態解析	共著	2008年9月	平成20年度土木学会全国大会	荒木伸也 山田剛史 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物を用いたコンポスト製造過程に関与するアンモニア酸化細菌群の遷移, 多様性および生態	共著	2008年11月	平成20年度日本微生物生態学会	山田剛史 荒木伸也 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗

Succession and diversity of bacterial microbes in composting cow dung wastes with hyperthermophilic pre-treatment	共著	2009年3月	長岡技術科学大学 アジア・グリーンテック開発センター シンポジウム	T. Yamada H. Ueda Y. Ueda K. Miyauchi G. Endo
コンポスト製造過程における窒素化合物の代謝に関与するアンモニア酸化細菌の多様性と遷移に関する研究	共著	2009年3月	第43回日本水環境学会年会	荒木伸也 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
PCB分解菌 <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 における安息香酸存在下での PCB 分解遺伝子群転写抑制機構の解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	寒河江秀和 中澤皓次郎 伊藤拓 福田雅夫 遠藤銀朗 宮内啓介
新規ヒ素耐性オペロンの単離と解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	相馬和侑 佐藤元氣 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物のコンポスト製造過程に関与する細菌群の分子系統学的同定と動態解析	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	岡大地 荒木伸也 山田剛史 大坪和香子 宮内啓介 遠藤銀朗
亜酸化窒素抑止型硝化脱窒処理に用いる好気脱窒細菌の生育条件および脱窒活性の最適化	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	柴祐貴 佐藤優太 宮内啓介 遠藤銀朗
台南市安順地区の水銀汚染の評価と浄化技術に関する研究	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会	大和恭平 杉木宏実 簡梅芳 宮内啓介 遠藤銀朗
<i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 における土壌特異的発現遺伝子の同定	共著	2009年3月	日本農芸化学会2009年度大会	飯野藤樹 宮内啓介 王勇 笠井大輔 政井英司 藤井毅 小川直人 福田雅夫
Characterization of an arsenic resistance gene cluster in PCB-degrading bacterium <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1	共著	2009年5月	アメリカ微生物学会2009年度大会	K. Miyauchi S. Tsukano K. Oikawa Y. Ohtomo G. Endo M. Fukuda

芽胞形成細菌におけるヒ酸高度耐性遺伝子群の単離と解析	共著	2009年6月	環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京大学弥生会館, 東京都	佐藤元氣 相馬和侑 宮内啓介 遠藤銀朗
好気性脱窒細菌 <i>Pseudomonas stutzeri</i> TR2 株の亜酸化窒素抑止型脱窒反応層における生育条件の最適化	共著	2009年6月	環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京大学弥生会館, 東京都	大坪和香子 宮原盛雄 柴 祐貴 宮内啓介 遠藤銀朗
水銀汚染環境における水銀分解遺伝子の分布	共著	2009年6月	環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京大学弥生会館, 東京都	簡 梅芳 宮内啓介 林 高弘 鈴木 聡 張 祖恩 遠藤銀朗
PCB 分解放線菌の糖に応答した PCB 分解抑制系に関わる遺伝子の探索と解析	共著	2009年7月	放線菌学会	荒木直人 鈴木 貫 米塚健太 宮内啓介 笠井大輔 政井英司 福田雅夫
PCB 分解菌 <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1 における分解遺伝子群転写抑制に関する物質の同定	共著	2009年9月	土木学会第64回	伊藤 拓 佐藤謙太 遠藤銀朗 福田雅夫 宮内啓介
有機性廃棄物のコンポスト製造過程に関与する硝化細菌群の多様性と遷移に関する研究	共著	2009年9月	土木学会第64回	荒木伸也 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗
畜産廃棄物のコンポスト化過程における N_2O 発生に関与する微生物の解析	共著	2009年11月	第25回日本微生物生態学会	大坪和香子 荒木伸也 山田剛史 上田英代 上田裕一 宮内啓介 遠藤銀朗

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費若手B	2004年～2005年	個別	PCB 分解菌の分解遺伝子の新規転写制御機構の解析
科学研究費若手B	2006年～2007年	個別	ダイオキシン分解菌の分解遺伝子転写機構の解析
科学研究費若手(B)	2006年度～2007年度	個別	ジベンゾフラン分解を司る転写制御因子の機能解析

科学研究費若手(B)	2008 年度～2010 年度	個別	PCB 分解遺伝子群の発現を調節する新規転写ネットワークの解明
IV 学会等及び社会における主な活動			
<p>2006 年 7 月～</p> <p>2007 年 1 月～2008 年 8 月</p> <p>2007 年 1 月～2008 年 9 月</p> <p>2007 年 4 月～</p>	<p>土木学会会員</p> <p>日本生物工学会平成 20 年度全国大会準備委員</p> <p>日本土木学会平成 20 年度全国大会準備委員</p> <p>日本農芸化学会・日本土木学会・日本生物工学会・米国微生物学会・環境バイオテクノロジー学会・ゲノム微生物学会 会員</p>		

所属	環境建設工学科	職名	准教授	氏名	山口 晶	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 研修旅行の実施			2001年4月～2008年9月		研究室の学生と研修旅行を行い、地震被災地等を見学し、現場の状況を理解できるようにしている。		
小テストの実施			2005年4月～2008年3月		複数回小テストを行うことで、学生の理解を促している。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba 軟弱粘性土層を有する地盤の最大加速度応答		共著	2005年	第50回地盤工学シンポジウム H17 年度論文集	山口 晶 風間基樹 飛田善雄	441～448頁	
間隙水流入時の細粒分を含む砂のせん断変形挙動に関する研究		共著	2005年	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 39, No. 1,	安藤 匡 佐藤かおり 山口 晶 飛田善雄	111～116頁	
液状化深さが噴砂現象に与える影響について		共著	2006年	第12回日本地震工学シンポジウム論文集, CD-ROM	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	710～713頁	
液状化に伴う噴砂のメカニズムに関する実験		共著	2006年	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 41, No. 1-2.	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	48～53頁	
軟弱粘土地盤のせん断特性と地震時の地盤挙動の関係		共著	2007年1月	日本地震工学会論文集第7巻第1号	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	1～13頁	
液状化に伴う噴砂と液状化層厚の関係		共著	2008年3月	土木学会論文集 C, Vol. 64, No.1	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	79～89頁	
液状化時の構造物の沈下と浮上がりが噴砂に与える影響		共著	2008年3月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 42, No.1・2	山口 晶 松浦杏里 金戸友太 黒田直樹 吉田 望 飛田善雄	29～34頁	
地震時の地盤の流動メカニズムと流動量の定量的評価		共著	2008年3月	東北学院大学工学部研究報告, Vol. 42, No. 1・2	山口 晶 奥平喜広 佐藤由惟 吉田 望 飛田善雄	35～40頁	
密度と拘束圧依存性を考慮した砂の構成モデルの検証		共著	2008年8月	応用力学論文集, Vol. 11, 土木学会	飛田善雄 三塚保法 山口 晶 吉田 望	411～422頁	

再液化化メカニズムに関する実験的研究	共著	2008年8月	日本地震工学会論文 集 第8巻3号	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	46~62 頁
2008年岩手・宮城内陸地震で発生した 液化化被害の報告,	共著	2009年3月	東北学院大学工学部 研究報告, Vol. 43, No. 1・2.	山口 晶 日野友則 吉田 望 飛田義雄	51~57 頁
Bb Seismic behavior of the ground at Kobe artificial islands inferred from experiment	共著	2005年	International Symposium on earthquake Engineering Commemorating Tenth Anniversary of 1995 Kobe Earthquake.	M. Kazama A. Yamaguchi	B-21~B-31 頁
液化化に伴う地盤の流動量に影響を与 える要因に関する実験的研究	共著	2007年7月	土構造物の地震時に おける性能設計と変 形量予測に関するシ ンポジウム発表論文 集	山口 晶 飛田善雄 吉田 望	277~282 頁
Sand boiling pattern during reliquefaction	共著	2008年10月	The 14th World Conference on Earthquake Engineering	A. Yamaguchi N. Yoshida Y. Tobita	8 頁 (CD-ROM)
G 地盤材料の引張試験方法の検討	共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学	堀内 貢 内海雅史 畑中 淑 金原瑞男 飛田善雄 山口 晶	390~391 頁
地盤材料の脆性挙動に関する実験的研 究	共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学	金原瑞男 飛田善雄 山口 晶	392~393 頁
水加圧注入ポンプによるセメント溶液 を用いた注入形態の研究	共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学	菅原勇人 竹内陽輔 田中 佑 飛田善雄 山口 晶	408~409 頁
振動台を用いた液化化による噴砂の再 現実験	共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学	大沼浅末 日野友則 庄司大貴 斎藤孝一 山口 晶 飛田善雄	434~435 頁
液化化後の体積ひずみと低濃度薬液改 良砂の液化化抵抗メカニズム	共著	2005年	平成16年度土木学会 東北支部技術研究発 表会東北大学	星 哲也 小野寺紘子 菊池睦月 飛田善雄 山口 晶	436~437 頁

繰返して地震動を受ける地盤の地震時・地震後の変形挙動	共著	2005年	平成16年度土木学会東北支部技術研究発表会東北大学	菊地聖和 成田 彩 山口 晶	438～439頁
ハイブリッドオンライン実験による地震動履歴を受けた地盤の圧密沈下挙動	共著	2005年	平成16年度土木学会東北支部技術研究発表会東北大学	菊地聖和 成田 彩 田口 真 飛田善雄 山口 晶	440～441頁
地震により破損した橋脚基礎の補修におけるレジン注入工法の基礎的考察	共著	2005年	平成16年度土木学会東北支部技術研究発表会東北大学	川村大士 飛田善雄 山口 晶	442～443頁
土の脆性挙動のモデル化に関する研究	共著	2005年	第40回地盤工学研究発表会, 函館	山根久和 飛田善雄 山口 晶 菅原光哉	379～380頁
構造変化と初期異方性を考慮した砂の構成モデル	共著	2005年	第40回地盤工学研究発表会, 函館	西村 修 日下初博 藤井伸晃 山口 晶 飛田善雄	491～492頁
オンライン試験による地震動を繰返し受けた粘性土地盤の地震時及び地震動後の挙動	共著	2005年	第40回地盤工学研究発表会, 函館	山口 晶 飛田善雄 田口 真	2207～2208頁
電動振動台を用いた液状化による噴砂の再現実験	共著	2005年	第40回地盤工学研究発表会, 函館	菊地睦月 日野友則 大沼浅未 山口 晶 飛田善雄	2221～2222頁
ハイブリッドオンライン実験の実用化にむけて	共著	2006年	平成17年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学	菊地睦月 阿部友洋 高橋啓太 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	400～401頁
注入固結体と練り混ぜ締め固め固結体の強度比較実験	共著	2006年	平成17年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学	川村慎也 大坪孝昭 山屋宜之 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	406～407頁
レストム工法で改良した土の力学特性	共著	2006年	平成17年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学	先崎裕訓 大友俊樹 飛田善雄 山口 晶 斎藤孝一	408～409頁
振動台実験から求めた地盤状態と噴砂の関係	共著	2006年	平成17年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸工業大学	菊地耕平 高橋文吾 寺島 愛 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	522～523頁

地盤材料の脆性挙動を対象とした土の構成モデル	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島	菅原光哉 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	311~312 頁
構造変化を考慮した砂の繰り返し構成モデル	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島	飛田善雄 吉田 望 山口 晶 日下初博 菅原光哉 西村 修	399~400 頁
信濃川河川敷の地層抜き取り調査と1964年新潟地震の液状化痕跡	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島	清水友子 風間基樹 渦岡良介 仙頭紀明 山口 晶 清原雄康	2011~2012 頁
2005年8月16日宮城県沖の地震による液状化	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島	山口 晶 日野友則 吉田 望	2015~2016 頁
振動台実験から求めた噴砂現象と液状化層厚の関係	共著	2006 年	第 41 回地盤工学研究発表会, 鹿児島	山口 晶 飛田善雄 吉田 望 菊地耕平 寺島 愛 高橋文吾	2039~2040 頁
再液状化時の噴砂分布に関する振動実験	共著	2007 年 1 月	日本地震工学会大会・2007 梗概集	山口 晶 飛田善雄 吉田 望	30~31 頁
密度変化を考慮した繰り返し載荷時の弾塑性構成モデルに関する研究	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-2	日下初博 三塚保法 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	2 頁 (CD-ROM)
レストム工法の重金属汚染に対する有効性	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-17	芦萱浩二 中目達也 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	2 頁 (CD-ROM)
液状化時及び再液状化時の構造物被害と噴砂状況の関係	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-39	松浦杏理 金戸友太 黒田直樹 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	2 頁 (CD-ROM)
液状化時に発生する流動量の定量的評価に関する実験的研究	共著	2007 年 3 月	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-40	佐藤由惟 奥平喜広 山口 晶 飛田善雄 吉田 望 斎藤孝一	2 頁 (CD-ROM)

一軸割裂圧縮試験機を用いた土の引張り強度の載荷速度依存性に関する研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-45	吉田俊平 村上 亨 山田慎也 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	2頁 (CD-ROM)
地盤材料の脆性挙動に関する実験的研究	共著	2007年3月	平成18年度土木学会東北支部技術研究発表会, 山形大学, III-49	辻田竜一 秋保枝里 丹野陽介 山口 晶 飛田善雄 吉田 望	2頁 (CD-ROM)
非排水繰返し応力載荷実験から推定した地盤の流動量	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会, 名古屋	山口 晶 飛田善雄 吉田 望 佐藤由惟 奥平喜広	1855~1856 頁
密度依存性を考慮した構成モデルによる砂の安定・不安定挙動に関する研究	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会, 名古屋	飛田善雄 吉田 望 山口 晶 三塚保法	327~328頁
引張りせん断時の脆性挙動を対象とした土の構成モデル	共著	2007年7月	第42回地盤工学研究発表会, 名古屋	菅原光哉 飛田善雄 吉田 望 山口 晶	257~258頁
2008年岩手・宮城内陸地震で発生した液状化地点	共著	2008年1月	日本地震工学会大会-2008梗概集, pp342-353, 2008, 1	山口 晶 吉田 望 飛田善雄	342~353頁
水平二次元せん断が液状化地盤の体積ひずみに与える影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-15	伊東久雄 飯川聡美 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
せん断応力履歴がせん断ひずみ発生量に与える影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-16	阿部有佳理 神名川雅俊 山口 晶 飛田善雄	2頁 (CD-ROM)
引張り応力履歴が繰返しせん断剛性に与える影響	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-17	佐藤 周 千田亜斗里 飛田善雄 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
密度・拘束圧依存性と初期異方性を考慮した砂の変形挙動	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-18	久住雅敏 千葉智徳 三塚保法 飛田善雄 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
振動台実験とクイックサンド実験による再液状化メカニズムの検討	共著	2008年3月	平成19年度土木学会東北支部技術研究発表会, 岩手大学, III-41	大熊浩輝 加藤慎一 菅 智子 山口 晶 飛田善雄	2頁 (CD-ROM)

密度依存性・初期異方性を考慮した砂の弾塑性モデルの検証	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会, 広島.	三塚保法 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	387~388頁
不飽和土の弾塑性モデルの数学的枠組みに関する一考察, 平成20年度地盤工学研究発表会	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会, 広島	飛田善雄 山口 晶	713~714頁
二次元繰返しせん断が液状化の残留ひずみに与える影響	共著	2008年7月	第43回地盤工学研究発表会	山口 晶 飛田善雄 吉田 望 伊東久雄 飯川聡美	1785~1786頁
粒状体の安息角と流動に関する基礎的実験	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	蜂谷菜穂子 菊池剛志 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	2頁 (CD-ROM)
土粒子の沈降と上向き浸透流が再液状化に与える影響	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	岩渕雄也 二上恭平 只野悠紀恵 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
低密度供試体の作製方法とその力学的挙動	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	小山内雅人 須藤恵利子 飛田善雄 山口 晶 吉田 望	2頁 (CD-ROM)
密度・拘束圧依存性を考慮した二重硬化モデルの適用性	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	薄井良平 三塚保法 永野友基 飛田善雄 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
状態変数を考慮した不飽和土の弾塑性モデル	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	田中秀樹 平 幸泰 飛田善雄 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
単純せん断時の側方応力	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	追木知哉 我妻大輔 山口 晶 飛田善雄	2頁 (CD-ROM)
せん断履歴が過剰間隙水圧比と体積ひずみに与える影響	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	馬場克洋 佐藤勇太 山口 晶	2頁 (CD-ROM)
繰返しせん断履歴を受ける土の流動性評価	共著	2009年3月	平成20年度土木学会東北支部技術研究発表会, 東北学院大学, III-3	日野友則 佐藤亜友美 高嶋 惇 山口 晶	2頁 (CD-ROM)

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金 2006	2006 年	共同 全体まとめ	液状化による流動の際の表層非液状化層の影響を求める
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1997 年～		地盤工学会会員	
2000 年～		土木学会会員	
2001 年～		地震工学会会員	
2002 年～		地盤工学会東北支部広報委員	
2002 年～2008 年		東北大学学友会柔道部監督	
2007 年～		土木学会東北支部 幹事	
2007 年～		地盤工学会東北支部 X 年宮城県沖地震委員	
2008 年～2009 年		地盤工学会会誌編集委員	
Ⅴ 芸術分野や体育実技等における主な活動			
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
2003 国立七大学柔道優勝大会	愛知県立武道館	6 月 14 日～15 日	優勝（監督）
2004 国立七大学柔道優勝大会	道立総合体育センター	6 月 19 日～20 日	準優勝（監督）
2005 国立七大学柔道優勝大会	福岡県武道館	6 月 18 日～19 日	優勝（監督）
2006 国立七大学柔道優勝大会	大阪大学体育館	6 月 17 日～18 日	優勝（監督）
2007 国立七大学柔道優勝大会	京都 武徳殿	6 月 16 日～17 日	準優勝（監督）
2008 国立七大学柔道優勝大会	東北大学 体育館	6 月 14 日～15 日	優勝（監督）

教養学部

人間科学科
言語文化学科
情報科学科
地域構想学科

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	氏家 重信	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	毎回の授業での配慮	1990年4月～2006年12月	授業を前半と後半にわけて、あいだに五分間の休憩時間をはさむ。また毎回の授業で必ず複数の受講者を任意に指名し、授業の内容についての感想、意見、疑問点などを皆の前で発言させ、その内容を教師が授業にフィードバックさせている。				
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年4月～2008年1月	毎回、講義の冒頭で前回の講義内容の概略を説明し、また講義終了時にはその時間の内容について要約を作成、提出させ、まとめを受講者に行なわせている。				
	要覧記載のシラバスのほかに講義にかんする詳細なシラバスを作成、配布	2005年4月～2008年1月	すべての講義について第一回目に講義の目標、内容、進め方、評価、その他について詳細に記したプリント資料を配布したうえで講義についての詳しいオリエンテーションを実施している。				
	講義内容をウェブ上で公開し、講義の補足と受講者の自発的な学習をはかる	2007年4月～2008年1月	毎回講義で配布するプリント資料の原稿その他をホームページで公開し、あわせて関連する内容の資料についても掲載することで、講義内容の充実と補足をおこない、さらに各テーマに関心をもった受講者が自発的に学習をすすめることができるよう配慮している。				
2	自作の教材の使用	1990年4月～2006年12月	授業では市販のテキストは使用せず、自分で作成したプリント資料を毎回配布し、それを使用して授業をすすめている。また同じプリント資料についてはホームページをつくり、ウェブ上で公開しており、学生が配布資料と同一のものを自由に活用できるようにしている。				
	『教育学事始め』（北大路書房）	2007年3月1日	本学で講義を担当する「教育原理」のために書き下ろしたテキストで、教育学の初学者にも理解が容易なよう、具体的な例を用いて平易に教育の基本的な事象について多面的に論じている。				
	プリント資料の作成	2007年4月～2008年1月	基本的に担当するすべての講義において毎回自分で作成したプリント資料を配布し、使用している。テキストを使用する場合でも補助教材として時折資料を配布し、講義時間内に受講者に精読させ、講義内容の理解の促進をはかっている。				
3	高校への出張講義の講師を務めた	2007年11月1日	宮城県富谷高等学校の2年生に対して「教育学の基本を学ぶ」と題してミニ講義をおこなった。				
4	教員採用試験対策講座の講師	2004年6月～2006年6月	教職課程センター主催の学内講座「教員採用試験対策講座」の「教育法規」および「面接試験」のための講座講師（あわせて年に4回ほど）を務めた。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 技術知としての教育学 W. ブレツィンカによる「教育の経験 科学」の提唱	単著	2009年12月	東北学院大学教養学 部論集		13～26頁
D 教育学事始め	単著	2007年3月	北大路書房		232頁
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1976年～	東北教育哲学教育史会会員				
1978年～	教育哲学会会員				

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	大江 篤志	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 心理学の研究技法を効果的に習得させるために、自作マニュアルを用いた実習授業を複数教員により体系的に運営している。			2006年4月～12月	2年生向けの心理学に関する実験実習授業において、担当教員の綿密な打ち合わせの上で作成されたマニュアルを用い、心理学各領域の代表的・基本的なデータ収集・分析技法を体験的に学習させている。授業後、学生が提出したレポートについて、予め公開してある基準に従って丁寧に添削し、コメントをつけて返却する。学生には、修正したレポートの提出を義務付けている。全体をシステム化して運営しているのが特徴である。			
心理実験実習の教授法の改善			2008年4月	印字形成実験のすすめ方の工夫			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 新訂 社会心理学特論		共著	2009年3月	放送大学教育振興会	細江達郎 菊池武尅	75～87頁, 143～161頁	
Ba 水域から見た離島漁村の変容過程—南三陸江島地域のフィールドワーク—		単著	2005年7月	社会学年報, No. 34		57～76頁	
Bb 成績分析からみた大学教育の研究(4) アドミッションズ・オフィス方式による入学生の学業成績を中心にして		単著	2005年3月	東北学院大学教育研究所報告集 第5集		5～33頁	
伝統漁撈をめぐる社会化—アワビ鉤漁開口における漁業者の波浪認知—		単著	2005年11月	東北学院大学東北文化研究所紀要第37号		13～72頁	
伝統漁撈をめぐる社会化(下の7)		単著	2007年12月	東北学院大学東北文化研究所紀要第39号	小川俊樹 (編)	1～30頁	
C 社会心理学からみた投影法		単著	2008年10月	『投影法の現在』(宝文堂)		57～67頁	
G 動作遂行における人—環境条件相互関係の分析—社会化理論再考(2)		単著	2005年8月	東北心理学研究, 54号		28頁	
社会化研究の源流と展開:1—学史の射程をめぐる問題—		単著	2005年8月	日本社会心理学会第46回大会発表論文集		712～713頁	
社会化研究の源流と展開:2		単著	2007年8月	日本社会心理学会第48回大会発表論文集		622～623頁	
社会化研究の源流と展開:3		単著	2008年10月	日本社会心理学会第49回大会発表論文集		254～255頁	
社会化研究の源流と展開:4		単著	2009年8月	日本心理学会第73回大会発表論文集		10頁	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2008年4月1日～2009年3月31日		(財)大学基準協会大学評価委員会専門評価分科会主査	
2008年9月1日～2009年8月31日		(株)東日本放送 放送番組審議会委員	

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	片瀬 一男	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	社会調査教育で実習を行い,成果を報告書として公表した。	2005年4月～2006年3月		東北学院大学と岩手県立大学を対象に「大学生のキャリア形成意識に関する意識調査」を実施し,その成果を『大学生のキャリア形成意識に関する意識』(片瀬一男・神林博史編)として刊行した。			
	日本社会調査士認定機構による社会調査士の認定を可能にした。	2005年4月～2006年12月		日本社会調査士認定機構の連絡責任者として,本学の社会学・統計学・社会調査法等の科目の認定を受け,2005年度入学の人間科学科学生から社会調査士資格を取得できるようにした。			
	社会調査実習において調査報告書を作成した。	2008年3月		『大学生の友人関係に関する意識:2007年度「社会調査実習」調査報告書』を作成した。			
	『夢の行方:高校生の教育・職業アスピレーションの変容』 東北大学出版会	2005年10月		1986年から99年にかけて行われた「教育と社会に対する高校生の意識調査」をもとに,この間に高校生の教育・職業アスピレーションがどのように変容したか跡づけた。			
『社会統計学』(放送大学教育振興会)	2007年4月		放送大学および本学3年生向けの「社会統計学」のテキストとして執筆・出版した。実際の社会調査データの分析を通じて統計的手法の修得を容易にすることを目指した。				
4	社会調査士認定機構の連絡責任者を務め,2008年度には12名の資格認定見込み者を出した。	2008年9月					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所,発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	『夢の行方:高校生の教育・職業アスピレーションの変容』	単著	2005年10月	東北大学出版会		324頁	
	『社会統計学』	単著	2007年4月	放送大学教育振興会		323頁	
	『<失われた時代>の高校生の意識』	共著	2008年5月	有斐閣	海野道郎 片瀬一男	1～32頁, 93～166頁	
Ba	進路多様校の成立過程:仙台の公立高校の変容	単著	2005年3月	人間情報学研究 第10巻		17～28頁	
	関連係数・オッズ・非類似度係数	単著	2005年3月	人間情報学研究 第10巻		97～106頁	
	少子化と教育投資・教育達成	共著	2005年12月	教育社会学研究 第82集	片瀬一男 平沢和司	43～59頁	
	若年労働市場の構造変動と若年労働市場の二極化	共著	2006年7月	社会学年報 第35号	佐藤嘉倫 片瀬一男	1～18頁	

情報化社会における市民的教養教育としての社会調査教育：統計的リサーチ・リテラシーの育成を中心に	単著	2008年7月	社会学評論 58(4)		476～491頁
親子調査における親欠票の原因	共著	2009年3月	社会と調査2号	神林博史 片瀬一男	20～27頁
教育アスピレーションの規定因における地域差：岩手県4地域の比較から	単著	2009年3月	人間情報学研究 第14巻		59～86頁
Bb 現代青少年の性愛文化	単著	2005年12月	東北学院大学教養学部論集 第148号		33～65頁
社会階層と健康	単著	2007年12月	東北学院大学論集(人間・情報・言語) 第140号		1～42頁
情報制約下での情報サポートの有効性	単著	2007年3月	東北学院大学論集(人間・情報・言語) 第142号		1～18頁
教育アスピレーションと教育達成の変容：1975年～2005年の若年男性	単著	2009年7月	東北学院大学論集(人間・情報・言語) 第153号		1～20頁
C ユニバーサル化した大学における教員の苦悩：東北学院大学教員意識調査から	単著	2008年3月	東北学院大学教育研究所報告集 第7集		5～40頁
学歴階層と健康リスク関連行動	単著	2008年3月	菅野剛編 2005年SSM調査シリーズ10 階層と生活格差		29～42頁
若年労働者のディストレス：労働時間・密度・努力／報酬不均衡	単著	2008年3月	菅野剛編 2005年SSMと調査シリーズ10 階層と生活格差		43～58頁
仕事の条件と職業性ストレス	単著	2008年3月	菅野剛編 2005年SSM調査シリーズ10 階層と生活格差		79～92頁
若年層におけるソーシャル・サポートとディストレス	単著	2008年3月	太郎丸博編 2005年SSM調査シリーズ11 若年層の社会移動と階層化		149～164頁
きょうだい構成と教育達成	共著	2008年3月	米澤彰純編 2005年SSM調査シリーズ11 教育達成の構造	平沢和司 片瀬一男	1～18頁
A0試に関する試論(1)：教養学部におけるA0入試入学者の成績の推移を事例に	単著	2008年4月	東北学院大学教育研究所報告集 第8集		31～45頁
A0入試に関する試論(2)：A0入試はA型学生を選抜したか、それともB型学生に選好されたか	単著	2009年4月	東北学院大学教育研究所報告集 第9集		5～35頁

D 情報化社会のなかの青少年の性行動	単著	2007年6月	青少年問題 第626号	14～19頁
青少年の生活環境と性行動の変容：生活構造の多チャンネル化のなかで	単著	2007年6月	「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告書（小学館）	23～48頁
思春期における性行動の変容：情報化社会の中で	単著	2007年8月	周産期医学 Vol.37 No.8	969～972頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
東北学院共同研究助成金	2006年度	共同・代表者	学生の大学選択及び入学後の定着，学業遂行に関わる心理的，社会的要因の解明
科学研究費基盤研究(C)(1)	2006～2008年度	共同・代表者	明治期の東北地方における女子ミッション教育の社会史の研究
科学研究費基盤研究(B)	2006～2008年度	共同・分担者	変動期における高校生の社会意識とアスピレーションの形成過程の解明
萌芽研究	2006～2008年度	共同・分担者	学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承
科研費新学術領域	2009～2014年度	領域代表者	社会科学と健康科学の融合により現代社会の階層化の機構理解と格差の制御を検討

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年8月～2007年8月	東北社会学会理事（『社会学年報』編集委員長）
2006年11月～現在	日本社会学会理事（データベース委員会委員長）
2008年4月～現在	仙台市明るい選挙推進協議会委員
2008年10月～現在	東北社会学研究会編集委員
2009年9月～現在	日本教育社会学会理事（会計部長）

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	加藤 健二	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業用ウェブページを立ち上げ、用いた資料を公開し、学生の予習・復習に活用させている。	毎年	担当している全ての講義授業について、個別にウェブページを立ち上げ、授業で用いた資料を公開し、また提出課題の確認ができるようにしている。				
	毎時間の授業時に、「振り返りシート」を活用	毎年	担当している専門科目・教職科目の講義にて、毎回「振り返りシート」を活用し、学習の定着と学生とのコミュニケーションを図っている。				
	心理学の研究技法を効果的に習得させるために、自作マニュアルを用いた実習授業を複数教員により体系的に運営している。	毎年	2年生向けの心理学に関する実験実習授業において、担当教員の綿密な打ち合わせの上で作成されたマニュアルを用い、心理学各領域の代表的・基本的なデータ収集・分析技法を体験的に学習させている。授業後、学生が提出したレポートについて、予め公開してある基準に従って丁寧に添削し、コメントをつけて返却する。学生には、修正したレポートの提出を義務付けている。全体をシステム化して運営しているのが特徴である。				
2	「メンタル・ローテーション実験」用刺激図形及びプログラム作成	2007年4月	実験実習用のプログラム及び刺激図形を自作し、授業で活用している。実験制御ソフトSuperlab4.0用である。				
3	ゼミナールの内容、活動を紹介するウェブサイト運営・公開している。	毎年	ゼミナールの担当者、活動内容、ゼミ生による総合研究（卒論）などについて紹介するウェブサイトを運営している。主としてゼミ選択などの際に利用されている。				
	授業評価の実施準備と報告書執筆、編集	2005年1月～2009年12月	教養学部授業評価委員会の委員として、評価の実施準備、評価結果の分析、報告書の編集・執筆に携わった。公表された報告書は以下の通りである。2008年12月31日発行「教養学部『学生による授業評価』報告書（2006～2007年度）」。				
	学内のFD研修会で発表し、学内情報誌に執筆した。	2006年6月22日	第2回FD研修会にて、「大学教育フォーラム参加報告」と題する報告を行った。その内容は、『FDニュース』Vol.5, 5～7頁に掲載されている。				
	授業評価とFD活動に関する教員アンケートの実施と結果分析、公表	2006年10月～2007年3月	2006年11月に行った教員向けのアンケートの準備、実施、データ分析、報告書執筆に中心的に携わった。その結果は報告書『教養学部授業評価及びFD活動に関する教員アンケート報告』（2007年3月；1～21頁）にまとめられ、公表された。				
	公開授業の準備、実施、事後検討会への参加	2007年11月24日及び2008年12月6日	授業評価委員会FD部会の委員として教養学部初の公開授業の準備、実施を行い、事後検討会へ参加した。第1回の報告は、「教養学部授業評価委員会ニュース」第3号、11頁に記載されている。				

学内のFD研修会で発表し、学内情報誌に執筆した	2008年7月～2008年11月	第5回FD研修会にて、「成績評価の厳格化と大学の教育力」と題する報告を行った。その内容は、『FD ニュース』Vol.9, 3頁～5頁に掲載されている。
授業評価の実施準備と結果報告	2009年2月～7月	教養学部授業評価委員会の委員として、2008年度評価の実施準備に携わったほか、2009年3月実施の卒業時アンケートについて、その分析結果を学部長・各学科長に速報として公表した。
4 教養学部新入生を対象としたアンケートの作成、実施、分析、公表	2005年4月～2007年6月	教養学部広報委員会「データ分析室」の室長として、教養学部4学科全員を対象に、志願動機、入学時点での期待や不安、将来に対する希望などについてアンケートを実施し、その結果について分析した。分析結果(速報)は教養学部教授会にて報告し、また報告書『教養学部新入生アンケート結果(2005年～2007年)及び入試(出身高校)データ(2003年～2007年)』に掲載した(該当部分1～48頁及び173～186頁)。
教養学部の入試関連データの分析と公表	2007年4月～2009年6月	教養学部広報委員会「データ分析室」の室長として、教養学部の入試関連データ(志願者、合格者、入学者)を分析している。その速報を教授会に報告するとともに、その一部は報告書『教養学部新入生アンケート結果(2005年～2007年)及び入試(出身高校)データ(2003年～2007年)』にまとめ公表した(該当部分49～172頁)。2008年～2009年は速報の教授会報告のみ。
資格試験合格対策講座の講師	2007年6月～2009年6月	東北学院大学教職課程センター主催『教員採用試験対策講座』の講師(教育心理学)を各年2回ずつ務めた。
『変わっているとみられやすい学生』にどう接するか Q&A 集	2008年3月31日	カウンセリング・センター主催講演会にて出された聴講者からの質問につき、講演者とともに回答し、それらをプリントにまとめ教職員全員に配布した。(1～4頁)
「メンタルな問題を抱えながら頑張っている学生への支援」	2009年4月15日	カウンセリング・センター主催講演会にて出された聴講者からの質問につき、講演者及び専任カウンセラーとともに回答し、それらをプリントにまとめ教職員全員に配布した。(1～4頁)
オープン・キャンパスでの研究室公開	2009年7月4日	学部オープン・キャンパスにて、バーチャル・リアリティ装置等、実験施設の一部を公開した。
教員免許更新講習の講師	2009年8月17日	平成21年度教員免許状更新講習の必須領域の講習として、「心の発達の脳科学的、認知心理学的理解を真の効果的支援へとつなぐ」と題した講演を行った(60分)。
出張講義の講師	2009年10月15日	角田高校の1,2年生24名に対し、「こころを科学する ―認知心理学入門―」と題して授業を行った(90分)。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba MMN 反応に反映された聴覚の逸脱検出過程の柔軟性	共著	2007 年 12 月	生理心理学と精神生理学, 25 巻	江崎浩明 加藤健二 櫻井研三	227~235 頁
E “頑張る”ことは格好悪いことじゃない!	単著	2007 年 10 月	カウンセリングセンター便り, Vol. 71		1 頁
春, この始まりの時に	単著	2008 年 4 月	カウンセリングセンター便り, Vol. 72		1 頁
さまざまな仲間, さまざまな秋	単著	2008 年 11 月	カウンセリングセンター便り, Vol. 73		1 頁
つまずくことを恐れなくて!	単著	2009 年 4 月	カウンセリングセンター便り, Vol. 74		1 頁
今, 人生の先頭を歩くあなたへ	単著	2009 年 11 月	カウンセリングセンター便り, Vol. 75		1 頁
G 解説: Werner 他著「身体外空間の心的表象と空間行動との関係」	単著	2005 年 2 月	空間認知研究会 (札幌)		
Asymmetry of MMN responses in auditory deviant detection—Evidences of different strategy and different duration of TWI—	共著	2006 年 3 月	Fourth Conference on Mismatch Negativity (MNN) and its Clinical and Scientific Applications. (London, UK)	H. Esaki K. Kato K. Sakurai	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
東北学院共同研究助成金	2006 年度		共同・共同研究者	学生の大学選択及び入学後の定着, 学業遂行に関わる心理的, 社会的要因の解明	
IV 学会等及び社会における主な活動					
2006 年 4 月~2008 年 3 月		日本イメージ心理学会運営委員 日本心理学会会員 日本認知心理学会会員 日本認知科学学会会員 日本教育心理学会会員			

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	久慈 利武	大学院の授業 担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要			
1	『農村地域における高齢者の生活と意識』			2007年3月	2006年度「社会調査実習」調査報告書 神林博史, 谷田部武男氏と共編			
	『大学生の友人関係に関する意識』			2008年3月	2007年度「社会調査実習」調査報告書 片瀬一男, 竹内彰啓氏と共編			
2	『日本文化の社会学的分析』			2008年8月	受講生の多い1年生向け講義『社会学』の講義資料集を作成。			
4	高校への出前講義の講師を務めた。			2006年11月8日	県立富谷高校2年生に対して, 「若者の羞恥心はなくなったか」と題する講義を行った。			
	高校への出前講義の講師を務めた。			2009年10月28日	県立富谷高校2年生に対して, 「ベネディクト『菊と刀』がたびたび論壇に上るわけ」と題する講義を行った。			
II 研究活動								
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	社会学における合理的選択研究のサーベイ論文をサーベイする			単著	2008年3月	東北学院大学教養学部論集 第143号	171~178頁	
C	日本社会秩序の高さの説明と秩序の維持のための提言			単著	2007年2月	フォーマライゼーションによる社会的伝統の展開と現代社会の解明	三隅一人編 科研報告書	81~88頁
G	Rational Choice Theory in Japan.				2005年3月	International Conference on Rational Choice and Social Institutions.	the Netherlands (Groningen)	
	ジェームズ・コールマン「社会理論の基礎」をめぐって シンポジウム コメンテーター				2007年7月	第45回数理社会学大会シンポジウム		
H	ヴィクター・ファンベルク「立憲システムとしての組織」			単著	2005年3月	東北学院大学論集(人間・言語・情報) 第140号	159~199頁	
	アンドレア・マウラー「支配と社会秩序—個人主義理論の系譜」			単著	2005年3月	人間情報学研究 第10巻	107~126頁	
	ジェームズ・コールマン「構築された組織: 第一の諸原理」			単著	2005年7月	東北学院大学教養学部論集 第141号	229~258頁	

ジェームズ・コールマン「権利の諸形態と権力の諸形態」	単著	2005年11月	東北学院大学教養学部論集 第142号	251～287頁
マーチン・ブルマー「社会政策調査への社会学の貢献」	単著	2006年3月	東北学院大学教養学部論集 第143号	179～199頁
ジェームズ・コールマン『社会理論の基礎』下巻	監訳	2006年4月	青木書店	545頁+32頁
ダイアン・ラヴィッチ「コールマン・レポートとアメリカの教育」	単著	2006年7月	東北学院大学教養学部論集 第144号	123～145頁
ウィリアム・シャディッシュ, トマス・クック&ローラ・レヴィン「キャロル・ワイスによる評価と政策リサーチの結びつけ」	単著	2006年11月	東北学院大学教養学部論集 第145号	67～95頁
ヘンリック・クロイツ著「社会一般を初めて可能にする相互信頼を利己心は基礎づけるのかそれとも崩壊させるのか」	単著	2007年2月	東北学院大学教養学部論集 第146号	181～193頁
キャロル・ワイス著「政治的コンテキストのなかの評価調査 16年と4政権ののちに」	単著	2007年7月	東北学院大学教養学部論集 第147号	95～115頁
ジェラルド・グラント著「コールマン・レポートのポリテックス」	単著	2007年12月	東北学院大学教養学部論集 第148号	89～121頁
キャロル・ワイス著「社会調査と公共政策の関係を向上させる提案」	単著	2008年3月	東北学院大学教養学部論集 第149号	59～95頁
ウタ・ゲルハルト著「功利主義の亡霊の復活 1960年代のタルコット・パーソンズとジョージ・ホームズンの理論」	単著	2008年3月	人間情報学研究 第13巻	175～197頁
ハリー・ペールシュタット著「アメリカ合衆国における応用社会学の展開」	単著	2008年12月	東北学院大学教養学部論集 第151号	147～169頁
イェンス・グレーブ著「社会的行為の説明と二つのタイプの合理性 価値合理性と用具的合理性を行為の一般理論に統合することを目指す新しいアプローチ」	単著	2009年3月	人間情報学研究 第14巻	95～121頁
ミヒャエル・シュミット著「ジェームズ・コールマンの行為理論と社会理論」	単著	2009年7月	東北学院大学教養学部論集 第153号	85～115頁
ジョナサン・ターナーによる社会学理論の社会学の実践における利用(個人編集)	単著	2009年11月	東北学院大学教養学部論集 第154号	157～198頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1970年9月～	日本社会学会会員
1988年9月～	数理社会学会会員

1989年6月～	国際社会学会会員
2001年7月～	東北社会学会会員
2007年11月	日本社会学会第80回大会 テーマセッション司会
2008年3月	数理社会学会第45回大会 シンポジウム コーディネーターおよびコメンテーター
2009年7月～	東北社会学会会長

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	小林 裕	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2005年4月～2009年12月		毎回の授業の冒頭で、その回の概略を必ず説明し、授業終了後にはその回のまとめを行っている。また、毎回プリントの配布、パワーポイントやビデオなどを使って視覚的に教材を提示している。			
2	潮村公弘・福島治（編著）2007 社会心理学概説 北大路書房	2007年2月		分担執筆。「第18章：組織」の一部を担当し、組織と個人、仕事への動機づけ、組織コミットメントについて論じた。			
3	東北学院大学オープンキャンパス教養学部人間科学科模擬授業の講師	2008年8月		『みんな』の力を科学する－集団心理学入門－というタイトルで講義を行なった。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 新・心理学の基礎知識		共著	2005年1月	有斐閣	◎中島善明 ◎繁樹算男 ◎箱田裕司 小林 裕 (編)	395 頁	
改訂版 社会心理学特論		共著	2005年3月	放送大学教育振興会	◎大橋英寿 ◎細江達郎 堀毛一也 箕浦康子 石井宏典 佐藤郁哉 福島明子 小林 裕	149～164 頁	
社会心理学概説		共著	2007年2月	北大路書房	潮村公弘 福島 治 堀毛一也 小林 裕 他 29 名	166 ～ 167 頁, 170 ～ 175 頁	
社会心理学事典		共著	2009年6月	丸善	日本社会心理学会 (編)	354～355 頁	
産業・組織心理学ハンドブック		共著	2009年7月	丸善	産業・組織心理学会 (編)	48～51 頁	
G 人的資源管理システムが企業業績に及ぼす影響(2)－プロセスとレベルについての理論的検討－		単著	2005年9月	産業・組織心理学会第21回大会発表論文集		15～18 頁	
人的資源管理システムが企業業績に及ぼす影響(3)－「企業業績」概念の検討－		単著	2006年9月	産業・組織心理学会第22回大会発表論文集		24～27 頁	

人的資源管理システムが企業業績に及ぼす影響(4)－サイバネティックモデルの理論的検討－	単著	2007年9月	産業・組織心理学会第23回大会発表論文集	123～126頁
人的資源管理システムが企業業績に及ぼす影響(5)－初期ルーマンのシステム理論に基づく検討－	単著	2008年11月	経営行動科学学会第11回年次大会発表論文集	291～296頁
日本企業における逆説的業績モデルの実証的検討(1)－既存のデータベースに基づく探索的分析－	単著	2009年11月	経営行動科学学会第12回年次大会発表論文集	298～301頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)	2008年度	個別	日本企業における逆説的業績モデルの実証的研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年11月, 2007年1月	国土交通省航空管制官訓練教官養成特別研修の講師
2007年4月～	産業・組織心理学会「産業・組織心理学研究」編集委員
2008年4月～	経営行動科学学会監事
2008年5月	国土交通省航空管制官訓練教官養成特別研修の講師

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	櫻井 研三	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教員独自の「学生による授業評価」を実施している。	1989年9月～2009年12月		授業運営が適正かどうかを毎年度学生に評価してもらい、翌年度の運営方針を修正している。			
	心理学の研究技法を効果的に習得させるために、自作マニュアルを用いた実習授業を複数教員により体系的に運営している。	1990年4月～2009年12月		2年生向けの心理学に関する実験実習授業において、担当教員の綿密な打ち合わせの上で作成されたマニュアルを用い、心理学各領域の代表的・基本的なデータ収集・分析技法を体験的に学習させている。授業後、学生が提出したレポートについて、予め公開してある基準に従って丁寧に添削し、コメントをつけて返却する。学生には、修正したレポートの提出を義務付けている。全体をシステム化して運営しているのが特徴である。			
	プレゼンテーションソフトの利用とプリント配布による授業理解の促進	1998年4月～2008年12月		授業での資料提示をマルチメディア化し、画面を縮小印刷したプリントを配布している。			
2	Precision and Accuracy with Three Psychophysical Methods (http://www.yorku.ca/psycho/index.html)	2008年2月一部修正 2009年3月一部修正		複数言語対応の心理物理学的測定法学習サイトのインタフェースを更新し、より使いやすくした。			
4	教育研究所所員として活動している。	1986年4月～2009年12月		学生の入学後の成績の追跡調査を行なっている。			
	外国人国費留学生の大学院生を指導している。	2002年10月～		ベネズエラからの文部科学省国費留学生を大学院人間情報学研究科で受け入れ、博士号取得のための支援と指導を行なっている。			
	高校への出前授業の講師を務めた。	2007年7月5日		山形県鶴岡中央高校で「心の入口としての視知覚のはたらき」と題する授業を行なった。			
	オープンキャンパス模擬授業の講師を務めた。	2008年8月2日		人間科学科の模擬授業で「心の窓のはたらき～知覚心理学入門～」と題する授業を行った。			
	放送大学面接授業の講師を務めた。	2008年10月25～26日		放送大学宮城学習センターで「知覚心理学」と題し、面接授業を5コマ(135分/コマ)行なった。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba							
A new variant of the Ouchi illusion reveals Fourier-component-based processing.		共著	2005年4月	Perception, Vol. 34	H. Ashida A. Kitaoka K. Sakurai	381～390頁	
The visual phantom illusion: a perceptual product of surface completion depending on brightness and contrast.		共著	2006年6月	Progress in Brain Research, Vol. 154 (Visual Perception Part 1), Chapter 13	A. Kitaoka J. Gyoba K. Sakurai	247～262頁	

MMN 反応に反映された聴覚の逸脱検出過程の柔軟性	共著	2007 年	生理心理学と精神生理学 Vol. 25 (3)	江崎浩明 加藤健二 櫻井研三	227~235 頁
Whither Wundt?	共著	2007 年	Perception, Vol. 36	N. J. Wade K. Sakurai J. Gyoba	163~166 頁
Auditory induced bounce perception persists as the probability of a motion reversal is reduced.	共著	2009 年	Perception, Vol. 38	P. M. Grove K. Sakurai	951~965 頁
Multisensory integration of a sound with stereo 3-D visual events.	共著	2009 年	3DTV-Conference 2009: The True Vision Capture, Transmission and Display of 3D Video.	K. Sakurai P. M. Grove	
Bb 視覚と前庭覚のクロスモーダルな自己運動知覚	単著	2006 年 12 月	電子情報通信学会技術研究報告 (第 106 巻 410 号)		161~164 頁
自己運動の加速度変化に対応した周波数変化音提示が自己運動感におよぼす影響	共著	2007 年	電子情報通信学会技術研究報告, vol. 107, no. 369, HIP-2007-156.	瀬戸幹生 坂本修一 小林まおり 櫻井研三 行場次朗 鈴木陽一	153~158 頁
身体の運動方向が変化した場合の前庭覚と視覚のクロスモーダルな自己運動知覚	共著	2008 年	電子情報通信学会技術研究報告, vol. 108, no. 182, HIP-2008-39.	久保寺俊朗 坂本修一 鈴木陽一 櫻井研三	47~50 頁
前庭刺激の加速度変化に応じた周波数および振幅変化音提示が自己運動知覚に与える影響	共著	2008 年	電子情報通信学会技術研究報告, vol. 108, no. 356, HIP-2008-126.	坂本修一 瀬戸幹生 小林まおり 岩谷幸雄 櫻井研三 行場次朗 鈴木陽一	19~23 頁
Exploring multimodal integration in two functions of perception.	単著	2009 年 9 月	基礎心理学研究, Vol. 28 (1)		130~134 頁
D 人間の視覚が奥行をとらえる仕組み	単著	2005 年 3 月	人間情報学研究 (第 10 巻)		129~130 頁
G Effects of depth on the Ouchi illusion. Perception, 34 Supplement, 136. 査読有	共著	2005 年 8 月	Perception, Vol. 34 Supplement	K. Sakurai Y. Sato S. Higashiyama M. Abe	136 頁
Multilingual website for teaching psychophysical methods. 査読有	共著	2006 年 7 月	Vision, Vol. 18 Supplement	K. Sakurai H. Ono D. Harnanansingh	96 頁

Auditory-induced bounce perception when visual trajectories are inconsistent with motion reversal. 査読有	共著	2006年8月	Perception, Vol. 35 Supplement	K. Sakurai P. M. Grove	202頁
Equivalent stream/bounce effects in cyclopean and luminance defined displays.	共著	2007年5月	Presented at the Annual Meeting of Vision Sciences Society (VSS2007), Sarasota, Florida. Journal of Vision, 7(9), 302a, http://journalofvision.org/7/9/302/ .	P. M. Grove K. Sakurai	302a頁
段階的な拡大黒円による明るさ誘導の最適時空間条件	単著	2007年7月	日本視覚学会2007年夏季大会(豊橋・ホテル日航豊橋) Vision, Vol. 19		173頁
A new effect of brightness induction caused by a stepwise-expanding disk.	単著	2007年8月	Presented at European Conference on Visual Perception (ECP2007 in Arezzo, Italy). Perception, Vol. 36 Supplement		82頁
Multilingual website (freeware) for teaching psychophysical methods.	共著	2007年8月	Presented at European Conference on Visual Perception (ECP2007 in Arezzo, Italy) Perception, Vol. 36 Supplement	H. Ono A. P. Mapp K. Sakurai	216頁
周期的前後運動時の自己運動感に対するFM音の影響	共著	2007年10月	日本音響学会聴覚研究会資料, Vol. 37, No. 8, H-2007-110.	瀬戸幹生 坂本修一 小林まおり 櫻井研三 行場次朗 鈴木陽一	633~638頁
段階的な拡大黒円による明るさ誘導の最適時空間条件	単著	2007年12月	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会(仙台・東北大学)		
自己運動の加速度変化に対応した周波数変化音提示が自己運動感におよぼす影響	共著	2007年12月	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会(仙台・東北大学)	瀬戸幹生 坂本修一 小林まおり 櫻井研三 行場次朗 鈴木陽一	
2つの通過事象の軌道直交に誘引される反発知覚	共著	2008年1月	日本視覚学会2008年冬季大会(東京・工学院大学) Vision, Vol. 20	河地庸介 P. M. Grove 櫻井研三 行場次朗	31頁

Effects of frequency-modulated sounds on the perceived magnitude of self-motion induced by vestibular information.	共著	2008年3月	Proc. of 3rd International Symposium on Medical, Bio- and Nano-Electronics in Sendai, P-32	M. Seto S. Sakamoto M. Kobayashi K. Sakurai J. Gyoba Y. Suzuki	173~174頁
Auditory modulation of an ambiguous motion sequence affects sequence affects the resolution of subsequent motion displays.	共著	2008年3月	The Second International Workshop on Kansei (福岡・アクロス福岡)	Y. Kawachi P. M. Grove K. Sakurai J. Gyoba	
Two streams make a bounce: Induced motion reversal by crossing the trajectories of two motion sequences.	共著	2008年5月	Presented at the Annual Meeting of Vision Sciences Society (VSS2008), Naples, Florida. Journal of Vision, 8(6), 123a, http://journalofvision.org/8/6/123/	Y. Kawachi P. M. Grove K. Sakurai J. Gyoba	123a 頁
Temporal window of crossmodal interaction between multiple visual events and a single auditory tone.	共著	2008年7月	Presented at Asia-Pacific Conference on Vision (APCV2008 in Brisbane, Australia).	Y. Kawachi P. M. Grove K. Sakurai J. Gyoba	59 頁
身体の運動方向が変化した場合の前庭覚と視覚のクロスモーダルな自己運動知覚	共著	2008年8月	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 (鹿児島・鹿児島大学)	久保寺俊朗 坂本修一 鈴木陽一 櫻井研三	
Crossmodal effects of a single auditory tone on multiple visual events.	共著	2008年8月	Presented at European Conference on Visual Perception (ECPV2008 in Utrecht, the Netherlands) . Perception, Vol. 37 Supplement	Y. Kawachi P. M. Grove K. Sakurai J. Gyoba	27 頁
多重通過・反発刺激による二重結合問題	共著	2008年9月	日本心理学会第72回大会発表論文集	櫻井研三 河地庸介 P. M. Grove 行場次朗	526 頁
視覚系と前庭系とのマルチモーダルな自己運動知覚と刺激強度との関係性	共著	2008年12月	日本基礎心理学会第27回大会 (仙台・国際センター)	久保寺俊朗 坂本修一 鈴木陽一 櫻井研三	
Exploring multimodal integration in two functions of perception: 知覚の二つの機能におけるマルチモーダル統合を探る	単著	2008年12月	日本基礎心理学会第27回大会 (仙台・国際センター)		

前庭刺激の加速度変化に応じた周波数および振幅変化音提示が自己運動知覚に与える影響	共著	2008年12月	電子情報通信学会 ヒューマン情報処理 研究会(仙台・東北 大学)	坂本修一 瀬戸幹生 小林まおり 岩谷幸雄 櫻井研三 行場次朗 鈴木陽一	
側方頭部運動に連動した運動刺激と運動視差奥行刺激との視野闘争	共著	2009年4月	VR心理学研究会第13 回研究会(仙台・東北 大学)	柴田理瑛 久保寺俊朗 櫻井研三	35~38頁
Binocular rivalry between motion parallax stimuli in depth and motion stimuli yoked to lateral head movements.	共著	2009年4月	Mini RIEC Workshop on Multimodal Perception(仙台・東 北大学)	M. Shibata T. Kubodera K. Sakurai	64頁
Multisensory integration of a sound with stereo 3-D visual events.	共著	2009年5月	3DTV-Conference (Potsdam, Germany)	K. Sakurai P. M. Grove	
Sensory and decisional factors in the resolution of stream/bounce displays.	共著	2009年5月	Presented at the Annual Meeting of Vision Sciences Society (VSS2009), Naples, Florida.	P. M. Grove J. Ashton Y. Kawachi K. Sakurai	
Multimodal integration in perceiving direction of self-motion from visual and vestibular stimulation.	共著	2009年7月	Presented at the 10th International Multisensory Research Forum (IMRF2009 in New York, U. S. A.).	T. Kubodera P. M. Grove S. Sakamoto Y. Suzuki K. Sakurai	
Effect of vestibular information on sound source distance travelled estimation	共著	2009年7月	Presented at the 10th International Multisensory Research Forum (IMRF2009 in New York, U. S. A.).	S. Sakamoto F. Furune W. Teramoto K. Sakurai J. Gyoba Y. Suzuki	
Enhanced predominance of motion-parallax stimuli in binocular rivalry.	共著	2009年8月	Presented at European Conference on Visual Perception (ECPV2009 in Regensburg, Germany). Perception, Vol. 38 Supplement	K. Sakurai M. Shibata T. Kubodera H. Ono	140~141頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)	2005~2006年度	個別	視覚と前庭感覚のクロスモーダルな知覚現象の解明
科学研究費補助金特別推進研究	2007~20011年度	共同・研究分担者	マルチモーダル感覚情報の時空間統合(研究代表者:鈴木陽一)

IV 学会等及び社会における主な活動	
1982年～	日本心理学会会員
1982年～	日本基礎心理学会会員
1993年～	日本視覚学会会員
1994年～2008年	日本認知科学学会会員
1996年～	日本バーチャルリアリティ学会会員
2003年～	日本認知心理学会会員
2005年7月	日本視覚学会 2005年夏季大会実行委員長（東北学院大学押川記念ホールにて開催）
2006年7月	The 4th Asian Conference on Vision, Program Committee Member (Matsue, Shimane, Japan)
2006年9月	日本バーチャルリアリティ学会第11回大会プログラム委員長（仙台市青年文化センターにて開催）
2007年～	Vision Sciences Society 会員
2007年7月1日～	日本心理学会機関誌「心理学ワールド」編集委員会委員
2008年12月	日本基礎心理学会第27回大会準備委員会副委員長
2009年12月16日～	2011 International Multisensory Research Forum, Organizing Committee Member

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	竹内 彰啓	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	(講義) 内容理解と論述力の向上	1995年～2008年		「ショートペーパー」と称して、講義時のはじめの10分ほど、講義主題について簡単な問題を出し、それに論述で答えてもらい、講義内容への刺激と理解チェックをはかった。短時間に考えをまとめる力がついたと思われる。			
	(演習) 映像社会学の実践	2000年～2008年		通年の科目で、いくつかのプロジェクトを完成させる形で演習を進める。映像社会学の理論と方法を実践的に学習してもらい見地から、その先行研究を踏まえてテーマ設定と視覚映像データの分析に取り組んでもらう。基本的に、視覚映像を調査データとして社会・文化的脈絡から理解・解釈することと視覚映像機器を使って社会現象にドキュメンタリーの視点からアプローチする二点を中心とする。			
	(講義) 机上での社会調査法の理解の促進	2000年～2008年		「社会調査士」の資格科目の一つとして「社会調査法」が講義科目として行っている。特に質問紙を使った調査法について独自にプリントを作成して学生の理解を図っている。内容について個別の問題を作成し課題として毎回問い理解の徹底をはかってきた。			
	(実習) 社会調査実習の効果的運営	2007年		例年に比し比較的受講生が多いということで、3人の教員のチームで実習を進めた。5つのグループができ、「大学生の友人関係」をテーマに質問紙を使った統計調査を実施した。その過程でそのつど個別にコメントやアドバイスを示し、報告書の完成をめざした。			
	講義内容の理解把握と論述力の向上	2009年4月～12月		講義科目の全てについて、受講生の講義内容の把握をしつつ講義を進めていくために受講時の初めに7、8分程度の時間を取って、簡単な問題への小レポートを書いてもらい、定期試験と共の評価に加えている。学生と教師とのやり取りを重視した講義を志向している。			
	映像社会学の理論と方法の実践で、社会学の研究と教育に視覚映像を利用しようと種々試みている。	2009年4月～12月		映像社会学的研究の先行研究をモデルに二つのプロジェクトを実施している。①ゴフマンの広告写真のジェンダー分析、②仙台市街をフィールドとした日常生活の中に問題を見出し可視化する社会ドキュメンタリー調査を実施している。			
	社会調査法の基礎についての理解の促進	2009年4月～12月		「社会調査士」の資格科目の一つとして講義科目になっている。それを目指す社会調査法の実践学生と調査リテラシーとして学ぶ学生の両方に目を配る講義を心がけている。			

<p>2 竹内彰啓編『平成19年度人間科学演習の軌跡 竹内ゼミ・映像社会学プロジェクト・レポート集』</p> <p>久慈利武・竹内彰啓・片瀬一男編『大学生の友人関係に関する意識—2007年度「社会調査実習」調査報告書』</p> <p>竹内彰啓編『平成20年度人間科学演習の軌跡 竹内ゼミ・映像社会学プロジェクト・レポート集』</p> <p>「竹内ゼミ紹介—映像社会学の実践—」 『季刊 教養学部』Autumn & Winter 2009 No. 10:24-25 頁</p>	<p>2008年3月</p> <p>2008年3月</p> <p>2009年3月</p> <p>2009年10月10日</p>	<p>映像社会学の実践として、1. 広告写真の視覚映像分析、2. ケータイ写真の社会的機能、3. 社会ドキュメンタリーの三つのプロジェクトを、レポートとしてまとめた。それぞれのプロジェクトがどのような課題と方法によってなされたのか序論を掲載した。</p> <p>調査の問題設定、仮説、調査表の作成、実査、データ分析、報告書の作成の実践を行った。</p> <p>人間科学演習で、映像社会学の理論と方法をA. B. Marvasti のテキストを基礎にして、4つのプロジェクトを実施した。①ゴフマンの広告写真の分析、②ケータイ写真を使った写真誘出法による聞きとり調査、③仙台市街をフィールドにした社会ドキュメンタリー調査、④スポーツ映画から現代社会を読むである。それぞれのプロジェクトがどのような課題と方法によってなされたのか序論を掲載した。</p> <p>3年次の人間科学演習について、「映像社会学の実践」を主題に、プロジェクト方式で理論と方法を踏まえて行っている様子を伝えた。</p>
<p>4 高校への出前講義の講師を務めた。</p> <p>オープンキャンパスで模擬演習</p> <p>高校への出前講義の講師を務めた。</p>	<p>2007年2月13日</p> <p>2008年8月2日</p> <p>2009年11月13日</p>	<p>聖和学園高校の2年生に対して、「若者とフリーター問題」の表題で講義をした。</p> <p>高校生とその父兄を対象に、「映像社会学の実践」というテーマで演習を公開した。総合研究に取り組んでいる4年次の学生の中から発表者を選び、それに対して質疑応答を重ねることで演習を体験してもらうことにした。</p> <p>宮城県立古川高校の2年生に対して、「若者とフリーター問題」と題する授業を行った。</p>

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

<p>2008年8月3日, 11月3日</p>	<p>パソコン操作の基礎講習 現在、調査対象としている中高年の余暇集団である「仙台男子厨房に入ろう会」の有志に、メディアテークの教室を借りて、メールの授受、検索エンジンの操作などの講習を実施した。この会で立ち上げているメーリングリストへの参加者を増やすことが狙いのひとつである。</p>
-------------------------	---

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	千葉 智則	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
2	Text Book of Fitness Training		2000年4月～	1回の授業中に 300kcal を消費する運動プログラムを作成, 実践するための教材			
4	大学模擬授業講師		2007年10月25日	宮城県立石巻高校の2～3年生に対し, 「体育学でどんな事ができるか?」というテーマの講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	Validity of Dynamic Prediction Model for Oxygen Uptake during Supra Maximal Intermittent Load Exercise	共著	2005年1月	International Journal of Sport and Health Science. Vol. 3	©S. Takahashi T. Nishijima T. Chiba H. Ishii	68～74 頁	
	Validity of Expired Gas Dynamics Model during Intermittent Load Exercise	共著	2005年2月	International Journal of Sport and Health Science. Vol. 3	©S. Takahashi T. Nishijima T. Chiba H. Ishii	57～67 頁	
	高温条件下漸増運動負荷中の血中乳酸動態	共著	2006年2月	日本運動生理学雑誌	©千葉智則 石井裕明 矢野徳郎	1～8 頁	
	高温条件下高強度運動負荷中の血中乳酸と血液浸透圧の関係	共著	2007年8月	日本生理人類学会誌 第12巻 第3号	©千葉智則 石井裕明 高橋信二 矢野徳郎	21～27 頁	
	Expired Gas Kinetics during 20 m Shuttle Running Test	共著	2007年8月	Human Performance Measurement Vol. 4	©S. Takahashi T. Chiba S. Matsubara H. Ishii A. Maeda	9～16 頁	
	Prediction of swim performance in junior female swimmers by dynamic system model	共著	2008年3月	Human Performance Measurement Vol. 5	©H. Ishii S. Takahashi T. Chiba A. Maeda Y. Takahashi	1～8 頁	
	Effect of turn skill on expired gas dynamics during 20 meters shuttle running test	共著	2008年10月	Human Performance Measurement Vol. 5	©Y. Yoshida S. Takahashi H. Monma T. Yuze T. Chiba A. Maeda	31～40 頁	

<p>G</p> <p>Feedback Control System In VO₂-kinetics To Predict Energy Expenditure During Intermittent Exercise</p> <p>成人前女子競泳選手における動的システムモデルを用いたパフォーマンス変動予測</p> <p>間欠的運動能力と酸素摂取動態の関連性</p> <p>トレーニングに対する中距離パフォーマンス変動の時間的特性</p> <p>間欠的ハイパワー発揮能力評価指標としての二酸化炭素過剰排出</p> <p>Relationship between Blood Lactate and Hyperventilation during High Intensity Constant Load Exercise in Heat</p> <p>ボールゲーム選手と長距離選手における酸素摂取動態と間欠的パワー発揮</p> <p>陸上長距離選手における常圧低酸素環境下間欠的ランニング中の代謝応答</p> <p>ボールゲーム選手と長距離選手における酸素摂取動態の緩成分と間欠的パワー発揮</p> <p>呼吸ガス動態から検討するシャトルランテストの特性</p> <p>陸上中距離種目における強度測定指標の検討</p> <p>3軸加速度センサを用いたシャトルランニング動作と酸素摂取量の関係</p> <p>高強度一定負荷運動時におけるラグビー選手の酸素摂取動態</p>		<p>2005年5月</p> <p>2005年11月</p> <p>2006年8月</p> <p>2006年8月</p> <p>共著 2006年8月</p> <p>共著 2006年10月</p> <p>共著 2007年3月</p> <p>共著 2007年7月</p> <p>共著 2007年9月</p> <p>共著 2007年9月</p> <p>共著 2007年9月</p> <p>共著 2008年9月</p> <p>共著 2008年9月</p>	<p>52th American College of Sports Medicine Annual Meeting</p> <p>日本体育学会第56回大会</p> <p>日本体育学会第57回大会</p> <p>日本体育学会第57回大会</p> <p>日本体育学会第57回大会</p> <p>The 8th International Congress of Physiological Anthropology</p> <p>日本健康体力栄養学会</p> <p>第15回日本運動生理学会大会</p> <p>日本体育学会第58回大会</p> <p>日本体育学会第58回大会</p> <p>日本体育学会第58回大会</p> <p>日本体育学会第59回大会</p> <p>第63回日本体力医学会大会</p>	<p>◎S. Takahashi T. Chiba T. Nishijima K. Tanaka</p> <p>◎石井裕明 千葉智則 前田明伸</p> <p>◎扇谷大輔 門間陽樹 前田明伸 千葉智則</p> <p>◎湯瀬徹 石井裕明 千葉智則 前田明伸</p> <p>◎門間陽樹 扇谷大輔 千葉智則</p> <p>◎T. Chiba H. Ishii S. Takahashi T. Yano</p> <p>◎高橋信二 千葉智則</p> <p>◎遠藤良則 千葉智則 前田昭伸</p> <p>◎門間陽樹 高橋信二 千葉智則 前田昭伸</p> <p>◎吉田雄大 高橋信二 千葉智則 前田昭伸</p> <p>◎湯瀬 徹 高橋信二 千葉智則 前田昭伸</p> <p>◎吉田雄大 高橋信二 千葉智則 前田明伸</p> <p>◎門間陽樹 高橋信二 千葉智則 永富良一</p>	
--	--	---	---	---	--

20mシャトルランテストにおける走動作の特性	共著	2009年8月	日本体育学会第60回大会	◎吉田雄大 高橋信二 千葉智則 前田明伸 木塚朝博	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1984年～		日本体育学会会員			
1997年～		日本体力医学会評議委員			
1997年～		日本運動生理学会評議委員			
1998年～		日本生理人類学会会員			
2001年～		日本トレーニング科学学会会員			

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	堀毛 裕子	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	講義科目における理解促進の工夫(授業の進め方)	毎年	毎回の授業の最初に、当日の講義概要を書き出し、個別の内容説明も全体の枠に位置づけながら行っている。				
	講義科目における理解促進の工夫(提示資料などの工夫)	毎年	大学要覧とは別に授業用の詳細なシラバスや参考文献リストなどを提示し、テキスト以外にも独自の補足資料を作成・配布、さらに視聴覚資料等を用いている。				
	実験実習科目のシステム化した運営	毎年	2年次実験実習科目において、複数担当教員の打ち合わせにより作成したマニュアルを用い、毎回の課題レポートをあらかじめ公開してある基準に従って添削して返却後、修正レポートの提出を義務付けている。				
	専門科目(講義)の理解を深める工夫	2005年度	学生の勉学促進のため、あらかじめテキストの次回該当範囲を明示して通読を課題とし、授業当日は質疑応答を多く行うことを試みた。				
	専門科目(講義)の理解を深める工夫	2006年度より毎年	前年度の結果を踏まえ、授業に対する質疑は毎回出席カードを利用して提出させ、次回にフィードバック時間を多く確保した。				
	演習科目における自発的学習促進や知的好奇心刺激の工夫	2007年度より毎年	3年次演習において通常の授業内容の他に、夏休みを利用して小グループによるミニ調査研究を行い、パワーポイントスライドにまとめて発表会を実施。さらにそのスライドから作成したポスターを秋の学部オープンキャンパスで展示し、学生自身が高校生への説明を行っている。				
3	卒業生(心理専門職)に対する現任教育	2000年より現在迄 (毎月ないし隔月1回夜)	教養学部人間科学科卒業生で心理専門職に就いている若手臨床心理士の勉強会を主催し、仙台には少ないグループスーパービジョンの機会を提供している。				
	宮城県教員を対象とする研修会講師(宮城県教育研修センター;平成19年度カウンセリング技術研修・中級)	2007年10月25日	「学校カウンセリング概説」と題して、学校カウンセリング(教育相談)の基本的理論と実践上の留意点などについて講演を行った。				
	本学の教職員を対象とする講演(東北学院大学・工学基礎教育センター)	2007年12月6日	「大学生のこころの問題を考える」と題して、最近の大学生の現状と背景、大学としての対応のあり方等について講演を行った。				
	本学で開催した教員免許状更新講習の講師	2009年8月17日(必修) 2009年8月19日(選択)	本学で開催した教員免許状更新講習において、必修領域の1コマを担当し、「児童・生徒理解と学校コミュニティ」と題する講義を行った。選択領域では、「子どもの心の理解と教師の健康増進をめざして」と題する1日(6時間)の講義と実習を担当した。				

4	カウンセリング講習会における講師	2005年8月2日	仙台市青少年指導センター主催・第39回青少年のためのカウンセリング講習会における講師「現代社会と青年期の心理」
	高校への出張講義	2005年10月5日	宮城県立角田高校における出張講義「心身の健康を目指してー臨床・健康心理学入門ー」
	宮城県教育委員会発行の教員向け資料作成に対する助言指導	2005年11月9日	宮城県高校教育課生徒指導班担当の「生徒指導資料集第25集」作成委員会への助言指導
	スクールカウンセラー研修会における講師	2005年12月10日	岩手県教育委員会主催・平成17年度第2回スクールカウンセラー連絡協議会における講師「学校コミュニティとスクール・カウンセラーの役割」
	沖縄県臨床心理士会における研修講師	2008年8月22日	沖縄県の臨床心理士を対象として、「病気を乗り越えるカー人間のポジティブな力を考えるー」と題し、健康心理学における最新の知見に関する講義を行った。
	宮城県警察学校における研修講師(被害者支援専科入校生対象)	2008年10月24日 2009年7月3日	警察署及び高速道路交通警察隊において被害者支援を担当する現任者を対象に、「対人援助職のメンタルヘルス」について講義を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
臨床心理学入門事典	分担執筆	2005年10月	誠信書房	岡堂哲雄(編)	4項目担当, 16~18頁・131頁
心理査定実践ハンドブック	分担執筆	2006年9月	創元社	氏原 寛他(編)	842~845頁
学童期のメンタルヘルス	分担執筆	2009年6月	ぎょうせい	白崎けい子(編)	86~95頁
社会心理学事典	分担執筆	2009年6月	丸善	日本社会心理学会(編)	2項目担当 136~137頁 174~175頁
Ba					
閉経に対する認知と自我同一性発達段階との関連	共著	2006年	ヒューマン・ケア研究, 7, 35~45.	高橋艶子 堀毛裕子	
閉経に対する認知と更年期症状との関連	共著	2009年	健康心理学研究, 22, 1, 14~23.	高橋艶子 堀毛裕子	
C					
大学生のこころの問題を考える	単著	2007年	東北学院大学工学基礎教育センター平成19年度報告書		14~18頁
D					
「食欲の秋」を楽しんでいますか?ー食行動の心理学ー	単著	2005年11月	東北学院大学カウンセリング・センター便り No. 67		

G	乳がんの病気体験と語り(Ⅱ)－Sense of coherence の視点から－ (上記発表について、日本パーソナリティ心理学会から「優秀大会発表賞」受賞)	単著	2005年11月	日本パーソナリティ心理学会第14回大会 (岩手大学)	
	心理アセスメント・ツールの再検討－ わかること・わからないこと－(ワーク ショップ指定討論)	単著	2005年11月	日本パーソナリティ心理学会第14回大会 (岩手大学)	
	乳癌患者における心理学的サポートの 取り組み:第1報	共著	2006年7月	第14回日本乳癌学会 学術総会(石川県立音 楽堂)	◎佐藤美華 松浦裕美 安藤佳子 井上宏美 君島伊造 佐藤亜希 吉田清香 鈴木真彦 堀毛裕子
	乳がん患者の不安(Ⅱ)－不安の継時的 変化と関連要因－	共著	2006年11月	日本ヒューマン・ケア 心理学会第8回大会 (神戸女学院大学)	◎堀毛裕子 佐藤美華 君島伊造
	人生における意義・希望と Health Locus of Control との関係	共著	2006年11月	日本健康心理学会第 19回大会(同志社大 学)	◎大竹恵子 堀毛裕子 島井哲志
	Climacteric syndrome, life value and femininity in Japanese women	共著	2007年5月	The IV international congress of the international society of psychosomatic obstetrics and gynecology (Kyoto)	◎T. Takahashi H. Horike
	乳癌患者における心理学的サポートの 取り組み(第2報);不安低減を目指し た介入の試み	共著	2007年6月	第15回日本乳癌学会 学術総会(パシフィコ 横浜)	◎佐藤美華 堀毛裕子 君島伊造 鈴木真彦 森永真史
	Coherent approach to individual differences in subjective well-being	共著	2007年7月	Seventh conference of Asian association of social psychology (Kota Kinabalu, Malaysia)	◎K. Horike K. Matsuoka N. Oda H. Horike
	精神的健康に及ぼす「首尾一貫感覚」 の影響－恋愛関係の崩壊からの立ち直 り－	共著	2007年9月	日本社会心理学会第 48回大会(早稲田大 学)	◎浅野良輔 堀毛裕子 大坊郁夫
乳癌患者の不安低減を目指す支援とし ての「患者グループ」の試み	共著	2008年3月	第5回日本乳癌学会東 北地方会(仙台国際セ ンター)	◎佐藤美華 堀毛裕子 井上宏美 松浦裕美 高橋真由美 君島伊造 鈴木真彦 渡辺久美子	

Sense of coherence and illness experience – SOC scores and the text wining of illness narratives –	単著	2008年7月	XXIX International congress of psychology (Berlin, Germany)		
Break-up of romantic relationships changes sense of coherence: A strategy for stress coping	共著	2008年7月	XXIX International congress of psychology (Berlin, Germany)	©R. Asano I. Daibo H. Horike	
乳がん患者の sense of coherence に関する量的検討—一般成人との比較および類似概念との関連—	単著	2008年9月	日本健康心理学会第21回大会(桜美林大学)		
成人用 sense of coherence 尺度短縮版の因子的妥当性・基準関連妥当性に関する検討	共著	2008年9月	日本心理学会第72回大会(北海道大学)	©堀毛裕子 堀毛一也	
子ども用 sense of coherence 尺度日本語翻訳版の作成-因子構造と信頼性・妥当性の検討-	単著	2009年8月	日本心理学会第73回大会(立命館大学)		
乳がん患者の語りと健康生成論(ワークショップ「サイコオンコロジー(6)-がん患者, 遺族, および医療者の感情反応と精神的健康」における話題提供)	単著	2009年8月	日本心理学会第73回大会(立命館大学)		
健康心理学における sense of coherence の応用可能性を探る(シンポジウムの企画と司会, 同名タイトルの話題提供)	単著	2009年9月	日本健康心理学会第22回大会(玉川大学)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金(基盤研究C)	2003~2005	個別	乳癌患者への介入方法の改善—「語り」の視点の導入とスタッフの健康心理学的教育—
科学研究費補助金(基盤研究C)	2006~2008年	個別	慢性疾患を持つ子どもの「語り」にみる sense of coherence

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年度~	日本健康心理学会 理事
2005年9月1日~	仙台市地域保健・保健所運営協議会 委員
2006~2008年7月31日まで	日本学術振興会 特別研究員審査会専門委員 および 国際事業委員会書面審査員
2008年度~	日本ヒューマン・ケア心理学会 理事
2008年度~	日本心理学会 カリキュラム認定委員
2008年4月1日~	宮城県薬物乱用防止戦略推進会議 委員
2008年4月15日~	宮城県犯罪被害者支援審議会 委員

2008年6月～	宮城県臨床心理士会 会長
2005年度における学術雑誌の論文査読	日本健康心理学会 (1本)
2007年度における学術雑誌の論文査読	日本社会心理学会 (1本), 日本健康心理学会 (1本)
2008年度における学術雑誌の論文査読	日本ヒューマン・ケア心理学会 (2本)
2009年度における学術雑誌の論文査読	日本ヒューマン・ケア心理学会 (2本)

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	前田 明伸	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義科目の授業運営	1987年4月～		毎時間のテーマに従い、資料を配布して授業運営を行っている。			
	毎回の授業での配慮	2002年4月～		授業に集中させるため、質疑応答の時間を多くするよう努めている。			
	教育研究の公開	2006年7月～		ホームページを作成し、教育研究に関する内容を理解してもらうよう努力している。			
2	Textbook of Fitness Training	2000年4月～		体力トレーニングに関する資料を掲載し、トレーニング実践をした内容が記入できるようにした教材。			
3	宮城県民大学	2005年9月		現代社会の健康に関する諸問題			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	Program Design Based on a Mathematical Model Using Rating of Perceived Exertion for an Elite Japanese Sprinter : A Case Study	共著	2006年2月	The Journal of Strength and Conditioning Research Vol. 20 No. 1	S. Suzuki T. Sato A. Maeda Y. Takahashi	1～8頁	
	Prediction of swim performance in junior female swimmers by dynamic system model	共著	2008年10月	日本体育測定評価学会 Human Performance Measurement (vol. 5)	H. Ishii S. Takahashi T. Chiba A. Maeda Y. Takahashi	1～8頁	
	Effect of turn skill on expired gas dynamics during 20 meters shuttle running test	共著	2008年10月	日本体育測定評価学会 Human Performance Measurement (vol. 5)	Y. Yoshida, S. Takahashi H. Monma, T. Yuze, T. Chiba, A. Maeda	31～40頁	
G	間欠的運動能力と酸素摂取動態の関連性	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	扇谷大輔 門間陽樹 高橋信二 千葉智則 前田明伸		
	トレーニングに対する中距離パフォーマンス変動の時間的特性	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	湯瀬 徹 石井裕明 高橋信二 千葉智則 前田明伸		

間欠的ハイパワー発揮能力評価指標としての二酸化炭素過剰排出	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	門間陽樹 扇谷大輔 高橋信二 千葉智則 前田明伸
陸上長距離選手における常圧低酸素環境下間欠的ランニング中の代謝応答	共著	2007年7月	日本運動生理学会第15回大会	遠藤良則 千葉智則 前田明伸
呼吸ガス動態から検討するシャトルランテストの特性	共著	2007年9月	日本体育学会第58回大会	吉田雄大 高橋信二 千葉智則 前田明伸
陸上競技中距離種目における強度測定指標の検討	共著	2007年9月	日本体育学会第58回大会	湯瀬 徹 高橋信二 千葉智則 前田明伸
ボールゲーム選手と長距離選手における酸素摂取動態の緩成分と間欠的パワー発揮	共著	2007年9月	日本体育学会第58回大会	門間陽樹 高橋信二 千葉智則 前田明伸
3軸加速度センサを用いたシャトルランニング動作と酸素摂取量の関係	共著	2008年9月	日本体育学会第59回大会	吉田雄大 高橋信二 千葉智則 前田明伸
20mシャトルランテストにおける走動作の特性	共著	2009年8月	日本体育学会第60回大会	吉田雄大 高橋信二 千葉智則 前田明伸

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1979年～	日本体育学会会員
1987年～	日本体力医学会会員
1995年～	日本バイオメカニクス学会会員

1 所属	人間科学科	職名	教授	氏名	水谷 修	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	[講義・実習] 独自の「学生による授業評価」の実施	1996年1月～				学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業の効果を測定するために、教員自身が作成したアンケートを毎年実施。	
	[実習] 公民館と連携した市民講座づくり実習	1996年4月～				授業の一環として、仙台市中央市民センターと連携して、学生が市民センター主催の市民講座を企画・運営・評価。	
	[講義] 振り返りと導入の時間を取り入れた授業の実施	1996年4月～				授業で取り上げたことがらについて、授業の終わりに学生に意見を書かせ、その一部を次週の冒頭に紹介し、導入としている。	
	[演習] 新聞記事を活用した授業実践	1996年4月～				学生が持ち寄った、生涯学習に関連する新聞記事をもとに学生同士でディスカッションする。	
	[講義・実習] ボランティア活動の授業運営	2001年4月～				「大学の授業」を意識したボランティア活動を、NPOや社会教育施設と協働で実施。	
	[講義] ゲストティーチャーとの協働による授業運営	2002年4月～				生涯学習の授業では、しばしばゲストティーチャーを招き、理論と実践の融合を図る。	
	[演習] 実践を通して問題解決能力の育成を図ることを目的に、ゼミ活動の一環として地域イベントに参画	2006年6月～				地域のイベントにゼミ活動の一環として参画し、責任を持って企画・準備・運営を担う。	
2	「市民センター講座づくりの記録」「国立花山青少年自然の家における調査活動の記録」の作成と活用	1996年4月～				社会教育実習の授業の一環として学生が作成した報告書及び報告作品を、次年度の実習のテキストあるいは教材として活用。	
	社会教育実習の授業で作成した報告書および報告作品を、次年度の実習のテキスト、教材として活用している	1996年4月～				社会教育実習の授業で作成した報告書および報告作品を、次年度の実習のテキスト、教材として活用している。	
	『ボランティア活動』の成果と課題』の作成と活用	2002年4月～				「ボランティア活動」の授業で作成した報告書及び報告作品を、次年度の実習のテキストあるいは教材として活用。	
	共同執筆した図書をテキストとして活用	2007年4月～				「生涯学習論」(文憲堂)を共同執筆、授業でテキストとして活用。	
3	大学の機関紙(東北学院時報)への投稿「社会教育実習における公民館講座づくり～学生の手で公民館に若者を呼び込む」	2008年1月				社会教育実習の授業の一環として行っている学生による公民館講座づくりについて概要の紹介と教育的意味についての解説を行った。	
4	地域社会に対する教育上の貢献を行った<教育委員会等の委員>	1999年5月～2007年3月				青少年育成国民会議青少年育成国民運動実践調査研究事業中央委員	
		2000年8月～2006年3月				宮城県生涯学習審議会(2000年より副会長, 2002～2005年度会長)	

	<p>2002年2月～2006年3月</p> <p>2002年6月～2006年3月</p> <p>2002年7月～2005年3月</p> <p>2003年4月～2005年3月</p> <p>2003年6月～2006年3月</p> <p>2005年6月～2008年3月</p> <p>2005年7月～2007年3月</p> <p>2005年9月～2007年3月</p> <p>2006年5月～2007年3月</p> <p>2006年5月～2008年3月</p> <p>2006年6月～2008年3月</p> <p>2006年6月～2009年3月</p> <p>2006年10月～2009年1月</p> <p>2007年4月～2009年3月</p> <p>2007年10月～2009年3月</p> <p>2007年10月～2008年3月</p> <p>2008年4月～2009年3月</p> <p>2008年6月～2009年3月</p> <p>在任中</p>	<p>独立行政法人国立少年自然の家自己点検検討委員会委員</p> <p>宮城県社会教育委員連絡協議会理事</p> <p>宮城県地域教育力・体験活動推進協議会推進委員長</p> <p>仙台市立太白小学校学校評議員</p> <p>宮城県図書館プログラム開発アドバイザー座長</p> <p>宮城県青少年長期自然体験活動推進事業企画推進委員</p> <p>宮城県教育委員会みやぎらしい協働教育推進会議委員</p> <p>加美町男女共同参画計画策定委員会委員</p> <p>青少年のための宮城県民会議特別委員会委員長</p> <p>仙台市泉区中央市民センター「市民がつくる魅力ある事業」審査委員会座長</p> <p>独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の自立に関する基礎調査」協力者</p> <p>宮城県教育委員会協働推進検討会議座長</p> <p>宮城県みやぎ仕事作文コンクール審査委員</p> <p>宮城県協働教育振興会議委員</p> <p>内閣府青少年育成国民運動実践調査研究委員会委員</p> <p>仙台市教育委員会自分づくり教育研究委員会委員</p> <p>宮城県青年意識調査ワーキンググループ座長</p> <p>国立花山青少年自然の家小学校自然体験活動モデルプログラム開発事業委員会委員</p> <p>宮城県青少年問題協議会委員・座長</p> <p>仙台市公民館運営審議会会長</p> <p>せんだい男女共同参画財団評議員</p> <p>宮城県社会教育委員の会議議長</p> <p>独立行政法人国立青少年教育振興機構 研究紀要編集協力委員</p> <p>独立行政法人国立青少年教育振興機構評価委員</p> <p>仙台市青葉区区民と創るまち評価委員会委員長</p> <p>仙台市放課後子どもプラン推進委員会委員長</p>
--	---	---

		宮城県教育委員会 豊かな体験活動推進事業に係わる推進協議会 宮城県教育委員会 協働教育運営会議座長 国立教育政策研究所 生涯学習センター等の新たな役割に関する調査研究委員会委員 国立磐梯青少年交流の家 小学校長期自然体験活動モデルプログラム開発事業企画委員 宮城県教育委員会 地域資源を活用した青少年の体験活動運営会議議長 宮城県教育委員会 自然体験指導者養成事業運営委員会委員 独立行政法人青少年教育振興機構「青少年の課題に対応した体験活動推進事業」事業運営会議委員 富谷町地域と学校をつなぐ実行委員会委員
<中学校・高等学校への出前講座>	2008年10月	秋田県西目高等学校での出前講座「なぜ、今、生涯学習」
	2008年11月	登米市立東和中学校での出前講座「大学教員の大変さと面白さ」
<サテライト・キャンパスでの授業>	2007年12月	学都仙台コンソーシアムにおける市民講座での講師
<行政・地域主催の事業における講師等>	2005年	宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座入門編』講師 宮城県教育委員会「学社連携・融合セミナー」講師 宮城県警察本部「大学生健全育成ボランティア研修会」講師 静岡大学生涯学習教育研究センター「調査研究にかかわる研究フォーラム」講師 伊達なクニづくり女性委員会特別講演講師 宮城県泉が岳青年の家「野外活動ボランティア養成講座」講師 宮城県教育委員会「社会教育関係職員セミナー」講師 宮城県教育委員会「青少年長期自然体験活動推進事業」講師 宮城県万引き防止推進協議会「宮城県万引き防止推進協議会研修会」講師 岩手県立生涯学習センター「生涯学習推進専門研修講座」講師

	<p>2005 年</p> <p>2006 年</p> <p>2007 年</p>	<p>宮城県教育委員会「協働推進研修会」講師</p> <p>青少年育成国民会議「青少年指導者のための通信教育」集合研修講師</p> <p>北海道青少年育成協会「北海道青少年育成大会・社会参加体験活動推進ワークショップ」講師</p> <p>東松島市教育委員会「生涯学習支援者養成講座(微助人講座)」講師</p> <p>東北管区行政評価局「特定懇談会(少年の非行対策に関する懇談)」講師</p> <p>宮城県社会福祉協議会「宮城いきいき学園」講師</p> <p>国立教育政策研究所「社会教育主事講習(B)」講師</p> <p>宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座入門編』」講師</p> <p>多賀城市教育委員会「生涯学習ボランティア講座」講師</p> <p>栗原市青少年育成推進協議会「青少年のための栗原市民会議合同研修会」講師</p> <p>宮城県図書館「ボランティア全体研修会」講師</p> <p>宮城県警研修会宮城県警研修会「大学生健全育成ボランティア研修会」講師</p> <p>仙台市教育委員会社会教育施設職員研修「新任職員研修会」講師</p> <p>岩手県立生涯学習センター「生涯学習推進専門研修講座」講師</p> <p>せんだいひとまち交流財団「2年目館長研修」講師</p> <p>青少年のための宮城県民会議「会員研修会」講師</p> <p>全国少年自然の家連絡協議会東北・北海道地区協議会「東北・北海道地区少年自然の家運営研究会」講師</p> <p>青少年育成大崎市民会議古川支部「会員研修会」講師</p> <p>全国公民館連合会「全国公民館研究集会」講師</p> <p>文部科学省「図書館地区別(北日本)研修会」講師</p> <p>宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座入門編』」講師</p>
--	---	---

	2007 年	<p>宮城県警察本部「大学生健全育成ボランティア研修会」講師</p> <p>加美町「男女共同参画フォーラム」パネリスト</p> <p>多賀城市青少年育成市民会議「青少年健全育成多賀城市民のつどい」講師</p> <p>地域連携ネット「みやぎこどもスマイルプラン」講師</p>
	2008 年	<p>国立教育政策研究所「社会教育主事講習 [B]」講師</p> <p>仙台市市民センター「地域再発見シンポジウム」コーディネーター</p> <p>宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座入門編』」講師</p> <p>石巻市教育委員会「協働教育フォーラム・石巻地区社会教育関係者研修会」講師</p> <p>宮城県警察本部「大学生健全育成ボランティア研修会」講師</p> <p>独立行政法人国立青少年教育振興機構「中堅指導系職員研修」講師</p> <p>本吉地方教育研究会「講演会」講師</p> <p>宮城県教育委員会「社会教育関係職員研修会 I」講師</p> <p>仙台市教育委員会「社会教育施設新任職員研修会」講師</p> <p>全国青少年施設協議会「第 2 回代表者会議シンポジウム」パネリスト</p> <p>富谷町教育委員会「コーディネーター養成講座」講師</p> <p>宮城県「仙台地区 PTA 研修会・協働教育研修会」講師</p>
	2009 年	<p>国立教育政策研究所「社会教育主事講習 [B]」講師</p> <p>宮城教育大学教職大学院「教育講演会・シンポジウム」シンポジスト</p> <p>宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座入門編』」講師</p> <p>富谷町教育委員会「地域と学校をつなぐ取り組みに係る事業推進会議研修会」講師</p> <p>宮城県警察本部研修会「大学生健全育成ボランティア研修会」講師</p>

<p>5 教育活動がメディアで注目された</p> <p>6 新たな形式での公開講座の企画・運営に携わった</p>	<p><ボランティアへの参加></p>	<p>2009 年</p> <p>2004 年 12 月～</p> <p>2006 年 1 月～</p> <p>2007 年・2008 年・2009 年</p> <p>2008 年 11 月</p> <p>2007 年 11 月・12 月</p> <p>2008 年 10 月</p>	<p>多賀城市「まちづくり懇談会」ファシリテーター</p> <p>宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座実践編』講師</p> <p>一関市「地域プロジェクト講座」講師</p> <p>秋田大学「社会教育主事講習」講師</p> <p>仙台教育事務所「管内課長研修会」講師</p> <p>宮城県教育委員会「自然体験活動指導者養成研修会」講師</p> <p>東北学院大学教員免許更新講習講師</p> <p>国立中央青少年交流の家「富士のさとボランティアスクール」講師</p> <p>宮城県教育委員会「社会教育関係職員研修会」講師</p> <p>仙台教育事務所管内「教育長研修会」講師</p> <p>宮城県教育委員会「みやぎ県民大学『支援者養成講座入門編』講師</p> <p>仙台太白少年少女発明クラブ企画委員</p> <p>ふくろばらアフタースクール運営委員</p> <p>せんだい・みやぎオータムセミナー実行委員会委員</p> <p>登米市立東和中学校キャリア教育講師</p> <p>社会教育実習の一環として行われた講座が TV の情報番組で取り上げられた。</p> <p>新たな形式（ブース形式による連続ミニ講義）による学部主催の公開講座の企画・運営に携わった。</p>
--	---------------------------	--	--

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 生涯学習論	共著	2008 年 4 月	文憲堂	水谷 修 ほか・17 名	107～113 頁
社会教育論	共著	2008 年 4 月	文憲堂	水谷 修 ほか・19 名	72～85 頁
社会教育計画講義	共著	2008 年 4 月	日常出版	水谷 修 ほか・4 名	37～67 頁
事業の設計とマネジメントにおけるコーディネート	共著	2009 年 8 月	社会通信教育協会	水谷 修 ほか・9 名	75～84 頁

Ba	研究と実践の融合を目指した長期キャンプの試み	共著	2005年6月	青少年教育フォーラム 第6号	中村織江 曾根田靖志 水谷 修	205～215頁
Bb	社会教育団体・グループ活動の停滞の原因と今後の活動の方向性を考える	単著	2008年9月	社会教育 第63巻9号		6～11頁
C	変革期における社会教育	単著	2005年3月	社教情報 第52号		4～9頁
D	求められるNPO・自治体との連携	単著	2005年1月	学院時報 第634号		
	青少年育成国民運動実践調査研究事業の成果と課題ー平成11年度から15年度の実施地区に対するフォローアップ調査の報告ー	単著	2005年3月	青少年育成国民会議		1～52頁
	青少年育成運動推進指導員が力を発揮した育成活動	単著	2005年3月	平成16年度青少年育成国民運動推進総合研究委員会報告書青少年育成国民会議		21～22頁
	長期自然体験活動プログラムの改善に向けた調査の工夫	単著	2005年3月	「ふれあい新発見！冒険隊」報告書ー青少年教育施設における「青少年の社会性を育む長期体験活動事業」の在り方に関する調査研究（二年度）ー 国立花山少年自然の家		2～3頁
	長期自然体験活動プログラムの開発に関する調査研究2ー「ふれあい新発見！冒険隊」の参加者・保護者に対する基礎調査ー	単著	同上	同上		59～67頁
	継続的な地域づくりの「仕組み」に関する研究フォーラム（講演・質疑の記録）	単著	2005年3月	継続的な地域づくりの「仕組み」に関する調査研究報告書		100～107頁
	大学と社会教育施設の連携	単著	2006年1月	日本生涯教育学会生涯学習研究e事典 http://ejiten.javae.or.jp/content.php?c=TWpRek1UTTE%3D		
	社会教育調査法	単著	同上	同上 http://ejiten.javae.or.jp/content.php?c=TWpBeE1EVTE%3D		
	プロセスをたどる面白さと協働の面白さー事業推進の意義とポイントー	単著	2006年3月	平成17年度 生涯学習・社会教育プログラム開発推進事業報告 http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/program/mizutanizatyou.pdf		

青少年育成国民運動実践調査研究事業の成果と課題Ⅱ－青少年育成都道府県民会議に対する調査の報告－	単著	2006年3月	青少年育成国民会議		1～56頁
国立少年自然の家における研究活動の成果と今後の課題	単著	2006年3月	チャレンジャー少年の課題へのアプローチ 独立行政法人国立少年自然の家		11～15頁
長期自然体験活動の成果と課題－宮城県蔵王自然の家「みんなでやろうネ14日間」の参加者・保護者に対する調査－	単著	2006年3月	青少年長期自然体験活動推進事業報告書 宮城県教育委員会		17～33頁
国立少年自然の家の長期自然体験活動事業の役割	単著	2006年3月	青少年教育施設における「青少年の社会性を育む長期体験活動事業」の在り方に関する調査研究報告書 国立花山少年自然の家		1～2頁
長期自然体験活動に関する3年次調査研究	共著	同上	同上	水谷 修 望月 爽	20～32頁
転換期における育成運動の課題と展望	単著	2006年9月	平成18年度会員研修会報告書 青少年のための宮城県民会議		5～12頁
少年自然の家の今後の役割－「つなぐ」という視点からの検討－（講演記録）	単著	2006年10月	第33回東北・北海道地区少年自然の家運営研究会報告書 全国少年自然の家連絡協議会東北・北海道地区協議会		4～11頁
「いじめ」問題を考える－地域でできること－	単著	2007年1月	3L通信 第4巻1号 東北学院大学同窓会		13頁
社会教育実習における公民館講座づくり～学生の手で公民館に若者を呼び込む	単著	2008年1月	東北学院時報 第667号		
学区単位の活動を支える市民会議（秋田市）	単著	2008年3月	青少年育成運動の実践調査研究事業報告書 内閣府		35～37頁
次期青年層をいかにして取り込むか（岐阜市）	単著	同上	同上		96～97頁
青少年育成運動の実践調査研究事業の成果と課題～事業のまとめと平成19年度フォローアップ調査の報告～	共著	2008年3月	内閣府	水谷 修 斎藤文人	1～59頁
「教養」とはなにか（特別座談会）	共著	2008年7月・10月	季刊教養学部 第7号・第8号	水谷 修 稲垣 忠 氏家重信 松本洋之 八幡 恵 吉村功太郎	1～5頁（第7号） 20～21頁（第8号）

次代を生きる、岡本包治先さん。その 発想・行動力を語り継ぎたい	共著	2008年10月	岡本包治追悼論文集 刊行会	水谷 修 ほか65名	144～145頁
調査結果にみられる宮城の青年像	単著	2009年2月	宮城県青年意識調査 報告書 宮城県		1～2頁
調査結果の概要	単著	同上	同上		7～33頁
地域における青年活動支援の課題	単著	同上	同上		41～46頁
『大学と社会教育施設・団体とボラン ティア活動』	単著	2009年5月	国立青少年教育振興 機構メールマガジン 第13号 http://www.niye.go.jp/mmaga/backnumber.php?melma_id=23		
E					
事業改善のための調査研究活動ー若柳 町岩淵秀悦・高橋修氏の研究活動ー	単著	2005年3月	平成16年度社会教育 主事専門研修事業研 究成果報告書 宮城 県図書館		95～96頁
父親・男性の子育て参加の促進ーネッ トワークを広げるミスマッチー	単著	2005年3月	父親の子育て意識調 査報告書 冒険あそ び場せんたい・みやぎ 連絡会		3頁
理念の維持と試行錯誤での授業改善	単著	2005年3月	「ボランティア活動」 の成果と課題 第4集 東北学院大学教養学 部「ボランティア活 動」運営委員会		107～109頁
おわりにー1年間の授業を振り返って	単著	同上	同上		115～117頁
おわりにー2005年度の成果と課題	単著	2006年3月	「ボランティア活動」 の成果と課題 第5集 東北学院大学教養学 部「ボランティア活 動」運営委員会		169～171頁
ボランティア活動支援班の活動と評価	単著	2007年3月	「ボランティア活動」 の成果と課題 第6集 東北学院大学教養学 部「ボランティア活 動」運営委員会		119～120頁
おわりにー2006年度の成果と課題	単著	同上	同上		145～147頁
学生アンケートにみる「ボランティア 活動」の成果と課題		2008年3月	「ボランティア活動」 の成果と課題 第7集 東北学院大学教養学 部「ボランティア活 動」運営委員会		95～106頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
東北学院個別・共同助成金	2009年度	個別	「学校教育で行われている起業教育実践を収集・分析し、教育目的・内容・方法上の特質と教育的意義を明らかにしたうえで、家庭や地域社会と学校の協働による教育実践モデルを理論と実践の両面から示した具体的な実践プランとして提示し、併せて地域社会と学校の協働モデルを提起」するための基礎的研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
<学会活動> 1980年5月～ 1982年4月～ 2000年5月～ <各種委員> 現在	日本生涯教育学会加入（1980年5月～1988年3月 幹事） 日本教育学会加入 青少年育成学会（2002年9月～ 2009年9月運営委員） 宮城県青少年問題協議会委員・座長 仙台市公民館運営審議会会長 せんだい男女共同参画財団評議委員 宮城県社会教育委員の会議議長 独立行政法人国立青少年教育振興機構研究紀要編集協力委員 独立行政法人国立青少年教育振興機構評価委員 仙台市青葉区区民と創るまち評価委員会委員長 仙台市放課後子どもプラン推進委員会委員長 宮城県教育委員会豊かな体験活動推進事業に係る推進協議会委員 NPO 法人ハーベスト理事 宮城県教育委員会協働教育運営会議座長 国立教育政策研究所生涯学習センター等の新たな役割に関する調査研究委員会委員 国立磐梯青少年交流の家小学校長期自然体験活動モデルプログラム開発事業企画委員 宮城県教育委員会 地域資源を活用した青少年の体験活動運営会議議長 宮城県教育委員会 自然体験指導者養成事業運営委員会委員 独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の課題に対応した体験活動推進事業」事業運営会議委員		

国立那須甲子青少年自然の家 大学と那須甲子青少年自然の家との連携
促進会議委員

富谷町地域と学校をつなぐ実行委員会委員

所属	人間科学科	職名	教授	氏名	吉田 信彌	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	<p>〈講義〉 論述能力の向上</p> <p>〈演習〉 人間科学演習の学生の学会での発表</p> <p>〈講義〉 読む力の向上。</p> <p>〈演習〉 基礎演習A</p>	<p>1980年～2009年</p> <p>1991年～2009年</p> <p>2001年～2009年</p> <p>2007年～2009年</p>	<p>長文の論述力を身につけさせるために、試験の解答はB4の試験用紙一杯になるほどで正解になるような問題をだす。採点に手間取るのと学生が授業選択を嫌がる傾向はあるようだが、大学教育に必須の課題として継続した。</p> <p>人間科学3年演習と4年次総合研究の内容を学会で学生に発表させてきた。学部学生による質の高い発表で学会員から評価を得るレベルに総合研究を仕上げさせた。</p> <p>文章になったテキストを配布し、それを読ませ、そこから試験をだし、読むことを必須とする。テキストの内容にオリジナルな学説を加味して、2006年に中公新書として出版した。2008年からは統計の理解が現代人の必須の教養と位置づけ、教科書に使用でき、かつ一般向けになるテキストを作成した。</p> <p>学科で取り決めた教育内容にITへなじませることを加えた。携帯メールに慣れてしまった学生に電子メールの書式は別であると教育し、演習の発表などでも電子メールとレジメを添付ファイルで配布させた。成果の一部を「教養学部ブログ」で公表させた。</p>				
2	<p>自作ホームページで一般向け論文を公開し、教材として提供</p> <p>中公新書『事故と心理』を出版</p> <p>交通統計の見方に関する連載を「人と車」に執筆し、高齢者の交通安全についての教科書にする。人間科学科発達Ⅱ及び人間科学演習の教科書に活用した</p> <p>人の心の「なぜ」に迫る【交通心理学】 岩波書店編集部（編）『いま、この研究がもしろい Part2』の分担執筆</p> <p>交通統計の見方に関する連載を「自動車学校」に執筆し、若者と初心運転者の交通安全についての教科書にする。人間科学科発達Ⅱ及び人間科学演習の教科書に活用した</p>	<p>2001年～2006年</p> <p>2006年8月25日</p> <p>2007年5月～2008年6月</p> <p>2007年11月20日</p> <p>2008年10月～2009年4月</p>	<p>授業の受講生や交通安全に関わる人が閲覧できるようにした。</p> <p>学術的色彩が強い出版物が、授業の教科書としても活用できる。</p> <p>研究業績欄でもあるので、その欄にも記載した。</p> <p>高校生向けに心理学案内の入門書を岩波書店編集部の依頼に応じて執筆した。高校への出張講義、オープンキャンパスの模擬授業に活用した。</p> <p>研究業績欄でもあるので、その欄にも記載した。</p>				
3	<p>東北学院大学 FD 推進委員会主催第4回FD講演会出席</p>	<p>2007年11月15日(木) 15時～17時15分</p>	<p>演題「京都産業大学におけるFD活動と教員評価制度」講師河野勝彦京都産業大学副学長</p>				
4	<p>宮城県警などの要請で、警察学校、自動車教習所、交通安全母の会講義</p>	<p>2005年2月, 6月, 7月, 2006年9月に講義</p>	<p>交通心理学の実践的な面を求めに応じて、警察官や教習所指導員などに講義する。</p>				

上級運転適性検査指導者 教養・研修会講師 (宮城県警交通部運転教育課主催)	2007年2月23日	指定教習所の指導員に運転適性と適性検査について講義する。
胆江病院講演	2007年9月11日	「事故の心理と医療過誤」とのタイトルで病院職員への教養講座として講演した。
泉松陵高校への出前授業	2007年11月30日	大学からの派遣で「人の心の「なぜ」に迫る【交通心理学】」のタイトルで授業をした。
上級運転適性検査指導者 教養・研修会講師 (宮城県警交通部運転教育課主催)	2008年2月18日	指定教習所の指導員に運転適性と適性検査について講義する。
宮城学院高校への出前授業	2008年3月14日	大学からの派遣で「人の心の「なぜ」に迫る【交通心理学】」のタイトルで授業をした。
上級運転適性検査指導者 教養・研修会講師 (宮城県警交通部運転教育課主催)	2008年3月21日	指定教習所の指導員に運転適性と適性検査について講義する。
指定自動車教習所職員「講師」講習	2009年5月11日	指定教習所の講師を務める職員に「少子高齢化時代に向けた教習について」講演をした。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 事故と心理 なぜ事故に好かれてしまうのか	単著	2006年8月	中公新書		
高齢者の行動と事故 日本応用心理学会(編) 『応用心理学事典』の分担執筆	共著	2007年1月	丸善	日本応用心理学会(編)	536～537頁
飲酒・疲労と事故 日本応用心理学会(編) 『応用心理学事典』の分担執筆	共著	2007年1月	丸善	日本応用心理学会(編)	538～539頁
自動車事故 産業・組織心理学会(編) 『産業・組織心理学ハンドブック』	共著	2009年7月	丸善	産業・組織心理学会(編)	340～343頁
Ba 重複作業反応検査の誤反応	単著	2006年1月(2005年)	交通心理学研究, Vol. 21, No. 1		1～18頁
Bb 「安全のマネジメント」を企画して	単著	2005年1月(2004年)	産業・組織心理学研究 Vol. 18, No. 1		33～34頁
C 安全適性検査の妥当性に関する研究	単著	2005年3月	交通安全調査研究振 興助成報告書(一般研 究), Vol. 20, 2005(佐 川交通社会財団)		121～137頁
D 安全通勤ここがポイント	単著	2006年4月	安全衛生のひろば(中 央労働災害防止協会)		9～18頁
事故の心理学(1) 歩道を走る自転車	単著	2006年11月	聖教新聞		8面
事故の心理学(2) 見通しの悪い交差点	単著	2006年11月	聖教新聞		8面

事故の心理学(3) 飲酒運転	単著	2006年12月	聖教新聞		9面
事故の心理学(4) 歩行中の事故	単著	2006年12月	聖教新聞		7面
中公新書『事故と心理』(2006年8月26日発行)を著して	単著	2007年4月	日本応用心理学会 ニュースレター(日本 応用心理学会)		6~7頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者にはなぜ出会い頭の事故が多いのか①	単著	2007年5月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第5号		14~17頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者にはなぜ出会い頭の事故が多いのか②	単著	2007年6月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第6号		22~25頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者にはなぜ出会い頭の事故が多いのか③	単著	2007年7月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第7号		20~22頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者にはなぜ出会い頭の事故が多いのか④	単著	2007年8月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第8号		20~22頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者にはなぜ出会い頭の事故が多いのか⑤	単著	2007年9月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第9号		24~27頁
事故データの見方読み方考え方 高齢期の事故 なぜ, 男女はかくも違うのか(1)	単著	2007年10月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第10号		21~23頁
事故データの見方読み方考え方 高齢期の事故 なぜ, 男女はかくも違うのか(2)	単著	2007年11月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第11号		26~28頁
人の心の「なぜ」に迫る【交通心理学】岩波書店編集部(編)『いま, この研究がおもしろい Part2』の分担執筆	共著	2007年11月	岩波書店(岩波ジュニア新書)	岩波書店編集部	45~64頁
事故データの見方読み方考え方 高齢期の事故 なぜ, 男女はかくも違うのか(3)	単著	2007年12月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2007年第43巻, 第12号		24~26頁
事故データの見方読み方考え方 高齢期の事故 なぜ, 男女はかくも違うのか(4)	単著	2008年1月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2008年第44巻, 第1号		20~23頁
事故データの見方読み方考え方 高齢期の事故 なぜ, 男女はかくも違うのか(5)	単著	2008年2月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2008年第44巻, 第2号		38~41頁
事故データの見方読み方考え方 高齢期の事故 なぜ, 男女はかくも違うのか(6)	単著	2008年3月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2008年第44巻, 第3号		42~45頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者はいかにして事故を避けるのか(1)	単著	2008年4月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2008年第44巻, 第4号		18~21頁

事故データの見方読み方考え方 高齢者はいかにして事故を避けるのか(2)	単著	2008年5月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2008年第44巻, 第5号	22~24頁
事故データの見方読み方考え方 高齢者はいかにして事故を避けるのか(3)		2008年6月	(財)全日本交通安全協会, 人と車, 2008年第44巻, 第6号	18~21頁
若者の事故・運転傾向を考えよう1 運転免許統計を読み解く	単著	2008年10月	(社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 自動車学校, 第44巻第10号(通巻511号)	32~37頁
若者の事故・運転傾向を考えよう2 年齢別・性別の統計を読み解く	単著	2008年11月	(社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 自動車学校, 第44巻第11号(通巻512号)	44~50頁
若者の事故・運転傾向を考えよう3 年齢別の免許人口統計を読み解く	単著	2008年12月	(社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 自動車学校, 第44巻第12号(通巻513号)	44~49頁
若者の事故・運転傾向を考えよう4 若い初心者ほど危ないという統計を読み解く	単著	2009年2月	(社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 自動車学校, 第45巻第2号(通巻515号)	45~50頁
若者の事故・運転傾向を考えよう5 一歳の違いが大きな差となる統計を読み解く	単著	2009年3月	(社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 自動車学校, 第45巻第3号(通巻515号)	42~47頁
若者の事故・運転傾向を考えよう6 若者と自動車の関係を読み解く	単著	2009年4月	(社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 自動車学校, 第45巻第4号(通巻515号)	60~66頁
E 交通心理学は常識に挑戦する	単著	2008年3月	人間情報学研究, 第12巻, 2007年	97~98頁
吉田ゼミ紹介	単著	2009年7月	季刊教養学部, 2009 No. 9 (東北学院大学教養学部)	24~25頁
F となりの車線はなぜスイスイ進むのか? トム・ヴァンダービルト著・酒井泰介訳	単著	2008年12月	公明新聞4面	
G エアバッグが1990年代の死亡事故減少と事故増加へ及ぼした影響	単著	2005年6月	日本人間工学会第46回大会	
エアバッグは死亡事故率を低下させたか?	単著	2005年8月	東北心理学会第59回大会	

運転年齢と事故率の推移	共著	2005年10月	日本人間工学会関東支部第35回大会卒業研究発表会	浅野直人 残間史子 瀬川郁恵 高橋美帆 早田 梓 吉田信彌
免許取得経過後の経過年数と年齢が自動車事故に及ぼす影響に関するコーホート研究	共著	2005年10月	日本人間工学会関東支部第35回大会卒業研究発表会	浅野直人 残間史子 瀬川郁恵 高橋美帆 早田 梓 吉田信彌
若年層の死亡事故率と死者率の推移	共著	2006年6月	日本交通心理学会2006年度大会(第71回)	浅野直人 残間史子 瀬川郁恵 高橋美帆 早田 梓 吉田信彌 佐藤 伸
若年の死亡率低下と車の安全性向上の関係	共著	2006年6月	日本交通心理学会2006年度大会(第71回)	浅野直人 残間史子 瀬川郁恵 高橋美帆 早田 梓 吉田信彌 佐藤 伸
免許取得後の経過年数と年齢が自動車事故に及ぼす影響に関するコーホート研究	共著	2006年6月	日本交通心理学会2006年度大会(第71回)	浅野直人 残間史子 瀬川郁恵 高橋美帆 早田 梓 吉田信彌 佐藤 伸
事故の心理と犯罪	単著	2007年3月	日本犯罪心理学会東北地区研究会	
自動車運転者が18歳か19歳かの差異について	単著	2007年6月	日本交通心理学会第72回大会	
世代間意識分析に基づく交通事故死者数減少要因に関する研究	共著	2007年11月	第27回交通工学研究発表会	萩原亨以下7名の共同研究者と4名の研究協力者との共同発表
高齢運転者と高齢歩行者・自転車との事故の統計分析	共著	2007年11月	日本人間工学会関東支部第37回大会・卒業研究発表会	学部学生(3年ゼミ生)10名との共同発表
高齢運転者はいかにして子供との事故を避けるかー昼夜別, 車種別, 男女別の事故統計	共著	2007年11月	日本人間工学会関東支部第37回大会・卒業研究発表会	学部学生(3年ゼミ生)10名との共同発表

高齢運転者の補償行動	単著	2008年9月	日本心理学会第72回大会		1356頁
世代間意識分析に基づく交通事故死者数減少要因に関する研究(2)	共著	2008年11月	第28回交通工学研究発表会	萩原亨以下7名の共同研究者と4名の研究協力者との共同発表	
事故統計からみた18歳と19歳の相違	共著	2008年11月	日本人間工学会関東支部第38回大会・卒業研究発表会	学部学生(3年ゼミ生)5名との共同発表	
世代間意識分析に基づく交通事故死者数減少要因に関する研究(3)	共著	2009年11月	第29回交通工学研究発表会	萩原亨以下7名の共同研究者と4名の研究協力者との共同発表	
高等学校における盗難の研究ー環境と盗難物の特性の観点からー	共著	2009年12月	日本人間工学会関東支部第39回大会・卒業研究発表会	学部学生(3年ゼミ生)8名との共同発表	
若年層人口割合と交通事故の相関関係	共著	2009年12月	日本人間工学会関東支部第39回大会・卒業研究発表会	学部学生(4年ゼミ生)5名との共同発表	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
日本損害保険協会から日本交通心理学会への委託研究	2005年	共同	高齢ドライバーの安全対策に関する研究
東北学院個別・共同研究助成	2005年	個別	若年層と高齢者層の交通事故多発傾向の推移を独自の事故統計にもとづき分析した。
(社)交通工学研究会 2007年度自主研究	2007年～2009年	共同・死亡事故減少要因分析グループの委員	「世代間意識分析に基づく交通事故死者数減少要因に関する研究」で9名との共同研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

裁判への証人召喚	交通心理学の専門家として松江地方裁判所に証人として召喚され、出廷した(2006年2月)。
ホームページを通しての交通安全活動	ホームページに交通安全を解説したコーナーを作成する。それを保険会社AIUが2006年から活用することに同意した。
安全の普及活動	読売新聞インタビュー(2006年11月14日東京版夕刊4面に掲載、一部地域は翌日朝刊に掲載)
SJ(本田技研安全運転普及部刊行)2007年1月号にて研究紹介記事掲載	自著『事故と心理』(中公新書)の紹介と研究についてのインタビュー記事。

Zone (全トヨタ労連刊行) 2007年1月号に「飲酒運転の心理」を解説	インタビューされる形で飲酒運転の危険性と自著を紹介する記事にアドバイザーとして登場。掲載頁は24～26。
河北新報「研究ノート拝見」の欄に掲載(2007年1月16日)	これまでの研究内容の紹介。
「ナースビーンズ・スマートナース」2007年9月号特集2 ナースに役立つソーシャルスキルのインタビュー掲載	「交通心理学者吉田信彌さんに聞いた私たちが知っておきたい、事故、ヒヤリ、ハットを起こしてしまう人間の特性」とのタイトルで、特集記事のインタビューに応じた。「スマートナース」は看護師向けの総合雑誌。
上毛新聞(2007年9月23日付14面)交通安全特集③の記事作成に協力	「サインポスト 幼児交通安全だより」(1996年9月号)の掲載した評論(現在、吉田のホームページにアップ)をベースに記事を書きたいとの要望に応じて、電話取材を受け、子供の歩行中事故、自転車事故、ドライバー一般の危険な心性を解説した。
まなびのめ 創刊準備2号(2008年4月) 研究者インタビューに研究紹介記事掲載	仙台の大学のイベントを紹介する「まなびのめ」 http://www.sasappa.co.jp/manabinome/ 〈創刊準備2号研究者インタビュー〉に研究所感を述べ、最近の取り組みを紹介した。
日本人間工学会評議委員	1995年から2009年度まで評議員
日本交通心理学運営委員・学会誌編集委員・編集長	運営委員は1993年から、編集委員長は1995年から、2004年から編集委員長を現在まで務めている。
独立行政法人自動車事故対策機構 適性診断業務検討委員会委員	2009年2月から就任

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	稲垣 忠	大学院の授業 担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要				
1	視聴覚機器を用いた教材提示	2003年4月～		PowerPointによる教材を開発し、視聴覚教室にて講義内容の提示を行った(すべての担当科目)				
	参加型授業の実践	2003年4月～		ポスターセッション、ワークショップ等参加型の学習活動を取り入れ、学習者の主体的な参加を促す指導を実施した(教育工学、教育方法)				
	講義内容のWeb公開	2003年4月～		シラバス、講義資料等をWeb上に公開し、学生の復習、欠席者への支援を行った(すべての担当科目)				
	メールによる学生からのコメント収集	2003年4月～		毎授業後に学生からの授業についての感想、意見、質問等のコメントをパソコンまたは携帯電話のメールで収集し、その結果に対するフィードバックを実施した(コンピュータ科学、教育方法)				
	映像ライブラリの構築	2003年4月～		教材用に放送番組を収集し、DVD化したライブラリを構築している。教育方法、コンピュータ科学、教育工学等の講義用の放送教材として活用している。				
	eラーニングサイトの構築	2005年4月～		教材公開、コメントの収集等が行えるeラーニング用の学習支援システムmoodleを導入し、情報提供の効率化と学習評価との統合を図った(全担当科目)				
	他大学との交流学习	2005年9月～		「教育工学」において、メディアリテラシーの育成方法とプロジェクト学習の体験を目的とした、大学間でビデオ作品を制作し、交流する試みを行った。群馬大学、神田外語大学の教員と連携し、ビデオ作品の交換と、テレビ会議による交流を実施した。				
3	第1回FD研修会シンポジウムにて発表	2005年6月11日		「教養学部授業評価にみる授業改善の取り組み」と題し、教養学部における授業評価の取り組みの特徴、2004年度の実施結果の概要について報告した。また、自身の取り組みとして学生との双方向の授業の取り組みとして、「教育方法」におけるグループによる教材制作のプロジェクト学習、eラーニングサイトによるコメントの収集と学生間の交流の取り組みについて紹介した。2005年10月31日発行の東北学院大学FDニュースvol.3(16～17頁)にまとめて報告している。				
II 研究活動								
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称		著者・著録 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A	すぐできる! 教育ブログ活用入門	共著	2006年6月		明治図書		中川一史 稲垣 忠	

デジタル・コンテンツの活用を支援するために	共著	2008年8月	日本文教出版, ICT教育のデザイン	水越敏行 久保田賢一 編	24頁
インターネットを活用した交流学习	共著	2008年8月	日本文教出版, ICT教育のデザイン	水越敏行 久保田賢一 編	18頁
情報社会と変わる学校の学び	共著	2009年7月	東北大学出版会, 人文社会情報科学入門	関本英太郎 編	167~185頁
Ba					
中学校ロボットコンテストにおける Jr 特許データベースシステムの開発	共著	2005年2月	日本産業技術教育学会第47巻4号	村松浩幸 土田恭博 稲垣 忠	281~287頁
NHK デジタル教材のアクセスログ分析・ポータルフォリオ収集システムの開発	共著	2005年3月	日本教育工学会誌 28 (Suppl.)	市川 尚 森山了一 宇治橋祐之 稲垣 忠 鈴木克明	89~92頁
携帯電話の教育利用と児童の受容態度についての調査	共著	2005年7月	教育システム情報学会誌 Vol. 22 No. 3	稲垣 忠 小林祐紀 中川一史	188~196頁
学校間交流学习のための授業設計モデルの開発	共著	2006年9月	日本教育工学雑誌 30 (2)	稲垣 忠 内垣戸貴之 黒上晴夫	103~112頁
Development of an Instructional Design Model for Inter-School Collaborative Learning	共著	2007年	Educational Technology Research (30) 1-2	T. Inagaki T. Uchigaito H. Kurokami	9頁
Worksheets for designing Inter-School Collaborative Learning based on the Instructional Design Model	単著	2007年	International Journal for Educational Media and Technology (1) 1		12頁
算数科授業での児童の説明場面における電子黒板の影響	共著	2008年	日本教育工学会論文誌 (32) Suppl.	稲垣 忠 嶺岸正勝 佐藤靖泰	109~112頁
Bb					
教養学部「学生による授業評価」実施概要	共著	2005年	東北学院大学教育研究所報告集	教養学部授業評価委員会	71~97頁
学校間交流学习の授業設計モデルに対する評価手法の検討	単著	2005年11月	日本教育工学会研究報告集: JSET05-6		11~16頁
デジタル教材活用支援サイトにおける教材評価基準の分析	共著	2005年11月	日本教育工学会研究報告集: JSET05-6	亀井美穂子 稲垣 忠	17~20頁
教師のデジタル教材評価の重要性に対する意識調査	共著	2007年	日本教育工学会研究報告集, JSET07-5	亀井美穂子 稲垣 忠	4頁
学校間交流学习におけるコミュニケーション力の評価モデルの検討	共著	2007年	日本教育工学会研究報告集, JSET07-5	稲垣 忠 佐藤麻衣子 田村直也	6頁

国際交流学習支援プログラムにおける 交流支援 Web サイトの内容分析	共著	2007 年	日本教育工学会研究 報告集, JSET07-2	笹尾真剛 稲垣 忠	6 頁
GBS に基づく小学生向け携帯電話モ デル教材の開発	共著	2007 年	信学技報 ET2007-29	稲垣 忠 林向 達 中川一史	4 頁
協同制作による国際交流プロジェクト の実践支援ワークシートの開発	共著	2008 年	日本教育工学会研究 報告集, JSET08-5	稲垣 忠 清水和久 塩飽隆子	141~146 頁
小中学校教員の ICT 機器活用実践と ICT 活用指導力に関する調査	共著	2008 年	信学技報, ET2008-71	藤谷 哲 堀田博史 稲垣 忠 佐藤弘毅 井口磯夫 佐藤喜信 山田智之	77~80 頁
第19回教育システム若手の会報告ー夢 のある教育工学研究のタネを見つけよ う	共著	2009 年	人工知能学会先進的 学習科学と工学研究 会, 55	太田光一 稲垣 忠 中村勝一 今野文子 倉山めぐみ 浦尾 彰 林 佑樹 大山牧子 諸岡由桂	41~46 頁
思考力の育成を意図した番組視聴シ ートの開発	共著	2009 年	日本教育メディア学 会研究会論集	稲垣 忠 千葉翔大 菅原弘一 柳沼伸明 亀井美穂子 坂口 真	9~16 頁
小中学校の普通教室における複数の ICT 機器の組み合わせによる大型提示 装置の活用実践とその効果に関する分 析	共著	2009 年	日本教育工学会研究 報告集, JSET09-4	佐藤弘毅 堀田博史 藤谷 哲 成瀬 啓 稲垣 忠 井口磯夫 佐藤喜信 山田智之	1~4 頁
D 教養学部授業評価にみる授業改善の取 り組み	単著	2005 年	東北学院大学 FD ニュース vol. 3		16~17 頁
授業をちょっとおもしろくする かん たん IT 活用法	単著	2005 年 4 月~2006 年 3 月	授業づくりネット ワーク, 学事出版		24 頁
学校間交流学習の実際	単著	2008 年	教育と医学, 2008 年 11 月号, 慶應技術大 学出版会		11 頁
G Theoretical Framework to practice collaborative learning among distant schools	単著	2005 年 7 月	HCI International 2005, July 22-27, 2005, Las Vegas, Nevada USA		6 頁

学校現場における携帯電話の活用方法と児童の態度変容	共著	2005年9月	日本教育工学会第21回全国大会講演論文集	稲垣 忠 小林祐紀 中川一史 竹内 勉 山本和人	137~140頁
学校間交流学習のための授業設計モデルの評価	単著	2005年9月	日本教育工学会第21回全国大会講演論文集		237~238頁
「ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業 (neco)」における教師間コミュニティサイトの設計と試用	共著	2005年9月	日本教育工学会第21回全国大会講演論文集	井ノ上憲司 稲垣 忠 市川 尚 鈴木克明	287~288頁
自然言語による検索技術を用いた中学生向け学習用特許データベースの開発	共著	2005年9月	日本教育工学会第21回全国大会講演論文集	村松浩幸 福田久稔 石沢 朋 稲垣 忠	733~734頁
小学校における携帯電話活用の授業事例の分析	共著	2005年9月	日本教育工学会第21回全国大会講演論文集	中川一史 小林祐紀 稲垣 忠 竹内 勉 山本和人	829~830頁
Evaluation of educational digital materials in support sites	共著	2005年9月	Learning Media and Technology for Future Education and Training KAEIM2005, September8-11, 2005, Busan, Korea	M. Kamei T. Inagaki	96~99頁
Analysis of practices using cellular phones in elementary school	共著	2005年9月	Learning Media and Technology for Future Education and Training KAEIM2005, September8-11, 2005, Busan, Korea	H. Nakagawa Y. Kobayashi T. Inagaki T. Takeuchi K. Yamamoto K. Rin	306~312頁
Evaluation on instructional design model for inter-school collaborative learning	単著	2005年9月	Learning Media and Technology for Future Education and Training KAEIM2005, September8-11, 2005, Busan, Korea		306~312頁
Pupils' Attitudes towards Using Cellular Phones for Learning Activities	共著	2005年12月	ICCE2005	T. Inagaki Y. Kobayashi H. Nakagawa	690~693頁
Evaluation Criteria of Digital Educational Materials in Support sites	共著	2006年6月	EDMEDIA 2006 June 26-30, Orland, Florida, USA.	M. Kamei T. Inagaki K. Inoue	75~79頁
Applying the Instructional Design Model for Inter-school Collaborative Learning to real practices	単著	2006年7月	ICOME2006, July 18-20, 2006, Tokyo Japan		280~289頁

ネットワーク配信コンテンツ活用における普及促進モデルの構築と評価	共著	2006年10月	第32回全日本教育工 学研究協議会全国大 会研究発表, C-03	稲垣 忠 情野 正	4頁
教員用コミュニティサイトの成果と今後の課題	共著	2006年10月	第32回全日本教育工 学研究協議会全国大 会研究発表, C-06	井ノ上憲司 稲垣 忠 鈴木克明	4頁
海外の学習コンテンツ活用支援が示唆するもの	共著	2006年10月	第32回全日本教育工 学研究協議会全国大 会研究発表, C-08	亀井美穂子 森田裕介 稲垣 忠	4頁
ネットワーク配信コンテンツ事業における評価枠組みの開発	共著	2006年10月	第32回全日本教育工 学研究協議会全国大 会研究発表, C-09	稲垣 忠 亀井美穂子 今井亜湖 姫野完治 小柳和喜雄 森田祐介 井ノ上憲司 十河秀敏 南部昌敏 鈴木克明	4頁
ワークシートを用いた学校間交流学習の授業設計モデルの評価	単著	2006年11月	第22回日本教育工学 会全国大会発表論文 集		77~80頁
3つの柱立てに沿った中学校技術科での「情報」の学習モデルに対する教員からの評価の分析と授業計画例の提案	共著	2006年11月	第22回日本教育工学 会全国大会発表論文 集	村松浩幸 松岡 守 堀田龍也 竹野英敏 長谷川元洋 中西康雅 丸山剛史 森山 潤 稲垣 忠 木下 龍	159~162頁
Development of a Community Site for Teachers to Share Digital Learning Materials	共著	2007年	EDMEDIA2007 Proceedings CD-ROM, June 25-29, Vancouver, BC, Canada, pp. 1150-1156	K. Inoue T. Inagaki M. Kamei	7頁
Development of a Model Plan for Joint Production for International Understanding Education	共著	2007年	5th International Conference for Media in Education, pp. 37-43	T. Inagaki K. Shimizu A. Shiwaku K. Kubota	7頁
電子黒板の普及モデルの構築に向けた活用状況の調査	共著	2007年	日本教育工学会第23回 全国大会, pp. 107-110	稲垣 忠 豊田充崇 永田智子 島田 誠 森下誠太 梅香家絢子 赤堀侃司	4頁
国際交流学習の普及を目的とした教員研修ワークショップのグランドデザイン	共著	2007年	第14回日本教育メ ディア学会年次大会 発表論文集, pp. 92-95	藤谷 哲 稲垣 忠	4頁

協同制作による国際交流学習のための 単元モデルの開発	共著	2007年	第14回日本教育メ ディア学会年次大会 発表論文集 pp. 88-91	稲垣 忠 清水和久 塩飽隆子	4頁
電子黒板を活用した授業実践事例の分 析とその効果の検証	共著	2007年	第33回全日本教育工 学研究協議会全国大 会C-02	豊田充崇 上 太一 稲垣 忠 永田智子 佐藤喜信 梅香家絢子 赤堀侃司	4頁
電子黒板の普及活用モデルの開発と評 価	共著	2007年	第33回全日本教育工 学研究協議会全国大 会I-04	永田智子 豊田充崇 稲垣 忠 佐藤喜信 梅香家絢子 赤堀侃司	4頁
Development and evaluation of web-based learning material about appropriate use of mobile phones for elementary school pupils	共著	2008年	EDMEDIA2008 Proceedings CD-ROM, pp. 5970-5978	T. Inagaki K. Rin H. Nakagawa	9頁
Video Learning Materials for Teacher Training Sessions to Provide Understanding of International Education	共著	2008年	EDMEDIA2008 Proceedings CD-ROM, pp. 3413-3415	S. Fujitani T. Inagaki	3頁
Development of a Utilization Model to Promote the Use of Interactive Whiteboards	共著	2008年	ICoME2008, 236-243	T. Inagaki T. Nagata M. Toyoda A. Umegae Y. Sato K. Akahori	8頁
Development of a curriculum for international collaborative learning at elementary schools -The characteristics and outcomes of cooperation among distant pupils	共著	2008年	ICoME2008, 65-75	K. Shimizu N. Mashiko T. Inagaki A. Shiwaku	11頁
実践研究におけるモデル開発の役割	単著	2008年	日本教育工学会第24 回全国大会発表論文 集, pp. 15-18		4頁
自律型国際交流学習における学習プロ グラムの特徴とその効果	共著	2008年	日本教育工学会第24 回全国大会発表論文 集, pp. 273-274	清水和久 益子典文 稲垣 忠 塩飽隆子	2頁
International Understanding through Art Mile International Intercultural Mural Exchange Project	共著	2008年	32nd InSEA World Congress 2008, program p. 398	A. Shiwaku T. Inagaki K. Shimizu	10頁
学校放送番組「見える歴史」を活用す るためのワークシートの設計	共著	2008年	第34回全日本教育工 学研究協議会全国大 会, H-05	菅原弘一 柳沼伸明 稲垣 忠 千葉翔大 坂口 真	4頁

電子黒板活用モデルと実践事例	共著	2008年	第34回全日本教育工 学研究協議会全国大 会, K-02	永田智子 上 太一 豊田充崇 稲垣 忠 佐藤喜信 梅香家絢子 赤堀侃司	4頁
Evaluation of an Interactive Whiteboards Utilization Model.	共著	2009年	Proceedings of Society for Information Technology and Teacher Education International Conference 2009	T. Nagata T. Inagaki M. Toyoda A. Umegae Y. Sato K. Akahori	1036～1041 頁
A Conceptualization of Features Which Guarantee Teacher Autonomy in Autonomy Type International Interchange Learning	共著	2009年	ICoME2009	K. Shimizu N. Mashiko T. Inagaki A. Shiwaku	11頁
言語活動の深化を促す学校間交流学習 の授業開発と評価方法の検討	単著	2009年	日本教育工学会第25 回全国大会発表論文 集		221～222頁
家庭と学校の連携を促進する情報モラ ル授業プランの開発	共著	2009年	第16回日本教育メ ディア学会年次大会 発表論文集	稲垣 忠 三宅貴久子 赤堀侃司 山本雅之 中野 誠	2頁
H 学習者	共訳	2007年9月	北大路書房, インス トラクショナルデザ インの原理	鈴木克明 岩崎 信 監訳	27頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科研費若手研究(B)	2004-2005年度	個別	学校間交流学習の普及 を目的とした授業設計 モデルの開発研究
科研費基盤研究(B)	2005～2007年度	共同	高次思考能力の育成を めざす授業設計法と評 価に関する研究
科研費基盤研究(B)	2005～2008年度	共同	コミュニケーションを 重視したデジタル学習 環境に関する実証的研 究
科研費基盤研究(C)	2007～2009年度	共同	地域メディアの連携に よる地域間コミュニ ケーション推進に関す る実践的研究
科研費若手研究(B)	2008～2010年度	個別	情報社会に対応したコ ミュニケーション力育 成のための実践支援・評 価システムの開発

IV 学会等及び社会における主な活動	
2003年4月～2007年6月	日本教育工学会研究会委員
2003年～2005年, 2007年～2008年	放送教育研究会全国大会 指導講師
2004年4月～	仙台市教育委委員会 情報教育研究推進委員会委員
2004年4月～2006年3月	みやぎ IT 教育推進協議会 プロジェクト委員
2004年4月～2007年3月	NHK 学校放送番組「たったひとつの地球」番組委員
2004年4月～2007年3月	文科省ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業 評価推進委員
2005年4月～2007年6月	日本教育工学会研究会幹事
2005年4月～2008年3月	放送教育研究会東北ブロック大会 指導講師
2006年10月～	教育メディア学会研究会委員
2006年10月～	教育工学研究協議会理事
2006年11月～2007年3月	文科省委託事業 新教育システム開発プログラム「電子黒板普及推進に資する調査研究」副委員長
2007年4月～2008年3月	文科省委託事業 先導的教育情報化推進プログラム「電子黒板普及推進に資する調査研究」副委員長
2007年6月～	日本教育工学会理事会評議委員
2007年12月～2008年3月	文科省「学習情報提供体制の充実に関する検討会」委員
2008年4月～2009年3月	仙台市教育委員会生徒指導問題等懇談会 委員
2008年4月～	仙台市立向陽台小学校学校評議員
2008年4月～	文科省委託事業「デジタルテレビの効果的な活用に関する実践研究」企画委員
2008年4月～	文科省委託事業「デジタル指導案を用いた ICT 機器の活用に関する調査研究」委員
2009年6月～	日本教育工学会企画委員会委員
2009年7月～	宮城県検証改善委員会委員
2009年9月～	教育メディア学会研究会委員

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	大竹 恵子	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業理解の促進	2005年4月～2008年12月	講義では、パワーポイントを用いて、画像や図表等、情報（資料）の効果的な提示を心がけている。また、ビデオ等の教材や授業時間内での簡単なレポート課題を取り入れ、授業内容の理解を高めている。				
	心理学の研究技法を効果的に習得させるために、自作マニュアルを用いた実習授業を複数教員により体系的に運営している	2006年4月～2009年12月	2年生向けの心理学に関する実験実習授業において、担当教員の綿密な打ち合わせの上で作成されたマニュアルを用い、心理学各領域の代表的・基本的なデータ収集・分析技法を体験的に学習させている。授業後、学生が提出したレポートについて、予め公開してある基準に従って丁寧に添削し、コメントをつけて返却する。学生には、修正したレポートの提出を義務付けている。全体をシステム化して運営しているのが特徴である。				
4	高校への出前授業の講師を務めた	2005年1月9日	宮城県富谷高等学校の2年生に対して、模擬授業を行い、ゼミ課題研究中間発表会に出席してコメントした。				
	本学オリエンテーション・リーダー・トレーニングの講師	2007年3月8日	本学オリエンテーション・リーダー・トレーニングにおいて「リーダーとしての心構えと新生生に対する指導方法」というテーマのもと、学生を対象に、講義とロールプレイなどの実践教育を行った。				
	総合推進健康財団主催の農林水産省共済組合での研修会講師を務めた	2007年12月11日	総合推進健康財団主催の農林水産省共済組合での研修会の講師として、県の職員を対象に「セルフ・ストレス・コントロール」という講義・実践研修会を1時間半行った。				
	本学オリエンテーション・リーダー・トレーニングの講師	2008年3月5日	本学オリエンテーション・リーダー・トレーニングにおいて「リーダーとしての温かい対応」というテーマのもと、学生を対象に、講義とロールプレイなどの実践教育を行った。				
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年3月15日	私立宮城学院高等学校の1年生を対象に「大学教員による授業を通して、学問の広がりや学びのイメージをつかみ、自分の進路目標に向けての取り組みを考える」という進路指導に関する時間設定のもと、しあわせの心理学という題目で1時間の模擬授業を行った。				
	宮城県教育委員会での研修会講師を務めた	2008年10月2日	宮城県教育委員会教育研修センター主催の平成20年度ストレスマネジメント研修の講師として、宮城県内の小学校・中学校・高等学校教員を対象に「こころ」を育む教育をめざして一感情に関する能力の重要性とその意義というタイトルで2時間半の研修会を行った。				

宮城県教育委員会での研修会講師を務めた	2009年10月1日	宮城県教育委員会教育研修センター主催の平成21年度ストレスマネジメント研修の講師として、宮城県内の小学校・中学校・高等学校教員を対象に「こころ」を育む教育をめざして一感情に関する能力の重要性とその意義というタイトルで2時間半の研修会を行った。
高校への出前授業の講師を務めた	2009年11月20日	宮城県泉松陵高等学校の1年生を対象に「進路目標等に関する情報把握と進路に対する動機づけを高めるため、大学教員による授業を通して、自分の進路目標を考える」という進路指導の一環として、依頼のあった出張講義を行った。内容は、しあわせの心理学という題目で1時間の模擬授業を行った。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
心理学・臨床心理学入門ゼミナール 11章：健康と社会, 16章：行動療法の基礎, 25章：質問紙検査法	共著	2006年3月	北大路書房	島井哲志 池見 陽 (編)	93～99頁, 133～138頁, 224～229頁
ポジティブ心理学 6章: ポジティブ感情の機能と社会的行動	共著	2006年3月	ナカニシヤ出版	島井哲志 (編)	83～98頁
健康とくらしに役立つ心理学	共編	2009年4月	北樹出版	金政祐司 大竹恵子	1～195頁
Ba					
日本版生き方の原則調査票(VIA-IS: Values in Action Inventory of Strengths) 作成の試み	共著	2005年	心理学研究, 76号	大竹恵子 島井哲志 池見 陽 宇津木成介 C. Peterson M. E. P. Seligman	461～467頁
日本人大学生の人生満足感に関する探索的検討	共著	2005年	行動科学, 44(1)号	一言英文 松見淳子 大竹恵子	13～20頁
Happy people become happier through kindness : A counting kindnesses intervention	共著	2006年	Journal of Happiness Studies, 7号	K. Otake S. Shimai J. Matsumi K. Otsui B. L. Fredrickson	361～375頁
Convergence of character strengths in American and Japanese young adults	共著	2006年	Journal of Happiness Studies, 7号	S. Shimai K. Otake N. Park C. Peterson M. E. P. Seligman	311～322頁
学校適応アセスメントのための三水準モデル構築の試み	共著	2007年	教育心理学研究, 55号	大対香奈子 大竹恵子 松見淳子	135～151頁
日本人大学生の人生満足感に関する探索的検討	共著	2007年	行動科学, 44号	一言英文 松見淳子 大竹恵子	13～20頁

女子大学生の就職活動における情動知能の役割	共著	2007 年	経営行動科学, 20 号	島井哲志 大竹恵子 宇津木成介	317~324 頁
The meaningful life in Japan and the United States: Levels and correlates of meaning in life.	共著	2008 年	Journal of Research in Personality, 42号	M. F. Steger Y. Kawabata S. Shiami K. Otake	660~678 頁
Well-being を目指す社会心理学の役割と課題	共著	2009 年	対人社会心理学研究, 9 号	大坊郁夫 堀毛一也 相川充 安藤清志 大竹恵子	1~13 頁
G 喫煙獲得ステージに焦点をあてた予防のための介入	共著	2005 年 3 月	日本行動医学会第 11 回大会	大竹恵子 島井哲志	8 頁
日米の大学生における人生満足感について	共著	2005 年 5 月	日本感情心理学会第 13 回大会	一言英文 J. Kisling 松見淳子 大竹恵子	33 頁
大学生の就職活動期におけるポジティブ・ネガティブな感情イベント	共著	2005 年 5 月	日本感情心理学会第 13 回大会	竹島克典 松見淳子 大竹恵子	33 頁
主観的幸福感と日常経験のポジティブな記憶との関係	共著	2005 年 5 月	日本感情心理学会第 13 回大会	大竹恵子 島井哲志	34 頁
Relationship between subjective happiness and well-being among community population in japan	共著	2005 年 7 月	26th International Conference of Stress and Anxiety Research Society in Germany	K. Otake S. Shimai	39 頁
Character strengths and subjective happiness among community population in japan	共著	2005 年 7 月	26th International Conference of Stress and Anxiety Research Society in Germany	S. Shimai K. Otake	47 頁
日本版「人生の意味」尺度 (MLQ) の開発	共著	2005 年 8 月	日本ヒューマン・ケア心理学会第 7 回大会	島井哲志 大竹恵子	29~30 頁
看護師の情動知能：勤務年数，看護職に関する満足度との関係	共著	2005 年 8 月	日本ヒューマン・ケア心理学会第 7 回大会	大竹恵子 島井哲志 曾我祥子	31~32 頁
主観的幸福感と親切特性との関係	共著	2005 年 9 月	日本健康心理学会第 18 回大会	大竹恵子 島井哲志	188 頁
親切行動の介入による主観的幸福感の高揚	共著	2005 年 9 月	日本心理学会第 69 回大会	大竹恵子 島井哲志 松見淳子	231 頁
アメリカ在住日本人の食行動	共著	2005 年 9 月	日本心理学会第 69 回大会	島井哲志 大竹恵子 今田純雄	174 頁
ポジティブな感情の機能と対人行動	単著	2005 年 9 月	日本心理学会第 69 回大会		17 頁

喫煙防止教育におけるステージモデルの有用性と問題点	単著	2005年9月	日本心理学会第69回大会		57頁
日本の中学生における喫煙獲得ステージに焦点をあてた予防的介入:6ヵ月後の追跡調査から	単著	2005年10月	日本行動療法学会第31回大会		14頁
ポジティブ心理学から見た新しい「パーソナリティ」の提案—人間のポジティブな人格特性 (character strengths) について—	単著	2005年11月	日本パーソナリティ心理学会第14回大会		17~18頁
日本版 OHQ 尺度の開発(1) 信頼性と因子構造の検討	共著	2006年5月	日本感情心理学会第14回大会	島井哲志 大竹恵子	31頁
日本版 OHQ 尺度の開発(2) 併存的妥当性の検討	共著	2006年5月	日本感情心理学会第14回大会	大竹恵子 島井哲志	31頁
Meaning in life and subjective well-being in Japanese students	共著	2006年7月	27th International Conference of Stress and Anxiety Research Society in Greece	S. Shimai K. Otake	97頁
Emotional intelligence in nursing work: Comparison between newcomer and senior nurses in Japan	共著	2006年7月	27th International Conference of Stress and Anxiety Research Society in Greece	K. Otake S. Shimai S. Soga	113頁
小学校低学年児童におけるグループ遊び場面での仲間との相互作用の行動アセスメント(1)	共著	2006年9月	日本行動分析学会第24回大会	大対香奈子 藤田昌也 大竹恵子 松見淳子	89頁
小学校低学年児童におけるグループ遊び場面での仲間との相互作用の行動アセスメント(1)	共著	2006年9月	日本行動分析学会第24回大会	藤田昌也 大対香奈子 大竹恵子 松見淳子	90頁
人生における意義・希望と Health Locus of Control との関係	共著	2006年9月	日本健康心理学会第19回大会	大竹恵子 島井哲志 堀毛裕子	113頁
ポジティブ心理学研究の最前線(3)	単著	2006年11月	日本心理学会第70回大会		52頁
Affective Neuroscience for psychologists 6 ポジティブ・ニューロサイエンス	単著	2006年11月	日本心理学会第70回大会		58頁
ポジティブ感情がSelf・Otherに関する思考—行動レパトリーに及ぼす影響	共著	2006年11月	日本心理学会第70回大会	大竹恵子 島井哲志	990頁
情動知能尺度児童版の開発と信頼性・妥当性の検討	共著	2007年5月	日本感情心理学会第15回大会	皆川直凡 片瀬 力 大竹恵子 島井哲志	23頁
親切を評価する絵画テストの開発	共著	2007年5月	日本感情心理学会第15回大会	美村佳世 島井哲志 大竹恵子	23頁

非言語コミュニケーション技能とEQS 得点	共著	2007年5月	日本感情心理学会第 15回大会	宇津木成介 橋本由里 鈴木智草 島井哲志 大竹恵子	25頁
怒り・敵意・攻撃概念の測定—Mueller Anger Coping Questionnaire の特徴・ 測定概念とその作成—	単著	2007年8月	日本健康心理学会第 20回大会		11頁
日常場面における原因帰属と主観的幸 福感との関係	単著	2007年8月	日本健康心理学会第 20回大会		23頁
健康に関連した心理的特性を測定する ための質問項目の予備的検討	共著	2007年8月	日本健康心理学会第 20回大会	大芦 治 山崎久美子 島井哲志 大竹恵子	143頁
Education of smoking prevention in middle high school.	単著	2007年9月	The 3rd Asian Congress of Health Psychology 2007		8頁
ネガティブな要因のポジティブな生か し方	単著	2007年9月	日本心理学会第71回 大会		37頁
ポジティブ感情が自己と他者に関する 親切行動のレパトリーに及ぼす影響	単著	2007年9月	日本心理学会第71回 大会		899頁
ネガティブな要因のポジティブな生か し方(2) —ネガ・ポジ再考：心理臨床 および比較文化の知見を交えて—	共著	2008年9月	日本心理学会第72回 大会	細越寛樹 坂本真士 及川 恵 大竹恵子	3頁
well-being を目指す社会心理学の役割 と課題	単著	2008年9月	日本心理学会第72回 大会		10頁
日常生活に行動療法を活かす：行動理 論に基づいた一次予防の有用性—中学生 における喫煙防止教育とその効果—	単著	2008年11月	日本行動療法学会第 34回大会・日本認知療 法学会第8回大会合同 開催		12頁
シンポジウム：健康心理学における sense of coherence の応用可能性を探 る	単著	2009年9月	日本健康心理学会第 22回大会		20頁
H エモーショナル・インテリジェンス	共著	2005年2月	ナカニシヤ出版	中里浩明 島井哲志 大竹恵子 池見 陽	1～281頁
チェンジング・フォー・グッド：ステー ジ変容理論で上手に行動を変える	共著	2005年9月	法研	中村正和 赤松利恵 大竹恵子 岡浩一郎 中村菜々子	1～404頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
ダノン学術研究助成金	2006年度	共同・分担研究者	わが国の picky eating 行動の実態と、その心理社会生物学籍基礎の研究
神戸女学院大学研究所総合研究助成	2006年度	共同・分担研究者	21世紀の日本人における人生の意義に関する多面的アプローチ
科学研究費補助金若手スタートアップ	2006～2007年度	個別	社会適応におけるポジティブ感情の機能と主観的幸福感に関する予防的介入研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2006～2007年度	共同・分担研究者	成人を対象とした臨床健康心理学的アセスメント・ツールの開発
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2006年8月～	日本行動医学会国際行動医学会運営委員		
2007年4月～	日本疫学会ニューズレター編集委員		
2007年7月～	日本感情心理学会編集委員		
2007年10月～	日本健康心理学会広報・ニューズレター編集委員		

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	神林 博史	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 授業用資料の公開			2007年4月～2008年2月		授業で使用したパワーポイントファイル等の電子ファイルを情報処理センターの講義用ドライブにて公開し、学生が適宜参照できるようにした。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 〈失われた時代〉の高校生の意識		共著	2008年5月	有斐閣	海野道郎 片瀬一男 (編)	33～58頁	
Bb 高校生の学習時間とメディア接触時間：仙台圏の高校生データを用いた分析		単著	2007年7月	東北学院大学教養学部論集147号		1～22頁	
C 転職・離職理由の時代的变化－高度経済成長期から2005年までの素描－		単著	2008年3月	阿形健司(編)『働き方とキャリア形成－2005年SSM調査シリーズ4』2005年SSM調査研究会		67～84頁	
収入評価と社会階層		単著	2008年3月	土場学(編)『公共性と格差－2005年SSM調査シリーズ7』2005年SSM調査研究会		25～43頁	
階層帰属意識とジェンダー－分布の差に関する判断基準説と判断水準説の検討－		単著	2008年3月	轟亮(編)『階層意識の現在－2005年SSM調査シリーズ8』2005年SSM調査研究会		67～85頁	
仕事満足感とジェンダー－東アジアにおける「女性労働者の満足感のパラドクス」の検討－		単著	2008年3月	有田伸(編)『東アジアの階層ダイナミクス－2005年SSM調査シリーズ13』2005年SSM調査研究会		205～232頁	
E SPSSによる多変量解析		共著	2007年12月	オーム社	村瀬洋一 高田 洋 廣瀬毅士 (編)	11～70頁	
G 転職・離職理由の時代的变化：2005年SSMデータを用いた分析		単著	2007年9月	第44回数理社会学会大会(広島修道大学)			

Inequality of Job Mobility and Job Change Reasons in Japan	単著	2008年5月	4th US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology. (Crowne Plaza Hotel, Redondo Beach, CA)		
Job Mobility and Job Change Reasons in Japan and Taiwan	単著	2008年8月	ISA, Research Committee on Social Stratification and Mobility (RC28). (Stanford University)		
転職理由から見た転職と労働市場－2005年SSMデータを用いた日台比較－	単著	2008年11月	第81回日本社会学会 (東北大学)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助金基盤(B)	2006年～2008年度	共同・研究分担者	変動期における高校生の社会意識とアスピレーションの形成過程 (研究代表：木村邦博)
科学研究費補助金萌芽研究	2006年～2008年度	共同・研究分担者	学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承 (研究代表：原純輔)

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	黒須 憲	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	視覚教材によるイメージの確認と定着	2007年4月～2008年11月	数回の授業毎にテーマに関する、ビデオ、スライドを提示している。確認の意味で内容の要約と意見をまとめさせ、提出させている。				
	研究合宿の開催	2007年4月～2008年11月	年1～2回、3年生4年生それぞれに一泊二日、二泊三日の合宿を行い、課題の検討と意見の交換を行っている。				
	WEB サイトを利用した	2007年4月～2008年11月	個人 blog, mixi を利用して、研究内容の公表や活動報告、連絡事項等を行った。				
	発表会の実施	2007年5月～2008年11月	構想発表、中間発表と総合研究作成のための公開発表会を前期1回、後期1回実施した。				
	発表会の実施	2009年6月17日（水）	構想発表、総合研究作成のための公開発表会を実施した。				
	発表会の実施	2009年11月4日（水）	総合研究作成のための公開中間発表会を実施した。				
2	授業で使用する教材を作成した	2007年4月～2009年12月	A4版37ページ+資料の講義資料を作成し配布した。				
	授業で使用するスライド教材を作成した	2007年4月～2009年12月	パワーポイント用「武道文化論」スライドを作成した。				
	授業で使用するスライド教材を作成した	2009年9月	パワーポイント用「弓道」スライドを作成した。				
4	体育会スケート部の部長として、フィギュア部門、アイスホッケー部門で東北地区で毎年優勝し、全国大会インカレに出場している。スピード部門は国体選手になった。	2006年1月～	フィギュア部門では個人で全国16位になった。過去にはユニバーシアード等、日本代表として国際大会にも出場している。				
	ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	2007年7月～8月	フィンランドとドイツに於いて弓道の実技指導と理論の講義を行った。				
	高大連携公開講座の講師を務めた	2008年7月1日	佐沼高校における高大連携公開講座の講師をつとめた。武道文化論－武道とは何か（民族スポーツとしての弓道）－				
	ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	2008年8月	イタリアとドイツに於いて弓道の実技指導と理論の講義を行った。				
	教養バイキング講師	2008年10月18日	教養学部創立20周年記念事業において「稽古と学」の講義をした。				
	体育会ダイビング部を指導して第41回 関東学生潜水連盟フリッパー競技会において種目優勝をした。	2008年10月19日	男子メドレーリレー優勝、男子個人500m潜水優勝、女子メドレーリレー第3位				

ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	2009年3月	ドイツ Hamburg, イタリア Rome, Milan に於いて弓道の実技指導, デモンストレーション, 理論の講義をおこなった。
ゼミ学生の総合研究論文が評価され学科長賞を受賞した	2009年3月	プロスポーツ選手の心理傾向 総合スポーツ雑誌 Number のインタビュー記事から
ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	2009年7月30日～8月19日	ドイツ Hilden, フィンランド Helsinki, ハンガリー-Budapest, オーストリア Vienna に於いて弓道の実技指導と理論の講義をおこなった。
教養バイキング講師	2009年10月11日	第2回東北学院大学教養学部同窓会 TG 泉の会おいしい教養バイキング「民族スポーツとしての弓道」の講義をした。
体育会ダイビング部を指導して第42回関東学生潜水連盟フリッパー競技会において種目優勝をした。	2009年10月18日	男子潜泳500m優勝, 男子400mメドレーリレー2位, 女子400mメドレーリレー3位

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Kyudo (Japanese Archery) as Ethnic Sport	単著	2008年9月	World Traditional Archery Historical Analysis and Future Orientation ISSN 2005-3118		157～167頁
Japanese Bows and Arrows	単著	2009年9月	Study of Structures, Materials, and Manufacturing Processes of World Traditional Bow & Arrows ISSN 2005-3118		221～247頁
Bb 民族スポーツとしての弓道	単著	2007年10月	弓道日本・第四号		13～16頁
矢尺の長短と詰合(会)の形, そしてそれに伴う離れの動作について	単著	2007年10月	弓道日本・第四号		58～60頁
民族スポーツとしての弓道	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集 第150号		49～68頁
仙台藩における通矢技術の伝承	単著	2009年3月	東北学院大学教養学部論集 第152号		1～10頁
仙台藩(伊達)における日置流印西派の伝播	単著	2009年12月	東北学院大学教養学部論集 第154号		
G 民族スポーツとしての弓道		2007年11月	日本スポーツ教育学会 第27回大会		
民族スポーツとしての弓道		2007年12月	宮城体育学会第16回大会		

Kyudo (Japanese Archery) as Ethnic Sport		2008年9月	The International Academic Seminar of the World Traditional Archery Festival		
Japanese Bows and Arrows		2009年9月	The International Academic Seminar of the World Traditional Archery Festival 2009 Hongik Univ. International Vonference Hall		
仙台藩（伊達）における日置流印西派の伝播		2009年11月	宮城体育学会第18回大会		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2007年4月～		日本体育学会会員 宮城体育学会理事			
2007年4月～		日本武道学会会員 弓道専門分科会			
2007年4月～		日本スポーツ教育学会会員			
2007年4月～		ヨーロッパ日置流弓道講習会講師（イタリア、ドイツ、フィンランド、ハンガリー、オーストリア）			
2007年11月～		多賀城市スポーツ振興事業の再構築事業 委員			
Ⅴ 芸術分野や体育実技等における主な活動					
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等		
東北学院大学体育会スキューバダイビング部、夏期、春期、合宿指導	夏期：沖縄、ケラマ諸島阿嘉島 春期：パラオ、ポナペ、セブ	2005年～2009年毎9月 2005年～2009年毎2月、3月	一週間の合宿トレーニングで海洋スキルの向上と理論の学習、自然保護の観察をおこなった。		
2007 World Traditional Archery Festival	韓国 ソウル	2007年5月12日～15日	日本伝統弓術のデモンストレーションとインターナショナルマッチ		
東北学院大学体育会スキューバダイビング部ライセンス講習	山形県由良海岸	2007年7月～8月	OWDライセンス講習及び認定カード発行		
ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	フィンランド（ヘルシンキ）、ドイツ（ハンブルグ）	2007年7月～8月	日置流印西派の実技指導と目録講義		
ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	イタリア（ミラノ）、ドイツ（ロットバイル）	2007年8月	日置流印西派の実技指導と目録講義		
東北学院大学体育会スキューバダイビング部ライセンス講習	山形県由良海岸	2008年7月	OWDライセンス講習及び認定カード発行		
2nd World Traditional Archery Festival 2008	韓国 釜山	2008年9月28日～10月2日	伝統弓術セミナー講師、とインターナショナルマッチ		

ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	ドイツ Hamburg イタリア Rome イタリア Milan	2009年3月2日～8日 2009年3月9日～16日 2009年3月17日～22日	日置流印西派の実技指導と理論の講義, 要前射術デモンストレーション
弓術流派日置流印西派仙台系講習会講師	山形蔵王松金屋弓道場	2009年5月23日～24日	日置流印西派の実技指導と目録講義, 小的前体配指導
東北学院大学体育会スキューバダイビング部ライセンス講習	山形県由良海岸	2009年7月	OWDライセンス講習及び認定カード発行
ヨーロッパ日置流弓道講習会講師	ドイツ Hilden フィンランド Helsinki ハンガリー Budapest オーストリア Vienna	2009年8月1日～6日 2009年8月8日～13日 2009年8月14日～16日 2009年8月16日～18日	日置流印西派の実技指導と理論の講義, 小的前体配
Japan Culture Days Riga Taikai 2009	ラトビア Riga	2009年8月19日～23日	デモンストレーション, セミナー, 試合を実施した。日本武道文化を紹介した。感謝状をいただいた
3rd World Traditional Archery Festival 2009	韓国 ソウル	2009年9月11日～16日	伝統弓術セミナー講師と敵前演武, インターナショナルマッチ 最優秀演武賞受賞
ドイツ弓道連盟機関誌 ZANSHIN にインタビュー記事が掲載された。	ドイツ Hamburg	2009年10月	ドイツ弓道連盟 40周年を記念してインタビューを受け, 現状や課題, 今後のあり方や希望について述べた。
弓術流派日置流印西派仙台系講習会講師	山形蔵王松金屋弓道場	第二回 2009年10月11日～12日	日置流印西派の技術指導と体配指導, 目録の講義を行った。東北各県より参加者があった。

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	佐々木桂二	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業理解の促進	2005年1月～		毎時間、授業の要点をまとめた、図表を多く取り入れたプリントを配る。			
	「学生による授業評価」と、試験結果の精査	2005年1月～		学部の「学生による授業評価」や試験の結果を精査することで、授業の改善を図る。			
2	教材の作成	2005年1月～		特に専門科目の授業において、独自の教材を作成し、学生に配布している。			
4	公認コーチ（バスケットボール）養成講習会の講師	2003年3月～2009年3月		日本バスケットボール協会主催の公認コーチ養成講習会の講師を6年間務めた。			
	大学開放講座の講師	2005年10月		みやぎ県民大学大学開放講座「NO SPORTS NO LIFE」の講師を務めた。			
	青森県体育・スポーツ活動推進フォーラムの講師	2008年10月7日		青森県の小・中・高のバスケットボール指導者に「指導者とは」と題する講演を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	バスケットボールゲームの攻防における得点経過から捉えたプレイヤー数の変動―「流れ」の分析の試み―	共著	2005年2月	山形大学紀要(教育科学)第13巻第4号	◎大神訓章 佐々木桂二		
D	学生指導の現場から	単著	2007年5月	バスケットボール・マガジン		17～19頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1997年4月～		東北大学バスケットボール連盟理事長					
1998年4月～		日本体育学会会員					
2005年4月～		全日本大学バスケットボール連盟常任理事					
V 芸術分野や体育実技等における主な活動							
展覧会・演奏会・競技会等の名称		場 所		開催日時		発表・展示等の内容等	
東北大学バスケット選手権大会(男子)		仙台市, 東北学院大学他		2005, 06, 07, 08, 09年10月		優勝(10年連続)	
全日本大学バスケット選手権大会(男子)		東京, 代々木第2体育館他		2005, 06, 07, 08, 09年11月		出場(16年連続47回)	

全日本大学バスケット選手権大会 (女子)	東京, 代々木体育館他	2005, 06, 07 年 11 月	出場
全日本大学バスケット選手権大会 (男子)	東京, 東京体育館	2006 年 11 月	第 8 位

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	鈴木 宏哉	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	毎回の講義における授業評価及び質問への回答	2009年4月～現在に至る		毎回の講義の最後に学生が簡易授業評価表に授業評価とコメント（質問・要望等）を記入し、授業評価を次回の講義に反映させている。また、コメントに対しては次回の講義で解説を行っている。			
	講義の内容理解を促進させるためのワークシートを作成し、毎回の取り組みを提出させている	2009年4月～現在に至る		毎回の講義でワークシートを用意し、聴講することでワークシートが完成するような仕組みにしている。また、講義中に簡単な課題を提出させている。			
4	高校への出前授業の講師を務めた	2007年11月7日		宮城県富谷高校の2年生に対して「健康・栄養・スポーツ関連情報の正しい読み取り方」と題する授業を行った。			
	高校生を対象とした模擬授業を行った	2009年4月24日		仙台市立仙台高校の生徒に対して「運動・スポーツのサイエンス：スポーツを計量する面白さ」と題する授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2009年10月28日		宮城県立仙台南山高校の生徒に対して「スポーツ選手の運動パフォーマンスをデータ化する」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	スポーツ科学事典	共著	2006年9月	平凡社	日本体育学会編集・鈴木宏哉ほか 多数	558～559頁	
Ba	Cross-validity of the Soccer Defending Skill Scale (SDSS)	共著	2005年10月	International Journal of Performance Analysis in Sport 5	K. Suzuki T. Nishijima	47～61頁	
	Effects of sports experience and exercise habits on physical fitness and motor ability in high school students	共著	2005年11月	School Health 1	K. Suzuki T. Nishijima	22～38頁	
	Cross Validation and Factorial Validity of Expanded Soccer Attacking Skill Scale (SASS)	共著	2006年	Human Performance Measurement 3	K. Suzuki T. Nishijima	1～10頁	
	Criteria of exercise and sports for improvement of physical fitness and motor ability in youth (15-18 year olds)	共著	2006年	Human Performance Measurement 3	K. Suzuki T. Nishijima	11～19頁	

Sensitivity of the Soccer Defending Skill Scale: Comparison between teams	共著	2007年	European Journal of Sport Science 7	K. Suzuki T. Nishijima	35～45頁
The Influence of Past Sports Experience on Determining Current Exercise Habit in Japanese Youth	共著	2007年	School Health 3	K. Suzuki T. Nishijima	22～29頁
Prediction accuracy of results of FIFA World Cup™ using FIFA/Coca-Cola World Ranking	共著	2008年	Football Science 5	K. Suzuki K. Ohmori	18～25頁
どのような運動が精神的健康を改善する手段として最も有用か？－「何を」「どのように」に関する質的研究－	共著	2008年3月	健康医科学 23	鈴木宏哉 奥本 正 楳本知子 八代 勉	77～88頁
大学生における運動習慣の獲得に必要な過去の運動経験	単著	2008年3月	人間情報学研究 13		47～58頁
中高齢者における20mシャトルランテストと6分間歩行テストのテスト特性：テストを有効利用するための提案	共著	2009年3月	体育測定評価研究 8	鈴木宏哉 高橋信二	71～79頁
体育・スポーツ科学分野への決定木分析の応用事例：分析方法の紹介と分析の注意点	単著	2009年3月	体育測定評価研究 8		89～95頁
どんな運動経験が生涯を通じた運動習慣獲得に必要なか？：成人期以前の運動経験が成人後の運動習慣に及ぼす影響	単著	2009年	発育発達研究 41		1～9頁
Bb 健康・スポーツ科学における「はかる」ことの意義－測定評価・統計リテラシー教育のススメ－	共著	2006年3月	総合人間科学 6	鈴木宏哉 他7名	21～32頁
朝ごはんを食べると体力が向上する？－健康・スポーツ現象を正しくはかるための教養教育－	共著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集 150	鈴木宏哉 高橋信二	69～84頁
体力・運動能力調査における悉皆調査の意義：標本データと全数データの相違に着目して	共著	2009年7月	東北学院大学教養学部論集 153	鈴木宏哉 高橋信二	67～78頁
C Sensitivity of the Expanded Soccer Attacking Skill Scale: Comparison between teams	単著	2008年5月	50th ICHPER・SD Anniversary World Congress 2008 proceedings		498～503頁
SEMによる発育発達研究	単著	2009年	子どもと発育発達 7		38～43頁
D 「はかる（計量する）」ということ	単著	2007年	季刊教養学部 7		26～27頁
子どもの体力検定ハンドブック－6歳～11歳対象－	共著	2007年10月	全国体育指導委員連合	大木昭一郎 監修・鈴木宏哉ほか10名	30～35頁

運動・スポーツを計量する研究のような活動	単著	2009年3月	人間情報学研究 14		145～146頁
計量することで分かるサッカー選手とチームの魅力：指導者が欲しが客観的データとは？	単著	2009年10月	季刊教養学部 10		8～11頁
G Simultaneous measurement of accelerometer and gyrosensor for assessing exercise intensity(METs): Validity and reliability of the ViM motion monitor	共著	2005年10月	Walking for Health: Measurement and Research Issues and Challenges	K. Suzuki S. Takahashi T. Kizuka	
Past sports experiences determine exercise habits in Japanese youth: examination of “from when” “how much”	共著	2006年7月	11th annual congress of the European College of Sport Science	K. Suzuki T. Nishijima	
Past sports experiences for establishing current exercise habits in Japanese university students	単著	2007年5月	54th Annual meeting of the American College of Sports Medicine		
Practice criteria for improving Quality of life and mental health in members of a community sports and culture club	単著	2007年10月	The Cooper Institute Conference Series. Jointly with the 11th Measurement & Evaluation Council Symposium		
Sensitivity of the Expanded Soccer Attacking Skill Scale: Comparison between teams	単著	2008年5月	50th ICHPER・SD Anniversary World Congress		
Community sports and culture club activities for improving quality of life and mental health	単著	2008年5月	55th Annual meeting of the American College of Sports Medicine		
Test characteristics of 20-m shuttle run test and 6-minute walk test in middle-aged and elderly people	共著	2008年7月	7th World Congress on Aging and Physical Activity	K. Suzuki S. Takahashi	
Relationship between Improvements of Eating Habits and Physical Fitness Based on a 3-year Longitudinal Study of Japanese Children	共著	2009年6月	14th European College of Sports Science	K. Suzuki K. Suzuki T. Nishijima	
H 子どもの習慣的身体活動の持ち越し効果と子どもの身体活動実施基準：Thomas Rowland の著書から見える今後の課題	単著	2008年12月	東北学院大学教養学部論集 151		171～189頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））	2006～2007 年度	個別	質的観点に着目した運動経験と運動習慣の因果関係：「何を」「どのように」の検証
第 23 回健康医科学研究助成	2006～2007 年度	共同・研究代表者	どのような運動が精神的健康を改善する手段として最も有用か？－「何を」「どのように」に関する質的研究－
日本体育測定評価学会研究助成（平成 19 年度）	2007～2008 年度	共同・研究代表者	中高齢者における 20m シャトルランテストと 6 分間歩行テストを用いた全身持久力評価の一元化：文部科学省新体力テストの問題点とその解決策
科学研究費補助金（若手研究 B）	2009～2011 年度	個別	どんな実践的取り組みが活動的で元気な子どもを育てるか：縦断的データによる効果検証
平成 21 年度東北学院個別研究助成金	2009 年度	個別	元気な子どもを育てるために必要な学校・地域・家庭の取組：体力・運動能力及び運動習慣を含む生活習慣に関する悉皆調査データを用いた検証
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1999 年 9 月～	日本体育学会会員		
1999 年 9 月～	日本体力医学会会員		
2000 年 9 月～	日本学校保健学会会員		
2000 年 9 月～	日本体育測定評価学会会員		
2001 年 11 月～	アメリカスポーツ医学会会員		
2001 年 11 月～	日本行動計量学会会員		
2002 年 12 月～	日本発育発達学会会員		
2004 年 3 月～	日本フットボール学会会員		
2005 年 11 月～	健康運動実践指導者認定試験実技評価委員		
2006 年 12 月	スポーツ少年団認定委員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会講師		
2007 年 9 月～2009 年 3 月	体力検定制度検討委員会委員		
2008 年 7 月～	全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する検討会委員		
2009 年 2 月 1 日	日本体育学会宮城支部会選挙管理委員		

2009年3月～7月	独立行政法人日本スポーツ振興センター仙台支所職員研修会講師
2009年4月～	全国体力・運動能力, 運動習慣等調査運営委員
2009年4月～	日本体育測定評価学会評議員
2009年4月～	東北体育学研究編集委員
2009年8月28日	日本体育学会第60回記念大会における「統計相談」相談員

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	仙田 幸子	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習者中心型の授業の導入	2005年4月～2008年3月		受講者の作業中心の授業を運営することで、受講者の学習意欲を高めた。			
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2008年4月～2009年3月		毎回の授業の冒頭で、前回の復習とその回の概略を必ず説明し、授業終了時にはその回のまとめを行っている。			
4	榴ヶ岡高校「大学アワー」講師	2008年7月14日		榴ヶ岡高校1,2年生に対して、「私の中・高時代」と題する授業をおこなった。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
C	デュアル・キャリア家族におけるwork-family interfaceの様相：育児休業中のカップルを対象として	単著	2004年	『少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究(厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)平成14年度報告書)』		232～271頁	
	デュアル・キャリア家族におけるwork-family interfaceの様相・2：育児休業からの復職による変化	単著	2005年	『少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究(厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)平成15年度報告書)』		261～303頁	
	大都市圏のキャリアカップルにおけるwork-family interfaceの様相－育児休業中・後の2時点の調査から－	単著	2006年	『少子化関連施策の効果と出生率の見通しに関する研究(厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)平成17年度報告書)』		51～62頁	
	Birth control と妻の結婚後・出産後の就業行動の関連	単著	2007年	『少子化関連施策の効果と出生率の見通しに関する研究(厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)平成18年度報告書)』		71～85頁	
G	短大・大学におけるキャリア教育の効果測定		2005年	経営行動科学学会第8回年次大会			
	大都市圏のキャリアカップルにおけるwork-family interfaceの様相－育児休業中・後の2時点の調査から－		2006年	第79回日本社会学会大会			

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	永井 義之	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	シラバス改訂	2006年4月～		同一科目を共通シラバス化することにより教員間較差をなくす。			
	講義内容	2006年4月～		基礎的知識伝授にとどまらず、大学の他科目との連りをつける。			
	授業評価	2006年4月～		定期試験、出席確認をした上で、建学の精神理解促進の為、礼拝出席を加味。			
	「学生による授業評価」を実施している	2007年4月～2008年1月		学部で実施している「学生による授業評価」をその都度実施している			
4	本学宗教部の「キリスト教活動のハンドブック」編集発行をおこなった	2007年4月～		新入生に本学の建学の精神を理解してもらうため、授業の「キリスト教学」とあわせて「礼拝」及び宗教活動への参加を促している、年度初めに発行			
	本学宗教部の機関紙「チャペル・ニュース」編集発行をおこなった	2007年4月～		毎号の「キャンパス・メッセージ」の項目を担当執筆し、「Q&A」の項目を随時執筆、年4回発行			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著記(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
2007年4月～		日本キリスト教会会員					
2007年4月～		日本旧約学会会員					

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	松本 洋之	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教育内容・方法の工夫	2002年1月～2009年12月		積極的に発言した学生をチェックし、成績評価に反映させる。			
	授業理解の促進	2002年1月～2006年12月 2007年4月～7月 2008年4月～7月 2009年4月～12月		毎回、「今日のポイント」のプリントを作成し、理解を定着させる。			
	授業理解の促進	2007年4月～2009年12月		毎回、宿題を出して、次回に解答する。			
	授業理解の促進	2007年4月～2009年12月		出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回にコメントする。			
4	高校生向けミニ講義の講師を務めた	2007年8月4日 2008年8月2日 2009年8月1日		オープン・キャンパスで「人間科学って何？」と題する授業を行った。			
	一般人向けのミニ講義の講師を務めた	2008年10月18日		教養学部創設二十周年記念行事「おいしい教養バイキング」で「辞典／事典にみる『人間科学』の30年」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	再び、「アキレスと亀」について	単著	2005年7月	東北学院大学教養学部論集 第141号		1～7頁	
F	『恐るべきお子さま大学生たち一崩壊するアメリカの大学』内容紹介	単著	2007年3月	『教育研究所報告集』第7集, 東北学院大学教育研究所		59～68頁	
	「ボランティア活動」に寄せて	単著	2008年3月	『「ボランティア活動」の成果と課題』第7集, 東北学院大学教養学部「ボランティア活動」運営委員会		93～94頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2007年1月～			日本哲学会, 日本科学哲学会, 東北哲学会, 関西哲学会, 各会員				

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	谷田部武男	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	授業用詳細シラバスの配付	2007年4月～2008年12月		講義科目すべてにおいて授業開始時に授業計画と内容を示す詳細なシラバス資料を配付した。			
	授業進行の理解の促進	2007年4月～2008年12月		毎回授業の冒頭で、スクリーンを用いて前回の流れとその回の概略を説明し、終了時には次回の予定を案内した。			
	講義科目におけるコメント用紙の活用	2007年4月～2008年12月		講義科目すべてにおいて、半期に3～4回受講生にコメント用紙を配付して質問・感想を書かせ、それを授業に生かすよう努めた。			
	マルチメディア機器の活用	2007年4月～2008年12月		講義科目すべてにおいて、毎回ビデオドキュメンタリーあるいはパソコン画面を活用し、ビジュアルにわかりやすい内容となるよう努めた。とくにメディアに関する講義（「メディアコミュニケーション」「マスコミュニケーション論」）では、グーグルストリートビューによるプライバシー侵害の問題など、インターネットの最新の問題を取り上げ、実際のアクセス画面を表示しながら説明した。			
	模擬ゼミにおけるプレゼンテーション指導	2007年8月2日		オープンキャンパスで「総合研究」（卒論）の模擬ゼミを実施した。パワーポイントによる発表を中心にプレゼンテーションの指導を行った。			
	大学祭参加によるプレゼンテーションの指導	2007年10月27～28日		「総合研究（卒論）」（4年生）と「人間科学演習」（3年）のゼミ生合同で大学祭に参加し、パネル展示とパワーポイントによるプレゼンテーションを行った。			
2	詳細な内容の講義資料	2007年4月～2008年12月		すべての担当講義で詳細なレジュメ資料を作成・配付した。			
4	オープンキャンパス施設公開	2007年7月7日、8月4日		社会学関係の複数の研究室で展示・ビデオ・パワーポイントを用意し、施設公開を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2007年11月7日		宮城県立富谷高校で「社会学入門ーネットワーク社会について考える」と題する授業を行った。			
	オープンキャンパス施設公開	2008年7月5日、8月2日		社会学関係の複数の研究室で展示・ビデオ・パワーポイントを用意し、施設公開を行った。			
	サークル「けん玉同好会」の顧問として、大学祭の出店を指導。出店部門祭優秀賞受賞	2008年10月12～13日		顧問として部員とともに二日間にわたり出店で活動した。大学祭コンテストの出店部門で祭優秀賞を受賞した。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年11月14日		宮城県立富谷高校で「社会学入門ーネットワーク社会について」と題する授業を行った。			

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
2007年1月～		日本社会学会会員 (※入会は1976年～ 継続して会員)			
2007年4月～		東北社会学会 会計監事 (※入会は1975年～ 継続して会員)			

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	八幡 恵	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	コメントカード活用による学生の問題意識の共有	2007年4月～2009年7月		「人間科学基礎演習A」「現代教職論」「発達と教育」の授業で、毎回終了時にコメントカードを配付し、授業内容についての感想・体験・疑問や教員の質問に対する回答を記入させる。次回授業時に、口頭やプリントにして紹介しコメントする。前時の振り返り、授業理解の深化、学生同士の問題意識の共有に有効である。			
4	資格試験合格対策講座の講師	2007年5～7月 2008年5～7月 2009年5～7月		教員採用試験対策講座（本学教職課程センター主催）の講師を3回ずつ務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
D							
教養学部「学生による授業評価」報告書（2005年度）		共著	2007年1月	東北学院大学教養学部授業評価委員会	八幡 恵 ほか11名	18～19頁, 33～37頁, 157頁	
教養学部「学生による授業評価」報告書（2006・2007年度）		共著	2008年11月	東北学院大学教養学部授業評価・FD委員会	八幡 恵 ほか11名	1～9頁	
教育学21の問い		共著	2009年2月	福村出版	沼田裕之 増淵幸男 八幡 恵 ほか10名	72～96頁	
道徳教育21の問い		共著	2009年2月	福村出版	沼田裕之 増淵幸男 伊勢孝之 八幡 恵 ほか13名	118～129頁	
E							
教養学部授業評価委員会ニュース第2号		共著	2007年7月	東北学院大学教養学部授業評価委員会	八幡 恵 ほか2名	8～10頁	
教養学部授業評価委員会ニュース第3号		共著	2008年9月	東北学院大学教養学部授業評価委員会	岩谷 信 片瀬一男 八幡 恵	2～10頁	
教養学部授業評価委員会ニュース第4号		共著	2009年3月	東北学院大学教養学部授業評価・FD委員会	岩谷 信 片瀬一男 八幡 恵	2～10頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	

IV 学会等及び社会における主な活動	
1975年9月～2009年10月	東北教育哲学教育史学会会員 運営委員 (1988～1996)
1977年10月～2009年10月	教育哲学会会員
1979年8月～2009年10月	日本教育学会会員
1981年5月～2009年10月	日本現象学会会員
2002年5月～2004年4月	全国私立大学教職課程研究連絡協議会 運営委員 編集委員会委員長
2003年4月～2004年3月	仙台市初任者研修実施協議会委員
2003年4月～2009年10月	日本教師教育学会会員

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	吉村功太郎	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業で実施する課題等に対する学生の回答のフィードバック	2004年4月～	授業中に実施する課題，意見，感想の主なものをレジュメにして翌週に配布するなど，フィードバックをはかる。				
	教職の演習的な授業におけるメールを利用した個別指導	2004年4月～	学生にワードで指導案を作成，メール提出させ，コメント機能を利用して添削を行い返信することで，多人数に対する個別指導を実施。				
	教職の模擬授業の班編制実施	2004年4月～	多人数の学生すべてに模擬授業を実施させるため，班編制による模擬授業と学生による相互評価を実施。				
2	自作の教材資料による授業の実施	2004年4月～	講義形式の授業においては，すべて自作の教材を作成している。				
4	教職課程に関する教育相談	2004年4月～	教職課程センターで他教員と分担で実施。(希望者があれば)				
	教員採用試験対策講座の講師	2005年9月～	本学教職課程センター主催の教員採用試験対策講座の講師をつとめている。(年間7回)				
	教育実習へ向けての授業開発講座	2006年4月～7月	4年生の希望者に対し，教科書を使った授業開発の実践講座を行った。(7回)				
	高等学校へへの出前授業	2006年7月3日	宮城県岩ヶ崎高等学校の3年生に対する模擬講義(教育学とは何か)				
	平成17年度宮城県教育委員会生涯学習課協働推進研修会講師(宮城県行政庁舎，宮城県仙台市)	2006年8月5日	「みやぎらしい協働教育」事業に関する研修会講師				
	尚綱女子中学高等学校(宮城県私立高等学校) 研究授業指導助言	2006年11月1日	授業研究会における指導助言				
	高等学校へへの出前授業	2006年11月8日	宮城県富谷高等学校の2年生授業・総合的な学習の時間の生徒による研究中間レポートへの講評及び模擬講義(教育学)				
	国際交流基金，仙台市国際交流協会共催「オーストラリアの実践者に聞く多文化共生社会に向けた地域の取り組み」意見交換会(仙台国際センター，宮城県仙台市)	2007年1月24日	オーストラリアからの調査団を迎え，日本側の地域団体の方々との意見交換会の司会進行役				
	平成19年度仙台教育事務所管内社会教育主事研究協議会研修会講師(宮城県公文書館生涯学習セミナールーム，宮城県仙台市)	2007年6月6日	研究会における講演				
	平成18年度宮城県教育委員会生涯学習課コラボスクール研修会講師(宮城県自治会館・宮城県仙台市)	2007年6月29日	研修会における講演				

平成 18 年度宮城県教育委員会生涯学習課コ ラボスクール研修会講師(宮城県登米合同庁 舎：宮城県登米市)	2007 年 7 月 6 日	研修会における講演
平成 19 年度仙台教育事務所管内社会教育主 事研究協議会研修会講師(宮城県公文書館生 涯学習セミナールーム，宮城県仙台市)	2007 年 7 月 13 日	研修会ワークショップの企画・進行
平成 19 年度亘理町コラボスクール推進事業 コラボスクール研修会講師(亘理町中央公民 館，宮城県亘理町)	2007 年 8 月 3 日	研修会における講演
平成 19 年度登米地区協働教育研修会兼登米 地区学社連携・融合研修会講師(宮城県登米 合同庁舎，宮城県登米市)	2007 年 11 月 29 日	研修会における講演
宮城県大崎市立松山中学校平成 19 年度第 3 回校内研究授業講師	2008 年 1 月 15 日	中学校校内研究授業における講演
宮城県石巻市立北村小学校校内研修会(文部 科学省指定確かな学力育成のための実践 研究事業) 講師	2008 年 2 月 7 日	小学校校内研修会における講演
高等学校への出前授業	2009 年 6 月 10 日	宮城県岩ヶ崎高等学校の2～3年生に対する模擬 講義(人間科学とは何か)
高等学校への出前授業	2009 年 10 月 28 日	宮城県富谷高等学校の2年生授業・総合的な学 習の時間の生徒による研究中間レポートへの講 評及び模擬講義(教育学)
宮城県伊具高等学校「個性かがやく高校づく り推進事業研究発表会」講演	2009 年 11 月 11 日	公開研究発表会における講演
第55回宮城県公民館大会兼第21回宮城県公 民館研究集会での講演	2009 年 11 月 18 日	生涯学習・公民館活動についての講演

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所，発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
資本主義経済をめぐる論点・争点と授 業づくり社会認識教育の構造改革	共著	2005 年 2 月	明治図書出版，2005	池野範男編	113～118 頁
社会認識教育の構造改革	共著	2006 年 3 月	明治図書出版，2006 年	社会認識教 育学会編	50～61 頁
グローバル教育の理論と実践	共著	2007 年 11 月	教育開発研究所，2007	日本グロー バル教育学 会編	77～80 頁
幼・小・中・高の連携・一貫教育の展 開	共著	2009 年 4 月	教育開発研究所，2009	高階玲治編	82～85 頁
公民教育事典	共著	2009 年 6 月	第一学習社，2009	日本公民教 育学会編	56～57 頁 262～263 頁
Ba					
公共性を視点としたグローバル教育の 構想	単著	2005 年 3 月	『グローバル教育』 Vol. 7		30～45 頁

市民性の育成をめざす社会科授業の開発—公共性を視点にして—	単著	2005年11月	『社会系教科教育学研究』第17号	61～69頁
C 社会的な側面からポピュラー文化をとらえて考えさせる社会科授業の提案	単著	2007年3月	子どものポピュラー文化に関する教材開発研究(平成18年度文教協会研究助成金)研究報告書	78～107頁
「公共性の教育とシティズンシップ:理論編」	単著	2007年3月	社会科公民教育における英国シチズンシップ教育の批判的摂取に関する研究(基盤研究(C)(1))研究成果報告書	6～20頁
「公共性の教育とシティズンシップ:実践編」	単著	2007年3月	社会科公民教育における英国シチズンシップ教育の批判的摂取に関する研究(基盤研究(C)(1))研究成果報告書	111～121頁
「シティズンシップ教育教員養成の実際とその特色(2)—ヨーク大学における中等教員 PGCE コースを事例として—」	単著	2009年3月	『我が国を視点にした英国シティズンシップ教育の計画・実施・評価・改善の研究—地方行政局と大学と学校が連携した教育PDCA開発—(基盤研究(A))報告書』	201～214頁
「民主主義社会を担う市民を育成する公共的な問題解決・参加学習—パブリック・アチーブメント・プロジェクト(Public Achievement Project)の場合—」	単著	2009年3月	『アメリカ社会科のシティズンシップ教育に関する理論的・実証的研究(基盤研究(B))報告書』	119～127頁
「学士課程教育のめざす方向とその背景」	単著	2009年3月	『教育研究所報告集』(東北学院大学教育研究所)第9集	77～89頁
D 「市民性教育が育成を目指す市民像」	単著	2007年10月	『季刊教養学部』第6号	13～15頁
「地域と学校の連携による開かれた教育実践」(東北学院大学気仙地区開放講座07・14)	単著	2007年12月	東海新報, 2007年12月15日, 第3面	
「フォーラムにみる『地域とのつながり』」(東北学院大学気仙地区開放講座07・23)	単著	2008年1月	東海新報, 2008年1月15日, 第3面	
「合科的・関連的指導」	単著	2009年10月	『新学校経営相談12ヶ月第1巻:学校力を高める教育課程経営』(『教職研修』10月号増刊)	164～165頁

F 「研究調査：理論研究：社会科教育学における理論研究の動向」	単著	2005年9月	日本社会科教育学会『社会科教育研究』第95号	91～99頁
G 市民性の育成をめざす社会科授業の開発	単著	2005年2月	平成16年度社会系教科教育学会研究発表大会（兵庫教育大学）	
グローバル化の構造を考える社会科授業の開発	単著	2005年9月	第13回日本グローバル教育学会全国研究大会（目白大学）	
合意形成能力の育成をめざす社会科授業論の基礎的研究	単著	2005年10月	第54回全国社会科教育学会全国研究大会（広島大学）	
民主主義社会を担う主権者育成としての社会科教育	単著	2006年10月	日本社会科教育学会全国大会発表論文集第2号（秋田大学）	234～235頁
民主主義社会を担う市民を育成する社会問題解決・参加学習－「パブリック・アチーブメント・プロジェクト（Public Achievement Project）」の場合－	単著	2007年6月	第18回日本公民教育学会全国研究大会（東京学芸大学）	
市民性の育成をめざす社会科授業の開発(2)－人権と公共性を視点に－	単著	2007年10月	全国社会科教育学会第56回全国研究大会・社会系教科教育学会第19回研究発表大会（兵庫教育大学）	
民主主義社会を担う主権者育成の社会科－社会の主体的形成者としての市民性育成－	単著	2008年10月	全国社会科教育学会第57回全国研究大会シンポジウム（宮崎大学）	
公共性を視点とした市民性育成授業論の検討	単著	2009年2月	社会系教科教育学会第20回研究発表大会（兵庫教育大学）	
公共空間としての社会を担う市民の育成をめざす公民授業の構想	単著	2009年6月	第20回日本公民教育学会全国研究大会（茨城大学）	
学校と地域の連携を基盤としたグローバル教育の可能性について－「みやぎらしい協働教育」の実践を通しての考察－	共著	2009年9月	2009年度第17回日本グローバル教育学会全国研究大会（東北学院大学）	
社会科授業における価値観形成についての考察	単著	2009年10月	第58回全国社会科教育学会全国研究大会（弘前大学）	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）				
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究(C)		2006～2008年度	共同・研究代表者	公共性を視点とするアメリカとドイツにおける公民教育の研究

科学研究費補助金基盤研究(B) (一般)	2006～2008 年度	共同・研究分担者	アメリカ社会科のシチズンシップ教育に関する理論的・実践的研究
科学研究費補助金基盤研究(C)	2007～2008 年度	共同・研究分担者	多元的市民性と比較文化的視点に基づく我が国教育における「公民」性形成に関する研究
IV 学会等及び社会における主な活動			
1989 年 4 月～	全国社会科教育学会会員		
1989 年 9 月～	日本社会科教育学会会員		
1996 年 9 月～	社会系教科教育学会会員		
1997 年 4 月～	日本公民教育学会会員		
2002 年 7 月～	日本公民教育学会理事		
2004 年 6 月～	日本グローバル教育学会会員		
2005 年 4 月～	宮城県教育庁高校教育課 宮城県立学校の教科書採択に係る審査委員会委員		
2006 年 4 月～	宮城県教育庁生涯学習課 協働推進検討会議委員 (～2009 年 3 月)		
2006 年 6 月～	日本教科教育学会会員		
2006 年 6 月～	日本教育方法学会会員		
2008 年 6 月～	国際理解教育学会会員		
2008 年 6 月～	日本グローバル教育学会理事		
2009 年 9 月 5 日	第 17 回日本グローバル教育学会全国研究大会実行委員長として大会運営 (東北学院大学泉キャンパス)		

所属	人間科学科	職名	准教授	氏名	渡辺 通子	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習への動機づけと授業理解のための視聴覚機器を用いた教材提示	2009年4月～	授業事例研究やレポート・論文作成の手順について、パワーポイントを使って説明することで、学習への動機づけと授業理解を促進している。(人間科学演習, 総合演習)				
	メディア・リテラシー育成のためのメールによるレジュメやレポートの提出	2009年4月～	発表後の修正レジュメとレポートの電子メールによる提出を義務づけることでメディア・リテラシー育成を図っている。(人間科学基礎演習, 人間科学演習)				
	教員独自のアンケート調査の実施と分析	2009年4月～	演習中心の授業では、グループ学習を中心とした授業の効果を測定するために、教員自身が考案したアンケートを実施し効果的な指導方法についての分析を進めている。(教育調査実習, 総合演習)				
2	益地憲一編著『中学校・高等学校国語科教育法』(建帛社)	2009年4月	国語科教育の目標・内容・指導方法等を具体的実践に即して示した。大学院生や教師が言語教育を検討する際の手がかりともなる内容とした。担当章「第15章 国語科教育の課題と発展」では、DeSeCo計画による世界標準の学力観の形成過程における主たる教育課題として、リーディング・リテラシー及びメディア・リテラシーの育成の二点を取り上げ、具体的な実践事例を挙げて述べた。分担執筆(共著者) 渡辺通子他15名				
4	教職希望者への指導	2009年4月～	教職希望者への採用試験対策, 教育相談を実施している。『教職課程』(協同出版, 2009年7月号)に新学習指導要領国語(小・中・高)執筆(12, 18, 24頁)				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	国語教育文献総合目録(1958(昭和33)～2007(平成19)年)	分担 執筆	2008年2月	溪水社	浜本純逸編 (渡辺通子 他34名)	24～41頁	
	柳田国男のコミュニケーション観とその特質―「あたらしい国語」(東京書籍昭和25, 26年度版)を中心に―	単著	2008年3月	溪水社	記念論文集 編集委員会 『浜本純逸 先生退任記 念論文集 国語教育を 国際社会に ひらく』	159～174頁	
Ba	柳田国男のコミュニケーション観(一)―「国語教育への期待」を中心に―	単著	2006年6月	国語教育史研究(第6号)	国語教育史 学会	1～9頁	

Bb 国語教室における読みの可能性ーコミュニケーション教材としての『つり橋わたれ』の読みを通して	共著	2006年4月	茨城大学教育学部紀要(第54号)	茨城大学国語教育学会(渡辺通子・佐々木靖章)	15～23頁
C 柳田国男のコミュニケーション観ー戦後初期における国語科観の成立ー	単著	2008年5月	国語科教育研究(第104回大会研究発表要旨集)	全国大学国語教育学会	119～122頁
D ポスターセッションで身に付ける力をコミュニケーションの教育からとらえる	単著	2006年7月	国語教育研究(第41巻411集)	日本国語教育学会	32～35頁
メディア・リテラシー	単著	2008年5月	東京法令『国語科指導開発事典』	尾木和英 町田守弘 編集・監修	20～23頁
互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる	単著	2008年5月	東京法令『国語科指導開発事典』	尾木和英 町田守弘 編集・監修	18～19頁
国語科教育の課題と発展	単著	2009年5月	建帛社	益地憲一 編著	197～211頁
コミュニケーションを切り口に教育を考える	単著	2009年7月	季刊 教養学部	東北学院大学教養学部 ガイド	10～12頁
F 新刊紹介 西本喜久子著『アメリカの話し言葉教育』(溪水社)	単著	2006年5月	国語教育史研究(第6号)	国語教育史学会	95～98頁
G 柳田国男のコミュニケーション観ー戦後初期における国語科観の成立ー		2008年5月	第104回大会研究発表	全国大学国語教育学会	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1995年4月～	日本国語教育学会(茨城県支部常任理事)
1996年4月～	全国大学国語教育学会会員
1998年4月～	早稲田大学国語教育学会会員
2001年4月～	国語教育史学会会員(事務局担当)
2001年4月～	日本文学協会会員
2002年4月～	日本教科教育学会会員
2002年4月～	コミュニケーション学会会員
2003年4月～	茨城国語教育学会役員

2006年4月～	OECD 生徒の学習到達度調査(PISA2009) 国内専門委員
2006年10月	平成18年度児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック） 研究協議総合司会
2007年4月～	リーディング・リテラシーを育てるためのカリキュラム，学習指導，評価方法の開発企画委員
2007年12月	平成19年度国立教育政策研究所「総合的な学習の時間」 研修協議会司会
2009年4月～	国立教育政策研究所教育課程研究センター「学力の把握に関する研究指定校事業」 企画委員

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	秋葉 勉	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
4	日本研究夏季講座「日本文学」「日本女性論」を担当	2005年5月, 2006年5月					
	日本研究秋期講座「日本文化」2回, 「日本文学」4回担当	2005年9月~12月, 2006年9月~12月					
	アメリカ研究講座「アメリカの思想的背景」担当	2005年5月, 2006年5月					
	外国人留学生歓送会	2006年1月					
	帰国外国人留学生に対する取り組みに関わる調査報告書作成	2006年1月					
	宮城県留学生交流推進会議総会 仙台国際センター	2006年1月					
	アーサイナス大学夏期留学第1回ガイダンス						
	韓国交換留学生キャンパスツアー指導	2006年3月					
	「父母のための大学ガイド2006」国際交流担当	2006年3月					
	アメリカ研究第2回ガイダンス	2006年4月					
	派遣交換留学生オリエンテーション	2006年4月					
	外国人留学生ガイダンス	2006年4月					
	日本研究講座剣道・柔道体験・指導	2006年5月					
	日本研究講座松島・塩釜観光通訳	2006年5月					
	日本研究講座「日本の宗教」担当	2006年6月					
	日本研究講座国内研修会オリエンテーション	2006年6月					
	英語検定試験対策講座の講師	2006年6月				YMCA 主催「各種検定試験講座」にて講師を務めた	
	平澤大学校(韓国) 夏期語学研修ガイダンス	2006年7月					
	日本研究秋期講座・集中日本語講座華道体験通訳	2006年9月					
	日本研究秋期講座・集中日本語講座オリエンテーション	2006年9月					
	留学生学外研修付添	2006年10月					
	留学説明会・TOEFL テスト説明会	2006年10月					

私大連盟「国際教育・交流2006」調査報告	2006年10月	
オセアニア研修参加者への説明会	2006年10月	
日本研究秋期講座論文発表会	2006年12月	
外国人留学生歓送会	2007年1月18日	於：仙台国際ホテル
帰国外国人留学生に対する取り組みに係わる調査書作成	2007年1月23日	
平成18年度宮城県留学生交流推進会議総会出席	2007年1月27日	於：仙台国際ホテル
日中韓学術交流フォーラム	2007年2月3日	於：東北大学川内キャンパス
2007年度アーサイナス大学夏期留学第1回ガイダンス	2007年2月7日	
泰日工業大学関係者訪問・交流協議	2007年2月16日	
韓国交換留学生泉キャンパスツアー指導	2007年2月29日	
「父母のための大学ガイド2007（国際交流部）」執筆担当	2007年3月2日	
平成18年度東北大学外国人留学生懇談会出席	2007年3月7日	於：ホテル仙台プラザ
東北学院ホームページ第1回教職員実習説明会出席	2007年3月8日	
ハイテク・リサーチ・センター定礎式出席	2007年3月14日	於：多賀城キャンパス
オーストラリア&ニュージーランド研修報告会司会	2007年3月15日	
TOEFL/TOEIC説明会&ガイダンス担当	2007年3月19日	
宮城県留学生国際交流フェスティバル出席	2007年3月21日	於：仙台ユネスコ会館
短期留学推進（受け入れ）、学習奨励費、カメイ財団奨学金選考	2007年3月23日	
アメリカ研究第2回ガイダンス	2007年4月2日	
派遣交換留学生オリエンテーション担当	2007年4月3日	
新入外国人留学生ガイダンス担当	2007年4月4日	
韓国交換留学生科目登録オリエンテーション	2007年4月6日	
仙台市小学校外国語ボランティア活動委員会	2007年5月17日	
日本研究夏季講座開講式司会	2007年5月21日	
日本研究夏季講座松島・塩釜研修通訳	2007年5月24日	
日本研究夏季講座山形研修旅行付添・通訳	2007年5月27日	

日本研究夏季講座剣道体験通訳	2007年5月31日	
日本研究夏季講座担当	2007年5月, 2008年5月	
アメリカ研究講座担当	2007年5月, 2008年5月	
日本研究夏季講座「座禅」・「書道」・「華道」・「茶道」体験通訳	2007年6月2日	於：至福禅寺
日本研究夏季講座柔道体験通訳	2007年6月7日	
日本研究夏季講座修了式	2007年6月8日	
アメリカ研究学外研修	2007年6月16日～17日	於：仙台茂庭荘
平澤大学校（韓国）夏期語学研修ガイダンス	2007年7月5日	
小学校外国語活動全体説明会	2007年7月12日	
2008年オセアニア研修説明会	2007年7月27日	
オープンキャンパス（国際交流部担当）	2007年8月4日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座オリエンテーション・講座ガイダンス	2007年8月7日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座「茶道」体験通訳	2007年9月13日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座「華道」体験通訳	2007年9月27日	
日本研究秋期講座担当	2007年9月～12月, 2008年9月～12月	
平澤大学校（韓国）夏期語学研修報告会	2007年10月4日	
日英教育機関交流会	2007年10月12日	於：京王プラザホテル
日本研究秋期講座・集中日本語講座「柔道」体験通訳	2007年10月18日	
留学生学外研修旅行引率（中尊寺, 毛越寺, えさし藤原の郷, 日本文化体験）	2007年10月20日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座「剣道」体験通訳	2007年10月25日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座国内旅行オリエンテーション	2007年10月29日	
「企業と東北学院大学との就職懇談会」	2007年11月1日	於：勝山館
カナダ大学留学フェア	2007年11月2日	於：カナダ大使館
私立大学フォーラム	2007年11月10日	於：三井アーバンホテル仙台
オセアニア研修参加者への説明会	2007年11月29日	
日本研究秋期講座「課題研究」発表会	2007年12月6日	

日本研究秋期講座修了式	2007年12月10日	
外国人留学生歓送会	2008年1月18日	於：仙台国際ホテル
「各大学や第三者機関による大学の国際化に関する評価に係わる調査」提出, 文部科学省 高等教育局	2008年1月21日	
アメリカ研究第1回ガイダンス	2008年2月6日	
平成19年度宮城県留学生交流推進会総会	2008年2月27日	於：仙台国際センター
ドイツ連邦共和国外務省欧州担当国務大臣 Gunter Gloser 氏講演会並びに懇親会	2008年2月28日	
2008年度交換留学オリエンテーション	2008年4月2日	
新入外国人留学生ガイダンス (経済学部)	2008年4月3日	
交換留学生・新入外国人留学生科目登録オリ エンテーション	2008年4月4日	
韓国からの交換留学生ガイダンス	2008年4月7日	
TOEFL/TOEIC 説明会&ガイダンス担当	2008年4月24日	
カナダ語学研修, 留学説明会, 個人面談	2008年4月22日	
日本研究夏季講座開講式	2008年5月26日	
日本研究夏季講座日本文化体験旅行 (松島・ 塩釜) 付添, 通訳	2008年5月29日	
日本研究夏季講座山形研修旅行付添・通訳	2008年5月31日～6月1日	
トリア派遣交換留学オリエンテーション	2008年6月4日	
日本研究夏季講座剣道体験通訳	2008年6月5日	
日本研究夏季講座日本文化体験通訳	2008年6月7日	於：至福禅寺
日本研究夏季講座国内旅行ブリーフィング	2008年6月12日	
日本研究夏季講座柔道体験通訳	2008年6月12日	
日本研究夏季講座修了式・送別会	2008年6月13日	於：仙台国際ホテル
「アメリカ研究」第3回演習担当	2008年6月14日	
私立大学フォーラム参加	2008年6月21日	於：仙台ガーデンパレス
カナダ語学研修最終オリエンテーション	2008年7月3日	
泰日工業大学表敬訪問 (タイ, バンコク)	2008年7月20日～23日	
泰日工業大学との国際交流協定調印式	2008年7月21日	於：泰日工業大学 タイ, バンコク
オープンキャンパス (国際交流部担当)	2008年8月2日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座オリエン テーション・講座ガイダンス	2008年9月5日	

日本研究秋期講座・集中日本語講座・韓国交換留学生「茶道」体験通訳	2008年9月11日	於：ホテルコムズ仙台
第2回トリア派遣交換留学オリエンテーション（留学先での注意点, 学生生活の過ごし方など）	2008年9月12日	
東北学院大学生のための合同企業セミナー参加（於：仙台サンプラザホール）	2008年9月18日	
アーサイナス大学夏期留学報告会	2008年9月18日	
オセアニア研修参加者への説明会	2008年9月25日	
平澤大学校夏期留学報告会	2008年9月25日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座「華道」体験通訳	2008年10月2日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座「剣道」体験通訳	2008年10月9日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座国内旅行オリエンテーション	2008年10月14日	
日本研究秋期講座・集中日本語講座「柔道」体験通訳	2008年10月23日	
外国人留学生学外研修（会津若松方面）付添	2008年10月25日～26日	
私立大学フォーラム参加	2008年11月1日	

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数

III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

1984年4月～	日本アメリカ文学会会員
1995年4月～	日本英文学会会員
	日本アメリカ学会会員
	日本ナサニエル・ホーソーン協会会員
	日本ナサニエル・ホーソーン協会理事

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	渥美 孝子	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習内容への主体的取り組みと理解の共有を促す	2005年4月～2009年12月		1年生向け「文学」の授業において、理解の共有と深化をはかるため、扱う作品ごとに学生に作品解釈を書いてもらい、その中から興味深い20名程度分を一覧としてまとめ、その都度配布している。			
2	教材・資料の作成, 配布	2005年4月～2009年12月		各担当科目の教材と補助資料については、それぞれの内容に沿って独自に作成し、コピーして配布している。			
3	高等学校における読書講演会	2007年11月6日		秋田県立西仙北高等学校において、「文字・活字文化の日」読書講演会の講師として「漱石の『夢十夜』より」と題する講演を行った。			
4	展示会の企画協力ならびに講演を行った。	2005年7月2日		仙台文学館において開催された「与謝野寛・晶子展」の企画と図録作成に協力し、また「晶子のフェミニズムー母性保護論争をめぐる」と題する講演を行った。			
	サテライト・キャンパスの講師を務めた。	2005年11月12日		学都仙台サテライト・キャンパスのネットワーク講座で「文学者たちの仙台」と題する講義を行った。			
	高大連携授業の講師を務めた。	2006年8月1日		宮城県の高大連携事業・地域開催公開講座（会場は佐沼高校）において、「日本語と文化」と題する講義を行った。			
	市民講座の講師を務めた。	2009年8月31日		せんだい豊齢学園（仙台市シルバーセンター内）において、「島崎藤村について」という講座の講師を務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	『高架線』から『機械』へー昭和五年の横光利一ー	単著	2006年3月	「横光利一研究」第4号		53～64頁	
	「小林多喜二と伊藤整ー『生きる怖れ』をめぐる問題ー」	単著	2006年9月	「国文学 解釈と鑑賞」至文堂		74～79頁	
	「村上春樹『アフターダーク』の居場所ーアダルト・チルドレンと監視社会と」	単著	2008年7月	「社会文学」第28号		97～111頁	
D	「加藤幸子」「三枝和子」	単著	2006年1月	『日本女性文学大事典』日本図書センター		84～85頁, 130～131頁	
	『笙野頼子窯変小説集 時ノアゲアシ取り』ー窯変する『時』の物語	単著	2006年2月	清水良典編『現代女性作家読本④笙野頼子』鼎書房		102～105頁	

『世界のひびわれと魂の空白を』—最後の評論集	単著	2007年2月	『現代女性作家読本⑧ 柳美里』鼎書房	140～143頁
「白石かずこ」	単著	2007年5月	『展望現代の詩歌 詩Ⅲ』明治書院	139～163頁
「アフターダーク」	単著	2007年10月	『村上春樹作品研究事典(増補版)』鼎書房	246～251頁
「信天翁」「伊藤整」「清岡卓行」「原口統三」	単著	2008年2月	『現代詩大事典』三省堂	24頁, 67～68頁, 196～198頁, 550頁
E 「伊藤左千夫 野菊の墓」	単著	2005年7月	有光隆司編『泣ける純愛小説ダイジェスト』若草書房	49～58頁
F 文芸理論研究会編『本多秋五の文芸批評—芸術・歴史・人間—』		2005年9月	「昭和文学研究」51集	119頁
康東元著『日本近・現代文学の中国語訳総覧』		2006年9月	「昭和文学研究」53集	145頁
近畿大学日本文化研究所編『太宰治はがき抄 山岸外史にあてて』		2006年9月	「昭和文学研究」53集	147頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1981年5月～	日本近代文学会会員
1982年1月～	昭和文学会会員
1982年10月～	日本文学協会会員
1985年5月～	日本社会文学会会員
1996年8月～	宮城テレビ番組審議委員
1998年5月～2008年3月	仙台文学館運営協議会委員
2002年3月～	横光利一学会会員
2002年12月～	日本文学協会委員
2003年9月～	仙台市市民文化事業団評議員
2004年8月～2006年8月	昭和文学会編集委員
2006年8月～	昭和文学会幹事
2009年8月	第5回日本放送文化大賞 北海道・東北地区テレビ部門審査員

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	石川 文康	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A Liste der japanischen Kantforschung		共著	2006年	Kants Bibliographie 1894-1944	M. Ruffing (Hrsg.) T. Sato F. Isikawa		
理性の運命を物語ろう — カント 『純粹理性批判』		単著	2008年12月	岩波書店, 西洋哲学の 10冊	左近司祥子		
カントはこう考えた (文庫版)		単著	2009年5月	筑摩書房		91~112頁	
多元的世界観の共存とその条件		編著	2009年12月	国際高等研究所			
Ba 根拠律から理性批判へ		単著	2007年3月	京都大学近世哲学研 究, 第13号		1~19頁	
理性の現象学と精神の現象学		単著	2007年8月	理想社, 理想, No. 679		51~61頁	
ドイツ啓蒙の異世界理解		単著	2007年12月	国際高等研究所, 「一 つの世界」の成立と条 件	中川久定	73~91頁	
根本悪をめぐるカントの思考		単著	2008年9月	理想社, 「カントと悪 の問題」	日本カント 協会	200~201頁	
理性の世紀の多元的世界観 — 「対 位法の論理」によせて		単著	2009年12月	国際高等研究所			
D 無粋な音の粋な文化		単著	2008年9月	文芸春秋, 8月臨時増 刊号			
カントはよみがえる		単著	2009年6月	ちくま, 第459号		45~60頁	
E 哲学者の蕎麦紀行1		単著	2007年4月	リベラルタイム社, 蕎 麦春秋		32~33頁	
哲学者の蕎麦紀行2		単著	2007年7月	リベラルタイム社, 蕎 麦春秋		26~27頁	
哲学者の蕎麦紀行3		単著	2007年10月	リベラルタイム社, 蕎 麦春秋		14~15頁	
哲学者の蕎麦紀行4		単著	2008年1月	リベラルタイム社, 蕎 麦春秋		28~29頁	
哲学者の蕎麦紀行5		単著	2008年4月	リベラルタイム社, 蕎 麦春秋		32~33頁	

哲学者の蕎麦紀行 6	単著	2008年7月	リベラルタイム社, 蕎麦春秋, 第6号		32~33頁
哲学者の蕎麦紀行 7	単著	2008年10月	リベラルタイム社, 蕎麦春秋, 第7号		32~33頁
哲学者の蕎麦紀行 8	単著	2009年1月	リベラルタイム社, 蕎麦春秋, 第8号		32~33頁
哲学者の蕎麦紀行 9	単著	2009年4月	リベラルタイム社, 蕎麦春秋, 第9号		32~33頁
哲学者の蕎麦紀行 10	単著	2009年7月	リベラルタイム社, 蕎麦春秋, 第10号		36~37頁
哲学者の蕎麦紀行 11	単著	2009年10月	リベラルタイム社, 蕎麦春秋, 第11号	日本カント協会	14~15頁
F					
多国籍的プロジェクトの成果	単著	2006年5月	週刊読書人	Alexander von Humboldt-Stiftung	189~192頁
誤謬論	単著	2008年9月	理想者, 「カントと悪の問題」		
G					
Phänomenologie der Vernunft und Phänomenologie des Geistes		2005年3月	日独哲学シンポジウム, 日本におけるドイツ年	Alexander von Humboldt-Stiftung	
Deutsche Aufklärung und Multikulturalität		2006年9月	Humboldt-Kolleg 2006		
理性の世紀の哲学風景		2005年6月	国際高等研究所		
Dialektik をめぐるカントとヘーゲル		2006年6月	国際高等研究所, 「多元的世界観」セミナー		
カントと根源悪の問題		2007年10月	日本カント協会学界		
Gewissen als Form des Wissens		2008年3月	Humboldt-Kolleg 2008		
そば打ちの哲学		2009年2月	江戸ソバリエ・ルシック認定講座	江戸ソバリエ認定事業実行委員会	
カントに見られる多次元的思考		2009年5月	国際高等研究所, 「十八世紀における多元的世界観」セミナー		
カントの学問・芸術論		2009年8月	Ars の会, 東北大学グローバルCOE		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2005年6月25日		盛和塾講習会講演講師『人間の本質と良心』			

2007年2月 2008年2月 2008年12月11日 2008年12月20日	日本カント協会常任委員 国際高等研究所特別委員 国際高等研究所学術参与 現象学をめぐるカントとヘーゲルの多元的思考 国際高等研究所 講演 カントの根源悪論における多元的用語法 国際高等研究所 講演 カントの歴史哲学 東京大学グローバルCOE 講演 System と Summa 国際高等研究所 講演
--	---

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	石田 啓	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 英字新聞記事等に基づく手作り教材による、 学生とのコミュニケーションを重んじた授 業 学生の興味を引く教材を用いた、集中でき る、わかり易く楽しい雰囲気の授業運営		1990年4月～2007年1月 2007年4月～2009年12月		主に英字新聞及び英語雑誌記事、或いは関連するインターネット・ホームページ等を教材とし、世界の出来事に関する知識と新鮮な興味を与えつつ、ギリシア語及びラテン語に遡る英語の歴史をも背景とし、英語学習の現在の意義を認識させて学習意欲を湧かせる授業。 以下、前後期の期末試験時に無記名で独自に行っている授業の良い点、悪い点及び提案や感想を尋ねるアンケート結果を基に、上記の実績内容を記す。教材として主に英字新聞記事を用いているが、学生たちも知っているような最近の出来事を扱った記事のため、興味が持てる題材で説明もわかり易いとの反応が多い。英字新聞が意外に簡単な英語で書かれてことがわかった、というような感想にも学生の理解が良く現れている。また、記事に出てきた語彙や表現を、易しい英々辞典の意味記述や例文を通して理解させているが、英々辞典を使つての授業は斬新で力が付き授業が有意義で眠くならないとの感想からは、英語を通して意味内容を考える経験が学生には新しく刺激的であるということがわかる。但し、英字新聞記事及び英々辞典記述はなるべくプリントとして渡さずに、OHPを使ってスクリーンに映し毎回学生に写させる。これは身体のエクササイズと同時に、学生全員が顔を上げて時間を増やし、学生の顔を見ながら話しかけることによってコミュニケーションを一層豊富にするためでもある。毎回始業少し前から教室に行き、学生と話し、出来る限り名前を覚えて、クラス中は必ず名前を呼ぶようにする対応も、クラスの雰囲気が楽しい、集中できる、眠くならないというような感想が多いことの原因であろう。また宿題も同サイズの紙に書かせて朱を入れた後で、スクリーンに映して間違いの原因を指摘するので、こちらも各学生の能力が把握でき、学生の方でも理解と向上への切っ掛けとなる。但し良く出来ている場合も、同様にスクリーンに映して具体的に褒めるので学生にはやる気と与えられる。時間の経つのがはやく感じられるという感想にも学生の集中が現れている。何より、学生とのクラスでの交わりを教える側も楽しんでいる。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 現代ギリシア詩研究-セフェリス, エリ ティス, ソロモスを中心にー		単著	2005年5月	2001～4年度科研費基 盤研究(c)研究成果報 告書(研究課題番号 13610644)		294頁	

Ba	Γλοκόπικρα Κεντήματα-μια Εισαγωγή των Λυρικών Ποημάτων από τον Χάκσιου Κιτάχαρα στα Νεοελληνικά- (Bittersweet Embroideries-introducing some lyrical poems by Hakushu Kitahara into modern Greek-)	単著	2006年1月	<i>Delear</i> , vol. 8, Athens	6頁
	ミュティレーネの月-現代ギリシア詩人エリティスに見る古代ギリシア抒情詩の伝統-	単著	2006年5月	<i>Japan Poetry Review</i> , no. 12, Tokyo	7頁
	Strange Maze-Some Constrictions in Translating Modern Greek Contemporary Poems into Japanese-	単著	2006年9月	<i>Proceedings of the 6th World Meeting of Ekistics, the science of human settlements, at Hikone</i>	2頁
	Journey to Buson -on the Japanese Haiku-poet and Sumie-painter, Buson Yosa-	単著	2006年12月	<i>Hermitage</i> , vol. 4, Constantza & Santa Rosa	8頁
	Laon239 及び Einsiedeln121 に基づく降誕祭グレゴリオ聖歌ミサ入祭唱ネウマ譜に関する一考察	単著	2008年3月	東北学院大学宗教音楽研究所紀要 第12号	27号
	グレゴリオ聖歌ネウマ譜に見られる指示文字と Notker 書簡写本に関する試論 -Laon239 と St. Gall359 及び Einsiedeln 121 における降誕祭夜半ミサ昇階唱及び拜領唱音符記号解説と共に-	単著	2009年3月	東北学院大学宗教音楽研究所紀要 第13号	66頁
Bb	薔薇の影-エリティスにおけるサッポ-一言及と引用に関する試論-	単著	2005年7月	東北学院大学教養学部論集, 第141号	33頁
	近代ギリシア詩誕生に見るイタリアとギリシアの絆-フォスコロとソロモスにおけるホメロスの意味-	単著	2005年12月	東北学院大学教養学部論集, 第142号	22頁
	Strange Maze - a dialogue between two cultures -	単著	2006年2月	東北学院大学教養学部論集, 第143号	22頁
	Bittersweet Embroidery - Notes on Translating Hakushu Kitahara's Lyrical Poems into Modern Greek -	単著	2006年7月	東北学院大学教養学部論集, 第144号	28頁
	ヴァチカン教皇庁の支倉常長-パオロ・アラレオーネ「教皇庁儀典日記」写本照合と翻刻を通しての慶長遣欧使節関連記事考察-	単著	2007年2月	東北学院大学教養学部論集, 第146号	84頁
	ギリシア的伝統の探求-ヨルゴス・セフェリス「アシネーの王」試論-	単著	2007年7月	東北学院大学教養学部論集, 第147号	28頁
E	'Bodies are always being found in libraries.' (死体はいつも書齋で見付かる) -『書齋の死体』DVD版による英語リスニングの薦め-	単著	2009年3月	東北学院大学オーディオ・ビジュアル・センター誌 第3号	1頁

G ギリシア文化への旅ー日本語のうちに生きる古典ギリシア語ー 光への道行きーグレゴリオ聖歌クリスマス・ミサ曲入祭唱についてー 写本ネウマ譜から見たグレゴリオ聖歌待降節及び降誕祭ミサ曲とマリア賛歌		2007年1月 2007年11月 2009年11月	塩釜市生涯学習センター主催千鳥が淵大学講演会 日本英米詩歌学会第20回大会 津田塾大学同窓会仙台支部講演会	塩釜市生涯学習センター 同志社女子大学同窓会館 勝山館, 仙台	
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2004年4月～現在		仙台市史欧文資料編慶長遣欧使節支倉常長関連ラテン語資料翻訳及び翻刻担当委員			
2007年2月～現在		日本英米詩歌学会西欧外国語詩担当理事			
Ⅴ 芸術分野や体育実技等における主な活動					
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等		
CD : Gregorianus Cantus in Nativitate Domini (グレゴリオ聖歌/クリスマスのミサ曲) FONTEC, FOCD 9275		2006年12月	FONTEC 社より再発売		

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	石塚 秀樹	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の定着と理解の促進	2007年4月～2009年10月		授業の最初に前回の復習, 終わりにまとめをする			
	演習のまとめを論文集にしている	2008年1月1日		「家族の映画学」石塚ゼミ論文集			
	”	2009年1月1日		「幸福の映画学」 ”			
	ゼミ生と自主映画制作	2007年4月1日		短編映画『おんぶバット』制作			
	”	2008年10月11日		短編映画『うさぎのダンス』制作			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	黒澤明の苦闘時代—架橋する山本周五郎—	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集第150号		117～127頁	
F	黒澤明シンポジウム開催	単著	2008年4月	東北学院大学「時報」第670号			
G	黒澤明の苦闘時代—架橋する山本周五郎	単著	2008年3月	黒澤明シンポジウム『ルネッサンス前夜』			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
映画創成期からハリウッド誕生へ		教養学部20周年ミニ講義 (仙台国際ホテル)					
映画史を考える		東北学院大学地区後援会特別講義 (釜石ベイシティホテル)					
映画史を考える		東北学院大学地区後援会特別講義 (宮古プラザホテル)					
表象としての映画		東北学院高等学校出張講義					

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	伊藤 春樹	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
4	石巻女子高等学校への出前授業			2005年3月17日	講義題目「ことばはどこにあるの？」		
	宮城学院高等学校への出前授業			2005年3月18日	講義題目「うらむ文化, 憎む文化」		
	相馬高等学校への出前授業			2005年4月26日	講義題目「ことばがわかるとはどういうことか」		
	泉高等学校への出前授業			2006年9月15日	講義題目「ことば不思議不思議」		
	富谷高等学校への出前授業			2006年11月8日	講義題目「偽善について」		
	利府高等学校への出前授業			2007年7月2日	講義題目「ことばの力」		
	宮城野高等学校への出前授業			2008年5月24日	講義題目「哲学の世界」		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	緒・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	現代倫理学事典 (担当項目: 主観/主観性, 客観/客観性, 方法論/倫理学方法論, 本質主義, 相対主義, 真理/真実, 自然主義, 道徳的推論)		共著	2006年11月	弘文堂	編集代表: 大庭 健	
	意識と感情をもつ認知システムについての哲学的研究 (担当部分: 「意識論における心脳同一説」)		共著	2007年3月	平成16~18年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書	研究代表者 柴田正良 (金沢大学文学部教授)	79~88頁
	感情とクオリアの謎 (担当部分: 第5章「クオリアは自律的に存在するか」)		共著	2008年3月	昭和堂	長滝祥司 柴田正良 美濃 正編	103~128頁
Bb	感情とクオリアーわたしたちは自分の感情をどうやって知るのかー		単著	2006年7月	東北学院大学教養学部論集 第144号		1~27頁
	「痛い!」は認識か		単著	2008年12月	東北学院大学教養学部論集第151号		1(222)~32(191)頁
	こころとは何か — 二元論と心— 身因果 —		単著	2009年12月	東北学院大学教養学部論集第154号		27(242)~70(199)頁
G	A Primitive Emotion and Its Cooperative Function Simulated in Neural Networks: Toward a Theory of Emotions as Cognitive Functions.		単著	August, 2006	International Society for Research on Emotions, Annual Meeting, Atlanta, Georgia.	S. Nagataki H. Tsukimoto M. Shibata H. Hattori H. Ito T. Mino A. Shimojima N. Shinohara T. Kashiwabata	

クオリアの自然化はどの程度可能か	単著	2007年11月	日本科学哲学会 40 回 大会ワークショップ		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	今井奈緒子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	学習事項の呼び起しと誤った理解の訂正	2007年4月～2009年1月 2009年1月～2010年1月	前回授業の要約、復習から開始、出席カードを利用して書かせた質問、誤った理解を記したのものには可能な限り回答と訂正をする。				
	優れた鑑賞教材の発掘と紹介	2007年4月～2009年1月 2009年1月～2010年1月	授業に関連した鑑賞教材として優れたCD、DVDの紹介、また良質でインパクトのあるライブパフォーマンスを紹介するよう努めている。				
	受講者を少数に限定する	2007年4月～2009年1月	オルガン実技中心の「器楽」を1コマに縮小、少数に集中したレッスンを行う。				
4	公開講座オルガン演奏法第10回講師	2005年5月～11月	東北学院大学宗教音楽研究所主催公開講座として、主として学外者を対象に開講閉講式、計10回のレッスンと修了コンサートの指導をした。				
	公開講座オルガン演奏法第11回講師	2006年5月～11月	同上				
	第1回学生のためのオルガン公開講座	2006年5月～2007年1月	単位の枠外で広く学生から受講者を募り平均月2回の講習を実施、終了時には演奏発表を行った。				
	公開講座オルガン演奏法第12回講師	2007年5月～11月	東北学院大学宗教音楽研究所主催公開講座として、学外者を対象に開・閉講式、修了コンサートを含み計10回の指導を行った。				
	第3回学生のためのオルガン講座	2007年5月～2008年1月	単位の枠外で広く学生から受講者を募り、3キャンパスにおいて平均月2回の講習を実施、終了時には演奏発表会を行った。				
	公開講座オルガン演奏法第13回講師	2008年5月～11月	東北学院大学宗教音楽研究所主催公開講座として、学外者を対象に開・閉講式、修了コンサートを含み計10回の指導を行った。				
	第4回学生のためのオルガン講座	2008年5月～12月	単位の枠外で広く学生から受講者を募り、3キャンパスにおいて平均月2回の講習を実施、終了時には演奏発表会を行った。				
	第27回日本キリスト教団東北教区 礼拝と音楽講習会	2008年7月31日～8月1日	講演の講師、ならびに演奏を務めた。				
	公開講座オルガン演奏法第14回講師	2009年5月～11月	東北学院大学宗教音楽研究所主催公開講座として、主として学外者を対象に開講閉講式、開講レクチャー、計8回のレッスン指導、修了コンサート(11月5日)を開催した。				
	第5回学生のためのオルガン公開講座	2009年5月～12月	単位の枠外で広く学生から受講者を募り平均月2回の講習を実施、終了時には演奏発表を行う(12月22日)。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
E 土樋・多賀城・泉の各オルガンについて／「大学とオルガン」	共著	2005年5月	法人事務局 パンフレット『東北学院大学の礼拝堂とオルガン』	佐々木哲夫 今井奈緒子	4～7頁
D 泉キャンパス礼拝堂オルガンのオーバーホールについて	単著	2007年2月	宗教音楽研究所紀要第11号		
バッハのコラールを歌う (CD2枚組付き) 50選	共著	2007年	キリスト新聞社	今井奈緒子 川端純四郎 関谷直人	CD
菅 英三子讃美歌CD (オルガン伴奏)	共著	2009年11月	日本基督教団出版局	菅 英三子	20曲中 12曲
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1978年4月～	日本オルガン研究会会員				
1982年4月～	日本オルガニスト協会会員, 2009年～東日本支部長 (再任)				
2004年4月～	日本キリスト教団霊南坂教会オルガン主任				
2006年10月～2008年9月	第6回武蔵野市国際オルガンコンクール運営委員				
V 芸術分野や体育実技等における主な活動					
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等		
パオプオルガン・ガラコンサート	ミュージア川崎シンフォニーホール	2005年2月11日	日本の中堅オルガニスト10名によるガラコンサートでC.フランク作曲:交響的作品 op. 17を演奏		
バッハ・コレギウム・ジャパン教会カンタータ全曲シリーズ vol. 67, 69	神戸松蔭女子学院大学チャペル オペラシティコンサートホール	vol. 67:2005年2月19, 24日 vol. 69:2005年6月18, 24日	J. S. バッハ: BWV538, 616, スヴェーリンク, ブクステフーデ作品をオルガン・ソロで, 各回1725年の教会カンタータ4曲の通奏低音を演奏		
東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	土樋キャンパス礼拝堂	2005年7月4日	J. S. バッハ作曲カンタータ第172番全曲をオルガンにて伴奏		
バッハ・コレギウム・ジャパンドイツ・ツアー	Ansbach, Rendsburg, Lüneburg, Hamburg, Lübeck ほか	2005年8月6日～13日	アンスバッハ音楽祭にてバッハのロ短調ミサを, シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭でマニフィカト他を演奏		
波多野睦美+2つのオルガン	日本大学カザルスホール	2005年8月26日	アーレント社製大オルガンと新規購入されたポジティブ・オルガン披露を兼ね, バッハ, リンク他の作品を演奏		

東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	多賀城キャンパス礼拝堂	2005年10月24日	J. S. バッハ：自由作品，シュープラー・コラーレ集，リスト作品他を演奏，プログラム・ノートを執筆
今井奈緒子オルガンリサイタル	西南学院大学ランキンチャペル	2005年10月31日	ヴェックマン，スヴェーリンク，ブクステフーデ，バッハの作品を演奏，プログラム・ノートを執筆
バッハ・コレギウム・ジャパン 教会カンタータ全曲シリーズ vol. 71, 73		vol. 71:2006年2月22, 25日 vol. 73:2006年7月22, 27日	2月 J. S. バッハ: BWV656 (オルガン・ソロ) BWV42, 108, 6, 103 (通奏低音) 7月: 676, 715 (オルガン・ソロ) BWV128, 176, 87, 74 (通奏低音)
バッハ・コレギウム・ジャパン 公演「マタイ受難曲」(初期稿)	ミュージア川崎・名古屋しらかわ・東京オペラシティ・所沢ミュージズ・松蔭女子学院大学	2006年4月8日～16日	J. S. バッハ：マタイ受難曲の「初期稿」を演奏
バッハ・コレギウム・ジャパン ヨーロッパ・ツアー	スペイン 5カ所，イタリア・オランダ・イギリス各1カ所，ドイツ2カ所	2006年5月12日～31日	J. S. バッハ：ロ短調ミサ曲，マニフィカト，カンタータ BWV30 の通奏低音を演奏
東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	多賀城キャンパス礼拝堂	2006年7月1日	W. A. モーツァルト作曲「レクイエム」より6曲をオルガンにて伴奏
オルガン完成記念演奏会	神戸国際大学諸聖徒礼拝堂	2006年10月21日	J. S. バッハ及びバッハ作曲 F. リスト編曲のオルガン作品を4曲演奏
120周年記念演奏会	日本基督教団西片町教会	2006年10月27日	ブクステフーデ，スヴェーリンク，クーナウと J. S. バッハ：クラヴィア練習曲集第3部より小コラーレ全曲を演奏，プログラム・ノートを執筆
チャペルコンサート	東京女子大学チャペル	2006年11月23日	N. de グリニ，ヴァルター，F. -H. メンデルスゾーン，W. A. モーツァルト，P. エベン，デュリュフレの作品を演奏，プログラム・ノートを執筆
The 19th KEK concert 『ポジティーフオルガンとソプラノで楽しむバロック音楽の夕べ』	高エネルギー加速器研究機構 研究本館1階レクチャーホール	2007年1月26日	つくば高エネルギー研究所主催，小型オルガンを持ち込んでのレクチャーコンサート
第107回オルガン・1ドルコンサート	横浜みなとみらいホール大ホール	2007年2月21日	没後300年の作曲家ブクステフーデとバッハの邂逅をテーマに，BuxWV155, BWV645, 662, 566 を演奏
東宝株式会社 劇場版『名探偵コナン』		2007年3月～2008年4月	オルガンに関する部分の監修，選曲等を務めた。
バッハ・コレギウム・ジャパン 名古屋国際音楽祭 第76回定期演奏会 第193回神戸松蔭女子学院大学チャペルコンサート	名古屋芸術劇場 初台オペラシティ・コンサートホール 神戸松蔭女子学院大学チャペル	2007年4月1日，6日，7日	J. S. バッハ《ヨハネ受難曲》BWV245 第4稿の演奏で通奏低音を担当
イースターオルガン演奏会	日本キリスト教団 富士見町教会	2007年4月22日	復活節にちなみ F. トウンダー，G. ベーム，J. S. バッハおよび J. CH. H. リンクの作品を演奏

野方町教会創立70周年記念演奏会	日本キリスト教団 野方町教会	2007年5月13日	D. ブクステフーデ, J. S. バッハ: クラヴィーア練習曲集第3部より, ベーム他の作品を演奏
第195回神戸松蔭チャペルコンサート 第77回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学チャペル/オペラシティコンサートホール	2007年6月9日, 13日	D. ブクステフーデ BuxWV149 をソロで, J. S. Bach のカンタータ BWV137, 164, 168, 79 の通奏低音を演奏した
東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	多賀城キャンパス礼拝堂	2007年6月30日	D. ブクステフーデ作曲マニフィカト, コラールカンタータ BuxWV27 をアンサンブルで伴奏
第196回神戸松蔭チャペルコンサート 第78回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学チャペル/オペラシティコンサートホール	2007年9月15日, 22日	J. S. バッハのカンタータ BWV49, 84, 82, 56 の通奏低音を演奏した
バッハ《ロ短調ミサ》CD 発売記念コンサート	MUZA 川崎シンフォニーホール/名古屋しらかわホール	2007年10月6日, 7日	バッハ《ロ短調ミサ》の通奏低音を担当した
東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	土樋キャンパス礼拝堂	2007年10月19日	J. S. バッハ作曲ライブツィヒ 《17のコーラル》 BWV651-667 を演奏 コーラル唱: 鈴木美紀子氏
アーレントオルガン ランチタイムコンサート	日本大学カザルスホール	2007年11月17日	バロック・ヴァイオリン: 若松夏美氏, ヴィオラ・ダ・ガンバ: 平尾雅子氏とともに M. シルトのソロ曲, H. I. F. ビーバー, D. ブクステフーデ, J. S. バッハの作品を演奏
ヘンデルプロジェクト	初台オペラシティコンサートホール/大阪いずみホール	2007年11月23日, 25日	G. F. ヘンデルのオラトリオ《エジプトのイスラエル人》 HWV54 の通奏低音を担当
ヘンデル《メサイア》	調布グリーンホール/サントリーホール/札幌コンサートホールKITARA	2007年12月23日, 24日, 26日	G. F. ヘンデル《メサイア》全曲を演奏
バッハ・コレギウム・ジャパン 第198回神戸松蔭チャペルコンサート/第79回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学チャペル/オペラシティコンサートホール	2008年2月9日, 11日	D. ブクステフーデ《テ・デウム》 BuxWV218 をソロで, J. S. Bach のカンタータ BWV16, 13, 32, 72 の通奏低音を演奏した
『バッハのコーラルを歌う』出版記念講演と演奏会	仙台青葉荘教会	2008年3月8日	著者による講演と, 付録CDに収録のバッハによるコーラル編曲数曲の演奏
バッハ《マタイ受難曲》	彩の国さいたま芸術劇場/オペラシティコンサートホール	2008年3月20日, 21日	バッハのマタイ受難曲 BWV244を演奏した
荊冠堂献堂, パイプオルガン奉獻コンサート	桜美林大学礼拝堂	2008年3月29日	バッハ, G. コレット, ベーム, J. L. クレープス, メンデルスゾーンの作品を演奏
東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	泉キャンパス礼拝堂	2008年7月5日	B. ブリトゥン作曲《キャロルの祭典》の合唱, 一部声楽ソロで参加 ハーブ: 水野なほみ氏

第200回神戸松蔭チャペルコンサート 第81回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学 チャペル/オペラシティ コンサートホール	2008年7月26, 30日	J. S. バッハの前奏曲とフーガ ト長調 BWV をソロで, カンタータ BWV の通奏低音を演奏した
第201回神戸松蔭チャペルコンサート 第82回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学 チャペル/オペラシティ コンサートホール	2008年9月20, 23日	J. S. バッハのカンタータ BWV43, 88, 146 の通奏低音を演奏した
長野県県民文化会館25周年記念 オルガンコンサート	長野県県民文化会館 第3, 第4会議室	2008年10月4日	J. P. スヴェーリンク, バッハ, エルガー, ハイドン, モーツァルト, リンクの作品を演奏
東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	泉キャンパス礼拝堂	2008年10月17日	N. ド・グリニ: ミサ曲, バッハ: パッサカリア, O. メシアン 《主の降誕》より, を演奏
アーレントオルガン ランチタイムコンサート	日本大学カザルスホール	2008年11月15日	ヴィオラ・ダ・ガンバ: 福沢宏氏とともにドイツとフランスのバロック作品, ソロを演奏
西片町教会120周年記念「今井奈緒子チェンバロリサイタル」	日本キリスト教団 西片町教会	2008年11月22日	スヴェーリンク, バッハ, J. クーナウの作品を演奏
ヘンデル《メサイア》	兵庫県立芸術文化センター/サントリーホール/愛知県芸術劇場	2008年12月20, 23, 25日	G. F. ヘンデル《メサイア》(捨子養育院版) 全曲を演奏
今井奈緒子&斎藤幸恵「オルガンとフルートによる J. S. バッハの世界」	仙台・カトリック元寺小路教会	2009年1月29日	バッハのクラヴィーア練習曲集第3部より4つのデュエットを, またフルートとオブリガート・チェンバロ作品を演奏
言語文化学科4年鈴木真衣「総合研究」発表演奏会	東北学院大学泉礼拝堂	2009年2月7日	総合研究担当学生による演奏(J. S. バッハ: 教会カンタータ BWV106) 指導と指揮, 演奏参加
第203回神戸松蔭チャペルコンサート 第83回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学 チャペル/オペラシティ コンサートホール	2009年2月21日, 26日	J. S. バッハの新発見オルガン・コラール BWV1128 (日本初演) と BWV680 をソロで, カンタータ BWV 187, 39, 129 の通奏低音を演奏
スコラ・カントールム第18回定期演奏会	武蔵野市民文化会館小ホール	2009年3月28日	G. F. ヘンデル《主は言われた》HWV232 を伴奏
La Folle Journée au Japon (「熱狂の日」音楽祭2009)	有楽町・東京フォーラム	2009年5月4~5日	バッハ・コレギウム・ジャパンのバッハ: カンタータ BWV30, 78, ヨハネ受難曲公演に参加
オーケストラ・リベラ・クラシカ第23回公演	東京・浜離宮朝日ホール	2009年5月27日	J. ハイドン作曲オルガン協奏曲ハ長調 Hob. XVIII:1 の独奏を担当
レクチャーコンサート/第205回神戸松蔭チャペルコンサート 第84回定期演奏会	青山学院大学ガウチャー礼拝堂/倉敷市芸文館/神戸松蔭女子学院大学 チャペル/オペラシティ コンサートホール	2009年6月1日, 5日, 6日, 10日	J. S. バッハ: モテット全曲演奏と録音
学校法人八代学院前理事長・水谷博彦先生記念演奏会	神戸国際大学諸聖徒礼拝堂	2009年6月13日	逝去一周年記念演奏会

東北学院大学「宗教音楽の夕べ」	土樋ラーハウザー礼拝堂	2009年6月4日	企画制作, 及びメンデルスゾーン作曲による合唱作品を伴奏
「夕の祈り」	聖路加国際病院礼拝堂	2009年8月5日	シャイト, バッハ, ヘラーの作品を演奏
レクチャーコンサート／第206回神戸松蔭チャペルコンサート第85回定期演奏会	神戸松蔭女子学院大学チャペル／オペラシティコンサートホール	2009年10月3日, 6日	G. ベームのオルガン・コラール編曲他をソロで, カンタータ BWV45, 102, 17, 19 の通奏低音を担当
創立100周年記念演奏会	仙台・青葉荘教会	2009年10月25日	トランペットとの共演によりヴァルター, クレプス, エベンらの作品を, ソロとしてバッハ, メンデルスゾーン作品を演奏。
東北学院大学オルガン演奏会	多賀城礼拝堂	2009年10月31日	年一回の研究リサイタル。シャイト, バッハ, メンデルスゾーンのソロ作品, バス歌手とシュッツ, ブラームス作品を共演。
清和学園第18回パイプオルガン演奏会	高知・清和学園	2009年11月7日	シャイト, ファン・ノールト, バッハ, リンク, メンデルスゾーン作品を演奏
日本大学カザルスホール・ランチタイムコンサート	日本大学カザルスホール	2009年11月21日	シャイト, シャイデマン, スヴェーリンク, バッハ作品の演奏
古楽によるクリスマス	日本キリスト教団・早稲田教会, 清瀬みぎわ教会	2009年12月13日, 20日	スヴェーリンクとバッハのオルガン, 合唱作品の演奏 (共演: 合唱団 スコラ・カントールム)
バッハ・コレギウム・ジャパン: ヘンデル『メサイア』演奏会	ミューザ川崎／サントリリー／いわき市コンサートホール	2009年12月19日, 23日, 25日	メサイアの通奏低音を担当

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	岩谷 信	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	予習と復習の便宜	1996年4月～2009年12月		担当する講義系の科目では、どの科目でも、毎回B4判のプリント(3500字位)1枚を配布。そのすべてを講義テキストとして、繰り返し読み返すことや毎回持参することを、登録時の履修条件としている。			
	倫理的感性・道理の感覚の涵養	1996年4月～2009年12月		倫理学系の講義科目では、プリントに挿入してある「演習」問題を、宿題として課したり、講義中に回答させたり、さらには、問題によっては学生同士の議論も行わせたり、している。			
	論理的思考力と文章表現能力の涵養	1998年4月～2009年12月		演習や講読系の科目では、8000字の小論文作成を義務づけ、その添削を個人別に行いながら、「卒業研究」での論文作成の実践的な指導を行っていて、優れた論文がそろった年度には「論文集」も作成し、受講学生に配布している。			
	学問的分析力と優れた言語感覚の涵養	2001年4月～2009年12月		学科の専門分野の「言語と人間生活」系の講義科目では、プリントに挿入してある「演習」問題を、宿題として課したり、課題レポートの提出を義務づけたりしている。			
2	講義ノート(プリント集)	1996年4月～2009年12月		担当する講義系の科目では、どの科目でも、毎回B4判のプリント(3500字位)1枚を配布。そのすべてを講義テキストとして活用している。			
3	東北学院大学FDニュース(Vol.7)論評:「東北学院大学の教員意識調査」への蛇足	2007年9月1日		東京学生フォーラム『学生による教育再生会議』(平凡社新書Y760)の内容を紹介しながら、教育研究所の意識調査の結果を総括した。			
	教養学部授業評価委員会ニュース第3号「対談(FDって何だろう)」	2008年9月1日		「大学教育」が他の学校教育と何が異なるのか、等、FDの本質的問題点を三人の対談形式で論じた。			
	東北地区大学教育支援施設等交流会議:「東北学院大学のFD・教育支援活動」	2008年9月8日		東北学院大学のFD・教育支援活動の現状と展望を施設別、委員会別に紹介した。			
4	岩手県「一日総合大学」出前講義(於大船渡高校)講師	2006年10月		『感動の構造』という題で、「感動することは、大事だ。自分にもパワーがみなぎってくる」という小泉前首相の言葉を活用して、感動の本性について講義した。			
	秋田県立西目高等学校出前講義講師	2008年10月1日		『コミュニケーション力の本性』という題で、「コミュニケーション力」と「論理的な思考力」とは異なるものではなくて、一体化したものであることを講義した。			
	東北学院榴ヶ岡高等学校「大学アワーII」講師	2008年10月16日		『共感力の本性』という題で、現代社会の諸問題を論ずる際のキーワードとしての「共感力」について、このことばの多義性を分析しながら、その基本的な性格を説明した。			

教養学部 20 周年記念行事「おいしい教養バイキング」講師	2008 年 10 月 18 日	『言語コミュニケーションの倫理的な基底』という題で、言語行為と倫理的行為の共通な構造としての「役割取得」の重要性を説いた。
宮城県立石巻西高等学校出前講義講師	2009 年 2 月 5 日	『コミュニケーション力の本性』という題で、「コミュニケーション力」と「論理的な思考力」とは異なるものではなくて、一体化したものであることを講義した。
山東大学威海分校・東北学院大学「高等教育国際化検討会」研究報告者	2009 年 8 月 11 日	『日本社会や大学教育の構造転換の中での（教養教育）の新たな動向』という題で、我が国の大学での「教養教育」の最近の位置づけを報告した。
21 年度教養学部同窓会特別講義講師	2009 年 10 月 11 日	『共感力の本性』という題で、「共感 empathy」と「同情 sympathy」の違いを説明しながら、現代社会に必要なのは「共苦力」としての「同情力」であることを説いた。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 「ルサンチマンの病理」と倫理 (2) – シェーラーの「愛の秩序」論をもとに –現代倫理学論攷 (二の 2)	単著	2008 年 10 月	東北学院大学教養学部論集・教養学部創設 20 周年記念号 (第 150 号)		129～149 頁
D 言語文化学科 TOPICS [頭の良いひとの 話し方]	単著	2006 年 5 月	『季刊 教養学部』(東 北学院大学教養学部 ガイド)		2～3 頁
F 書評：FD 活動に「教育研究所」の所蔵 図書もご活用下さい (島田博司『私語へ の教育的指導—大学教育の生態誌 2』)	単著	2005 年 7 月	東北学院大学 FD ニュース (Vol. 1)		31～33 頁
論評：宇佐見寛『大学授業の病理—FD 批判』(東信堂、2004 年)を読んで	単著	2006 年 10 月	東北学院大学 FD ニュース (Vol. 5)		17～19 頁

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
平成 21 年度東北学院大学個別・共同研究助成金	2009 年	共同研究者	中国山東大学威海校との国際連携に向けた共同プログラム開発調査

IV 学会等及び社会における主な活動

1971 年～	日本倫理学会会員、東北哲学会会員
1993 年～2008 年	東北哲学会運営委員会委員
2000 年～2008 年	IDE 大学協会東北支部常任理事兼実行委員
2004 年～	塩竈市民病院倫理委員会委員 (学識経験者)
2008 年	大学基準協会大学評価委員会第五分科会委員 (主査)
2008 年～	東北学院大学生活協同組合理事長

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	菊地 弘	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習した事項の把握とその応用と実践を重視	2002年1月～2006年12月	受講者全員に年数回の内容把握と実践を実施。各章の終りに復習と実践を行う。更に、テストを行い習熟度を把握する。TOEIC等の試験を行い、英語力の強化を計る。				
	基礎的英語力の確認と英文内容理解の促進	2007年4月～2008年1月	毎時間モデル・リーディングを聴かせリスニングの強化を計る。				
	応用力育成と会話力の強化	2007年4月～2008年1月	各課のvariety目にTOEIC, TOEFLのテストで実践力を養う。				
	個別的指導の強化	2007年4月～2008年1月	毎時個別の応答の機会をもうけ個々人の能力を育成				
	新一年生の学力調査	2009年4月～	英語の基礎的語彙・文法の理解度を確認するため定期的な試験を実施。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	On Arthur C. Danto's Aesthetics	単著	2006年7月	東北学院大学教養学部論集 第144号		43～56頁	
	A Reading of <i>The Waste Land</i>	単著	2009年7月	東北学院大学教養学部 第153号		1～19頁	
G	T. S. Eliot の「客観的相関物」の日本文学への応用	単著	2005年12月	日本比較文学会東北支部大会			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	佐伯 啓	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学生のレポート・論文執筆能力を高めるための言語技術教育用教材を自作	2000年4月～2006年12月		プリント教材作成以外に、論文執筆を支援するソフトウェアを共同開発。			
	言語文化学科とドイツトリア大学日本学科のタンデムプロジェクト	2006年9月4日～8日		日独双方の学生が共同で行うプロジェクトワークを指導。小学校を訪問して環境問題に関する発表を児童の前で行う他。			
	日独学生共同プロジェクトのコーディネータと実施	2007年9月 2008年9月 2009年9月		言語文化学科とドイツ・トリア大学日本学科共同主催プロジェクト「日本語スタディツアー」の企画から実施まで、プログラム全体のコーディネータ			
	日独タンデムプロジェクトの指導	2007年9月 2008年9月 2009年9月		上記のプロジェクトの中で日独双方の学生が共同で行なうゼミ、ワーク（小学校と高校を訪問しての発表など）を指導。			
	語学学習用 Web アプリケーションによる授業支援	2007年～2008年		ブラウザとインターネット環境だけで使える、教科書完全対応の Web 版練習問題集を自作。担当する語学授業支援用として活用。			
	講義「表現の技法」における Web 活用レポート評価システム	2007年～2009年		大人数の授業を効果的に運営するための Web 活用を実践。Web を活用したレポートの提出・公開システムおよび提出されたレポートの新しい評価方法を提案し、語学専門雑誌に紹介した。			
2	初学者用ドイツ語教科書『D36』を共同執筆	2008年3月		ドイツ語の初級学習者を対象とした、ドイツ文法教科書（同僚の門間俊明講師との共著）。			
3	仙台市立寺岡小学校教員研修会で、国語教育に関する講演「小学校の国語教育に望むこと」	2007年5月1日		大学生の文章指導およびドイツの学校での経験から、今小学校に求められる国語教育のあり方について話した。			
	仙台市立寺岡小学校教員研修会で、国語教育に関する講演「コミュニケーション力の基礎となる作文教育」	2008年8月21日		古典レトリックにおける作文教育の紹介を中心に、話す力の育成にはなぜ書く練習が必要なのかを話した。			
	仙台市立寺岡小学校教員研修会で、国語教育に関する講演「書く力を基礎とした話す力の育成」	2009年5月7日		大学における言語教育の経験から、小学校の言語教育に望むことを話した。			
	仙台市立寺岡小学校教員研修会で、国語教育に関する講演「建設的な話し合いへと導く言語教育」	2009年8月25日		意見文の書き方、討論の仕方を中心に、小学校の言語教育にも応用できる理論について話した。			
4	福島西高校 一日大学講師（外国語学習法）	2005年6月22日		高校生を対象とした、外国語学習法に関する講義			
	大船渡高校 進学決定者対象の講演会「大学生の勉強法」	2006年2月25日		大学合格者を対象とした、大学生の勉強法に関する講演			

福島北高校大学見学模擬授業（ドイツ語）	2006年5月25日	キャンパス見学に来た高校生を対象とした、ドイツ語の模擬授業
言語文化学科・ドイツトリア大学共同主催「日本語集中講座」の企画と実施	2006年9月2日～16日	ホストファミリーの斡旋から共同ワークまで、この講座全体のコーディネーター
第1回「地域社会と教育を考えるフォーラム」コーディネーター	2007年3月3日	「考える力、コミュニケーションの力」をテーマとしたフォーラムの第3セッションで司会進行とコーディネーター
第3回「地域社会と教育を考えるフォーラム」コーディネーター	2008年10月4日	「変わる世界、地域から時代を創造するために(Part1)」をテーマとしたフォーラムの進行とコーディネーター
第4回「地域社会と教育を考えるフォーラム」コーディネーター	2008年12月13日	「変わる世界、地域から時代を創造するために(Part2)」をテーマとしたフォーラムの進行とコーディネーター
大学生協入学準備会で、大学の勉強について新入生と保護者向けに講演	2009年3月7日	大学での学問は高校までの学習と何が違うかをテーマに、自ら考える力を養うために具体的に何をすべきかを話した。
日本語教育を学ぶ教養学部生の海外派遣援助資金の獲得	2009年6月	これまでの他大学との教育交流実績を基に国際交流基金の「日本語インターンプログラム」に応募し、学生24人分の海外派遣資金を獲得した。
榴ヶ岡高校「大学アワーⅡ」講演	2009年10月23日	ドイツと日本の若者をテーマ、教育制度の違い、小中高校生の日常、家庭のしつけ、大学生活等について高校1年生向けに話した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba					
「ゲオルク・ビュヒマンの『翼のある言葉』—文献学的研究序説—」	単著	2005年3月	人間情報学研究第10巻		29～39頁
「ゲオルク・ビュヒマン『翼のある言葉』の編集史(1)」	単著	2006年4月	東北ドイツ文学研究第49号		51～72頁
「古典レトリックを生かした言語訓練」	単著	2008年3月	『月刊言語』Vol. 37. No. 3 大修館書店 2008年3月号		42～49頁
Bb					
「CEFの理論と外国語教育」	共著	2008年10月	『東北学院大学教養学部論集』第150号	門間俊明 佐伯 啓	167～181頁
D					
「言語技術とレトリック」	単著	2006年2月	東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンター紀要		31～34頁
「外国語をマスターするための体育会系練習法」	単著	2006年4月	AVセンターだより		5～6頁
「語学教育と古典レトリック」	単著	2006年10月	ひろの第46号 ドイツ語学文学振興会		2～3頁 14～15頁
「オーディオ・ヴィジュアルセンターの新規設備紹介」	単著	2007年3月	『ko・to・ma・na』2007		35頁

「語学教材紹介 Deutsch Direkt」	単著	2007年3月	『ko・to・ma・na』2007	2～3頁
「泉キャンパス・オーディオ・ヴィジュアルセンターのリニューアル作業完了!」	単著	2008年3月	『ko・to・ma・na』2008	33頁
「協定校紹介ードイツ・トリア大学」	単著	2008年3月	『ko・to・ma・na』2008	16～17頁
第3フォーラム「生きる力としての言語技術」(趣旨)	単著	2008年3月	地域社会と教育を考えるフォーラム報告集第1回「考える力, コミュニケーションの力」	38頁
「佐伯ゼミ紹介」	単著	2008年7月	『季刊教養学部』Spring&Summer'08 No. 7	22～23頁
「CALL との20年」	単著	2008年9月	『Laterne』100号, Herbst 2008, Dogakusha Verlag	12～13頁
「話す」ために「書く」練習を	単著	2009年3月	『ko・to・ma・na』2009	12～13頁
「レトリック」入門	単著	2009年3月	『ko・to・ma・na』2009	38頁
「大学生の勉強法」を教える初年度授業	単著	2009年3月	教育研究所報告集第9集	63～76頁
E				
言語文化 TOPICS 「英語による日本文化論」	単著	2005年6月	『季刊教養学部』Spring-Summer'05	14頁
「日本語スタディツアー」レポート	単著	2006年11月	『季刊教養学部』Autumn-Winter'06	18頁
言語文化 TOPICS 「海外日本語インターンプログラムに採択」	単著	2009年10月	『季刊教養学部』Autumn-Winter'09	26頁
F				
『「英語耳」を試す』	単著	2008年3月	『ko・to・ma・na』2008	12～13頁
G				
「Georg Büchmann "Geflügelte Worte"」の編集史	単著	2005年10月	東北ドイツ文学会(日本独文学会東北支部)第48回研究発表会	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1989年4月～	日本独文学会会員
1990年4月～	日本独文学会ドイツ語教育部会会員
1990年4月～	日本ドイツ語情報処理学会会員
2003年3月～	ドイツ語圏大学日本語教育研究会(Jah)会員

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	佐々木哲夫	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 自著教科書を使用し、講義内容を理解しやすいように工夫した。 独自の資料を印刷配布し、講義内容をさらに分かり易くするように工夫した。 教員独自の詳細なシラバスを作成し、学期冒頭のクラスにて、科目履修の概要を説明することにした。 2 江戸末期から明治期に至る東北学院成立の文化的背景を説明する一連の教材を作成した。 クラスで使う教材を PowerPoint で作成し、それを利用した。 クラスで講義する内容を論文として公表し、その論文を講義の教材として使用した。 4 読書すべき本の紹介 礼拝説教の担当 東北学院大学サマーカレッジでの講師 聖書の読み方紹介	2007年4月～2009年12月		佐々木哲夫・D.N. マーチー『はじめて学ぶキリスト教』教文館、2002年を継続使用している。				
	2007年4月～2009年12月		教科書に記されていない補足事項や関連知識を資料として印刷配布している。				
	2009年4月		詳細なシラバスによって受講生は、科目履修の方法を確認することができ、履修目標を明確に把握できる。				
	2007年4月～2009年12月		写真や年表などの情報を詰め込んだ教材を用いて講義することにより、学生たちの理解を豊かなものとした。				
	2008年6月、2009年9月		聖地イスラエルなど講義関連事項を PowerPoint で作成し、視覚教材として講義にて使用した。				
	2008年11月、2009年10月		「ロボットとキリスト教ーロボット開発と創造信仰の対峙ー」『東北学院大学教養学部論集』第151号、2008年、1～17頁。				
	2007年3月		「2007年キリスト教書読書アンケート」『本のひろばー増刊号2007ー』586号、日本キリスト教書販売、20～21頁。				
	2008年3月		「2008年キリスト教書『私が選んだ3冊』」『本のひろばー増刊号2008ー』日本キリスト教書販売、24頁。				
	2009年3月		「2009年キリスト教書『私が選んだ3冊』」『本のひろばー増刊号2009ー』日本キリスト教書販売、29頁。				
	2007年～2009年		高大連携の教育活動の一貫として、東北学院中高および東北学院榴ヶ岡高校にて礼拝説教を担当した。				
2008年7月29日		主題公演1「ミルクと旧約聖書」を担当した。					
2009年11月		「聖書を読むということ」『季刊協会』第77号、68～69号。					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba 「士師記1章8節の前置詞 be」		単著	2005年12月	『Exegetica(聖書釈義研究)』第16号		45～53頁	
「אֶתְרִיתの時間感覚」		単著	2008年12月	『Exegetica(聖書釈義研究)』19号		37～50頁	

「いのちの始まり (エレ1:5, 詩139:16)」	単著	2009年12月	『Exegetica (聖書釈義研究)』第20号	15~25頁
Bb				
「旧約聖書の楽器ネベルー琴か聖琴かー」	単著	2008年3月	『東北学院大学宗教音楽研究所紀要』第11号	6~12頁
「旧約聖書・戦争と平和」	単著	2008年6月	『季刊教会』第67号	4~11頁
「ロボットとキリスト教ーロボット開発と創造信仰の相対ー」	単著	2008年12月	『東北学院大学教養学部論集』第151号	1~17頁
「旧約聖書の楽器トフーエゼキエル書28章13節の翻訳を巡ってー」	単著	2009年3月	『東北学院大学宗教音楽研究所紀要』第13号	67~72頁
E				
「形成のことば」	単著	2009年6月	『形成』第461号, 滝野川教会	見返し
「聖書を読むということ」	単著	2009年11月	『季刊教会』第77号	68~69頁
F				
G・フォン・ラート『古代イスラエルにおける戦争』	単著	2006年9月	『本のひろば』	12~13頁
「2007年キリスト教書『私が選んだ3冊』」	単著	2007年3月	「2007年キリスト教書『私が選んだ3冊』』『本のひろばー増刊号2007ー』日本キリスト教書販売	20~21頁
「2008年キリスト教書『私が選んだ3冊』」	単著	2008年3月	「2008年キリスト教書『私が選んだ3冊』』『本のひろばー増刊号2008ー』日本キリスト教書販売	24頁
「2009年キリスト教書『私が選んだ3冊』」	単著	2009年4月	「2009年キリスト教書『私が選んだ3冊』』『本のひろばー増刊号2009ー』日本キリスト教書販売	29頁
G				
「士師記の戦争・平和・聖絶に関する一考察」	単著	2005年1月	日本福音主義神学会研究会	
「ヘレムに関する一考察ー士師記1:17, 21:11のヘレムー」	単著	2005年9月	日本基督教学会 第53回学術大会	
「カトリック学校とプロテスタント学校の連携について」	単著	2009年9月	日本カトリック教育学会第33回全国大会	
H				
A・E・カンダル『士師記』ティンデル聖書注解	単著	2006年12月	いのちのことば社	1~202頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
東北学院個別研究助成金	2006年度	個別	旧約聖書の聖絶とユダヤ性に関する研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1987年4月1日～	日本基督教学会正会員（東北地区理事）		
1987年9月21日～	福音主義神学会正会員		
1988年3月14日～	日本旧約学会正会員		
1990年7月21日～	聖書積義研究会正会員（会計担当）		
1999年4月1日～	キリスト教学校教育同盟「大学部会教育研究中央委員」		
2003年3月10日～	日本聖書学研究所所員		
2006年4月1日～	キリスト教学校教育同盟「教員後継者養成プロジェクト委員会」 東北・北海道地区統括者		
2007年4月1日～	キリスト教学校伝道協議会運営委員		

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	下館 和巳	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	英語教育	2005年1月～2009年12月	読解を中心とした英語力の涵養においては、根気よく辞書を引き、英文の構造を理解して、英文を適切な日本語に置き換えていくと同時に、自然な発音とリズムを持って音読できるような指導をしている。英語教育を言語教育の一環として前期では一文一文の意味を正確に捉えることに力点を置いた個人発表を中心とし、後期では長文の概要を把握することに力点を置いたグループワークを中心として、個の力をグループの中で発揮しながら、協調性を養い得るように、更に学会と同じ形式で、個々の理解を多数数の前で発表し、議論させる場を設けることで、思考力と同時に、表現力も陶冶できるようにしている。また2009年4月から基本的に授業はバイリンガルで行っている。つまり、学生の耳を常に英語の音に親しませるために、まず英語で解説をし、同じ内容を日本語で述べる。将来の日本における英語の在り方は、しばらくバイリンガルということになるかと思われるため、英語から日本語、日本語から英語への転換に馴染んでいることが肝要であると考えからである。				
	演劇教育	2005年1月～2009年12月	「俳優修行」という名称の演習では、将来、舞台俳優として或いは、表現者として仕事ができるような基本を身につける時間だが、その根底にあるのは、戯曲理解のための文章読解力、思考力、想像力の陶冶であって、英語教育を言語教育の一環ととらえる考え方とつながっている。演劇は、すべてのジャンルと抵触する幅広い学問領域であって、決して狭義に解釈されるべきものではない。よって、演劇学初歩の段階で、演劇の本質の問題を丁寧に考え、東西の要となる演劇書を通して学び、語り合うことが大切である。「表現文化の実践」という講義においても、その方法論は変わらず、少人数の場合に限らず、学生との対話を重視している。				
	「学生による授業評価」の実施		「教養学部授業評価要項」に従って前期、後期の講義の最後に授業評価を行っているほか、レポート用紙2枚程の授業についての具体的な感想をエッセイ風にかかせている。				
4	東北学院大学課外文化活動 ESS 部長・東京OB 会顧問	1997年～2009年	学生の英語劇指導および卒業生と現役学生の交流を図った。				
	東北学院大学文化団体連合会副会長	1997年～2009年	学生の活動の補佐を行った。				
	宮城二女高父兄会	2006年11月1日	「演劇の面白さ」についての講演				
	東北大学付属病院新人看護師研修講師	2007年～2008年	新人看護師に対してコミュニケーション能力の育成を図った。				

東北学院大学の二つの付属高校における講演	2007年～2008年	「後輩に向けて」というテーマでのワークショップと講演を行った。
英国ケンブリッジ大学の学生劇団の招聘	2008年	ペンブルック・プレイヤーズを、仙台市及び仙台御町協会と提携して招聘、シェイクスピア演劇を通して仙台市民と交流を図った。
青少年に対する演劇指導	2008年	ラボ教育センターの依頼による、小・中・高校生を対象とした演劇指導。
東北学院大学就職部副部長	2009年	教養学部における学生の就職活動を支える。
仙台市能楽堂御町移設に関わる懇談会メンバー	2009年	劇場に関する助言を行う。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数
D					
リベラルアーツを通して		2005年1月	国際基督教大学広報センター	下館和巳 渡辺真理	
教養学部産俳優たちの舞台『破無礼』必見!		2006年11月	季刊教養学部		
山川丙三郎の日記およびノート		2006年11月	東北学院時報 654号		
東北学院の山川丙三郎ーダンテ・アリギエリの挑戦(上・中・下)		2007年4月 2007年5月 2007年6月	東北学院時報 658号 東北学院時報 659号 東北学院時報 660号		
二年が過ぎて		2007年5月	シェイクスピア・カンパニー季刊誌 46号		
映画の中の名せりふ『ローマの休日』		2007年6月	kotomana 創刊号	東北学院大学 AV センター	
映画の中の名せりふ『ライムライト』		2007年6月	Kotomana 2号		
情熱の形		2007年10月	『ラスト・オーダー』	若手弁護士憲法9条の会	
東北で響け沙翁の名句		2007年11月	日本経済新聞文化欄		
めぐりあい(1)(2)(3)(4)(5)(6)		2007年12月 2008年4月 2008年8月 2008年12月 2009年8月 2009年12月	『路上』109号 『路上』110号 『路上』111号 『路上』112号 『路上』114号 『路上』115号	佐藤通雅編	
芝居の遺伝子(前)(後)		2008年2月 2008年3月	月刊 Danass	岩手県久慈市タウン誌	
生活するシェイクスピア・カンパニー		2008年5月	シェイクスピア・カンパニー季刊誌 50号		
ことばの海を越えて		2008年7月	『文学海を渡る』(笠間書院)	佐藤泰正編	

情熱の海	2008年9月	『大路ひとすじに』	大木騏一郎編
映画の中の名せりふ『ライアの娘』	2009年6月	Kotomana3号	
冬眠から目覚めて	2009年7月	シェイクスピア・カンパニー季刊誌52号	
英語の物語	2009年8月	仙台医師会報N0543	
G 日本シェイクスピア・グローブセンター坂田藤十郎襲名披露特別講演会	2005年12月	ホテルグランヴィア京都	
夏期セミナー基調講演ーハムレットから破無礼へ	2007年8月	日本キリスト教文学会九州支部	西洋古典劇の翻案についての講演

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
London English Speaking Union Scholarship	2002年		グローブ座アジア人として初の Directing Fellow を記念して授与
文化庁芸術文化振興基金助成	2005・2007・2008年		『破無礼』『新・お気に召すまま』
財団法人UFJ 信託文化財団助成	2005年	シェイクスピア・カンパニー	『破無礼』
仙台市市民文化事業団芸術助成	2005年	シェイクスピア・カンパニー	『破無礼』
仙台市市民文化事業団芸術助成	2007年		『破無礼』『新・お気に召すまま』

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1987年～2006年	日本キリスト教文学会東北支部長
2001年～2009年	東北大学講師
2001年～2008年	東北大学附属病院看護師新人研修講師
2002年～2009年	塩釜河童館常任理事
2002年～2009年	NHK 文化センター『シェイクスピアの世界』講師
2005年	北日本テレビフォーラム審査委員
2005年～2006年	社会福祉法人あおぞら理事
2005年～2009年	ダンテ読書会主宰
2005年～2009年	シェイクスピア・カンパニー主宰
2005年～2009年	ICU 同窓会評議委員
2006年	宮城県高等学校英語弁論大会審査委員
2006年～2008年	若手弁護士憲法九条の会制作演劇『ラスト・オーダー』の演技指導

2007年～2008年	中村ハルコ写真集『光の音』編集プロデューサー
2008年	NHK 仙台開局 80 周年記念ドラマ『お米の涙』制作におけるせりふ指導
2008年	小野功生追悼集編集委員
2008年	『大路ひとすじにー東北学院東二番丁青春譜(大木騏一郎編)出版発起人代表

V 芸術分野や体育実技等における主な活動

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
いわて手作り舞台協議会	藤沢町縄文ホール	2005年10月	俳優修行
生花インターナショナル講演会	江陽グランドホテル	2006年5月	なぜハムレットは魅力的なのか
脚本・演出『破無礼：奥州幕末のハムレット』	仙台141ギャラリーホール／東京六行会ホール／盛岡劇場タウンホール／仙台市イズミティ 21／岩手県平泉郷土館／秋田県わらび座／山形文化会館／八戸公会堂文化ホール	2006年3月～12月 2007年1月～2008年3月	デンマークを日本の奥州幕末に置き換えてのシェイクスピア悲劇の翻案
ダンテ『神曲』読了記念講演会	仙台ホテル	2007年6月1日	
田沢湖芸術村座談会『お国言葉のルネッサンス』パネリスト	秋田わらび座	2007年12月9日	
脚本・演出『新・温泉旅館のお気に召すまま』	大崎市青少年交流会館 早稲田栈敷湯 エルパーク仙台141 東京品川六行会ホール	2008年2月～9月	アーデンの森を昭和30年代の東北の温泉に置き換えての翻案
文化芸術座談会『都市の物語を可視化する』コーディネイター	メディアテイク仙台	2008年7月11日	文化庁長官青木保氏を招いての仙台市主催座談会
対談『多文化フロンティアとの対話』	仙台北教会ジレットハウス	2008年8月23日	月刊『日本語』主催で春原憲一郎氏と対談
言葉の海を越えて	KKR ホテル	2008年9月11日	仙台に支局を持つマスコミ各社局長クラブでの講演
教養学部シンポジウム『変わる世界』パネリスト	東北学院大学教養学部	2008年10月	20周年記念事業の一環として
河北文化賞記念講演会	国際ホテル	2009年1月	『東北とシェイクスピア』
仙台ロータリークラブ講話	メトロポリタンホテル	2009年3月	『東北とシェイクスピア』
キワニス会講演会	ホテル仙台プラザ	2009年8月	『英語は“イキ”である』
『夏の夜の夢』 公演	岩手県藤沢町 仙台市卸町ハトの家 福島県いわき市	2009年8月	公演のスーパーヴァイザーとして参加
いわき演劇祭シンポジウムパネリスト	アリオス小劇場	2009年8月	地方演劇についての討論会
荒井良雄氏との対談	仙台市卸町ハトの家	2009年8月	ロンドンの劇場グローブ座の魅力について

仙台銀行千成会講演会	江陽グランドホテル	2009年11月	『英語はおいしい』
------------	-----------	----------	-----------

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	ゾンダーマン, E.	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 学生の英文レポート執筆における論証能力の向上支援		2007年, 2008年		担当している文化基礎論 I の英語講義で, 学生に 3 回提出させる英文レポートをすべて添削し, 返却している。英語による学術的な論証能力の育成に寄与している。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba Dramenbibliographien zum 18. Jahrhundert als philologische Kartographie.		単著	2006年7月	Neue Beiträge zur Germanistik (ドイツ 文化 130), iudicium, Muenchen		218~226頁	
Bb Etwas über "Das Märchen vom Bilboquet" (1772)		単著	2005年	Hara Kenji and Sato Kenichi (Editors) : Tagenteki bunka no ronri-Arata na bungaku no sōsei e mukete. Logik der pluralistischen Kulturen, 東北大学出 版社, 仙台		157~184頁	
Das Stammbuch von Auguste Duvau		単著	2005/2006年	東北ドイツ文学研究 49号		21~50頁	
Andreas Saiffert-ein gescheiterter Sprachreformer der Goethezeit in Paris.		単著	2006年7月	東北学院大学教養学 部論集 144号, 仙台		75~105頁	
Julius von Klaproths Briefe an Joseph von Hammer		単著	2007年12月	東北学院大学教養学 部論集第 148号		19~53頁	
Herder und der Osten - dargestellt am Beispiel der "Adrastea"		単著	2007年	Herder-Studien Bd. 13		71~91頁	
Johann Caspar Horner über Japan(I) (1818)		単著	2008年3月	東北学院大学教養学 部論集第 149号		1~26頁	
Heinrich Julius Klaproth (1783-1835) und Johann Caspar Horner (1774-1834) über Kontakte zwischen Europa und Asien		単著	2008年3月	人間情報学研究 第 13巻		59~86頁	
18世紀の批評建久~メタ・インデック スの活用		単著	2008年9月	東北大学附属図書館 報 木這子 "Bulletin of the Tohoku University Library" "Vol. 33, No. 2 2008" [訳: 小川知幸]		1~7頁	

Johann Caspar Horner über Japan(II) (1818)	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集第150号	85~116頁
"Das Vaterhaus" und "Die Familie Lonau"	単著	2009年4月	Ifflands Dramen - Ein Lexikon (Ed.: M.-G. Dehrmann + A. Kosenina). Hannover	229~250頁 76~80頁+ 230~234頁
"Aly Bey, Sultan von Aegypten" - ein Abgesang auf die Revoution?	単著	2009年9月	東北ドイツ文学研究52号	231~258頁
F				
Rezension zu "The First Russian Voyage around the World: The Journal of Hermann Ludwig von Löwenstern, 1803-1806. Translated by Victoria Joan Moessner." (Fairbanks, UAP 2003).	単著	2005年12月	東北学院大学教養学部論集第142号	229~250頁
Rezension zu "Karl August Böttiger -Briefwechsel mit Auguste Duvau. Mit einem Anhang der Briefe Auguste Duvaus an Karl Ludwig von Knebel. Herausgegeben von Klaus Gerlach und René Sternke. Berlin: Aufbau Verlag 2004."	単著	2006年2月	Obolen. Mitteilungen der Johann-Gottfried-Seume-Gesellschaft zu Leipzig e. V., Leipzig	18~22頁
Julia A. Schmidt-Funke:Karl August Böttiger(1760-1835)-Weltmann und Gelehrter(Heidelberg:Winter 2006)	単著	2007年6月	Zeitschrift des Vereins für Thüringische Geschichte" 61	325~328頁
René Sternke:Böttiger und der archäologische Diskurs (Berlin: Akademie Verlag 2008)	単著	2008年6月	H Soz u Kult 26. 09. 2008, < http://hsozkult.geschichte.hu-berlin.de/rezensionen/2008-3-201 >	
G				
Ignaz Fessler (1756-1839) -Mann dreier Welten	単著	2005年3月	18世紀ドイツ文化研究会 (Nasu)	
Stammbuch.	単著	2005年10月	東北ドイツ学会 (仙台)	
Autoren zitieren Autoren.	単著	2005年12月	18世紀ドイツ文化研究会, 法制大学	
Sessa-Antijüdisches Drama der Goethezeit	単著	2006年6月	18世紀ドイツ文化研究会, 法制大学	
Herder und der Osten	単著	2006年11月	Herder学会 (仙台)	
Herders Sicht der östlichen Kulturen (Türkei, Indien und China)	単著	2006年12月	18世紀ドイツ文化研究会, 法制大学	
Mesmers "thierischer Magnetismus" im zeitgenössischen Drama	単著	2007年3月	18世紀ドイツ文学研究会	

Julius von Klaproth und Johann Caspar Horner als Brückenbauer zwischen Ost und West	単著	2007年3月	EKO-Konferenz Düsseldorf (Germany)		
"Schlagt ihn tot, den Hund! Es ist ein Rezensent." Rezensionszeitschriften im 18. Jh.		2007年12月	第62回18世紀ドイツ文学研究会		
Theaterwerke der Goethezeit - Ein Datenbankprojekt		2008年3月	第62回18世紀ドイツ文学研究会		
Zum Jesuitenverbot-anhand des Trauerspiels "Die Jammabos, oder die japanischen Monche" (1779/1782)		2008年6月	第64回18世紀ドイツ文学研究会		
Historical truth in German fairy tales!?		2008年10月	おいしい教養バイキング		
Datenbankprojekt : Theaterwerke der Goethezeit - ein Arbeitsbericht		2008年12月	第66回18世紀ドイツ文学研究会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	<p>日本独文学会 会員</p> <p>18世紀ドイツ文学研究会 毎回研究発表を行なっている。</p>
--	---

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	高橋 新士	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 毎回の授業の進め方 授業内容をよく理解させ定着させる工夫					黒板にかいた学生の解答の犯しやすい誤りを指摘する。板書の文字を大きく書く。 とくに重要な点をくり返し強調する。練習問題や宿題等で理解を定着させる。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
				日本独文学会会員			

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	戸田 征男	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	教科内容の肉付け	2005年1月～2009年12月	教科に関する記事、論文等をコピーし、配布する。コメントを求めたり、更なる調査を課題として課す。				
	教科内容の定着確認	2005年1月～2009年12月	解答、要点などをプリントして、配布・説明をする。				
	VIDEOの使用	2005年1月～2009年12月	最新の映像、モデル映像による視覚上、実践上の効果を狙う。				
	原典の多用	2007年1月～2009年12月	教材として可能な限り原書（英文）を使用し、内容の理解とともに語学力アップにもつなげる。類似の学科に負けぬ語学力育成を目指す。				
	課題の設定および解説	2007年1月～2009年12月	講義の補強、発展に通じる課題を随時設定し、作成を課し、その解説を入念に行う。				
	座席の指定	2007年1月～2009年12月	教室の着席座席を固定し、学習に、より効率的な雰囲気を保つ。				
	授業の記録	2007年1月～2009年12月	次年度の改善のため、毎時間ごとの記録をとっておく。				
	プレゼンテーション方法の指導	2007年1月～2009年12月	学生の将来を考慮し、人前で話す訓練と、発表力の育成を行う。				
	板書の工夫	2007年1月～2009年12月	板書の際には、ポイントを際立たせる様に、色違いのチョークを用い、また教室全体から見えるように書く場所、文字の大ききなどに配慮する。				
	上級学生・卒業生による授業	2007年1月～2009年12月	上級学生・卒業生に、自己の関心テーマや、体験を話してもらい、授業実演もしてもらい、学生に教科内容をより身近に感じさせる一助とする。				
	質問時間の確保	2007年1月～2009年12月	授業の合間に随時、また授業終了後に、質問の時間を設け、より質問しやすい雰囲気を作る。質問の例も、参考としてこちらから提示することもある。				
	アンケートの実施	2007年12月 2008年12月 2009年12月	教育実習履修者に対し、教育実習時の諸項目に関するアンケートを実施し、再点検を課すとともに次年度履修者に対するアドバイスを兼ねる。				
	2	言語学入門 15章	2007年4月（第6刷）	言語学の基本事項をまとめた入門書			
基礎から学ぶ英文構造		2008年4月（第4刷）	新しい英文法体系に基づく教科書兼参考書				

4	ブリッジ教育	2005年3月 2006年3月 2007年3月 2008年3月 2009年3月	推薦入学生に対する入門教育。
	教員免許状取得希望者に対する科目登録の指導	2007年4月 2008年4月 2009年3月	年度当初あるいは成績発表時に教員免許状取得希望者を集め、登録すべき重要科目を示唆し、教員になるための新たな決意を促す。
	オープンキャンパス講義	2007年8月 2008年8月	オープンキャンパス参加者に対する、言語論部門の講義。
	高等学校出張講義	2008年5月	「私たちはなぜ母国語が使えるようになるのか」というタイトルで、言語学の最近の動向を、宮城県宮城野高等学校で講義。
	おいしい教養バイキング	2008年10月	教養学部創設20周年記念行事の連続講義のひとつとして、「普遍文法と個別文法」というタイトルで講義。
	現職教員研修セミナー	2008年12月	中・高等学校の現職英語教員に対する研修セミナーで、「英語講座：英語教育の動向」部門の講師を担当。
	免許状更新講習	2009年8月 2009年9月	中学校・高等学校英語教員の免許状更新講習において、「英文法指導Ⅰ、Ⅱ」の講義を担当。試験実施・評価を担当。
	TG 泉の会	2009年10月	教養学部同窓生に対し、「言語能力と言語運用」というタイトルで講義。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba ESP や EGP に通じる無生物主語構文習熟	単著	2006年2月	東北学院大学オーディオヴィジュアルセンター紀要 第10号		17～29頁
D 「月浦資料」一部復刻について	単著	2007年3月	東北学院英学史年報 第28号		21～65頁
「月浦資料」一部復刻について(2)	単著	2008年3月	東北学院英学史年報 第29号		31～107頁
「月浦資料」一部復刻について(3)	単著	2009年3月	東北学院英学史年報 第30号		9～44頁
G 比較表現における対義語関係	単著	2005年6月	日本英語表現学会 第34回大会	比治山大学(広島)	
英語表現をつかさどる英文法システム再考	単著	2008年6月	日本英語表現学会 第37回大会	成城大学(東京)	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
	日本英語学会員 日本言語学会員 英語語法文法学会員 日本英語表現学会員 大学英語教育学会員（紀要査読委員） 日本英語教育学会員 東北英語教育学会員		

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	富田 昇	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
2	中国語テキスト『飛天』中級	2005年4月1日		中国語初級テキスト『飛天』（白帝社、2000年4月1日）の続編として出版したもの。本書も初級のスタンスを継承し、中級レベルにおけるコミュニケーション能力の総合的育成をめざしている。 共同執筆（趙秀敏）のため本人担当部分抽出不可能。			
	『ダブルハピネス 中国語初級文法 基礎編』 白帝社	2007年7月		本書の特色は、中国語文法の基礎を単に学んで理解するだけでなく、多様なドリルをとおし深く身に付くように工夫した点にある。即ち各課の課題を示すモデル文を冒頭に掲げてまず暗誦させ、ついで簡潔な解説をふし、最後に取りくみやすいドリルを豊富に用意し、学習事項の確実な理解と運用能力の自然な習得を図った。 共同執筆（趙秀敏）のため本人担当部分抽出不可能。			
4	中国語検定協会仙台会場最終責任者	2006年6月～		中国語検定協会検定試験の仙台における開催の最終責任者となる。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・略 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	中日文化研究文庫 『近代日本の中国芸術品流転と鑑賞』	単著	2005年4月	上海古籍出版（中国）		全336頁	
	『中国の思想世界』	共著	2006年3月	イズミヤ出版	中嶋先生退休記念事業会「恭王府文物流出とその政治的背景」	385～435頁	
	『清代王府及王府文化—国際学術研究会論文集—』	共著	2006年7月	文化芸術出版社（中国）	中華人民共和国・文化部恭王府管理中心「恭王府文物的流出及其政治背景」	272～292頁	
	「書籍之路与文化交流」国際学術研究会—近現代分科会論文集—	共著	2006年9月	浙江工商大学	浙江工商大学日本文化研究所「近代日本における漢籍の流入—文求堂・田中慶太郎の将来事業を通して—」	73～97頁	

「江南与中外交流」国際学術研究会論文集	共著	2008年9月	復旦大学	復旦大学歴史系「劉師培変節問題之再検討」	53～72頁
C 「近代日本における中国鑑賞陶器の流れ」	単著	2005年8月	日本陶磁協会『陶説』(第629号)		25～32頁
D 「恭王府文物今蔵何処」	単著	2005年10月	中国文化報(中国)		
『恭王府の宝物とその流転(1)』	単著	2008年2月	出版ダイジェスト(二玄社書道美術特集号<かく>No23)		
『恭王府の宝物とその流転(2)』	単著	2008年10月	出版ダイジェスト(二玄社書道美術特集号<かく>No24)		
『恭王府の宝物とその流転(3)』	単著	2009年3月	出版ダイジェスト(二玄社書道美術特集号<かく>No25)		
G 「恭王府文物的流出及其政治背景」		2005年8月	第一回清代王府及王府文化国際学術研究会(於北京)	中華人民共和国・文化部恭王府管理中心主催	
「近代日本における漢籍の流入—文求堂・田中慶太郎の将来事業を通して—」		2006年9月	国際学術シンポジウム「ブックロードと文化交流」(於杭州)	二松学舎大学21世紀CODプログラム・浙江工商大学日本文化研究所共催	
「近代における中国文物の流出」		2006年12月	研究プロジェクト「多元的世界観の共存とその条件—閉ざされた世界から開かれた世界へ—」第4回研究会	国際高等研究所主催	
「劉師培変節問題之再検討」		2008年9月	“江南与中外交流”国際学術研究会〔於上海〕	復旦大学歴史系	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1998年～	東北中国学会理事
2005年～	中華人民共和国・文化部恭王府管理中心・特別招請研究員
2008年～	日本中国語検定協会評議員

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	成沢 義雄	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
3	2006 All-Japan Junior English Speech Contest: The Tohoku Regional Finals 審査委員長	2006年12月23日		仙台国際センター, 主催: 日本LL 教育センター			
	2007 All-Japan Junior English Speech Contest: The Tohoku Regional Finals 審査委員長	2007年12月23日		仙台国際センター, 主催: 日本LL 教育センター			
	水先案内人 (パイロット) 英語試験講師	2008年2月21日		国土交通省東北運輸局			
	2008 All-Japan Junior English Speech Contest: The Tohoku Regional Finals 審査委員長	2008年12月14日		仙台国際センター, 主催: 日本LL 教育センター			
	水先案内人 (パイロット) 英語試験講師	2009年1月22日		国土交通省東北運輸局			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba							
Talking about Women: Research Based on British National Corpus			2005年3月	日本比較文化学会『比較文化研究』第67号	Y. Narisawa M. Machiya		
Gender in British English			2005年11月	3rd Asia TEFL International Conference Program Abstract, Beijing, China	Y. Narisawa		
Technical Communication 過去と現在: グローバル化の大波と躍動するアジア		単著	2006年3月	Journal of English Technical Communication Vol. 26 No. 1	発行所 日 本工業英語 協会		2頁
Corpus Linguistics: Gender Reflected on English		単著	2006年3月	JACET 東北支部通信, JACET 東北支部			1頁
Talking about Women: Research Based on British Corpus (日本比較文化学会 No. 67 からの転載)		共著	2006年4月	英語学論説資料収録論文一覧 第39号 第一分冊	成沢義雄 町屋昌明		9頁
Technology for Language Studies: Gender in Hidden Dimension			2006年6月	日本比較文化学会第24回全国大会発表抄録	Y. Narisawa M. Machiya		
Technical Communication 過去と現在: テクニカル・コミュニケーションと人類の壮大な文明史		単著	2006年6月	Journal of English Technical Communication Vol. 26 No. 2	発行所 日 本工業英語 協会		2頁
Using Corpus for English Teaching		単著	2006年6月	Asia TEFL International Conference Paper	Asia TEFL		1頁

Bb					
Corpus Linguistics:Gender Reflected on English		2006年3月	JACET 東北支部通信 No. 29, 12月例会発表要旨		
Corpus Linguistics:Technology Brings Revolution to English Teaching		2006年6月	東北・北海道 JACER 支部合同大会発表要旨		
Technical Communication 過去と現在: テクニカル・コミュニケーションと人類の壮大な文明史	単著	2006年9月	Journal of English Technical Communication Vol. 26 No. 3	発行所 日本工業英語協会	2頁
Technical Communication 過去と現在: Technical Communication の世界語としての英語	単著	2006年12月	Journal of English Technical Communication Vol. 26 No. 4	発行所 日本工業英語協会	2頁
Technical Communication 過去と現在: 南北戦争とモリル法	単著	2007年3月	Journal of English Technical Communication Vol. 27 No. 1	発行所 日本工業英語協会	2頁
Technical Communication 過去と現在: 米 国 大 学 の 黎 明 期 と Technical Communication	単著	2007年6月	Journal of English Technical Communication Vol. 27 No. 2	発行所 日本工業英語協会	2頁
Corpus Linguistics: Technology Brings Revolution to English Teaching	単著	2007年6月	JACET 北海道支部 ニュースレター, JACET 北海道支部		2頁
Using Corpus for English Teaching	単著	2007年6月	Asia TEFL International Conference 2007 マレーシア クアラルンプール		
Technical Communication 過去と現在: 産業革命と Technical Communication	単著	2007年9月	Journal of English Technical Communication Vol. 27 No. 3	発行所 日本工業英語協会	2頁
Technical Communication 過去と現在: 工 科 系 大 学 と Technical Communication	単著	2007年12月	Journal of English Technical Communication Vol. 27 No. 4	発行所 日本工業英語協会	2頁
Technical Communication 過去と現在: 工 科 系 大 学 と Technical Communication	単著	2008年3月	Journal of English Technical Communication Vol. 28 No. 1	発行所 日本工業英語協会	2頁
Technical Communication 過去と現在: 工 科 系 大 学 と Technical Communication	単著	2008年6月	Journal of English Technical Communication Vol. 28 No. 2	発行所 日本工業英語協会	2頁
「宇宙創造と反意語の共起性」 Creation of the Universe and Co-occurrence of Antonymy	単著	2008年6月	大学英語教育学会東北支部大会 エル・ソーラ仙台		

Technical Communication 過去と現在： Technical Communication の興隆期	単著	2008年9月	Journal of English Technical Communication Vol. 28 No. 3	発行所 日 本工業英語 協会	2頁
C Technical Communication 過去と現在： テクニカル・コミュニケーションと人 類の壮大な文明史	単著	2006年6月	Journal of English Technical Communication Vol. 27 No. 2	発行所 日 本工業英語 協会	
「Technical Communication 過去と現 在：第3回」	単著	2006年9月	Journal of English Technical Communication Vol. 27 No. 3	発行所 日 本工業英語 協会	
E フィンランド言語学会に参加して	単著	2005年3月	英語コーパス学会 Newsletter 48		
2005年韓国応用言語学会年次大会報告 及び感想記	単著	2005年11月	http://www.jacet.org/2005/alak.pdf . 2005/ 11/29		
北京とソウルからの強烈なメッセー ジ：世界大競争時代に突入の予感	単著	2005年12月	英語コーパス学会 Newsletter 51		
アジア TEFL 大会からの衝撃：グローバ ル言語英語のダイナミズム	単著	2008年3月	JACET 東北支部通信, JACET 東北支部		
G テクノロジーと言語研究		2005年10月	日本比較文化学会南 北支部大会, 仙台国際 ホテル		
招待特別講演 Technology Facilitates Language Learning and Linguistic Research		2005年11月	Applied Linguistics Association of Korea 2005 Annual Conference, Chung-Ang University (韓国中央 大学) Seoul, Korea		
Gender in British English		2005年11月	3rd Asia TEFL International Conference Beijing, China		
Corpus Linguistics: Gender Reflected on English	単著	2005年12月	大学英語教育学会東 北支部例会 仙台市 民会館		
Technical Communication 過去と現在： グローバル化の大波と躍進するアジア		2006年3月	Journal of English Technical Communication Vol. 26 No. 1	発行所 日 本工業英語 協会	
Technology for Language Studies : Gender in Hidden Dimension	共著	2006年6月	日本比較文化学会 28 回大会 駿河台大学 飯野キャンパス	成沢義雄 町屋昌明	

Corpus Linguistics:Technology Brings Revolution to English Teaching	単著	2006年7月	大学英語教育学会東北・北海道合同支部大会 函館市中央図書館		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	平間 孝雄	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	学生の知的好奇心を喚起するための工夫	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みには、学生の購読している新聞の記事の中から、ドイツに関するものを選び出させて、それについてレポートを提出させる。 ○ドイツの歴史についても、写真や絵、書籍の紹介などで興味を持たせる。 ○ヨーロッパの社会を語る上で欠かせないキリスト教に関しても、自分の知りうる限りのことを説明している。 ○映画や絵画の展覧会、音楽なども話題に取り入れ、ドイツのみならず、ヨーロッパの文化への興味を喚起している。 				
	毎回の授業の進め方における工夫	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○1999年に自作した教科書を使用し、初学者にわかりやすい授業を心掛けている。 ○単元ごとに要領をまとめて説明し、理解しやすい話し方をする。 ○教科書における説明に加えて、より詳しく口頭で説明する。 ○要点をわかりやすく板書し、学生が理解したかどうかその都度確かめる。 ○板書の際には、楷書体を用いチョークの色分けをして、大事な項目に注意を促している。 				
	授業に学生を引き付ける工夫	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての学生の顔を見ながら話し、学生の反応を確認する。 ○その都度、質問の有無を確かめ、学生の理解を確認する。 ○質問に対しては必ず誠意を以て、十分に説明する。 ○説明ははっきりとした言葉で、しかもゆっくりと話す。 ○学生との対話式の授業を心掛け、授業の中に学生を巻き込む努力をする。 ○必要と認めた場合には、授業に間合いを取り、息抜きをする。 ○できる限り多くの学生の顔と名前を覚え、男子学生は～君、女子学生は～さんと呼び、時には愛称を使うなど親しみを持たせる。 ○授業の前には、インターネットや新聞からドイツに関する話題を選び、それを授業の中で学生に紹介する。 ○自分のドイツ滞在中の見聞を教科書の内容と関連づけて紹介する。 ○教壇に立ったままではなく、教室中を歩き廻りながら授業を進め、なるべく多くの学生と直接ふれあうように努力し、また学生には適度の緊張感を持たせる。 				

授業内容をよく理解させるための工夫	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○課題となる部分の発音練習は数回繰り返して行い、学生に読ませてその理解を確かめる。 ○課題を解くための文法的説明は、前もって充分に行う。 ○課題は必ず時間的な余裕を持たせるために、次の週に解かせる。 ○課題は全て学生に課する。 ○課題を学生に解かせた上で、さらにそれに付いて詳しい説明を加える。 ○文法上重要な部分は、前もって練習した上で次回の授業で小テストを行い覚えさせる。 ○学期の最後には、口頭でのドイツ語文の会話のテストを行う。
学生への接し方	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○質問があれば、研究室に来るように伝えてある。 ○学内で見かけた時にはなるべく声を掛け挨拶を交わすよう心掛けている。 ○授業に関する質問以外にも、学生生活に関してなどの相談にのっている。
授業の秩序を維持する工夫	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○必ず授業開始前に教室の前まで行き、始業合図のベルとともに教室に入る。 ○学生には時間厳守を徹底している。 ○欠席や遅刻に対しては厳しく対処し、注意を守らない学生は除籍する場合もある。 ○私語や居眠りに対しては必ず注意を与える。 ○課題の結果については優れている場合はその場で評価を与える。 ○大学内だけではなく、社会でのルールや秩序についても機会あるごとに話題として取り上げている。 ○学年の最後には独自に学生に授業評価をさせ、その結果を反省材料として次年度の授業に反映させている。
2 自作教科書を作成した	2007年～2009年12月	<ul style="list-style-type: none"> ○2008年10月に、前作の『ユッキのドイツ留学』（1999年3月、白水社）を改訂し、『アッキのドイツ留学』（2008年10月、笹氣出版印刷）を作成し、自費出版した。 ○学生の負担を少なくするために、可能な限り無駄を省いた体裁とした。 ○現在は週1コマの授業であることから、新教科書では練習問題は削除した。 ○文法の説明文は簡明を心掛け、しかも分量を多くして充実させ、学生の理解しやすいものとした。 ○ヨーロッパ共同体の中でのドイツのあり方を考慮したドイツ語文での内容とし、新通貨単位の記述など、なるべく最新の状況を反映させた。 ○それと同時に第二次世界大戦時の事情を題材に選ぶなど、歴史にも十分配慮した。 ○ドイツ滞在中の写真を豊富に取り入れ、学生の興味を引くように心掛けた。 ○題材はペットにも話が及ぶなど、学生にも身近に感じられるものとした。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
E インターネットで読む世界の混乱(2)		2005年2月	東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンター紀要 第9号 東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンター発行		11～26頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動					

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	福地 明子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 「言語文化基礎演習」		2006年12月		1年間2つの論文を書かせるが、初めのミニ論文をクラス全員分冊子にして配った。これは学生に次の中論文への意欲を与える効果があったように思う。			
「基礎演習」小論文の製本（14人分）		2007年4月		「メタファー」のテーマで1年生が書いた小論文を学生と協力して冊子にした。			
「総合研究」論文の製本（7人分）		2008年3月		Hard Coverの本にするからと口答試問が終っても、より良い論文にするための勉強を続けるよう励まし良い本ができた。			
「総合研究」論文の製本（5人分）		2009年3月		2月中旬まで論文の推敲を続け、完成度をあげて製本した。			
「総合演習」（教職必修）に教員になった卒業生の話を取り入れた。		2009年6月		現場の先輩の話は、机上の教育論より強い印象を作る。強い刺激になったと思う。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
A ヨーロッパ文学における楽園Ⅱ－「エデンの園」－「生命の木」－「生命の水」		単著	2006年12月	『東北学院大学教養学部論集』第145号		39～56頁	
Bb Wordsworth のソネット連作 <i>The River Duddon</i> に関する覚え書き		単著	2008年10月	『東北学院大学教養学部論集』第150号		239～253頁	
H 和歌の英訳		単著	2008年5月	鳥羽良明歌集『エルニーニョ』（短歌新聞社）		255～285頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1999年～		イギリスロマン派学会 理事					
2008年10月		東北学院大学教養学部20周年記念「おいしい教養バイキング」ミニ講義：「Fantasy で学問しよう」					

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	村山真理子	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	視聴覚教材の利用	1990年4月～2009年12月		文学論, 文化論, 英語学習いずれの授業においても, 視聴覚教材を学生の理解のために補助として使用した。			
	板書に代えて教材提示器の利用	1990年4月～2009年12月		学生がノートを取りやすいようにとの配慮から, 教材提示器用のメモを作成した。			
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2006年4月～2009年12月		授業において, 前回以前の復習と, 今回の纏めを繰り返し, 視点を変えた場合の問題の展開を示唆している。			
	各学生に発表の機会を与える	2006年4月～2009年12月		自力で調べる方法を示し, レジュメを準備させ, その指導を行う。			
	総合的な理解しやすさを目指している	2006年4月～2009年12月		視聴覚資料, 教材を使用し, インターネット情報収集も利用している。			
2	資料提示器用資料の作成『イギリスナショナルトラスト』	2006年4月～2009年12月		各授業ごとに, 資料提示器を使用し, 発展的問題意識の養成を行っている。			
	資料提示器用資料作成『ジェイン・オースティンの時代と文学』	2006年4月～2009年12月		各授業ごとに, 資料提示器を使用し, 発展的問題意識の養成を行っている。			
	資料提示器用資料作成『マザー・グースとイギリスの児童文学』	2006年4月～2009年12月		各授業ごとに, 資料提示器を使用し, 発展的問題意識の養成を行っている。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
E 青葉山のオオタカ		単著	2009年5月	雁 第235号		14～15頁	
F ウェールズケルト紀行		単著	2005年4月	英日文化80号		100～101頁	
ヴィクトリアン・サーヴァント		単著	2005年9月	英日文化82号		104～105頁	
マザー・グースとイギリス近代		単著	2006年3月	英日文化84号		112～113頁	
イヌワシの生態と保全		単著	2008年3月	英日文化92号		74～75頁	
H 通が案内するロンドンの名建築		単著	2006年9月	英日文化86号		54～60頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
2006年4月～2009年12月			英日文化協会会員				
2006年4月～2009年12月			美学会会員				

2006年4月～2009年12月	日本英文学会会員
2006年4月～2009年12月	イギリス美学会会員
2006年4月～2009年12月	アメリカ美学会会員
2006年4月～2009年12月	アメリカ児童文学会会員
2006年4月～2009年12月	イギリスナショナルトラスト会員
2006年4月～2009年12月	イングリッシュヘリテージ会員

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	森 美智子	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義における学習事項の記憶への定着と理解の促進	2004年4月～2009年12月	講義においてテキストとつねに視聴覚教材を併用し板書によって重要事項を反復している				
	総合研究における自主的リサーチ活動の促進と鼓舞	2006年4月～2007年3月	個別指導を可能な限り実施、発表を活発に行なわせ、論文の成果を冊子にまとめた				
	初年度教育における基礎的学習方法体得を促進	2006年4月～2007年3月、 2008年4月～12月	面談による個別指導を重視し、授業では毎回全員に短文作成と意見交換を課し指導の徹底を目指した				
4	上智大学コミュニティー・カレッジ講座「スペイン美術の諸相」にて講演	2005年5月23日	講演タイトル「ホセ・デ・リベラ《聖ピリポの殉教》—対抗宗教改革の教義と芸術」				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	松井美智子「わたしはすでに栄光を表した。そしてさらにそれをあらわすであらう。」—エル・グレコ《トレド風景》をめぐる一考察	単著	2006年10月	『スペイン・ラテンアメリカ美術史研究』第7号: 創立10周年記念号, スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会		49～57頁	
E	松井美智子『よみがえる須磨コレクション—スペイン美術の500年』長崎美術館収蔵の4点のスペイン絵画に関する調査報告及び作品解説	共著	2005年4月	長崎美術館		81頁, 86～90頁	
D	松井美智子『絵画は思索的なものとなる』エル・グレコ—異郷における最後のルネサンス画家	単著	2008年10月	『ルネサンス美術館』小学館	石鍋真澄監修 コラム執筆	452～453頁	
G	松井美智子「エル・グレコ《トレド風景》—その寓意的解釈の可能性をめぐって」		2006年4月	第10回スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会総会, 早稲田大学			
	松井美智子「エル・グレコと古代」		2008年12月	フォーラム「スペイン美術と古代世界」スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会・民族芸術学会共催	セルバンテス文化センター(東京)		
H	ヴィクトル・I・ストイキツァ『幻視絵画の詩学—スペイン黄金時代の絵画表象と幻視体験』	単独 翻訳	2009年2月	三元社		全347頁	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費基盤研究(A)	2009年度	共同・連携研究者	16・17世紀における西洋美術理論書の比較芸術論的研究
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1975年4月～	美術史学会会員		
1975年4月～	美学会会員 2008年度『美学』査読委員		
1982年4月～	九州芸術学会会員		
1996年4月～	スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会会員		

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	吉田 信	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	試験範囲以外の資料の配付	2005年1月～		より深い学習を目指す受講生に、できる限り多くの知識を獲得して考えを深めてもらうことを願って、プリント等を作成して配付。			
	卒業論文の構想発表会の開催	2005年6月～		個別の学生の指導に加えて、グループ所属の学生の論文進捗状況をチェックするための複数回にわたる発表会の開催。			
	課外授業（メンター・ゼミ）の実施	2008年4月～		前年度の論文作成を主眼としたクラスを受講した学生を対象に論文の読み方・書き方等を定期的に指導。			
4	教育実習校訪問	2008年6月		ゼミの学生の教育実習先を訪問，指導。			
	オープンキャンパス開催への協力	2008年6～10月 2009年6～10月		ボランティア学生が準備した展示物等への助言，指導。			
	授業評価報告書執筆	2008年7～10月		「学生による授業評価」（2007年度分）の報告書の一部を執筆。			
	推薦入学生のためのレポート添削等	2009年3月		新年度入学生のためのブリッジ教育の一環としてレポートの講評とミニ講義を実施。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所，発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	「反復」についての覚え書—日本語と英語の場合—	単著	2007年12月	東北学院大学教養学部論集（第148号）		55～67頁	
D	英詩の森に迷い込んで	単著	2009年3月	人間情報学研究（第14巻）		143～144頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1973年4月～		日本英文学会会員					
1988年4月～		東北英文学会（日本英文学会東北支部）会員					

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	吉用 宣二	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb フランツ・ヘッセラーフラヌールの系 譜 III. フラヌールと文体		単著	2005 年	東北学院大学論集 人間・言語・情報 141 号		107～196 頁	
フランツ・ヘッセラーフラヌールの系 譜 IV. フラヌールと生		単著	2006 年	東北学院大学論集 人間・言語・情報 143 号		1～94 頁	
ロッテ・ヤコビのポートレート		単著	2007 年 7 月	東北学院大学教養学 部論集 147 号		26～64 頁	
ジェルメーヌ・クルルと写真		単著	2008 年 12 月	東北学院大学教養学 部論集 151 号		19～84 頁	
セース・ノーテボームを読む I. 『フィリップと他者たち』		単著	2009 年	東北学院大学論集 154 号		65～89 頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2007, 2008 年			国際ロータリー海外奨学生選考試験 (ドイツ語・イタリア語) の試験官				

所属	言語文化学科	職名	教授	氏名	ワトソン, S.	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba “FOR YOU/NEW PSALM” in Poem, Home			2009年	An Anthology of Ars Poetica. Paper Kite Press, Kingston, PA, USA, 2009			
Bb Racism & Translation : American Santoka.			2008年10月	Tohoku Gakuin University Faculty of Liberal Arts Review. Number 150.			
Essay in a Language Seeking Life			2008年12月	Tohoku Gakuin University Faculty of Liberal Arts Review. Number 151.			
“On Being American”			2009年3月	東北学院大学教養学部論集第152号			
“Five Years of Death: Cid Corman”			2009年8月	東北学院大学教養学部論集第153号			
“For a Walk: Experientially Learning a Lost Way of Life”			2009年12月	東北学院大学教養学部論集第154号			
G Racism and Translation : American Santoka.			2007年9月	International American Studies Association. World Conference. University of Lisbon. Lisbon, Portugal.			
Scott Watson Reading his Poetry and his Translations of Japanese Poetry			2008年9月	University of Sydney. English Department Sydney, Australia.			
“American Santoko: Racism and Translation”			2009年10月	Internationnal Symposium on Poetic Inquiry. University of Prince Edward Island, Canada.			

H Mountaintopfire (parts1&2) Taneda Santaka Haiku, trans.		2009年5月 2009年8月	Roadrunner, [http://www.roadrunnerjournal.net/page s93/mountaintopfire _part_2.pdf]		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	伊藤 常夫	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
4	言語文化学科ブリッジ教育企画・運営・担当	2007年2月16日		一般入試以外での入学予定者スクーリング2007年度（第1回）			
	言語文化学科ブリッジ教育企画・運営・担当	2007年3月9日		一般入試以外での入学予定者スクーリング2007年度（第2回）			
	言語文化学科ブリッジ教育担当	2008年2月15日		一般入試以外での入学予定者スクーリング2008年度（第1回）			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要
IV 学会等及び社会における主な活動							
2008年10月5日				俳茶事（緑水庵）佛淵健悟氏を招いて			

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	尾谷 昌則	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1	ホームページの活用	2005年4月～至現在		学生との双方向的コミュニケーションを目指し、個人のホームページを開設。授業スケジュールの公表、授業の補足資料の配付、学生からの質問の受け付け、試験勉強のアドバイス、より発展的な学習や資格取得に向けた教材の紹介・配布など、幅広く活用。			
	授業評価アンケートの実施と公開	2006年		教養学部の授業評価委員会が実施している授業評価アンケートを複数の科目で実施した。また、その結果のレーダーチャートを個人のウェブページで公開し、自由記述欄にあった学生からの声とそれに対する私の回答も併せて公開した。			
	文章作成指導における添削デモンストレーション (1年次基礎ゼミ)	2006年4月～至現在		1年次の基礎ゼミにおいて、要約レポートを毎週提出させているが、そのレポートをその場で印刷・配布し(ただし名前は伏せる)、プロジェクターでも映し出して、尾谷による赤ペン添削を実演した。尾谷による解説を交えながら、学生にも同じように赤ペンで添削のメモをとらせることで、自分の文章を客観的に見直す練習をした。			
	要約作成指導における添削デモンストレーション (3年次ゼミ)	2006年4月～至現在		3年次のゼミにおいて、課題論文の要約レポートを毎週提出させているが、提出されたレポートをその場で印刷・配布し(ただし名前は伏せる)、プロジェクターでも映し出して、尾谷による赤ペン添削を実演した。尾谷による解説を交えながら、学生にも同じように赤ペンで添削のメモをとらせることで、自分の文章を客観的に見直す練習をした。			
	留学生とのコラボレーション・ゼミ (3年次ゼミ)	2007年9～10月		秋学期にやってくる短期留学生(3ヶ月)を尾谷ゼミに参加させ、少人数のグループに分かれて日本文化研究を実施。4週間後にその成果をパワーポイントで発表。尾谷ゼミの学生は留学生に図書館やパソコン室の使い方を教えたり、日本語による発表原稿の添削指導を行ったりすることで、異文化コミュニケーションと日本語教育の経験を積んだ。			
2	歌謡曲の歌詞を用いたリスニング複合教材	2005年6月～2006年11月		日本語学習者向けの教材。日本の流行歌の歌詞をテキスト化し、頻出する重要表現を空欄にするなどして、リスニング・構文学習のためのもの。			
	「日本語学」入門用PPTスライド(全14回)	2006年4月～2007年1月		橋本文法に基づく学校文法と、広く世界の言語を視野にいれた日本語教育向けの日本語学の違いを理解するための入門向け教材。全13回分のパワーポイントスライド教材。品詞分類の問題の中でもとくに助動詞の問題を取り上げ、それに代わる文法カテゴリーという概念の紹介を中心に作成。			

映画『天空の城 ラピュタ』を用いた日本語リスニング複合教材	2006年6月～7月	日本語学習者向けの教材。DVDの日本語音声とそれに対応する英語字幕を全てテキスト化し、頻出する重要表現を空欄にするなどしたリスニング・構文学習のためのもの。
「日本語学」入門用PPTスライド(全14回)	2008年4月～7月	日本語がもつ様々な問題について毎回1つのトピックとして取り上げ、言語学的な観点から解説を行った。取り上げたトピックは「忌み言葉」、「ことばの恣意性」、「方言」、「ことばの基準と規範」、「ことばとアイデンティティ」、「日本語は特殊な言語か」など。
3 「日本語教育における練習(問題)の意義について～英語教材との比較から～」盛岡大学	2007年12月22日	外国人に対する日本語教育において、練習問題のバリエーションとその特徴・意義などについて発表した。日本における英語教育教材との比較し、どちらがより実践的な語学教材になっているのかも併せて検討した。
4 指導学生の卒業論文が「教養学部長賞」を受賞	2006年3月	その年に提出された卒業論文の中から、特に優秀な論文を表彰する制度があり、尾谷ゼミ所属の角田あさ美さんが2005年度の学部長賞を受賞した(受賞論文名は『話し言葉における無助詞について』)。学部長賞は、計3学科、約280名の中から2点選出された。
指導学生の卒業論文が「言語文化学科長賞」を受賞	2007年3月	その年に提出された卒業論文の中から、特に優秀な論文を表彰する制度があり、尾谷ゼミ所属の結城朗江さんが2006年度の学科長賞を受賞した(受賞論文名は『現代日本語における接続助詞シの意味・機能』)。学科長賞は、各学科約90名の中から1点選出される。
平成20年度 日本語検定最優秀団体賞(大学部門)を受賞	2009年2月	特定非営利活動法人日本語検定委員会が毎年実施している日本語検定において、「東北学院大学泉キャンパス 尾谷研究室」の名前で団体受験をし、平成20年度最優秀団体賞を受賞した。これは尾谷が実施責任者となって団体申請したものであり、実際には尾谷研究室以外の学生も含めて計70名が受験した。受験予定者に対しては、放課後に数度の勉強会も実施した。
指導学生の卒業論文が「教養学部長賞」を受賞	2009年3月	その年に提出された卒業論文の中から、特に優秀な論文を表彰する制度があり、尾谷ゼミ所属の根本彩が2008年度の学部長賞を受賞した(受賞論文名は『不採用通知にみられるポライトネス・ストラテジー』)。この年の学部長賞は、計4学科、約500名の中から2点選出された。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 「自然言語に反映される認知能力のメカニズム ～参照点能力を中心に～」	単著	2005年3月	京都大学大学院 人間・環境学研究所 博士論文		127頁
「接続詞ケドの手续きの意味」	単著	2005年12月	日本語用論学会発行 『語用論研究』第7号, pp. 17-30		13頁

「構文文法の歴史的背景と今後の展望」	単著	2006年3月	『人間情報学研究』第11巻	25～43頁
「アマルガム構文としての『「全然」＋肯定』に関する語用論的分析」	単著	2008年9月	『言葉と認知のメカニズム』（ひつじ書房）	103～115頁
C 「接尾辞ポイのモダリティ化」	単著	2005年12月	『日本語用論学会第8回大会予稿集』pp. 85-88	4頁
「構文の確立と語用論的強化：「全然～ない」の例を中心に」	単著	2007年12月	『日本語用論学会 第9回大会発表論文集』（日本語用論学会発行）	17～24頁
D 「日本語教師に必要な能力」	単著	2006年5月	『季刊 教養学部』No. 1（東北学院大学教養学部）	8～9頁
「若者言葉だって『全然いい！』」	単著	2007年10月	『季刊 教養学部』No. 6（東北学院大学教養学部）	10～12頁
F 「私がオススメするサイト！ 日本語編」	単著	2007年3月	『ko・to・ma・na コトバを学び、コトバに遊ぶ』No. 1	25頁
「私がオススメするサイト！ 日本語編」	単著	2008年3月	『ko・to・ma・na コトバを学び、コトバに遊ぶ』No. 2	27頁
「日本人でも日本語の会話練習を！」	単著	2008年3月	『ko・to・ma・na コトバを学び、コトバに遊ぶ』No. 2	20頁
G 「構文文法と認知言語学のパラドクス：日本語の主要部内在型関係節を中心に」	単著	2005年7月	FLC Conference 2005（於東北学院大学）	
「構文の確立と語用論的強化：「全然～ない」の例を中心に」	単独発表	2005年12月	第9回日本語用論学会	
「装定用法における並置形容詞に関する一考察」	単独発表	2007年11月	第62回東北英文学会	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
文部科学省 科学研究補助金 若手研究(B)	2005年	個別	研究題目は「日本語教材における機能語と構文パターン学習順序に関する認知言語学的研究」（課題番号：17720128），採択期間は2005年度～2006年度（2年間），配分金は計110万円（直接経費のみ）。

文部科学省 科学研究補助金 若手研究(B)	2007 年	個別	研究題目は「日本語多義構文の効果的学習順序とその教材開発に関する認知言語学的研究」(課題番号:19720125)、採択期間は2007年～2019年の4年間、配分金は計230万円(直接経費のみ)。
IV 学会等及び社会における主な活動			
2007年12月2日(日)	「ズバリ!間違っているわよ!! 本当は違う,あなたの敬語」 青葉区中央市民センターが主催する「敬語講座」の講師を担当した。なお,企画運営にあたったのは本学の社会教育実習生である。(於仙台市青葉区中央市民センター)		
2008年2月16日(土)	「漢字と日本人の暮らし - 『新潮日本語漢字辞典』編纂の周辺 -」 講師に小駒勝美氏と池田雅延氏(ともに新潮社)を迎え,漢字と漢字辞典に関する講演会があり,そのコメンテーターとして尾谷も参加した。(主催:東北学院大学教養学部,後援:新潮社,於東北学院大学 押川記念ホール)		
2008年10～12月	「言霊が伝える意味 ～ことばとコミュニケーション～」 NHK文化センター(泉教室)の教養・文芸講座を担当した。期間は3ヶ月間。		
2009年11月27日(金)	「外国人から見た日本語 ～日本語教育の視点から」 市民講座の講師を務めた。(仙台市高森市民センター)		
2009年11月29日(日)	「表現力アップ講座 ～話し上手になるためにおきたい3つのこと」 市民講座の講師を務めた。(於青葉区中央市民センター)		

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	岸 浩介	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年	月	日	概 要	
1	〈講義〉 毎回の授業の進め方における工夫	2004年4月～2009年12月	「英語Ⅰ」や「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」といった語学系科目に加えて、「言語獲得・習得論」といった講義科目において、各項目の体系的に十分留意しながら、要点を黒板に書き出しながら授業を進め、学生の理解の手助けになるよう努力した。				
	授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫	2004年4月～2009年12月	英作文を主眼においた授業（「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」）において、学生が書いた英文を添削した。また、その都度、よく間違えたり、誤解する点を取り上げ、解説を行った。また、講義科目「言語獲得・習得論」において、練習問題を解かせたり、小テストを実施し、学生の理解度の把握と理解度の定着を図った。さらに、「言語文化研究法」をはじめとする講義科目において、学生の理解を助けるために、必要に応じて、Power Point を利用した講義を行った。				
	学生の知的好奇心を刺激するための工夫	2004年4月～2009年12月	英作文を主眼においた授業（「英語Ⅱ」および「英語Ⅲ」）や、英文解釈能力向上を目標とした授業において、その都度、理論言語学におけるこれまでの研究成果に基づいた説明方法を取り入れた。また、講義科目「言語獲得・習得論」においても、最新の脳科学研究や遺伝子研究の成果を交えながら解説を行った。				
	授業の秩序を維持し、学生の学習意欲を刺激するインセンティブ	2005年4月～2009年12月	講義科目では、出席点と試験点を明確に分けるなど、単位認定の基準を明確にした。				
	授業以外での自発的な学習を促すための工夫	2005年9月～2009年12月	講義科目「言語文化研究法」、「言語獲得・習得論」において、学生が自発的に勉強するように参考文献をその都度紹介した。				
	〈演習・実習〉 授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫	2004年4月～12月	英作文を主眼においた科目（「英語Ⅱ」（言語文化学科）だけでなく、総合的な英語力育成を目的とした科目（「英語ⅠA」（経営学科））においても、ライティング能力向上のため、ほぼ毎回英文を書かせた。				
	学生との接し方における工夫	2004年4月～2006年12月	学生の個別的な把握に努めるために、メンターゼミナール（チューター制度の一環）を実施した。主に、教員採用試験の対策講座を実施した。				
	毎回の授業の進め方における工夫	2004年4月～2009年12月	「原典講読」や「言語文化演習」といった演習科目において、各項目の体系的に十分留意し、要点を黒板に書き出しながら授業を進め、学生の理解の手助けになるよう努力した。				
	授業以外での自発的な学習を促すための工夫	2004年4月～2009年12月	オフィスアワーを設け、学生の質問・相談に対応を図った。該当時間以外であっても、可能な限り学生の相談に応じるよう努力した。				

学生との接し方における工夫	2004年4月～2009年12月	講義科目、演習・実習科目を問わず、学生には気軽に相談に訪れても良い旨を授業の際に伝えた。
授業内容をよく理解させ、理解を定着させるための工夫	2005年4月～2006年3月	「言語文化基礎演習」と「言語文化演習」において、学生個人による研究発表を行わせることで、プレゼンテーション能力の育成を図ると共に、4年次の際の総合研究のトピック選択の参考になるように授業を進めた。
毎回の授業の進め方における工夫	2005年4月～2009年7月	「基礎コンピュータA」において、授業の要点をまとめたプリントを最初に配り、それに沿って授業を行った。また、授業の内容の一部としてPower Pointを用いたプレゼンテーションの仕方についても学習させた。
授業以外での自発的な学習を促すための工夫	2005年4月～2009年12月	「総合研究」や「言語文化基礎演習」、「言語文化学演習」において、予習・復習として学生が行うべき事柄を明示的に示すことで、学生自身の学習の促進を図った。 また、自発的に勉強するために参考文献をその都度紹介した。
毎回の授業の進め方における工夫	2007年4月～2008年3月 2009年4月～12月	「言語文化基礎演習」において、リテラシー教育の一環として、プレゼンテーションの技法を指導した。また、論文作成法についても、添削を繰り返し実施し、指導を行った。
学生との接し方における工夫	2008年4月～12月	メンートルゼミナール(チューター制度の一環)において、学生の個別的な把握に努めた。
学生との接し方における工夫	2009年4月～12月	講義科目、演習・実習科目を問わず、学生には気軽に相談に訪れても良い旨を授業の際に伝えた。
毎回の授業の進め方における工夫	2009年4月～12月	初年次科目「言語文化基礎演習」において、学生にコメント用紙を配布し、発表に対するコメントをあらかじめ用意させることで、各自にとってコメントしやすい環境の整備に努めた。
4 教育活動の向上を目的とする学内の活動への貢献	2004年4月～2006年12月	教養学部が運営する「授業評価委員会」における「語学部会」の構成員として、報告書『学生による授業評価』の作成に携わった。
高大連携ないし持続教育	2005年2月～2006年3月	学科のブリッジ教育の一環として、推薦入試合格者を対象に、面談および小論文の添削指導を行った。
地域社会に対する教育上の貢献	2005年6月4日	学都仙台サテライトキャンパス市民公開講座(於日専連ビープ(仙台市))において、講師を担当した。(講演タイトル:「子どもの言語獲得—理論言語学的アプローチ—」)
教員採用試験対策講座の実施	2005年9月～2006年12月	教員採用試験(英語)の対策講座を実施した。宮城県の過去の採用試験問題を中心に解説を行った。
地域社会に対する教育上の貢献	2005年9月16日	宮城県立石巻女子高等学校において出張講義を行った。(講義タイトル:「ことばの仕組みとその獲得—言語学的に考えると—」)

高大連携ないし持続教育	2007年2月～2007年3月	学科のブリッジ教育の一環として、推薦入試合格者を対象に、面談および小論文の添削指導を行った。
高大連携ないし持続教育	2008年6月27日	大学見学に訪れた高校生へ模擬授業を行った。 (講義タイトル:「理論言語学への招待ー生成文法理論ってどんな学問ー」)
高大連携ないし持続教育	2008年7月3日	山形県立南陽高等学校において出張講義を行った。(講義タイトル:「英語らしい表現・日本語らしい表現」)
高大連携ないし持続教育	2008年10月14日	大学見学に訪れた高校生へ模擬授業を行った。 (講義タイトル:「理論言語学への招待ー生成文法理論ってどんな学問ー」)
高大連携ないし持続教育	2008年10月31日	山形県立天童高等学校において出張講義を行った。(講義タイトル:「言語学への招待」)
高大連携ないし持続教育	2009年1月22日	青森県立青森南高等学校において出張講義を行った。(講義タイトル:「言語の仕組みとその獲得ー理論言語学の立場からー」)
高大連携ないし持続教育	2009年2月～2009年3月	学科のブリッジ教育の一環として、推薦入試合格者を対象に、面談および小論文の添削指導を行った。
高大連携ないし持続教育	2009年2月24日	聖和学園高等学校において出張講義を行った。 (講義タイトル:「言語学への招待ー生成文法理論ってどんな学問ー」)
高大連携ないし持続教育	2009年6月12日	大学見学に訪れた高校生へ模擬授業を行った。 (講義タイトル:「ことばの仕組みとその獲得」)
高大連携ないし持続教育	2009年7月24日	大学見学に訪れた高校生へ模擬授業を行った。 (講義タイトル:「ことばの仕組みとその獲得」)
高大連携ないし持続教育	2009年10月28日	大学見学に訪れた高校生へ模擬授業を行った。 (講義タイトル:「言語学への招待ー生成文法理論ってどんな学問ー」)

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 「日英語の等位構造が持つ諸特徴」	単著	2005年3月	東北学院大学英語英文学研究所, 『英語英文学研究所紀要』第31号		1～26頁
Bb “Identity Conditions on Ellipsis in Natural Language”	単著	2006年7月	東北学院大学学術研究会, 『東北学院大学教養学部論集』第144号		57～73頁
英語の後置形容詞が持つ統語的・意味的諸特徴について	単著	2008年3月	東北英文学会, 『東北英文学会(日本英文学会東北支部)大会 Proceedings: 第62回大会』		178～185頁

	“Reconsidering Relative Clause Reduction and Adjective Shift in English”	単著	2008年10月	The Research Association, Tohoku Gakuin University. <i>Faculty of Liberal Arts Review</i> 150	151～165頁
E	「生成文法理論に基づいた言語獲得論」	単著	2005年3月	東北学院大学人間情報学研究所, 『人間情報学研究』(「研究員紹介」)	133～134頁
	「ことばの力と論理の力」	単著	2006年5月	東北学院大学教養学部広報委員会, 『季刊教養学部』	4～5頁
	「語学学習や総合学習に役立つオススメサイト 英語編」	単著	2007年3月	東北学院大学オーデオ・ビジュアルセンター. 『ko. to. ma. na』 vol. 1	21頁
	「生成文法理論ってどんな学問？」	単著	2007年10月	『季刊 教養学部』編集委員会. 『季刊教養学部』 Autumn-Winter '07	26～28頁
	「第1言語獲得と隣接領域との接点 — 音声認識の観点から—」	単著	2008年3月	東北学院大学オーデオ・ビジュアルセンター. 『ko. to. ma. na』 vol. 2	4～5頁
	「最新電子辞書事情」	単著	2008年3月	東北学院大学オーデオ・ビジュアルセンター. 『ko. to. ma. na』 vol. 2	38～39頁
	「発音の理屈に目を向けよう」	単著	2009年3月	東北学院大学オーデオ・ビジュアルセンター. 『ko. to. ma. na』 vol. 3	14頁
	「語学学習や総合学習に役立つオススメサイト 英語編」	単著	2009年3月	東北学院大学オーデオ・ビジュアルセンター. 『ko. to. ma. na』 vol. 3	21頁
	「語学教材紹介 今井邦彦(2007)『ファンダメンタル音声学』(ひつじ書房)」	単著	2009年3月	東北学院大学オーデオ・ビジュアルセンター. 『ko. to. ma. na』 vol. 3	27頁
	「並行的派生手順の概念と言語計算機構の理論的枠組みについて」	単著	2009年3月	東北学院大学人間情報学研究所. 『人間情報学研究』第14巻	131～136頁
G	「言語表現の生成過程—句構造理論とその応用—」	単著	2005年5月	東北学院大学教養学部情報科学科 『第9回情報科学セミナー』における発表	

英語の後置形容詞が持つ統語的・意味的諸特徴について	単著	2007年11月	東北英文学会 Symposia 英語学部門 「形容詞による名詞修飾の諸相」		
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要	
H21年度東北学院大学研究奨励金		2009年度	個別	英語の修飾表現が持つ統語的・意味的諸特性の解明に向けた研究	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
1998年4月～現在		言語人文学会会員			
1998年4月～現在		The Formal Linguistics Circle 会員			
2000年4月～現在		日本英語学会会員			
2000年4月～現在		日本言語学会会員			
2003年6月～現在		東北英文学会会員			
2004年4月～現在		The Formal Linguistics Circle 学会開催責任者			
2004年4月～現在		The Formal Linguistics Circle 編集委員			
2005年3月～現在		高次機能障害学会会員			
2008年4月～現在		東北英文学会大会準備委員			

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	金 惠 鎮	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
2	『スタート！韓国語初級』（白帝社）	2005年3月		初めて韓国語を学習する人のための入門書である。全体的にわかりやすく、基本的な文法がしっかり身につくように、やさしい解説と、一目ですぐ理解できる文法公式を工夫した。			
	『スタート！韓国語中級』（白帝社）	2006年4月		中級学習者のための会話中心教材で、初級レベルを終えた学習者がもっと韓国語でのコミュニケーションを深めていけるように工夫した。全体的に実生活でよく使われる会話を中心にし、文法も簡単で一目ですぐ理解できるよう公式化。			
	『基礎韓国語』（白帝社）	2006年4月		はじめて韓国語を学ぶ人のための、基礎的な韓国語コミュニケーションが身につくように構成。各課は、「本文会話」「Words」「Key Point」「Question」から構成されている。			
	『スピード！ハングル検定5級合格』（白帝社）	2007年4月		新出題基準に完全準拠して「基本文字」から「発音ルール」「単語」「文法」「助詞」「表現」など、定まった出題範囲の全てを一から丁寧に解説。巻末には筆記・聞取の予想問題も3回分収録している。			
	『スピード！ハングル検定4級合格』（白帝社）	2009年4月		この本には新出題基準に完全準拠して定まった出題範囲の全てを一から丁寧に解説。巻末には筆記・聞取の予想問題も3回分収録している。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・略 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	韓国語教育論 I	共著	2005年6月	韓国文化社	「他多数」	463～479頁	
Ba	韓国語の「二重形」に関する考察	単著	2005年3月	国際韓国言語文化学会, 国際学術大会論文集		157～171頁	
	日本人学習者の上級韓国語教育における「受身表現」理解のための実証的分析	単著	2005年3月	久留米大学外国語教育研究所紀要(第12号)		123～135頁	
	日本での韓国語能力評価に関して	単著	2005年8月	国際韓国語教育学会, 第15回国際学術大会論文集		215～228頁	
	日本人学習者のための韓国語教材に対する考察	単著	2005年12月	比較文化研究(第36輯)久留米大学比較文化研究所		37～53頁	
	日本語と韓国語の「使役受動態」に関する対照研究	単著	2006年3月	比較文化研究(第37輯)久留米大学比較文化研究所		35～48頁	

韓国語の検定試験についてー「ハングル能力検定試験5級」筆記問題の分析ー	単著	2006年3月	久留米大学外国語教育研究所紀要(第13号)		55~70頁
韓国語の受身形態に関する再考察	単著	2006年11月	韓国言語文化学(第3巻第2号)		123~136頁
韓国語の文法教育における受身派生「二重形」の存在とその意味的特徴の示唆の重要性	単著	2006年12月	比較文化研究(第38輯)久留米大学比較文化研究所		17~33頁
上級韓国語学習者のための「-이/히/리/기」と「二重形」の実例データ分析	単著	2007年3月	比較文化研究(第39輯)久留米大学比較文化研究所		1~16頁
韓国語学習者のための自習ソフトウェアの開発	共著	2007年3月	比較文化研究(第39輯)久留米大学比較文化研究所	「他1名」	17~27頁
韓国語の自発表現に関する考察ー日本語との対照言語学的観点からー	単著	2007年3月	久留米大学外国語教育研究所紀要(第14号)		107~120頁
Development of self-study software for Korean learners	共著	2007年5月	3rd Korean Language, Korean Studies and Korean Culture: Seeking a New Paradigm for Understanding 'Korea' Programs through Interdisciplinary Works	「他1名」	395~408頁
Proposal of Educational Software for Supporting the Hangeul Writing Study of Second Language Learners	共著	2007年5月	Journal of the International Network for Korean Language and Culture, Vol. 4, No. 1	「他1名」	51~74頁
韓国語の「-(어)스」に関する意味的特徴について	単著	2008年3月	久留米大学外国語教育研究所紀要(第15号)		63~95頁
韓国語学習者のための手書き型自習ソフトウェアの開発	共著	2008年4月	教育システム情報学会誌(Vol. 25 No. 2)	「他1名」	238~244頁
Proposal of an input/output function of Korean Characters for Korean Learners in Japanese Mobile Phone Environments	共著	2008年6月	Journal of the International Network for Korean Language and Culture, Vol. 5, No. 1	「他1名」	177~193頁
Development of self-study software for intermediate Korean learners	共著	2008年11月	5th International Conference Multi-cultural education and Korean language education	「他2名」	320~336頁

G	韓国語学習者のための自習ソフトウェアの開発	共著	2006年9月	情報科学技術フォーラム	「他2名」	
	韓国語における受身形態の意味的機能について	単著	2007年4月	国際韓国語教育学会, 春季学術大会		
	韓国語初心者のための手書き指導および自習ソフトウェアの活用	共著	2008年7月	私立大学情報教育協会, 全国大学 IT 活用教育方法研究発表会	「他1名」	12~13頁
	手書き韓国語から初声, 中声, 終声の分割法について	共著	2008年8月	電気関連東北支部大会	「他2名」	87頁
	韓国語の字素分割法による手書き指導学習ソフトウェアへの試み	共著	2008年9月	教育システム情報学会全国大会	「他2名」	422~423頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)						
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動						
2004年4月~		国際韓国語教育学会会員				
2005年3月~		国際韓国言語文化学会会員				

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	高橋 直彦	大学院の授業担当の有無	無				
I 教育活動											
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要							
1		2005年1月～2009年12月		<p>(1)「全体として何を言わんとしているか」の要約を黒板に図式化。</p> <p>(2) マインドマップをはじめ様々な工夫をこらした詳細な資料を配布。</p> <p>(3) PowerPointにより直感的な理解を促進。音声付きのFlashムービーも自作。</p> <p>(例) 日本語の動詞の活用のもう一つのムービー： http://raspberrys.jp/kaku.html</p> <p>(例) 「移動」という概念に依拠しない受動文の派生のムービー： http://raspberrys.jp/np.html</p> <p>(4) 諸学説の論点に矛盾がある箇所についてはそのことを指摘。場合により代案を考えさせる(参考に供するために当方の代案も提示)。</p> <p>(5) 外国語のデータで分かりにくい箇所は随時日本語のデータで説明を補足。</p> <p>(6) 発音・構文・自然な訳に対する意識を高める。</p> <p>(7) 「地道な努力を重ねることを楽しみに転じてしまう知恵」を知ってもらいたいとの気持ちで授業を展開。</p>							
<p>〈講義〉 対象領域(言語学・音声学・音韻論)に対する理解の促進と先入観の払拭</p> <p>〈演習〉 自立的・主体的勉学への動機付け</p> <p>〈原典講読〉 「部分→全体, 全体→部分」を意識しつつ英文を読む習慣を, 文・パラグラフ・文章全体の「各レベルで」実践 達意の自然な日本語訳への志向 発音の法則性の発見</p>		2006年4月～2007年1月		<p>(1) 発音・構文・自然な訳に対する意識を高める。</p> <p>(2) 諸学説の論点に矛盾がある箇所についてはそのことを指摘。場合により代案を考えさせる(参考に供するために当方の代案も提示)。</p> <p>(3) 「地道な努力を重ねることを楽しみに転じてしまう知恵」を知ってもらいたいとの気持ちで授業を展開。</p>							
		2009年4月～12月		<p>(1) 英語の「発音と綴りとの間の関係・異同」に対する意識を高める。</p> <p>(2) 英文の構造を掴む際に「時制」が果たす役割の重要性(「準動詞」という概念より重要)を認識させる。</p> <p>(3) 「地道な努力を重ねることを楽しみに転じてしまう知恵」を知ってもらいたいとの気持ちで授業を展開。</p>							
2		2003年3月12日～		<p>〈言語関係のサイト〉 語学学習・語学教育・言語研究のサイト。現在日英独仏中のみ。ゆくゆく個別言語の数を増やす予定。更新中。</p> <p>〈音声学・音韻論関係のサイト〉 ムービーを多用した直感的なサイトを自作(作成中)。分かりやすく作成しているが, 学問的な水準は上げていない。</p>				<p>開けゴマ! (コトバの世界へようこそ) http://raspberrys.jp/</p> <p>ムービー連動音声学 http://kotoba.kuronowish.com/top.html ムービー連動英語音声学 http://kotoba.kuronowish.com/</p>			
		2008年7月～									

<p>3 東北学院大学英語英文学研究所第15回定例公開講演会「音韻理論における経済性 (Economy in Phonological Theory)」</p> <p>出張講義 (利府高等学校)</p>	<p>2005年9月28日</p> <p>2008年7月2日</p>	<p>競合する理論間の相対的妥当性を測る尺度に経済性という概念があることはよく知られている。直感的にも首肯し得るこの概念の適用は、しかしながら、心的實在に位相的に相当な音韻理論を構築する場合は、特別な注意を払う必要がある。先行研究はこの点についての基本的な配慮を欠く現実離れした理論であることを指摘し、併せて、そうした難点を抱え込まない現実味のある (feasible) 音韻理論とはどのような条件を備えたものかを、具体的なデータの分析とともに考えた。</p> <p>「言語学」って難しそうだけど、例えばどんなことを研究してるの？ 内容：「要冷蔵が必要です」というお菓子がありました (笑) が、「必ず必要です」などは、口頭だといってしまうたりします。「旅行に行く」や「アカデミー賞を受賞する」はどうでしょう。容認度の違いをどう説明しますか。(＋その他の話題)</p>
---	------------------------------------	--

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 英語の否定接頭辞 in-, un- の形態音韻論	単著	2005年12月	『東北学院大学教養学部論集』第142号		53～75頁
音節再訪	単著	2008年10月	『東北学院大学教養学部論集』第150号		195～205頁
英語における語頭の /j/ と語中の /j/ のふるまいの違い	単著	2009年12月	『東北学院大学教養学部論集』第154号		91～103頁
G 純粋な「音韻論」は想定可能か？		2005年12月	日本英語音声学会 EPSJ 第7回東北支部大会		
ひな形方式の適用可能性		2008年11月	東北英文学会 (日本英文学会東北支部) 第63回大会 英語学・英語教育部門シンポジウム言語理論の進展とその応用—言語教育・自然言語処理を手がかりに—	他の講師：渡辺友子 風斗博之	

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	津上 誠	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	文化人類学系講義全般における授業時提出物の徹底を通じた、コミュニケーション双方向化および授業参加促進	1998年度頃～	受講生 150 人位までの講義では毎授業終了前に 10 分程かけ、設問への解答、授業理解度自己診断、授業への感想質問等を書かせる「小テスト」を実施。書かれたことを授業運営に反映させて受講生とのコミュニケーション双方向化を企てるとともに、「授業に集中していなかったことが明白な答案は欠席扱い」と初回予告しておき、受講生の授業参加促進を図る。				
	『総合研究』における「身の回りの事柄の論文トピック化推奨」と「対話型指導の徹底」	2000年度頃～	身の回りの事柄を論文トピックに立てることを勧めた上で、各人と週 60 分以上かけ、資料収集、文献内容把握、論文構想、アウトライン作り、本文執筆の全局面での「ボールの投げ合い」を密接に繰り返し、当該トピックの文化論的探求を支援。研究経過報告会も年数回開き、各学生の取り上げる問題が決して個人的関心事で終わるものではなく、私たちが生きる社会で共有されうる問題であることを実感させる。				
	『言語文化基礎演習』における「個人指導の度合いを強化したゼミ運営」	2003年度～	『基礎演習』の学科方針である個人指導強化の一環として、文献読みノート作成・論文構想・アウトライン作り・本文執筆の各局面において、提出物提出、発表、面談のいずれかを毎週義務づけ、毎回の各人へのフィードバックを実践。				
2	『論文作成の留意点』（約 16,000 字、指導学生に対する印刷配布のみ）	1998年度頃～	『総合研究』指導用に毎年改訂配布して読み合わせ会を開き、学生の手引きとする。大きく 3 部分から成り、第 1 部分では「論文とは、他者が提示する事実や事実解釈とあなたが観察した事実とを素材にしなが、あなた自身がある結論に向かって構築する物語である」旨を説明、この観点に沿うための技法として、第 2 部分では論文完成までの作業プロセスを、第 3 部分では引用表示等の体裁作りを、できるかぎり平易に解説してある。				
3	授業公開	2007年11月24日	教養学部授業評価委員会の FD 活動の一環として、「文化人類学」の授業を学部教員に公開、同日行われた検討会における授業方法等に関する議論にも参加。				
4	ブリッジ教育	毎年	言語文化学科における表記業務への参加				
	教養学部授業評価・FD 委員（ならびに全学授業評価実施委員）	2005年4月～(2007年4月～)					
	高校への出張講義	2008年6月11日	『異文化を知って自文化に気づく』（岩ヶ崎高校）				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
D 文化人類学事典 Study on Perceptions of Natural Disasters among Peoples of Sarawak: Opening Address on the Theme of the Seminar Spirits and Ghosts: Two Factors of Misfortunes at the time of Migration among the Kayan	共著	2008年12月	丸善出版	日本文化人類学会(編), 共著者多数	項目「マイホーム」全2頁
		2009年3月	Seminar on the Perceptions of Natural Disasters among the Peoples of Sarawak, Universiti Malaysia Sarawak		2頁
		2009年3月	Seminar on the Perceptions of Natural Disasters among the Peoples of Sarawak University Malaysia Sarawak		11頁
		2007年10月	国立民族学博物館共同研究『家の人類学』(研究代表者:小池誠)における研究発表		
G ボルネオにおける「家」:カヤンとイバンを中心に					
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金基盤研究(A)(海外学術調査)	2005~2008年度	共同・研究代表者	ボルネオ島における「自然災害」の人文的研究		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1985年3月~	日本民族学会(現日本文化人類学会) 会員				
2007年12月8日	東北学院大学教養学部『地域と教育を考えるフォーラム』第2回「子どもの成長とコミュニケーション」におけるコメンテーター				
2008年12月13日	学都仙台サテライトキャンパス公開講座『私たちはどこを歩いているか:文化人類学における「交換」の視点から現代日本社会を見る』				

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	塚本 信也	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	小テスト（聞き取り）の実施	2007年4月～		全ての中国語初級クラス（計5クラス）で、ほぼ毎回、授業冒頭に「復習小テスト（聞き取り）」を実施している。			
	課題の添削	2007年4月～		全ての中国語中級以上のクラス（計2クラス）で、ほぼ毎回、課題を提出させ、添削後に返却している。			
4	スピーチコンテスト参加の奨励と、その指導	2007年9～10月 2008年9～10月		『全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会』への出場を促すと共に、出場者には指導を行った。尚、両年度とも優勝者を輩出している。			
		2009年10月～11月		『全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会』への出場を促すと共に、出場者には指導を行った。尚、全三部門で優勝者を出した。			
	高校における出張授業講師の担当	2007年11月7日 2008年11月14日		宮城県富谷高校2年生に対し、2007年度は「日本と中国～漢字を巡るあれこれ」と、2008年度は「言語と文化を巡るあれこれ～日本と中国の場合」と題する講義を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	「琴を携えるものたち」	共著	2007年2月	『東北学院大学教養学部論集』第146号		1～29頁	
E	東北地方の霊山と修験・神社—シンポジウムより—	単著	2006年3月	東北学院大学『人間情報学研究』第11号	宮家 準 梅屋 潔 塚本信也	15～24頁	
	大同を求めて小異を存す—わかりあえないことの大切さ	単著	2006年5月	『季刊教養学部』第3号		6～7頁	
	「注文の多い料理店—ある体育会系シェフの奮闘—」	単著	2009年7月	『日本中国語学会 電子通讯』第36号			
G	誰可以帶著古琴彈	単著	2005年6月	台湾・「經典，聖人與 中古文人自我形象之 再思」學術研討會			
	「芻蕘とは誰か」	単著	2007年5月	第56回東北中国学会			
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	風斗 博之	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 コンピュータ教室での聞き取り練習を中心とした授業		2007年4月～2010年1月		音素識別練習、ディクテーションなど聞き取り練習を中心とした授業を実施			
2 英語語彙力診断テスト		2006年5月1日		項目応答理論に基づいた英語の語彙力診断テスト			
コンピュータ学習教材「YesNo 応答練習」		2008年4月		疑問文における、主語・助動詞部分の聞き取りに特化した教材			
中国語WEB教材「飛天CALL版（仮称）」		2008年11月		富田・趙著の中国語教材「飛天」のWEB版の作成を担当			
3 英語英文学研究所第19回定例公開講演会「コンピュータ教室での英語授業」		2007年12月15日		情報センターのコンピュータ教室における英語授業の実践報告			
東北英文学会第63回大会シンポジウム「範疇文法を使った文の解析について」		2008年11月24日		英語学・英語教育部門「言語学と関連領域」での発表			
2009年度教員免許状更新講習「ICTを用いた英語学習・指導」（ワークショップ）		2009年8月20日		中高の英語教員26名に対し、コンピュータ利用の英語音声教育の実践例を講習			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
G 「CALLに必要な機能と効果的な学習法—自作教材を使用した授業で見えてきたもの」		単著	2006年3月	日本教育工学会 研究会		105～108頁	
「自作教材を使用したCALL授業」		単著	2006年6月	LET九州・沖縄支部研究大会		146～147頁	
「IRTに基づいた英語の語彙および文法テストの開発と利用」		単著	2007年8月	LET2007年度全国研究大会発表論文集		146～148頁	
「素性を取り入れた範疇文法とそのパーザについて」		単著	2009年3月	東北学院大学英語英文学研究所紀要第34号		27～41頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2007年4月～				LET（外国語教育メディア学会）会員			
2007年4月～				JET（日本教育工学会）会員			

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	山崎 冬太	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
4	宮城県立岩ヶ崎高校にて出張講義	2007年6月13日		日仏近代詩の比較：中原中也とランボー			
	室根大祭を取材・ビデオ撮影・DVD製作	2007年10月27～28日		学生を引率して岩手県室根神社の大祭を取材し、撮影した映像を編集、DVDとして保存した。			
	宮城電波高等専門学校にて出張講義	2008年5月9日		「映画の魔術」と題して、さまざまな映画の技法を実例を映しながら解説。			
	教養学部20周年教養バイキング（仙台国際ホテル）にてミニ講義	2008年10月18日		「映画の魔術」と題して、さまざまな映画の技法を実例を映しながら解説。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
E	研究紹介：「映画とはなにか」について、いろいろと考えております	単著	2008年10月	季刊教養学部 No. 8		6～8頁	
G	文学から精神分析を考えるー日本近現代詩からの照射ー	単著	2006年3月17日	第4回LAC国際シンポジウム（東京大学駒場キャンパス）			
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2008年2月16日		東北学院大学教養学部主催トークイベント「漢字と日本人の暮らし」企画・コメンテーター・総合司会					
2008年3月1日		東北学院大学教養学部言語文化学科主催シンポジウム「黒澤明ルネッサンス前夜」で発表。「黒澤明と狂気」					
2008年11月20日		東北学院大学泉キャンパス図書館 講座「現代の日本映画」 緒形拳追悼「復讐するは我にあり」					

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	楊 世英	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教員独自の「個別面談による授業評価」を実施している。	2005年1月～2008年12月	とくに語学授業なので、授業の合間や休み時間を利用してヒアリング調査を行っている。出席カードを利用してアンケートをし、授業の反省点や学生の状況を把握している。				
	学習した内容および関連する知識への理解への定着に促進	2005年1月～2009年12月	常に授業の前で、復習を通して知識の定着に努め、授業終了の際にはまとめを行っている。				
	授業の進め方を工夫	2005年1月～2009年12月	授業の区切りをよく考えながら、とくに板書の設計を配慮して授業を進める。視聴覚教材を活用している。基礎の弱い生徒に個別指導を行った。				
2	授業で使用している補助教材（配布プリント）	2005年1月～2009年12月	語学会話授業で生きる言語を学生に伝えるため、大学生に身近の場面設定で会話教材を作って利用した。（中国語会話Ⅰ、Ⅱ）ほかには講義の授業でもプリントをも使った。自ら取ったビデオ（短期語学引率のため中国大学生との語学交流場面）は生の教材として利用した。				
3	教育実践について論文の形で公表した。	2005年2月、2006年2月	東北学院大学オーディオ・ヴィジュアルセンター紀要第9、10号 中国語を学習するために、中国社会への理解が不可欠であるという視点で、教育実習を行った。				
4	留学生に対する指導を行った	2005年1月～2009年12月	1) 教養学部言語文化学科の学生に中国への長期・短期留学指導を行った。 2) 国際交流副部長を担当し東北学院大学の中国からの留学生に学習・生活指導を行った。				
	現代中国社会に関する講演を行った。	2005年10月27～11月12日	「写真からみた現代中国社会」東北学院大学図書館泉分館第3回目小企画（東北学院大学図書館泉分館）				
	資格取得のための指導を行った。	2005年11月11日	「中国現代社会をどう見るか」東北学院大学図書館泉分館第3回目小企画				
	現代中国社会に関する展示会および講演を行った。	2006年6月	ゼミ生が英語・社会教員免許を取得のため、教育実習の訪問指導を行った（仙台沖野中学校）。				
	地域社会へ貢献した。	2006年10月25日	東北学院大学後援会通信「グロース」秋号に紹介文書を掲載（現代中国経済社会を探る10頁）				
	みやぎ県民大学開放講座を担当	2006年11月3日	みやぎ県民大学講座を担当（現代中国社会の階層変容－1980年代農民層の分解を中心に－）				
	漢字と日本人の暮らし	2008年2月16日	東北学院大学教養学部主催トークイベントコメントータ				

変わる世界, 地域から時代を創造するために	2008年10月4日	東北学院大学教養学部創設二十周年記念第3回「地域社会と教育を考えるフォーラム」パネリスト
短期語学研究の引率	2009年8月8～24日	姉妹校である中国山東大学威海分校にて実施, 内容は中国語・中国文化・現代中国社会などをテーマにした。
日中共同研究セミナーで報告	2009年8月11～12日	中国山東大学威海分校に東北学院共同研究助成金により「日中共同研究セミナー」を主催, テーマは「中国山東大学威海分校との国際連携に向けた共同プログラム」である。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
中国経済－経済成長と労働力移動	単著	2007年10月	新青出版		1～214頁
現代中国論－開発・格差・共生を手がかりに	単著	2008年4月	本の森		1～264頁
北陸地域における北東アジアとの経済連携	共著	2008年5月	北陸地域づくり叢書(1)	北陸地域づくり研究所	第1章 2. (1), 第2章 3. (3), 第4章 1. (1) (2) 計12頁
現代中国論－開発のフロンティア「昇龍」の光と影(改訂版)	単著	2008年10月	本の森		1～234頁
北陸地域における北東アジアとの経済連携	共著	2009年5月	北陸地域づくり叢書(2)	北陸地域づくり研究所	119～125頁
Ba					
1990年代中国における非正規労働に関する考察	単著	2007年3月	「人間情報学研究」第12巻		41～57頁
現代中国労働政策の形成(1)	単著	2008年3月	「人間情報学研究」第13巻		87～100頁
現代中国労働政策の形成(2)	単著	2009年3月	「人間情報学研究」第14巻		43～57頁
Bb					
1978年以來の中国経済社会の変動(2)－労働力移動を中心に－	単著	2005年3月	東北学院大学論集－人間・言語・情報－第140号		67～102頁
1978年以來の中国経済社会の変動(3)－西部大開発を中心に－	単著	2005年7月	東北学院大学教養学部論集第141号		77～106頁
1980年代中国労働力移動について	単著	2005年10月	環日本海学会第11号		146～149頁
1978年以來の中国経済社会の変動(4)－急激の経済開発から持続的経済発展－	単著	2005年12月	東北学院大学教養学部論集 第142号		77～93頁

1990年代中国「出稼ぎ」労働力の移動と雇用制度との関連	単著	2005年度	「東北経済学会誌」 2005年度		14～18頁
1978年以來の中国経済社会の変動(5) —東北地域の振興を中心に—	単著	2006年2月	東北学院大学教養学 部論集 第143号		147～170頁
1978年以來の中国経済社会の変動(6) —農家人口構成の変化を中心に—	単著	2006年7月	東北学院大学教養学 部論集 第144号		104～122頁
1978年以來の中国経済社会の変動(7) —農民層の分解を中心に—	単著	2006年7月	東北学院大学教養学 部論集 第145号		1～16頁
1990年代中国における農村から都市へ の出稼ぎ労働者の実態と労働市場の関 連	単著	2006年10月	環日本海学会第12号		92～95頁
中国市場経済移行期における積極的労 働力市場政策と社会保障制度の変化	単著	2008年10月	東北学院大学教養学 部論集 第150号		207～221頁
中国における労働力市場に関する考察 (1)	単著	2009年7月	東北学院大学教養学 部論集 第153号		21～38頁
流動化する中国の労働市場	単著	2009年12月	社会学研究2009年		1～25頁
D 中国社会の近代化と経済体制	単著	2005年2月	東北学院大学オー ディオ・ヴィジュアル センター紀要第9号		27～30頁
増え続ける中国の青年失業者	単著	2006年2月	東北学院大学オー ディオ・ヴィジュアル センター紀要第10号		35～37頁
E 中国の経済発展と雇用問題	単著	2005年9月	アジア政経学会 ニューズレターN024		8頁
『北東アジア事典』「中国の戸籍制度と 出稼ぎ労働」「中国の市場経済化と労働 力移動」(執筆項目)	共著	2006年7月	国際書院		187～188頁
G 1990年代中国における農村から都市へ の「出稼ぎ」労働者の実態と労働市場 の関連	単著	2005年10月1～2日	環日本海学会(弘前大 学)	環日本海学 会	
1990年代中国農村における「出稼ぎ」 農村に関する考察	単著	2005年10月8～9日	社会政策学会第111 回大会(北海道大学)		
1990年代中国「出稼ぎ」労働力の移動 と雇用制度との関連	単著	2005年10月	東北経済学会第59回 大会(福島大学)		
1990年代中国における出稼ぎ農民の就 業状態に関する考察	単著	2006年9月30～10月1 日	環日本海学会第12回 大会(金沢星陵大学)		
中国における非正規労働に関する考察	単著	2006年10月28～29日	東北経済学会第60回 大会(青森公立大学)		
日中両国東北地区における産業構造の 特徴と比較	単著	2007年12月	中国商業経済学会(中 国北京)		

中国経済発展の内生的メカニズムに関する実証研究	単著	2008年7月	中国商業経済学会 (2008世界経済論壇) (中国鄭州)		
中国経済「W」型回復する可能性について	単著	2009年7月	中国世界経済学会(中国長沙)		
少子高齢化社会における経済成長と雇用増加のメカニズム	単著	2009年10月	中国労働経済学会・国際シンポジウム(中国北京)		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
東北学院個別研究助成金	2006年	代表者	中国社会の基本構造に関する経済社会学的研究(1978年改革・開放以来近代化に伴う急速な経済発展と社会の階層化を中心に)
東北学院共同研究助成金	2006年	共同(中国部分担当)	アジアにおける(タイ・中国・韓国・日本)ソーシャルネットワークに関する実証的・理論的研究
北陸建設弘済会	2007年	共同(中国部分)	北陸地域における北東アジアとの経済連携の調査研究
北陸建設弘済会	2008年	共同(中国部分)	北陸地域における北東アジアとの経済連携の調査研究(新潟物流を中心に)
東北学院研究助成金	2009年	共同(代表者)	中国山東大学威海分校との国際連携に向けた共同プログラムの共同研究
北陸建設弘済会	2009年	共同(中国部分)	北陸地域における北東アジアとの経済連携の調査研究(建築業を中心に)

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2000年10月～	環日本海学会会員
2001年7月～	日本国際経済学会会員
2002年10月～2004年3月	日本日中関係学会評議員
2002年10月～	中国世界経済学会(中国)理事
2004年10月～	アジア政経学会会員
2004年11月～	社会政策学会会員
2004年11月～	日本現代中国学会会員

2004年11月～ 2005年11月～	東北経済学会会員 経済理論学会会員
------------------------	----------------------

所属	言語文化学科	職名	准教授	氏名	渡部 友子	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	担当科目すべてにおいて、成績評価を可視化している。	2008年4月～継続中		細かく数値化し、受講生各自が確認できるよう、個人情報を守りながら随時公開している。			
	担当科目すべてにおいて、望ましい学習態度が醸成されるような評価方法をとっている。	2008年4月～継続中		出席を促すための小テスト頻繁実施、遅刻欠席抑制のための授業冒頭でのテスト実施や欠席者の受験資格剥奪、発表や発言に対する加点など。			
2	地域構想学科の英語 I で、映画教材を自己作成した。	2009年4月～7月		映画のあらすじを英語で書いたものを2本。1本の映画について8000～9000語。			
3	口頭発表「言語の認知研究の成果を教育に応用する」	2008年11月24日		東北英文学会第63回大会英語学・英語教育部門シンポジウムにて、脳の言語処理プロセス研究の知見を紹介し、教育への示唆をする。			
	講演「Top-down approaches to listening comprehension 英語で講演して内容を理解させる方法」	2008年11月25日		本学英語英文研究所主催の定例講演会。映画を使った授業や講義形態の語学授業の実践例を紹介し、その理論的背景を説明。			
4	岩手県立黒沢尻北高校主催「黒陵出前講座」の講師として、英語学習について講演。	2009年10月30日		英語を聞いたり読んだりするとき、脳で何が起きているのかの話を中心に。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba 「アメリカ合衆国のグローバル教育の優れた実践と新しい方向性」(英語基調講演の翻訳)		単著	2009年9月	日本グローバル教育学会第17回全国研究大会にて配布	原著者 T. Kenreich	全14頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1991年～		大学英語教育学会会員					
1991年～		日本英語学会会員					
2001年～		外国語教育メディア学会会員					
2001年～		日本児童英語教育学会会員					
2002年～		映画英語教育学会会員					
2004年～		日本英語コミュニケーション学会会員					
2004年～		全国英語教育学会会員					
2005年～		小学校英語教育学会会員					

2008年～

東北英語教育学会会員

所属	言語文化学科	職名	講師	氏名	アッシュ, R.	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
Bb Le C.P.E. :un acteur central pour l' Educationà la citoyenneté	単著	2005年3月	フランス共和国の小学校とコレージュに関する調査研究報告書		86~103頁		
D The difficulty of the article in French communication class	単著	2005年2月	東北学院大学 AV センター紀要 第9号				
Si vous allez en France...	単著	2006年	季刊教養学部				
E 「生徒指導主任専門員ー中等教育における市民性教育の推進者」	単著	2007年12月	『ヨーロッパの学校における市民的社会的教育の発展ーフランス・ドイツ・イギリスー』東信堂				
G Peut on relire Gyran?	単著	2006年12月	日米フランス語フランス文学会東北支部大会				
“L' autre monde” de Cyrano de Bergerac		2006年12月	日本フランス語フランス文学会				
The Youth Movements of the 60's in France		2008年10月	東北学院大学教養学部主催 創設20周年記念『おいしい教養バイキング』				
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要			
IV 学会等及び社会における主な活動							
2007年		“Conseils pour bien apprendre une langue” Tohoku Gakuin U, AVC magazine 2007, p.16					
2008年		“Conseils pour aborder l' écoute d' une langue étrangère” Tohoku Gakuin U, AVC magazine 2008, p.18					
		Le Salon Franco - Japonais : Once a month public French discussion forum at Alliance Frangaise de Sendai, 2-8-10 Honcho, Aoba-ku.					

所属	言語文化学科	職名	講師	氏名	門間 俊明	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	Web上のドイツ語練習問題の運営と自習指導	2001年3月～2006年12月	ドイツ語力の定着をはかるために、Web上に練習問題をつくり、学生にそれを利用させている。				
	ドイツ語の理解、定着のための工夫	2002年1月～2006年12月	ドイツ語の理解、定着のために、小テストや練習問題を課している。				
	ドイツ語検定受験指導	2002年4月～2006年12月	希望する学生に、授業時間外でドイツ語検定の受験指導を行っている。				
	学生の授業への積極的参加を促すための工夫	2005年4月～2006年12月	新たな授業のテーマに入る前に、学生にそれについての予備知識や考えを紙に書かせて提出させる。				
	授業内容に関する学生からの意見聴取	2007年4月～2008年12月	学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、数回に一度の割合で学生に授業の感想を書かせ、その内容をもとに授業改善に努めている。				
	「ドイツ語検定対策講座」の開設と運営	2008年10月～11月 2009年5月～6月 2009年10月～11月	言語文化学科のドイツ語履修者を対象に、「ドイツ語技能検定」に向けて対策講座を開設し、授業時間外で受験指導を行っている。				
2	『D36』	2008年5月	少ない授業時間数でも、ひととおりドイツ語の文法が見渡せるように工夫されたドイツ語の教科書。				
3	教養学部授業評価委員会での活動	2004年4月～2008年12月	教養学部授業評価委員として、学部の授業評価の企画運営、データの分析、報告書の作成、執筆に携わってきた。				
4	体育会「ソフトテニス部」の部長としての活動	1998年4月～ 2009年6月	体育会「ソフトテニス部」の部長として、長年部員の学習及び生活指導に当たってきた。全日本大学ソフトテニス王座決定戦にて、男子チームが4位になった。				
	留学生に対する援助、指導	2006年9月	本学提携校、ドイツのトリーア大学からの短期留学生をホームステイさせると同時に、本留学プログラムの運営にたずさわった。				
	教養学部主催フォーラムの企画運営	2007年1月～2008年3月	教養学部主催「地域社会と教育を考えるフォーラム」第1回「考える力、コミュニケーションの力」(2007年3月開催)の際、スタッフとして企画運営に加わり、第3フォーラムの司会を務めた。また、事後の報告書の作成に携わった。				
	短期留学生の受け入れプロジェクトの企画運営	2007年9月 2008年9月 2009年9月	ドイツ、トリーア大学からの短期留学生の受け入れプロジェクトの企画運営にあたった。2007、2009年は留学生のホストファミリーも務めた。				
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年11月4日	宮城県第三女子高校の1年生に対して、「ドイツ語ってどんな言葉?～高校生のためのドイツ語入門～」と題する授業を行った。				

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb CEF の理論と外国語教育	共著	2008 年 10 月	東北学院大学教養学部論集 第 150 号	門間俊明 佐伯 啓	167～181 頁
E 「インターネットで外国語のヒアリング能力を高めよう」	単著	2007 年 3 月	東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンター『kotomana』2007 年号		8～9 頁
「マウスをクリックしてドイツへ行こう」	共著	2007 年 3 月	東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンター『kotomana』2007 年号	Frieder Sondermann 門間俊明	22 頁
「読み・書き・聞く・話す+やり取り？」	単著	2009 年 3 月	東北学院大学オーディオ・ビジュアルセンター『kotomana』2009 年号		10～11 頁
G 比喩としてのサッカー	単著	2006 年 7 月	学内シンポジウム「サッカーと熱狂」		
H ヴェルヘルム・ラーベ作『薬局ヴィルデマン』	単著	2006 年 12 月	東北学院大学教養学部論集 145 号		1～11 頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1983 年 4 月～	日本ドイツ文学会会員				
1988 年 4 月～	東北ドイツ文学会会員				

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	相川 利樹	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
2	教養教育科目「宇宙の科学」WEB ページ作成		2006年4月1日	半期講義科目「宇宙の科学」WEB ページの作成・公開			
	「プログラミング中級」講義資料WEB ページ作成		2007年3月1日	情報科学科・学科専門科目「プログラミング中級」講義資料の作成・学内公開			
	「宇宙の科学」教材		2008年4月	講義のためのホームページ作成			
	「プログラミング初級・中級」教材		2008年4月, 9月	講義のためのPPT 作成			
	「シミュレーション技法」「ヒューマンインタフェース設計論」教材		2008年4月, 9月	講義のための資料作成			
	「プログラミング初級・中級」教材		2009年4月, 9月	講義のためのPPT 更新			
	「シミュレーション技法」「ヒューマンインタフェース設計論」教材		2009年4月, 9月	講義のための資料追加・更新			
	キャンパスの周辺(1)～(7)		2009年7月～11月	教養学部ブログ記事連載			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	Abundances of volatile elements in post-AGB Candidates	共著	2007年8月	Pub. Astron. Soc. Japan, 59	T. Aikawa 他4名	1127～1140 頁	
	Linear and nonlinear pulsation models with the variable Eddington factor approximation of radiative hydrodynamics	単著	2008年2月	Astron. & Astrophys. 484		419～428 頁	
	The instability strip and nonlinear pulsation features of post-AGB pulsation models	単著	2009年12月	Astron. & Astrophys.			
Bb	輻射流体力学モデルからみた post-AGB 星の脈動	単著	2007年1月	2006年「連星・変光星・低温度星研究会」集録			
	post-AGB 星の脈動模型	単著	2008年1月	2007年「連星・変光星・低温度星研究会」集録			
	post-AGB 星の脈動不安定帯と非線形脈動	単著	2009年4月	2008年「連星・変光星・低温度星研究会」集録			
C	輻射流体力学モデルからみた post-AGB 星の脈動	単著	2007年3月	連星系・変光星・低温度星研究会収録		80～183 頁	

脈動変光星の非線形力学	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集, 150, 221-238		
D 脈動変光星のカオス	単著	2008年3月	人間情報学研究(東北学院大学) 13, 199-221		
G 脈動変光星のカオス	単著	2006年11月	ぐんま天文台談話会		
2006年「連星・変光星・低温度星研究会」	単著	2006年12月	県立西はりま天文台		
2007年「連星・変光星・低温度星研究会」	単著	2007年12月	東京大学(駒場)		
2008年「連星・変光星・低温度星研究会」	単著	2008年12月	鹿児島大学		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
平成20年度東北学院個別・共同研究助成金	2008年	共同「赤外線画像収集系の開発」	

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2006年10月	県立ぐんま天文台談話会講師 題目「脈動変光星のカオス」
2006年12月	研究会座長 2006年「連星・変光星・低温度星研究会」

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	乙藤 岳志	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	アカデミックライセンスを取得して、授業に用いている。						Microsoft, IBM のアカデミックライセンスを取得し、授業に用いた。
	コンピュータ言語 C-Dev-cpp-の日本語化		2005 年 12 月				講義で用いる言語処理系 C のなかで、オープンソースの Dev-C++を日本語化し、学生の利用に供した。
	コンピュータ言語 Fortran (OpenWatcom) の日本語化		2007 年 9 月				講義で用いる言語処理系 Fortran のなかで、オープンソースの OpenWatcom を日本語化し、学生の利用に供した。
	数式処理システム wxmaxima の日本語化		2008 年 9 月 2009 年 4 月				講義で用いる数式処理システム wxmaxima を日本語化した。
2	オープンソース C コンパイラ dev-c++の日本語化		2005 年 4 月 21 日				オープンソースで開発されている C 言語開発環境 dev-c++を日本語化した。
	オープンソース C, Fortran コンパイラの日本語化		2006 年 1 月 9 日				オープンソースで開発されている C, Fortran 開発環境 OpenWatcom を日本語化した。
	授業で用いる web ページ						「コンピュータと論理」「情報処理論」の講義ノート web で公開。
	コンピュータ利用におけるノウハウ集 http://157.118.89.2/~otofuji/ETC		2006 年 4 月～				コンピュータ利用におけるさまざまな情報の提供
	コンピュータ言語処理システム講義ノート http://157.118.89.2/~otofuji/Lang		2007 年 4 月～				講義ノート。自宅からの自習も可能としたもの
	ネットワーク構築論講義ノート http://157.118.89.2/~otofuji/NetC		2007 年 4 月～				講義ノート。自宅からの自習も可能としたもの
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	ソフトウェアの国際化(日本語化)	単著	2009 年 3 月	東北学院大学人間情報学研究 14		87～93 頁	
Ba	視覚障害者と晴眼者が協調して行える KJ 法支援システムの評価	共著	2008 年 11 月	東北学院大学人間情報学研究 13	乙藤岳志 他 3 名	121～130 頁	
Bb	視覚障害者と晴眼者のための分散環境を活用した KJ 法支援システム	共著	2005 年 6 月	IPSJ Symposium Series	乙藤岳志 他 3 名	339～343 頁	
C	視覚障害者と晴眼者の協調を支援するための分散環境を活用した KJ 法支援システム	共著	2006 年	東北学院大学人間情報学研究 11	乙藤岳志 他 3 名	67～76 頁	

G	分散環境を活用した視覚障害者と晴眼者のためのKJ法支援システムの開発	共著	2006年7月	DICOM02006	乙藤岳志 他3名
	グループワーク支援分散環境を活用した視覚障害者と晴眼者のための発想支援システムの評価実験	共著	2006年11月	グループウェアとネットワーク2006	乙藤岳志 他3名

III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	上之郷高志	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	学習事項の理解の促進と定着	2005年1月～2009年12月		毎時間、最初に前回の要点を復習し、授業の終了時にはその日の要点を繰り返し延べた。			
	研究合宿の開催	2005年9月, 2006年9月 2007年9月, 2008年9月 2009年8月		4年生の総合研究(卒業課題)の合宿を1泊2日の日程で後期授業開始の直前に行なった。全員に発表の機会を与え、相当量の準備をさせた。			
2	基礎情報数理(教材)	2005年4月		数学教育の基礎となる論理学と集合論に関する教材を作成した。命題の真理表及び命題論理と述語論理について解説し、集合と写像に関する基礎事項を紹介した。また集合の濃度とその応用について述べた。さらにn進法の記数法にも言及した。テキストは製本せず毎回プリントを配布した。			
	線形代数学(教材)	2005年4月, 9月		教科書の説明だけでは不十分と思われる箇所を補足し、分かりやすく解説したプリントを作成した。教科書の補助的教材。			
	集合と論理(教材)	2006年9月		上記の基礎情報数理(通年授業)で作成した教材を半期分に縮小し、毎回プリントを配布した。			
	教材「n進法について」を作成	2007年4月, 2008年4月 2009年4月		3年生の教科教育研究の授業で、n進法での小数の扱いについて詳しく解説したプリントを作成し配布した。講義した後、問題も解かせて理解の徹底を行なった。			
	「集合と論理」の教材を作成	2007年9月～2008年1月, 2008年9月～12月 2009年9月～12月		2年生の集合と論理の授業では、テキストは用いず毎時間教科書としてのプリントを配布した。さらに、毎回の授業をやり終えた時点で修正を加え、次年度のプリント作成を行なった。			
4	教員採用試験対策講座の講師	2005年11月, 2006年11月 2007年11月, 2008年10月 2009年10月		教職課程センター主催の教員採用試験対策講座専門コース(数学)の講師を毎年2回ずつ務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb	小摂動項の及ぼす解の到達時間差の評価	単著	2008年2月	京都大学数理解析研究所講究録 1582「関数方程式論におけるモデリングと複素解析」		80～86頁	
C	Kneser's property in C^1 -norm for ordinary differential equations.	単著	2005年7月	京都大学数理解析研究所講究録 1445「関数方程式と複雑系」		167～176頁	

<p>G Kneser's property in C^1-norm for ordinary differential equations.</p> <p>小摂動項の及ぼす解の到達時間差の評価</p> <p>微分方程式の折れ線近似と小摂動項による解の到達時間の変動の評価</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2005年3月</p> <p>2007年11月</p> <p>2009年8月</p>	<p>「関数方程式と複雑系」研究集会, 京都大学数理解析研究所</p> <p>「関数方程式論におけるモデリングと複素解析」研究集会</p> <p>微分方程式盛岡研究会</p>		
--	-------------------------------	---	---	--	--

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

<p>1978年4月～現在に至る</p>	<p>日本数学会会員</p>
----------------------	----------------

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	木戸 眞美	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 学習した事項の記憶への定着と理解の促進			2005年4月～	授業の始めに前回の要約と今回の流れを話し、最後にまとめを行う。			
学生を授業に引きつけ理解を深めるため			2005年4月～	最近の事例やエピソードを入れ、分かりやすい例えやイメージを提供する。			
自発的に考え問題意識を持ち、自分の考えをうまく表現するため			2005年4月～	演習やゼミではあるテーマや範囲を決めて自分で調べ発表・考察をさせる。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb “Biophysical Measurements of Distant Healing by Reiki and Clear Sight Healing”		共著	2006年	J. of International Society of life Information Science (ISLIS) 24(1)	M. Kido J. Aiko	145～154頁	
G 遠隔作用の研究		共著	2005年	第15回人体科学会	木戸眞美 吉村ひろ子		
遠隔作用についてのパネルディスカッション		共著	2006年	第22回生命情報科学会シンポジウム	木戸眞美 佐々木豊文 他		
スピリチュアル・ヒーリングの科学計測		共著	2006年	第16回人体科学会大会	木戸眞美 吉村ひろ子		
遠隔作用		単著	2007年8月	第24回生命情報科学シンポジウム			
自然環境音楽による生体効果		単著	2007年10月	世界気功フォーラム2007			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
			人体科学会 常任理事 及び Mind-Body Science 編集委員長 国際生命情報科学会 常務理事				

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	小林 善司	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 講義内容のWeb上での公開				2005年4月～2009年12月	担当科目の「複素関数」, 「微分方程式」の講義ノートをWeb上で公開している。		
学生の授業外における学習促進のための取り組み				2005年4月～2009年12月	週3～4時間のオフィスアワーを設け学生の質問, 学習促進に対応している。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba An Explicit Formula of the Newman-Coquet Exponential Sum			共著	2007年4月	Interdisciplinary Information Sciences Vol. 13 No. 1	小林善司 他4名	1～6頁
A probability measure which has Markov property			共著	2008年7月	Acta Mathematica Hungarica 121(1-2)	小林善司 他4名	45～71頁
Bb On exponential sums of digital sums related to Gelfond's theorem			共著	2008年3月	AIP Conference Proceedings Vol. 976	小林善司 他3名	176～189頁
G 単位区間上の多重 Markov 型確率測度について			共著	2005年8月	第20回「マルチンゲールとその応用」に関する研究会	小林善司 他3名	
Applications of measure theory to digital sum problems			共著	2006年3月	Diophantine Analysis and Related Fields 2006	Z. Kobayashi 他3名	
An application of multinomial measure to a certain exponential sum of digital sums			共著	2006年8月	International Congress of Mathematicians MADRID 2006	Z. Kobayashi 他4名	
On exponential sums of digital sums related to Gelfond's theorem			共著	2008年3月	Diophantine Analysis and Related Fields 2008	小林善司 他3名	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1981年3月～				日本数学会会員			

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	佐藤 篤	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
2	その他の教材の自作			2005年4月～2008年12月	教科書は用いず、すべての教科で詳細な内容のプリントを配布し、また、パワーポイントで授業を行った。		
	実験実習の教材の開発			2005年4月～2008年12月	塩水の振動の引き込みの実験、遺伝子発現の制御の実験を実験実習として行うための教材開発を行った。		
	タンパク質構造の二面角を理解するためのコンピュータプログラムP2PPOMGの作成			2006年8月～12月	タンパク質の原子座標から二面角を算出するプログラムを作成し、バイオインフォマティクスの授業で受講生が使用した。		
	二面角を用いたタンパク質の構造データからタンパク質の立体構造を算出するコンピュータプログラムPP2POMGの作成			2006年8月～12月	タンパク質の部分構造を組み合わせて、新たなタンパク質を設計するプログラムを作成し、バイオインフォマティクスの授業で受講生が使用した。		
4	サテライト教室での市民向け講座			2005年6月4日	仙台市内のサテライト教室で、“マイクロ情報の自己創発—DNA・タンパク・生体—”を表題として一般市民向けの講義を行った。最近の分子生物学やゲノムの研究成果を情報科学の視点で解説した。		
	シンポジウムの企画、開催			2006年4月18日	音の情報科学“なぜコウモリは暗闇で飛べるのか”と題するシンポジウムを企画し司会を行ったJ. A. Simmons氏（ブラウン大学）、力丸氏（同志社大）、松尾氏（本学）が演者で市民向けの講演会とした。市教育委員会、新聞社との共催。		
	初年次教育に関する報告書の提出			2007年5月	所属する教養学部4学科が取り組んでいる初年次教育の実態と課題をまとめ、学部の将来構想委員会に提出した。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba Conserved structural determinants in three-fingered protein domain			共著	2008年	FEBS Journal 275	A. Sato 他4名	3207～3225 頁
Bb <i>Bacillus licheniformis</i> laboratory stock strains are composed of two distinct groups			共著	2009年	Faculty of liberal arts review THOKU GAKUINU UNIVERSITY 152	H. Ishihara A. Sato	47～55 頁
D コンピュータサイエンスとバイオサイエンスの融合			単著	2009年11月	季刊 教養学部		

<p>G The mechanism of anesthetic effect of carbon dioxide on the frog</p> <p>メダカのコミュニケーションの研究 ー遺伝子導入メダカの作成ー</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2008年11月～12月</p> <p>2008年</p>	<p>2008 New Zealand Society for Biochemistry and Molecular Biology Conference</p> <p>平成19年度第五回情報処理学会東北支部研究会論文集</p>	<p>Y. Takahashi K. Shibuya A. Sato</p> <p>丸山登萌 松下泰之 佐藤 篤</p>	<p>68頁</p> <p>111～112頁</p>
--	---------------------	----------------------------------	--	--	----------------------------

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

<p>1972年4月～</p> <p>1980年4月～</p> <p>1994年4月～</p> <p>2006年5月～</p>	<p>日本生化学会会員</p> <p>日本化学会会員</p> <p>日本分子生物学会会員</p> <p>日本バイオインフォマティクス学会会員</p>
---	--

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	塩田 安信	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 ノート PC を用いた情報処理教育		2007 年 1 月～2009 年 12 月		<p>情報科学科では 2000 年度からノート PC を用いた実践的な情報処理教育を行っている。多人数が同時に利用する環境下でも円滑な授業を行うためノート PC 専用のネットワーク, www, ftp, DNS, Mail など各種サーバを独自に構築し維持, 管理を行っている。</p> <p>授業では Linux を基本にしつつ Microsoft Windows family も取り扱っている。単にアプリケーションソフトの使い方を教えるというのではなく, システム管理やセキュリティ対策を中心とした実践的な内容に重点を置いている。特にセキュリティ関係については日々変化しているが, つねに最新の情報を授業内容に反映させている。</p>			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba An explicit formula of the Newman-Coquet exponential sum		共著	2007 年	Interdisciplinary Information Sciences, 13	Y. Shiota 他 4 名	1～6 頁	
A probability measure which has Markov property		共著	2008 年	Acta Math. Hungary 121 (1-2)	Y. Shiota 他 4 名	45～71 頁	
Bb On Exponential Sums of Digital Sums Related to Gelfond's Theorem		共著	2008 年	Diophantine Analysis and Related Fields DARF 2007/2008 (Kyoto 2008), American Institute of Physics Conference Proceedings 976	Y. Shiota 他 3 名	176～189 頁 ISBN: 073540495X	
G 国内研究会発表 Applications of measure theory to digital sum problems		共著	2006 年 3 月	Diophantine analysis and related fields 2006 於 慶応大学	Y. Shiota 他 3 名		
国際研究会発表 An application of multinomial measure to a certain exponential sum of digital sums		共著	2006 年 8 月	International Congress of Mathematicians 2006. held in Madrid. (Poster sessions)	Y. Shiota 他 4 名		
国内研究会発表 Multinomial measure and digital sum problems		共著	2009 年 8 月	第 48 回実函数論・函 数解析学合同シンポ ジウム講演集	Y. Shiota 他 3 名		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
		日本応用数理学会会員 日本Linux協会会員	

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	関口 健	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 ノート PC を用いた情報処理教育				2007 年 1 月～2008 年 12 月	<p>情報科学科では 2000 年度からノート PC を用いた実践的な情報処理教育を行っている。多人数が同時に利用する環境下でも円滑な授業を行うためノート PC 専用のネットワーク, www, ftp, DNS, Mail など各種サーバを独自に構築し維持, 管理を行っている。</p> <p>授業では Linux を基本にしつつ Microsoft Windows family も取り扱っている。単にアプリケーションソフトの使い方を教えるというのではなく, システム管理やセキュリティ対策を中心とした実践的な内容に重点を置いている。特にセキュリティ関係については日々変化しているが, つねに最新の情報を授業内容に反映させている。</p>		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba An explicit formula of the Newman-Coquet exponential sum		共著	2007 年	Interdisciplinary Information Sciences, 13	T. Sekiguchi 他 4 名	1～6 頁	
A probability measure which has Markov property		共著	2008 年	Acta Math. Hungary 121 (1-2)	T. Sekiguchi 他 4 名	45～71 頁	
Bb On Exponential Sums of Digital Sums Related to Gelfond's Theorem		共著	2008 年	Diophantine Analysis and Related Fields DARF 2007/2008 (Kyoto 2008), American Institute of Physics Conference Proceedings 976	T. Sekiguchi 他 3 名	176～189 頁 ISBN: 073540495X	
G 国内研究会発表 Applications of measure theory to digital sum problems		共著	2006 年 3 月	Diophantine analysis and related fields 2006 於 慶応大学	T. Sekiguchi 他 3 名		
国際研究会発表 An application of multinomial measure to a certain exponential sum of digital sums		共著	2006 年 8 月	International Congress of Mathematicians 2006. held in Madrid. (Poster sessions)	T. Sekiguchi 他 4 名		
国際研究会発表		共著	2009 年 8 月	第 48 回実函数論・函数解析合同シンポジウム講演集	T. Sekiguchi 他 3 名		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
	日本応用数理学会会員		

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	高橋 光一	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	作成した web 教材を用いた自宅学習の指導	2007 年～2008 年		数学（微分・微分方程式・ベクトル）の E-ラーニング教材を、学生の理解度に応じての自習用に作成した。			
	演習における web 教材作成法のガイダンスと実習	2008 年 7 月～		数学・物理学の E-ラーニング教材の作り方を指導した。			
2	数学の補習のための自学用 web 教材	2006 年		理科授業のために必要な数学的知識を、個々の学生のレベルにあわせて習得できるようにする目的で、授業時間外にも利用できる学習用教材を web 上に作成した。現在利用できる分野は「微分」「微分方程式」「ベクトル」である。			
4	授業評価委員会委員	2004 年 4 月～2008 年 3 月		「学生による授業評価」企画・実施と報告書の作成			
	FD 推進委員会委員	2004 年 4 月～2008 年 3 月		教育に関する FD 研修会・講演会への参加			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba							
Polytropic Model of Pulsars with a Strongly Magnetized Core and Their Spin Evolutions.		単著	2005 年 4 月	Astronomical Society of Japan, Publication of Astronomical Society of Japan (Vol. 57)		365～374 頁	
Comments on the Differential Rotation Model of Anomalous X-Ray Pulsars.		単著	2005 年 8 月	Progress of Theoretical Physics (Vol. 114)		889～894 頁	
Neutral pion condensation and magnetic field in the chiral model.		単著	2006 年 8 月	Institute of Physics, Journal of Physics G: Nuclear and Particle Physics (Vol. 32)		1131～1141 頁	
Effect of strong magnetic fields on neutral pion condensation in neutron star matter		単著	2007 年 3 月	IOP Publishing, Journal of Physics G:Nuclear and Particle Physics (Vol. 34)		653～659 頁	
Relativistic wavefunctions of charged particles in a uniform magnetic field and neutrino beaming in the Urca process		単著	2008 年 1 月	IOP Publishing, Journal of Physics G:Nuclear and Particle Physics (Vol. 35)		035002+15	

Bb	ラゲール多項式の積の展開公式 I	単著	2009年7月	東北学院大学教養学部論集(第153号)	39~45頁
	ラゲール多項式の積の展開公式 II	単著	2009年12月	東北学院大学教養学部論集(第154号)	21~28頁
G	強磁性核をもつ中性子星のスピン進化	単著	2005年3月	日本物理学会第60回年次大会(東京理科大)	

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

IV 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	高橋 彌穂	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著者・共著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
Ba 自動車運転中の脳活動の解析	共著	2005年3月	人間情報学研究 10巻	鄭 明基 伊藤正敏 高橋彌穂	69～76頁		
Program Design Based on a Mathematical Model Using Rating of Perceived Exertion for an Elite Japanese Sprinter::A Case Study.	共著	2006年2月	J. Strength and Conditioning Research Vol 20(1)	Y. Takahashi 他3名	36～42頁		
Physiological properties of molar-mechanosensitive periodontal neurons in the trigeminal ganglion of the rat.	共著	2006年3月	Archives of Oral Biology Vol 51	T. Tabata Y. Takahashi H. Hayashi	729～735頁		
Medial frontal cortex perfusion abnormalities as evaluated by positron emission tomography in women with climacteric symptoms.	共著	2006年11月/12月	Menopause Vol 13(6)	Y. Takahashi 他5名	891～901頁		
Projection of Swim Performance in junior female Swimmers by dynamic System model	共著	2008年10月	Human Performance Measurement	Y. Takahashi 他3名	1～8頁		
C 脳の構造と機能と構造に魅せられて－生命科学における分析と統合－	単著	2006年3月	人間情報学研究 11巻		99～111頁		
G The Mechanism of Anesthetic Effect of Carbon Dioxide on the Frog	共著	2008年12月	Chemistry and Biosphere Conference of New Zealand	Y. Takahashi K. Shibuya A. Sato	129頁		
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要			
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	塚本 龍男	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 毎週シラバスを見直す 板書の写真を保存 資料提示装置			2007年～ 2007年～ 2009年4月1日	板書のミスをチェック 参考図書, 引用文献の本物を提示			
2 情報の科学講義資料 チューリング・マシン・エミュレータープログラムを配布 (改訂版 Ver. 5)			2007年3月 2009年10月6日	文献抜粋 チューリングのテーピング (programming) を自作させるデバッグを容易にする仕様。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	土橋 宏康	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
2 代数曲線を描くソフトの改良		2008年5月		以前に作成してあった幾何学の講義で登場する多項式で表される曲線を学生が所有する計算機で描いてみるソフトを使いやすいように改良し、学生がインターネットからダウンロードし使ってみられるようにした。			
計算機を利用して講義内容を実習するためのソフトの作成		2008年9月		数理情報学において講義で説明した暗号化、復号化を具体的な数で計算して試すために必要なプログラムを作成し、学生がインターネットからダウンロードし使ってみられるようにした。数理情報学において講義で説明した素因数分解を行うプログラム、オイラーの関数の値を求めるプログラムおよび暗号化、復号化を具体的な数で計算して試すために必要な大きい数の巾を正整数で除した余りを求めるプログラムを作成し、学生がインターネットからダウンロードし使ってみられるようにした。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
G 平面三次曲線と Zariski pair		単著	2005年	トポロジー・代数幾何 玉原セミナー			
「射影直線の分岐被覆」		単著	2007年	分岐被覆に関連する 代数幾何とトポロ ジー			
「射影直線の分岐被覆のモジュライ空間のコンパクト化の試み」		単著	2008年	第二回「分岐被覆に関 連する代数幾何とト ポロジー」			
“Branched covering of projective varieties”		単著	2008年	Geometry of Singularities and manifolds			
“代数曲線の被覆写像の自己同型群”		単著	2009年	Work Shop「ガロア点 とその周辺の研究」			
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	中川 清和	大学院の授業担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要					
1	講義と演習の結合, 小レポートの活用	2005年1月～2009年12月	講義内容の確認と定着を図るため, 毎回の授業で, 練習問題をだして各学生に解かせ, レポートとして提出させている。レポートは添削の上学生に返却している。					
	総合研究発表会を合同で開催	2005年1月～2009年12月	総合研究発表会を合同で行い, 他研究室の発表にも触れる機会をつくり幅広い成果の共有を図る。さらに, 2, 3年次学生にも参加を呼びかけ, 研究の継続・発展を図っている。					
	演習の課題・内容をプリントにして配布	2005年1月～2009年12月	教室のホワイトボードが教室後部の席から見づらいため, 学生に内容を確実につかませるため毎時間, プリントを作成し配布している。欠席・遅刻の学生の遅れをカバーする役割も果たしている。					
	演習の時間中, 机間巡視を積極的に行い, 学生の疑問・質問に答える	2005年1月～2009年12月	コンピュータを使った演習では, 課題を細かく分けて提示し学生に演習させている。課題を確実に身に付けられるよう細かな質問に答えられるよう学生の近くに位置するようにしている。					
	3, 4年生の演習にコンピュータを積極的に導入。プログラミングも行う。	2005年1月～2009年12月	数学的な事実を初学者にも理解されるような教材作りを学生に体験させている。コンピュータグラフィクスを積極的に取り入れ, アニメーションの技術も使いながら教材開発を行っている。					
	3年向け演習で空間図形の模型を学生に作成させ, 空間理解を促進させる。	2005年4月～2006年12月	立体図形の幾何学を学ぶ上で必要な空間理解力を身に付けさせるため, 実際に定理を模型として作成し, 定理の意味や証明の内容を身近なものになるよう工夫している。					
	学生への学習援助	2007年1月～2009年12月	毎週月曜日, 水曜日の時間を学生の質問受付の時間とした。担当科目に限らず, 数学関連の質問には極力対応することとしている。					
	4年生総合研究合宿の開催	2007年9月, 2008年9月 2009年9月	プログラミングの実習を中心に, 普段できなかったことを合宿の中で取り上げるとともに, 学生と教員の交流を深める場とした。					
	2	演習の課題・内容をプリントにして配布	2005年1月～2009年12月	教室のホワイトボードが教室後部の席から見づらいため, 学生に内容を確実につかませるため毎時間, プリントを作成し配布している。欠席・遅刻の学生の遅れをカバーする役割も果たしている。				
		演習時のOHP・ビデオの作成	2005年1月～2009年12月	授業内容を理解しやすくするためのOHPシート, ビデオを作成した。内容は黒板では提示できないアニメーションの実際を紹介するデモ・テープや図版の紹介である。				

<p>3</p> <p>東北学院大学教養学部「地域社会と教育を考えるフォーラム」(宮城県教育委員会・仙台市教育委員会後援) 第一フォーラム「考える力を耕す」のコーディネータを務める</p> <p>東北学院大学教養学部「地域社会と教育を考えるフォーラム」(宮城県教育委員会・仙台市教育委員会後援) 報告集に第一フォーラム「考える力を耕す」についての報告文を寄稿</p> <p>第7回高大連携会議「山形大学と高校の数学教員の研究交流会」にて、「教員免許更新講座の講義を終えて」と題して講演</p>	<p>2007年3月</p> <p>2008年3月</p> <p>2009年9月16日</p>	<p>「考える力, コミュニケーション力」について、現場での教育実践の中から考えることにした。東和中学, 泉館山高校, 角田高校の教員による事例報告を中心に議論を深めた。</p> <p>第一フォーラムの内容についてと, その成果についてまとめた。</p> <p>2009年度教員免許更新講習の経験を踏まえ, これからの教員研修のあり方や高大連携進め方などについて講演した。</p>
<p>4</p> <p>オープンキャンパスで研究室公開</p> <p>キャンパス見学の高校生(私立福島高校)に模擬授業を行う</p> <p>資格試験合格対策講座の講師</p> <p>連続講演 東北学院大学教養学部創設20周年記念「おいしい教養バイキング～学問の現在・過去・未来」において講師を務める</p> <p>キャンパス見学の高校生(仙台高校)に模擬授業を行う</p> <p>東北学院大学人間情報学研究所第15回公開講演会の組織と運営を行う</p> <p>2009年度教員免許更新講習において講師を務める</p> <p>キャンパス見学の高校生(仙台高校)に模擬授業を行う</p>	<p>2005年7月～2009年8月</p> <p>2006年6月14日</p> <p>2007年10月～2009年11月</p> <p>2008年10月</p> <p>2008年11月</p> <p>2009年6月25日</p> <p>2009年8月21日</p> <p>2009年11月18日</p>	<p>3年生のゼミ・総合研究の内容を卒業生の作品, 論文を紹介しながら高校生に紹介</p> <p>キャンパス見学の高校生に「一筆書きはできるか」というタイトルで講義。実際に紐を使ったりして生徒の関心と理解を求める授業を行った。</p> <p>教員採用試験対策講座(本学教職課程センター主催)の講師を務めた。</p> <p>『「明らか」だけど『なぜ』一数学的に考える』と題し, 数学でよく出会う, 「自明である」ということをどう捕らえるべきかについて話した。日常生活における思考停止といった状況にも踏み込んで, 数学的に考えることの重要性を強調した。</p> <p>キャンパス見学の高校生に「情報科学における数学」といタイトルで講義。数の性質を中心にとりあげ生徒の関心と理解を求める授業を行った。</p> <p>駐日ブルガリア特命全権大使ブラゴベスト・センドフ大使を迎え, 「ブルガリアの教育・科学・経済」と題しての講演会を開催した。</p> <p>「紀元前から現代までの数学」と題し, 古代エジプト, バビロニアから現代までの数についての認識の歴史と数の構成について講習した。</p> <p>キャンパス見学の高校生に「情報科学における数学」といタイトルで講義。円の面積・円周率にとりあげ, 生徒の関心と理解を求める授業を行った。</p>

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
G					
The relation between the impulsive control and the blow-up time of the solution to the semilinear parabolic equation	単著	2005年8月	The Second International Conference of Applied Mathematics and Computing (Plovdiv, Bulgaria)		
The impulsive control and the blow-up time of the solution to the semilinear parabolic equation	単著	2005年12月	Mini conference on mathematics and mathematical education 慶応義塾大学理工学部		
Blowing-up behavior of the periodic solution to the semilinear parabolic equation with an impulsive control	単著	2007年8月	The Fourth International Conference of Applied Mathematics and Computing (Plovdiv, Bulgaria)		
The periodic solution to the semilinear parabolic equation and the impulsive control	単著	2008年2月	関数方程式ウィンターセミナー(猪苗代: 裏磐梯高原ホテル)		
The fundamental property of an impulsive condition for a semilinear parabolic equation.	単著	2009年9月	「日勃数学・交流会」(Japan-Bulgaria mathematics/meeting)(於首都大学東京)		
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動					
1979年4月～	日本数学会会員				
2000年4月～	International Federation of Nonlinear Analysts 会員				
2007年1月	Journal of Nonlinear Analysis A : Theory, Methods&Application 投稿論文審査				
2007年8月	The Fourth International Conference of Applied Mathematics and Computing (Plovdiv, Bulgaria) 組織委員				
2008年12月	Journal of Nonlinear Analysis A : Theory, Methods&Application 投稿論文審査				
2009年6月26日	東北学院大学教養学部数学談話会(講師 駐日ブルガリア大使センドフ博士, 題目「A Conjecture in the Geometry of Polynomials」)の開催と運営				

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	野村 信	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	前回学習した事項の簡単な復習と当日の講義の概要説明	2005年1月～2008年3月		キリスト教学 I, II 共に、前回学習した事項の簡単な復習と当日の講義の概要を説明し、学生たちの意識を講義に向けさせ、関心を起こすように努める。			
	教科書と板書に合わせて、プリントの配布、資料や統計図、絵画、複製見本などを使用。	2005年1月～2008年3月		ほぼ毎回、より詳細な資料、データ、原典の文章などを用い、また絵画や見本などで、学生の意識の喚起に努めている。			
2	インターネットに良い資料や解説、美術館、記念行事など講義に関するものがあれば、学生に知らせる。	2005年1月～2008年3月		世界の事象や歴史に関わる分野であるから、出来るだけ視覚的にも納得いくように教材を用い、Web 上にあれば通知。			
	『宗教改革概論』 単著 キリスト教学 II (大学生協：プリント・コープ印刷)	2005年3月		3年生用に、新たに宗教改革だけを詳述したものの。			
	講義用ホーム・ページを設置して学生たちの資料入手の便宜を図り、学習をしやすくした事。	2009年4月～		前期 15 回、後期 15 回の講義で用いる教材や資料を各講義の一週間前にホームページに掲載して、学生たちが講義の予習・復習、また講義当日に印刷したものを持参して、内容を深めることが出来るように企画した。これは自身としては画期的であり、学習効果は大きい。			
講義用教科書『世界の諸宗教』(大学生協：プリント・コープ印刷)	2009年11月		1年生の宗教講義のために世界の諸宗教を解説したものの。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 「聖書解釈と説教」『カルヴァン生誕 500 年祭記念論集』		共著	2009年7月	キリスト新聞社発行 アジア・カルヴァン学 会日本支部編	野村 信 他 6 名	9～67 頁	
Ba “A Study of Calvin’s Sermons on Isaiah 55:1-2 and Ephesians 1:19-23		単著	2005年1月	Korea: Calvin Society, PCTS Press, Calvin in Asian Churches, No.2 ed. by Sou-Young Lee		9～32 頁	
カルヴァンの聖書解釈について(1) これまでの研究		単著	2007年11月	『季刊教会』69号、日本基督教団改革長老教会協議会発行		42～51 頁	
カルヴァンの聖書解釈について(2)『綱要』と『注解』		単著	2008年2月	『季刊教会』70号、日本基督教団改革長老教会協議会発行		44～56 頁	
カルヴァンの聖書解釈について(3) 語りだすテキスト		単著	2008年5月	『季刊教会』71号、日本基督教団改革長老教会協議会発行		46～59 頁	

カルヴァンの聖書解釈について(4) その具体例	単著	2008年8月	『季刊教会』72号, 日本基督教団改革長老教会協議会発行		63～73頁
「詩編註解におけるカルヴァンの人間理解：詩編第51篇をめぐる」	単著	2009年2月	『神学と牧会』No. 22 神学と牧会研究所刊		31～54頁
Bb カルヴァンと詩編歌(1)	単著	2006年3月	『東北学院大学宗教音楽研究所紀要』第10号		1～9頁
G Calvin's Concept of the Worship		2005年1月	The 9th Asian Congress on Calvin Research, in Taiwan		
Église bien ordonnée : Liturgical and Spiritual Aspects of Calvin's Concept of the Worship		2006年8月	The 9th International Congress on Calvin Research, in Germany		
『詩編註解』におけるカルヴァンの人間論		2008年3月	アジア・カルヴァン学会 第5回講演会主題講演 立教大学		
H 「カルヴァンと同僚の牧師たち：『御言葉と聖餐』の共同牧会に関する新しい見解」	単著	2006年6月	『神学と牧会』第21号		12～27頁
カルヴァン・エフェソ書説教1『命の登録台帳』	共著	2006年8月	教文館	野村 信 他5名	7～25, 94～159, 285～296頁
「カルヴァンの聖餐論」『カルヴァン生誕500年記念論集』	単著	2009年7月	キリスト新聞社発行 アジア・カルヴァン学会日本支部編		69～98頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1993年4月～2006年	日本基督教学会会員
1997年6月～（現在に至る）	アジア・カルヴァン学会書記
1998年7月～（現在に至る）	アジア・カルヴァン学会（日本支部代表）
1999年8月～2006年	国際カルヴァン学会会員
2006年4月～（現在に至る）	日本カルヴァン研究会・会長

所属	情報科学科	職名	教授	氏名	松澤 茂	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 プログラミング関係の講義のホームページ化				2005年4月～	毎回の講義内容ホームページ化し、学生がいつでもどこでも復習できるようにした。		
プログラミング言語 C 学習支援ソフトウェアの開発				2007年4月～	C言語の初心者を対象にした、プログラムの実行過程の詳細を表示する。		
2 プログラミング言語 Java の教材作成				2005年4月～	講義形式に基づき Java の講義を支援するための教材で学生に講義開始時に配布している。(書籍にする予定)。		
サーバサイド Java プログラミングに関する資料作成				2006年4月～	サーバサイド Java のプログラミング技法を支援するための教材で、学生に講義開始時に配布している。		
学習のための教材データベースシステムの構築と運用				2007年4月～	学生の学習を支援するための教材などをデータベース化して、学科の学生に公開している。教員は学生に参考になるとと思われる教材を随時登録する。		
3 東北学院大学泉キャンパス情報処理センターにおける教育支援システムの構築				2005年12月	全 NEC C&C システムユーザー会において講演		
4 ソフトウェア (レポート管理システム) の開発				2006年7月	NEC よりソフトウェア (レポート管理システム) 発表, 報道発表		
中高大一貫教育 (IT 教育委員会) の実践				2007年4月～	中高大一貫教育 (IT 教育委員会) の委員長として企画・実施などの業務を勤めている。		
第1回 WROJapan 東北地区予選会				2007年8月20日	自立型ロボット (マインドストーム) の世界大会の第1回東北地区予選会を実施した。		
第2回 WROJapan 東北地区予選会				2008年8月6日	自立型ロボット (マインドストーム) の世界大会の第2回東北地区予選会を実施した。		
第3回 WROJapan 東北地区予選会				2008年8月15日	自立型ロボット (マインドストーム) の世界大会の第3回東北地区予選会を実施した。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba レポート管理システムのデータベース化に関する研究			共著	2005年3月	東北学院大学 人間 情報学研究 (10巻)	三浦宏子 長田由貴 松澤 茂	89～96 頁
N-LAND 画像データを用いた積雪域の抽出に関する研究			共著	2005年3月	東北学院大学 人間 情報学研究 (10巻)	松澤 茂 川村 宏	77～88 頁
GMS 画像データを用いた積雪域の抽出に関する研究			共著	2006年3月	東北学院大学 人間 情報学研究 (11巻)	松澤 茂 川村 宏	77～90 頁

N-LAND 画像データを用いた海面水温の解析	共著	2007年3月	東北学院大学人間情報学研究所(12巻)	松澤 茂 川村 宏	81~94頁
学習を支援するための教材データベースシステムの設計と開発	単著	2008年3月	東北学院大学人間情報学研究所(13巻)		109~120頁
Bb 学習を支援するための教材データベースシステムの開発(2)	単著	2007年2月	東北学院大学教養学部論集(146号)		1~11頁
岩手県遠野市における健康支援システム(1)	単著	2007年12月	東北学院大学教養学部論集(148号)		69~82頁
岩手県遠野市における健康支援システム(2)	単著	2008年3月	東北学院大学教養学部論集(149号)		27~37頁
N-LAND 画像データベースシステムの開発と応用	単著	2008年9月	東北学院大学教養学部論集(150号)		1~18頁
G 論文データベースシステムの開発(1)	共著	2007年2月	平成18年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他3名	B-3
論文データベースシステムの開発(2)	共著	2007年2月	平成18年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他3名	B-4
岩手県遠野市における健康支援の開発(1)	共著	2007年2月	平成18年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他3名	D-1
岩手県遠野市における健康支援の開発(2)	共著	2007年2月	平成18年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他3名	D-2
論文データベースにおける論文登録の促進手法と実現方式	共著	2008年2月	平成19年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松田豊臣 金子虎裕 松澤 茂	B-1-4
GPS機能付き携帯電話を利用した位置情報データベースの構築とリアルタイム表示システムの開発	共著	2008年2月	平成19年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他4名	B-1-5
研究業績を活用するリポジトリシステムの開発	共著	2008年2月	平成19年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他3名	B-1-6
特定保健指導における遠隔利用者の支援と保健師の負担軽減を目的としたシステム開発	共著	2008年2月	平成19年度第5回情報処理学会東北支部研究会	松澤 茂 他5名	B-2-3
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
	私立大学情報教育協会 理事 宮城県高度情報化推進委員会委員				

宮城県情報サービス産業協会参与

NUA 学術情報システム研究会委員

情報処理学会会員

画像電子学会会員

日本写真測量学会会員

所属	情報科学科	職名	准教授	氏名	坂本 泰伸	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	ノートPCを用いた情報処理教育	2007年1月～2009年12月		情報科学科では2000年度からノートPCを用いた実践的な情報処理教育を行っている。多人数が同時に利用する環境下でも円滑な授業を行うため、ノートPC専用のネットワーク、WWW、ftp、DNS、Mailなど各種サーバを独自に構築し維持、管理を行っている。授業ではLinuxを基本にしつつMicrosoft Windows familyも取り扱っている。単にアプリケーションソフトの使い方を教えるというのではなく、システム管理やセキュリティ対策を中心とした実践的な内容に重点を置いている。特にセキュリティ関係については日々変化しているが、つねに最新の情報を授業内容に反映させている。			
	WEBを用いた教材開発	2007年4月～2008年12月 2008年9月～12月 2009年9月～12月		講義で用いる教材を学内からアクセス可能なWEB上に掲載することで、学生の復習を促すような形態の授業を進めている。			
	授業内容を理解させ理解を定着するための工夫と、授業に学生を引き付けるための工夫	2007年9月～12月 2008年9月～12月 2009年9月～12月		毎回の講義でインターネットによる短時間の情報収集作業を導入し、学生が作業をする項目を必ず導入している。			
3	平成20年度東北学院大学現職教員研修セミナー	2008年12月6日		平成20年度東北学院大学現職教員研修セミナーにおいて講師を務めた。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著・者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	On-site underground background measurements for the KASKA reactor-neutrino experiment	共著	Dec. 2006	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A 568	Y. Sakamoto 他25名	710～715頁	
	キセノンガスおよびアルゴンガスを使った比例計数管の特性	共著	Dec. 2006	日本保健科学学会第9巻第3号	坂本泰伸 他3名	194～204頁	
	FOREST 検出器用データ収集システムの設計	共著	2007年3月	東北学院大学人間情報学研究 Vol. 12	坂本泰伸 他3名	57～66頁	
Bb	Development of WEB-based DAQ system for the DCBA experiment	共著	June. 2005	Real-Time Conference, 2005 15th IEEE-NPSS	Y. Sakamoto 他11名	473～476頁	
	KONOE, a Toolkit for an Object-Oriented Online Environment, with Gate Package	共著	June. 2005	Real-Time Conference, 2005 15th IEEE-NPSS	Y. Sakamoto 他15名	357～360頁	
	VPN Based Data Acquisition System for KASKA Prototype Detector	共著	May. 2007	Real-Time Conference, 2007 15th IEEE-NPSS	坂本泰伸 他3名	DOI:10.1109/RTC.2007.4382810	

東北学院大学泉キャンパスにおけるオンライン教科書発注システムの開発	共著	2008年2月	2007年度情報処理学会東北支部第5回研究会資料 07-5-B-1-3	坂本泰伸 他3名	1~4頁
コーパスに基づく外国語研究と教育支援システムの開発	共著	2008年2月	2007年度情報処理学会東北支部第5回研究会資料 07-5-B-1-2	坂本泰伸 他4名	1~4頁
多人数対応型定型文書作成支援システムの開発	共著	2008年2月	2007年度情報処理学会東北支部第5回研究会資料 07-5-B-1-1	坂本泰伸 他2名	1~4頁
The DCBA experiment for studying neutrinoless double beta-decay	共著	2009年2月	International conference on Topics in Astroparticle and Underground Physics, TAUP2009, Gran Sasso National Laboratory	Y. Sakamoto 他25名	
コーパスに基づく外国語研究と教育支援システムの開発～自動品詞タグ付与ソフト TAGASS の開発～	共著	2009年2月	2008年度情報処理学会東北支部第6回研究会資料 08-5-B-1-6	坂本泰伸 他7名	1~4頁
コーパスに基づく外国語研究と教育支援システムの開発～再定義可能な品詞タグ付与に関する考察～	共著	2009年2月	2008年度情報処理学会東北支部第6回研究会資料 08-5-B-1-5	坂本泰伸 他7名	1~4頁
東北学院大学泉キャンパスにおけるオンライン教科書発注システム CATBOSS の開発～2. システム設計と試験運用～	共著	2009年2月	2008年度情報処理学会東北支部第6回研究会資料 08-5-B-1-4	坂本泰伸 他5名	1~4頁
東北学院大学泉キャンパスにおけるオンライン教科書発注システム CATBOSS の開発～1. システム開発のためのアンケート調査～	共著	2009年2月	2008年度情報処理学会東北支部第6回研究会資料 08-5-B-1-3	坂本泰伸 他5名	1~4頁
高エネルギー物理学実験におけるデータ収集システムのフレームワークの開発	共著	2009年2月	2008年度情報処理学会東北支部第6回研究会資料 08-5-B-1-2	坂本泰伸 他2名	1~4頁
Double Chooz 実験で用いられる警告表示システム Gaibu Server の開発	共著	2009年2月	2008年度情報処理学会東北支部第6回研究会資料 08-5-B-1-1	坂本泰伸 他1名	1~4頁
A new DBMS and flexible POS tagging for EFL learners and researchers	共著	Jul. 2009	Corpus Linguistics 2009, University of Liverpool, U.K.	T. Okada Y. Sakamoto	309頁
Online Monitoring System for Double Chooz Experiment	共著	Nov. 2009	IEEE, Hilton Disney World, Orlando, Florida, U.S.A (N13-123)	Y. Sakamoto 他6名	1~6頁
G KASKA 実験プロトタイプ検出器の準備状況	共著	2005年3月	日本物理学会@東京理科大(24pWJ-10)	Y. Sakamoto 他4名	
Present status of KASKA experiment	共著	Jun. 2005	NuFact-J@東京工業大学(WG1)	Y. Sakamoto for KASKA Collaboration.	

Present status of KASKA experiment	共著	Jun. 2005	NuFact05, 7th International Workshop on Neutrino Factories and Superbeams, LNF, Frascati, Rome (WG1 Session8-2)	Y. Sakamoto for KASKA Collaboration.	
CAMAC とボードコンピュータによる放射線計測装置の開発	共著	2005年11月	第14回日本保健科学学会学術集会@東京都立保健科学大学(B-1)	坂本泰伸 他3名	
KASKA プロトタイプ検出器を用いたγ線 Containment の評価	共著	2005年11月	日本物理学会@大阪市立大学(13aSE-1)	Y. Sakamoto 他8名	
KASKA プロトタイプ検出器を用いたニュートリノ検出に向けての準備	共著	2006年3月	日本物理学会@愛媛大学, 松山大学(30aWL-3)	Y. Sakamoto 他3名	
VPN Based Data Acquisition System for KASKA Prototype Detector	共著	Oct. 2007	Real-Time Conference, 2007 15th IEEE-NPSS (PS2A010)	Y. Sakamoto 他3名	
New Data Acquisition System for FOREST detector at LNS	共著	Oct. 2007	2007 Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference, Honolulu, Hawaii (N15-117)	Y. Sakamoto 他5名	
The ESP Corpus POS Tagging Based on Users' Preference: Annotation and Statistical Analysis	共著	May. 2009	ICAME 30, Department of Linguistics and English Language, Lancaster University, U.K. (Bergen room)	T. Okada Y. Sakamoto	
A new DBMS and flexible POS tagging for EFL learners and researchers	共著	Jul. 2009	Corpus Linguistics 2009, University of Liverpool, U.K.	T. Okada Y. Sakamoto	
Online Monitoring System for Double Chooz Experiment	共著	Oct. 2009	Nuclear Science Symposium Conference, 2009 IEEE, Hilton Disney World, Orlando, Florida, U.S.A (N13-123)	Y. Sakamoto 他6名	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
基盤研究 (B) (一般) 課題番号 19340057	2007～2008 年度	共同	「固体ターゲットを用いた原子炉ニュートリノ検出器の開発」

基盤研究 (C) (一般) 課題番号 19530773	2007～2009 年度	共同	「汎用的データベースの解析処理に基づいた英語構文指導用教材作成システムの開発」
東北学院大学教育研究助成金	2008 年度	共同	「夜間巡回ロボットの試作と検討」
電気通信普及財団助成金	2009 年度	共同	「ネットワークユーザによる属性付与機能を実装した英語教材作成支援データベースの構築」

IV 学会等及び社会における主な活動

	<p>日本物理学会</p> <p>日本看護研究学会</p> <p>社団法人情報処理学会</p> <p>電子情報通信学会</p> <p>米国電気電子学会 (IEEE)</p>
--	--

所属	情報科学科	職名	准教授	氏名	菅原 研	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	講義内容を理解するための補助	2007年4月～2009年9月		講義における配布資料のほかに、講義で用いたスライドをweb上で公開した。			
	「質問・意見シート」の作成	2007年4月～2009年9月		毎回質問シートを配布し、回答から理解度を見極め、次の講義に活かす。また、適宜webページにQ&Aとして公開した。			
	小グループによるスクーリング	2007年4月～2009年9月		課題の解答を面談式で行った。個別に解答させたあと、受講生を小グループに分け、グループ内で解答内容を検討の上、代表者に答えさせた。			
	身近な応用例の紹介	2007年4月～2010年3月		基本的な事柄について、説明および実習を行いつつ、身近なものにどのように活かされているかを出来る限り関連付けて説明した。			
3	学術誌への投稿・掲載	2008年2月		高大連携による組み込み教材開発と高大生交流授業モデルの実践について論文発表			
4	高校訪問における模擬講義			「ものの見方・考え方」と題して、身近なものを違った角度から見ることで新たな発見がある例を示した。			
	World Robot Olympiad 東北地区予選会の開催・運営	2007年8月～2009年8月		WRO 東北地区予選会に企画段階から開催まで全面的に関わった。			
	とうほく組込産業クラスター「組み込みシステム特論」における講師	2008年7月5日		とうほく組込産業クラスターの会員等である企業社員を受講生とした「組み込みシステム特論」において講義をおこなった。			
	高校の授業補助として大学生を派遣	2008年9月～2009年12月		高大連携の一環として、高校の「情報」演習補助にゼミ生を派遣。適宜、報告とアドバイスをを行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	Human-Robot Interaction	共著	2007年6月	I-Tech Education and Publishing	N. Sarkar (編) K. Sugawara 他3名	522～533頁	
Ba	Estimation of Protein Function Using Optimized Finite State Automaton Based on Accumulated Amino Acid Residue Scores	共著	2007年6月	J. Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics, Vol. 11, No. 9.	S. Chiba K. Sugawara	1129～1135頁	

高大連携による組み込み教材開発と高大生交流授業モデルの実践	共著	2008年2月	日本教育工学会論文誌, Vol. 32, No. 2.	菅原 研 他 8 名	141~148 頁
Adaptation-induced collective dynamics of a single-cell protozoan	共著	2008年6月	Physical Review E, 77.	K. Sugawara 他 4 名	011917~ 011920 頁
Analysis and modeling of ants behavior from single to multi-body	共著	2008年12月	Journal of Artificial Life and Robotics, vol. 13, No. 1.	K. Sugawara 他 4 名	120~123 頁
Bb 家庭用運動器具とゲームの組み合わせによる運動不足解消支援システム	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集, No. 150.		19~28 頁
C Collective Motions and Formations of Multi-robots Based on Simple Dynamics	単著	2007年5月	Proc. 2007 IEEE/CME Int. Conf. on Complex Medical Engineering (ICME' 07).		122~125 頁
Proportion Regulation in Division of Labor for Multi-agent System	単著	2007年7月	The 2nd Int. Symp. On Mobiligence.		199~202 頁
Analysis and Modeling of ants behavior from single to multi-body	共著	2008年2月	Proc. of the 13th International Symp. on Artificial Life and Robotics (AROB' 08)	K. Sugawara 他 5 名	1~2 頁
Analysis and Modeling of Diacamma workers' Behavior	共著	2009年2月	Proc. of the 14th International Symp. on Artificial Life and Robotics (AROB' 09)	K. Sugawara 他 4 名	666~667 頁
Modeling of Patrol Behavior of Diacamma's Gamergate	共著	2009年2月	Proc. of the 14th International Symp. on Artificial Life and Robotics (AROB' 09)	K. Sugawara 他 4 名	664~665 頁
Interactive Flocking Simulator based on Deterministic Kinetic Model	共著	2009年8月	ICROS-SICE Int. Joint Conference	K. Sugawara K. Hata	4776~4780 頁
D 社会的適応行動から学ぶ群ロボットアーリのコロニー形成と維持を対象として	共著	2007年	計測と制御	菅原 研 辻 和希	928~933 頁
Ethological Analysis of Ant's Behavior from Single to Multi-body	共著	2009年10月	2009 IEEE/RSJ Int. Conf. on Intelligent Robots and Systems	K. Sugawara 他 6 名	SuTW5-4 (CD-ROM) 1062~1067 頁
G 化学コミュニケーションによる群ロボットの協調作業	共著	2007年8月	第 17 回インテリジェント・システム・シンポジウム予稿集	菅原 研 木村友徳	240~243 頁

変動確率法を用いた群ロボットの多 分業と比率制御	単著	2007年12月	計測自動制御学会 東 北支部第 226 回研究 集会		1~4 頁
アリロボットが示す適応的行動と自律 分散制御	共著	2008年8月	日本進化学会第 10 回 東京大会要旨集	菅原 研 辻 和希	109~112 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科研費若手研究 (B)	2006~2008 年度	個人	化学コミュニケーション型群知能ロボットシステムの構築に関する研究
科研費特定領域研究「移動知」	2008~2009 年度	研究分担	「昆虫社会の適応的行動と個体をつなぐ制御力学」のテーマにおいて主に行動のモデリングを担当
科研費基盤研究 (C)	2009~2011 年度	個人	非線形動力学的観点からの社会性昆虫の数理モデル化とその応用

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--	--

所属	情報科学科	職名	准教授	氏名	杉浦 茂樹	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	ノート PC を用いた情報処理教育	2009 年 4 月～2009 年 12 月		情報科学科では 2000 年度からノート PC を用いた実践的な情報処理教育を行っている。多人数が同時に利用する環境下でも円滑な授業を行うためノート PC 専用のネットワーク, WWW・FTP・DNS・Mail など各種サーバを独自に構築し維持, 管理を行っている。授業では, Linux を基本にしつつ Microsoft Windows family も取り扱っている。単にアプリケーションソフトの使い方を教えるというのではなく, システム管理やセキュリティ対策を中心とした実践的な内容に重点を置いている。特にセキュリティ関係については日々変化しているが, 常に最新の情報を授業内容に反映させている。			
	授業資料のインターネットへの公開	2009 年 4 月～2009 年 12 月		授業を欠席した学生は自主的な授業内容の補完ができ, 授業を聴講した学生は効果的な復習に活用できるように配慮した, 授業資料をインターネット上に掲載している。			
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2009 年 4 月～2009 年 12 月		毎回の授業の冒頭で, 前回の復習とその回の概略を必ず説明し, 授業終了時にはその回のまとめを行っている。			
4	高校への出前授業の講師を務めた	2007 年 3 月 26 日		宮城県宮城学院高校の 1 年生に対して, 「教養学部情報科学科で学ぶこと」と題する授業を行った。			
	高校への出前授業の講師を務めた	2008 年 11 月 21 日		宮城県泉松陵高校の 1 年生に対して, 「人にやさしいコンピュータシステム」と題する授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	著・者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Ba	視覚障害者と晴眼者のための分散環境を活用した KJ 法支援システム	共著	2005 年 11 月	マルチメディア通信と分散処理ワークショップ予稿集, IPSJ Symposium Series, Vol. 2005, No. 19	杉浦茂樹 他 3 名	339～343 頁	
	インターネット指向 KJ 法支援システム	単著	2006 年 3 月	人間情報学研究, Vol. 11		55～65 頁	
	視覚障害者と晴眼者の協調を支援するための分散環境を活用した KJ 法支援システム	共著	2006 年 3 月	人間情報学研究, Vol. 11	杉浦茂樹 他 3 名	67～76 頁	

分散環境を活用した視覚障害者と晴眼者のためのKJ法支援システムの開発	共著	2006年7月	マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2006) シンポジウム予稿集	杉浦茂樹 他3名	693~696頁
Javaを用いたKJ法支援システムの開発	単著	2006年7月	マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2006) シンポジウム予稿集		705~708頁
Web技術を活用した自己評価システムの開発	単著	2007年3月	人間情報学研究 (第12巻)		67~80頁
授業のための自己評価システムの提案	単著	2007年7月	情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2007) シンポジウム予稿集		587~590頁
視覚障害者と晴眼者が協調してえるKJ法支援システムの評価	共著	2008年3月	『人間情報学研究』(第13号) 東北学院大学人間情報学研究所	杉浦茂樹 他4名	121~130頁
A prototype system to support the KJ method by cooperation between visually-impaired persons and sighted persons	共著	2008年3月	Proceedings of International Symposium on Frontiers in Networking with Applications (FINA2008), held in conjunction with IEEE IANA2008	S. Sugiura 他4名	38~43頁
学生会選挙業務支援システムの構築と評価	単著	2008年7月	情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2008) シンポジウム予稿集		811~817頁
G					
モバイル・非モバイル混在環境のための合意形成支援システムの開発	共著	2005年3月	電子情報通信学会 教育工学研究会	杉浦茂樹 他5名	25~30頁
情報検索の継続性を考慮した情報収集支援システムの開発	共著	2006年3月	電子情報通信学会 教育工学研究会	杉浦茂樹 他4名	75~80頁
調整者の判断支援を考慮した会議日程調整システムの開発	共著	2006年3月	情報処理学会 東北支部 平成17年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他4名	発表番号 B1-3
情報検索の継続性を考慮した情報収集支援システムの提案	共著	2006年3月	情報処理学会 東北支部 平成17年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他4名	発表番号 B1-5
授業における自己評価・相互評価の電子化に関する一考察	共著	2006年3月	情報処理学会 東北支部 平成17年度 第5回研究会	橋田真人 杉浦茂樹	発表番号 B4-5
KJ法支援環境のための意見入力iアプリの実装	共著	2007年2月	情報処理学会 東北支部 平成18年度 第5回研究会	三塚清喜 小林大輔 杉浦茂樹	発表番号 A-2

KJ 法支援環境における島作成支援機能の改善	共著	2007年2月	情報処理学会 東北支部 平成18年度 第5回研究会	小林大輔 三塚清喜 杉浦茂樹	発表番号 A-3
研究室連絡システムにおけるスケジュール管理機能の検討	共著	2007年2月	情報処理学会 東北支部 平成18年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 A-4
研究室連絡システムへの回覧板機能の実装	共著	2007年2月	情報処理学会 東北支部 平成18年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 B-1
授業を対象とした自己評価システムの実装	共著	2007年2月	情報処理学会 東北支部 平成18年度 第5回研究会	安藤豪見 杉浦茂樹	発表番号 B-2
視覚障害者向け発想支援システムの評価実験についてのビデオ解析	共著	2007年9月	平成20年度 電気関係学会 東海支部連合大会	王 超群 湯瀬裕昭 杉浦茂樹	発表番号 0-082
自己・相互評価システムのシート作成機能の改良	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 A-1-1
自己・相互評価システムの生徒の学習への活用に関する一考察	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 A-1-2
DeveloperSNS：開発者の為のソーシャルネットワークワーキングサービスサイトの構築	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	山田健太郎 北目和也 杉浦茂樹	発表番号 A-1-3
ゲームを活用した発想法の訓練方法の提案	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	李 宗勳 近江雅大 杉浦茂樹	発表番号 A-1-4
日報管理システムの開発	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 A-1-5
分散環境における視覚障害者と晴眼者のKJ法支援システムの評価実験	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	湯瀬裕昭 王 超群 杉浦茂樹	発表番号 A-2-4
研究室情報共有システムの開発	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 A-2-5
学生会常任委員長選挙業務支援システムの開発	共著	2008年2月	情報処理学会 東北支部 平成19年度 第5回研究会	嶺崎里美 杉浦茂樹	発表番号 A-2-6
IPL法を用いたKJ法の性質の解明	共著	2009年2月	情報処理学会 東北支部 平成20年度 第5回研究会	清和貴人 杉浦茂樹	発表番号 B-4-1
東北学院大学教養学部のSNS (BANANA) の設計と実装	共著	2009年2月	情報処理学会 東北支部 平成20年度 第5回研究会	荒川祐歌 広田恭平 杉浦茂樹	発表番号 B-4-2

学生会常任委員長選挙支援システムの改良と評価	共著	2009年2月	情報処理学会 東北支部 平成20年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他4名	発表番号 B-4-3
高校の授業を対象とした自己評価システムの実装と評価	共著	2009年2月	情報処理学会 東北支部 平成20年度 第5回研究会	杉浦茂樹 他3名	発表番号 B-4-4
研究支援のための Web 上のページを効果的に保存するシステムの提案	共著	2009年2月	情報処理学会 東北支部 平成20年度 第5回研究会	齋藤和明 杉浦茂樹	発表番号 B-4-5

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1992年～	情報処理学会会員
2003年～	電子情報通信学会会員

所属	情報科学科	職名	准教授	氏名	松尾 行雄	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
Ba Temporal analysis of the echo for the fish identification by using the broadband sonar signal of dolphin	共著	2008 年	Proc. of Biological Approaches for Engineering	I. Matsuo 他 5 名	74~77 頁		
エコー定位に基づいた面の表現モデル	単著	2008 年	人間情報科学研究 vol. 13		101~108 頁		
Analysis of the temporal structure of fish echoes using the dolphin broadband sonar signal	共著	2009 年	Journal of the Acoustical Society of America	I. Matsuo 他 4 名	444~450 頁		
Bb エコーを用いた任意数物体の奥行き定位	単著	2005 年 12 月	東北学院大学教養学部論集第 142 号		95~106 頁		
エコーを用いた物体の音響イメージの推定	単著	2006 年 12 月	東北学院大学教養学部論集第 145 号		17~28 頁		
G エコー定位に基づいた物体の音響イメージの復元	共著	2005 年 3 月	日本音響学会春季研究発表会講演論文集	松尾行雄 矢野雅文	359~360 頁		
エコー定位に基づいた物体の音響イメージ復元の計算論	共著	2005 年 5 月	日本音響学会聴覚研究会	松尾行雄 矢野雅文	305~310 頁		
A computational model of echolocation: Restoration of an acoustic image from a single-emission echo.	共著	2005 年 5 月	The 149th Meeting of the Acoustical Society of America	I. Matsuo M. Yano	2553 頁		
Representation of the surface in echolocation.	単著	2006 年 4 月	The 2nd Animal Bioacoustics Symposium				
エコー定位に基づいた物体の音響イメージ復元の計算論	共著	2006 年 5 月	日本音響学会聴覚研究会	松尾行雄 麻柄 隆 矢野雅文	275~279 頁		
Evaluation of performance of the echolocation model for the restoration of an acoutsic image from a single-emission echo.	共著	2006 年 6 月	The 151th Meeting of the Acoustical Society of America	I. Matsuo T. Magara M. Yano	3317 頁		
模擬外耳を用いたエコー定位による複数物体の位置定位	共著	2006 年 9 月	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集	松尾行雄 麻柄 隆 矢野雅文	305~306 頁		

Analysis of the echo for identifying the temporal structure of the fish by using the broadband sonar signal of dolphin	共著	2007年4月	Underwater Technology 2007	I. Matsuo 他5名	28頁
A computational model for discrimination of multiple objects by using the linear period modulation signal	単著	2007年	The 12thth Auditory Research Forum		142頁
The temporal structure of the echo for the fish identification by using the broadband sonar signal	共著	2007年	International Congress on Acoustics	I. Matsuo 他5名	275~279頁
コウモリ型模擬外耳の伝達関数の測定	共著	2007年	日本音響学会聴覚研究会資料 Vol.37 No.4	松尾行雄 他3名	15~18頁
イルカのソナー音を用いた魚からのエコーの時間的構造の変化	共著	2008年5月	海洋音響学会2008年度	松尾行雄 他5名	335~340頁
エコーを用いた平面定位モデル	共著	2008年	日本音響学会聴覚研究会資料 Vol.38	松尾行雄 麻柄隆 矢野雅文	3206頁
A model of range discrimination of multiple objects by using the linear Period modulation signal	単著	2008年	The 155th Meeting of Acoustical Society of America		2506頁
Estimation of the temporal structure of the echo from the fish by using the broad band sonar signal of the dolphin	共著	2008年	The 156th Meeting of Acoustical society of America	I. Matsuo 他5名	9頁
Range discrimination of multiple closely spaced objects from the measured echo spectrogram	単著	2008年	The 13th Auditory Research Forum		
Range discrimination of multiple objects from a bat-like echolocation signals	単著	2009年	The 5th Animal Sonar symposium		25頁
Relationship between X-ray image of fish and the temporal structure of echoes using dolphin	共著	2009年	The 5th Animal Sonar symposium	I. Matsuo 他6名	89頁
Range discrimination of multiple objects from the echo spectrogram measured by using the frequency modulation sound	単著	2009年	The 157th Meeting of Acoustical society of America		2678頁
Tracking fish in a school using a broadband split-beam system	共著	2009年	The 157th Meeting of Acoustical society of America	I. Matsuo 他4名	2550頁
Echolocation of objects by using the frequency modulated sound	単著	2009年	The 158th Meeting of Acoustical society of America		2240~2241頁
Classification of fish species using the temporal structures with the dolphin mimetic sonar	共著	2009年	アジア水産会議	I. Matsuo 他6名	14頁

Features extraction for discrimination of fish species by tracking with the broadband split-beam system	共著	2009 年	アジア水産会議	I. Matsuo 他 6 名	15 頁
エコー定位に基づく複数物体の奥行き定位	単著	2009 年	日本音響学会聴覚研究会資料		187～191 頁
広帯域スプリットビームシステムを用いた魚の追跡	共著	2009 年	海洋音響学会 2009 年度	松尾行雄 他 4 名	101～102 頁
I 水中探知装置		2007 年	特許出願番号 2007-107560		
水中探知装置及び水中探知画像表示方法		2009 年	特許出願番号 2009-114284		
水中探知装置及び魚種判別方法		2009 年	特許出願番号 2009-199680		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
トヨタ先端技術共同研究	2004～2005 年度	共同・研究分担者	広指向性 FM 超音波ワンショットエコーによる 3 次元空間の画像化の研究
科研費若手研究 B	2006～2007 年度	個別	エコーロケーションに基づいた運動物体の形状知覚の研究
生物系産業創出のための異分野融合研究事業	2007～2011 年度	共同, 分担者	エコーから魚種判別そして魚種ごとの資源量を把握するためのソフトウェアとハードウェアの開発

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	石川 勲	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 授業理解への促進		2009年4月～12月		授業に際し、教員の顔が見えるように、学生を教壇近くに着席させる。 高校の教科課程をふまえて授業を始める。 最近、見聞きし発生した事柄から話を始めて講義に興味を持たせ、授業に参加させる。 一こま毎に講義内容がまとまるように、授業項目を考慮する。 頻繁に、新しい資料を表・グラフ化して印刷配布し、理解を助ける。 視聴覚教材使用は必要なものに絞り、多様はしない。 適切な参考文献を紹介し、より深い学びに導入する。			
4 第5回FD研修会参加		2009年7月2日					
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
E 百周年の避暑地「高山」		単著	2008年10月	季刊教養学部 08' . 8		26～27頁	
G 盆地斜面に沿う気温分布特性－高ツムジ山と川樋盆地斜面－		単著	2006年4月	季刊地理学 58巻1号		56～57頁	
宮城県大崎市におけるヒートアイランド		単著	2007年4月	季刊地理学 59巻1号		39頁	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担		概 要	
IV 学会等及び社会における主な活動							
1968年4月～		東北地理学会会員・評議員 (2007.4～2011.3)					
1968年4月～		日本地理学会会員					
1968年4月～		日本気象学会会員					

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	岩動志乃夫	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	実習系科目でのフィールドワークの実施	2005年4月～	地域構想学基礎実習，地域構想学発展実習においてキャンパス外での調査・実習を可能な限り実施してきた。				
	授業評価の実施とそれにもとづく改善	2006年4月～	学部で実施する「学生による授業評価」アンケートを分析し，評価されている箇所のさらなる促進と課題とされる箇所の改善策を立てて実施している。				
	学習した事項の記憶への定着と授業理解の促進	2007年4月～2008年12月	毎回の授業のはじめに前回の復習と今回の内容の概略を関連づけて説明し，授業終了時にはまとめの説明を行っている。				
	演習での学習効果を深め，地域から直接学ぶことを目的とした野外実習を行った	2007年7月26～28日	演習を履修する3年生を対象にして花巻市の商業と観光に関する調査を実施した。				
	アメリカ合衆国の地理的景観を地理教育に活かすための調査	2007年8月22～30日	アメリカ合衆国のイリノイ州，ミシガン州，インディアナ州，ウィスコンシン州を訪れて，地理的景観に関する調査を行った。				
	演習の成果を報告書として刊行した	2008年3月	『花巻市における観光の特性と商店街の景観および機能変化』と題した報告書を刊行し，外部機関にも配布した。				
	演習での学習効果を深め，地域から直接学ぶことを目的とした野外実習を行った	2008年8月27～29日	演習を履修する3年生を対象にして奥州市の商業と観光に関する調査を実施した。				
	演習での学習効果を深め，地域から直接学ぶこと目的とした野外実習を行った	2008年8月28～30日	演習を履修する3年生を対象にして遠野市の商業と観光に関する調査を実施した。				
	授業以外での自発的な学習を促すために大学院生を対象に野外実習を実施した	2008年9月5日	大学院での授業の復習と知見をさらに深めるために，歴史的基盤に基づく仙台の都市構造を学習するための巡検を実施した。				
	演習の成果を報告書として刊行した	2009年3月	『遠野市における地元資源を活かした観光地づくりと商業地の景観変容』と題した報告書を刊行し，外部機関にも配布した。				
	基礎実習にてフィールド調査を実施	2009年10月～11月	基礎実習を受講する1年生を対象に仙台市中心部にて都市構造を調査するフィールド調査を実施した。				
	演習の3年次学生とフィールド調査の報告をした	2009年11月7日	岩手県奥州市で開催された中心市街地活性化シンポジウムで，学生によるフィールド調査の成果発表，およびその指導をした。また学生がシンポジウムのパネリストで報告した際の指導をした。				
	基礎実習キャンパス外実習にてフィールド調査を実施	2009年11月11日	地域構想学科1年生を対象にして宮城県鹿島台町の互市でフィールド調査を実施した。				

3	ミシガン湖周辺における諸都市の景観—地理教材への利用も含めて—	2008年6月	立正地理学会でアメリカの都市景観を地理教育の教材に利用する際の要点を現地での調査にもとづきながら解説した。
4	宮城県富谷高校生への模擬講義	2005年6月	東北学院大学キャンパス見学時に講演を担当した。
	地域構想学科発展実習の秋田合宿での指導	2006年7月	東北学院大学地域構想学科発展実習Cコースの巡検合宿を秋田県で実施した。
	第53回日本学生経済ゼミナール大会助言講師	2006年12月	東北学院大学にて学生の討論会での助言講師を担当した。
	ブリッジ教育のスクーリングの開催	2008年2月22日	本学地域構想学科の入学予定者へのブリッジ教育のスクーリングを担当した。
	授業評価委員会広報部会による大学教育に関する対談を開催した	2008年8月1日	本学教員3名と広報部会委員3名による対談の企画・運営に携わった。
	東北学院大学のオープンキャンパスで模擬授業を担当した	2008年8月2日	地域構想学科の模擬授業で「街探検あれこれ」と題する授業を行った。
	仙台市社会教育委員による社会教育施設の調査を行った	2008年8月8日	仙台市文学館, 仙台市科学館を訪れ, 責任者から博物館の運営方法, 内容, 小中学生, 高校生, 大学生との教育的な関わりについての調査を実施した。
	高校への出前授業の講師を務めた	2008年10月9日	宮城県角田高等学校の1, 2年生に対して「都市階層の形成とまちの魅力の創出」と題する授業を行った。
	高等学校の地歴科教諭を対象とした教員免許状更新講習の講師	2009年8月21日	地理学講座IIの人文地理学の講義を実施した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A					
日本の地誌	共著	2007年4月	古今書院	岩動志乃夫 立正大学地理学教室編	225～231頁
日本の地誌4 東北	共著	2008年4月	朝倉書店	岩動志乃夫 田村俊和 石井英也 日野正輝 編	280～281頁, 283～285頁
地図で読み解く日本の地域変貌	共著	2008年11月	海青社	岩動志乃夫 平岡昭利 編	54～55頁, 58～59頁
Ba					
秋田市における手形山団地と御野場団地の居住者にみる消費者購買行動	単著	2005年3月	秋田地理25号		21～32頁
都市景観を地理教材として活かすための一考察 —シカゴ市などを事例として—	単著	2009年3月	地域研究49巻2号		28～33頁

D	豊かな人生観を養うために	単著	2007年10月	季刊教養学部 No. 6		4~6頁
E	岩手と宮古高校から授かったもの	単著	2007年7月	宮古高校同窓会報 54号		9頁
F	地域コミュニティの再構築に果たす社会教育の役割	共著	2007年10月	仙台市社会教育委員会生涯学習課	西野美佐子 梨本雄太郎 岩動志乃夫 他14名	62頁
	社会教育施設における学習支援のあり方	共著	2009年10月	仙台市社会教育委員会生涯学習課	星山幸男 関本英太郎 岩動志乃夫 他12名	62頁
G	秋田市の団地住民にみる消費者購買行動と商業地の特性	単独	2005年6月	立正地理学会第60回学術大会		
	大学生による仙台市都心商業地の活性化への取り組み	単独	2006年6月	立正地理学会第61回学術大会		
	シンポジウム「地域再生と魅力の創出」のパネリスト	共同	2006年11月	2006年度東北都市学会学術大会	岩動志乃夫 結城登美雄 他4名	
	秋田市郊外における幹線道路の都市機能変化 —秋田・昭和線を事例として—	単独	2007年5月	東北地理学会		
	ミシガン湖周辺における諸都市の景観—地理教材への利用も含めて—	単独	2008年6月	立正地理学会第63回学術大会		
	アメリカ合衆国と韓国の都市景観	単独	2008年7月	日本地理教育学会・立正地理学会・お茶の水地理学会共催		
	仙台市長町商店街の景観変容と活性化への取り組み	共同	2009年5月	東北地理学会	岩動志乃夫 安齋恵美子	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1982年10月～	東北地理学会会員（2005～2007年 幹事，2007～2009年 評議員・編集委員，2009年より幹事）
1984年4月～	日本地理学会会員
1984年4月～	立正地理学会会員（1998年より評議員）
1988年4月～	人文地理学会会員
1990年4月～	日本都市学会会員
1994年4月～	経済地理学会会員

1996年10月～	日本観光学会会員
1999年4月～	東北都市学会会員（2006年より理事）
2003年1月～	NPO 法人秋田岩手横軸連携交流会会員
2003年6月～2005年3月	秋田岩手広域地域連携観光交流推進協議会委員（国土交通省・観光交流空間づくりモデル事業採択）
2005年10月	岩手県紫波町にて講演「産業振興とまちづくりへの提言」
2005年11月	仙台市泉区市民センター企画の勉強会講師を担当
2005年11月～	仙台市社会教育委員
2006年1月～3月	東北地理学会選挙管理委員
2006年6月～7月	仙台市泉区市民センター企画の勉強会講師を2回担当
2006年11月	多賀城・七ヶ浜まちづくり塾にて講演「魅力あるまちづくりに向けて ―まちのシンボルと景観―」
2007年3月17日	塩竈市教育委員会生涯学習センターが主催する第9回エスプレッジの講師を担当し、「都市の魅力、まちづくり ～都市とシンボル～」と題する講演を行った。
2007年6月～	東北都市学会理事，専門委員委員長
2007年9月29日	東北都市学会の学術大会を本学で開催し，公開シンポジウムの司会を担当した。
2007年11月27日	秋田・岩手地域連携軸推進協議会主催のシンポジウムで「北東北における東西主要街道の形成と魅力」と題する基調講演を行った。
2008年7月1日	仙台市社会教育委員として仙台市天文台のオープン記念式に出席した。
2008年8月21日	仙台駅前に開店したパルコ進出による商業地への影響についてミヤギテレビの取材を受ける。同日夕方のニュース番組で放映された。
2008年9月27日	いわき市で開催された東北都市学会学術大会の公開シンポジウムの司会を担当した。
2008年12月6日	岩手県紫波町の日詰駅前土地区画整理事業組合の主催する講演会で「都市構造とまちづくり」と題した講演を行った。
2008年12月20日	新潟地理談話会が主催する講演会で「都市の魅力と都市構造」と題した講演を行った。
2009年3月～	多賀城市まちづくり懇談会委員
2009年3月21日	岩手県一関市にて東北学院大学地域プロジェクト講座・第1回「一関の地域課題と可能性」をテーマとするシンポジウムのパネリストを担当した。
2009年3月28日	日本地理学会春期学術大会にて研究発表座長を担当した。
2009年5月～	東北地理学会幹事
2009年5月～	NPO 法人秋田岩手横軸連携交流会理事

2009年5月27日	NPO 法人秋田岩手横軸連携交流会平成 21 年度総会の基調講演で「街は素敵なファッションの舞台」をテーマに講演した。
2009年7月12日	多賀城市まちづくり懇談会シンポジウムで講師を担当
2009年9月5日	石川県中能登町で開催された「石動さん交流会」のシンポジウムで講師を担当した。
2009年9月26日	東北都市学会本年度大会でシンポジウムの趣旨説明と司会を担当した。
2009年9月26日	多賀城市民フォーラムにてパネリストを担当した。
2009年10月3日	東北地理学会秋季学術大会にて研究発表会場責任者と研究発表座長を担当した。
2009年11月11日	奥州市中心市街地活性化シンポジウムでコーディネーターを担当した。

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	菊地 立	大学院の授業担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要			
1	環境科学教育におけるフィールドワーク			2002年4月～2009年12月	3年次演習において、テキストの輪読をふまえて各自がテーマを選んでフィールドワークを行い、調査・分析・報告をしている。これらの研究テーマの多くは4年次の卒業研究に結びついている。			
	自然科学の授業における双方向性導入			2005年4月～2006年7月	授業教材をPC上でファイルとして学生に提供し、学生はその中に自分のノートや意見を書き込み自分独自のテキストを作り上げていく形式を導入した。教員からの問いかけと解答、学生からの質問と討論など双方向の授業進行を試みた。			
	コンピュータ教室を利用した双方向性授業の実践			2005年～	基礎気象学の授業で、教材(パワーポイントファイル)を学生にダウンロードさせることによってカラー教科書が提供できる。その教材を学生自身が修正や加筆して完成度を高める。また、小テストにも写真やカラーの図が使える、その回答やレポートをサーバーにアップロードする形で回収して採点するので、ペーパーレスの授業ができる。			
2	環境の科学 第三版(共著)(株)培風館			2008年4月	教科書(授業名:環境の科学,資源とエネルギー,環境政策論等で使用)			
4	高校への出前授業			2005年7月4日	「エネルギーと環境」についての話という高校側の要望に添って、化石燃料の現状と自動車社会における環境問題を紹介した。			
	高校への出前授業			2006年6月23日	地域構想学科で学ぶ身近な環境問題として杜の都仙台のシンボルであるケヤキ並木の環境調査を紹介した。			
	他大学学生の受け入れ(指導)			2008年4月～12月	東北大学理学部学生の卒業研究			
	他大学学生の受け入れ(指導)			2009年9月～12月	東北大学大学院環境科学研究科学生の調査研究			
II 研究活動								
著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A	気候のフィールド調査法			共著	2005年1月	(株)古今書院	西澤利栄 ほか16名	4頁
	環境の科学 第三版			共著	2008年4月	(株)培風館	山口勝三 菊地 立 斎藤紘一	72頁
Bb	大学キャンパス内コナラ林における地温日変化(講演要旨)			共著	2006年	季刊地理学 58巻3号	菊地 立 吉田勇太	176～177頁

山形盆地および尾花沢盆地における夏の気温特性について (講演要旨)	単著	2007年10月	季刊地理学 59 巻 3 号		184~185 頁
仙台市定禅寺通りの大気環境に及ぼすケヤキ並木の影響	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部論集 150 号		29~48 頁
山形県における盆地間の畑作物の違いとその気候学的バックグラウンド (講演要旨)	共著	2008年11月	季刊地理学 60 巻 3 号		176 頁
小集落におけるヒートアイランド評価の一試案 (講演要旨)	共著	2008年11月	第 15 回 大気環境学会北海道・東北支部大会要旨集	菊地 立 鈴木貴之	34~35 頁
山形県尾花沢盆地におけるスイカ生産に関する気候学的バックグラウンド	単著	2009年11月	東北学院大学教養学部論集 154 号		29~50 頁
山形盆地と尾花沢盆地の栽培作物の違いに関する大気環境論的考察 (講演要旨)	単著	2009年11月	第 16 回 大気環境学会北海道・東北支部大会要旨集		10~11 頁
D					
屋敷林植生による環境改善機能の量的・空間的評価と屋敷林保全・育成に関する研究	共著	2005年6月	科学研究費助成金基盤研究(C)報告書	佐久間政広 元木 靖 佐藤信俊 菊地 立	145 頁
E					
千葉県地学写真集	共著	2005年3月	千葉県・千葉県の自然誌, 別編 1	全 50 名	345~376 頁
定禅寺通りのケヤキを見たことはありませんか	単著	2008年7月	東北学院大学教養学部ガイド「季刊教養学部」		13~15 頁
わたりの自然・気象観測点が移転しました	単著	2009年11月	亶理町:「広報わたり」第 518 号		14 頁
G					
市街地の大気汚染を把握するーストリートキャニオンにおける詳細調査の試みー	単独	2005年3月	2005年度日本地理学会春季大会シンポジウム (コメンテーター)		
大学キャンパス内コナラ林における地温日変化	共同発表	2006年5月	2006年度東北地理学会春季大会	菊地 立 吉田勇太	
山形盆地および尾花沢盆地における夏の気温特性について	単独	2007年5月	2007年度東北地理学会春季大会		
山形県盆地間の畑作物の違いと気候学的バックグラウンド	共同発表	2008年5月	2008年度東北地理学会春季大会	菊地 立 役野麻衣 篠原美和	
小集落におけるヒートアイランド評価の一試案	共同発表	2008年11月	第 15 回 大気環境学会北海道・東北支部大会	菊地 立 鈴木貴之	
山形盆地と尾花沢盆地の栽培作物の違いに関する大気環境論的考察	単独	2009年11月	第 16 回 大気環境学会北海道・東北支部大会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2007～2008 年度		東北地理学会 編集委員	
2008 年 11 月		大気環境学会北海道・東北支部 本学を会場とする第 15 回総会および研究集会の年次総会会長	
2009 年 9 月		(社) 大気環境学会 地域功労賞	
2009～2010 年度		東北地理学会 監事 宮城県環境影響評価技術審査会 委員（継続中）および会長（2008 年～継続中） 宮城県産業廃棄物処理専門委員会 委員（継続中） 塩竈市環境審議会 副会長（継続中） 宮城県保健環境センター外部評価委員会 委員（継続中） 山形県村山市社会教育委員会 委員（継続中）	

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	佐久間政広	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	受講学生の自主的活動を中軸とした調査実習の実施	2007年4月～2008年3月		学科専門科目「地域構想学発展実習」において、研究テーマ設定、フィールドワーク実施、データ整理と分析、報告書作成のそれぞれにおいて受講学生が主体的に実施する授業運営をおこなった。研究成果は、『2007年度地域構想学発展実習報告書 唐桑に学ぶ』『2008年度地域構想学発展実習報告書 気仙沼に学ぶ』と題する2冊の報告書にまとめ、調査協力者と関係諸機関に配布した。あわせて、2007年8月と12月には研究成果の現地発表会を開催した。			
	受講学生の討論を中心とした授業の実施	2008年4月～2009年12月		少人数の演習科目において、事前に課題文章を提示し、受講学生はそれに関して1,000字程度の文章を作成し、教員に提出する。授業時において、全員分の文章をプリントした文書を配布し、それに基づいて受講生が4,5人の小グループで討論をおこない、グループのごとに結論を出す。その全体討論をおこなう。以上の工夫により、学生たちの積極的な授業参加が可能となった。			
4	高校への出前授業の講師を務めた	2008年10月24日		岩手県大船渡高校において「挨拶から地域社会を考える」と題する授業をおこなった。			
		2009年6月10日		宮城県岩ヶ崎高校において「挨拶から地域社会を考える」と題する授業をおこなった。			
		2009年11月13日		宮城県塩釜高校において「挨拶から地域社会論を考える」と題する授業をおこなった。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著・者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『むらの社会を研究する』		共著	2007年3月	農文協	鳥越浩之	47～54頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金基盤研究(B)		2006～2009年度		研究分担者	現代農村の生活維持における村落再編の実証的研究		
教育学習方法等改善支援経費		2007～2008年度		個別	海・里・山のむすびつきをめぐる総合的野外調査実習		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2005年7月～2009年7月		東北社会学会理事					
2005年12月～2006年10月		日本村落研究学会発行『村落社会研究』編集委員					
2008年11月～		公益信託仙台銀行まちづくり基金運営委員					

2009年11月～

日本村落研究学会理事

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	佐々木俊三	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	「総合研究」の論文集を製本	1993年～2006年		4年生の演習の成果として、卒論を論文集として製本し配布。			
	「総合研究」における学生の研究発表	1993年～2009年12月		各自の研究課題に沿った研究発表を行う。			
	講義の資料としてプリントを配布し、これに沿って講義を行う。	1995年4月～2006年1月 2008年4月～2009年12月		「哲学」・「思想の歴史」・「共同体と市民社会」すべてこの方式で講義			
	「総合研究」の成果の製本化	2007年3月		2007年度総合研究の成果を製本とした。			
	「総合研究」の成果の製本化	2008年2月		2008年度総合研究の成果を製本とした。			
	演習における学生の研究発表	2008年4月～2009年12月		演習ではテキストの読解力をつけさせるが、それ以外に別時間で学生の自主的研究発表を行い、問題関心を深めている。			
2	講義資料	2008年4月～2009年12月		「哲学」「思想の歴史」「共同体と市民社会」			
3	『季刊 教養学部』に「経験の始源的意味について」を発表	2007年7月		『季刊 教養学部』			
	『大学時報』の「リベラルアーツ教育のこれから」特集に「社会変容とこれからの教養教育」を発表	2007年9月		『大学時報』no. 316 Sep. 2007			
	『季刊 教養学部』に「生活する技術とその変容」を発表	2009年10月		『季刊 教養学部』			
4	高大連携授業	2006年		前期7回、後期6回、「考える力の養成」を主眼として実施。			
	進路希望者への大学入門講義	2006年2月		県立大船渡高校で、進路の決まった大学進学希望者を対象に、学問とは何かを講義。			
	大船渡高校での講演	2007年2月 2008年2月 2009年2月		大学入学を前にした高校生に「学ぶ意味」と題して講演。			
	「気仙開放講座」での講演	2007年10月		講演内容は「地域を涵養する力」「現代社会におけるコミュニケーションの変容」「フォーラムにみるコミュニケーション観」と題して『東海新報』2007年12月から1月に掲載。			
	「教養学部20周年記念行事」での講演	2008年10月		「生活する技術とその変容」と題して講演。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	社会変容とこれからの教養教育	単著	2007年9月	『大学時報』no. 316		49～53頁	

Bb 「室根」という地名について	単著	2006年2月	『東北学院大学教養学部論集』第143号	
E 意志を育てる	単著	2005年7月	『南六会』第26号	
「経験」の始源的意味について	単著	2007年7月	『季刊 教養学部』 2007年春夏号	23～29頁
「隅田川の雨」	単著	2008年6月	『南六会』第29号	
F 社会変容とこれからの教養教育	単著	2008年3月	『教育研究所報告集』 第8集	
H マーク・シェル『貨幣・言語・思想 — 中世から現代までの文学の経済と 哲学の経済』序および第五章	共訳	2009年3月	『東北学院大学教養学部論集』第152号	1～33頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

--

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	高野 岳彦	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 フィールドワーク授業「地域構想学発展実習」での地域調査プログラムの開発と実践。				2009年1月～2009年12月			
2 「東北地域論」のための視覚教材の作成				2008年4月～7月			
GIS実習授業のための教材の開発				2009年4月～12月			
4 キャンパス放送に出演・解説：食品安全問題について				2009年1月			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 阿武隈中山間地域における農業の地域 性変容		単著	2008年2月	『長谷川典夫先生喜寿 記念論文集』, 古今書 院	長谷川典夫 先生喜寿記 念実行委員 会	155～163頁	
人口の特色		単著	2008年4月	『日本の地誌4 東北』 朝倉書店	田村俊和 石井英也 日野正輝編	46～55頁	
南三陸地域		単著	2008年4月	同上	同上	364～370頁	
県の性格		単著	2008年4月	同上	同上	422～434頁	
野菜産地が集まる中通り南部		単著	2008年4月	同上	同上	449～452頁	
中山間地域農業の変貌		単著	2008年4月	同上	同上	455～457頁	
漁船漁業の盛衰と水産資源開発		単著	2008年4月	同上	同上	466～469頁	
磐梯高原		単著	2008年4月	同上	同上	469～470頁	
会津若松		単著	2008年4月	同上	同上	470～477頁	
会津南部		単著	2008年4月	同上	同上	485～488頁	
Ba 養蚕・工芸作物の衰退と阿武隈中山間 農業の地域性変容		単著	2006年7月	季刊地理学, 58-3		140～145頁	
Bb 水揚げ低迷下における八戸産地水産加 工業の動向		共著	2006年11月	東北文化研究所紀 要, 41		126～144頁	
磐城地方の漁業の構造変化		単著	2007年9月	福島地理論集, 50		70～71頁	
松川浦ノリ養殖業の変容		単著	2007年9月	福島地理論集, 50		72～73頁	

仙台市における切り花消費の背景を探る	単著	2009年12月	東北文化研究所紀要, 41		1~18頁
D 自地域学ムーヴメントと「地域学」分類試論	単著	2008年6月	地理, 53-6, 古今書院		102~111頁
E シンポジウム「地元学→〇〇行き」基調講演	単著	2008年3月	『続・地元学』宮城野区役所		227~240頁
F Discovering Japan	単著	2009年12月	季刊地理学		
G 人口減少時代を迎えた東北地方の都市システムの構造変化	共著	2008年10月	日本地理学会秋季大会	高野岳彦 日野正輝	
国際結婚移住女性に対する自治体支援施策の展開	共著	2008年10月	日本地理学会秋季大会	神谷浩夫 寄藤晶子 高野岳彦	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2007年3月	宮城野区の地元学シンポジウム基調講演
2007年6月~2009年5月	東北地理学会幹事長
2009年6月~	東北地理学会幹事

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	平吹 喜彦	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1							
「ヒトと自然のかかわり」に対する知的理解とともに、学習者の自己形成が育まれるような教育の創出				1991年～	植物生態学・植生動態学・環境教育を専門とする立場から、野生生物の生活史、およびヒトー野生生物ー環境間のつながりについて、(1)その多様性や形成史、保全・保護に触れながら学習が深化し、(2)あわせて学習者自身の自然観や人生観、世界観が醸成され得るような教育を心がけてきた。そのための一助として、身近にある自然や暮らしを見つめ直す学習、あるいは地域の児童・生徒、住民と関わるフィールドワークの開発を積極的に行いながら、実体験と学習者自身による課題解決を重視した取り組みを続けている。		
導入教育として、「自然に浸る」体験を準備				1991年～	たとえ自然科学を志向する学生であったとしても、入学当初、豊かな自然体験を有する者は極めて少ない。「ヒトと自然のかかわり」を学ぶための導入段階として、学内や近郊の二次的自然を活用した体験学習プログラムを開発してきた。この活動では、五感を働かせて自然を認知することの楽しさを味わうとともに、自然界（生態系）の営みが非日常的なスケールで複雑に展開していることに目を向けることをめざしている。		
「ローカル（地域）」と「グローバル（地球、世界）」な視点の獲得をめざした学習の構築				1991年～	さまざまな学習の内容・形態の中に、「地域と地球・世界」、「多様性の意義」といったテーマや視点を挿入し、持続可能な社会の構築、あるいは地球市民の育成に貢献しうる教育を心がけてきた。海外学術調査に赴く際には、国内でフィールド調査を積んだ大学院生や学部学生を同行し、異なる自然や風土、文化を体験し得る機会を提供している。		
「企画する、段取る、遂行する、分析する、まとめる、表現する、伝える」ことのスキルアップ				1991年～	さまざまな学習の内容・形態の中に、「学び」の基本として、このスキルを挿入している。この学習成果の一端として、平成21年度泉キャンパス大学祭（2009年10月11・12日）にゼミ学生が自主的に参加し、学習成果をポスター等で発表した事例をあげることができる。		
2							
講義・実験・実習で用いる説明文・図解資料（印刷物、OHPシート、パワーポイント映像）、および標本類				1991年～	学習者の理解を助け、しかも作業を伴うようなビジュアル教材の作成に努めている。		
自然教育・環境教育・ESD（持続可能な未来を創出するための教育）にかかわる学習素材・教材アーカイブ				1993年～	自然教育・環境教育・ESDを推進するための任意団体「ネイチャー ヴォイス」を組織し、2004年以降、インターネット上のホームページ（ http://www.nature-voice.net/ ）で、収集・作成した学習素材・教材を公開している。		
「サステナビリティ（地域持続性）」電子アーカイブ				2006年～	地域構想学科の教職員・学生有志とともに、「地域の自然・社会・文化特性とエコマネジメント」にかかわる調査・研究事例を発信する電子博物館の構築に取り組んでいる。		

<p>3 高橋久美子・佐藤麻衣子・平吹喜彦. 2005. 宮城教育大学附属幼稚園内の樹木を用いた身近な自然認知活動:名札が育み始めた樹木との交流. 宮城教育大学環境教育研究紀要, 7:67-73</p> <p>川村寿郎・中條裕・千葉文彦・平吹喜彦・西城潔・見上一幸・目々澤紀子. 2005. 宮城県内の少年自然の家における環境学習活動ー学校授業との関連についてのアンケート調査結果の概要ー. 宮城教育大学環境教育研究紀要, 7:111-118</p> <p>遠藤陽子・平吹喜彦・最知智美. 2005. みのり空間, 里山で初秋の自然と暮らしを体験! 「平成 16 年度杜々かんきょうレスキュー隊事業 環境学習のためのマニュアル集〜杜の都のぬくもり体験〜」(仙台市環境局環境部環境都市推進課・特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター編), 22-30. 仙台市環境局環境部環境都市推進課</p> <p>平吹喜彦. 2005. 附属中学校の教育実習生(生物学分野)に対する支援活動とその評価. 「理科が得意な教員を育てるー教育実習を基軸とした教員養成の実践的研究ー (平成 15~16 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)」(田幡憲一編). 57-60. 宮城教育大学教育学部</p> <p>平吹喜彦. 2005. 附属小学校の教育実習生(生物学分野)に対する支援活動とその評価. 「理科が得意な教員を育てるー教育実習を基軸とした教員養成の実践的研究ー (平成 15~16 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)」(田幡憲一編). 69-73. 宮城教育大学教育学部</p> <p>平吹喜彦・中條裕・林出美菜. 2006. 国立花山少年自然の家で‘里山の森と人の暮らしのむすびつき’を学ぶ: 景観生態学の視点を導入した体験型環境学習プログラムの開発. 宮城教育大学環境教育研究紀要, 8:51-60</p> <p>林出美菜・最知智美・平吹喜彦. 2006. 出勤, 里山たんてい団! : キーワードは「生きものつながり」. 「杜々かんきょうレスキュー隊事業 環境学習のためのマニュアル集 2005 テーマは「食」いただきます!!」(杜の都の市民環境教育・学習推進会議編), 55-63. 仙台市環境局環境部環境都市推進課</p> <p>福田明子・平吹喜彦. 2006. ‘エグネのある暮らし’をみつめる環境学習の創出. 「散居村における環境資源としての屋敷林の保存と利用に関する研究(平成 15~16 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)」(竹原明秀編), 35-60. 岩手大学人文社会科学部</p>	<p>2005 年</p> <p>2005 年</p> <p>2005 年</p> <p>2005 年</p> <p>2005 年</p> <p>2006 年</p> <p>2006 年</p> <p>2006 年</p>	
--	---	--

<p>平吹喜彦・中條裕・林出美菜・川村寿郎・西城潔・千葉文彦・中村織江. 2006. 野外集団活動に、景観生態学的な学びを！:国立花山少年自然の家を事例とした自然体験学習支援プログラムの開発. 第53回日本生態学会大会, JP1-104</p>	2006年	
<p>渡辺孝男・村松隆・見上一幸・小金澤孝昭・安江正治・島野智之・佐藤真久・平吹喜彦・市川智史. 2006. 環境教育実践事例データベースを活用した事例形成と海外教育協力支援. 日本環境教育学会第17回大会, 1D7</p>	2006年	
<p>林出美菜・最知智美・平吹喜彦. ケヤキだいすき!探けん隊~ケヤキのこと,「緑」のこと,もっと知りたい!~.「杜々かんきょうレスキュー隊 プログラム集」(杜の都の市民環境教育・学習推進会議編), http://www.feel-sendai.jp/program/keyaki.html/, 仙台市環境局環境部環境都市推進課</p>	2008年	仙台の地域特性を抽出しながら開発したESDプログラム(詳細版)。
<p>平吹喜彦・林出美菜・最知智美.「雨水がはぐくむ里山の生き物・人のくらし」,「出勤,里山たんてい団!キーワードは‘生きものつながり’」,「ケヤキだいすき!探けん隊~ケヤキのこと,「緑」のこと,もっと知りたい!~」,「みのり空間,里山で初秋の自然と暮らしを体験!」.「杜々かんきょうレスキュー隊 環境学習プログラム集」(杜の都の市民環境教育・学習推進会議編),9~10/11~12/31~32/33~34. 仙台市環境局環境部環境都市推進課</p>	2008年	仙台の地域特性を抽出しながら開発した4編のESDプログラム(概要版)。
<p>平吹喜彦(編). 森と暮らしに学ぶ. 42頁. 東北学院大学地域構想学科</p>	2009年	総合演習・総合研究で指導している3・4年生の,平成20年度の学習成果報告書.活動の一部は,平成20年度教育・学習方法等改善支援経費(大学教育高度化推進特別経費)の助成を受けた「海・里・山のむすびつきをめぐる総合的野外調査実習」(代表者:佐久間政広・東北学院大学教養学部教授)の一環として行われた。
<p>平吹喜彦. ブナ原生林と水源に出会う宿泊学習.『メビウス ~持続可能な循環~』(及川幸彦編),16~16. 気仙沼市教育委員会・宮城教育大学・文部科学省日本ユネスコ国内委員会事務局</p>	2009年	気仙沼市内の小学校を主対象として,長年取り組んできたESDの1プログラムの紹介(日本語版)。
<p>HIRABUKI, Y. An Ecological Exploration of the Primeval Beech Forest and Water Sources in the Outdoor Learning Camp. "Mobius for Sustainability"(ed. Oikawa, Y.), 15-15. Kesenuma City Board of Education/Miyagi University of Education/Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, The Japanese National Commission for UNESCO</p>	2009年	気仙沼市内の小学校を主対象として,長年取り組んできたESDの1プログラムの紹介(英語版)。

4 学校・行政・市民団体等が主催する講座の講師	2003年～2005年	気仙沼市立面瀬小学校 「FMF マスター ティチャー プログラム・宮城県教育委員会学校活性化プロポーザル事業」プロジェクト連携推進委員会委員, および総合的な学習 (5年生) 講師
	2005年8月	国立少年自然の家 「平成17年度教員のための自然体験活動研修会」講師
	2006年3月	宮城県仙台西高等学校 授業「森に学ぶ, 私たちの未来」講師
	2006年4月	仙台市野草園 みどりの日記念講演「再発見 仙台の自然」講師
	2006年5月, 2007年5月, 2008年5月	仙台市科学館 自然観察会講師
	2006年8月	みやぎシニアカレッジ・アカデミー校 講師
	2007年1月	宮城県社会福祉協議会 みやぎシニアカレッジ・アカデミー校講師
	2007年2月	宮城県 セツ森里山たんけん隊 (大崎市立東大崎小学校) 講師
	2007年6月	宮城県 森林インストラクター養成講座講師
	2007年7・10・11月	緑を守り育てる宮城県連絡会議 森の案内人養成講座講師
	2007年9月	東北学院同窓会気仙支部 気仙地区開放講座2007 講師
	2007年9月, 2008年2月	気仙沼市立鹿折小学校5年生 いちのせき健康の森宿泊体験学習・総合的な学習講師
	2007年9・11月, 2008年9月	せんだい市民の森を創る会・泉区中央市民センター 森林塾講師
	2007年11月, 2008年11月 2009年8月	国土交通省東北地方整備局 建設環境研修講師
	2007年11月	国営みちのく杜の湖畔公園自然解説ボランティア会 研修会講師
	2007年12月	東北地域環境計画研究会 第61回研究談話会講師
	2008年3月	仙台市 百年の杜フォーラム基調講演者
	2008年7月	NPO法人フラワーアイランド野々島・東北学院大学宮城研究室 夏休み子供の遊び達人塾講師
	2008年10月	仙台市立折立小学校6年生 自然観察会講師
	2008年10月	仙台市泉区タウンミーティング コーディネーター
	2009年1月	泉ヶ岳利活用推進市民会議 もっと知りたい泉ヶ岳! 講師

<p>宮城教育大学拠点システム事業「発展途上国における環境教育支援のための実践事例データベースの作成」評価助言検討会委員</p> <p>大学の非常勤講師</p> <p>仙台市泉区堂所地区で、児童・市民の参加を募り、里山の自然と暮らしを探究する活動</p> <p>一関市萩荘芦ノ口地区で、地域住民・ゼミ学生とともに、里山の自然と暮らしを探究し、地域を活性化する活動</p>	2009年2月	宮城県 みやぎ森林保全協力員研修会講師
	2005年	
	2007年7月	山形大学理学部・大学院理工学研究科 集中講義
	2008年10月～2009年1月 2009年7月	宮城教育大学教育学部 後期に講義 宮城教育大学教育学部 前期に集中講義
	2007年10・12月	自然教育・環境教育・ESD推進団体「ネイチャーヴォイス」による活動。杜の都の市民環境教育・学習推進会議「杜々かんきょうレスキュー隊事業」の一環として実施。
2009年2月～	一連の活動が注目され、岩手日日新聞に4回にわたって記事が掲載された。 「東北学院大生 萩荘訪れ調査・研究。一関・農村文化テーマに卒論。地域住民と交流も。」2009年7月5日日刊, 15面。 「地域資源アピールへ。東北学院大学生ら自鏡山の自然研究(一関・萩荘)。」2009年9月4日日刊, 15面。 「東北学院大学祭で一関を紹介, 「萩荘」研究の2人, 11日から泉キャンパスで。」2009年10月9日日刊, 10面。 「芦ノ口(一関市萩荘)の自然研究を展示。」2009年10月12日日刊, 10面。	

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	著者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Influence of large seasonal water level fluctuations and human impact on the vegetation of Lake Tonle Sap, Cambodia.	共著	2007年	Forest Environments in the Mekong River Basin (eds. Sawada, H., Araki, M., Chappell, N. A., LaFrankie, J. V. & Shimizu, A.), Springer.	◎Y. Araki Y. Hirabuki D. Powkhy S. Tsukawaki C. Rachna M. Tomita K. Suzuki	281～294頁
Ba Differences in allometric relationships and causes of death among <i>Melaleuca cajuputi</i> populations in three subcoastal habitats.	共著	2005年	Biosphere Conservation, 7(1).	◎M. Tomita Y. Hirabuki K. Suzuki	39～48頁
荒廃泥炭低湿地における野火後の植生再生過程 —タイ・ナラチワで実施した6年間の追跡調査から—	共著	2007年	TROPICS (熱帯研究), 16.	◎富田瑞樹 平吹喜彦 鈴木邦雄 K. Sridith 荒木祐二	171～180頁
Bb 岩手県胆沢町小山エリアにおける屋敷林の歴史的変遷	共著	2005年	宮城教育大学紀要, 39	◎平吹喜彦 千葉聖子 福岡公平 申谷雄太	133～141頁

学校緑化に対する環境教育からのアプローチ：仙台市立岩切小学校における事例を通して	共著	2005年	宮城教育大学環境教育研究紀要, 7	◎長島康雄 山田和徳 平吹喜彦	75～83頁
限界地めぐり 16 太平洋岸北限域のカシ類	単著	2005年	森林科学, 44		32～36頁
国立花山少年自然の家周辺の森林植生とその成立に関わる立地・人為	共著	2006年	宮城教育大学環境教育研究紀要, 8	◎平吹喜彦 中條 裕	41～50頁
北限域におけるカシ類の姿 —地域・林分・マイクロサイトでの分布・生育状況—	単著	2007年	フェノロジー研究, 42. フェノロジー研究会		1～7頁
「エグネのある暮らし」をみつめる体験型環境学習プログラムの開発. 1. 地域特性と試行的な学習活動を重視した開発プロセス	共著	2007年	宮城教育大学環境教育研究紀要, 9	◎平吹喜彦 福田明子	51～58頁
「エグネのある暮らし」をみつめる体験型環境学習プログラムの開発. 2. 持続可能な地域づくりに資する2つのプログラム	共著	2007年	宮城教育大学環境教育研究紀要, 9	◎平吹喜彦 福田明子	59～66頁
学校緑化に対する環境教育からのアプローチ. 2. 仙台市立上野山小学校の学校園づくりを事例とした生物多様性緑化マスタープランの構築	共著	2008年	宮城教育大学環境教育研究紀要, 10	◎長島康雄 川下一明 平吹喜彦	73～82頁
アンコール遺跡に生残する樹木の個体群構造と空間分布の景観生態学的評価	共著	2008年	地理情報システム学会講演論文集, 17	◎富田瑞樹 平吹喜彦 ほか4名	493～496頁
Herbaceous aquatic vegetation in Lake Tonle Sap at peak flooding: a case study at Chong Khnies, southern Siem Reap.	共著	2009年	Faculty of Liberal Arts Review, Tohoku Gakuin University, 152.	◎Y. Hirabuki Y. Araki P. Dourng ほか4名	57～68頁
地域自然と和合した伝統的な‘暮らし空間’の景観生態学的描写. 1. 仙台市堂所の里山農家における屋敷と背戸山	共著	2009年	東北文化研究所紀要, 41 東北学院大学	◎平吹喜彦 伊藤ひかる 最知智美 内山槇子	1～11頁
C 太白山県自然環境保全地域指定変更候補地区(馬越石トンネル付近)の植生	単著	2005年	「太白山県自然環境保全地域指定変更学術調査報告書」(太白山県自然環境保全地域指定変更学術調査委員会編). 宮城県環境生活部自然保全課		1～16頁
内蒙古自治区・武川県五福号集落における土地利用と土壌侵食の現状	共著	2006年	「内蒙古草原地域の草地劣化と退耕還林政策に関する地理学的研究(平成15～17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書)」(小金澤孝昭編). 宮城教育大学	◎平吹喜彦 蘇德斯琴 菊池彰人 関根良平 蘇根成 包玉海 小金澤孝昭	78～86頁

持続可能な社会をめざす環境学習資源としての‘エグネと伝統的な暮らし’	共著	2006年	「散居村における環境資源としての屋敷林の保存と利用に関する研究（平成15～16年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書）」（竹原明秀編）．岩手大学人文社会科学部	◎平吹喜彦 福田明子	19～34頁
三陸海岸中部の十二神山・霞露ヶ岳に残存する自然林の植生構造	共著	2006年	「北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性」（平吹喜彦・原正利・富田瑞樹編）．北上山地森林生態系研究グループ．仙台	◎平吹喜彦 菅野 洋 小水内正明 富田瑞樹 湯浅俊行 大上幹彦 中村致孝	33～45頁
東北地方中部太平洋側地域におけるブナ優占型自然林の種組成と林分構造の植生地理学的比較	共著	2006年	「北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性」（平吹喜彦・原正利・富田瑞樹編）．北上山地森林生態系研究グループ．仙台	◎富田瑞樹 平吹喜彦 原 正利 竹原明秀 菅野 洋 櫻井 悠 ほか6名	61～73頁
カンボジア・トンレサップ湖の氾濫原植生：季節的な水位変動とヒトの利用の狭間で	共著	2007年	「国際湿地再生シンポジウム2006 湿地の保全再生と賢明な利活用」（国際湿地再生シンポジウム2006実行委員会編）．滋賀県	◎荒木祐二 平吹喜彦 ドゥルン ポウキイ 塚脇真二 チャイ ラチャナ ほか3名	222～227頁
愛宕山緑地環境保全地域の植生	共著	2007年	「愛宕山緑地環境保全地域学術調査報告書」（愛宕山緑地環境保全地域指定変更学術調査検討会編）．宮城県環境生活部自然保全課	◎菅野 洋 平吹喜彦 大柳雄彦	35～57頁
北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性	共著	2007年	「プロ・ナトゥーラ・ファンド第16期助成成果報告書」．財団法人自然保護助成基金・財団法人日本自然保護協会	◎平吹喜彦 原 正利 菅野 洋 富田瑞樹 小水内正明 ほか9名	97～106頁
中国内蒙古自治区・武川県五福号集落の植物相	共著	2008年	「中国内陸地域の砂漠化（荒漠化）に関する地理学的研究（平成17～19年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書）」（境田清隆編）．東北大学大学院環境科学研究科	◎菅野 洋 平吹喜彦 蘇德斯琴 郝 潤梅	23～32頁

D 宮城県の自然「森」	単著	2005年	「みやぎ環境学習ナビゲータ・中学校」(財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク編). 宮城県環境生活部環境政策課		8~9頁
多雪な東北の山々を覆う巨木の森	単著	2005年	「植物群落モニタリングのすすめ 自然保護に活かす『植物群落レッドデータ・ブック』」(財団法人 日本自然保護協会編, 大澤雅彦監修). 文一総合出版		211~214頁
資料1 散居村における屋敷林の林分構造と植物相	共著	2006年	「散居村における環境資源としての屋敷林の保存と利用に関する研究(平成15~16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)」(竹原明秀編). 岩手大学人文社会科学部	◎竹原明秀 村田野人 平吹喜彦 福岡公平 福田明子	95~157頁
資料2 散居村における屋敷林に対する住民の意識	共著	2006年	「散居村における環境資源としての屋敷林の保存と利用に関する研究(平成15~16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)」(竹原明秀編). 岩手大学人文社会科学部	◎竹原明秀 平吹喜彦 福岡公平	159~217頁
Preliminary results from the research missions of EMSB and EMSB-u32 Programmes: "Evaluation of mechanisms sustaining the biodiversity of Lake Tonle Sap, Cambodia".	共著	2006年	Proceedings of the International Conference on "Mekong Research for the People of the Mekong." Scientific Committee of the International Conference.	◎S. Tsukawaki & Members of EMSB Team and EMSB-u32 Team	36~43頁
松島・野々島の植生	単著	2007年	「野々島おもしろマップ」(宮城豊彦・鹿野正編). NPO法人フラワーアイランド野々島・東北学院大学地域構想学科宮城研究室		32~34頁
環境教育が育む持続可能な地域	単著	2007年10月	東海新報. とうかいかるちゃあ「東北学院大学気仙地区開放講座'07」, 2		

フォーラムにみる環境教育	単著	2007年12月	東海新報. とうかいかるちゃあ「東北学院大学気仙地区開放講座'07」, 13	
E 森と人から学んだこと	単著	2008年10月	東海新報. リレーエッセイ「五葉山の魅力」, 4	
G 中間温帯北縁域二次林の植生地理学的研究	共同	2005年	第52回日本生態学会大会, P2-028	荒木祐二 平吹喜彦 鈴木邦雄
異なる立地に優占する有用樹種・ <i>Melaleuca cajuputi</i> の個体群構造と死亡様式	共同	2005年	第52回日本生態学会大会, P3-180	富田瑞樹 鈴木邦雄 平吹喜彦
<i>Barringtonia acutangula</i> の生態的特性—水位の季節変動が著しいトンレサップ湖北西岸氾濫原における事例から—	共同	2005年	第11回日本マングローブ学会, 15	荒木祐二 D. Powkhy 平吹喜彦 ほか4名
岩手県胆沢扇状地における屋敷林の分布と植生構造	共同	2005年	日本景観生態学会第15回大会, PB-5	竹原明秀 遠藤教昭 平吹喜彦 三浦 修
仙台青葉山丘陵地域の保全に向けた情報づくり	共同	2005年	第31回日本環境学会研究発表会, B-5	松山正将 花淵健一 菊地清文 佐伯吉勝 平吹喜彦
仙台青葉山丘陵地域の保全について	共同	2005年	東北森林科学会第10回大会, 7	松山正将 花淵健一 菊地清文 佐伯吉勝 中居尚彦 平吹喜彦 阿部和正
Floodplain vegetation under severe human impact: succession pattern and invasion of exotic mimosa in Lake Tonle Sap, Cambodia.	共同	2005年	First International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia, 8	Y. Araki P. Dornig Y. Hirabuki R. Chay S. Tsukawaki M. Tomita K. Suzuki
Herbaceous water-plant vegetation in flooding Lake Tonle Sap, Cambodia: distributional pattern and ecological implications.	共同	2005年	First International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia, P2	Y. Hirabuki Y. Araki P. Dornig A. Takehara S. Tsukawaki K. Suzuki S. Im R. Chay

Ecological significance of <i>Barringtonia</i> -dominant woodland around Lake Tonle Sap, Cambodia: an evaluation by herbaceous water-plants' distribution.	共同	2005 年	International Conference on Forest Environment in Continental River Basins: With a Focus on the Mekong River, E-13	Y. Hirabuki Y. Araki A. Takehara P. Dornng S. Tsukawaki K. Suzuki S. Im R. Chay
Vegetation structure and regeneration characteristics of <i>Barringtonia acutangula</i> on the floodplain of Lake Tonle Sap, Cambodia.	共同	2005 年	International Conference on Forest Environment in Continental River Basins: With a Focus on the Mekong River, E-14	Y. Araki P. Dornng Y. Hirabuki R. Chay S. Tsukawaki M. Tomita K. Suzuki
カンボジア・トンレサップ湖の氾濫原植生: 季節的な水位変動とヒトの利用の狭間で	共同	2006 年	国際湿地再生シンポジウム 2006, P-009	荒木祐二 平吹喜彦 ほか 6 名
季節的な水位変動と人為的攪乱が著しいトンレサップ湖氾濫原における植生遷移と優占種 <i>Barringtonia acutangula</i> の生態的特性	共同	2006 年	横浜国立大学 21 世紀 COE プログラム第 5 回「生物・生態環境リスクマネジメント」シンポジウム, 25	荒木祐二 平吹喜彦 D. Powkhy 塚脇真二 ほか 3 名
地域資源「木流堀」の保全にむけて	共同	2006 年	土木学会東北支部技術研究発表会, VII-38	松山正将 菊地清文 花淵健一 佐伯吉勝 中居尚彦 阿部和正 平吹喜彦
北限域におけるカシ類の姿 - 地域・林分・マイクロサイトでの分布・生育状況 -	単独	2006 年	第 53 回日本生態学会大会, 自由集会 JY26, フェノロジー研究会「北限域における常緑樹の分布様態と生育阻害要因」	
先駆樹種 <i>Melaleuca cajuputi</i> の生存・成長・繁殖開始サイズに対する密度の影響	共同	2006 年	第 53 回日本生態学会大会, JP3-112	富田瑞樹 平吹喜彦 鈴木邦雄
季節的な水位変動が著しいトンレサップ湖氾濫原において優占する <i>Barringtonia acutangula</i> の生態的特性	共同	2006 年	第 53 回日本生態学会大会, JG310	荒木祐二 D. Powkhy 平吹喜彦 ほか 4 名
Preliminary results from the research missions of EMSB and EMSB-u32 Programmes: "Evaluation of mechanisms sustaining the biodiversity of Lake Tonle Sap, Cambodia".	共同	2006 年	International Conference on "Mekong Research for the People of the Mekong," Part 1-5	S. Tsukawaki Members of EMSB Team and EMSB-u32 Team
東北地方中部沿岸から内陸地域におけるブナ優占型林分の組成と構造	共同	2007 年	第 54 回日本生態学会大会, P2-139. 松山市	富田瑞樹 平吹喜彦 ほか 4 名

大学キャンパス内への公共基準点設置について	共同	2007年	土木学会東北支部技術研究発表会, IV-35. 山形市	松山正将 菊池清文 花淵健一 佐伯吉勝 中居尚彦 阿部和正 平吹喜彦
Present state of pollution and destruction of natural environment in the Angkor Monument Area : monitoring, evaluation and eradication.	共同	2007年	16th Technical Committee of the International Co-ordinating Committee for the Safeguarding and Development of the Historic Site of Angkor, V-9. Siem Reap, Cambodia.	Team ERDAC (S. Tsukawaki <i>et al.</i>)
Results on the research programmes EMSB-u32 (UNESCO MAB-IHP Joint Programme ; Ecological and Hydrological Research and Training for Young Scientists in Tonle Sap Biosphere Reserve, Cambodia) and EMSB (Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia).	共同	2007年	Joint Regional Seminar of the Ecotone-SeaBRnet 2007 and the 9th Conference of the China Biosphere Reserves Network (CBRN). Maolan Biosphere Reserve, China.	S. Tsukawaki Members of EMSB-u32 Team and EMSB Team
Dense <i>Melaleuca cajuputi</i> -scrub in degraded tropical peat-swamps : regeneration strategy and wise management coupling with water-level fluctuation.	共同	2007年	9th Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis, P4. Matsushima, Japan.	Y. Hirabuki M. Tomita K. Suzuki K. Sridith Y. Araki
Adaptive strategy of <i>Barringtonia acutangula</i> to long-term inundation on the tropical floodplain of Lake Tonle Sap, Cambodia.	共同	2007年	9th Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis, P5. Matsushima, Japan.	Y. Araki Y. Hirabuki P. Dorng ほか4名
三陸海岸中部の十二神山・霞露ヶ岳に残存する自然林：植生構造，植生地理学的位置づけ，保全価値	共同	2007年	日本生態学会東北地区会第52回大会, 1. 福島市	平吹喜彦 菅野 洋 小水内正明 ほか5名
Three research programmes in Tonle Sap Biosphere Reserve, Cambodia, from 1992 to 2008 — the past, the present time, and for the future—.	共同	2008年	UNESCO-MAB, 3rd World Congress of Biosphere Reserves, Invited Lecture. Madrid, Spain.	S. Tsukawaki H. Peou Members of EMSB, EMSB- u32 and ERDAC
陰山北麓における植生—微地形—人為攪乱パターン：荒漠化する農村環境の植生学的研究	共同	2008年	内モン古資源環境および持続可能な発展 中日シンポジウム, 4. 呼和浩特, 中国	平吹喜彦 菅野 洋 蘇德斯琴 郝 潤梅

いちばん身近な森・屋敷林でESD：景観生態学的な評価と体験学習プログラムの開発	共同	2008年	第119回日本森林学会大会, M13. 東京都	平吹喜彦 福岡公平 福田明子 荒木祐二
An interim report on the environmental researches in and around the Angkor Monument Area, Siem Reap Province, Cambodia (June 2007-May 2008).	共同	2008年	17th Technical Committee of the International Co-ordinating Committee for the Safeguarding and Development of the Historic Site of Angkor, II-22. Siem Reap, Cambodia.	Team ERDAC (S. Tsukawaki <i>et al.</i>)
地域資源保存緑地の再生に向けて	共同	2008年	日本環境教育学会第19回大会, F116. 東京都	松山正将 菊地清文 佐伯吉勝 中居尚彦 阿部和正 平吹喜彦
景観保全に向けた情報づくりのこころみ	共同	2008年	日本環境学会第34回研究発表会, P8-02. 射水市	松山正将 菊地清文 花淵健一 佐伯吉勝 中居尚彦 阿部和正 平吹喜彦
半乾燥・耕作限界域に位置する有畜農村の植生と荒漠化：内蒙古自治区・武川県五福号集落の事例	共同	2008年	植生学会第13回大会, B07. 東京都	平吹喜彦 菅野 洋 蘇德斯琴 郝 潤梅
アンコール遺跡に生残する樹木の個体群構造と空間分布の景観生態学的評価	共同	2008年	地理情報システム学会学術研究発表大会, 4F-24. 東京都	富田瑞樹 平吹喜彦 荒木祐二 L. Bora 塚脇真二 H. Peou
仙台平野北部・平筒沼いこいの森の温帯混交林とイヌブナ小林分	共同	2008年	日本生態学会東北地区会第53回大会, 3. 弘前市	平吹喜彦 金子真也 菅野 洋 大柳雄彦
Degraded <i>Barringtonia</i> -dominant vegetation around Lake Tonle Sap, Cambodia : zonal arrangement of vegetation, life-style shift of local people and ecological significance of the inundated woodland under large seasonal fluctuations in water-level.	共同	2008年	FORTROP II ; International Conference on Tropical Forestry Change in a Changing World, Poster Session (Mangrove and Wetland Ecosystems). Bangkok, Thailand.	Y. Hirabuki Y. Araki D. Powkhy S. Tsukawaki C. Rachana M. Tomita L. Bora H. Peou K. Suzuki

A plant ecological approach to the degraded floodplain-vegetation of Lake Tonle Sap, Cambodia—Toward sustainable management of an invaluable ecosystem—.	共同	2008 年	Asia Forest Workshop 2008, P4. Phnom Penh, Cambodia.	Y. Araki Y. Hirabuki D. Powkhy S. Tsukawaki ほか5名
保存緑地の保全に向けた取り組み事例	共同	2009 年	平成 20 年度土木学会東北支部技術研究発表会, VII-35. 多賀城市	松山正将 菊地清文 佐伯吉勝 中居尚彦 阿部和正 平吹喜彦
中国内蒙古自治区草原地域の農村集落(武川県五福号)における土地利用の実態と植物相	共同	2009 年	第 56 回日本生態学会大会, PC2-833. 盛岡市	菅野 洋 平吹喜彦 蘇德斯琴 郝 潤梅
Introduction of the research activities of the Team ERDAC (Environment Research Development in Angkor, Cambodia).	共同	2009 年	International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, 1. Siem Reap, Cambodia.	S. Tsukawaki P. Hang Team ERDAC
Background of the environment research in the Angkor Park and its environs, Cambodia —two research programmes in Lake Tonle Sap: the past, the present and for the future—.	共同	2009 年	International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, 2. Siem Reap, Cambodia.	S. Tsukawaki S. Sotham Members of TonleSap21 Programme and Teams EMSB and EMSB-u32
Reinventory of the emergent-trees in the Preah Khan Forest in the Angkor Monument Park, Cambodia.	共同	2009 年	International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, 13. Siem Reap, Cambodia.	Y. Araki Y. Hirabuki M. Tomita P. Hang B. Ly S. Tsukawaki
Spatial arrangement of emergent-trees in the Preah Khan Monument: present status and proposed eco-management.	共同	2009 年	International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, 14. Siem Reap, Cambodia.	Y. Hirabuki M. Tomita Y. Araki B. Ly S. Rith S. Tsukawaki P. Hang

<p>Three Cambodian traditional home-gardens in Siem Reap Province —on the water and in the forest—.</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, 15. Siem Reap, Cambodia.</p>	<p>S. Tsukawaki Y. Hirabuki Y. Araki K. Suzuki M. Tomita P. Droung P. So</p>	
<p>Landscape and forest ecological evaluation of remnant trees in the Preah Khan Monument, Cambodia.</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, P1. Siem Reap, Cambodia.</p>	<p>M. Tomita Y. Hirabuki Y. Araki B. Ly S. Tsukawaki P. Hang</p>	
<p>Emergent-trees photography in the Preah Khan Forest.</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>International Symposium on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, P2. Siem Reap, Cambodia.</p>	<p>Y. Araki Y. Hirabuki M. Tomita P. Hang B. Ly S. Tsukawaki</p>	
<p>Landscape ecological studies on the Angkor Area: a case study of the Preah Khan forest.</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>International Seminar on the Present Situation of Environment in the Angkor Monument Park and Its Environs, Cambodia, 5. Insti. of Technology, Cambodia, Phnom Penh, Cambodia.</p>	<p>Y. Araki Y. Hirabuki M. Tomita P. Hang B. Ly S. Tsukawaki</p>	
<p>アンコール遺跡に生残する樹木の個体群構造と空間分布の衛星画像を用いた解析</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>第120回日本森林学会大会, Pc3-04. 京都市</p>	<p>富田瑞樹 平吹喜彦 ほか4名</p>	
<p>アンコール遺跡に生残する樹木群集の評価 —現地調査と衛星データを併用して—</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>日本景観生態学会, P42. 新潟市</p>	<p>富田瑞樹 平吹喜彦 ほか4名</p>	
<p>Multi-scale analyses and inhabitant-centered management of the traditional rural-landscape on Isawa Fan, NE-Japan.</p>	<p>共同</p>	<p>2009年</p>	<p>15th International Symposium on Problems of Landscape Ecological Research, P39. Bratislava, Slovak Republic.</p>	<p>Y. Hirabuki K. Fukuoka A. Fukuda Y. Araki M. Tomita K. Hara</p>	

Landscape transformation sequences: in which directions will our landscape move and how can we monitor these changes.	共同	2009 年	15th International Symposium on Problems of Landscape Ecological Research, P49. Bratislava, Slovak Republic.	K. Hara I. Harada M. Tomita K. M. Short J. G. Park M. Fujihara Y. Hirabuki M. Hara
仙台市堂所の里山農家における屋敷と背戸山の景観生態学的描写	共同	2009 年	植生学会第 14 回大会, A01. 鳥取市	平吹喜彦 伊藤ひかる ほか3名
QuickBird 衛星画像を用いたアンコール遺跡に生残する樹木群集の評価	共同	2009 年	植生学会第 14 回大会, P26. 鳥取市	富田瑞樹 平吹喜彦 ほか4名

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
環境省, 仙台市環境局, 杜の都の市民環境教育・学習推進会議「杜々かんきょうレスキュー隊事業」	2003 年度～2005 年度	共同・代表者	里山の自然と暮らしを素材とした体験的環境学習プログラムの創出・実践
科学研究費補助金 基盤研究(B)	2003 年度～2005 年度	共同・分担者	カンボジアのトンレサップ湖における生物多様性維持機構の評価
科学研究費補助金 基盤研究(B)	2003 年度～2005 年度	共同・分担者	内モンゴ草原地域の草地劣化と退耕還林政策に関する地理学的研究
科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	2004 年度～2005 年度	共同・分担者	野外体験活動をいれた地域環境学習の系統的展開 ―効果的編成と支援の実践―
科学研究費補助金 萌芽研究	2004 年度～2005 年度	共同・分担者	過去の薪炭材利用と丘陵地の景観変遷に関する研究
2004 年度 (第 15 期) PRO NATURA FUND 長期事業助成	2004 年 10 月～2006 年 9 月	共同・代表者	北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性
子どもゆめ基金	2005 年度	分担者	小学生を対象とした自然体験学習プログラムの創出・実践
科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査	2005～2007 年度	共同・分担者	中国内陸地域の砂漠化(荒漠化)に関する地理学的研究
財団法人斎藤報恩会学術研究助成費	2006 年度	個別・代表者	分布北限域における温帯混交林の生態学的研究

科学研究費補助金 萌芽研究	2006～2008 年度	共同・代表者	湿潤アジアの‘伝統的なホームガーデン’を素材とした環境学習プログラムの創出
科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査	2007～2008 年度	共同・分担者	カンボジアのアンコール遺跡区域における環境破壊・汚染の現状と影響評価
杜の都の市民環境教育・学習推進会議「杜々かんきょうレスキュー隊事業」	2007 年度	共同・代表者	体験型環境学習プログラム「ケヤキだいすき！探けん隊～ケヤキのこと、「緑」のこと、もっと知りたい！～」の創出・実践
平成 20 年度教育・学習方法等改善支援経費（大学教育高度化推進特別経費）	2008 年度	共同・分担者	大学生を対象とした「海・里・山のむすびつきをめぐる総合的野外調査実習」の創出・実践
科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査	2008～2009 年度	共同・連携研究者	中国内モンゴにおける土地条件の劣化プロセスと農牧民による環境利用形態の変容
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	2008～2009 年度	共同・分担者	アジア東岸域の環境圏とそれに依存する経済・社会圏の持続的発展のための総合研究

IV 学会等及び社会における主な活動

1980 年～	日本生態学会会員（2000 年～ 東北地区委員）
1982 年～2008 年	日本植物学会会員
1985 年～	植生学会会員（2008 年～ 運営委員）
1987 年～	日本森林学会会員
1990 年～	International Association for Vegetation Science 会員
1991 年～	日本熱帯生態学会会員
1997 年～	宮城県自然環境保全審議会専門委員
1997 年～	宮城県環境影響評価技術審査会委員
1997 年～2005 年	魚取沼のテツギョ保全対策検討委員会委員
1997 年～2005 年	古川市環境審議会委員
1998 年～	一般国道 108 号花淵山バイパス環境検討委員会委員
1999 年～	仙台市環境影響評価審査会委員
2003 年～	仙台市杜々かんきょうレスキュー隊事業の助成を受け、市街地近郊の里山で、市民を対象とした環境教育活動を実践
2004 年～	仙台市土地利用調整審議会委員（副会長）

2005年	子どもゆめ基金の助成を受け、栗駒山と花山村で、小学生を対象とした自然体験活動を実践
2005年～	蒲生干潟自然再生協議会構成員
2005年～	みやぎ県北高速幹線道路環境対策委員会委員
2005年～	七ツ森森林公園整備方針検討会委員
2005年～2007年	愛宕山緑地環境保全地域指定変更学術調査委員会委員
2006年～2008年	泉ヶ岳利活用に関する懇談会委員（座長）
2006年～	みちのく自然共生園整備・管理運営計画検討委員会委員
2006年～	宮城県環境審議会委員
2006年～	宮城県自然環境保全審議会委員
2006年～	環境省希少野生動植物種保存推進員
2007年	宮城県産業振興審議会専門委員
2007年～	大崎市環境審議会委員
2007年～2009年	荒沢県自然環境保全地域候補地学術調査検討会委員
2007年～	みやぎ県北高速幹線道路道路遊休地活用のためのワークショップ構成員（ファシリテーター）
2007年～	宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員
2008年～	宮城県野生動植物調査会植物群落分科会委員（分科会長）
2008年～	「南三陸道路環境影響調査検討」専門委員
2008年～	泉ヶ岳利活用推進市民会議（アドバイザー）
2008年～	宮城県文化財保護審議会委員
2008年～	国連大学グローバル・セミナー第7回東北セッションプログラム委員会委員
2008年～	特別名勝松島保存管理計画策定委員会委員
2009年	仙台松島道路VI期事業事後調査検討会委員
2009年	みちのく公園東地区整備検討委員会委員

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	松本 秀明	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	講義：マルチメディア機器の活用			2005年度	図や地形形態の変化など、power point を多用し、視覚的教材を作成し、用いた。		
	実習：実習の成果について大判のポスターを作成し、オープンキャンパスで公開した。			2005年度	「長町ー利府断層を歩く」と題する大判ポスターを実習参加学生とともに作成し、成果をオープンキャンパスで公開した。		
	実習・講義において、インターネットに接続しながら各地の地形形態を視覚的に捕らえさせる試み			2007年4月～2008年12月	インターネットにPCを接続し、世界各地の地理的情報、および地球規模での位置関係を学習させた。		
	フィールドワーク重視の演習や総合研究の実施			2007年4月～2008年12月	いずれの課題においてもフィールドワークを必修とし、また、学生間の協力体制を確立する指導を行った。		
	専門書の解説と実際の社会および野外にみられる現象との間のインターフェースの構築			2008年4月～2008年12月	野外調査実習において、河岸段丘地形および活断層地形の具体的抽出方法等を自らの力で構築させるための教材の作成		
	水路実験装置を導入し、地形形成や自然災害についての理解を深める教材システムの構築			2008年5月～	水路勾配、流量、供給土砂量、海水準、波高・周期を変化させることにより、河川や海岸地形形成のシミュレートおよび洪水・津波などの自然災害発生のメカニズムを実験室内で観察可能なシステムを構築しようとするものである。		
4	他大学大学院科目非常勤講師			2003～2005年度	北海道教育大学大学院科目非常勤講師を担当し「過去の環境変動の指標としての地表形態」を講義。		
	高校への出前授業の講師を務めた。			2005年6月23日	宮城県立仙台南高等学校にて「名取川・広瀬川の過去の洪水痕跡地形の検出」と題する授業を行った。		
	岩手県埋蔵文化財センター 発掘技術等講習会講師			2005年12月	「河川中・下流部の河道周辺の地形形成と環境変動ー洪水多発期、静穏期は存在するか？ー」と題して講義。		
	「地底の森ミュージアム」（仙台市遺跡保存館）にて講演			2007年1月27日	遺跡と地表環境の変遷ー移り変わる仙台平野の姿とそこに展開された人々の暮らしー		
	宮城県高等学校社会科(地理歴史科・公民科)教育研究会例会講演			2007年10月16日	「歴史の舞台装置としての地表環境とその変遷を探るー仙台平野北部を中心にー(考古学・歴史学との協働を目指して)」		
	仙台市教育委員会文化財課研修行事講義			2007年11月30日	「仙台平野における最近の遺跡調査からー地形学の視点ー」		
	青葉山の緑を守る会集会での講義			2008年2月20日	「竜の口峡谷の成因について」		
	高等学校 出前授業			2008年5月1日	宮城県立宮城野高等学校「学問の世界」講師		
	宮城県世界遺産登録推進事業 第1回シンポジウム パネリスト			2008年7月1日	「松島湾の形成過程と完新世の海面上昇」		

日本技術士会応用理学部会で講義とフィールドワーク指導	2008年7月28日	「仙台周辺地形学散策 ー災害史と海岸侵食ー」
東北学院大学教養学部「東北学院大学教養学部創設20周年記念」連続講義（おいしい教養バイキング）担当	2008年10月18日	「自然との摩擦の少ない暮らしをめざして」
東北学院大学「カウンセリング・センター便り」寄稿	2008年11月1日	vol.73 「おとなとして扱われていることに気付いて下さい」
平成21年度 東北学院大学開放講座「地震と津波と」. (主催:東北学院大学同窓会本吉支部).	2009年6月19日	宮城県沿岸の地質と地震 ー2007~2008年度の調査結果からー
宮城県高等学校地理部会例会 講師	2009年7月7日	過去に多量の土砂を伴う巨大洪水が発生したことを示す証拠とその意味 ー 七北田川下流沖積低地の事例 ー
高砂市民センター, 「七北田川下流域の歴史~近世編」講座 講師	2009年9月12日	七北田川流域, その地学的正体と歴史 ーなぜ低湿地なのか, 開発へ人々は何に挑んだのかー
仙台市福室市民センター 館外学習講師	2009年9月26日	七北田川流域, その地学的正体と歴史体感. (館外学習) ー自然堤防地形を形成した巨大洪水痕跡を歩くー
東北学院大学大学開放講座気仙沼市民大学事例発表「私たちの地域防災計画」への助言. (主催:東北学院大学同窓会本吉支部).	2009年10月9日	「私たちの地域防災計画」への助言
高等学校 出前授業	2009年12月17日	宮城県 中新田高等学校 出前授業 「自然災害の少ない安全な地域づくりー仙台平野にもかつて大津波が押し寄せていた」

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 仙台平野とその周辺地域	分担・共同執筆	2005年3月	「日本の地形3 東北地方」 東京大学出版会	小池一之 ほか編 ◎松本秀明 平野信一 小岩直人	114~123頁
庄内平野	分担	2005年3月	「日本の地形3 東北地方」 東京大学出版会	小池一之 ほか編	276~282頁
海岸侵食	分担・共同執筆	2005年3月	「日本の地形3 東北地方」 東京大学出版会	小池一之 ほか編 ◎松本秀明 小池一之	322~325頁
Bb 更新世末から完新世にかけての気候変化に伴う地形形成作用の変化と河床高度の変動	共同執筆	2007年9月	年代測定と日本文化研究2	松本秀明 小岩直人	1~7頁
海図が示す松島湾の沈水過程	単著	2008年9月	地図情報, vol.28-2		20~23頁

C	宮城県鳴瀬町・矢本町およびその周辺の地形形成史	単著	2005年2月	「シンポジウム東松島を発掘するー考古学から見た東松島市の歴史ー」奥松島縄文村歴史博物館編		2~4頁
	七北田川下流沖積低地における完新世後期の潟湖埋積と自然堤防の形成	共著	2006年3月	宮城県文化財調査報告書「中野高柳遺跡IV」宮城県教育委員会・宮城県土木部	◎松本秀明 野中奈津子	2~9頁
	高松貝塚周辺の地形と堆積物分析による地形変化の復元	共同執筆	2007年3月	東松島市教育委員会編『高松貝塚』	松本秀明 松宮正樹 野中奈津子	1~6頁
	東要害貝塚の地形的位置と完新世後期の地形変化	単著	2008年3月	「東要害貝塚の発掘調査報告書」宮城県教育委員会		1~4頁
	「歴史の舞台装置としての地表環境とその変遷を探るー仙台平野北部を中心にー」考古学・歴史学と地形学の協働をめざして	単著	2008年	宮城県高等学校社会科(地理歴史科・公民科)教育研究会編研究紀要 No. 48		1~4頁
	松島湾の地形ー自然が織り成す奇跡の景観ー	単著	2009年3月	シンポジウム報告書「松島湾の文化遺産ーそのすばらしさを知っていますかー」報告書		47~50頁
	松島湾の地形	単著	2009年3月	シンポジウム 松島湾の文化遺産 ~そのすばらしさを知っていますか~ 報告書		26~28頁
D	天下の奇観の謎を解く	単著	2003年	「週刊日本遺産 No. 43 松島」朝日新聞社		12~15頁
	亘理平野の成り立ちと阿武隈川	共著	2005年3月	亘理町立郷土資料館編集発行	◎松本秀明 野中奈津子	1~45頁
	私たちの広瀬川ーがけとみどりとせせらぎー「広瀬川の研究レポート」	単名	2009年6月	仙台市河川課広瀬川創生室公式HP(広瀬川ホームページ)記事		
	亘理平野	単名	2009年9月	亘理町広報誌 コラム わたりの自然		14~14頁
E	青葉の森マップ	共同	2003年	青葉山自然観察会編	(地図作成: 松本秀明 竹村亮子)	A3判
	また来てみたい砂浜	単名	2009年4月	東海新聞リレーエッセイ「五葉山」		
	ゼミ紹介	単名	2009年7月	季刊教養学部 2009 No. 9		26~27頁

G 仙台平野北部，七北田川下流域に発達する自然堤防地形の形成年代と潟湖埋積過程	共同	2005年3月	2005年日本地理学会 春季学術大会（東京）	◎松本秀明 野中奈津子 松宮正樹 竹村亮子
北上川下流沖積低地北部に認められる自然堤防地形の形成年代	共同	2005年5月	2005年東北地理学会 春季学術大会（仙台）	◎松本秀明 野中奈津子 松宮正樹 藤岡正裕
七北田川下流沖積低地の地表地形の形成時期と環境変動	共同	2005年5月	東北地理学会一般公開シンポジウム「七北田川下流域，陸奥国府多賀城周辺の人類遺跡と地表環境の変化—考古学・地形学の研究成果から—」，（仙台市博物館）	◎松本秀明 野中奈津子 松宮正樹 竹村亮子
完新世の海面上昇と庄内砂丘の発達過程	共同	2005年10月	東北地理学会秋季学術大会一般公開シンポジウム（酒田）	◎松本秀明 野上恭子
インド洋大津波時の浜堤列平野における津波堆積物の分布と粒度組成，ならびに津波後の地形変化—タイ南西部の浜堤列平野の事例—	共同 発表	2007年3月	日本地理学会 2007年 春季学術大会（東京）	◎小岩直人 佐藤麻美 松本秀明 T. Chalchai
仙台平野北部に認められる 2,000yrBP頃の砂の薄層と周辺の地形	単独	2007年5月	2007年東北地理学会 春季学術大会（仙台）	
更新世末から完新世にかけての気候変化に伴う地形形成作用の変化と河床高度の変動	共同 発表	2007年9月	加速器分析研究所主催シンポジウム年代測定と日本文化研究2	◎松本秀明 小岩直人
仙台平野の海浜における砂浜侵食の実態 2007年	共同 発表	2008年5月	2008年東北地理学会 春季学術大会	◎松本秀明 加藤温子
タイ南西部の浜堤列平野におけるインド洋大津波時の津波堆積物の粒度組成	共同 発表	2008年5月	日本地球惑星科学連合 2008年大会	◎小岩直人 松本秀明 渡邊洋平 T. Chalchai
Distribution of Tsunami Deposits by 2004 Indian Ocean Tsunami along Aluvial Plains, Southwestern Thailand	共同 発表	2008年8月	Western Pacific Geophysics Meeting (WGPM)	◎N. Koiwa H. Matsumoto Y. Watanabe T. Chalchai
Natural Levees and Catastrophic Flood Episodes in the Sendai Coastal Plain, Northeast Japan	単独	2008年8月	2008 Annual Meeting of Korea-Japan/Japan-Korea Geography-major Graduate Students	
インド洋大津波時に消失した砂嘴の再生過程—タイ南西部Pakarang岬, Pak Ko川河口の事例—	共同 発表	2009年3月	日本地理学会 2009年 春季学術大会（東京）	◎小岩直人 松本秀明 杉澤修平 葛西未央 T. Chalchai

北上川中流部一関～平泉付近の氾濫原に残された旧河道群の形成年代	共同発表	2009年5月	2009年東北地理学会春季学術大会（仙台）	◎松本秀明 野中奈津子 佐藤美果
仙台平野の海浜における砂浜侵食の実態と将来予測	共同発表	2009年10月	日本地理学会2009年秋季学術大会（那覇）	◎松本秀明 加藤温子

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
国土地理協会研究助成	2005年度	共同 タイ国アンダマン海岸の津波被害調査	マングローブ林の津波減衰効果に関する地生態学的研究（研究代表者：宮城豊彦）
科学研究費補助金（基盤研究(B)）	2005～2007年度	共同（研究代表者：平野信一）研究分担者として参加	「第四紀逆断層の新时期活動性評価と地盤災害に関する研究」
科学研究費補助金（基盤研究(A)）	2006～2009年度	共同（研究代表者 今村文彦教授）研究分担者として参加	「2004年インド洋大津波の被害実態を考慮した新しい津波工学の展開」
科学研究費補助金（基盤研究(C)）	2008～2010年度	研究代表者 松本秀明	「東北日本における完新世後期の4回の地球温暖化と大洪水発生頻度に関する研究」
東北学院大学 研究奨励補助金	2008年度	個別 松本秀明	

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2005年5月	学会会員 日本地理学会，日本第四紀学会，日本地理学会，東北地理学会，地理科学学会，大韓地理学会，宮城県考古学会 東北地理学会一般公開シンポジウム「七北田川下流域，陸奥国府多賀城周辺の人類遺跡と地表環境の変化 ―考古学・地形学の研究成果から―」（福武学術文化振興財団助成事業）の企画および実施
2005～2009年度 随時	仙台市教育委員会文化財課 発掘調査協力
2005～2009年度 随時	宮城県教育委員会文化財課ほか，各市町の文化財発掘調査協力
2006年5月～2007年4月	東北地理学会学会誌「季刊地理学」編集委員会委員
2007年4月～	日本地理学会災害対応委員会 東北地域担当メンバー
2007年5月～2009年4月	東北地理学会評議員ならびに監査委員
2007年9月～2009年9月	仙台市広瀬川清流保全審議会 副会長
2007年，2008年，2009年	国土交通省東北地方整備局 藤塚地区堤防関連 検討委員会 委員
2008年～	東松島市 発掘調査指導委員会 委員
2008年3月	史跡陸奥国分寺跡地下水調査に関する指導，助言（仙台市教育長から依頼）
2008年4月～2010年3月	日本地理学会代議員
～2008年9月	仙台市公共事業再評価監視委員会 委員

<p>2008年11月～ 2008年～2010年</p>	<p>国土交通省 土地・水資源局 土地の安全性に関する調査委員会 委員 亘理町史編纂委員</p>
----------------------------------	--

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	宮城 豊彦	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	海外地域調査の実施	2007年8月3～13日	3年次の隔年開講科目「海外地域実習」を初めて実施した。ベトナムと台湾で、地元研究者地域組織との連携の下、マングローブ林の植生調査、地盤調査、都市の時空間マップ作成、農家のホームガーデン日越比較、観光などを実施した。この成果は、同年10月の読書週間の展示として公開した。				
	野外実習調査プログラムを通しての地域貢献その1	2008年4月～現在	2年次必修科目「発展実習」を松島湾野々島で実施する際、地域ボランティア組織、自治体、区などとの密接な協力関係を築き、観測・採取・測量・聞き取り・宿泊など全ての面で、地元へ溶け込むことができた。これによって、野々島は、地域構想学科の野外実験施設としての機能を果たす程度にまで至ったと思われる。				
	野外実習調査プログラムを通しての地域貢献その2	2008年4月～現在	松島湾の野々島・七ヶ浜町代々崎浜地区において、卒業論文作成「決め細やかな地域防災の実践」を地元組織、NPO、自治体との連携の下実施している。これによって、地域の信頼が醸成され、地域構想学科の関連事業の実施が歓迎される状況が生まれた。実施テーマの一つ、おらいの防災マップ作成支援事業は、テレビ・新聞・行政（国土交通省東北地方整備局・宮城県、七ヶ浜町・塩竈市）が注目し、これらに対して説明・講演、取材協力などを行い、資金助成の対象となった。この実践は、卒論作成に止まるものではなく、学年横断的に多数の学生・院生がボランティアとして参加している。				
	野外実習調査プログラムを通しての地域貢献その3	2008年7月21～22日	夏休み子供海の遊び達人塾の主催 地域NPOと協力して、赤い羽根共同募金の資金援助を受け、野々島において表記事業を学生と共に実施した。24名の小学生、17名の学生スタッフが協力して、島の自然を観察した。この企画の基礎調査は、発展実習で習得されたものが多い。				
	学生のモチベーションを高め、積極的な実習実践を促す試み	2009年4月～7月	地域構想学科の基幹的な実習科目（2年生）である発展実習の実践において、都市圏の中の離島地域を多角的に調査する「浦戸地域誌作成委員会」という委員会形式にした。学生個々人が、地域誌編纂の委員として位置づけられ、調査のシナリオ作成・実行・報告書の作成を設計されたプログラムの中で実践した。成果は単なるレポートに纏めるのではなく、成果のみを集約した1ペーパーレポートにした。				
	仙台市交通局・大学学生部・大学生協とのコラボレーションによるバス利用促進マップの作成	2009年6月～11月	標記各機関との共同で、本学泉キャンパス学生のバス利用の利便性を高め、利用数の増加を図り、引いては環境意識を高めることを目指すと共に、GISや調査スキルの向上を目指した企画である。商品として十分に堪えうる品質の地図情報を作成した。この地図は6千枚印刷され、新入生などの便宜に供される。				

<p>野外実習調査プログラムを通しての地域貢献その4</p>	<p>2009年8月23～24日</p>	<p>夏休み子供海の遊び達人塾の主催 地域NPOと協力して、赤い羽根共同募金の資金援助を受け、野々島において表記事業を学生と共に実施した。22名の小学生、24名の学生スタッフ、8名の地域住民が協力して、島の自然を観察した。この企画の基礎調査は、発展実習で習得されたものが多い。</p>
<p>浦戸諸島地域誌作成委員会調査報告書の作成・出版</p>	<p>2009年11月</p>	<p>2年次実習科目である発展実習は、本学科における実質的な実習の最初のものである。この実習では、学生自身に何が不足している能力なのか、何が身についた能力なのかを実感させる必要がある。そこで、先に示した実習を実施したが、学生の報告書に加筆・補正を施して、「こうすればもっと判りやすく魅力的になるのではないか」という学生への提案を含めた報告書に仕立て上げた。</p>
<p>2 マングローブ小僧に関する一連のグッズ</p>	<p>2006年4月～現在</p>	<p>日本のマングローブ林は近年増加している。環境を保全すれば、現在のマングローブ林は増加する。そこで、このことを広く紹介するために、キャラクターのマングローブ小僧を学生と共に創出し、様々なグッズ（手ぬぐい・ハンカチ・コースター・着ぐるみ・ボールペンなど）を作成し、様々な活動を展開している。これらの活動は、宮城テレビ（おーばんです）で紹介された。</p>
<p>環境防災科学の教材</p>	<p>2008年4月～現在</p>	<p>地域防災情報の作成支援を行い、実際の被災対象の調査評価も実践していることを踏まえて、その骨子をパワーポイント化して、随時提示し、授業の理解を促進させる。</p>
<p>3 出前講義（石巻高校）</p>	<p>2005年12月</p>	<p>高校からの依頼により学科紹介と「地域防災から地域構想を考える」と題した講義を行った。</p>
<p>東北ITソリューションへの出展</p>	<p>2007年10月下旬</p>	<p>東北のIT企業がその成果や会社概要を展示するイベントに、研究室として出展（1ブース）した。GISを用いた研究・教育を行っている実態を紹介することで、この分野のプレゼンスを示すとともに、学生の売り込み、起業の反応調査に用いた。</p>
<p>東北学院大学図書館泉分館における読書週間企画展示「海外地域実習と熱帯環境防災」</p>	<p>2007年10月下旬</p>	<p>記述者の調査研究実績・大学院修士課程院生の研究実績とともに、3年次の実習科目「海外地域実習」の成果を、登録学生にポスターの形式で発表させた。各人は様々なPCソフトを駆使するポスター作成に苦勞したが、最終的には満足できる展示会となった。ただ、学生の関心は殆ど無く、この企画の魅力が無いのか、学生の興味分野から外れているだけなのか、苦慮された。</p>
<p>出前講義（東北学院榴ヶ岡高校）</p>	<p>2009年7月</p>	<p>地球温暖化による急激な海面上昇がマングローブ生態系の立地変動とどう関係するかをフィールド調査をもとに考察し、この理解から得られるマングローブ立地環境維持の重要性に気づき、この理解を応用して劣化したマングローブ環境を修復することに成功したJICAの実践例を紹介した。</p>

出前講義 (利府高校)	2009年7月	研究者として常に心がけている気づきと現場主義について、複数の研究例を用いて解説した。
特別講義 (仙台西高校)	2009年10月	岩手・宮城内陸地震で生じた斜面災害をどのように理解し、付き合っていくことが求められているかを考察している現状を紹介した。
卒業研究の学会発表など	随時	本研究室では、卒業研究の水準を、実際に地域で役立つことができるレベル、または学会で講演できるレベルを目指している。全てがこのレベルに達してはいないが、毎年1~2件がそれにある。
4 文学部史学科の学生・教養学部地域構想学科学生との連携	2005年6月以降	新学科創設期学生の上級生がいない状況に伴う弱点を補うために、本研究室ゼミ生との交流を促している。これが業績かどうかは分からない。
文学部史学科の学生・教養学部地域構想学科学生と地域連携	2005年6月以降	新学科は、地域連携を通して様々な学習効果を高めることをアイデアの一つとしている。塩釜市野々島地区でフィールド博物館構想の実現、七ヶ浜町花淵地区で肌理細やかな地域防災対策の実現をテーマとしている。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 日本の地形 3巻 「東北」	単著	2005年2月	東京大学出版会 小池・田村・鎮西・宮城編		32~35頁, 185 ~ 190 頁, 247 ~ 252 頁
Asia-Pacific Coasts and Their Management "Mangrove"	分担	2008年3月	Springer	Edited by N. Mimura	182~187頁
Practico para la rehabilitacion del ecosistema de manglares en Yucatan, Mexico. Proyecto de eonservacion de humedales en la Peninsula de Yucatan	共著	2008年6月	CONAMP-JICA	T. Miyagi K. Tsuruta	4~55頁
Long-term Maintenance of Arid Mangroves: Mangrove Distribution and Use in Iran and Pakistan	分担	2008年10月	A study of human subsistence ecosystems with mangrove in drylands:to prevent a new outbreak of environmental problems.	H. Nawata Ed. 多数	4頁 (アラビア語翻訳ページを含む)
Ba Preliminary study of landslide risk evaluation by micro landform interpretation on southern slope of Siwalik Hills, Nepal -Using aerial photo interpretation.	共著	2005年6月	Jour. Japan Landslide Soc., 42 (2)	Gyawali B. Prasad T. Miyagi	146~158頁

Prompt report of the landslide disasters caused by the Mid Niigata Prefecture Earthquake in 2004, Japan.	単著	2005年7月	Proceedings of the Int. National Conf. Environmental hazards and geomorphology in monsoon Asia progress in process study and GIS mapping” . Prince of Songkla Univ. and Japanese Geomorphological Union.		143～152頁
Landslide Hazard Assesment by Aerial Photo Interpretation : A Case Study from Narayangadh-Mugling Road, Central Nepal	共著	2005年10月	International Symposium Landslide Hazard in Orogenic Zone from the Himalaya to Island Arc in Asia.	Gyawali B. Prasad T. Miyagi	147～159頁
東濃地方内陸小盆地埋積物の分析による過去30万年間の古気候変動	共著	2006年7月	第4紀研究, 45巻2号	佐々木 須貝 柳田 守田 古澤 藤原 守屋 中川 宮城	275～286頁
Geocological rehabilitation of the mangrove forest in Can Gio district, Vietnam.	共著	2006年10月	Proceedings of the 6th General Seminar of the Core University Program. Osaka University and Vietnam National University, Hanoi.	T. Miyagi V. N. Nam K. Hayashi A. Saito	172～176頁
マングローブ林内を遡上した津波の挙動と樹木の破壊条件—2004年インド洋大津波によるタイ Khao Lak deno 被害調査—	共著	2006年10月	海岸工学会論文集	柳沢英明 越村俊一 後藤和久 今村文彦 宮城豊彦 林 一成	245～249頁
Reflection of micro landforms to the characteristics of landslide materials and the mechanism - a case study of the Ohokamizawa landslide area, Northeastern Japan.	共著	2008年11月	Inet. Conf. on “management of landslide hazard in the Asia-Pacific Region” Sendai, japan	T. Miyagi M. Hatakeyama E. Hamasaki S. Uchiyama K. Hayashi Y. Ono	323～328頁
Biodiversity establishment by landslide processes in humid orogenic area.	共著	2008年11月	Inet. Conf. on “management of landslide hazard in the Asia-Pacific Region” Sendai, japan	A. Saitoh T. Miyagi A. Katehara	828～834頁

Huge landslide triggered by earthquake at the Aratozawa Dam area, Tohoku, Japan	共著	2008年11月	Proceedings of the First World landslide forum, Tokyo.	T. Miyagi F. Kasai S. Yamashina	421~424頁
西表島のオヒルギ林における台風破壊と修復過程に関する基礎的研究	共著	2009年4月	Mangrove Science vol. 6.	斎藤 馬場 宮城	41~52頁
強震動を契機に発生した巨大岩盤層スベリー脊梁山脈東麓の大規模地すべり地形と荒砥沢地すべりー	単著	2009年6月	森林科学 56号		11~15頁
The reduction effects of mangrove forest on a tsunami based on field surveys at Pakarang Cape, Thailand and numerical analysis.	共著	2009年6月	Esuarine, Coastal and Shelf Science 81	Yanagisawa Koshimura Goto Miyagi Imamura Ruangrassamee Charlchai	27~37頁
Damage to Mangrove Forest by 2004 Tsunami at pakarang Cape and Namkem, Thailand.	共著	2009年7月	Polish J. of Environ. Stud. Vol. 18-1.	Yanagisawa Koshimura Goto Miyagi Imamura Ruangrassamee Charlchai	35~42頁
岐阜県瑞浪市大きくて盆地における約17万年間の植生変遷	共著	2009年9月	植生史研究 17-2	神谷 他7名	55~63頁
Bb 津波に対するマングローブ林の効果平成16年度科学技術振興調整費(緊急)調査報告書	共著	2005年7月	「アンダマン海における海岸環境変化と津波堆積物」名古屋大学環境学研究科	宮城 林 Charlchai Tanavud Wijan Meepol. Boonruck	55~76頁
地すべり地特有の多彩な自然環境と地震性地盤災害ー湿润変動帯という風土で、自然との付き合い方を見直すー	共著	2005年7月	Bio City 31号	宮城豊彦 内山庄一郎	22~39頁
Bio-geomorphological processes and mangrove ecosystem rehabilitation - A case study of Can Gio Mangrove Forest, Vietnam-	共著	2005年7月	Proceedings of the Int. National Conf. Environmental hazards and geomorphology in monsoon Asia progress in process study and GIS mapping” . Prince of Songkla Univ. and Japanese Geomorphological Union.	K. Hayashi T. Miyagi V. N. Nam	101~110頁

The Simirality between the afforested mangrove and the natural one-comparative study of Can Gio plantation area and Iriomote island.	共著	2005年9月	Proceedings of the 5th General Seminar of the core university program” Vietnam National University, Hanoi and Osaka University.	T. Miyagi V. N. Nam Y. Kitaya K. Suzuki K. Hayashi	137~141頁
2004年新潟県中越地震による地盤災害と地すべり地形分布に関する予察的研究	単著	2005年9月	防災科学技術研究所報告		
Landslide topography and a case study of the large scale landslide hazard at the pyroclastic plateau along the Dozangawa river, Northeast Japan.	共著	2006年8月	Proceedings of the Korea-Japan Seminar for Geomorphological issue.	T. Miyagi F. Esaka S. Yamashina W. Suzuki N. Kumai	
東北地方の地すべり地形危険度評価の考え方について	単著	2006年8月	山が動く 11号		
地形学から見たマングローブの世界(特別寄稿)	単著	2006年8月	大地 45号		
2004年インド洋大津波によるマングローブ生態系の破壊と環境防災機能に関する	共著	2009年	東北大学工学部津波研報告 26号	宮城 柳沢 馬場 今村	27~60頁
C					
新潟県中越地震による地盤災害と地すべり性の自然環境	単著	2005年6月	地理 52巻4号		17~21頁
スマトラ沖地震津波時に浜堤で発生した浸透性流動破壊と小規模な剪断破壊	共著	2005年7月	日本地すべり学会誌 42巻5号	宮城 C. Tanavud 梅村順 濱崎 千葉 堤	83~84頁
国際シンポジウム「アジアの島弧-変動帯におけるランドスライドハザード」報告	共著	2006年8月	日本地すべり学会誌 42巻5号	宮城 梅村 檜垣	60~63頁
2006年4月山形県中部大舟木地区で発生した地すべり災害	共著	2006年8月	日本地すべり学会誌 43巻2号	檜垣 宮城 八木 千葉 森屋	38~40頁
国際部・研究調査部合同2005年パキスタン地震による斜面災害調査団報告	共著	2006年8月	日本地すべり学会誌 42巻6号	八木 丸井 宮城 梅村 内山 藤原 佐藤	48~52頁

韓国地形学会一行の東北地方巡検で、銅山川地すべりを見学	共著	2006年12月	日本地すべり学会誌 43巻4号	宮城 山科	47～48頁
E 短期専門家業務完了報告書「ユカタン半島湿地保全計画」		2005年9月	国際協力機構（JICA）		1～7頁
現場主義と気づき	単著	2006年1月	(社) 日本地すべり学会東北支部だより, 19号		27～55頁
世界の地域問題	分担	2007年	ナカニシヤ出版	2項目	54～55頁, 124～125頁
地震が山を消した。火山帯を襲った内陸型地震	共著	2008年9月	ニュートン	風間基樹と 連名協力	114～119頁
初動調査記録と巨大な岩盤地すべり	単著	2008年10月	古今書院「地理」 53巻11号		D絵～3, 21 ～31頁
岩手・宮城内陸地震と地形・地質の特徴	監修	2009年4月	林野庁 東北森林管理局		171～187頁
中山間地における地すべり性土砂災害とその跡地利用の可能性について	単著	2009年11月	日本砂防学会出版物 53号		21～38頁
G スマトラ沖地震による津波とタイ国アンダマン海沿岸におけるマングローブ生態系の環境変化	共著	2005年3月	日本地理学会春期学術大会ポスター発表	宮城 林 鈴木	
地すべり地特有の地域環境と地震性地盤災害	単著	2005年3月	日本地理学会春期学術大会シンポジウム		9頁
HTMLと連携した中越地震土砂災害 GISデータベースの構築	共著	2005年8月	第44回日本地すべり学会研究発表会	内山庄一郎 井口 隆 宮城	55～58頁
RBSM 簡易三次元による試行球面すべり面法を用いた人工地盤斜面の危険度評価	共著	2005年8月	第44回日本地すべり学会研究発表会	濱崎 宮城 林 竹内 大西 ほか二名	433～436頁
5万分の1地すべり地形分布図「名古屋・伊勢」図幅の発行	共著	2005年8月	第44回日本地すべり学会研究発表会	井口 清水 宮城ほか	475～476頁
第三系分布域の同斜構造における地すべり地形の特徴	共著	2005年8月	第44回日本地すべり学会研究発表会	千葉則行 宮城豊彦	485～488頁
地すべり地における地形・運動特性・物質特性のリンク	共著	2005年9月	日本地理学会秋季学術大会	宮城 濱崎 内山 林	94頁

地すべり地形分布図集成図「長岡・高田・長野地域」	共著	2005年9月	日本地理学会秋季学術大会	清水 井口 内山 大八木 宮城	111頁
新潟県中越地震で発生した地すべり災害のGISデータベース	共著	2005年9月	日本地理学会秋季学術大会	内山 井口 宮城 林	96頁
ユカタン半島半乾燥地におけるマングローブ林の景観特性と土壌塩分	共著	2006年3月	日本地理学会春期学術大会シンポジウム	宮城豊彦 濱満 靖	
2005年パキスタン地震に地形学はどのように挑んだのか?—地すべり斜面崩壊の現地調査—	共著	2006年3月	日本地理学会春期学術大会公開特別セッション	P. M. Marco 宮城 八木 丸井 梅村 内山	XXV
史学科から地域構想学科へ—東北学院の地理学教育イメージ—	単著	2006年3月	日本地理学会春期学術大会シンポジウム		27頁
地域特性・一人ひとりに応じた防災地図の作成	単著	2008年1月	東北地方整備局防災講演会 仙台		
第三紀層地すべりにおける地形と内部構造・運動様式のリンク	単著	2008年2月	東北地方整備局勉強会 仙台		
デルタ型マングローブ林の大規模な破壊と修復メカニズムに関する実証的研究	共著	2008年3月	日本地理学会秋季大会春季大会, 埼玉	宮城豊彦 斉藤 V. N. Nam	
災害弱者のための防災マップ作り支援とその展開津波災害に対する“おらいの防災マップ”普及推進活動	共著	2008年5月	東北地理学会春季大会 仙台	斉藤 鈴木	
カンザのマングローブ	共著	2008年5月	東北地理学会春季大会 仙台	斉藤 V. N. Nam	
地球温暖化の概要と環境変化への着眼	単著	2008年6月	地すべり学会東北支部シンポジウム, 仙台		
2008年岩手宮城内陸地震で発生した巨大岩盤スベリ	単著	2008年6月	土木学会, 東京		
岩手・宮城内陸地震 地すべり災害調査の概況と荒砥沢ダム上流地すべり	共著	2008年7月	東北大学災害制御センター報告会 仙台	桧垣 千葉 梅村 など6名	
宮城栗原市荒砥沢ダム上流の巨大地すべりの発生過程	単著	2008年8月	日本地すべり学会特別セッション 神奈川		
Mangroves;Tsunami reduction role, plantation result in case of Banda Ache, Indonesia	単著	2008年8月	ISME Meeting Bangkok, Thailand		

二つの地震地すべりで見えてきたこと	単著	2008年9月	林野庁全国治山研究会 東京
環境の破壊と修復を現場で考える	単著	2008年10月	仙台・宮城オータムセミナー 仙台
岩手・宮城内陸地震で発生した巨大地すべり	単著	2008年10月	東北学院大学教養学部創立20周年記念事業「おいしい教養バイキング」
地震災害と私たちの防災	単著	2008年10月	七ヶ浜町代々崎地区防災講演会 七ヶ浜町
岩手・宮城内陸地震時に荒砥沢ダム上流で発生した巨大地すべりの変形構造と運動様式	単著	2008年10月	日本地理学会秋季大会, 盛岡
多様な斜面変動が生み出す新しい自然とその価値	単著	2009年1月	東北地質調査業協会 仙台
岩手宮城内陸地震で発生した大規模な土砂災害の実態とその多様な意味	単著	2009年2月	東北森林管理局講演会 秋田
2008年岩手・宮城内陸地震に見る地震地すべりの諸相	単著	2009年3月	日本地理学会春季東京
Proyecto de conservación de humedales en la Península de Yucatán CONANP-JICA.	共著	2009年3月	JICA Mexico, Mexico city
岩手・宮城内陸地震はこうして起きた	単著	2009年6月	市民大学講座 気仙沼
2008年岩手・宮城内陸地震における斜面災害の諸相と復興イメージ	共著	2009年6月	地すべり学会北海道支部北大4月18日
Topics of the mangrove habitat degradation by interaction of human and nature processes	単著	2009年6月	IUCN workshop of mangroves Philippines
2008年岩手・宮城内陸地震における斜面災害の諸相と災害復興のイメージ	単著	2009年6月	地すべり学会東北支部シンポ
Mangrove Micro Cosmos A Geo-ecological view	単著	2009年7月	JICA ISME lecture
津波によるマングローブ生態系の破壊とその修復上の課題	共著	2009年8月	津波研報告会
2008年岩手・宮城内陸地震による斜面災害と復興イメージ	共著	2009年10月	東北・北海道森林・林道技術講習会 仙台
2004年インド洋大津波とマングローブ林域の破壊に関する定量的な評価例	単著	2009年10月	日本地理学会秋季大会
中山間地における地すべり性土砂災害と、その跡地利用の可能性について	単著	2009年11月	日本砂防学会シンポジウム 一関

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
JSPS 拠点大学間交流事業	2003～2008 年度	共同（日本側代表：大阪大池教授），研究分担者	Joint research on environmental science and technology for the earth
国土地理協会補助金	2005 年度	共同研究 代表者	インド洋大津波におけるマングローブ林の破壊に関する調査
農水省東北農政局委託事業	2006 年度	共同研究 代表者	東北地方における農政局所管地すべりの兆候に関する情報収集
科学研究費補助金（基盤研究（A））	2006～2009 年度	共同（代表：東北大，今村教授），研究分担者	2004年インド洋大津波の被害実態を考慮した新しい津波工学の展開
科学研究費補助金（基盤研究（B））	2007～2009 年度	共同（代表：弘前大榎垣教授），研究分担者	地すべり地の自然環境的価値
総合地球環境学研究所企画研究	2008～2013 年度	共同（代表：総合地球研縄田准教授），研究分担者	総合地球環境学研究所「アラブ社会におけるなりわい生態系の研究：ポスト石油時代に向けて」
JST/JICA 地球規模課題対応型	2009～2012 年度	共同（代表：新潟大学丸井教授），研究分担者	クロアチア土砂・洪水災害軽減基本計画策定の推進
防災研究フォーラム 緊急調査	2009 年	共同研究 代表者	サモア沖地震津波とマングローブ林の防災機能評価
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
	<p>学会の役員など 日本地理学会代議員・海外地域研究叢書出版委員会委員長，日本地すべり学会評議員・国際部長，日本マングローブ学会理事，東北地理学会評議員</p> <p>国際会議の招致主催 国際会議「アジア太平洋地域における地すべり災害とその管理」の運営統括委員会委員長と本学での開催 10月下旬の県庁ホールの展示を皮切りに，11月15日の巡検終了までの一連の企画を通じて，世界32ヶ国から100名以上が集まり，計400名が会に参加した。</p> <p>国・地方の審議会など 仙台市環境保全審議会委員，七ヶ浜町情報公開審査会委員，林野庁東北森林管理局「岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会」座長，岩手・宮城内陸地震に係る荒砥沢ダム復旧・復興対策検討会委員，平成20年岩手・宮城内陸地震に係る土砂災害対策技術検討委員会委員。</p> <p>IUCN 世界のマングローブ林に関するレッドデータブック作成のためのデータ提供とワークショップ参加（フィリピン）</p> <p>新聞・テレビ・ラジオなどメディアへの出演・掲載</p>		

所属	地域構想学科	職名	教授	氏名	柳井 雅也	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	<p>教員独自の「学生による授業」を実施している。</p> <p>ビデオ学習</p> <p>教材の配布</p> <p>グループディスカッションの導入</p> <p>中間テスト</p> <p>特別講師の招聘</p> <p>パワーポイント・ビデオ・web を活用した教育</p> <p>デジカメによる写真・動画を使った国内外（主に中国）の紹介と説明</p> <p>特別講師の招聘</p> <p>地域調査を行う教育</p> <p>中間試験による講義レベルや方法の調整</p>	<p>2005年4月～2006年12月</p> <p>2005年4月～2006年12月</p> <p>2005年4月～2006年12月</p> <p>2005年4月～2008年12月</p> <p>2006年6, 10月</p> <p>2006年7月 2006年10月 2006年11月</p> <p>2007年1月～2008年12月</p> <p>2007年1月～2008年12月</p> <p>2007年1月～2008年12月</p> <p>2007年1月～2008年12月</p> <p>2007年1月～2008年12月</p>	<p>学部で実施する「学生による授業評価」に加えて、授業の効果を測定するためにフリーアンサー式のアンケートを実施している。</p> <p>講義テーマに即したビデオを解説しながら見せている。ケースによってはグループディスカッションも行っている。</p> <p>パソコンを設定している間などを使って、簡単な主題図作成をさせたり、インターネットのURLを示して該当箇所の参考HPを指示しながら教材を提示している。また、個人的に行った調査の写真、自前で作った図表なども配布している。</p> <p>講義の考えさせる場面で「グループディスカッション」を行っている。またゼミなどで発表者に対して同じ方法で、質問を複数作らせるようにしている。これを行うことにより、居眠り・別の教科の勉強・携帯などの防止効果が得られている。</p> <p>中間テストを行って、答案などから学生の習熟度を測って、講義のレベル調整に努めている。</p> <p>宮城県知事、経済産業局、地域経営コンサルタントなどにゲストとしてよび、地理学概説、地域政策論、地域構想学発展実習にて特別講義を行ってもらい「現場」の話を学生に聞かせる工夫を行っている。</p> <p>パワーポイントで講義を行い、またインターネットの画像などを示して学生の理解に努めている。またビデオも解説を行いながら教育を行っている。</p> <p>個人的に行った調査の写真、自前で作った図表なども配布している。</p> <p>経済産業局、ロケーションスイス日本代表処、商議所、地域経営コンサルタントなどをゲストとしてよび、地理学概説、地域政策論、地域構想学発展実習にて特別講義を行ってもらい「現場」の話を学生に聞かせる工夫を行っている。</p> <p>ゼミや発展実習では経済地理学的に学習効果のある地域の調査（アイリスオーヤマ、郡山市、山形市、一関市）を行った。</p> <p>中間テストを行って、答案などから学生の習熟度を測って、その後の講義レベルの調整に努めている。</p>				

2	工業統計表（産業別）による作業表	2007年1月～2008年12月	パソコンを設定している間などを使って、簡単な主題図を作成させた
	工業やまちづくりゲーム	2007年1月～2008年12月	地域関係教材で工業立地ゲーム（資本、労働、輸送費のシミュレーション）などを作成して議論を行わせている。まちづくりも同様
	『柳井ゼミパンフレット』の発行	2007年4月、2008年4月	パンフレットでは、地域調査の方法などを掲載し、ゼミ生に配布している
	地域調査報告書作成	2008年2月	『福島県郡山地域の電機産業の実態』2008.2 『岩手県一関市の地理学的研究』2009.2 『中国威海における地域調査報告』（作成中） 『スイス研修における地域調査報告』（作成中）
3	「研究員紹介」『人間情報学研究』第12巻（2007）に執筆	2007年	研究員紹介において、これまでの教育方法について触れている
4	富山県立八尾高等学校経営評議員	2004年4月～2005年3月	八尾高等学校の経営評議員として学校経営計画について年数回開催される委員会にて意見を述べた。
	e-learningの教材作成	2004年4月～2005年3月	「強い富山経済の構想」というタイトルで、4回にわたってインターネット用の教材を製作。地元経済、行政などの活動を紹介して、その特徴と課題を整理して、富山県経済の方向性について明らかにした。
	富谷高等学校訪問時に大学模擬授業講師を務めた。	2005年	富谷高校の学生を対象に模擬授業を行った。
	オープンキャンパスにて高校生を相手に模擬授業を務めた。	2006年8月	オープンキャンパスで地域構想学のコーナーに来た学生を対象に模擬授業を行った。
	東北学院大学気仙地区開放講座にて講演	2006年10月7日	同講座（大船渡市）にて「地域の人・宝による活性化」の講演を行った。
	就職活動の指導を行った	2008年1月	就職委員として3年生を対象に就職の希望調査とアドバイスをを行った
	文部科学省補助事業「教育GP」（2008年度）に応募	2008年	教育GPに研究代表者として応募した
	仙台市文学館運営委員	2008年4月～12月	子供向け展示の充実やHP開設を要望

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数
A 医薬品産業の集積と再生の課題	共著	2006年	『地域産業の再生と雇用・人材』日本評論社	下平尾 伊東 柳井編著	205～225頁

『北陸地域における北東アジアとの経済連携』	共著	2008年3月	(社)北陸建設弘済会	編者： 柳井雅也 分担： 楊 世英 中村俊彦 権間秀雄 目黒 剛 筑波昌之	140～155頁
グローバリゼーションと地域産業政策	共著	2008年10月	『あすの地域論』八朔社	編者： 柳井雅也 清水修二 小山良太 下平尾勲	31～51頁
北陸地域における北東アジアとの経済連携2	共著	2009年5月	(社)北陸建設弘済会	編者： 柳井雅也 分担： 楊 世英 中村俊彦 青木亮 目黒 剛 筑波昌之	13-26頁 75-92頁 105頁
行政の地産地消支援	共著	2009年10月	『地産地消』日本評論社	下平尾勲 伊東維年 柳井雅也	169-212頁
北陸地域は国際物流に関して何をなすべきか？	共著	2009年印刷中	土木学会	柳井雅也 佐々木規雄	5頁程度
Bb					
全国的視点からみた砺波市への企業立地研究	単著	2005年3月	砺波散村地域研究所 研究紀要		1～12頁
富山県企業による中国進出の実態についてー上海市と大連市の比較ー	単著	2005年12月	東北学院大学教養学部論集		159～179頁
C					
地場企業の創出・育成による地域経済活性化	単著	2007年4月	『東北開発』(No144) 東北開発センター		2～12頁
企業誘致を梃子とした東北地域の活性化について	単著	2008年4月	『IVICT』東北産業活性化センターvol. 81		4～5頁
北陸の国際物流と振興	単著	2008年10月	日本港湾振興団体連合会		20～26頁
これからの滞在型ビジネスのあり方について	単著	2009年10月	『IVICT』東北産業活性化センターvol. 87		2～3頁
D					
北東アジアとの連携戦略	単著	2007年5月	北陸の視座 Vol. 18		17～23頁
北海道・東北地域における自動車産業の集積と課題	単著	2008年3月	『NETT』ほくとう総合研究所 No61		1頁
E					
富山経済の発展戦略	共著	2005年	未来とやまへの提言 (政策投資銀行)		17～23頁

G	砺波市の水利用産業	2005年8月	北陸三県地理学大会		
	北陸経済の現状と課題	2005年10月	経済地理学会地域大会コメント(中部大学)		
	北陸における北東アジアとの経済連携の調査研究 2007年度成果発表	2008年1月	(財)北陸建設弘済会研究助成成果発表会		
	福島県郡山市地域における電気機械産業の事業構造の変化	2008年2月	経済地理学会 北東支部例会(東北学院大学土樋)		
	東北地方の工業化と可能性について	2008年10月	日本地理学会(岩手大学)		
	中国における日系企業の生産分業体制について	2008年10月	中国江南地域経済学会(江南大学)		
	北陸における北東アジアとの経済連携の調査研究 2008年度成果発表	2009年1月	(財)北陸建設弘済会研究助成成果発表会		
	YKKの海外事業戦略-中国進出を中心として-	2009年6月	人文地理学会		
The Global Economic Fluctuations and The Economic Changes in Tokyo Metropolitan Area	2009年10月	日独シンポ JAPANESE-GERMAN CENTER BERLIN THE INSTITUTE OF BEHAVIORAL SCIENCES, TOKYO			
中国大連市における日系企業の事業活動について	2009年12月予定	法政大学地理学会			
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
北東アジアの「経済連携」に関する調査		2007～2009年度	共同・研究代表者	北陸地域の国際物流に関する調査	
科学研究費補助金基盤研究(C)		2008～2010年度	共同・研究代表者	「結節都市」大連市における日系企業の地域的生産体制の形成と課題	
東北学院大学研究奨励金		2008年度	個人	東北地方の自動車産業に関する調査	
滞在型ビジネスモデルの研究(東北産業活性化センター)		2008年度	共同・研究代表者	東北地方の滞在型ビジネスモデルの研究	
学生を活用した仙台市国分町の活性化		2008年度	個人	仙台市国分町の活性化の提言	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2003年4月～2006年12月		北陸ものづくり創生協議会(経済産業省中部経済産業局)			
2003年6月～2005年3月		富山駅周辺整備協議会委員(富山市)			

2003年7月～2005年3月	富山県産業活性化のための研究会委員長（富山県）
2004年10月～2005年3月	北陸地域を取り巻く国際環境変化への対応等調査委員長（経済産業省中部経済産業局）
2005年4月～2006年3月	東アジアの経済発展を視野に入れた北陸の地域戦略の方向性に関する調査（北陸経済連合会）
2006年4月～2006年12月	石巻市中心市街地活性化委員会委員長（石巻商工会議所）
2006年4月～	日本地理学会会員
2006年4月～	経済地理学会会員（～2007年3月評議員）
2006年4月～	人文地理学会会員
2006年4月～	産業学会会員
2006年4月～	東北地理学会会員
2006年4月～	地理科学学会会員
2006年4月～	富山地学会会員（～2006年3月副会長）
2006年4月～12月	宮城県総合計画審議会委員
2006年4月～12月	東北大学雨宮キャンパス跡地に関するまちづくり検討委員会委員
2006年8月～12月	北陸国際物流戦略会議委員長（北陸地域振興整備局）
2006年10月～12月	人口減少・少子・高齢化における地域活性化委員会（東北経済産業局）
2006年10月～12月	ディスティネーション・キャンペーン調査委員会（仙台商工会議所）
2006年10月～12月	多賀城・七ヶ浜まちづくり塾塾長（多賀城・七ヶ浜商工会）
2007年4月～	国土形成計画北陸圏広域地方計画協議会委員（国土交通省 北陸地方整備局）
2007年4月～	北陸地域国際物流戦略会議委員長（国土交通省 北陸地方整備局）
2007年4月～	ものづくり創生協議会委員（中部経済産業局）
2007年4月～	富県宮城県戦略会議幹事会委員
2007年4月～	仙台市文学館運営委員
2007年4月～	東北電力「元気塾」アドバイザーボード
2009年4月～	多賀城市第五次総合計画「まちづくり懇談会」委員
2009年10月～	宮城県産業支援機構事業評価委員
2009年10月～	仙台市中心市街地活性化検討委員
2009年10月～	仙台市総合計画審議会委員
2009年11月～	仙台市経済懇話会委員

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	天野 和彦	大学院の授業 担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	授業理解への工夫について	2009年4月～10月（現在）	講義形式の授業ではプレゼンテーションソフトを活用し、時事問題を取り入れている。				
	教員独自の「学生による授業評価」を実施している	2009年4月～10月（現在）	授業毎に学生には授業評価調査を行い、次回に添削返却し、授業にも改善を加えている。				
	フィールドワークの成果について	2009年4月～10月（現在）	演習では地方公共団体にフィールドワークを行い、年度末に報告書として刊行する。				
2	スポーツ白書 3rdedition	2006年3月25日	スポーツ行政に関する白書である。分担執筆を行い、担当部分は施設の整備と管理等。				
4	授業内容を教員による相互評価, 学生による授業評価, 委員会での評価を経て一定の評価を受けた。	2008年9月～2009年3月	東亜大学優秀授業者賞				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	スポーツ白書 3rdedition	共著 (分担)	2006年3月	笹川スポーツ財団	海老原修他 天野和彦	52～55 頁	
Ba	地方公共団体におけるスポーツ行政組織の移管に関する研究	単著	2008年3月	日本体育・スポーツ経営学会, 体育・スポーツ経営学研究 第22巻		45～60 頁	
	公共スポーツ施設における指定管理者制度の運用に関する研究－経費の削減と資格の活用についての考察－	単著	2009年10月（受理）	日本体育学会, 体育経営管理専門分科会, 体育経営管理論集第2巻			
C	公共スポーツ施設の管理に関する研究－指定管理者制度の導入に向けて－	単著	2005年6月	東亜大学紀要 第5号		51～59 頁	
	市町村合併とスポーツ行政組織に関する研究－教育委員会の統合について－	単著	2006年7月	東亜大学紀要 第6号		69～80 頁	
D	行政の機構改革とスポーツ	単著	2009年3月	体育・スポーツ経営学研究 第23巻		63～66 頁	
E	理論編 指定管理者制度の仕組みと功罪	単著	2006年12月	みんなのスポーツ vol1329, 日本体育社		15～17 頁	
	理論編 地域スポーツとスポーツ振興投票制度～その活動と新たな財源について～	単著	2009年10月	みんなのスポーツ vol1357, 日本体育社		12～14 頁	

<p>G 公共スポーツ施設の管理に関する研究 (2)－効率性と地域スポーツ振興につ いて－ スポーツ行政組織の専門性に関する考 察－公共スポーツ施設の管理における 効率性とのはざままで－</p>		2008年9月	第59回日本体育学会		
		2009年8月	第60回日本体育学会		
<p>Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）</p>					
<p>競争的資金の名称</p>		<p>採用年度</p>	<p>個別・共同の区分 共同の場合の役割分担</p>	<p>概 要</p>	
日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)		2007年（3年間）	共同（分担研究者）	課題番号 19300214 研 究課題 公共スポーツ 施設の指定管理者制度 に関する事例研究	
<p>Ⅳ 学会等及び社会における主な活動</p>					
1993年～ 1993年～ 1993年～ 2005年～ 2009年～		日本体育学会 会員 日本体育学会 体育経営専門分科会会員 日本体育・スポーツ経営学会 会員 日本体育・スポーツ政策学会 会員 日本体育学会 宮城体育学会支部会員			

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	梅屋 潔	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 定着度を確認しながら進行することでよりよい理解を促進 映像資料・画像やモノを用いた多くの感覚を通じて多角的な理解の促進をはかる グループ・ディスカッションやブレインストーミングを取り入れた一方通行ではない問題発見型の教育とフィールドワーク成果の現地へのフィードバック			2005年4月～2009年9月	2005年度4月本学赴任以来、講義形式の授業では、毎回回収するリアクションペーパーで定着度をはかり、反応を見ながら次回の講義に反映させる努力をしている。			
			2005年4月～2009年9月	担当する分野（文化人類学、民俗学およびその関連分野）では異文化の事例、あるいは日本文化のものでも受講生が日常生活の経験のなかで接点がない事例を扱うことが多いので、映像資料をできるだけ毎回用いること（あるいは物質文化に属する道具類を持参するなど）で目と耳を（時には手も）用いた多角的な理解を実現するよう努めている。			
			2005年4月～2009年9月	担当する地域構想学科や言語文化学科の少人数教育（実習や演習）では、可能な限り独自の工夫を重ね、学生との双方向的な教育に一定の成果を挙げてきた。とりわけ、唐桑町（2006年度）、気仙沼（2007年度）、松島（2008年度）、塩釜（2009年度）と調査地を変えて行った総合的フィールドワークの実習は、受講生をグループに組織し、ブレインストーミングなどグループ・ディスカッションを通じて受講生自身が主体的にテーマを絞って行く問題発見型の実習を志向している。ここでは唯一の正解を持った存在ではなく、提出された議論の問題点を指摘し、自ら解決法を考えるよう導く存在であろうと努力している（事実社会調査に絶対的な正解などない）。インタビューに協力してくださった方々や関心を持ってくださった市議会議員の方々などを招き、調査地で市民参加型の発表会を開催してフィードバックを試みたこともあり、一定の評価を得ていると考えている。			
2 ①『エスノグラフィー・ガイドブッカー現代世界を複眼でみる』嵯峨野書院			2002年～	松田素二（京都大学）・川田牧人（中京大学）によって編まれ、私が共著者として参加したもので、「ターンプル著『プリンジ・ヌガダ食うものをくれ』磯野宏訳、筑摩書房」（178～179頁）と「篠原徹著『アフリカでケチを考えた』筑摩書房」（230～231頁）の2本を分担執筆。2009年現在、増刷されている。			
②『文化人類学のレッスンフィールドからの出発』（奥野克己・花渕馨也編著、編著者のほか渥美一弥（自治医科大学）・西本太（京都大学）・織田竜也（長野県立短期大学）・椎野若菜（東京外国語大学A・A研）・シンジルト（熊本大学）・田中正隆（高千穂大学）との共著）			2005年～	奥野克己（桜美林大学）・花渕馨也（北海道医療大学）の編集する一般教養科目の「文化人類学」のための教科書に共著者として参加し、「グローバル化と他者ー今日のフィールドワークとは？」（235～258頁）と題する章を執筆した。2009年現在、増刷されている。			

4 市民の会などでの講演を通じた教育方法の 開発	2008年～	2008年より学外の市民の会「仙台アフリカセ ミナーの会」講師を務めている。受講者のなかには、他大学の教授のほかJICA国際協力機構専門 家のOBや、停年を迎えた他大学教授などがお り、講演の仕方の工夫のほか、質問やそれに対 する回答などのやり取りを通じて、本学での教 育に生かせそうな教訓をいくつも学び、教育実 践に反映させている。			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『文化人類学事典』(項目「象徴」)	共著	2009年1月	丸善	日本文化人 類学会編	442～443 頁
Ba 「酒に憑かれた男たち—ウガンダ・パド ラにおける『問題飲酒』と妖術の民族 誌」	単著	2007年3月	『人間情報学研究』第 12巻, 東北学院大学 人間情報学研究所		17～40頁
「ウガンダ・パドラにおける『災因論』 — <i>jwogi, tipo, ayira, lam</i> の観念を 中心として」	単著	2008年3月	『人間情報学研究』第 13巻, 東北学院大学 人間情報学研究所		131～159頁
「ウガンダ・パドラにおける『災因論』 —現地語(Dhopadhola)資料対訳編」	単著	2009年3月	『人間情報学研究』第 14巻, 東北学院大学 人間情報学研究所		31～42頁
Bb 「アチョワ事件簿—あるいは「テソ民族 誌」異聞」	単著	2007年4月	『アリーナ』第4号, 中部大学国際人間学 研究所		328～346頁
G 「Postcolonial Eliteの「身体」「人格」 そしてオカルト—ウガンダ・パドラの 事例を通してみた—」	単著	2006年6月	国立歴史民俗博物館		
「新潟県佐渡村落におけるイエと婚姻 —90年代のフィールドノートから—」	単著	2007年11月	国民宿舎「海府荘」		
「二つの政権を表象する人格と妖術— ウガンダ・パドラにおける Postcolonial Elitesの事例」	単著	2009年4月	東北大学東北アジア 研究センター人類学 研究会(東北文化人類 学談話会共催)		
「呪詛と政治批評のあいだ—ウガンダ 東部アドラ民族の踊りと音楽」	単著	2009年6月	国立歴史民俗博物館		
「政治批評としての踊りと音楽—ウガ ンダ東部アドラ民族の事例」	単著	2009年7月	慶應義塾大学三田 キャンパス西校舎 523A教室「慶應義塾 大学人類学研究会」と 「慶應義塾大学三田哲 学会」との共催講演会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
平成 18 年度科学研究費補助金（若手研究（B））	2005～2008 年度	個別	ウガンダにおける社会人類学的研究
国立歴史民俗博物館個別共同研究「身体と人格をめぐる言説と実践（研究代表者 国立歴史民俗博物館准教授 山田慎也）」	2005～2008 年度	共同	身体観、霊魂観に関わる共同研究
国立歴史民俗博物館基幹研究「列島における生活誌の総合的研究—兆・応・禁・呪の民俗誌（総括研究代表者 国立歴史民俗博物館教授 常光徹）」	2006～2009 年	共同	広く超自然的なものとの民俗との関わりを考察する共同研究
「水界に培われた生活知にかんする社会学的研究——ウガンダ・アルバート湖岸漁村と三重県熊野市漁村の国際交流による漁労文化の共有と編成」 （研究代表者 四天王寺大学人文社会学部教授 田原範子）	2008～2010 年	共同	トヨタ財団
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1992 年～	日本文化人類学会会員		
1993 年～	日本民俗学会会員		
2000 年～	日本アフリカ学会会員		
2001 年～	日本宗教学会会員		
2008 年～	東北民俗の会会員		
2009 年～	日本社会学会会員		

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	金菱 清	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1		2005 年度		学部で実施する「学生による授業評価」の結果			
大学授業評価 (5 点中) 前期：社会学 (総合) 4.75 現代社会論 4.87							
後期：社会学 (総合) 4.83 現代社会論 4.75		2005 年度		同上			
前期：社会学 (総合) 4.93		2006 年度					
地域構想学発展実習 (地域社会コース) の報告書作成		2007 年 3 月 31 日		2 年生向けの実習において唐桑地域を学生とともにフィールドワークしたものを報告書として作成する。			
地域構想学発展実習 (地域社会コース) の報告書作成		2008 年 3 月 31 日		2 年生向けの実習において気仙沼地域を学生とともにフィールドワークしたものを報告書として作成する。			
地域構想学発展実習 (地域社会コース) の報告書作成		2009 年 3 月 31 日		2 年生向けの実習において松島地域を学生とともにフィールドワークしたものを報告書として作成する。			
3		2008 年 10 月 4 日		「変わる世界, 地域から時代を創造するために」として基調講演後にパネリストとして登壇し報告をおこなった。			
第 3 回「地域社会と教育を考えるフォーラム」のパネリスト							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A		2006 年		世界思想社		136~164 頁	
「不法占拠」の系譜学『構造的差別のソシオグラフィ』		共著			三浦耕吉郎編		
「不法をめぐる正統性と公共性」『commons をささえるしくみ』		共著	2006 年	新曜社	宮内泰介編	197~221 頁	
Ba		2005 年		関西学院大学出版会, 『先端社会研究』3 号		35~60 頁	
「法制度の裏側にある「場所」と社会調査」		単著					
D		2008 年 3 月		新曜社		219 頁	
生きられた法の社会学—伊丹空港「不法占拠」はなぜ補償されたのか		単著					
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
科学研究費補助金 (若手研究(B))		2007 年度~2008 年度		個別・金菱 清	不法をめぐる正統性と公共性—不法占拠地域におけるマイノリティ権利の制度化		
科学研究費補助金 (基盤研究(B))		2007 年度		共同・宮内泰介	半栽培 (半自然) と社会的しくみについての環境社会学的研究		

国立歴史民俗博物館個別共同研究	2007年度～2008年度	共同・山田慎也	身体と人格をめぐる言説と実践
科学研究費補助金（若手研究(B)）	2009年度～2012年度	個別・金菱 清	生きられた法と辺境のダイナミズム—環境正義と公共性の社会学的研究

IV 学会等及び社会における主な活動

2005年6月～2008年6月	環境社会学会研究活動委員
-----------------	--------------

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	菅原 真枝	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	講義内容の理解促進	2007年4月～	授業の終わりにコメントペーパーに疑問等を記入させ、次回の授業の冒頭でそのコメントに回答する。				
	事前学習指導およびそれにあわせた授業構成	2007年4月～	事前学習をほぼ毎回促し、A4 1枚程度のレポートを提出させる。授業時はそのレポートをもとに学生に発言をうながし、それに応える形で授業を進める。				
	グループ研究の指導, ミニ研究論文の作成指導	2007年4月～	演習を受講する学生を2～3名のグループに分け、フィールド調査および文献学習の指導をしている。その成果としてミニ論文を作成させ、フィールド調査の技法、文献検索の方法、論文執筆の方法などを教授している。				
	地域構想学演習「田代島における住民の福祉意識調査」報告書の作成, 発行	2008年3月	地域構想学科の増子正准教授と合同で2008年8月に「田代島における住民の福祉意識調査」を実施し、データの入力、解析および考察のしかた等を学生に指導し、その成果を報告書としてまとめた。				
	学生主導によるグループ学習の指導	2008年4月～	演習の正規の授業時間以外に学生主導のグループ学習を実施。学習の成果を発表し討論しあう時間を設けプレゼンテーション能力の向上をはかるための指導をおこなっている。				
	地域構想学演習「網地島における住民の福祉意識調査」報告書の作成, 発行	2009年3月	地域構想学科の増子正准教授と合同で2009年8月に「網地島における住民の福祉意識調査」を実施し、データの入力、解析および考察のしかた等を学生に指導し、その成果を報告書としてまとめた。				
4	東北学院大学「オープンカレッジ」講師	2005年10月6日	東北学院大学社会福祉研究所が主催する第26回オープンカレッジ「福祉社会論」にて「特別養護老人ホームはいま」と題して講義をおこなった。				
	塩竈市生涯学習センター「エスプカレッジ」講師	2006年2月25日	塩竈市生涯学習センターが主催する第8回エスプカレッジ「少子高齢社会と社会保障」にて「変貌する特別養護老人ホーム」と題して講義をおこなった。				
	東北学院大学「オープンカレッジ」講師	2006年9月28日	東北学院大学社会福祉研究所が主催する第27回オープンカレッジ「福祉社会論」にて「『その人らしく生きる』とはなにか」と題して講義をおこなった。				
	宮城県社会福祉協議会「みやぎシニアカレッジ」講師	2006年10月5日	宮城県社会福祉協議会が主催する「みやぎシニアカレッジ」にて「高齢者のQOL」と題して講義をおこなった。				

東北学院大学オープンカレッジ「福祉社会論」の講師	2007年10月27日	東北学院大学社会福祉研究所が主催する第28回オープンカレッジ「福祉社会論」にて「バリアフリー・ユニバーサルデザインを考える」と題する講義をおこなった。
地域福祉フォーラム2007の座長をつとめた	2007年11月11日	宮城県黒川郡富谷町と社会福祉法人永楽会が主催する「地域福祉フォーラム2007」第3分科会にて座長を務めた。
地域福祉フォーラム2008の座長をつとめた	2008年8月30日	宮城県黒川郡富谷町と社会福祉法人永楽会が主催する「地域福祉フォーラム2008」第2分科会にて座長を務めた。
東北学院大学オープンカレッジ「福祉社会論」の講師	2009年6月27日	東北学院大学社会福祉研究所が主催する第30回オープンカレッジ「福祉社会論」にて「ロボットが人間を介護する時代？」と題する講義をおこなった。
地域福祉フォーラム2009のトークセッションでサポーターをつとめた	2009年9月26日	宮城県黒川郡富谷町と社会福祉法人永楽会が主催する「地域福祉フォーラム2009」トークセッションでサポーターを務めた。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
Ba 「ユニットケアにおける職員配置を規定する要因—宮城県の介護老人福祉施設に対する質問紙調査から—」	単著	2005年7月	東北社会学会, 『社会学年報』第34号		163~182頁
D 「バリアフリー・ユニバーサルデザインを考える」	単著	2008年3月	東北学院大学社会福祉研究所『第28回オープンカレッジ講義報告集2007 知的冒険への旅立ち「福祉社会論」』		11頁

III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手研究(B)	2004~2005年度	個別	特別養護老人ホームにおけるユニットケア実践のジレンマの関する社会学的研究
科学研究費基盤研究(B)(2)	2004~2007年度	研究分担者	地域ケア・システムの展開過程にかんする社会学的比較研究
科学研究費若手研究(B)	2006~2008年度	個別	特別養護老人ホームにおけるユニットケアを規定する要因に関する社会学的研究
科学研究費若手研究(B)	2009~2011年度	個別	特別養護老人ホームにおけるユニットケアの職員配置に関する社会学的研究

IV 学会等及び社会における主な活動	
1996年～	東北社会学会会員
1996年～	東北社会学研究会会員
1998年～	日本社会学会会員
2003年～	福祉社会学会会員
2006年～	日本福祉文化学会会員
2006年～	宮城県男女共同参画審議会委員
2006年～	大崎市男女共同参画推進審議会委員
2007年～	東北社会学会第6期理事会理事
2009年～	東北社会学会第7期理事会理事

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	高橋 信二	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1	理解促進		2007年4月～	毎回、授業の最初に前回の講義の復習を行い、学生の理解度を高めた。			
	学外における演習の充実化		2007年4月～	演習を学外で行い、学生に地域貢献を实践させた。			
2	「健康科学」資料		2007年4月～	全15回の講義資料をスライドとして作成した。1回の講義あたり30～40枚(A4)程度。			
	「現代人とヘルスケア」資料		2007年9月～	全15回の講義資料をスライドとして作成した。1回の講義あたり30～40枚(A4)程度。			
4	新聞による演習活動の紹介		2008年2月	演習の活動が河北新報(2/11)に紹介された。			
	ラジオによる演習活動の紹介		2008年3月	演習の活動がDateFM(3/14)にて紹介された。			
	雑誌(全国紙)による演習活動の紹介		2008年9月	演習の活動が「へるすあっぷ21(法研)」にて紹介された。			
	高校の課外授業		2009年2月	宮城野高校での課外授業・土曜ゼミナールにおいて講師を務めた。			
	仙台市体育指導者講習会		2009年5月	新任仙台市体育指導者に対してスポーツ指導に対する講習会の講師を務めた。			
	一般市民に対する講義		2009年9月～10月	南中山市民センターで健康作りに関する講義・実技(4回)の指導を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A	最新スポーツ科学事典	単著	2006年9月	平凡社 日本体育学会監修		総2頁	
Ba	Validity of Dynamic Prediction Model for Oxygen Uptake during Supra Maximal Intermittent Load Exercise.	共著	2005年1月	International Journal of Sport and Health Science. Vol. 3	T.Nishijima T.Chiba H.Ishii S.Takahashi	68～74頁	
	ラグビー選手に要求される体力の総合的評価指標の開発 スポーツコーチング研究	共著	2005年2月	スポーツコーチング研究(第3巻第2号)	中馬健太郎 中川 昭 西嶋尚彦 高橋信二	http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/sc/3_2/02/index.html	
	Validity of Expired Gas Dynamics Model during Intermittent Load Exercise. International Journal of Sport and Health Science.	共著	2005年2月	International Journal of Sport and Health Science. Vol. 3	T.Nishijima T.Chiba H.Ishii S.Takahashi	57～67頁	

Dynamic Causal Structure Analysis of Condition Fluctuation in a Soccer Player.	共著	2005年3月	Football Science Vol. 2	K. Chuman T. Nakano T. Nishijima S. Takahashi	1~7頁
ラグビーゲームにおける時間帯と得点及び勝敗の関連に関する分析研究	共著	2005年8月	トレーニング科学(第17巻第3号)	◎中川 昭 中本光彦 広瀬恒平 高橋信二	201~210頁
The Sensitivity of the Japan Fitness Test in Elderly People to Assess the Effects of Aging.	共著	2005年11月(受理)	International Journal of Sport and Health Science.	◎T. Nishijima T. Ohishi T. Nakano K. Suzuki H. Yamada K. Ohtsuka M. Matsuda S. Kuno S. Takahashi	in press
A Comparison of Estimation Models of Physical Fitness Age for Elderly People using the Japan Fitness Test.	共著	2006年4月(受理)	International Journal of Sport and Health Science.	◎T. Nishijima T. Matsumoto T. Nakano K. Suzuki H. Yamada K. Ohtsuka M. Matsuda S. Kuno S. Takahashi	in press
Expired Gas Kinetics during 20 m Shuttle Running Test.	共著	2007年	Human Performance Measurement. Vol. 4	◎S. Takahashi T. Chiba S. Matsubara H. Ishii A. Maeda	9~16頁
高温条件下高強度運動負荷中の血中乳酸と血液浸透圧の関係	共著	2008年	日本生理人類学会誌. 12巻.	◎千葉智則 石井裕明 高橋信二 矢野徳郎	153~159頁
Prediction of Swim Performance by Dynamic System model for junior female swimmers.	共著	2008年	Human Performance Measurement. Vol. 5	◎H. Ishii S. Takahashi T. Chiba A. Maeda Y. Takahashi	1~8頁
Effect of turn skill on expired gas dynamics during 20 meters shuttle running test.	共著	2008年	Human Performance Measurement.	◎Y. Yoshida S. Takahashi H. Momma T. Yuze T. Chiba A. Maeda	in press
20mシャトルランテストと6分間歩行テストのテスト特性：テストを有効利用するための提案	共著	2009年	体育測定評価研究8.	鈴木宏哉 高橋信二	71~79頁
中高齢者における週23エクササイズの運動基準を満たすことの効果と満たす者の特徴	共著	2009年	健康支援	鈴木宏哉 高橋信二	印刷中

Evaluation of New Gyro-Sensor and Accelerometer Device to Estimate Physical Activity	共著	2009 年	International Journal of Sports and Health Science	S. Takahashi K. Suzuki T. Kizuka	印刷中
Bb 朝ごはんを食べると体力が向上する？ ー健康・スポーツ関連事象を正しくは かるための教養教育ー	共著	2008 年	東北学院大学教養学 部論集. 150 号.	◎鈴木宏哉 高橋信二	69～84 頁
体力・運動能力調査における悉皆調査 の意義：標本データと全数データの相 違に注目して	共著	2009 年	東北学院大学教養学 部論集 153	鈴木宏哉 高橋信二	67～78 頁
D 学会リポート 発育発達・測定評価合同 学会傍聴記	単著	2005 年 7 月	体育の科学 (第 55 巻 第 7 号)		548～551 頁
G ジャイロセンサ搭載型加速度計による 運動の判別	共著	2005 年 3 月	日本体育測定評価学 会第 4 回大会	◎加藤伸治 木塚朝博 西澤 健 西嶋尚彦 高橋信二	
ジャイロセンサ搭載型加速度計による 身体活動量測定法の妥当性	共著	2005 年 3 月	日本体育測定評価学 会第 4 回大会	加藤伸治 木塚朝博 西澤 健 西嶋尚彦 高橋信二	
Physical Fitness Level For Improving Mat Exercise Performance In Child And Youth	共著	2005 年 5 月	52th American College of Sports Medicine Annual Meeting	◎T. Nishijima T. Nakano K. Suzuki H. Yamada K. Ohtsuka S. Takahashi	
Feedback Control System In VO2-kinetics To Predict Energy Expenditure During Intermittent Exercise	共著	2005 年 5 月	52th American College of Sports Medicine Annual Meeting	T. Chiba T. Nishijima K. Tanaka S. Takahashi	
ジャイロセンサ搭載型加速度計による スポーツ活動時の身体活動量測定	共著	2005 年 9 月	第 60 回日本体力医学 会大会	加藤伸治 鈴木宏哉 西澤 健 西嶋尚彦 木塚朝博 高橋信二	
Simultaneous measurement of accelerometer and gyrosensor for assessing exercise intensity (METs): Validity and reliability of the ViM motion sensor	共著	2005 年 10 月	Walking for Health: Measurement and Research Issues and Challenges	◎K. Suzuki T. Kizuka S. Takahashi	
ジャイロセンサ搭載型加速度計を用い たフットサル中の身体活動量測定	共著	2005 年 10 月	第 52 回日本学校保健 学会	◎鈴木宏哉 木塚朝博 高橋信二	

運動分類式加速度計における身体活動量の推定	共著	2005年11月	日本体育学会第56回大会	◎加藤伸治 木塚朝博 西澤 健 西嶋尚彦 高橋信二
ランダム負荷運動時におけるジャイロセンサ搭載型加速度計による身体活動量測定の妥当性	共著	2005年11月	日本体育学会第56回大会	加藤伸治 鈴木宏哉 西澤 健 西嶋尚彦 木塚朝博 高橋信二
選択サッカー単元の主体的問題解決能力テストの項目特性分析	共著	2005年11月	日本体育学会第56回大会	◎西嶋尚彦 中野貴博 山田 庸 加藤伸治 安藤 梢 鈴木宏哉 鈴木和弘 小澤治夫 高橋信二
成人前女子競泳選手における動的システムモデルを用いたパフォーマンス変動予測	共著	2005年11月	日本体育学会第56回大会	◎石井裕明 千葉智則 前田明伸 高橋信二
動的特性を考慮した身体活動量の非線形予測モデル	単著	2006年3月	日本体育測定評価学会第5回大会	
Application of V02 Dynamics to Assessment of Physical Activity Using Accelerometer	単著	2006年5月	53th American College of Sports Medicine Annual Meeting	
動的予測モデルを用いた身体活動量測定	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	鈴木宏哉 木塚朝博 高橋信二
間欠的運動能力と酸素摂取動態の関連性	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	◎扇谷大輔 門間陽樹 前田明伸 千葉智則 高橋信二
トレーニングに対する中距離パフォーマンス変動の時間的特性	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	◎湯瀬徹 石井裕明 千葉智則 前田明伸 高橋信二
間欠的ハイパワー発揮能力評価指標としての二酸化炭素過剰排出	共著	2006年8月	日本体育学会第57回大会	◎門間陽樹 扇谷大輔 千葉智則 高橋信二
Validity of Oxygen Uptake kinetics to evaluate Intermittent Endurance.	共著	2007年	Annual meeting of American College of Sports Medicine	◎S. Takahashi T. Chiba D. Ohgiya

ボールゲーム選手と長距離選手における酸素摂取動態と間欠的パワー発揮	共著	2007年	日本健康体力栄養学会大会	◎高橋信二 千葉智則
走運動における3軸加速度センサの特性	共著	2007年	日本測定評価学会大会	◎高橋信二 湯瀬 徹 門間陽樹 吉田雄大
競技力向上のための測定と評価—スポーツ指導と科学研究の比較—シンポジウムB	単著	2007年	日本体育学会大会	
Examination of Gyro sensor and Accelerometer device to Evaluate to Physical Activity.	共著	2008年	Annual meeting of American College of Sports Medicine	◎S.Takahashi K. Suzuki T. Kizuka
Effect of Resistance Training to Walking Ability in Middle and Older Age Adults.	共著	2008年	World Congress on Aging and Physical Activity	◎S.Takahashi K. Suzuki
身体活動量と体力およびメタボリックシンドロームの因果関係の検討	共著	2008年	日本体育学会大会	◎高橋信二 鈴木宏哉
酸素摂取量の動的特性を反映した身体活動量評価の検討	共著	2009年	第10回日本健康支援学会	高橋信二 鈴木宏哉
Field Evaluation of Physical Activity in Wristband Type Motion Monitor.	共著	2009年	56 th Annual meeting of the American College of Sports Medicine	S.Takahashi K. Suzuki T. Kizuka Y. Sakairi
反復測定データに対する回帰分析と一般線型混合モデルの比較—加速度センサとMETs データに注目して—	共著	2009年	日本体育学会第60回大会	高橋信二 鈴木宏哉 坂入洋右 木塚朝博

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金若手研究(B)	2005～2006年度	研究代表者	身体活動量の正確な測定方法の開発
科学研究費補助金若手研究(B)	2007年	個別	身体活動量と健康状態の因果関係に関する研究
科学研究費補助金若手研究(B)	2008年	個別	身体活動量と健康状態の因果関係に関する研究
科学研究費補助金若手研究(B)	2009年	個別	身体活動量と健康状態の因果関係に関する研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

	日本体育学会 学会員 日本体力医学会 学会員 日本体育測定評価学会 学会員, 評議員, 機関誌編集委員 American College of Sports Medicine 学会員
--	--

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	増子 正	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 地域構想学演習にフィールドワークを取り入れ、成果を製本している			2007年4月～2008年12月		3年生向けの地域構想学演習において、福祉サービスの地域間格差を検証する目的で、宮城県内の有人離島で住民の福祉サービスの意識調査を行い、学生諸君に分析させ、製本し外部機関にも提出した。		
学習する事項と、学習した事項の記憶への定着の促進			2007年4月～2008年12月		授業の冒頭で、前回の復習を行い、授業終了時には次週の授業に関するキーワードを伝え関心を持たせている。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 新しい地域福祉の推進の理論と実際		共著	2007年4月	中央法規	増子 正 都築光一 編著	40頁	
市町村合併と地域福祉		共著	2007年6月	ミネルヴァ書房	増子 正 川村由匡 編著	44頁	
地域福祉の原点を探る		共著	2008年6月	ミネルヴァ書房	増子 正 川村由匡 編著	40頁	
東北の福祉統計		共著	2008年11月	東北の福祉統計調査班	都築光一 増子 正	10頁	
Ba 地域福祉活動の住民満足度分析に関する研究		単著	2006年10月	厚生指標第53巻第11号, (財)厚生統計協会		5～11頁	
東北における福祉制度対象者に関する市町村実態調査		共著	2008年10月	厚生指標第55巻第11号, (財)厚生統計協会	増子 正 都築光一	13頁	
G 地域福祉活動計画策定の課題		共同研究	2005年6月	日本地域福祉学会第19回大会, 北星学園大学	◎増子 正 日下輝美	報告集 134頁	
地域福祉活動の住民満足度に関する研究		共同研究	2005年10月	日本地域福祉学会第53回全国大会, 東北福祉大学	◎増子 正 日下輝美	報告集 351頁	
市民活動(まちづくり活動)促進に関する研究		共同研究	2006年6月	日本地域福祉学会第20回大会, 長崎国際大学	◎増子 正 日下輝美	報告集 114頁	
社会福祉協議会合併に関する調査研究		単著	2007年6月	日本地域福祉学会第21回全国大会, 山口県立大学		報告集 170頁	

社会福祉協議会の合併に伴う事業調整のあり方に関する研究	単著	2008年6月	日本地域福祉学会第22回全国大会	
地域福祉推進における住民の地域風刺担い手意識の検証	単著	2009年6月	日本地域福祉学会第33回全国大会	報告集 109頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）				
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
科学研究費補助金基盤研究（C）		2006～2007年度	共同・研究代表者	市町村合併に伴う地域福祉活動計画の事業調整方法とモニタリングの体系化
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動				
2002年4月～2005年3月	宮城県老人福祉施設協会サービス評価委員会委員			
2004年4月～2005年3月	宮城県柴田町次世代育成支援計画策定委員会委員長			
2004年4月～2005年3月	宮城県柴田町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員			
2006年4月～2007年3月	宮城県柴田町第二次地域福祉活動計画策定委員会委員			
2007年4月～	日本社会福祉学会会員			
2007年4月～	日本地域福祉学会会員			
2008年4月～	仙台市共同募金委員会理事			
2009年4月～	日本福祉文化学会理事			
2009年4月～	宮城県美里町地域福祉活動計画策定委員会副委員長			
2009年9月～	七ヶ浜町地域福祉連絡協議会委員			

所属	地域構想学科	職名	准教授	氏名	松原 悟	大学院の授業担当の有無	無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	授業理解の促進	2005年4月～2009年12月	地域スポーツ論, スポーツマネジメントにおいては, プロスポーツからアマチュアスポーツにいたるまで, 現実に開催されている状況からその問題点を把握できるように行っている。現代スポーツ論においては, 新たに経営学のマーケティング理論からアプローチしている。				
	外部講師の依頼	2006年5月～6月	地域スポーツ論のゲストとして, ベガルタ仙台, 河北新報, 地域スポーツクラブマネージャーを招いて講義を行った。				
	授業における実践	2007年9月～2009年12月	スポーツ指導論では, 理論だけでなく, 学生に指導実践を行わせ, 問題点の把握に努めている。				
2	パワーポイント, 映像を活用した教材作成	2006年4月～2009年12月	通常の教科書とは異なり, 現実に行われている問題点を把握しやすいように, 映像等を活用した教材を独自に作成し, 活用している。				
4	仙台市スポーツ振興審議会委員	2005年～現在	仙台市スポーツ振興審議会委員として, 仙台市のスポーツ振興に寄与, 2009年度からは副会長となる。				
	高校への出前授業	2005年9月14日	山形県寒河江高校にて, 「地域スポーツ」について授業を行った。				
	日本サッカー協会C・D級コーチ養成講習会	2006年～2009年12月	宮城県サッカー協会の依頼で, 日本サッカー協会C・D級養成講習会スクール講師をつとめた。				
	七ヶ浜町指定管理者選定委員	2008年	七ヶ浜町指定管理者選定委員として, 指定管理者制度の活用 に寄与				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・著録(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要			
IV 学会等及び社会における主な活動							
1979年～		日本体育学会会員					
2005年～現在		仙台スポーツ振興審議会委員					
2005年～		日本フットボール学会会員					
2008年～現在		七ヶ浜町指定管理者選定委員会委員					

法務研究科

法実務専攻

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	石垣 茂光	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 毎回の授業内容をよりよく理解させるための工夫			2004年4月～	予習に必要な時間を考慮した上で事前に授業用レジュメを配布し、予習課題を提示。			
授業に学生を引きつけ、集中度を高めるための工夫			2004年4月～	授業中は適時学生に質問し、双方向学習に努める。			
学生との接し方についての工夫			2004年4月～	オフィスアワー以外にも在室時にはいつでも相談に応じる旨を伝え、また実際に対応している。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・略(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『法学講義 民法4 債権総論』		共著	2007年11月	悠々社	石垣茂光 奥田昌道 ほか編	649～671頁	
C 原因関係のない振込みと受取人の払戻請求		単著	2009年7月	東北学院法学68号		85～111頁	
H 民事司法システムの将来		共著	2005年10月	中央大学出版部	小島 武編	91～138頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1995年4月～			日本私法学会会員				
1999年4月～			比較法学会会員				

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	伊東 満彦	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	講義レジュメの更新	2008年4月～7月 2009年4月～7月	次年度の改善ため、授業のたびに講義レジュメの更新を行い、反省点を記録する。				
	教員用のシラバスの作成	2008年4月～7月 2009年4月～7月	年度の初めに、教員用のシラバスを作成し、授業計画を立てる。				
	予習レジュメの配布	2008年4月～7月 2009年4月～7月	年度の初めに、学生用に予習レジュメを配り、あらかじめ予習すべき事項を具体的に伝える。				
4	消費者教育のための出前授業	2005年9月～2008年9月	仙台弁護士会消費者保護対策委員会からの派遣で、高等生を相手に、消費者生活の基礎知識について出前講義をする。				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
2005年5月～			仙台弁護士会消費者問題対策特別委員会委員				
2005年5月～			仙台弁護士会民事暴力被害者救済センター運営委員会委員				

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	梅津 昭彦	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 「学生による授業評価」の実施		2002年1月～2006年12月		学部授業において「学生による授業評価」を実施し、回収した内容に基づき改善できる点は改善した。法科大学院授業においても「学生による授業評価」を実施し、指摘・要望について書面で回答するとともに、その後の授業で取り入れるべき点は取り入れた。			
予習課題, 授業内容, 復習(自己学習)内容の事前指摘と, 授業内容と詳細なレジユメの配布		2004年4月～2006年12月		法科大学院未修者授業として, 事前に詳細なレジユメを配布し, 予習と授業とをリンクさせる授業を行った。また, 授業では取り上げることができなかった項目について, 自己学習するための適切な指摘を行った。			
予習課題, 授業(講義)内容, 復習(自己学習)内容を事前に指摘するレジユメの事前開示		2007年1月～2009年12月		法科大学院の未修者対象の法律基本科目である「商法Ⅰ・Ⅱ」について, 事前にその内容を開示し, それとリンクさせる授業を行った。授業中には, 予習課題を確認するために受講生を個別に発言を求めるような双方向授業となるよう努め, 復習範囲について適切な指摘を行った。			
「学生による授業評価」の実施		2007年1月～2009年12月		法科大学院授業について「学生による授業評価」を実施し, その指摘, 意見を無記名にて解答を得て, その後の授業に反映させた。			
学部演習における実践的教育		2008年4月～12月		法学部の演習において, 文献の調べ方, 文献の読み方, あるいは判決例の理解の仕方を細かく指導した。それらに基づくレポートでは, 必ず反論をさせ, 法をコミュニケーションまたはディベートツールとして理解させるように演習を行った。			
学部外書購読における外国法を通じたわが国における規制内容の理解		2009年4月～12月		法学部の外書購読において, わが国の規制の参考とされたアメリカ法のテキストを英語で輪読し, また判例原文を読み解くことにより, わが国の規制内容のより深い理解を獲得させるよう, 資料の提供を行い, 近時の動向を注視しながら授業を行った。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所, 発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 『レクチャー保険法〔第2版〕』		共著	2005年6月	法律文化社	今井 薫 岡田豊基 梅津昭彦	全てにわたり関わった	
『現代保険法』		共著	2005年9月	成文堂	石山卓磨編	196～212頁 320～36頁	
『生命保険の法律問題』		共著	2006年9月	学陽書房	出口正義編	46～48頁 55～57頁 58～62頁	

Bb	「支払保証システムによる損害保険契約者保護 ―米国のシステムを参考に―」	単著	2005年8月	損害保険研究第67巻第2号		33～52頁
	「生命保険契約約款における契約者貸付 ―その法的性質論と保険契約者の権利性―」	単著	2006年12月	生命保険論集等157号		153～170頁
	「陸上保険契約における因果関係論再考 ―火災保険契約における保険者免責条項を素材として―」	単著	2007年9月	保険学雑誌第598号		93～112頁
	「アメリカ保険法における因果関係論の展開 ―判例法の展開・分析を中心として―」	単著	2008年8月	損害保険研究第70巻第2号		31～60頁
	「保険事故の通知義務・損害防止義務」	単著	2008年10月	『新しい保険法の理論と実務(別冊金融・商事判例)』経済法令研究会	落合誠一＝ 山下典孝編集	169～177頁
	“Reform on the Insurance Law in Japan: A Perspective of New Japanese Insurance Law”	単著	2008年12月	保険学雑誌第603号		1～8頁
	「保険契約の法的性質再考 ―保険契約の(最大)善意契約性から導かれること―」	単著	2009年6月	保険学雑誌第605号		33～52頁
	「保険契約の終了」	単著	2009年11月	『保険法の論点と展望』	甘利公人＝ 山本哲生編集	67～94頁
「信義則(最大善意の契約)」	単著	2009年12月	保険学雑誌607号		1～17頁	
C	「バージニア州における有限パートナーシップ形態の濫用事例」	単著	2005年1月	商事法務第1720号		72～75頁
	「決議無効確認の訴えと決議取消の主張」	単著	2006年4月	会社法判例百選		108～109頁
	「『市場に対する詐欺理論』における効率的市場要件」	単著	2006年10月	商事法務第1780号	近藤光男＝ 志谷匡史編集	47～50頁
	「合併契約におけるno-talk条項の有効性」	単著	2007年2月	『新・アメリカ商事判例研究』商事法務	近藤光男＝ 志谷匡史編集	11～16頁
	「バージニア州における有限パートナーシップ形態の濫用事例」	単著	2007年2月	『新・アメリカ商事判例研究』商事法務	近藤光男＝ 志谷匡史編集	53～59頁
	「1933年法11条に基づく会計士の民事責任」	単著	2007年2月	『新・アメリカ商事判例研究』商事法務		74～79頁
	「質権設定と死亡保険金受取人の同意」	単著	2008年1月	保険事例研究会レポート第221号		1～8頁

「証券詐欺訴訟におけるサイエンターの『強い推定』」	単著	2008年11月	商事法務第1849号	37～42頁
「保険契約に適用される約款に基づく履行期が合意によって延期されたと認められ、保険金請求権の消滅時効の起算点がその翌日となるとされた事例」	単独	2009年2月	損害保険研究 70 巻 4号	161～180頁
「地方債 (Municipal Bond) の証券性」	単独	2009年9月	商事法務 1877号	38～42頁
G 「陸上保険契約法における因果関係論再考 - 火災保険契約に基づく保険金請求訴訟を素材として -」	単独	2006年6月	日本保険学会関西部会平成18年度第1回報告会 (於近畿大学)	
“Reform on the Insurance Law in Japan: A Perspective of New Japanese Insurance Law”	単独	2008年5月	2008年度韓国保険学会大会 (於ソウル)	
「保険契約の法的性質再考 - 保険契約の (最大) 善意契約性から導かれること -」	単独	2008年10月	平成20年度日本保険学会大会 (於獨協大学)	

III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

IV 学会等及び社会における主な活動

1990年4月～	日本私法学会会員
1990年4月～	日本保険学会会員
2005年11月～2007年10月	公認会計士第二次試験委員
2006年5月11日	金融庁「保険商品の販売勧誘のあり方に関する検討チーム」第5回報告
2006年10月～	日本保険学会評議員
2006年11月30日	日本弁護士連合会「消費者の視点からの保険法への勉強会」講師
2008年3月17日	生保関係法制研究会 (生命保険文化センター) 報告「保険会社の業務範囲規制の在り方について」
2009年12月12日	保険学セミナー東西交流 (生命保険文化センター) 報告『『保険金額ヲ受取ルヘキ者』から『保険金受取人』へ』

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	大窪 誠	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 講義後に復習課題を提示した。				2004年4月～2006年12月	講義と関連する内容についての確認すべき事項を提示し、理解の定着を図った。		
演習で使用する課題を作成した。				2004年4月～2008年12月	共同で担当している教員で分担して演習用の課題を作成し、課題を基にして問題を検討した。		
講義内容について事前の予習のための課題を作成している。				2004年4月～2009年12月	講義の1～2週間前に予習課題を提示し、課題に関する質問を交えながら講義を進めている。		
講義後に講義を解説するレジュメを提示している。				2004年4月～2009年12月	講義終了後に、講義についての解説を提示して理解の定着を図っている。		
2 講義の予習課題についてのレジュメ, 解説レジュメ。				2004年4月～2009年12月	レジュメを作成して、インターネット上に掲示している。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb BGBにおける「売買は賃貸借を破らず」の原則の採用—BGB571条(1896年)の起草過程を中心として		単著	2006年3月	東北学院大学学術研究会, 東北学院大学法学64号		35～104頁	
ドイツにおける状態債務説の登場—その背景と意義—		単著	2006年10月	東北学院大学学術研究会, 東北学院大学法学65号		235～272頁	
状態債務説の導入過程についての考察—我が国におけるドイツ状態債務説の変容—		単著	2007年11月	東北学院大学学術研究会, 東北学院大学法学66号		192～224頁	
BGB公布当時のドイツにおける「売買は賃貸借を破らず」の法的構成		共著	2008年12月	民事法学への挑戦と新たな構築(鈴木禄弥先生追悼論集)(創文社)	太田知行 大窪 誠 他 34名	441～483頁	
20世紀初頭のドイツにおける状態債務説の通説化とその要因		単著	2009年7月	東北学院大学学術研究会, 東北学院大学法学68号		156～190頁	
D 現代民法用語辞典(項目執筆: 債務引受, 指定充当, 併存的債務引受, 弁済の充当, 弁済の費用, 法定充当, 免責的債務引受)		共著	2008年8月	税務経理協会	池田真朗 大窪 誠 他 55名	50, 59, 133～134, 136, 144頁	
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							
1989年～				日本私法学会会員			

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	小野純一郎	大学院の授業担当の有無	有	
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要			
1	学習事項の理解のためのフィードバック	2006年4月～2007年7月	毎回の授業冒頭に前回の復習をやり、今回分の導入としている。					
	小テストの実施	2006年4月～2009年12月	月に1回程度小テストないしレポートを課し、学習内容を定着させている。					
	教員独自の「学生による授業評価」を実施している	2006年4月～2007年7月	毎回授業の最後に感想、わかりにくかった所等を書いてもらい、次回に生かしている。					
	授業感想票の利用	2006年4月～7月 2007年4月～7月	民事実務授業後に受講学生に授業感想票を書いてもらい、次の授業の参考にした。					
	双方向の授業	2006年4月～2009年12月	民事実務授業において、双方向の授業となるように工夫し、アトランダムに指名して答えさせ、その回答から発展するように努めた。					
	映像教材の利用	2008年9月～12月	民事模擬裁判の授業において、関西大学法科大学院の製作した映像教材を用いて授業を行なった。					
2	法科大学院向けシラバスの作成	2003年3月	「実務民事法」・「消費者と法」・「家族と法」のシラバスを作成した。					
		2008年3月	「民事模擬裁判」のシラバスを作成した。					
		2009年3月	「民事実務」のシラバスを作成した。					
	授業用教材の作成	2006年4月～2009年12月	授業のテキストを補充し、学生の理解を助けるために、随時、独自に教材を作成し、配布した。					
3	教育方法の発表	2008年4月～	日弁連の法科大学院センター民事実務教育研究会の模擬裁判分科会の委員として参画し、自己の授業実践を発表した。					
4	法科大学院における民事実務等の教育に関するシンポジウムへの参加	2003年5月～	日弁連等の主催する法科大学院における民事実務等の教育に関するシンポジウムにできるだけ参加している。					
	司法書士の能力研修の講師を務めた	2007年2月～3月 2009年2月～3月 2010年2月～3月	日司連主催の司法書士の訴訟代理人格要件研修の講師。					
	法科大学院教育の推進プログラムに関する会合への参加	2008年7月	名古屋大学で開催された法科大学院教育推進プログラムの設立会合に参加した。					
II 研究活動								
著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
2008年11月～		宮城県情報公開審査会委員	

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	角山 正	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 理解を定着させるための工夫 自発的な学習を促すための工夫				生の事実から法的構成要件事実を抽出する作業を実際にやらせた。 予習すべきポイント，復習すべきポイントを必要に応じ摘示した。			
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所，発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
III 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	菊地 雄介	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	年間授業計画の明示と授業進行予定の具体的な説明	2002年4月～2008年12月	学期の冒頭に年間授業計画の進行予定を詳しく説明し、学生の自主学習に役立てる。				
	学習事項の定着確認と次の授業との関連性の明示	2002年4月～2008年12月	毎回の授業の冒頭に前回の授業内容を要約説明し今回の授業との接続を理解させる。				
	学習用教材の作成・配布による集中的学習への配慮	2004年4月～2008年12月	大項目毎にあえて高度な内容のレジュメを配布し、数回の授業で丁寧に解説することで学生各自の筆記の手間を省いている。				
	事前学習の資料提供と受講時における集中力の涵養	2007年4月～2009年12月	学習・受講上の便宜のため毎回の授業に先立ち事前に詳細なシラバスを配布し筆記の手間を省くことで講義への集中度を高めるよう工夫している。				
	授業内容の定着に向けた反復的講義	2007年4月～2009年12月	毎回の授業の冒頭で必ず前回・前々回の授業等との連携関係を確認し、講義内容の体系的・連続的理解を導くように努めている。				
	演習授業における簡潔なサブゼミの実施	2007年4月～2009年12月	演習形式の授業ではとくに授業の数日前に報告担当者との間で20分から30分ほどのサブゼミを行いゼミ時間の最大限の有効活用を図っている。				
2	『ベーシックラーニング@ロースクール会社法編 2007年度更新版』（第一法規出版）	2007年1月	インターネット上のオンライン提供による年次更新型の会社法教科書を分担執筆したもので、多くの法科大学院で標準的に採用されることを意識して簡にして要を得た中庸の記述を心がけている。担当：Unit9 株式制度Ⅱ。				
	『ベーシックラーニング@ロースクール会社法編 2008年度更新版』（第一法規出版）	2008年1月	同上。				
	レクチャー新・会社法 補遺（法律文化社）	2008年2月	2006年5月に刊行された会社法教科書の別冊付録として最新の法状況の変化を概説した補遺のうち、後半の「Ⅱ M&A（企業の合併と買収）について」を担当したものである。				
	レクチャー現代会社法（法律文化社）	2009年5月	会社法の最新の問題を重視した会社法教科書で合計7名の共著者による分担執筆のうち、「序論 会社法総論」と「第1編 会社法総則」「第2編 株式会社 第1章 設立」を担当したものである。				
	新基本法コンメンタール 会社法3 持分会社～罰則日本評論社	2009年8月	法科大学院の参考書や実務手引き書として利用されることを念頭におきつつ編纂された最新の会社法コンメンタールにおいて、持分会社の解散・清算等に関する641-675条および863-864条の注釈部分を担当したものである。				
4	仙台法務局の中等科・専修科の研修講師を務めた	2002年4月～2006年12月	東北・北海道地区の現職法務局員の研修授業で毎年20時間の会社法に関する授業を行った。				

中央大学父母教師会岐阜支部の特別研修講演講師	2007年6月	中大PTA主催の講演会で「ライブドア事件と企業買収の防衛問題」について講演を行った。
仙台法務局研修所における専修科研修講師	2008年9月～10月	北海道・東北地方各地の現職法務局職員の専修科研修において会社法の授業(20時間)を担当した。
東北学院大学法学政治学研究所第20回公開講座「市民生活と法」講師	2009年11月	一般市民向けの公開講座において「企業の経営統合について―法制上の大転回を生んだ10年―」と題する講演を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	縮・略(共著の場合のみ記入)	該当頁数
A ベーシックラーニング@ロースクール 会社法編 2005年度更新版	共著	2005年10月	第一法規(オンライン出版方式)	永井和之(編)	全15Unit中、第9Unit担当(合計22頁)
レクチャー新・会社法	共著	2006年5月	法律文化社	黒田清彦 藤村知己 菊地雄介 受川環大 松岡啓祐 高橋真弓	本文272頁中、1～58頁単独執筆
ベーシックラーニング@ロースクール 会社法編 2007年度更新版	共著	2007年1月	第一法規(オンライン出版方式)	菊地雄介 永井和之(編)	全15Unit中、第9Unit担当(合計24頁)
ベーシックラーニング@ロースクール 会社法編 2008年度更新版	共著	2008年1月	第一法規(オンライン出版方式)	菊地雄介 永井和之(編)	全15Unit中、第9Unit担当(合計24頁)
レクチャー新・会社法 補遺	共著	2008年2月	法律文化社	菊地雄介 松岡啓祐	全13頁中、II「M&A(企業の合併と買収)について」担当(合計7頁)
レクチャー現代会社法 (法律文化社)	共著	2009年5月	法律文化社	黒田清彦 菊地雄介 受川環大 松岡啓祐 横田尚昌 黒野葉子 吉行幾真	本文274頁中、1～59頁単独執筆
新基本法コンメンタール 会社法3持分会社～罰則	共著	2009年8月	日本評論社	奥島孝康 落合誠一 浜田道代編	会社法575-979条のうち641-675条と863-864条の注釈部分を担当

D					
5704 所持人への裏書が訴訟信託を目的とするものであったことを立証して振出人は支払を拒み得るか	単著	2007年11月	問答式手形小切手の実務 追録第50・51同綴号(新日本法規)		1457～1458頁
6111 銀行を通さず直接に債務者が手形金を支払うのはどんな場合か	単著	2007年11月	問答式手形小切手の実務 追録第50・51同綴号(新日本法規)		1510ノ1～1510ノ2頁
新司法試験論文問題の分析 民事系科目 [第2問(設問1)(設問2)] (商法)	単著	2008年7月	受験新報2008年8月号		56～60頁
民事系科目第2問 [設問1] [設問2] 解説 (商法)	単著	2008年11月	新司法試験論文式問題と解説 平成20年度版(法学書院)		123～128頁
2326 の2の2 取締役会の承認なしになされた会社・取締役間の手形裏書の無効を会社以外の第三者は主張できるか	単著	2008年11月	問答式手形小切手の実務 追録第52号(新日本法規)		519～520ノ1頁
4719 の2 代表権を制限されている理事が理事長名義で振出書名をした場合はどうなるか	単著	2008年11月	問答式手形小切手の実務 追録第52号(新日本法規)		1090ノ1～1090ノ2頁
新司法試験論文問題の分析 民事系科目第2問 [設問4～6] (商法)	単著	2009年7月	受験新報2009年8月号		56～62頁
民事系科目第2問 [設問4～6] (商法) 解説	単著	2009年11月	新司法試験論文式問題と解説 平成21年度版(法学書院)		137～144頁
5307 被用者がなした手形の無権限な裏書について民法715条の使用者責任は適用されるか	単著	2009年11月	問答式手形小切手の実務 追録第54・55同綴号(新日本法規)		1322～1325号
E					
巻頭言・新司法試験のさなかに	単著	2009年6月	受験新報2009年7月号		5頁
F					
有限会社の破産宣告と取締役の地位	単著	2005年1月	受験新報2005年2月号		14～16頁
商法429条にもとづく清算終了会社の保存帳簿・書類に関する閲覧謄写請求の可否	単著	2005年1月	http://www.tkclex.ne.jp/commentary/pdf_data/2005-001.pdf		全5頁
上場会社における新株の公正な発行価額と有利発行該当性の判断基準	単著	2005年2月	受験新報2005年3月号		22～24頁
取締役在任中の従業員引き抜き勧誘と忠実義務違反による責任の成否	単著	2005年3月	受験新報2005年4月号		16～19頁
株式会社の業績悪化による株価の下落と株主の取締役に対する損害賠償請求の可否(消極)	単著	2005年4月	受験新報2005年5月号		14～17頁
株式会社の新設分割における分割会社の債務履行の見込みと分割無効事由	単著	2005年5月	受験新報2005年6月号		12～14頁

会社の業績悪化による株価下落の損失と株主に対する取締役の損害賠償責任	単著	2005年5月	http://www.tkclx.ne.jp/commentary/pdf_data/2005-004.pdf		全5頁
判例回顧と展望・商法	共著	2005年6月	法律時報 77 卷 7 号	河内隆史 菊地雄介 福島洋尚 山下典孝	会社法分野 1~8のうち 5~8 (107 ~113 頁) 合計6頁
有限会社の増資において名義上の社員に付与された持分の帰属	単著	2005年6月	受験新報 2005 年 7 月号		16~18 頁
株主総会決議を経ない役員報酬の支払と事後的な株主総会承認決議の効果	単著	2005年6月	http://www.tkclx.ne.jp/commentary/pdf_data/2005-005.pdf		全5頁
株主総会決議を欠く役員報酬の支払と総会の事後承認決議	単著	2005年7月	受験新報 2005 年 8 月号		18~21 頁
有限会社の原始社員の確定基準	単著	2005年8月	受験新報 2005 年 9 月号		20~22 頁
ゴルフ場クラブハウス内貴重品ロッカーからのカード盗難と経営会社の責任	単著	2005年9月	受験新報 2005 年 10 月号		18~19 頁
敵対的買収に対する事前の防衛策として取締役会決議により株主に新株予約権を割り当てるポイズン・ピルの差止仮処分が認容された事例	単著	2005年10月	受験新報 2005 年 11 月号		18~21 頁
失念株に関する不当利得返還請求と受益者の悪意	単著	2005年11月	受験新報 2005 年 12 月号		22~23 頁
買収防衛策としての株式分割に対する差止請求の可否	単著	2005年12月	受験新報 2006 年 1 月号		22~25 頁
貸金業者による盗難株券の善意取得が否定された事例	単著	2006年1月	受験新報 2006 年 2 月号		24~26 頁
貸金業に係る商号統用営業譲受人の免責登記と過払金返還債務に関する責任	単著	2006年2月	受験新報 2006 年 3 月号		22~24 頁
総会屋に対する贈収賄罪の成立	単著	2006年4月	会社法判例百選		204~205 頁
議決権の代理行使勧誘に関する内閣府令違反と決議取消事由の有無	単著	2006年4月	受験新報 2006 年 5 月号		20~23 頁
会社の政治献金 (熊谷組株主代表訴訟事件控訴審判決)	単著	2006年5月	受験新報 2006 年 6 月号		20~22 頁
新株の引受人が会社から間接的に融資された資金によってした新株払込の効力	単著	2006年6月	受験新報 2006 年 7 月号		20~22 頁

判例回顧と展望・商法	共著	2006年6月	法律時報 78巻7号	河内隆史 菊地雄介 福島洋尚 山下典孝	会社法分野 1～10のうち 5～10 (125 ～136頁) 合計12頁
株式譲渡制限会社の一人株主がその全株式を譲渡担保に供した場合における議決権行使者	単著	2006年7月	受験新報 2006年8月		22～24頁
法令違反と取締役の会社に対する責任	単著	2006年9月	会社法重要判例解説 [第3版]	酒巻俊雄 尾崎安央 (編著)	204～205頁
代表訴訟により追及しうる取締役責任の範囲	単著	2006年9月	会社法重要判例解説 [第3版]	酒巻俊雄 尾崎安央 (編著)	214～215頁
株主代表訴訟における会社の被告取締役側への訴訟参加	単著	2006年9月	会社法重要判例解説 [第3版]	酒巻俊雄 尾崎安央 (編著)	216～217頁
選任決議を欠く登記簿上の取締役の第三者に対する責任	単著	2006年9月	会社法重要判例解説 [第3版]	酒巻俊雄 尾崎安央 (編著)	230～231頁
計算書類の虚偽記載と取締役の第三者に対する責任	単著	2006年9月	会社法重要判例解説 [第3版]	酒巻俊雄 尾崎安央 (編著)	234～235頁
重要な業務執行の該当性に関する判断基準と代表取締役の専断的行為の効力	単著	2006年9月	受験新報 2006年10月号		20～23頁
株主代表訴訟の控訴審における新たな責任原因事実の追加主張の可否	単著	2006年10月	受験新報 2006年11月号		18～19頁
公開会社の募集株式の発行に関する差止仮処分申立が却下された事例	単著	2006年11月	受験新報 2006年12月号		24～25頁
新株発行に伴う変更登記申請の添付書類として要求される払込金保管証明書の意義	単著	2006年12月	受験新報 2007年1月号		26～28頁
信用協同組合の商人性	単著	2007年1月	受験新報 2007年2月号		20～21頁
検査役選任請求権の株式(議決権)保有要件	単著	2007年2月	受験新報 2007年3月号		20～21頁
会社の損害賠償権行使に関する判断と取締役の責任	単著	2007年4月	受験新報 2007年5月号		18～19頁
新株発行登記事項の公示義務違反の有無	単著	2007年5月	受験新報 2007年6月号		15～17頁
判例回顧と展望・商法	共著	2007年6月	法律時報 78巻7号	河内隆史 菊地雄介 松山三和子 山下典孝	会社法分野 1～9のうち 4～9 (114 ～130頁) 合計17頁

取締役解任請求事由の時間的範囲	単著	2007年7月	受験新報2007年8月号	28～30頁
代表取締役の兼任関係がある会社間の支払証書発行と株主全員の合意	単著	2007年8月	受験新報2007年9月号	18～20頁
企業買収防衛策としての新株予約権無償割当てに対する差止仮処分申立が却下された事例ーブルドックソース事件最高裁決定ー	単著	2007年10月	受験新報2007年11月号	30～35頁
取立委任裏書の当事者間における譲渡担保契約の締結と取立委任文言の抹消	単著	2007年11月	受験新報2007年12月号	32～35頁
楽天対TBS会計帳簿等閲覧謄写請求事件	単著	2007年12月	受験新報2008年1月号	18～21頁
株主総会に提案された取締役退職金議案の内容が不当であるとして議案提出取締役等の第三者責任を追及することの可否	単著	2008年1月	受験新報2008年2月号	23～25頁
日刊新聞紙の発行会社における従業員持株の譲渡先と譲渡価格に関する株式譲渡ルールと当該ルールに従う旨の合意の成否（日経新聞株式譲渡ルール第一審判決）	単著	2008年3月	受験新報2008年4月号	28～31頁
議決権数の集計方法に関する法令違反と議決権行使に関する違法な利益供与を理由として株主総会決議が取り消された事例	単著	2008年4月	受験新報2008年5月号	14～21頁
株主提案権の行使と招集通知に記載すべき議案の要領	単著	2008年5月	受験新報2008年6月号	6～9頁
ゴルフ場経営会社の会社分割による新設会社がゴルフクラブ名を続用する場合の責任	単著	2008年6月	受験新報2008年7月号	21～25頁
取締役権利義務者に対する解任の訴えの可否	単著	2008年8月	受験新報2008年9月号	25～27頁
完全親会社の取締役は完全子会社取締役時代の行為につき完全親会社に対して責任を負うか	単著	2008年9月	受験新報2008年10月号	26～29頁
会社の行為が商行為に該当することの主張立証責任	単著	2008年10月	受験新報2008年11月号	22～25頁
G 「上場会社における新株の公正な発行価額と有利発行該当性の判断基準」	単独	2005年3月	東北学院大学企業法務研究会	
「有限会社の原始社員の確定基準」	単独	2005年7月	東北学院大学企業法務研究会	
「失念株に関する不当利得返還請求の対象と受益者の悪意」	単独	2005年11月	東北学院大学企業法務研究会	

「新株の引受人が会社から間接的に融資された資金によってした新株払込みの効力」	単独	2006年6月	東北学院大学企業法務研究会		
「判例研究：大阪高判平成18・6・9判タ1214号115頁」	単独	2006年10月	東北学院大学企業法務研究会		
判例研究：「検査役選任請求権の株式（議決権）保有要件（最判平成18・9・28判タ1223号119頁）」	単独	2007年2月	東北学院大学企業法務研究会		
判例研究：「議決権数の集計方法に関する法令違反と議決権行使に関する違法な利益供与を理由として株主総会決議が取り消された事例（東京地判平成19・12・6金判1281号37頁，金法1825号48頁）」	単独	2008年5月	東北学院大学企業法務研究会		
清算持分会社における債権者詐害	単独	2009年3月	東北学院大学企業法務研究会		

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1981年10月～	日本私法学会会員
1984年10月～	金融法学会会員

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	齋藤 哲	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 「第7条」,「第8条」,「第9条」,「第10条」,「第11条」『基本法コンメンタール・民事訴訟法I』[第3版]		単著	2008年5月	日本評論社	賀集 唱 松本博之 加藤新太郎 編	47～56頁	
Ba 「社会福祉法の定める苦情解決制度はADRとして機能するか」		単著	2005年	地域福祉研究33号 (財団法人日本生命済生会)		75～91頁	
Bb 「裁判員制度の意義と課題—市民の積極的参加を希求して」		単著	2006年	都市問題研究(大阪市 総務局行政部行政企 画課)平成18年4月 号		94～109頁	
「笑ゥ相続人」		単著	2007年1月	仙台検察審査協会 仙台検察審査協会報 36号		24～26頁	
「高等裁判所の上告審としての判決が特別上告審において法令の違反があるとして職権により破棄された事例」		単著	2007年7月	日本評論社,平成19 年私法判例リマーク ス35号		116～119頁	
「主観的予備的併合再考—同時審判申出訴訟と主観的順位的併合—」		単著	2008年3月	東北学院大学法学政 治学研究所紀要第16 号		1～38頁	
「民事訴訟法」『二〇〇八年学会回顧』		共著	2008年12月	法律時報80巻13号	齋藤 哲 他2名	204～219頁	
D 『ケースメソッド民事訴訟法』		共著	2006年	不磨書房	池田彙男 小野寺忍 編著	132～200頁	
E 「〈記録〉 裁判員の参加する模擬裁判 「広瀬川殺人事件—恋の行方!故意の 行方!」」		共編	2006年	東北学院法学65号(東 北学院)	守屋克彦 阿部純二 編代	166～234頁	
F 「〈書評〉 西野喜一著『司法過程と裁判論』(悠々社)」		単著	2005年	ジュリスト 1295号 (有斐閣)		211頁	

「一 県が漁業共同組合との間で漁業補償交渉をする際の手持ち資料として作成した補償額算定調書中の文書提出命令申立人に係る補償見積額が記載された部分が民訴法二二〇条四号ロ所定の文書に該当するとされた事例 二 民訴法二二〇条四号ロに該当する文書と同条三号に基づく提出義務」	単著	2005 年	判例評論 1885 号 (判例時報社)	204～209 頁
「未登記立木に対する強制執行の方法」	単著	2005 年	別冊ジュリスト『民事執行・保全判例百選』(有斐閣)	118 頁
「子どもの虐待防止一法の整備状況と虐待防止一」	単著	2006 年	仙台検察審査協会報 35 号 (仙台検察審査協会)	31～39 頁
「裁判員の参加する模擬裁判「広瀬川殺人事件一恋の行方! 故意の行方!」」	単著	2006 年	東北学院時報 650 号 (東北学院)	3 頁
G 「ヨーロッパの簡易裁判所」シンポジウム「市民に利用しやすい簡易裁判所を」	単独	2005 年 3 月	(日本弁護士連合会)	
H 「〈翻訳〉ニルス・クリスティエーエ「展望のルーツ」」	単著	2005 年	東北学院大学法学政治学研究所紀要 (東北学院大学) 13 号	99～112 頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得 (採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1986 年 5 月～	民事訴訟法学会
1986 年 10 月～	私法学会
1991 年 10 月～	中四国法政学会
2000 年 11 月～	法と心理学会
2003 年 5 月～	刑法学会
2005 年 7 月～	仲裁 ADR 法学会
2005 年 10 月～	東北法学会
2008 年 10 月～	弁護士 (仙台弁護士会)

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	佐藤 英世	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	授業評価と試験評価の実施			2004年4月～	法務研究科では、その設置以来、学期ごとに授業開始後約1, 2週間後に学生による授業評価を行い、学生の意見をその後の授業に反映させるようにしている。また、学期終了後には再び学生による授業評価と試験評価を行い。その結果については、教員のみならず学生にも公表するとともに、2008年度からは評価結果のうち計数的部分について広く一般にも公開し、次年度の授業改善に活用することとしている。		
	授業のレジュメのWeb上での公開			2004年4月～	担当する講義科目（「公法Ⅱ」）について、毎回、授業の目標、予習課題および授業内容のレジュメ（平均してA4版6・7枚）を事前にWeb上で公開している。		
	授業内容の知識確認			2005年4月～	授業（法律基本科目）の進行に合わせ、TKC上で法学検定問題を出題し（1から2週間に一度）、知識確認をさせるようにしている。		
4	大阪大学法学部での講師			2008年8月18日～21日	大阪大学法学部にて「行政争訟法」の講義を15回（1回90分）行った。		
				2009年8月17日～21日	大阪大学法学部にて「国家補償法」の講義を15回（1回90分）行った。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	緒・著 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A 『演習ノート行政法〔第5版〕』		共著	2005年6月		法学書院	桜井昭平 西牧 誠 (編)	160～164 頁, 166～ 181頁
『行政法の基本〔第3版〕』		共著	2007年2月		法律文化社	北村和生 佐伯章洋 佐藤英世 高橋明男	113～119 頁, 126～ 131頁, 188 ～192頁, 231～308頁
『ファンダメンタル地方自治法〔第2版〕』		共著	2009年4月		法律文化社	高田 敏 村上武則 (編)	299～310頁
『行政法基礎論〔改訂版〕』		共著	2009年4月		嵯峨野書院	南川諦弘 (編)	137～151 頁, 152～ 155頁, 160 ～174頁, 218～231頁
『新版行政法』		共著	2009年6月		有斐閣	高田 敏 (編)	83～114頁, 278～287頁

D 「行政評価・監視とオンブズマン」	単著	2005年9月	『行政法の争点〔第3版〕』ジュリスト増刊(法律学の争点シリーズ9)	芝池義一 小早川光郎 宇賀克也 (編)	142～143頁
「選挙法上の住所」	単著	2006年5月	『行政判例百選 I〔第5版〕』別冊ジュリスト181号	小早川光郎 宇賀克也 交告尚史 (編)	66～67頁
「都市施設(公園)の区域決定に係る計画裁量の限界」	単著	2007年4月	『平成18年度重要判例解説』ジュリスト臨時増刊1332号		49～50頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

1985年4月～	日本公法学会会員
2003年4月～	仙台弁護士会懲戒委員会予備委員
2003年4月～	東日本道路(株)東北支社入札監視委員会委員
2003年7月～	宮城県屋外広告物審議会委員
2003年10月～	大崎市情報公開審査会委員
2004年4月～	東北弁護士連合会弁護士任官候補者推薦委員会委員
2007年4月～	宮城県公共工事等入札・契約適正化委員会委員
2007年4月～	国土交通省東北地方整備局入札監視委員会委員(2009年4月から委員長および第一部長)
2007年5月～	白石市情報公開・個人情報保護審査会委員

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	田沼 柁	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	事案処理のための能力養成と学習方針の提示	2008年4月～8月		事案処理の解題を求め、事案処理の手法を示し、今後の学習方法について指示した。			
2	民法答案の書き方指針	2006年9月		3年生を対象に、民法答案の書き方についての形式や指針について解説（プリント配布）			
	民法答案練習課題の作成	2006年10月		民法答案練習のために問題を10問作成（プリント配布）			
	授業理解を促進するために、学生に配布する講義ノートの改定	2008年4月～8月		A4（12000字以上）120ページほどの講義ノートの作成			
	練習問題の作成	2008年4月～8月		民法総則から用益物権の範囲での練習問題の作成27問			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	縮・著者（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
D	不動産取引関係法の解説・3訂版	単著	2005年11月	一橋出版		1～102頁（全）	
	現代民法入門	共著	2006年2月	一橋出版	田沼 柁 尾島茂樹 熊田浩之 深谷 格 渡邊知行 小川由美子 佐藤啓子他	1～24頁、 36～47頁、 64～88頁 （全61頁分）	
	民法の解説・総則・3訂版	単著	2006年2月	一橋出版		94頁	
III 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）							
競争的資金の名称		採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要		
IV 学会等及び社会における主な活動							

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	中村 英	大学院の授業担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 電子式教育補助システムを用いた詳細なシラバスおよび予習・復習課題の学生への提示。 複数回 (3～5回) の小テスト実施。 全登録者を対象とした、ほぼ各回の演習ごとの、Eメールを使つてのレポート提出の義務付け。				2004年4月～	実定法概論「公法部分」「公法Ⅰ」		
				2004年4月以降2006年度末まで	「公法Ⅱ」		
				2004年4月～	「公法Ⅰ」		
2 「公法Ⅰ」(2006年度までは「公法Ⅱ」も)の教科書＝芦部『憲法』の要旨(全30頁弱)を教材として作成し科目登録学生に提示。				2004年4月以降2006年度末まで	「公法Ⅱ」		
				2005年4月～	「公法演習Ⅱ」		
3 自由民主党政務調査会法曹養成小委員会における、東北学院大学法科大学院の教育活動の現状についての発表 法科大学院協会主催のシンポジウムでの報告				2005年4月～	「公法演習Ⅱ」		
				2006年度～	年度ごとに小規模の改訂		
自由民主党政務調査会法曹養成小委員会における、東北学院大学法科大学院の教育活動の現状についての発表				2005年10月15日	自由民主党本部		
				2007年6月10日	中央大学後楽園キャンパス		
II 研究活動							
著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編・著者(共著の場合のみ記入)	該当頁数
D 『新・解説世界憲法集』			共著	2006年11月	三省堂	初宿正法典 辻村みよ子(編)	79～108頁
「犯則嫌疑者に対する質問検査手続と黙秘権」			単著	2007年3月	『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅱ・第5版』	高橋和之 長谷部恭男 石川健治(編)	274～275頁
「弁護人依頼権と接見交通権」			単著	2008年12月	『ジュリスト増刊新・法律学の争点シリーズ 憲法の争点』	大石 眞 石川健治(編)	168～169頁
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称				採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
大学改革推進等補助金(法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム)(事業名称:独自映像教材等による学習支援体制の高度化)				選定:2004年度。その後2005・2006年度も採用	共同(推進責任者)	(1)独自映像教材の作成、及び(2)その作成の前提となる機器の整備等を目的とする3年間の事業である。	

IV 学会等及び社会における主な活動

2004年4月以降現在まで

仙台弁護士会法科大学院検討特別委員会委員

2009年4月以降現在まで

仙台弁護士会人権擁護委員会委員

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	中村 雄一	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 「刑法総論」, 「刑事訴訟法」, 「刑事政策」, 「刑法ゼミナールⅠ」, 「同Ⅱ」, 「同Ⅲ」を担当(秋田経済法科大学→ノースアジア大学)				2008年3月まで	①事例を多めに用いわかりやすい講義を心がける, ②学生の理解度を確認しつつ講義を進める, ③刑法の総論と各論, さらに刑事訴訟法, 刑事政策との関連を常に意識しつつ講義を進める, ④講義や演習の時間以外での学生への丁寧な対応, 指導を行う, ⑤演習では, 判例の変遷やその判例が出された背景なども考察する		
「刑法Ⅰ」, 「刑法Ⅱ」, 「刑事法演習Ⅰ」, 「実定法概論(刑事法)」, (以上法科大学院), 「演習一部」(法学部)				2008年4月～	①「刑法Ⅰ」, 「刑法Ⅱ」では, 学生により学習の進捗, 理解力にかなり差があるため, 適切な授業の内容, 進捗を工夫する, ②特に刑法総論においては, 行為無価値に立つか結果無価値に立つかで, ほとんどの問題で結論に違いが出るので, その点を配慮し, いずれの立場にも配慮した授業を心がける, ③授業を理解しやすくするためレジュメを使用する, ④授業後やそれ以外の時間での学生の質問には丁寧に対応する, といったことを心がけている 法学部の演習では, 裁判所職員採用試験の問題等を用い刑法全般の理解を深めるとともに, 小論文(教養)の練習・指導も行っている		
4 東北学院大学法学部のオープンキャンパスにおいて, 模擬授業として「死刑制度を考える」を行う				2008年8月2日			
東北学院大学第19回公開講座において講師として「犯罪の一般的な成立要件について」を行う				2008年11月17日			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
Bb 併合罪と量刑		単著	2004年4月	「秋田法学」42号		87～106頁	
虚偽を含む申告と自首の成否		単著	2005年3月	「秋田法学」44号		93～121頁	
刑法42条1項の自首における「捜査機関に発覚する前」に関する考察		単著	2005年7月	「法学新報」112巻1・2号渥美東洋先生退職記念論文集		471～493頁	
D 刑法各論30講		共著	2006年4月	成分堂	立石二六 編著	53～61頁, 129～137 頁, 277～ 285頁	
ホーンブック新刑法総論		共著	2008年5月	北樹出版	船山泰範 編著	190～210頁	
ホーンブック新刑法各論		共著	2008年5月	北樹出版	船山泰範 編著	159～178頁	

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得（採択されたものに限る）			
競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動			
1981年5月～現在		日本刑法学会会員	
2001年4月～2007年10月		秋田県脳血管研究センター医薬品受託研究審査委員会委員	
2001年4月～2007年10月		秋田家庭裁判所裁判所委員会委員	
2003年8月～2007年10月		秋田地方裁判所裁判所委員会委員	
2005年4月～2009年3月		秋田弁護士会懲戒委員会予備委員	

所属	法実務専攻	職名	教授	氏名	守屋 克彦	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 刑事法の理論と裁判実務との関連性を意識させ、法学知識を具体的に身につけさせるような内容にすることを考え、実行している。				2004年度～	教材として事件教材記録を使用したり、VTR、DVDなどで実際の裁判に関する情報を多く与えるようにしている。		
視聴覚教材を授業に取り入れるように努めている。				2005年度～	刑事訴訟法Ⅰ・少年法（学部）の授業インターネットによるレジメ配布とパワーポイントを併用している。		
4 刑事裁判や少年審判の実際に関する関心を育成させることに努めた。				2005年9月	少年法ゼミ（演習Ⅱ）の学生を盛岡少年院の見学に引率した。また、刑事裁判の傍聴にも同行した。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
A 自立する輩—全国裁判官懇話会30年の軌跡		共編著	2005年2月	判例時報社	刊行委員会	1～7頁, 176～193頁	
少年法の課題と展望（第1, 2巻）		共編著	2005年10月	成文堂	齊藤豊治 守屋克彦	第1巻 1～36頁, 136～157頁	
Ba 及川事件の評議について—実務家の視点から—		単著	2009年10月	日本評論社, 法と心理 8巻1号		35～40頁	
Bb 青年法律家協会裁判官部会の消滅		単著	2005年9月	東京経済大学現代法 学会誌「現代法学」9 巻		131～154頁	
C 裁判員裁判と官僚司法—刑事裁判は変わるのか		単著	2004年10月	日本評論社, 法律時報 76巻11号		36～41頁	
評議と整理のコミュニケーション・デザイン：実務家の立場から		単著	2007年1月	日本評論社, 法律時報 79巻1号		129～131頁	
評議における裁判官関与のあり方		単著	2009年1月	日本評論社, 法律時報 81巻1号		27～32頁	
D 「少年法と家庭裁判所草稿」		単著	2004年3月	第一法規, 阿部純二先 生古希記念論文集「刑 事法学の現代的課題 所収		445～466頁	
裁判員裁判と評議		単著	2006年12月	市民の司法をめざし て：宮本康昭先生古希 記念論文集		427～444頁	

検証 第2回新司法試験(特集) 刑事系科目2 [刑事訴訟法]	単著	2007年10月	民事法研究会, ロースクール研究7号		51~59頁
自白の任意性および信用性に関する説示	単著	2007年11月	現代人文社, 季刊刑事弁護52号		69~72頁
座談会/光市事件裁判の論点を考える	共著	2008年1月	現代人文社, 『光市事件を考える』		6~57頁
取調べの録音・録画と刑事裁判	単著	2008年2月	日本評論社, 法律時報80巻2号		1~3頁
氷見事件・志布志事件に関する最高検察庁の調査報告書について	単著	2008年4月	現代人文社, 季刊刑事弁護53号		126~129頁
検証 第3回新司法試験(特集) 刑事系科目	単著	2008年10月	民事法研究会, ロースクール研究11号		68~76頁
家庭裁判所は変わるか	単著	2009年4月	現代人文社, 季刊刑事弁護57号		81~83頁
裁判員法・刑事訴訟規則から見た裁判員制度における評議の制度的枠組みと法的・実務的問題点	単著	2009年4月	ぎょうせい, 岡田悦典他編「裁判員制度と法心理学」		150~159頁
少年事件の受差戻審における証拠調べ	単著	2009年4月	有斐閣, ジュリスト別冊「平成20年度重要判例解説」		226~228頁
E 基調報告・瀬戸際の刑事裁判	単著	2006年7月	日本民主法律家協会, 法と民主主義408号		2~8頁
F 座談会「裁判員制度の可能性と課題」	単著	2005年10月	日本評論社, 法律時報74巻3号	酒巻 匡 ほか2名	4頁以下
書評・木谷明著『刑事裁判の心』, 『事実認定の適正化』	単著	2005年10月	現代人文社, 季刊刑事弁護44		202頁以下
書評「東京弁護士会期成会明るい刑事弁護研究会編『保釈をめざす弁護』	単著	2006年9月	日本弁護士連合会, 自由と正義2006-9号		
書評・中川孝博著『刑事裁判・少年審判における事実認定』	単著	2009年7月	現代人文社, 季刊刑事弁護59		204~205頁

Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)

競争的資金の名称	採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概要
科学研究費補助基盤研究(B1)	2004年	研究分担者	少年司法における検察官の役割
科学研究費補助基盤研究(B1)	2007年	連携研究者	裁判員裁判におけるコミュニケーション・デザインの学際的研究

Ⅳ 学会等及び社会における主な活動

2000年	現在会員である学会 日本刑法学会・日本法社会学会・日本犯罪社会学会・交通法学会 日本司法福祉学会 設立時から理事
-------	--

2009年～

法と心理学会 理事

弁護士

所属	法実務専攻	職名	准教授	氏名	遠藤 隆幸	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1	TKC・メールを介した双方向授業の実践 (法科大学院)		2009年4月～8月		TKC を用いて各種課題の採点基準・講評を示した。またオンライン上の判例・文献情報を TKC にリンクし収集を指示した。法情報関係の授業では、適宜Eメールを用い、課題の提出・講評・採点をおこなうことで、講義時間帯以外でも双方向的やりとりができるよう努めた。		
	家庭裁判所見学の実施 (学部・演習)		2009年10月13日		家庭裁判所の見学を企画し、法運用の現場を見聞する機会を作った。また本学卒業生の裁判所事務官より、裁判所の仕事に関する説明をいただき、キャリア意識の涵養を図ることに努めた。		
2	補助教材としてのレジュメの配布 (法科大学院)		2009年4月～8月		必要に応じてレジュメを配布し (ただし視覚的効果を考慮して板書を併用), TKC 上に掲載した。		
	「家族と法」に関する私家版教科書を作成 (学部・主として演習)		2009年4月		2010年4月に一学舎より「ロードマップ民法(仮)」として公刊予定。		
4	公開講座での講義		2009年11月20日		法学政治学研究所公開講座「市民生活と法」において「生殖補助医療と家族法」と題した講義を行った。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb	「監護紛争における子の意思評価と手続的地位について (上) - ドイツ連邦憲法裁判所判例の展開を一視座として -」	単著	2007年1月		朝日法学論集 34号		39～67頁
	「監護紛争における子の意思評価と手続的地位について (下) - ドイツ連邦憲法裁判所判例の展開を一視座として -」	単著	2007年12月		『朝日大学法学部20周年記念論集』(成文堂)		207～227頁
C	“ART and the legal filliation in Japan” (邦題: 日本における生殖補助医療の現状と課題)	単著	2008年10月		Proceedings of “Issues and Perspectives of East Asian Law”		51～61頁
F	「夫死亡後、生前冷凍保存した精子を用いて妻が体外受精を受け出生した子からの死後認知請求が認容された事例 (高松高裁平成 16. 7. 16 判決)」	単独	2005年6月		朝日法学論集 32号		29～40頁
G	ドイツにおける交流 (Umgang) の規整 - 第三者関与の問題を中心に	単独	2008年6月		日本比較法研究所研究会		

面接交渉における第三者関与について ードイツ法を素材として	単独	2008年7月	関西家事事件研究会		
ドイツ民法典「交流」規定の逐条解説 (BGB1684-1686条)	単独	2008年7月	ドイツ家族法研究会		
「面接交渉を認めた判決主文の条項に 給付条項性が認められず、当該主文は 間接強制の債務名義にならないとした 事例」(東京高決平成18年8月7日判 タ1268号268頁)	単独	2009年2月	末川民事法研究会		
H 「マカオ家族法(1)(2)(3)(4・完)」	単独訳	2008年3月～6月	戸籍時報624号, 625号, 626号, 627号	カンディーダ・ ダ・シルバ・アン トネス・ピレス 著 小川富之 監修	624号44～ 53頁, 625 号41～49 頁, 626号 107～121 頁, 627号 42～50頁
Ⅲ 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)					
競争的資金の名称		採用年度	個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	
日本証券奨学財団研究調査助成		2009～2010年	個別	監護紛争における当事者支援法制の研究	
Ⅳ 学会等及び社会における主な活動					
2006年～		日本社会〈家族と法〉学会			
2008年～		日本私法学会			
2008年～		日本法政学会			

所属	法実務専攻	職名	准教授	氏名	富田 真	大学院の授業 担当の有無	有
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 授業に対するコメント					授業の内容に対する質問をコメントとして書いてもらい、次回の授業で説明する。		
4 公開講座「市民生活と法」			2008年11月				
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行又は発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	縮・著者 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Bb 刑事再審における明白性判断の構造		単著	2005年12月		日本評論社 小田中 聰樹先生古稀記念論 文集『民主主義法学・ 刑事法学の展望(上 巻)』		383~406頁 全24頁
刑事判決理由の意義と課題		単著	2006年1月		法学(東北大学)69 巻5号		661~686頁 全26頁
明治期における判決理由論の形成と展開		単著	2009年7月		東北学院法学68号		1~47頁 全47頁
D コンサイス法律用語辞典(担当項目: 除斥,宣誓,宣誓能力,送達,訴訟指 揮,速記,対質,対審,単独制,特別 弁護人,陪席裁判官,反対尋問,必要 的弁護,武器平等の原則,法定合議事 件,補佐人,略式手続,略式命令,一 問一答式,一般的指揮権,一般的指示 権,押収,押収拒絶権,オービスⅢ, おとり捜査,科学警察研究所,科学捜 査研究所,科学的捜査,鑑定,鑑定受 託者,鑑定留置,糾問的捜査観,行政 警察,強制採尿,強制処分,強制処分 法定主義,強制捜査。)		共著	2003年12月		三省堂		
ワークショップ型教官研修の成果と今 後の展望について		共著	2004年3月		東北大学大学教育研 究センター年報第11 号		
東北大学教員のファカルティ・ディベ ロップメント(FD)に関する意識調査		共著	2007年3月		東北大学高等教育開 発推進センター紀要 第2号		
東北大学におけるファカルティ・ディ ベロップメント(FD)活動の現状と課 題		単著	2007年3月		東北大学高等教育開 発推進センター紀要 第2号		
III 学内外の競争的資金の獲得(採択されたものに限る)							
競争的資金の名称			採用年度		個別・共同の区分 共同の場合の役割分担	概 要	

IV 学会等及び社会における主な活動	
1987年4月～	日本刑法学会
1988年4月～	刑法理論研究会

あ と が き

教育・研究業績編集委員会委員長
経済学部教授 齋藤 義博

東北学院大学では、全教員の研究業績集を、1995年3月に、第1号として刊行しました。その後研究業績集は、ほぼ2年から3年ごとに作成し、刊行してまいりました。

2002年度には財団法人大学基準協会から大学基準適合の認定を受けました。その後、学校教育法の改正に伴い、2004年度以降は7年以内周期で認証評価を受けるように義務付けられ、そこには新たに全教員の教育業績も評価の対象になるということになりました。2007年3月に刊行しました第7号の『教育・研究業績2002－2006』は、新たな認証評価に向けた産物の第1号でありました。

我が国の大学ではすでに、学生のための教育を重視し、すべての教員の教育業績の蓄積と、さらにそのための研究と、その研究業績の蓄積が求められ、それらが、自己評価、外部評価に耐えうるものである、ということは当たり前のようになっております。我々教員は、そのための努力をすることが常に求められ、7年以内周期で認証評価を必ず受けることになっております。

今回の業績集は、教育・研究業績編集委員会規定に基づいて作成されたものであると同時に、2010年度に予定されております財団法人大学基準協会による認証評価のために提出されるものとして作成されたものであります。したがって、業績集の内容は大学基準協会が指定する書式に基づいてまとめられております。なお、認証評価で必要とされる業績期間は、2005年（平成17年）1月から2009年（平成21年）12月31日までの5年間であります。

業績集の作成にあたりましては、各学科選出の編集委員の先生方、学事課の職員の皆様に多大なるお世話とご苦勞をお掛けしました。厚く御礼申し上げます。

2010年2月

東北学院大学教育・研究業績

2005 - 2009

発行日	平成 22 (2010) 年 2 月 1 日
編集	東北学院大学点検・評価委員会 教育・研究業績編集委員会
発行	東北学院大学
問い合わせ先	東北学院大学学務部学事課 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号 TEL. 022-264-6461 / FAX. 022-264-6480 E-mail : gakuji@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp
印刷	株式会社佐々木印刷所